

年度	2025
講義名称	日本語VI[ビジ]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09133S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方	
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第7回	学習内容に関する中間的確認テスト	
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）	2025/04/01

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40% ・授業への積極的な参加 20% ・まとめテスト 40%
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	[夏集]日本語VI[文法]【遠隔A】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(A)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09133S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方	同時双方向
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第7回	学習内容に関する中間的確認テスト	同時双方向
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）	同時双方向

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	受講を強く推奨する学生 ・中級/中上級所属 ・基本的な文法力が不足している そのほかの対象学生 ・N1/N2の取得を目指しているが、文法に不安がある/点数が伸びない ・重要な基本文法（受身・使役・自他動詞等）が上手く使えない/間違いが多い

年度	2025
講義名称	[冬集]日本語VI[文法]【遠隔A】
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(A)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09133S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方	同時双方向
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第7回	学習内容に関する中間的確認テスト	同時双方向
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）	同時双方向

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	受講を強く推奨する学生 ・中級/中上級所属 ・基本的な文法力が不足している そのほかの対象学生 ・N1/N2の取得を目指しているが、文法に不安がある/点数が伸びない ・重要な基本文法（受身・使役・自他動詞等）が上手く使えない/間違いが多い

年度	2025
講義名称	[夏集]日本語VI（協定校）【遠隔B】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09133S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	日本語を使用して就職活動をしたり、働いたりする際に必要な日本語力（聴解・発話）を学びます。 どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景を学び、異文化対応力を伸ばします。 講義修了後、BJT（ビジネス日本語テスト）の受験を推奨します。
到達目標	・日本社会や商習慣への理解を深め、自国の習慣等との相違点を客観的に捉え、異文化に適応する力を養う。 ・場面や相手に応じて、待遇表現（敬語）を適切に使いこなせる。 ・場面や目的に応じた聞き取りができる。 ・メールや報告書等、仕事をする際に必要な文書を理解したり、作成したりできる。
授業の進め方	フルオンデマンド資料（ビデオ視聴＋課題をしながら理解を深める）で行います。

アクティブ・ラーニング

反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	web classで提出されたレポートや記録・感想は、web class上でフィードバックします。必要な場合には、全員に資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、ビジネスに必要な日本語① ビジネス日本語とは？	オンデマンド
第2回	ビジネスに必要な日本語② 敬語	オンデマンド
第3回	ビジネスに必要な日本語③ あいさつ・会社のルール	オンデマンド
第4回	ビジネスに必要な日本語④ さまざまな場面での会話	オンデマンド
第5回	ビジネスに必要な日本語⑤ 電話応対	オンデマンド
第6回	ビジネスに必要な日本語⑥ 電話応対 社内と社外	オンデマンド
第7回	ビジネスに必要な日本語⑦ メールでのやりとり	オンデマンド
第8回	ビジネスに必要な日本語⑧ 慣用表現	オンデマンド
第9回	BJTの問題を解いてみよう①	オンデマンド
第10回	BJTの問題を解いてみよう②	オンデマンド
第11回	BJTの問題を解いてみよう③	オンデマンド
第12回	ビジネス日本語の総まとめ	オンデマンド
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）	オンデマンド

事前・事後学修	・ オンデマンド授業のため、学習計画を立て、事前・事後学習することが重要です。 ともに2時間を目安とします。 ・ 自らのキャリア形成・就職準備とつながるよう、取り組んでください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 60% ・まとめのテスト 40%
テキスト	資料を配布します。
参考文献	『マンガで体験！にっぽんのカイシャ〜ビジネス日本語を実践する〜』（日本漢字能力検定協会） 『BJTビジネス日本語能力テスト問題準拠 ビジネス日本語マスターテキスト』（IBCパブリッシング） 『にほんごで働く！ビジネス日本語 30 時間』（スリーエーネットワーク）

備考	オンデマンド授業であるため、各回の課題提出が重要です。期限までの課題提出で出席となります。 5回以上欠席の場合、単位付与されません。

年度	2025
講義名称	日本語Ⅴ [N1A]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09132S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	学習内容に関する中間的確認テスト
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40% ・授業への積極的な参加 20% ・まとめテスト 40%
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅴ [N1A]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09132S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	学習内容に関する中間的確認テスト
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40% ・授業への積極的な参加 20% ・まとめテスト 40%
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	【閉講】日本語 V [N1B]【ブレA】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(A)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09132S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方	
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第8回	学習内容に関する中間の確認テスト	同時双方向
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	同時双方向
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）	

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40% ・授業への積極的な参加 20% ・まとめテスト 40%
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること。

年度	2025
講義名称	日本語Ⅴ[N1B]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09132S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方	
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第8回	学習内容に関する中間的確認テスト	オンデマンド
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）	

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40% ・授業への積極的な参加 20% ・まとめテスト 40%
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること。

年度	2025
講義名称	日本語Ⅳ[N2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09131S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	学習内容に関する中間的確認テスト
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40% ・授業への積極的な参加 20% ・まとめテスト 40%
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅳ[N2]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09131S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方	オンデマンド
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第8回	学習内容に関する中間の確認テスト	オンデマンド
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）	オンデマンド

第13回	まとめ（期末／総合確認テスト） ※「期末テスト」および「まとめ」は対面授業で行う。	対面授業

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40% ・授業への積極的な参加 20% ・まとめテスト 40%
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅲ[A]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09130S

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

2025/04/01

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅲ[B]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09130S

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科
顔 樂蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）

第13回	学習内容に関する中間的確認テスト
第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のブレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅲ[A]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09130S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科
細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）

第13回	学習内容に関する中間的確認テスト
第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み　40％ ・授業への積極的な参加　20％ ・まとめテスト　40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のブレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅲ[B]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09130S

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科
顔 樂蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）

第13回	学習内容に関する中間的確認テスト
第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと。 ・小テストや課題の準備をすること。 ・次回に学習する課の予習を行うこと。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のブレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅱ [A]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09129S

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅱ [B]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09129S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

2025/04/01

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅱ [A]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09129S

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

2025/04/01

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅱ [B]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09129S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

2025/04/01

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅰ [A]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09128S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅰ [B]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09128S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅰ [A]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09128S

担当教員

氏名	所属
◎ 顔 欒蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本語Ⅰ [B]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09128S

担当教員

氏名	所属
◎ 清水 孝俊	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の五つの言語活動を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを目指す。
到達目標	・それぞれのレベルに応じた「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」「話すこと（やりとり）」「書くこと」の五つの能力を向上させる。 ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。 ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。
授業の進め方	授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブ・ラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、記述試験などで確認する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布する。また、Web classを利用し、全体および個別のフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。 ガイダンス、学習計画の立て方、ノートの取り方、LMSの使い方
第2回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第3回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第4回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第5回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第6回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第7回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第8回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第9回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第10回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第11回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第12回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第13回	学習内容に関する中間的確認テスト

第14回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第15回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第16回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第17回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第18回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第19回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第20回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第21回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第22回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第23回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第24回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第25回	各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、聴解、読解その他）
第26回	まとめ（期末／総合確認テスト）

事前・事後学修	・学習した内容の復習やまとめを行うこと ・小テストや課題の準備をすること ・次回に学習する課の予習を行うこと ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題に対する取り組み 40％ ・授業への積極的な参加 20％ ・まとめテスト 40％
テキスト	・クラスごとに指示する。 ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。
参考文献	・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

備考	・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。 ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること

年度	2025
講義名称	日本事情Ⅱ【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09127L

担当教員

氏名	所属
◎ 飯嶋 美知子	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	日本の風俗習慣及び日本文化に関し、主にマナーを学ぶことによって理解することを目的とします。 社会生活ではさまざまな場面で決まったマナーが必要となります。場面ごとのマナーを学び、受講生が自己の出身地のマナーとの共通点や相違を考えることを通して、日本の風俗習慣や日本文化への理解を深めます。年中行事についても学びます。
到達目標	日本の風俗習慣や日本文化への関心と理解を深め、自己の出身地との共通点や相違について説明できるようになるとともに、風俗習慣や文化の多様性を理解し尊重できるようになる。
授業の進め方	奇数回は対面授業、偶数回はオンデマンド授業となります。 奇数回に偶数回の授業の振り返りをするので、必ず期限までに授業を受け、課題を提出するようにしてください。 基本的には講義形式で、テーマに関する教員の説明を経た後、DVD等を視聴します。その後、グループに分かれてテーマについてディスカッションをします。授業の最後には毎回ミニレポートを提出してもらいます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に実施し、クラス全体で共有します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション、日本人の姓名1	
第2回	食事のマナー（和食）	オンデマンド
第3回	前回の振り返り、日本人の姓名2	
第4回	食事のマナー（洋食）	オンデマンド
第5回	前回の振り返り、訪問のマナー	
第6回	飲み会のマナー	オンデマンド
第7回	前回の振り返り、宴会、立食パーティーのマナー	
第8回	結婚式のマナー	オンデマンド
第9回	前回の振り返り、お見舞いのマナー	
第10回	葬式のマナー	オンデマンド
第11回	前回の振り返り、年末年始の行事	
第12回	ビジネスのマナー	オンデマンド
第13回	前回の振り返り、まとめのレポート作成、解説	

	【具体的な内容】

事前・事後学修	授業前にテーマについて、関連する日本語を調べてきてください。授業後には、その日に学んだテーマについて自分なりに考えをまとめてきてください。毎回授業の冒頭に、前回の授業の振り返りをし、受講生の意見を聞きます。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の課題：30％ 毎回のミニレポート：30％ まとめのレポート：40％
テキスト	教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。

備考	受講生の発言の機会を多く設け、グループでのディスカッションも毎回実施します。授業への積極的な参加を期待します。

年度	2025
講義名称	日本事情Ⅰ【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS09126L

担当教員

氏名	所属
◎ 飯嶋 美知子	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	日本語及び日本文化に関し、主に言語面の特徴を学ぶことによって理解することを目的とします。 「言語を学ぶことは文化を学ぶことである」と聞いたことがあると思います。本講義では、日本語のさまざまな特徴を取り上げ、そこに反映されている日本語母語話者のものの考え方や文化的背景を学んでいきます。受講生の使用言語や出身地の文化との共通点や相違を考える機会を多く設け、それにより日本語や日本文化への理解を深めます。
到達目標	日本語や日本文化への関心と理解を深め、自己の使用言語や出身地の文化との共通点や相違について説明できるようになるとともに、言語や文化の多様性を理解し尊重できるようになる。
授業の進め方	奇数回は対面授業、偶数回はオンデマンド授業となります。 奇数回に偶数回の授業の振り返りをするので、必ず期限までに授業を受け、課題を提出するようにしてください。 基本的には講義形式で、テーマに関する教員の説明を経た後、動画を視聴します。その後、グループに分かれてテーマについてディスカッションをします。授業の最後には毎回ミニレポートを提出してもらいます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に実施し、クラス全体で共有します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション、世界の中の日本語	
第2回	日本語の語彙1（語種、語彙の数え方、辞書）	オンデマンド
第3回	前回の振り返り、日本語の表現1（省略表現）	
第4回	日本語の語彙2（語種別の特徴、位相、オノマトベ）	オンデマンド
第5回	前回の振り返り、日本語の表現2（助数詞、音変化）	
第6回	日本語の語彙3（共起制限、意味変化、意味関係、類義語分析）	オンデマンド
第7回	前回の振り返り、日本語の音声1（拍、音節、外来語の発音、音変化）	
第8回	日本語の表現3（敬語）	オンデマンド
第9回	前回の振り返り、日本語の音声2（日本語のリズム、俳句、川柳）	
第10回	日本語の表現4（若者言葉、授受表現、おかしい日本語）	オンデマンド
第11回	前回の振り返り、日本語の音声3（アクセント、イントネーション、ポーズ、プロミネンス）	
第12回	日本語の表記	オンデマンド
第13回	前回の振り返り、まとめのレポート作成、解説	

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	授業前にテーマについて、関連する日本語を調べてきてください。授業後には、その日に学んだテーマについて自分なりに考えをまとめてきてください。毎回授業の冒頭に、前回の授業の振り返りをし、受講生の意見を聞きます。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の授業中の課題：30％ 毎回のミニレポート：30％ まとめのレポート：40％
テキスト	教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。

備考	受講生の発言の機会を多く設け、グループでのディスカッションも毎回実施します。授業への積極的な参加を期待します。

年度	2025
講義名称	インターンシップⅢ[大学]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03322P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科
平塚 彰	大学・センター等
野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	長期派遣型 原則、実働14日以上 of 長期間で派遣するインターンシップで、地域連携プロジェクト(1年タイプ)、ホテルインターンシップ、後志留学などがこれに入る。長期に亘るため、大学が実施するインターンシップは原則休業中に実施する。 長期間体験のため企業や仕事をより深く知るものとなり、自己の能力開発にも繋がり、職業選択に有効となる。20日を過ぎると有償（有給）となる場合もある。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。
到達目標	① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
授業の進め方	「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。 学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導（1）～（5）は講義となります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、インターンシップ経験談（学生発表）、派遣企業一覧	対面授業
第2回	インターンシップ授業の意味・心構え	対面授業
第3回	派遣希望エントリー提出	対面授業
第4回	派遣先選考・面接	対面授業
第5回	企業研究、企業研究シート書き方説明	対面授業
第6回	エントリーシートの書き方	対面授業
第7回	社会人基礎力、コンプライアンス日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状（お礼メール）の書き方	対面授業

事前・事後 学修	日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。
テキスト	教員より適宜資料配布
参考文献	「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社（2023）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験 のある教 員の経歴 と授業内 容	担当教員の新谷、平塚、田中、山田は、それぞれの専門分野で豊富な実務経験を積み重ねてきました。新谷は、経営学や簿記教育の実践を通じてキャリア形成の支援に取り組み、平塚は組織運営や教育活動における深い知識を提供してきました。田中は観光業界の実務経験を基に地域活性化を探究し、山田は国際的なビジネス経験を活かして異文化理解を促進しています。これらの経験を基に、理論と実践を融合させた具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	インターンシップⅢ[大学]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03322P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
平塚 彰	大学・センター等
野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	長期派遣型 原則、実働14日以上 の長期間で派遣するインターンシップで、地域連携プロジェクト(1年タイプ)、ホテルインターンシップ、後志留学などがこれに入る。長期に亘るため、大学が実施するインターンシップは原則休業中に実施する。 長期間体験のため企業や仕事をより深く知るものとなり、自己の能力開発にも繋がり、職業選択に有効となる。20日を過ぎると有償（有給）となる場合もある。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。
到達目標	① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
授業の進め方	「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。 学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導（1）～（5）は講義となります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、インターンシップ経験談（学生発表）、派遣企業一覧	対面授業
第2回	インターンシップ授業の意味・心構え	対面授業
第3回	派遣希望エントリー提出	対面授業
第4回	派遣先選考・面接	対面授業
第5回	企業研究、企業研究シート書き方説明	対面授業
第6回	エントリーシートの書き方	対面授業
第7回	社会人基礎力、コンプライアンス日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状（お礼メール）の書き方	対面授業

事前・事後	日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活 2025/04/01

学修	での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。
テキスト	教員より適宜資料配布
参考文献	「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社（2023）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員の新谷、平塚、田中、山田は、それぞれの専門分野で豊富な実務経験を積み重ねてきました。新谷は、経営学や簿記教育の実践を通じてキャリア形成の支援に取り組み、平塚は組織運営や教育活動における深い知識を提供してきました。田中は観光業界の実務経験を基に地域活性化を探索し、山田は国際的なビジネス経験を活かして異文化理解を促進しています。これらの経験を基に、理論と実践を融合させた具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	インターンシップⅡ[大学]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03321P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
平塚 彰	大学・センター等
野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	課題解決型 派遣先により異なりますが、一般的に企業から課題が示され、それについてグループで企画し提案する形式のインターンシップです。自分の意見を持つこと、チームとして力を発揮し貢献することで、社会で活躍できる人材となるための準備として大変有効です。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。 自己開拓応募型(自分で行きたい会社を開拓)(短期) 就職サイト等から自分で応募し参加可能となる場合や、行きたいと思う会社に自ら連絡をして受入れの承諾が得られた場合に成立するインターンシップ。学生からの申し出があった後、大学担当者が先方と研修の確認をして学内手続きをする。自分からの行動により始まるインターンシップで、行動力、実行力が身に付く。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。
到達目標	① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
授業の進め方	「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。 学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導（1）～（5）は講義となります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、インターンシップ経験談（学生発表）、派遣企業一覧	対面授業
第2回	インターンシップ授業の意味・心構え	対面授業
第3回	派遣希望エントリー提出	対面授業
第4回	派遣先選考・面接	対面授業
第5回	企業研究、企業研究シート書き方説明	対面授業
第6回	エントリーシートの書き方	対面授業

第7回	社会人基礎力、コンプライアンス日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状（お礼メール）の書き方	対面授業

事前・事後学修	日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。
テキスト	教員より適宜資料配布
参考文献	「最新インターンシップーニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社（2023）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員の新谷、平塚、田中は、それぞれの専門分野で豊富な実務経験を積み重ねてきました。新谷は経営やビジネスにおける幅広い経験、平塚は教育や組織運営における実績、田中は観光や地域活性化に関連した知見を有しています。これらの経験を基に、理論と実践を組み合わせた学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	インターンシップⅡ[大学]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03321P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
平塚 彰	大学・センター等
野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	課題解決型 派遣先により異なりますが、一般的に企業から課題が示され、それについてグループで企画し提案する形式のインターンシップです。自分の意見を持つこと、チームとして力を発揮し貢献することで、社会で活躍できる人材となるための準備として大変有効です。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。 自己開拓応募型(自分で行きたい会社を開拓)(短期) 就職サイト等から自分で応募し参加可能となる場合や、行きたいと思う会社に自ら連絡をして受入れの承諾が得られた場合に成立するインターンシップ。学生からの申し出があった後、大学担当者が先方と研修の確認をして学内手続きをする。自分からの行動により始まるインターンシップで、行動力、実行力が身に付く。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。
到達目標	① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
授業の進め方	「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。 学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導（1）～（5）は講義となります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、インターンシップ経験談（学生発表）、派遣企業一覧	対面授業
第2回	インターンシップ授業の意味・心構え	対面授業
第3回	派遣希望エントリー提出	対面授業
第4回	派遣先選考・面接	対面授業
第5回	企業研究、企業研究シート書き方説明	対面授業
第6回	企業研究、企業研究シート書き方説明	対面授業

第7回	社会人基礎力、コンプライアンス日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状（お礼メール）の書き方	対面授業

事前・事後 学修	日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。
テキスト	教員より適宜資料配布
参考文献	「最新インターンシップーニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社（2023）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある 教員の経歴と授 業内容	担当教員の新谷、平塚、田中は、それぞれの専門分野で豊富な実務経験を積み重ねてきました。新谷は経営やビジネスにおける幅広い経験、平塚は教育や組織運営における実績、田中は観光や地域活性化に関連した知見を有しています。これらの経験を基に、理論と実践を組み合わせた学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	インターンシップⅠ[大学]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03320P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
平塚 彰	大学・センター等
野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	職業体験型(短期) 現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシ ップである。派遣一覧から希望する企業を選択し、学内面接、あるいはインターンシップ先の面接を経て派遣を決定する。派遣が決定した後、事前指導を実施し派遣する。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の 職業の現場を知り、働くことについて考える。単なる「仕事体験、見学」ではな く、卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らの キャリアを形成する一助とする。
到達目標	① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
授業の進め方	「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。 学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導（1）～（5）は講義となります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、インターンシップ経験談（学生発表）、派遣企業一覧	対面授業
第2回	インターンシップ授業の意味・心構え	対面授業
第3回	派遣希望エントリー提出	対面授業
第4回	派遣先選考・面接	対面授業
第5回	企業研究、企業研究シート書き方説明	対面授業
第6回	エントリーシートの書き方	対面授業
第7回	社会人基礎力、コンプライアンス日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状（お礼メール）の書き方	対面授業

事前・事後	日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活 2025/04/01

学修	での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。
テキスト	教員より適宜資料配布
参考文献	「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社（2023）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員の新谷、平塚、田中は、それぞれの専門分野で豊富な実務経験を積み重ねてきました。新谷は経営やビジネスにおける幅広い経験、平塚は教育や組織運営における実績、田中は観光や地域活性化に関連した知見を有しています。これらの経験を基に、理論と実践を組み合わせた学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	インターンシップⅠ[大学]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03320P

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
平塚 彰	大学・センター等
野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	職業体験型(短期) 現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシッ プである。派遣一覧から希望する企業を選択し、学内面接、あるいはインターンシップ先の面接を経て派遣を決定する。派遣が決定した後、事前指導を実施し派遣する。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の 職業の現場を知り、働くことについて考える。単なる「仕事体験、見学」ではな く、卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らの キャリアを形成する一助とする。
到達目標	① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。 ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。 ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
授業の進め方	「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。 学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導（１）～（５）は講義となります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、インターンシップ経験談（学生発表）、派遣企業一覧	対面授業
第2回	インターンシップ授業の意味・心構え	対面授業
第3回	派遣希望エントリー提出	対面授業
第4回	派遣先選考・面接	対面授業
第5回	企業研究、企業研究シート書き方説明	対面授業
第6回	エントリーシートの書き方	対面授業
第7回	社会人基礎力、コンプライアンス日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状（お礼メール）の書き方	対面授業

事前・事後学修	日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。
テキスト	教員より適宜資料配布

年度	2025
講義名称	ビジネス日本語[①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03319S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	就職活動をしたり、働いたりする際に必要な日本語力をロープレイやケース学習などを通して学ぶ。言語表現だけではなく、言語の背景にある価値観や慣習などを理解した上で、ビジネス場面での日本語表現を身につける。
到達目標	・日本社会や商習慣への理解を深め、インターンシップ、就職に必要な待遇表現の意味を理解できる。 ・場面や相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。 ・メール作成等、仕事をする際に必要な書類を作成できる。
授業の進め方	演習形式で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での解説や個別対応による。必要な場合には資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	概ね以下の内容で実施予定ですが、状況によって変更することがあります。 ビジネス会話の基本（１）自己紹介と日本の企業文化
第2回	ビジネス会話の基本（２）敬語
第3回	ビジネス会話の基本（３）電話対応の基本
第4回	ビジネス会話の基本（４）電話対応演習
第5回	日本の企業文化を考える（１）
第6回	ビジネスの場に応じたコミュニケーション（１）
第7回	ビジネスの場に応じたコミュニケーション（２）
第8回	ロールプレイ 会話実技テスト
第9回	ビジネスの場に応じたコミュニケーション（３）
第10回	ビジネス文書の基本（１）メールの基本
第11回	ビジネス文書の基本（２）メール作成
第12回	日本の企業文化を考える（２）
第13回	期末テスト、振り返り

	事前事後学習【具体的な内容】 ・日頃からニュース、新聞、インターネットなどにより、ビジネスの話題に関心を持つこと	2025/04/01

事前・事後学修	・授業前にテキストを読むこと、授業後に理解できなかったことを整理、復習すること ・事前・事後学習ともに2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・まとめテスト 30% ・授業への積極的な参加及び課題 30% ・会話・期末試験 40%
テキスト	『上級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子・山辺真理子・向山陽子著（スリーエーネットワーク）
参考文献	『マンガで体験！にっぽんノカイシャ〜ビジネス日本語を实践する〜』（日本漢字能力検定協会）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、役員秘書としての経験を通じ、組織運営の実務や対人対応の技術を身に付け、その後、職業教育やキャリア教育に携わる中で教育の現場での指導力を磨いてきました。これらの経験を基に、実践的なスキルと理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	1クラス最大40名とします。

年度	2025
講義名称	ビジネス日本語[②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03319S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	就職活動をしたり、働いたりする際に必要な日本語力をロープレイやケース学習などを通して学ぶ。言語表現だけではなく、言語の背景にある価値観や慣習などを理解した上で、ビジネス場面での日本語表現を身につける。
到達目標	・日本社会や商習慣への理解を深め、インターンシップ、就職に必要な待遇表現の意味を理解できる。 ・場面や相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。 ・メール作成等、仕事をする際に必要な書類を作成できる。
授業の進め方	演習形式で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での解説や個別対応による。必要な場合には資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	概ね以下の内容で実施予定ですが、状況によって変更することがあります。 ビジネス会話の基本（１）自己紹介と日本の企業文化
第2回	ビジネス会話の基本（２）敬語
第3回	ビジネス会話の基本（３）電話対応の基本
第4回	ビジネス会話の基本（４）電話対応演習
第5回	日本の企業文化を考える（１）
第6回	ビジネスの場に応じたコミュニケーション（１）
第7回	ビジネスの場に応じたコミュニケーション（２）
第8回	ロールプレイ 会話実技テスト
第9回	ビジネスの場に応じたコミュニケーション（３）
第10回	ビジネス文書の基本（１）メールの基本
第11回	ビジネス文書の基本（２）メール作成
第12回	日本の企業文化を考える（２）
第13回	期末テスト、振り返り

	事前事後学習【具体的な内容】 ・日頃からニュース、新聞、インターネットなどにより、ビジネスの話題に関心を持つこと	2025/04/01

事前・事後学修	・授業前にテキストを読むこと、授業後に理解できなかったことを整理、復習すること ・事前・事後学習ともに2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・まとめテスト 30％ ・授業への積極的な参加及び課題 30％ ・会話・期末試験 40％
テキスト	『上級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子・山辺真理子・向山陽子著（スリーエーネットワーク）
参考文献	『マンガで体験！にっぽんノカイシャ〜ビジネス日本語を実践する〜』（日本漢字能力検定協会）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、官公庁での実務経験を通じて組織運営や対人対応の技術を磨き、その後、社会人基礎力育成やキャリア教育に携わり、多様な指導経験を積み重ねてきました。これらの経験を基に、実務的な知識とキャリア形成の方法を学べる講義を展開します。
備考	1クラス最大40名とします。

年度	2025
講義名称	ビジネス実務演習[人文・観光]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03318S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の 目的と 概要	この授業は履修者が将来、会社や組織で働く際に頻繁に使う技能・スキルの修得が目的です。仕事をする上で必要なコミュニケーション、プレゼンテーションなどの対人系スキルのほか、ロジカルシンキングや戦略立案など思考系のスキル、データ活用、データ分析などの業務系スキルの修得を目指します。
到達目 標	この講義は本学の学位授与方針において、以下の6つのビジネス・スキルをテーマとして学修し、1～3を到達目標とします。 ・P/L、B/Sの読み方 ・ロジカルシンキング ・バリューチェーン分析 ・マーケティングSTPと4P ・PDCA ・チームビルディング 1. 財務諸表の理解と分析能力の向上 o P/L（損益計算書）とB/S（貸借対照表）の基本構成を理解し、実際の企業の決算書を用いて財務データの分析ができる。 2. ロジカルシンキングと仮説検証の実践 o ロジカルシンキングを用いて企業の財務データから仮説を立て、その仮説を検証するプロセスを通じて、論理的な思考力と問題解決能力を養う。 3. マーケティング戦略とPDCAマネジメントの実践 o マーケティングの4PやSTP、PDCAサイクルを用いて企業の戦略を分析し、企業が抱える課題の抽出ができる。
授業の 進め方	基本は講義と演習で授業を進めますが、できる限りグループワークでのディスカッションや具体的な事例を用いながら分かり易い授業にしていきます。実際の仕事に近い演習を数多く用意しています。 この授業は、実務者教員が自らのキャリア・経験をもとに、必要な情報をタイムリーに提供し学びの質を高めていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内にて解説し、学修支援システム（LMS）を活用して資料等を配布しフィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	実践に欠かせないP/L・B/Sの読み方、ロジカルシンキングの方法、バリューチェーン分析、マーケティングのSTP、4Pの知識、PDCAマネジメントなど、実際に仕事を進める上で頻繁に用いる分析ツール、フレームワークについてケーススタディを活用して学んでいきます。 ① ガイダンスに加えてP/L、B/Sの基礎を学びます。 ニトリホールディングスの実際の決算書を用いて分かり易くP/L、B/Sの構成を学びます。どこから、どのように数字を見ていけばよいのか、実社会での活用をイメージしていきます。
第2回	② ロジカルシンキングを用いたP/L、B/Sの読み方 トヨタ自動車の事業を想像しながら、同社の事業の特徴が決算書のどの部分に現れるのかをイメージし「仮説」を立てる演習を行います。「Why?＝なぜ?」「So what?＝そこから何が言えるのか」を繰り返し用いてロジカルシンキングを実践していきます。 履修者が確定していない時期のため任意のグループによるワークによって進めていきます。

第3回	③ 「仮説」の検証 前回授業で立てた「仮説」について、トヨタ自動車単体の決算書（P/L、B/S）を見ながら検証していきます。グループワークで立てか「仮説」の成否と一緒に確認していきます。
第4回	④ チームビルディング： 履修者が確定する時期であり6～8人のグループを設定させていただきます。今後、このグループを中心に授業を進めるため、チーム名、グループリーダー、グループのモットーなどを話し合いチームごとに発表して頂きます。またチームビルディングのワークにより協調性を高めます。
第5回	⑤ グループワーク：データ（P/L、B/Sなどの決算書）から企業活動を読み解く演習 会社の名前を明かさずP/L、B/Sのデータのみを提供し、その数字から企業の事業を想像してズバリ、会社名を当てる演習を行います。第1～3回授業で修得したP/L、B/Sの読み方を駆使して、グループワークでデータを読み込む演習です。
第6回	⑥ データ分析 前回授業の振り返りです。データを読み込み、事業を想像し、分析して会社名を当てる演習の正解を説明します。会社のどの活動、どの事業がP/L、B/Sのどこに現れ、影響していくかを学ぶことで、決算書の理解をさらに深めることになります。
第7回	⑦ バリュチェーン（価値連鎖）分析① 会社の事業活動を分析するためのフレームワークにバリュチェーン（価値連鎖）があります。事業活動の流れをバリュ（価値）のチェーン（つながり）として分解し、会社がどこに戦略としての競争優位性を見出したり、逆に重要性を下けているかを分析する方法を、ケース・スタディにて学びます。
第8回	⑧ バリュチェーン（価値連鎖）分析② バリュチェーン分析を用いて異なる2社の経営戦略の違い、P/L、B/Sに現れる数字の読み解き方を学びます。研究開発、製造、プロモーション・販売、販売チャネルなど、どの分野に力点を置いた戦略が、P/L、B/Sのどの部分に影響を与えるのかをケース・スタディを用いて学びます。
第9回	⑨ グループワーク：マーケティングの4 P 誰もが知るネット販売の最大手「アマゾン」をケース・スタディとしてマーケティングの4 P、すなわち商品・製品（Product）、価格（Price）、販売チャネル（Place）、販促（Promotion）を学びます。
第10回	⑩ グループワーク：マーケティングのSTP Segmentation＝セグメンテーション（市場細分化）、Targeting＝ターゲティング、Positioning＝ポジショニング、すなわちマーケティングのSTPと前回授業で学んだ4 Pを活用して2社のマーケティング戦略の違いについてケース・スタディ分析を行います。ジョイフィットなどのフィットネスクラブをケースとして扱います。
第11回	⑪ グループワーク：PDCAマネジメント① P＝計画（Plan）、D＝実行（Do）、C＝チェック（Check）、A＝アクション（Action） すなわちPDCAマネジメントを用いて問題解決を行う演習に取り組みます。ケース・スタディの手法により、会社の与えられたデータに基づいて現状を分析します。
第12回	⑫ グループワーク：PDCAマネジメント② 会社の与えられたデータをグループで読み込み、この授業で学んだ分析手法、例えばP/L、B/Sの読み込み、バリュチェーン分析、マーケティングのSTP、4 Pなどのフレームワークを活用しながら課題の抽出を行います。特にマーケティング戦略上の課題にポイントを絞って課題抽出を行っていきます。
第13回	⑬ グループワーク：PDCAマネジメント③ 抽出した課題をどのように解決していくか、具体的な施策をグループでの議論を重ねてマーケティング戦略案としてまとめます。

事前・事後学修	・事前・事後学修の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内個人ワーク、小テスト、レポート（50％） グループワーク、貢献度（20％） ビジネススキル理解度、修得度（30％）
テキスト	毎回、資料を配布します。
参考文献	ビジネススキル図鑑（2021年・日本経済新聞）・堀公俊 売れない問題解決の公式（2023年・日本経済新聞）・理央周 ロジカルシンキング練習帳（2020年・東洋経済新報社）・岡重文

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある 教員の経歴と授 業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	授業内で完成できなかった課題を作成します。 事前配布の授業資料を一読し課題に取り組みます。

年度	2025
講義名称	ビジネス実務演習[スポ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03318S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の 目的と 概要	この授業は履修者が将来、会社や組織で働く際に頻繁に使う技能・スキルの修得が目的です。仕事をする上で必要なコミュニケーション、プレゼンテーションなどの対人系スキルのほか、ロジカルシンキングや戦略立案など思考系のスキル、データ活用、データ分析などの業務系スキルの修得を目指します。
到達目 標	この講義は本学の学位授与方針において、以下の6つのビジネス・スキルをテーマとして学修し、1～3を到達目標とします。 ・P/L、B/Sの読み方 ・ロジカルシンキング ・バリューチェーン分析 ・マーケティングSTPと4P ・PDCA ・チームビルディング 1. 財務諸表の理解と分析能力の向上 o P/L（損益計算書）とB/S（貸借対照表）の基本構成を理解し、実際の企業の決算書を用いて財務データの分析ができる。 2. ロジカルシンキングと仮説検証の実践 o ロジカルシンキングを用いて企業の財務データから仮説を立て、その仮説を検証するプロセスを通じて、論理的な思考力と問題解決能力を養う。 3. マーケティング戦略とPDCAマネジメントの実践 o マーケティングの4PやSTP、PDCAサイクルを用いて企業の戦略を分析し、企業が抱える課題の抽出ができる。
授業の 進め方	基本は講義と演習で授業を進めますが、できる限りグループワークでのディスカッションや具体的な事例を用いながら分かり易い授業にしていきます。実際の仕事に近い演習を数多く用意しています。 この授業は、実務者教員が自らのキャリア・経験をもとに、必要な情報をタイムリーに提供し学びの質を高めていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内にて解説し、学修支援システム（LMS）を活用して資料等を配布しフィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	実践に欠かせないP/L・B/Sの読み方、ロジカルシンキングの方法、バリューチェーン分析、マーケティングのSTP、4Pの知識、PDCAマネジメントなど、実際に仕事を進める上で頻繁に用いる分析ツール、フレームワークについてケーススタディを活用して学んでいきます。 ① ガイダンスに加えてP/L、B/Sの基礎を学びます。 ニトリホールディングスの実際の決算書を用いて分かり易くP/L、B/Sの構成を学びます。どこから、どのように数字を見ていけばよいのか、実社会での活用をイメージしていきます。
第2回	② ロジカルシンキングを用いたP/L、B/Sの読み方 トヨタ自動車の事業を想像しながら、同社の事業の特徴が決算書のどの部分に現れるのかをイメージし「仮説」を立てる演習を行います。「Why?＝なぜ?」「So what?＝そこから何が言えるのか」を繰り返し用いてロジカルシンキングを実践していきます。 履修者が確定していない時期のため任意のグループによるワークによって進めていきます。

第3回	③ 「仮説」の検証 前回授業で立てた「仮説」について、トヨタ自動車単体の決算書（P/L、B/S）を見ながら検証していきます。グループワークで立てか「仮説」の成否と一緒に確認していきます。
第4回	④ チームビルディング： 履修者が確定する時期であり6～8人のグループを設定させていただきます。今後、このグループを中心に授業を進めるため、チーム名、グループリーダー、グループのモットーなどを話し合いチームごとに発表して頂きます。またチームビルディングのワークにより協調性を高めます。
第5回	⑤ グループワーク：データ（P/L、B/Sなどの決算書）から企業活動を読み解く演習 会社の名前を明かさずP/L、B/Sのデータのみを提供し、その数字から企業の事業を想像してズバリ、会社名を当てる演習を行います。第1～3回授業で修得したP/L、B/Sの読み方を駆使して、グループワークでデータを読み込む演習です。
第6回	⑥ データ分析 前回授業の振り返りです。データを読み込み、事業を想像し、分析して会社名を当てる演習の正解を説明します。会社のどの活動、どの事業がP/L、B/Sのどこに現れ、影響していくかを学ぶことで、決算書の理解をさらに深めることになります。
第7回	⑦ バリュチェーン（価値連鎖）分析① 会社の事業活動を分析するためのフレームワークにバリュチェーン（価値連鎖）があります。事業活動の流れをバリュ（価値）のチェーン（つながり）として分解し、会社がどこに戦略としての競争優位性を見出したり、逆に重要性を下けているかを分析する方法を、ケース・スタディにて学びます。
第8回	⑧ バリュチェーン（価値連鎖）分析② バリュチェーン分析を用いて異なる2社の経営戦略の違い、P/L、B/Sに現れる数字の読み解き方を学びます。研究開発、製造、プロモーション・販売、販売チャネルなど、どの分野に力点を置いた戦略が、P/L、B/Sのどの部分に影響を与えるのかをケース・スタディを用いて学びます。
第9回	⑨ グループワーク：マーケティングの4 P 誰もが知るネット販売の最大手「アマゾン」をケース・スタディとしてマーケティングの4 P、すなわち商品・製品（Product）、価格（Price）、販売チャネル（Place）、販促（Promotion）を学びます。
第10回	⑩ グループワーク：マーケティングのSTP Segmentation＝セグメンテーション（市場細分化）、Targeting＝ターゲティング、Positioning＝ポジショニング、すなわちマーケティングのSTPと前回授業で学んだ4 Pを活用して2社のマーケティング戦略の違いについてケース・スタディ分析を行います。ジョイフィットなどのフィットネスクラブをケースとして扱います。
第11回	⑪ グループワーク：PDCAマネジメント① P＝計画（Plan）、D＝実行（Do）、C＝チェック（Check）、A＝アクション（Action） すなわちPDCAマネジメントを用いて問題解決を行う演習に取り組みます。ケース・スタディの手法により、会社の与えられたデータに基づいて現状を分析します。
第12回	⑫ グループワーク：PDCAマネジメント② 会社の与えられたデータをグループで読み込み、この授業で学んだ分析手法、例えばP/L、B/Sの読み込み、バリュチェーン分析、マーケティングのSTP、4 Pなどのフレームワークを活用しながら課題の抽出を行います。特にマーケティング戦略上の課題にポイントを絞って課題抽出を行っていきます。
第13回	⑬ グループワーク：PDCAマネジメント③ 抽出した課題をどのように解決していくか、具体的な施策をグループでの議論を重ねてマーケティング戦略案としてまとめます。

事前・事後学修	・事前・事後学修の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内個人ワーク、小テスト、レポート（50％） グループワーク、貢献度（20％） ビジネススキル理解度、修得度（30％）
テキスト	毎回、資料を配布します。
参考文献	ビジネススキル図鑑（2021年・日本経済新聞）・堀公俊 売れない問題解決の公式（2023年・日本経済新聞）・理央周 ロジカルシンキング練習帳（2020年・東洋経済新報社）・岡重文

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある 教員の経歴と授 業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	授業内で完成できなかった課題を作成します。 事前配布の授業資料を一読し課題に取り組みます。

年度	2025
講義名称	ビジネス実務総論[大学]【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03317L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業では、経済や社会構造が変化する中で、ビジネス実務に必要な社会の課題を把握し、社会人としての基本知識、基本能力について概観します。そして、ビジネスを働く人の視点から捉え、これからのビジネス現場において、どのような能力を身に付けておくべきか、どのように自分らしく働いて行くのか考察します。
到達目標	①ビジネス環境を理解できる。 ②働き方の多様性を理解できる。 ③ビジネス実務の基礎知識を理解できる。 ④自分らしい働き方を考察することができる。
授業の進め方	「ブレンドB」対面とオンデマンドのブレンド授業の形式をとります。オンデマンドの授業は木曜日にオープンしますので、翌日金曜日までに視聴し、課題を提出してください。課題は期日厳守です。 原則的に講義形式の授業になりますが、小テスト（クイズ）、ワーク等を取り入れ、能動的な学修になることを目指します。また新聞記事を活用します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	1回の授業の中で、小テストや何らかの提出物を複数求めます。これらは遅れると提出することはできませんのでご注意ください。課題に対しては、次の授業内で解説、フィードバックを行います。また、質問を受ける時間を設けます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ビジネス実務とは何か：授業の位置づけと到達目標、評価の視点	対面
第2回	グローバル化とビジネス環境の変化	オンデマンド
第3回	働き方の多様化（1）ワークスタイルの変化	対面
第4回	働き方の多様化（2）個人のスキルアップとキャリア	オンデマンド
第5回	働き方の多様化（3）ジェンダーギャップ・中間課題	対面
第6回	ビジネス実務の基礎知識（1）業務マネジメント（PDCA）	オンデマンド
第7回	ビジネス実務の基礎知識（2）組織とコミュニケーション	対面
第8回	ビジネス実務のスキル修得（1）対人スキル事例	オンデマンド
第9回	ビジネス実務のスキル修得（2）セルフ・マネジメント	対面
第10回	ビジネス実務のスキル修得（3）SWOT分析・中間課題	オンデマンド
第11回	会社活動の基本（1）会社と組織、雇用システム	対面
第12回	会社活動の基本（2）コンプライアンスとリスクマネジメント	オンデマンド
第13回	ビジネス実務のまとめ、最終課題レポート、振り返り	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・毎回、ビジネス基礎知識に関する用語を提示しますので、その解釈を深める学修をしてください。 ・授業で課される課題は、学習管理システム「Webclass」から出され、そこに提出してください。 【必要な時間】	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回の課題（小テスト・提出課題） 30％ 中間課題（単元終了テスト・課題） 20％ 最終課題（レポート・振り返り） 50％
テキスト	資料を配布します（授業資料は学習管理システム「Webclass」に掲載します）
参考文献	「ビジネス実務総論」改訂版、全国大学実務教育協会編、紀伊国屋書店 「ビジネスシリーズ、ビジネス実務総論」森脇道子編著、実教出版 「働き方改革、個を活かすマネジメント」大久保幸夫、皆月みゆき、日本経済新聞出版社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、役員秘書としての経験を通じ、組織運営の実務や対人対応の技術を身に付け、その後、職業教育やキャリア教育に携わる中で教育の現場での指導力を磨いてきました。これらの経験を基に、実践的なスキルと理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	この授業は、全国大学実務教育協会「上級ビジネス実務士（国際ビジネス）資格取得に必要な科目です。

年度	2025
講義名称	SIU特講
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03316L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	企業や諸団体で活躍する卒業生を講師として招聘し、担当教員との対談形式で授業を展開していきます。卒業後、どのような仕事をしているのか、社会人に求められる資質や仕事への取り組み姿勢など対談を通じて学んでいきます。特に大学での学びと社会で働くことの関係性について理解し、正解のない時代をどう生き抜くか、ロールモデルである講師から気づきを与えてもらいます。
到達目標	・講師の話を聴き、社会人としての心構えや仕事の内容を理解できるようになります。 ・講師の話を聴き、自分自身の人生設計に関心を持つようになります。 ・講師の話を聴き、働き甲斐、生き甲斐について、自分の言葉で説明できるようになります。 ・講師の話を聴き、自分の進むべき道、就きたい仕事についてじっくり考察できるようになります。
授業の進め方	講師の招聘は2回に1回です。講師を招聘した回は課題（感想レポート）をWebClassから提出してもらいます。当然メモを取らないと課題はできません（ノートPC、タブレットの持ち込み可）。対談の次の回は講師から与えられた課題をグループで取り組んでももらいます。そして皆さんの提案・提言は講師にフィードバックします。この授業は社会経験豊富な教員が担当しますので、実社会と乖離（かいり）がないリアルな授業を展開していきます。根拠なく夢だけを追うのではなく、現実を理解したうえで目標を定めてもらいます。夢はその先にあるのです。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対する口頭および文章によるフィードバックは適宜授業内で行います。またグループワークではプレゼンテーションも行い、学生同士のフィードバックも実施します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	シラバスはあくまで予定です。講師の都合により内容に変動が生じます。 ①ガイダンス（授業内容、進行、評価などの説明）	対面
第2回	②対談-Ⅰ 安心して暮らせる北海道の実現～警察という仕事のリアル、やりがいを見職刑事が語ります	対面
第3回	③グループワーク 前回登壇講師から提示された課題に対しグループワーク	対面
第4回	④対談-Ⅱ 転職成功物語～営業職を極め外資系医療機器メーカーへ、そして副業の時代到来	対面
第5回	⑤グループワーク 前回登壇講師から提示された課題に対しグループワーク	対面

第6回	⑥対談-Ⅲ 育休について考える～育休から復帰、管理職として働きながら子育てもする現代の働き方	対面
第7回	⑦グループワーク 前回登壇講師から提示された課題に対しグループワーク	対面
第8回	⑧対談-Ⅳ 旅を仕事に～学生時代の過ごし方が人生を変える！アグレッシブな学生生活をとことん語ります！	対面
第9回	⑨グループワーク 前回登壇講師から提示された課題に対しグループワーク	対面
第10回	⑩対談-Ⅴ THE教員～毎日がドラマ、高校が職場、汗と涙と感動の奮闘記	対面
第11回	⑪グループワーク 前回登壇講師から提示された課題に対しグループワーク	対面
第12回	⑫対談-Ⅵ 起業という経験～起業に至った経緯、苦労や失敗、成功・・・起業家の実態に迫ります	対面
第13回	⑬グループワーク 前回登壇講師から提示された課題に対しグループワーク	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 講師一覧はスケジュール調整が終わり次第、WebClassでお知らせします。その際は事前に講師のプロフィールや所属している企業、諸団体等を調べておいてください。 【必要な時間】 事前・事後の学習時間は概ね2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①WebClassに提出する毎回の感想レポート（50％） ②グループワークの内容（20％） ③最終レポート（30％）
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	必要に応じて資料を配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	自分が進むべき道を考える絶好の機会です。前向きに受講してください。

年度	2025
講義名称	新聞で読む社会事情
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03315L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	私たちは新聞を通して社会問題を知り、新聞の活用によって実社会を見つめていく眼を養っていきます。この授業は実社会で起こる様々な問題をテーマに議論と考察を通じて社会現象や社会事情の本質を把握する能力を高め、社会に対する問題意識の醸成を目的としています。日本だけでなくグローバルかつタイムリーな社会事象について、まず問題を認識するところから始め、各自が最初に抱いた問題認識や印象を、他の学生と議論、共有し、自分の認識を相対化します。そして、その認識を論理的、歴史的な側面から検証することにより問題の本質を把握することを目指していきます。
到達目標	1. 新聞に出てくるレベルの語彙を増やすことができる。 2. 新聞を読むことを習慣化し、政治、経済、社会、文化についてのニュースや情報を新聞から得ることができる。 3. 社会の諸問題について、ディスカッションや振り返り講義を通じて、広い視野で考える能力が身につく。 4. 社会事情や実社会の様々な事象に対して相対的に思考し、かつ自分の意見を論理的に表明することができる。
授業の進め方	① 時事問題について、テーマを設定して解説し、簡単な理解度テストを出題して翌週解説します。 ② 朝日新聞の「天声人語」、日本経済新聞の「春秋」など新聞コラム、および「読者の声」欄から記事を選定し、毎回3人の学生に朗読、コラム、記事を読んでもの感想を述べてもらいます。 ③ 是非読んでもらいたい朝日新聞のコラム「天声人語」を選定し、そのコラムに題名を付ける個人ワークを行います。 ④ グループディスカッションを活用します。それを踏まえた新聞切り抜きテーマについての振り返り講義を採り入れます。 授業の前提として家庭、あるいは図書館での新聞購読が必要となります。新聞切り抜きテーマは毎回、教員が用意しますが、履修者より扱って欲しいテーマを受け付けます。またグループディスカッション、振り返り講義を踏まえてのレポート提出が課されることがあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内にて解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布しフィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	第1回授業から第13回授業まで下記の通りに進めていく予定ですが、時事問題を取り扱うこの授業の特性上、臨機に変更を行う可能性があるのご理解を願います。 ① ガイダンス&イントロダクション この授業の進め方、講義方法、新聞切り抜きテーマの内容について説明を行ないます。主に政治、経済、社会、文化、国際などをテーマとして授業を進めていきます。
第2回	② この第2回授業では、教員が新聞切り抜きテーマを用意して、そのテーマを中心にこの授業の進め方を実際に体験していきます。第3回以降は前週（原則1週間前）に新聞切り抜きテーマを学修支援システム（以下LMS）に提示し、事前学習をした上で翌週の授業に臨んで頂きます。
第3回	③ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第4回	④ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第5回	⑤ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第6回	⑥ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第7回	⑦ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。

第8回	⑧ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第9回	⑨ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第10回	⑩ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第11回	⑪ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第12回	⑫ 前週LMSに提示された新聞切り抜きテーマに関しての説明とグループディスカッション、振り返り講義を行います。
第13回	⑬ この授業を通して学んだことを振り返り、まとめの授業を行います。

事前・事後学修	事前事後学修はそれぞれ1時間から2時間を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業において行う個人ワーク、小テスト（50％） グループワーク、グループディスカッション（30％）、 レポートなどの提出物（20％）で評価します。 また、グループワークや授業に対する貢献度に応じて、特別点を付与します。
テキスト	テキスト購入の必要はありません。ただし日々積極的に家庭内での新聞購読、図書館での新聞購読を行ってください。講義における連絡やレポート、課題の提出、および個人ワーク、グループワークにおける指導は学修管理システム（LMS）を用いて行います。
参考文献	テキスト購入の必要はありません。ただし日々積極的に家庭内での新聞購読、図書館での新聞購読を行ってください。講義における連絡やレポート、課題の提出、および個人ワーク、グループワークにおける指導は学修管理システム（manaba）を用いて行います。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	キャリア研究[人文]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03314S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する ②企業分析の手法のうち３Ｃ（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。 まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。 また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法３Ｃ分析を学びます。 さらに、面接試験の概要を企業の採用担当者よりアドバイスを頂き、本学所定の履歴書や企業のエントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備えます。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得した就職活動に関するあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し、面接試験、筆記試験、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。
到達目標	①業種、業界、職種について十分な知識を得る。 ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。 ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（３Ｃ分析）を行うことができる。 ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。
授業の進め方	講義のほか、個人ワークやグループディスカッションなどを通して、自分自身のライフビジョンを明確化し、どのようなキャリアを作り上げていくかを構想する機会を数多く設けます。前半は自己分析、業界分析、企業分析などの個人ワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方など、より実践的な個人ワークを主として行ってまいります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① ガイダンス o 授業の目的とシラバスの説明 o 自己分析の重要性、方法論の説明
第2回	② 自己分析ワークショップ（１） o 自己分析ツール（価値観チェックリスト）の使用 o 自己理解を深めるための個人ワーク
第3回	③ 自己分析ワークショップ（２） o 自己分析結果の共有とフィードバック o グループディスカッションを通じて他者の視点を取り入れる（他己分析） o 小学校、中学校、高校の通信簿の先生のコメント、これまで褒められたこと、から他人から見た自分の価値観、強みに気づく
第4回	④ 自己分析ワークショップ（３） o 自己分析結果を基にしたキャリアビジョンの作成 o 自己PRや強みの整理（強み再確認シートの作成）

第5回	⑤ GPSアカデミック受験 ○ 「思考力」「姿勢・態度」「経験」という3つの観点で「問題を解決する力」を測定し、皆さんが自身の強み、弱みを把握する ○ 就職後に必要となる汎用的能力を可視化する
第6回	⑥ 業界分析 ○ 業界研究の手法と情報収集のポイント ○ B2BとB2C ○ 営業、接客、販売、事務などの職種理解 ○ 業界トレンドの分析
第7回	⑦ 企業分析の基礎 ○ 企業情報の収集方法と分析のポイント（有価証券報告書の活用） ○ 企業選択の視野を広げるためのリソース活用 ○ 企業の経営理念、社長メッセージから、自身の価値観との共通点を見出し志望動機へ ○ 求人票の見方（基本給、月給、固定残業の説明）
第8回	⑧ 3C（自社、顧客、競合）分析ワークショップ ○ 実際の企業をケーススタディとした3C分析の実践 ○ グループでの発表とフィードバック
第9回	⑨ 筆記試験（SPI 3、玉手箱）を理解する。 ○ 筆記試験（SPI、玉手箱）の概要と対策 ○ 模擬面接の実施とフィードバック
第10回	⑩ 就職内定者による就活体験談（個人ワーク：感想文） ○ 内定を取得している本学4年生による就活の心構え、準備方法、エントリーシートの書き方、面接対策、適性試験の準備などの体験談 ○ 個人ワーク：受講レポートの作成（400字程度）
第11回	⑪ 本学所定の履歴書の書き方 ○ 本学所定履歴書の基本構成と書き方 ○ 個人ワーク：ガクチカ、自己PR、志望動機を含む履歴書の提出
第12回	⑫ 企業のエントリーシートの書き方 ○ エントリーシートの基本構成と書き方 ○ 個人ワーク：ガクチカ、自己PR、志望動機、社会人像を含むエントリーシートの提出
第13回	⑬ キャリアプランの作成 ○ これまでの学びを基にしたキャリアプランの再構築 ○ 授業の総括と振り返り ○ 今後のキャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成

事前・事後学修	事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワーク（50％） ② 3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表（10％） ③ グループワークでの積極的な参画、およびレポート（20％） ④ 在学生の就活体験談受講レポート（10％） ⑤ 最終提出物：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成（10％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（LMS）を用います。
参考文献	講義において有用な文献、参考サイト等を随時指示します。 日本経済新聞のコピーや関連資料

実務経験のある教員の有無

有り	2025/04/01

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。 キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

年度	2025
講義名称	キャリア研究[観ビ]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03314S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する ②企業分析の手法のうち３Ｃ（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。 まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。 また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法３Ｃ分析を学びます。 さらに、面接試験の概要を企業の採用担当者よりアドバイスを頂き、本学所定の履歴書や企業のエントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備えます。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得した就職活動に関するあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し、面接試験、筆記試験、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。
到達目標	①業種、業界、職種について十分な知識を得る。 ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。 ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（３Ｃ分析）を行うことができる。 ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。
授業の進め方	講義のほか、個人ワークやグループディスカッションなどを通して、自分自身のライフビジョンを明確化し、どのようなキャリアを作り上げていくかを構想する機会を数多く設けます。前半は自己分析、業界分析、企業分析などの個人ワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方など、より実践的な個人ワークを主として行ってまいります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① ガイダンス o 授業の目的とシラバスの説明 o 自己分析の重要性、方法論の説明
第2回	② 自己分析ワークショップ（１） o 自己分析ツール（価値観チェックリスト）の使用 o 自己理解を深めるための個人ワーク
第3回	③ 自己分析ワークショップ（２） o 自己分析結果の共有とフィードバック o グループディスカッションを通じて他者の視点を取り入れる（他己分析） o 小学校、中学校、高校の通信簿の先生のコメント、これまで褒められたこと、から他人から見た自分の価値観、強みに気づく
第4回	④ 自己分析ワークショップ（３） o 自己分析結果を基にしたキャリアビジョンの作成 o 自己PRや強みの整理（強み再確認シートの作成）

第5回	⑤ GPSアカデミック受験 ○ 「思考力」「姿勢・態度」「経験」という3つの観点で「問題を解決する力」を測定し、皆さんが自身の強み、弱みを把握する ○ 就職後に必要となる汎用的能力を可視化する
第6回	⑥ 業界分析 ○ 業界研究の手法と情報収集のポイント ○ B2BとB2C ○ 営業、接客、販売、事務などの職種理解 ○ 業界トレンドの分析
第7回	⑦ 企業分析の基礎 ○ 企業情報の収集方法と分析のポイント（有価証券報告書の活用） ○ 企業選択の視野を広げるためのリソース活用 ○ 企業の経営理念、社長メッセージから、自身の価値観との共通点を見出し志望動機へ ○ 求人票の見方（基本給、月給、固定残業の説明）
第8回	⑧ 3C（自社、顧客、競合）分析ワークショップ ○ 実際の企業をケーススタディとした3C分析の実践 ○ グループでの発表とフィードバック
第9回	⑨ 筆記試験（SPI3、玉手箱）を理解する。 ○ 筆記試験（SPI、玉手箱）の概要と対策 ○ 模擬面接の実施とフィードバック
第10回	⑩ 就職内定者による就活体験談（個人ワーク：感想文） ○ 内定を取得している本学4年生による就活の心構え、準備方法、エントリーシートの書き方、面接対策、適性試験の準備などの体験談 ○ 個人ワーク：受講レポートの作成（400字程度）
第11回	⑪ 本学所定の履歴書の書き方 ○ 本学所定履歴書の基本構成と書き方 ○ 個人ワーク：ガクチカ、自己PR、志望動機を含む履歴書の提出
第12回	⑫ 企業のエントリーシートの書き方 ○ エントリーシートの基本構成と書き方 ○ 個人ワーク：ガクチカ、自己PR、志望動機、社会人像を含むエントリーシートの提出
第13回	⑬ キャリアプランの作成 ○ これまでの学びを基にしたキャリアプランの再構築 ○ 授業の総括と振り返り ○ 今後のキャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成

事前・事後学修	事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワーク（50％） ② 3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表（10％） ③ グループワークでの積極的な参画、およびレポート（20％） ④ 在学生の就活体験談受講レポート（10％） ⑤ 最終提出物：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成（10％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（LMS）を用います。
参考文献	講義において有用な文献、参考サイト等を随時指示します。 日本経済新聞のコピーや関連資料

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。 キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

年度	2025
講義名称	キャリア研究[スポ]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03314S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する ②企業分析の手法のうち3C（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。 まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。 また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法3C分析を学びます。 さらに、面接試験の概要を企業の採用担当者よりアドバイスを頂き、本学所定の履歴書や企業のエントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備えます。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得した就職活動に関するあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し、面接試験、筆記試験、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。
到達目標	①業種、業界、職種について十分な知識を得る。 ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。 ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（3C分析）を行うことができる。 ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。
授業の進め方	【講義方法】 講義のほか、個人ワークやグループディスカッションなどを通して、自分自身のライフビジョンを明確化し、どのようなキャリアを作り上げていくかを構想する機会を数多く設けます。前半は自己分析、業界分析、企業分析などの個人ワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方など、より実践的な個人ワークを主として行ってまいります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス 授業の目的とシラバスの説明 自己分析の重要性、方法論の説明	対面
第2回	②自己分析ワークショップ（1） 自己分析ツール（価値観チェックリスト）の使用 自己理解を深めるための個人ワーク	対面
第3回	③自己分析ワークショップ（2） 自己分析結果の共有とフィードバック グループディスカッションを通じて他者の視点を取り入れる（他己分析） 小学校、中学校、高校の通信簿の先生のコメント、これまで褒められたこと、から他人から見た自分の価値観、強みに気づく	対面
第4回	④自己分析ワークショップ（3） 自己分析結果を基にしたキャリアビジョンの作成 自己PRや強みの整理（強み再確認シートの作成）	対面

第5回	⑤GPSアカデミック受験 「思考力」「姿勢・態度」「経験」という3つの観点で「問題を解決する力」を測定し、皆さんが自身の強み、弱みを把握する 就職後に必要となる汎用的能力を可視化する	対面
第6回	⑥業界分析 業界研究の手法と情報収集のポイント B2BとB2C 営業、接客、販売、事務などの職種理解 業界トレンドの分析	対面
第7回	⑦企業分析の基礎 企業情報の収集方法と分析のポイント（有価証券報告書の活用） 企業選択の視野を広げるためのリソース活用 企業の経営理念、社長メッセージから、自身の価値観との共通点を見出し志望動機へ 求人票の見方（基本給、月給、固定残業の説明）	対面
第8回	⑧3C（自社、顧客、競合）分析ワークショップ 実際の企業をケーススタディとした3C分析の実践 グループでの発表とフィードバック	対面
第9回	⑨筆記試験（SPI3、玉手箱）を理解する。 筆記試験（SPI、玉手箱）の概要と対策 模擬面接の実施とフィードバック	対面
第10回	⑩就職内定者による就活体験談（個人ワーク：感想文） 内定を取得している本学4年生による就活の心構え、準備方法、エントリーシートの書き方、面接対策、適性試験の準備などの体験談 個人ワーク：受講レポートの作成（400字程度）	対面
第11回	⑪本学所定の履歴書の書き方 本学所定履歴書の基本構成と書き方 個人ワーク：ガクチカ、自己PR、志望動機を含む履歴書の提出	対面
第12回	⑫企業のエントリーシートの書き方 エントリーシートの基本構成と書き方 個人ワーク：ガクチカ、自己PR、志望動機、社会人像を含むエントリーシートの提出	対面
第13回	⑬キャリアプランの作成 これまでの学びを基にしたキャリアプランの再構築 授業の総括と振り返り 今後のキャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。 キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。 【必要な時間】 事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①講義内での個人ワーク（50％） ②3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表（10％） ③グループワークでの積極的な参画、およびレポート（20％） ④在学生の就活体験談受講レポート（10％） ⑤最終提出物：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成（10％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（WebClass）を用います。

参考文献	講義において有用な文献、参考サイト等を随時指示します。 (日本経済新聞のコピーや関連資料)

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	キャリアデザイン[スピ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03313L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	テーマ：業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors＝事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論から「トレードオフ」について学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとする「トレードオフ」を実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors＝事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。
到達目標	①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。 ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。 ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。 ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。
授業の進め方	【講義方法】 前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning（PBL）、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については講義内で解説し、学習支援システム（WebClass）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス（業界とは？、分析の視点、情報収集方法） ディスカッションタイムを設け、学生が自分の興味のある業界について話し合う時間を設定します。	対面
第2回	②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、食品業界より商品が店頭に並ぶ仕組み 実際の企業のサプライチェーンについて資料などを用いて説明、具体例を示します。 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。	対面
第3回	③建設業界、不動産業界の仕組みを理解する、企業比較 個人ワークとしてワークシートを用意し、授業内に企業を調べてもらい数名に発表して頂きます。 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。	対面
第4回	④自動車業界、航空業界の仕組みを理解する、企業比較 個人ワークとしてワークシートを用意し、授業内に各業界の最新ニュースを調べてもらいグループワークでディスカッションし、数グループに発表して頂きます。	対面

第5回	⑤北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する、3C分析の基本を理解する 北海道の農業5団体の仕組み（中央会、ホクレン、信連、共済連、厚生連）について説明します。後半は3C分析の基本を解説します。 3C分析（自社、顧客、競合）の基本を解説します。	対面
第6回	⑥金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する、企業比較 日銀の政策金利、日本の金利の仕組みを解説します。 流通業界道内主要3社のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）を理解します。	対面
第7回	⑦マスコミ・広告、情報通信業界の仕組みを理解する、3C分析個人ワーク ケーススタディとして企業を選定し、3C分析の説明をします。 学生に自分の興味のある企業を選んで頂き、個別に3C分析をレポート課題として提出してもらいます。	対面
第8回	⑧ホテル業界の仕組みを理解する、M.ポーターの競争戦略論「トレードオフ」の基本を理解する 星野リゾートをケーススタディとして、「トレードオフ」の具体的な事例を学びます。	対面
第9回	⑨M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（1） ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、丸亀製麺、ワークマンほか多数の事例を参考にしながらM.ポーターの競争戦略論にいう「トレードオフ」を理解していきます。 この後の授業はPBL（プロジェクト・ベース・ラーニング）を活用したグループワークが主となるため、第9～11回の振替授業として事前申請の上、グループによるPBLのよる学外活動を認めます。教室ではケーススタディを行います。	対面
第10回	⑩M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（2）	対面
第11回	⑪最終発表の準備のための打ち合わせ	対面
第12回	⑫調査研究報告書の発表（グループ発表） 調査研究結果をPPTなどを用いて発表します。	対面
第13回	⑬調査研究報告書の発表（グループ発表） 調査研究結果をPPTなどを用いて発表します。	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。 【必要な時間】 事件事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義内小テストおよびレポート（50％） M.ポーター競争戦略論の理解度（20％） 調査研究報告書および発表（30％）
テキスト	【テキスト】 テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（WebClass）を用います。
参考文献	①[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ　マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND　ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳） ②〔エッセンシャル版〕マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子(著)、櫻井 祐子（翻訳）　早川書房 ③ストーリーとしての競争戦略　楠木建　東洋経済新報社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教
員の経歴と授業内
容

担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	キャリアデザイン[ス指]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03313L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	テーマ：業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors＝事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論から「トレードオフ」について学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとする「トレードオフ」を実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors＝事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。
到達目標	①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。 ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。 ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。 ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。
授業の進め方	【講義方法】 前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning（PBL）、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については講義内で解説し、学習支援システム（WebClass）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス（業界とは？、分析の視点、情報収集方法） ディスカッションタイムを設け、学生が自分の興味のある業界について話し合う時間を設定します。	対面
第2回	②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、食品業界より商品が店頭に並ぶ仕組み 実際の企業のサプライチェーンについて資料などを用いて説明、具体例を示します。 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。	対面
第3回	③建設業界、不動産業界の仕組みを理解する、企業比較 個人ワークとしてワークシートを用意し、授業内に企業を調べてもらい数名に発表して頂きます。 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。	対面
第4回	④自動車業界、航空業界の仕組みを理解する、企業比較 個人ワークとしてワークシートを用意し、授業内に各業界の最新ニュースを調べてもらいグループワークでディスカッションし、数グループに発表して頂きます。 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。	対面

第5回	⑤北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する、3C分析の基本を理解する 北海道の農業5団体の仕組み（中央会、ホクレン、信連、共済連、厚生連）について説明します。後半は3C分析の基本を解説します。 3C分析（自社、顧客、競合）の基本を解説します。	対面
第6回	⑥金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する、企業比較 日銀の政策金利、日本の金利の仕組みを解説します。 流通業界道内主要3社のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）を理解します。	対面
第7回	⑦マスコミ・広告、情報通信業界の仕組みを理解する、3C分析個人ワーク ケーススタディとして企業を選定し、3C分析の説明をします。 学生に自分の興味のある企業を選んで頂き、個別に3C分析をレポート課題として提出してもらいます。	対面
第8回	⑧ホテル業界の仕組みを理解する、M.ポーターの競争戦略論「トレードオフ」の基本を理解する 星野リゾートをケーススタディとして、「トレードオフ」の具体的な事例を学びます。	対面
第9回	⑨M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（1） ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、丸亀製麺、ワークマンほか多数の事例を参考にしながらM.ポーターの競争戦略論にいう「トレードオフ」を理解していきます。 この後の授業はPBL（プロジェクト・ベース・ラーニング）を活用したグループワークが主となるため、第9～11回の振替授業として事前申請の上、グループによるPBLのよる学外活動を認めます。教室ではケーススタディを行います。	対面
第10回	⑩M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（2）	対面
第11回	⑪最終発表の準備のための打ち合わせ	対面
第12回	⑫調査研究報告書の発表（グループ発表） 調査研究結果をPPTなどを用いて発表します。	対面
第13回	調査研究報告書の発表（グループ発表） 調査研究結果をPPTなどを用いて発表します。	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。 【必要な時間】 事事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義内小テストおよびレポート（50％） M.ポーター競争戦略論の理解度（20％） 調査研究報告書および発表（30％）
テキスト	【テキスト】 テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（WebClass）を用います。
参考文献	①[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ　マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND　ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳） ②〔エッセンシャル版〕マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子(著)、櫻井 祐子（翻訳）　早川書房 ③ストーリーとしての競争戦略　楠木建　東洋経済新報社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教
員の経歴と授業内
容

担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	キャリアデザイン[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03313L

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	テーマ：業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors＝事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論から「トレードオフ」について学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとする「トレードオフ」を実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors＝事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。
到達目標	①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。 ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。 ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
授業の進め方	前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning（PBL）、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	産業界の全体像、産業の仕組みの基本、食品業界より商品が店頭に並ぶ仕組み	対面授業
第3回	建設業界、不動産業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第4回	自動車業界、航空業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第5回	北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する、3C分析の基本を理解する	対面授業
第6回	金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第7回	マスコミ・広告、情報通信業界の仕組みを理解する、3C分析個人ワーク	対面授業
第8回	ホテル業界の仕組みを理解する、M.ポーターの競争戦略論「トレードオフ」の基本を理解する	対面授業
第9回	M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（1）	対面授業
第10回	M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（1）	対面授業
第11回	最終発表の準備のための打ち合わせ	対面授業
第12回	グループ発表	対面授業
第13回	グループ発表	対面授業

事前・事後学修	関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義内小テストおよびレポート（50％） M.ポーター競争戦略論の理解度（20％） 調査研究報告書および発表（30％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システムを用います。
参考文献	① [新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ　マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳) ② 〔エッセンシャル版〕マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳)　早川書房 ③ ストーリーとしての競争戦略　楠木建　東洋経済新報社

年度	2025
講義名称	キャリアデザイン[国教]
講義開講時期	秋学期第1Q
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03313L

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（業界とは？、分析の視点、情報収集方法）	対面授業
第2回	産業界の全体像、産業の仕組みの基本、食品業界より商品が店頭に並ぶ仕組み	対面授業
第3回	建設業界、不動産業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第4回	自動車業界、航空業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第5回	北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する、３C分析の基本を理解する	対面授業
第6回	金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第7回	マスコミ・広告、情報通信業界の仕組みを理解する、３C分析個人ワーク	対面授業
第8回	ホテル業界の仕組みを理解する、M.ポーターの競争戦略論「トレードオフ」の基本を理解する	対面授業
第9回	M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（１）	対面授業
第10回	M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（２）	対面授業
第11回	最終発表の準備のための打ち合わせ	対面授業
第12回	調査研究報告書の発表（グループ発表）	対面授業
第13回	調査研究報告書の発表（グループ発表）	対面授業

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	キャリアデザイン[観ビ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03313L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	テーマ：業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors＝事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論から「トレードオフ」について学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとする「トレードオフ」を実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors＝事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。
到達目標	①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。 ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。 ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。 ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。
授業の進め方	前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning（PBL）、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システム（LMS）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① ガイダンス（業界とは？、分析の視点、情報収集方法） o ディスカッションタイムを設け、学生が自分の興味のある業界について話し合う時間を設定します。
第2回	② 産業界の全体像、産業の仕組みの基本、食品業界より商品が店頭に並ぶ仕組み o 実際の企業のサプライチェーンについて資料などを用いて説明、具体例を示します。 o 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。
第3回	③ 建設業界、不動産業界の仕組みを理解する、企業比較 o 個人ワークとしてワークシートを用意し、授業内に企業を調べてもらい数名に発表して頂きます。 o 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。
第4回	④ 自動車業界、航空業界の仕組みを理解する、企業比較 o 個人ワークとしてワークシートを用意し、授業内に各業界の最新ニュースを調べてもらいグループワークでディスカッションし、数グループに発表して頂きます。 o 企業のB/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）の基本を理解します。
第5回	⑤ 北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する、3C分析の基本を理解する o 北海道の農業5団体の仕組み（中央会、ホクレン、信連、共済連、厚生連）について説明します。後半は3C分析の基本を解説します。 o 3C分析（自社、顧客、競合）の基本を解説します。

第6回	⑥ 金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する、企業比較 o 日銀の政策金利、日本の金利の仕組みを解説します。 o 流通業界道内主要 3 社の B/S（貸借対照表）、P/L（損益計算書）を理解します。
第7回	⑦ マスコミ・広告、情報通信業界の仕組みを理解する、3 C 分析個人ワーク o ケーススタディとして企業を選定し、3 C 分析の説明をします。 o 学生に自分の興味のある企業を選んで頂き、個別に 3 C 分析をレポート課題として提出してもらいます。
第8回	⑧ ホテル業界の仕組みを理解する、M.ポーターの競争戦略論「トレードオフ」の基本を理解する o 星野リゾートをケーススタディとして、「トレードオフ」の具体的な事例を学ぶ。
第9回	⑨ M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（1） o ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、丸亀製麺、ワークマンほか多数の事例を参考にしながらM. ポーターの競争戦略論にいう「トレードオフ」を理解していきます。 この後の授業はP B L（プロジェクト・ベース・ラーニング）を活用したグループワークが主となるため、第9～11回の振替授業として事前申請の上、グループによるP B Lのよる学外活動を認めます。教室ではケーススタディを行います。
第10回	⑩ M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（2）
第11回	⑪ 最終発表の準備のための打ち合わせ
第12回	調査研究報告書の発表（グループ発表） 調査研究結果をP P Tなどを用いて発表します
第13回	調査研究報告書の発表（グループ発表） 調査研究結果をP P Tなどを用いて発表します

事前・事後学修	1～2 時間程度を想定しています。関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の1 4 面、1 5 面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義内小テストおよびレポート（5 0 %） M.ポーター競争戦略論の理解度（2 0 %） 調査研究報告書および発表（3 0 %）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（LMS）を用います。
参考文献	① [新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳） ② 〔エッセンシャル版〕マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子（著）、櫻井 祐子（翻訳） 早川書房 ③ ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

実務経験のある教員の有無

有り	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	キャリアデザイン[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03313L

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	テーマ：業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors＝事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論から「トレードオフ」について学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとする「トレードオフ」を実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors＝事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。
到達目標	①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。 ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。 ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
授業の進め方	前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning（PBL）、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	産業界の全体像、産業の仕組みの基本、食品業界より商品が店頭に並ぶ仕組み	対面授業
第3回	建設業界、不動産業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第4回	自動車業界、航空業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第5回	北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する、3C分析の基本を理解する	対面授業
第6回	金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する、企業比較	対面授業
第7回	マスコミ・広告、情報通信業界の仕組みを理解する、3C分析個人ワーク	対面授業
第8回	ホテル業界の仕組みを理解する、M.ポーターの競争戦略論「トレードオフ」の基本を理解する	対面授業
第9回	M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（1）	対面授業
第10回	M.ポーターの競争戦略論に言う「トレードオフ」のケーススタディ（2）	対面授業
第11回	最終発表の準備のための打ち合わせ	対面授業
第12回	グループ発表	対面授業
第13回	グループ発表	対面授業

事前・事後学修	関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	"講義内小テストおよびレポート（50％） M.ポーター競争戦略論の理解度（20％） 調査研究報告書および発表（30％）"
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システムを用います。
参考文献	① [新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ　マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳) ② 〔エッセンシャル版〕マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳)　早川書房 ③ ストーリーとしての競争戦略　楠木建　東洋経済新報社

年度	2025
講義名称	キャリア形成論[国教]
講義開講時期	秋学期第2Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03312L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	"テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。"
到達目標	①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	人生設計 1	対面授業
第3回	人生設計 2	対面授業
第4回	人生設計 3	対面授業
第5回	自己理解 1	対面授業
第6回	自己理解 2	対面授業
第7回	仕事理解 1	対面授業
第8回	仕事理解 2	対面授業
第9回	職場理解 1	対面授業
第10回	職場理解 2	対面授業
第11回	ケーススタディ	対面授業

第12回	職場理解 3	対面授業
第13回	キャリア形成に向けて（まとめ）	対面授業

事前・事後学修	関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワークでのアウトプット（50％） ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30％） ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システムを用います。
参考文献	キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、役員秘書としての経験を通じ、組織運営の実務や対人対応の技術を身に付け、その後、職業教育やキャリア教育に携わる中で教育の現場での指導力を磨いてきました。これらの経験を基に、実践的なスキルと理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	キャリア形成論[臨心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03312L

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。
到達目標	①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	人生設計 1	対面授業
第3回	人生設計 2	対面授業
第4回	人生設計 3	対面授業
第5回	自己理解 1	対面授業
第6回	自己理解 2	対面授業
第7回	仕事理解 1	対面授業
第8回	仕事理解 2	対面授業
第9回	職場理解 1	対面授業
第10回	職場理解 2	対面授業
第11回	ケーススタディ	対面授業
第12回	職場理解	対面授業

第13回	まとめ	対面授業

事前・事後学修	関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワークでのアウトプット（50％） ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30％） ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システムを用います。
参考文献	キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

年度	2025
講義名称	キャリア形成論[子心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03312L

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。
到達目標	①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システムを活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	人生設計 1	対面授業
第3回	人生設計 2	対面授業
第4回	人生設計 3	対面授業
第5回	自己理解 1	対面授業
第6回	自己理解 2	対面授業
第7回	仕事理解 1	対面授業
第8回	仕事理解 2	対面授業
第9回	職場理解 1	対面授業
第10回	職場理解 2	対面授業
第11回	ケーススタディ	対面授業
第12回	職場理解	対面授業

第13回	まとめ	対面授業

事前・事後学修	関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワークでのアウトプット（50％） ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30％） ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システムを用います。
参考文献	キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

年度	2025
講義名称	キャリア形成論[スピ]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03312L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にできると考えます。
到達目標	【到達目標】 ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。 (DP2)「コミュニケーション能力」 (DP5)「能動的に学び続ける力」
授業の進め方	【講義方法】 自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス テーマ：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解 キャリアの定義、キャリア形成の必要性、変化するキャリア形成の課題 キャリア形成の基本と方法（なぜ働くのか？）、モチベーション曲線（個人ワーク）	対面

第2回	②人生設計（１） テーマ：ライフサイクルと職業 変わる家族のライフサイクルと性別役割、家族の変化と長寿社会、女性の就業意識の変化、出産後の就業パターン、ライフコース（個人ワーク）	対面
第3回	③人生設計（２） テーマ：生涯収支と職業 職業生活が持つ意味（マズローの欲求五段階説、経済的報酬、安定性・継続性、社会人的人間関係、社会的評価、自己実現・自己啓発）、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支（個人ワーク）	対面
第4回	④人生設計（３） テーマ：キャリアの広がりと生涯発達 自律的なキャリア形成、ライフキャリアという考え方、ライフロールとは何か（ライフキャリアレインボー）、キャリアの生涯発達（若年、中年、老年）、人生の形成期課題	対面
第5回	⑤自己理解（１） テーマ：働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする 人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか（社会的活動の領域別・個人ワーク、社会的活動のライフステージ別・個人ワーク、社会的活動の担い手別・個人ワーク、就業形態別・個人ワーク）	対面
第6回	⑥自己理解（２） テーマ：相互インタビューによる自己分析 自分史チェックシートの作成、相互インタビュー（インタビューシート作成）、２人ペア相互インタビューシートから自己分析シートを作成する（グループワーク）	対面
第7回	⑦仕事理解（１） テーマ：学生生活で得るキャリア意識の明確化 学生生活とキャリア形成： i 時間管理、 ii 最も重要なことに集中する iii 自分の得意な仕事のやり方（個人ワーク）	対面
第8回	⑧仕事理解（２） テーマ：何によって憶えられたいか？ 仕事において： i 評価される人間とは？ ii できる人間とは？	対面
第9回	⑨職場理解（１） テーマ：インターンシップを活用したキャリア考察 在校生によるインターンシップ体験談：インターンシップの定義、インターンシップの活用（目的、種類、事前準備、注意点）、課題：「働く人インタビュー」	対面
第10回	⑩職場理解（２） テーマ：多彩な職種や業種と自分の適職 前回授業提出課題「働く人インタビュー」シートをもとにグループでディスカッション（グループワーク）	対面
第11回	⑪キャリア・ケーススタディ（１） テーマ：具体的な事例で考える将来設計 （招聘講師：未定） 事例の研究：個人で事前学修、事例の研究：グループで話し合う、受講レポート	対面
第12回	⑫職場理解（３） テーマ：会社、組織、職場を理解する 会社の仕組み、会社組織、コミュニケーションの重要性、 事例の研究：個人で事前学修、事例の研究：グループで話し合う	対面
第13回	⑬キャリア形成に向けて（まとめ） テーマ：キャリア形成論全体の振り返り	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。 【必要な時間】 事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワークでのアウトプット（50％） ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30％） ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20％）
テキスト	【テキスト】 テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学習支援システムのWebClassを用います。
参考文献	キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	キャリア形成論[ス指]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03312L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。
到達目標	①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システム（LMS）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス テーマ：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解 キャリアの定義、キャリア形成の必要性、変化するキャリア形成の課題 キャリア形成の基本と方法（なぜ働くのか？）、モチベーション曲線（個人ワーク）
第2回	②人生設計（１） テーマ：ライフサイクルと職業 変わる家族のライフサイクルと性別役割、家族の変化と長寿社会、女性の就業意識の変化、出産後の就業パターン、ライフコース（個人ワーク）
第3回	③人生設計（２） テーマ：生涯収支と職業 職業生活が持つ意味（マズローの欲求五段階説、経済的報酬、安定性・継続性、社会人的人間関係、社会的評価、自己実現・自己啓発）、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支（個人ワーク）
第4回	④人生設計（３） テーマ：キャリアの広がりと生涯発達 自律的なキャリア形成、ライフキャリアという考え方、ライフロールとは何か（ライフキャリアレインボー）、キャリアの生涯発達（若年、中年、老年）、人生の形成期課題

第5回	⑤自己理解（１） テーマ：働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする 人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか（社会的活動の領域別・個人ワーク、社会的活動のライフステージ別・個人ワーク、社会的活動の担い手別・個人ワーク、就業形態別・個人ワーク）
第6回	⑥自己理解（２） テーマ：相互インタビューによる自己分析 自分史チェックシートの作成、相互インタビュー（インタビューシート作成）、２人ペア相互インタビューシートから自己分析シートを作成する（グループワーク）
第7回	⑦仕事理解（１） テーマ：学生生活で得るキャリア意識の明確化 学生生活とキャリア形成：ⅰ時間管理、ⅱ最も重要なことに集中するⅲ自分の得意な仕事のやり方（個人ワーク）
第8回	⑧仕事理解（２） テーマ：何によって憶えられたいか？ 仕事において：ⅰ評価される人間とは？ⅱできる人間とは？
第9回	⑨職場理解（１） テーマ：インターンシップを活用したキャリア考察 在校生によるインターンシップ体験談：インターンシップの定義、インターンシップの活用（目的、種類、事前準備、注意点）、課題：「働く人インタビュー」
第10回	⑩職場理解（２） テーマ：多彩な職種や業種と自分の適職 前回授業提出課題「働く人インタビュー」シートをもとにグループでディスカッション（グループワーク）
第11回	⑪キャリア・ケーススタディ（１） テーマ：具体的な事例で考える将来設計 （招聘講師：） 事例の研究：個人で事前学修、事例の研究：グループで話し合う、受講レポート
第12回	⑫職場理解（３） テーマ：会社、組織、職場を理解する 会社の仕組み、会社組織、コミュニケーションの重要性、 事例の研究：個人で事前学修、事例の研究：グループで話し合う
第13回	⑬キャリア形成に向けて（まとめ） テーマ：キャリア形成論全体の振り返り

事前・事後学修	事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワークでのアウトプット（５０％） ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（３０％） ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（２０％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（LMS）を用います。
参考文献	キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の
経歴と授業
内容

担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。

備考

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう

年度	2025
講義名称	キャリア形成論[観光]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS03312L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。
到達目標	①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学習支援システム（LMS）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス テーマ：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解 キャリアの定義、キャリア形成の必要性、変化するキャリア形成の課題 キャリア形成の基本と方法（なぜ働くのか？）、モチベーション曲線（個人ワーク）
第2回	②人生設計（１） テーマ：ライフサイクルと職業 変わる家族のライフサイクルと性別役割、家族の変化と長寿社会、女性の就業意識の変化、出産後の就業パターン、ライフコース（個人ワーク）
第3回	③人生設計（２） テーマ：生涯収支と職業 職業生活が持つ意味（マズローの欲求五段階説、経済的報酬、安定性・継続性、社会人的人間関係、社会的評価、自己実現・自己啓発）、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支（個人ワーク）
第4回	④人生設計（３） テーマ：キャリアの広がりと生涯発達 自律的なキャリア形成、ライフキャリアという考え方、ライフロールとは何か（ライフキャリアレインボー）、キャリアの生涯発達（若年、中年、老年）、人生の形成期課題

第5回	⑤自己理解（１） テーマ：働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする 人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか（社会的活動の領域別・個人ワーク、社会的活動のライフステージ別・個人ワーク、社会的活動の担い手別・個人ワーク、就業形態別・個人ワーク）
第6回	⑥自己理解（２） テーマ：相互インタビューによる自己分析 自分史チェックシートの作成、相互インタビュー（インタビューシート作成）、２人ペア相互インタビューシートから自己分析シートを作成する（グループワーク）
第7回	⑦仕事理解（１） テーマ：学生生活で得るキャリア意識の明確化 学生生活とキャリア形成：ⅰ時間管理、ⅱ最も重要なことに集中するⅲ自分の得意な仕事のやり方（個人ワーク）
第8回	⑧仕事理解（２） テーマ：何によって憶えられたいか？ 仕事において：ⅰ評価される人間とは？ⅱできる人間とは？
第9回	⑨職場理解（１） テーマ：インターンシップを活用したキャリア考察 在校生によるインターンシップ体験談：インターンシップの定義、インターンシップの活用（目的、種類、事前準備、注意点）、課題：「働く人インタビュー」
第10回	⑩職場理解（２） テーマ：多彩な職種や業種と自分の適職 前回授業提出課題「働く人インタビュー」シートをもとにグループでディスカッション（グループワーク）
第11回	⑪キャリア・ケーススタディ（１） テーマ：具体的な事例で考える将来設計 （招聘講師：） 事例の研究：個人で事前学修、事例の研究：グループで話し合う、受講レポート
第12回	⑫職場理解（３） テーマ：会社、組織、職場を理解する 会社の仕組み、会社組織、コミュニケーションの重要性、 事例の研究：個人で事前学修、事例の研究：グループで話し合う
第13回	⑬キャリア形成に向けて（まとめ） テーマ：キャリア形成論全体の振り返り

事前・事後学修	事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 講義内での個人ワークでのアウトプット（５０％） ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（３０％） ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（２０％）
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（LMS）を用います。
参考文献	キャリアデザイン講座第3版 日経B P社 監修大宮登

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。
2025/04/01	

備考

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう

年度	2025
講義名称	【閉講】海外研修Ⅲ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02912P

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	本研修の目的は、本学協定校のうち中華圏の大学において、語学研修、地域社会・文化に関する講義、人文学や日本語を専攻する現地学生との交流（中国語を中心に多言語を用いる）を通じて、外国語学習能力や異文化適応能力を高め、当該地域の歴史・文化・社会に対する理解を深めることです。
到達目 標	【到達目標】 ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。 ・簡単な中国語（初修中国語学習歴1年程度）を用いて、自己紹介や自分たちの住む国・地域の紹介（プレゼンテーション）ができる。 ・日本語、中国語、英語、筆談、ボディランゲージなどを総合的に用いて、積極的に現地の人々とコミュニケーションできる。 ・異文化交流の体験を通じて、中華圏の社会や文化の特徴、自分の国と中華圏の人々の考え方や行動の共通点や相違点などについて理解を深める。 ・研修の体験を通じて学んだことを、帰国後に日本語で報告、説明できる。
授業の 進め方	【講義方法】 ・授業形態 現地の教員や学生による対面講義や交流活動を中心に行いますが、遠隔も適宜取り入れる可能性があります。 現地では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、その他SNSなどのツールを用いて連絡や課題のやり取りを行います。 教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。 ・授業内容 中華圏の社会や文化について、現地で実物に触れ、実際に体験する活動を通じて、理解を深めます。 日常生活の各場面で中国語を用いたコミュニケーションを体験するとともに、多様な中国語のバージョンや各地の方言にも触れます。 現地の人々との交流を通じて積極的にコミュニケーションする態度を育成し、中国語運用に対する自信を高めます。 日本語授業で教える体験を通じて、日本の国や文化に対する客観的で批判的な視点を養うと共に、日本語学習者との交流を通じて、日本語・日本文化のインフォーマントとして架け橋の役割を果たします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 主に以下の形式で質問に回答します。 ・研修活動時間内で質問や課題に対する回答・解説をします。 ・オンライン課題に対するフィードバックを各自に返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態

第1回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第2回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第3回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第4回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業

第5回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第6回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第7回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第8回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業

第9回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第10回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第11回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業
第12回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業

第13回	（１）事前学習 説明会（４月中旬（予定）） ①～③研修参加準備プレゼンテーション（９月中旬（予定）） （２）現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度） ④札幌～（台北経由）～台中へ移動 ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会 ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策） ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等） ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会、翌日に台中～（台北経由）～札幌へ移動 ※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。 （３）事後学習 ⑫～⑬成果報告会準備 研修成果報告会	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。 語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、中国語（英語併用も可）で説明できるように準備することが必要です。 研修後に報告発表会を開催しますので、写真や動画、資料メモなどを集めてください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

（DP1）専門知識・技能を活用する力	●
（DP2）コミュニケーション能力	●
（DP3）課題を発見し、解決する力	●
（DP4）多様性の理解と協働する力	●
（DP5）能動的に学び続ける力	●
（DP6）社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前学習、課題 20％ 事後学習、レポート 20％ 海外研修中の活動への取り組みと達成度 60％
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて指示する。

備考	・教員の公務などのやむを得ない事情により、授業計画を変更する場合もある。 ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	【閉講】海外研修Ⅱ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02911P

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、本学協定校のうち英語圏の大学において、学生交流や語学研修を通じて、英語コミュニケーション能力や異文化適応能力を高め、当該地域の歴史・文化・社会に対する理解を深めることを目的とする。今年度はフィリピンのエンデラン大学へ留学する。 9月7日（日）- 9月20日（土）の2週間を予定。
到達目標	・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。 ・日常生活で支障のない英語力を習得する。 ・自分の文化や生活などについてなど現地の人に説明できるようになる。 ・自らの異文化交流体験について、日本語・英語で報告できる。
授業の進め方	事前授業 派遣先についての文化・歴史・社会問題などについて調べる。 学外学修 現地の教員による対面講義 3週間の研修(80時間) 事後授業 研修についての発表

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	主に以下の形式でフィードバックをする。 ・事前授業: 学修管理システムを通じて添削やコメントを与える。 ・学外学修: 現地教員たちからのファイナルレポートでのフィードバック。 ・事後授業: 最終発表に対して、学修管理システムを通じてコメントを与える。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	事前説明会	対面授業
第2回	事前授業	対面授業
第3回	3-12週 現地学修	対面授業
第4回	事後発表会	対面授業

事前・事後学修	渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。 ・語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、英語で説明できるように準備すること。 ・研修後に報告発表会を開催するので、多くの写真や動画を集めておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前学習、課題 20% 事後学習、レポート 20% 海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

年度	2025
講義名称	【閉講】海外研修Ⅰ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02910P

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業の目的 本授業は、世界に目を向け、国際的に活躍できる人材の育成を目的としています。 海外での学びや異文化交流を通じて、新たな視点を獲得だけでなく、現在生活している北海道や日本という地域が、世界の中でどのような位置付けにあるのかを客観的に捉える力を養います。 特に、グローバル化が進む現代社会において、異なる文化や価値観を理解し、相互に尊重し合う姿勢を育むことを重視します。 また、言語は異文化理解の重要なツールであるため韓国語を中心に実践的な語学力の向上にも取り組みます。 言語を学ぶことで、単にコミュニケーション能力を高めるだけでなく、その背景にある文化や社会への理解を深め、異文化との橋渡しができる力を身につけます。 本授業の概要 本授業では、国際理解を深めるための講義やディスカッションを行い、実際に韓国を訪れるフィールドワークを通じて、異文化体験をします。 現地での人との交流や、自身の見聞を通じて国際感覚を養い、グローバルな視点を持つための実践的な学びを行います。 授業の前半では、国際社会における日本や北海道の立ち位置について学び、異文化理解や国際関係に関する基礎的な知識を深めます。また、韓国の歴史・社会・文化について調査し、現地での学びをより充実させるための事前準備を行います。さらに、韓国語の基本的な表現や日常会話を学び、現地での円滑なコミュニケーションに繋がります。 後半では、実際の海外研修を通じて、現地の人々と交流し、自らの経験をもとに考察を深めます。研修後には、学んだことを振り返り、日本や北海道の立ち位置について再考し、成果をまとめるプレゼンテーションやレポート作成を行います。また、韓国語の学習成果として、簡単な会話や発表に挑戦し、言語を通じた文化理解の深化を図ります。 この授業を通じて、異文化に対する理解を深めるとともに、日本や地域社会を国際的な観点から捉える力を身につけ、実践的な語学力の向上を目指します。
到達目標	・国際的な視野を広げ、異文化理解を深めることで、国際人としての自覚を持つ。 ・インターネットや各種資料を活用し、現地の情報を的確に収集・分析する力を養う。 ・韓国と日本の文化の違いや共通点を比較・考察し、それをもとに現地の人々にわかりやすくプレゼンテーションできる。 ・積極的な姿勢で現地の人々と交流し、実践的なコミュニケーション能力を身につける。
授業の進め方	・事前学習 韓国と日本についての文化・歴史・社会問題などについて調査し、比較・考察を行う。収集した情報をもとに、現地での学びを深めるためのプレゼンテーションのテーマを設定する。また、基礎的な韓国語表現を学び、現地でのコミュニケーションに備える。 ・現地学修 現地の大学の対面講義を受講し、韓国の社会や文化について理解を深める。さらに、2週間の研修を通じて、現地の人々との交流や文化体験を行い、実践的な学びを積み重ねる。韓国語を使ったコミュニケーションにも積極的に取り組む。 ・事後学習 研修で得た知見を整理し、韓国と日本の文化的な相違点や共通点を踏まえた最終プレゼンテーションを行う。自身の経験を振り返り、国際的な視点を持つことの意義について考察し、学びの成果を共有する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	対面とWebClassなどを通じて添削やコメントを与える。

授業計画表

回	授業内容	授業形態

第1回	1回目　オリエンテーション・課題の設定 2回目　個人課題の発表 3回目　出発前の最終確認及びグループ発表 4回目～11回目 <現地研修>8月に研修を現地にて行う。 12回目　研修後の振り返り 13回目　報告会及びレポート提出	対面

事前・事後学修	テーマの選定にあたっては、大学図書館や学外の外国に関するインフォメーションセンターなどの情報源を積極的に活用し、信頼できるデータや資料をもとに調査を進める。得た情報を整理し、パワーポイントにまとめる。授業では、発表とディスカッションを中心に進め、相互に意見を交換しながら理解を深める。授業外の時間も活用し、準備と修正を振り返りながら、完成度を高める。予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前学習の発表およびテーマ設定：30％ 現地での学習と達成度：40％ 最終報告書：30％
テキスト	授業で適宜指示する。
参考文献	授業で適宜指示する。

備考	・説明会にて、詳細な日程についてご案内します。 ・事前学修日は必ず出席してください。 ・2025年度の研修は、2025年8月中に韓国の大邱大学で実施予定です。 ・学修内容や研修内容は、諸事情により変更となる可能性があります。

年度	2025
講義名称	海外ボランティア・インターンシップⅡ[春]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02909P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	海外での様々な体験を通し、世界を違う視点から見ることで、グローバル人材を養成していくことを目的としています。海外ボランティアを通じて国際社会に貢献する活動を行い、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を養い、海外に積極的にチャレンジしていく学生を育てます。 また海外インターンシップでは、企業などのグローバル化に対応して各国の経済状況や文化を体感しながら、働き方や文化の違いを学びます。将来的な学生のキャリア形成支援につなげていくものです。
到達目 標	①国際事情、国際的な活動の実態を知ることができる。 ②異文化を理解し、多文化共生の考え方が理解できる。 ③実践的な語学力、コミュニケーション能力を養うことができる。 ④リーダーシップ、主体性、協調性、倫理観を育むことができる。
授業の 進め方	本学およびエージェントが実施する海外ボランティア、海外インターンシップを選択、単位として認定できる条件にあるかを確認して参加します。インターンシップ後は、報告会で報告をします。 現地研修：海外でのボランティア活動、およびインターンシップ（約4週間） ※信頼できる業務委託先が現地での支援を行います。教員の引率はありません。 ※時期、期間は受け入れ先により異なる場合があります。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説し、学修支援システム（Webclass）を活用して資料等を配布し、週間レポートなどのフィードバックをしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	事前指導 ・海外ボランティア、インターンシップの目的・目標の設定および確認	対面授業
第3回	事前研修 ・インターンシップ先におけるボランティア活動、インターンシップ先企業の基礎知識 ・インターンシップ先企業の業界研究調査 ・インターンシップ先地域の情報収集、安全対策	対面授業
第4回	現地研修 ・インターンシップ先でのオリエンテーション、注意事項	実習
第5回	現地研修	実習
第6回	現地研修	実習

第7回	現地研修	実習
第8回	現地研修	実習
第9回	現地研修	実習
第10回	現地研修	実習
第11回	現地研修	実習
第12回	現地研修	実習
第13回	現地研修 ・現地でのボランティア活動、インターンシップ振り返り	実習
第14回	事後報告会 ・振り返り、ボランティア活動、インターンシップ成果報告会、最終成果報告書提出	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ①インターンシップ先に関する情報を収集する。 ②インターンシップ計画を立てる。 ③報告書を作成する。 ④発表の準備をする。 【必要な時間】 事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、事後報告会の参加、最終報告書を確認し、「認定」します。
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出については学修管理システム（Webclass）を用います。
参考文献	「海外インターンシップマニュアル」上野由佳、バブフル 「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社 有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	銀行勤務を経て経営学・国際ビジネスを専門とする教員と、大学役員秘書の経験を基にキャリア教育・ビジネス実務を専門とする教員が担当し、実務経験に根ざした講義を展開します
備考	履修する、しないに関わらず、興味のある学生はガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日はオリエンテーションでお知らせします。

年度	2025
講義名称	海外ボランティア・インターンシップⅡ[秋]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02909P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	海外での様々な体験を通し、世界を違う視点から見ることで、グローバル人材を養成していくことを目的としています。海外ボランティアを通じて国際社会に貢献する活動を行い、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を養い、海外に積極的にチャレンジしていく学生を育てます。 また海外インターンシップでは、企業などのグローバル化に対応して各国の経済状況や文化を体感しながら、働き方や文化の違いを学びます。将来的な学生のキャリア形成支援につなげていくものです。
到達目 標	①国際事情、国際的な活動の実態を知ることができる。 ②異文化を理解し、多文化共生の考え方が理解できる。 ③実践的な語学力、コミュニケーション能力を養うことができる。 ④リーダーシップ、主体性、協調性、倫理観を育むことができる。
授業の 進め方	本学およびエージェントが実施する海外ボランティア、海外インターンシップを選択、単位として認定できる条件にあるかを確認して参加します。インターンシップ後は、報告会で報告をします。 現地研修：海外でのボランティア活動、およびインターンシップ（約4週間） ※信頼できる業務委託先が現地での支援を行います。教員の引率はありません。 ※時期、期間は受け入れ先により異なる場合があります。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説し、学修支援システム（Webclass）を活用して資料等を配布し、週間レポートなどのフィードバックをしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	事前指導 ・海外ボランティア、インターンシップの目的・目標の設定および確認	対面授業
第3回	事前研修 ・インターンシップ先におけるボランティア活動、インターンシップ先企業の基礎知識 ・インターンシップ先企業の業界研究調査 ・インターンシップ先地域の情報収集、安全対策	対面授業
第4回	現地研修 ・インターンシップ先でのオリエンテーション、注意事項	実習
第5回	現地研修	実習
第6回	現地研修	実習

第7回	現地研修	実習
第8回	現地研修	実習
第9回	現地研修	実習
第10回	現地研修	実習
第11回	現地研修	実習
第12回	現地研修	実習
第13回	現地研修 ・現地でのボランティア活動、インターンシップ振り返り	実習
第14回	事後報告会 ・振り返り、ボランティア活動、インターンシップ成果報告会、最終成果報告書提出	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ①インターンシップ先に関する情報を収集する。 ②インターンシップ計画を立てる。 ③報告書を作成する。 ④発表の準備をする。 【必要な時間】 事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、事後報告会の参加、最終報告書を確認し、「認定」します。
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出については学修管理システム（Webclass）を用います。
参考文献	「海外インターンシップマニュアル」上野由佳、バブフル 「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社 有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	銀行勤務を経て経営学・国際ビジネスを専門とする教員と、大学役員秘書の経験を基にキャリア教育・ビジネス実務を専門とする教員が担当し、実務経験に根ざした講義を展開します
備考	履修する、しないに関わらず、興味のある学生はガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日はオリエンテーションでお知らせします。

年度	2025
講義名称	海外ボランティア・インターンシップⅠ[春]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02908P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	海外での様々な体験を通し、世界を違う視点から見ることで、グローバル人材を養成していくことを目的としています。海外ボランティアを通じて国際社会に貢献する活動を行い、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を養い、海外に積極的にチャレンジしていく学生を育てます。 また海外インターンシップでは、企業などのグローバル化に対応して各国の経済状況や文化を体感しながら、働き方や文化の違いを学びます。将来的な学生のキャリア形成支援につなげていくものです。
到達目 標	①国際事情、国際的な活動の実態を知ることができる。 ②異文化を理解し、多文化共生の考え方が理解できる。 ③実践的な語学力、コミュニケーション能力を養うことができる。 ④リーダーシップ、主体性、協調性、倫理観を育むことができる。
授業の 進め方	本学およびエージェントが実施する海外ボランティア、海外インターンシップを選択、単位として認定できる条件にあるかを確認して参加します。インターンシップ後は、報告会で報告をします。 現地研修：海外でのボランティア活動、およびインターンシップ（約4週間） ※信頼できる業務委託先が現地での支援を行います。教員の引率はありません。 ※時期、期間は受け入れ先により異なる場合があります。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説し、学修支援システム（Webclass）を活用して資料等を配布し、週間レポートなどのフィードバックをしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	事前指導 ・海外ボランティア、インターンシップの目的・目標の設定および確認	対面授業
第3回	事前研修 ・インターンシップ先におけるボランティア活動、インターンシップ先企業の基礎知識 ・インターンシップ先企業の業界研究調査 ・インターンシップ先地域の情報収集、安全対策	対面授業
第4回	現地研修 ・インターンシップ先でのオリエンテーション、注意事項	実習
第5回	現地研修	実習
第6回	現地研修	実習

第7回	現地研修	実習
第8回	現地研修	実習
第9回	現地研修	実習
第10回	現地研修	実習
第11回	現地研修	実習
第12回	現地研修	実習
第13回	現地研修 ・現地でのボランティア活動、インターンシップ振り返り	実習
第14回	事後報告会 ・振り返り、ボランティア活動、インターンシップ成果報告会、最終成果報告書提出	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ①インターンシップ先に関する情報を収集する。 ②インターンシップ計画を立てる。 ③報告書を作成する。 ④発表の準備をする。 【必要な時間】 事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、事後報告会の参加、最終報告書を確認し、「認定」します。
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出については学修管理システム（Webclass）を用います。
参考文献	「海外インターンシップマニュアル」上野由佳、バブフル 「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社 有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	銀行勤務を経て経営学・国際ビジネスを専門とする教員と、大学役員秘書の経験を基にキャリア教育・ビジネス実務を専門とする教員が担当し、実務経験に根ざした講義を展開します
備考	履修する、しないに関わらず、興味のある学生はガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日はオリエンテーションでお知らせします。

年度	2025
講義名称	海外ボランティア・インターンシップⅠ[秋]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02908P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科
椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科
濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	海外での様々な体験を通し、世界を違う視点から見ることで、グローバル人材を養成していくことを目的としています。海外ボランティアを通じて国際社会に貢献する活動を行い、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を養い、海外に積極的にチャレンジしていく学生を育てます。 また海外インターンシップでは、企業などのグローバル化に対応して各国の経済状況や文化を体感しながら、働き方や文化の違いを学びます。将来的な学生のキャリア形成支援につなげていくものです。
到達目 標	①国際事情、国際的な活動の実態を知ることができる。 ②異文化を理解し、多文化共生の考え方が理解できる。 ③実践的な語学力、コミュニケーション能力を養うことができる。 ④リーダーシップ、主体性、協調性、倫理観を育むことができる。
授業の 進め方	本学およびエージェントが実施する海外ボランティア、海外インターンシップを選択、単位として認定できる条件にあるかを確認して参加します。インターンシップ後は、報告会で報告をします。 現地研修：海外でのボランティア活動、およびインターンシップ（約4週間） ※信頼できる業務委託先が現地での支援を行います。教員の引率はありません。 ※時期、期間は受け入れ先により異なる場合があります。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説し、学修支援システム（Webclass）を活用して資料等を配布し、週間レポートなどのフィードバックをしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	事前指導 ・海外ボランティア、インターンシップの目的・目標の設定および確認	対面授業
第3回	事前研修 ・インターンシップ先におけるボランティア活動、インターンシップ先企業の基礎知識 ・インターンシップ先企業の業界研究調査 ・インターンシップ先地域の情報収集、安全対策	対面授業
第4回	現地研修 ・インターンシップ先でのオリエンテーション、注意事項	実習
第5回	現地研修	実習
第6回	現地研修	実習

第7回	現地研修	実習
第8回	現地研修	実習
第9回	現地研修	実習
第10回	現地研修	実習
第11回	現地研修	実習
第12回	現地研修	実習
第13回	現地研修 ・現地でのボランティア活動、インターンシップ振り返り	実習
第14回	事後報告会 ・振り返り、ボランティア活動、インターンシップ成果報告会、最終成果報告書提出	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ①インターンシップ先に関する情報を収集する。 ②インターンシップ計画を立てる。 ③報告書を作成する。 ④発表の準備をする。 【必要な時間】 事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前指導での提出物、事後報告会の参加、最終報告書を確認し、「認定」します。
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出については学修管理システム（Webclass）を用います。
参考文献	「海外インターンシップマニュアル」上野由佳、バブフル 「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社 有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	銀行勤務を経て経営学・国際ビジネスを専門とする教員と、大学役員秘書の経験を基にキャリア教育・ビジネス実務を専門とする教員が担当し、実務経験に根ざした講義を展開します
備考	履修する、しないに関わらず、興味のある学生はガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日はオリエンテーションでお知らせします。

年度	2025
講義名称	地域アクティビティⅢ(北海道)
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02907S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	この講義は、地域社会（北海道）における企業活動の理解を現地調査（アクティビティ）によって深めることを目的としています。そのため、まず講義にて企業の戦略を立てる際に重要な要素を分析するマーケティングのフレームワーク＝3C分析を理解します。 講義の後、より実践的な学びを行うため、地域の企業様（ペーカリー＆カフェ：株式会社どんぐり様を予定しています）の協力を頂き、「20代のファンをどう増やすか？」をメインテーマとして意識しながら3C分析、すなわち企業分析（Company）、顧客分析（Customer）、競合分析（Competitor）をグループワークにて行います。 複数社員のインタビューを企業様内で行い、並行して顧客アンケート調査、競合他社調査等を行うことで3C分析の深堀りをします。履修者はよりリアルな課題に取り組み、実践的なスキルを修得するとともに、地域社会とのつながりを深めることを現地調査（アクティビティ）を通じて目指します。 最終的にメインテーマである「20代のファンをどう増やすか？」をグループでまとめ、企業様に対して学生目線のマーケティング戦略を立案し、プレゼンテーションを行うことで、履修者が3C分析の理論と実践を結びつける力を養うことを目的としています。
到達目標	① 地域社会（北海道）で活躍する企業理解 ② マーケティングの基本概念と理論の理解 ③ 価格戦略の立案能力の基礎理解 ④ 流通チャネルの選定と管理の理解 ⑤ プロモーション戦略の企画・実施の理解 ⑥ 企業内授業を通じた実践的な経験 ⑦ 総合的なマーケティング戦略の立案 ⑧ チームワークとコミュニケーション能力 ⑨ 批判的思考と問題解決能力
授業の進め方	・講義とディスカッション マーケティングのフレームワーク3C分析の基本概念や理論を詳しく解説します。グループワークでのディスカッションを採り入れながら理解を深めます。 ・ケーススタディ 3C分析を中心にマーケティング戦略を題材にしたケーススタディを通じて、理論の応用方法を学びます。グループワークを活用します。 ・企業内授業 企業様のご協力を頂き、複数社員のインタビューを行なわせて頂きます。並行して顧客アンケート調査、競合他社調査等を行うことで3C分析の深堀りを行います。 ・最終発表: メインテーマである「20代のファンをどう増やすか？」をグループでまとめ、企業様に対して効果的なマーケティング戦略を立案し、プレゼンテーションを行います。教員や企業様からのフィードバックを受け、学びを総括します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学修管理システム（LMS）を活用して資料等を配布していきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	1. イントロダクションと講義概要 ○ 講義の目的と進め方の説明 ○ 企業様との連携についての説明 ○ 3C分析の基本概念の紹介

第2回	2. 3C分析の詳細解説 - o 企業分析（Company）の方法と重要性 - o 顧客分析（Customer）の方法と重要性 - o 競合分析（Competitor）の方法と重要性 - o ワークシートの活用
第3回	3. ケーススタディ：成功企業の3C分析 - o 実際の企業の3C分析事例を紹介 - o グループディスカッション - o ワークシートの活用
第4回	4. 現地調査準備 - o 株式会社どんぐり様の概要と課題の説明 - o 調査計画の立案 - o ワークシートの活用
第5回	5. 現地調査1：企業訪問と社員インタビュー - o 株式会社どんぐり様への訪問 - o 社員インタビュー（複数部署）の実施
第6回	6. 現地調査結果の共有と分析 - o グループごとに調査結果を共有 - o 企業分析（Company）のまとめ
第7回	7. 顧客分析の手法と実践 - o 顧客アンケートの作成方法 - o 顧客分析（Customer）の実践
第8回	8. 現地調査2：顧客アンケート調査 - o 顧客アンケートの実施 - o 顧客分析（Customer）のまとめ
第9回	9. 競合分析の手法と実践 - o 競合他社の調査方法（デスクリサーチメイン） - o 競合分析（Competitor）のまとめ
第10回	10. 3C分析の総合まとめ - o 企業、顧客、競合のデータを統合 - o マーケティングミックス（4P）に反映 - o グループディスカッション - o ワークシートの活用
第11回	11. マーケティング戦略の立案（1回目） - o 「20代のどんぐりファンをどう増やすか？」の戦略立案 - o グループワーク（役割分担、PPT作成） - o ワークシートの活用
第12回	12. マーケティング戦略の立案（2回目） - o 戦略のブラッシュアップと最終調整 - o グループワーク - o ワークシートの活用
第13回	13. 現地授業・最終プレゼンテーション - o 各グループによる戦略の発表 - o フィードバックと総括

事前・事後学修	1～2時間を想定しています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

	【グループ評価（60％）】

成績評価基準と方法	活動成果の内容が十分な水準に達している場合を基準とし、以下のポイントの評価を加点、減点します。 【個人評価（４０％）】 グループでの活動において、その寄与度を多面的に評価する。メンバーとしての役割を適切に果たしたと判断される場合を基準として、以下のポイント、及びグループ内におけるメンバー相互評価を参考に加点、減点する。
テキスト	特に指定のテキストはありません。都度資料等を提供します。
参考文献	黒岩健一郎・水越康介（2023）『マーケティングをつかむ【第3版】』有斐閣

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	音楽実践
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02808S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松井 亜樹	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	固有の楽器の演奏技術を求める事なく、音楽の実践として、誰もが最も取り組みやすい合唱を中心とした実技を行います。札幌国際大学学歌など本学独自の楽曲斉唱の練習を重ねて、本学の式典や応援時などの場で歌唱できる事を目指します。さらに二部合唱、三部合唱の合唱曲に取り組み、合唱を通してアンサンブルの楽しさを体験的に学び、また歌詞のすばらしさ、詞とフレーズの関連などにも目を向けて、音楽作品への理解を深めながら音楽表現技術を体得していきます。
到達目標	①正しい呼吸法と発声法を学び、伸びやかな声で歌うことができる。 ②正確で美しい日本語で歌うことができる。 ③合唱の基本的なテクニックやハーモニーの感覚を身につけることができる。 ④グループワークにより豊かな表現活動の在り方を考察できる。
授業の進め方	各自の進度に合わせて授業を行います。105分の内、約15分程度発声練習をし、残りの時間で学歌、二部合唱、三部合唱の合唱曲に取り組み、実技レッスン形式で行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	この科目は演奏家としての実務経験のある教員が毎回授業内に振り返りを行います。学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につけられるように振り返りをします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、各個人のパート分け 正しい姿勢、声の出し方とは
第2回	札幌国際大学学歌の読譜、季節の歌
第3回	札幌国際大学学歌の仕上げ、日本で歌い継がれている歌
第4回	二部合唱（Believe、見上げてごらん夜の星を）の読譜、パート練習(1)
第5回	二部合唱の仕上げ、パート練習(2)
第6回	二部合唱（手紙）の読譜、パート練習(1)
第7回	二部合唱の仕上げ、ハーモニーの基本を学ぶ(1)
第8回	三部合唱（旅立ちの日に、翼をください）の読譜、パート練習(1)
第9回	三部合唱の仕上げ、パート練習(2)
第10回	三部合唱（マイバラード）の読譜、パート練習(1)
第11回	三部合唱の仕上げ、ハーモニーの基本を学ぶ(2)
第12回	習得した曲から選択曲の発表とリハーサル

第13回	習得した曲から選択曲発表（授業内試験）とまとめ

事前・事後学修	授業内で次の時間までの課題を提示しますので、練習してから受講してください。 事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるために毎日練習する習慣をつけて、授業に臨んでください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実技試験（授業内試験：演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性） 60% 振り返りレポート 20% 毎時の取り組み状況 20%
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	・「コンサートで歌いたい同声合唱の定番」ヤマハミュージックメディア ・「混声合唱とピアノのための出発の歌」カワイ出版 ・「新しい卒業式第1集」教育研究社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	この科目は演奏家としての経験を持つ教員が、その実務経験を活かして発声法や、呼吸法を実践的に指導します。
備考	積極的な授業参加を希望します。一人ひとりが意欲的に取り組むことを期待します。

年度	2025
講義名称	[+夏集中]日本の音楽
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02807S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
竹内 亜紀	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	国際交流の場において、諸外国の方から日本の文化や芸術、宗教、習慣、自然、産業など様々なことを尋ねられることがあります。音楽もそのテーマの一つです。しかし西洋音楽化した現代日本の環境下で育った皆さんは、日本の音楽について、どの程度親しみを持っているでしょうか。 この授業は、鑑賞や楽器体験などを中心に、日本の伝統音楽や近代日本の子どもの歌についての知識や技術を身に付け、日本の歴史や文化を理解し、感性豊かな国際人の育成を目指します。
到達目 標	I .近代日本の子どもの歌 四季折々の歌を、作詞者、作曲者や各楽曲の背景なども含めて覚えることができる。 唱歌、童謡、子どもの歌の歴史の変遷を理解することができる。 II . 日本の伝統音楽 日本の伝統文化を学ぶ事により、マナーや文化を自然に身に付けることができる。 コミュニケーション能力の高い、感性の豊かな国際人となる素養を身に付けることができる。
授業の 進め方	「I . 近代日本の子どもの歌」「II . 日本の伝統音楽」の二つのテーマを、2名の教員がオムニバス形式で担当します。 I は春学期に7回、II は8月7日と8月8日に集中講義の形式で開講します。 I . 近代日本の子どもの歌（須藤） 季節ごとに歌を集めて鑑賞し、作詞家、作曲家のエピソードや、歌が作られた背景などを紹介します。 また紹介した曲の中から抜粋し斉唱します。 II . 日本の伝統音楽（竹内） 長唄や三味線のルーツ及び日本の伝統芸能について、基本的に講義形式で行います。 長年の演奏実務経験に基づく演奏技術や、日本の伝統音楽特有の表現方法について、実践的な授業を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対する フィードバックの方法	I .近代日本の子どもの歌 鑑賞した音源や資料をLMSに保存するので、課外時間にも各自鑑賞して歌を覚え、資料で復習してください。各自の復習を前提として、次の授業時にリスニング、及びクイズ形式による小テストを行います。 II .日本の伝統音楽 毎授業後に、授業で学んだ内容をまとめ、内容に対する感想などをLMSに提出してもらいます。感想や質問等に対し、次の授業時にコメントや回答をします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	I . 近代日本の子どもの歌（須藤）① オリエンテーション 唱歌、童謡、子どもの歌の歴史 唱歌、童謡、こどもの歌-春(1)	対面

第2回	I. 近代日本の子どもの歌（須藤）② 唱歌、童謡、こどもの歌-春(2)	対面
第3回	I. 近代日本の子どもの歌（須藤）③ 唱歌、童謡、こどもの歌-夏(1)	対面
第4回	I. 近代日本の子どもの歌（須藤）④ 唱歌、童謡、こどもの歌-夏(2)	対面
第5回	I. 近代日本の子どもの歌（須藤）⑤ 唱歌、童謡、こどもの歌-秋(1)	対面
第6回	I. 近代日本の子どもの歌（須藤）⑥ 唱歌、童謡、こどもの歌-秋(2)	対面
第7回	I. 近代日本の子どもの歌（須藤）⑦ 唱歌、童謡、こどもの歌-冬／その他の歌／Iのまとめ	対面
第8回	II. 日本の伝統音楽（竹内）① オリエンテーション 日本音楽の歴史 歌舞伎音楽の成り立ち 長唄鑑賞 楽器の説明（三味線の説明、扱い方）	対面
第9回	II. 日本の伝統音楽（竹内）② 伝統芸能から学ぶマナーと文化 三味線の実技【基礎練習】 長唄の実技【供奴】	対面
第10回	II. 日本の伝統音楽（竹内）③ 三味線の実技【ほたるこい】【さくらさくら】 長唄の実技【供奴】	対面
第11回	II. 日本の伝統音楽（竹内）④ 歌舞伎鑑賞【勸進帳】 三味線実技【さくらさくら】【お江戸日本橋】 長唄実技【供奴】	対面
第12回	II. 日本の伝統音楽（竹内）⑤ 歌舞伎鑑賞【勸進帳】 三味線実技【まとめ】	対面
第13回	II. 日本の伝統音楽（竹内）⑥ 個人意見発表 歌舞伎鑑賞【口上】	対面

事前・事後学修	I. 近代日本の子どもの歌 授業で紹介した楽曲の音源をCampusPlanポータルに保存します。授業で1回鑑賞しただけでは、個々の曲の理解が深まりませんので、課外時間を使って各自で鑑賞して下さい。また授業で使うスライドも、資料として授業後にCampusPlanポータルへ保存します。音源の鑑賞とあわせて読み返し、次回に行うテストに備えて下さい。
	II. 日本の伝統音楽 授業内容の復習を中心として、専門用語の意味や重要事項の他、心に留めたことをノートに纏めてください。
	【必要な時間】 事前・事後を合わせて、週4時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

	I. 近代日本の子どもの歌 リスニングと筆記による小テスト：50%	2025/04/01

成績評価基準と方法	Ⅱ．日本の伝統音楽 レポート：42％ 口頭発表：8％
テキスト	Ⅰ．近代日本の子どもの歌 楽譜プリントを配付 CampusPlanポータルに保存される毎回の資料 Ⅱ．日本の伝統音楽 適宜プリントを配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	竹内あき 担当教員は、長唄・囃子・日舞の実務経験を通じ、伝統文化の普及活動や演奏会を全国で開催してきました。こうした経験を活かし、日本の伝統音楽の技術や表現方法を深く学べる実践的な講義を展開します。
備考	演習費（三味線レンタル）として2,000円程度を徴収します。 三味線は履修者4名前後で一棹を共有します。 履修定員は32名。 履修希望者数が定員を上回る場合は抽選にて決定します。

年度	2025
講義名称	芸術論Ⅱ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02806L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤垣 エミリア	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、アートを通して教養を養うことを目指す。西洋ビジュアルアートの歴史と発展を背景に、ルネサンス時代のアートからコンテンポラリーアートまで紹介する。人間は、なぜ「美の世界」に憧れているか、芸術はどんな役割を持っているか、アーティストが何を求めて作品を作成しているかという問題を取り上げながらアートに対する理解を深める。同時にルネサンスから「知的、科学的な根拠」にこだわるアーティストのアプローチにスポットライトを当てます。
到達目標	芸術に関心をもって、教養知識を取得。歴史的な背景を学びながら建築、絵画、彫刻の分野での偉大な作品に触れる。学習者として観察力や分析ができるスキルを養う。基盤となっているパースペクティブルールを学ぶ。アートを通して西洋思想の理解が深まる。専門知識の取得と同時にアートに対する興味や理解を深めることを到達目標とする。
授業の進め方	① 教員はパワーポイントを中心とした講義をする。 ② 学生はノートを取り、6回の小テストをオンラインで行う。6回グループワークに参加する。 ③ 授業内容を復習のため、また自ら調べるために課題が出される。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題のフィードバックとして、問題ある点を説明し、学生は授業をよく理解することをポイントにします。小テストやグループワークが評価され、結果は学生に知らされる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・イタリアンルネサンス①アートに取り入れた遠近法と社会的な背景
第2回	イタリアンルネサンス②遠近法の種類とレオナルド・ダ・ヴィンチの作品
第3回	イタリアンルネサンス③レオナルドと絵画に対するポリシーや技法・トリックアート
第4回	イタリアンルネサンス④の狂人たち：ミケランジェロ（ラファエロ他）
第5回	ネーデルランド地方のバロック①静物画と象徴的なヴァニタス
第6回	ネーデルランド地方のバロック②フェルメールの部屋の中（作品）をのぞく
第7回	ヨーロッパにおける新鮮な流行：ジャポニズム、またアカデミズムに対する若手画家の反応
第8回	革命的な印象派：クロードモネの作品と人生
第9回	ポスト印象派：ヴィンセント・ヴァン・ゴッホの作品と人生
第10回	抽象絵画の誕生：カンディンスキー、レジェー、ピカソ他
第11回	ポップアートの芸術的、社会的な背景、アンディ・ウオーホルの作品
第12回	リアリズムとハイパーリアリズムの作品の比較
第13回	芸術作品の役割をテーマしたワークショップ・グループディスカッション

事前・事後学修	授業中は学生の発言が評価される。授業内容に関する発言が求められるので、学生がオプションポイントを「稼ぐ」ことができる。また授業で紹介されるアーティスト、背景にあった歴史的な出来事について自ら調べることをお勧めする。課題は主に復習として出される。新たな知識が多くなるのでPPや配布資料をベースに復習を行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	6回の症テスト 40％ グループワーク 40％ 2回課題 20％ アクティブ参加・発言 オプションポイント可能
テキスト	テキストはありませんが参考文献を紹介する。毎回の授業でプリントを配布する。全ての授業の講義のパワーポイントや資料などオンラインに、pdfファイルとして見るができるようにする。
参考文献	"Art and Civilization", Edward Lucie-Smith,1992, ISBN 1-85669-027-X, Published by Laurence King

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学卒業後、ポーランドの企業で服の生地模様デザイナーとして働き、日本では大手菓子メーカーでパッケージデザイナーとして働きました。日本のシンクタンクでパスを描きました。大学では美術専攻でしたので、来日してから画家として活躍し、定期的に個展を開いています。自分で得た知識を芸術をテーマしている授業の中に織り込んで、映像を通して美術的センスを養う授業を展開しています。

年度	2025
講義名称	芸術論Ⅰ
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02805L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤垣 エミリア	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、アートを通して教養を養うことを目指す。西洋ビジュアルアートの歴史と発展を背景に、文字の誕生前の有史以前のアートから古代エジプトのピラミッドの高さを超える中世ヨーロッパの建築まで紹介する。人間は、なぜ「美の世界」に憧れているか、芸術はどんな役割を持っているか、アーティストが何を求めて作品を作成しているかという問題を取り上げながらアートに対する理解を深める。
到達目標	芸術に関心をもって、教養知識を取得。歴史的な背景を学びながら建築、絵画、彫刻の分野での偉大な作品に触れる。学習者として観察力や分析ができるスキルを養う。基盤となっているパースペクティブルールを学ぶ。アートを通して西洋思想の理解が深まる。また芸術作品についてお話しするときに様々な専門用語が使うことが必要になります。その語彙を含めてアートの世界より親しく感じ、「好き、嫌い」だけではなく、その根拠、何故そうであることを表現できるようになる。
授業の進め方	① 教員はパワーポイントを中心とした講義をする。 ② 学生はノートを取り、授業中に小テストをオンラインで行う（自分で取ったノートを観ながら）。 ③ 授業内容を復習するため課題が出される。 ④ 芸術作品についてグループワーク・ワークショップを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題のフィードバックとして、問題ある点を説明し、学生は授業をよく理解することをポイントにします。6回の小テストと6回のグループワークは評価され、結果は学生に知らせる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方や評価）・有史以前の背景①
第2回	有史以前② 旧石器時代のアーティファクト・発掘・マニュポート他
第3回	古代エジプト① 社会的背景とツタンカーメンの墓の発見
第4回	古代エジプト②アマルナ時代とファラオや神々の描き方・絵などの象徴的な意味
第5回	古代エジプト③ ピラミッドの役割とその運命・ミイラについて
第6回	古代ギリシャ① 西洋芸術・民衆や美のコンセプト・オリンピックの始まり
第7回	古代ギリシャ② から西洋建築の基本となったパルテノン神殿・メトープ
第8回	古代ギリシャ③ パルテノン神殿の中、フリーズ、アテナ・パルテノス増
第9回	古代ローマ①エトルリアアートとギリシャの影響・主な思想やポリシー
第10回	古代ローマ②の建築的な発見や「美」と「実」の融合
第11回	中世① Carolingian ルネサンスとヨーロッパの国々づくりの背景
第12回	中世② ロマネスク、修道院の文化・ 手書きの本

第13回	中世③ ゴシック、 大聖堂の文化・騎士道

事前・事後学修	授業中は学生の発言が評価される。授業内容に関する発言が求められるので、学生がオプションポイントを「稼ぐ」ことができる。また授業で紹介されるアーティスト、背景にあった歴史的な出来事について自ら調べることをお勧めする。課題は主に復習として出される。新たな知識が多くなるのでPPや配布資料をベースに復習を行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	6回の小テスト 40％ グループワーク 40％ 2回課題 20％ アクティブ参加/発言 オプションポイント可能
テキスト	テキストありませんが参考文献を紹介する。毎回の授業でプリントを配布する。すべての講義のパワーポイントや資料はWebClassに入れて、pdfファイルを見ることができる。復習をするとき、または欠席した場合は、講義のパワーポイントを各自で見ても読むようにする。
参考文献	"Art and Civilization", Edward Lucie-Smith,1992, ISBN 1-85669-027-X, Published by Laurence King

実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学卒業後、ポーランドの企業で服の生地模様デザイナーとして働き、日本では大手菓子メーカーでパッケージデザイナーとして働きました。日本のシンクタンクでパスを描きました。大学では美術専攻でしたので、来日してから画家として活躍し、定期的に個展を開いています。自分で得た知識を芸術をテーマにしている授業の中に織り込んで、映像を通して美的センスを養う授業を展開していきます。

年度	2025
講義名称	芸術論Ⅰ [英語による授業]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02805L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤垣 エミリア	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	The aim of this course [芸術論(英語による授業)]is to introduce you to the history and development of western visual art ranging from Greek art (500 BC) to Baroque in the Netherlands (1600 AD~), and at the same time to give you an opportunity to enhance your English skills. Students, who want to advance in English and learn about art are welcome to this course. The contents are in great part the same as in the 芸術論Ⅰ, but the lectures are given in English. The new vocabulary you are going to learn will include terms specific to the subject of art.
到達目標	You will learn how to look at visual art, increase your knowledge, and appreciate reproductions of significant works of art. Our Goals are: 1.Studying range of art and architectural works within historical and cultural contexts. 2.Becoming familiar with several significant works of art. 3.Learning fundamentals of perspective drawing. 4.Exchanging views, opinions, and developing verbal skills, such as presenting and defending an opinion.
授業の進め方	1.Instructor: Lecture style, PowerPoint presentations 2.Students: Take notes, write comments, take active participation during the lecture by asking and answering questions, taking short tests online, participate in group activities 3.Assignments: researching subjects related to lectures and writing short essays.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	The instructor will evaluate the short test answers and group discussions in class. Students can get a feedback/evaluation for the short tests on the WebClass.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: a demo lecture on pop-art, hyperrealism and trends in visual arts
第2回	Guidance on procedure and evaluation / The second lecture on realism and hyperrealism
第3回	Greek art of the Golden Age ①/ its impact on Western art & Olympic Games
第4回	Greek art of the Golden Age ②/western concept of Absolute Beauty and Proportions in art / Parthenon outside - metopes and mythology
第5回	Greek art of the Golden Age③ /architectural orders/Parthenon/statue of Atena and Elgin marbles dispute
第6回	Art of the Roman Republic & Empire. Concepts of Utility/Art & architecture
第7回	Middle Ages ① The Carolingian Renaissance and creation of the first European countries
第8回	Middle Ages ② Romanesque architecture, manuscripts and monastery culture
第9回	Middle Ages ③ Gothic architecture, cathedrals and chivalry
第10回	Renaissance ① Scientific linear perspective development in Renaissance Italy
第11回	Renaissance ②man/ impact of science in the field of art /"Vitruvian man"

第12回	Renaissance ③ Leonardo da Vinci/ use of perspective in "The Last Super" and "Mona Lisa"
第13回	Baroque still life / Vanitas, Vermeer and the social background of the 17 century's Netherlands

事前・事後学修	The following is suggested: Reading appropriate books on art, watching educational programs and reviewing notes taken during lectures. Students not familiar with the subject should review notes on daily basis. About 2 hours of reviewing the subject (before and after the lecture) is strongly advised. A dictionary may help you with the new vocabulary.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Short tests: 40% Group activity: 40% Assignments: 20% There are optional points to earn during the lecture for active students.
テキスト	There is no textbook, but the text and/or references will be provided by the instructor in form of handouts on WebClass. The PowerPoint presentations of each lecture will be available for reviewing on WebClass system.
参考文献	Art & Civilization, Edward Lucie-Smith, 1992, ISBN1-85669-027-X, published by Laurence King. Other History & Art books relevant to the period compatible with the lectures.

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	Upon graduation from the Copernic University (Torun, Poland, MA in Art Education), the instructor held two jobs: in clothing pattern design in a factory in Poland, and a packaging design in a brand confectionary in Japan. She is also exhibiting her own art at several individual exhibitions in Japan and in Poland.

年度	2025
講義名称	フィットネスⅡ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02804S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、健康づくりⅠ(フィットネスⅠ)の学習をふまえて、健康的な身体づくりに関連する、新たな、あるいは継続的な課題を設定し、それを達成するためのプログラムを様々な運動方法を通して実行する。また、設定した課題に取り組む過程で、より効果的かつ効率的に実施するための方法や、評価、目標設定の適切さなどについても考察していく。
到達目標	①健康の維持増進に関する適切な運動実践ができるようになる。 ②設定した個人課題の解決に向けて計画的に取り組む評価することができる。 ③課題解決に向けて実践のみならず関連する基礎知識を身につける。
授業の進め方	設定した目標達成に向けた実技(運動・トレーニング)を中心に、健康づくりⅠ(フィットネスⅠ)の内容をふまえ、より発展的に行う。本演習は運動実践やトレーニング指導に関する実務経験のある教員がトレーニングの専門的知識のほか、コーチング方法を踏まえながら「健康づくり」の基礎理論と実践方法および評価についての知識を身につけることができる演習を実施する。必要に応じて、目標課題の達成に関するディスカッションなどの能動的学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前および事後学習として、「①各専門領域において高度な専門知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で課題解決のための情報収集に関する課題を課す。 【必要な時間】 予習・復習合わせて2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題提出と取り組み状況(50%) 実技テスト(体力テスト)(20%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	フィットネスⅠ
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02803S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	日常生活や専門のスポーツで偏りや歪んだ身体を自覚し、自らの課題（調整・改善）へ向け、運動機能の向上・怪我の予防・疲労回復などの観点から、健康維持・増進のための運動を継続して実践します。
到達目標	①健康の維持・増進に関心を持ち、日常的に運動に取り組む。 ②設定した個人課題の解決へ向けて計画的に取り組み実践する。 ③運動の有効性について理解し基礎知識を身につける。
授業の進め方	運動生理学に基づいたトレーニングを基本に実践で行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説・質疑応答の時間を設け、理解を深めます。

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で学んだストレッチなどを自主的に実践する機会をつくる。 【必要な時間】 1回あたり30分から1時間程度を週に3回継続する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	基礎的な技能到達度と取り組み（マナー）状況：50% 実技テスト：20% 課題レポート：30%

年度	2025
講義名称	スポーツⅡ〔①/6〕(栗野・工藤)
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02802P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
工藤 大輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて種目特性やルールについて深く学びます。ゲームの中でルールの理解を深め、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じたコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	【到達目標】 種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。
授業の進め方	【講義方法】 基本的には、実践形式で行います。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて、種目特性やルールについて深く学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えています。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身に付けることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（種目説明とグループ編成）
第2回	種目特性と歴史的背景
第3回	実技テストとゲーム（ブレ）
第4回	基礎的な技能の獲得
第5回	基礎的な技能の応用・発展
第6回	基礎的な技能の獲得
第7回	発展的な技能の応用
第8回	ゲーム（基本的なルール解説）
第9回	ゲーム（技能面の課題提示Ⅰ）
第10回	ゲーム（段階的なルール導入）
第11回	ゲーム（技能面の課題提示Ⅱ）
第12回	ゲーム（正式ルールと技能発揮）

第13回	実技テストとゲーム（ポスト）
第14回	筆記テストとゲーム

事前・事後学修	本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。 【必要な時間】 継続的な学習活動を心がけ、1日40分（6日で4時間）を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）40% 種目に特化した基礎的な技能の到達度20% 種目に特化したルールの理解度20% 課題レポート20%
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	「観るまえに読む大修館スポーツルール2020」大修館書店編集部 大修館書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、各種スポーツの競技実績および指導実績を有する教員が担当する。

年度	2025
講義名称	スポーツⅡ〔②/6〕(阿南・土肥)
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02802P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
土肥 崇史	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて種目特性やルールについて深く学びます。ゲームの中でルールの理解を深め、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じたコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	【到達目標】 種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。
授業の進め方	【講義方法】 基本的には、実践形式で行います。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて、種目特性やルールについて深く学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えています。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身に付けることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（種目説明とグループ編成）
第2回	種目特性と歴史的背景
第3回	実技テストとゲーム（ブレ）
第4回	基礎的な技能の獲得
第5回	基礎的な技能の応用・発展
第6回	基礎的な技能の獲得
第7回	発展的な技能の応用
第8回	ゲーム（基本的なルール解説）
第9回	ゲーム（技能面の課題提示Ⅰ）
第10回	ゲーム（段階的なルール導入）
第11回	ゲーム（技能面の課題提示Ⅱ）
第12回	ゲーム（正式ルールと技能発揮）

2025/04/01

第13回	実技テストとゲーム（ポスト）
第14回	筆記テストとゲーム

事前・事後学修	本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。 【必要な時間】 継続的な学習活動を心がけ、1日40分（6日で4時間）を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）40% 種目に特化した基礎的な技能の到達度20% 種目に特化したルールの理解度20% 課題レポート20%
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	「観るまえに読む大修館スポーツルール2020」大修館書店編集部 大修館書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、各種スポーツにおける競技および指導の豊富な実績を持ち、それらを通じて技術的・戦略的な知識を深めてきました。この経験を活かし、実践と理論を結びつけた学びを提供する講義を展開する。

年度	2025
講義名称	スポーツⅡ〔③/6〕(金・土肥)
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02802P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 金 誠	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
土肥 崇史	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて種目特性やルールについて深く学びます。ゲームの中でルールの理解を深め、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じたコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	【到達目標】 種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。
授業の進め方	【講義方法】 基本的には、実践形式で行います。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて、種目特性やルールについて深く学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えています。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身に付けることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（種目説明とグループ編成）
第2回	種目特性と歴史的背景
第3回	実技テストとゲーム（ブレ）
第4回	基礎的な技能の獲得
第5回	基礎的な技能の応用・発展
第6回	基礎的な技能の獲得
第7回	発展的な技能の応用
第8回	ゲーム（基本的なルール解説）
第9回	ゲーム（技能面の課題提示Ⅰ）
第10回	ゲーム（段階的なルール導入）
第11回	ゲーム（技能面の課題提示Ⅱ）
第12回	ゲーム（正式ルールと技能発揮）

第13回	実技テストとゲーム（ポスト）
第14回	筆記テストとゲーム

事前・事後学修	本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。 【必要な時間】 継続的な学習活動を心がけ、1日40分（6日で4時間）を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）40% 種目に特化した基礎的な技能の到達度20% 種目に特化したルールの理解度20% 課題レポート20%
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	「観るまえに読む大修館スポーツルール2020」大修館書店編集部 大修館書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、各種スポーツで競技実績を積み、指導者としての経験も豊富に有しています。これらの実務経験を通じて得た知識と技術を基に、競技力向上や指導法の具体例を取り入れた実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	スポーツⅠ〔①/3〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02801P

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
工藤 大輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学ぶ。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習する。スポーツⅠでは、多様なスポーツ種目を経験する中で、スポーツの様々な親しみ方を知り、スポーツを通じて健康づくりを行うための知識を修得し、スポーツを通じたコミュニケーションスキルの獲得を目的とする。
到達目標	ゴール型球技やネット型球技など、動きの異なるスポーツを体験的に学び、スポーツを通して身体を動かす楽しさについて理解できる。また、多様なスポーツを行うことで、健康を阻害する要因が改善されることについて説明できる。
授業の進め方	基本的には、実践形式で行います。スポーツⅠは、多様なスポーツ種目を経験する中で、スポーツの様々な親しみ方を知るといった『基本型』として捉えていきます。ゴール型球技やネット型球技といった異なる種目を展開し、それぞれのスポーツが持つ競技特性や基礎技能を幅広く学ぶことを目指します。スポーツを通じて健康づくりを行うための知識や種目の実践に必要な基礎技能を体験的に学習します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業ガイダンス（グループ編成）
第2回	ゴール型球技を主としたスポーツ（実技テスト：プレ）
第3回	ゴール型球技を主としたスポーツ（基礎的な技能の獲得）
第4回	ゴール型球技を主としたスポーツ（基礎的な技能の応用）
第5回	ゴール型球技を主としたスポーツ（基礎的な技能の発展）
第6回	ゴール型球技を主としたスポーツ（発展的な技能の獲得）
第7回	ゴール型球技を主としたスポーツ（発展的な技能の応用）
第8回	ネット型球技を主としたスポーツ（基礎的な技能の獲得
第9回	ネット型球技を主としたスポーツ（基礎的な技能の応用）
第10回	ネット型球技を主としたスポーツ（基礎的な技能の発展）
第11回	ネット型球技を主としたスポーツ（発展的な技能の獲得）
第12回	ネット型球技を主としたスポーツ（発展的な技能の応用）
第13回	授業の振り返り

事前・事後学修	日頃から体を動かすことを心がけ、生活の質（QOL）を高めるために、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保して下さい。また、傷害予防のために、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。 なお、本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞等で情報を入手するよう心がけて下さい。

成績評価基準と方法	スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）	60%
	種目に特化した基礎的な技能の到達度	20%
	課題レポート	20%
テキスト	適宜プリントを配布します。	

年度	2025
講義名称	スポーツⅠ〔②/3〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02801P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
金 誠	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。スポーツⅠでは、それぞれが選択したスポーツを通じてそのスポーツの種目特性やルールについて学びます。ゲームの中でルールを理解し、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じたコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。
授業の進め方	基本的には、実践形式で行います。スポーツⅠでは、それぞれが選択したスポーツを通じて、種目特性やルールについて学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えていきます。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身に付けることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス(種目説明とグループ編成)
第2回	選択したスポーツの技術的特性
第3回	基礎的な技能の獲得
第4回	基礎的な技能の応用
第5回	ゲーム（基本的なルール解説）
第6回	ゲーム（技能面の課題提示）
第7回	実技テスト

事前・事後学修	本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。 【必要な時間】 継続的な学習活動を心がけ、1日40分(6日で4時間)を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	スポーツ(実施種目)の理解度と取り組み(マナー) 40% 種目に特化した基礎的な技能の到達度 20% 種目に特化したルールの理解度 20% 課題レポート 20%
テキスト	授業時に適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、各種スポーツの競技実績および指導実績を有する教員が担当する。

年度	2025
講義名称	スポーツⅠ〔③/3〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02801P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
金 誠	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。スポーツⅠでは、それぞれが選択したスポーツを通じてそのスポーツの種目特性やルールについて学びます。ゲームの中でルールを理解し、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じたコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。
授業の進め方	基本的には、実践形式で行います。スポーツⅠでは、それぞれが選択したスポーツを通じて、種目特性やルールについて学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えていきます。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身に付けることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス(種目説明とグループ編成)
第2回	選択したスポーツの技術的特性
第3回	基礎的な技能の獲得
第4回	基礎的な技能の応用
第5回	ゲーム（基本的なルール解説）
第6回	ゲーム（技能面の課題提示）
第7回	実技テスト

事前・事後学修	本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。 【必要な時間】 継続的な学習活動を心がけ、1日40分(6日で4時間)を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	スポーツ(実施種目)の理解度と取り組み(マナー) 40% 種目に特化した基礎的な技能の到達度 20% 種目に特化したルールの理解度 20% 課題レポート 20%
テキスト	授業時に適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、各種スポーツの競技実績および指導実績を有する教員が担当する。

年度	2025
講義名称	文系のための数学入門[スポ]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02607L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 菅原 和良	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の 目的と 概要	文系学生の学修では、論理的に考える力や数学を用いて分析等をする力が必要とされる。そのため、本講義では、代数、関数、微積分、統計などについて中高での数学の基礎を確認するとともに、行列など新たな分野を取り扱い、大学における数学の素養を身に付けることを目標とする。
到達目 標	①中高での数学の基礎を復習することで理解を深められる。 ②論理的に考える力や分析する力を向上させることができる。 ③大学における数学の素養を身に付け活用することができる。
授業の 進め方	基本的に説明した内容について演習する形で行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で取り扱った内容について、短時間で確認出来る簡単な課題(振り返りシート)を配付し、提出された振り返りシートに対し適宜適切にフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① オリエンテーション（高校までの履修分野と理解度の確認）、文字と式
第2回	② 方程式・不等式、二次・三次以上の関数
第3回	③ 三角比と三角関数
第4回	④ 指数・対数関数
第5回	⑤ 微分
第6回	⑥ 積分
第7回	⑦ 等差・等比数列
第8回	⑧ 和の記号Σと数列
第9回	⑨ ベクトルの演算と内積
第10回	⑩ 行列・逆行列とその利用
第11回	⑪ 統計（質的・量的データ、代表値、分散・標準偏差）
第12回	⑫ 統計（相関係数）
第13回	⑬ 期末テスト、統計（回帰分析）

事前・事後学修	予習は、前時に指示された内容について、下調べをする。 復習は、使用したプリントを整理し、内容を理解するまで確認する。 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 振り返りシート：３０％ ② レポート（１回）：３０％ ③ 期末テスト：４０％
テキスト	なし。 適宜、必要なプリントを配布する。
参考文献	授業内で適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、高等学校において数学教育に携わり、生徒の学習指導や問題解決力の育成に関する豊富な経験を積んできました。これらの実務経験を基に、数学的思考力を深める指導法を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	文系のための数学入門[人文・観光]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02607L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 菅原 和良	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の 目的と 概要	文系学生の学修では、論理的に考える力や数学を用いて分析等をする力が必要とされる。そのため、本講義では、代数、関数、微積分、統計などについて中高での数学の基礎を確認するとともに、行列など新たな分野を取り扱い、大学における数学の素養を身に付けることを目標とする。
到達目 標	①中高での数学の基礎を復習することで理解を深められる。 ②論理的に考える力や分析する力を向上させることができる。 ③大学における数学の素養を身に付け活用することができる。
授業の 進め方	基本的に説明した内容について演習する形で行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で取り扱った内容について、短時間で確認出来る簡単な課題(振り返りシート)を配付し、提出された振り返りシートに対し適宜適切にフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① オリエンテーション（高校までの履修分野と理解度の確認）、文字と式
第2回	② 方程式・不等式、二次・三次以上の関数
第3回	③ 三角比と三角関数
第4回	④ 指数・対数関数
第5回	⑤ 微分
第6回	⑥ 積分
第7回	⑦ 等差・等比数列
第8回	⑧ 和の記号Σと数列
第9回	⑨ ベクトルの演算と内積
第10回	⑩ 行列・逆行列とその利用
第11回	⑪ 統計（質的・量的データ、代表値、分散・標準偏差）
第12回	⑫ 統計（相関係数）
第13回	⑬ 期末テスト、統計（回帰分析）

事前・事後学修	予習は、前時に指示された内容について、下調べをする。 復習は、使用したプリントを整理し、内容を理解するまで確認する。 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 振り返りシート：３０％ ② レポート（１回）：３０％ ③ 期末テスト：４０％
テキスト	なし。 適宜、必要なプリントを配布する。
参考文献	授業内で適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、高等学校において数学教育に携わり、生徒の学習指導や問題解決力の育成に関する豊富な経験を積んできました。これらの実務経験を基に、数学的思考力を深める指導法を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	ITパスポート演習【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02606S

担当教員

氏名	所属
◎ 岩崎 有朋	大学・センター等

授業の目的と概要	仕事に役立つITや経営に関する知識を幅広く身に付けるとともに、国家資格取得というゴールを1つの目的とします。 今の時代は理系・文系関係なくITに関係する様々な知識を持っていることが社会人には求められます。ITパスポートという資格取得の学習を通して、そのような知識を身につけるとともに、本番の資格テストで合格するだけの知識習得を目指します。
到達目標	【到達目標】 ① 社会で用いられているIT技術や、関連業務で必要となる知識を身につける。 ② ITパスポート試験受験に向けて、自主的な学習につなげることができる。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系それぞれの分野に関する知識や技能を高める。 ((DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） ITパスポートに関係する分野の学びとそれに関する実社会の課題を関連付け、社会生活の具体的な場面で活かすイメージを持ちながら学習する。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 身近な事例などに置き換えながら、自分事として各分野の内容を身近に感じながら、最終的には国家資格取得に向かおうという意識を高める。
授業の進め方	この授業は遠隔B（フルオンデマンド）の授業です。対面の授業はありません。講義に関する説明や資料はすべて大学のLMS（Web Class）と動画配信サービス（Media Site）に掲載します。購入いただくテキストと合わせて、自分のペースで学習します。 ただし週2回のペースで進むので、時間を決めて取り組むことを推奨します。小テストや学習範囲のまとめのミニレポート提出、節目ごとのポイントテストを組み合わせ、確実に本番のテストで60点以上を取れる学力を目指します。

アクティブ・ラーニング

PBL

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業ではテキストを中心に解説し、小テストも行います。その後、テストの解説をすることで、理解を深める形で進めます。小テストの正誤に一喜一憂するのではなく、小テストの解答プロセスを通して、その分野についての概念を掴めるような展開で指導します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	1. ガイダンス 2. Chapter1：企業活動	オンデマンド
第2回	Chapter2：マーケティング	オンデマンド
第3回	Chapter3：法律 Chapter4：企業会計（導入）	オンデマンド
第4回	Chapter4：企業会計（後半） Chapter5：技術開発戦略・システム戦略	オンデマンド
第5回	Chapter6：システム企画～要件定義	オンデマンド
第6回	Chapter7：システム開発～運用・保守	オンデマンド
第7回	Chapter8：ハードウェア	オンデマンド

第8回	Chapter9：ソフトウェア Chapter10：ネットワーク（前半）	
第9回	Chapter10：ネットワーク（後半） Chapter11：コンピュータとデジタル情報	オンデマンド
第10回	Chapter12：プログラムとアルゴリズム	オンデマンド
第11回	Chapter13：コンピュータシステム	オンデマンド
第12回	Chapter14：情報セキュリティ	オンデマンド
第13回	1. Chapter15：データサイエンス 2. 最終総合テスト 3. 総括・振り返り	オンデマンド

事前・事後学修	【事後学修】2時間 講義で扱った範囲について、テキストを3回繰り返し読み、その後授業で扱った小テストに自宅でも取り組んでみます。また、どうしてその解答が正解・不正解になるのかを解説動画やテキストを見ながら納得できるまで学習します。さらにテキストには節目ごとに練習問題が掲載されているので、その練習問題とWebの無料練習問題等を組み合わせ、集中的に取り組むことで理解の定着を図ります。 【事前学習】1時間 次の授業の範囲についてテキストを一通り読みます。このことにより、次の講義では初めて見る内容より、読んだことがあり、ここはどういうことだろう？と疑問を持ちながら講義を受けることで、理解が促進されます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ポイントテスト 8点×7回＝56点 ・ミニレポート 2点×17回＝34点 ・最終総合テスト 10点
テキスト	書籍：令和7年度 ITパスポート 超効率の教科書＋よくでる問題集 著者：ITすきま教室 渡辺さき 出版社：株式会社インプレス 出版年：2024
参考文献	なし

備考	・この授業はITパスポートの国家試験を受験することが前提です。 ・テキストは必ず令和7年度版を購入してください。テキスト内の記述について扱います。 ・国家試験合格ラインの60点以上を目指して学習を進めるので、ポイントごとでテストやミニレポートがあります。フルオンデマンドなので時間の調整はできると思いますので、コツコツ授業を受けて、自分の成長を感じながら取り組みましょう。

年度	2025
講義名称	AI・データサイエンス【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02605S

担当教員

氏名	所属
◎ 朝倉 一民	大学・センター等
岩崎 有朋	大学・センター等

授業の目的と概要	文理を問わず、デジタル社会の基礎知識（「読み・書き・そろばん」的要素）であるAI・データサイエンスの初級レベルの習得をめざします。実データ、実課題を用いた演習など学部ごとに関連のある題材を活用しながら、社会的事象を適切に捉える力を養います。またAIを活用しながら問題を解決していく方法も学びます。
到達目標	【到達目標】 専門分野の特性に応じたテーマ設定に基づき、データサイエンスを日常生活や仕事で使うことができる基礎的素養を習得する。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） データの整理・分析に関する知識や技能を高める。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） データの見方などを他者の意見も含めて批判的に見ることで、多面的・多角的にデータを扱うことを学ぶことができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会の課題を発見し、自分なりに考えを整理し、表現することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） データの解釈について評価する経験を積みながら、自分事として課題を解決する力を身に付ける (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 身近な課題を自分事として捉え、問題解決のプロセスを見通しをもって取り組むことができるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の価値を感じる。
授業の進め方	本授業は遠隔B（フルオンデマンド型）の授業です。したがって、対面で集まることはありません。全て講義は大学LMS（WebClass）と動画配信サービス（Mediasite）で公開されるオンデマンド動画と資料と指定した教科書で進めます。動画視聴の合間に確認テストを行い、得点状況も記録し、理解度を計ります。また毎回のオンデマンド動画を視聴し、各回レポートやデータ分析等の課題を出題します。確認テスト、課題提出状況で出席の判定を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	週2回のベースでオンデマンド動画等が更新されます。各回の課題の提出期限は1週間です。したがって1回目の課題のフィードバックは3回目の講義で、2回目の課題は4回目で…といったベースで行います。フィードバックの際には解答の解説も行います。また、フルオンデマンドなので質問等はLMSで随時受け付けサポートします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態

第1回	①科目内容・学び方ガイダンス/AI・データリテラシーとは？（第1章） 本授業は一度も対面のないフルオンデマンド授業なので、講義の受け方、学び方、評価基準等を説明します。後半はデジタルリテラシーやAIとは何かを学びます。 テスト)授業内確認テスト1 提出1)授業課題ファイル提出1 提出2) ふりかえりレポートの提出1	オンデマ ンド
第2回	②データを読み取り、全体の傾向をつかむ（第2章） データを読む力を身に付けます。まずは背景を考えながらデータを読むこと、全体の傾向をつかむこと、細部を確認することを学びます。また生成AIを活用する方法を学びます。 テスト)授業内確認テスト2 提出1)授業課題ファイル提出2 提出2) ふりかえりレポートの提出2	オンデマ ンド
第3回	③データの関係性を読み解く（第2章） データの関係性について学びます。2つのデータを比較して「相関」を見ます。また相関を見つけることで、因果関係を予想し、生成AIで分析する方法を学びます。 テスト)授業内確認テスト3 提出1)授業課題ファイル提出3 提出2) ふりかえりレポートの提出3	オンデマ ンド
第4回	④データを説明する（第3章） データを読み取り、それを説明することを学びます。そのためにデータを可視化したり、比較したり、課題を見つけないことを学びます。また生成AIに評価してもらう方法を学びます。 テスト)授業内確認テスト4 提出1)授業課題ファイル提出4 提出2) ふりかえりレポートの提出4	オンデマ ンド
第5回	⑤小規模なデータの分類（第4章） データを分類する方法を学びます。特徴の似たデータでグループを作る、目的に応じてデータを分類することを学びます。 テスト)授業内確認テスト5 提出1)授業課題ファイル提出5 提出2) ふりかえりレポートの提出5	オンデマ ンド
第6回	⑥大規模なデータの分類（第4章） 大規模なデータを機械的に分類する方法を学びます。「k-means法」、「ヒートマップ」等を学びます。生成AIをつかって分類する方法も学びます。 テスト)授業内確認テスト6 提出1)授業課題ファイル提出6 提出2) ふりかえりレポートの提出6	オンデマ ンド
第7回	⑦データから法則を見つける（第5章） データから法則を見つけるための基本的な考え方（判別問題）を学びます。また生成AIをつかって法則を見つける方法を学びます。 テスト)授業内確認テスト7 提出1)授業課題ファイル提出7 提出2) ふりかえりレポートの提出7	オンデマ ンド
第8回	⑧判別問題の精度を評価する（第5章） データから法則を見つけるための判別問題の推測の正しさをクロス表で評価します。 テスト)授業内確認テスト8 提出1)授業課題ファイル提出8 提出2) ふりかえりレポートの提出8	オンデマ ンド
第9回	⑨決定木モデルを活用する（第5章） データから法則を見つけるために決定木モデルの活用法を学びます。 テスト)授業内確認テスト9 提出1)授業課題ファイル提出9 提出2) ふりかえりレポートの提出9	オンデマ ンド
第10回	⑩データの関係性を見つけ出す（第6章） データから予測することができるよう数値データの関係性を学びます。 テスト)授業内確認テスト10 提出1)授業課題ファイル提出10 提出2) ふりかえりレポートの提出10	オンデマ ンド
第11回	⑪データから予測をする（第6章） データ項目を確認し、仮説を立てて、数値データの関係性を見つけることを学びます。生成AIの予測と比較します。 テスト)授業内確認テスト11 提出1)授業課題ファイル提出11 提出2) ふりかえりレポートの提出11	オンデマ ンド

第12回	⑫データリテラシーを活用する（第7章） 身近なデータを集め、課題をつくり、これまで身に付けたスキルをつかって、データの法則性を見つけ出します。 テスト)授業内確認テスト12 提出1)授業課題ファイル提出12 提出2) ふりかえりレポートの提出12	オンデマンド
第13回	⑬データリテラシーのまとめ（第7章） 提出された受講生のデータの法則性を確認し、検証します。 テスト)授業内確認テスト13 提出1) ふりかえりレポートの提出13	オンデマンド

事前・事後学修	【事前学習】2時間程度 事前に次の授業内容の部分について、指定した教科書で読み込んでもらいます。また読んでいてわからない部分は自分なりに調べ、それでもわからない部分はLMSに入力してもらいます。 【事後学習】2時間程度 講義時間で行った課題の点検、講義の内容の復習、教科書該当ページの再読をします。 また、確認テストの復習をします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて、以下の割合で総合的に評価します。 A（26％）動画内の確認テスト（2点×13回＝26点） B（48％）オンデマンドコンテンツ提出課題（4×12回＝48点） C（26％）毎時間の振り返りレポート（2点×13回＝26点）※課題提出後が条件
テキスト	紙と鉛筆で身につける データサイエンティストの仮説思考 編集：孝忠 大輔 翔泳社 (2022/7/15)
参考文献	データサイエンス入門 第3版（データサイエンス大系） 著, 編集：竹村 彰通, 姫野 哲人 学術図書出版社（2024/12/10）

備考	・本講義は文科省が認定した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH)リテラシーレベル）」の教育プログラムです。「学びの技法」「情報機器操作」「表計算」の単位を取得した学生が受講できます。 ・フルオンデマンド授業ということもあり、課題提出等が不十分な場合は欠席扱いとなります。 ・テキストは全員必要です。2回目の講義までに購入してください。 ・生成AIを活用します。ChatGPTかGoogleGeminiかCopilotの登録（無料）を済ませてください。

年度	2025
講義名称	プロジェクトマネジメント[スポ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02604L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 工藤 敦	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	プロジェクトマネジメントとは、ある目的の実現や問題課題を解決するための計画を、期限や目標を決めて実施するための行動計画の管理手法である。 このプロジェクトマネジメントの基本的な考え方や用語、実施手法を理解する。 実社会におけるプロジェクトの実例からプロジェクトマネジメントの重要性や実態を理解する。 スライド等を用いて担当教員が考え方やテクニック、用語等について説明する。 プロジェクトの実例を用いてプロジェクトマネジメントの各工程について解説する。
到達目標	プロジェクトマネジメントの基本である、ブレインストーミング、PDCA、WBS、スケジュール、コミュニケーション等の管理手法を実務に沿った解説、演習、グループワークにて習得する。
授業の進め方	授業前半では、プロジェクトマネジメントの基本的な各手法やプロジェクトの実例の解説と演習を交えながら進める。 授業後半ではグループワークを中心に、各チームで模擬プロジェクトテーマを考え、プロジェクトマネジメントに必要な工程を試行錯誤しつつ、問題解決や意見交換を補足しながら進める。 また、毎回振り返りシートを記入し、授業や演習内容の振り返りを行う。 演習やグループワークではPCを活用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	演習やグループワークで作成した成果物の作成方法を授業内で教員が説明することでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・科目ガイダンス 進行、評価等について説明、講義内容(プロジェクトマネジメントとは)
第2回	・プロジェクト構想・企画、PDCA・WBS、ブレインストーミング ・ブレインストーミング演習
第3回	・PDCAの実施方法・ポイント・具体例、プロジェクト体制・担当役割 ・PDCA演習
第4回	・コンフリクトマネジメント、変更要求と不測事態の対応方法 ・WBS演習 1
第5回	・タスク管理手法概要 ・WBS演習 2（WBSとガントチャート作成演習）
第6回	・タイムマネジメント、クリティカルパス、品質管理、契約管理 ・スケジュール
第7回	・グループワーク 1 テーマ：ブレインストーミングによるプロジェクトテーマの洗出し

第8回	・グループワーク 2 テーマ：プロジェクトテーマの検討作成、WBSによる具体的なタスクの検討作成
第9回	・グループワーク 3 テーマ：全体スケジュールとタスク別スケジュールの検討作成
第10回	・グループワーク 4 テーマ：プロジェクト体制、予算案、品質計画、コミュニケーション計画、セキュリティ計画の検討作成
第11回	・グループワーク 5 テーマ：グループワークでの成果物を元に、プロジェクト計画書の作成、プレゼンテーション準備
第12回	・グループワーク 6 テーマ：チーム毎に完成した「プロジェクト計画」のプレゼンテーション
第13回	・授業内試験（まとめテスト）

事前・事後学修	具体的な内容】 ①前回の授業内容の振り返りやポイント、重要事項の反復学習を行うこと ②山口周『プロジェクトマネジメント』（大和書房）を授業15回終了までに読み終えること 【必要な時間】 30時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	成績評価配分 ・小テス：20％ ・提出課題レポート：30％ ・グループワーク成果物：25％ ・授業内試験：25％
テキスト	『プロジェクトマネジメント』（大和書房）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、IT関連の多様なプロジェクトマネジメントの実務経験のある教員が担当します。 プロジェクトマネージメント全般に必要な工程やテクニック、考え方等を実践的な視点から解説するとともに、演習及びグループワークにてスキルの習得を目指します。

年度	2025
講義名称	プロジェクトマネジメント[人文・観光]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02604L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 工藤 敦	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	プロジェクトマネジメントとは、ある目的の実現や問題課題を解決するための計画を、期限や目標を決めて実施するための行動計画の管理手法である。 このプロジェクトマネジメントの基本的な考え方や用語、実施手法を理解する。 実社会におけるプロジェクトの実例からプロジェクトマネジメントの重要性や実態を理解する。 スライド等を用いて担当教員が考え方やテクニック、用語等について説明する。 プロジェクトの実例を用いてプロジェクトマネジメントの各工程について解説する。
到達目標	プロジェクトマネジメントの基本である、ブレインストーミング、PDCA、WBS、スケジュール、コミュニケーション等の管理手法を実務に沿った解説、演習、グループワークにて習得する。
授業の進め方	授業前半では、プロジェクトマネジメントの基本的な各手法やプロジェクトの実例の解説と演習を交えながら進める。 授業後半ではグループワークを中心に、各チームで模擬プロジェクトテーマを考え、プロジェクトマネジメントに必要な工程を試行錯誤しつつ、問題解決や意見交換を補足しながら進める。 また、毎回振り返りシートを記入し、授業や演習内容の振り返りを行う。 演習やグループワークではPCを活用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	演習やグループワークで作成した成果物の作成方法を授業内で教員が説明することでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・科目ガイダンス 進行、評価等について説明、講義内容(プロジェクトマネジメントとは)
第2回	・プロジェクト構想・企画、PDCA・WBS、ブレインストーミング ・ブレインストーミング演習
第3回	・PDCAの実施方法・ポイント・具体例、プロジェクト体制・担当役割 ・PDCA演習
第4回	・コンフリクトマネジメント、変更要求と不測事態の対応方法 ・WBS演習 1
第5回	・タスク管理手法概要 ・WBS演習 2（WBSとガントチャート作成演習）
第6回	・タイムマネジメント、クリティカルパス、品質管理、契約管理 ・スケジュール
第7回	・グループワーク 1 テーマ：ブレインストーミングによるプロジェクトテーマの洗出し

第8回	・グループワーク 2 テーマ：プロジェクトテーマの検討作成、WBSによる具体的なタスクの検討作成
第9回	・グループワーク 3 テーマ：全体スケジュールとタスク別スケジュールの検討作成
第10回	・グループワーク 4 テーマ：プロジェクト体制、予算案、品質計画、コミュニケーション計画、セキュリティ計画の検討作成
第11回	・グループワーク 5 テーマ：グループワークでの成果物を元に、プロジェクト計画書の作成、プレゼンテーション準備
第12回	・グループワーク 6 テーマ：チーム毎に完成した「プロジェクト計画」のプレゼンテーション
第13回	・授業内試験（まとめテスト）

事前・事後学修	具体的な内容】 ①前回の授業内容の振り返りやポイント、重要事項の反復学習を行うこと ②山口周『プロジェクトマネジメント』（大和書房）を授業15回終了までに読み終えること 【必要な時間】 30時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	成績評価配分 ・小テス：20％ ・提出課題レポート：30％ ・グループワーク成果物：25％ ・授業内試験：25％
テキスト	『プロジェクトマネジメント』（大和書房）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、IT関連の多様なプロジェクトマネジメントの実務経験のある教員が担当します。 プロジェクトマネージメント全般に必要な工程やテクニック、考え方等を実践的な視点から解説するとともに、演習及びグループワークにてスキルの習得を目指します。

年度	2025
講義名称	文書作成[①/3]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02603S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等

授業の目的と概要	パソコンを活用した表現について学びます。 WordやCANVAなどのアプリの利用方法を学習し、文書作成の知識と技術を演習を通じて身につけます。 1年生春学期に開講された情報機器操作で学習した文書作成の基礎についても再確認します。 さらにリーフレットの作成やホームページの作成についても学びます。
到達目標	【到達目標】 文書作成ソフトWordやcanvaなどの各種アプリの利用方法を学び、相手意識をもった分かりやすい文書の作成について学修します。実社会に役立つような課題作成を通して、社会に出たときにも生かせるような力を身に付けることが目標です。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 文書作成ソフトに関する知識や技能を高める。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） リーフレットづくりをブラッシュアップするためのグループワークなどを通してより協働的に学ぶことができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会の課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） より良い作品作りに向けてディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 文書作成ソフトの基本操作スキルについて、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じる。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 一人一人がPCで文書を作成すると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学ぶことも重視します。 また、オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。 週2回展開とし、1回は対面授業、1回はオンデマンド授業となります。 基本的に対面授業で説明・解説をし、その学びを生かしてオンデマンド授業を受けることになります。 対面授業を休むと、オンデマンド授業に支障が出ますので、できるだけ欠席することなく出席することを求めます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での解説を中心にフィードバックをします。 なお、課題については、個別にmanabaで採点を行い、改善点がある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション・Wordの基本操作の確認	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作（目次を付けた資料作り）	オンデマンド
第3回	CANVAの基本操作	
第4回	【オンデマンド】CANVAでのPOPづくり	オンデマンド
第5回	アウトラインからのプレゼン作成（Word・CANVA）	
第6回	【オンデマンド】履歴書作成とメール添付	オンデマンド
第7回	Googleサイトでホームページ作り	
第8回	【オンデマンド】Googleサイトでホームページ作り	オンデマンド
第9回	CANVAでホームページ作り	
第10回	【オンデマンド】CANVAでホームページづくり	
第11回	プレゼン基礎	
第12回	【オンデマンド】自己分析プレゼンの作成	
第13回	プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 タイピング練習をしたり、学習した内容について再度操作をしてみたりすることを通して、PCによる表現力を高めてください。 【必要な時間】 1回の授業につき、授業前後で各1時間程度の主体的な学びを求めます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCDについて、総合的に評価します。 A（60％） 課題作成（10点×6回＝60点） B（10％） タッチタイピングテスト（10点×1回＝10点） C（21％） 小レポート（3点×7回＝21点） D（9％） プレゼン発表会（9点×1回）
テキスト	・学習用のサイトなどで必要な情報を提供していきます。
参考文献	youtubeやInstagram、webサイトなどで必要な情報を参考にしています。 Wordについての各種市販解説本

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	主担当・副担当者ともに、小学校教員としての実務経験を持っている。また、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地でICT活用等について指導を行う立場である。この経験を活かして、PCを活用した表現についての演習を行う。
備考	・基本的に自分のノートPCを持参すること。 ・故障などで、準備ができない場合は、ライティングラボなどで借りて準備すること。

・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	文書作成[②/3]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02603S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等

授業の目的と概要	パソコンを活用した表現について学びます。 WordやCANVAなどのアプリの利用方法を学習し、文書作成の知識と技術を演習を通じて身につけます。 1年生春学期に開講された情報機器操作で学習した文書作成の基礎についても再確認します。 さらにリーフレットの作成やホームページの作成についても学びます。
到達目標	【到達目標】 文書作成ソフトWordやcanvaなどの各種アプリの利用方法を学び、相手意識をもった分かりやすい文書の作成について学修します。実社会に役立つような課題作成を通して、社会に出たときにも生かせるような力を身に付けることが目標です。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 文書作成ソフトに関する知識や技能を高める。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） リーフレットづくりをブラッシュアップするためのグループワークなどを通してより協働的に学ぶことができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会の課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） より良い作品作りに向けてディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 文書作成ソフトの基本操作スキルについて、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じる。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 一人一人がPCで文書を作成すると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学ぶことも重視します。 また、オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。 週2回展開とし、1回は対面授業、1回はオンデマンド授業となります。 基本的に対面授業で説明・解説をし、その学びを生かしてオンデマンド授業を受けることになります。 対面授業を休むと、オンデマンド授業に支障が出ますので、できるだけ欠席することなく出席することを求めます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での解説を中心にフィードバックをします。 なお、課題については、個別にmanabaで採点を行い、改善点がある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション・Wordの基本操作の確認	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作（目次を付けた資料作り）	オンデマンド
第3回	CANVAの基本操作	
第4回	【オンデマンド】CANVAでのPOPづくり	オンデマンド
第5回	アウトラインからのプレゼン作成（Word・CANVA）	
第6回	【オンデマンド】履歴書作成とメール添付	オンデマンド
第7回	Googleサイトでホームページ作り	
第8回	【オンデマンド】Googleサイトでホームページ作り	オンデマンド
第9回	CANVAでホームページ作り	
第10回	【オンデマンド】CANVAでホームページづくり	
第11回	プレゼン基礎	
第12回	【オンデマンド】自己分析プレゼンの作成	
第13回	プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 タイピング練習をしたり、学習した内容について再度操作をしてみたりすることを通して、PCによる表現力を高めてください。 【必要な時間】 1回の授業につき、授業前後で各1時間程度の主体的な学びを求めます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCDについて、総合的に評価します。 A（60％） 課題作成（10点×6回＝60点） B（10％） タッチタイピングテスト（10点×1回＝10点） C（21％） 小レポート（3点×7回＝21点） D（9％） プレゼン発表会（9点×1回）
テキスト	・学習用のサイトなどで必要な情報を提供していきます。
参考文献	youtubeやInstagram、webサイトなどで必要な情報を参考にしています。 Wordについての各種市販解説本

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	主担当・副担当者ともに、小学校教員としての実務経験を持っている。また、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地でICT活用等について指導を行う立場である。この経験を活かして、PCを活用した表現についての演習を行う。
備考	・基本的に自分のノートPCを持参すること。 ・故障などで、準備ができない場合は、ライティングラボなどで借りて準備すること。

・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	文書作成[③/3]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02603S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等

授業の目的と概要	パソコンを活用した表現について学びます。 WordやCANVAなどのアプリの利用方法を学習し、文書作成の知識と技術を演習を通じて身につけます。 1年生春学期に開講された情報機器操作で学習した文書作成の基礎についても再確認します。 さらにリーフレットの作成やホームページの作成についても学びます。
到達目標	【到達目標】 文書作成ソフトWordやcanvaなどの各種アプリの利用方法を学び、相手意識をもった分かりやすい文書の作成について学修します。実社会に役立つような課題作成を通して、社会に出たときにも生かせるような力を身に付けることが目標です。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 文書作成ソフトに関する知識や技能を高める。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） リーフレットづくりをブラッシュアップするためのグループワークなどを通してより協働的に学ぶことができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会の課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） より良い作品作りに向けてディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 文書作成ソフトの基本操作スキルについて、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じる。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 一人一人がPCで文書を作成すると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学ぶことも重視します。 また、オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。 週2回展開とし、1回は対面授業、1回はオンデマンド授業となります。 基本的に対面授業で説明・解説をし、その学びを生かしてオンデマンド授業を受けることになります。 対面授業を休むと、オンデマンド授業に支障が出ますので、できるだけ欠席することなく出席することを求めます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での解説を中心にフィードバックをします。 なお、課題については、個別にmanabaで採点を行い、改善点がある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション・Wordの基本操作の確認	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作（目次を付けた資料作り）	オンデマンド
第3回	CANVAの基本操作	
第4回	【オンデマンド】CANVAでのPOPづくり	オンデマンド
第5回	アウトラインからのプレゼン作成（Word・CANVA）	
第6回	【オンデマンド】履歴書作成とメール添付	オンデマンド
第7回	Googleサイトでホームページ作り	
第8回	【オンデマンド】Googleサイトでホームページ作り	オンデマンド
第9回	CANVAでホームページ作り	
第10回	【オンデマンド】CANVAでホームページづくり	
第11回	プレゼン基礎	
第12回	【オンデマンド】自己分析プレゼンの作成	
第13回	プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 タイピング練習をしたり、学習した内容について再度操作をしてみたりすることを通して、PCによる表現力を高めてください。 【必要な時間】 1回の授業につき、授業前後で各1時間程度の主体的な学びを求めます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCDについて、総合的に評価します。 A（60％） 課題作成（10点×6回＝60点） B（10％） タッチタイピングテスト（10点×1回＝10点） C（21％） 小レポート（3点×7回＝21点） D（9％） プレゼン発表会（9点×1回）
テキスト	・学習用のサイトなどで必要な情報を提供していきます。
参考文献	youtubeやInstagram、webサイトなどで必要な情報を参考にしています。 Wordについての各種市販解説本

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	主担当・副担当者ともに、小学校教員としての実務経験を持っている。また、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地でICT活用等について指導を行う立場である。この経験を活かして、PCを活用した表現についての演習を行う。
備考	・基本的に自分のノートPCを持参すること。 ・故障などで、準備ができない場合は、ライティングラボなどで借りて準備すること。

・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	表計算【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02602S

担当教員

氏名	所属
◎ 岩崎 有朋	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等

授業の目的と概要	パソコンの代表的なアプリケーションソフトである表計算ソフトの利用方法を学習します。社会の実データを用いて基本的な分析をしたり、得られた結果を分かりやすく表現したりするスキルを身に付け、表計算での処理の良さやデータ分析の価値を理解します。これにより、本学の数理・A I・データサイエンス科目の基礎を身に付けます。
到達目標	【到達目標】 表計算アプリの基礎的な操作スキルの修得をとおして、日常における数値集計や名簿処理などを行う場面で、目的にあったデータ処理のイメージが持てるようになる。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 表計算に関する知識や技能を高める。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 身近なデータ処理の場面で、効率かつミスを減らすために表計算アプリの活用場面を考えることができる。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 習得したスキルに基づいて、課題に対して解決のイメージを持ち、試行錯誤してゴールに近づこうとする。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） 誰かの便利や効率化につながる表計算アプリの活用を考えながら学習できる。
授業の進め方	この授業はフルオンデマンドで実施します。 解説映像を視聴しながら、基礎的な操作スキルの習得や自分なりに工夫してまとめるなど、時間をかけて課題に取り組みます。 1つずつの授業には繋がりががあり、前の授業で学んだスキルをその後の授業で活用しますので、1つずつの授業の積み重ねが重要になります。 フルオンデマンドなので対面授業はありませんが、操作についてのフォローが必要だと考えています。その場合、対面での支援、チャットでの質問など、可能な範囲でサポートしますので、相談してください。

アクティブ・ラーニング

PBL 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の提出はWeb Classで行いますので、フィードバックも基本はWeb Classで行います。 補足説明が必要な場合は、この授業用の学習サイトを準備して、映像を掲載するなどのフォローをします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・オリエンテーション ・Excel等ICTスキルに関するアンケート ・Excelの基本機能	オンデマンド
第2回	・表作成の手順 ・簡単な関数	オンデマンド
第3回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・効率的な集計に役立つ関数	オンデマンド

2025/04/01

第4回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・IF関数の応用 ・基本のグラフ操作	オンデマンド
第5回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・多様はグラフ表現 ・目的に合わせたグラフの選択	オンデマンド
第6回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・フィルター機能 ・ピボットテーブルの基本操作	オンデマンド
第7回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・既習の操作スキルを使った協働的な課題解決 ・データの読み取り	オンデマンド
第8回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・テーブル機能 ・操作を効率化するスキル	オンデマンド
第9回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・CSVファイルの基本的な取り扱い ・外部データの取り込み ・印刷設定	オンデマンド
第10回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・データクリーニングの考え方 ・分析結果をまとめて出力する操作	オンデマンド
第11回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・高度な条件付き集計の操作 ・実場面におけるアプリ活用	オンデマンド
第12回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・生活場面における表計算アプリの活用 ・集計、抽出操作をつかったオリジナルの処理	オンデマンド
第13回	・前時までの疑問点についてのフォロー ・既習事項を活用したエラー修正 ・ミニプロジェクトの成果発表	オンデマンド

事前・事後学修	【事後学習】 2 時間程度 授業が終わったら、できるだけ間を空けないようにして操作の復習を行います。授業の時はわかっているようでも、自宅で一人で再現しようとすればできないので、事後の復習は必要です。まずは学習したことを必ず繰り返して見ることに重点を置いて取り組みます。 【事前学習】 1 時間程度 次の授業は前の授業のつながりがある場合が多いです。そのため、授業の前日には復習で取り組んだ内容をもう一度やってみることを勧めます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・授業内の課題 87点（第1回3点 第2～13各7点） ・振り返りレポート 13点（1点×13回）
テキスト	指定テキストはありません。必要な内容は解説映像で全て伝えます。 一方、Webには操作に関する情報がたくさんありますので、関連する操作について自分で調べ、それを参考にしながら操作する習慣をつけましょう。

備考	・この科目はクォーター制度で開講されるので、週 2 回のペースで進みます。課題をためると後半授業についていけなくなるので、最初から学修のリズムを整えて、先送りしないで早めに取り組むことが求められます。 ・取り組む過程で、解決しにくい課題については教員に質問したり、学生同士で教え合うなどしてプラスαの努力を求めます。 ・この科目を修了した人だけが、来年度の「AI・データサイエンス」の授業を選択できるので、次年度の単位取得も含めて計画的に授業を選択しましょう。

年度	2025
講義名称	情報機器操作[国教]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
岩崎 有朋	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等

授業の目的と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A I データサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。 プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習2とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（10点x6回＝60点） B (12%)タイピングテスト(12点x1回＝12点） C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4点x7回＝28点）
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連の各種書籍 ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要の応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	情報機器操作[臨心]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
岩崎 有朋	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等

授業の目的と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A I データサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。 プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習2とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（10点x6回＝60点） B (12%)タイピングテスト(12点x1回＝12点） C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4点x7回＝28点）
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連の各種書籍 ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要の応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	情報機器操作[子心]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
岩崎 有朋	大学・センター等

授業の目的と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A I データサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくするように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。 プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習2とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（10点x6回＝60点） B (12%)タイピングテスト(12点X1回＝12点) C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4点X7回＝28点)
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連の各種書籍 ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel, Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要の応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	情報機器操作[観ビ]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
樋原 智恵	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
朝倉 一民	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的 と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A I データサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。

プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習 2 とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習 2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（1 0 点x 6 回＝ 6 0 点） B (12%)タイピングテスト(1 2 点X 1 回＝ 1 2 点) C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4 点X 7 回＝ 2 8 点)
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連のの各種書籍 ・情報セキリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	情報機器操作[スビ]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
樋原 智恵	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A I データサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。 プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習2とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（10点×6回＝60点） B (12%)タイピングテスト(12点×1回＝12点) C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4点×7回＝28点)
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連の各種書籍 ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要の応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	情報機器操作[ス指]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等
樋原 智恵	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
朝倉 一民	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A I データサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。

プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習 2 とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習 2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（1 0 点x 6 回＝ 6 0 点） B (12%)タイピングテスト(1 2 点X 1 回＝ 1 2 点) C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4 点X 7 回＝ 2 8 点)
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連のの各種書籍 ・情報セキリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要の応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	情報機器操作[秋入生]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 岩崎 有朋	大学・センター等

授業の目的と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A Iデータサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくするように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。 プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL	グループワーク	ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習2とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（10点x6回＝60点） B (12%)タイピングテスト(12点X1回＝12点) C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4点X7回＝28点)
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連の各種書籍 ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要の応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	[冬集]情報機器操作[未修得]【ブレB】
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	・ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 ・そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 ・実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝えることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。 ・本学の「S I U未来A Iデータサイエンスプログラム」の構成科目です。
到達目標	【到達目標】 ・情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。 ・実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくするように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身につけるような授業方法で展開します。 1週間のうち対面1回、オンデマンド1回の週2回展開の科目です。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。 プレゼンテーションの発表会など双方向性のある活動も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL	グループワーク	ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・AI時代と私たち・フィルターバブル・Word基礎	
第2回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習	オンデマンド
第3回	情報セキュリティ・情報モラルと関係法規・生成AIの活用	
第4回	【オンデマンド】Wordの基本操作演習2とメール送信	オンデマンド
第5回	CANVAの基本操作	
第6回	【オンデマンド】CANVAの基本操作演習	オンデマンド
第7回	Excel基本操作（表）	
第8回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習	オンデマンド
第9回	生成AIの活用（データ分析）とExcelの基本操作（グラフ）	
第10回	【オンデマンド】実データに基づいたExcelの基本操作演習2	オンデマンド
第11回	生成AIを活用した地域課題解決とプレゼンの基礎	
第12回	【オンデマンド】実データの整理分析に基づいた課題解決プレゼン作成演習	オンデマンド
第13回	課題解決プレゼン発表会・タイピングテスト・まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 毎回、主体的に予習復習を各1時間程度することを求めます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて総合的に評価します。 A (60%)オンデマンド課題（10点x6回＝60点） B (12%)タイピングテスト(12点X1回＝12点) C (28%)対面授業時の課題提出や小レポート(4点X7回＝28点)
テキスト	・授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・Officeソフト等のPC関連のの各種書籍 ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	主担当者は、小学校教諭としての20年間の教員経験、文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして全国各地の学校の指導助言を行ってきた経験などを生かして、本科目の指導を展開する。
備考	・自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・Word, Excel、Powerpointのアプリ版をダウンロードしておきましょう（分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと）。 ・この科目は、必要の応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

年度	2025
講義名称	[冬集]クールジャパン
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02311L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は下記①②をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、貿易・観光などのグローバルビジネスの分野において必要な発信力の基礎を身につけるためのコースです。具体的には世界から共感される日本の魅力をブランド力として捉え、文化と経済の観点から、食、アニメ、ポップカルチャーなど、日本が誇れる文化を世界がどのように見ているのかを理解する。具体的にはマーケティングアプローチによりビジネスプランを構想して、多文化共生社会の進展を理解することを目的とします。併せて、その経済効果と今後日本の文化にはどのような可能性があるのかについて学修し、文化の発信力を身に付けます。
到達目標	自らの文化および他者の文化を認識し、整理する能力を身に付けることを目標とします。 併せて自らの文化・価値観を他の人に説明し、理解してもらえるようになる。 マーケティングアプローチの知識を事例を通してより実践的なイメージ形成を助成する。また授業全体を通して多文化共生と多様性の重要性についての議論を通して理解を深め、自ら作成したビジネスプランを第三者に理解してもらう説明力を養成する。共感を得るプレゼンテーションを実施できるように挑戦し、他人のプランに対する評価、問題提起を出来ようになることにより、専門科目の履修に必要なディスカッション能力、コミュニケーション能力、問題解決型授業を効果的に受講できる基礎力を身に付けることを目標とします。
授業の進め方	基本的に授業時間の30％を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」や「グループワーク」を行い、アイディアを「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。

アクティブ・ラーニング

PBL ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス〜クールジャパンとは	対面授業
第2回	ブランド〜マーケティング4Pの視点	対面授業
第3回	クールジャパンを見つけよう①〜ニューラルマーケティングの視点・ストーリーマーケティングの視点	対面授業
第4回	クールジャパンを見つけよう②〜デザイン・ネーミング	対面授業
第5回	中間発表演習①	対面授業
第6回	中間発表演習①	対面授業
第7回	中間コンペティション	対面

第8回	多様性と多文化共生	対面授業
第9回	プレゼンテーション資料作成①～文化の発信	対面授業
第10回	プレゼンテーション資料作成②～STP	対面授業
第11回	②プレゼンテーション資料作成③～プロモーション・インターネット社会の進展とAIDMAの法則	対面授業
第12回	期末発表演習	対面授業
第13回	期末コンペティション・期末振り返り	対面授業

事前・事後学修	次回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共にグループディスカッションの準備をしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。発表資料などは役割分担の中で責任をもって作成する必要があります。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 予習、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内提出物・発表 40% 中間発表 30% 期末発表 30%
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	「クールジャパン?外国人が見たニッポン」 鴻上尚史（著）講談社現代新書

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は食文化の発信による輸出促進などの貿易実務経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義を実施します。
備考	授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークを実施した場合は、実費は自己負担となる場合があります。

年度	2025
講義名称	国際事情【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02310L

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	私たちが今生きているこの世界では、グローバル化により人種や国境を超えてさまざまな問題が新たに生じています。グローバル化に向き合うためには、世界を理解する必要があります。本講義では、人文・社会科学を学ぶ基盤となる知見と見識を確立するため、世界事情の知見を出発点に、さまざまな境界領域的テーマを学び、視野を広げ、国際的感覚を涵養するとともに、複眼的な問題を分析できるようになることを目指します。
到達目標	①「世界」を中軸に据えて、言語・歴史・宗教・芸術・文化・経済・社会学・人類学など、様々な関連分野を視野に入れて、人文・社会科学における「国際事情」に関わる現象や問題に触れることで、国際的感覚を身につけることができます。 ②さまざまなテーマでの考察を通して、世界事情を理解するとともに、境界領域から人文・社会科学全体についての認識を深めることができます。
授業の進め方	本講義は、すべての回を遠隔（オンデマンド授業コンテンツを教材として配信）で実施します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。 国際社会とは？： 国際社会のしくみや特徴、意義について概観する。	オンデマンド
第2回	世界がSDGsを必要とする理由： 「持続可能な開発」について概観したあと、なぜSDGsに取り組むべきなのかを考える。	オンデマンド
第3回	世界の貧困問題： 世界の貧困問題の現状と原因、解決のためにできることは何か、SDGsの観点から考えていく。	オンデマンド
第4回	SDGsの考え方をより深く理解する： 「トレードオフ」および「SDGsウォッシュ」の概念について学習したあと、海外事例を通して理解を深める。	オンデマンド
第5回	SDGsにどう向き合うべきか： SDGsの目標達成のためには、政府や自治体、企業、個人などさまざまなレベルでのアクションを行うことが重要であることを確認する。	オンデマンド
第6回	世界の児童労働の状況： 児童労働の概念や現状について学習したあと、解決のためにできることは何か、さまざまな事例を通して考えていく。	オンデマンド
第7回	世界各国のSDGsの取り組み状況1： 世界各国におけるSDGsの進捗状況を俯瞰する。	オンデマンド
第8回	世界各国のSDGsの取り組み状況2： SDGs先進国と言われている北欧の取り組みを事例に現状と課題について考える。	オンデマンド
第9回	世界の言語政策1： 危機言語の概念について学習したあと、海外事例と日本の危機言語を比較しながら現状や原因について考える。	オンデマンド
第10回	世界の言語政策2： ベルギーやスイスを事例に言語の違いによる葛藤について考える。また、ハワイにおける言語政策を事例に消滅する言語をどうすれば守れるかを考える。	オンデマンド

第11回	世界の教育事情： 日本、韓国、フィンランド、北朝鮮の教育制度や現状について学習したあと、世界が直面している主な課題について考える。	オンデマンド
第12回	世界の観光事情： アフターコロナ時代における世界観光の動向を探り、日本の観光産業の未来について考える。	オンデマンド
第13回	世界の今、まとめ： 世界各地のニュースを通して「いま世界で何が起きているのか」また「その背景には何が」について考える。	オンデマンド

事前・事後学修	予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語の意味などを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は「2時間」、次回の授業内容の予習は「2時間」を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「授業内課題（30％）＋学期末課題（50％）」によりますが、オンデマンド視聴状況（20％）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。毎回講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

備考	※注意：各回の講義動画の公開期限をご確認いただき、必ず期限内に講義動画をご視聴ください。

年度	2025
講義名称	多文化共生論【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02309L

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義は、主に日本国内の多文化主義に関する実情、対策を取り上げ、共生のあり方を検討することを目的とする。現状の把握をもとに、これまでに蓄積してきた理論の批判的検討や各国の事例を学ぶことで、社会が多文化であること、他者の文化を尊重することの意義について深めていく。
到達目標	・多文化に関する基礎的な理論を理解し、説明できる。 ・多文化共生の可能性と問題点をともに理解し、よりよい共生のあり方を検討できる。 ・日本と世界における多文化状況を理解する。
授業の進め方	オンデマンド形式でおこなう。毎回、Webclassに動画をアップするので、1週間のうちにみて課題を提出すること。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	意見や質問は毎回の講義課題内で受け付ける。また、メールやWebclassでも歓迎する。質問に対しては講義内で必ずフィードバックをおこなう。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：多文化共生とはなにか	オンデマンド
第2回	差別とはなにか	オンデマンド
第3回	多文化共生前史 / 文化とはなにか	オンデマンド
第4回	文化相対主義：普遍的な価値は存在するか	オンデマンド
第5回	日本の多文化状況①在留資格	オンデマンド
第6回	日本の多文化状況②	オンデマンド
第7回	日本の多文化状況③ニューカマーとオールドカマー	オンデマンド
第8回	日本の多文化状況④	オンデマンド
第9回	生活共生とシステム共生	オンデマンド
第10回	共生と教育	オンデマンド
第11回	システム共生の実際	オンデマンド
第12回	改めて差別・共生とはなにか	オンデマンド
第13回	まとめと最終課題	オンデマンド

事前・事後学修	事前・事後それぞれ2時間を目安とする。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	日本語教師課程の選択科目である。
テキスト	指定しない
参考文献	ゴゴリン他編『異文化間教育ハンドブック』明石書店（978-4-7503-5687-7） 多文化共生キーワード事典編集委員会編『【改訂版】多文化共生キーワード事典』明石書店（978-4-7503-3196-6） 小内透、1999、「共生概念の再検討と新たな視点」『北海道大学教育学部紀要』79（ http://hdl.handle.net/2115/29597 ）

備考	日本語教師課程の選択科目である。

年度	2025
講義名称	サステナビリティ【遠隔A】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(A)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02308L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 菅井 貴子	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	サスティナビリティは、科学、政治、経済、社会、産業など様々な分野に関わる非常に複雑な問題です。ただ、本質はとてもシンプルかもしれません。 本講義は、サスティナビリティや環境問題を身近に感じることができる北海道の気候変化や異常気象の知識取得を中心に、人と地球システムの関わりや温暖化の基本的な仕組み、大気汚染・河川汚染・森林破壊・ゴミ問題・自然エネルギー・GXなどを学びながらディスカッションやプレゼンテーションを行うことで、環境意識を高め、持続可能な社会形成に向けて自身の考えをもち、議論ができるようになることを目的とします。
到達目標	サスティナビリティに対するの基本的なアカデミックスキルを身につけ、環境意識の向上と問題の現状や課題について理解を深める。 持続可能な社会形成に向けて自身の考えを持ち、自身の言葉で表現ができるようになる。
授業の進め方	講義はパワーポイントスライドを中心に行います。 課題にあわせて、自身で調査し資料を作成し、5分前後のプレゼンテーション発表をしてください。 聴講後、ディスカッションや感想・提言レポートなどの提出もあります。 なお、授業計画は時事社会ニュースなどにより変わる可能性があります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で解説するとともに、参考資料等があれば適宜提示いたします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	講義オリエンテーション プレゼンテーションのポイント	同時双方向
第2回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第3回	北海道の気候多様性	同時双方向
第4回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第5回	地球温暖化と温室効果ガス	同時双方向
第6回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第7回	大気汚染物質・オゾン層破壊などの基礎知識	同時双方向
第8回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第9回	異常気象と自然災害 その課題と「適応策」	同時双方向
第10回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第11回	生物多様性とレッドリスト・ブルーリスト	同時双方向
第12回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向

第13回	授業まとめ ニュースプレゼンテーション 確認小テスト	同時双方向

事前・事後学修	信頼性の高いネットニュースや、新聞、雑誌、テレビ、SNSが提供するサスティナビリティに関する話題を積極的に読み、自らがどう考えるかをまとめておいてください。 なお、新聞各紙は大学図書館で閲覧できますので、積極的に活用の心掛けを習慣づけましょう。 (事前) 前講義で課題の提示がありますので、調べておいてください (事後) 講義内容をしっかりと整理し、自らの意見なども次の講義で述べられるように、考えをまとめておいてください。

成績評価基準と方法	①課題提出 40% ②授業でのプレゼンテーション 30% ③レポート・確認テスト 30%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、テレビ、ラジオ、新聞、SNSなど幅広いメディアでの気象や災害報道を担当するとともに、SDGsや温暖化、環境、エネルギー、自然災害に関する執筆や講演活動を通じて知識を広めてきました。これらの経験を基に、現実的な課題と理論を結び付けた実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	社会とメディアの倫理【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02307L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	この講義では、情報化社会と呼ばれる現代において、氾濫する膨大な量の情報の中から、受講者が何が正しい情報なのかを見極めるための基本的な理論および社会的な倫理とは何かを学びます。前半で、メディア・リテラシー論の基礎を確認し、後半では、メディア・リテラシーの限界を確認しながら、実社会の中で、いかにより正しい情報を選択していくべきか、その可能性を模索するための手がかりを確認します。同時に、社会的な倫理とは何かに着目し、組織倫理を逸脱した結果発生する偽装、隠ぺい行為の発生原因を明らかにするとともに、そうした不祥事を抑止するためのビジネス行動について、実際のビジネスとの調和点を考慮しながら、具体的なケーススタディを通じて受講者とともに理解を深めていきます。
到達目標	【到達目標】 当講義を通じて、現代社会におけるメディア・リテラシーの重要性とそれを踏まえてどのように社会のなかで対応すべきなのか、実際のビジネス現場における多種多様な情報を適切に取り扱うための契機とすることができること
授業の進め方	【講義方法】 ・基本的に、はじめに、講師が用意する（オンデマンド）教材に沿って講師が説明を進めます（約45分） ・次に、その教材内容を踏まえて、基本的な知識の理解度を確認するための小テストを実施し提出してもらいます（約15分） ・次に、（オンデマンド）教材で当日の講義内課題の説明をします（約15分） ・最後に、講義内課題（レポート）に対応し、課題の提出をしてもらいます（約30分）

アクティブ・ラーニング

PBL 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内で実施した課題は、次回講義の冒頭で講評します ・その他疑問点等がある場合には、コミュニケーションツールによって質疑応答します

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	講義ガイダンス・メディアの倫理とはなにか	オンデマンド
第2回	メディア・リテラシー論とは	オンデマンド
第3回	メディアの屈折作用とは	オンデマンド
第4回	メディア・リテラシーの4類型とは	オンデマンド
第5回	ウェブ時代の流言リテラシーの特徴	オンデマンド
第6回	パッシングと政治の流言	オンデマンド
第7回	流言を拡散する側と検証する側および前半のまとめ・中間課題	オンデマンド
第8回	リテラシーはなぜ必要なのか	オンデマンド
第9回	退けるべき3つの言説	オンデマンド
第10回	より良い情報受容のための手法	オンデマンド
第11回	メディア・リテラシーの政治的傾向	オンデマンド

第12回	社会の多様性はなぜ重要か	オンデマンド
第13回	全体総括および期末課題	オンデマンド

事前・事後学修	【事前学習】2.5時間相当 ・事前配布された教材中のキーワードのなかの不明点を特定し、web検索、生成AI等を活用しその意味を調べる 【事後学習】2.5時間相当 ・事前学習で調べた不明点が解明されたかどうかを再確認し、不足があればさらに深掘りする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・講義内の確認テストおよび課題提出：50%相当 ・中間課題の提出：20%相当 ・期末課題の提出：30%相当 以上の合計点60%相当以上の者を単位認定します
テキスト	講師が作成
参考文献	『ダメ情報の見分けかた　メディアと幸福につきあうために』荻上チキ・飯田泰之・鈴木謙介共著、NHK出版生活人新書、2010年

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	・講師は、IT企業において20年以上にわたり管理部門に従事し、健全なビジネス運営を図るためのビジネスコントロールの実務をリードしてきました。いわゆるコンプライアンス遵守、情報セキュリティの維持、個人情報、機密情報の保護の実務に精通しています。昨今、SNSなどを介した偽情報の拡散、闇バイト問題などが一層深刻さを増してきています。こうした偽情報等に翻弄されない一人ひとりの対応策について、ビジネス現場における視点を含めて、受講者と共有できることを盛り込みます

年度	2025
講義名称	社会学【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02306L

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では人間の社会と生活のあり方の基本を社会学の主要な領域に即して明らかにします。その際、「社会の基礎」である家族、教育、「社会の構造」を形づくる階級・階層、ジェンダー、エスニシティ、「社会の変動」をもたらす情報化と国際化についてとりあげます。
到達目標	家族、地域社会や教育は人々の生活とどのように関係するか、階級、ジェンダー、エスニシティは社会をどのように構造化するのか、また近年の情報化、国際化は社会にどのような影響をもたらすのかなどについて理解ができることを目標とします。
授業の進め方	フルオンデマンド形式で行います。Webclassに各回の授業で用いる動画のURLを表示します。それを使って、視聴して下さい。動画で用いる資料（PDF）はダウンロードできるようにします。 各授業回ごとに、小テスト（確認テスト、アンケート、調べ問題）および受講票を兼ねたりアクションペーパー（感想、意見、質問）の提出を課します。いずれも、提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの正解等およびリアクションペーパーでの質問への回答等については、提出締め切り後にWebclassに掲示します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	I 社会の基礎 1. 家族の社会的機能（1）— 一家族の歴史	オンデマンド
第2回	I 社会の基礎 2. 家族の社会的機能（2）— 一家族の現状と課題	オンデマンド
第3回	I 社会の基礎 3. 地域社会の社会的意義（1）— 地域社会の原型	オンデマンド
第4回	I 社会の基礎 4. 地域社会の社会的意義（2）— 地域政策の展開と地域社会の変貌	オンデマンド
第5回	I 社会の基礎 5. 社会における教育の役割（1）— 教育制度の変遷と教育の特質	オンデマンド
第6回	I 社会の基礎 6. 社会における教育の役割（2）— 学歴社会の形成と展開	オンデマンド
第7回	II 社会の構造 7. 階級・階層の形成と展開（1）— 現実と概念	オンデマンド
第8回	II 社会の構造 8. 階級・階層の形成と展開（2）— 階級・階層的な不平等の再生産	オンデマンド
第9回	II 社会の構造 9. ジェンダーとセクシュアリティ（1）— 概念と歴史	オンデマンド
第10回	II 社会の構造 10. ジェンダーとセクシュアリティ（2）— 教育におけるジェンダーの形成と再生産	オンデマンド
第11回	II 社会の構造 11. エスニシティと人種・民族（1）— 概念と歴史	オンデマンド

第12回	Ⅱ 社会の構造 12. エスニシティと人種・民族（2）－アイヌの民族的復権と課題	オンデマンド
第13回	Ⅲ 社会の変動 13. 情報化と国際化	オンデマンド

事前・事後 学修	【具体的な内容】 配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。 【必要な時間】 事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績 評価 基準 と方法	オンデマンド形式の授業内で課す小テストとリアクションペーパーの内容により評価します。小テストの解答とリアクションペーパーの提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後、評価の配分は小テスト50%（確認問題1点、アンケート1点、調べ問題2点）、リアクションペーパー50%とします。リアクションペーパーの提出で出席をカウントし、出席回数が3分の2以上を単位修得の条件とします。
テキスト	教科書は使いません。講義のレジュメ・資料を Webclass を通じて配付します。
参考文献	長谷川公一他『新版 社会学』有斐閣、2019年 筒井淳也・前田泰樹『社会学入門』有斐閣、2017年 小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年 平沢和司『格差の社会学入門〔第2版〕』北海道大学出版会、2021年 小内透『教育と不平等の社会理論』東信堂、2005年 小内透『再生産論を読む』東信堂、1995年 笹谷春美・小内透・吉崎祥司編著『階級・ジェンダー・エスニシティ』中央法規出版、2001年 小内透編著『講座 トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）、御茶の水書房、2010年 小内透編著『講座 先住民族の社会学』（全2巻）、東信堂、2018年

年度	2025
講義名称	日本国憲法[人文・観光]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02305L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 翔太郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	【目的】 ① 皆さんがこれから社会に出たとき、憲法に直接触れる機会はきっとそう多くありません。しかし、社会は憲法を前提にデザインされています。そして、必ずどこかで憲法と繋がっています。なぜでしょうか。この講義の目的は、「憲法は何のためにあるのか」という問いに対する答えを一人一人が見つけることにあります。 ② 少し大げさに聞こえるかもしれませんが、憲法を学ぶことは、日本社会ひいては世界の有り様を学ぶことです。皆さんは、今後、すぐに答えの出ない様々な問いに直面されるはずです。そのとき、目をそらすことなく問いに向き合い、問いの本質を捉え、自分なりの意見を持つためには、今のうちから準備しておくことが肝要です。この講義の目的は、憲法を手がかりとして問いに向き合う準備をすることにあります。 【概要】 一部分だけに着目しても全体がわかりません。他方、全体だけに着目しても深い理解は得られません。そこで、本講義では、なるべく日本国憲法の全体像がつかめるようにテーマを設定しつつ、各テーマについて皆さんと共に深く考えたいと思います。また、学習効果を高めるために、アウトプットの機会やインタラクティブに進行する機会も設けたいと考えています。
到達目標	<受講後（短期的目標）> ① 日本国憲法の基本的な知識を身につける ② ①で身につけた知識を前提に、社会における様々な憲法上の問題を発見することができるようになる ③ ②の問題に対して自分なりの意見を表現できるようになる <その後（長期的目標）> 「憲法は何のためにあるのか」という問いに対する答えを一人一人が見つけること、この見つける作業を通じて日本社会ひいては世界の有り様について、「これでいいのか」という視点から問い直し、憲法を手がかりとして問題の本質を捉え、一人一人が自分なりの意見を持てるようにする。
授業の進め方	【対面授業】 概ね次の流れで授業を進めていきます。 1 前回授業の振り返り（フィードバック含む） 2 今回のテーマに関する講義(1) 3 Think Pair Share（①問いの提示、②各自検討、③ペアで意見交換、④発表） 4 休憩 5 今回のテーマに関する講義(2) 6 Think Pair Share（①問いの提示、②各自検討、③ペアで意見交換、④発表） 7 ミニツペーパー記入（疑問点・理解度等を数分で記入） 【オンデマンド】 次の動画を配信する予定です。 1 今回のテーマに関する講義(1) 2 今回のテーマに関する講義(2) 3 今回のテーマに関する講義(3) 各動画を視聴する都度、各動画に対応した小テストを実施し、回答していただきます。 合計3回の小テスト実施後、ミニツペーパーに記入していただきます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	必要に応じて、授業の中で解説、講評します。	2025/04/01

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～憲法の全体像	
第2回	憲法史（＋国民主権と象徴天皇制）	オンデマンド
第3回	平和主義	
第4回	基本的人権総論～主体、適用範囲、限界	オンデマンド
第5回	包括的基本権、法の下の平等	
第6回	思想・良心の自由及び信教の自由	オンデマンド
第7回	表現の自由（＋学問の自由）	
第8回	経済的自由～職業選択の自由、財産権	オンデマンド
第9回	社会権～生存権、教育を受ける権利、労働基本権	
第10回	統治機構の諸原理、国会	オンデマンド
第11回	内閣、裁判所	
第12回	財政、地方自治	オンデマンド
第13回	憲法改正、全体のまとめ	

事前・事後学修	事前に、授業内容に関連するニュースをチェックしたり、参考文献を読んでいただき、自分なりの問いを発見してください。そして、その問いに対する答えが講義で得られるかを確認してください。そうすれば、講義への入り込み度や吸収度が格段に上がると思います。講義後も同様です。関連するニュースをチェックしたり、参考文献の該当箇所を読んでみてください。見え方が変わるはずです。予習と復習の時間はそれぞれ2時間30分を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	1 ミニツペーパー (1) 成績評価に占める割合 40% (2) 実施方法 毎回の授業に際して記入 (3) 評価基準 授業に臨む姿勢、理解度等 2 小テスト (1) 成績評価に占める割合 30% (2) 実施方法 オンデマンド型の授業に際して実施 (3) 評価基準 正誤の割合 3 Think Pair Share等 (1) 成績評価に占める割合 30% (2) 実施方法 対面型の授業に際して実施 (3) 評価基準 ディスカッション実施状況及び発表の内容等
参考文献	<入門> ・いちばんやさしい憲法入門 第6版（初宿正典ほか 有斐閣アルマ） ・憲法の時間 第2版（井上典之編 有斐閣） ・あたらしい憲法のはなし（童話屋） <もっと学びたい方> ・憲法 第8版（芦部信善 岩波書店） ・憲法学読本 第4版（安西文雄ほか 有斐閣） ・憲法講話 第2版（長谷部恭男 有斐閣）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本授業は、弁護士として実務経験を有する教員が、その実務経験を活かし、生の紛争や裁判例を紹介しながら、日本国憲法が実社会生活の中でどのように立ち現れるかをイメージすることができる授業を展開することを目指します。
備考	授業資料は、遅くとも授業前日までにデータをアップロードします（【注意】紙の配付は行いません）。

年度	2025
講義名称	日本国憲法[スポ]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02305L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小川 翔太郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	【目的】 ① 皆さんがこれから社会に出たとき、憲法に直接触れる機会はきっとそう多くありません。しかし、社会は憲法を前提にデザインされています。そして、必ずどこかで憲法と繋がっています。なぜでしょうか。この講義の目的は、「憲法は何のためにあるのか」という問いに対する答えを一人一人が見つけることにあります。 ② 少し大げさに聞こえるかもしれませんが、憲法を学ぶことは、日本社会ひいては世界の有り様を学ぶことです。皆さんは、今後、すぐに答えの出ない様々な問いに直面されるはずです。そのとき、目をそらすことなく問いに向き合い、問いの本質を捉え、自分なりの意見を持つためには、今のうちから準備しておくことが肝要です。この講義の目的は、憲法を手がかりとして問いに向き合う準備をすることにあります。 【概要】 一部分だけに着目しても全体がわかりません。他方、全体だけに着目しても深い理解は得られません。そこで、本講義では、なるべく日本国憲法の全体像がつかめるようにテーマを設定しつつ、各テーマについて皆さんと共に深く考えたいと思います。また、学習効果を高めるために、アウトプットの機会やインタラクティブに進行する機会も設けたいと考えています。
到達目標	<受講後（短期的目標）> ① 日本国憲法の基本的な知識を身につける ② ①で身につけた知識を前提に、社会における様々な憲法上の問題を発見することができるようになる ③ ②の問題に対して自分なりの意見を表現できるようになる <その後（長期的目標）> 「憲法は何のためにあるのか」という問いに対する答えを一人一人が見つけること、この見つける作業を通じて日本社会ひいては世界の有り様について、「これでいいのか」という視点から問い直し、憲法を手がかりとして問題の本質を捉え、一人一人が自分なりの意見を持てるようにする。
授業の進め方	【対面授業】 概ね次の流れで授業を進めていきます。 1 前回授業の振り返り（フィードバック含む） 2 今回のテーマに関する講義(1) 3 Think Pair Share（①問いの提示、②各自検討、③ペアで意見交換、④発表） 4 休憩 5 今回のテーマに関する講義(2) 6 Think Pair Share（①問いの提示、②各自検討、③ペアで意見交換、④発表） 7 ミニツペーパー記入（疑問点・理解度等を数分で記入） 【オンデマンド】 次の動画を配信する予定です。 1 今回のテーマに関する講義(1) 2 今回のテーマに関する講義(2) 3 今回のテーマに関する講義(3) 各動画を視聴する都度、各動画に対応した小テストを実施し、回答していただきます。 合計3回の小テスト実施後、ミニツペーパーに記入していただきます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	必要に応じて、授業の中で解説、講評します。	2025/04/01

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～憲法の全体像	
第2回	憲法史（＋国民主権と象徴天皇制）	オンデマンド
第3回	平和主義	
第4回	基本的人権総論～主体、適用範囲、限界	オンデマンド
第5回	包括的基本権、法の下の平等	
第6回	思想・良心の自由及び信教の自由	オンデマンド
第7回	表現の自由（＋学問の自由）	
第8回	経済的自由～職業選択の自由、財産権	オンデマンド
第9回	社会権～生存権、教育を受ける権利、労働基本権	
第10回	統治機構の諸原理、国会	オンデマンド
第11回	内閣、裁判所	
第12回	財政、地方自治	オンデマンド
第13回	憲法改正、全体のまとめ	

事前・事後学修	事前に、授業内容に関連するニュースをチェックしたり、参考文献を読んでいただき、自分なりの問いを発見してください。そして、その問いに対する答えが講義で得られるかを確認してください。そうすれば、講義への入り込み度や吸収度が格段に上がると思います。講義後も同様です。関連するニュースをチェックしたり、参考文献の該当箇所を読んでみてください。見え方が変わるはずです。予習と復習の時間はそれぞれ2時間30分を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	1 ミニツペーパー (1) 成績評価に占める割合 40% (2) 実施方法 毎回の授業に際して記入 (3) 評価基準 授業に臨む姿勢、理解度等 2 小テスト (1) 成績評価に占める割合 30% (2) 実施方法 オンデマンド型の授業に際して実施 (3) 評価基準 正誤の割合 3 Think Pair Share等 (1) 成績評価に占める割合 30% (2) 実施方法 対面型の授業に際して実施 (3) 評価基準 ディスカッション実施状況及び発表の内容等
参考文献	<入門> ・いちばんやさしい憲法入門 第6版（初宿正典ほか 有斐閣アルマ） ・憲法の時間 第2版（井上典之編 有斐閣） ・あたらしい憲法のはなし（童話屋） <もっと学びたい方> ・憲法 第8版（芦部信善 岩波書店） ・憲法学読本 第4版（安西文雄ほか 有斐閣） ・憲法講話 第2版（長谷部恭男 有斐閣）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本授業は、弁護士として実務経験を有する教員が、その実務経験を活かし、生の紛争や裁判例を紹介しながら、日本国憲法が実社会生活の中でどのように立ち現れるかをイメージすることができる授業を展開することを目指します。
備考	授業資料は、遅くとも授業前日までにデータをアップロードします（【注意】紙の配付は行いません）。

年度	2025
講義名称	社会と法【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02304L

担当教員

氏名	所属
◎ 左 焯雨	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業では、法学の基礎的知識、特に社会生活と密接に関わる憲法・民法・刑法を中心に講義を行う。一見すると法学は専門性の高い学問のように思われがちだが、日常生活の中でルールに言及する場面は多く、その際に法学の知識が応用されることがある。本授業では、「ルールをどのように取り扱うべきか」という基本的な考え方を学ぶことを目的とする。
到達目標	各回のテーマについて、法学がどのように取り扱われるのかを意識し、基本的な知識と考え方（例えば、刑事法であれば「ある犯罪の成立要件とは何か」といった点）を理解し、それを自ら説明できるようになることを目指す。 さらに、こうした基礎知識を踏まえうえて、各議題に対してどのように議論を展開できるかを理解し、自らの言葉で説明できる力を養う。
授業の進め方	【講義方法】 講義資料に基づき、当時の時事的な話題や事例を取り上げながら、オンデマンド型で授業を行う。また、講義の進行に応じて、適宜小課題を課す。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	WebClassを通じて資料の配布やフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	導入レッスン：なぜ法学を学ぶのか	オンデマンド
第2回	「法学」とは何か／「法」とは何か	オンデマンド
第3回	裁判過程と法の適用	オンデマンド
第4回	民法入門Ⅰ：民法の基礎と不法行為	オンデマンド
第5回	民法入門Ⅱ：契約と所有権	オンデマンド
第6回	民法入門Ⅲ：家族法	オンデマンド
第7回	刑法入門Ⅰ：刑法の基礎	オンデマンド
第8回	刑法入門Ⅱ：刑法総論（1）	オンデマンド
第9回	刑法入門Ⅲ：刑法総論（2）	オンデマンド
第10回	刑法入門Ⅳ：刑法各論	オンデマンド
第11回	憲法入門Ⅰ：人権	オンデマンド
第12回	憲法入門Ⅱ：統治機構	オンデマンド
第13回	予備日（講義の進捗状況に応じて調整）	オンデマンド

事前・事後学修	【予習・復習】 受講者は、あらかじめ教科書を読み、内容を把握することで予習とする。 講義資料とあわせて小課題に取り組むことで、復習とする。 その他の学習内容については、講義中に適宜紹介する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への参加状況、小課題の提出状況、定期試験の成績を総合的に評価する。 評価の配分は、授業参加および小課題が40%、定期試験が60%とする。
テキスト	早川吉尚『法学入門』（有斐閣、2016年） 主に第1章～第3章、第5章、第8章を取り扱う予定である。
参考文献	田中成明『法学入門〔第3版〕』（有斐閣、2023年） そのほかの文献については、講義中に適宜紹介する。

年度	2025
講義名称	社会と経営【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02303L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	「ビジネスの世界や会社って、どうなってるの？」と疑問に思ったことはありませんか？ 本講座「社会と経営」では、身近な企業の仕組みや、実際のビジネスシーンでどのような判断が行われているのかについて、楽しく学んでいきます。 難しい専門用語は極力避け、「なぜあの会社は成功したの？」「どうして企業は新しい製品を開発するの？」「どんなビジネスモデルが儲かるの？」といった素朴な疑問から経営の基本を紐解きます。組織とリーダーシップ、マーケティング、イノベーションなどの基本概念を、国内の有名企業などの事例や、皆さんが日常で利用するサービスを通して分かりやすく説明します。 特別企画として人事の回では、実際の企業人事担当者をゲスト講師に招き、採用の舞台裏や就活に役立つリアルな情報を直接聞ける貴重な機会も用意しています。 ビジネスが「社会と人々の暮らしをより良くする活動」であることを一緒に探求し、将来のキャリア選択や職場での活動に役立つ具体的な知識と視点を身につけましょう！
到達目標	・経営学の基本的な考え方を理解し、身近な企業活動と結びつけて説明できるようになる ・企業と社会の関係について多角的に考察できるようになる ・ニュースや身近な企業活動を「なぜそうしているのか」という視点で分析できるようになる ・学生生活や日常生活における様々な場面で経営学的視点を活用できるようになる
授業の進め方	本講座はフルオンデマンド方式で実施します。 各回の講義動画（70分程度）をLMS（学習管理システム）で配信します 講義部分（40分程度）と事例分析部分（30分程度）の2部構成 講義部分と事例分析部分の間に小テストを実施 講義視聴後、残り35分程度で講義内課題のワークに取り組みます 各回の学習内容に関する課題を毎回提出していただきます 振り返りレポートは「インデックス部分（要点整理）」と「感想・主張部分」の2部構成で作成します 質問や不明点はLMS上の掲示板機能を通じて随時受け付けます

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	週2回のベースでオンデマンド動画等が更新されます。各回の課題の提出期限は1週間です。したがって1回目の課題のフィードバックは3回目の講義で、2回目の課題は4回目で…といったベースで行います。フィードバックの際には解答の解説も行います。また、フルオンデマンドなので質問等はLMSで随時受け付けサポートします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス 授業の概要-社会・経営の接点 ガイダンスとして本講座の概要、目的、授業の進め方、評価方法について経営学についての基礎理解を行います。	対面
第2回	②企業組織の仕組み - 人と仕事の関係 組織の基本構造（どんな部署があり、どう連携しているか）や企業内の主な仕事（営業、企画、開発、人事など）とその役割について理解を深めます。	対面
第3回	③様々な企業の形 - 企業の種類と目的 企業の法的形態と特徴（株式会社、NPO、スタートアップなど）や企業が存在する目的（利益追求と社会貢献のバランス）について理解を深めます。	対面

第4回	④企業はどう戦う？ - 経営戦略の基本 競争に勝つための考え方（経営戦略の基礎）や企業の「強み」はどこから生まれるのかなどについて理解を深めます。	対面
第5回	⑤顧客の心をつかむ - マーケティングの基本 企業の法的形態と特徴（株式会社、NPO、スタートアップなど）や企業が存在する目的（利益追求と社会貢献のバランス）	対面
第6回	⑥中間振り返り - 学んだことを整理しよう 第1～5回の学習内容の統合と振り返りをおこないつつ、実際の企業事例を用いた総合的な分析を行い理解を深めます。	対面
第7回	⑦エンターテインメントはどうビジネスになる？ - コンテンツ産業の仕組み エンターテインメント産業の特徴（スポーツ、ゲーム、音楽、映画などの共通点）や人気キャラクターやコンテンツの活用方法、デジタル時代の新しい収益モデルなどについて理解を深めます。	対面
第8回	⑧サービス産業の特性 - スポーツビジネスを中心に サービス産業の基本的特徴やサービス価値創造の仕組み、顧客体験のデザインなどスポーツビジネスを題材に理解を深めます。	対面
第9回	⑨企業と社会の関わり - 社会的責任とSDGs 企業の社会的責任の基本概念や SDGs（持続可能な開発目標）と企業活動などについて理解を深めます。	対面
第10回	⑩企業のルールと責任 - 企業倫理の基本 企業が守るべきルールと倫理的行動や企業不祥事はなぜ起きるのか、企業の透明性と信頼性を高める取り組みなどについて理解を深めます。	対面
第11回	⑪自分のキャリアを考える - 将来のキャリア形成（デザイン）を考える 大学生活と将来の仕事をつなぐ考え方について、自分の強み・興味・価値観を知る方法や大学時代に身につけておくことと良い力などキャリアデザインについて理解を深めます。	対面
第12回	⑫企業の人事担当者に聞く - 採用の現場から 企業人事採用担当者による特別講話（60分程度）を予定しています。 企業の採用の考え方や最新の採用事情、大学時代に準備しておくことなど、今後の就活などにも役立つ内容について理解を深めます。	対面
第13回	⑬まとめ - 社会と経営の未来 講座全体の振り返りまとめを行うとともに、これからの変化する社会と企業経営の関係について理解を深めます。	対面

事前・事後学修	事前学修：事前課題等、各回のテーマに関連する身近な企業やサービスについて考えてみる（15-30分程度） 例：第7回のコンテンツビジネスに関する講義前に、自分が利用しているゲームやサブスクリプションサービスの特徴を考える 例：第9回のSDGsに関する講義前に、環境や社会に配慮した商品・サービスを探してみる 事後学修：授業で学んだ概念を身近な事例に当てはめて考え、理解を深める（15-30分程度） 配布資料の重要ポイントの再確認 日常生活の中で授業内容に関連する事例を見つけてみる 疑問点を整理し、次回授業での質問を準備する

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて、以下の割合で総合的に評価します。 A（26％）動画内の確認テスト（2点×13回＝26点） B（48％）オンデマンドコンテンツ提出課題（4×12回＝48点） C（26％）毎時間の振り返りレポート（2点×13回＝26点）※課題提出後が条件
テキスト	特定のテキストは使用せず、講義ごとに必要に応じて資料を配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞出版, 2020年 入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社, 2019年 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣, 2021年 高橋伸夫『経営組織論入門』東京大学出版会, 2020年

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講座担当教員は、ベンチャーから大企業、会社創業を経験し、職種も営業、マーケティング、事業企画を中心に多くの職種を経験しています。その実務経験やネットワーキングを活用し、将来の就職や就活の参考となる実践的な講座内容を提供いたします。
備考	本講座の受講にはPCならびにインターネット環境が必須です。フルオンデマンド授業ということもあり、課題提出等が不十分な場合は欠席扱いとなります。 授業では時事的な話題も取り上げるため、日頃からニュースに触れる習慣をつけると理解が深まります。 特別な配慮が必要な学生は事前に相談してください。

年度	2025
講義名称	社会と経済【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02302L

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	「経済って難しそう...」と思っていませんか？実は身の回りのことばかり！本講座「社会と経済」では、コンビニでの買い物の選択やバイト代の使い方など、あなたの日常と経済の意外な関係を楽しく学びます。 難しい数式や専門用語は使わず、「なぜ欲しいものは高いの？」「商品の値段はどうやって決まるの？」といった素朴な疑問から経済の仕組みを解き明かします。ミクロ経済（個人の選択）とマクロ経済（社会全体）の基本を、身近な事例を通して分かりやすく説明し、ニュースで見かける経済現象も理解できるようになります。 この授業で経済学が「人を幸せにする学問」だということと一緒に発見し、将来の生活での判断に役立つ考え方を身につけましょう！
到達目標	・経営学の基本的な考え方（ミクロ経済学・マクロ経済学）を理解し、身近な企業活動と結びつけて説明できるようになる ・さまざまなビジネスモデルの特徴を理解し、デジタル時代の新しい経済の動きやと社会の関係について多角的に考察できるようになる ・ニュースや身近な企業活動を「なぜそうしているのか」という視点で分析できるようになる ・学生生活や日常生活における様々な場面で経営学的視点を活用できるようになる
授業の進め方	本授業は遠隔B（フルオンデマンド型）の授業です。したがって、対面で集まることはありません。全て講義は大学LMS（WebClass）と動画配信サービス（Mediasite）で公開されるオンデマンド動画と資料等で進めます。動画視聴の合間に確認テストを行い、得点状況も記録し、理解度を計ります。また毎回のオンデマンド動画を視聴し、各回レポート等の課題を出題します。確認テスト、課題提出状況で出席の判定を行います。 ミニレポートは「インデックス部分（要点整理）」と「感想・主張部分」の2部構成で作成します。 質問や不明点はLMS上の掲示板機能を通じて随時受け付けます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	週2回のペースでオンデマンド動画等が更新されます。各回の課題の提出期限は1週間です。したがって1回目の課題のフィードバックは3回目の講義で、2回目の課題は4回目で…といったペースで行います。フィードバックの際には解答の解説も行います。また、フルオンデマンドなので質問等はLMSで随時受け付けサポートします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンスと経済学入門 - 私たちの生活と経済の関わり 本講座の概要と目的、授業の進め方、評価方法について 経済学（ミクロ経済、マクロ経済）についての講義により理解を深めます。	オンデマンド
第2回	②モノの値段はどうやって決まる？ - 価格決定のメカニズム 「欲しい人」と「売りたい人」のバランスで値段が決まる仕組みについて、事例を含めて理解を深めます。 ②～⑥までの授業はミクロ経済を中心とした内容となります。	オンデマンド
第3回	③お給料と生活費—お金の入りと出を考えよう 給与明細の見方と所得税・社会保険料の基本など、事例を含めて理解を深めます。	オンデマンド
第4回	④消費者の選択—お金の賢い使い方 「本当に必要？」「本当に満足？」などモノを買う（消費する）について賢い消費を行うにはどのようなポイントが必要なのかなど理解を深めます。	オンデマンド
第5回	⑤商品ができるまで—消費者に届くまでの流れ 商品の原価と販売価格の関係など、モノが消費者に届くまでの流れを含めて事例をもとに理解を深めます。	オンデマンド
第6回	⑥様々なビジネスモデル—お金を稼ぐ方法の種類 現代の多様なビジネスモデル（小売、フランチャイズ、サブスクリプション、フリーミアム、マーケットプレイスなど）について理解を深めます。	オンデマンド

第7回	⑦国の経済を大きく見てみようーお金の大きな流れ ⑦～⑫まではマクロ経済を中心とした講座となります。 国全体のお金の流れを身近な例で解説を行います。	オンデマンド
第8回	⑧インフレとデフレーション物価の変動と私たちの生活 インフレとデフレとは？基本概念や発生メカニズム、また、 物価上昇や下落が経済全体と個人の生活に与える影響などを考察します。	オンデマンド
第9回	⑨景気のアップダウンー私たちの生活への影響 景気の波と私たちの暮らしの変化（就活、アルバイト、消費行動）などについて理解を深めます	オンデマンド
第10回	⑩仕事の未来図ー変わる働き方と稼ぎ方 多様化する仕事のかたちや収入源（正社員、フリーランス、複業、デジタルワークなど）について理解を深めます。	オンデマンド
第11回	⑪お金の役割と決済の進化ーキャッシュレス社会の経済学 お金の機能と多様化する決済手段やポイントシステムなど、金融テクノロジーの発展について理解を深めます。	オンデマンド
第12回	⑫グローバル経済と私たちの暮らしー世界とのつながり 「円安や円高の影響とは？」身近な輸入品と日本の輸出品、為替レートの影響などについて理解を深めます。	オンデマンド
第13回	⑬総括ーミクロ経済とマクロ経済のまとめ 本講座内容についてまとめを行います。	オンデマンド

事前・事後学修	"事前学修事 講義タイトルに関連する経済ニュースや記事に目を通しておく 各回のテーマに関連する自分の経験や疑問点をメモしておく 指定された参考資料に目を通しておく 事後学修： 講義の要点を自分の言葉でノートにまとめる ミニレポートの作成（講義内容まとめと感想・主張部分） 日常生活の中で講義内容に関連する経済現象を意識的に観察する 講義内で紹介された追加資料や参考文献に目を通す"

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	"以下のABCについて、以下の割合で総合的に評価します。 A（26％）動画内の確認テスト（2点×13回＝26点） B（48％）オンデマンドコンテンツ提出課題（4×12回＝48点） C（26％）毎時間の振り返りレポート（2点×13回＝26点）※課題提出後が条件"
テキスト	特定のテキストは使用せず、講義ごとに必要に応じて資料を配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	井堀利宏『図解 大学4年間の経済学が10時間でざっとまなべる』KADOKAWA, 20216年 田中久稔『大学の人気講義でよく分かる「ミクロ経済学」超入門』SBクリエイティブ, 2022年

備考	本講座の視聴にはPCなどデバイスならびにインターネット環境が必須です。フルオンデマンド授業ということもあり、課題提出等が不十分な場合は欠席扱いとなります。 授業では時事的な話題も取り上げるため、日頃からニュースに触れる習慣をつけると理解が深まります。 特別な配慮が必要な学生は事前に相談してください。

年度	2025
講義名称	生涯学習論[人文・観光]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02301L

担当教員

氏名	所属
◎ 松井 翔惟	大学・人文学部・国際教養学科

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	第一回では、授業内容・方法の説明を行う。また、テキストを配付し、生涯学習理念の概要を説明する。生涯学習理解に関するアンケートを用いて、週ごとに双方向の授業を展開する。	オンデマンド

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	生涯学習論[スポ]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02301L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松井 翔惟	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策，家庭教育・学校教育・社会教育等との関連，専門的職員の役割，学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことを目的とする。 前半では、学校教育や生涯学習に関する考え方が現れてくる国際的な歴史や背景を学び、後半では、日本の戦後を中心に形成されてきた生涯学習の考え方や生涯学習社会の構築の必要性について、制度・施策などと関わらせながら考察する。
到達目標	生涯学習の理念及び生涯学習社会構築の必要性について理解し、説明できる。 さらに、生涯学習に関する制度・行政・施策，家庭教育・学校教育・社会教育等との関連，専門的職員の役割，学習活動への支援等についての理解できる。
授業の進め方	毎回、資料を配布し講義を行う。 毎回の授業に関し、振り返りの課題・感想文を提出することを求める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で説明する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	第一回では、授業内容・方法の説明を行う。また、テキストを配付し、生涯学習理念の概要を説明する。生涯学習理解に関するアンケートを用いて、週ごとに双方向の授業を展開する。	オンデマンド

事前・事後学修	ネットや新聞等のメディアで、生涯学習に関するニュースや記事をチェックしてください。受講後は、自身の経験と結びつけながら講義内容をふりかえり、参考文献を読むなど事後学習が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の提出物（振り返り課題・感想文）30％ 定期試験　70％ これらをめどとして総合的に評価する。
テキスト	テキストは使用せず、授業プリントを配布する。

参考文献	鈴木敏正・朝岡幸彦編著『改訂版 社会教育・生涯学習；自分と世界を変える学び』 エデュアード・リンデマン『成人教育の意味』 牧野篤『社会教育新論；「学び」を再定位する』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、「みらいづくり大学」の実践を通じ、障害の有無にかかわらずともに学ぶ場の創出に取り組んできました。この活動では、インクルーシブな学びの場を構築し、多様性を受け入れる教育の在り方を探求しています。これらの経験を基に、共生社会の実現を目指した学びを提供する講義を展開します。
備考	上記の内容は、秋学期前に調整予定です。

年度	2025
講義名称	地域学【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02208L

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	地域社会の今日的意味を理解するため、わが国の地域社会変動の諸相を明らかにし、現段階における地域社会の特質について検討します。なお、戦前戦後を通じた地域社会と教育との関わりの変化についても把握できるように授業を行います。
到達目標	戦前日本の地域社会、戦後日本の地域政策や地域社会の変化、地域と教育の関連などについて理解ができることを目標とします。
授業の進め方	フルオンデマンド形式で行います。Webclassに各回の授業で用いる動画のURLを表示します。それを使って、視聴して下さい。動画で用いる資料（PDF）はダウンロードできるようにします。 各授業回ごとに、小テスト（確認テスト、アンケート、調べ問題）および受講票を兼ねたリアクションペーパー（感想、意見、質問）の提出を課します。いずれも、提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの正解等およびリアクションペーパーでの質問への回答等については、提出締め切り後にWebclassに掲示します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	1. 地域社会の今日的意味――地域社会の定義と新たな注目 ①地域社会の定義＝地域性と共同性をもつ社会空間 ②地域社会の典型としての都市と農村 ③地域社会の解体化と新たな注目	オンデマンド
第2回	2. 戦前日本の地域社会（1）――農村社会の特質 ①農村社会の特質＝戦前日本の地域社会の基本 a.相対的に自律した領域の存在 b.強い共同性の内包＝「村落共同体」としての内部構造 c.家と家の関係としての共同性＝家連合としての「村落共同体」 d.「村落共同体」の経済的基礎構造――地主・小作関係（高率現物小作料）	オンデマンド
第3回	3. 戦前日本の地域社会（2）――農村社会と都市社会 ②二つの農村社会理論 ③北海道農村の特質 ④点的存在としての都市社会	オンデマンド
第4回	4. 戦前日本の地域社会（3）――地域の教育と15年戦争 ⑤前近代の教育事象の諸相＝地域社会的教育性 ⑥近代における学校と地域社会 ⑦15年戦争（1931～1945年）とその帰結	オンデマンド
第5回	5. 戦後日本の地域政策の展開（1）――戦後農政の展開 ①戦後農政の展開 a.戦後農政の基点 b.基本法農政の展開と農業の変貌――1950～1960年代 c.米の過剰と減反政策――1970～1980年代 d. WTO体制と食料・農業・農村基本法への移行（1990年代） e.消費者・競争力重視の農政展開（2000年～）	オンデマンド

第6回	6. 戦後日本の地域政策の展開（2）――戦後の地域開発政策の展開 ②戦後の地域開発政策の展開 a.地域開発の第1期（1950～1960年）――資源開発と工業開発 b.地域開発の第2期（1961～1973年）――地域格差是正と大規模プロジェクト c.地域開発の第3期（1974～1991年）――安定政策とバブル経済 d.地域開発の第4期（1992～2004年）――平成不況の時代 e.国土形成計画の時代（2005年～）	オンデマンド
第7回	7. 戦後日本の地域社会変動（1）――戦後の人口変動と地域社会 ⑩戦後の人口変動と地域社会 a.出生数・出生率の推移 b.少子高齢化・人口減少社会への移行 c.地域によるばらつき d.産業別就業人口の変化 e.消滅可能性自治体	オンデマンド
第8回	8. 戦後日本の地域社会変動（2）――地域社会類型の変動 ①地域社会変動の様々な捉え方 ②地域社会類型の独自な設定 ③地域社会類型の構成変化 ④地域社会の不均等発展の重層構造 ⑤地域社会類型の変動パターン ⑥地域社会類型の社会的特質 ⑦現代日本の地域社会のマクロな全体構造	オンデマンド
第9回	9. 戦後日本の地域社会変動（3）――過疎地と都市における地域課題 ⑧過疎地と都市における地域課題 a.過疎地における地域課題 b.大都市における地域課題 c.地方都市における地域課題	オンデマンド
第10回	10. 戦後日本の地域社会変動（4）――外国人の受け入れの歴史 ⑨外国人の受け入れの歴史 a.戦前における日本国籍 b.戦前におけるエスニシティの多様性 c.戦後における旧植民地出身者の外国籍化 d.1980年代におけるニューカマーの流入 e.出入国管理及び難民認定法（入管法）の改定	オンデマンド
第11回	11. 戦後日本の地域社会変動（5）――ニューカマーの増加と課題 ⑩ニューカマーの増加と課題 a～f.ニューカマーの推移 g.特定地域への外国人の集住 h.地域生活における外国人とホスト住民 i.行政の対応 j.地域の国際化と教育課題	オンデマンド
第12回	12. 教育の地域性と地域教育性（1）――戦後の教育改革と教育制度の変遷 ⑨戦後の教育改革と教育制度の変遷 a.戦前の学校体系・教育制度の特質 b.戦後の学校体系・学校制度 c.大学制度の変遷	オンデマンド
第13回	13. 教育の地域性と地域教育性（2）――「地域と教育」の変化と現代の課題 ①「地域と教育」の変化 a.戦後「地域と教育」研究の時期区分 b.「地域と教育」問題が地域特性類型でとらえられた時代 c.変動する地域と教育構造把握の時代 d.「地域と学校」再編論の行方 ②現段階の地域における多様な教育課題	オンデマンド

事前・事後学修	【具体的な内容】 配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。 【必要な時間】 事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績 評価 基準 と方 法	オンデマンド形式の授業内で課す小テストとリアクションペーパーの内容により評価します。小テストの解答とリアクションペーパーの提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後、評価の配分は小テスト50％（確認問題1点、アンケート1点、調べ問題2点）、リアクションペーパー50％とします。リアクションペーパーの提出で出席をカウントし、出席回数が3分の2以上を単位修得の条件とします。
テキ スト	教科書は使いません。講義のレジュメ・資料を Webclass を通じて配付します。
参考 文献	小内透『変貌する地域社会の100年』東信堂、2025年 小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年 地域社会学会編『新版キーワード 地域社会学』ハーベスト社、2011年 笹谷春美・吉崎祥司・藤井史朗・小内透編『変動期の社会学』中央法規出版、1992年

年度	2025
講義名称	日本文化演習（書道）[春①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02207S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山中 草叶	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	書道を学ぶことは、東洋における文字文化の歴史性を理解することであり、同時に伝統に込められた芸術、文化への想いを追体験することである。本講座では時代と共に進化した文字の変遷史を臨書して体験し、人生における書の創格や創造の精神に触れる。
到達目標	授業計画に基づいた歴史上の書の基本的な書体や書風を身につけながら、学習を通して得られる臨書法（臨書力）を培いたい。
授業の進め方	講座目的に基づき書の技法を会得しながら、書体の変遷を学び伝統文化の本質を身につける。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の目的に基づき、課題を通し書道の1.基本 2.歴史 3.書道実技を取得する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 資料をもとに書道についてと基本の基本
第2回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘1』
第3回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘2』
第4回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記1』
第5回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記2』
第6回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序1』
第7回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序2』
第8回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序3』
第9回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑1』
第10回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑2』
第11回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文1』
第12回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文2』
第13回	筆記試験・課題臨書（第2回～第12回までの書体から一文字を選択し臨書）

事前・事後学修	【具体的な内容】臨書力を深めるには、授業内容を復習し書体への基本、書風を深めることが重要である。楷・行・隷・篆書にもそれぞれの書風があることをつかみ取ってほしい。実技が主体ではあるが、実技以外には書の鑑賞、書展に足を運ぶことも書の目を養うのには大切である。 【必要な時間】予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎講義の実技課題の提出（65％）内訳：基本書体の理解度30% 古典臨書の理解度20% 書風の理解度15% 筆記試験（35％）方法で評価
テキスト	書道芸術 漢字編（改訂版）」久米東邨編集者 中教出版株式会社
参考文献	「大学書道中国篇」「法帖学書学大系研究篇」「學書せん蹄 比田井天来著」「楷書階梯」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大学の書道講師として指導経験を持つと同時に、書家として技術を深めてきました。また、競書誌の発行人編集長として審査や課題手本の揮毫など、指導業務にも携わり、書道界に貢献してきました。この豊富な経験を基に、実践的かつ具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	各人で準備する書道用具（筆・硯 墨液入れ・文鎮・書道用下敷き・布巾タオル） 教材費として800円程度を徴収（墨液・半紙）

年度	2025
講義名称	日本文化演習（書道）[春②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02207S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山中 草叶	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	書道を学ぶことは、東洋における文字文化の歴史性を理解することであり、同時に伝統に込められた芸術、文化への想いを追体験することである。本講座では時代と共に進化した文字の変遷史を臨書して体験し、人生における書の創格や創造の精神に触れる。
到達目標	授業計画に基づいた歴史上の書の基本的な書体や書風を身につけながら、学習を通して得られる臨書法（臨書力）を培いたい。
授業の進め方	講座目的に基づき書の技法を会得しながら、書体の変遷を学び伝統文化の本質を身につける。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の目的に基づき、課題を通し書道の1.基本 2.歴史 3.書道実技を取得する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 資料をもとに書道についてと基本の基本
第2回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘1』
第3回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘2』
第4回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記1』
第5回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記2』
第6回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序1』
第7回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序2』
第8回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序3』
第9回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑1』
第10回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑2』
第11回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文1』
第12回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文2』
第13回	筆記試験・課題臨書（第2回～第12回までの書体から一文字を選択し臨書）

事前・事後学習	【具体的な内容】臨書力を深めるには、授業内容を復習し書体への基本、書風を深めることが重要である。楷・行・隷・篆書にもそれぞれの書風があることをつかみ取ってほしい。実技が主体ではあるが、実技以外には書の鑑賞、書展に足を運ぶことも書の目を養うのには大切である。 【必要な時間】予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎講義の実技課題の提出（65％）内訳：基本書体の理解度30% 古典臨書の理解度20% 書風の理解度15% 筆記試験（35％）方法で評価
テキスト	書道芸術 漢字編（改訂版）」久米東邨編集者 中教出版株式会社
参考文献	「大学書道中国篇」「法帖学書学大系研究篇」「學書せん蹄 比田井天来著」「楷書階梯」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大学の書道講師として指導経験を持つと同時に、書家として技術を深めてきました。また、競書誌の発行人編集長として審査や課題手本の揮毫など、指導業務にも携わり、書道界に貢献してきました。この豊富な経験を基に、実践的かつ具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	各人で準備する書道用具（筆・硯 墨液入れ・文鎮・書道用下敷き・布巾タオル） 教材費として800円程度を徴収（墨液・半紙）

年度	2025
講義名称	日本文化演習（書道）[秋①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02207S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山中 草叶	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	書道を学ぶことは、東洋における文字文化の歴史性を理解することであり、同時に伝統に込められた芸術、文化への想いを追体験することである。本講座では時代と共に進化した文字の変遷史を臨書して体験し、人生における書の創格や創造の精神に触れる。
到達目標	授業計画に基づいた歴史上の書の基本的な書体や書風を身につけながら、学習を通して得られる臨書法（臨書力）を培いたい。
授業の進め方	講座目的に基づき書の技法を会得しながら、書体の変遷を学び伝統文化の本質を身につける。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の目的に基づき、課題を通し書道の1.基本 2.歴史 3.書道実技を取得する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 資料をもとに書道についてと基本の基本
第2回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘1』
第3回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘2』
第4回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記1』
第5回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記2』
第6回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序1』
第7回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序2』
第8回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序3』
第9回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑1』
第10回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑2』
第11回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文1』
第12回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文2』
第13回	筆記試験・課題臨書（第2回～第12回までの書体から一文字を選択し臨書）

事前・事後学修	【具体的な内容】臨書力を深めるには、授業内容を復習し書体への基本、書風を深めることが重要である。楷・行・隷・篆書にもそれぞれの書風があることをつかみ取ってほしい。実技が主体ではあるが、実技以外には書の鑑賞、書展に足を運ぶことも書の目を養うのには大切である。 【必要な時間】予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎講義の実技課題の提出（65％）内訳：基本書体の理解度30% 古典臨書の理解度20% 書風の理解度15% 筆記試験（35％）方法で評価
テキスト	書道芸術 漢字編（改訂版）」久米東邨編集者 中教出版株式会社
参考文献	「大学書道中国篇」「法帖学書学大系研究篇」「學書せん蹄 比田井天来著」「楷書階梯」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大学の書道講師として指導経験を持つと同時に、書家として技術を深めてきました。また、競書誌の発行人編集長として審査や課題手本の揮毫など、指導業務にも携わり、書道界に貢献してきました。この豊富な経験を基に、実践的かつ具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	各人で準備する書道用具（筆・硯 墨液入れ・文鎮・書道用下敷き・布巾タオル） 教材費として800円程度を徴収（墨液・半紙）

年度	2025
講義名称	日本文化演習（書道）[秋②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02207S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山中 草叶	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	書道を学ぶことは、東洋における文字文化の歴史性を理解することであり、同時に伝統に込められた芸術、文化への想いを追体験することである。本講座では時代と共に進化した文字の変遷史を臨書して体験し、人生における書の創格や創造の精神に触れる。
到達目標	授業計画に基づいた歴史上の書の基本的な書体や書風を身につけながら、学習を通して得られる臨書法（臨書力）を培いたい。
授業の進め方	講座目的に基づき書の技法を会得しながら、書体の変遷を学び伝統文化の本質を身につける。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の目的に基づき、課題を通し書道の1.基本 2.歴史 3.書道実技を取得する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 資料をもとに書道についてと基本の基本
第2回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘1』
第3回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醴泉銘2』
第4回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記1』
第5回	楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛ヶつ造像記2』
第6回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序1』
第7回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序2』
第8回	行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序3』
第9回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑1』
第10回	隷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑2』
第11回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文1』
第12回	古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文2』
第13回	筆記試験・課題臨書（第2回～第12回までの書体から一文字を選択し臨書）

事前・事後学修	【具体的な内容】臨書力を深めるには、授業内容を復習し書体への基本、書風を深めることが重要である。楷・行・隷・篆書にもそれぞれの書風があることをつかみ取ってほしい。実技が主体ではあるが、実技以外には書の鑑賞、書展に足を運ぶことも書の目を養うのには大切である。 【必要な時間】予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎講義の実技課題の提出（65％）内訳：基本書体の理解度30% 古典臨書の理解度20% 書風の理解度15% 筆記試験（35％）方法で評価
テキスト	書道芸術 漢字編（改訂版）」久米東邨編集者 中教出版株式会社
参考文献	「大学書道中国篇」「法帖学書学大系研究篇」「學書せん蹄 比田井天来著」「楷書階梯」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大学の書道講師として指導経験を持つと同時に、書家として技術を深めてきました。また、競書誌の発行人編集長として審査や課題手本の揮毫など、指導業務にも携わり、書道界に貢献してきました。この豊富な経験を基に、実践的かつ具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	各人で準備する書道用具（筆・硯 墨液入れ・文鎮・書道用下敷き・布巾タオル） 教材費として800円程度を徴収（墨液・半紙）

年度	2025
講義名称	日本文化演習（華道）[春]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02206S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 柏葉 弥生	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	華道は長い歴史に培われた日本独自の美意識から生まれた『花の芸術』です。 本講座では、＜和の心＞をキーワードにして、華道の基礎理論の理解と基礎技法の習得をめざします。 講義と自由花の作品制作の実習を段階的、かつ繰り返し行うことで日本の美意識をより深く理解し、自由花を生ける際の美の設定を明確にすることができるようになります。
到達目標	伝統文化としてのいけばなの歴史、基本を理解する。 明確な「美の設定」を行い、魅力ある自由花作品をめざす。
授業の進め方	華道概論の講義と講師によるデモンストレーションからはじめます。 その後、華道実習(講義・8回の自由花作品制作と作品録作成)を繰り返すことで理解を深めてゆきます。 また、2つのテスト（デザインプラン・確認テスト）、4つのレポート（初回・花展・映画・最終）で習熟度の評価チェックを行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生は実習後に作品録を作成し、自己作品の分析・評価を行い提出します。 講師は個別手直しと総評および質疑応答を行います。 テストやレポートについては、授業内で模範解答例を具体的に解説し総評をします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・ガイダンス（授業の進め方）～華道とは ・池坊ホームページ等の動画参照	対面
第2回	・講義：華道概論-華道の歴史と様式・自由花の構成 ・自由花：デモンストレーション	対面
第3回	講義と自由花制作実習(1)準備 花材・道具の使い方、稽古の手順とマナー ・作品録の作成	対面
第4回	・講義と自由花制作実習(2)なびく花/縦の花 ・作品録の作成	対面
第5回	・講義と自由花制作実習(3)横の花 ・作品録の作成	対面
第6回	・講義と自由花制作実習(4)面の花 ・作品録の作成	対面
第7回	・講義と自由花制作実習(5)テクニック：テーピング・ワイヤーリング ・作品録の作成	対面
第8回	・講義 池坊映画「花戦さ」に係わる歴史背景、専門用語の説明 ・「花戦さ」前編鑑賞	対面orオンデマンド

第9回	・「花戦さ」後編鑑賞 ・池坊札幌花展作品鑑賞（画像）とレポート	対面orオンデマンド
第10回	・講義と自由花制作実習(6)構成要素と立体構成その1 ・作品録の作成	対面
第11回	・講義と自由花制作実習(7)構成要素と立体構成その2：変形花器 ・作品録の作成	対面
第12回	講義と自由花制作実習(8)遊心制作	対面
第13回	授業内試験 全体のまとめと振り返り 華道を履修して得た知識 ・テスト（デザインプラン） ・最終レポート ・確認テスト	対面

事前・事後学修	事前：テキストを使用し予習したうえで授業に臨んでください。 日常の生活の中で目に入る植物の姿を観察しよう心掛けてください。 日常で目に入る植物を観察し、作品デザインをイメージできるようになる事が望ましい。 事後：作品デッサン（デッサンに彩色し、より作品イメージを高める。） 構成、技法などの分析を記録し画像と一緒に作品録としてまとめます。 予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	華道実習及び作品録の提出 8回 40% 小テスト 2回 20% 課題(レポート) 4回 40%
テキスト	『はじめるいけばな学校華道』 監修:池坊 専永 発行所:日本華道社 800円＋税
参考文献	いけばな池坊 歴史読本 発行者：池坊雅史 発行所:日本華道社 1,000円＋税 池坊 ホームページ https://www.ikenobo.jp いけばな歴史年表（池坊からの無料配布物）

実務経験のある教員の有無

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、華道家元池坊の特別会員として子弟の指導に携わり、さらに池坊札幌支部青年部部長として花展の実施や関係各所との交渉を経験しました。学校華道の担当として専門学校生や大学生への指導も行い、いけばなの技術と文化の教育に力を注いでいます。これらの豊富な経験を基に、華道の歴史や実技を融合した学びを提供する講義を展開します。
備 考	教材費合計＝7,350円（花材870円税込×8回＝6,960円税込+花袋390円税込）※多少変更の可能性あり 履修定員は40名。定員超過の場合は抽選にて決定。 道具（刃物・剣山・割れ物の花器）を使用するので、教室内では落ち着いて行動してください。

年度	2025
講義名称	日本文化演習（華道）[秋①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02206S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 柏葉 弥生	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	華道は長い歴史に培われた日本独自の美意識から生まれた『花の芸術』です。 本講座では、＜和の心＞をキーワードにして、華道の基礎理論の理解と基礎技法の習得をめざします。 講義と自由花の作品制作の実習を段階的、かつ繰り返し行うことで日本の美意識をより深く理解し、自由花を生ける際の美の設定を明確にすることができるようになります。
到達目標	伝統文化としてのいけばなの歴史、基本を理解する。 明確な「美の設定」を行い、魅力ある自由花作品をめざす。
授業の進め方	華道概論の講義と講師によるデモンストレーションからはじめます。 その後、華道実習(講義・8回の自由花作品制作と作品録作成)を繰り返すことで理解を深めてゆきます。 また、2つのテスト（デザインプラン・確認テスト）、4つのレポート（初回・花展・映画・最終）で習熟度の評価チェックを行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生は実習後に作品録を作成し、自己作品の分析・評価を行い提出します。 講師は個別手直しと総評および質疑応答を行います。 テストやレポートについては、授業内で模範解答例を具体的に解説し総評をします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・ガイダンス（授業の進め方）～華道とは ・池坊ホームページ等の動画参照	対面
第2回	・講義：華道概論-華道の歴史と様式・自由花の構成 ・自由花：デモンストレーション	対面
第3回	講義と自由花制作実習(1)準備 花材・道具の使い方、稽古の手順とマナー ・作品録の作成	対面
第4回	・講義と自由花制作実習(2)なびく花/縦の花 ・作品録の作成	対面
第5回	・講義と自由花制作実習(3)横の花 ・作品録の作成	対面
第6回	・講義と自由花制作実習(4)面の花 ・作品録の作成	対面
第7回	・講義と自由花制作実習(5)テクニック：テーピング・ワイヤーリング ・作品録の作成	対面
第8回	・講義 池坊映画「花戦さ」に係わる歴史背景、専門用語の説明 ・「花戦さ」前編鑑賞	対面orオンデマンド

第9回	・「花戦さ」後編鑑賞 ・池坊札幌花展作品鑑賞（画像）とレポート	対面orオンデマンド
第10回	・講義と自由花制作実習(6)構成要素と立体構成その1 ・作品録の作成	対面
第11回	・講義と自由花制作実習(7)構成要素と立体構成その2：変形花器 ・作品録の作成	対面
第12回	講義と自由花制作実習(8)遊心制作	対面
第13回	授業内試験 全体のまとめと振り返り 華道を履修して得た知識 ・テスト（デザインプラン） ・最終レポート ・確認テスト	対面

事前・事後学修	事前：テキストを使用し予習したうえで授業に臨んでください。 日常の生活の中で目に入る植物の姿を観察しよう心掛けてください。 日常で目に入る植物を観察し、作品デザインをイメージできるようになる事が望ましい。 事後：作品デッサン（デッサンに彩色し、より作品イメージを高める。） 構成、技法などの分析を記録し画像と一緒に作品録としてまとめます。 予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	華道実習及び作品録の提出 8回 40% 小テスト 2回 20% 課題(レポート) 4回 40%
テキスト	『はじめるいけばな学校華道』 監修:池坊 専永 発行所:日本華道社 800円＋税
参考文献	いけばな池坊 歴史読本 発行者：池坊雅史 発行所:日本華道社 1,000円＋税 池坊 ホームページ https://www.ikenobo.jp いけばな歴史年表（池坊からの無料配布物）

実務経験のある教員の有無

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、華道家元池坊の特別会員として子弟の指導に携わり、さらに池坊札幌支部青年部部長として花展の実施や関係各所との交渉を経験しました。学校華道の担当として専門学校生や大学生への指導も行い、いけばなの技術と文化の教育に力を注いでいます。これらの豊富な経験を基に、華道の歴史や実技を融合した学びを提供する講義を展開します。
備 考	教材費合計＝7,350円（花材870円税込×8回＝6,960円税込+花袋390円税込）※多少変更の可能性あり 履修定員は40名。定員超過の場合は抽選にて決定。 道具（刃物・剣山・割れ物の花器）を使用するので、教室内では落ち着いて行動してください。

年度	2025
講義名称	日本文化演習（華道）[秋②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02206S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 柏葉 弥生	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	華道は長い歴史に培われた日本独自の美意識から生まれた『花の芸術』です。 本講座では、＜和の心＞をキーワードにして、華道の基礎理論の理解と基礎技法の習得をめざします。 講義と自由花の作品制作の実習を段階的、かつ繰り返し行うことで日本の美意識をより深く理解し、自由花を生ける際の美の設定を明確にすることができます。
到達目標	伝統文化としてのいけばなの歴史、基本を理解する。 明確な「美の設定」を行い、魅力ある自由花作品をめざす。
授業の進め方	華道概論の講義と講師によるデモンストレーションからはじめます。 その後、華道実習(講義・8回の自由花作品制作と作品録作成)を繰り返すことで理解を深めてゆきます。 また、2つのテスト（デザインプラン・確認テスト）、4つのレポート（初回・花展・映画・最終）で習熟度の評価チェックを行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生は実習後に作品録を作成し、自己作品の分析・評価を行い提出します。 講師は個別手直しと総評および質疑応答を行います。 テストやレポートについては、授業内で模範解答例を具体的に解説し総評をします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・ガイダンス（授業の進め方）～華道とは ・池坊ホームページ等の動画参照	対面
第2回	・講義：華道概論-華道の歴史と様式・自由花の構成 ・自由花：デモンストレーション	対面
第3回	講義と自由花制作実習(1)準備 花材・道具の使い方、稽古の手順とマナー ・作品録の作成	対面
第4回	・講義と自由花制作実習(2)なびく花/縦の花 ・作品録の作成	対面
第5回	・講義と自由花制作実習(3)横の花 ・作品録の作成	対面
第6回	・講義と自由花制作実習(4)面の花 ・作品録の作成	対面
第7回	・講義と自由花制作実習(5)テクニック：テーピング・ワイヤーリング ・作品録の作成	対面
第8回	・講義 池坊映画「花戦さ」に係わる歴史背景、専門用語の説明 ・「花戦さ」前編鑑賞	対面orオンデマンド

第9回	・「花戦さ」後編鑑賞 ・池坊札幌花展作品鑑賞（画像）とレポート	対面orオンデマンド
第10回	・講義と自由花制作実習(6)構成要素と立体構成その1 ・作品録の作成	対面
第11回	・講義と自由花制作実習(7)構成要素と立体構成その2：変形花器 ・作品録の作成	対面
第12回	講義と自由花制作実習(8)遊心制作	対面
第13回	授業内試験 全体のまとめと振り返り 華道を履修して得た知識 ・テスト（デザインプラン） ・最終レポート ・確認テスト	対面

事前・事後学修	事前：テキストを使用し予習したうえで授業に臨んでください。 日常の生活の中で目に入る植物の姿を観察しよう心掛けてください。 日常で目に入る植物を観察し、作品デザインをイメージできるようになる事が望ましい。 事後：作品デッサン（デッサンに彩色し、より作品イメージを高める。） 構成、技法などの分析を記録し画像と一緒に作品録としてまとめます。 予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	華道実習及び作品録の提出 8回 40% 小テスト 2回 20% 課題(レポート) 4回 40%
テキスト	『はじめるいけばな学校華道』 監修:池坊 専永 発行所:日本華道社 800円＋税
参考文献	いけばな池坊 歴史読本 発行者：池坊雅史 発行所:日本華道社 1,000円＋税 池坊 ホームページ https://www.ikenobo.jp いけばな歴史年表（池坊からの無料配布物）

実務経験のある教員の有無

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、華道家元池坊の特別会員として子弟の指導に携わり、さらに池坊札幌支部青年部部長として花展の実施や関係各所との交渉を経験しました。学校華道の担当として専門学校生や大学生への指導も行い、いけばなの技術と文化の教育に力を注いでいます。これらの豊富な経験を基に、華道の歴史や実技を融合した学びを提供する講義を展開します。
備 考	教材費合計＝7,350円（花材870円税込×8回＝6,960円税込+花袋390円税込）※多少変更の可能性あり 履修定員は40名。定員超過の場合は抽選にて決定。 道具（刃物・剣山・割れ物の花器）を使用するので、教室内では落ち着いて行動してください。

年度	2025
講義名称	日本文化演習（茶道）[春①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02205S

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	茶道とは何だろうか。点前とは何だろうか。最低限の道具を使って、略盆の点前を習いながら、点前の意味、茶道の意味を学んでいきます。
到達目標	茶道とは何かということについてある程度の説明ができるようになること。 抹茶を点てることができるようになること。
授業の進め方	点前に関しては、実習です。基本動作を繰り返して、身につけます。 講義部分では茶道を学ぶ上で常識としてほしい内容を学びます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は振り返りながら進みます。それぞれが独立しているわけではなく、関連しているということを意識して下さい。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・道具の説明・座すということ・道具の引き渡し（菓子） 茶道の道具について説明をし、正座をすること、菓子の出し方などについて学ぶ。
第2回	茶を点じてみる/基本の手順 抹茶の点て方についての手順を学び、それをいただく手順についても学ぶ。
第3回	茶巾の畳方と扱い/袱紗の扱い 茶巾の畳方や袱紗の扱いについて学ぶ。
第4回	茶筌の扱い 茶筌通しや茶の点て方についての割り稽古を行う。
第5回	通しで手前をしてみる 今までの割り稽古でしてきたことを繋げて通して手前をしてみる。
第6回	実技テスト 茶を点てるテストを行う。
第7回	茶の歴史について 茶の歴史について学ぶ
第8回	禅語について 茶道に必要な禅語の知識を学ぶ。
第9回	茶道具について 茶道具について学ぶ
第10回	菓子について いろいろな菓子について学ぶ
第11回	利休七則について 茶の湯で最も心得ておくべきことについて学ぶ

第12回	茶道から何を学ぶか、何を楽しむのか 茶道を通じて何を学ぶのか、どういうことを楽しむのかを学ぶ
第13回	現代社会と茶道、授業内レポート 現代社会における茶道の意義について学ぶ。まとめのレポート作成をする。

事前・事後学修	事前・事後学修については、各5時間くらいが必要である。具体的には、事前は茶道について調べる、事後については授業の振り返りを行う。実技については、繰り返し練習することが必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実技試験 50%、まとめのレポート 50%
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。

備考	裏千家茶道の作法で授業を展開します。

年度	2025
講義名称	日本文化演習（茶道）[春②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02205S

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	茶道とは何だろうか。点前とは何だろうか。最低限の道具を使って、略盆の点前を習いながら、点前の意味、茶道の意味を学んでいきます。
到達目標	茶道とは何かということについてある程度の説明ができるようになること。 抹茶を点てることができるようになること。
授業の進め方	点前に関しては、実習です。基本動作を繰り返して、身につけます。 講義部分では茶道を学ぶ上で常識としてほしい内容を学びます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は振り返りながら進みます。それぞれが独立しているわけではなく、関連しているということを意識して下さい。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・道具の説明・座すということ・道具の引き渡し（菓子） 茶道の道具について説明をし、正座をすること、菓子の出し方などについて学ぶ。
第2回	茶を点じてみる/基本の手順 抹茶の点て方についての手順を学び、それをいただく手順についても学ぶ。
第3回	茶巾の畳方と扱い/袱紗の扱い 茶巾の畳方や袱紗の扱いについて学ぶ。
第4回	茶筌の扱い 茶筌通しや茶の点て方についての割り稽古を行う。
第5回	通しで手前をしてみる 今までの割り稽古でしてきたことを繋げて通して手前をしてみる。
第6回	実技テスト 茶を点てるテストを行う。
第7回	茶の歴史について 茶の歴史について学ぶ
第8回	禅語について 茶道に必要な禅語の知識を学ぶ。
第9回	茶道具について 茶道具について学ぶ
第10回	菓子について いろいろな菓子について学ぶ
第11回	利休七則について 茶の湯で最も心得ておくべきことについて学ぶ

第12回	茶道から何を学ぶか、何を楽しむのか 茶道を通じて何を学ぶのか、どういふことを楽しむのかを学ぶ
第13回	現代社会と茶道、授業内レポート 現代社会における茶道の意義について学ぶ。まとめのレポート作成をする。

事前・事後学修	事前・事後学修については、各5時間くらいが必要である。具体的には、事前は茶道について調べる、事後については授業の振り返りを行う。実技については、繰り返し練習することが必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実技試験 50%、まとめのレポート 50%
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。

備考	裏千家茶道の作法で授業を展開します。

年度	2025
講義名称	日本文化演習（茶道）[秋①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02205S

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	茶道とは何だろうか。点前とは何だろうか。最低限の道具を使って、略盆の点前を習いながら、点前の意味、茶道の意味を学んでいきます。
到達目標	茶道とは何かということについてある程度の説明ができるようになること。 抹茶を点てることができるようになること。
授業の進め方	点前に関しては、実習です。基本動作を繰り返して、身につけます。 講義部分では茶道を学ぶ上で常識としてほしい内容を学びます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は振り返りながら進みます。それぞれが独立しているわけではなく、関連しているということを意識して下さい。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・道具の説明・座すということ・道具の引き渡し（菓子） 茶道の道具について説明をし、正座をすること、菓子の出し方などについて学ぶ。
第2回	茶を点じてみる/基本の手順 抹茶の点て方についての手順を学び、それをいただく手順についても学ぶ。
第3回	茶巾の畳方と扱い/袱紗の扱い 茶巾の畳方や袱紗の扱いについて学ぶ。
第4回	茶筌の扱い 茶筌通しや茶の点て方についての割り稽古を行う。
第5回	通しで手前をしてみる 今までの割り稽古でしてきたことを繋げて通して手前をしてみる。
第6回	実技テスト 茶を点てるテストを行う。
第7回	茶の歴史について 茶の歴史について学ぶ
第8回	禅語について 茶道に必要な禅語の知識を学ぶ。
第9回	茶道具について 茶道具について学ぶ
第10回	菓子について いろいろな菓子について学ぶ
第11回	利休七則について 茶の湯で最も心得ておくべきことについて学ぶ

第12回	茶道から何を学ぶか、何を楽しむのか 茶道を通じて何を学ぶのか、どういうことを楽しむのかを学ぶ
第13回	現代社会と茶道、授業内レポート 現代社会における茶道の意義について学ぶ。まとめのレポート作成をする。

事前・事後学修	事前・事後学修については、各5時間くらいが必要である。具体的には、事前は茶道について調べる、事後については授業の振り返りを行う。実技については、繰り返し練習することが必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実技試験 50%、まとめのレポート 50%
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。

備考	裏千家茶道の作法で授業を展開します。

年度	2025
講義名称	日本文化演習（茶道）[秋②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02205S

担当教員

氏名	所属
◎ 和久野 みゆき	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	茶道について、盆略点前を学びながら茶道・点前の意味を学ぶ。
到達目標	裏千家入門点前である盆略点前と客の所作を修得する。
授業の進め方	茶道の歴史や道具などについての講義と点前の割稽古、盆略点前の実技

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業時間内に確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーションと茶道に関する講義	対面・講義
第2回	茶道に関する講義・茶花について	対面 講義と実技
第3回	茶道に関する講義と道具の引き渡し	講義と実技
第4回	茶道に関する講義と割稽古	対面 講義と実技
第5回	茶道に関する講義と割稽古	対面 講義と実技
第6回	茶道に関する講義と割稽古	対面 講義と実技
第7回	茶道に関する講義と盆略点前	対面 講義と実技
第8回	茶道に関する講義と盆略点前	講義と実技
第9回	茶道に関する講義と盆略点前	対面 講義と実技
第10回	茶道に関する講義と盆略点前	対面 講義と実技
第11回	茶会の実施	対面 実技
第12回	講義内容の試験と実技試験	対面 試験
第13回	講義内容の試験と実技試験	対面 試験

事前・事後学修	なし

成績評価基準と方法	講義内容に関する試験と実技試験の実施
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅳ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02125L

担当教員

氏名	所属
◎ 韓 然善	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、「韓国語Ⅲ」に続く中級レベルの学習として、ビジネスや接客、発表の場で使用される語彙や文法表現を中心に習得することを目的とします。仕事の中で通用する実践的な韓国語表現を学び、話す・聞く・読む・書くの4技能をバランスよく向上させます。特に、会話の練習を重ねることでスピーングスキルを磨き、さらに職場で求められる作文スキルの向上も目指します。 授業の概要 本授業では、韓国語中級レベルの語彙や文法を学習し、実務に役立つ表現を中心に習得します。教師やクラスメイトとの練習を通じて、実際のビジネスシーンや接客の場面を想定した会話を繰り返し、自然なkコミュニケーション能力を養います。また、リスニングやリーディングの強化に加え、仕事で求められるメールや報告書の作成など、実践的な作文スキルも習得します。最終的には、ビジネスや専門的な場面で適切に韓国語を使用できる能力を身につけることを目指します。
到達目標	・電話対応や接客などのビジネスシーンで適切な韓国語表現を使いこなせるようになる。 ・接客に対応できる会話スキルを習得し、自分の考えを的確に伝えられるようになる。 ・エントリーシートやビジネス文書を適切に作成できるライティング能力を身につける。 ・実践的な韓国語の運用能力を高め、仕事の場で自信を持って対応できるようになる。
授業の進め方	授業はテキストに沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 また、実践的なスキルを身につけるために、「ディスカッション」や「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れ、学んだ文法や表現を実際の会話や作文に応用できるようにします。 ロールプレイや実践的な課題を通じて、ビジネスや接客などの場面で適切に韓国語を使う力を養います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・本授業についての説明 第7課 「…したことがある」「…ている」	対面
第2回	第7課 不規則活用、本文・復習	対面
第3回	第8課 「…している」「…ので」	対面
第4回	第8課 「…しますね」本文・復習	対面
第5回	第9課 「…けど」、「…てもいい」	対面
第6回	第9課 不規則活用、本文・復習	対面
第7回	第7課～第9課のまとめ 第10課 意思・推量、「…んですよ」	対面
第8回	第10課 「…しなければならない」、本文・復習	対面
第9回	第11課 「…であらうか」「…してみる」	対面

第10回	第11課 「…できる」、本文・復習	対面
第11回	第12課 「…するようだ」「…しように思う」	対面
第12回	12課 禁止の表現、本文・復習	対面
第13回	第10課～12課のまとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。
テキスト	『韓国語の世界へ 初中級編三訂版』李潤玉他、朝日出版社 ※旧バージョンも使用可能です。
参考文献	なし

備考	- 授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習をした上で授業に参加してください。 「韓国語Ⅲ」を修得した後に履修可能です。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅲ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02124L

担当教員

氏名	所属
◎ 韓 然善	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	授業の目標 本授業は、「韓国語Ⅱ」を学んだ内容を発展させ、韓国語の初中級レベルの文法や表現を習得し、日常会話で実践的に活用できる力を養うことを目標とします。 また、日本語と韓国語を関連付けて比較しながら、両言語の特徴を理解し、より深い言語知識を身につけます。 韓国語の表現力をさらに向上させ、さまざまなシチュエーションで適切に会話できる能力を伸ばします。 授業の概要 本授業では、韓国語の初中級レベルの文法や語彙を学び、日常生活で使える会話表現を身につけます。 日本語との比較を通じて、韓国語の構造や特徴を理解し、幅広い言語知識として習得します。 授業では、講義や演習を通じて、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの4技能のバランスの取れた学習を進めます。 特に、実際の会話場面を想定した練習を取り入れ、適切な表現を使いこなす力を強化します。 最終的には、習得した知識とスキルを活かし、適切なコミュニケーションが取れるかを評価します。
到達目標	・初中級レベルの韓国語の文法や表現を習得し、日常会話で適切に活用できるようになる。 ・日本語と韓国語を比較しながら両言語の特徴を理解し、言語に対する幅広い知識を身につける。 ・より洗練された韓国語の表現や構文を習得し、自然なコミュニケーションができるようになる。 ・様々なシチュエーションに応じた適切な会話表現を使いこなせるようになる。
授業の進め方	授業はテキストに沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 また、「ディスカッション」や「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れ、学んだ文法や表現を実際の会話の中で活用できるようにします。 ペアワークやロールプレイを通じて、実践的なコミュニケーション能力の向上を図ります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	対面、メール、またはWebClassを通じてフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・本授業についての説明 韓国語Ⅱの復習	対面
第2回	第1課 へヨ体の作り方・ハムダ体の作り方	対面
第3回	第2課 「…するつもりです」「…して」	対面
第4回	第2課 「…でしょう」、本文・復習	対面
第5回	第3課 「…だけど」、連体形①	対面
第6回	第3課 「…してあげる・くれる」、本文・復習 第1課～第3課のまとめ	対面
第7回	第4課 「…れば」、連体形②	対面
第8回	第4課 否定表現、本文・復習	対面

2025/04/01

第9回	第5課 連体形③、「…ですね」	対面
第10回	第5課 不規則活用、本文・復習	対面
第11回	第6課 敬語、理由・原因	対面
第12回	第6課 連体形④、本文・復習	対面
第13回	第4課～第6課 まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：40% 授業への参加度：10%
テキスト	『韓国語の世界へ 初中級編三訂版』李潤玉他、朝日出版社 ※旧バージョンも使用可能です。
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習をした上で授業に参加してください。 ・「韓国語II」を修得した後に履修可能です。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅱ[人文]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02123L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は「韓国語Ⅰ」の学習を発展させ、基礎文法を活用しながら作文や日常会話に応用できる力を養う初級レベルの科目です。 韓国語の文法体系を理解し、語彙を増やしながら短い文章を作る練習を行い、作文力と会話力の向上を目指します。 また、日常会話で頻繁に使用される表現を習得し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけることで、実践的な韓国語の運用能力を高めます。 授業の概要 授業では、基礎的な文法や表現を学びながら、実際に使える韓国語を習得することを目標とします。 短文作文や会話練習を通じて、学習した知識を実践的に応用し、自分の考えを韓国語で表現する力を養います。 また、リスニングやリーディングのトレーニングを取り入れ、外国語学習者に求められる総合的な言語スキルを向上させます。 学習した文法や表現を実際の作文や会話に活かせるかを重視し、習得の進捗を評価します。
到達目標	・韓国語の基礎文法を理解し、正しく運用できるようになる。 ・学習した文法や語彙を活用し、日常会話で適切に表現できる。 ・短い文章を作成し、自分の考えを韓国語で使える力を養う。 ・「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく向上させ、実践的な韓国語の運用能力を身につける。
授業の進め方	授業はテキストに沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 また、学習した文法や表現を実践的に活用できるよう、「ディスカッション」や「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。 ペアワークやロールプレイを通じて、日常会話で自然に使える表現を身につけることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたはWebClassを通じてフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 韓国語Ⅰの復習/自己紹介 漢数詞	対面
第2回	「に」「います・いません」 本文・復習	対面
第3回	「へヨ体」①、「を」	対面
第4回	「も」 本文・復習	対面
第5回	「へヨ体」①、「で」	対面
第6回	「に」 本文・復習	対面
第7回	「へヨ体」③「で」「から～まで」	対面

第8回	固有数詞 本文・復習	対面
第9回	「へヨ体」④・へヨ体のまとめ	対面
第10回	「しに」「から～まで」 本文・復習	対面
第11回	過去形・不規則活用	対面
第12回	否定表現、敬語 本文・復習	対面
第13回	「つもりです」「したいです」 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味を調べるなど、しっかりと予習を行ってください。 また、前回の授業内容を振り返り、学習した単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50％ 小テスト：40％ 授業への参加度：10％
テキスト	『四訂版・韓国語の世界へ入門編』朝日出版社 ※旧バージョンも使用可能です。
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行い、準備を整えた上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅰ」と同時に履修することはできません。 ・「韓国語Ⅰ」を修得した後に履修可能です。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅱ[観光・スポ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02123L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は「韓国語Ⅰ」の学習を発展させ、基礎文法を活用しながら作文や日常会話に応用できる力を養う初級レベルの科目です。 韓国語の文法体系を理解し、語彙を増やしながら短い文章を作る練習を行い、作文力と会話力の向上を目指します。 また、日常会話で頻繁に使用される表現を習得し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけることで、実践的な韓国語の運用能力を高めます。 授業の概要 授業では、基礎的な文法や表現を学びながら、実際に使える韓国語を習得することを目標とします。 短文作文や会話練習を通じて、学習した知識を実践的に応用し、自分の考えを韓国語で表現する力を養います。 また、リスニングやリーディングのトレーニングを取り入れ、外国語学習者に求められる総合的な言語スキルを向上させます。 学習した文法や表現を実際の作文や会話に活かせるかを重視し、習得の進捗を評価します。
到達目標	・韓国語の基礎文法を理解し、正しく運用できるようになる。 ・学習した文法や語彙を活用し、日常会話で適切に表現できる。 ・短い文章を作成し、自分の考えを韓国語で使える力を養う。 ・「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく向上させ、実践的な韓国語の運用能力を身につける。
授業の進め方	授業はテキストに沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 また、学習した文法や表現を実践的に活用できるよう、「ディスカッション」や「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。 ペアワークやロールプレイを通じて、日常会話で自然に使える表現を身につけることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたはWebClassを通じてフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 韓国語Ⅰの復習/自己紹介 漢数詞	対面
第2回	「に」「います・いません」 本文・復習	対面
第3回	「へヨ体」①、「を」	対面
第4回	「も」 本文・復習	対面
第5回	「へヨ体」①、「で」	対面
第6回	「に」 本文・復習	対面
第7回	「へヨ体」③「で」「から～まで」	対面

第8回	固有数詞 本文・復習	対面
第9回	「へヨ体」④・へヨ体のまとめ	対面
第10回	「しに」「から～まで」 本文・復習	対面
第11回	過去形・不規則活用	対面
第12回	否定表現、敬語 本文・復習	対面
第13回	「つもりです」「したいです」 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味を調べるなど、しっかりと予習を行ってください。 また、前回の授業内容を振り返り、学習した単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50％ 小テスト：40％ 授業への参加度：10％
テキスト	『四訂版・韓国語の世界へ入門編』朝日出版社 ※旧バージョンも使用可能です。
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行い、準備を整えた上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅰ」と同時に履修することはできません。 ・「韓国語Ⅰ」を修得した後に履修可能です。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅱ[2年]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02123L

担当教員

氏名	所属
◎ 韓 然善	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は「韓国語Ⅰ」の学習を発展させ、基礎文法を活用しながら作文や日常会話に応用できる力を養う初級レベルの科目です。 韓国語の文法体系を理解し、語彙を増やしながら短い文章を作る練習を行い、作文力と会話力の向上を目指します。 また、日常会話で頻繁に使用される表現を習得し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけることで、実践的な韓国語の運用能力を高めます。 授業の概要 授業では、基礎的な文法や表現を学びながら、実際に使える韓国語を習得することを目標とします。 短文作文や会話練習を通じて、学習した知識を実践的に応用し、自分の考えを韓国語で表現する力を養います。 また、リスニングやリーディングのトレーニングを取り入れ、外国語学習者に求められる総合的な言語スキルを向上させます。 学習した文法や表現を実際の作文や会話に活かせるかを重視し、習得の進捗を評価します。
到達目標	・韓国語の基礎文法を理解し、正しく運用できるようになる。 ・学習した文法や語彙を活用し、日常会話で適切に表現できる。 ・短い文章を作成し、自分の考えを韓国語で使える力を養う。 ・「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく向上させ、実践的な韓国語の運用能力を身につける。
授業の進め方	授業はテキストに沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 また、学習した文法や表現を実践的に活用できるよう、「ディスカッション」や「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。 ペアワークやロールプレイを通じて、日常会話で自然に使える表現を身につけることを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたはWebClassを通じてフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 韓国語Ⅰの復習/自己紹介 漢数詞	対面
第2回	「に」「います・いません」 本文・復習	対面
第3回	「へヨ体」①、「を」	対面
第4回	「も」 本文・復習	対面
第5回	「へヨ体」①、「で」	対面
第6回	「に」 本文・復習	対面
第7回	「へヨ体」③「で」「から～まで」	対面

第8回	固有数詞 本文・復習	対面
第9回	「へヨ体」④・へヨ体のまとめ	対面
第10回	「しに」「から～まで」 本文・復習	対面
第11回	過去形・不規則活用	対面
第12回	否定表現、敬語 本文・復習	対面
第13回	「つもりです」「したいです」 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味を調べるなど、しっかりと予習を行ってください。 また、前回の授業内容を振り返り、学習した単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50％ 小テスト：40％ 授業への参加度：10％
テキスト	『四訂版・韓国語の世界へ入門編』朝日出版社 ※旧バージョンも使用可能です。
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行い、準備を整えた上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅰ」と同時に履修することはできません。 ・「韓国語Ⅰ」を修得した後に履修可能です。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅰ[人文]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02122L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国および韓国語に関する基礎知識を確実にし、韓国語の入門レベルのスキルを習得することを目的とします。 韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、正しく読み書きできるようになることを目指します。 また、簡単な表現を用いた基礎的な日常会話や自己紹介ができるように学習を進めます。 さらに、韓国の社会・文化に触れ、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解の姿勢を養います。 授業の概要 本授業では、韓国語の入門レベルの文法や語彙を学び、ハングルの正しい発音と音読に重点を置いて学習します。 テキストや音声教材を活用しながら、発音や基本的な会話表現を習得し、スムーズに自己紹介や簡単な日常会話ができることを目標とします。 また、韓国の社会や文化についての講義を通じて、言語とともに韓国の背景を理解し、国際社会への関心を深めます。 授業では、実践的な発話練習やリスニング練習を行い、ハングルの音読や自己紹介ができる能力を中心に評価します。
到達目標	・韓国語に対する関心を深め、基礎的な知識を身につける。 ・ハングルの仕組みを理解し、正しい読み書きできるようになる。 ・簡単な挨拶や自己紹介ができるようになり、日常会話の基礎を習得する。 ・韓国の社会や文化についての理解を深め、国際的な視野を養う。
授業の進め方	授業は配布資料に沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 基本的な文法や表現を学んだ上で、発音練習や簡単な会話練習を取り入れながら、実践的な韓国語の運用能力を養います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	韓国・韓国語についての概略 単母音・半母音	対面
第2回	初声(鼻音・流音)・終声(パッチム)①	対面
第3回	初声(平音)	対面
第4回	二重母音・母音のまとめ	対面
第5回	連音化	対面
第6回	初声(激音)	対面
第7回	初声(濃音)	対面
第8回	終声(パッチム)②	対面
第9回	助詞「は」	対面
第10回	ムニダ体「です・ですか」	対面

第11回	助詞「が」・へヨ体「です・ですか」	対面
第12回	「ではありません」	対面
第13回	まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。 また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：30% 口頭発表：10% 授業への参加度：10%
テキスト	担当教員による配布
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行った上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅱ」と同時に履修することはできません。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。 ・担当教員の判断により、授業の内容や形式が変更される場合があります。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅰ[観光]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02122L

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国および韓国語に関する基礎知識を確実にし、韓国語の入門レベルのスキルを習得することを目的とします。 韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、正しく読み書きできるようになることを目指します。 また、簡単な表現を用いた基礎的な日常会話や自己紹介ができるように学習を進めます。 さらに、韓国の社会・文化に触れ、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解の姿勢を養います。
	授業の概要 本授業では、韓国語の入門レベルの文法や語彙を学び、ハングルの正しい発音と音読に重点を置いて学習します。 テキストや音声教材を活用しながら、発音や基本的な会話表現を習得し、スムーズに自己紹介や簡単な日常会話ができることを目標とします。 また、韓国の社会や文化についての講義を通じて、言語とともに韓国の背景を理解し、国際社会への関心を深めます。 授業では、実践的な発話練習やリスニング練習を行い、ハングルの音読や自己紹介ができる能力を中心に評価します。
到達目標	・韓国語に対する関心を深め、基礎的な知識を身につける。 ・ハングルの仕組みを理解し、正しい読み書きできるようになる。 ・簡単な挨拶や自己紹介ができるようになり、日常会話の基礎を習得する。 ・韓国の社会や文化についての理解を深め、国際的な視野を養う。
授業の進め方	授業は配布資料に沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 基本的な文法や表現を学んだ上で、発音練習や簡単な会話練習を取り入れながら、実践的な韓国語の運用能力を養います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	韓国・韓国語についての概略 単母音・半母音	対面
第2回	初声(鼻音・流音)・終声(パッチム)①	対面
第3回	初声(平音)	対面
第4回	二重母音・母音のまとめ	対面
第5回	連音化	対面
第6回	初声(激音)	対面
第7回	初声(濃音)	対面
第8回	終声(パッチム)②	対面
第9回	助詞「は」	対面
第10回	ムニダ体「です・ですか」	対面

第11回	助詞「が」・へヨ体「です・ですか」	対面
第12回	「ではありません」	対面
第13回	まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。 また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：30% 口頭発表：10% 授業への参加度：10%
テキスト	担当教員による配布
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行った上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅱ」と同時に履修することはできません。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。 ・担当教員の判断により、授業の内容や形式が変更される場合があります。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅰ[スポ]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02122L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国および韓国語に関する基礎知識を確実にし、韓国語の入門レベルのスキルを習得することを目的とします。 韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、正しく読み書きできるようになることを目指します。 また、簡単な表現を用いた基礎的な日常会話や自己紹介ができるように学習を進めます。 さらに、韓国の社会・文化に触れ、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解の姿勢を養います。 授業の概要 本授業では、韓国語の入門レベルの文法や語彙を学び、ハングルの正しい発音と音読に重点を置いて学習します。 テキストや音声教材を活用しながら、発音や基本的な会話表現を習得し、スムーズに自己紹介や簡単な日常会話ができることを目標とします。 また、韓国の社会や文化についての講義を通じて、言語とともに韓国の背景を理解し、国際社会への関心を深めます。 授業では、実践的な発話練習やリスニング練習を行い、ハングルの音読や自己紹介ができる能力を中心に評価します。
到達目標	・韓国語に対する関心を深め、基礎的な知識を身につける。 ・ハングルの仕組みを理解し、正しい読み書きできるようになる。 ・簡単な挨拶や自己紹介ができるようになり、日常会話の基礎を習得する。 ・韓国の社会や文化についての理解を深め、国際的な視野を養う。
授業の進め方	授業は配布資料に沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 基本的な文法や表現を学んだ上で、発音練習や簡単な会話練習を取り入れながら、実践的な韓国語の運用能力を養います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	韓国・韓国語についての概略 単母音・半母音	対面
第2回	初声(鼻音・流音)・終声(パッチム)①	対面
第3回	初声(平音)	対面
第4回	二重母音・母音のまとめ	対面
第5回	連音化	対面
第6回	初声(激音)	対面
第7回	初声(濃音)	対面
第8回	終声(パッチム)②	対面
第9回	助詞「は」	対面
第10回	ムニダ体「です・ですか」	対面

第11回	助詞「が」・へヨ体「です・ですか」	対面
第12回	「ではありません」	対面
第13回	まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。 また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：30% 口頭発表：10% 授業への参加度：10%
テキスト	担当教員による配布
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行った上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅱ」と同時に履修することはできません。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。 ・担当教員の判断により、授業の内容や形式が変更される場合があります。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅰ[人文]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02122L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国および韓国語に関する基礎知識を確実にし、韓国語の入門レベルのスキルを習得することを目的とします。 韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、正しく読み書きできるようになることを目指します。 また、簡単な表現を用いた基礎的な日常会話や自己紹介ができるように学習を進めます。 さらに、韓国の社会・文化に触れ、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解の姿勢を養います。 授業の概要 本授業では、韓国語の入門レベルの文法や語彙を学び、ハングルの正しい発音と音読に重点を置いて学習します。 テキストや音声教材を活用しながら、発音や基本的な会話表現を習得し、スムーズに自己紹介や簡単な日常会話ができることを目標とします。 また、韓国の社会や文化についての講義を通じて、言語とともに韓国の背景を理解し、国際社会への関心を深めます。 授業では、実践的な発話練習やリスニング練習を行い、ハングルの音読や自己紹介ができる能力を中心に評価します。
到達目標	・韓国語に対する関心を深め、基礎的な知識を身につける。 ・ハングルの仕組みを理解し、正しい読み書きできるようになる。 ・簡単な挨拶や自己紹介ができるようになり、日常会話の基礎を習得する。 ・韓国の社会や文化についての理解を深め、国際的な視野を養う。
授業の進め方	授業は配布資料に沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 基本的な文法や表現を学んだ上で、発音練習や簡単な会話練習を取り入れながら、実践的な韓国語の運用能力を養います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	韓国・韓国語についての概略 単母音・半母音	対面
第2回	初声(鼻音・流音)・終声(パッチム)①	対面
第3回	初声(平音)	対面
第4回	二重母音・母音のまとめ	対面
第5回	連音化	対面
第6回	初声(激音)	対面
第7回	初声(濃音)	対面
第8回	終声(パッチム)②	対面
第9回	助詞「は」	対面
第10回	ムニダ体「です・ですか」	対面

第11回	助詞「が」・へヨ体「です・ですか」	対面
第12回	「ではありません」	対面
第13回	まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。 また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：30% 口頭発表：10% 授業への参加度：10%
テキスト	担当教員による配布
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行った上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅱ」と同時に履修することはできません。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。 ・担当教員の判断により、授業の内容や形式が変更される場合があります。

年度	2025
講義名称	韓国語Ⅰ[観光・スポ]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02122L

担当教員

氏名	所属
◎ 韓 然善	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国および韓国語に関する基礎知識を確実にし、韓国語の入門レベルのスキルを習得することを目的とします。 韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、正しく読み書きできるようになることを目指します。 また、簡単な表現を用いた基礎的な日常会話や自己紹介ができるように学習を進めます。 さらに、韓国の社会・文化に触れ、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解の姿勢を養います。 授業の概要 本授業では、韓国語の入門レベルの文法や語彙を学び、ハングルの正しい発音と音読に重点を置いて学習します。 テキストや音声教材を活用しながら、発音や基本的な会話表現を習得し、スムーズに自己紹介や簡単な日常会話ができることを目標とします。 また、韓国の社会や文化についての講義を通じて、言語とともに韓国の背景を理解し、国際社会への関心を深めます。 授業では、実践的な発話練習やリスニング練習を行い、ハングルの音読や自己紹介ができる能力を中心に評価します。
到達目標	・韓国語に対する関心を深め、基礎的な知識を身につける。 ・ハングルの仕組みを理解し、正しい読み書きできるようになる。 ・簡単な挨拶や自己紹介ができるようになり、日常会話の基礎を習得する。 ・韓国の社会や文化についての理解を深め、国際的な視野を養う。
授業の進め方	授業は配布資料に沿って進め、新しい文型の説明を行った後、練習問題を通じて理解を深めます。 基本的な文法や表現を学んだ上で、発音練習や簡単な会話練習を取り入れながら、実践的な韓国語の運用能力を養います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassを通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	韓国・韓国語についての概略 単母音・半母音	対面
第2回	初声(鼻音・流音)・終声(パッチム)①	対面
第3回	初声(平音)	対面
第4回	二重母音・母音のまとめ	対面
第5回	連音化	対面
第6回	初声(激音)	対面
第7回	初声(濃音)	対面
第8回	終声(パッチム)②	対面
第9回	助詞「は」	対面
第10回	ムニダ体「です・ですか」	対面

第11回	助詞「が」・へヨ体「です・ですか」	対面
第12回	「ではありません」	対面
第13回	まとめ 期末試験	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。 また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト：50% 小テスト：30% 口頭発表：10% 授業への参加度：10%
テキスト	担当教員による配布
参考文献	なし

備考	・授業中は韓国語の発音について随時指名し、発言を求めることがあります。しっかりと予習・復習を行った上で授業に参加してください。 ・原則として、「韓国語Ⅱ」と同時に履修することはできません。 ・学期中に休講やその他の変更が生じる可能性がありますので、Web Classのお知らせを随時確認してください。 ・担当教員の判断により、授業の内容や形式が変更される場合があります。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅳ
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02121L

担当教員

氏名	所属
◎ 顔 欒蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	中国語Ⅲに引き続き、語彙、構文に関する知識に基づく運用力を向上するために、聞く、話す、読む、書くなどの言語技能をバランスよく取れるのを目的とする。 さまざまな場面における会話表現や発話スキルを学ぶだけでなく、中国の歴史・文化・風俗に関する内容を織り交ぜて、より深く中華民族を理解しながら、言語力を向上しようとする。
到達目標	常用語彙、会話表現を学び、中国語Ⅲに覚えた語彙や構文知識を固め、さらに語彙量を増やして、スムーズに日常場面での会話ができるのを目指す。 ・学んだ文章や表現を理解した上で、中⇒日・日⇒中に訳すことができる。 ・日常場面における中国語発話の意味を理解し、適切に対応できる。 ・中国語の文構造や語順を理解し、正確な文章を作ることができる。
授業の進め方	主に、対面形式で授業を行うが、必要とされる場合、遠隔、ハイブリッド型の授業を行う場合もある。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の都度、前回の復習や課題を踏まえて導入する。 ・オンライン課題や授業内容に関する質疑など、授業内で対応する。 ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「manaba」により対応する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス、授業の振り返り（前期授業の課題や秋学期の目標紹介）
第2回	第7課：旅行について
第3回	朗読と解説・練習
第4回	第8課：飲食について
第5回	朗読と解説・練習
第6回	第9課：交通について
第7回	朗読と解説・練習
第8回	第10課：診察について
第9回	朗読と解説・練習
第10回	第11課：買い物について
第11回	朗読と解説・練習
第12回	第12課：祝日について
第13回	朗読と解説・総合練習・期末テスト

事前・事後学修	・各課の新出単語と本文について、WEB公開されている音声聞き、耳を慣らしておくこと。 ・わからない語句の意味を調べ、ノートにまとめておくこと。 ・課題提出や小テストを行う場合、出題範囲や形式に関する指示があったら、指示通りに復習しておくこと。 ・ピアやグループで活動を行う場合、協力してタスクに取り組むこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	成績評価は、授業参加度、課題や小テスト、試験に基づき総合的評価をする。 ・ 授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・ 小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・ 定期試験または最終課題（40%）
テキスト	『現代中国アラカルト』（郁文堂）作者：楊曉安
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用すること。

備考	「中国語Ⅳ」は、「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修した学生を対象とする。 ・ 中国語技能認定試験として、中国語検定の受験を勧める。

年度	2025
講義名称	【閉講】中国語Ⅲ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02120L

担当教員

氏名	所属
◎ 顔 欒蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	中国語Ⅰ・Ⅱに引き続き、語彙量と会話力を高め、日常会話がスムーズに出来るようにするのを目的とする。 多様な場面の会話を聞き、文章を読むなどを通して、中国文化・社会を知るのに役に立つために、中国の歴史・文化・風俗に関する内容にも触れ、言語への理解を深めようとする。
到達目標	・日常会話ができるように、語彙量を増やし、中国語Ⅰ・Ⅱを含め、400語程度を目指す。 ・習った語句や文章を正しい発音で音読できる。 ・習った語句や文章について、理解した上で、日本語に訳すことができる。 ・日常場面における中国語発話の意味を理解し、適切に応答できる。 ・中国語の文構造や語順を理解し、正確な中国語の文章を作ることができる。
授業の進め方	【講義方法】 ・対面形式を中心に行う。必要時オンライン形式も取る。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での解説や個別対応による。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・自己紹介
第2回	第一課:家族について
第3回	朗読と解説・練習
第4回	第二課：方位について
第5回	朗読と解説・練習
第6回	第三課:時間について
第7回	朗読と解説・練習
第8回	第四課:趣味について
第9回	朗読と解説・練習
第10回	第五課:天気について
第11回	朗読と解説・練習
第12回	第六課:運動について
第13回	朗読と解説・総合練習・期末テスト

事前・事後学修	・各課の新出単語と本文について、WEB公開されている音声を読み、耳を慣らしておくこと。 ・わからない語句の意味を調べ、ノートにまとめておくこと。 ・課題提出や小テストを行う場合、出題範囲や形式に関する指示があったら、指示通りに復習しておくこと。 ・ピアやグループで活動を行う場合、協力して取り掛かり、習った知識を活用してタスクに取り組むこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	13回目の授業で定期試験または最終課題を行う。授業参加度、課題や小テスト、試験の成績に基づき総合的評価をする。具体的以下のように、 ・ 授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・ 小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・ 定期試験または最終課題（40%）
テキスト	『現代中国アラカルト』（郁文堂）作者：楊曉安
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用すること。

備考	「中国語Ⅲ」は、1年次「中国語Ⅰ・Ⅱ」を履修した学生を対象とする。 ・ 中国語技能検定試験として、HSK（漢語水平考試）の1級～3級、 中国語検定準4～4級の受験を勧める。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅱ [①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02119L

担当教員

氏名	所属
◎ 張 琴琴	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	講義の目的および概要本講義の目的は、「中国語Ⅰ」に引き続き、正確な発音を定着させ、単語量と基本文法の知識を増やして、少し詳しい自己紹介や大学生活での日常会話ができるようになることです。 授業で使うあいさつ、声かけ、応答をはじめ、日常会話でよく使う会話表現を学習します。中華文化の伝統や年間行事などを通して、社会的・文化的な視点から中華圏への国・地域に対する理解を深めましょう。
到達目標	・単語量を300語程度まで増やす。新しい語句を覚えて、春学期に習った単語と合わせて300語程度を目指す。 ・習った中国語の語句や文を正しい発音で音読できる。 ・習った中国語の語句や文について、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 ・基礎的な日常会話について、中国語の意味を理解し、質疑応答ができる。 ・文の構造や語順を理解し、自分で複数の意味がつながる中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	・主に、対面型の講義形式で授業を行います。教員や活動によっては、遠隔、遠隔とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の授業を行う場合もあります。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」、Microsoft365「Teams」などを使用します。 ・授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を復習します。会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習や課題を踏まえて解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された質問などに授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「キャンパスプランポータル」から返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、春／秋学期の復習（夏休み／冬休みの思い出や春／秋学期の目標紹介）	対面
第2回	第6課：買い物をする、値段を聞く・答える、商品と数量詞の表現、通貨の単位	対面
第3回	第6課：買い物、貨幣と単位、値段の確認や交渉、ものに適した数量詞、道案内について言う・尋ねる練習	対面
第4回	第7課： 「～したことがある」・過去の経験についての言い方、旅行の思い出について話す、動作の回数と時間の表現、時間の長さの表現	対面
第5回	第7課：週末にしたこと、旅行などの経験について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第8課：「～した」・動作の完了や状況の実現の表現、アルバイトについて話す、「いつからいつまで、どこからどこまで」を聞く・話す、距離の遠さ・近さの表現	対面
第7回	第8課：⑦アルバイトのスケジュール、場所、家や学校からの遠さについて言う・尋ねる練習	対面
第8回	第9課：餃子を作る、大学祭で餃子を売る、学習による習得の「会」、環境による possible の「能」	対面
第9回	第9課：大学祭の出し物紹介、現在進行形の「正在」、許可の「可以」	対面

第10回	第10課：風邪をひく・治る、試験の準備、変化の「了」、二重目的語を取る動詞	対面
第11回	第10課：試験の結果について言う・尋ねる、様態補語、比較表現	対面
第12回	定期試験に向けた総復習	対面
第13回	授業内定期試験または最終課題到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連	対面

事前・事後学修	・各課の新出単語とテキスト本文について、WEB公開されている音声を聞き、耳を慣らしておきましょう。 ・わからない語句の意味を調べてノートにまとめておくこと。 ・単元やトピックのまとまりごとに課題提出や小テストを行う場合があります。範囲や形式については授業で指示します。予告があったら必ずテスト範囲を復習しておくこと。 ・ペアやグループでの発表を行います。授業で指示があったら、協力して準備を進め、十分に練習しておくこと。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	第13回目の授業内で定期試験または最終課題を行います。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30％） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30％） ・定期試験または最終課題（40％）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社） ※「中国語Ⅰ」と同じ教科書を続けて使用します。
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください

備考	この授業は、過去に「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象としています。 ・中国語技能検定試験としてHSK（漢語水平考試）の1級～3級、中国語検定準4～4級の受験を勧めます。 ・授業で段階的に取り入れていきますが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。 ・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅱ〔②/2〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02119L

担当教員

氏名	所属
◎ 崔 鵬	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	講義の目的および概要本講義の目的は、「中国語Ⅰ」に引き続き、正確な発音を定着させ、単語量と基本文法の知識を増やして、少し詳しい自己紹介や大学生活での日常会話ができるようになることです。 授業で使うあいさつ、声かけ、応答をはじめ、日常会話でよく使う会話表現を学習します。中華文化の伝統や年間行事などを通して、社会的・文化的な視点から中華圏への国・地域に対する理解を深めましょう。
到達目標	・単語量を300語程度まで増やす。新しい語句を覚えて、春学期に習った単語と合わせて300語程度を目指す。 ・習った中国語の語句や文を正しい発音で音読できる。 ・習った中国語の語句や文について、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 ・基礎的な日常会話について、中国語の意味を理解し、質疑応答ができる。 ・文の構造や語順を理解し、自分で複数の意味がつながる中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	・主に、対面型の講義形式で授業を行います。教員や活動によっては、遠隔、遠隔とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の授業を行う場合もあります。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」、Microsoft365「Teams」などを使用します。 ・授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を復習します。会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習や課題を踏まえて解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された質問などに授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「キャンパスプランポータル」から返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、春／秋学期の復習（夏休み／冬休みの思い出や春／秋学期の目標紹介）	対面
第2回	第6課：買い物をする、値段を聞く・答える、商品と数量詞の表現、通貨の単位	対面
第3回	第6課：買い物、貨幣と単位、値段の確認や交渉、ものに適した数量詞、道案内について言う・尋ねる練習	対面
第4回	第7課： 「～したことがある」・過去の経験についての言い方、旅行の思い出について話す、動作の回数と時間の表現、時間の長さの表現	対面
第5回	第7課：週末にしたこと、旅行などの経験について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第8課：「～した」・動作の完了や状況の実現の表現、アルバイトについて話す、「いつからいつまで、どこからどこまで」を聞く・話す、距離の遠さ・近さの表現	対面
第7回	第8課：⑦アルバイトのスケジュール、場所、家や学校からの遠さについて言う・尋ねる練習	対面
第8回	第9課：餃子を作る、大学祭で餃子を売る、学習による習得の「会」、環境による possible の「能」	対面
第9回	第9課：大学祭の出し物紹介、現在進行形の「正在」、許可の「可以」	対面

第10回	第10課：風邪をひく・治る、試験の準備、変化の「了」、二重目的語を取る動詞	対面
第11回	第10課：試験の結果について言う・尋ねる、様態補語、比較表現	対面
第12回	定期試験に向けた総復習	対面
第13回	授業内定期試験または最終課題到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連	対面

事前・事後学修	・各課の新出単語とテキスト本文について、WEB公開されている音声を聞き、耳を慣らしておきましょう。 ・わからない語句の意味を調べてノートにまとめておくこと。 ・単元やトピックのまとまりごとに課題提出や小テストを行う場合があります。範囲や形式については授業で指示します。予告があったら必ずテスト範囲を復習しておくこと。 ・ペアやグループでの発表を行います。授業で指示があったら、協力して準備を進め、十分に練習しておくこと。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	第13回目の授業内で定期試験または最終課題を行います。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30％） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30％） ・定期試験または最終課題（40％）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社） ※「中国語Ⅰ」と同じ教科書を続けて使用します。
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください

備考	この授業は、過去に「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象としています。 ・中国語技能検定試験としてHSK（漢語水平考試）の1級～3級、中国語検定準4～4級の受験を勧めます。 ・授業で段階的に取り入れていきますが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。 ・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅱ[2年]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02119L

担当教員

氏名	所属
◎ 張 琴琴	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	講義の目的および概要本講義の目的は、「中国語Ⅰ」に引き続き、正確な発音を定着させ、単語量と基本文法の知識を増やして、少し詳しい自己紹介や大学生活での日常会話ができるようになることです。 授業で使うあいさつ、声かけ、応答をはじめ、日常会話でよく使う会話表現を学習します。中華文化の伝統や年間行事などを通して、社会的・文化的な視点から中華圏への国・地域に対する理解を深めましょう。
到達目標	・単語量を300語程度まで増やす。新しい語句を覚えて、春学期に習った単語と合わせて300語程度を目指す。 ・習った中国語の語句や文を正しい発音で音読できる。 ・習った中国語の語句や文について、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 ・基礎的な日常会話について、中国語の意味を理解し、質疑応答ができる。 ・文の構造や語順を理解し、自分で複数の意味がつながる中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	・主に、対面型の講義形式で授業を行います。教員や活動によっては、遠隔、遠隔とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の授業を行う場合もあります。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」、Microsoft365「Teams」などを使用します。 ・授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を復習します。会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習や課題を踏まえて解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された質問などに授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「キャンパスプランポータル」から返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、春／秋学期の復習（夏休み／冬休みの思い出や春／秋学期の目標紹介）	対面
第2回	第6課：買い物をする、値段を聞く・答える、商品と数量詞の表現、通貨の単位	対面
第3回	第6課：買い物、貨幣と単位、値段の確認や交渉、ものに適した数量詞、道案内について言う・尋ねる練習	対面
第4回	第7課： 「～したことがある」・過去の経験についての言い方、旅行の思い出について話す、動作の回数と時間の表現、時間の長さの表現	対面
第5回	第7課：週末にしたこと、旅行などの経験について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第8課：「～した」・動作の完了や状況の実現の表現、アルバイトについて話す、「いつからいつまで、どこからどこまで」を聞く・話す、距離の遠さ・近さの表現	対面
第7回	第8課：⑦アルバイトのスケジュール、場所、家や学校からの遠さについて言う・尋ねる練習	対面
第8回	第9課：餃子を作る、大学祭で餃子を売る、学習による習得の「会」、環境による可能の「能」	対面
第9回	第9課：大学祭の出し物紹介、現在進行形の「正在」、許可の「可以」	対面

第10回	第10課：風邪をひく・治る、試験の準備、変化の「了」、二重目的語を取る動詞	対面
第11回	第10課：試験の結果について言う・尋ねる、様態補語、比較表現	対面
第12回	定期試験に向けた総復習	対面
第13回	授業内定期試験または最終課題到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連	対面

事前・事後学修	・各課の新出単語とテキスト本文について、WEB公開されている音声聞き、耳を慣らしておきましょう。 ・わからない語句の意味を調べてノートにまとめておくこと。 ・単元やトピックのまとまりごとに課題提出や小テストを行う場合があります。範囲や形式については授業で指示します。予告があったら必ずテスト範囲を復習しておくこと。 ・ペアやグループでの発表を行います。授業で指示があったら、協力して準備を進め、十分に練習しておくこと。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	第13回目の授業内で定期試験または最終課題を行います。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30％） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30％） ・定期試験または最終課題（40％）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社） ※「中国語Ⅰ」と同じ教科書を続けて使用します。
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください

備考	この授業は、過去に「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象としています。 ・中国語技能検定試験としてHSK（漢語水平考試）の1級～3級、中国語検定準4～4級の受験を勧めます。 ・授業で段階的に取り入れていきますが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。 ・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅰ〔①/4〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02118L

担当教員

氏名	所属
◎ 顔 樂蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心を持ち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。
到達目標	中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。 ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。 中国語であいさつや自己紹介などができる。 基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	【講義方法】 担当教員により異なりますが、場合によって対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」などを使用します。 授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。 会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。 課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。 暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。 【課題に対するフィードバックの方法】 担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）、PCやスマホで簡体字を入力する方法	対面
第2回	中国語発音の基本学習 音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」 音節の母音が複数＝「複母音」、子音	対面
第3回	鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶 発音編復習	対面

第4回	基本文法 第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現	対面
第5回	第2課：あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文	対面
第7回	第3課：友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習	対面
第8回	第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付の表現	対面
第9回	第4課：相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習	対面
第10回	第5課：趣味、好き嫌いを言う・尋ねる表現	対面
第11回	第5課：アルバイト、アルバイトの予定を尋ねる、待ち合わせ（日時、場所）を表す表現	対面
第12回	期末テストまたは授業内最終課題	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。 第13回目の授業内で期末テストまたは最終課題を行います。 担当教員により異なりますので、授業中に出される指示にしたがってください。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・期末テストまたは最終課題（40%）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

備考	・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 ・原則中国語Ⅱと同時に履修することができません。 ・留学生は母国語を履修することができません。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅰ〔②/4〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02118L

担当教員

氏名	所属
◎ 張 琴琴	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心を持ち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。
到達目標	中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。 ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。 中国語であいさつや自己紹介などができる。 基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	【講義方法】 担当教員により異なりますが、場合によって対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」などを使用します。 授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。 会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。 課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。 暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。 【課題に対するフィードバックの方法】 担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）、PCやスマホで簡体字を入力する方法	対面
第2回	中国語発音の基本学習 音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」 音節の母音が複数＝「複母音」、子音	対面
第3回	鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶 発音編復習	対面

第4回	基本文法 第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現	対面
第5回	第2課：あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文	対面
第7回	第3課：友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習	対面
第8回	第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付の表現	対面
第9回	第4課：相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習	対面
第10回	第5課：趣味、好き嫌いを言う・尋ねる表現	対面
第11回	第5課：アルバイト、アルバイトの予定を尋ねる、待ち合わせ（日時、場所）を表す表現	対面
第12回	期末テストまたは授業内最終課題	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。 第13回目の授業内で期末テストまたは最終課題を行います。 担当教員により異なりますので、授業中に出される指示にしたがってください。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・期末テストまたは最終課題（40%）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

備考	・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 ・原則中国語Ⅱと同時に履修することができません。 ・留学生は母国語を履修することができません。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅰ〔③/4〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02118L

担当教員

氏名	所属
◎ 顔 欒蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心を持ち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。
到達目標	中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。 ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。 中国語であいさつや自己紹介などができる。 基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	【講義方法】 担当教員により異なりますが、場合によって対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」などを使用します。 授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。 会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。 課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。 暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。 【課題に対するフィードバックの方法】 担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）、PCやスマホで簡体字を入力する方法	対面
第2回	中国語発音の基本学習 音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」 音節の母音が複数＝「複母音」、子音	対面
第3回	鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶 発音編復習	対面

第4回	基本文法 第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現	対面
第5回	第2課：あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文	対面
第7回	第3課：友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習	対面
第8回	第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付の表現	対面
第9回	第4課：相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習	対面
第10回	第5課：趣味、好き嫌いを言う・尋ねる表現	対面
第11回	第5課：アルバイト、アルバイトの予定を尋ねる、待ち合わせ（日時、場所）を表す表現	対面
第12回	期末テストまたは授業内最終課題	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。 第13回目の授業内で期末テストまたは最終課題を行います。 担当教員により異なりますので、授業中に出される指示にしたがってください。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・期末テストまたは最終課題（40%）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

備考	・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 ・原則中国語Ⅱと同時に履修することができません。 ・留学生は母国語を履修することができません。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	【閉講】中国語Ⅰ〔④/4〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02118L

担当教員

氏名	所属
◎ 崔 鵬	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心を持ち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。
到達目標	中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。 ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。 中国語であいさつや自己紹介などができる。 基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	【講義方法】 担当教員により異なりますが、場合によって対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」などを使用します。 授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。 会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。 課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。 暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。 【課題に対するフィードバックの方法】 担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）、PCやスマホで簡体字を入力する方法	対面
第2回	中国語発音の基本学習 音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」 音節の母音が複数＝「複母音」、子音	対面
第3回	鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶 発音編復習	対面

第4回	基本文法 第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現	対面
第5回	第2課：あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文	対面
第7回	第3課：友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習	対面
第8回	第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付の表現	対面
第9回	第4課：相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習	対面
第10回	第5課：趣味、好き嫌いを言う・尋ねる表現	対面
第11回	第5課：アルバイト、アルバイトの予定を尋ねる、待ち合わせ（日時、場所）を表す表現	対面
第12回	期末テストまたは授業内最終課題	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。 第13回目の授業内で期末テストまたは最終課題を行います。 担当教員により異なりますので、授業中に出される指示にしたがってください。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・期末テストまたは最終課題（40%）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

備考	・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 ・原則中国語Ⅱと同時に履修することができません。 ・留学生は母国語を履修することができません。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅰ〔①/2〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02118L

担当教員

氏名	所属
◎ 張 琴琴	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心を持ち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。
到達目標	中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。 ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。 中国語であいさつや自己紹介などができる。 基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	【講義方法】 担当教員により異なりますが、場合によって対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」などを使用します。 授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。 会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。 課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。 暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。 【課題に対するフィードバックの方法】 担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）、PCやスマホで簡体字を入力する方法	対面
第2回	中国語発音の基本学習 音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」 音節の母音が複数＝「複母音」、子音	対面
第3回	鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶 発音編復習	対面

第4回	基本文法 第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現	対面
第5回	第2課：あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文	対面
第7回	第3課：友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習	対面
第8回	第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付の表現	対面
第9回	第4課：相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習	対面
第10回	第5課：趣味、好き嫌いを言う・尋ねる表現	対面
第11回	第5課：アルバイト、アルバイトの予定を尋ねる、待ち合わせ（日時、場所）を表す表現	対面
第12回	期末テストまたは授業内最終課題	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。 第13回目の授業内で期末テストまたは最終課題を行います。 担当教員により異なりますので、授業中に出される指示にしたがってください。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・期末テストまたは最終課題（40%）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

備考	・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 ・原則中国語Ⅱと同時に履修することができません。 ・留学生は母国語を履修することができません。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	中国語Ⅰ〔②/2〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02118L

担当教員

氏名	所属
◎ 崔 鵬	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心を持ち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。
到達目標	中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。 ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。 中国語であいさつや自己紹介などができる。 基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。 文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。
授業の進め方	【講義方法】 担当教員により異なりますが、場合によって対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。 遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「キャンパスプランポータル」などを使用します。 授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。 会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。 課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。 暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。 【課題に対するフィードバックの方法】 担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。 ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業内で回答します。 ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）、PCやスマホで簡体字を入力する方法	対面
第2回	中国語発音の基本学習 音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」 音節の母音が複数＝「複母音」、子音	対面
第3回	鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶 発音編復習	対面

第4回	基本文法 第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現	対面
第5回	第2課：あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習	対面
第6回	第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文	対面
第7回	第3課：友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習	対面
第8回	第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付の表現	対面
第9回	第4課：相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習	対面
第10回	第5課：趣味、好き嫌いを言う・尋ねる表現	対面
第11回	第5課：アルバイト、アルバイトの予定を尋ねる、待ち合わせ（日時、場所）を表す表現	対面
第12回	期末テストまたは授業内最終課題	対面

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。 第13回目の授業内で期末テストまたは最終課題を行います。 担当教員により異なりますので、授業中に出される指示にしたがってください。 ・授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%） ・小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%） ・期末テストまたは最終課題（40%）
テキスト	『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）
参考文献	『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社） ※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

備考	・授業中に、中国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。 ・原則中国語Ⅱと同時に履修することができません。 ・留学生は母国語を履修することができません。 注意事項： ・毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。 ・授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

年度	2025
講義名称	TOEIC II
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02117L

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義は「TOEIC I」の学習内容を踏まえて、英語の4技能をバランスよく学習することにより、TOEIC Testスコアの向上を目指す。特にリスニング、リーディングにおいてTOEIC L&R Testに十分対応できる英語を身に付けることを狙いとする。
到達目標	TOEIC Score 600点を常時クリアできる英語力を身に付ける。
授業の進め方	TOEICの中級テキストを活用し、TOEICの7パートの出題形式に対応した問題演習を行う。特にリスニングの分野においては、Part3,4のまとまった英文を正確に聞き取る力を身に付けるとともに、リーディングにおいては側道力を高めることを常に意識して学習を行う。ペアワーク等による会話、シャドーイング、ディクテーションなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。なお、語彙力については市販の単語帳を活用して自学自習を進めるとともに、その成果を見るために毎時間100語の範囲で語彙テストを実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については確認テスト等の実施により、毎回確認するとともに、授業内においてポイントとなる事項の解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation, Listening Practice Unit 6 (Housing & Accommodations)	対面
第2回	Unit 6 (Housing & Accommodations) Vocabulary (1-100)	対面
第3回	Unit 7 (Office Work 1) Vocabulary (101-200)	対面
第4回	Unit 7 (Office Work 1) Vocabulary (201-300)	対面
第5回	Unit 8 (Office Work 2) Vocabulary (301-400)	対面
第6回	Unit 8 (Office Work 2) Vocabulary (1-400)	対面
第7回	確認テスト、解説 Unit 9 (Employment)	対面
第8回	Unit 9 (Employment) Vocabulary (401-500)	対面
第9回	Unit 10 (Lectures & Presentations) Vocabulary (501-600)	対面

第10回	Unit 10 (Lectures & Presentations) Vocabulary (601-700)	対面
第11回	Unit 11 (Business Affairs 1) Vocabulary (701-800)	対面
第12回	確認テスト、解説 Unit 11 (Business Affairs 1)	遠隔

事前・事後学修	事前 語彙テストの範囲の学習 事後 音読課題（Part3,4のスキットのシャドーイング） 「参考文献」にある自学用サイトを活用しての学習 ・事前 1 時間、事後 2 時間が目安

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・確認テスト 40％ ・語彙テスト 30％ ・課題、授業中の言語活動 30％
テキスト	・FAST PASS FOR THE TOEIC L&R TEST (Centage) ・TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）
参考文献	自学用サイト ・NHK NEWSLINE - NHK World ・Japan Today

備考	文学、芸術、スポーツなど様々なトピックの中から、自分の関心のある分野について「英語で情報を取る」習慣を付けましょう。大量のインプット（リーディング、リスニング）がTOEICを受験して次の段階に進むための基盤となります。

年度	2025
講義名称	TOEIC I
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02116L

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義では、リスニング、リーディング、文法、語彙を総合的に学習することにより、TOEIC Testのスコアの向上を目指す。また、単にスコアの向上だけではなく、英語の学習習慣を確立して、自律的な英語学習者を育成することを狙いとする。
到達目標	TOEIC L&R Testスコア500点に相当する英語力を身に付ける。
授業の進め方	TOEIC L&R TESTの7パートの出題形式に対応した問題演習を行う。リスニング、リーディングどちらの活動も、ペアワークによる会話、ディクテーション、シャドーイングなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。また、語彙については市販の単語帳を活用して自学自習を進めるとともに、学習の成果を確認するため毎時間語彙テスト（範囲100語）を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については確認テスト等の実施により毎回確認するとともに、授業内でポイントとなる事項の解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation, Listening Practice Unit 2 (Dining Out)	対面
第2回	Unit 2 (Dining Out) Vocabulary (1-100)	対面
第3回	Unit 2 (Dining Out) Vocabulary (101-200)	対面
第4回	Unit 3 (Media) Vocabulary (201-300)	対面
第5回	Unit 3 (Media) Vocabulary (301-400)	対面
第6回	Unit 6 (Clients) Vocabulary (1-400)	対面
第7回	確認テスト、テスト問題の解説 Unit 6 (Clients)	対面
第8回	Unit 7 (Recruiting) Vocabulary (401-500)	対面
第9回	Unit 7 (Recruiting) Vocabulary (501-600)	対面

第10回	Unit 9 (Advertising) Vocabulary (601-700)	対面
第11回	Unit 9 (Advertising) Vocabulary (701-800)	対面
第12回	Unit 11 (Finance) Vocabulary (401-800)	対面
第13回	確認テスト、テスト問題の解説 Unit 11 (Finance)	対面

事前・事後学修	事前 ①語彙テストの範囲の学習 事後 ②テキストのリスニング問題スクリプトのリスニング&シャドーイング ③参考文献を活用したリーディング及びリスニング 事前、事後の学習時間をそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 確認テスト 40% ・ 語彙テスト 30% ・ 課題、授業中の言語活動 30%
テキスト	・ SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE (KINSEIDO) ・ TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ （朝日新聞出版）
参考文献	本学図書館にある英語多読用教材 自学用サイト ・ NHK NEWSLINE - NHK World ・ News On Japan

備考	TOEICについてはこの科目のあとTOEIC II へと発展的に学習します。実際のTOEICの受験を自分の学習計画の組み入れて、自分の英語力の定観測をするとともに、常に明確な目標を持って学習を継続してください。

年度	2025
講義名称	CLIL II (英語で文化を学ぶ)
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02115L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	The idea of CLIL (Content Language Integrated Learning) is that by helping students learn knowledge of an academic subject, they can also expand their English skills as a bonus. CLIL II aims to be an introduction to the understanding required to begin studying social science disciplines at an undergraduate level. Students are involved in choosing thought-provoking questions from History, International Relations, Sociology, or Politics, to answer. Then lessons are tailor-made to allow students to explore these questions. The lesson plan below is the example from last year, and thus subject to change based on student ability and interest.
到達目標	By the end of the course, students will have improved at: - defining and providing examples for key terms from the social sciences - interpreting data and research writing - discussing and debating different perspectives on a complex topic
授業の進め方	There are two typical patterns. In 'Topic' weeks, there is an interactive lecture, followed by pair and groupwork activities, with a vocabulary and content quiz. In 'Task' weeks, students are guided to work individually, in pairs, or in groups. This could mean anything from designing a poster, to debating as a class.

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	All feedback will be either printed or provided in class. Students are encouraged to take responsibility for their learning and discuss with the lecturer.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: What is CLIL? Why is it useful?
第2回	Topic 1: Why are teenagers these days more sad?
第3回	Task 1: Poster Presentation
第4回	Topic 2: Why is sport so important?
第5回	Task 2: Reflective Essay
第6回	Topic 3: Why do people care so much about celebrities?
第7回	Task 3: Debate
第8回	Topic 4: Have women's lives improved in the 21st century?
第9回	Task 4: Group Discussions
第10回	Topic 5: Why do poor countries still exist?
第11回	Task 5: Debate
第12回	Topic 6: What is the social cost of capitalism?
第13回	Task 6: Free Task Review

2025/04/01

事前・事後学修	Before class, students will need to brainstorm their own ideas for the upcoming questions, answer surveys, or complete additional review tasks. After class, there may be research assignments or a need to redo tasks from the lesson.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Quizzes & Research Tasks 20% Tasks 60% (10% x 6)
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	Excerpts from numerous academic texts will be introduced.

備考	Great questions lead to greater understanding. We will ask questions together throughout. **This is a course with greater student independence, and lecturer trust, so students must attend the Orientation if they wish to register.**

年度	2025
講義名称	CLIL I (英語で文化を学ぶ)
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02114L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	This course will be conducted completely in English. Through this course, students can improve their English proficiency not by studying the English language, but by utilizing English as a tool for communication and understanding. Students will discuss, research and present about Japanese and foreign culture, and in doing so will learn the language necessary to complete their tasks. This allows students to learn practical English in the same way they learn their native language, while simultaneously expanding their cultural knowledge.
到達目標	Students can verbally share their ideas and opinions about Japanese and forieign cultural norms in English. Students can communicate with team members in English in order to accomplish basic tasks during group projects.
授業の進め方	During class, we will discuss cultural norms in Japan and overseas, carrying out various production tasks and presenting findings in English. In-class activities include pair work, group work, discussion and presentations.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on performance tasks will be given to students individually during class, and general feedback to all students will be given at the beginning of the next lesson.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation / Unit 1: Intercultural Awareness
第2回	Unit 2: Intercultural Diversity
第3回	Unit 3: Consumerism
第4回	Unit 4: Food Culture / Presentation ①
第5回	Unit 5: Lifestyle
第6回	Unit 6: Tourism
第7回	Unit 7: Global Citizenship
第8回	Unit 8: Education / Presentation ②
第9回	Unit 9: Art
第10回	Unit 11: Gender
第11回	Unit 13: Conflict
第12回	Unit 14: Immigration / Presentation ③
第13回	Student Topic / Feedback

事前・事後学修	予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。 Previewing and reviewing class handouts and online resources should take around two hours per week.	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	10% English communication in class 20% Active in-class participation 20% Homework completion 50% In-class tasks/presentations (15%, 15%, 20%)
テキスト	CLIL Intercultural Awareness 著者：笹島 茂 / 工藤泰三 / 荊 紅涛 / Larry Joe / Hannah Haruna 出版社：三修社

備考	Remember to avoid comparing your English ability to others, instead comparing your ability to your past self.

年度	2025
講義名称	[夏集]Conversation II [多文化]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02113L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	本コースは、実用的な言語を学びながら、日常の幅広い様々なシチュエーションで実践的なスピーキングスキルを身につけることができる。会話の流れの調整、話の展開、議論を深めるなど、他者とのよりよいやりとりができるようになることが最大の目的である。このスキルを身につけることで、留学や公的な英語スピーキング試験の際にも、よりスムーズなやり取りができるようになる。
到達目標	パートナーと対話しながら、より流暢に話し、自分の意見を表現する自信を持つことができるようにする。留学や海外生活、公式な英語のスピーキング試験などに適したリスニングとスピーキングのスキルを向上させる。
授業の進め方	教師が授業のポイントを紹介した後、学生はペアやグループで会話を練習し、ロールプレイを行い、ディスカッションを行います。この授業では、学生が多く発言する機会を提供することを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業開始時、ペアワーク時、テスト後にフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation / Topic 1: Catching Up
第2回	Topic 2: My Place
第3回	Topic 3: Money
第4回	Topic 4: Going Out / Speaking Test ①
第5回	Topic 5: Fashion
第6回	Topic 6: Learning
第7回	Topic 7: Experience Abroad
第8回	Topic 8: Health / Speaking Test ②
第9回	Topic 9: Personalities
第10回	Topic 10: Careers
第11回	Topic 11: Personal Entertainment
第12回	Topic 12: Something Special / Speaking Test ③
第13回	Topic 13: Student Topic

事前・事後学修	授業後、ノートを見直します。また、授業外でもクラスメートと英語で話す機会を見つけることが奨励されます。予習・復習の時間は2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	宿題: 10% 授業内パフォーマンス: 30% スピーキングテスト: 60% (3回、各回20%)
テキスト	必要な資料を授業内で配布します。
参考文献	Nice Talking With You 2 著者：Tom Kenny & Linda Woo 出版社：Cambridge University Press

備考	Just like a sport, speaking English is something that you get better at the more you practice it. スポーツと同じように、英語を話すことは練習すればするほど上達します。

年度	2025
講義名称	Conversation II
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02113L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	本コースは、実用的な言語を学びながら、日常の幅広い様々なシチュエーションで実践的なスピーキングスキルを身につけることができる。会話の流れの調整、話の展開、議論を深めるなど、他者とのよりよいやりとりができるようになることが最大の目的である。このスキルを身につけることで、留学や公的な英語スピーキング試験の際にも、よりスムーズなやり取りができるようになる。
到達目標	パートナーと対話しながら、より流暢に話し、自分の意見を表現する自信を持つことができるようにする。留学や海外生活、公式な英語のスピーキング試験などに適したリスニングとスピーキングのスキルを向上させる。
授業の進め方	教師が授業のポイントを紹介した後、学生はペアやグループで会話を練習し、ロールプレイを行い、ディスカッションを行います。この授業では、学生が多く発言する機会を提供することを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業開始時、ペアワーク時、テスト後にフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation / Topic 1: Catching Up
第2回	Topic 2: My Place
第3回	Topic 3: Money
第4回	Topic 4: Going Out / Speaking Test ①
第5回	Topic 5: Fashion
第6回	Topic 6: Learning
第7回	Topic 7: Experience Abroad
第8回	Topic 8: Health / Speaking Test ②
第9回	Topic 9: Personalities
第10回	Topic 10: Careers
第11回	Topic 11: Personal Entertainment
第12回	Topic 12: Something Special / Speaking Test ③
第13回	Topic 13: Student Topic

事前・事後学修	授業後、ノートを見直します。また、授業外でもクラスメートと英語で話す機会を見つけることが奨励されます。予習・復習の時間は2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	宿題: 10% 授業内パフォーマンス: 30% スピーキングテスト 60% (3回、各回20%)
テキスト	必要な資料を授業内で配布します。
参考文献	Nice Talking With You 2 著者 : Tom Kenny & Linda Woo 出版社 : Cambridge University Press

備考	Just like a sport, speaking English is something that you get better at the more you practice it. スポーツと同じように、英語を話すことは練習すればするほど上達します。

年度	2025
講義名称	Conversation I
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02112L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	本コースでは、日常の幅広い様々なシチュエーションで、柔軟に会話を維持・発展させるコツを学びながら、実践的な英語力を身につけることができます。学生は話すことによって学び、より良い会話のパートナーになることを目指します。
到達目標	生徒が自信を持って自律的に話し、会話を続け、相手と対話することができるようにします。将来の留学やスピーキングを伴う各種英語試験に対応できるリスニングとスピーキング力を身につけます。
授業の進め方	教師が授業のポイントを紹介した後、学生はペアやグループで会話を練習し、ロールプレイを行い、ディスカッションを行います。この授業では、学生が多く発言する機会を提供することを目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業開始時、ペアワーク時、テスト後にフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation / Topic 1: Introductions
第2回	Topic 2: Family
第3回	Topic 3: Shopping
第4回	Topic 4: Food / Speaking Test ①
第5回	Topic 5: Music
第6回	Topic 6: Free Time
第7回	Topic 7: Travel
第8回	Topic 8: Sports / Speaking Test ②
第9回	Topic 9: Friends
第10回	Topic 10: Work
第11回	Topic 11: Movies
第12回	Topic 12: Personal Tech / Speaking Test ③
第13回	Topic 13: Student Topic

事前・事後学修	授業後、ノートを見直します。また、授業外でもクラスメートと英語で話す機会を見つけることが奨励されます。予習・復習の時間は2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	宿題: 10% 授業内パフォーマンス: 30% スピーキングテスト: 60% (3回、各回20%)
テキスト	必要な資料を授業内で配布します。
参考文献	Nice Talking With You 1 著者 : Tom Kenny & Linda Woo 出版社 : Cambridge University Press

備考	Just like a sport, speaking English is something that you get better at the more you practice it. スポーツと同じように、英語を話すことは練習すればするほど上達します。

年度	2025
講義名称	英語IV
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02111L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の 目的と 概要	English IV aims to improve students ability to discuss, debate, and think independently in English. Lessons are conducted entirely in English, and practice all four skills over a wide range of complex topics. By learning and trying unfamiliar vocabulary and ideas, students will be able to enjoy expressing their opinions and research more quickly. Students who are considering study abroad, language teaching, or working with English in the future will benefit most.
到達目 標	Students will practice mostly Listening and Speaking skills. By the end of the course, students will have improved: Listening - identifying main points and details in longer, more complicated or academic English speech - understanding and taking notes on group discussion - thinking critically about the ideas or vocabulary used Speaking - explaining complex concepts from a wide range of topics in a clear way - continuing group discussions on familiar or unfamiliar topics - developing an argument, highlighting key points, details, and their own perspective
授業の 進め方	Lessons involve a lot of discussion, in pairs, groups, or as a class with the lecturer. The typical pattern is an interactive lecture, readings divided amongst the group, Listening from the textbook, language review, and debate. Debates and discussions in class will start small, but take up more time as the course progresses. As part of the course, students will eventually design and lead their own lesson.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対する フィードバックの方法	Feedback on follow-up tasks will be provided via 'WebClass'. Feedback on formal presentations or seminars will be printed or discussed individually. Feedback on all other tasks will be provided during class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: A sense of Place
第2回	Something Borrowed
第3回	The Language of Symbols
第4回	The Power of Technology
第5回	The Plastic Age
第6回	Can Businesses be good?
第7回	Rehearsals
第8回	Presentations
第9回	Emotional Intelligence

第10回	Learning from Life
第11回	Rehearsals
第12回	Student-led Seminars
第13回	Final Test

事前・事後学修	Before class, students should brainstorm ideas and vocabulary. After class, students may do follow-up vocabulary quizzes, extra Reading or Listening, and preparation for upcoming lessons. According to previous students, this takes between 30 mins and 1 hour each time.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Follow-up vocabulary / reading quizzes 10% Presentation 25% Group Seminar 25% Final Test 20%
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	『Reflect: Listening and Speaking 4』 著者 :Paul Dummett 出版社 : Cengage Learning

備考	The more effort you put in, the more you will improve. **Only students who have completed English 3 can register.**

年度	2025
講義名称	英語Ⅲ
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02110L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	English III aims to show students as much English as possible, and speak as much as possible. Lessons are mostly in English, and plan to give students the chance to develop their ideas and vocabulary. Students can learn to share opinions in conversation, discussion, presentation, and short writings. The wide range of topics, and more complicated or academic English, mean this will be useful for anyone doing formal language exams, or future study abroad.
到達目標	Students will practice mostly Listening and Speaking skills. By the end of this course, students will have improved at: Listening - Understanding the main points of real world or more complicated English - Identifying details and key vocabulary - Following complicated ideas and conversations Speaking - Giving opinions on familiar and unfamiliar topics - Participating in discussions on familiar and unfamiliar topics - Delivering short individual or group presentations based on their own ideas
授業の進め方	Lessons will include a lot of group discussions, and a lot of Listening exercises. The general pattern is for an interactive lecture to introduce the topic, group preparation exercises, reading or listening, teacher review of key language, and a final discussion / review.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on quizzes will be given via 'WebClass'. Feedback on formal presentations or writing will be printed or discussed individually. All other task feedback will be provided during the lesson.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Are you ready for more complicated English?
第2回	Creating Connections
第3回	Culture and Language
第4回	Fake News
第5回	The Value of Art
第6回	Great Explorers
第7回	Rehearsal for Presentations
第8回	Presentations
第9回	The Value of Memory
第10回	Be Creative

第11回	Is Gaming good?
第12回	Review Discussions
第13回	Final Test

事前・事後学修	Before class, students should brainstorm ideas and vocabulary for the topic. After class, there could be follow-up quizzes on 'WebClass', extra Reading, or practice Speaking / Writing. According to previous students, between 30-55 minutes will be needed to review.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 15% Short Vocabulary Reports 10% Presentations 25% Group Discussion 25% Final Test (Listening, Vocabulary, Writing) 25%
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	『Reflect: Listening and Speaking 3』 著者 : Laurie Blass & Mari Vargo 出版社 : Cengage Learning

備考	This course is a step up from English 2, towards group discussions and less common topics. It will be difficult at first, but the more topics you try, the more English you can use. Let's discuss together. 英語のトピックに出会えば出会うほど、使える言葉の幅が広がります。

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [人文①/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [人文②/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[人文③/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 片岡 晃	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [人文④/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 沓岐 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[人文⑤/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[人文⑥/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[人文⑦/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 片岡 晃	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[人文⑧/8]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 沓岐 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[観光①/4]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [観光②/4]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ マーフィー マーティン ジョーセフ	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[観光③/4]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[観光④/4]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ①/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ②/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 嵯岐 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[スポ③/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ マーフィー マーティン ジョーセフ	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ④/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 嵯岐 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ⑤/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ⑥/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ マーフィー マーティン ジョーセフ	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ⑦/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ⑧/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ [スポ⑨/9]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 10 Restaurants
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session
第4回	Unit 13 Places
第5回	Unit 13 Places / FT Session
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)
第8回	Unit 16 Opinions
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session
第10回	Unit 18 The Future
第11回	Unit 18 The Future / FT Session
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[多文化①/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation	対面授業
第2回	Unit 10 Restaurants	対面授業
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session	対面授業
第4回	Unit 13 Places	対面授業
第5回	Unit 13 Places / FT Session	対面授業
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)	対面授業
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)	対面授業
第8回	Unit 16 Opinions	対面授業
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session	対面授業
第10回	Unit 18 The Future	対面授業
第11回	Unit 18 The Future / FT Session	対面授業
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)	対面授業
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)	対面授業

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[多文化②/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation	対面授業
第2回	Unit 10 Restaurants	対面授業
第3回	Unit 10 Restaurants / FT Session	対面授業
第4回	Unit 13 Places	対面授業
第5回	Unit 13 Places / FT Session	対面授業
第6回	復習 (Unit 10 & Unit 13)	対面授業
第7回	中間テスト (Unit 10 & Unit 13)	対面授業
第8回	Unit 16 Opinions	対面授業
第9回	Unit 16 Opinions / FT Session	対面授業
第10回	Unit 18 The Future	対面授業
第11回	Unit 18 The Future / FT Session	対面授業
第12回	TOEIC Bridge Test 復習 (Unit 16 & Unit 18)	対面授業
第13回	期末テスト (Unit 16 & Unit 18)	対面授業

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[未修得①/2]【プレB】
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	英語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。
到達目標	日常生活や様々な場面に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	話す練習としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と学生同士が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation Review English 1 Contents -- Practice & Discussion	
第2回	Unit 10 Restaurants	オンデマンド
第3回	Unit 10 Restaurants -- Discussion & Practice	
第4回	Unit 13 Places	オンデマンド
第5回	Unit 13 Places -- Discussion & Practice	
第6回	Unit 10 & Unit 13 Review	オンデマンド
第7回	Mid-Term Test (Unit 10, Unit 13)	
第8回	Unit 16 Opinions	オンデマンド
第9回	Unit 16 Opinions -- Discussion & Practice	
第10回	Unit 18 The Future	オンデマンド
第11回	Unit 18 The Future -- Discussion & Practice	
第12回	Unit 16 & Unit 18 Review	オンデマンド
第13回	Final Test (Unit 16 & Unit 18)	

事前・事後学修	毎回授業の始めに前回の授業内容を質問しますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムWebClassのリスニングの宿題があります。学修管理システムWebClassのリスニングの宿題も含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 40% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldevist, Yuki Hasegawa 出版社 : Cengage Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅱ[未修得②/2]【プレB】
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02109L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	英語Ⅱは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。
到達目標	日常生活や様々な場面に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	話す練習としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と学生同士が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation Review English 1 Contents -- Practice & Discussion	
第2回	Unit 10 Restaurants	オンデマンド
第3回	Unit 10 Restaurants -- Discussion & Practice	
第4回	Unit 13 Places	オンデマンド
第5回	Unit 13 Places -- Discussion & Practice	
第6回	Unit 10 & Unit 13 Review	オンデマンド
第7回	Mid-Term Test (Unit 10, Unit 13)	
第8回	Unit 16 Opinions	オンデマンド
第9回	Unit 16 Opinions -- Discussion & Practice	
第10回	Unit 18 The Future	オンデマンド
第11回	Unit 18 The Future -- Discussion & Practice	
第12回	Unit 16 & Unit 18 Review	オンデマンド
第13回	Final Test (Unit 16 & Unit 18)	

事前・事後学修	毎回授業の始めに前回の授業内容を質問しますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムWebClassのリスニングの宿題があります。学修管理システムWebClassのリスニングの宿題も含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 40% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldevist, Yuki Hasegawa 出版社 : Cengage Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [人文①/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ[人文②/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [人文③/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 片岡 晃	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [人文④/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 嵯岐 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ[人文⑤/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [人文⑥/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [人文⑦/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 片岡 晃	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [人文⑧/8]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 嵯岐 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [観光①/4]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [観光②/4]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ マーフィー マーティン ジョーセフ	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [観光③/4]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [観光④/4]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ①/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ②/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 梶 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ③/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ マーフィー マーティン ジョーセフ	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ④/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 沓岐 朱花	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ⑤/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ⑥/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ マーフィー マーティン ジョーセフ	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ⑦/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ⑧/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐々木 朋子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [スポ⑨/9]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Unit 2 Daily Life
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session
第4回	Unit 3 Weekend Events
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)
第8回	Unit 4 Small Talk
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session
第10回	Unit 9 Going Out
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [多文化①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation	対面授業
第2回	Unit 2 Daily Life	対面授業
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session	対面授業
第4回	Unit 3 Weekend Events	対面授業
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session	対面授業
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)	対面授業
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)	対面授業
第8回	Unit 4 Small Talk	対面授業
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session	対面授業
第10回	Unit 9 Going Out	対面授業
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session	対面授業
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)	対面授業
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)	対面授業

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ [多文化②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。 英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。 またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。
到達目標	日常生活やさまざまな場面で活用できる英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	会話練習やロールプレイを行います。教科書をもとに、実用的な文法を学び、リスニング力を養います。 また、Zoom を使用して、40 分×4 回、海外のネイティブの先生とオンラインで会話練習を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。 また、中間テストと期末テストは授業内で実施し、解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation	対面授業
第2回	Unit 2 Daily Life	対面授業
第3回	Unit 2 Daily Life / FT Session	対面授業
第4回	Unit 3 Weekend Events	対面授業
第5回	Unit 3 Weekend Event / FT Session	対面授業
第6回	復習 (Unit 2 & Unit 3)	対面授業
第7回	中間テスト (Unit 2 & Unit 3)	対面授業
第8回	Unit 4 Small Talk	対面授業
第9回	Unit 4 Small Talk / FT Session	対面授業
第10回	Unit 9 Going Out	対面授業
第11回	Unit 9 Going Out / FT Session	対面授業
第12回	復習 (Unit 4 & Unit 9)	対面授業
第13回	期末テスト (Unit 4 & Unit 9)	対面授業

事前・事後学修	毎回、授業の始めに前回の内容について質問をしますので、復習をしてから授業に臨んでください。 また、学修管理システム WebClass を用いた宿題があります。 WebClass を活用した宿題を含め、予習・復習を合わせて2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 20% 宿題: 20% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ[未修得①/2]【プレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。
到達目標	日常生活や様々な場面に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	話す練習として、主としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と学生同士が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation Unit 1 Introduction	
第2回	Unit 2 Daily Life	オンデマンド
第3回	Unit 1 Introduction -- Discussion & Practice Unit 2 Daily Life -- Discussion & Practice	
第4回	Unit 3 Weekend Events	オンデマンド
第5回	Unit 3 Weekend Events -- Discussion & Practice	
第6回	Unit 1, Unit 2, Unit 3 Review	オンデマンド
第7回	Mid-Term Test (Unit 1, Unit 2, Unit 3)	
第8回	Unit 4 Small Talk	オンデマンド
第9回	Unit 4 Small Talk -- Discussion & Practice	
第10回	Unit 9 Going Out	オンデマンド
第11回	Unit 9 Going Out -- Discussion & Practice	
第12回	Unit 4 & Unit 9 Review	オンデマンド
第13回	Final Test (Unit 4 & Unit 9)	

事前・事後学修	毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムWebClassを用いた宿題があります。学修管理システムWebClassを用いた宿題を含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 40% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : Cengage Learning

年度	2025
講義名称	英語Ⅰ[未修得②/2]【プレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02108L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	英語IIは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。
到達目標	日常生活や様々な場面に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
授業の進め方	話す練習として、主としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と学生同士が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation Unit 1 Introduction	
第2回	Unit 2 Daily Life	オンデマンド
第3回	Unit 1 Introduction -- Discussion & Practice Unit 2 Daily Life -- Discussion & Practice	
第4回	Unit 3 Weekend Events	オンデマンド
第5回	Unit 3 Weekend Events -- Discussion & Practice	
第6回	Unit 1, Unit 2, Unit 3 Review	オンデマンド
第7回	Mid-Term Test (Unit 1, Unit 2, Unit 3)	
第8回	Unit 4 Small Talk	オンデマンド
第9回	Unit 4 Small Talk -- Discussion & Practice	
第10回	Unit 9 Going Out	オンデマンド
第11回	Unit 9 Going Out -- Discussion & Practice	
第12回	Unit 4 & Unit 9 Review	オンデマンド
第13回	Final Test (Unit 4 & Unit 9)	

事前・事後学修	毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムWebClassを用いた宿題があります。学修管理システムWebClassを用いた宿題を含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	クラスタイムアクティビティー: 40% 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
テキスト	『Free Talking』 著者 : Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa 出版社 : Cengage Learning

年度	2025
講義名称	言語学
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02107L

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では主に一般言語学（General linguistics）の視点から世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語を客観的に分析する方法を学びます。世界の言語及び日本語の構造（語や文に見られる仕組など）を理解し、日本語教育において日本語に関する知識を学習者に正確に伝えるため、言語の基礎知識を修得することを目的とします。「言語学のはじまり」「統語論」では言語研究の歴史の変遷とその概要を学びます。「形態論」「意味論」では主に日本語の形態、意味、語用を学びます。
到達目標	・世界の言語及び日本語を系統的・類型的に捉え、言語を客観的に分析する方法を理解する。 ・日本語を分析的に捉える方法を理解する。 ・日本語教育のための意味体系に関する知識を体系的に学び、指導上必要となる分析方法を理解する。 ・日本語教育のための語用論的規範について学び、効果的な教育実践方法を理解する。
授業の進め方	・毎回の授業でワークシートに取り組みます。 ・課題に応じてペアワークやグループワークをおこないます。 ・授業中に発言を求めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布します。また、Web classを利用して全体および個別のフィードバックをおこないます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、第1章「言語学のはじまり」1：言語学の歴史	対面授業
第2回	第1章「言語学のはじまり」2：言語学の基礎知識	対面授業
第3回	第1章「言語学のはじまり」3：言語の機能	対面授業
第4回	第4章「形態論」1：形態素とは	対面授業
第5回	第4章「形態論」2：語構成	対面授業
第6回	第4章「形態論」3：日本語述語の活用	対面授業
第7回	第5章「統語論」1：統語論とは	対面授業
第8回	第5章「統語論」2：変形生成文法（チョムスキーの言語理論）	対面授業
第9回	第6章「意味論」1：語の意味	対面授業
第10回	第6章「意味論」2：句の意味、文の意味	対面授業
第11回	第6章「意味論」3：語用論（1）談話における文の意味	対面授業
第12回	第6章「意味論」4：語用論（2）発話行為、言語・文化・思考	対面授業
第13回	期末試験、授業アンケート、解説	対面授業

事前・事後学修	・事前学修として教科書を読んで次回の内容を確認しておいてください。 ・事後学修として教科書や資料の内容をまとめ、授業内で実施される小テストや期末試験に備えてください。 ・講義に関する質問等は教員に直接きくか、WebClassを利用するか、メールで送信してください。 ・事前・事後学修時間は各2時間程度を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・授業参加度と課題に対する取組 40％ ・学習内容に関する小テストの得点 20％ ・期末試験の得点 40％
テキスト	・原沢伊都夫（2016）『日本語教師のための 入門言語学―演習と解説―』（スリーエーネットワーク） ・教員が毎回配布する資料 【テキストに関する注意】 本テキストは2023年9月15日に発行された第7刷で大きな修正がありましたので、第7刷以降を購入してください。第1刷～第6刷までの古い教科書を使用してはいけません。中古本を購入したり先輩から譲り受けたりしないでください。
参考文献	必要に応じて紹介します。

備考	・授業に関することはWebClassでお知らせします。 ・授業の冒頭で小テストを行います。 ・やむを得ず講義を欠席する場合はメールで連絡してください。

年度	2025
講義名称	人間と歴史【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02106L

担当教員

氏名	所属
◎ 横川　大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	歴史学という学問は、みなさんが高校までに学んだ日本史や世界史といった歴史と何が同じで何が違うのでしょうか。高校までに学んだ日本史や世界史といった歴史は、多くの人にとってつまらないものですが、なぜなのでしょう。Youtubeやそのほかで、「歴史の真実」が面白くまたわかりやすく提供されていますが、なぜ、学校で学ぶ歴史はそうならないのでしょうか。過去から現在に至る道を見出し、未来に進むべき方向を探るのが歴史だとしたら、歴史の専門家である歴史学者以外の人、そのように過去から自分の未来を見出すことはできないのでしょうか。現在、「パブリック・ヒストリー」という「普通の人々」の歴史実践Doing Historyが注目されています。本授業では、これらのことを考えていきます。
到達目標	【到達目標】 1) 歴史学、歴史、否定論／歴史修正主義、これらの違いを理解し、自分の言葉で表現できる 2) 「パブリック・ヒストリー」を実践し、「歴史の真実」とはどのようなものか、過去の解釈・理解に多数の意見が生まれるのはなぜかを理解して、自分の言葉で表現することができる 3) 未来を創るために、歴史を自分の言葉で物語ることができる
授業の進め方	【講義方法】 フルオンデマンド授業ではあるが、伝統的なスタイルの講義。ただし、受講生に提出してもらった課題を前提に進んでいくので、課題に真摯に取り組まねばならない。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 学生は、さまざまな課題をWebClassを通じて提出する。	フィードバックは、全般的な傾向などは匿名化して授業中に全員で共有し、個別には提出課題に対してWebClass上で行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・ 記憶、神話、民話、昔話、歴史の違い ・ 歴史の正統性の歴史	オンデマンド
第2回	・ 歴史と歴史学 ・ 歴史学は何をどうしているか	オンデマンド
第3回	・ 高校までの歴史の授業は、なぜ大半の人につまらないのか ・ 「正しい歴史」への反発	オンデマンド
第4回	・ 否定論／歴史修正主義が示唆する歴史の意味	オンデマンド
第5回	・ 第一部のまとめ	オンデマンド
第6回	・ 人々の中の歴史学へ～パブリック・ヒストリーの誕生～	オンデマンド
第7回	・ 記憶のアップデート	オンデマンド
第8回	・ パブリック・ヒストリーの拡張 ・ 歴史実践Doing History	オンデマンド
第9回	・ あなたも歴史実践をする①　知識獲得フェーズ（1）	オンデマンド

第10回	・あなたも歴史実践をする② 知識獲得フェーズ（2）	オンデマンド
第11回	・あなたも歴史実践をする③ アウトプットフェーズ	オンデマンド
第12回	・あなたも歴史実践をしてみて	オンデマンド
第13回	第二部のまとめ	オンデマンド

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・毎時、授業内容を事前にまとめておき、授業映像を視聴する準備を行う ・授業内容に合わせて、身近な大人に聞き取りを行う・歴史を書くなどの課題が出る ・セクションごとにそれまでの授業内容と自分の考えをまとめる課題が出る。 【必要な時間】 ・授業を受けるにあたっての準備として、授業内容のまとめ、過去の事からの聞き取りのかだいなどを行うがを、週あたりに平均すると2時間ぐらいとなる ・事後課題として出されるセクションのまとめ課題を平均すると毎回2時間程度となるだろう。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・毎時の授業内容の提出26％ ・授業内の課題14％ ・歴史学、歴史、否定論／歴史修正主義についてのまとめ課題20％ ・歴史を書く歴史実践課題20％ ・パブリック・ヒストリーと歴史実践のまとめ課題20％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	池田さなえ『笑いで歴史学を変える方法 歴史初心者からアカデミアまで』（星海社、2024年） 松沢裕作『歴史学はこう考える』（筑摩書房、2024年） 小田中直樹『歴史学のトリセツ ――歴史の見方が変わるとき』（筑摩書房、2022年） 渡部竜也『Doing History：歴史で私たちは何ができるか？』（清水書院、2019年） 菅豊、北條勝貴 編『パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦―』（勉誠出版、2019年）

備考	・課題の遂行にあたって、生成AIを使うことを否定しませんが、授業のまとめは、授業以外の内容を入れてはいけません。正確な内容を授業者は能う限り用意していますが、それ以上に、人の話を聞いて理解できるようになることが必要です。

年度	2025
講義名称	人間と心理[人文]【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02105L

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 美恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学の入門の授業です。 心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指しています。
到達目標	・心理学の全体について基礎知識を獲得する。 ・心理学的研究方法について理解し応用できる。 ・日常の中に心理学的視点を持ち、社会や他者、自分自身について心理学的理解を深める。
授業の進め方	この授業は全てオンデマンドで実施します。 パワーポイントを使用しながら授業を展開します。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用します。 心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	確認のためのワークを毎回行う予定です。 小テストを5回行う予定です。 最終テストを1回行います（授業内に行くか、試験期間中に行くかは未定です）。 *今年度からオンデマンド授業となりました。 授業進度によってテスト等の回数が変わる場合がありますので、授業内の案内に留意してください。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 心理学とは 心理学の歴史	オンデマンド
第2回	感覚、知覚、認知について 人間の記憶	オンデマンド
第3回	学習とはなにか 刷込み 連合学習（1）	オンデマンド
第4回	連合学習（2） オペラント条件付け（1）	オンデマンド
第5回	オペラント条件付け（2） 観察学習	オンデマンド
第6回	人間の発達	オンデマンド
第7回	愛着の発達	オンデマンド
第8回	パーソナリティとは（1）	オンデマンド
第9回	パーソナリティとは（2）	オンデマンド
第10回	知能について	オンデマンド
第11回	ストレスとストレス対処	オンデマンド

第12回	社会の中の人（1）	オンデマンド
第13回	社会の中の人（2）	オンデマンド

事前・事後学修	図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習してください。 授業中に得た知識を定着させるため復習を行ってください。 予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	未定です。
テキスト	プリントを事前配布します。各自ダウンロードし、オンデマンドを視聴前に用意して下さい。
参考文献	授業内で適宜紹介します。

年度	2025
講義名称	人間と心理[観光・スポ]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02105L

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 美恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学の入門の授業です。 心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指しています。
到達目標	・心理学の全体について基礎知識を獲得する。 ・心理学的研究方法について理解し応用できる。 ・日常の中に心理学的視点を持ち、社会や他者、自分自身について心理学的理解を深める。
授業の進め方	この授業は全てオンデマンドで実施します。 パワーポイントを使用しながら授業を展開します。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用します。 心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	確認のためのワークを毎回行う予定です。 小テストを5回行う予定です。 最終テストを1回行います（授業内に行くか、試験期間中に行くかは未定です）。 *今年度からオンデマンド授業となりました。 授業進度によってテスト等の回数が変わる場合がありますので、授業内の案内に留意してください。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 心理学とは 心理学の歴史	オンデマンド
第2回	感覚、知覚、認知について 人間の記憶	オンデマンド
第3回	学習とはなにか 刷込み 連合学習（1）	オンデマンド
第4回	連合学習（2） オペラント条件付け（1）	オンデマンド
第5回	オペラント条件付け（2） 観察学習	オンデマンド
第6回	人間の発達	オンデマンド
第7回	愛着の発達	オンデマンド
第8回	パーソナリティとは（1）	オンデマンド
第9回	パーソナリティとは（2）	オンデマンド
第10回	知能について	オンデマンド
第11回	ストレスとストレス対処	オンデマンド

第12回	社会の中の人（1）	オンデマンド
第13回	社会の中の人（2）	オンデマンド

事前・事後学修	図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習してください。 授業中に得た知識を定着させるため復習を行ってください。 予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	未定です。
テキスト	プリントを事前配布します。各自ダウンロードし、オンデマンドを視聴前に用意して下さい。
参考文献	授業内で適宜紹介します。

年度	2025
講義名称	人間と哲学[人文・観ビ]【遠隔B】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02104L

担当教員

氏名	所属
◎ 大小田 重夫	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。
到達目標	1. 哲学の代表的な問題について知る。 2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。 3. 考えたことを論理的に文章化できるようにする。
授業の進め方	本講義はオンデマンド形式のビデオ学習の講義になります。1週間に2回、講義動画と提出課題を授業支援システムWebClassで公開します。みなさんの都合のよい時間で動画を視聴し学習に取り組んでください。各講義ごとに課題を提出します。課題の提出をもって出席とします。提出課題の他に毎回講義ノートを配布します。このノートは提出不要ですので、自分の学習用だと考えてください。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各講義ごとの提出課題の解答・解説は、次回の講義動画で公開します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	イントロダクションー 哲学とは何か 道徳や宗教という人間の他の思想と哲学は何が異なるのか、さらには「人間らしさ」という観点から哲学とは何なのかを解説する。	オンデマンド
第2回	西洋哲学の歴史（1）ー 古代哲学の歴史 ギリシャの神話的思考から哲学がどのように生まれ、どのように展開したのかを解説する。	オンデマンド
第3回	西洋哲学の歴史（2）ー 合理主義哲学の歴史 デカルトは天動説から地動説へという宇宙観の大転換を経験し、「我思う、ゆえに我あり」という真理に到達した。こうした思想的背景からデカルトの哲学を解説する。	オンデマンド
第4回	「心」とは何かー 心身問題について（1） 「心」とは隠された内面であるという常識的理解を問い直すことを通して、心と身体の関係について考える。	オンデマンド
第5回	言葉と意味ー 現代哲学における言語論的転回について 古典的な言語観においては、言葉の意味は心の中にあると考えられている。フェルディナ・ド・ソシュールの思想の解説を通して、こうした言語観について再考する。	オンデマンド
第6回	言葉と行為ー 一言語行為論 古典的な言語観においては、言葉はもっぱら何かを記述するものと考えられている。言語行為論やヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論の解説を通して、言語の多様なあり方について考える。	オンデマンド
第7回	西洋哲学の歴史（3）ー イギリス経験論哲学 イギリス経験論の哲学（ロック、ヒューム）を解説し、人間の思想における経験の持つ意味について考える。	オンデマンド
第8回	西洋哲学の歴史（4）ー カントの哲学 合理論と経験論の総合として理解されるカントの哲学を、倫理学を中心に解説する。	オンデマンド
第9回	「時間」とは何かー ベルクソンの時間論ほか アウグスチヌスやベルクソンの時間論を解説し、時計で計測される時間（時計の針は「空間」の中を動いている）とは異なる、時間の本性について考える。	オンデマンド

第10回	「身体」とは何か ― 心身問題について（2） 「自己身体」の経験を主題としたベルクソンやメルロ＝ポンティの哲学を解説し、心と身体の関係について再考する。	オンデマンド
第11回	「身体的自由」について ― 性別適合手術の是非について考える 「性別適合手術」の是非を主題として、「身体的自由」はどこまで許されるのか、について考える。	オンデマンド
第12回	「私」とは何か ― アイデンティティについて 人間は誰でも様々な「快楽」を追及して生きるが、またそれら個々の快楽の総和を超えた「幸福」も求める。ポール・リクールを解説し、こうした葛藤を生きる人間のアイデンティティの形成について考える。	オンデマンド
第13回	西洋哲学の歴史（5）― ニーチェの哲学 デカルト、カントなど合理主義は西洋哲学の主流であった。ニーチェの反合理主義の哲学を解説し、理性とは何か、またその限界について考える。	オンデマンド

事前・事後学修	関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけ読んでみること。 ノート、配布資料を見直し復習すること。1時間から2時間程度/週

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	出席（課題の提出）40パーセント、提出課題の評価60パーセントで評価します。 出席については、講義ごとに課題を出しますので、その提出をもって出席とします。提出していただいた課題は、4段階（優、良、可、不可）で評価します。基本的に不可でも出席扱いとしますが、明らかに動画を視聴していないと思われる提出については、欠席扱いとする場合もあります。
テキスト	なし
参考文献	・『物語 哲学の歴史』、伊藤邦武著、中公新書、2012年 ・『ソフィーの世界』、ヨースタン・ゴルデル著、NHK出版、1995年 ・『<心>はからだの外にある』河野哲也著、NHKブックス、2006年） ・『ソシユール入門』、町田健著、光文社新書、2003年 ・『シリーズ哲学のエッセンス ベルクソン』、金森 修著、NHK出版、2003年 ・『現代思想の冒険者たち メルロ＝ポンティ』、鷲田 清一著、講談社、1997年 ・『ニーチェ入門』、竹田青嗣著、ちくま新書、1994年

年度	2025
講義名称	人間と哲学[スポ]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02104L

担当教員

氏名	所属
◎ 大小田 重夫	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。
到達目標	1. 哲学の代表的な問題について知る。 2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。 3. 考えたことを論理的に文章化できるようにする。
授業の進め方	本講義はオンデマンド形式のビデオ学習の講義になります。1週間に2回、講義動画と提出課題を授業支援システムWebClassで公開します。みなさんの都合のよい時間で動画を視聴し学習に取り組んでください。各講義ごとに課題を提出します。課題の提出をもって出席とします。提出課題の他に毎回講義ノートを配布します。このノートは提出不要ですので、自分の学習用だと考えてください。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各講義ごとの提出課題の解答・解説は、次回の講義動画で公開します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	イントロダクションー 哲学とは何か 道徳や宗教という人間の他の思想と哲学は何が異なるのか、さらには「人間らしさ」という観点から哲学とは何なのかを解説する。	オンデマンド
第2回	西洋哲学の歴史（1）ー 古代哲学の歴史 ギリシャの神話的思考から哲学がどのように生まれ、どのように展開したのかを解説する。	オンデマンド
第3回	西洋哲学の歴史（2）ー 合理主義哲学の歴史 デカルトは天動説から地動説へという宇宙観の大転換を経験し、「我思う、ゆえに我あり」という真理に到達した。こうした思想的背景からデカルトの哲学を解説する。	オンデマンド
第4回	「心」とは何かー 心身問題について（1） 「心」とは隠された内面であるという常識的理解を問い直すことを通して、心と身体の関係について考える。	オンデマンド
第5回	言葉と意味ー 現代哲学における言語論的転回について 古典的な言語観においては、言葉の意味は心の中にあると考えられている。フェルディナ・ド・ソシュールの思想の解説を通して、こうした言語観について再考する。	オンデマンド
第6回	言葉と行為ー 一言語行為論 古典的な言語観においては、言葉はもっぱら何かを記述するものと考えられている。言語行為論やヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論の解説を通して、言語の多様なあり方について考える。	オンデマンド
第7回	西洋哲学の歴史（3）ー イギリス経験論哲学 イギリス経験論の哲学（ロック、ヒューム）を解説し、人間の思想における経験の持つ意味について考える。	オンデマンド
第8回	西洋哲学の歴史（4）ー カントの哲学 合理論と経験論の総合として理解されるカントの哲学を、倫理学を中心に解説する。	オンデマンド
第9回	「時間」とは何かー ベルクソンの時間論ほか アウグスチヌスやベルクソンの時間論を解説し、時計で計測される時間（時計の針は「空間」の中を動いている）とは異なる、時間の本性について考える。	オンデマンド

第10回	「身体」とは何か ― 心身問題について（2） 「自己身体」の経験を主題としたベルクソンやメルロ＝ポンティの哲学を解説し、心と身体の関係について再考する。	オンデマンド
第11回	「身体的自由」について ― 性別適合手術の是非について考える 「性別適合手術」の是非を主題として、「身体的自由」はどこまで許されるのか、について考える。	オンデマンド
第12回	「私」とは何か ― アイデンティティについて 人間は誰でも様々な「快楽」を追及して生きるが、またそれら個々の快楽の総和を超えた「幸福」も求める。ポール・リクールを解説し、こうした葛藤を生きる人間のアイデンティティの形成について考える。	オンデマンド
第13回	西洋哲学の歴史（5）― ニーチェの哲学 デカルト、カントなど合理主義は西洋哲学の主流であった。ニーチェの反合理主義の哲学を解説し、理性とは何か、またその限界について考える。	オンデマンド

事前・事後学修	関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけ読んでみること。 ノート、配布資料を見直し復習すること。1時間から2時間程度/週

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	出席（課題の提出）40パーセント、提出課題の評価60パーセントで評価します。 出席については、講義ごとに課題を出しますので、その提出をもって出席とします。提出していただいた課題は、4段階（優、良、可、不可）で評価します。基本的に不可でも出席扱いとしますが、明らかに動画を視聴していないと思われる提出については、欠席扱いとする場合もあります。
テキスト	なし
参考文献	・『物語 哲学の歴史』、伊藤邦武著、中公新書、2012年 ・『ソフィーの世界』、ヨースタン・ゴルデル著、NHK出版、1995年 ・『<心>はからだの外にある』河野哲也著、NHKブックス、2006年） ・『ソシユール入門』、町田健著、光文社新書、2003年 ・『シリーズ哲学のエッセンス ベルクソン』、金森 修著、NHK出版、2003年 ・『現代思想の冒険者たち メルロ＝ポンティ』、鷲田 清一著、講談社、1997年 ・『ニーチェ入門』、竹田青嗣著、ちくま新書、1994年

年度	2025
講義名称	人間と文学
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS02103L

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文学は、失われてしまった至福の一体感、到達感を我々に与えてくれる祝祭的異次元空間の一つです。文学作品を読む醍醐味は非日常的体験の享受にあるという考えを根底に据え、神話からSFまで、国や時代、ジャンルにこだわらずいろいろな作品を扱い、原型↔️類型↔️個別作品と、融通無碍に話題にします。人は様々な自己を表現し、あるいはそのように表現されたものを通して自己以外存在を知ろうとします。自己と他者、自己と世界の繋がりが様々な表現されて人間世界は成り立っていますが、文学は言語を通して自己を表現する、あるいは世界を映す卓越した表現形式です。映像とともに人間と文学の関わり、文学の魅力を考え、歴史軸と地理軸をベースに人間の営みを俯瞰し、現代社会に通じる営みから幸福や平和、家族愛、悲嘆、憎しみ、祈りなど文学諸相から伝わる思いを共有しましょう。
到達目標	テキストを数作品消化し、文学史の教養を身につけ、現代のコンテクストに置き換え再利用できる応用的知性を獲得する。また現在の状況に至った歴史的因果を理解して、政治や社会情勢を読み解くリテラシーを高める。
授業の進め方	指定の作品を事前に読んで臨むことを想定し解説します。また、関連する映像により視点を変え視野の広げ、出席者からの質問意見を尊重し、正解のない人生について様々な考える時間とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の課題と感想は次時に紹介し補足します。 また、質問や要望を反映して意見交換する内容を各自が咀嚼して最終提出課題に反映させ自身の考えを記録としましょう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 文学とは （＊受講者の反応で変更します）
第2回	夢見る力・口承文学「オイディプス王」
第3回	初恋のせつなさ「鯨」人生のはかなさ「老妓抄」
第4回	小市民の幸福ーO・ヘンリー「賢者の贈り物」
第5回	中国文学の魅力ー劉慈欣「三体」・李商隠「無題詩」
第6回	明治の苦悩ー森鴎外「舞姫」
第7回	語り手は葛藤するー太宰治「人間失格」「津軽」
第8回	人生の悔恨ーカズオ・イングロ「日の名残り」 ヘレーン・ハンフ「チャリング・クロス街84番地」
第9回	政治と文学ー三島由紀夫「憂国」・全共闘との対話
第10回	現代社会を見るー村上龍「希望の国のエクソダス」
第11回	韻文の魅力ー万葉集・小倉百人一首・原爆詩
第12回	樺太と北海道とー井上靖・三浦綾子・知里幸恵
第13回	まとめー生きること読書すること

	予告した本を読んで臨めば、3倍楽しめる！

事前・事後学修	質問を用意してくると、実質個別対応もします！ 授業で紹介する作品を事前に、事後に読むこと！ 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の感想 40% 授業内課題 20% 最終レポート40%
テキスト	毎回のテーマに関わる作品を事前に読むこと
参考文献	テーマに関連する作品などをその都度紹介します。

備考	予告した本を読んで臨めば、3倍楽しめる！ 質問を用意してくること、個別対応もします！ 毎回の振り返りで感想・質問・眩きを残すこと！ 授業で紹介する作品を事前に、または事後に読むこと！

年度	2025
講義名称	地域アクティビティⅡ(清田)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01906S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	この講義のテーマは、北海道の地域社会（清田区）について、現地調査（アクティビティ）を活用しながら歴史、社会、風俗、文化等を学び、その特徴や課題を「SWOT分析」により理解することです。 フィールドワークとして「あしりべつ郷土館」の見学、及び地元郷土史研究家の講話を聴講します。 地域社会（清田区）の特徴や課題を理解するため、企業やプロジェクトの現状を評価し、戦略を立てるためのフレームワーク＝「SWOT分析」を講義により理解します。 講義の後、より実践的な学びを行うため、地域の企業や個人（飲食店、商店、スーツのお店、郷土史研究家、地域の古老など・・・）の協力を頂き、その企業を対象にSWOT分析します。地域の企業や個人は履修者が教員と相談しながら発掘していきます。 地域社会（清田区）の人々に直にインタビューし、生の声を聴くことで地域社会（清田区）の特徴や課題を深く理解します。皆さんが聴き取り・インタビューした内容をまとめ最終的に「清田の人々に学ぶ」という文章にまとめます。
到達目標	①地域社会の成り立ちを歴史的、現代的に理解できる。 ②エリアの特徴と課題、解決のための取り組みを理解できる。 ③企業やプロジェクトの現状を評価し、戦略を立てるためのフレームワーク＝「SWOT分析」を講義により理解 ④聴き取り・インタビューの基礎的知識、方法を修得する。 ⑤課題発見力、傾聴力、協働力、コミュニケーション力を修得する。
授業の進め方	講義のほか、フィールドワーク、グループワークが中心になります。 まず1．歴史の視点からエリアの成り立ち、特徴について学び、フィールドワークにて清田区唯一の歴史遺産、吉田用水跡地を探索します。次に2．現代的視点からエリアの地域課題解決のための取り組みについて学び、3．現状分析から課題抽出、解決策立案へとつながるSWOT分析を修得します。4．インタビューについての基礎的知識と方法を学修します。3～5人グループ単位で5．事前にアポイントを取得した方々とお会いし、インタビューを行い、その内容をグループで協力しながら2,000～3,000字程度の記事にまとめます。インタビューをさせて頂く方々の候補としては、郷土史研究家、古くからの商店主さん、道外から移住してきて出店したご夫婦、人気の洋菓子店の店主さん、本場の味を北海道へ（中華料理、韓国料理）、、、、等々、いろいろな方々が様々なテーマでお話して頂けるような内容を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説し、学修管理システム（LMS）を活用して資料等を配布していきます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	講義の進捗状況、理解度に応じて順序を変更することがあります。またインタビュー対象の方々のご都合に合わせて、講義時間外での活動も適宜必要となります。グループでの話し合いで打ち合わせして頂きます。 1. ガイダンス - o 授業計画の説明、自己紹介、学生の興味・関心の方向性を確認 - o ディスカッションや具体的な質問を通じて学生の関心を深掘り - o 地域社会の重要性やSWOT分析の基本概念についてのミニレクチャー
第2回	2. エリアの成り立ちと特徴 - o 地理、歴史、地形、自然について学ぶ - o 映像資料や具体的な事例を用いて視覚的に理解 - o 社会、産業、室蘭街道、米作りについて学ぶ - o 映像資料や具体的な事例を用いて視覚的に理解

第3回	3. エリアの成り立ちと特徴 - o 地理、歴史、地形、自然について学ぶ - o 映像資料や具体的な事例を用いて視覚的に理解 - o 社会、産業、室蘭街道、米作りについて学ぶ - o 映像資料や具体的な事例を用いて視覚的に理解
第4回	4. 地域社会の現状と課題① - o SWOT分析 - o ワークシートを活用 - o 過去の実績事例や失敗事例を紹介し、SWOT分析の実践的な応用例を学ぶ
第5回	5. 地域社会の現状と課題② - o SWOT分析 - o ワークシートを活用 - o 学生同士でグループディスカッションを行い、異なる視点からの意見交換
第6回	6. 地域社会の現状と課題③ - o SWOT分析 - o ワークシートを活用 - o 各グループの分析結果を発表し、全体でフィードバックを行うセッション
第7回	7. インタビュー調査の方法と計画 - o インタビュー調査の方法、対象者の検討、実行計画をグループワークで行う - o ロールプレイや模擬インタビューを実施 - o インタビューの際の注意点やエチケットについてのミニレクチャー
第8回	8. 学外フィールドワーク① - o あしりべつ郷土館で郷土史研究家からの説明を聴講 - o 事前学習や予習を促す - o フィールドワーク後に感想や学びを共有するディスカッションタイム
第9回	9. 学外フィールドワーク② - o 清田区・吉田用水跡地で郷土史研究家からの説明を聴講 - o 事前学習や予習を促す - o フィールドワーク後に感想や学びを共有するディスカッションタイム
第10回	10. 実践編①（インタビュー） - o インタビューを実施 - o インタビュー後にグループで振り返りを行い、改善点を共有
第11回	11. 実践編②（インタビュー） - o インタビューを実施 - o インタビュー後にグループで振り返りを行い、改善点を共有
第12回	12. 「清田の人々に学ぶ」原稿まとめ - o インタビュー内容をまとめ、「清田の人々に学ぶ」として文章にまとめる - o 原稿作成のためのワークショップを開催
第13回	13. 「清田の人々に学ぶ」原稿グループ発表 - o グループごとに原稿を発表し、フィードバックを受ける - o 他の学生や講師からのフィードバックを積極的に取り入れる - o 発表後に質疑応答の時間

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

	【グループ評価（60％）】 活動成果の内容が十分な水準に達している場合を基準とし、以下のポイントの評価を加減します。 ・地域の方々に聴き取り・インタビューを行い、その内容をグループで協力しながら2,000～3,000字程度の記事を原稿にまとめた最終成果物

成績評価基準と方法	・聴き取り・インタビューを受けた区民の方々による評価 ・活動期間におけるグループマネジメント（プロジェクト管理） ・その他評価すべき特徴的な要素 【個人評価（４０％）】 グループでの活動において、その寄与度を多面的に評価する。メンバーとしての役割を適切に果たしたと判断される場合を基準として、以下のポイント、及びグループ内におけるメンバー相互評価を参考に加点、減点する。 ・グループ活動全般への参加状況 ・インタビューへの参加状況 ・チームメンバーによる相互評価 ・講義内での課題、小テスト等に対する評価 ・その他評価すべき特徴的な要素
テキスト	テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（LMS）を用います。
参考文献	あしりべつ郷土館ホームページ https://ashiribetsu-museum.com/ ひろまある清田ホームページ https://hiromaaru.org/ 清田の歴史（清田区役所ホームページ） https://www.city.sapporo.jp/kiyota/outline/history/index.html 「日本探検」149ページ 北海道独立論 梅棹忠夫 講談社学術文庫2254 「街道をゆく15 北海道の諸街道」司馬遼太郎 朝日文庫 360 そのほか必要に応じて個別に指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、小樽商科大学商業学科経営法学課程を卒業後、銀行業務、通信事業、報道分野、教育機関で幅広い実務経験を積み重ねました。また、代表取締役社長として経営を担い、キャリア支援や教育活動にも長年携わってきました。これらの多彩な経験を基に、理論と実務を結び付けた具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	・エリアについて、文献、新聞・雑誌、Webサイト等を活用し出来る限り情報収集し、皆さんがエリアにどのような関心があるかを考えておいてください。 ・関心がある分野に関連する場所を可能な範囲で訪問してみてください。エリアに関する話を聞く、名所旧跡、観光スポット等の施設を見学する、地域で有名なお店で食べてみる等、情報に限らずエリアを体感することが大切です。 事後学修 エリアの特徴、魅力、課題などについて、情報発信できるようにすることが重要です。

年度	2025
講義名称	地域アクティビティⅠ(ボランティア)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01905S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科
平塚 彰	大学・センター等

授業の目的と概要	私たちが帰属する地域社会は様々な課題を抱えている。本講義では、その課題解決に参加することの重要性を理解し、自らが社会に参加する意欲を育成することを目指します。具体的には、地域ボランティアの参加方法を学び、さらに企業がなぜ社会的責任を果たすために地域ボランティアに積極的に参加しているかなども学び、地域課題解決の基礎知識を身につけます。
到達目標	ボランティアによる社会参加の重要性と実際に参加したボランティアの意義を説明できるようにする。あわせて地域社会の現状認識や課題を見出しその解決策を考察する能力を身につけることを目標とします。
授業の進め方	毎回、授業テーマに沿った課題を提示します。その課題に基づいて、「ディスカッション」「グループワーク」などを行い、能動的な学修を目指します。全員がボランティアに参加し、講義の目的を達成します。また、授業ごとに書き込み式の資料を配布し、記入しながら講義内容を振り返ります。この講義では、社会活動について経験豊富な教員が様々な事例を取り上げ指導します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で開設すると共にLMSを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。具体的なボランティア参加はボランティア参加計画の作成から紹介・情報提供も実施します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	ボランティアとは	対面授業
第3回	企業とボランティア（企業取組の紹介、解説）	対面授業
第4回	企業とボランティア（グループディスカッション）	対面授業
第5回	第1回ボランティア（事前準備）	対面授業
第6回	第1回ボランティア（リフレクション）	対面授業
第7回	第1回ボランティア（振替日）	
第8回	地域の課題	対面授業
第9回	第2回ボランティア（振替日）	
第10回	地域の課題	対面授業
第11回	個人・グループワーク（事前準備・計画書作成など）	対面授業
第12回	第2回ボランティア報告会	対面授業

事前・事後学修

次回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に意見をノートしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。またニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業中のワークシート等 40% ②第1回ボランティア参加 30% ③第2回ボランティア参加 30%"
テキスト	使用しません
参考文献	使用しません

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員の平塚は、銀行や通信業界での実務を通じて経営学や国際ビジネスの深い知見を培い、新谷は教育や組織運営、キャリア支援における豊富な経験を重ねています。これらの経験を基に、実践的で幅広い視野を持った学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ [国教(多文化)][中津川]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・GTEC Test	対面授業
第2回	留学の振り返り・留学ポスター作り	対面授業
第3回	留学レポート	対面授業
第4回	留学発表	
第5回	テーマ設定	
第6回	テーマ準備1	
第7回	テーマ準備2	対面授業
第8回	グループ発表	対面授業
第9回	レポートプレゼン準備 1	対面授業
第10回	レポートプレゼン準備 2	対面授業
第11回	コース発表 1	対面授業
第12回	コース発表 2	対面授業
第13回	学科合同発表会	対面授業

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ [国教(多文化)][黄]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・GTEC Test	対面授業
第2回	留学の振り返り・留学ポスター作り	対面授業
第3回	留学レポート	対面授業
第4回	留学発表	
第5回	テーマ設定	
第6回	テーマ準備1	
第7回	テーマ準備2	対面授業
第8回	グループ発表	対面授業
第9回	レポートプレゼン準備 1	対面授業
第10回	レポートプレゼン準備 2	対面授業
第11回	コース発表 1	対面授業
第12回	コース発表 2	対面授業
第13回	学科合同発表会	対面授業

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ〔国教〕〔椿〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業では、「基礎ゼミⅠ」で習得した、大学での学びに基づく知識とスキルを活かし、人文学に関する情報を収集し、まとめ、課題を発見し、解決策を考え、発信する能力を養います。クラスメイトと協力して、国際化が進む北海道や地域社会に関連する様々な課題に焦点を当て、テーマを設定し、調査と分析を行い、まとめた結果をプレゼンテーションします。
到達目標	・SDGsや自分の身近な問題とグローバルビジネスに関する課題を関連づけて課題を発見し、解決策を考えることができる。 ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。 ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。 ・レジュメ、口頭発表、スライドなど様々なツールや手法を用いてプレゼンテーションができる。 ・ゼミのメンバーと協働し、課題の完成に向けて作業に取り組むことができる。
授業の進め方	ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 書評コンテスト	対面授業
第2回	書評コンテスト	対面授業
第3回	書評コンテスト	対面授業
第4回	オータムフェスティバル参加	
第5回	コース内ワーク	
第6回	コース内ワーク	
第7回	コース内ワーク	対面授業
第8回	コース内プレゼンテーション	対面授業
第9回	レポート・プレゼン準備①	対面授業
第10回	レポート・プレゼン準備②	対面授業
第11回	レポート・プレゼン準備③	対面授業
第12回	コース内発表会	対面授業
第13回	学年成果発表会（学科合同）	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「Webclass」から提出する。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。 通常時の予習・復習のほか、学科・学年合同で課外活動を行う場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 20% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 40% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	使用しない
参考文献	使用しない

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、役員秘書としての経験を通じ、組織運営の実務や対人対応の技術を身に付け、その後、職業教育やキャリア教育に携わる中で教育の現場での指導力を磨いてきました。これらの経験を基に、実践的なスキルと理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。 ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟に様々なアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[国教][野崎]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	この授業では、「基礎ゼミⅠ」で習得した、大学での学びに基づく知識とスキルを活かし、人文学に関する情報を収集し、まとめ、課題を発見し、解決策を考え、発信する能力を養います。クラスメイトと協力して、国際化が進む北海道や地域社会に関連する様々な課題に焦点を当て、テーマを設定し、調査と分析を行い、まとめた結果をプレゼンテーションします。
到達目標	・SDGsや自分の身近な問題と人文社会学に関する課題に関連づけて課題を発見し、解決策を考えることができる。 ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。 ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。 ・レジュメ、口頭発表、スライドなど様々なツールや手法を用いてプレゼンテーションができる。 ・ゼミのメンバーと協働し、課題の完成に向けて作業に取り組むことができる。
授業の進め方	ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 書評コンテスト	対面授業
第2回	書評コンテスト	対面授業
第3回	書評コンテスト	対面授業
第4回	オータムフェスティバル参加	対面授業
第5回	コース内ワーク	対面授業
第6回	コース内ワーク	対面授業
第7回	コース内ワーク	対面授業
第8回	コース内プレゼン	対面授業
第9回	レポート・プレゼン準備①	対面授業
第10回	レポート・プレゼン準備②	対面授業
第11回	レポート・プレゼン準備③	対面授業
第12回	コース内発表会	対面授業
第13回	学年成果発表会（学科合同）	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「Webclass」から提出する。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。 通常時の予習・復習のほか、学科・学年合同で課外活動を行う場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 20% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 40% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	使用しない
参考文献	使用しない

備考	・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。 ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟に様々なアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[臨心][荒関]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、卒業までを見据えての大学での学びに必要な基本的スキルを身に付けることです。 基礎ゼミⅠで学んだ技法を応用し、技法の定着と、より高度な技法の獲得を目指します。また、施設実習を通してコミュニケーション力の強化も目指します。
到達目 標	テーマ：考えをまとめる・発表・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。様々な活動を通して、積極的に人と関わる力を身につける。
授業の 進め方	基礎ゼミⅠで学んだ「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」等の基礎的な学びのスキルを応用した課題に取り組む。具体的には、①「書評」の作成 ②各自が設定したテーマを基にパワーポイントスライドを作成し、プレゼンテーションを行う。 自己理解を深める為に施設実習に向向く。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 学修ポートフォリオ 夏休み課題確認 施設実習にむけて
第2回	施設実習 事前オリエンテーション
第3回	「学び」の表現：書評の書き方
第4回	「学び」の表現：書評作成
第5回	「学び」の表現：書評添削と修正 完成提出
第6回	PPTプレゼンテーション（1）解説 （2）作成①
第7回	PPTプレゼンテーション（2）作成② （3）添削と修正 ①
第8回	（3）添削と修正②
第9回	レクレーション（カブラ）
第10回	プレゼンテーションゼミ内発表会①
第11回	プレゼンテーションゼミ内発表会②
第12回	合同ゼミ成果発表会
第13回	後期のまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で提示した課題は必ず提出すること。また、書評やパワーポイントの作成では、資料や文献を収集し授業に臨むこと。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：10％ 課題レポート：10％ 書評課題：30％ プレゼンテーション課題・発表・評価シート：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[臨心][吉崎]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、卒業までを見据えての大学での学びに必要な基本的スキルを身に付けることです。 基礎ゼミⅠで学んだ技法を応用し、技法の定着と、より高度な技法の獲得を目指します。また、施設実習を通してコミュニケーション力の強化も目指します。
到達目標	テーマ：考えをまとめる・発表・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。様々な活動を通して、積極的に人と関わる力を身につける。
授業の進め方	基礎ゼミⅠで学んだ「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」等の基礎的な学びのスキルを応用した課題に取り組む。具体的には、①「書評」の作成 ②各自が設定したテーマを基にパワーポイントスライドを作成し、プレゼンテーションを行う。 自己理解を深める為に施設実習に向向く。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 学修ポートフォリオ 夏休み課題確認 施設実習にむけて
第2回	施設実習 事前オリエンテーション
第3回	「学び」の表現：書評の書き方
第4回	「学び」の表現：書評作成
第5回	「学び」の表現：書評添削と修正 完成提出
第6回	PPTプレゼンテーション（1）解説 （2）作成①
第7回	PPTプレゼンテーション（2）作成② （3）添削と修正 ①
第8回	（3）添削と修正②
第9回	レクレーション（カブラ）
第10回	プレゼンテーションゼミ内発表会①
第11回	プレゼンテーションゼミ内発表会②
第12回	合同ゼミ成果発表会
第13回	後期のまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で提示した課題は必ず提出すること。また、書評やパワーポイントの作成では、資料や文献を収集し授業に臨むこと。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：10％ 課題レポート：10％ 書評課題：30％ プレゼンテーション課題・発表・評価シート：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[臨心][品川]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、卒業までを見据えての大学での学びに必要な基本的スキルを身に付けることです。 基礎ゼミⅠで学んだ技法を応用し、技法の定着と、より高度な技法の獲得を目指します。また、施設実習を通してコミュニケーション力の強化も目指します。
到達目 標	テーマ：考えをまとめる・発表・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。様々な活動を通して、積極的に人と関わる力を身につける。
授業の 進め方	基礎ゼミⅠで学んだ「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」等の基礎的な学びのスキルを応用した課題に取り組む。具体的には、①「書評」の作成　②各自が設定したテーマを基にパワーポイントスライドを作成し、プレゼンテーションを行う。 自己理解を深める為に施設実習に向向く。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション　学修ポートフォリオ　夏休み課題確認　施設実習にむけて
第2回	施設実習　事前オリエンテーション
第3回	「学び」の表現：書評の書き方
第4回	「学び」の表現：書評作成
第5回	「学び」の表現：書評添削と修正 完成提出
第6回	PPTプレゼンテーション（1）解説　（2）作成①
第7回	PPTプレゼンテーション（2）作成②　（3）添削と修正　①
第8回	（3）添削と修正②
第9回	レクレーション（カブラ）
第10回	プレゼンテーションゼミ内発表会①
第11回	プレゼンテーションゼミ内発表会②
第12回	合同ゼミ成果発表会
第13回	後期のまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で提示した課題は必ず提出すること。また、書評やパワーポイントの作成では、資料や文献を収集し授業に臨むこと。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：10％ 課題レポート：10％ 書評課題：30％ プレゼンテーション課題・発表・評価シート：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[臨心][橋本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、卒業までを見据えての大学での学びに必要な基本的スキルを身に付けることです。 基礎ゼミⅠで学んだ技法を応用し、技法の定着と、より高度な技法の獲得を目指します。また、施設実習を通してコミュニケーション力の強化も目指します。
到達目 標	テーマ：考えをまとめる・発表・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。様々な活動を通して、積極的に人と関わる力を身につける。
授業の 進め方	基礎ゼミⅠで学んだ「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」等の基礎的な学びのスキルを応用した課題に取り組む。具体的には、①「書評」の作成 ②各自が設定したテーマを基にパワーポイントスライドを作成し、プレゼンテーションを行う。 自己理解を深める為に施設実習に向向く。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 学修ポートフォリオ 夏休み課題確認 施設実習にむけて
第2回	施設実習 事前オリエンテーション
第3回	「学び」の表現：書評の書き方
第4回	「学び」の表現：書評作成
第5回	「学び」の表現：書評添削と修正 完成提出
第6回	PPTプレゼンテーション（1）解説 （2）作成①
第7回	PPTプレゼンテーション（2）作成② （3）添削と修正 ①
第8回	（3）添削と修正②
第9回	レクレーション（カブラ）
第10回	プレゼンテーションゼミ内発表会①
第11回	プレゼンテーションゼミ内発表会②
第12回	合同ゼミ成果発表会
第13回	後期のまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で提示した課題は必ず提出すること。また、書評やパワーポイントの作成では、資料や文献を収集し授業に臨むこと。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：10％ 課題レポート：10％ 書評課題：30％ プレゼンテーション課題・発表・評価シート：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[臨心][青木(美)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、卒業までを見据えての大学での学びに必要な基本的スキルを身に付けることです。 基礎ゼミⅠで学んだ技法を応用し、技法の定着と、より高度な技法の獲得を目指します。また、施設実習を通してコミュニケーション力の強化も目指します。
到達目標	テーマ：考えをまとめる・発表・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。様々な活動を通して、積極的に人と関わる力を身につける。
授業の進め方	基礎ゼミⅠで学んだ「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」等の基礎的な学びのスキルを応用した課題に取り組む。具体的には、①「書評」の作成 ②各自が設定したテーマを基にパワーポイントスライドを作成し、プレゼンテーションを行う。 自己理解を深める為に施設実習に向かう。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 学修ポートフォリオ 夏休み課題確認 施設実習にむけて
第2回	施設実習 事前オリエンテーション
第3回	「学び」の表現：書評の書き方
第4回	「学び」の表現：書評作成
第5回	「学び」の表現：書評添削と修正 完成提出
第6回	PPTプレゼンテーション（１）解説 （２）作成①
第7回	PPTプレゼンテーション（２）作成② （３）添削と修正 ①
第8回	（３）添削と修正②
第9回	レクレーション（カブラ）
第10回	プレゼンテーションゼミ内発表会①
第11回	プレゼンテーションゼミ内発表会②
第12回	合同ゼミ成果発表会
第13回	後期のまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で提示した課題は必ず提出すること。また、書評やパワーポイントの作成では、資料や文献を収集し授業に臨むこと。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：10％ 課題レポート：10％ 書評課題：30％ プレゼンテーション課題・発表・評価シート：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[臨心][永井]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、卒業までを見据えての大学での学びに必要な基本的スキルを身に付けることです。 基礎ゼミⅠで学んだ技法を応用し、技法の定着と、より高度な技法の獲得を目指します。また、施設実習を通してコミュニケーション力の強化も目指します。
到達目標	テーマ：考えをまとめる・発表・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。様々な活動を通して、積極的に人と関わる力を身につける。
授業の進め方	基礎ゼミⅠで学んだ「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」等の基礎的な学びのスキルを応用した課題に取り組む。具体的には、①「書評」の作成 ②各自が設定したテーマを基にパワーポイントスライドを作成し、プレゼンテーションを行う。 自己理解を深める為に施設実習に向向く。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 学修ポートフォリオ 夏休み課題確認 施設実習にむけて
第2回	施設実習 事前オリエンテーション
第3回	「学び」の表現：書評の書き方
第4回	「学び」の表現：書評作成
第5回	「学び」の表現：書評添削と修正 完成提出
第6回	PPTプレゼンテーション（1）解説 （2）作成①
第7回	PPTプレゼンテーション（2）作成② （3）添削と修正 ①
第8回	（3）添削と修正②
第9回	レクレーション（カブラ）
第10回	プレゼンテーションゼミ内発表会①
第11回	プレゼンテーションゼミ内発表会②
第12回	合同ゼミ成果発表会
第13回	後期のまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で提示した課題は必ず提出すること。また、書評やパワーポイントの作成では、資料や文献を収集し授業に臨むこと。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：10％ 課題レポート：10％ 書評課題：30％ プレゼンテーション課題・発表・評価シート：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[子心][須藤]
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業では、基礎ゼミⅠで学修した大学で学ぶために必要な基礎力を深めることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求し、疑問を解くことを深める。また、その成果を仲間との交流議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームベースでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成、社会貢献についても考える場とする
到達目標	1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる
授業の進め方	1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める 3) 4 ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 教職履修カルテ 学修ポートフォリオについて
第2回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習①
第3回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習②
第4回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習③
第5回	秋学期最終レポートとプレゼンについて 今年度に行ったボランティアについて
第6回	秋学期最終レポートとプレゼンについて 今年度に行ったボランティアについて
第7回	秋学期最終レポートとプレゼン準備
第8回	秋学期最終レポートとプレゼン準備
第9回	ゼミ内プレゼン
第10回	ゼミ内プレゼン
第11回	全体プレゼン
第12回	1年間のまとめ・教職カルテ作成

第13回	1年間のまとめ・教職カルテ作成

事前・事後学修	事前に、テーマに関する資料の検索をする 事後に、テーマに関連する書籍、映像、などの資料の検索をする なお、事前学習、事後学習とも、毎回2時間半程度とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。40% 最終レポート 60%
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[子心][大村]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業では、基礎ゼミⅠで学修した大学で学ぶために必要な基礎力を深めることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求し、疑問を解くことを深める。また、その成果を仲間との交流議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームベースでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成、社会貢献についても考える場とする
到達目標	1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる
授業の進め方	1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める 3) 4ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 教職履修カルテ 学修ポートフォリオについて
第2回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習①
第3回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習②
第4回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習③
第5回	秋学期最終レポートとプレゼンについて 今年度に行ったボランティアについて
第6回	秋学期最終レポートとプレゼンについて 今年度に行ったボランティアについて
第7回	秋学期最終レポートとプレゼン準備
第8回	秋学期最終レポートとプレゼン準備
第9回	ゼミ内プレゼン
第10回	ゼミ内プレゼン
第11回	全体プレゼン
第12回	1年間のまとめ・教職カルテ作成

第13回	1年間のまとめ・教職カルテ作成

事前・事後学修	事前に、テーマに関する資料の検索をする 事後に、テーマに関連する書籍、映像、などの資料の検索をする なお、事前学習、事後学習とも、毎回2時間半程度とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。40% 最終レポート 60%
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[子心][愛下]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業では、基礎ゼミⅠで学修した大学で学ぶために必要な基礎力を深めることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求し、疑問を解くことを深める。また、その成果を仲間との交流議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームベースでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成、社会貢献についても考える場とする
到達目標	1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる
授業の進め方	1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める 3) 4ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 教職履修カルテ 学修ポートフォリオについて
第2回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習①
第3回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習②
第4回	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習③
第5回	秋学期最終レポートとプレゼンについて 今年度に行ったボランティアについて
第6回	秋学期最終レポートとプレゼンについて 今年度に行ったボランティアについて
第7回	秋学期最終レポートとプレゼン準備
第8回	秋学期最終レポートとプレゼン準備
第9回	ゼミ内プレゼン
第10回	ゼミ内プレゼン
第11回	全体プレゼン
第12回	1年間のまとめ・教職カルテ作成

第13回	1年間のまとめ・教職カルテ作成

事前・事後学修	事前に、テーマに関する資料の検索をする 事後に、テーマに関連する書籍、映像、などの資料の検索をする なお、事前学習、事後学習とも、毎回2時間半程度とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。40% 最終レポート 60%
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[観ビ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科
横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科
田村 こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科
顔 欒蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科
新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科
齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、春学期の「基礎ゼミⅠ」で習得した、大学での学びに必要な基本知識・スキルを踏まえて、観光に関する情報を収集してまとめ、課題を発見し、解決方法を考え、発信するという応用力を身につけることです。ゼミのメンバーと協力し合い、国際化が進む北海道の観光産業とSDGsに関連する課題に基づき、調べ学習を行い、プレゼンテーションやイベント企画・運営などの形で成果を発表します。
到達目標	・SDGs、観光、自分の身近な問題に関連付けて課題を発見し、実践を通じて理解を深め、解決策を考えることができる。 ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。 ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。 ・レジュメ、口頭発表、スライドなど様々なツールや手法を用いて日本語のプレゼンテーションができる。 ・ゼミのメンバーと協力し合い、積極的に意見交換し、公平に分担して、課題の完成に向けた作業に取り組むことができる。 ・他者の意見を傾聴し、良い点や改善点などの意見を受け入れ、自分の不足や問題点を改善できる。
授業の進め方	・授業形態 講義形式および実習の要素を含む演習形式を組み合わせて行います。 「WebClass」を活用して、学習成果の蓄積としてのポートフォリオを作成します。 教員からの指導だけでなく、ゼミ生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。 ・授業内容 SDGs（Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標）の目標、観光産業や地域の課題、自分の身近な問題との関連付け、課題発見・解決型のグループワークを行います。 ※学年全体の合同授業を基本とする。アドグルに分かれて授業を行う場合は、授業内で別途指示する。 ※基本的には上記のように行うが、フィールドワーク等の諸事情により変更となる可能性がある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内に適宜課題に対するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（シラバス説明、履修登録）、学修ポートフォリオの作成
第2回	地域とつながろう：ロゲインとは
第3回	地域とつながろう：札幌ロゲイン作成①

2025/04/01

第4回	地域とつながろう：札幌ロゲイン作成②
第5回	地域とつながろう：フィールドワークの計画
第6回	地域とつながろう：フィールドワーク
第7回	地域とつながろう：札幌ロゲイン作成③
第8回	地域とつながろう：札幌ロゲイン実施
第9回	地域とつながろう：札幌ロゲイン発表
第10回	SDGsについて考える①
第11回	SDGsについて考える②
第12回	ビバレッジ企業におけるSDG s の取り組み（専門家レクチャー）
第13回	まとめと振り返り

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「WebClass」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業・発表への取り組み 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出、完成度 30% プレゼンテーションの発表、完成度 30%
テキスト	「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・社会の動向に関心を向けながら、観光に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[スピ][横山]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、基礎ゼミⅡを発展させ、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供し、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	様々な企画・イベント等をより良い活動にするための応用的な観点から考えることができる。グループワークやディスカッションを通して、円滑なコミュニケーションを図り、個々人がリーダーシップを発揮しながら学びの質を高めていくことができるようになる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、基礎ゼミⅡで身につけた力をさらに応用、発展させるための学習を実施する。様々なイベントへの参加・企画を通して実践的な経験を多く取り入れながら、スポーツビジネス現場での応用力を身につけてる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認 / ポートフォリオ	対面授業
第2回	オムニバス授業Ⅰ・Ⅱ	対面授業
第3回	オムニバス授業Ⅲ・Ⅳ	対面授業
第4回	オムニバス授業Ⅴ・Ⅵ	対面授業
第5回	オムニバス授業Ⅶ・Ⅷ	対面授業
第6回	自分史ポスター（資料作成）	対面授業
第7回	自分史ポスター（発表）	対面授業
第8回	企画プレゼンテーションⅠ	対面授業
第9回	企画プレゼンテーションⅡ	対面授業
第10回	企画プレゼンテーションⅢ	対面授業
第11回	企画プレゼンテーションⅣ	対面授業
第12回	企画プレゼンテーションⅤ	対面授業
第13回	応用演習報告会 参加・聴講	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、普段のニュースや新聞等のメディアに目を通し、スポーツビジネスについての情報収集を行うとともに、自らの考えを反映しながら意見を述べられるように訓練しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	振返りシート（40％） 発表①（20％） 発表②（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜配布する。

備考	合同授業等は授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[スピ][竹元]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、基礎ゼミⅡを発展させ、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供し、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	様々な企画・イベント等をより良い活動にするための応用的な観点から考えることができる。グループワークやディスカッションを通して、円滑なコミュニケーションを図り、個々人がリーダーシップを発揮しながら学びの質を高めていくことができるようになる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、基礎ゼミⅡで身につけた力をさらに応用、発展させるための学習を実施する。様々なイベントへの参加・企画を通して実践的な経験を多く取り入れながら、スポーツビジネス現場での応用力を身につけてる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認 / ポートフォリオ	対面授業
第2回	オムニバス授業Ⅰ・Ⅱ	対面授業
第3回	オムニバス授業Ⅲ・Ⅳ	対面授業
第4回	オムニバス授業Ⅴ・Ⅵ	対面授業
第5回	オムニバス授業Ⅶ・Ⅷ	対面授業
第6回	自分史ポスター（資料作成）	対面授業
第7回	自分史ポスター（発表）	対面授業
第8回	企画プレゼンテーションⅠ	対面授業
第9回	企画プレゼンテーションⅡ	対面授業
第10回	企画プレゼンテーションⅢ	対面授業
第11回	企画プレゼンテーションⅣ	対面授業
第12回	企画プレゼンテーションⅤ	対面授業
第13回	応用演習報告会 参加・聴講	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、普段のニュースや新聞等のメディアに目を通し、スポーツビジネスについての情報収集を行うとともに、自らの考えを反映しながら意見を述べられるように訓練しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	振返りシート（40％） 発表①（20％） 発表②（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜配布する。

備考	合同授業等は授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[スピ][坪山]
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、基礎ゼミⅡを発展させ、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供し、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	様々な企画・イベント等をより良い活動にするための応用的な観点から考えることができる。グループワークやディスカッションを通して、円滑なコミュニケーションを図り、個々人がリーダーシップを発揮しながら学びの質を高めていくことができるようになる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、基礎ゼミⅡで身につけた力をさらに応用、発展させるための学習を実施する。様々なイベントへの参加・企画を通して実践的な経験を多く取り入れながら、スポーツビジネス現場での応用力を身につけてる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認 / ポートフォリオ	対面授業
第2回	オムニバス授業Ⅰ・Ⅱ	対面授業
第3回	オムニバス授業Ⅲ・Ⅳ	対面授業
第4回	オムニバス授業Ⅴ・Ⅵ	対面授業
第5回	オムニバス授業Ⅶ・Ⅷ	対面授業
第6回	自分史ポスター（資料作成）	対面授業
第7回	自分史ポスター（発表）	対面授業
第8回	企画プレゼンテーションⅠ	対面授業
第9回	企画プレゼンテーションⅡ	対面授業
第10回	企画プレゼンテーションⅢ	対面授業
第11回	企画プレゼンテーションⅣ	対面授業
第12回	企画プレゼンテーションⅤ	対面授業
第13回	応用演習報告会 参加・聴講	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、普段のニュースや新聞等のメディアに目を通し、スポーツビジネスについての情報収集を行うとともに、自らの考えを反映しながら意見を述べられるように訓練しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	振返りシート（40％） 発表①（20％） 発表②（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜配布する。

備考	合同授業等は授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[スピ][田子]
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、基礎ゼミⅡを発展させ、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供し、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	様々な企画・イベント等をより良い活動にするための応用的な観点から考えることができる。グループワークやディスカッションを通して、円滑なコミュニケーションを図り、個々人がリーダーシップを発揮しながら学びの質を高めていくことができるようになる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、基礎ゼミⅡで身につけた力をさらに応用、発展させるための学習を実施する。様々なイベントへの参加・企画を通して実践的な経験を多く取り入れながら、スポーツビジネス現場での応用力を身につけてる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認 / ポートフォリオ	対面授業
第2回	オムニバス授業Ⅰ・Ⅱ	対面授業
第3回	オムニバス授業Ⅲ・Ⅳ	対面授業
第4回	オムニバス授業Ⅴ・Ⅵ	対面授業
第5回	オムニバス授業Ⅶ・Ⅷ	対面授業
第6回	自分史ポスター（資料作成）	対面授業
第7回	自分史ポスター（発表）	対面授業
第8回	企画プレゼンテーションⅠ	対面授業
第9回	企画プレゼンテーションⅡ	対面授業
第10回	企画プレゼンテーションⅢ	対面授業
第11回	企画プレゼンテーションⅣ	対面授業
第12回	企画プレゼンテーションⅤ	対面授業
第13回	応用演習報告会 参加・聴講	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、普段のニュースや新聞等のメディアに目を通し、スポーツビジネスについての情報収集を行うとともに、自らの考えを反映しながら意見を述べられるように訓練しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	振返りシート（40％） 発表①（20％） 発表②（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜配布する。

備考	合同授業等は授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅡ[ス指]
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01904S

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ指導学科の特色や学びのポイントを踏まえ、本学科における学びの目的を理解する。 スポーツ指導学科の「基礎ゼミ」では、学校教育やスポーツ施設などでより良い実践活動を行うことのできる人材となることを目指し、スポーツと健康に関する基礎的な専門知識・技能について学んでいく。
到達目標	スポーツ指導学科における学びの目的を理解できる。 口頭発表や文書による報告の手法を習得することができる。 スポーツ指導分野の現状を知り、スポーツを取り巻く諸課題を認識することができる。
授業の進め方	本科目は、講義形式あるいは演習形式によって展開する。 本科目では、授業の展開に応じてグループディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。 本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業（講義形式）
第2回	「基礎ゼミⅠ」の取り組みを踏まえた学習計画	対面授業（講義形式）
第3回	アドバイザー企画①：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第4回	アドバイザー企画②：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第5回	アドバイザー企画③：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第6回	アドバイザー企画④：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第7回	アドバイザー企画⑤：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第8回	グループディスカッション①：スポーツの現状と課題に関するテーマ	対面授業（講義形式）
第9回	グループディスカッション②：スポーツ指導に関するテーマ	対面授業（講義形式）
第10回	プレゼンテーション①：テーマ設定・発表準備	対面授業（講義形式）

第11回	プレゼンテーション②：クラス内発表	対面授業（講義形式）
第12回	スポーツを取り巻く問題や諸課題への見方・考え方	対面授業（講義形式）
第13回	まとめ：「基礎ゼミⅡ」の振り返りと「基礎演習Ⅰ」への展望	対面授業（講義形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】 本科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する。 【必要な時間】 各回の予習・復習には、それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	30%：グループワーク 授業の内容に応じてグループワークの機会を設ける。 集団での課題解決に対する積極性を評価する。 20%：プレゼンテーション 授業冒頭において学生からの近況報告，授業内において発表の機会をそれぞれ設ける。 発表に対する積極性を評価する。 30%：レポート 授業の内容に応じてレポート課題を設定する。設定された課題の達成度を評価する。 20%：最終課題 本科目の最終課題として，スライド資料の作成と提出を設定する。 指定された要件の達成状況を踏まえて総合的に評価する。
テキスト	札幌国際大学（2025）Sapporo international university 2025 study guide 札幌国際大学（2025）Sapporo international university campus guide 2025
参考文献	その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

備考	本科目は，スポーツ指導学科1年生の必修科目である。 本科目は，毎時間の授業冒頭で教員ならびに学生の連絡・報告を行う機会を設ける。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[国教][椿]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では、大学での学習に必要な基礎的な能力を身につけることを目的とする。学生が自ら疑問を抱き、それを追求する向学心を深め、仲間との交流や議論を通じて成果を共有し、切磋琢磨することを目指します。さらに、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	・SDGsや自分の身近な問題と人文社会学に関する課題を関連づけて課題を発見し、解決策を考えることができる。 ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。 ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。 ・レジュメ、口頭発表、スライドなど様々なツールや手法を用いてプレゼンテーションができる。 ・ゼミのメンバーと協働し、課題の完成に向けて作業に取り組むことができる。
授業の進め方	・授業形態 講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。 教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも実施します。学生の自発的かつ協調的な学びの姿勢が求められます。 ・授業内容 アドバイザーのもとで、SDGsと地域の課題や身近な問題を関連づけ、改善案や解決策を検討します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス/学修管理システム（学科合同）
第2回	メールの書き方とマナー / GPSアカデミック（学科合同）
第3回	大学生活で困ったとき / 図書館ガイダンス（学科合同）
第4回	フォローアップ研修に向けて①（コースごと）
第5回	フォローアップ研修に向けて②（コースごと）
第6回	フォローアップ研修（振替・各コース・フィールドワーク）
第7回	異文化交流会（学科合同）
第8回	グループ学習①（コースごと）
第9回	グループ学習②（コースごと）
第10回	発表準備①（コースごと）
第11回	発表準備②（コースごと）

第12回	コース発表会（コースごと）
第13回	成果発表会・相互評価・まとめとフィードバック

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「Webclass」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。 通常時の予習・復習のほか、学科・学年合同で課外活動を行う場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 30% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 30% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。 ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟に様々なアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[国教][多文化]
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科
濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科
黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では、大学での学習に必要な基礎的な能力を身につけることを目的とする。学生が自ら疑問を抱き、それを追求する向学心を深め、仲間との交流や議論を通じて成果を共有し、切磋琢磨することを目指します。さらに、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	・SDGsや自分の身近な問題と人文社会学に関する課題を関連づけて課題を発見し、解決策を考えることができる。 ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。 ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。 ・レジュメ、口頭発表、スライドなど様々なツールや手法を用いてプレゼンテーションができる。 ・ゼミのメンバーと協働し、課題の完成に向けて作業に取り組むことができる。
授業の進め方	・授業形態 講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。 教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも実施します。学生の自発的かつ協調的な学びの姿勢が求められます。 ・授業内容 アドバイザーのもとで、SDGsと地域の課題や身近な問題を関連づけ、改善案や解決策を検討します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス/学修管理システム（学科合同）
第2回	メールの書き方とマナー / GPSアカデミック（学科合同）
第3回	大学生活で困ったとき / 図書館ガイダンス（学科合同）
第4回	フォローアップ研修に向けて①（コースごと）
第5回	フォローアップ研修に向けて②（コースごと）
第6回	フォローアップ研修（振替・各コース・フィールドワーク）
第7回	異文化交流会（学科合同）
第8回	グループ学習①（コースごと）
第9回	グループ学習②（コースごと）

第10回	発表準備①（コースごと）
第11回	発表準備②（コースごと）
第12回	コース発表会（コースごと）
第13回	成果発表会・相互評価・まとめとフィードバック

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「Webclass」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。 通常時の予習・復習のほか、学科・学年合同で課外活動を行う場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 30% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 30% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。 ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟に様々なアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ〔国教〕〔野崎〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本演習では、大学での学習に必要な基礎的な能力を身につけることを目的とする。学生が自ら疑問を抱き、それを追求する向学心を深め、仲間との交流や議論を通じて成果を共有し、切磋琢磨することを目指します。さらに、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	・SDGsや自分の身近な問題と人文社会学に関する課題を関連づけて課題を発見し、解決策を考えることができる。 ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。 ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。 ・レジュメ、口頭発表、スライドなど様々なツールや手法を用いてプレゼンテーションができる。 ・ゼミのメンバーと協働し、課題の完成に向けて作業に取り組むことができる。
授業の進め方	・授業形態 講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。 教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも実施します。学生の自発的かつ協調的な学びの姿勢が求められます。 ・授業内容 アドバイザーのもとで、SDGsと地域の課題や身近な問題を関連づけ、改善案や解決策を検討します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス/学修管理システム（学科合同）
第2回	メールの書き方とマナー / GPSアカデミック（学科合同）
第3回	大学生活で困ったとき / 図書館ガイダンス（学科合同）
第4回	フォローアップ研修に向けて①（コースごと）
第5回	フォローアップ研修に向けて②（コースごと）
第6回	フォローアップ研修（振替・各コース・フィールドワーク）
第7回	異文化交流会（学科合同）
第8回	グループ学習①（コースごと）
第9回	グループ学習②（コースごと）
第10回	発表準備①（コースごと）
第11回	発表準備②（コースごと）

第12回	コース発表会（コースごと）
第13回	成果発表会・相互評価・まとめとフィードバック

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「Webclass」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。 通常時の予習・復習のほか、学科・学年合同で課外活動を行う場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 30% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 30% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。 ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟に様々なアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[臨心][荒関]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。 また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「日本語表現」）と関連付け、より確かな習得に繋げる。
到達目標	テーマ：慣れる・協働・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。
授業の進め方	大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習やディスカッションに取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：大学での学びについて（時間割作成・Email）履修個別指導
第2回	新入生研修会
第3回	学びの計画 -長中期計画と短期の計画- 学修シートの説明と記載 個別面談
第4回	レポートの概要と図書館ガイダンス・文献検索
第5回	レポートを書く
第6回	①大学祭のテーマについて 概要説明 グループ分け 計画と準備 【協働】
第7回	②アクティブラーニングとは グループワーク 計画と準備 【協働】
第8回	③グループワーク 計画と準備 【協働】
第9回	OB・OGの講話 質疑応答
第10回	④グループワーク 計画と準備 【協働】
第11回	⑤グループワーク大学祭の実施 【協働】
第12回	⑥グループワーク大学祭の振り返り【協働】
第13回	前期のまとめ 授業内レポート 夏休課題 書評を書くために 施設実習について

事前・事後学修	【具体的な内容】 準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：20％ レポート課題：30％ 小レポート課題および提出物：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[臨心][吉崎]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。 また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「日本語表現」）と関連付け、より確かな習得に繋げる。
到達目標	テーマ：慣れる・協働・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。
授業の進め方	大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習やディスカッションに取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：大学での学びについて（時間割作成・Email）履修個別指導
第2回	新入生研修会
第3回	学びの計画 -長中期計画と短期の計画- 学修シートの説明と記載 個別面談
第4回	レポートの概要と図書館ガイダンス・文献検索
第5回	レポートを書く
第6回	①大学祭のテーマについて 概要説明 グループ分け 計画と準備 【協働】
第7回	②アクティブラーニングとは グループワーク 計画と準備 【協働】
第8回	③グループワーク 計画と準備 【協働】
第9回	OB・OGの講話 質疑応答
第10回	④グループワーク 計画と準備 【協働】
第11回	⑤グループワーク大学祭の実施 【協働】
第12回	⑥グループワーク大学祭の振り返り【協働】
第13回	前期のまとめ 授業内レポート 夏休課題 書評を書くために 施設実習について

事前・事後学修	【具体的な内容】 準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：20％ レポート課題：30％ 小レポート課題および提出物：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[臨心][品川]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。 また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「日本語表現」）と関連付け、より確かな習得に繋げる。
到達目 標	テーマ：慣れる・協働・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。
授業の 進め方	大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習やディスカッションに取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：大学での学びについて（時間割作成・Email）履修個別指導
第2回	新入生研修会
第3回	学びの計画　-長中期計画と短期の計画-　学修シートの説明と記載　個別面談
第4回	レポートの概要と図書館ガイダンス・文献検索
第5回	レポートを書く
第6回	①大学祭のテーマについて　概要説明　グループ分け　計画と準備　【協働】
第7回	②アクティブラーニングとは　グループワーク　計画と準備　【協働】
第8回	③グループワーク　計画と準備　【協働】
第9回	OB・OGの講話　質疑応答
第10回	④グループワーク　計画と準備　【協働】
第11回	⑤グループワーク大学祭の実施　【協働】
第12回	⑥グループワーク大学祭の振り返り【協働】
第13回	前期のまとめ　授業内レポート　夏休課題　書評を書くために　施設実習について

事前・事後学修	【具体的な内容】 準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：20％ レポート課題：30％ 小レポート課題および提出物：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[臨心][橋本]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。 また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「日本語表現」）と関連付け、より確かな習得に繋げる。
到達目標	テーマ：慣れる・協働・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。
授業の進め方	大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習やディスカッションに取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：大学での学びについて（時間割作成・Email）履修個別指導
第2回	新入生研修会
第3回	学びの計画 -長中期計画と短期の計画- 学修シートの説明と記載 個別面談
第4回	レポートの概要と図書館ガイダンス・文献検索
第5回	レポートを書く
第6回	①大学祭のテーマについて 概要説明 グループ分け 計画と準備 【協働】
第7回	②アクティブラーニングとは グループワーク 計画と準備 【協働】
第8回	③グループワーク 計画と準備 【協働】
第9回	OB・OGの講話 質疑応答
第10回	④グループワーク 計画と準備 【協働】
第11回	⑤グループワーク大学祭の実施 【協働】
第12回	⑥グループワーク大学祭の振り返り【協働】
第13回	前期のまとめ 授業内レポート 夏休課題 書評を書くために 施設実習について

事前・事後学修	【具体的な内容】 準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：20％ レポート課題：30％ 小レポート課題および提出物：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[臨心][青木]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。 また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「日本語表現」）と関連付け、より確かな習得に繋げる。
到達目標	テーマ：慣れる・協働・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。
授業の進め方	大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習やディスカッションに取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：大学での学びについて（時間割作成・Email）履修個別指導
第2回	新入生研修会
第3回	学びの計画 -長中期計画と短期の計画- 学修シートの説明と記載 個別面談
第4回	レポートの概要と図書館ガイダンス・文献検索
第5回	レポートを書く
第6回	①大学祭のテーマについて 概要説明 グループ分け 計画と準備 【協働】
第7回	②アクティブラーニングとは グループワーク 計画と準備 【協働】
第8回	③グループワーク 計画と準備 【協働】
第9回	OB・OGの講話 質疑応答
第10回	④グループワーク 計画と準備 【協働】
第11回	⑤グループワーク大学祭の実施 【協働】
第12回	⑥グループワーク大学祭の振り返り【協働】
第13回	前期のまとめ 授業内レポート 夏休課題 書評を書くために 施設実習について

事前・事後学修	【具体的な内容】 準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：20％ レポート課題：30％ 小レポート課題および提出物：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[臨心][永井]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。 また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「日本語表現」）と関連付け、より確かな習得に繋げる。
到達目標	テーマ：慣れる・協働・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。
授業の進め方	大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習やディスカッションに取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：大学での学びについて（時間割作成・Email）履修個別指導
第2回	新入生研修会
第3回	学びの計画 -長中期計画と短期の計画- 学修シートの説明と記載 個別面談
第4回	レポートの概要と図書館ガイダンス・文献検索
第5回	レポートを書く
第6回	①大学祭のテーマについて 概要説明 グループ分け 計画と準備 【協働】
第7回	②アクティブラーニングとは グループワーク 計画と準備 【協働】
第8回	③グループワーク 計画と準備 【協働】
第9回	OB・OGの講話 質疑応答
第10回	④グループワーク 計画と準備 【協働】
第11回	⑤グループワーク大学祭の実施 【協働】
第12回	⑥グループワーク大学祭の振り返り【協働】
第13回	前期のまとめ 授業内レポート 夏休課題 書評を書くために 施設実習について

事前・事後学修	【具体的な内容】 準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：20％ レポート課題：30％ 小レポート課題および提出物：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[臨心・秋入用]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。 また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「日本語表現」）と関連付け、より確かな習得に繋げる。
到達目 標	テーマ：慣れる・協働・自己理解をメインに進める。スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。
授業の 進め方	大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習やディスカッションに取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：大学での学びについて（時間割作成・Email）履修個別指導
第2回	新入生研修会
第3回	学びの計画 -長中期計画と短期の計画- 学修シートの説明と記載 個別面談
第4回	レポートの概要と図書館ガイダンス・文献検索
第5回	レポートを書く
第6回	①大学祭のテーマについて 概要説明 グループ分け 計画と準備 【協働】
第7回	②アクティブラーニングとは グループワーク 計画と準備 【協働】
第8回	③グループワーク 計画と準備 【協働】
第9回	OB・OGの講話 質疑応答
第10回	④グループワーク 計画と準備 【協働】
第11回	⑤グループワーク大学祭の実施 【協働】
第12回	⑥グループワーク大学祭の振り返り【協働】
第13回	前期のまとめ 授業内レポート 夏休課題 書評を書くために 施設実習について

事前・事後学修	【具体的な内容】 準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の講義での学修シート：20％ 学修ポートフォリオ：20％ レポート課題：30％ 小レポート課題および提出物：30％
テキスト	『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』
参考文献	参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

備考	授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[子心][須藤]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業では、大学で学ぶために必要な基礎力を身につけることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求する向学心の深化、その成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームページでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成についても考える場とする
到達目標	1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること（DP1） 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心（DP3） 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと（DP2） 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる（DP6）
授業の進め方	1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める 3) 3ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介
第2回	SNSの危険性と使い方について 4年間の見通しを立てる 学修ポートフォリオ説明
第3回	GPSアカデミックブレースメントテスト
第4回	清麗祭玉人形発表準備企画立案 図書館見学
第5回	清麗祭玉人形発表準備制作
第6回	清麗祭玉人形発表準備制作
第7回	清麗祭玉人形発表準備制作
第8回	清麗祭玉人形発表準備・リハーサル
第9回	清麗祭玉人形発表準備・リハーサル
第10回	清麗祭本番
第11回	清麗祭本番
第12回	清麗祭玉人形劇振り返り

第13回	基礎ゼミⅠのまとめと基礎ゼミⅡについて 書評について

事前・事後学修	事前に、テーマに関する資料の検索をする 事後に、テーマに関連する資料の検索をする なお、事前学習、事後学習とも、毎回2時間半とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各種課題のレポートなど（4年間の見通し、お礼状など）100点
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[子心][大村]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業では、大学で学ぶために必要な基礎力を身につけることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求する向学心の深化、その成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームページでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成についても考える場とする
到達目標	1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること（DP1） 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心（DP3） 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと（DP2） 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる（DP6）
授業の進め方	1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める 3) 3ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介
第2回	4年間の見通しを立てる 学修ポートフォリオ説明
第3回	清麗祭玉人形発表準備企画立案 図書館ガイダンスおよび見学
第4回	清麗祭玉人形発表準備企画立案
第5回	清麗祭玉人形発表準備制作
第6回	清麗祭玉人形発表準備制作
第7回	清麗祭玉人形発表準備制作
第8回	清麗祭玉人形発表準備・リハーサル
第9回	清麗祭玉人形発表準備・リハーサル
第10回	清麗祭での玉人形劇実演本番
第11回	清麗祭での玉人形劇実演本番
第12回	清麗祭玉人形劇振り返り

第13回	基礎ゼミⅠのまとめと基礎ゼミⅡについて 書評について

事前・事後学修	事前に、テーマに関する資料の検索をする 事後に、テーマに関連する資料の検索をする なお、事前学習、事後学習とも、毎回2時間半とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各種課題のレポートなど（4年間の見通し、振り返りなど）100点
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[子心][愛下]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業では、大学で学ぶために必要な基礎力を身につけることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求する向学心の深化、その成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームページでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成についても考える場とする
到達目標	1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること（DP1） 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心（DP3） 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと（DP2） 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる（DP6）
授業の進め方	1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める 3) 3ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介
第2回	SNSの危険性と使い方について 4年間の見通しを立てる 学修ポートフォリオ説明
第3回	GPSアカデミックブレースメントテスト
第4回	清麗祭玉人形発表準備企画立案 図書館見学
第5回	清麗祭玉人形発表準備制作
第6回	清麗祭玉人形発表準備制作
第7回	清麗祭玉人形発表準備制作
第8回	清麗祭玉人形発表準備・リハーサル
第9回	清麗祭玉人形発表準備・リハーサル
第10回	清麗祭本番
第11回	清麗祭本番
第12回	清麗祭玉人形劇振り返り

第13回	基礎ゼミⅠのまとめと基礎ゼミⅡについて 書評について

事前・事後学修	事前に、テーマに関する資料の検索をする 事後に、テーマに関連する資料の検索をする なお、事前学習、事後学習とも、毎回2時間半とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各種課題のレポートなど（4年間の見通し、お礼状など）100点
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ〔観ビ〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科
横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科
河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科
田村 こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科
顔 欒蘭	大学・観光学部・観光ビジネス学科
新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科
齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、観光を学ぶ上で必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することである。
到達目標	・4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。 ・図書館で本を検索、貸し出し、返却でき、資料の取り寄せや文献調査ができる。 ・資料や情報の集め方、情報のまとめ方、レジュメ作成や発表などにおいて、インターネットやテクノロジーを活用できる。 ・観光産業の状況や観光調査の基本的な手法について理解する。 ・プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。
授業の進め方	・授業形態 演習形式等を通して行います。 「WebClass」を活用して、学習成果の蓄積としてのポートフォリオを作成します。 教員からの指導だけでなく、ゼミ生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。 ・授業内容 学習環境の設定（履修登録、学習管理システムの活用、学内施設の使い方）、マナーやコミュニケーションスキル、チームワークと協働（学校祭や行事）、観光調査の基本などを学びます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内に適宜課題に対するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（教員紹介、シラバス説明、PCとスマホの設定確認、履修登録）
第2回	学修ポートフォリオの作成
第3回	図書館へ行く
第4回	大学の施設を知ろう
第5回	旅行会社を理解しよう
第6回	バスツアー：概要説明①外部講師

2025/04/01

第7回	バスツアー：概要説明②外部講師
第8回	バスツアー：パンフレット作成：外部講師
第9回	バスツアーのプラン発表（グループ）
第10回	バスツアーのプラン発表（全体）
第11回	バスツアーコンテスト
第12回	メールの書き方と電話の応対（専門家によるレクチャー）
第13回	まとめと振り返り

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「WebClass」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業・発表への取り組み 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出、完成度 30% 企画等の完成度 30%
テキスト	「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・社会の動向に関心を向けながら、観光に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ〔観ビ・秋入用〕〔河本〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、観光を学ぶ上で必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することである。
到達目標	・4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。 ・図書館で本を検索、貸し出し、返却でき、資料の取り寄せや文献調査ができる。 ・資料や情報の集め方、情報のまとめ方、レジュメ作成や発表などにおいて、インターネットやテクノロジーを活用できる。 ・観光産業の状況や観光調査の基本的な手法について理解する。 ・プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。
授業の進め方	・授業形態 演習形式等を通して行います。 「WebClass」を活用して、学習成果の蓄積としてのポートフォリオを作成します。 - 教員からの指導だけでなく、ゼミ生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。 ・授業内容 学習環境の設定（履修登録、学習管理システムの活用、学内施設の使い方）、マナーやコミュニケーションスキル、チームワークと協働（学校祭や行事）、観光調査の基本などを学びます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内に適宜課題に対するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（教員紹介、シラバス説明、PCとスマホの設定確認、履修登録）
第2回	学修ポートフォリオの作成
第3回	図書館へ行く
第4回	大学の施設を知ろう
第5回	旅行会社を理解しよう
第6回	バスツアー：概要説明①外部講師
第7回	バスツアー：概要説明②外部講師
第8回	バスツアー：パンフレット作成：外部講師
第9回	バスツアーのプラン発表（グループ）
第10回	バスツアーのプラン発表（全体）
第11回	バスツアーコンテスト
第12回	メールの書き方と電話の応対（専門家によるレクチャー）
第13回	まとめと振り返り

2025/04/01

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「WebClass」から提出する。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業・発表への取り組み 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出、完成度 30% 企画等の完成度 30%
テキスト	「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・社会の動向に関心を向けながら、観光に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[スピ][横山]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、大学生活への期待を具体的に体験し、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	大学生活での目標やビジョンを描くことができ、そのために必要な情報収集を行うことができる。また、スポーツとビジネスについて深く考え、発展的なアイデアを持ち、グループワークを通して、他人と円滑なコミュニケーションを取ることができる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、大学での学びを促進するための学習を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認	対面授業
第2回	大学の学びについて（ディプロマポリシー / カリキュラムポリシー / 成績評価と単位認定）	対面授業
第3回	学部・学科の学びについて（科目の位置付け / ポートフォリオ）	対面授業
第4回	ICリテラシー（outlook / Web class / cplan）	対面授業
第5回	学科（学部）交流企画①	対面授業
第6回	学科（学部）交流企画②	対面授業
第7回	ビジネス企画Ⅰ	対面授業
第8回	ビジネス企画Ⅱ	対面授業
第9回	ビジネス企画Ⅲ	対面授業
第10回	ビジネス企画Ⅳ	対面授業
第11回	ビジネス実践Ⅰ	対面授業
第12回	ビジネス実践Ⅱ	対面授業
第13回	まとめ（ポートフォリオ）	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、大学で学びたいことや達成したい目標について考える習慣をつけておいてください。また、ニュースや新聞、雑誌等を通してスポーツとビジネスに関連した基礎的な知識や世の中の動向を認識しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題（30%） グループワーク（40%） レポート（30%）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。

備考	学科イベントの参加は、授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[スピ][竹元]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、大学生活への期待を具体的に体験し、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	大学生活での目標やビジョンを描くことができ、そのために必要な情報収集を行うことができる。また、スポーツとビジネスについて深く考え、発展的なアイデアを持ち、グループワークを通して、他人と円滑なコミュニケーションを取ることができる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、大学での学びを促進するための学習を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認	対面授業
第2回	大学の学びについて（ディプロマポリシー / カリキュラムポリシー / 成績評価と単位認定）	対面授業
第3回	学部・学科の学びについて（科目の位置付け / ポートフォリオ）	対面授業
第4回	ICリテラシー（outlook / Web class / cplan）	対面授業
第5回	学科（学部）交流企画①	対面授業
第6回	学科（学部）交流企画②	対面授業
第7回	ビジネス企画Ⅰ	対面授業
第8回	ビジネス企画Ⅱ	対面授業
第9回	ビジネス企画Ⅲ	対面授業
第10回	ビジネス企画Ⅳ	対面授業
第11回	ビジネス実践Ⅰ	対面授業
第12回	ビジネス実践Ⅱ	対面授業
第13回	まとめ（ポートフォリオ）	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、大学で学びたいことや達成したい目標について考える習慣をつけておいてください。また、ニュースや新聞、雑誌等を通してスポーツとビジネスに関連した基礎的な知識や世の中の動向を認識しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題（30%） グループワーク（40%） レポート（30%）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。

備考	学科イベントの参加は、授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[スピ][坪山]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、大学生活への期待を具体的に体験し、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	大学生活での目標やビジョンを描くことができ、そのために必要な情報収集を行うことができる。また、スポーツとビジネスについて深く考え、発展的なアイデアを持ち、グループワークを通して、他人と円滑なコミュニケーションを取ることができる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、大学での学びを促進するための学習を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認	対面授業
第2回	大学の学びについて（ディプロマポリシー / カリキュラムポリシー / 成績評価と単位認定）	対面授業
第3回	学部・学科の学びについて（科目の位置付け / ポートフォリオ）	対面授業
第4回	ICリテラシー（outlook / Web class / cplan）	対面授業
第5回	学科（学部）交流企画①	対面授業
第6回	学科（学部）交流企画②	対面授業
第7回	ビジネス企画Ⅰ	対面授業
第8回	ビジネス企画Ⅱ	対面授業
第9回	ビジネス企画Ⅲ	対面授業
第10回	ビジネス企画Ⅳ	対面授業
第11回	ビジネス実践Ⅰ	対面授業
第12回	ビジネス実践Ⅱ	対面授業
第13回	まとめ（ポートフォリオ）	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、大学で学びたいことや達成したい目標について考える習慣をつけておいてください。また、ニュースや新聞、雑誌等を通してスポーツとビジネスに関連した基礎的な知識や世の中の動向を認識しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題（30%） グループワーク（40%） レポート（30%）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。

備考	学科イベントの参加は、授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[スピ][田子]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、大学生活への期待を具体的に体験し、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供、支援するための初年次教育科目である。授業クラスは、学科単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、イベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法などについて学修する。仲間づくりやコミュニケーションを通じて、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視する。
到達目標	大学生活での目標やビジョンを描くことができ、そのために必要な情報収集を行うことができる。また、スポーツとビジネスについて深く考え、発展的なアイデアを持ち、グループワークを通して、他人と円滑なコミュニケーションを取ることができる。
授業の進め方	本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、大学での学びを促進するための学習を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 履修登録確認	対面授業
第2回	大学の学びについて（ディプロマポリシー / カリキュラムポリシー / 成績評価と単位認定）	対面授業
第3回	学部・学科の学びについて（科目の位置付け / ポートフォリオ）	対面授業
第4回	ICリテラシー（outlook / Web class / cplan）	対面授業
第5回	学科（学部）交流企画①	対面授業
第6回	学科（学部）交流企画②	対面授業
第7回	ビジネス企画Ⅰ	対面授業
第8回	ビジネス企画Ⅱ	対面授業
第9回	ビジネス企画Ⅲ	対面授業
第10回	ビジネス企画Ⅳ	対面授業
第11回	ビジネス実践Ⅰ	対面授業
第12回	ビジネス実践Ⅱ	対面授業
第13回	まとめ（ポートフォリオ）	対面授業

事前・事後学修	事前事後学習として、大学で学びたいことや達成したい目標について考える習慣をつけておいてください。また、ニュースや新聞、雑誌等を通してスポーツとビジネスに関連した基礎的な知識や世の中の動向を認識しておくことを推奨します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題（30%） グループワーク（40%） レポート（30%）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。

備考	学科イベントの参加は、授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

年度	2025
講義名称	基礎ゼミⅠ[ス指]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01903S

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ指導学科の特色や学びのポイントを踏まえ、本学科における学びの目的を理解する。 スポーツ指導学科の「基礎ゼミ」では、学校教育やスポーツ施設などでより良い実践活動を行うことのできる人材となることを目指し、スポーツと健康に関する基礎的な専門知識・技能について学んでいく。
到達目標	スポーツ指導学科における学びの目的を理解できる。 口頭発表や文書による報告の手法を習得することができる。 スポーツ指導分野の現状を知り、スポーツを取り巻く諸課題を認識することができる。
授業の進め方	本科目は、講義形式あるいは演習形式によって展開する。 本科目では、授業の展開に応じてグループディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。 本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業（講義形式）
第2回	スポーツ指導学科における4年間の学修計画	対面授業（講義形式）
第3回	スポーツ指導学科における学びの基礎①：図書館を利用した情報収集	対面授業（講義形式）
第4回	スポーツ指導学科における学びの基礎②：グループワーク/ディスカッション	対面授業（講義形式）
第5回	スポーツ指導学科における学びの基礎③：レジュメ・レポートのまとめ方	対面授業（講義形式）
第6回	スポーツ指導学科における学びの基礎④：データの見方・考え方，スライド資料の作成	対面授業（講義形式）
第7回	スポーツ指導学科における学びの基礎⑤：プレゼンテーション	対面授業（講義形式）
第8回	アドバイザー企画①：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第9回	アドバイザー企画②：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第10回	アドバイザー企画③：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）

第11回	アドバイザー企画④：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第12回	アドバイザー企画⑤：専門領域の紹介	対面授業（講義形式）
第13回	まとめ：「基礎ゼミⅠ」の振り返りと「基礎ゼミⅡ」への展望	対面授業（講義形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】 本科目に関連する学部学科行事を実施した際は，到達目標に関するレポートを実施する。 【必要な時間】 各回の予習・復習には，それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	30%：グループワーク 授業の内容に応じてグループワークの機会を設ける。 集団での課題解決に対する積極性を評価する。 20%：プレゼンテーション 授業冒頭において学生からの近況報告，授業内において発表の機会をそれぞれ設ける。 発表に対する積極性を評価する。 30%：レポート 授業の内容に応じてレポート課題を設定する。設定された課題の達成度を評価する。 20%：最終課題 本科目の最終課題として，小論文の作成と提出を設定する。 指定された要件の達成状況を踏まえて総合的に評価する。
テキスト	札幌国際大学（2025）Sapporo international university 2025 study guide 札幌国際大学（2025）Sapporo international university campus guide 2025
参考文献	その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

備考	本科目は，スポーツ指導学科1年生の必修科目である。 本科目は，毎時間の授業冒頭で教員ならびに学生の連絡・報告を行う機会を設ける。

年度	2025
講義名称	学生と社会[国教]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01902S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本学の歴史にふれ、本学の建学の礎をふまえた自立した社会人となるために必要なテーマを設定し、それらについての知識を深め、必要なスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	①これまでの自己の生活を振り返り、充実させるイメージを持つことができる。 ②社会生活を送り活動する意欲を高め、日々の生活をさらに充実させることができる。
授業の進め方	講義は授業担当教員が、共通の授業コンテンツ（動画）を用いて、学生自身が能動的に授業に参加する。授業コンテンツではすべての回において本授業の目的や取り組むべき内容について共通の課題を提示する。 学生は自身の生活と活動を充実させるための自己管理と、社会人としての基礎的知識を学び、課題・実践を組み合わせ展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内のミニ・ワークを、授業内でフィードバックします。web classで提出されたレポートや記録・感想は、web class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業計画・評価・毎回の課題
第2回	札幌国際大学の沿革 学長講話 ・学園の歴史 ・建学の礎、教育の基本的考え方
第3回	自己管理① 時間管理の方法 ①時間管理がなぜ大切なのか気づく。 ②時間管理の具体的な方法を知る ③自分の時間管理の仕方を見つける
第4回	自己管理② 心身の健康管理 ①健康管理の大切さについて知る・気づく ②具体的な方法について知る・やってみる
第5回	自己管理③ 金銭管理の必要性和方法 ①金銭管理の重要性について知る（生活の中でできないとどうなるか） ②具体的な金銭管理の仕方を知る・やってみる
第6回	自己管理④ 契約・労働法基礎 ①労働法の基礎知識について知る ②アルバイトにおける問題等について考える
第7回	自己管理⑤ 薬物乱用防止について ①薬物乱用についての現状を知る ②薬物乱用のこわさと防止について考える

第8回	社会人として① 18歳成人・成人とは何か ①成人とは何かについて考える ②成人になりできること、権利や義務
第9回	社会人として② 犯罪被害者、犯罪加害者について ①犯罪被害者・加害者とは何か ②現状について考える（自分が当事者になる可能性があること）
第10回	社会人として③ 困ったときに使える社会資源 ①生活の中で生じる困りごとを知る ②困りごとの対処の一つとして社会資源があることを知る（自分で調べてみる）
第11回	社会人として④ 社会におけるボランティアの役割 ①ボランティアの現状や歴史的な経緯を学ぶ ②ボランティアの社会的役割や意義について考える。
第12回	社会人として⑤ ダイバーシティとは ①日本の国際化の現状について知る ②ダイバーシティとは何かについて考える
第13回	まとめと授業評価 ①これまでの13回の授業内容について振り返る ②レポートを記載する（PC必修）

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修として、平均すると週4時間ほど。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 授業のワーク 40％ ・ 授業での意見交換 30％ ・ 提出課題 30％
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学生と社会[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01902S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本学の歴史にふれ、本学の建学の礎をふまえた自立した社会人となるために必要なテーマを設定し、それらについての知識を深め、必要なスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	①これまでの自己の生活を振り返り、充実させるイメージを持つことができる。 ②社会生活を送り活動する意欲を高め、日々の生活をさらに充実させることができる。
授業の進め方	講義は授業担当教員が、共通の授業コンテンツ（動画）を用いて、学生自身が能動的に授業に参加する。授業コンテンツではすべての回において本授業の目的や取り組むべき内容について共通の課題を提示する。 学生は自身の生活と活動を充実させるための自己管理と、社会人としての基礎的知識を学び、課題・実践を組み合わせ展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内のミニ・ワークを、授業内でフィードバックします。web classで提出されたレポートや記録・感想は、web class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業計画・評価・毎回の課題
第2回	札幌国際大学の沿革 学長講話 ・学園の歴史 ・建学の礎、教育の基本的考え方
第3回	自己管理① 時間管理の方法 ①時間管理がなぜ大切なのか気づく。 ②時間管理の具体的な方法を知る ③自分の時間管理の仕方を見つける
第4回	自己管理② 心身の健康管理 ①健康管理の大切さについて知る・気づく ②具体的な方法について知る・やってみる
第5回	自己管理③ 金銭管理の必要性和方法 ①金銭管理の重要性について知る（生活の中でできないとどうなるか） ②具体的な金銭管理の仕方を知る・やってみる
第6回	自己管理④ 契約・労働法基礎 ①労働法の基礎知識について知る ②アルバイトにおける問題等について考える
第7回	自己管理⑤ 薬物乱用防止について ①薬物乱用についての現状を知る ②薬物乱用のこわさと防止について考える

第8回	社会人として① 18歳成人・成人とは何か ①成人とは何かについて考える ②成人になりできること、権利や義務
第9回	社会人として② 犯罪被害者、犯罪加害者について ①犯罪被害者・加害者とは何か ②現状について考える（自分が当事者になる可能性があること）
第10回	社会人として③ 困ったときに使える社会資源 ①生活の中で生じる困りごとを知る ②困りごとの対処の一つとして社会資源があることを知る（自分で調べてみる）
第11回	社会人として④ 社会におけるボランティアの役割 ①ボランティアの現状や歴史的な経緯を学ぶ ②ボランティアの社会的役割や意義について考える。
第12回	社会人として⑤ ダイバーシティとは ①日本の国際化の現状について知る ②ダイバーシティとは何かについて考える
第13回	まとめと授業評価 ①これまでの13回の授業内容について振り返る ②レポートを記載する（PC必修）

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修として、平均すると週4時間ほど。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 授業のワーク 40％ ・ 授業での意見交換 30％ ・ 提出課題 30％
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学生と社会[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01902S

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本学の歴史にふれ、本学の建学の礎をふまえた自立した社会人となるために必要なテーマを設定し、それらについての知識を深め、必要なスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	①これまでの自己の生活を振り返り、充実させるイメージを持つことができる。 ②社会生活を送り活動する意欲を高め、日々の生活をさらに充実させることができる。
授業の進め方	講義は授業担当教員が、共通の授業コンテンツ（動画）を用いて、学生自身が能動的に授業に参加する。授業コンテンツではすべての回において本授業の目的や取り組むべき内容について共通の課題を提示する。 学生は自身の生活と活動を充実させるための自己管理と、社会人としての基礎的知識を学び、課題・実践を組み合わせ展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内のミニ・ワークを、授業内でフィードバックします。web classで提出されたレポートや記録・感想は、web class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業計画・評価・毎回の課題
第2回	札幌国際大学の沿革 学長講話 ・学園の歴史 ・建学の礎、教育の基本的考え方
第3回	自己管理① 時間管理の方法 ①時間管理がなぜ大切なのか気づく。 ②時間管理の具体的な方法を知る ③自分の時間管理の仕方を見つける
第4回	自己管理② 心身の健康管理 ①健康管理の大切さについて知る・気づく ②具体的な方法について知る・やってみる
第5回	自己管理③ 金銭管理の必要性和方法 ①金銭管理の重要性について知る（生活の中でできないとどうなるか） ②具体的な金銭管理の仕方を知る・やってみる
第6回	自己管理④ 契約・労働法基礎 ①労働法の基礎知識について知る ②アルバイトにおける問題等について考える
第7回	自己管理⑤ 薬物乱用防止について ①薬物乱用についての現状を知る ②薬物乱用のこわさと防止について考える

第8回	社会人として① 18歳成人・成人とは何か ①成人とは何かについて考える ②成人になりできること、権利や義務
第9回	社会人として② 犯罪被害者、犯罪加害者について ①犯罪被害者・加害者とは何か ②現状について考える（自分が当事者になる可能性があること）
第10回	社会人として③ 困ったときに使える社会資源 ①生活の中で生じる困りごとを知る ②困りごとの対処の一つとして社会資源があることを知る（自分で調べてみる）
第11回	社会人として④ 社会におけるボランティアの役割 ①ボランティアの現状や歴史的な経緯を学ぶ ②ボランティアの社会的役割や意義について考える。
第12回	社会人として⑤ ダイバーシティとは ①日本の国際化の現状について知る ②ダイバーシティとは何かについて考える
第13回	まとめと授業評価 ①これまでの13回の授業内容について振り返る ②レポートを記載する（PC必修）

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修として、平均すると週4時間ほど。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 授業のワーク 40％ ・ 授業での意見交換 30％ ・ 提出課題 30％
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学生と社会[観ビ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01902S

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本学の歴史にふれ、本学の建学の礎をふまえた自立した社会人となるために必要なテーマを設定し、それらについての知識を深め、必要なスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	①これまでの自己の生活を振り返り、充実させるイメージを持つことができる。 ②社会生活を送り活動する意欲を高め、日々の生活をさらに充実させることができる。
授業の進め方	講義は授業担当教員が、共通の授業コンテンツ（動画）を用いて、学生自身が能動的に授業に参加する。授業コンテンツではすべての回において本授業の目的や取り組むべき内容について共通の課題を提示する。 学生は自身の生活と活動を充実させるための自己管理と、社会人としての基礎的知識を学び、課題・実践を組み合わせ展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内のミニ・ワークを、授業内でフィードバックします。web classで提出されたレポートや記録・感想は、web class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業計画・評価・毎回の課題
第2回	札幌国際大学の沿革 学長講話 ・学園の歴史 ・建学の礎、教育の基本的考え方
第3回	自己管理① 時間管理の方法 ①時間管理がなぜ大切なのか気づく。 ②時間管理の具体的な方法を知る ③自分の時間管理の仕方を見つける
第4回	自己管理② 心身の健康管理 ①健康管理の大切さについて知る・気づく ②具体的な方法について知る・やってみる
第5回	自己管理③ 金銭管理の必要性和方法 ①金銭管理の重要性について知る（生活の中でできないとどうなるか） ②具体的な金銭管理の仕方を知る・やってみる
第6回	自己管理④ 契約・労働法基礎 ①労働法の基礎知識について知る ②アルバイトにおける問題等について考える
第7回	自己管理⑤ 薬物乱用防止について ①薬物乱用についての現状を知る ②薬物乱用のこわさと防止について考える

第8回	社会人として① 18歳成人・成人とは何か ①成人とは何かについて考える ②成人になりできること、権利や義務
第9回	社会人として② 犯罪被害者、犯罪加害者について ①犯罪被害者・加害者とは何か ②現状について考える（自分が当事者になる可能性があること）
第10回	社会人として③ 困ったときに使える社会資源 ①生活の中で生じる困りごとを知る ②困りごとの対処の一つとして社会資源があることを知る（自分で調べてみる）
第11回	社会人として④ 社会におけるボランティアの役割 ①ボランティアの現状や歴史的な経緯を学ぶ ②ボランティアの社会的役割や意義について考える。
第12回	社会人として⑤ ダイバーシティとは ①日本の国際化の現状について知る ②ダイバーシティとは何かについて考える
第13回	まとめと授業評価 ①これまでの13回の授業内容について振り返る ②レポートを記載する（PC必修）

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修として、平均すると週4時間ほど。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 授業のワーク 40％ ・ 授業での意見交換 30％ ・ 提出課題 30％
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学生と社会[スピ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01902S

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本学の歴史にふれ、本学の建学の礎をふまえた自立した社会人となるために必要なテーマを設定し、それらについての知識を深め、必要なスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	①これまでの自己の生活を振り返り、充実させるイメージを持つことができる。 ②社会生活を送り活動する意欲を高め、日々の生活をさらに充実させることができる。
授業の進め方	講義は授業担当教員が、共通の授業コンテンツ（動画）を用いて、学生自身が能動的に授業に参加する。授業コンテンツではすべての回において本授業の目的や取り組むべき内容について共通の課題を提示する。 学生は自身の生活と活動を充実させるための自己管理と、社会人としての基礎的知識を学び、課題・実践を組み合わせ展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内のミニ・ワークを、授業内でフィードバックします。web classで提出されたレポートや記録・感想は、web class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業計画・評価・毎回の課題
第2回	札幌国際大学の沿革 学長講話 ・学園の歴史 ・建学の礎、教育の基本的考え方
第3回	自己管理① 時間管理の方法 ①時間管理がなぜ大切なのか気づく。 ②時間管理の具体的な方法を知る ③自分の時間管理の仕方を見つける
第4回	自己管理② 心身の健康管理 ①健康管理の大切さについて知る・気づく ②具体的な方法について知る・やってみる
第5回	自己管理③ 金銭管理の必要性和方法 ①金銭管理の重要性について知る（生活の中でできないとどうなるか） ②具体的な金銭管理の仕方を知る・やってみる
第6回	自己管理④ 契約・労働法基礎 ①労働法の基礎知識について知る ②アルバイトにおける問題等について考える
第7回	自己管理⑤ 薬物乱用防止について ①薬物乱用についての現状を知る ②薬物乱用のこわさと防止について考える

第8回	社会人として① 18歳成人・成人とは何か ①成人とは何かについて考える ②成人になりできること、権利や義務
第9回	社会人として② 犯罪被害者、犯罪加害者について ①犯罪被害者・加害者とは何か ②現状について考える（自分が当事者になる可能性があること）
第10回	社会人として③ 困ったときに使える社会資源 ①生活の中で生じる困りごとを知る ②困りごとの対処の一つとして社会資源があることを知る（自分で調べてみる）
第11回	社会人として④ 社会におけるボランティアの役割 ①ボランティアの現状や歴史的な経緯を学ぶ ②ボランティアの社会的役割や意義について考える。
第12回	社会人として⑤ ダイバーシティとは ①日本の国際化の現状について知る ②ダイバーシティとは何かについて考える
第13回	まとめと授業評価 ①これまでの13回の授業内容について振り返る ②レポートを記載する（PC必携）

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修として、平均すると週4時間ほど。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 授業のワーク 40％ ・ 授業での意見交換 30％ ・ 提出課題 30％
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学生と社会[ス指]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01902S

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本学の歴史にふれ、本学の建学の礎をふまえた自立した社会人となるために必要なテーマを設定し、それらについての知識を深め、必要なスキルを獲得することを目的とする。
到達目標	①これまでの自己の生活を振り返り、充実させるイメージを持つことができる。 ②社会生活を送り活動する意欲を高め、日々の生活をさらに充実させることができる。
授業の進め方	講義は授業担当教員が、共通の授業コンテンツ（動画）を用いて、学生自身が能動的に授業に参加する。授業コンテンツではすべての回において本授業の目的や取り組むべき内容について共通の課題を提示する。 学生は自身の生活と活動を充実させるための自己管理と、社会人としての基礎的知識を学び、課題・実践を組み合わせ展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内のミニ・ワークを、授業内でフィードバックします。web classで提出されたレポートや記録・感想は、web class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業計画・評価・毎回の課題
第2回	札幌国際大学の沿革 学長講話 ・学園の歴史 ・建学の礎、教育の基本的考え方
第3回	自己管理① 時間管理の方法 ①時間管理がなぜ大切なのか気づく。 ②時間管理の具体的な方法を知る ③自分の時間管理の仕方を見つける
第4回	自己管理② 心身の健康管理 ①健康管理の大切さについて知る・気づく ②具体的な方法について知る・やってみる
第5回	自己管理③ 金銭管理の必要性和方法 ①金銭管理の重要性について知る（生活の中でできないとどうなるか） ②具体的な金銭管理の仕方を知る・やってみる
第6回	自己管理④ 契約・労働法基礎 ①労働法の基礎知識について知る ②アルバイトにおける問題等について考える
第7回	自己管理⑤ 薬物乱用防止について ①薬物乱用についての現状を知る ②薬物乱用のこわさと防止について考える

第8回	社会人として① 18歳成人・成人とは何か ①成人とは何かについて考える ②成人になりできること、権利や義務
第9回	社会人として② 犯罪被害者、犯罪加害者について ①犯罪被害者・加害者とは何か ②現状について考える（自分が当事者になる可能性があること）
第10回	社会人として③ 困ったときに使える社会資源 ①生活の中で生じる困りごとを知る ②困りごとの対処の一つとして社会資源があることを知る（自分で調べてみる）
第11回	社会人として④ 社会におけるボランティアの役割 ①ボランティアの現状や歴史的な経緯を学ぶ ②ボランティアの社会的役割や意義について考える。
第12回	社会人として⑤ ダイバーシティとは ①日本の国際化の現状について知る ②ダイバーシティとは何かについて考える
第13回	まとめと授業評価 ①これまでの13回の授業内容について振り返る ②レポートを記載する（PC必修）

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修として、平均すると週4時間ほど。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 授業のワーク 40％ ・ 授業での意見交換 30％ ・ 提出課題 30％
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[国教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科
岩崎 有朋	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識、学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを実的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・基礎的学修部分 (①～⑥) 40% 授業ワーク及び課題 ・情報機器を用いた演習部分 (⑦～⑬) 60% 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[臨心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科
岩崎 有朋	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識、学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを实际的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・ 授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・ web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・基礎的学修部分 (①～⑥) 40% 授業ワーク及び課題 ・情報機器を用いた演習部分 (⑦～⑬) 60% 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[子心]
講義開講時期	春学期第1Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
岩崎 有朋	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識・学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを实际的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 基礎的学修部分 (①～⑥) 40% 授業ワーク及び課題 ・ 情報機器を用いた演習部分 (⑦～⑬) 60% 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[観ビ]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
岩崎 有朋	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識、学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを实际的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・基礎的学修部分（①～⑥） 40％ 授業ワーク及び課題 ・情報機器を用いた演習部分（⑦～⑬） 60％ 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[スピ]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
岩崎 有朋	大学・センター等
安井 政樹	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識、学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを实际的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・ 授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・ web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・基礎的学修部分 (①～⑥) 40% 授業ワーク及び課題 ・情報機器を用いた演習部分 (⑦～⑬) 60% 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[ス指]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
岩崎 有朋	大学・センター等
朝倉 一民	大学・センター等
保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識、学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを实际的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・ 授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・ web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・基礎的学修部分（①～⑥） 40％ 授業ワーク及び課題 ・情報機器を用いた演習部分（⑦～⑬） 60％ 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[大学・秋入生]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 岩崎 有朋	大学・センター等

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識、学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを実的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・基礎的学修部分 (①～⑥) 40% 授業ワーク及び課題 ・情報機器を用いた演習部分 (⑦～⑬) 60% 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	学びの技法[大学・未修得]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01901S

担当教員

氏名	所属
◎ 保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	大学で学ぶために必要な基礎的知識、学修方法、パソコン実技等を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、学生同士のコミュニケーションを深めながら、学んだことを実的に運用する学びのスキルを身に付けます。
到達目標	大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現などの基礎的スキルを身につけ、実践できるようになる。
授業の進め方	札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に学ぶ講義と、そこで学んだ知識を課題解決（PBL）に活用する実践的な授業です。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内のミニ・ワークの結果については、授業内に口頭でフィードバックします。 ・web classで提出されたものは、必要に応じて個別にweb class上でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学での学びと学長講話	
第2回	非言語・言語コミュニケーション	
第3回	レポートとは何か（その１）	
第4回	レポートとは何か（その２）	
第5回	データを読む（身近な社会課題）	
第6回	テーマ探索	
第7回	課題の焦点化・原因分析	
第8回	調査・情報収集	オンデマンド
第9回	分析・解決策の具体化	
第10回	解決策の検討・試行	オンデマンド
第11回	実践結果の評価・レポート構成検討	
第12回	レポート下書き・推敲	オンデマンド
第13回	レポートの紹介・相互評価	

事前・事後学修	次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集と分析・成果物の準備作成などを行う。 授業外学修は、平均すると週4時間ほどです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・基礎的学修部分 (①～⑥) 40% 授業ワーク及び課題 ・情報機器を用いた演習部分 (⑦～⑬) 60% 授業内小レポート、オンデマンド課題
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。 必要な場合は、学習サイトを設置し、そのサイトから資料等を配布する。
参考文献	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。

備考	この科目はクォーター制度で開講されます。週2回のペースで授業が行われます。 「学びの技法」、「学生と社会」「日本語表現」、「情報機器操作」、「基礎ゼミ」と連動しています。学部学科では、アドバイザーを中心に、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅲ【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01203S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義は、1年次に「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」によって行った表現方法・表現技術を発展させて、特に論理的・学術的な文章、および、文学的な文章を作成するにあたって必要な思考方法や文章の構成方法を実践的に学び、自分の考えをどのように表現すれば説得力のあるものになるかを学ぶものである
到達目 標	論理的かつ批判的な、および、創造的な思考スキルを習得し、文章表現への応用ができること。他者の考えを理解し、自分の文章表現に生かすことができること。他者の文章について検討し、それをよりよくするための自らの考えを提示することができること
授業の 進め方	演習形式で実施する。 毎時、文章を作成するための課題を提示する。それらについて、個人および協同での検討を行い、ひとつひとつクリアを図る。 なお、事前の予習が大きなウェイトを占めることになる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については毎時出していくが、それについての検討や講評を次時に行いながら進めていく

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	
第2回	まとめ課題（8,000字以上の論文など）を作成する心構えや準備などについて	オンデマンド
第3回	日本語表現Ⅰ・Ⅱについての振り返り その1	
第4回	日本語表現Ⅰ・Ⅱについての振り返り その2	オンデマンド
第5回	論文作成にあたって その1	
第6回	論文作成にあたって その2	オンデマンド
第7回	参考文献を探す その1	
第8回	参考文献を探す その2	オンデマンド
第9回	文学的な表現を考える その1	
第10回	文学的な表現を考える その2	オンデマンド
第11回	まとめ課題を作成していく その1	
第12回	まとめ課題を作成していく その2	オンデマンド
第13回	まとめ課題の確認と提出について	

事前・事後学修	この授業では、各表現課題は事前に授業外で行ってることが原則となる。 授業では、その準備してきた作品をもとに行われる。 事前準備に要する時間は、おおよそ5時間程度である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	提出課題に対する評価：50％ まとめ課題（論文（8000字以上）作成）：50％
テキスト	『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（小笠原喜康）
参考文献	日本語表現Ⅰ・Ⅱのテキスト

年度	2025
講義名称	日本語表現入門[①/5]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01202S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科
藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文章表現の基礎を確実にするための科目である。大学で学ぶ際に身に付けておくべき、読解力や表現力などの日本語運用能力を獲得することを目指す。
到達目標	① 文章のルールを理解し、読解や表現に役立てることができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に引用ができる。 ③ 説得力のある文章を書くことができる。レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
授業の進め方	少人数形式を取り、講義と演習を行う。配付物や課題をファイルにまとめ、学びを振り返るために活用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	① 授業期間内に提出された課題に対しては、原則として翌週までに教員のコメント付きで返却する。 ② 提出課題については、添削をして返却する。課題に対するフィードバックを適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の意義、シラバスの理解
第2回	読解1 事実に対する意見を書く 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第3回	文章のルール(1) 文体、用語、句読点、書き言葉など 演習(2) 意見文の記述
第4回	文章のルール(2) パラグラフ、上位語下位語、ねじれ文、接続詞など 演習(3) 課題完成
第5回	読解2 事実文の構成を理解し、要旨を捉える 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第6回	読解3 事実文の構成を捉え要約する 演習(2) 意見文の記述
第7回	読解4 意見文を読み要約する。根拠を挙げ賛成・反対を表明する 演習(3) 課題完成
第8回	表現1 体験を基に報告型の文章を書く 演習(1) 資料の読解、検討
第9回	表現2 事実を比較する文章を書く 演習(2) 意見と構成を練る
第10回	表現3 資料を引用して書く 演習(3) 意見文の記述
第11回	表現4 事実に対する意見を書く 演習(4) 課題完成
第12回	図書館の活用 情報の探し方など
第13回	図書館の活用2 新聞検索の方法など 振り返り *②～⑥回授業時、語彙テストを行う

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・レポート執筆のための準備	2025/04/01

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・演習問題の復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 ・レポートの推敲 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	単位認定教科とする。 認定：課題として取り組んだレポートと振り返りを全て提出している。 不可：提出していないレポートがある。
テキスト	特定のテキストを用いず、適宜プリントを配付する。
参考文献	適宜紹介する

年度	2025
講義名称	日本語表現入門[②/5]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01202S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科
藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文章表現の基礎を確実にするための科目である。大学で学ぶ際に身に付けておくべき、読解力や表現力などの日本語運用能力を獲得することを目指す。
到達目標	① 文章のルールを理解し、読解や表現に役立てることができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に引用ができる。 ③ 説得力のある文章を書くことができる。レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
授業の進め方	少人数形式を取り、講義と演習を行う。配付物や課題をファイルにまとめ、学びを振り返るために活用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	① 授業期間内に提出された課題に対しては、原則として翌週までに教員のコメント付きで返却する。 ② 提出課題については、添削をして返却する。課題に対するフィードバックを適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の意義、シラバスの理解
第2回	読解1 事実に対する意見を書く 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第3回	文章のルール(1) 文体、用語、句読点、書き言葉など 演習(2) 意見文の記述
第4回	文章のルール(2) パラグラフ、上位語下位語、ねじれ文、接続詞など 演習(3) 課題完成
第5回	読解2 事実文の構成を理解し、要旨を捉える 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第6回	読解3 事実文の構成を捉え要約する 演習(2) 意見文の記述
第7回	読解4 意見文を読み要約する。根拠を挙げ賛成・反対を表明する 演習(3) 課題完成
第8回	表現1 体験を基に報告型の文章を書く 演習(1) 資料の読解、検討
第9回	表現2 事実を比較する文章を書く 演習(2) 意見と構成を練る
第10回	表現3 資料を引用して書く 演習(3) 意見文の記述
第11回	表現4 事実に対する意見を書く 演習(4) 課題完成
第12回	図書館の活用 情報の探し方など
第13回	図書館の活用2 新聞検索の方法など 振り返り *②～⑥回授業時、語彙テストを行う

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・レポート執筆のための準備	2025/04/01

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・演習問題の復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 ・レポートの推敲 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	単位認定教科とする。 認定：課題として取り組んだレポートと振り返りを全て提出している。 不可：提出していないレポートがある。
テキスト	特定のテキストを用いず、適宜プリントを配付する。
参考文献	適宜紹介する

年度	2025
講義名称	日本語表現入門[③/5]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01202S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科
藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文章表現の基礎を確実にするための科目である。大学で学ぶ際に身に付けておくべき、読解力や表現力などの日本語運用能力を獲得することを目指す。
到達目標	① 文章のルールを理解し、読解や表現に役立てることができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に引用ができる。 ③ 説得力のある文章を書くことができる。レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
授業の進め方	少人数形式を取り、講義と演習を行う。配付物や課題をファイルにまとめ、学びを振り返るために活用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	① 授業期間内に提出された課題に対しては、原則として翌週までに教員のコメント付きで返却する。 ② 提出課題については、添削をして返却する。課題に対するフィードバックを適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の意義、シラバスの理解
第2回	読解1 事実に対する意見を書く 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第3回	文章のルール(1) 文体、用語、句読点、書き言葉など 演習(2) 意見文の記述
第4回	文章のルール(2) パラグラフ、上位語下位語、ねじれ文、接続詞など 演習(3) 課題完成
第5回	読解2 事実文の構成を理解し、要旨を捉える 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第6回	読解3 事実文の構成を捉え要約する 演習(2) 意見文の記述
第7回	読解4 意見文を読み要約する。根拠を挙げ賛成・反対を表明する 演習(3) 課題完成
第8回	表現1 体験を基に報告型の文章を書く 演習(1) 資料の読解、検討
第9回	表現2 事実を比較する文章を書く 演習(2) 意見と構成を練る
第10回	表現3 資料を引用して書く 演習(3) 意見文の記述
第11回	表現4 事実に対する意見を書く 演習(4) 課題完成
第12回	図書館の活用 情報の探し方など
第13回	図書館の活用2 新聞検索の方法など 振り返り *②～⑥回授業時、語彙テストを行う

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・レポート執筆のための準備	2025/04/01

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・演習問題の復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 ・レポートの推敲 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	単位認定教科とする。 認定：課題として取り組んだレポートと振り返りを全て提出している。 不可：提出していないレポートがある。
テキスト	特定のテキストを用いず、適宜プリントを配付する。
参考文献	適宜紹介する

年度	2025
講義名称	日本語表現入門[④/5]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01202S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科
藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文章表現の基礎を確実にするための科目である。大学で学ぶ際に身に付けておくべき、読解力や表現力などの日本語運用能力を獲得することを目指す。
到達目標	① 文章のルールを理解し、読解や表現に役立てることができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に引用ができる。 ③ 説得力のある文章を書くことができる。レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
授業の進め方	少人数形式を取り、講義と演習を行う。配付物や課題をファイルにまとめ、学びを振り返るために活用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	① 授業期間内に提出された課題に対しては、原則として翌週までに教員のコメント付きで返却する。 ② 提出課題については、添削をして返却する。課題に対するフィードバックを適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の意義、シラバスの理解
第2回	読解1 事実に対する意見を書く 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第3回	文章のルール(1) 文体、用語、句読点、書き言葉など 演習(2) 意見文の記述
第4回	文章のルール(2) パラグラフ、上位語下位語、ねじれ文、接続詞など 演習(3) 課題完成
第5回	読解2 事実文の構成を理解し、要旨を捉える 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第6回	読解3 事実文の構成を捉え要約する 演習(2) 意見文の記述
第7回	読解4 意見文を読み要約する。根拠を挙げ賛成・反対を表明する 演習(3) 課題完成
第8回	表現1 体験を基に報告型の文章を書く 演習(1) 資料の読解、検討
第9回	表現2 事実を比較する文章を書く 演習(2) 意見と構成を練る
第10回	表現3 資料を引用して書く 演習(3) 意見文の記述
第11回	表現4 事実に対する意見を書く 演習(4) 課題完成
第12回	図書館の活用 情報の探し方など
第13回	図書館の活用2 新聞検索の方法など 振り返り *②～⑥回授業時、語彙テストを行う

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・レポート執筆のための準備	2025/04/01

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・演習問題の復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 ・レポートの推敲 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	単位認定教科とする。 認定：課題として取り組んだレポートと振り返りを全て提出している。 不可：提出していないレポートがある。
テキスト	特定のテキストを用いず、適宜プリントを配付する。
参考文献	適宜紹介する

年度	2025
講義名称	日本語表現入門[⑤/5]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01202S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科
藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文章表現の基礎を確実にするための科目である。大学で学ぶ際に身に付けておくべき、読解力や表現力などの日本語運用能力を獲得することを目指す。
到達目標	① 文章のルールを理解し、読解や表現に役立てることができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に引用ができる。 ③ 説得力のある文章を書くことができる。レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
授業の進め方	少人数形式を取り、講義と演習を行う。配付物や課題をファイルにまとめ、学びを振り返るために活用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	① 授業期間内に提出された課題に対しては、原則として翌週までに教員のコメント付きで返却する。 ② 提出課題については、添削をして返却する。課題に対するフィードバックを適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の意義、シラバスの理解
第2回	読解1 事実に対する意見を書く 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第3回	文章のルール(1) 文体、用語、句読点、書き言葉など 演習(2) 意見文の記述
第4回	文章のルール(2) パラグラフ、上位語下位語、ねじれ文、接続詞など 演習(3) 課題完成
第5回	読解2 事実文の構成を理解し、要旨を捉える 演習(1) 資料の読解、検討、意見と構成を練る
第6回	読解3 事実文の構成を捉え要約する 演習(2) 意見文の記述
第7回	読解4 意見文を読み要約する。根拠を挙げ賛成・反対を表明する 演習(3) 課題完成
第8回	表現1 体験を基に報告型の文章を書く 演習(1) 資料の読解、検討
第9回	表現2 事実を比較する文章を書く 演習(2) 意見と構成を練る
第10回	表現3 資料を引用して書く 演習(3) 意見文の記述
第11回	表現4 事実に対する意見を書く 演習(4) 課題完成
第12回	図書館の活用 情報の探し方など
第13回	図書館の活用2 新聞検索の方法など 振り返り *②～⑥回授業時、語彙テストを行う

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・レポート執筆のための準備	2025/04/01

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・演習問題の復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 ・レポートの推敲 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	単位認定教科とする。 認定：課題として取り組んだレポートと振り返りを全て提出している。 不可：提出していないレポートがある。
テキスト	特定のテキストを用いず、適宜プリントを配付する。
参考文献	適宜紹介する

年度	2025
講義名称	北海道学【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01201L

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	北海道の歴史と現状を理解するため、旧石器時代・縄文時代・続縄文時代・擦文時代・アイヌ文化時代・近代・現代にわたって通史を明らかにします。そのうち、近代および現代を中心的にとりあげて授業を行います。
到達目標	北海道の現状や課題が生みだされた歴史的背景を把握するために、北海道の歴史、とくに近代および現代について深く理解できるようになることを目標とします。
授業の進め方	フルオンデマンド形式で行います。Webclassに各回の授業で用いる動画のURLを表示します。それを使って、視聴して下さい。動画で用いる資料（PDF）はダウンロードできるようにします。 各授業回ごとに、小テスト（確認テスト、アンケート、調べ問題）および受講票を兼ねたリアクションペーパー（感想、意見、質問）の提出を課します。いずれも、提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの正解等およびリアクションペーパーでの質問への回答等については、提出締め切り後にWebclassに掲示します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	1. 旧石器時代から中世アイヌ文化期まで ①旧石器時代以前 ①旧石器時代と縄文時代の北海道 ②続縄文時代とオホーツク文化・擦文時代 ③中世アイヌ文化期前史（擦文文化まで） ④中世アイヌ文化期（1）――アイヌ文化・アイヌ社会の成立 ⑤中世アイヌ文化期（2）――樺太アイヌの動向 ⑥中世アイヌ文化期（3）――和人の移住と道南十二館 ⑦中世アイヌ文化期（4）――コシャマインの戦い（1457年）とその後	オンデマンド
第2回	2. 近世アイヌ文化期 ①松前家による蝦夷支配権の確立――城下交易・商場知行制 ②場所請負制とクナシリ・メナシの戦い ③ロシアの南下と幕府の蝦夷地直轄 ④松前藩の復領と幕府の蝦夷地再直轄	オンデマンド
第3回	3. 近代（1）――開拓使と道庁の開拓政策 ①明治維新と北海道 ②開拓使時代（1869.7.8～1882.2.8） ③3県1局時代（1882.2～1886.1） ④北海道庁設立（1886年1月）と自治制への歩み ⑤北海道庁時代の開拓政策	オンデマンド
第4回	4. 近代（2）――アイヌ政策と産業・教育の発展 ※対象年代：道庁発足～第一次世界大戦頃 ①アイヌ政策 ②産業の発展 ③教育と宗教	オンデマンド

第5回	5. 近代（3）――第1次世界大戦後の北海道 ※主な対象年代：第1次世界大戦後～満州事変前 ①移民と道内人口の動向 ②社会運動の広がりといヌ民族自立の動き ③不況下の産業と経済の動向	オンデマンド
第6回	6. 近代（4）――15年戦争下の北海道 ①15年戦争（1931～1945年）の流れ ②領土の拡大による移民送出 ③広範囲にわたる戦場 ④戦時下の生活 ⑤学徒動員 ⑥戦局の悪化 ⑦沖縄戦・原爆投下・ソ連参戦による敗戦	オンデマンド
第7回	7. 現代（1）――第二次大戦後の日本の歩み ①戦後の時期区分 ②終戦（敗戦）をめぐる状況 ③戦後復興期：1945～1954年 ④高度経済成長期：1955～1973年 ⑤安定成長期：1974～1990年 ⑥低成長期Ⅰ：1991～2010年（「失われた30年」の始まり） ⑦低成長期Ⅱ：2011年～	オンデマンド
第8回	8. 現代（2）――連合国軍の進駐と復員・引き揚げ ①連合国軍の北海道進駐 ②敗戦による復員・引き揚げ a.復員・引き揚げの概要 b.樺太からの引き揚げ c.千島からの引き揚げ d.満州からの引き揚げ e.朝鮮人・中国人の送還	オンデマンド
第9回	9. 現代（3）――終戦直後の混乱 ①進駐軍と道民の関係 ②生活の混乱 a.食糧の危機 b.食糧の買出しと供出 c.衣料その他の欠乏 d.住宅事情の悪化 e.電力・石炭の不足と交通難・生活難	オンデマンド
第10回	10. 現代（4）――農業と漁業の変容 ①農地改革と緊急開拓 ②農業構造・農業経営の変化 ③漁業の推移	オンデマンド
第11回	11. 現代（5）――鉱工業の推移と他の産業 ①鉱業（炭鉱）の推移 ②工業開発の試みと現実 ③観光開発の進展 ④北海道における自衛隊	オンデマンド
第12回	12. 現代（6）――産業・生活基盤の整備 ①道路 ②空港 ③港湾 ④鉄道 ⑤札幌冬季オリンピックの開催と都市基盤の整備	オンデマンド
第13回	13. 現代（7）――行政・人口の推移といヌの人々 ①地方自治の発展 ②人口の推移 ③産業構造の変化 ④外国人の増加 ⑤アイヌの人々をめぐる状況	オンデマンド

事前・事後学修	【具体的な内容】 配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。	2025/04/01

	【必要な時間】 事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績 評価 基準 と方 法	オンデマンド形式の授業内で課す小テストとリアクションペーパーの内容により評価します。小テストの解答とリアクションペーパーの提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後、評価の配分は小テスト50%（確認問題1点、アンケート1点、調べ問題2点）、リアクションペーパー50%とします。リアクションペーパーの提出で出席をカウントし、出席回数が3分の2以上を単位修得の条件とします。
テキ スト	教科書は使いません。講義のレジュメ・資料をWebclassを通じて配付します。
参 考 文 献	桑原真人・川上淳『増補版 北海道の歴史がわかる本』亜細西社、2018年 関秀志他『新版 北海道の歴史 下 近代・現代編』北海道新聞社、2006年 『新北海道史』第3～6巻通説2～5、1971、1973、1975、1977年

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ[多文化①/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ[多文化②/2]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔コミュ・共創〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ [臨心①/3]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ [臨心②/3]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 東谷 一彦	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ[臨心③/3]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔子心①/2〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔子心②/2〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 上野 直幸	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ [観ビ①/3]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ [観ビ②/3]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 東谷 一彦	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ [観ビ③/3]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔スポ①/6〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 千原 治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔スポ②/6〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔スポ③/6〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔スポ④/6〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 千原 治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔スポ⑤/6〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔スポ⑥/6〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔未修得①/2〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ[未修得②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔入門スタート①/4〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ[入門スタート②/4]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ[入門スタート③/4]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅱ〔入門スタート④/4〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。
到達目標	① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。 ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。 ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	レポートの表現、形式、種類、引用などについて確認する
第3回	文章構成に必要な連続的な文章を読解する
第4回	文章構成に必要な非連続的な文章を読解する
第5回	文章構成に関わって説得性と根拠について学ぶ
第6回	文章構成に関わって、接続関係、パラグラフ・ライティング、アウトラインについて学ぶ
第7回	レポート作成のための情報収集の仕方を学ぶ
第8回	演習：読解及び考察と主張
第9回	レポート作成のために資料を読解し、それを基に主張や根拠を考える
第10回	レポートのアウトラインを考え、引用や参考文献など記述する内容を吟味する
第11回	レポートを推敲し完成させる
第12回	考察と主張に関する演習
第13回	説得性と論理に関する演習 振り返り

	【事前学修】 ・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[多文化①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[多文化②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[コミュ・共創]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[臨心①/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[臨心②/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 東谷 一彦	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[臨心③/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ〔子心①/2〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ〔子心②/2〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 上野 直幸	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[観ビ①/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[観ビ②/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 東谷 一彦	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[観ビ③/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ〔スポ①/6〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 千原 治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[スポ②/6]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[スポ③/6]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[スポ④/6]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 千原 治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ〔スポ⑤/6〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 赤岩 輝雄	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[スポ⑥/6]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 森岡 毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[未修得①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[未修得②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[入門スタート①/5]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[入門スタート②/5]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[入門スタート③/5]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[入門スタート④/5]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	日本語表現Ⅰ[入門スタート⑤/5]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	全学共通教育科目：LAS01101S

担当教員

氏名	所属
◎ 藤田 綾	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。
到達目標	①レポートの形式を理解する。 ②レポートにふさわしい表現ができる。 ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。
授業の進め方	少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。 ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 評価の説明 小テストについて
第2回	レポートとは:レポートの形式について理解する
第3回	レポートの基本的な表現ルール、書き言葉、句読点について学ぶ
第4回	レポートにふさわしい文体や語彙について学ぶ
第5回	引用する際の事実と意見の区別について学ぶ
第6回	直接引用と間接引用について学ぶ
第7回	参考文献の表記の仕方について学ぶ
第8回	読解 事実の読み取り 根拠と論拠について
第9回	レポート作成に必要な説得性、接続関係、論理関係、段落の作り方について学ぶ
第10回	レポート作成に必要な構成（アウトライン）について修得する
第11回	レポート作成に必要なパラグラフ・ライティングについて修得する
第12回	レポート作成に必要な引用、出典情報について確認する
第13回	レポートの推敲、提出 振り返り

	・小テストの予習 ・提出課題の返却後の振り返り ・テキストの読解

事前・事後学修	2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・テキストの復習 ・レポートのテーマに関する情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題：50％ 演習課題：30％ 小テスト：20％
テキスト	大学が準備したテキストを配付する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

年度	2025
講義名称	環境問題【遠隔A】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 菅井 貴子	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	環境問題は、科学、政治、経済、社会、産業など様々な分野に関わる非常に複雑な事項です。ただ、本質はとてもシンプルかもしれません。 本講義は、SDGsや環境問題を身近に感じることができる北海道の気候変化や異常気象の知識取得を中心に、人と地球システムの関わりや温暖化の基本的な仕組み、大気汚染・河川汚染・森林破壊・ゴミ問題・自然エネルギー・GXなどを学びながらディスカッションやプレゼンテーションを行うことで、環境意識を高め、持続可能な社会形成に向けて自身の考えをもち、議論ができるようになることを目的とします。
到達目標	環境問題に対するの基本的なアカデミックスキルを身につけ、環境意識の向上と問題の現状や課題について理解を深める。 持続可能な社会形成に向けて自身の考えを持ち、自身の言葉で表現ができるようになる。
授業の進め方	講義はパワーポイントスライドを中心に行います。 課題にあわせて、自身で調査し資料を作成し、5分前後のプレゼンテーション発表をしてください。 聴講後、ディスカッションや感想・提言レポートなどの提出もあります。 なお、授業計画は時事社会ニュースなどにより変わる可能性があります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で解説するとともに、参考資料等があれば適宜提示いたします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	講義オリエンテーション プレゼンテーションのポイント	同時双方向
第2回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第3回	北海道の気候多様性	同時双方向
第4回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第5回	地球温暖化と温室効果ガス	同時双方向
第6回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第7回	大気汚染物質・オゾン層破壊などの基礎知識	同時双方向
第8回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第9回	異常気象と自然災害 その課題と「適応策」	同時双方向
第10回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第11回	生物多様性とレッドリスト・ブルーリスト	同時双方向
第12回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第13回	授業まとめ ニュースプレゼンテーション 確認小テスト	同時双方向

	信頼性の高いネットニュースや、新聞、雑誌、テレビ、SNSが提供するSDGsに関係する話題を積極的に読み、自らがどう考えるかをまとめておく。

事前・事後学修	さい。 なお、新聞各紙は大学図書館で閲覧できますので、積極的に活用の心掛けを習慣づけましょう。 （事前）前講義で課題の提示がありますので、調べておいてください （事後）講義内容をしっかりと整理し、自らの意見なども次の講義で述べられるように、考えをまとめておいてください。

成績評価基準と方法	①課題提出 40% ②授業でのプレゼンテーション 30% ③レポート・確認テスト 30%
テキスト	①課題提出 40% ②授業でのプレゼンテーション 30% ③レポート・確認テスト 30%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、テレビ、ラジオ、新聞、SNSなど幅広いメディアでの気象や災害報道を担当するとともに、SDGsや温暖化、環境、エネルギー、自然災害に関する執筆や講演活動を通じて知識を広めてきました。これらの経験を基に、現実的な課題と理論を結び付けた実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	芸術論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤垣 エミリア	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、アートを通して教養を養うことを目指す。西洋ビジュアルアートの歴史と発展を背景に、文字の誕生前の有史以前のアートから古代エジプトのピラミッドの高さを超える中世ヨーロッパの建築まで紹介する。人間は、なぜ「美の世界」に憧れているか、芸術はどんな役割を持っているか、アーティストが何を求めて作品を作成しているかという問題を取り上げながらアートに対する理解を深める。
到達目標	芸術に関心をもって、教養知識を取得。歴史的な背景を学びながら建築、絵画、彫刻の分野での偉大な作品に触れる。学習者として観察力や分析ができるスキルを養う。基盤となっているパースペクティブルールを学ぶ。アートを通して西洋思想の理解が深まる。また芸術作品についてお話するときに様々な専門用語が使うことが必要になります。その語彙を含めてアートの世界より親しく感じ、「好き、嫌い」だけではなく、その根拠、何故そうであることを表現できるようになる。
授業の進め方	① 教員はパワーポイントを中心とした講義をする。 ② 学生はノートを取り、授業中に小テストをオンラインで行う（自分で取ったノートを観ながら）。 ③ 授業内容を復習するため課題が出される。 ④ 芸術作品についてグループワーク・ワークショップを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題のフィードバックとして、問題ある点を説明し、学生は授業をよく理解することをポイントにします。6回の小テストと6回のグループワークは評価され、結果は学生に知らせる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方や評価）・有史以前の背景①
第2回	有史以前② 旧石器時代のアーティファクト・発掘・マニュポート他
第3回	古代エジプト① 社会的背景とツタンカーメンの墓の発見
第4回	古代エジプト②アマルナ時代とファラオや神々の描き方・絵などの象徴的な意味
第5回	古代エジプト③ ピラミッドの役割とその運命・ミイラについて
第6回	古代ギリシャ① 西洋芸術・民衆や美のコンセプト・オリンピックの始まり
第7回	古代ギリシャ② から西洋建築の基本となったパルテノン神殿・メトープ
第8回	古代ギリシャ③ パルテノン神殿の中、フリーズ、アテナ・パルテノス増
第9回	古代ローマ①エトルリアアートとギリシャの影響・主な思想やポリシー
第10回	古代ローマ②の建築的な発見や「美」と「実」の融合
第11回	中世① Carolingian ルネサンスとヨーロッパの国々づくりの背景
第12回	中世② ロマネスク、修道院の文化・手書きの本
第13回	中世③ ゴシック、大聖堂の文化・騎士道

事前・事後学修	授業中は学生の発言が評価される。授業内容に関する発言が求められるので、学生がオプションポイントを「稼ぐ」ことができる。また授業で紹介されるアーティスト、背景にあった歴史的な出来事について自ら調べることをお勧めする。課題は主に復習として出される。新たな知識が多くなるのでPPや配布資料をベースに復習を行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	6回の小テスト　40％ グループワーク 40％ 2回課題　　　20％ アクティブ参加/発言　　　オプションポイント可能
テキスト	テキストありませんが参考文献を紹介する。毎回の授業でプリントを配布する。すべての講義のパワーポイントや資料はWebClassに入れて、pdfファイルを見ることができる。復習をするとき、または欠席した場合は、講義のパワーポイントを各自で見ても読むようにする。
参考文献	"Art and Civilization", Edward Lucie-Smith,1992, ISBN 1-85669-027-X, Published by Laurence King

実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学卒業後、ポーランドの企業で服の生地模様デザイナーとして働き、日本では大手菓子メーカーでパッケージデザイナーとして働きました。日本のシンクタンクでパスを描きました。大学では美術専攻でしたので、来日してから画家として活躍し、定期的に個展を開いています。自分で得た知識を芸術をテーマにしている授業の中に織り込んで、映像を通して美的センスを養う授業を展開していきます。

年度	2025
講義名称	哲学【遠隔B】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)

担当教員

氏名	所属
◎ 大小田 重夫	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。
到達目標	1. 哲学の代表的な問題について知る。 2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。 3. 考えたことを論理的に文章化できるようにする。
授業の進め方	本講義はオンデマンド形式のビデオ学習の講義になります。1週間に2回、講義動画と提出課題を授業支援システムWebClassで公開します。みなさんの都合のよい時間で動画を視聴し学習に取り組んでください。各講義ごとに課題を提出します。課題の提出をもって出席とします。提出課題の他に毎回講義ノートを配布します。このノートは提出不要ですので、自分の学習用だと考えてください。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各講義ごとの提出課題の解答・解説は、次回の講義動画で公開します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	イントロダクションー 哲学とは何か 道徳や宗教という人間の他の思想と哲学は何が異なるのか、さらには「人間らしさ」という観点から哲学とは何なのかを解説する。	オンデマンド
第2回	西洋哲学の歴史（1）ー 古代哲学の歴史 ギリシャの神話的思考から哲学がどのように生まれ、どのように展開したのかを解説する。	オンデマンド
第3回	西洋哲学の歴史（2）ー 合理主義哲学の歴史 デカルトは天動説から地動説へという宇宙観の大転換を経験し、「我思う、ゆえに我あり」という真理に到達した。こうした思想的背景からデカルトの哲学を解説する。	オンデマンド
第4回	「心」とは何かー 心身問題について（1） 「心」とは隠された内面であるという常識的理解を問い直すことを通して、心と身体の関係について考える。	オンデマンド
第5回	言葉と意味ー 現代哲学における言語論的転回について 古典的な言語観においては、言葉の意味は心の中にあると考えられている。フェルディナ・ド・ソシュールの思想の解説を通して、こうした言語観について再考する	オンデマンド
第6回	言葉と行為ー 言語行為論 古典的な言語観においては、言葉はもっぱら何かを記述するものと考えられている。言語行為論やヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論の解説を通して、言語の多様なあり方について考える。	オンデマンド
第7回	西洋哲学の歴史（3）ー イギリス経験論哲学 イギリス経験論の哲学（ロック、ヒューム）を解説し、人間の思想における経験の持つ意味について考える。	オンデマンド
第8回	西洋哲学の歴史（4）ー カントの哲学 合理論と経験論の総合として理解されるカントの哲学を、倫理学を中心に解説する。	オンデマンド
第9回	「時間」とは何かー ベルクソンの時間論ほか アウグスチヌスやベルクソンの時間論を解説し、時計で計測される時間（時計の針は「空間」の中を動いている）とは異なる、時間の本性について考える。	オンデマンド
第10回	「身体」とは何かー 心身問題について（2） 「自己身体」の経験を主題としたベルクソンやメルロ＝ポンティの哲学を解説し、心と身体の関係について再考する。	オンデマンド

第11回	「身体の自由」について ― 性別適合手術の是非について考える 「性別適合手術」の是非を主題として、「身体の自由」はどこまで許されるのか、について考える。	オンデマンド
第12回	「私」とは何か ― アイデンティティについて 人間は誰でも様々な「快楽」を追求して生きるが、またそれら個々の快楽の総和を超えた「幸福」も求める。ポール・リクルールの哲学を解説し、こうした葛藤を生きる人間	オンデマンド
第13回	西洋哲学の歴史（５）― ニーチェの哲学 デカルト、カントなど合理主義は西洋哲学の主流であった。ニーチェの反合理主義の哲学を解説し、理性とは何か、またその限界について考える。	オンデマンド

事前・事後学修	関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけ読んでみること。 ノート、配布資料を見直し復習すること。１時間から２時間程度/週

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	出席（課題の提出）４０パーセント、提出課題の評価６０パーセントで評価します。 出席については、講義ごとに課題を出しますので、その提出をもって出席とします。提出していただいた課題は、４段階（優、良、可、不可）で評価します。 基本的に不可でも出席扱いとしますが、明らかに動画を視聴していないと思われる提出については、欠席扱いとする場合もあります。
テキスト	なし
参考文献	・『物語 哲学の歴史』、伊藤邦武著、中公新書、2012年 ・『ソフィーの世界』、ヨースタン・ゴルデル著、NHK出版、1995年 ・『<心>はからだの外にある』河野哲也著、NHKブックス、2006年） ・『ソシュール入門』、町田健著、光文社新書、2003年 ・『シリーズ哲学のエッセンス ベルクソン』、金森 修著、NHK出版、2003年 ・『現代思想の冒険者たち メルロ＝ポンティ』、鷲田 清一著、講談社、1997年 ・『ニーチェ入門』、竹田青嗣著、ちくま新書、1994年

年度	2025
講義名称	文学
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文学は、失われてしまった至福の一体感、到達感を我々に与えてくれる祝祭的異次元空間の一つです。文学作品を読む醍醐味は非日常的体験の享受にあるという考えを根底に据え、神話からＳＦまで、国や時代、ジャンルにこだわらずいろいろな作品を扱い、原型↔️類型↔️個別作品と、融通無碍に話題にします。人は様々な自己を表現し、あるいはそのように表現されたものを通して自己以外存在を知ろうとします。自己と他者、自己と世界の繋がりが様々に表現されて人間世界は成り立っていますが、文学は言語を通して自己を表現する、あるいは世界を映す卓越した表現形式です。映像とともに人間と文学の関わり、文学の魅力を考え、歴史軸と地理軸をベースに人間の営みを俯瞰し、現代社会に通じる営みから幸福や平和、家族愛、悲嘆、憎しみ、祈りなど文学諸相から伝わる思いを共有しましょう。
到達目標	テキストを数作品消化し、文学史の教養を身につけ、現代のコンテキストに置き換え再利用できる応用的知性を獲得する。また現在の状況に至った歴史的因果を理解して、政治や社会情勢を読み解くリテラシーを高める。
授業の進め方	指定の作品を事前に読んで臨むことを想定し解説します。また、関連する映像により視点を変え視野の広げ、出席者からの質問意見を尊重し、正解のない人生について様々に考える時間とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の課題と感想は次時に紹介し補足します。 また、質問や要望を反映して意見交換する内容を各自が咀嚼して最終提出課題に反映させ自身の考えを記録としましょう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 文学とは （＊受講者の反応で変更します）
第2回	夢見る力・口承文学「オイディプス王」
第3回	初恋のせつなさ「鮎」人生のはかなさ「老妓抄」
第4回	小市民の幸福ーO・ヘンリー「賢者の贈り物」
第5回	中国文学の魅力ー劉慈欣「三体」・李商隠「無題詩」
第6回	明治の苦悩ー森鴎外「舞姫」
第7回	語り手は葛藤するー太宰治「人間失格」「津軽」
第8回	人生の悔恨ーカズオ・イングロ「日の名残り」 ヘレーン・ハンフ「チャリング・クロス街84番地」
第9回	政治と文学ー三島由紀夫「憂国」・全共闘との対話
第10回	現代社会を見るー村上龍「希望の国のエクソダス」
第11回	韻文の魅力ー万葉集・小倉百人一首・原爆詩
第12回	樺太と北海道とー井上靖・三浦綾子・知里幸恵
第13回	まとめー生きること読書すること

事前・事後学修	予告した本を読んで臨めば、3倍楽しめる！ 質問を用意してくると、実質個別対応もします！ 授業で紹介する作品を事前に、事後に読むこと！ 【必要な時間】予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の感想 40% 授業内課題 20% 最終レポート40%
テキスト	毎回のテーマに関わる作品を事前に読むこと
参考文献	テーマに関連する作品などをその都度紹介します。

備考	予告した本を読んで臨めば、3倍楽しめる！ 質問を用意してくること、個別対応もします！ 毎回の振り返りで感想・質問・眩きを残すこと！ 授業で紹介する作品を事前に、または事後に読むこと！

年度	2025
講義名称	心理学【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 美恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学の入門の授業です。 心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指しています。
到達目標	・心理学の全体について基礎知識を獲得する。 ・心理学的研究方法について理解し応用できる。 ・日常の中に心理学的視点を持ち、社会や他者、自分自身について心理学的理解を深める。
授業の進め方	この授業は全てオンデマンドで実施します。 パワーポイントを使用しながら授業を展開します。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用します。 心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	確認のためのワークを毎回行う予定です。 小テストを5回行う予定です。 最終テストを1回行います（授業内に行うか、試験期間中に行うかは未定です）。 *今年度からオンデマンド授業となりました。 授業進度によってテスト等の回数が変わる場合がありますので、授業内の案内に留意してください。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 心理学とは 心理学の歴史	オンデマンド
第2回	感覚、知覚、認知について 人間の記憶	オンデマンド
第3回	学習とはなにか 刷込み 連合学習（1）	オンデマンド
第4回	連合学習（2） オペラント条件付け（1）	オンデマンド
第5回	オペラント条件付け（2） 観察学習	オンデマンド
第6回	人間の発達	オンデマンド
第7回	愛着の発達	オンデマンド
第8回	パーソナリティとは（1）	オンデマンド
第9回	パーソナリティとは（2）	オンデマンド
第10回	知能について	オンデマンド
第11回	ストレスとストレス対処	オンデマンド
第12回	社会の中の人（1）	オンデマンド
第13回	社会の中の人（2）	オンデマンド

事前・事後学修	図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習してください。 授業中に得た知識を定着させるため復習を行ってください。 予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	未定です。
テキスト	プリントを事前配布します。各自ダウンロードし、オンデマンドを視聴前に用意して下さい。
参考文献	授業内で適宜紹介します。

年度	2025
講義名称	経済学【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	「経済って難しそう...」と思っていませんか？実は身の回りのことばかり！本講座「社会と経済」では、コンビニでの買い物の選択やバイト代の使い方など、あなたの日常と経済の意外な関係を楽しく学びます。 難しい数式や専門用語は使わず、「なぜ欲しいものは高いの?」「商品の値段はどうやって決まるの?」といった素朴な疑問から経済の仕組みを解き明かします。ミクロ経済（個人の選択）とマクロ経済（社会全体）の基本を、身近な事例を通して分かりやすく説明し、ニュースで見かける経済現象も理解できるようになります。 この授業で経済学が「人を幸せにする学問」だということを一緒に発見し、将来の生活での判断に役立つ考え方を身につけましょう！
到達目標	・経営学の基本的な考え方（ミクロ経済学・マクロ経済学）を理解し、身近な企業活動と結びつけて説明できるようになる ・さまざまなビジネスモデルの特徴を理解し、デジタル時代の新しい経済の動きやと社会の関係について多角的に考察できるようになる ・ニュースや身近な企業活動を「なぜそうしているのか」という視点で分析できるようになる ・学生生活や日常生活における様々な場面で経営学的視点を活用できるようになる
授業の進め方	本授業は遠隔B（フルオンデマンド型）の授業です。したがって、対面で集まることはありません。全て講義は大学LMS（WebClass）と動画配信サービス（Mediasite）で公開されるオンデマンド動画と資料等で進めます。動画視聴の合間に確認テストを行い、得点状況も記録し、理解度を計ります。また毎回のオンデマンド動画を視聴し、各回レポート等の課題を出題します。確認テスト、課題提出状況で出席の判定を行います。 ミニレポートは「インデックス部分（要点整理）」と「感想・主張部分」の2部構成で作成します。 質問や不明点はLMS上の掲示板機能を通じて随時受け付けます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	週2回のペースでオンデマンド動画等が更新されます。各回の課題の提出期限は1週間です。したがって1回目の課題のフィードバックは3回目の講義で、2回目の課題は4回目で…といったペースで行います。フィードバックの際には解答の解説も行います。また、フルオンデマンドなので質問等はLMSで随時受け付けサポートします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンスと経済学入門 - 私たちの生活と経済の関わり 本講座の概要と目的、授業の進め方、評価方法について 経済学（ミクロ経済、マクロ経済）についての講義により理解を深めます。	オンデマンド
第2回	②モノの値段はどうやって決まる？ - 価格決定のメカニズム 「欲しい人」と「売りたい人」のバランスで値段が決まる仕組みについて、事例を含めて理解を深めます。 ②～⑥までの授業はミクロ経済を中心とした内	オンデマンド
第3回	③お給料と生活費—お金の入りと出を考えよう 給与明細の見方と所得税・社会保険料の基本など、実例を含めて理解を深めます。	オンデマンド
第4回	④消費者の選択—お金の賢い使い方 「本当に必要?」「本当に満足?」などモノを買う（消費する）について賢い消費を行うにはどのようなポイントが必要なのかなど理解を深めます。	オンデマンド
第5回	⑤商品ができるまで—消費者に届くまでの流れ 商品の原価と販売価格の関係など、モノが消費者に届くまでの流れを含めて事例をもとに理解を深めます。	オンデマンド
第6回	⑥様々なビジネスモデル—お金を稼ぐ方法の種類 現代の多様なビジネスモデル（小売、フランチャイズ、サブスクリプション、フリーミアム、マーケットプレイスなど）について理解を深めます。	オンデマンド
第7回	⑦国の経済を大きく見てみよう—お金の大きな流れ ⑦～⑫まではマクロ経済を中心とした講座となります。 国全体のお金の流れを身近な例で解説を行います。	オンデマンド

第8回	⑧インフレとデフレーション物価の変動と私たちの生活 インフレとデフレとは？基本概念や発生メカニズム、また、物価上昇や下落が経済全体と個人の生活に与える影響などを考察します。	オンデマンド
第9回	⑨景気のアップダウン—私たちの生活への影響 景気の波と私たちの暮らしの変化（就活、アルバイト、消費行動）などについて理解を深めます	オンデマンド
第10回	⑩仕事の未来図—変わる働き方と稼ぎ方 多様化する仕事のかたちや収入源（正社員、フリーランス、複業、デジタルワークなど）について理解を深めます。	オンデマンド
第11回	⑪お金の役割と決済の進化—キャッシュレス社会の経済学 お金の機能と多様化する決済手段やポイントシステムなど、金融テクノロジーの発展について理解を深めます。	オンデマンド
第12回	⑫グローバル経済と私たちの暮らし—世界とのつながり 「円安や円高の影響とは？」身近な輸入品と日本の輸出品、為替レートの影響などについて理解を深めます。	オンデマンド
第13回	⑬総括—ミクロ経済とマクロ経済のまとめ 本講座内容についてまとめを行います。	オンデマンド

事前・事後学修	"事前学修事 講義タイトルに関連する経済ニュースや記事に目を通しておく 各回のテーマに関連する自分の経験や疑問点をメモしておく 指定された参考資料に目を通しておく 事後学修： 講義の要点を自分の言葉でノートにまとめる ミニレポートの作成（講義内容まとめと感想・主張部分） 日常生活の中で講義内容に関連する経済現象を意識的に観察する 講義内で紹介された追加資料や参考文献に目を通す"

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	"以下のABCについて、以下の割合で総合的に評価します。 A（26％）動画内の確認テスト（2点×13回＝26点） B（48％）オンデマンドコンテンツ提出課題（4×12回＝48点） C（26％）毎時間の振り返りレポート（2点×13回＝26点）※課題提出後が条件"
テキスト	特定のテキストは使用せず、講義ごとに必要に応じて資料を配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	井堀利宏『図解 大学4年間の経済学が10時間でざっとまなべる』KADOKAWA, 20216年 田中久稔『大学の人気講義でよく分かる「ミクロ経済学」超入門』SBクリエイティブ, 2022年

備考	本講座の視聴にはPCなどデバイスならびにインターネット環境が必須です。フルオンデマンド授業ということもあり、課題提出等が不十分な場合は欠席扱いとなります。 授業では時事的な話題も取り上げるため、日頃からニュースに触れる習慣をつけると理解が深まります。 特別な配慮が必要な学生は事前に相談してください。

年度	2025
講義名称	経営論【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必修区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	「ビジネスの世界や会社って、どうなってるの?」と疑問に思ったことはありませんか? 本講座「社会と経営」では、身近な企業の仕組みや、実際のビジネスシーンでどのような判断が行われているのかについて、楽しく学んでいきます。 難しい専門用語は極力避け、「なぜあの会社は成功したの?」「どうして企業は新しい製品を開発するの?」「どんなビジネスモデルが儲かるの?」といった素朴な疑問から経営の基本を紐解きます。組織とリーダーシップ、マーケティング、イノベーションなどの基本概念を、国内の有名企業などの事例や、皆さんが日常で利用するサービスを通して分かりやすく説明します。 特別企画として人事の回では、実際の企業人事担当者をゲスト講師に招き、採用の舞台裏や就活に役立つリアルな情報を直接聞ける貴重な機会も用意しています。 ビジネスが「社会と人々の暮らしをより良くする活動」であることを一緒に探求し、将来のキャリア選択や職場での活動に役立つ具体的な知識と視点を身につけましょう!
到達目標	・経営学の基本的な考え方を理解し、身近な企業活動と結びつけて説明できるようになる ・企業と社会の関係について多角的に考察できるようになる ・ニュースや身近な企業活動を「なぜそうしているのか」という視点で分析できるようになる ・学生生活や日常生活における様々な場面で経営学的視点を活用できるようになる
授業の進め方	本講座はフルオンデマンド方式で実施します。 各回の講義動画（70分程度）をLMS（学習管理システム）で配信します 講義部分（40分程度）と事例分析部分（30分程度）の2部構成 講義部分と事例分析部分の間に小テストを実施 講義視聴後、残り35分程度で講義内課題のワークに取り組みます 各回の学習内容に関する課題を毎回提出していただきます 振り返りレポートは「インデックス部分（要点整理）」と「感想・主張部分」の2部構成で作成します 質問や不明点はLMS上の掲示板機能を通じて随時受け付けます

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	週2回のペースでオンデマンド動画等が更新されます。各回の課題の提出期限は1週間です。したがって1回目の課題のフィードバックは3回目の講義で、2回目の課題は4回目で…といったペースで行います。フィードバックの際には解答の解説も行います。また、フルオンデマンドなので質問等はLMSで随時受け付けサポートします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス 授業の概要-社会・経営の接点 ガイダンスとして本講座の概要、目的、授業の進め方、評価方法について経営学についての基礎理解を行います。	対面
第2回	②企業組織の仕組み - 人と仕事の関係 組織の基本構造（どんな部署があり、どう連携しているか）や企業内の主な仕事（営業、企画、開発、人事など）とその役割について理解を深めます。	対面
第3回	③様々な企業の形 - 企業の種類と目的 企業の法的形態と特徴（株式会社、NPO、スタートアップなど）や企業が存在する目的（利益追求と社会貢献のバランス）について理解を深めます。	対面
第4回	④企業はどう戦う? - 経営戦略の基本 競争に勝つための考え方（経営戦略の基礎）や企業の「強み」はどこから生まれるのかなどについて理解を深めます。	対面

第5回	⑤顧客の心をつかむ - マーケティングの基本 企業の法的形態と特徴（株式会社、NPO、スタートアップなど）や企業が存在する目的（利益追求と社会貢献のバランス）	対面
第6回	⑥中間振り返り - 学んだことを整理しよう 第1～5回の学習内容の統合と振り返りをおこないつつ、実際の企業事例を用いた総合的な分析を行い理解を深めます。	対面
第7回	⑦エンターテインメントはどうビジネスになる？ - コンテンツ産業の仕組み エンターテインメント産業の特徴（スポーツ、ゲーム、音楽、映画などの共通点）や人気キャラクターやコンテンツの活用方法、デジタル時代の	対面
第8回	⑧サービス産業の特性 - スポーツビジネスを中心に サービス産業の基本的特徴やサービス価値創造の仕組み、顧客体験のデザインなどスポーツビジネスを題材に理解を深めます。	対面
第9回	⑨企業と社会の関わり - 社会的責任とSDGs 企業の社会的責任の基本概念や SDGs（持続可能な開発目標）と企業活動などについて理解を深めます。	対面
第10回	⑩企業のルールと責任 - 企業倫理の基本 企業が守るべきルールと倫理的行動や企業不祥事はなぜ起きるのか、企業の透明性と信頼性を高める取り組みなどについて理解を深めます。	対面
第11回	⑪自分のキャリアを考える - 将来のキャリア形成（デザイン）を考える 大学生活と将来の仕事をつなぐ考え方について、自分の強み・興味・価値観を知る方法や大学時代に身につけておく良い力などキャリアデザイ	対面
第12回	⑫企業の人事担当者に聞く - 採用の現場から 企業人事採用担当者による特別講話（60分程度）を予定しています。 企業の採用の考え方や最新の採用事情、大学時代に準備しておくことなど、今後の就活などにも役	対面
第13回	⑬まとめ - 社会と経営の未来 講座全体の振り返りまとめを行うとともに、これからの変化する社会と企業経営の関係について理解を深めます。	対面

事前・事後学修	事前学修：事前課題等、各回のテーマに関連する身近な企業やサービスについて考えてみる（15-30分程度） 例：第7回のコンテンツビジネスに関する講義前に、自分が利用しているゲームやサブスクリプションサービスの特徴を考える 例：第9回のSDGsに関する講義前に、環境や社会に配慮した商品・サービスを探してみる 事後学修：授業で学んだ概念を身近な事例に当てはめて考え、理解を深める（15-30分程度） 配布資料の重要ポイントの再確認 日常生活の中で授業内容に関連する事例を見つけてみる 疑問点を整理し、次回授業での質問を準備する

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下のABCについて、以下の割合で総合的に評価します。 A（26％）動画内の確認テスト（2点×13回＝26点） B（48％）オンデマンドコンテンツ提出課題（4×12回＝48点） C（26％）毎時間の振り返りレポート（2点×13回＝26点）※課題提出後が条件
テキスト	特定のテキストは使用せず、講義ごとに必要に応じて資料を配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞出版, 2020年 入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社, 2019年 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣, 2021年 高橋伸夫『経営組織論入門』東京大学出版会, 2020年

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講座担当教員は、ベンチャーから大企業、会社創業を経験し、職種も営業、マーケティング、事業企画を中心に多くの職種を経験しています。その実務経験やネットワーキングを活用し、将来の就職や就活の参考となる実践的な講座内容を提供いたします。
備考	本講座の受講にはPCならびにインターネット環境が必須です。フルオンデマンド授業ということもあり、課題提出等が不十分な場合は欠席扱いとなります。 授業では時事的な話題も取り上げるため、日頃からニュースに触れる習慣をつけると理解が深まります。

特別な配慮が必要な学生は事前に相談してください。

年度	2025
講義名称	地域研究【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
ナンバリング	全学共通教育科目(2021年度以前)

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	地域社会の今日的意味を理解するため、わが国の地域社会変動の諸相を明らかにし、現段階における地域社会の特質について検討します。なお、戦前戦後を通じた地域社会と教育との関わりの変化についても把握できるように授業を行います。
到達目標	戦前日本の地域社会、戦後日本の地域政策や地域社会の変化、地域と教育の関連などについて理解ができることを目標とします。
授業の進め方	フルオンデマンド形式で行います。Webclassに各回の授業で用いる動画のURLを表示します。それを使って、視聴して下さい。動画で用いる資料（PDF）はダウンロードできるようにします。 各授業回ごとに、小テスト（確認テスト、アンケート、調べ問題）および受講票を兼ねたリアクションペーパー（感想、意見、質問）の提出を課します。いずれも、提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの正解等およびリアクションペーパーでの質問への回答等については、提出締め切り後にWebclassに掲載します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	1. 地域社会の今日的意味――地域社会の定義と新たな注目 ①地域社会の定義＝地域性と共同性をもつ社会空間 ②地域社会の典型としての都市と農村 ③地域社会の解体化と新たな注目	オンデマンド
第2回	2. 戦前日本の地域社会（1）――農村社会の特質 ①農村社会の特質＝戦前日本の地域社会の基本 a.相対的に自律した領域の存在 b.強い共同性の内包＝「村落共同体」としての	オンデマンド
第3回	3. 戦前日本の地域社会（2）――農村社会と都市社会 ②二つの農村社会理論 ③北海道農村の特質 ④点的存在としての都市社会	オンデマンド
第4回	4. 戦前日本の地域社会（3）――地域の教育と15年戦争 ⑤前近代の教育事象の諸相＝地域社会の教育性 ⑥近代における学校と地域社会 ⑦15年戦争（1931～1945年）とその帰結	オンデマンド
第5回	5. 戦後日本の地域政策の展開（1）――戦後農政の展開 ①戦後農政の展開 a.戦後農政の基点 b.基本法農政の展開と農業の変貌――1950～1960年代 c.米	オンデマンド
第6回	6. 戦後日本の地域政策の展開（2）――戦後の地域開発政策の展開 ②戦後の地域開発政策の展開 a.地域開発の第1期（1950～1960年）――資源開発と工業開発 b.地	オンデマンド
第7回	7. 戦後日本の地域社会変動（1）――戦後の人口変動と地域社会 ③戦後の人口変動と地域社会 a.出生数・出生率の推移 b.少子高齢化・人口減少社会への移行	オンデマンド

第8回	8. 戦後日本の地域社会変動（2）――地域社会類型の変動 ①地域社会変動の様々な捉え方 ②地域社会類型の独自な設定 ③地域社会類型の構成変化 ④地域社会の不均等発展の重層構造	オンデマンド
第9回	9. 戦後日本の地域社会変動（3）――過疎地と都市における地域課題 ⑧過疎地と都市における地域課題 a.過疎地における地域課題 b.大都市における地域課題	オンデマンド
第10回	10. 戦後日本の地域社会変動（4）――外国人の受け入れの歴史 ⑨外国人の受け入れの歴史 a.戦前における日本国籍 b.戦前におけるエスニシティの多様性	オンデマンド
第11回	11. 戦後日本の地域社会変動（5）――ニューカマーの増加と課題 ⑩ニューカマーの増加と課題 a～f.ニューカマーの推移 g.特定地域への外国人の集住	オンデマンド
第12回	12. 教育の地域性と地域の教育性（1）――戦後の教育改革と教育制度の変遷 ⑪戦後の教育改革と教育制度の変遷 a.戦前の学校体系・教育制度の特質 b.戦後	オンデマンド
第13回	13. 教育の地域性と地域の教育性（2）――「地域と教育」の変化と現代の課題 ⑫「地域と教育」の変化 a.戦後「地域と教育」研究の時期区分 b.「地域	オンデマンド

事前・事後 学修	【具体的な内容】 配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。 【必要な時間】 事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績 評価 基準 と方法	オンデマンド形式の授業内で課す小テストとリアクションペーパーの内容により評価します。小テストの解答とリアクションペーパーの提出の期限は時間割上の授業時間の1週間後、評価の配分は小テスト50%（確認問題1点、アンケート1点、調べ問題2点）、リアクションペーパー50%とします。リアクションペーパーの提出で出席をカウントし、出席回数が3分の2以上を単位修得の条件とします。
テキスト	教科書は使いません。講義のレジュメ・資料を Webclass を通じて配付します。
参考文献	小内透『変貌する地域社会の100年』東信堂、2025年 小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年 地域社会学会編『新版キーワード 地域社会学』ハーベスト社、2011年 笹谷春美・吉崎祥司・藤井史朗・小内透編『変動期の社会学』中央法規出版、1992年

年度	2025
講義名称	[冬集]情報資源組織演習Ⅱ[図書]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14016S

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「情報資源組織演習Ⅰ」に続く科目である。『基本件名標目表(BSH)』『日本目録規則(NCR)』を活用する能力とさまざまな目録情報や書誌情報に關しての理解を深めることを目的とする。演習課題に取り組み発表・提出を繰り返す。
到達目標	①『基本件名標目表(BSH)』『日本目録規則(NCR)』、WebOPACの情報、インターネット情報の概要を理解し、使えるようになること。 ②目録作業についての基本的技術を習得すること。
授業の進め方	情報資源の目録を作成する。説明－作業－課題提出・発表したものを解説・補足する。 『基本件名標目表(BSH)』『日本目録規則(NCR)』、WebOPACの情報、インターネット情報を参考にし て 演習を進める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の取り組み発表と補足、プレゼンテーションとディスカッションを繰り返す。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 課題取り組み説明 問題１－８ ①演習教材と目録法総則 ②単行資料の記述－タイトル・責任表示・版・形態・注記・標準番号など ③各種資料の記述－録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料・電子資料など ④継続資料の記述－各書誌的事項 ⑤標目および配列 ⑥例題と総合演習 ⑦主題分析 ⑧基本件名標目表による件名作業 ⑨日本十進分類法による分類作業 ⑩分類記号付与の実際－分類規定 ⑪インターネットで使える目録情報源とMARC ⑫いろんな書誌情報源と目録作成 ⑬コピーカタロギングって何だろう ⑭書誌コントロールと書誌ユーティリティ ⑮コンピュータ目録演習関連リソース
第2回	問題１－８解説
第3回	問題１－８整理し関連事項追加

第4回	問題 9－16 ①演習教材と目録法総則 ②単行資料の記述－タイトル・責任表示・版・形態・注記・標準番号など ③各種資料の記述－録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料・電子資料など ④継続資料の記述－各書誌的事項 ⑤標目および配列 ⑥例題と総合演習 ⑦主題分析 ⑧基本件名標目表による件名作業 ⑨日本十進分類法による分類作業 ⑩分類記号付与の実際－分類規定 ⑪インターネットで使える目録情報源とMARC ⑫いろんな書誌情報源と目録作成 ⑬コピーカタロギングって何だろう ⑭書誌コントロールと書誌ユーティリティ ⑮コンピュータ目録演習関連リソース
第5回	問題 9－16解説
第6回	問題 9－16整理し関連事項追加
第7回	問題17－25 ①演習教材と目録法総則 ②単行資料の記述－タイトル・責任表示・版・形態・注記・標準番号など ③各種資料の記述－録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料・電子資料など ④継続資料の記述－各書誌的事項 ⑤標目および配列 ⑥例題と総合演習 ⑦主題分析 ⑧基本件名標目表による件名作業 ⑨日本十進分類法による分類作業 ⑩分類記号付与の実際－分類規定 ⑪インターネットで使える目録情報源とMARC ⑫いろんな書誌情報源と目録作成 ⑬コピーカタロギングって何だろう ⑭書誌コントロールと書誌ユーティリティ ⑮コンピュータ目録演習関連リソース
第8回	問題17－25解説
第9回	問題17－25整理し関連事項追加
第10回	問題26－34 ①演習教材と目録法総則 ②単行資料の記述－タイトル・責任表示・版・形態・注記・標準番号など ③各種資料の記述－録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料・電子資料など ④継続資料の記述－各書誌的事項 ⑤標目および配列 ⑥例題と総合演習 ⑦主題分析 ⑧基本件名標目表による件名作業 ⑨日本十進分類法による分類作業 ⑩分類記号付与の実際－分類規定 ⑪インターネットで使える目録情報源とMARC ⑫いろんな書誌情報源と目録作成 ⑬コピーカタロギングって何だろう ⑭書誌コントロールと書誌ユーティリティ ⑮コンピュータ目録演習関連リソース
第11回	問題26－34解説
第12回	問題26－34整理し関連事項追加

第13回	まとめ解説 ①演習教材と目録法総則 ②単行資料の記述－タイトル・責任表示・版・形態・注記・標準番号など ③各種資料の記述－録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料・電子資料など ④継続資料の記述－各書誌的事項 ⑤標目および配列 ⑥例題と総合演習 ⑦主題分析 ⑧基本件名標目表による件名作業 ⑨日本十進分類法による分類作業 ⑩分類記号付与の実際－分類規定 ⑪インターネットで使える目録情報源とMARC ⑫いろんな書誌情報源と目録作成 ⑬コピーカタロギングって何だろう ⑭書誌コントロールと書誌ユーティリティ ⑮コンピュータ目録演習関連リソース

事前・事後学修	関連する文献や各図書館のWebOPACを使い、予習すること。また復習しさらに調べて確認すること。課題をこなすこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の提出物 80% 最終課題 20%
テキスト	資料・課題提示
参考文献	その都度紹介する

年度	2025
講義名称	図書・図書館史[図書]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14015L

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	現在の我々の図書館観の下になった西ヨーロッパを中心としながら、文字、情報、紙、本と読書、図書館とアーカイブの歴史など、情報と人との関わり、情報の形態と機能、図書館やアーカイブについて文明史的な観点から概観する。 また、情報通信技術が著しく発展した現在社会と今後の情報社会における「情報」と「図書館」及び「司書」の役割、機能等について考える。
到達目標	図書と図書館の発展史を辿ることで、現代社会における情報と人との関わりを認識する視座を確立する。
授業の進め方	フルオンデマンドではあるが、知識を伝授する伝統的な講義形式の授業。授業内容の確認のため、受講生は毎回授業のノートを提出し、さらにミニレポートを書く。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題のフィードバックは、全体に対し次回授業で口頭で行い、個別にはWebClass上で行う。

事前・事後学修	授業外学修として、授業でとったメモをノートにまとめ、ミニレポートを書く。それをもとに、さらに最終課題で全体をまとめ、未来の図書館と司書の役割について考える。 【必要な時間】 授業内容を理解し、メモを再構成してノート作成し、それから400字程度のミニレポートにまとめるのに3時間程度、最終課題に取り組むためにいま一度全体を見て自分の意見を形成し、まとめなおすのに7時間程度（一周当たり1時間程度）を想定している。

成績評価基準と方法	授業ノート・・・28点 授業をまとめたミニレポート・・・28点 最終課題・・・44点
テキスト	テキストは用いない
参考文献	高山正也『図書館の日本文化史』ちくま新書（筑摩書店、2022年） 加藤三郎、村越貴代美『図書及び図書館史』新・図書館学シリーズ12（樹村房、1999年）

年度	2025
講義名称	図書館基礎特論[図書]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14014L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小丹枝 江里子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	児童サービスにおいて子どもの本を知ることは大切なことのひとつです。 比べ読みをすることで資料の評価、選定の技術の修得を目指します。
到達目標	【到達目標】 子どもの本を知る。 子どもの本を選ぶ目を養い、選書の基準を身につける。
授業の進め方	【講義方法】 本講義は学校司書の実務経験のある教員が選書の知識を活かして、資料の評価・選定方法の講義を実施します。主に講義形式で行いますが、グループディスカッションで比較検討し発表するなど能動的な学習を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 授業内での解説、またはキャンパスプランポータルでのフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション	対面
第2回	絵本(物語)の構造 「行きて帰りし物語」	対面
第3回	昔話の中の「行きて帰りし」構造	対面
第4回	昔話を生かした日本の創作	対面
第5回	詩・わらべうた	対面
第6回	幼年文学①	対面
第7回	幼年文学②	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前にテキストを読んでおくこと。 ロングセラーといわれる本をできるだけ読むこと。 また講義で紹介した本をできるだけ読むこと。 【必要な時間】 予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート:30％ リアクションペーパー：30％ 最終レポート:40％
テキスト	『幼い子の文学』瀬田貞二著　中公新書　1980年
参考文献	『絵本論』瀬田貞二 1985年 『子どもと本』松岡亨子著　岩波新書　2015年

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市立小学校で開放司書として地域の読書推進活動に携わり、札幌市立中学校では学校司書として生徒の読書支援や授業での図書活用をサポートしてきました。これらの経験を基に、図書館運営や教育現場での実践的な知識を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	情報サービス演習Ⅱ〔図書〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14013S

担当教員

氏名	所属
◎ 今 尚之	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	図書館における「情報サービス」では、各種の「データベース」を活用した情報検索とその関連領域に関する基礎的な理論（知識）と技術が必要です。そのためには、情報検索を局所的に捉えるのではなく、知識社会における調査，研究活動を支える理論と技能として学ぶ必要があります。本授業では、講義とPCを使用した演習により、データベースの理論と検索に必要な技能を修得し、図書館利用者の情報要求，知識社会の構築に応えるために必要な情報検索の基礎的な力量を獲得します。
到達目標	情報検索の仕組みとデータベースの基本的な原理を説明できるようになります。 知識社会における調査，研究活動を支える情報検索の役割や理論，基本を説明できるようになります。 具体的にデータベースを選択し，情報（文献）を検索することができるようになります。 情報（文献）を必要とする利用者の要求に応えることができる基礎的な検索ができるようになります。
授業の進め方	講義と演習を行います。講義ではデータベースや情報検索の理論をお話しします。その後，各自で演習問題に取り組みます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の次の回において、演習課題の解答例や簡単な解説のペーパーを提供します。 事後学習として自己採点を行い，ふりかえりをしてください。 そのほか，問い合わせ，質問などの回答では，必要なものについてシステムを使って共有します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業のあらし 受講の注意事項説明と確認 図書館サービスと情報検索 データ・情報・知識 データベース（１）情報検索 情報検索の定義，データベースの要件／演習問題
第2回	データベース（２）規則性 ファイル，可変長形式，デリミタ・タグ・インデックス／演習問題 データベース（３）格納場所 記憶装置，編成方法，アクセス方法，データ＝モデル／演習問題
第3回	コンピュータ目録（１）レコード構成 レコード構成，読み方，分かち書き，転置ファイル／演習問題
第4回	コンピュータ目録（２）検索戦略 マッチング，例外規定，トランケーション，論理演算／演習問題
第5回	コンピュータ目録（３）主題検索 件名標目票，適合率と再現率，主な検索サイト／演習問題
第6回	総合演習問題（図書と雑誌本体の検索）

第7回	学術論文（１）前付・本文 表題，抄録，序論・本論・結論「逆三角形型」／演習問題 学術論文（２）後付 引用・参照・参考，文献リスト（書式・対応方式）／演習問題
第8回	学術論文（３）論文検索 雑誌記事索引，引用文献索引，インパクト＝ファクター／演習問題
第9回	学術論文（４）全文検索 単語インデックス方式，文字インデックス方式，索引技法／演習問題
第10回	学術論文（５）電子ジャーナル シリアルズ＝クライシス，オープンアクセス運動／演習問題
第11回	リレーショナル＝データベース 数学における「関係」正規化，演算操作，SQL／演習問題
第12回	総合演習問題（雑誌論文の検索）
第13回	総合演習問題（文献の検索）

事前・事後学修	【事前学習】 指定テキスト「検索法キイノート」の該当部分を読み，授業で詳しく聞きたいと思ったことなどのメモノートを作成します。（90分程度） 【事後学習】 システムにアクセスをして演習問題の回答や授業のふりかえり（感想や質問など）を投稿します。 次の回では，回答とキーとなる解説を配布します。演習問題を自己採点し，曖昧なところやわからないところを補います。（90分程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	演習を含む授業です。全てに出席をしてください。諸事情で欠席する時には連絡をして，自習課題に取り組んでください。 欠席時の自習課題の提出がない場合には，成績評価の対象になりません。 演習問題回答とそのふりかえり（40％），総合演習問題（3回出題（20％×3＝60％））による総合評価（合計100％）です。
テキスト	必ず購入して持参してください ○宮沢厚雄著：「検索法キイノート」，樹村房，2018年
参考文献	○情報科学技術協会 監修ほか. 検索スキルをみがく：検索技術者検定3級公式テキスト. 第3版, 樹村房, 2024.8. 978-4-88367-394-0. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033662429 ○大橋崇行 著ほか. 司書のお仕事：お探しの本は何ですか?,勉誠出版,2018.4,(ライブラリーぶっくす). 978-4-585-20061-1, https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I028959749 ○大橋崇行 著ほか. 司書のお仕事 2 ,勉誠出版,2020.11,(ライブラリーぶっくす). 978-4-585-20075-8. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I030729576 ○伊藤民雄 著. インターネットで文献探索 2022年版,日本図書館協会,2022.5,(JLA図書館実践シリーズ ; 7). 978-4-8204-2201-3. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I032163310 ○小曾川真貴 著. 調べ物に役立つ図書館のデータベース, 勉誠社(制作) [2022.8](ライブラリーぶっくす). 978-4-585-30006-9. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I032328803 ○小林昌樹著. もっと調べる技術,皓星社,2024.6. 9784774408323. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000136-I1130300746064627458 ○中西裕，伊藤民雄，青野正太 著. 情報サービス論及び演習. 第4版 学文社 2024.9 (ライブラリー図書館情報学 ; 6). 978-4-7620-3384-1. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033715844 ○吉井潤 著. 事例で学ぶ情報サービス演習，青弓社，2024.10，(事例で学ぶ図書館 ; 4). 978-4-7872-0086-0. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033718227 ○中島玲子,安形輝,宮田洋輔 著. スキルアップ!情報検索：基本と実践. 新訂第3版 日外アソシエーツ 2024.12. 978-4-8169-3034-8. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033823301 ○森本 容介 著・文・その他ほか. We bのしくみと応用（三訂版）. 三訂版,放送大学教育振興会,2025-03-20 (放送大学教材). 9784595325298. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000137-I9784595325298 ○一般社団法人 情報科学技術協会発行：「情報の科学と技術」各号 （https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jkg/-char/ja/） ○大橋崇行著：「ライブラリーぶっくす 司書のお仕事 お探しの本は何ですか？」，勉誠出版，2018 ○日本図書館協会：「図書館雑誌」各号 ○図書館問題研究会：「みんなの図書館」各号 【参考ウェブサイト】

備考

情報科学技術協会「検索技術者検定」を受験できる基礎的な学習にもなります。「検索技術者検定」にもチャレンジしてください。

年度	2025
講義名称	[夏集]情報資源組織演習Ⅰ[図書]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14012S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 笹山 愉香	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「図書館司書資格」を取得するための「資格要件」を満たすための科目で、分類という図書館司書の基本としてかせない技術と知識を取得する科目です。利用者が情報資源を探し出すための環境を整えるために行われる作業を情報資源組織といいます。情報資源組織の具体的な事例として、分類記号を付与する分類作業、件名を付与する件名作業等があげられます。講義で基礎的な知識を知り、演習問題を解くことによって実践から情報資源組織業務に対する理解を深めることを本科目の目的とします。
到達目標	①日本十進分類法を仕組みを正しく理解し、適切な分類を与えることができる。 ②「主題分析」の力を高める。 ③演習問題を通して理論と実践の両側面から情報資源組織業務の具体的内容を理解する。
授業の進め方	プリントや「日本十進分類法」で考え方を学習したのち、教室や本学図書館で演習をします。 実際の資料を使用しながら、実践的な学習をします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	演習が多い授業となります。課題を出す、演習問題を自ら考える、グループで討議それから、その都度解説して共有していきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 授業の基本的な説明 情報資源組織とは	対面
第2回	分類の意義	対面
第3回	主題の考え方	対面
第4回	日本十進分類法の構成	対面
第5回	0 問から 3 問の分類 演習	対面
第6回	4 問から 6 問の分類 演習	対面
第7回	7 問から 9 問の分類 演習	対面
第8回	特殊な分類の考え方	対面
第9回	別置記号の考え方	対面
第10回	演習実習	対面

第11回	演習実習	対面
第12回	演習問題への解説	対面
第13回	まとめ いままでの授業内容を復習する。	対面

事前・事後学修	情報資源組織の受講、復習することをしてください。 なるだけたくさんの図書施設に出向き、分類の方法や配架の仕方を見学して来てください。 図書施設のHPを閲覧し、各図書施設の分類の仕方をしているかどのような配架をしているか確認してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への積極的な参加（２５％） ②演習問題への積極的な取り組み（２５％） ③グループワークでの積極性（１０％） ④演習問題の理解度（４０％）
テキスト	本学図書館にある「日本十進分類法１ 本表・補助表編」「日本十進分類法 関連索引・使用法編」 随時プリントを配布
参考文献	「情報資源組織演習」 J L A 図書館情報学テキストシリーズ１０ ２０２３年版 「日本十進分類法」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市で図書情報専門員として児童サービスを中心に図書館運営に携わり、「札幌市えほん図書館」の立ち上げや学校図書館支援を含む幅広い司書業務に従事しました。また、絵本専門士として絵本の読み聞かせや選書のアドバイスをを行い、保育施設での読書環境の改善にも積極的に関与しています。これらの経験を基に、実践的かつ創造的な学びを提供する講義を展開します。
備考	受講生の理解度、施設の利用状況や物品の利用の都合でシラバス通りに進まない可能性もあります。 授業中に次の授業の案内をしますので、必ず聞いて参加するようにしてください。 筆記用具（シャープペンやボールペンなど）は毎回使用します。必ず持参してください。 配布物は毎回使用する可能性があります。配布物は毎回持参するようにしてください。

年度	2025
講義名称	[冬集]図書館情報資源特論[図書]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14011L

担当教員

氏名	所属
◎ 今 尚之	大学・人文学部・国際教養学科

授業 の 目 的 と 概 要	1）図書館情報資源論の位置づけと学習の課題 司書の資格を取得するためには、甲群（必修：11科目22単位）、乙群（選択2科目2単位）の13科目24単位以上の取得が必要です。「図書館情報資源特論」は「乙群：選択科目」に位置づけられています。 文部科学省が示している、「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目一覧〔13科目24単位〕」では、次のように書かれています。 ----- ここから ----- 必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。 ----- ここまで ----- 皆さんは、これまで、そして、いま現在、必修の「基礎科目 4科目・8単位」「図書館サービスに関する科目 4科目・8単位」「図書館情報資源に関する科目 3科目・6単位」を受講し、単位を積み重ねてきた（積み重ねている）ものと思います。 「図書館情報資源特論」については、乙群（選択科目）です。そのねらいは「図書館情報資源に関する領域の課題を選択」し、教授することが求められています。 現在、デジタル技術、通信技術の飛躍的な発達と、人工知能（AI）に代表されるような高度な情報処理技術の進展、社会への実装が進むなかで、館種を問わず図書館のDX（Digital Transformation デジタルトランスフォーメーション）に関心がもたれ、また、どのように実装し、図書館サービスを向上させるか検討が進められています。 今回、図書館のDXを進めるにあたり、まずもって、図書館や図書館に限らず、知的生産などの結果がデジタルかされ、さまざまな方法で流通、提供されていることの一端を、国立国会図書館が核となり提供を行っているサービスを中心に演習を通して理解します。
	2）図書館の電子化 図書館界における、業務のデジタル化（電算化）は、比較的早くから始まったといつてよいでしょう。 第二次世界大戦は科学技術を爆発的に発展させました。研究論文が大量に生まれ、研究成果が戦争遂行に必要な技術－武器・兵器などの直接的なハードウェアに限らず、部隊の運用、物資の管理、人心掌握などのソフトウェアに至るまでが開発され、使用されました。 そのことは、第二次世界大戦後の東西冷戦でよりいっそう加速します。もちろん、経済的発展、福祉向上に向け、各分野においてより一層研究開発が進みます。その結果、「情報」がより爆発的に増大します。 その利用したい「情報」への手がかりとなる情報をつくるために、「情報の組織化」にコンピュータが使用され始めます。 目録データの電子化（デジタル化）です。電子化された目録は、一次情報へのアクセス性を高め、管理をより容易にし、他の図書館との連携を強力に進める手だてともなりました。そして、通信回線、後にはインターネット回線を通して、目録を公開することで、図書館職員の業務だけではなく、情報を探す利用者の利便も格段に向上させてきました。 いま、目録などの二次情報だけではなく、一次情報のデジタル化も進み、利用者は、質の高い、編集、編成された情報を複数入手し、比較検討しながら、「意思決定」を行ったり、新しい「知識」を生み出すことが容易にできるようになりました。 図書館の電子化は確かに知識基盤社会を支えているのです。
	3）領域の課題としての「DXと図書館」 図書館サービスが社会のDXに貢献することは、生成AIの急速な発達により新たな様相を見せ始めました。 今回、電子図書館やデジタルアーカイブを中心テーマとしつつ、AI（生成AI）の図書館業務、サービスへの導入についても事例を学びながら、社会のなかで公的なセクターとして期待されている図書館のDXを考えます。
到達 目標	1）さまざまなリポジトリやデジタルアーカイブスを知り、図書館サービスの実践で活用できるようになります。 2）人工知能（AI）に代表されるような高度な情報処理技術の進展、社会への実装を理解します。 3）図書館のDX（Digital Transformation デジタルトランスフォーメーション）を進めるための基礎的な知識を獲得します。
授業 の 進 め 方	集中講義です。1単位の授業なので、2回（2日間）で学習します。 電子図書館、デジタルアーカイブ、ナレッジベース、人工知能（AI）を主要なテーマとして、現在提供されている情報資源の検索や利活用を体験、検討などを行う演習で学びます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回（各日）のふりかえりを提出（投稿）します。 質問内容はおおむね以下を予定しています。 用語説明に関する質問 演習課題取り組みの自己評価（学習成果） 全体を通して学習した内容に対する自己評価（学習成果）とテーマに関する考察

授業計画表

回	授業内容
第1回	【一日目】電子図書館とリポジトリ 電子図書館の定義 公共図書館サービスとしての電子図書館サービス 国立国会図書館が提供する電子図書館サービス 機関リポジトリ 灰色文献の入手とデジタル情報源
第2回	【二日目】デジタルアーカイブ、生成AIと図書館のDX レファレンス協同データベース事業 JAPAN SEARCH 図書館とAI－これまでとこれから 図書館サービスと図書館のDX

事前・事後学習	【事前学習】 各回のテーマに関する参考資料を事前に読みます。 【事後学習】 各日のふりかえりに取り組みます、 ふりかえりのテーマは、おおむね以下を予定しています。 用語説明に関する質問 演習課題取り組みの自己評価（学習成果） 全体を通して学習した内容に対する自己評価（学習成果）とテーマに関する考察

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各日のふりかえりを提出（投稿）します。 質問内容はおおむね以下を予定しています。 用語説明に関する質問（20%） 演習課題取り組みの自己評価（学習成果）（50%） ン全体を通して学習した内容に対する自己評価（学習成果）とテーマに関する考察（30%）
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	プリントを配布します。 以下のほか、授業のレジュメ、資料で紹介します。 第30期東京都立図書館協議会 編集. 都立図書館のDXとその先にあるサービス：提言, 東京都立中央図書館管理部企画経営課, 2023.3. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R1000000002-I032772197 特集 2024年度図書館学セミナー 生成AIと図書館, 図書館界 = The library world. 76(6)=441:2025.3,p.337-349. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I033977739 小特集 図書館は生成AIをどのように活用できるか. 図書館雑誌 = The Library journal / 日本図書館協会図書館雑誌編集委員会 編. 118(5)=1206:2024.5,p.256-259. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I033497310 第71回日本図書館情報学会研究大会シンポジウム記録：生成AI時代における図書館員の役割. 日本図書館情報学会誌 = Journal of Japan Society of Library and Information Science / 日本図書館情報学会 編. 70(1)=236:2024.3,p.52-64. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I033355625 特集：「生成AI以後の"検索"のゆくえ」. 情報の科学と技術 = The journal of Information Science and Technology Association. 75(1):2025,p.1. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I033873998 特集：「今日の生成AI技術の動向について」. 情報の科学と技術 = The journal of Information Science and Technology Association. 74(8):2024,p.291. https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I033626060

講義と演習を組み合わせた授業です。

PC演習室を使用する予定ですが、自分が使い慣れているPCやタブレットなどを持参してもかまいません。

年度	2025
講義名称	児童サービス論[図書]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14009L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小丹枝 江里子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では児童サービスの意義を理解し、子どもの発達段階にそった資料の選定、子どもと本を結びつける具体的な方法と技術を身につけることを目的とします。
到達目標	①児童サービスの役割、児童図書館員の専門性を説明できる ②子どもの発達に合わせた資料の種類と特性を説明できる ③子どもと本を結びつける技術と方法を理解する
授業の進め方	主に講義形式で行いますがグループワークや演習も取り入れ、司書としての実務経験を生かし、絵本の読みきかせ、ブックトークなど実務を重視した講義をします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内またはキャンパスプランポータルにてフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション/児童サービスの意義	対面
第2回	児童サービスの歴史（子どもの読書活動を含む）	対面
第3回	子どもと本をつなぐ方法・技術① 読み聞かせとストーリーテリング	対面
第4回	子どもと本をつなぐ方法・技術② ブックトーク、小道具	対面
第5回	児童資料の種類と特性①	対面
第6回	児童資料の種類と特性②	対面
第7回	乳幼児サービス	対面
第8回	ヤングアダルトサービス	対面
第9回	児童サービスにかかわる施設・設備	対面
第10回	特別支援が必要な子どもへのサービス	対面
第11回	児童・ヤングアダルトへのレファレンスサービス	
第12回	学校・学校図書館との協働および家庭・地域との連携	対面
第13回	児童室の運営/法と施策	対面

	【具体的な内容】 事前に配布されたテキストに目を通してください。	2025/04/01

事前・事後学修	授業で紹介する本をできるだけ読むようにしてください。 【必要な時間】 予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	リアクションペーパー　30% ブックトークシナリオ　30% レポート　40%
テキスト	テキストは使用しません。 授業では、レジュメ等資料を配布します。
参考文献	『児童サービス論　JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 6　新訂版』　堀川昭代　編著 『児童図書館サービス論』赤星隆子・荒井督子　編著　思想社 『児童文学論』リリアン・H. スミス　岩波書店 『えほんのせかいこどものせかい』松岡享子　著　日本エディタースクール出版部 『よみきかせわくわくハンドブック』代田知子　著　一声社 『昔話は残酷か』　野村　滋　著　東京こども図書館 『よみきかせのきほん』東京子ども図書館 『ブックトークのきほん』　東京子ども図書館 『がんばれ！児童図書館員杉山さく子著　東京子ども図書館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市立小学校で開放司書として地域の読書推進活動に携わり、札幌市立中学校では学校司書として生徒の読書支援や授業での図書活用をサポートしてきました。これらの経験を基に、図書館運営や教育現場での実践的な知識を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	情報サービス論[図書]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14008L

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 貴美子	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	学生が図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考資料・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて学ぶ。利用者に協力して資料や情報そのものを提供する「情報サービス」について学生自らが理解を深めて情報検索できるように図書館利用を修得する。
到達目標	・ 学生が図書館における「情報サービス」の意義を理解する。 ・ 情報源の種類と特徴を理解する。 ・ 図書館の新しいサービスについて見識を広める。 ・ 調査・研究対象に対して図書館の機能を使えるように知識を深める。
授業の進め方	各回の授業では情報サービスの理論を1～2章ずつ区切り説明してゆく。 実際に札幌国際大学図書館蔵書検索，国立国会図書館サーチ，札幌市図書館のデータベースを体験してみる。 情報資源については実際に国際大学図書館を利用して確認する。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説，講評する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ ガイダンス ・ 情報サービス論の概容 ・ 図書館の種類，役割，特徴について ・ 図書館と書店の違い
第2回	図書館が情報サービスを提供する意義について ・ 情報とサービスの意味 ・ 図書館が情報と利用者をつなぐ ・ 情報リテラシー ・ 情報の独自性と信憑性
第3回	情報サービスを構成する各種のサービス ①直接サービス
第4回	情報サービスを構成する各種のサービス ②間接サービス その他
第5回	レファレンスサービスについて ・ レファレンスの機能

第6回	レファレンスサービスの実際 ・レファレンスのタイプ ・レファレンスの回答制限 ・レファレンスの失敗
第7回	情報検索サービスの理論と方法 ・論理演算とトランケーション
第8回	レファレンスツールについて ・レファレンスツールの種類と特徴
第9回	書誌と目録
第10回	論文・記事を探す
第11回	情報源の種類を知る（図書館実習）① 札幌国際大学図書館で情報資源を探索する
第12回	情報源の種類を知る（図書館実習）② まとめ
第13回	著作権と情報サービス ・知的財産権の基礎知識 ・図書館利用教育と情報リテラシー
第14回	まとめ・授業内試験

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業で取り上げた情報源や調査方法については各自図書館で体験してみる。 【必要な時間】 予習復習は1-2 時間とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	出席を含む授業への積極的な取組み 50% 課題提出 25% 期末試験 25%
参考文献	『情報サービス論』 竹之内禎/編著 学文社 2013 『情報サービス論』 山口真也/千錫烈/望月道浩/編著 ミネルヴァ書房 2018 『情報サービス論及び演習』 中西裕/伊藤民雄/青野正太/著 学文社 2012 『図書館で使える情報源と情報サービス』 木本幸子/著 学文社 2010

年度	2025
講義名称	図書館情報資源概論[図書]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14007L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 笹山 愉香	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	日々変化する現代において、図書館の使命でもある利用者がもっている「知る権利」を図書館情報資源を使ってサービスできるようにしていきます。図書館情報資源の特製を理解し、使い方や利用の仕方を理解して的確に使い、司書としてのスキルを上げていけることを目的とします。
到達目標	図書館情報資源とは何か、自分の言葉で説明することができ、なおかつその特製を生かした選択ができること。また司書としての仕事を理解し、その知識で司書としてのスキルを上げていくこと。
授業の進め方	基本的にはプリントやP Cを使った講義形式で行います。ただ講義の内容によって、図書館での見学、図書館の資料を使った演習やグループワークと取り入れて、能動的な学習を目指します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で十分解説するとともに、学内共有ファルダを通じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 図書館情報資源と司書	対面
第2回	多様な図書館 図書館の施設と種類	対面
第3回	記録情報メディアの発展史	対面
第4回	印刷資料の類型と特製	対面
第5回	非印刷資料の類型と特製	対面
第6回	電子資料、ネットワーク情報資源	対面
第7回	図書館見学・出版流通システム	対面
第8回	図書館の「知的自由」 蔵書論	対面
第9回	選定	対面
第10回	選定実習	対面
第11回	選定実習 発表	対面
第12回	受け入れ 売れ入れ実習	対面
第13回	A I 時代の図書館と図書館司書 まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 できたらたくさんの図書施設への見学をしてください。 毎回授業の冒頭に前回の復習をします。毎回メモをとり復習をするようにしてください。 インターネットを使える環境なら、多くの図書館・図書施設のホームページを閲覧しておいてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポート：４０％ 課題：３０％ 出席を含め、授業への積極的な参加態度：３０％
テキスト	適宜プリントを配布 授業中に配られたプリントは毎回持参してください。
参考文献	「さっぽろの図書館」 「図書館情報資源概論 現代図書館情報学シリーズ８」岸田 和明/編著 「図書館の基礎と展望８ 図書館情報概論」二村 健/シリーズ監修 「図書館情報資源概論 J L A 図書館情学テキストシリーズ８」馬場 俊明/編著

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市で図書情報専門員として児童サービスを中心に図書館運営に携わり、「札幌市えほん図書館」の立ち上げや学校図書館支援を含む幅広い司書業務に従事しました。また、絵本専門士として絵本の読み聞かせや選書のアドバイスをを行い、保育施設での読書環境の改善にも積極的に関与しています。これらの経験を基に、実践的かつ創造的な学びを提供する講義を展開します。
備考	授業に対する参加意欲、積極的な態度、発言も司書に必要なことだと認識しています。 それを理解したうえで授業に参加してください。 グループ演習を予定しています。 違う学科、学年の生徒同士が協力し課題を成し遂げることを重要視します。 生徒の理解度や施設の都合、物品の都合でシラバス通りに進めない可能性があります。随時次回の授業の案内をするので、必ず確認して参加するようにしてください。

年度	2025
講義名称	[夏集]図書館情報技術論[図書]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14006L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河村 芳行	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	情報機器の発展はめざましい。特にコンピュータはマルチ機能の強化により受動的環境から能動的・個性的・創造的な環境を展開する可能性をもたらしたと言える。現代社会においては情報の生産・処理・流通・利用が密接に結びついており、そこで生活する人間は情報を収集し、分析し、それを効果的に活用する能力が要求されている。情報技術の発達が社会の発展と変化に対してどのような影響を与えているかについて取り扱うと共に、今後の社会生活に必要な基礎的な情報技術を解説する。
到達目標	1.コンピュータ、インターネット、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等の基礎を理解する。 2.情報探索およびマルチメディアの活用・応用能力を身につける。
授業の進め方	対面講義形式で行い、初回到講義用テキストを配布します。テキストは、キーワード部分が空欄になっていますので、講義を聞き、書き込みをしてテキストを完成させてください。従って、講義に参加することが大前提となります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	試験の結果については、講評という形でWebClassを通じて資料配布します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	情報技術と社会(1):情報の概念と情報メディアの歴史
第2回	情報技術と社会(2):情報メディアの技術史
第3回	新しい情報技術と情報流通(1):コンピュータのしくみ
第4回	新しい情報技術と情報流通(2):インターネットのしくみ
第5回	新しい情報技術と情報流通(3):コンピュータとインターネット（小テスト及び解説）
第6回	情報検索に関する基礎知識：効率よく図書・雑誌論文を探す方法
第7回	情報管理システムのしくみ(1):データベースについて
第8回	情報管理システムのしくみ(2):検索エンジンについて
第9回	図書館における情報技術活用の現状(1):分類目録システムと書誌コントロール
第10回	図書館における情報技術活用の現状(2):図書館業務システムと館内ネットワーク
第11回	電子資料の管理技術(1):書物の解体と電子図書館の今後のゆくえ（デジタルアーカイブ）
第12回	電子資料の管理技術(2):デジタル情報社会に潜むデータ保存の危機について
第13回	情報検索基礎能力試験過去問題における「情報技術論」関連部分の解説

事前・事後学修	高度情報化社会における情報機器は日々急速な進歩を遂げているので、新聞・雑誌・パンフレット・広告・インターネット等で最新の情報を収集し、スクラップしておくと思います。なお、初回到講義用テキストを事前配布しますので、配布テキストを基に最低でも120分程度の予習・復習を行うことが望ましいです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	最終回に実施する到達度テストの点数と第5回に実施する小テストの合計点を成績とする。 ①到達度テスト：80％ ②小テスト：20％
テキスト	講義用テキストを配布します。
参考文献	必要に応じて講義中に随時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、図書館司書として利用者支援や資料管理、図書館サービスの企画運営に携わり、地域社会や学校と連携した多彩な取り組みを実施してきました。これらの経験を基に、図書館運営の実務と理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	講義中に指名して発言を求めることがありますので予習した上で講義に参加してください。

年度	2025
講義名称	[夏集]図書館制度・経営論[図書]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14005L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河村 芳行	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	図書館に関する法律、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、各種調査と評価、管理形態等について解説する。特に、住民の図書館利用行動分析をもとに、図書館のサービス計画や図書館施設の設置・配置計画のあり方などについて扱う。
到達目標	1.図書館経営にかかわる組織、管理・運営、各種計画について理解する。 2.図書館間のネットワーク構築やサービス計画などといった図書館経営・運営のための施策を自らが考えることができるようになる。
授業の進め方	対面講義形式で行い、初回に講義用テキストを配布します。テキストは、キーワード部分が空欄になっていますので、講義を聞き、書き込みをしてテキストを完成させてください。従って、講義に参加することが大前提となります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	試験の結果については、講評という形でWebClassを通じて資料配布します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	図書館経営の視点：図書館経営の考え方について
第2回	図書館を取り巻く状況：利用者の変化と質への対応について
第3回	図書館と地方自治体：地方自治体の中での図書館の位置づけについて
第4回	図書館に関する法令：図書館法と図書館サービス関連法規について
第5回	図書館サービスの評価と計画（1）：プランニング・プロセスについて
第6回	図書館サービスの評価と計画（2）：図書館経営・サービスの現状分析
第7回	公共図書館の地域計画（1）：設置計画に関する理論（卵型モデル、広域型モデル）
第8回	公共図書館の地域計画（2）：図書館利用者・非利用者の行動分析
第9回	公共図書館の地域計画（3）：距離と規模による類型別利用行動分析
第10回	公共図書館の地域計画（4）：世帯レベルの利用行動分析
第11回	公共図書館の地域計画（5）：大規模館選択要因分析
第12回	住民の利用行動からみた行政サービスとしての図書館設置のあり方
第13回	指定管理者（民営化）と都市再開発における複合施設の有効性について

事前・事後学修	初回に講義用テキストを事前配布するので目を通して予習してくる、また講義中に解説された内容を踏まえて、再度テキストを読み返し復習するようにしてください。配布テキストを基に最低でも120分程度の予習復習を行うことが望ましいです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	最終回に実施する到達度テストの点数を成績とする。 試験は論述問題を出題し、出題意図に正確に答えているか、問題についての基本的知識を習得しているか、記述が説得的かつ論理的に展開されているかを基準に評価します。 到達度テスト:100%
テキスト	講義用テキストを配布します。
参考文献	葉袋秀樹・糸賀雅児編『図書館制度・経営論（現代図書館情報学シリーズ第2巻）』（樹村房）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、図書館司書として利用者支援や資料管理、図書館サービスの企画運営に携わり、地域社会や学校と連携した多彩な取り組みを実施してきました。これらの経験を基に、図書館運営の実務と理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	講義中に指名して発言を求めることがありますので予習した上で講義に参加してください。

年度	2025
講義名称	情報資源組織論[図書]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14004L

担当教員

氏名	所属
◎ 桑原 裕子	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	図書館員にとって、基礎的な能力といえる図書館に所蔵する情報資源の組織化について理解するための講義です。主に目録と分類の理論と技術を習得し、現場において迅速で正確な書誌情報の作成や検索ができるよう、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、書誌データの構成・機能、その活用法などについて、講義のほかグループワークや大学図書館を活用した体験を交えて学びます。
到達目標	図書館の情報資源を広く活用できるものとして構築、保存するためには、それを整理（組織化）する必要があります。そのための理論の理解と技術として、次の3点を目標とします。 1) 図書館における情報資源組織化の考え方について理解し、説明できる。 2) 目録法、分類法に関する基礎的知識とそれらを踏まえた書誌情報の作成、分類付与など実務の知識を身につける。 3) 図書館情報管理システムやインターネット上の書誌情報についての基礎的知識を習得し、適切な情報検索ができる。
授業の進め方	情報資源組織化の基礎的理論とともに、各自図書館で借りた本を利用して、目録の構造や主題分析への理解を深めたり、書誌データの作成についてもデータシートなどを使って行っていきます。また、図書館情報管理システムやインターネット上の書誌情報について学び、必要な情報を探すための検索技術を高めます。国内の図書館で広く使われている日本十進分類法の理解促進のため、大学図書館での調査や配架体験も予定しているほか、適時、理解を深めるためにグループワークなどのアクティブ・ラーニングを取り入れていきます。また、道内図書館の独自コレクションの分類や配架などについても実例などを紹介しながら学びます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは、授業の中で実施し解説・講評をします。 グループワークの発表は、授業の中で解説・講評をします。 レポート（小論文）は、個別に講評し、授業内では全体の総評をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 情報資源組織化の意義と目的
第2回	書誌コントロールと標準化書誌データ
第3回	目録法と目録の意義
第4回	目録規則の基礎的理解－日本目録規則を中心として
第5回	書誌データの組み立て－TRC-MARCを事例として
第6回	主題組織法の意義と分類法
第7回	主題分析①NDC（日本十進分類法）を中心として
第8回	主題分析②附属図書館を利用しての実習を通して
第9回	分類作業のプロセス－図書館での実務の流れ
第10回	書誌情報の提供－図書館情報管理システムとOPAC
第11回	情報資源組織化と情報へのアクセス－必要な情報資源を探すためには

第12回	道内市町村図書館等の情報資源－独自コレクションの実際
第13回	レポート課題の解説と総評 これからの図書館に必要とされることとは

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前：一回毎に事前配付または指定する資料の内容確認および参考資料の通読。（2時間） 事前：授業に必要な本（指定）を附属図書館で貸出しを受けるなど準備する。その際、図書館内をブラウジングし、分類や配架について確認する。（1時間） 事後：授業内でする書誌データ、分類の課題が時間内に終わらない場合は家で完成させる。また、小テストの内容について再確認する。（1時間） 事後：自宅でのインターネット検索や図書館のOPACで様々なキーワードを検索し、結果の違いなどについて確認する。（1時間）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内容についての小テスト（30％） 実習・グループワークの参加姿勢と発表内容（20％） レポート（小論文）（50％）
テキスト	【テキスト】 特定のテキストは不要です。必要に応じて、附属図書館から本、日本十進分類法、日本目録規則などを借りて使用します。
参考文献	日本十進分類法新訂10版（日本図書館協会） 日本目録規則2018年版（日本図書館協会）

備考	目録の作成や分類は図書館の最も基本的な知識として実務に直結しています。授業から、図書館での実務の一端も感じ取ってもらえればと思います。

年度	2025
講義名称	[夏集]図書館サービス概論[図書]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14003L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 浅野 隆夫	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	① 図書館の意義と理念と理解し、自分の言葉で説明ができる。 ② 図書館が行っている各種サービスを理解し、その応用形を自ら考えることができる。 ③ これからの時代にふさわしい図書館の姿を表現することができる。 ④ 司書課程で学んだことを糧に、自分のキャリアを考えていくことができる。
到達目標	図書館サービスとは長期的に蓄積した資料、情報を組織的に保存し、安定的に提供することである。 一方、最近では、図書館の建て替え需要やさまざまな業種の参入、自治体が図書館をまちづくりの核と評価するなど、「あたらしい図書館」像が求められている。 当講義では、さまざまな図書館サービスの基本を学びつつ、各地での変わりゆく図書館の姿を知り、「図書館のリアル」を感じながら、どのように利用者ニーズとサービスをマッチングさせることができるかを考察することを到達目標とする。
授業の進め方	① 各テーマにかかる講義、② テーマに関連した先進事例の紹介 ③ テーマに関連した振り返りレポートの作成、④ 振り返りレポートの内容共有と講評、この①から④を繰り返します。また、メインのレポートについても課題を提示します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で作成する振り返りレポート及びメインレポートについて、授業の中で共有と講評を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション（授業の進め方や評価方法の説明を含む）	オンデマンド
第2回	図書館サービスの理念、構造と変遷	
第3回	資料提供サービスの基本	
第4回	図書館の機能と情報提供の種類、形態	
第5回	課題解決型サービス①：ビジネス支援の実際、課題と可能性	
第6回	課題解決型サービス②：暮らしの支援の実際、課題と可能性	
第7回	電子資料①：電子書籍貸出サービス	
第8回	電子資料②：デジタルアーカイブについて	
第9回	障がい者サービス、高齢者サービス、多文化サービスについて	
第10回	図書館サービスの協力と連携：専門機関等との連携の意義と展開の可能性等	
第11回	これからの図書館像を考える：先進事例から学ぶ	
第12回	利用者とのコミュニケーション：IT時代にふさわしい図書館PRとは	
第13回	これからの時代にふさわしい図書館のあり方を考える（最終レポートの講評含む）	

事前・事後学修	事前：授業で紹介した資料やウェブサイトの情報は確認しておくこと 事後：授業の中で考えた課題や配布資料で学んだことは整理しておくこと

成績評価基準と方法	レポートにより評価する。 平常点（授業の参加度、毎回授業中に求める振り返りレポート） 5 0 %及びメインレポート5 0 %

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市図書・情報館初代館長や中央図書館利用サービス課長などの役職をはじめ、札幌市まちづくり政策局でのプロジェクト推進、さらには総務省地域情報化アドバイザーとして全国での図書館づくりの経験を重ね、北海道武蔵女子短期大学講師も務めています。これらの実務経験をもとに、図書館の各種サービスを理解しその応用形を自ら考えられる力の醸成、また、これからの時代にふさわしい図書館の姿を自分の言葉で紡げるようになる講義を展開します。

年度	2025
講義名称	情報サービス演習Ⅰ〔図書〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14002S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 笹山 愉香	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	利用者が探している「情報」にたどり着けるように、資料や検索ツールを的確に使いこなし、レファレンス・インタビューのスキルをあげること。レファレンスサービスとは何かを理解し、より実践的な問題解決ができるようになることを目的とします。
到達目標	①必要なレファレンスツールの特徴を理解して、的確に使いこなせるようになること。 ②「情報」に到達するための検索技術やレファレンス・インタビューのスキルをあげること。 ③「情報」に到達するまでのプロセスを説明できること。
授業の進め方	講義をしたあと、演習問題をします。 個人で検索してグループで討議して、より良い解決の仕方を共有します。 本学図書館の施設や資料を使って、実践的な講義になります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ほぼ毎回、演習を行います。 お互いが利用者と司書になってレファレンスの模擬体験をしますので、その経験と成果をその都度共有します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 情報サービスとはなにか	対面
第2回	レファレンスサービスの実際	対面
第3回	レファレンス・ツールの種類・特性	対面
第4回	レファレンス・インタビューの仕方	対面
第5回	レファレンス演習	対面
第6回	レファレンス演習	対面
第7回	レファレンス演習（児童書・絵本）	対面
第8回	レファレンス演習（児童書・絵本）	多面
第9回	パスファインダー作成・演習	対面
第10回	パスファインダー作成演習	対面
第11回	総合レファレンス演習	対面
第12回	総合レファレンス演習	対面
第13回	まとめ	対面

事前・事後学修	「情報サービス論」の受講と復習をしてきてください。 本学図書館にあるレファレンス・ツールを確認してください。 またデジタル媒体のレファレンス・ツールをアクセスできるものでかまいませんので、実際に検索などしてみてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への積極的な態度（３０％） 演習問題・課題への理解度（４０％） レファレンス・インタビューへの理解度（３０％）
テキスト	随時プリントを配布。授業中配布したプリントは毎回使用するので、持参してください。 筆記用具を必ず持参してください。
参考文献	「情報サービス演習　ＪＬＡ図書館情報学７」　日本図書館協会 「れふあれんす百話噺　ＪＬＡ図書館実践シリーズ４２」　日本図書館協会 「実践型レファレンス・サービス入門　ＪＬＡ図書館実践シリーズ１」　日本図書館協会 「１００万回死んだねこ　覚え違いタイトル集」福井県立図書館　講談社 「図書館にまいこんだこどもの大質問」青春出版社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市で図書情報専門員として児童サービスを中心に図書館運営に携わり、「札幌市えほん図書館」の立ち上げや学校図書館支援を含む幅広い司書業務に従事しました。また、絵本専門士として絵本の読み聞かせや選書のアドバイスをを行い、保育施設での読書環境の改善にも積極的に関与しています。これらの経験を基に、実践的かつ創造的な学びを提供する講義を展開します。
備考	図書施設や備品の関係、理解度からシラバス通りに進まない可能性もあります。 教室や図書館などその授業で場所が変わることがあります。必ず場所の確認をして参加してください。 インタビュースキル向上も目的です。生徒間でもコミュニケーションをとるなど、積極的な参加をしてください。

年度	2025
講義名称	図書館概論[図書]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	図書館司書課程に関する科目：LIC14001L

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	図書館についての基礎的な内容を取り上げ、他の図書館司書科目の内容への橋渡しと方向づけを示すことを目的とする。図書館が社会にどのような意味を持ち、どのような役割を果たし、どのような機能を持ち、かつ歴史に果たした役割を理解して、現状と課題および展望を示す。
到達目標	①図書館の定義が説明できる ②図書館の意義と役割について正確な知識を持つ ③様々な図書館の機能について、その類似点と相違点を説明できる ④図書館関係の法的関係について知識を持つ ⑤図書館とネットワークについて説明できる ⑥図書館職員の役割と資格について説明できる 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 図書館司書資格のための必修科目である。札幌国際大学が柔軟な思考力と実践力を貴ぶ学風の下、深く専門の学芸を教授研究し、職業および社会生活に必要な教育を施し、自由、自立、自省の精神による人間形成を重んじていることが教職課程の学修と人間形成に合致する。
授業の進め方	テキスト分担発表－映像資料での確認－ワークシートでの整理という展開で理解を深める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発表への補足と意見交換、ワークシート補足 テスト解説

授業計画表

回	授業内容
第1回	図書館とは何か 図書館の定義と意義、図書館の種類、協力・連携とネットワーク、図書館職員
第2回	現代社会と図書館 生涯学習と図書館、情報環境の変化と図書館、図書館の危機管理
第3回	出版と図書館、著作権 出版文化と図書館、著作権
第4回	図書館の理念 図書館の自由、図書館員の倫理と倫理綱領、図書館の自由に関する宣言、図書館の自由関係略年表
第5回	図書館法規と行政、施策 図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育法、地方自治法、図書館関係法体系図
第6回	地域社会と図書館 地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、これからの図書館像
第7回	公共図書館の制度と機能 図書館法、公共図書館の機能、ニューヨーク公共図書館
第8回	学校図書館の制度と機能 学校図書館法、学校図書館の機能、学校図書館をめぐる諸問題

第9回	大学図書館の制度と機能 大学図書館に関する法律・基準、大学図書館の機能、大学図書館をめぐる諸問題
第10回	専門図書館の制度と機能 専門図書館の特性と機能、専門図書館のいろいろ
第11回	国立国会図書館の制度と機能 国立国会図書館法、国立国会図書館の機能・諸問題
第12回	図書館の歴史・外国の図書館 アメリカ・イギリス・北欧・中国
第13回	まとめ

事前・事後学修	①分担レジュメ作成と発表準備 ②近隣にある公共図書館及び大学図書館を見学すること ②札幌国際大学OPACを活用すること 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①担当レジュメ 30％ ②発表 30％ ③レポート 40％
テキスト	JAL図書館情報学テキストシリーズⅢ-1 塩見昇監修「図書館概論」 日本図書館協会
参考文献	宮武久佳『正しいコピペのすすめ』岩波ジュニア新書 978-4-7872-0053-2 岡本真／森旭彦『未来の図書館、はじめませんか』青弓社 978-4-00-500849-0 菅谷明子『未来をつくる図書館ーニューヨークからの報告』岩波新書 4-00-430837-2 竹内さとる『生きるための図書館ー一人ひとりのために』岩波新書 978-4-00-431783-8 橋本麻理／山本貴光『図書館を建てる、図書館で暮らす一本のための家づくり』新潮社 978-4-10-355991-7

備考	図書館関係の情報を新聞・雑誌・インターネット・大学図書館第2閲覧室の図書館関係雑誌から収集すること。

年度	2025
講義名称	卒業研究[臨心][松浦]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連 【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	卒業研究[臨心][岡田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連 【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	卒業研究[臨心][橋本]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連 【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[臨心][高野]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連 【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	卒業研究[臨心][品川]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連　【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[臨心][青木]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連 【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[臨心][荒関]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連 【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[臨心][吉崎]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。
到達目標	方針との関連 【到達目標】 テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することを到達目標とする。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画等に関する指導（１）	対面
第2回	研究計画等に関する指導（２）	対面
第3回	研究計画等に関する指導（３）	対面
第4回	調査研究など実施に関する指導（１）	対面
第5回	調査研究など実施に関する指導（２）	対面
第6回	調査研究など実施に関する指導（３）	対面
第7回	調査研究など実施に関する指導（４）	対面
第8回	調査研究など実施に関する指導（５）	対面
第9回	調査研究など実施に関する指導（６）	対面
第10回	調査研究など実施に関する指導（７）	対面
第11回	調査研究など実施に関する指導（８）	対面
第12回	経過報告に関する指導（１）	対面
第13回	経過報告に関する指導（２）	対面
第14回	調査研究などの分析に関する指導（１）	対面
第15回	調査研究などの分析に関する指導（２）	対面
第16回	調査研究などの分析に関する指導（３）	対面
第17回	調査研究などの分析に関する指導（４）	対面

第18回	論文執筆に関する指導（１）	対面
第19回	論文執筆に関する指導（２）	対面
第20回	論文執筆に関する指導（３）	対面
第21回	論文執筆に関する指導（４）	対面
第22回	論文執筆に関する指導（５）	対面
第23回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第24回	審査のフィードバックおよび修正に関する指導	対面
第25回	発表に関する指導等	対面
第26回	発表に関する指導等	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。 【必要な時間】 事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて個別に指示される。
参考文献	研究内容に応じて個別に指示される。

備考	提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがあります。 大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

年度	2025
講義名称	イネーブルガーデン実習[臨心]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07907P

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科
津田 智恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	園芸療法の実践に必要な知識・技術を身につける事が目的である。 様々な園芸療法プログラムの実践や園芸療法における対象者との接しなどを学ぶ。 自ら立案したプログラムを実践できるようになる。
到達目標	基本的園芸療法プログラムを学び、それを施設実習で実践できるようになる。 実習先で緊張せずに一連の流れを平常心でできるようになる。
授業の進め方	実習・演習形式で行う。 実習において作業を機械的にこなすのではなく、意識しながら取り組む必要がある。また、実習・演習中にいつでもメモが取れる準備をしておくように。フィールドワークを通年とおして行う。 本講義は、園芸療法の資格を有し多種多様な経験豊富な教員がその経験や知識をベースに指導する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内での実習後の実習記録。 フィールドワークの記録またフィールドワーク先での動画撮影を元に学生の動きを把握し学びに繋げる。 ロールプレイを何度も行う事で学生の対人スキルの習熟度を評価する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス(実習内容と進め方) 、グループ編成
第2回	園芸療法実践基礎とその演習①
第3回	園芸療法実践基礎とその演習②
第4回	園芸療法実践基礎とその演習③
第5回	集団園芸療法におけるプレゼンテーション①
第6回	集団園芸療法におけるプレゼンテーション②
第7回	施設体験学習①&振り返りとまとめ
第8回	園芸療法プログラム①と作業ステップとその効果の記入
第9回	園芸療法プログラム②と作業ステップとその効果の記入
第10回	作業ステップ記入のフィードバック① 期待できる効果の記入方法の確認①
第11回	作業ステップ記入のフィードバック② 期待できる効果の記入方法の確認②
第12回	施設体験学習②&振り返りとまとめ
第13回	前期のまとめ

第14回	ガイダンス(実習内容と進め方) グループ編成
第15回	施設実習①の準備と模擬演習
第16回	施設実習①の強調ポイントの設定
第17回	施設実習①&振り返りとまとめ
第18回	園芸療法プログラム③と作業ステップとその効果の記入
第19回	施設実習②の準備と模擬演習
第20回	施設実習②の強調ポイントの設定
第21回	施設実習②&振り返りとまとめ
第22回	園芸療法プログラム④と作業ステップとその効果の記入
第23回	施設実習③の準備と模擬演習
第24回	施設実習③の強調ポイントの設定
第25回	施設実習③&振り返りとまとめ
第26回	後期のまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 普段から園芸・福祉・医療・心理学等の情報を収集すること。 施設実習へ参加する前には、グループ毎に準備にじっくり時間をかけ、必ず活動のシミュレーションをしてから望むようにしてください。 【必要な時間】 授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(15%) 中間報告(15%) 施設実習の成果(30%) 提出物（実習記録、課題レポート)(20%) 振り返りシート(20%) の総合評価による
テキスト	都度配布する。
参考文献	園芸リハビリテーション 山根 寛著 菅 由美子企画 医歯薬出版株式会社、園芸療法実践入門ー心へのアプローチ ミッチェル・ヒューソン著、エンパワメント研究所

備考	施設実習費として1,000円（1回）×6回の合計6,000円を徴収致します。 内訳としては、1回の実習の事前練習材料費+当日の材料費に使用します。 期日までにお支払いをお願いいたします。 授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	関係行政論[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07807L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 千裕	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理職（公認心理師など）の仕事の領域である①保健医療、②福祉、③教育、④司法・犯罪、⑤産業・労働の5つの分野において、心理的な支援や対応が求められる課題や問題は数多くあります。本講義は、これらの課題や問題について、その実情を把握するとともに、心理的な支援や行政・司法の対応、その基盤となる法律と制度、心理職（公認心理師など）の職務などについて理解することを目的とします。
到達目標	心理職（公認心理師など）の仕事の領域である①保健医療、②福祉、③教育、④司法・犯罪、⑤産業・労働の5つの分野に関して、 1 心理的な支援などが求められる課題や問題の概要について説明できる 2 行政・司法の対応及びその基盤となる法律と制度の概要について説明できる 3 心理職の職務について説明できる ことを到達目標とします。
授業の進め方	授業は、基本的には講義形式で行いますが、必要に応じてディスカッションを取り入れます。法律や制度については、皆さんにとってあまり馴染みがないと思いますので、できるだけ分かりやすく解説したいと思います。また、事例をできるだけ多く紹介して、実務の実情を具体的に理解できるようにしたいと考えています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テスト等についてはWebClassに正解と講評を掲載します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	はじめに～臨床心理に関連する5つの分野、行政・法律とは何か 講義全体の目的とねらい、到達目標、授業計画などについて説明するほか、心理職（公認心理師など）の仕事の5つの分野（①保健医療、②福祉、③教育、④司法・犯罪、⑤産業・労働）、行政とは何か、法律とは何かなどについて解説します。
第2回	保健医療（その1）～一般医療、地域保健 医療法に定める医療の理念、医療の提供体制や安全確保のための方策、医療従事者（医師とその補助職（公認心理師を含む））、医療保険制度、保健所の役割と機能、地域保健に関する業務の種類と内容などについて取り上げます。
第3回	保健医療（その2）～精神科医療、精神保健、チーム医療と心理職の役割 精神保健福祉法、精神障害者の医療及び保護の制度（精神科病院、精神保健指定医、入院の種類、救急医療など）、その社会復帰や自立のための制度、チーム医療とは何か、精神科医療及び一般医療における心理職（公認心理師など）の役割などについて取り上げます。
第4回	福祉（その1）～児童の福祉 児童虐待をめぐる問題を中心として、児童福祉法、児童虐待防止法、児童相談所の役割と機能（相談・援助、一時保護、措置、市町村の援助など）、児童福祉司の職務、児童心理司の職務などについて取り上げます。また、国の施策である子ども・子育て支援、子どもの貧困対策の概要についても解説します。
第5回	福祉（その2）～障害者の福祉 障害者基本法、障害者の定義、障害者の福祉の理念（社会的障壁の解消、共生社会の実現など）、障害者に対する差別の解消、障害者の虐待防止、障害のある子どもに対する支援制度（児童福祉法）などについて取り上げます。
第6回	福祉（その3）～高齢者の福祉 日本社会における高齢化の実情（高齢者の夫婦世帯・単身世帯の増加、認知症の問題など）、高齢者の生活支援と介護をめぐる問題、介護保険制度、地域保活支援システム、地域包括支援センターの役割と機能、高齢者の虐待防止などについて取り上げます。
第7回	教育（その1）～学校教育に関する法律と制度、教育行政の特徴 教育基本法、学校教育法、教育の理念と目標、教育機会の保障、学校教育の概要（学校の種類と設置者、義務教育、教員資格、政治教育と宗教教育、体罰の禁止など）、教育に関する行政と組織、学習指導要領、生徒指導提要などについて取り上げます。

第8回	教育（その２）～不登校、いじめへの対応と支援 学校における不登校といじめの実情、教育機会確保法、不登校の定義、不登校の児童・生徒へ支援の在り方、いじめの定義、いじめ防止対策推進法、いじめ防止に関する基本施策、学校と警察との連携などについて取り上げます。
第9回	教育（その３）～子どもの発達障害と支援、チーム学校、スクールカウンセラー 発達障害者支援法、発達障害のある児童・生徒への教育上の配慮、特別支援教育、学校の組織体制づくり、チームとしての学校、スクールカウンセラーの職務などについて取り上げます。
第10回	司法・犯罪（その１）～家庭裁判所の役割と機能、親の離婚と子どもの福祉、家事調停制度 家庭裁判所の役割と機能（家事事件、少年事件など）、家庭裁判所調査官、親の離婚と子どもをめぐる問題（子どもの親権者、養育費、親子の面会交流）の実情、親の離婚と子どもの心理、家事調停制度（離婚紛争などを解決する制度）などについて取り上げます。
第11回	司法・犯罪（その２）～少年非行と少年審判、犯罪被害者への支援 少年法、少年審判の理念、再非行の防止、少年に対する処分の種類と内容、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者の被害と心理、犯罪被害者への支援に関する国の施策（基本理念と支援策、犯罪被害者等給付金、犯罪被害者等早期援助団体など）などについて取り上げます。
第12回	産業・労働（その１）～働く人のメンタルヘルス 働く人の心身の健康に関する法制度（労働基準法、労働安全衛生法など）、ストレスチェック制度、労働者の心の健康の保持増進のための指針、自殺対策基本法、過労死防止対策推進法などについて取り上げます。
第13回	産業・労働（その２）～休業者の職場復帰、職場におけるハラスメント対策、障害者の就労支援、講義全体のまとめ こころの病気による休職者の職場復帰、職場復帰の支援と５段階のステップ、復職支援プログラム（リワーク）、職場におけるハラスメントとその防止対策、男女雇用機会均等法、労働施策総合推進法、障害者雇用促進法、障害者就業・生活支援センターなどについて取り上げます。最後に講義全体の振り返りを行います。

事前・事後学修	この講義で取り上げる課題や問題（例えば、精神科医療と入院制度、児童虐待、障害者の福祉と共生社会の実現、高齢者の介護と福祉、不登校、いじめ、親の離婚と子どもをめぐる問題（子どもの親権、養育費、親子の面会交流など）、犯罪と非行、犯罪被害者への支援、働く人のメンタルヘルスなど）は、社会問題としてメディアで取り上げられることも多いと思います。日ごろから、これらについてできるだけ関心を持ち、問題意識を深めるなどして授業に備えてください。 授業時には、特に重要と思われるポイントを指摘します。これをノートに整理するなどして復習してください。また、毎回の授業の冒頭において、前回の授業の重要ポイントについて振り返りを行いますので、これを利用して知識を定着させてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標に記載した１～３に関して、授業期間内に小テストを２回実施し、成績評価の基準とする予定です。小テストは WebClass を利用して実施することを検討中ですが、その方法、内容などについては、授業の際に詳しく説明します。 授業期間内の小テスト（１回目） ５０％ 授業期間内の小テスト（２回目） ５０％
テキスト	教科書は使用しません。毎回、授業の際に講義資料（レジュメ）を配付し、これに基づいて授業を進めます。
参考文献	参考となる文献と資料は、必要に応じて授業の際に紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	講師は、公認心理師です。長年にわたって家庭裁判所調査官として、夫婦の離婚と子どもをめぐる問題（子どもの親権、親子の面会交流、養育費など）、DV、児童虐待、障害者の福祉、高齢者の介護と福祉、少年非行、いじめや不登校などの問題に関わってきました。講義では、これらの実務経験も踏まえて、皆さんに対し、最新の実務の実情と知識をできるだけわかりやすくお伝えしたいと思っています。

年度	2025
講義名称	[夏集]集団心理療法[臨心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07707L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山本 創	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では集団力動的な集団精神療法について、その歴史、理論、現場での実践状況を学ぶ。またシナリオロールプレイやグループワークを通して、集団力動を体験的に学ぶ。これらを通して集団力動的視点の基礎を獲得するとともに自己理解、他者理解を深めることを目指す。
到達目標	①集団精神療法に関する基礎的な知識を習得する。 ②体験的な学習を通して自己理解、他者理解を深める。
授業の進め方	①イントロダクション 集団力動的視点とは何だろうか？ ②集団精神療法の歴史 ③グループワーク1・ふり返り小レポート1 ④集団精神療法の理論 ⑤集団精神療法の実践1 ⑥集団精神療法の実践2 ⑦シナリオロールプレイ1 ⑧グループワーク2・ふり返り小レポート2 ⑨集団力動的視点とは何だろうか?2 ⑩グループワーク3・ふり返り小レポート3 ⑪シナリオロールプレイ2 ⑫グループワーク3・ふり返り小レポート4 ⑬集団力動的視点とは何だろうか?3

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	今回の授業にて小レポートに書かれた質問や感想について、コメントしていく。

事前・事後学修	【具体的な内容】 その都度授業内でお知らせする。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ1時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業期間内のふり返し小レポート(20%)と終了後の総合レポート作成(80%)の提出による。
テキスト	なし
参考文献	毎回の講義に関連する参考文献・引用文献については、その都度紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大学病院精神神経科や民間精神科病院で30年間勤務し、また小中高、支援学校でスクールカウンセラーとして24年間活躍。さらに、障がい者支援を主事業とするNPO法人の経営にも30年間従事し、実務経験を重ねてきました。これら多様な分野で集団力動的視点を活用した経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	グループワークという学習形態の特質上、全回出席を基本的な前提とする。

年度	2025
講義名称	[夏集]心理演習[臨心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07619S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 鈴木 憲治	大学・人文学部・心理学科
澤田 信也	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本演習では、公認心理師が心理に関する業務を行っていく上で必要な基本的知識や技術の修得を目的としている。 具体的には、事例検討や小グループでの体験的学習を通して、心理的アセスメントや心理学的支援法、支援計画作成法を身につける。
到達目標	本演習では以下の（ア）～（エ）の修得を目指す。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 （１）コミュニケーション （２）心理検査 （３）心理面接 （４）地域支援 等 （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 （ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ （エ）多職種連携及び地域連携
授業の進め方	形式は講義と演習形式である。 担当教員による概論的レクチャーの後に、小グループでのロールプレイングや事例検討等を行う。 その後、受講者全体でディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① オリエンテーション、公認心理師について
第2回	心理支援面接演習(1)イントロダクション
第3回	心理支援面接演習(2)ロールプレイ①
第4回	心理支援面接演習(3)ロールプレイ②
第5回	心理的アセスメント演習(1)イントロダクション
第6回	心理的アセスメント演習(2)ロールプレイ①
第7回	心理的アセスメント演習(3)ロールプレイ②
第8回	心理的アセスメント演習(4)ロールプレイ③
第9回	心理的アセスメント演習(5)ロールプレイ④
第10回	支援計画演習(1)所見作成

第11回	支援計画演習(2)フィードバックロールプレイ
第12回	事例検討：多職種連携、チームアプローチ、地域連携
第13回	最終発表会

事前・事後学修	【具体的な内容】 これまで学んできた公認心理師に関わる専門科目の内容を教科書や配布されたレジュメなどを通して再確認しておくこと。また、授業中は知識と実践とを関連づけることを意識すること。 【必要な時間】 事前事後各々2時間以上の学習が必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下の3点で評価する。 A) 課題（所見） ：30% B) ロールプレイング：30% C) 発表会 ：40%
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	森田美弥子・金子一史（編）(2004). 臨床心理学実践の基礎 その1―基本的姿勢からインテーク面接まで. ナカニシヤ出版. その他、参考となる文献は適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目は医療保健分野や福祉分野、教育分野、私設相談機関などにおいて心理職としての実務経験のある教員2名が担当する
備考	※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要がある。 ※ 本科目は受講時までに3年次開講科目「心理実習Ⅰ（施設実習）」と「心理実習Ⅱ（施設実習）」「集団心理療法」の単位を修得している者のみ受講できる。受講条件を満たしているかどうかについては、各自で確認しておくこと。なお、本演習の受講定員は30名である。 ※ 課題、レポートについては公欠などの特別な事情がない限り遅刻提出は認めない。 ※ 主にグループ学習となるため、遅刻・欠席はしないこと。欠席した場合、次の回までに課題に取り組む必要がある。

年度	2025
講義名称	【閉講】 カウンセリング実習[臨心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07618P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本実習では心理学的支援法のひとつであるカウンセリングについて「カウンセリング演習」で学んだ知識と技法をもとに学内外での実習・演習を行う。 そのうえでカウンセリングのベーシックテクニックを身につけることでカウンセリングの目指す目標や技法の意義を体験的に理解することを目的とする。
到達目標	(1)様々な相談機関の特性を理解し、相談機関におけるカウンセリングの意義について説明することができる。（思考・判断） (2)実習に意欲的に参加し、記録にまとめることができる。（関心・意欲） (3)実習を通してカウンセリングの目標や技能の意義について自分の言葉で発表することができる。（技能・表現）
授業の進め方	【講義方法】 本講義は、公認心理師資格を持ち、教育、福祉領域での実務経験のある教員が指導を行う。 具体的には講義＋演習＋実習体験形式で展開する。 また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題および実習先からの評価については、講義内でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	カウンセリングの実際 施設見学① 子どもの権利救済機関
第3回	カウンセリングの実際 施設見学② 家庭生活総合相談カウンセリングセンター
第4回	カウンセリングの実際 施設見学③ 学生サポートセンター
第5回	実習オリエンテーション
第6回	カウンセリング体験実習①
第7回	カウンセリング体験実習②
第8回	カウンセリング実習③
第9回	実習課題 中間報告
第10回	カウンセリング体験実習④
第11回	カウンセリング体験実習⑤

第12回	カウンセリング体験実習⑥
第13回	まとめ 実習報告会

事前・事後学習	事前にカウンセリングに関する書籍を読み、カウンセリングのイメージを膨らませておく。また、事後学習として「カウンセリング演習」で配布されたレジュメや資料を見直し、実習体験を振り返り、関連する概念などを自身で調べ確認し、理解を深めるようにする。 上述のような事前及び事後学習を合わせて5時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	到達目標（1）見学レポート ：30% 到達目標（2）実習記録 ：40% 到達目標（3）実習報告 ：30%
テキスト	特に使用しない
参考文献	適宜紹介する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本授業では主に学校現場におけるピア・カウンセリングの実習を行うことで授業目的の達成を目指す。 教員は学校教員、子どもの権利相談員、家庭児童相談員の実務経験を持つため、学校内外問わず、子どもの発達の・教育的ニーズに応じたカウンセリングの意義について実習を通して解説する。
備考	・本科目はカウンセリング実務士取得のための必修科目となっている。 ・「臨床心理学概論」、「心理学的支援法」、「カウンセリング演習」の講義を履修し、臨床心理学の概念や心理学的支援法について理解していることが望まれる。

年度	2025
講義名称	心理実習Ⅱ（施設実習）[臨心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07617P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 鈴木 憲治	大学・人文学部・心理学科
澤田 信也	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	春学期開講の「心理実習Ⅰ（施設実習）」では、福祉分野での実習を通して精神障害のある方々への心理的支援の実際、社会的状況、施設の概要や役割を学んだ。 「心理実習Ⅱ（施設実習）」では、精神科病院などの医療保健分野の見学実習と司法犯罪分野の施設見学実習を行い、公認心理師に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。
到達目標	① 施設の役割・機能について学ぶ。 ② 対人援助職（公認心理師や他の専門職を含む）に必要な知識と技能を知る。
授業の進め方	講義は主に学内でのレクチャーと学外施設での実習のふたつに大別される。 学内レクチャーで、学外施設での実習に関する知識と心構えを予め学び、実習に臨む。 実習終了後、事後学習と実習報告会で、実習のまとめと振り返りを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題および実習先からの評価については、講義内でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーションー「心理実習Ⅰ（施設実習）」を振り返る
第2回	関連法規・倫理などに関するレクチャー
第3回	【司法犯罪分野】外部施設実習指導者によるレクチャー（１）
第4回	【医療保健分野】外部施設実習指導者によるレクチャー（１）
第5回	【医療保健分野】外部施設実習指導者によるレクチャー（２）
第6回	実習前準備
第7回	外部実習（１）
第8回	外部実習（２）
第9回	外部実習（３）
第10回	【司法犯罪分野】外部施設実習指導者によるレクチャー（２）
第11回	【司法犯罪分野】外部施設実習指導者によるレクチャー（３）
第12回	事後学習
第13回	実習報告会

事前・事後学修	これまで学んできた公認心理師取得に関わる専門科目の内容を教科書や配布されたレジュメなどを通して再確認すること。 また、実習中は知識と実践とを関連づけながら学んでください。 【必要な時間】 事前事後各々2時間以上の学習が必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下の3点で評価する。 A) 実習先からの評価：40% B) 事前学習のレポートや必要書類の提出：30% C) 実習日誌や実習報告書：30% ※ A)～C)全てに点数がついていることを単位取得最低条件とする。 ※ 所定の実習時間（40時間）が期限内に満たせない場合、評価は不可となる。
テキスト	必要に応じ適宜指示する
参考文献	必要に応じ適宜指示する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、医療保健、教育、福祉、司法の臨床現場で豊富な実務経験を積み、各分野における多様な課題に取り組んできました。これらの経験を基に、実践的な視点を取り入れた学びを提供し、応用力を養う講義を展開します。
備考	本実習を履修するにあたり、以下の注意事項をよく読み、理解しておくこと。 【注意事項】 ○ 本科目は本年度春学期に「心理実習Ⅰ（施設実習）」を履修し、可以上の成績を得た者が受講できる。 ○ 3年春学期までに開講された公認心理師指定科目、必修科目、夏季集中講義「集団心理療法」の単位を取得している者が受講できる。 ○ 公欠・病欠以外の欠席は認められない。病欠ややむを得ない理由で欠席もしくは遅刻しなくてはならない場合、担当教員や施設側指導者に事前に連絡をしなければならない（事前連絡が難しい場合は、事後直ちに連絡することが必要となる）。 ○ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要がある。 ○ 本科目には履修人数の制限（30名）と履修条件がある。 ○ 夏休み中に課題レポートを課す。提出は「心理実習Ⅱ（施設実習）」の初回講義である。 【実習時間】 40時間以上 【実習分野】 学外実習（医療機関、司法施設、福祉施設） 【実習種別】 施設見学等 演習・学内実習（予習復習時間も含めて）40時間確保されないと実習として認められないため、欠席、課題の遅延はないようにすること。

年度	2025
講義名称	遊戯・芸術療法[臨心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07616L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子どもにセラピーを行う際、言語的なアプローチではなく、非言語的なアプローチを選択することがあります。プレイセラピーや表現療法はそのひとつです。本実習の目的は、体験を通してプレイセラピーと表現療法について学ぶことです。
到達目標	描画体験や模擬事例検討を通して、プレイセラピーや表現療法を理解する。
授業の進め方	授業は演習・実習形式で行います。パワーポイントを使用します。受講者には適宜資料を配布します。グループワークやディスカッションを多く取り入れ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、講義内で解説します

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、プレイセラピーとは？表現療法とは？
第2回	イメージを伝えるワーク
第3回	交互色彩分割法
第4回	カンバセーションドローイング
第5回	フィンガーペインティング
第6回	カッティングコラージュ
第7回	箱庭療法（１）
第8回	箱庭療法（２）
第9回	箱庭療法（３）
第10回	雨中人物画
第11回	動的家族画
第12回	プレイセラピー模擬事例検討
第13回	まとめ

事前・事後学修	事前学習として次の回に扱う事柄について調べておくこと。また、事後学習として講義の際に扱った事柄の感想をまとめておくことが必要となる。事前事後合計で5時間以上の学習が必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で評価する。 A) 各回の感想レポート：30% B) 事例検討会でのグループワーク：40% C) 箱庭療法のレポート：30%
テキスト	特にありません
参考文献	適宜、紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、臨床心理士や認定描画療法士の資格を有し、児童精神科においてプレイセラピーや表現療法の実務経験を積み重ねてきました。これらの経験を基に、子どもの心の成長を支える心理療法の理論と実践を学ぶ充実した講義を展開します。
備考	・絵の具や水を使用する回があります。汚れてもいい服装で受講してください

年度	2025
講義名称	力動的心理学[臨心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07615L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	2年次「心理学的支援法」では多様な心理学的支援法を学びました。本講義「力動的心理学」では、数ある心理学的支援法のなかから精神分析的心理療法を学んでいきます。精神分析的心理療法の実際を理解することが、この講義の目的です。
到達目標	① 精神分析的アプローチについて理解する。 ② 精神分析の理論や基本的な概念について理解する。
授業の進め方	パワーポイント使用します。受講者には適宜資料を配布します。また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、講義内で解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、精神分析とは何か
第2回	精神分析の場所と経過
第3回	精神分析的アプローチの多様性
第4回	精神分析的アプローチを理解する①構造化
第5回	精神分析的アプローチを理解する②無意識の探究と支持的要素
第6回	精神分析的セラピーへの導入としての精神分析的アセスメント
第7回	精神分析的アセスメントのポイント①自我心理学の枠組みから
第8回	精神分析的アセスメントのポイント②関係性、発達歴、その他
第9回	アセスメントワーク①
第10回	アセスメントワーク②
第11回	解釈の技術
第12回	解釈のワーク
第13回	まとめと試験

事前・事後学修	事前事後に配布されたレジュメをよく読み、予習復習を行ってください。また、参考文献に挙げた書籍など精神分析に関する書籍を読んでおく必要があります。上述のような事前及び事後学習は合計5時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で評価します。 A) 課題（4回）：20% B) レポート：39% C) 期末試験：41%
テキスト	特にありません。
参考文献	吾妻 壮 (2018). 精神分析的アプローチの理解と実践. 岩崎学術出版社.

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、臨床心理士の資格を有し、医療保健分野、福祉分野、教育分野において豊富な実務経験を積み重ね、心理的支援や教育活動に幅広く携わってきました。これらの経験を基に、実践的な知識と技術を活用した学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	健康・医療心理学[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07614L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 威仁	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	今日、健康保健・医療分野において心理職に対し、多様なニーズへの対応が求められるようになってきています。 今後、心理職がより社会に貢献していくためには健康心理学、医療心理学の基礎知識の獲得が必要です。 本授業では健康保健、医療分野において心理職に求められる役割、技術、知識について理論と現場での実際をすり合わせながら学んでいきます。
到達目標	健康心理学、医療心理学の特徴と実際について理解する。 医療機関での心理職の役割を理解する。 ストレスと心身の疾病の関係を理解する。 医療機関で心理職が実践する主なアセスメントの特徴と実際を理解する。 各種疾患に対する介入法の実際を理解する。 災害により引き起こされる諸問題、災害時に必要な心理に関する支援を理解する。
授業の進め方	理論を現場で活用していくイメージがわかりやすいよう、各回では介入に実際使われている方法を個別ワーク、グループワーク形式で取り入れていきます。 そのため、立ったり座ったりと実技も多めに取り入れていきます。その点、理解したうえで履修いただければと思います。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説いたします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	健康心理学とは
第2回	医療心理学とは
第3回	心身相関とパーソナリティ
第4回	健康心理学におけるアセスメントと支援
第5回	睡眠障害について
第6回	心理支援法の実際-抑うつへの介入-
第7回	心理支援法の実際 - 不安への介入 -
第8回	心理支援法の実際-統合失調症の症状への介入①-
第9回	心理支援法の実際-統合失調症の症状への介入②-
第10回	緩和医療について
第11回	精神科デイケアについて
第12回	対人援助とコミュニケーション
第13回	災害心理学とトラウマ理論

事前・事後学修	【具体的な内容】 講義の時間内で伝えられる知識や内容はどうしても限られます。配布されたレジュメ等を読み、予習復習を行ってください。 また、日頃から、意識して、ニュースや新聞等で健康や医療の情報に目を向けるよう心掛けてください。
	【必要な時間】 事前事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義内でのレポートを基本点とし、授業態度+出欠席数を総合して評価する。 単位の取得には100点満点中60点以上が必要である。
テキスト	指定しない。毎回、プリントを配布します。
参考文献	適宜、お伝えします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、医療機関において臨床心理士や公認心理師として、多様な患者支援や心理的アセスメント、カウンセリングなどの実務経験を積んできました。これら経験を基に、心理学の理論と実践を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	普段は病院に勤務しているため、質問等を受けられる機会が限られます。 講義時間内あるいは講義終了時にお受けいたしますので疑問をそのままにせず、お気軽にお聞きください。 不要不急の講義中のスマートフォンの使用はお控えください。

年度	2025
講義名称	心理実習Ⅰ（施設実習）〔臨心〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07613P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科
鈴木 憲治	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	学内外での実習・演習を行う。具体的な講義の目的及び概要は以下の通りである。 ①発達に心配のある幼児や児童、発達障害、精神に関する障がいのある方々を取り巻く社会的状況について、メディアや文献、学外の実習指導者から臨床現場について学ぶ。 ②実習先の施設の概要と役割について学ぶ。 ③対人援助職（公認心理師や他の専門職を含む）に必要な知識と技能を知る。
到達目標	①発達に心配のある幼児や児童、発達障害、精神に関する障がいのある方々を取り巻く社会的状況について、メディアや文献、学外の実習指導者から臨床現場について学び、説明することができる。 ② 実習先の施設の役割について理解し、具体的な業務の内容について説明できる。 ③ 対人援助職（公認心理師や他の専門職を含む）に必要な知識と技能を理解することができる。
授業の進め方	本講義は医療や教育、福祉などの臨床現場で実務経験のある教員が担当する。主に、学内の実習指導者と学外の実習指導者によって、40時間以上の学内実習、または学外実習を行う。 <学内実習指導者 担当内容> ①発達障害、精神障がいに関する基礎知識 ②障がいのある方々を取り巻く社会的状況に関する知識 ③履歴書の書き方やお礼状の書き方など実習の際のルール、マナーを確認するための学習、実技 <学外実習指導者 担当内容> ①施設の紹介と役割について ②障がいのある方々を取り巻く社会的状況に関する知識 ③対人援助職（公認心理師や他の専門職を含む）に必要な知識と技能について

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題および実習先からの評価については、講義内でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーションと講義計画 実習のマナーとガイドラインについて
第2回	外部実習担当者講義① 履歴書の作成
第3回	外部実習担当者講義② 履歴書の添削
第4回	外部実習担当者講義③ 実習日誌の書き方・お礼状の書き方
第5回	外部実習担当者講義④・実習計画書の作成
第6回	「履歴書」と「実習計画書」の修正・実習に向けて面談

第7回	外部実習①
第8回	外部実習②
第9回	外部実習③
第10回	外部実習④
第11回	外部実習⑤
第12回	実習のふりかえり
第13回	実習報告会

事前・事後学修	・これまで学んできた公認心理師取得に関わる専門科目の内容を教科書や配布されたレジュメなどを通して再確認してください。また、実習中は知識と実践とを関連づけながら学んでください。 ・外部実習担当者の講義のあとには、レポートを作成してもらいます。 ・外部実習時には、日誌の作成、実習終了後は、実習報告書、実習の成果をまとめたパワーポイントを作成してもらいます。事前事後各々2時間半以上の学習が必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下の3点で評価する A) 学内における実習課題、提出物 20% B) 学外実習指導者による実習評価 50% C) 定期課題（実習計画書と実習日誌・報告書）30%
テキスト	必要に応じ適宜指示する。
参考文献	必要に応じ適宜指示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、公認心理師の資格を持ち、「教育分野」、「福祉分野」、「司法分野」において相談業務、コンサルティング業務のほか、実務経験のある教員が、障害の特性や心理社会的課題、必要とされる支援について解説し、学生の理解を深められるよう講義を実施します。
備考	＊実習費として、2,000円を徴収する。 ※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 【実習時間】 40時間以上 【実習分野】 学外実習（福祉施設、医療機関、司法施設） 【実習種別】 施設見学等 演習・学内実習（予習復習時間も含めて）40時間確保されないと実習として認められないため、欠席、課題の遅延はないようにしてください。

年度	2025
講義名称	心理的アセスメントⅡ(投映法)[臨心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07612L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 澤田 信也	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理アセスメントに関する心理検査の中で、投影法と呼ばれるものについて概要を講義し、実際に取り扱うことで理解を深めます。相談実務の現場でどのようにアプローチし、アセスメントしながら理解、援助するのか、重要な点について学びます。
到達目標	人を理解するために投影法をどう役立てるか、可能性と限界を見極め、積極的に活用しながら学びを深める基礎的な力を身に付けることをねらいとします。
授業の進め方	講義と実技、レポート作成を組み合わせで行います。臨床心理士として実務経験豊富な教員が指導します。グループワークも取り入れて理解が深まるようにします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	討議と発表	30%
	小レポート	30%
	まとめのレポート	40%

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	投影法の概要	対面
第2回	SCT①	対面
第3回	SCT②	対面
第4回	PFスタディー①	対面
第5回	PFスタディー②	対面
第6回	バウムテスト	対面
第7回	描画法	対面
第8回	風景構成法①	対面
第9回	風景構成法②	対面
第10回	ロールシャッハテスト①	
第11回	ロールシャッハテスト②	対面
第12回	ロールシャッハテスト③	対面
第13回	まとめとレポート作成	対面

事前・事後学修	配布資料を利用して事後学習するとともに、予告された次回の講義について事前学習が必要です。それぞれ2時間程度を要します。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	討議と発表 3 0 % 小レポート 3 0 % まとめのレポート 4 0 %
テキスト	指定はありません。資料を配布します。
参考文献	必要時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療、福祉、地域精神保健等の分野で豊富な実務経験があります。実際に現場で使用する検査について体験してもらい、事例等も紹介しながら臨場感のある講義になるよう工夫しています。

年度	2025
講義名称	福祉心理学[臨心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07611L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	福祉が対人援助職として存在する以上、心理学的な観点や技術は欠かせないものとなります。被援助者のニーズをとらえ、知的能力や性格特性などの心理的特性を把握し、その状況によって必要な心理的支援について考える力、また、何よりも「共感」する力が必要となります。この授業では、福祉対象者への心理支援の必要性とあり方、福祉心理学心理支援の実際について学んでいきます。
到達目標	・福祉現場において生じる問題及びその背景を理解して説明できる。 ・福祉現場における心理社会的課題、必要な支援について説明できる。
授業の進め方	基本的には講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用します。また、グループワーク、ディスカッションを取り入れ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループ発表については、発表後、助言、指導をします。課題については、授業内で解説し、資料はWebClassを通じて配布します。 テストについては、テスト終了後、解説、まとめをします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 社会福祉の展開と心理支援
第2回	障害者福祉の理解と心理支援
第3回	高齢者福祉の理解と心理支援
第4回	児童福祉の理解と心理支援
第5回	児童虐待
第6回	ひきこもり
第7回	発達障害
第8回	高次脳機能障害
第9回	精神障害
第10回	障害者の就労支援
第11回	認知症
第12回	家族・介護職への支援
第13回	テスト・まとめ

事前・事後 学修	復習として講義ごとに課題を出題します。予習として、次回の授業範囲について、日ごろからニュース、新聞などで、最近の社会福祉の動きや情報を入手してまとめておいてください。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	それぞれの福祉対象者の心理的の特性についての理解し、心理社会的課題及び必要な支援について論述できることを評価基準とする。課題提出60％　テスト40％
テキスト	特に使用しない。適宜、WebClassを通してプリントを配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、障害者施設において相談業務、コンサルティング業務の実務経験のある教員が、障害の特性や心理社会的課題、支援について解説し、学生の理解を深められるよう講義を実施します。

年度	2025
講義名称	認知行動療法[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07610L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は臨床心理領域における基礎的知識、技能の習得を目的とする。認知行動療法(CBT)は、世界中の医療・教育・産業等の幅広い分野において科学的効果のある心理療法として認められており、グローバルスタンダード（世界標準）・エビデンスベースド（科学的根拠に基づく）の治療法であるといえる。この講義では基本的な背景理論を理解するとともに、実践の応用法を学ぶ。
到達目標	認知行動療法の基本的理論を理解し、臨床例への適応とそのメカニズムについて学ぶ。実践的技法の習得より考え方や生活習慣の改善など日常生活に生かすヒントを得ることができる。
授業の進め方	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「認知行動療法の基礎と実践」について知識の習得を目的とした講義を行う。VTRなどの視聴覚教材を活用する。セルフモニタリングや実験などの実験的体験学習を取り入れる。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題については適宜各自にコメント返し、各自が学習到達度の確認ができるようにする。学習内容の理解度を各自が把握できるように、適宜小テストを行う。適宜、資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	行動療法と認知療法における背景理論	対面
第2回	認知行動療法の主な種類（行動へのアプローチ法）	対面
第3回	機能分析	対面
第4回	認知行動療法の主な種類（認知へのアプローチ法）	対面
第5回	機能分析について	対面
第6回	自分で行う認知行動療法（思考パターンを変える） 認知再構成法の紹介と実習	対面
第7回	自分で行う認知行動療法（行動パターンを変える）セルフモニタリングの紹介と実習	対面
第8回	疾患別の効果的治療法：気分障害（うつ病）ケース紹介	対面
第9回	疾患別の効果的治療法：気分障害（うつ病）ケース検討	対面
第10回	疾患別の効果的治療法：不安症 ケース紹介	対面
第11回	疾患別の効果的治療法：不安症 ケース検討	対面
第12回	疾患別の効果的治療法：強迫症 ケース紹介	対面
第13回	自律訓練法の理論と実践	対面

事前・事後学修	自宅で行う課題を出すことがある。ミニテストを適宜行う。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内試験（筆記試験）60%、レポート課題25%、授業時の小レポート15%として総合的に評価する。
テキスト	やさしくわかる認知行動療法 福井至・貝谷久宣 監修 ナツメ社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「認知行動療法の基礎と実践」について知識の習得を目的とした講義を行う。

第3回	③ 犯罪捜査における心理学的知見	プロファイリングとポリグラフ	
第4回	④ 少年法と少年非行		
第5回	⑤ 社会内処遇と施設内処遇 - 1	少年鑑別所と少年院 刑務所 （希望者による施設見学あり）	
第6回	⑥ 社会内処遇と施設内処遇 - 2	保護観察	
第7回	⑦ 障害のある非行少年・犯罪者への対応		
第8回	⑧ 裁判員裁判 - 1		
第9回	⑨ 裁判員裁判 - 2	裁判員裁判 模擬評議	
第10回	⑩ 被害者の心理と犯罪被害者支援		
第11回	《民事手続き分野》 ⑪ 家庭紛争、家庭内暴力の理解 DVと虐待	（ゲストスピーカーの解説または希望者による施設見学あり）	
第12回	⑫ 親の紛争下における子の意思の把握と考慮	面接手法（司法面接）	
第13回	⑬ まとめ（ふり返りテスト）	面接手法（動機づけ面接）	

事前・事後学修	・毎回授業の最後に、「理解度確認チェック」を実施し、次の授業冒頭で解説を行います。 「理解度確認チェック」で不明だった点は、授業の復習をする中で必ずレジュメで確認し、次回授業の解説までに確実な理解を得たうえで参加してください。 ・「参考文献等リスト」から、興味関心をもった書籍・映画・ドラマを《刑事手続き分野》または《民事手続き分野》から1点選び、⑫回講義修了時までに、レポート（600字程度、書式は「参考文献等リスト」配布時に提示）として提出していただきます。 【必要な時間】 「理解度確認チェック」の復習は、目安として2時間を要します。 参考文献等レポートの作成の目安は約4時間です。 常日ごろからニュース、新聞、インターネットなどで、社会的な事件についての情報を入手するように心掛けてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で評価します。 「ふり返りテスト」：30% ゲストスピーカーの授業も含め、全授業範囲から出題します。 「理解度確認チェック」評価：60% 5%×12回 毎時間講義最後に実施します。欠席の場合も、提出期限内の提出で加点します レポート 参考文献等レポート：10%
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	「入門 犯罪心理学」原田隆之 ちくま新書 「犯罪心理学ビギナーズガイド 世界の捜査、裁判、矯正の現場から」R.ブル, C.クック, R.ハッチャー, J.ワッドハム, C.ビルバー, T.グラント 仲真紀子監訳 有斐閣 以上のほかに、「① 司法・犯罪心理学の概要」時に「参考文献等リスト」を配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	司法領域で実務経験のある教員が、裁判所、刑務所等の司法現場の心理臨床を、動画等も交えて具体的に解説します。
備考	・本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ・履修に際しては、教養教育科目「心理学」を履修中、もしくは履修済みであるか、学科基礎科目である「心理学概論」が履修済みであることを推奨します。 ・なお、感染症の拡大等の状況によっては、希望者による施設見学を中止することがあります。

年度	2025
講義名称	心理的アセスメントⅠ(質問紙法)[臨心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07608L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義は、心理アセスメントについて、特に質問紙法を中心として、背景・理論・実施方法を学ぶことを目的とします。講義のみではなく、実際に使用する心理検査の実習も取り入れます。質問紙による検査の内容や基本的な考え方について学び、有効性や限界をふまえて解釈法を理解することを目指します。
到達目 標	①心理アセスメントの基礎的知識を身につける。 ②質問紙法の成り立ちを理解し、実施方法を修得する。 ③心理臨床場面で心理検査を利用し、心理アセスメントとして報告する方法を知る。
授業の 進め方	講義のほか、実習、レポート作成、グループワークを行います。 毎授業終了後、質問・意見・感想を記載するリアクションペーパーの提出を求めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内やリアクションペーパーでの質問には、授業内またはLMSで回答・コメントをします。 レポートは、採点后解説授業を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、心理アセスメントの基礎理論	対面
第2回	心理アセスメントの方法・倫理	対面
第3回	心理アセスメントの記録・報告	対面
第4回	VPI職業興味検査	対面
第5回	TEG-3①	対面
第6回	TEG-3②	対面
第7回	AQ-J	対面
第8回	GHQ精神健康調査票	対面
第9回	YG性格検査	対面
第10回	BIG5	対面
第11回	ACE-J、IES-R、PCL-5	対面
第12回	WAIS-IV、WISC-V	対面
第13回	まとめ	対面
第14回	期末試験	対面

事前・事後学修	< 具体的な内容 >
	【事前】 前回の授業またはLMS上で指示された範囲について予習する。
	【事後】 授業後、当該授業について配布資料等をよく読んで振り返り、記録化する。
	< 必要な時間 >
	事前・事後ともおおむね2時間半程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎授業後に提出するリアクションペーパー 20％ 授業内での取り組みの内容・積極性 30％ 小レポート 20％ 期末試験 30％ ※期末試験は、13回の授業終了後、14回目の授業枠で行います。
テキスト	事前または授業中に配布します。
参考文献	『心理アセスメント 心理検査のミニマム・エッセンス』（心の専門家養成講座③） 松本真理子・森田美弥子編 ナカニシヤ出版 その他の参考文献は、授業内で適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、臨床心理士・公認心理師として産業・労働領域および司法・犯罪領域の実務経験を有する教員が担当します。適宜、実務における心理検査の利用についてなどの情報提供・解説を実施します。
備考	本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

年度	2025
講義名称	神経・生理心理学[臨心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP07401L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	現代社会において、脳神経の生理学的機序について解明が進んでいる。一方で、臨床現場での課題解決が求められるが、基礎領域での研究からは、その原因や対策について十分な説明ができていない。本講義では、エビデンスベースドを重んじながらも、課題解決が望まれる領域にも踏み込み、将来様々な分野での支援者となるであろう学習者が、必要な基礎知識を習得し、必要な情報の検索方法を身につけることを目的とする。
到達目標	神経・生理心理学に関する理論や技法を理解し、臨床現場での問題解決のために必要な基礎知識と技能を身につける。
授業の進め方	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「神経・生理心理学」について知識の習得を目的とした講義を行う。プレゼンテーション、VTRなど視聴覚教材を使用する。毎回資料を配布する。一部、実験やアセスメント等の実習も含む。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	知識確認課題を課す。また、実習で得たデータをもとに解釈レポートを課す。提出された課題やレポートには評価とコメントを返却する。適宜、資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	神経・生理心理学とはどういうものか	対面
第2回	脳の構造と役割	対面
第3回	神経系についての概説	対面
第4回	精神疾患と脳 神経伝達物質について	対面
第5回	ストレス反応をとらえる ストレス負荷実験	対面
第6回	注意と記憶	対面
第7回	感情、意識、学習	対面
第8回	神経・生理学的指標の使い方	対面
第9回	神経・生理学的指標実習	対面
第10回	神経・生理学的指標実習	対面
第11回	高次脳機能障害・認知症について	対面
第12回	神経心理学的アセスメント・リハビリテーション	対面
第13回	神経生理学的反応を探ることの意味	対面

事前・事後学修	毎回専門用語の意味など、テキストで確認すること。課題を必ず行ってから授業に参加すること。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	筆記試験 60%、授業小レポート20%、実験レポート10%、アセスメントレポート10%で総合的に評価する。
テキスト	公認心理師の基本を学ぶテキスト 神経・生理心理学 中島恵子・矢島潤平 編著 ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「神経・生理心理学」について知識の習得を目的とした講義を行う。

年度	2025
講義名称	[冬集]アロマセラピー[臨心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06906S

担当教員

氏名	所属
◎ 瀬川 桂子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	植物療法の一つであるアロマセラピーを、自身や身近な人の健康に役立てられるよう、基礎知識の習得を目指します。 植物の香りが、人の精神、心理、頭脳、身体へ及ぼす作用やメカニズム、芳香成分である精油の抽出法や有機化学的特性、精油の利用に伴う解剖生理と安全な利用法を理解した上で、環境の汚染や破壊、香害等の社会的課題を踏まえ、香りにまつわる倫理観を養う。また急速に進むIT・AI化社会においてヒトの本能である五感・六感を通じて自然と共生する意義について深め、植物の香りという目に見えない現象を自らの自由で創造的な表現を抽出することにより豊かな感性やコミュニケーションの可能性を広げる。また感染症の拡大への対策、少子高齢化において生活習慣病の予防と健康寿命を支える自然療法の手立てとして、新たな時代の健康観を立脚し、実習では実際に感覚を得ながら理解を深め、企業や医療・福祉・教育・災害等、様々な場面での活用についても考察していきます。
到達目標	健康や自然、環境にまつわる定説を前に、なぜという疑問や関心、本質を探究する姿勢を持ち、アロマセラピーの基礎理論、香りにまつわる倫理、安全に利用する方法を学び、自らや自らの周りの人の心や身体の健康を支える手立てを知り、その理解を深めることで必要性や選択、活用を考えられるようになる。
授業の進め方	カリキュラムに沿って各回のテーマの配布資料とテキストを用いた座学、実習を交えて学修を進めていきます。植物の芳香成分を利用するアロマセラピーとはどのようなものか、貴重な精油に含まれる成分やその効用等の理解を深め、実習では実際に香りを感じ安全で効果的な活用方法を理解し、自分なりに使用した感覚を表現しながら、講師、他の学生と共有し考えを深めます。毎回の講座終了前に質問を受ける時間を設けます。 実習では安全かつ効果的に実施できるよう、スムーズに行える時間の余裕と環境を確保するため、履修者同士で協力し、講師と共に実習材料や器材等の準備および片付けを行うこととします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業や実習のポイントをまとめた小レポート7回(配布のクロッキー帳への自由記述方式)、「これからの社会課題と健康観」をテーマとする最終レポートをワードドキュメントファイル(字数制限なし)にまとめて提出して頂きます。 レポートの提出に関する質問は授業中及びメール・ライン等のSNSで受け付けます。提出後は個別に同様の手段にてフィードバックいたします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	健康に関する現状とこれから ～予防医学とホリスティックな健康観の立脚	対面
第2回	アロマセラピー概論 ～アロマセラピーとは、アロマセラピーの歴史	対面
第3回	植物の芳香成分である精油についてとその抽出方法 実習1.ハンガリーウオーター用ティンクチャーの製作	対面
第4回	香りの倫理と精油の安全な用い方と禁忌について ～香りにまつわる社会課題と倫理/感作、刺激、毒性の理解	対面
第5回	植物の香り成分の吸収と代謝経路 ～芳香成分の吸収、分布、作用、代謝、排泄のながれ	対面

第6回	芳香植物、芳香蒸留水の活用方法 実習2.芳香蒸留水を用いた多目的スプレーの制作	対面
第7回	香りと嗅覚、脳神経の関係性 ～香りの伝達と認知・記憶との関係性 実習3.香りをを用いたイメージワーク	対面
第8回	香りのこころへの効用 ～抑うつ・ストレスケアについて	対面
第9回	精油のフィジカルへの作用 ～身体への効用と循環器 実習4.芳香蒸気吸入・手浴・足浴	対面
第10回	香りとホメオスタシス ～自律神経系と内分泌、免疫系 実習5.トリートメントオイル制作/ハンドトリートメント	対面
第11回	精油の肌への効用 ～アレルギーと皮膚組織 実習6.アロマシャンプー＆リンス制作	対面
第12回	呼吸器とアロマセラピー ～精油を公衆衛生に役立てる 実習7.感染予防アロマスプレー制作	対面
第13回	アロマセラピーを様々な分野での有効活用を考える ～未知の職業分野のアセスメント及びアロマセラピーの効果的な活用の検討	対面
第14回	アロマセラピーを用いたケーススタディー ～各症例のアセスメント及びグループカンファレンスにおけるケア検討	対面
第15回	精油各論 ～各精油の情報と試香	対面

事前・事後学修	事前学修：個々の生活においてQOLや心身の健康に関する意識を持ち、日常の様々な情報からそれらに関する社会的な状況の把握を心がける。テキストのわからない語句は調べておく。 事後学修：毎回の授業のポイントや気づき、感想、実習記録を、配布するノートにレポートとして自由にまとめてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	1.毎回の授業で得た気づきや感想、実習の記録をまとめる小レポート　7回　自由記述方式　提出率・内容　40％) 2.授業態度・積極性・理解度・発言内容・出席率　（20％) 3.最終レポート　テーマ「これからの社会課題と健康観」　字数制限なし　Wordドキュメントファイル　提出率・内容(40％)
テキスト	各回ごとに資料を配布します。 補助教材として「アロマセラピーの教科書」和田文緒著　新星出版社を毎回使用します。
参考文献	「アロマコーディネーターレッスンテキスト」日本アロマコーディネーター協会 「目で見るからだのメカニズム　第2版」医学書院

	・プリント資料をまとめるA4クリアファイルを用意し、毎回持参してください。 ・授業中に実習を行う際は、スムーズで安全に実施できるよう、適切な態度で臨んでください。 ・実習(芳香植物を用いた蒸気吸入・手浴・足浴)でバスタオルを使用します。事前に服装と持ち物について連絡しますので、忘れずに持参して下さい。

備考

- ・授業中、個人またはグループディスカッションにおける発表や回答を適宜求めます。
- ・実習内容により材料費が必要になります。
- ・遅刻、欠席の場合は事前に連絡の上、到着された際に講師に名前を教えてください。
- ・質問、連絡等は以下のメール、携帯電話でも受け付けます。

アロマセラピー担当講師 瀬川桂子 メールアドレス segawa_smile@yahoo.co.jp
電話番号 090-6449-5418

年度	2025
講義名称	フラワーアレンジメント[臨心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06905S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 義光	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	フラワーアレンジメントの基本的なことから将来自分が自宅にお花を飾る、誰かにお花をプレゼントする、などにも お花を上手に飾る アイディア、技術、知識を学びます。そして学生の皆さんが将来の就職活動時にも「趣味はお花を飾ることです」と胸を張って言えるようになるようにします。就職の際に「お花が好きで飾れる人」といういいイメージが付けれるのと、実際にその根拠として大学の授業で学んでいるという事があなたのスキルにつながります。女子学生はもちろん、男子学生で「お花ができる、好き」というのはよりインパクトの強い武器になると考えています。
到達目標	13回の授業を通してフラワーアレンジのテクニックを学び自宅でも簡単なアレンジを楽しめるようにし又花の知識を身につける。就活などで趣味特技の欄に「フラワーアレンジメント」と書けるようになる。
授業の進め方	生花・ドライフラワー・プリザーブドフラワーなど使い技術講習を行います。完成した作品は自宅に持ち帰り、家族の皆さんにも喜んでもらえると毎年好評です。 2週間で1つの作品を作るなどして大きなものの制作も時間をかけて行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	試験、レポートは特にありません。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション この授業の進め方や、お花を使った授業の詳しい中身を学生に紹介しながら、説明をし、この授業を履修するかどうかの説明をします。	通常対面授業
第2回	ラウンドアレンジメント実習1 フラワーアレンジメントの基礎の基礎である、丸いアレンジメントの作り方をゆっくりしっかり説明しながら進めていきます。この回から実際にお花を使用し各学生が自信でお花を使いフラワーアレンジメントを制作していきます。	通常対面授業
第3回	ラウンドアレンジメント実習2 2回目でやった基礎を踏まえ、花材が変わっても同じようにできるようにしていきます。	通常対面授業
第4回	ラウンドアレンジメント実習3 2.3.回目でやった基礎を踏まえ、どのお花をどの位置に置いて作るかということも考え、デザインして進めていきます。	通常対面授業
第5回	フラワーアレンジメントとフラワービジネスについての座学授業 この回はお花は使わない座学になります。	通常対面授業
第6回	パラレルアレンジメント 1 フラワーアレンジメントの基本「パラレル（平行）アレンジメント」を説明しながらゆっくりと進めていきます。	通常対面授業
第7回	パラレルアレンジメント 2 6回目で学んだパラレルアレンジメントを花材を変えてもできるように進めていきます。	通常対面授業
第8回	パラレルアレンジメント 3 6.7回目で学んだパラレルアレンジメントを各自がお花を見ながらデザインし、自分のデザインで完成まで進めていきます。	通常対面授業
第9回	フラワーアレンジメントから学ぶ「色、形、立体のバランス」を自分の生活や、ファッションに取り入れる この回は座学授業になり、お花は使いません。	通常対面授業

第10回	カラフルな菊を使ったポップなアレンジメント+工作要素も取り入れたデザイン	通常対面授業
第11回	フラワーアレンジメントまとめ1 ここまでで学んだ技術を使い、自分んで1から進めながら完成まで到達してもらいます。花材も全員同じものでは無いものを用意しますので、オリジナリティーを発揮してください。	通常対面授業
第12回	フラワーアレンジメントまとめ2 ここまでで学んだ技術を使い、自分んで1から進めながら完成まで到達してもらいます。花材も全員同じものでは無いものを用意しますので、オリジナリティーを発揮してください。	通常対面授業
第13回	総評、レポート この授業を取り、自分の中に今までそんなに身近ではなかった「お花」というものを今どう感じて、自分の生活にどう生かしていけそうか。などお花とのかかわり方、実際にフラワーアレンジメントをやってみての感想などをレポートにしてもらいます。	通常対面授業

事前・事後学修	学生が今までそれほど身近に感じたことのなさそうな、「生花」「お花」について、通学中など街に目を向けるとお花は咲いています。お花だけではなく、植物に目を向ける癖をつけてもらい、授業で進めることと、実際に生活する時に自分の周りにある「花、植物」をどう感じて、いろいろな側面で自分の生活に取り入れる方法などを考えて下さい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の制作したフラワーアレンジメントを10点で評価、最終回でのレポートで20点の評価といたします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌市内のフラワーショップでの勤務や、ニュージーランドでのファームステーを通じて、花の生育や流通に関する知識を深めるとともに英会話も習得。その後、花屋「さとうはなみつ」を開業し、店舗拡大や従業員の指導を行うなど、事業運営の実績を積みました。これらの経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	園芸療法論[臨心]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06904L

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	植物及び園芸活動を媒体に療法として行うために必要な基礎的・基本的な知識を学ぶ。 園芸療法実践実習（イネーブルガーデン実習）に向けての基礎的な知識を学ぶ。植物を媒体とした活動の多様性を知り、学生の個々の学びとどのように関連しているかを考える。
到達目標	園芸療法の基礎的・基本的な知識を習得し、園芸療法士として必要な能力と態度を学びそれを説明できる。
授業の進め方	13回にわたり講義を中心に展開し、奇数回は対面、偶数回はオンデマンド授業とする。 園芸療法プログラムの実際を知る為とその目的としてグループでの活動の利点を実感してもらうためにグループワーク形式で1回のグループワーク実習を設定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	進行具合を把握するために小テストを数回予定しています。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション、園芸療法とは	
第2回	園芸療法の歴史	オンデマンド
第3回	人と植物の関わり①	
第4回	人と植物の関わり②	オンデマンド
第5回	療法としての構造と要素①	
第6回	療法としての構造と要素②	オンデマンド
第7回	療法における園芸の効用と役割①	
第8回	療法における園芸の効用と役割②	オンデマンド
第9回	園芸療法グループ制作活動	
第10回	園芸療法の適応と対象	オンデマンド
第11回	園芸療法の評価とプログラム	
第12回	園芸療法の実践及び配慮事項	オンデマンド
第13回	授業内試験	

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業中のみならず日ごろから園芸・医療・福祉・教育・心理等に関心をよせることが園芸療法を理解するための近道になります。 【必要な時間】 授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	定期試験（50％） 確認テスト(9％) グループワーク（6％） レポート課題（20％） 受講態度と取り組み姿勢（15％） による総合評価
テキスト	都度配布いたします。 オンデマンド授業時はPDFを配布いたします。
参考文献	ひとと植物・環境、山根寛、澤田みどり、青海社

年度	2025
講義名称	生命と倫理[臨心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06809L

担当教員

氏名	所属
◎ 大小田 重夫	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	1. 目的 (1) 倫理学の基本的な概念について学ぶ。 (2) 生命倫理学における諸問題の原因と現状を正確に説明できるようになる。 (3) 原因と現状の理解を踏まえ、それらの問題についてどのように対応すべきか、自分自身で考察して自分自身の見解を持てるようになる。 2. 概要 現代において、人間の倫理について最も厳しく問い直しが迫られているのは、医療や生命科学に関連する分野においてである。代表的な問題としては、生殖医療技術（体外受精・代理母等）に伴う問題や、出生前診断にもとづく選択的中絶の是非、脳死臓器移植、安楽死・尊厳死の問題などがある。 これらの問題の背景には、医学・生命科学および医療技術の飛躍的な進歩がある。これらの科学・技術の進歩によって、われわれの生の在り方は大きく変化してきた。そしてそれとともに、伝統的な倫理観では対応できない生命に関する社会的問題が発生し、われわれの前に現れてきた。本講義ではこれらの諸問題（後述「授業計画」の各回タイトル参照）について内容と論点を解説する。そして最終的に学生諸君には、これらの内容と論点の理解を踏まえ、各問題について自分自身で考察し、自分なりの見解を持てるようになることを期待する。
到達目標	以下の3点を目標とする。 1. 生命倫理学の諸問題について、その原因と現状を理解し、説明できるようになる。 2. 諸問題において対立する見解を理解し、その検討を踏まえたうえで、自己の見解を持つことができるようになる。 3. 他者の見解をとおして、自分の考えを批判的に反省することができるようになる。
授業の進め方	対面講義形式で行う。授業のプリントを配布し、テキストとプリントに従って問題の内容と様々な対立する見解や立場を紹介する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された質問、コメントのうちの代表的なものを採り上げ、これに回答する形で行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	イントロダクション－倫理的に考えるとはどういうことか	対面授業
第2回	人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題①－いのちの「始まり」は誰がきめるのか	対面授業
第3回	人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題②	対面授業
第4回	安楽死論の展開と自己決定権について①－いのちの「終わり」は誰が決めるのか	対面授業
第5回	安楽死論の展開と自己決定権について②	対面授業
第6回	コンピテンス評価について－判断能力は誰が決めるのか	対面授業
第7回	脳死と臓器移植①－医療における公平性について考える	対面授業
第8回	脳死と臓器移植②－生体移植の問題を通して家族について考える	対面授業
第9回	性別適合手術の是非について－身体的自由はどこまで許されるのか	対面授業
第10回	生殖補助医療－生殖補助医療から生じる倫理的問題について考える	対面授業
第11回	インフォームド・コンセント－「宗教上の理由」による治療拒否について	対面授業
第12回	高齢者医療とQOL	対面授業

第13回	まとめとテスト	対面授業

事前・事後学修	テキストを指定しているので、授業前に必ず該当部分を熟読すること。生命倫理の問題は新聞やテレビに取り上げられることが多いので、普段から注視しておくこと。なお、授業後、書き留めたノートや資料を見返すことも復習として必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への参加度（出席、講義後のアンケートなど）（20％）、小テスト（20％）、期末テスト（60％）による。 出席状況については、5回以上正当な理由なく欠席した場合、期末試験受験資格を失う。また講義後提出するアンケートに学習上有益ないし重要な質問や意見が記述されていた場合、評点を加点する。またそれらの重要な質問や意見については次回講義時にフィードバックし、共有を図る。
テキスト	『はじめて学ぶ生命倫理』、小林亜津子著、ちくまプリマー新書
参考文献	・小林亜津子『看護のための生命倫理』（ナカニシヤ出版） ・河合香織『選べなかった命 出生前診断の誤診で生まれた子』（文春文庫） ・松田純『安楽死・尊厳死の現在』（中公新書） ・三井美奈『安楽死のできる国』（新潮新書） ・佐藤岳詩『心とからだの倫理学』（ちくまプリマー新書） ・森山至貴『LGBTを読み解く』（ちくま新書）

年度	2025
講義名称	宗教学[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06808L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 鈴木 廣隆	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	宗教は人間を苦しみから救い幸せに導こうとする。しかしその宗教が争いを生み苦しみをもたらすこともある。それはなぜか。 この講義は古代インドに始まった仏教が世界に広がって行く過程に注目し、人間は宗教によってどう変わるのか、また宗教は人間によってどう変容するのかを考察しながら、現代を生きるわれわれと宗教の関係を明らかにするために行う。
到達目標	人間と宗教の関係を学ぶことによって、自分とは何ものか、世界とは何なのかを追求し、自分と世界との関係を理解する。 その上で自分は世界のために何ができるのか、何をすべきなのかを見つけ出すこと。
授業の進め方	仏教が人々にどう受け入れられ、どのように変容したのかを文献学的研究、考古学的研究にもとづいて考察する。 具体的には資料プリント、ビデオ、スライドなどを使って講義を進めるが、寺院住職としての実務経験に基づいて宗教的な事象を解説し、アンケートによって学生一人一人の宗教についての疑問を共有しながら講義を進める

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中にアンケートに答えてもらい、それにコメントする形で質疑応答の場を設ける

授業計画表

回	授業内容
第1回	仏教の源流：古代インドの宗教世界　―大いなる異文化―
第2回	ブッダの生涯（1）誕生　―誕生の地ルンビニの考古学的調査―
第3回	ブッダの生涯（2）出家　―なぜ家を捨て家族を捨てたのか―
第4回	ブッダの生涯（3）苦行　―なぜ苦行を選んだのか―
第5回	ブッダの生涯（4）ブッダとなる　―降魔成道とさとり―
第6回	初期仏教　―ブッダの教えと弟子たちの教団―
第7回	大乘仏教（1）大乘仏教の成立　―誰もが救われる仏教へ―
第8回	大乘仏教（2）ガンダーラ　―仏教がインド世界を離れて飛翔する―
第9回	大乘仏教（3）空と浄土　―民衆を救済する理論―
第10回	大乘仏教の展開（1）インドから中国へ　―訳経僧　鳩摩羅什―
第11回	大乘仏教の展開（2）ネパール仏教　―異宗教との共存で変容する仏教―
第12回	大乘仏教の展開（3）日本の仏教　―ありのまま―
第13回	現代日本の宗教　「宗教なんかこわくない」　―無宗教とカルト―

事前・事後学修	講義全体としては歴史的ブッダの伝記を事前に調べておくことが望ましい。参考文献から適当なものを選んで読んでおくこと。講義全体のまとめには橋本治『宗教なんかこわくない』、森岡正博『宗教なき時代を生きるために』が役立つ。なお講義中に仏教用語が多く使われるがそれらは中村元『広説仏教語大辞典』にあたるとよい。 各講義の予習・復習はそれぞれ1時間を目安とする。事前に講義資料をWEB上にあげておくので必ず目を通して疑問点を明確にして講義に臨むこと。また講義中にあらたな疑問が生じた場合はアンケートなどを利用して質問すること。さらに復習として参考文献を調べて問題解決に取り組むこと、

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回講義中にアンケートを実施する。全講義終了後に最終レポートを提出してもらう。評価の配分は最終レポートが6割、出席状況、アンケート提出を含めた受講態度が4割である
テキスト	テキストは指定せず、講義毎に資料を配布する。
参考文献	【ブッダの伝記に関して】前田専学『ブッダを語る』（NHK出版）、藤田宏達『ジャータカ全集Ⅰ』（春秋社）、手塚治虫『ブッダ』（潮出版社）、*DVD『リトル・ブッダ』（ベルナルド・ベルトルッチ監督） 【仏教の伝播に関して】田中公明・吉崎一美『ネパール仏教』（春秋社）、内記理『ガンダーラ彫刻と仏教』（東京大学学術出版会）、立川武蔵編『講座 仏教の受容と変容3 チベット・ネパール編』（佼成出版社）、立川武蔵『日本仏教の思想』（講談社現代新書） 【現代の宗教に関して】橋本治『宗教なんかこわくない』（ちくま文庫）、森岡正博『宗教なき時代を生きるために』（法蔵館） 【仏教用語に関して】中村元『広説仏教語大辞典』（東京書籍）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	2010年から寺院住職として実務にあたっているため、地域社会と仏教の関わりのなかで多くの経験を積んでいる。その経験を活かして単なる情報ではなく人間の営みとしての宗教を解き明かす。
備考	講義中のアンケートを提出しない場合、たとえ出席していても受講態度は不十分と判断するので、答えられない場合は「わからない」と回答すること。

年度	2025
講義名称	【閉講】文献講読演習Ⅱ[臨心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06806S

担当教員

氏名	所属
◎ 岩谷 樹	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学にかかわる知識の、その多くは先達の研究者によって邦訳されてきた。これにより私たちは”特別な”知識・技能なしに心理学を学べる。しかし、邦訳に際して語句が新しく生成され、意味が捨象されるなど、原典にふくまれたニュアンスをつかむことが難しくなっている。したがって本講義では心理学にかかわる基本的な知識の習得を目的に、原典と邦訳の往復によってその読解を行うこととする。
到達目標	①心理学にかかわる基本的な知識の習得。 ②心理学にかかわる基本的な知識を用い、論文の内容を説明できる。
授業の進め方	春タームに実施する「文献講読演習Ⅰ」と同様に進める。 特に、指定した書籍や講義中に配布した資料などを活用して読み進めていく。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中に適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	心理学にかかわる基本的知識習得と文献理解
第3回	心理学文献購読 1
第4回	心理学文献購読 2
第5回	心理学文献購読 3
第6回	心理学文献購読 4
第7回	心理学文献購読 5
第8回	心理学文献購読 6
第9回	心理学文献購読 7
第10回	心理学文献購読 8
第11回	心理学文献購読 9
第12回	心理学文献購読 1 0
第13回	まとめ

事前・事後学修	受講する際は自分の興味関心領域の理解を深めておき、講義後忘れないようまとめておくこと。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回の出席と発言(30%) 各回の取り組み・講義への積極性(40%) 最終レポート(30%)
テキスト	デルタプラス編集部. (2022). 心理英単語集schéma(シェマ) : 公認心理師・臨床心理士・心理系大学院対策 その他適宜要する。 持っている心理学書籍の持参を推奨する。
参考文献	適宜配布する。

備考	春学期の「文献購読演習Ⅰ」を履修済みであること前提として講義を進める。 講義計画は進行によって適宜修正・変更する可能性がある。 心理系大学院への進学を考えている方は、履修することを勧める。

年度	2025
講義名称	文献講読演習Ⅰ〔臨心〕
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06805S

担当教員

氏名	所属
◎ 岩谷 樹	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学にかかわる知識の、その多くは先達の研究者によって邦訳されてきた。これにより私たちは”特別な”知識・技能なしに心理学を学べる。しかし、邦訳に際して語句が新しく生成され、意味が捨象されるなど、原典にふくまれたニュアンスをつかむことが難しくなっている。したがって本講義では心理学にかかわる基本的な知識の習得を目的に、原典と邦訳の往復によってその読解を行うこととする。
到達目標	①心理学にかかわる基本的な知識の習得。 ②心理学にかかわる基本的な知識を用い、論文の内容を説明できる。
授業の進め方	事前に指定した書籍を活用して読み進めていく。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中に適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	心理学にかかわる基本的知識習得と文献理解
第3回	心理学文献購読 1
第4回	心理学文献購読 2
第5回	心理学文献購読 3
第6回	心理学文献購読 4
第7回	心理学文献購読 5
第8回	心理学文献購読 6
第9回	心理学文献購読 7
第10回	心理学文献購読 8
第11回	心理学文献購読 9
第12回	心理学文献購読 1 0
第13回	まとめ

事前・事後学修	受講する際は自分の興味関心領域の理解を深めておき、講義後忘れないようまとめておくこと。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回の出席と発言(30%) 各回の取り組み・講義への積極性(40%) 最終レポート(30%)
テキスト	デルタプラス編集部. (2022). 心理英単語集schéma(シェマ) : 公認心理師・臨床心理士・心理系大学院対策 その他適宜要する。 持っている心理学書籍の持参を推奨する。
参考文献	適宜配布する。

備考	講義計画は進行によって適宜修正・変更する可能性がある。 心理系大学院への進学を考えている方は、履修することを勧める。

年度	2025
講義名称	[夏集]精神疾患とその治療[臨心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06804L

担当教員

氏名	所属
◎ 鎌田 隼輔	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	精神医学とは、精神疾患（こころの病）を対象とする医学の一領域です。 本講義の目的は、精神疾患の全容について学び、正しく理解することで、メンタルヘルス・リテラシーの向上に寄与すると同時に、自分自身のメンタルヘルスの維持向上につなげること。
到達目標	心の健康を取り巻く社会環境の変化、および代表的な精神疾患とその治療と支援について説明できる。
授業の進め方	講義内容を学ぶと同時に、社会構造や社会制度の変化等がメンタルヘルスや精神疾患とどう関係しているか、考えながら学んでほしい。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義レジメを参考に復習を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	総論①精神医学とは何か 総論②脳科学と精神医学
第2回	総論④精神発達
第3回	総論③精神機能とその異常
第4回	総論⑤精神科治療学
第5回	総論⑥精神医療と社会
第6回	各論①発達障害と児童期の精神医学
第7回	各論②統合失調症
第8回	各論③うつ病と双極性障害
第9回	各論④不安症・解離症・身体症状症・強迫症
第10回	各論⑤心的外傷とストレス因関連障害・摂食障害・睡眠－覚醒障害
第11回	各論⑥物質関連障害と嗜癖障害
第12回	各論⑦認知症・てんかん・高次脳機能障害 各論⑧パーソナリティ障害
第13回	授業内試験＋試験解説

事前・事後学修	教科書を読むだけでなく、幅広く知識を得て学び考える姿勢を身に付けてほしい 予習・復習を含めて2時間程度。

成績評価基準と方法	試験（50％） 課題レポート提出とその評価（30％） 受講態度（20％） これらを統合して評価する。
テキスト	講義レジメを配布
参考文献	標準精神医学第8版』医学書院 『公認心理師ベーシック講座 精神疾患とその治療』講談社

備考	超短期集中で講義を行います。 質問・意見を歓迎します。

年度	2025
講義名称	人体の構造と機能及び疾病[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06803L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	人体構造の基礎を体系的に理解することを目的とする。特に、身体運動に関わる神経筋骨格系、呼吸循環器系、消化泌尿生殖系の（解剖学的）構造と（生理学的）機能について基本的な知識を学修する。
到達目標	①人体の基礎的な構造と機能について説明できるようになる。 ②特に形態に基づく動作の成り立ちにつながる知識を理解する。
授業の進め方	スライドを用いて講義する。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、感想シートの配布やeラーニングシステムを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、本科目に関する質問は、個別対応とする。 身近にある身体の不思議や疑問などを題材に、人体の構造と機能について理解できるよう工夫する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	人体構造学概論（活動機能構造連関とは）	対面授業
第2回	機能解剖学Ⅰ（肩甲帯の機能解剖学）	対面授業
第3回	機能解剖学Ⅱ（上肢帯の機能解剖学）	対面授業
第4回	機能解剖学Ⅲ（骨盤帯の機能解剖学）	対面授業
第5回	機能解剖学Ⅳ（下肢帯の機能解剖学）	対面授業
第6回	機能解剖学Ⅴ（脳脊髄の機能解剖学）	対面授業
第7回	解剖生理学Ⅰ（細胞と組織の解剖生理学）	対面授業
第8回	解剖生理学Ⅱ（呼吸器系の解剖生理学）	対面授業
第9回	解剖生理学Ⅲ（循環器系の解剖生理学）	対面授業
第10回	解剖生理学Ⅳ（消化吸収系の解剖生理学）	対面授業
第11回	解剖生理学Ⅴ（泌尿生殖系の解剖生理学）	対面授業
第12回	人体構造学総論（まとめ）	対面授業
第13回	期末試験	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 医学の基礎的知識を必要とするので事前に医学用語等を学習する。 事後は各系統別の構造と機能について復習する。	2025/04/01

	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	60% 期末試験 40% 授業内容確認レポートなど提出
テキスト	からだのしくみ事典 浅野伍朗 監修 成美堂出版
参考文献	その他、講義中に適時紹介する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義する。
備考	本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められている。 公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要がある。

年度	2025
講義名称	公認心理師の職責[臨心]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06802L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、臨床心理学領域における基礎的知識、技能の修得を目的とする。また、公認心理師の職種理解とその社会的責任、職業倫理について学ぶ。
到達目標	公認心理師が広域にまたがる職種での社会的役割の基本的理解がなされ、国民の心の健康を向上させる仕事の意義やその責任及び職業倫理について自主的に考えることができるようになる。
授業の進め方	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「公認心理師の職責」について知識の習得を目的とした講義を行う。知識理解のために板書・パワーポイントを用いた講義を行うが、小テストを適宜行い知識の定着を図る。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題については適宜各自に返却し、各自が学習到達度の確認ができるようにする。また、適宜確認テストを行い、内容全体の理解度をフィードバックする。適宜、資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	公認心理師の役割の理解	オンデマンド
第2回	公認心理師の法的義務と倫理	オンデマンド
第3回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保	オンデマンド
第4回	情報の適切な取り扱い	オンデマンド
第5回	チームや地域で連携して働く 多職種連携の理解 ゲストスピーカーによる講話「公認心理師として職場でどう働くか」（オンデマンドなのでビデオによる講義）	オンデマンド
第6回	保健医療分野の業務	オンデマンド
第7回	福祉分野の業務	オンデマンド
第8回	教育分野の業務	オンデマンド
第9回	司法分野の業務	オンデマンド

第10回	産業分野の業務	オンデマンド
第11回	自己課題発見・解決能力	オンデマンド
第12回	心理支援に必要な技能	オンデマンド
第13回	心理支援の専門家として働くために 最終テスト	オンデマンド

事前・事後学修	テキストの内容を予め読み込んでおくこと。理解が難しいところをチェックしておくこと。事例検討の場合は、どのように問題解決を援助するのかを考えること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	小レポート 20％ 小テスト 20％ 最終テスト 40％ 最終レポート 20％
テキスト	公認心理師の職責 下山晴彦他 監修編著 ミネルヴァ書房 必ず各自用意してください

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「公認心理師の職責」について知識の習得を目的とした講義を行う。

年度	2025
講義名称	[夏集]産業・組織心理学[臨心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06706L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 渡邊 良平	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	学生が産業、組織に関係する心理学について、体験的に学ぶことを目的とする。【集中講義】
到達目標	【到達目標】 学生が多面的に組織や個人を見られるようになり臨床場面で応用できるようになること。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】 産業・組織心理学の知識を習得し、実践の場で技能獲得することで、臨床場面で活用できるようになること。
授業の進め方	【講義方法】 講義、グループワーク、ディスカッション、体験学習を実施します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 授業内で適宜、解説およびフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	産業組織心理学 概要 小レポート	対面
第2回	能率心理学 採用試験と心理学 小テスト	対面
第3回	人事評価 能力開発 小テスト ＊グループワーク、ディスカッションあり	対面
第4回	動機付け メンタルヘルスの管理 小テスト	対面
第5回	人間工学 組織心理学概論 小テスト	対面
第6回	集団の特性 人間関係学派 小テスト	対面

第7回	人間性心理学 小テスト	対面
第8回	一般職業適性検査 職業興味検査 ＊体験学習、グループワーク	対面
第9回	一般職業適性検査 職業興味検査 ＊体験学習、グループワーク	対面
第10回	一般職業適性検査 職業興味検査 ＊体験学習、グループワーク	対面
第11回	キャリア理論（初期） 小テスト ＊グループワークあり	対面
第12回	キャリア理論の変遷 小テスト	対面
第13回	労働関係法規 目標設定 小レポート	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 産業心理学の基礎的な部分については個人で学習をすること。資料は配布する。 【必要な時間】 全体で時間程度の学習を必要とする。 予習・復習の時間は、それぞれ5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	小テスト80点 小レポート20点
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	産業・組織心理学エッセンシャルズ　ナカニシヤ出版 人間工学とユニバーサルデザイン　日本興業出版 インバケット思考　WAVE出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、労働行政において労働関係法令に基づくメンタルヘルスの管理や人事管理に携わり、さらに管理職としてマネジメントの経験を積んできました。これらの実務経験を基に、個人と企業の双方の視点を活かした具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	社会心理学概論[臨心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06705L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 文代	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	社会の中で人がどのような行動をとるか、それがどのような心理によるものか、事例や研究知見をもとに考察する。社会心理学の基礎知識を得ると共に、日常生活の中での社会行動を理解する視点を養う。社会心理学には大きく分けて①社会の中における個人の心理、②個人と個人の対人認知、③集団の中の人間、④社会現象・社会問題という4つのカテゴリから講義のテーマを取り上げる。
到達目標	①個人でいる時と集団でいる時での思考などの心理状態が異なることを理解する、②個人を認識する場合、自分をどう認識するか、相手をどう認識するかの基本的理論を理解する、③社会現象を引き起こす要因及びその問題解決の鍵となる説得の理論を理解する、④実際の勧誘に用いられる状況を理解し悪徳商法から身を守る方法を学習する、⑤情報社会において情報に振り回されないためのポイントを理解する。
授業の進め方	講義形式を中心とする。レポート提出やペアワークなどの簡単な演習を適宜含む。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内課題は授業で解説し、レポート課題は返却時にフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンスと社会心理学とは	対面
第2回	対人認知：他者に魅力を感じる要因や付き合いにまで発展するか否か、また関係性はいかに崩壊するかなどを説明する理論について学習する。	遠隔（同時双方向）
第3回	ディスカッションのための基礎練習：講義内でのディスカッションを円滑に行うための基礎的な知識（アサーションスキルと自由質問などの質問形態の使い分け）と演習を実施する。	対面
第4回	信頼できる情報とは：既に常識となっている根拠のない情報やネットに溢れる情報をなぜ信じてしまうのか、事例を通してそれを説明する理論について理解する。また、情報に振り回されないための情報リテラシーについても学習する。	遠隔(同時双方向)
第5回	悪徳商法や宗教加入に潜む心理的策略：DVD視聴を通して、どのように勧誘者が心理的に働きかけて、騙されていくのか具体的な事例から、現実感を持って理解する。	対面
第6回	問題解決と説得の理論：説得に関する諸理論を商業的な事例などを通して具体的に理解する。	遠隔(同時双方向)
第7回	自己認知と社会的アイデンティティ：自分を認知するのにはどのような要素があるのか、またどのようなメカニズムで自己認識がされるかの諸理論を理解し、生活の中での自己認識の捉え方に活用できるようにする。	対面
第8回	レポート課題の実施：前半が学習した内容から「説得理論」を用いて問題解決に導くことができるテーマを選び、テーマに合わせたリサーチを行い、レポートを作成する。	遠隔(同時双方向)
第9回	集団（群衆）心理：人間は1人で判断する時よりも集団の中の1個人となった時の方が、適切に判断しづらくなることがあることを具体的な事例を通して理解する。	対面

第10回	グループワークに関する心理現象：学生生活、就活や実際に社会に出てから実施されるグループワークのメリットデメリットについて、そこに生じる一般的な心理的効果を理解し、実践演習に備える。	遠隔（同時双方向）
第11回	グループディスカッション演習：前週に学習した諸心理現象が生じないように工夫しながら、簡単なグループディスカッションを実施する。実践を通して、一般的な現象が生じたかを客観的に考察し、現象を体験的に理解する。	対面
第12回	生活の中のインセンティブ：ナッジ理論など多様な心理効果を利用した社会問題の解決事例を紹介し、心理学が生活や社会問題の解決の助けになることを理解する。	遠隔(同時双方向)
第13回	総括と試験：前半は講義全体を振り返り総括する。後半は、試験を実施する。	対面

事前・事後学修	事前学習は重視しない。事後学習は配布資料や教科書の該当箇所をしっかりと読むこと。また、課題は出題の意図を考えしっかりと組むこと。（目安1～3時間程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	出席8回以上とする。講義の最終回に総合試験を実施する。レポート提出と演習結果を記すワークシート提出があるので、試験結果と合わせて総合的に評価する。
参考文献	徹底図解 社会心理学 山岸俊男 監修 新星出版 社会心理学再入門 ジョアンヌ・R・スミス他編 樋口匡貴他監訳 新曜社 ヒルガードの心理学 第16版 Edward, E., Smith et.al., 内田一成 監訳 プレーン出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大学や専門学校で心理学系講義を10年以上担当し、グラフィックデザインでは20年以上の経験を有しています。また、色彩を中心とした認知心理学の研究にも10年以上取り組んできました。これらの実務経験を基に、具体的な事例と理論を融合した学びを提供する講義を展開します。
備考	学習状況に応じて、授業内容を一部変更する場合がある。悪天候などによって、対面を遠隔に変更する可能性がある。

年度	2025
講義名称	グループワーク[臨心①/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06704S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	グループワークは、参加することによって参加メンバーが相互に影響を受け、個人が変化するとされています。 この授業では、グループワークを通して、自分自身の言葉で自分の思いを表現し、他者に伝えるスキルを学びます。 その際には、他者の多様な意見を受容しながら、どのようにすれば課題解決が出来るか、グループ内における自分の役割を意識して臨みます。 個人での課題解決とは異なる難しさ、喜びなども感じ取って欲しいと思います。
到達目標	自分の意見や思いを言葉で表現し、他者の意見や思いも尊重しながら、課題を解決していく力を育む。 グループで議論する際に必要な心構えや態度などを身につける。
授業の進め方	授業はテーマにそってグループで行います。はじめにテーマに関する講義を行い、その後はグループで取り組みます。 その日に取組んだ内容は、授業の終盤にグループごとに発表してもらいます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	フィードバックは基本的には次回の授業内で行いますが、個人的な質問についてはLMSを通じて返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	グループワークの目的と方法 もじりんぐ	対面
第2回	アインシュタインクイズ	対面
第3回	地図作成ワーク	対面
第4回	防災ワーク	対面
第5回	コンセンサス法	対面
第6回	ミソドラマ 導入	対面
第7回	結婚・家族観について	対面
第8回	新聞タワー	対面
第9回	ミソドラマ 発表準備	対面
第10回	ミソドラマ 発表	対面
第11回	コンセンサス法 「多文化共生について」	対面
第12回	究極の選択「救命ボートの倫理」	対面
第13回	本授業のまとめと授業内レポート	対面

事前・事後学修	- 議論を進めるための情報収集など必要に応じて授業時に連絡します。 - 事後学習として、グループワークの記録を取り、自分自身や自身の対人関係上の傾向などの理解を深めてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の2点で評価します。 授業中（授業後）に作成するリフレクションシート：50% 最終レポート課題：50%
テキスト	特に使用しません。
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します。

備考	本授業は臨床心理専攻の必修科目です。

年度	2025
講義名称	グループワーク[臨心②/2]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06704S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	グループワークは、参加することによって参加メンバーが相互に影響を受け、個人が変化するとされています。 この授業では、グループワークを通して、自分自身の言葉で自分の思いを表現し、他者に伝えるスキルを学びます。 その際には、他者の多様な意見を受容しながら、どのようにすれば課題解決が出来るか、グループ内における自分の役割を意識して臨みます。 個人での課題解決とは異なる難しさ、喜びなども感じ取って欲しいと思います。
到達目標	自分の意見や思いを言葉で表現し、他者の意見や思いも尊重しながら、課題を解決していく力を育む。 グループで議論する際に必要な心構えや態度などを身につける。
授業の進め方	授業はテーマにそってグループで行います。はじめにテーマに関する講義を行い、その後はグループで取り組みます。 その日に取組んだ内容は、授業の終盤にグループごとに発表してもらいます。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　ディベート　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	フィードバックは基本的には次回の授業内で行いますが、個人的な質問についてはLMSを通じて返信します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	グループワークの目的と方法　もじりんぐ	対面
第2回	アインシュタインクイズ	対面
第3回	地図作成ワーク	対面
第4回	防災ワーク	対面
第5回	コンセンサス法	対面
第6回	ミソドラマ　導入	対面
第7回	結婚・家族観について	対面
第8回	新聞タワー	対面
第9回	ミソドラマ　発表準備	対面
第10回	ミソドラマ　発表	対面
第11回	コンセンサス法　「多文化共生について」	対面
第12回	究極の選択「救命ボートの倫理」	対面
第13回	本授業のまとめと授業内レポート	対面

事前・事後学修	・議論を進めるための情報収集など必要に応じて授業時に連絡します。 ・事後学習として、グループワークの記録を取り、自分自身や自身の対人関係上の傾向などの理解を深めてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の2点で評価します。 授業中（授業後）に作成するリフレクションシート：50% 最終レポート課題：50%
テキスト	特に使用しません。
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します。

備考	本授業は臨床心理専攻の必修科目です。

年度	2025
講義名称	心理実習指導Ⅱ [臨心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06607S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科
鈴木 憲治	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、心理実習指導Ⅰに引き続き、精神障がいに関する知識や意識、実習施設の持つ役割・機能を理解し、公認心理師としての職務内容をイメージしながら外部実習に臨むために必要な基礎的な能力を養うことである。 心理に関する支援を要する者等に関する以下の領域に関する知識及び技能の習得を目的とする。 - 対人コミュニケーション - 心理面接 - 地域支援
到達目標	心理に関する支援を要する者等に関する以下の領域に関する知識及び技能が習得でき、3年次の心理実習を実施できる素養を身につける。 - 対人コミュニケーション - 心理面接 - 地域支援
授業の進め方	本講義では、講義、集団および個別の形態、演習形式等を交えた、多様な方式で指導を行う。 グループによるワークと検討討議、検討討議から得られた気づきをもとに問題解決に向けた集団討議と、コミュニケーションをフルに活用した「模擬実習」の体験学習を行う。 毎回修得した内容について、確実に理解を深めるために課題の提出を求める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	教員は、毎回提出後の課題に対する個別及び全体へのコメントをし、学生はコメントの内容を自己評価シートに記載し、指摘された点について理解し内容の定着をはかる。 履歴書と実習計画書については、講義内で修正・添削指導を基本とする

授業計画表

回	授業内容
第1回	精神障がいについて-精神障がいの特性と実際 精神障がいについて-歴史から学ぶ「障害」の概念と支援について 精神障がい者の就労支援に関する法律
第2回	実習先に想定される機関のイメージ作り3（教育領域）
第3回	実習先に想定される機関のイメージ作り4（司法領域 産業・労働領域）
第4回	他職種協働の中で公認心理師に期待されていること 外部講師の講話と討議 外部講師の講話は都合により日時が変更になることもある。 また、諸般の事情によっては外部講師が招聘されず、教員による講義となる場合がある。

第5回	公認心理師の職務の実際について 外部講師の講話と実技指導 外部講師の講話は都合により日時が変更になることもある。 また、諸般の事情によっては外部講師が招聘されず、教員による講義となる場合がある。
第6回	実習に関する必要書類（履歴書と実習計画書の書き方）について
第7回	実習に関する必要書類（履歴書・実習計画書の修正と添削） 実習時の服装の最終確認

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習として、実習についてのキーワードを各自調べておく。 心理療法や心理アセスメントに関する知識をまとめておくといよい。 事後学習としては毎回の課題を確実に提出すること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業での発言や態度と課題提出（50％）と、履歴書と実習計画書（50％）を総合して成績を評価する。 実際の心理実習を想定することから、出席を重視する。 グループで行う内容が多いので、欠席・遅刻は、極力避けること。
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する
参考文献	必要に応じて提示する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療領域、福祉領域、教育領域、司法領域での臨床経験のある複数の教員が、各領域から招いたゲストスピーカーとの対談等も交えて、より実践に近い“学び”の機会を提供する。
備考	本科目は、公認心理師になるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められている心理実習Ⅰ・Ⅱを履修するために、本学独自に必修としている科目です。 心理実習Ⅰ・Ⅱの履修を希望する学生は、必ず2年次に履修してください。 授業内容により、外部実習をイメージした服装を着用してもらうこともあります。 諸般の事情によっては外部講師が招聘されず、教員による講義となる場合があります。

年度	2025
講義名称	心理実習指導Ⅰ〔臨心〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06606S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科
鈴木 憲治	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、3年次に展開される心理実習の事前学習として位置づけされる。 基本的な実習のマナーや心得を学びつつ、具体的に実習施設での体験をイメージできるよう、調べ学習、グループワークやディスカッション、各種集団療法の 実習を通して、実習先でのスタッフや対象者との良好な関係づくりについて考え、身に着けることを目的とする。
到達目標	1. 実習のマナーや心得を習得し、各専門領域領域実習機関について知識を得る。 2. 具体的な実習場面をイメージしたグループ学習を通して、実習機関での体験をイメージできるようになる。 3. グループワークやディスカッションを通じ、自己理解や他者理解を深め、実習先のスタッフや対象者と円滑なコミュニケーションとはどのようなものか考 えることができる。
授業の進め方	本講義では、講義・集団討議・問題解決などの多様な方法で展開する。 グループによるワークと検討討議、検討討議から得られた気づきをもとに問題解決に向けた集団討議と、コミュニケーションをフルに活用した「模擬実習」 の体験学習を行う。 毎回修得した内容について、確実に理解を深めるために課題の提出を求める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内でレポートの返却を行い、教員が履修者全体及び個別に向けてのコメントをする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 外部実習の基本知識 心理実習の位置づけ 学部における外部実習の目標
第2回	心理実習指導の概要 履歴書・志望動機の書き方 実習先でのマナーについて（服装、言葉遣い〜敬語の学習） 実習計画書
第3回	実習先に想定される機関のイメージ作り1（医療・保健領域）
第4回	実習先に想定される機関のイメージ作り2（福祉領域）
第5回	実習先での活動について 授業内発表1
第6回	実習先での活動について 授業内発表2
第7回	ゲストスピーカーによる講話 実習前の準備について 外部講師の講話は都合により日時が変更になることもある。 また、諸般の事情によっては外部講師が招聘されず、教員による講義となる場合がある。

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事前学習として、実習についてのキーワードを各自調べておく。
	書く・話すなどの自己表現スキル技能を高めるために就職用一般常識問題に取り組むことが望ましい。
	事後学習としては毎回の課題を確実に提出すること。
【必要な時間】	
事前学習・事後学習とも2時間以上をあてることが望ましい。	

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業での発言や態度（30％）、課題提出（30％）、発表プレゼン（40％）を総合して成績を評価する。 実際の心理実習を想定することから、出席と積極的な関与を重視する。 グループで行う内容が多いので、欠席・遅刻は、極力避けること。
テキスト	なし 必要に応じてプリント配布
参考文献	必要に応じて提示する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療領域、福祉領域、教育領域、司法領域での臨床経験のある複数の教員が、各領域から招いたゲストスピーカーとの対談等も交えて、より実践に近い“学び”の機会を提供する。
備考	本科目は、公認心理師になるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められている心理実習Ⅰ・Ⅱを履修するために、本学独自に必修としている科目です。 心理実習Ⅰ・Ⅱの履修を希望する学生は、必ず2年次に履修してください。 授業内容により、外部実習をイメージした服装を着用してもらうこともあります。 諸般の事情によっては外部講師が招聘されず、教員による講義となる場合があります。

年度	2025
講義名称	カウンセリング演習[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06605S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本演習では心理学的支援法のひとつであるカウンセリングに関する基礎的な理論及び技法を学ぶことを目的としています。具体的には「傾聴技法」や「ロジャーズの3条件」などのカウンセリングの基本思想、そしてカウンセリングのベーシックテクニックを学びます。その上でロールプレイを行い、それらの思想や技法の意義を体験的に理解することを目的としています。
到達目標	① カウンセリングの基本的な概念を理解し、技法を体得する。 ② 傾聴の重要性を理解する。 ③ カウンセリング過程の相互作用過程を体験する。
授業の進め方	講義＋演習形式で展開します。演習ではロールプレイなどの体験学習を元に、基本的なカウンセリング概念の理解を深めます。また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、講義内で解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス＋カウンセリングとは何か？
第2回	ロジャーズのカウンセリング
第3回	無条件の肯定的関心と共感的理解
第4回	共感の障害と自己一致
第5回	「グロリアと3人のセラピスト」
第6回	フォーカシングを体験しよう
第7回	エンカウンターグループとは？
第8回	カウンセリング・ロールプレイ（１）基本姿勢と信頼関係の構築、レポート形成の基本
第9回	カウンセリング・ロールプレイ（２）共感、言い換え、繰り返し
第10回	カウンセリング・ロールプレイ（３）明確化、感情の反映、要約
第11回	実技試験（１）
第12回	実技試験（２）
第13回	実技試験(予備日)、筆記試験

事前・事後学習	事前にカウンセリングに関する書籍を読み、カウンセリングのイメージを膨らませておいてください。また、事後学習として配布されたレジュメを見直し、関連する概念などを自身で調べ、理解を深めるようにしてください。上述のような事前及び事後学習は合計5時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の4点で評価します。 A) 課題：20% B) レポート：19% C) 実技試験：20% D) 筆記試験：41% ※A)～D)のカテゴリー全てに点数がついていることが単位取得最低条件とします。
テキスト	特に使用しません。
参考文献	適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、臨床心理士の資格を有し、児童精神科での治療やスクールカウンセラーとしてのカウンセリング業務を通じて、子どもたちの心理的支援に深く携わってきました。これらの実務経験を基に、心理学の理論と実践を統合した具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	・本科目はカウンセリング実務士取得のための必修科目です。 ・授業中に学生同士でロールプレイを行います。積極的に参加してください。 ・「臨床心理学概論」や「心理学的支援法」などの講義を履修し、臨床心理学の概念や心理学的支援法について理解していることが望まれます。

年度	2025
講義名称	心理学的支援法[臨心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06604L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は、心理療法をはじめとする心理学的支援法について、その観点と理論、技術について学ぶことを目的としている。具体的には①カウンセリングの発想・技術・方法について②各種心理療法の概要について③心の発達などライフサイクルの過程で起こりうる様々な問題とその支援について、今日的な問題も含めて議論しながら学びを深めて行く。臨床心理学にはどのような諸分野があるかを知ること、また心理療法の各種理論について理解し、理論の裏にある人間理解のあり方について自分なりに考えることができるようになることを目的とする。 代表的な心理療法の理論や技法について学ぶこと、臨床心理学的な視点を学ぶことは大切であるが、それ以上に学ぶ過程で自分なりの考えや意見を持ち、表現できることを受講生に期待する。
到達目標	知識・理解：各種心理療法の概要についてその観点と理論を理解することができる。 関心・意欲：心理療法をはじめとする心理学的支援の視点を日常生活に活かすことができる。 思考・判断：心理療法の各種理論について理解し、理論の裏にある人間理解のあり方について自分なりに考えることができるようになる 技能・表現：様々な心理的問題とその支援について、今日的な問題も含めて議論しながら学びを深めていくことができる。
授業の進め方	基本的には講義形式で行われる。毎回のテーマに沿って、受講生と議論しながらその内容を深める形で授業を進める。他者の視点を学ぶために、必要に応じてグループディスカッションやロールプレイを行なう。毎回の講義の終了時に講義内で取り上げたテーマについて自分なりに考えたことを表現する小レポートを提出し、それに対するフィードバックを当日の授業内、もしくは次回の授業の冒頭で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義で実施する小レポートで書かれた内容について当日の授業の終盤、もしくは次回の授業の冒頭で紹介し、自分以外の受講生の視点を示すとともに、教員の視点を解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション 心理学的支援とは
第2回	臨床心理学の基本理論(1)相談とカウンセリングの違い
第3回	臨床心理学の基本理論(2)カウンセリングの発想
第4回	臨床心理学の基本理論(3)カウンセリングの技術
第5回	臨床心理学の基本理論(4)カウンセリングの方法
第6回	ライフサイクルと心理的問題生涯発達と発達課題
第7回	心理療法の理論モデル(1)精神分析的心理療法
第8回	心理療法の理論モデル(2)クライアント中心療法
第9回	心理療法の理論モデル(3)認知・行動療法
第10回	心理療法の介入技法(1)遊戯療法
第11回	心理療法の介入技法(2)家族療法

第12回	臨床心理的地域援助 集団へのアプローチ
第13回	授業内試験と解説

事前・事後学修	本講義は、継続展開の講義となります。講義で教えた内容を覚えていないと次回の講義で学ぶことにつなげて理解することができません。そのため、毎回の講義の冒頭に、前回の講義に関する内容について確認するための復習を行います。前回のプリントを元に授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を確認してください。また日ごろから新聞やテレビで心に関するニュースに関心を持ち、自分の考えを思いめぐらせてください。復習を行うことが次回の講義の予習となります。予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中に課する小レポート・中間筆記テスト(60%)、最終講義での筆記テスト(40%)
テキスト	適宜プリントを配布します
参考文献	参考文献については各回のテーマに沿って分けて、一覧にしたものを初回講義で配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラーとして実務経験のある教員が心理支援の発想と技術、各種心理療法の理論をもとにした人間理解の視点をクライアントに活かす視点を養う講義を実施する。
備考	* 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ・遅刻は認めません。ただし、公共交通機関の遅れなど、やむを得ない事情については考慮しますので、証明書などを持参して前の扉から入室してください。 ・講義中の携帯電話の使用（メールのやり取りやゲーム）については、発見し次第注意します。状況によっては退室してもらいます。

年度	2025
講義名称	臨床心理学概論[臨心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP06603L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は、心理学の知見や方法を用いて、心の問題や問題行動のある個人や集団を援助する専門的な援助体系を学ぶ。具体的には心理療法をはじめとする臨床心理学について、その観点と理論、技術について学ぶことを目的としている。①カウンセリングの発想・技術・方法について②各種心理療法の概要について③心の発達などライフサイクルの過程で起こりうる様々な問題とその支援について、今日的な問題も含めて議論しながら学びを深めて行く。臨床心理学にはどのような諸分野があるかを知ること、また心理療法の各種理論について理解し、理論の裏にある人間理解のあり方について自分なりに考えることができるようになることを目的とする。 代表的な心理療法の理論や技法について学ぶこと、臨床心理学的な視点を学ぶことは大切であるが、それ以上に学ぶ過程で自分なりの考えや意見を持ち、表現できることを受講生に期待する。
到達目標	知識・理解：各種心理療法の概要についてその観点と理論を理解することができる。 関心・意欲：心理療法をはじめとする心理学的支援の視点を日常生活に活かすことができる。 思考・判断：心理療法の各種理論について理解し、理論の裏にある人間理解のあり方について自分なりに考えることができるようになる 技能・表現：様々な心理的問題とその支援について、今日的な問題も含めて議論しながら学びを深めていくことができる。
授業の進め方	基本的には講義形式で行われる。毎回のテーマに沿って、受講生と議論しながらその内容を深める形で授業を進める。他者の視点を学ぶために、必要に応じてグループディスカッションやロールプレイを行なう。毎回の講義の終了時に講義内で取り上げたテーマについて自分なりに考えたことを表現する小レポートを提出し、それに対するフィードバックを当日の授業内もしくは次回の授業の冒頭で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義で実施する小レポートで書かれた内容について当日の授業の終盤、もしくは次回の授業の冒頭で紹介し、自分以外の受講生の視点を示すとともに、教員の視点を解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション 臨床心理学とは
第2回	臨床心理学の基本理論(1)相談とカウンセリングの違い
第3回	臨床心理学の基本理論(2)カウンセリングの発想
第4回	臨床心理学の基本理論(3)カウンセリングの技術
第5回	臨床心理学の基本理論(4)カウンセリングの方法
第6回	ライフサイクルと心理的問題生涯発達と発達課題
第7回	心理療法の理論モデル(1)精神分析的心理療法
第8回	心理療法の理論モデル(2)クライアント中心療法
第9回	心理療法の理論モデル(3)認知・行動療法
第10回	心理療法の介入技法(1)遊戯療法

第11回	心理療法の介入技法(2)家族療法
第12回	臨床心理的地域援助 集団へのアプローチ
第13回	授業内試験と解説

事前・事後学修	本講義は、継続展開の講義となります。講義で教えた内容を覚えていないと次回の講義で学ぶことにつなげて理解することができません。そのため、毎回の講義の冒頭に、前回の講義に関する内容について確認するための復習を行います。前回のプリントを元に授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を確認してください。 また日ごろから新聞やテレビで心に関するニュースに関心を持ち、自分の考えを思いめぐらせてください。復習を行うことが次回の講義の予習となります。予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業中に課する小レポート・中間筆記テスト(60%)、最終講義での筆記テスト(40%)
テキスト	適宜プリントを配布します
参考文献	参考文献については各回のテーマに沿って分けて、一覧にしたものを初回講義で配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラーとして実務経験のある教員が心理支援の発想と技術、各種心理療法の理論をもとにした人間理解の視点をクライアントに活かす視点を養う講義を実施する。
備考	＊本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ・遅刻は認めません。ただし、公共交通機関の遅れなど、やむを得ない事情については考慮しますので、証明書などを持参して前の扉から入室してください。 ・講義中の携帯電話の使用（メールのやり取りやゲーム）については、発見し次第、退室してもらいます。

年度	2025
講義名称	発達心理診断法
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05602L 心理学科子ども心理専攻：PCD05312L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 澤田 信也	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子どもの発達支援においては詳細なアセスメントが不可欠です。本講義ではまず子どもの発達とその障害について学び、心理検査や発達検査を取り上げてその基本的な知識や技術を身に付けます。
到達目標	子どもの領域の発達や検査についての基礎知識を身に付け、検査の実際を体験し学びを深めることをねらいとします。
授業の進め方	本講義は児童精神科領域で臨床心理士として豊富な実務経験のある教員が指導します。パワーポイントを使用した講義が主体ですが、グループワークなどを通じた積極的な参加を求めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	事例の検討や発表について詳細に指導し、実務レベルを体験してもらいます。詳細な資料も提供します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・発達の概要	対面
第2回	子どもの発達①	対面
第3回	子どもの発達②	対面
第4回	発達の障害	対面
第5回	自閉スペクトラム①	対面
第6回	AQ・J	対面
第7回	障害のサポート	対面
第8回	遠城寺式発達検査①	対面
第9回	遠城寺式発達検査②	対面
第10回	グッドイナフ人物画知能検査	対面
第11回	ビネー式知能検査	対面
第12回	WISC - IV、V	対面
第13回	まとめとレポート作成	対面

事前・事後学修	事前事後学習が不可欠です。それぞれおおむね2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実技やグループワークでの検討、報告 3 0 % 小レポート 3 0 % まとめのレポート 4 0 %
テキスト	指定はありません。資料を配布します。
参考文献	必要時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	児童精神科や福祉領域での豊富な実務経験があります。事例を多数紹介し、現場で使用する検査等も実際に使用しながら、実務レベルを体験してもらいます。

年度	2025
講義名称	障害者・障害児心理学
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05601L 心理学科子ども心理専攻：PCD05305L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、様々な発達段階で生じる身体的、知的、発達、及び、精神的な障害の種類と特徴についての理解を深めることです。また、障害の当事者、その家族の事例をもとに、障害の特性やその障害に起因する社会適応上の困難について理解し、心理学的視点から必要とされる支援について理解できるようにすることを目指します。
到達目 標	身体、知的、発達、精神障害について、それぞれの主な特徴について理解できる。 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
授業の 進め方	講義形式を基本としますが、必要に応じて、グループディスカッション、グループ発表も取り入れます。また、視聴覚教材も適宜用いて、障害に対する理解を深めていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループ発表については、発表後、助言、指導をします。課題については、授業内で解説し、資料はWebClassを通じて配布します。 テストについては、テスト終了後、解説、まとめをします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・障害とは何か文献を通して考える。（レポート作成）
第2回	障害とは何かグループディスカッションと発表
第3回	身体障害の理解とその支援
第4回	精神障害の理解とその支援
第5回	知的障害の定義・特性
第6回	知的障害 発達上の課題
第7回	知的障害 アセスメント・支援について
第8回	自閉スペクトラム症 定義・特性
第9回	自閉スペクトラム症 発達上の課題
第10回	自閉スペクトラム症 アセスメント・支援について
第11回	AD/HDについて
第12回	学習障害について
第13回	テスト・まとめ

前・事後 学修	発達障害を理解するには、人間の知的発達、言語発達、社会性発達、認知発達、情動の発達などを理解しなければなりません。予習は、次回の授業に関連するトピックなどを提示するので、発達心理学の授業テキストや参考文献などを使用しまとめてください。 また、授業後は課題を出しますので、提出してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と 方法	それぞれの障害の特性についての理解し、障害者・児の心理社会的課題及び必要な支援について論述できることを評価基準とする。提出50％ 障害についてのレポート10％ テスト40％
テキスト	適宜プリントを配布します
参考文献	障害者心理学 太田信夫監修 北大路出版 発達心理学 下山晴彦監修 ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、障害者施設において相談業務、コンサルティング業務の実務経験のある教員が、障害の特性や心理社会的課題、支援について解説し、学生の理解を深められるよう講義を実施します。

年度	2025
講義名称	心理調査概論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05206L 心理学科子ども心理専攻：PCD05206L

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学研究の技法について理解するための実習を交えた講義科目です。主に社会心理学に関連するトピックについて、量的な調査研究の方法を学習します。特に、質問紙を用いた調査法に焦点を当て、質問紙尺度の作成、信頼性・妥当性の検討、調査の実施・分析、解釈といった一連の作業の流れについて解説し、実際の作業を通して、知識・技術を習得することを目的としています。
到達目標	理論・方法に関する講義と、質問紙の実施、分析、解釈などの実践的な実習を行います。データの分析には、ExcelとSPSSを用います。
授業の進め方	心理学研究で用いられる質問紙調査に関する知識・技術を習得し、自ら意味のある適切な調査研究を行うための基本的能力を身に付けることを目標とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の冒頭で毎回の課題に対する解説を行います。最終レポートは、心理調査レポートとして十分な内容になるまで、採点・返却・再提出のサイクルを繰り返します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス～社会心理学の研究方法について	対面
第2回	調査・分析に必要な統計の基礎～データの入力と集計	対面
第3回	質問紙データの分析Ⅰ（データの集約）	対面
第4回	質問紙データの分析Ⅱ（信頼性・妥当性について）	対面
第5回	因子分析法	対面
第6回	質問紙データの分析のまとめ	対面
第7回	質問紙の作成Ⅰ（書式・記載内容・項目を考える） 作業はグループで行い、作成する質問紙に関する各自のプレゼンテーションを行った上で、ディスカッションを行い、グループで作成する質問紙を決定します。	対面
第8回	⑩質問紙の作成Ⅲ（信頼性を検討する） 質問紙調査の実施やデータの入力、データの分析に関しては、グループ内で作業を分担したり、協力しながら進めることになります。	対面
第9回	質問紙調査の実施Ⅰ	対面
第10回	質問紙調査の実施Ⅱ（集計）	対面
第11回	質問紙調査の実施Ⅲ（分析）	対面
第12回	質問紙調査のまとめ	対面
第13回	レポート講評と試験対策	対面

事前・事後学修	毎回、データの分析やレポートなどの課題が出る。次の授業を実施するために必要な作業になるため、必ず実施し、授業前に終わらせておく必要があります。 事前事後学習において、WordとExcelを使用できる環境が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の課題（25%）、最終レポート（30%）および定期試験（45%） で評価します
テキスト	「心理学マニュアル・質問紙法」 鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（著） 北大路書房
参考文献	授業中に指示します。

年度	2025
講義名称	心理学実験Ⅱ(応用)
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05205E 心理学科子ども心理専攻：PCD05205E

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科
長内 清春	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学研究の技法を習得するための研究法に関する実習科目です。授業では、心理学研究における古典的な実験などの追試を実施し、データの収集・集計・分析、考察を行ってレポートを作成します。それら一連の作業を通して、心理学における実験研究の基本概念・方法論および実際の作業に伴う問題点等について理解することを目的としています。
到達目標	(1)心理学実験に関する知識・技術を習得すること (2)心理学的研究に必要な「統計に関する基礎的な知識」を身につけること (3)心理学的な仮説を検証するために適切な心理学の「実験の計画立案」ができるようになること (4)卒業論文作成に必要な実験レポートの書式などを身につけること。
授業の進め方	心理学実験の実施、分析方法・考察方法の解説、実験レポートの作成指導を中心に授業を展開します。適宜、心理学実験の基本概念・方法論に関する講義を行います。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実験レポートについては、教員が採点・返却し、再提出が求められます。実験レポートとして十分な内容のものが提出されるまで、このサイクルが繰り返され、実験レポートを作成する能力の向上を目指します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業の概要説明 レポート書式の解説	対面
第2回	実験1の実施 書式レポートの返却と解説	対面
第3回	実験1の結果の解説	対面
第4回	実験2の実施 実験1レポートの返却と解説	対面
第5回	実験2の結果の解説	対面
第6回	実験3の実施 実験2レポートの返却と解説	対面
第7回	実験3の結果の解説	対面
第8回	実験4の実施 実験3レポートの返却と解説	対面
第9回	実験4の結果の解説	対面
第10回	実験5の実施 実験4レポートの返却と解説	対面
第11回	実験5の結果の解説	対面
第12回	実験5レポートの返却と解説	対面
第13回	期末試験対策とレポート解説	対面

第14回	期末試験の実施	対面

事前・事後学修	授業内では、実験の実施や実験内容の解説、分析方法やレポート作成方法の指示を行います。実験で取り扱ったテーマに関する文献を集めて、読むことや、データ分析の作業、レポート作成の作業は、授業時間外に行う必要があります。 授業時間外の事前事後学習においてWordとExcelを使用できる環境が必要不可欠です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	5回の実験のレポートの合格（55％）および定期試験（45％）で評価します。5つの実験レポートは、全て評価「C」以上である必要があります（45％分の配点）。レポートの評価が低い場合には再提出が不可欠になります。（13回の授業終了後にレポートを提出（再提出）してもレポートのフィードバックはありません。）
テキスト	B. フィンドレイ「心理学実験・研究レポート」の書き方 学生のための初歩から卒論まで」（北大路書房）
参考文献	授業中に指示します。

年度	2025
講義名称	心理学統計法
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05204L 心理学科子ども心理専攻：PCD05204L

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学研究の基本的な方法を理解し、心理学研究の技法を習得するための研究法に関する実習科目です。心理学では、主観や思い込み、そして客観的根拠のない理論的権威的説明に陥ることなく、客観的な判断を行うために、数量化し、客観的な評価を行えることが必要です。 (1)心理学の研究に必要な、統計学の基本的知識を身につけること、(2)Excelを使用したデータの集計と、心理学における基本的な統計分析の技術を身につけることが目的です。
到達目標	「統計に関する基礎的な知識」と技能を身につけ、「心理学で用いられる統計手法」を理解できるようになることを目標とします。
授業の進め方	ExcelとSPSSを使用して、統計のための基本的な集計から、統計分析までの実習を行います。また、統計学の知識を獲得するための講義も同時に行います。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回、統計に関する知識とExcel等を用いた統計処理を行う課題が出されます。講義の冒頭で、前回の課題の解説を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	統計学の概要とExcel操作の基礎	対面
第2回	尺度・代表値・Σの計算	対面
第3回	クロス集計表・度数分布表・ヒストグラム	対面
第4回	散布度：分散および標準偏差	対面
第5回	データ集計のまとめ	対面
第6回	二変数の関係 相関係数について	対面
第7回	正規分布と標準化	対面
第8回	推測統計と統計的検定	対面
第9回	t分布と t 検定	対面
第10回	t 検定の応用	対面
第11回	カイ2乗検定	対面
第12回	一要因分散分析と多重比較	対面
第13回	統計分析法の解説と期末試験対策	対面
第14回	期末試験の実施	対面

事前・事後学修	授業の内容を確認し、知識や技能を定着するために、毎回の課題を授業後に遂行し、遅れずに提出することが必要です。Excelの作業をスムーズにできないと授業についていくことができません。苦手な場合には授業時間外に練習してマスターしておくことが必要です。事前事後学習においてもExcelとWordを使用できる環境が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の提出課題とレポート（50%）、期末試験（50%）によって評価します。 欠席（公欠含む）かどうかにかかわらず課題の提出が必要です。 期末試験は、第14回に実施します。
テキスト	柴田征司（2017）数学が苦手でもわかる心理統計法入門，サイエンス社.
参考文献	授業中に指示します。

備考	※本科目を履修するためには、「心理学概論」と「心理学実験Ⅰ（基礎）」の単位を既に修得済みであることが必要です。 ※本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ※認定心理士（日本心理学会認定心理士認定委員会）の取得に必要です。 ※心理学系の大学院への進学を考えている学生、卒業研究を履修する予定の学生は必ず履修してください。 欠席すると授業についていくことができなくなります。欠席した場合は欠席した分の復習を各自で行うようにしてください。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔認定心理士(心理調査)〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S 心理学科子ども心理専攻：PCD05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科
青木 美和子	大学・人文学部・心理学科
橋本 久美	大学・人文学部・心理学科
須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
品川 ひろみ	大学・人文学部・心理学科
高野 創子	大学・人文学部・心理学科
松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科
大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科
榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科
荒関 守	大学・人文学部・心理学科
吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科
橋場 俊輔	大学・センター等

授業の目的と概要	本講義では、各自の決定したテーマについて、研究計画の策定・データ収集・分析から結果報告に至るまでの一連の流れを経験することにより、実社会に生かすための心理学の研究法を身につける。
到達目標	1つのオリジナル研究を完成する過程において、心理学の知識と研究実践についての総合的な力を高める。
授業の進め方	各ゼミナールでは、各人の研究について進捗状況の報告を行い、議論を重ね、完成を目指す。ゼミ担当教員は、必要に応じて研究法に関する知識の教授や問題点の解決に向けての示唆を行う。 心理学の研究方法は、実験・質問紙調査・面接・観察などがあり、分析法も統計分析や質的分析など様々な手法が存在する。本演習では、各自の研究テーマに沿った研究法を選択するのが望ましい。 本講義は認定心理士（心理調査）資格カリキュラムに含まれることから、その内容に沿った計画で行う。 調査・実験・観察・面接・尺度構成・検査などの方法を用いて、自ら計画し、データの採取、処理、解析を行い、報告を行う。最終的に、「問題と目的」「方法」「結果」「考察と展望」の形式での本論文及び抄録を提出する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究完成に向けて、授業以外にも個別指導の時間を設ける。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究テーマの策定と研究計画とスケジュール	対面
第2回	構想発表	対面
第3回	先行研究レビュー	対面
第4回	調査の実施と報告(1)	対面
第5回	調査の実施と報告(2)	対面

第6回	調査の実施と報告(3)	対面
第7回	中間報告会	対面
第8回	データ分析報告(1)	対面
第9回	データ分析報告(2)	対面
第10回	研究論文草稿執筆 報告(1)	対面
第11回	研究論文草稿執筆 報告(2)	対面
第12回	研究論文および論文抄録完成 提出	対面
第13回	研究成果報告会	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・データ分析に使用するソフトウェアや実験機器など使用機材の使い方には慣れておくこと。 ・新聞記事や心理学系専門誌に、目を通し、切り抜きやコピー等して、研究資料の収集を図る。 ・授業での課題を次回授業時に提出する。 【必要な時間】 予習、復習の時間は各2時間半程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内課題の提出物 20% 中間報告会での評価 20% 論文 40% 研究成果報告会での評価 20%
テキスト	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。

備考	子ども心理専攻のDP（学位授与の方針）は、上記に加え、DP2、DP4、DP6とも関連する。 受講の前には、テーマに応じた研究方法（調査・実験・観察・面接・尺度構成・検査など）に関わる科目を履修済みであることが望ましい。例）心理統計学・社会心理調査法・心理学実験Ⅰ・Ⅱ・社会観察法・心理アセスメントⅠ・Ⅱなど 個人での研究を原則とするが、2人に限り、「方法」と「結果」は共有することを認める。その場合は、「タイトル」「問題と目的」と「考察と展望」は個別にまとめる。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ [臨心][松浦]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	春学期「テーマ研究Ⅰ」で提出した8,000字レポートに修正を加え、完成版のレポートと発表用のパワーポイントを提出することが目的です。レポートを元に自身の研究について発表し、ゼミ内でディスカッションを行います。それを受けて、レポートに修正を加え、完成を目指します。
到達目標	自分の研究するテーマを定め、主体的に研究に取り組むことを目標とします。
授業の進め方	講義では、各自が定めた臨床心理学的研究テーマに沿って調査を進めます。調査結果についてはゼミ内でディスカッションを重ね、レポート（8,000字以上）とプレゼンテーション資料を完成させます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、講義内で解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究テーマ設定
第2回	「テーマ研究Ⅰ」レポート発表、ディスカッション(1)
第3回	「テーマ研究Ⅰ」レポート発表、ディスカッション(2)
第4回	「テーマ研究Ⅰ」レポート発表、ディスカッション(3)
第5回	修正作業、発表準備(1)
第6回	修正作業、発表準備(2)
第7回	修正作業、発表準備(3)
第8回	修正作業、発表準備(4)
第9回	修正作業、発表準備(5)
第10回	修正作業、発表準備(6)
第11回	修正作業、発表準備(7)
第12回	全体発表会
第13回	まとめ

事前・事後学修	事前、事後に研究テーマに必要な文献をよく読んでください。合計5時間以上の学習を必要とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で成績を評価します。 A) 研究テーマについての発表（30%） B) 発表会での発表及びレジュメ（20%） C) 最終レポート（50%）
テキスト	特になし。
参考文献	宮内泰介・上田昌文（2020）. 実践 自分で調べる技術.岩波書店（岩波新書1853）. 山田ズーニー（2001）. 伝わる・揺さぶる! 文章を書く. PHP研究所（PHP新書180）. 上野千鶴子（2018）. 情報生産者になる. 筑摩書房（ちくま新書1352）.

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、児童精神科の臨床心理士やスクールカウンセラーとして豊富な実務経験を持ち、児童や生徒の心理的支援や教育現場でのサポートに携わってきました。これらの経験を基に、心理学の理論と実践を深く学ぶ機会を提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔臨心〕〔岡田〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	現実社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。テーマ研究論文の作成のための作業を行います。
到達目標	研究論文に相当する研究レポートを完成させることがこの演習の目標になります。
授業の進め方	テーマ研究論文の作成作業の経過報告を中心として、データの分析や解釈に関する問題点の解決等について議論します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	実験調査の実施報告①	対面
第2回	実験調査の実施報告②	対面
第3回	実験調査の実施報告③	対面
第4回	実験調査データの分析指導①	対面
第5回	実験調査データの分析指導②	対面
第6回	実験調査データの分析指導③	対面
第7回	実験調査データの分析指導	対面
第8回	テーマ研究レポートの指導	対面
第9回	テーマ研究レポートの修正指導	対面
第10回	テーマ研究レポートの発表指導	対面
第11回	テーマ研究レポートの発表指導	対面
第12回	テーマ研究発表（準備）など（１）	対面
第13回	テーマ研究発表（準備）など（２）	対面

事前・事後学修	レポートの執筆・作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うことになります。 授業時間とは別に研究発表会を実施する場合があります。発表は単位取得に必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●

成績評価基準と方法	実験調査の実施と報告（30％）・最終レポート（発表を含む）（70％）
テキスト	テキストの指定はありません。
参考文献	心理学 実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで B.フィンドレイ 著 北大路書房

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ [臨心][橋本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この講義では心理学及び臨床心理学領域における習得した知識、技能の活用能力を高めることを目的とする。テーマ研究Ⅱでは春学期に引き続き、予め決定したテーマでの研究を深める。最終的に8,000字以上の論文の形にまとめ、成果発表をする。
到達目標	各自の研究テーマに沿った内容かつ仮説の検証ができる論文をめざす。学生生活集大成であることから、成果発表会での個別発表も必須とする。
授業の進め方	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「能動的に学び続ける力」について知識の習得を目的とした講義を行う。担当教員の助言指導のもとに、研究論文を完成させる。 研究法やまとめについてディスカッションをしながら修正、完成度を高め、各自が8,000字以上のレポートにまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ディスカッションのレポートに対して、コメントを加える。ディスカッションにおいてゼミ員の反応も記録して集積しておく。よりよい論文成果が得られるよう、授業外でも個別に指導を行うことがある。適宜、資料を配布する。授業計画や卒業研究の経過発表に対し、指導教員の助言のもと学生同士の討議及び指導教員による助言をうける。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	春学期のふりかえり テーマ研究完成までのスケジュール作り	対面
第2回	研究経過報告 及び データ分析	対面
第3回	研究経過報告 及び データ分析	対面
第4回	研究経過報告 及び データ分析	対面
第5回	研究経過報告 及び データ分析	対面
第6回	テーマ研究執筆に向けて草稿作り ディスカッション（担当別） 担当者が決めたテーマについて話し合いを行う	対面
第7回	テーマ研究執筆に向けて草稿作り ディスカッション（担当別） 担当者が決めたテーマについて話し合いを行う	対面
第8回	テーマ研究執筆に向けて草稿作り 予備実験または作成アンケート検討	対面
第9回	テーマ研究執筆に向けて草稿作り 予備実験または作成アンケート検討	対面
第10回	ゼミ内テーマ研究発表会準備及びレポート修正指導	対面
第11回	ゼミ内テーマ研究発表会準備及びレポート修正指導	対面
第12回	ゼミ内発表 意見交換	対面
第13回	テーマ研究完成 提出 まとめ	対面

事前・事後学修	文献検索や統計分析については各自で何度も繰り返して習熟しておくことが望ましい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	大学生生活の集大成としてのテーマ研究レポート評価（40％）、テーマ研究発表PPの評価（30％）、発表会での質疑応答評価と振り返りシート（30％）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「能動的に学び続ける力」について知識の習得を目的とした講義を行う。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ [臨心][高野]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本演習は、日常生活や臨床場面における臨床心理学の活用として、研究実践を行うことを目的としている。テーマ研究Ⅰで立案した研究計画書をもとに研究論文を作成し、発表の成果を発表する。これらの作業は、グループディスカッションを通じて行われるため、仲間と協働できるようになることも目標としている。
到達目 標	知識・理解：研究倫理を理解し、守ることができる。 関心・意欲：自分のテーマの接点・相違点などを持ちながらディスカッションに加わることができる。 思考・判断：自身の研究テーマ、計画に沿った研究の結果と考察を行うことができる。 技能・表現：自身のテーマを発表するのみならず、他者の発表に関しても、適宜疑問点や感じたことを表現できる。
授業の 進め方	テーマ研究Ⅰで立案した研究計画書をもとにデータの収集、分析を行なう。データの分析方法やそこから導き出される結果について、ディスカッションを通じて様々な視点からの考察を行なう。研究結果は論文として整理しまとめ、定期末にはPPTを用いたプレゼンテーションにて成果を発表する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	論文課題の作成文章について、講義内での分析、内容確認、添削指導を行なう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 前期で作成した研究計画内容について確認し、調査の予定を立てる 研究論文の書き方（研究目的・手続き・結果・考察のまとめ方）
第2回	データ収集の方法と諸注意について
第3回	データ収集と整理（１）
第4回	データ収集と整理（２）
第5回	データの分析（１）
第6回	データの分析（２）
第7回	結果の整理と考察（１）
第8回	結果の整理と考察（２）
第9回	論文作成（１）
第10回	論文作成（２）
第11回	プレゼン資料作成
第12回	ゼミ内発表会
第13回	合同ゼミ：フォーラム発表会

事前・事	本講義内で指導された論文の書き方をもとに、論文を作成する。次回の演習までに各自が行うことをはっきりさせ、取り組み、報告書として2025/04/01に

後学修	と。予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回のゼミの課題提出(40%)、フォーラム発表会でのプレゼン・PPT資料の提出(30%)、最終レポート(30%)
テキスト	適宜、それぞれのテーマに沿った文献を必要に応じて指示する。
参考文献	「質問紙調査の手順」小塩真司ら著、ナカニシヤ出版 「ライブ講義 質的研究とは何か」西條剛央著、新曜社 「心理学論文の書き方」松井豊著、河出書房新社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、地域支援の経験のある教員が研究倫理とマナーを身に着け、心理支援の発想を研究に生かす視点を養う演習を実施する。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ[臨心][品川]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この科目では、各自の関心からテーマを設定し、そのテーマに沿って、課題の設定を行い、それにそって調査・研究を行う。 春学期の取り組みを進展させレポート執筆を完成させる。 また授業では全体討議を通して、議論することや他者の評価を受け自分のレポートをよりよいものにする。 論文完成後には完成した論文を紹介するプレゼンテーションを作成し、動画の制作と全体発表を行う。
到達目標	自らの問題意識を明確にし、それにそって調べ論理的な思考の基づき、レポートを執筆することができる。 執筆したレポートをもとに、プレゼンテーションとして発表することができる。
授業の進め方	講義は毎回ゼミ全体で行う。調べる、まとめる、発表する、議論する、などを行うほか、テーマに応じて調査を行う。毎回の授業では必ず自分のレポートの進捗状況を報告する。 第7回目にはゼミ内での中間発表を行うので必ず発表すること。また最終回には学年全体での発表会を予定しているため必ず発表すること。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　ディスカッション　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の授業の終わりには、次回までの課題を提示する。 課題についてのフィードバックについては、LMSを通じてコメントする。 ゼミの全体に共有すべきことについては、授業内でコメントする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	秋学期の授業計画（個別発表） 各自が夏休みも踏まえた進捗状況を発表します。 秋学期の個別の計画を立てます。	対面
第2回	課題の提示と文献検索 それぞれのテーマにそって、今週取り組むことを発表します。 個別の課題に取り組みます。	対面
第3回	文献のまとめ　文献リストの整理　研究の目的と方法の作成 これまでに参考にした文献リストを提示し、論文の最後に記載する方法について学修します。また個別の文献リストを作成します。	対面
第4回	課題の設定と検討 本日の授業で個々が取り組む課題について発表し、それに取り組めます。 論文の章では「はじめに」の部分にあたります。	対面

第5回	調査の準備と実施 調査を計画する人は、調査票と実施についての準備をします。 調査を行わない人は、引き続き文献をまとめる作業を行います。	対面
第6回	レポート執筆　プロット作成 これまでに取り組んだ先行研究や各自の研究方法を踏まえプロットを作成します。 プロットの作成は各章で執筆する内容のガイドにもなります。	対面
第7回	中間報告 中間報告では、以下の5点について発表してもらいます。 ①論文テーマ　②はじめに　③研究の方法　④プロット　⑤進捗状況と今後の執筆計画	対面
第8回	中間発表を踏まえた修正 中間発表を踏まえて、内容や執筆計画を修正します。	対面
第9回	レポート執筆　章ごとの論点整理 授業のはじめに進捗状況と今週の目標について発表し各自の執筆を進めます。	対面
第10回	レポート執筆　結論に対する議論 授業のはじめに進捗状況と今週の目標について発表し各自の執筆を進めます。	対面
第11回	8000字論文の提出 論文提出の際には、表紙、目次の作成と参考・引用文献を必ず付ける。 それらについて授業冒頭で説明する。	対面
第12回	プレゼンテーションおよび、動画作成を行う 提出した8000字論文のダイジェスト版のスライドを作成する。 内容は一人10分程度の発表時間とする。作成したスライドには音声を入れ動画にして提出します。	対面
第13回	テーマ研究の発表会 各自の論文の概要をさらに短く3～5分程度にして発表してもらいます。 発表スライドは動画のダイジェスト版で結構です。	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。 授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。 【必要な時間】 事前・事後それぞれ2時間程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の授業で記入する小レポート　30％ 8,000字論文　40％ 最終のプレゼンテーション　30％
テキスト	テキストは特に指定しない。
参考文献	参考文献に関しては、それぞれの研究テーマにそった文献を紹介する。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔臨心〕〔青木〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、臨床心理テーマ研究Ⅰで取り組んできた各自の研究をより深め、テーマ研究としてレポート作成・発表することができるようにすることである。
到達目標	テーマ研究を完成させるとともに、研究発表（プレゼンテーション）を行うことができる。
授業の進め方	テーマ研究完成に向けて、調査・データ分析を行い、研究経過報告を行う。教員の助言のもとに、グループ討議を経ながら進め作業を進めてレポートを完成させる。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	経過報告や提出されたレポートに対して、助言、指導を行い返却する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究経過報告①（課題の明確化）
第2回	研究経過報告②
第3回	研究経過報告③
第4回	研究経過報告④
第5回	テーマ研究レポート執筆と経過報告①
第6回	テーマ研究レポート執筆と経過報告②
第7回	テーマ研究レポート執筆と経過報告③
第8回	テーマ研究レポート執筆と経過報告④
第9回	テーマ研究レポート完成に向けて①
第10回	テーマ研究レポート完成に向けて②
第11回	テーマ研究会発表準備①
第12回	テーマ研究会発表準備②
第13回	テーマ研究発表・まとめ

事前・事後学修	夏休期間中に先行文献の整理、10月までに調査を終えておくことが求められる。また、研究経過報告、レポート経過報告の際には、必ず、レジメ、作成途中のレポートを印刷、持参すること。 事前、事後学習にはそれぞれ2時間半必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	研究計画に沿った進行（20％）、テーマ研究レポートの内容（50％）、発表会のプレゼンテーションの内容（30％）
テキスト	特に指定しない
参考文献	各自、自分の研究テーマに沿った必要な文献を収集すること。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ [臨心][荒関]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	応用演習Ⅰ・Ⅱを通して学んだ知識・技能を活かし、自らのリサーチクエストを設定したうえで、心理学的な手法により研究を行い、レポート形式でまとめることを目指します。テーマ研究Ⅱでは、テーマ研究Ⅰで執筆を開始したレポートを完成させ、そのレポートをプレゼンテーションの形にし、発表を行います。
到達目 標	自ら設定した臨床心理学領域のリサーチクエストについて、調査・検討したうえで、レポートやプレゼンテーションとして報告することができる。
授業の 進め方	各自の研究の進捗状況に応じた個別指導と、節目に設ける研究報告会が中心となります。研究報告会においては、自らの研究の報告のみならず、ほかの人の報告を聞き、不明点を質問すること、建設的な意見を述べる必要があります。

アクティブ・ラーニング

ディベート 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での質問や発表には、原則その場で回答・コメントをします。 最終レポートおよびプレゼンテーションに向けての準備や資料については、ゼミ内での議論のほかに、個別に指導を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	前期研究レポート・夏季課題発表	対面
第2回	執筆計画の修正／資料収集Ⅰ	対面
第3回	資料収集Ⅱ	対面
第4回	個別指導Ⅰ・レポート作成	対面
第5回	個別指導Ⅱ・レポート作成	対面
第6回	完成直前報告会Ⅰ	対面
第7回	完成直前報告会Ⅱ	対面
第8回	個別指導Ⅲ・レポート修正	対面
第9回	個別指導Ⅳ・レポート修正	対面
第10回	プレゼンテーション準備Ⅰ	対面
第11回	プレゼンテーション準備Ⅱ	対面
第12回	ゼミ内最終報告会	対面
第13回	テーマ研究合同報告会※	対面

事前・事後学修	本演習では、レポート執筆や報告準備のため、演習時間外にも自発的・能動的に学ぶことが求められます。予習・復習は概ね各回2時間半程度です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	最終レポートの内容 40% 報告会での議論の内容・主体性・協調性 30% 発表・報告の内容 30%
テキスト	必要に応じ事前または授業中に配布します。
参考文献	『研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」』 近藤克則 医学書院 『三訂版 心理学論文の書き方』 松井豊 河出書房新社 『心理学の卒業研究ワークブック』 小塩真司 宅香菜子 金子書房 その他の参考文献は、授業内で適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本演習は、産業・労働領域と司法・犯罪領域での実務経験を有する教員が担当します。適宜、実務と研究の関係を意識した指導を行います。
備考	授業計画の※印については、ゼミ外での活動となるため、予定が変更になる可能性もあります。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔臨心〕〔吉崎〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この科目では、現実社会や臨床場面での心理学の活用を深めるため、研究実践を行います。3年次の研究計画を基に、文献講読やデータ収集・分析を進め、研究の完成を目指します。また、臨床心理学の研究手法を学びながら、先行研究の調査や研究計画の立案を行い、グループディスカッションを通じて協働する力を養うことも目的としています。
到達目標	臨床心理学の研究手法を習得し、先行研究の調査や講読、要約を行いながら、自身の研究テーマや計画を立てることを目標とします。さらに、グループワークやディスカッションを通じて意見を共有し、協力しながら進める力を養うことも重要な目的です。
授業の進め方	テーマ研究論文の作成作業の経過報告を中心とします。個々の研究に応じて、問題点の確認とデータ分析の最終系を目指しながらディスカッション・グループワークで進行します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回のゼミ発表のなかで課題や進捗状況などに関するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 前期の振り返り
第2回	秋学期の授業計画（個別発表）
第3回	文献のまとめ 文献リストの整理
第4回	課題の設定
第5回	課題の検討
第6回	補足調査
第7回	データ収集と整理
第8回	中間発表
第9回	論文作成①
第10回	論文作成②
第11回	論文作成③
第12回	プレゼンテーション準備
第13回	テーマ研究発表

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。 授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。 【必要な時間】 事前・事後それぞれ2時間程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ゼミの課題提出(40%) プレゼン発表・PPT資料の提出(30%) 最終レポート(30%)
テキスト	テキストは指定しない
参考文献	参考文献は必要に応じて提示する

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ [臨心][松浦]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	3年次「応用演習Ⅰ」、「同Ⅱ」での学習成果を発展させ、臨床心理学的なテーマ（特に心理検査）でレポートを執筆し、自身の考えをまとめることを目指します。まず、各自が興味のある臨床心理学的テーマに沿って文献講読や調査・実験を行います。その経過や成果を講義内で発表・討議し、臨床心理学的なレポートとしてまとめていきます。
到達目標	自分の研究するテーマを定め、主体的に研究に取り組むことを目標とします。
授業の進め方	各自が定めた臨床心理学的な研究テーマに沿って文献講読や調査などを進めます。その成果を講義内で発表し、ディスカッションを重ね、研究を修正していきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、講義内で解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、個別面談、研究テーマの設定(1)
第2回	研究テーマの設定(2)
第3回	研究テーマの設定(3)、研究テーマの発表
第4回	文献調査、レポート執筆(1)
第5回	文献調査、レポート執筆(2)
第6回	2500字レポート提出、修正作業
第7回	3000字レポート提出、修正作業
第8回	3500字レポート提出、修正作業
第9回	4000字レポート提出、修正作業
第10回	5000字レポート提出、修正作業
第11回	6000字レポート提出、修正作業
第12回	7000字レポート提出、修正作業
第13回	8000字レポート提出、まとめ

事前・事後学修	事前、事後に自身の研究と関連のある文献をよく読んでください。合計5時間以上の学習時間を必要とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で成績を評価します。 A) 2500字レポート（30%） B) 修正されたレポート（30%） C) 8000字レポート（40%）
テキスト	特になし。
参考文献	宮内泰介・上田昌文（2020）. 実践 自分で調べる技術.岩波書店（岩波新書1853）. 山田ズーニー（2001）. 伝わる・揺さぶる! 文章を書く. PHP研究所（PHP新書180）. 上野千鶴子（2018）. 情報生産者になる. 筑摩書房（ちくま新書1352）.

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、児童精神科の臨床心理士やスクールカウンセラーとして豊富な実務経験を持ち、児童や生徒の心理的支援や教育現場でのサポートに携わってきました。これらの経験を基に、心理学の理論と実践を深く学ぶ機会を提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[臨心][岡田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	現実社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。 テーマ研究論文の作成に必要な文献の講読と、3年次に行った実験・調査研究の方法の見直しとを行い、実験調査計画を完成させることが目的です。
到達目標	テーマ研究論文作成に必要な準備を完了することが到達目標です。
授業の進め方	各自の研究の進展状況の発表と文献講読発表を中心に演習形式で行います。 単に個人ごとの指導があるだけではなく、ゼミ内でディスカッションを行い、お互いの研究に対する理解と取組を深めます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	3年次研究の発表と問題点の見直し	対面
第2回	論文講読および研究計画報告（1）	対面
第3回	論文講読および研究計画報告（2）	対面
第4回	論文講読および研究計画報告（3）	対面
第5回	テーマ研究の実験調査計画の発表（1）	対面
第6回	テーマ研究の実験調査計画の発表（2）	対面
第7回	テーマ研究の実験調査計画の発表（3）	対面
第8回	予備調査およびテーマ研究中間報告の準備（1）	対面
第9回	予備調査およびテーマ研究中間報告の準備（2）	対面
第10回	予備調査およびテーマ研究中間報告の準備（3）	対面
第11回	テーマ研究経過報告（1）	対面
第12回	テーマ研究経過報告（2）	対面
第13回	春学期研究成果報告および反省会	対面

事前・事後学修	レジュメの作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うことになります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講読発表した学術論文の数、予備調査にもとづく中間発表の内容で評価します。 ゼミ発表（30％）・中間報告の内容（25％）・レポート（45％）
テキスト	テキストの指定はありません。
参考文献	心理学 実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで B.フィンドレイ 著 北大路書房 その他、個別に指示します。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[臨心][橋本]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この講義では臨床心理学領域における習得した知識、技能の活用能力を高めることを目的とする。3年次（応用演習ⅠⅡ）でたてた研究計画をもとに、文献をさらに集め、データ収集・分析を進め、結果をとりまとめる。担当教員の助言を受けながら、研究を完成させる。
到達目標	研究テーマを確定し、研究計画を立て調査研究を自分で進めることができるようになる。中間発表で研究成果のアピールを行う。
授業の進め方	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、臨床心理学研究について知識の習得を目的とした講義を行う。各自の研究についての途中経過報告を中心とし、具体的な研究の方向性について互いに論議する。また、中間発表に向け、データ分析の結果をまとめる。必要に応じて、データ解析法や研究手法について理解するための個別指導を行う。

アクティブ・ラーニング

体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内でレポートの返却を行い、教員が履修者全体及び個別に向けてのコメントをする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 春学期スケジュール作り 各自の進路目標を見据えながらテーマ研究の計画を立てる	対面
第2回	研究経過発表とゼミ内ディスカッション 研究計画を立てる 研究方法の策定	対面
第3回	研究経過発表とゼミ内ディスカッション 参考文献探し 参考文献要約	対面
第4回	研究経過発表とゼミ内ディスカッション 参考文献探し 参考文献要約完成	対面
第5回	調査及び実験の具体的な計画づくり 対象人数と対象者の選定 シュミレーション	対面
第6回	研究経過発表とゼミ内ディスカッション 報告書作成 中間発表（参考文献要約と研究計画）の順番決め	対面
第7回	中間発表（参考文献要約と研究計画）①	対面
第8回	中間発表（参考文献要約と研究計画）②	対面
第9回	中間発表（参考文献要約と研究計画）③	対面
第10回	研究計画修正 中間発表時の助言を受けての研究計画再検討	対面
第11回	研究経過報告PP作成作業	対面
第12回	研究経過報告PP作成作業	対面
第13回	研究経過報告PP 発表 春学期まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】心理学研究法や心理統計に関する文献を読んでおく。各自の研究に必要な部分をまとめ、授業で発表できるようにレジュメを作成する。 【必要な時間】調査結果をPCソフトウェアを使った統計分析する実践を復習と考え、2時間以上を充てることが望ましい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各自の研究計画に沿った進捗度の報告結果（30％）、授業での発言及び提出課題（20％）、中間ゼミ内発表の完成度の評価（50％）
参考文献	実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方 古谷野亘他 著 ワールドプランニング

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや医療領域・産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、臨床心理学研究について知識の習得を目的とした講義を行う。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[臨心][高野]
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本演習は、日常生活や臨床場面における臨床心理学の活用として、研究実践を行うことを目的としている。臨床心理学の研究手法を学ぶとともに、先行研究の検索、講読、まとめの作業を行い、自身の研究テーマ、計画を立案することが到達目標となる。また、これらの作業は、グループディスカッションを通じて行われるため、仲間と協働できるようになることも目標としている。
到達目標	【到達目標】 知識・理解：臨床心理学の研究手法を理解することができる。 関心・意欲：先行研究の検索、講読、まとめの作業を行うことができる。 思考・判断：自身の研究テーマ、計画を立案することができる。 技能・表現：これらの作業をグループディスカッションを通じて行い、仲間と協働できる。
授業の進め方	研究手法について、講師よりレクチャーを行った後、それぞれの興味と関心に沿った先行研究について調べる。その結果をもとに毎回のグループディスカッションを通して仮説、研究計画を立案する。自身の研究だけではなく、お互いの研究に対して理解を深め、研究がより良いものになるようにお互いに積極的な助言を出し合うことを歓迎する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回のゼミ発表のなかで課題や進捗状況などの報告を受付、当日の授業内もしくは次回の授業の冒頭でフィードバック・添削指導を行なう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 臨床心理学の研究①
第2回	臨床心理学の研究②
第3回	先行研究の講読と報告(1)
第4回	先行研究の講読と報告(2)
第5回	先行研究の講読と報告(3)
第6回	先行研究の講読と報告(4)
第7回	研究計画立案とディスカッション(1)
第8回	研究計画立案とディスカッション(2)
第9回	研究計画立案とディスカッション(3)
第10回	研究計画立案とディスカッション(4)
第11回	テーマ研究の前期発表(1)
第12回	テーマ研究の前期発表(2)

2025/04/01

第13回	振り返り：テーマの再検討、修正について

事前・事後学修	本演習は、毎回の講義で進捗状況の報告とグループディスカッションが行われる。そのため、講義時間外に文献・論文講読、報告書のまとめが必要となる。授業時間外に、自身で計画的に課題をこなさなければ、研究が進まない。課題への取り組みについて自己管理に努めること。予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の提出物(75%)、研究計画書の作成と提出(25%)
テキスト	また適宜、それぞれのテーマに沿った文献を必要に応じて指示する。
参考文献	「質問紙調査の手順」小塩真司ら著、ナカニシヤ出版 「ライブ講義 質的研究とは何か」西條剛央著、新曜社 「心理学論文の書き方」松井豊著、河出書房新社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、地域支援の経験のある教員が研究倫理とマナーを身に着け、心理支援の発想を研究に生かす視点を養う演習を実施する。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[臨心][品川]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この科目では、それぞれの関心からテーマを設定し、そのテーマに沿って、課題の設定を行い、それにそって調査・研究を行う。最終的には、秋学期に提出するテーマ研究のレポート執筆およびプレゼンテーションにつながる前段階の学びとなります。授業では全体討議を通して、議論することや他者の評価を受け、自分の計画を振り返ることを繰り返し、テーマ研究の執筆に向けた土台づくりを行います。
到達目標	自らの問題意識を明確にし、それにそって調べ論理的に考えレポートを執筆することができる。執筆したレポートをもとに、プレゼンテーションとして発表することができる。 またレポートを書き進めるプロセスにおいて、他者のテーマにも関心を持ち、ともに考え議論することができることを目標とする。
授業の進め方	本授業では各回の授業において、自分の考えを発言し、他者の意見を受け止め、また自身の研究を振り返りより良いものにしていきます。 また各回では事前・事後の課題を出すので必ず取り組んで授業に臨むようにしてください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　ディスカッション　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、LMCを通してコメントする。 また共通する課題については、授業の中で説明する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業のオリエンテーションと計画 ①テーマ研究の目的および授業の進め方について説明する ②各自が自分のテーマ研究の課題について発表する。 ③テーマ研究を進めるためには、どのようなプロセスで学習を進めるか知る ④各自が春学期の学習について計画を立てる	対面
第2回	文献収集とまとめ方 ①自分の研究テーマにそった文献を探す ②文献の読み方を学習する ③文献のまとめ方を理解する	対面
第3回	問題意識の明確化とまとめ方について 各自の問題意識を明確にし「はじめに」の部分の執筆をする方法について学ぶ 記載した「はじめに」の部分はLMSに提出する	対面
第4回	問題意識の明確化（修正） 提出された問題意識について、全体で共有し 各自修正する	

第5回	先行研究のまとめかた① 先行研究を論文に入れる場合の方法を学習し実際に記載する この回では、同一の先行研究を使い、まとめかたのコツを身につける	
第6回	先行研究のまとめかた② 前回の授業を踏まえて各自の先行研究についてまとめてみる	対面
第7回	中間発表 各自が自分の取り組んでいるテーマについて発表する。	対面
第8回	研究の修正と計画の立案 中間発表を踏まえて、各自の計画を見直し修正する	対面
第9回	研究の方法の立案と進め方 ① 文献を収集し論文を記載する・・・文献収集を進める ② 調査を実施して研究する・・・調査の設営について準備する	対面
第10回	先行研究（文献）を読み込み整理する（前半） 個別指導① 授業で進めた内容については、各自LMSに提出する	対面
第11回	先行研究（文献）を読み込み整理する（後半） 個別指導② 授業で進めた内容については、各自LMSに提出する	対面
第12回	プロットを考える 各自の8000字論文のストーリーについて、イメージしそれにそったプロットを考える。 論文をストーリーで考えることの必要性和、プロットとは何かどのようなプロットを立てるのかについて学習する	対面
第13回	春学期のまとめと秋学期までの計画 ①これまでに取り組んだ研究について振り返る ②秋学期がはじまる前までに何に取り組むのか計画を立てる ③学修ポートフォリに記載する 夏休みの学習計画はLMSに提出する	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。 授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。 【必要な時間】 事前・事後それぞれ2時間程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の課題レポート50％ 中間報告・提出物50％
	【テキスト】 2025/04/01

テキスト	テキストは指定しない
参考文献	【参考文献】 参考文献は必要に応じて提示する

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[臨心][青木]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、「テーマ研究」（レポート）の研究テーマを設定して、①研究計画書を作成すること。②各々の研究テーマに関する文献検討するとともに調査・研究をすすめ、中間発表ができるようにすることである。
到達目標	研究計画書を作成することができる。研究テーマに関連した先行文献を読み、レジメの作成報告ができる。
授業の進め方	各自の研究経過報告および文献講読、レジメ作成・報告を行っていきます。教員の助言と指導をもとにグループ討議を重ねながら研究成果をまとめていきます。 また、フィールドワークを通じて、研究方法について実践的に学びを深める。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された研究報告に対して、助言と指導をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・面談
第2回	研究テーマを設定する①・面談
第3回	研究テーマを設定する②
第4回	先行文献の整理①
第5回	先行文献の整理②
第6回	中間発表レジメ制作
第7回	中間発表
第8回	中間発表の振り返りと今後にむけてのまとめ
第9回	フィールドについて
第10回	フィールドワーク体験①
第11回	フィールドワーク体験②
第12回	フィールドワークふりかえり
第13回	研究経過発表とディスカッション

事前・事後学修	①研究テーマを設定するために、参考となる研究を探し熟読してください。 ②研究計画を作成してください。 ③先行文献を読み、レジメを作成してください。 授業準備、復習の時間はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	研究計画書の作成（20％）中間発表の内容（20％） レジメの作成（30％） 研究経過報告（20％）フィールドワーク報告（10％）
テキスト	特に指定しない
参考文献	各自自分の研究に必要な引用文献、参考文献を収集すること。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[臨心][荒関]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	応用演習Ⅰ・Ⅱを通して学んだ知識・技能を活かし、自らのリサーチクエストを設定したうえで、心理学的な手法により研究を行い、レポート形式でまとめることを目指します。テーマ研究Ⅰでは、自らのリサーチクエストを確定し、それに基づいた準備・研究を進め、レポートの執筆を開始します。
到達目 標	自ら設定した臨床心理学領域のリサーチクエストについて、調査・検討したうえで、レポートとして報告することができる。
授業の 進め方	各自の研究の進捗状況に応じた個別指導と、節目に設ける研究報告会が中心となります。研究報告会においては、自らの研究の報告のみならず、ほかの人の報告を聞き、不明点を質問すること、建設的な意見を述べる必要があります。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での質問や発表には、原則その場で回答・コメントをします。 最終レポートに向けての準備や資料については、ゼミ内での議論のほかに、個別に指導を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究法Ⅰ（研究計画・資料収集）／研究計画の作成	対面
第2回	研究計画の修正	対面
第3回	資料収集・文献講読Ⅰ	対面
第4回	資料収集・文献講読Ⅱ	対面
第5回	中間報告会Ⅰ（研究計画・資料収集の状況）	対面
第6回	個別指導Ⅰ	対面
第7回	個別指導Ⅱ	対面
第8回	中間報告会Ⅱ（研究の進捗）	対面
第9回	中間報告会Ⅲ（研究の進捗）	対面
第10回	研究法Ⅱ（論文の書き方）	対面
第11回	前期研究レポート作成Ⅰ	対面
第12回	前期研究レポート作成Ⅱ	対面
第13回	春学期のまとめ／夏季課題設定	対面

事前・事後学修	本演習では、レポート執筆や報告準備のため、演習時間外にも自発的・能動的に学ぶことが求められます。予習・復習は概ね各回2時間半程度です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	研究の進行状況 20% 中間報告会での議論の内容・主体性・協調性 30% 中間報告会の発表内容 30% 前期研究レポート 20%
テキスト	必要に応じ事前または授業中に配布します。
参考文献	『研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」』 近藤克則 医学書院 『三訂版 心理学論文の書き方』 松井豊 河出書房新社 『心理学の卒業研究ワークブック』 小塩真司 宅香菜子 金子書房 その他の参考文献は、授業内で適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本演習は、産業・労働領域と司法・犯罪領域での実務経験を有する教員が担当します。適宜、実務と研究の関係を意識した指導を行います。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[臨心][吉崎]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この科目では、現実社会や臨床場面での心理学の活用を深めるため、研究実践を行います。3年次の研究計画を基に、文献講読やデータ収集・分析を進め、研究の完成を目指します。また、臨床心理学の研究手法を学びながら、先行研究の調査や研究計画の立案を行い、グループディスカッションを通じて協働する力を養うことも目的としています。
到達目標	臨床心理学の研究手法を習得し、先行研究の調査や講読、要約を行いながら、自身の研究テーマや計画を立てることを目標とします。さらに、グループワークやディスカッションを通じて意見を共有し、協力しながら進める力を養うことも重要な目的です。
授業の進め方	テーマ研究論文の作成作業の経過報告を中心とします。個々の研究に応じて、問題点の確認とデータ分析の最終系を目指しながらディスカッション・グループワークで進行します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回のゼミ発表のなかで課題や進捗状況などに関するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション テーマの設定について
第2回	3年次研究の考察と問題点の見直し①
第3回	3年次研究の考察と問題点の見直し②
第4回	研究についてのディスカッション
第5回	フィールドワーク調査①
第6回	フィールドワーク調査②
第7回	フィールドワーク調査③
第8回	中間報告会
第9回	テーマ研究レポートの執筆と提出①
第10回	テーマ研究レポートの執筆と提出②
第11回	ゼミ内発表
第12回	各自のテーマについてのディスカッション
第13回	振り返り

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。 授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。 【必要な時間】 事前・事後それぞれ2時間程度とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題レポート50％ 中間報告・最終報告50％
テキスト	テキストは指定しない
参考文献	参考文献は必要に応じて提示する

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[臨心][岡田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	現実社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。心理学に関連したテーマに沿って、実験・調査などの実証的研究を実施し、それらの結果の分析、レポート執筆を行うことを通して、心理学研究の方法論について理解することを目的としています。
到達目標	各自の研究計画に従って、実験・調査を実施し、データの分析・レポートの執筆・発表を行うことを通して、自分自身の研究テーマについて、他者具体的に説明できるようになることが目標になります。
授業の進め方	各自が、自分自身の興味のあるテーマに関する実証的な心理学の研究論文を読んで発表を行うとともに、調査の実施を想定して、自分自身の研究計画を立ててポスターの形にまとめます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究計画の発表	対面
第2回	実験・調査の準備①	対面
第3回	実験・調査の準備②	対面
第4回	研究計画の完成	対面
第5回	実験・調査の実施結果の報告と指導①	対面
第6回	実験・調査の実施結果の報告と指導②	対面
第7回	実験・調査の実施結果の報告と指導③	対面
第8回	実験・調査の実施結果の報告と指導④	対面
第9回	レポート作成指導	対面
第10回	レポート作成指導	対面
第11回	ポスター発表指導	対面
第12回	ポスター発表指導	対面
第13回	ポスター発表練習と秋学期の反省	対面

事前・事後学修	毎回のレジュメの作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うことになります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ゼミ内での発言および毎回の提出物（30％）、実験・調査の実施状況（20％）、最終レポート（20％）、ポスター発表（30％）
テキスト	テキストの指定はありません。
参考文献	心理学実験・研究レポートの書き方（フィンドレイ著 北大路書房） 研究論文で学ぶ臨床心理学（串崎・中田 編 ナカニシヤ出版） 対人社会心理学重要研究集 1～7（誠信書房）

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [臨心][荒関]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	テーマ「ストレス対処」「組織における心理臨床」「研究基礎力」 応用演習では、Ⅰ・Ⅱを通して、臨床心理学を用いた他者支援の基礎力を身に着けることが目的となります。本演習において、その目印となるテーマが上記3点です。 他人を支援するためには、自分の心身の健康が重要です。そのために心身をむしばむストレスに着目します。まず、ストレスとは何かを知りましょう。そのうえで、いたるところにあるストレス要因や自分の中に積み重なってしまうストレスに対処できるようになりましょう。そうすれば、自分が楽になるし、その方法を伝えることができれば、他人の支援にもなります。一通りストレスについて知った後、人々の集団である「組織」に目を向けて、組織の中でのストレス対処支援を中心に、組織における心理臨床について知りましょう。組織については、特にストレスが問題になりやすい産業・労働領域に注目しますが、そこに限らずに、広く学びます。さらに「ストレス」や「組織における心理臨床」を知り、掘り下げて探究するうえで必要な、研究に関する基礎力も身につけましょう。
到達目標	①ストレスおよび組織に関する臨床心理学的知識を身につける。 ②学んだ知識を活用できる。 ③独力で臨床心理学領域の課題について調査・検討・報告を行うことができる。 ④他者と議論をすることができる。
授業の進め方	秋学期（応用演習Ⅱ）は講義とロールプレイ、個人での調査・検討・報告を中心に行います。ストレスと関連が深い領域である産業・労働領域の施設見学も予定しています。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での質問には、原則その場で回答・コメントをします。 ポスター発表に向けての準備や資料については、ゼミ内での議論のほかに、個別に指導を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	秋学期導入講義「産業領域の心理職」	対面
第2回	産業領域のストレス対処（講義・ロールプレイ）	対面
第3回	施設見学準備講義（部外招聘講師予定）	対面
第4回	施設見学（産業・労働領域）	対面
第5回	「ストレス対処」「組織における心理臨床」に関する個人テーマ決定／心理学研究の基礎Ⅱ	対面
第6回	個人テーマ文献調査	対面
第7回	個人テーマ報告準備Ⅰ	対面
第8回	個人テーマ中間報告会	対面
第9回	個人テーマ報告準備Ⅱ	対面
第10回	個人テーマ報告準備Ⅲ	対面

第11回	ゼミ内最終報告会	対面
第12回	応用演習合同ポスター発表※	対面
第13回	テーマ研究に向けて（テーマ研究発表聴講）※	対面

事前・事後学修	発表準備・施設見学準備・講義の復習・記録化などで、事前事後とも平均して2時間半程度必要になります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ロールプレイ・ディスカッション・施設見学での取り組みの内容・主体性・協調性 40％ 施設見学事後レポート 15％ ゼミ内最終報告会および合同ポスター発表の内容 35％ テーマ研究発表の聴講および感想文 10％
テキスト	事前または授業中に配布します。
参考文献	『産業心理臨床実践』（心の専門家養成講座8）金井篤子編 ナカニシヤ出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本演習は、産業・労働領域と司法・犯罪領域での実務経験を有する教員が担当します。適宜、実務上の視点を取り入れた解説を行います。
備考	授業計画のうち、※印部分については、ゼミ外での活動となるため、予定が変更になる可能性もあります。 施設見学の日程は、見学予定施設と調整の上決定します。そのため、授業の順序が前後する場合があります。また感染症拡大等施設の都合により、見学が中止となる可能性もあります。 施設見学時の現地までの交通費は、各人の負担となります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [臨心][高野]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

	応用演習Ⅰ・Ⅱを通して、本ゼミでは積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標としている。これを達成するために、下記の①理論と②実践、③ポスター発表における到達目標を設定する。
授業の 目的と 概要	①臨床心理学（精神分析）について理論的に学ぶことを通して、臨床現場のみならず、日常での対人関係において人間理解の手がかりとして活用することができるようになる。 ②臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことが出来る。 ③ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイディアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。
到達目 標	本ゼミでは、積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標としている。これを達成するために、応用演習Ⅰでは①理論を、応用演習Ⅱでは②実践、③ポスター発表における具体的な目標を設定する。 ①心の発達や心理的問題、病理などについて大まかに説明できるとともに、対人関係で生じる様々な現象を人間理解の手がかりとして考えることができるようになる。 ②臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことが出来る。 ③ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイディアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。
授業の 進め方	臨床心理学の文献を用いて、子どもの発達に関わる課題や支援の視点を理解する上での基本的な概念を学ぶ。それぞれの講義のテーマに沿って講師が解説を行った後、課題を提示し、受講者全員でディスカッションを行ない、理解を深める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは講義内で解説、添削を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 春学期の振り返り
第2回	施設の概要と支援内容について（１）
第3回	支援を必要とする子どもへの対応（１）
第4回	支援を必要とする子どもへの対応（２）
第5回	支援を必要とする子どもへの対応（３）
第6回	支援を必要とする子どもへの対応（４）

第7回	図書館ガイダンス
第8回	ポスター作成についての諸注意とテーマについて
第9回	ポスター制作（１）
第10回	ポスター制作（２）
第11回	ポスター添削・修正①
第12回	ポスター添削・修正②
第13回	合同ゼミ ポスター発表会

事前・事後学修	日ごろから、ニュースや新聞などで心や福祉に関する情報を入手するよう心掛けること。テーマに関する議論で自分の意見が言えるように、テキストや配布された資料以外の文献も自主的に調べて学修をつむこと。本演習は、講義時間外にも課題の実施などが必要となる。予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

成績評価基準と方法	毎回のゼミの課題提出 60％ 中間課題（レジュメ発表） 20％ 最終課題提出（ポスター制作・発表） 20％
テキスト	必要に応じて適宜プリントを配布する。
参考文献	①『地域実践心理学―支えあいの臨床心理学へ向けて』（2005）中田 行重（著）ナカニシヤ出版 ②「ライブ講義 質的研究とは何か」西條剛央著、新曜社 ③「心理学論文の書き方」松井豊著、河出書房新社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、ボランティア活動などの地域支援の経験のある教員が心理支援の発想と技術をクライアントに活かす視点と対人コミュニケーション能力を養う演習を実施する。
備考	欠席による学習の遅れは、毎回のグループワークのディスカッションに支障をきたす。そのため毎回出席すること。 学外での活動は内容によって宿泊を伴うこともある。その際の交通費、宿泊費、食費は自己負担となる。 - 施設支援、子ども支援活動は、週末の土日に開催されるため、各自日程の調整が必要となる。 - 特に学外での活動において、メールや電話での連絡応答が必要になる。日ごろから、メールを確認し、返信を忘れずにすること。 - 自分が健康でないと支援を求める人に応えることはできない。施設見学、支援活動当日に向けて日ごろから自身の体調をよく管理すること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [臨心][橋本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は臨床心理学領域における習得した知識、技能の活用能力を高めることを目的とする。応用演習Ⅰで学んだ内容を発展させ、各人のテーマを見つける。先行研究のまとめ、予備調査を行い、ゼミナール発表の形にまとめる。また、フィールドワークとして調査活動に参加する。
到達目標	自分なりの研究テーマを絞り込み、先行研究を十分調査した上で、オリジナリティのある研究計画をたてることができるようになる。
授業の進め方	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「課題を発見し、解決する力」を養うことをを目的とした演習を行う。それぞれのテーマによる内容のプレゼンテーション、質疑応答を行い、研究計画を確定させる。予備調査や予備実験を行い、研究の実現可能性を確認し、討議する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究計画発表内容をまとめたものに対して担当教員がコメントをする。参考となる資料については紹介をする。適宜、資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	各自の研究テーマをいくつか考える。まずは、今までのテーマ研究・卒業研究で扱われた内容を参考までに紹介する。関心のあるトピックや問題とされていることを挙げてフリーに話し合う。	対面
第2回	第1回目でのテーマの中から意見交換をして、2,3人のグループで扱うテーマを選ぶ。（仮テーマとなる）仮テーマについて分担し、それぞれ予備調査(1)を行う。	対面
第3回	予備調査(2)	対面
第4回	グループで仮テーマの中からそれぞれ1つを選び、参考文献を探す。	対面
第5回	決定したテーマについての参考文献を5つ以上探し、要約を行う。次回のゼミ内発表の準備をする。	対面
第6回	グループごとのテーマに基づいての参考文献の内容の紹介発表を行う。	対面
第7回	参考文献から仮説を3つ以上立てる。そのうち1つを選び予備実験または予備調査を計画する。	対面
第8回	予備実験または予備調査をゼミ内で行う。結果をまとめる。	対面
第9回	予備調査の結果を受けて、グループで研究計画を立てる。フィールドワーク計画づくり。	対面
第10回	フィールドワーク（心理の実践現場についての学習）	対面
第11回	フィールドワーク振り返り まとめレポート作成	対面

第12回	フィールドワークについてゼミ内発表	対面
第13回	まとめ、今後の研究実施について考える	対面

事前・事後学修	論文検索法を身につけ、それを使えるようになること、PCの基本操作、PP作成、エクセル統計、SPSS統計などに慣れることが必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①質疑応答に対する自己と他者によるチェックシート評価 30% ② 参考文献まとめ発表でのレジュメ評価 20% ③フィールドワーク参加及び発表評価 20% ④個人まとめレポート 30%
参考文献	数学が苦手な人のための多変量解析ガイド 調査データのまとめかた 古谷野亘 著 川島書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「課題を発見し、解決する力」を養うことをを目的とした演習を行う。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[臨心][青木]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、応用演習Ⅰに引き続き、フィールドワークを行い、発達臨床領域における学びを広げる。授業後半は、ゼミで一つのテーマを設定して、その先行研究のまとめ、調査を行いポスターの形でまとめてその発表を行う。
到達目標	研究テーマを設定し、先行研究をまとめるとともに、来年度の「臨床テーマ研究」に向けて調査方法を理解し、調査計画を検討することができる。
授業の進め方	グループで調査（フィールドワーク）を行い、そのまとめ（レポート作成）と報告をする。後半は、ゼミで一つのテーマを選び、その先行研究を収集、調査を行い、ポスターの形にまとめ、それを発表する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループで実際に調査（フィールドワーク）を行い、そのまとめ（レポート作成）と報告をする。後半は、各自興味のあるテーマを選び、その先行研究を収集、必要に応じて調査を行い、ポスターの形にまとめ、それを発表する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・面談
第2回	フィールドワークの準備
第3回	フィールドワーク①
第4回	フィールドワーク②
第5回	フィールドワークの振り返り・研究テーマ設定に向けて
第6回	先行研究の検索とまとめ
第7回	調査方法について
第8回	調査準備
第9回	データをまとめる
第10回	ポスター制作①
第11回	ポスター制作②
第12回	ポスター発表
第13回	テーマ研究発表会見学・まとめ

事前・事後学修	・フィールドの情報収集 ・フィールドワークの報告書作成 ・先行研究の講読・レジメ作成 ・ポスター作成 事前・事後それぞれ2時間半程度とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	フィールドワーク報告 20% 先行研究のレジメ作成と発表 30% ポスター発表 30% リフレクションシート 20%

備考	フィールドワークにおいて交通費がかかる場合があります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [臨心][松浦]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本年度の「応用演習〔松浦〕」は「心理検査について学ぶ」というテーマでゼミを行う。春学期の「応用演習Ⅰ」ではWAIS知能検査を体験した。秋学期の「応用演習Ⅱ」では投射法、特にロールシャッハテストを体験する。その後、「応用演習Ⅰ〔松浦〕」で行った知能検査結果を統合し、総合的所見を書くことを目指す。
到達目標	心理アセスメント（ロールシャッハテスト）について知ることを目指す（知るということは、その心理検査ができるようになるということの意味している訳ではない。何事も、まずは知ることが重要となる）。
授業の進め方	担当教員の概論的なレクチャーの後、ロールプレイを行う。演習終了後、受講者は自分の体験を振り返る。体験と内省による学習が基本となる。そして最終的には自分が興味ある分野を見定めていくことになる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	上述のように各回、ディスカッションやグループワークを行う。そこで出された意見について担当教員も適宜コメントを加える。つまり、ディスカッションを通して、フィードバックが与えられることになる。また、各回、リフレクションシート等に自身の意見や考えを記入する。次の回に担当教員がそれにコメントすることがある。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（秋学期）、ゼミ役割やルールの確認
第2回	ロールシャッハテスト ガイダンス
第3回	ロールシャッハテスト スコアリング(1)
第4回	ロールシャッハテスト スコアリング(2)
第5回	ロールプレイ(1)
第6回	ロールプレイ(2)
第7回	ロールプレイ(3)
第8回	研究テーマの絞り込み、発表準備(1)
第9回	研究テーマの絞り込み、発表準備(2)
第10回	研究テーマの絞り込み、発表準備(3)
第11回	ゼミ内発表会
第12回	発表会
第13回	まとめ

事前・事後学修	事前学習として演習内で配布するレジュメや指定する文献をよく読んでおくこと。事後学習としては、授業時の体験を振り返り、リフレクションシート等にまとめること。次の回で発表してもらうことがある。自身の考えが他者からどう受け取られたのか、理解してもらったことや理解してもらえなかったことなどを振り返り、その体験からどのような情緒が生じるのか、どのような新しい考えが生まれるのかを体験して欲しい。それらの合計は5時間以上となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で評価する。 A) ディスカッション：30% B) ロールプレイ：30% C) 発表会プレゼン＆ポスター：40%
テキスト	特にない。
参考文献	適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、医療保健分野や教育分野で臨床心理士として豊富な経験を積み、心理的支援や教育現場での実践に携わってきました。これらの経験を基に、理論と実践を織り交ぜた具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	様々な心理検査に興味を持ち、講義に臨んで欲しい。 全体発表会の日程は別途知らせる。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[臨心][品川]
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この科目では、児童福祉に関連する内容について基礎的な学習をすすめながら、個別のテーマに沿って、調査・研究を行う。 論文執筆の基本的なプロセスを経験することで、調べる・思考する・文章化する・他者と協働するなど、 社会人として必要な教養や臨床心理学援助に必要なスキルを獲得することを目的とする。 また児童福祉に関する施設を対象としたフィールドワークを行う際には、事前学習、当日の活動、振り返りなど 学外にでるときの準備や心構えなどについても身につける。
到達目標	児童福祉に関する事象に関心をもち、それについて他者と協働して課題を解決することができる。 グループにおいてそれぞれの役割を責任をもって果たすことができる。 子どもの権利について説明することができる。
授業の進め方	講義はゼミナールごとの少人数で行う。調べる、まとめる、発表する、議論する、などを行うほか、フィールドワークも行う。 毎回の授業において課題を設定し、それに取組みリフレクションシートを提出する。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート等に対するフィードバックは、個人的な内容についてはLMSを通して、 全体で共有すべきことは、次回の授業の際にコメントする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	春学期の振り返りと秋学期の学修計画の作成	対面
第2回	オレンジリボンキャンペーンの目的と計画	対面
第3回	オレンジリボンンキャンペーンの準備	対面
第4回	オレンジリボンリボンキャンペーンの準備	対面
第5回	オレンジリボンキャンペーンの実施	対面
第6回	オレンジリボンキャンペーンの振り返り	対面
第7回	フィールドワークの準備	対面
第8回	フィールドワークの実施	対面
第9回	フィールドワークの振り返り	対面
第10回	ポスター発表準備　グループ分け	対面
第11回	ポスター発表準備　作成	対面
第12回	ゼミ内ポスター発表会と本番の準備	対面
第13回	ポスター発表会	対面

	授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。	2025/04/01

事前・事後学修	授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。 事前・事後それぞれ2時間程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回のリフレクションシート50% 中間報告・最終報告50%
テキスト	テキストは特に指定しない。
参考文献	参考文献は必要に応じて授業内やLMSで提示する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [臨心][永井]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本演習では応用演習Ⅰに引き続き、教育や児童福祉の領域における対人援助職の専門性を理解し、実践と研究を通して自らの専門性を高めていく基礎をつくることを目的とする。 応用演習Ⅰではではつながりをつくる専門性の基礎作りとして様々な当事者や支援者の声を聴き、現場の課題を理解する授業を展開してきた。本演習では前半は応用演習Ⅰと同様の活動を続け、後半はポスター発表を通して次年度テーマ研究に向けた取り組みを実施する。
到達目標	(1)授業に積極的に参加し、議論することができる。（関心・意欲） (2)当事者・支援者の話から現場の課題を見出し、まとめることができる。（思考・判断） (3)教育・福祉領域の諸問題について自ら調べ、説明することができる。（知識・理解） (4)自分の関心のあるテーマや問題について資料を作成し、説明することができる。（技能・表現）
授業の進め方	講義形式とグループワークの形式で進めていく。当事者や支援者の許可が得られればフィールドワークとして現場に訪問し、聞き取りを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については基本的に個別対応とし、質問や相談があれば適宜対応する。全体に共有する必要がある場合については授業内で行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 夏休み中の課題の発表・報告
第2回	教育における緒問題を知る① テーマを設定，調べ学習
第3回	教育における緒問題を知る② 調べ学習の内容を発表
第4回	教育における緒問題を知る③ 現役学校教員による講話
第5回	教育における緒問題を知る④ 講話の振り返りとまとめ
第6回	若者支援の問題を知る① テーマを設定，調べ学習
第7回	若者支援の問題を知る② 若者支援の支援者の講話
第8回	若者支援の問題を知る③ 講話のまとめと振り返り
第9回	ポスター発表準備① テーマ設定

第10回	ポスター発表準備② 資料作成
第11回	ポスター発表③ 資料・原稿作成
第12回	ポスター発表④ 模擬発表
第13回	ポスター発表会への参加 演習の振り返り

事前・事後学修	事前学修：各授業のテーマに関する書籍や報告書などを調べる。 事後学修：授業後にテーマの内容と現場の課題について振り返り、自分なりにまとめる。 事前・事後学修の時間を合わせて5時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標(1)、(2)：授業への参加態度＋振り返りレポート（60％） 到達目標(3)：授業テーマに関する自主学修レポート（20％） 到達目標(4)：ポスター発表会への参加＋資料提出（20％）
テキスト	適宜配布する。
参考文献	適宜指示する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [臨心][吉崎]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	応用演習Ⅰのテーマを引き告ぎ、草取りを中心とした独居の高齢者宅の生活支援ボランティアも継続する。 心理学領域の福祉における高齢者の理解をさらに深め、フィールドワークで集めたデータを基にその領域における研究論文の購読をし、ポスター発表に向け仲間とディスカッションをしながら完成を目指す。 園芸療法士の視点から対人援助職としての関わり方や心理的アプローチの方法についても引き続き実践を通して学ぶ。
到達目標	各自の興味・関心から心理学研究のテーマを模索し、その基本的知識をみきわめ、現実可能なゴールに向かって研究計画を主体的に作成できるようになる。 行政と連携した屋外活動に参加し利用者の理解に努め傾聴力・コミュニケーション能力を高める事ができる。
授業の進め方	前半はフィールドワークを継続し、応用演習Ⅰから集めたデータをまとめポスターセッションに向けて落とし込んでいく。 基本的にグループで1つのテーマを遂行する為、ポスターセッションに向けた取組もグループで分担しながら行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	フィールドワークの活動報告や振り返りはゼミ内やそれ以外の時間をかけて総評する ポスター発表については、内容・パワポ・発表の仕方を中心に考察し都度時間をかける。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フィールドワーク⑧&振り返り
第3回	フィールドワーク⑨&振り返り
第4回	フィールドワーク⑩&振り返り
第5回	フィールドワークのまとめ
第6回	文献検索と情報収集①
第7回	文献検索と情報収集②
第8回	ポスター発表中間発表
第9回	ポスター発表に向けての準備①
第10回	ポスター発表に向けての準備②
第11回	ポスター発表に向けての準備③
第12回	ゼミ内ポスター最終発表
第13回	まとめと振り返り 今後の研究の展望について

事前・事後学修	本科目ではフィールドワークも継続して行います。その為、フィールドワーク外で多くの時間が必要になります。各回によって差がありますが、平均して1コマ当たり2時間程度の準備時間が必要となります。復習については、フィールドワークの振り返りや評価を含めた高齢者像を福祉の観点から復習してください。1コマ2時間程度が基準となります。また、研究テーマについて自主的に学習するのが望ましいです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	フィールドワーク（35％） ゼミ内中間発表（30％） ポスター発表会（35％） を総合的に評価する

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[臨心][岡田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。心理学研究の方法論を身につけるための基礎として、心理学の研究論文の講読を行います。論文を読むことを通して、論理構造、実証的な方法論、調査・実験計画、分析方法等について理解することを目的とします。
到達目標	到達目標】 各自が、研究のためのテーマ設定、具体的な目的の設定、目的と合致した研究方法の組み立てを行い、具体的で実現可能な研究計画を作りあげることが目標とします。
授業の進め方	各自が、実証的な心理学の研究論文を読んで発表を行い、論文の中で採用されている研究手法や結果の解釈などについてゼミ形式で議論し、心理学研究の方法や論文についての理解を深めます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体でのオリエンテーション	対面
第2回	ゼミのガイダンス	対面
第3回	文献講読と発表	対面
第4回	文献講読と発表	対面
第5回	文献講読と発表	対面
第6回	文献講読と発表	対面
第7回	文献講読と発表	対面
第8回	文献講読と発表	対面
第9回	文献講読と発表	対面
第10回	文献講読と発表	対面
第11回	文献講読と発表	対面
第12回	各自の研究計画の発表	対面
第13回	春学期のまとめ	対面

事前・事後学修	毎回のレジュメの作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うことになります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	● 2025/04/01

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回レジュメの事前提出が必要です。 ゼミ内での発言・毎回の提出物（30%）、発表（40%）、レポート（30%） 毎回の発表およびレポート（宿題）で成績を評価します。発表できなかった場合には評価に影響しますので注意してください。
テキスト	テキストの指定はありません。
参考文献	心理学実験・研究レポートの書き方（フィンドレイ著 北大路書房） 研究論文で学ぶ臨床心理学（串崎・中田 編 ナカニシヤ出版） 対人社会心理学重要研究集 1～7（誠信書房）

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[臨心][荒関]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒関 守	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	テーマ「ストレス対処」「組織における心理臨床」「研究基礎力」 応用演習では、Ⅰ・Ⅱを通して、臨床心理学を用いた他者支援の基礎力を身に着けることが目的となります。本演習において、その目印となるテーマが上記3点です。 他人を支援するためには、自分の心身の健康が重要です。そのために心身をむしばむストレスに着目します。まず、ストレスとは何かを知りましょう。そのうえで、いたるところにあるストレス要因や自分の中に積み重なってしまうストレスに対処できるようになりましょう。そうすれば、自分が楽になるし、その方法を伝えることができれば、他人の支援にもなります。一通りストレスについて知った後、人々の集団である「組織」に目を向けて、組織の中でのストレス対処支援を中心に、組織における心理臨床について知りましょう。組織については、特にストレスが問題になりやすい産業・労働領域に注目しますが、そこに限らずに、広く学びます。さらに「ストレス」や「組織における心理臨床」を知り、掘り下げて探究するうえで必要な、研究に関する基礎力も身につけましょう。
到達目標	①ストレスおよび組織に関する臨床心理学的知識を身につける。 ②学んだ知識を活用できる。 ③独力で臨床心理学領域の課題について調査・検討・報告を行うことができる。 ④他者と議論をすることができる。
授業の進め方	春学期（応用演習Ⅰ）はストレスに関する基本的な講義と、ディスカッション、体験学習、個人での調査および報告を中心に行います。ストレスと関連が深い領域である司法・犯罪領域の施設見学も予定しています。 質問・意見・感想を記載するリアクションペーパーの提出を求める回があります。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での質問や発表には、原則その場で回答・コメントをします。 リアクションペーパーでの質問には、次回の授業内またはLMSで回答・コメントをします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	応用演習全体オリエンテーション	対面
第2回	講義1（ストレス）、自分のストレスを知る	対面
第3回	講義2（ストレス対処）、自分のストレス対処法を知る	対面
第4回	ストレス対処法	対面
第5回	心理学研究の基礎	対面
第6回	自分に合ったストレス対処（報告準備）	対面
第7回	自分に合ったストレス対処（報告会）	対面
第8回	講義3（組織の中のストレス）・ディスカッション	対面
第9回	講義4（産業領域のストレス対処システム）・ディスカッション	対面
第10回	施設見学準備	対面

第11回	施設見学（司法・犯罪領域）	対面
第12回	施設見学報告会	対面
第13回	春学期のまとめ	対面

事前・事後学修	発表準備・施設見学準備・講義の復習・記録化などで、事前事後とも平均して2時間半程度必要になります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義実施回に提出するリアクションペーパー（②③⑥⑦回） 20% ディスカッション・施設見学での取り組みの内容・主体性・協調性 50% 報告会の内容 30%
テキスト	事前または授業中に配布します。
参考文献	『カウンセラーはこんなセルフケアをやってきた』 伊藤絵美 晶文社 『セルフケアの工具箱』 伊藤絵美 晶文社 『コーピングのやさしい教科書』 伊藤絵美 金剛出版 『ストレスのトリセツ』 中野敬子 遠見書房 『ストレス軽減ワークブック』 ジョナサン・S・アブラモウィッツ 金剛出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本演習は、産業・労働領域と司法・犯罪領域での実務経験を有する教員が担当します。適宜、実務上の視点を取り入れた解説を行います。
備考	施設見学の日程は、見学予定施設と調整の上決定します。そのため、授業の順序が前後する場合があります。また感染症拡大等施設の都合により、見学が中止となる可能性もあります。 施設見学時の現地までの交通費は、各人の負担となります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ [臨心][高野]
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	応用演習Ⅰ・Ⅱを通して、本ゼミでは積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標としている。これを達成するために、下記の①理論と②実践、③ポスター発表における到達目標を設定する。 春学期は①②に取り組む。 ①臨床心理学について理論的に学ぶことを通して、臨床現場のみならず、日常での対人関係において人間理解の手がかりとして活用することができるようになる。 ②臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことが出来る。 ③ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイディアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。
到達目 標	積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標とする。これを達成するために、下記の①理論と②実践、③における到達目標を設定している。応用演習Ⅰでは①②を、Ⅱでは①②③を具体的な到達目標とする。 ① 臨床心理学における心の発達と問題、病理などについて学ぶことを通して、臨床現場のみならず、日常での対人関係においてその発想を人間理解の手がかりとして活用することができるようになる。 ②臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことが出来る。 ③ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイディアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。
授業の 進め方	①臨床心理学の文献を用いて、心の発達や心理的問題、病理に関わる支援の視点を理解する上での基本的な概念を学ぶ。それぞれの講義のテーマに沿って履修生がレジュメを準備し、受講者全員でディスカッションを行ない、理解を深める。 ②地域支援についての基礎を学んだうえで、実際の支援施設の運営を支援する。これらの体験を踏まえ、援助者として支援施設の利用者に対するボランティア活動に参加し、対人援助の関わりについて学ぶ。 本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、ボランティア活動などの地域支援の経験のある教員が心理支援の発想と技術をクライアントに活かす視点と対人コミュニケーション能力を養う演習を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の課題、グループワーク、フィールドワークでまとめた内容を紙面にて提出したものについて、講義内で内容の確認と添削指導を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	3年生合同オリエンテーション（ゼミ決め）

2025/04/01

第2回	イントロダクション　ゼミ紹介　ゼミの活動について諸注意
第3回	地域支援とは
第4回	支援施設運営ボランティア①
第5回	支援施設運営ボランティア②
第6回	子どもの発達とは
第7回	不登校について
第8回	発達障害とことばの教室に通う子どもたちの特徴について
第9回	子どもに関わるボランティア支援における基本姿勢、関わり方、事前準備など
第10回	余市教育福祉村での子どもに関わるボランティア支援①
第11回	余市教育福祉村での子どもに関わるボランティア支援②
第12回	余市教育福祉村での子どもに関わるボランティア支援③
第13回	地域支援の振り返り・体験についてのディスカッション

事前・事後学修	日ごろから、ニュースや新聞などで心や福祉に関する情報を入手するよう心掛けること。テーマに関する議論で自分の意見が言えるように、テキストや配布された資料以外の文献も自主的に調べて学修をつむこと。本演習は、講義時間外にも課題の実施などが必要となる。予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①毎回の課題提出75％ ②定期末の報告書提出25％
テキスト	必要に応じて適宜プリントを配布する。
参考文献	地域実践心理学―支えあいの臨床心理学へ向けて(2005)中田 行重 (著)ナカニシヤ出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、ボランティア活動などの地域支援の経験のある教員が心理支援の発想と技術をクライアントに活かす視点と対人コミュニケーション能力を養う演習を実施する。
備考	欠席による学習の遅れは、毎回のグループワークのディスカッションに支障をきたす。そのため毎回出席すること。 学外での活動は内容によって宿泊を伴うこともある。その際の交通費、宿泊費、食費は自己負担となる。 - 施設支援、子ども支援活動は、週末の土日に開催されるため、各自日程の調整が必要となる。 - 特に学外での活動において、メールや電話での連絡応答が必要になる。日ごろから、メールを確認し、返信を忘れずにすること。 - 自分が健康でないと支援を求める人に応えることはできない。施設見学、支援活動当日に向けて日ごろから自身の体調をよく管理すること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ [臨心][橋本]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 橋本 久美	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	臨床心理学領域における基礎的知識、技能の活用能力を高めることが本講義の目的である。各自の研究テーマの探索のために問題意識を明確にする。研究領域としては、身体と心,また脳と心の関連についてである。具体的には、社会不適応やゲーム依存、ストレスなど思春期における生活習慣改善を中心とした問題提起、メンタルヘルス向上のためのプログラム作り、脳波計を用いた感情や意思の読み取りなどの学習を行う。また、臨床心理の実践を学ぶために各種実験も行う。
到達目標	関心のあるテーマについて適切な研究方法を選択し、研究計画を立てられるようになる。心理学研究の基本的知識を身につける。施設等での見学や調査を通じて心理学実践についての見識を深める。
授業の進め方	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「ゲーム依存の心理研究」などのいくつかのテーマについて知識の習得を目的とした演習を行う。レポート、論文を探し、読解、研究への応用を学ぶ。データ集積、統計分析、データ解釈を行うことにより、具体的な研究手法を学ぶ。脳波計を使った実験を全員ができるようにする。実験的イベントでは学んだことのまとめを行い、中間発表としてポスターにまとめる。フィールドワークを行い、臨床心理学の実践的学びとすることで、知識と実践の両面からのバランスの良い学習とする。

アクティブ・ラーニング

PBL	グループワーク	フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	先行研究のまとめに関して、グループディスカッションを行い、その記録をまとめたものにコメントをする。施設訪問では事前学習したうえで見学に臨み、事後学習を行う。適宜、資料を配布・課題の提出を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	心理学の分野より関心のあるテーマについて考える。フリートーク	対面
第2回	文献検索オリエンテーション 文献を探し方の説明のあと、実際に探してみる	対面
第3回	個人で選んだ論文についての概要をシートに沿ってまとめる。まとめたものをゼミ内で発表する。	対面
第4回	グループ分けと個別研究の仮決定 何を研究するかをまとめ、発表する。また、ここまでで施設等の訪問先の希望をとる。	対面
第5回	施設訪問事前学習として、施設の概要について調べ、まとめる。	対面
第6回	施設訪問	対面
第7回	施設訪問事後学習 感想と学んだことをまとめる	対面
第8回	研究に関する文献調査（図書館）	対面
第9回	文献内容まとめ（1）	対面
第10回	文献内容まとめ（2）	対面
第11回	文献まとめのゼミ内発表	対面
第12回	振り返り まとめ	対面
第13回	ゼミ内でのコミュニケーションを深める	対面

事前・事後学修	心理学研究法として心理統計や研究デザインについて自主的に学習するのが望ましい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①質疑応答に対する発言チェック 30% ②見学実習のレポート評価 20% ③グループディスカッション記録 20% ④最終レポート 30%
参考文献	実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方 古谷野亘他 著 ワールドプランニング

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、医療・教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「ゲーム依存の心理研究」などのいくつかのテーマについて知識の習得を目的とした演習を行う。
備考	ゼミナール合同で脳波測定実験を行うことがある。脳と心に関する勉強をしておくのが望ましい。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[臨心][青木]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は、臨床発達の実践的に学ぶことを目的とする。前半は、発達のみちすじ、発達課題などを文献を通して学習するとともにその支援について学ぶ。後半は、臨床発達（子ども～成人期の障害を持つ方）の場でのフィールドワークを行う。フィールドの人々に関わり、その特性、支援方法などを体験的に学び報告書を作成する。
到達目標	・臨床発達に関する文献を講読して、レジメ作成、発表することができる。 ・発達臨床の場においてフィールドの人々に関わりながら観察することができる ・フィールドワークの結果をまとめることができる。
授業の進め方	前半は発達に関する文献を読み、分担を決め、レジメ作成、発表を行う。後半は、臨床発達の場でのフィールドワークを行い、実践的に臨床発達について学んでいく。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発表内容、作成したレジメ、報告書に対して、助言、指導する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・文献購読の準備・面談
第2回	文献購読・面談
第3回	文献購読・レジメの作成
第4回	文献の紹介（レジメ発表）①
第5回	文献の紹介（レジメ発表）②
第6回	フィールドの理解①
第7回	フィールドワーク①
第8回	フィールドワーク②
第9回	フィールドワークのふりかえり①
第10回	フィールドの理解②
第11回	フィールドワーク③
第12回	フィールドワーク④
第13回	フィールドワークのふり返し②

事前・事後学修	・文献の収集や講読、レジメ作成をすること。 ・フィールドワーク先の情報を集めること。 ・フィールドワークの報告書を作成すること。 事前・事後それぞれ2時間半程度要する。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レジメ作成と発表 50% フィールドワーク報告 50%

備考	・フィールドワークの交通費などは自己負担となる ・フィールドの理解が不十分であるとフィールドワークに支障が出るのでゼミには出席すること。体調不良で欠席する場合は連絡すること。 ・フィールドワークは、フィールドの活動に合わせて行うので、ゼミ日以外で行うことがある。 ・フィールドにおいて必要なマナーは身につけていること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[臨心][松浦]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本年度の「応用演習〔松浦〕」は「心理検査について学ぶ」というテーマでゼミを行う。臨床心理士の重要な仕事のひとつに心理検査（心理アセスメント）があるが、松浦の「応用演習」では1年間を通じて心理検査を実際に体験する。春学期の「応用演習Ⅰ」では、受講者同士で基本的情報（生活史等）を確認をした後、WAIS知能検査を行い、心理検査の実際を学ぶことが目標となる。
到達目標	心理アセスメント（WAIS知能検査）について知ることを目指す（知るということは、その心理検査ができるようになるということの意味している訳ではない。何事も、まずは知ることが重要となる）
授業の進め方	担当教員の概論的なレクチャーを行った後、ロールプレイを行う。演習終了後、受講者はリフレクションシート等を利用し、自分の体験を振り返る。体験と内省による学習が基本となる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回、ロールプレイを行う。出された意見について担当教員も適宜コメントを加える。つまり、ディスカッションを通して、フィードバックが与えられることになる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（春学期）、ゼミでの役割やルールの確認
第2回	生育歴などの確認(1)説明
第3回	生育歴などの確認(2)ロールプレイ
第4回	知能検査ガイダンス
第5回	WAIS(1)説明
第6回	WAIS(2)ロールプレイ
第7回	WAIS(3)ロールプレイ
第8回	解釈(1)説明
第9回	解釈(2)
第10回	解釈(3)
第11回	解釈(4)
第12回	体験発表会
第13回	春学期のまとめ

事前・事後学修	予習・復習の時間は、合計5時間を目安とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で評価します。 A) ディスカッション：30% B) ロールプレイ：30% C) 解釈（レポート）：40%
テキスト	特にない。
参考文献	適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	臨床心理士資格を有する教員が「心理検査」をテーマに展開する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[臨心][品川]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この科目では、児童福祉に関連する内容について基礎的な学習をすすめながら、個別のテーマに沿って、調査・研究を行う。 論文執筆の基本的なプロセスを経験することで、調べる・思考する・文章化する・他者と協働するなど、 社会人として必要な教養や臨床心理学援助に必要なスキルを獲得することを目的とする。 また児童福祉に関する施設を対象としたフィールドワークを行う際には、事前学習、当日の活動、振り返りなど 学外にでるときの準備や心構えなどについても身につける。
到達目標	児童福祉に関する事象に関心をもち、それについて他者と協働して課題を解決することができる。 グループにおいてそれぞれの役割を責任をもって果たすことができる。 子どもの権利について説明することができる。
授業の進め方	講義はゼミナールごとの少人数で行う。調べる、まとめる、発表する、議論する、などを行うほか、フィールドワークも行う。 毎回の授業において課題を設定し、それに取組みリフレクションシートを提出する。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート等に対するフィードバックは、個人的な内容についてはLMSを通して、 全体で共有すべきことは、次回の授業の際にコメントする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション　テーマの設定について（合同授業）	対面
第2回	各自の目標および、ゼミ活動の計画作成	対面
第3回	研究のすすめかた	対面
第4回	児童福祉の基礎的な知識（子どもの権利）	対面
第5回	児童福祉の基礎的な知識（児童虐待）	対面
第6回	児童福祉の基礎的な知識（社会的養護）	対面
第7回	テーマに応じたグループ活動（1）	対面
第8回	テーマに応じたグループ活動（2）	対面
第9回	フィールドワーク事前学習（基礎知識）	対面
第10回	フィールドワーク事前学習（質問児童等の作成）	対面
第11回	フィールドワークの実施	対面
第12回	報告会	対面
第13回	春学期授業のまとめ	対面

事前・事後学修	授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。 授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。 事前・事後それぞれ2時間程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回のリフレクションシート50％ 中間報告・最終報告50％
テキスト	テキストは特に指定しない。
参考文献	参考文献は必要に応じて授業内やLMSで提示する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ [臨心][永井]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本演習では教育や児童福祉の領域における対人援助職の専門性を理解し、実践と研究を通して自らの専門性を高めていく基礎をつくることを目的とする。 近年、子どもの複雑化・多様化する課題に対応するために多職種の連携・協働が強調され、対人援助職にはつながりをつくる専門性が求められている。多職種が連携・協働するためにはそれぞれの職種の専門性を理解し、現場が抱える困難・葛藤を丁寧に聴くことが第一歩となる。そこで本演習ではつながりをつくる専門性を高める基礎作りとして様々な当事者や支援者の声を聴き、現場の課題を理解する授業を展開する。
到達目標	(1)授業に積極的に参加し、議論することができる。（関心・意欲） (2)当事者・支援者の話から現場の課題を見出し、まとめることができる。（思考・判断） (3)教育・福祉領域の諸問題について自ら調べ、説明することができる。（知識・理解）
授業の進め方	講義形式とグループワークの形式で進めていく。当事者や支援者の許可が得られればフィールドワークとして現場の課題の聞き取りを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については全体に共有する必要がある場合について授業内で行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	合同オリエンテーション 各ゼミの説明とゼミ決め
第2回	オリエンテーション 永井ゼミの活動の説明と役割分担
第3回	模擬ケースカンファレンス
第4回	不登校の問題を知る① 不登校に関する調べ学習
第5回	不登校の問題を知る② 調べ学習の発表
第6回	不登校の問題を知る③ 相談支援事業所ピアサポーター（不登校当事者）による講話
第7回	不登校の問題を知る④ 講話の振り返りとまとめ
第8回	児童虐待の問題を知る① 調べ学習
第9回	児童虐待の問題を知る② 調べ学習の発表
第10回	児童虐待の問題を知る③ 児童相談所職員による講話

2025/04/01

第11回	児童虐待の問題を知る④ 講話の振り返りとまとめ
第12回	フィールドワーク 教育・福祉領域の施設見学
第13回	演習の振り返りとレポート作成

事前・事後学修	事前学修：各授業のテーマに関する書籍や報告書などを調べる。 事後学修：授業後にテーマの内容と現場の課題について振り返り、自分なりにまとめる。 事前・事後学修の時間を合わせて5時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標(1)、(2)：授業への参加態度＋振り返りレポート（60％） 到達目標(3)：授業テーマに関する自主学修レポート（40％）
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[臨心][吉崎]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	テーマ：清田区における独居の高齢者の現状について、調査・研究を行う。 本年度は清田区社会福祉協議会と連携を図り、草取りを中心とした独居の高齢者宅の生活支援ボランティアに積極的に参加し、心理学領域の福祉における高齢者の理解を深め、現状の問題点をマクロ的な視点とミクロ的な視点から分析する事を目的とする。 園芸療法士の視点から対人援助職としての関わり方や心理的アプローチの方法についても実践を通して学ぶ。
到達目標	各自の興味・関心から心理学研究のテーマを模索し、その基本的知識をみきわめ、現実可能なゴールに向かって研究計画を作成できるようになる。 行政と連携した屋外活動に参加し利用者の理解に努め傾聴力・コミュニケーション能力を高める事ができる。
授業の進め方	多くの回数をグループワークと実習にかける。 毎回の実習での利用者からのアンケートとフィードバックを確認しながら進める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	フィールドワークの活動報告や振り返りはゼミ内やそれ以外の時間をかけて総評する

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	関心領域についての意見交換
第3回	清田区社会福祉協議会訪問 生活支援についての概要と現状
第4回	フィールドワーク計画とグループ分け
第5回	フィールドワーク①&振り返り
第6回	フィールドワーク②&振り返り
第7回	フィールドワーク③&振り返り
第8回	フィールドワーク④&振り返り
第9回	フィールドワーク⑤&振り返り
第10回	フィールドワーク⑥&振り返り
第11回	フィールドワーク⑦&振り返り
第12回	アンケート調査のまとめと報告会
第13回	全体の振り返り

事前・事後学修	本科目ではフィールドワークが大半の時間を締め、ゼミ以外の時間でもフィールドワークに行く可能性があります。その為、フィールドワーク外で多くの時間が必要になります。各回によって差がありますが、平均して1コマ当たり2時間程度の準備時間が必要となります。復習については、フィールドワークの振り返りや評価を含めた高齢者像を福祉の観点から復習してください。1コマ2時間程度が基準となります。また、研究テーマについて自主的に学習するのが望ましい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1 フィールドワーク（50％） 2 振り返りシート（30％） 3 取り組み姿勢（20％） を総合的に評価する

備考	夏場のフィールドワークは暑さ対策が大切になりますので各自対処するように心がけてください。

年度	2025
講義名称	色彩心理学
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04903L 心理学科子ども心理専攻：PCD04304L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 文代	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	現代の社会生活の中には。多様な分野で「色」が使用されています。この講義では、色彩と人間の心理的側面から、生活における色彩の役割やその基本的な運用方法について学習します。具体的には、色が見える生理的なしくみから、色覚の多様性、色彩を運用するための表現方法、基本的な配色の考え方などを指定のカラーカードを用いた演習を通じて理解します。
到達目標	①色が見える仕組みについて理解し、色の見え方にも個人差があることを理解する。②色の見え方が状況や配色によって異なることを理解し、状況に応じた色使いを考案できる。③多様な色覚者が存在することを理解し、カラーユニバーサルデザインの主要ポイントを理解する。④色の心理効果を理解し、用途やイメージに応じた配色を考案できる。
授業の進め方	対面の講義形式を中心とし、カラーカードを用いた演習を実施する。演習を実施することにより色の効果や配色を感覚的に身につける。演習で用いるカラーカードは、正確に色を再現された指定のものに限る。したがって受講者は必ず指定のカラーカードを用意すること。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題は授業で解説を行い、提出課題はフィードバックして返却する。webテストの場合は、webClassにて正解をフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンスと色彩心理学の概要	対面
第2回	視覚のしくみと色が見えるしくみ：色が見える生理的なしくみについて理解する	対面
第3回	色覚とカラーユニバーサルデザイン：色の見え方には個人差があることを理解し、万人にとってわかりやすいデザインについて学習する	対面
第4回	色の文化差と嗜好性：色の好き嫌いは文化による意味づけ、個人的な体験に由来するなど多様な要因が混ざり合っていることを理解する	対面
第5回	色名と伝統色：色名は多様な色彩を言語によって区別していることを理解し、色名が自然などの環境、文化や歴史によって命名されていることを学習する	対面
第6回	色の三属性と表色システム：多様な色が知覚される色彩の基本性質を属性を中心に理解し、属性を軸とした表色システムを学習する	対面
第7回	色の視覚効果1 -心理的効果：色が重さや温度など多様な感覚に影響を与えること、や色によって与えられるイメージや印象、色の機能を理解する	対面
第8回	色の視覚効果1 -知覚的効果と色の恒常性：色の対比効果や恒常性など物理的な色とは異なって見える現象を体験しながら学習する	対面
第9回	配色の効果1：配色の基本的な考え方と基本理論を学習する	対面
第10回	配色の効果2：実践的な配色の基本法則について学習する	対面
第11回	生活と色彩1：インテリアを中心とした配色の考え方を事例を交えて学習する	対面

第12回	生活と色彩2：エクステリアを中心とした色彩の運用を事例を交えながら学習する	対面
第13回	全体の総括と総合試験	対面

事前・事後学習	事前学習は重視しない。事後学習は配布資料や教科書の該当箇所をしっかりと読むこと。また、課題は主題の意図を考えしっかりと組むこと。（目安1～3時間程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	8回以上の出席が必要。講義の最終回に総合試験を実施する。提出課題の正確性や色彩運用の考え方が適切であるかを課題の成績の判断基準とする。成績は試験の成績と課題や小テストを合わせて総合的に評価する。
テキスト	教科書： 色彩検定 公式テキスト 3級編 内閣府認定 公益社団法人 色彩検定協会（編集） カラーカード： 日本色研 新配色カード 199a（旧バージョン可）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大学や専門学校で心理学系講義を10年以上担当し、グラフィックデザインでは20年以上の経験を有しています。また、色彩を中心とした認知心理学の研究にも10年以上取り組んできました。これらの実務経験を基に、具体的な事例と理論を融合した学びを提供する講義を展開します。
備考	学習状況に応じて、授業内容を一部変更する場合がある。悪天候などによって、対面を遠隔に変更する可能性がある。

年度	2025
講義名称	生活と園芸
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04902L 心理学科子ども心理専攻：PCD04802L

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	我々の生活に欠かす事のできない植物。なかでも、園芸作物は生活に潤いと安らぎをもたらしてくれる。園芸の基本的知識や、園芸作物の栽培・管理の基礎を学び、健康で心豊かな生活空間を創造することを目指す。 また畑で育てた作物を中心に食と生活の実習も行い、生活の中に園芸（野菜）が密接に関連している事を体験的に学ぶ事で新たな気づきや発見に繋がる事を目的とする。
到達目標	園芸作物の改良と発展により我々の生活が潤い、豊かである事を理解する。また、生活と園芸の関連性に触れ改めて園芸活動（行為）の恩恵を考える事ができるようになる。
授業の進め方	授業の前半部は屋外に出て演習形式で園芸の実践を体験いたします。 後半部は教室にて授業を展開し、数回食と園芸についての授業も行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習後に実習記録ノートの提出を求めます。 また、園芸の専門用語を学ぶためのテキストを配布してその修得具合をはかる

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 生活と園芸について 屋外活動場所の確認
第2回	裏門プランター片付け、ホース、さつまいも堀り
第3回	菜園メンテナンス
第4回	シイタケについて 菌類 シイタケほだ木の移動
第5回	シイタケ菌床打ち込み体験学習
第6回	畑おこし、鹿よけネットはずし 10分間小テスト問題について
第7回	冬囲いについてとその実際
第8回	草花の形態と機能 草花の分類
第9回	食と園芸① 10分間小テスト
第10回	草花分類の続き 草花の一生（自然分類）
第11回	食と園芸② 10分間小テスト

第12回	草花の一生（自然分類） 病害虫 テストについて
第13回	授業内テスト

事前・事後学修	【具体的な内容】 身近にある植物がどのように生活と関連しているのかを常に意識しながら生活すること。 【必要な時間】 授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して予習・復習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	定期試験（50％） 作業記録（20％） 提出物（10％） 授業態度・参加意欲（20％） の総合評価。
テキスト	都度、関係資料を配布する。

備考	授業前半は屋外に出ますので動きやすい服装で参加してください。 学生の食と生活に関わる内容の授業として材料費として500円別途徴収いたします。 授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。

年度	2025
講義名称	ガーデニング演習
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04901S 心理学科子ども心理専攻：PCD04801S

担当教員

氏名	所属
◎ 吉崎 俊一郎	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	個別（または班別）に花壇を与え、デザインから設計(基礎)、定植、管理までの花壇づくりを体験させる。 ガーデン設計・デザインに関する基本的知識・技術を深める。 各種のコンテナガーデンの実際を学び、応用的知識・技術を修得させる
到達目標	グループで決めた1つの野菜の播種－定植－管理－収穫までの一連の流れを理解し体験できることにより知識と技術を身につける。 ガーデン設計やデザインに関わる事でその知識と技術を習得するとともに表現する力を身につける。 協同作業を通してコミュニケーション能力を高め、他者を思いやる心を培う。
授業の進め方	授業は屋外での実習とグループワークを中心にイネーブルガーデン、ビニールハウス等にて実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	1， 屋外での実習の際、毎回作業記録の提出を求める。授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評する 2， ガーデンデザインのコンテストを実施し、履修者の中から8つのデザインを全員の投票で決定する 3， 園芸に関わる基本的な作業（例 天地がえし、摘芯、花柄摘み、施肥など）については授業内に学生が身に付いたかどうか実習の中で解説、講評する

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、生活と園芸の関わり
第2回	野菜づくり計画・班分け
第3回	野菜作りのための準備（畑おこし、施肥、区画整理）
第4回	花壇デザインについて
第5回	野菜種まき、花壇デザイン②
第6回	コンテナガーデニング（寄せ植え）の実際
第7回	野菜づくりの実際
第8回	花壇デザインコンテスト
第9回	花壇植え付け（定植）
第10回	定植後の花壇管理①、繁殖の実際
第11回	野菜収穫・管理
第12回	花壇管理②、野菜管理②
第13回	プロジェクト成果のまとめ

事前・事後学修	授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用する 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	1 作業記録（20％） 2 ブランターデザイン設計（30％） 3 授業への意欲・参加態度（20％） 4 野菜づくりノート個人（10％） 5 野菜づくりノートグループ（10％） 6 野菜成長記録（10％）
テキスト	実習課題に沿って、都度関連資料を配布する
参考文献	図解 ガーデニング コツのコツプロが教える園芸秘伝・小学館、 ガーデニング基本大百科・集英社

備考	学生の食と生活に関わる内容の授業として材料費として500円別途徴収いたします。 支払い方法については担当教員から受講の皆さんに手続き案内があります。 授業計画及び成績評価基準は、学生の進度・状況により変更することがあります。 植物や自然に触れながら楽しく学んでいきましょう！ 動きやすく、多少汚れてもいい服装で授業に参加してください。 また、夏は気温も高くなる日が多いので熱中症対策や水分補給には十分注意しましょう。

年度	2025
講義名称	社会福祉論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04801L 心理学科子ども心理専攻：PCD04301L

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	少子高齢化、国際化、高度情報化の急速な進展ほか、複雑化し急速に変動する現代社会はわたしたちの生活に様々な影響を与えています。誰もが安心して暮らせるようになるため、社会福祉の充実が望まれています。この授業では、現代社会の姿に目を向けながら、社会における社会福祉の意義とそのあり方を学びます。
到達目標	社会福祉の歴史や福祉に関する現代社会の現状と諸制度と仕組み、課題、その他基本的な事項についての理解ができる。
授業の進め方	講義形式で行うことを基本としますが、必要に応じてグループディスカッションやビデオ資料視聴を行い、現代社会の福祉について学びを深めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、Webclassを通じて資料を配布します。 テストについては、テスト実施後、解説、まとめをします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・社会福祉とは何か
第2回	社会福祉の歴史①
第3回	社会福祉の歴史②
第4回	社会福祉の法と行財政
第5回	ソーシャルワークの理解
第6回	最低生活保障と生活保護制度①
第7回	最低生活保障と生活保護制度②
第8回	児童家庭福祉と次世代育成の展開
第9回	障害者の自立と福祉①
第10回	障害者の自立と福祉②
第11回	高齢者の生活と福祉
第12回	地域福祉の展開
第13回	テストとテスト解説・まとめ

事前・事後学修	復習として章ごとに課題を出題します。予習として、次回の授業範囲について、テキストを専門用語など予習ノートにまとめてください。また、日ごろからニュース、新聞などで、最近の社会福祉の動きや情報を入手してください。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	社会福祉の歴史や福祉に関する現代社会の現状と諸制度と仕組み、課題、その他基本的な事項についての理解ができることを課題、テストの評価基準にします。 テスト50％ 課題提出50％
テキスト	「新・社会福祉とは何か 第4版」 大久保秀子著・中央法規

年度	2025
講義名称	社会・集団・家族心理学(家族心理学)【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04703L 心理学科子ども心理専攻：PCD04311L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 鈴木 憲治	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では，家族，集団及び社会が個人に及ぼす影響を学びます。 また，家族という視点から，対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程や人の態度及び行動について学びます。 社会の変化とともに，家族の在り方も大きく変化していますが，子どもの権利を中心に，家庭内で生じる紛争について，家族法や家族社会学，生涯発達心理学などの知見，紛争の渦中にある当事者の方々への心理的援助法を学びます。
到達目標	本授業では，以下の事項について基礎的理解を得ていることが求められます。 1）現代社会における家族の課題が理解できる 2）家族という集団内における個人の心理的視点について理解できる 3）家庭・家族への援助の基礎的手法について理解できる 4）家庭・家族の支援を行う現場の実際が理解できる
授業の進め方	本講義では，司法領域で実務経験のある教員が，人間に対する深い理解，深い人間理解に根ざした支援を実践できるようにするため以下の方法をとります ア）知識をパワーポイントによる講義形式で提供します イ）両価的なテーマについてのグループディスカッションやグループワーク等を実施して，知識を確かなものにします ウ）実務家をゲストスピーカーとして招くまたはゲストスピーカー等の勤務する施設等への希望者による施設見学により，臨床現場の実際を見たり聴いたりすることで，知識に偏らない社会で役立つ知見とします

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回講義最後に実施する「理解度確認チェック」の解説を次回授業冒頭に行い，講義での定着が難しかった点について，教員が補足します

授業計画表

回	授業内容	
第1回	① 社会・集団・家族心理学の概要	社会・集団の中の家族の位置づけ
第2回	② 集団としての家族（1）	家族とは何か？どうとらえるか？家族をどう見立てるか？
第3回	③ 集団としての家族（2）	結婚前期
第4回	④ 集団としての家族（3）	結婚による家族の成立期
第5回	⑤ 集団としての家族（4）	乳幼児を育てる段階
第6回	⑥ 集団としての家族（5）	家族の中のコミュニケーション
第7回	⑦ 集団としての家族（6）	夫婦関係の危機と援助（希望者による施設見学あり）
第8回	⑧ 集団としての家族（7）	子育てをめぐる問題と援助（希望者による施設見学あり）
第9回	⑨ 集団としての家族（8）	若者世代とその家族・老年期の家族
第10回	⑩ 集団としての家族（9）	家族への臨床的アプローチ

第11回	⑪ 社会・集団・家族の課題	ソーシャルサポート・文化と社会心理
第12回	⑫ 家族の新たな展開	
第13回	⑬ まとめ（ふり返りテスト）	

事前・事後学修	毎回授業の最後に、「理解度確認チェック」を実施し、次の授業冒頭で解答解説を行います。「理解度確認チェック」で不明だった点は、授業の復習をする中で必ず確認し、次回授業の解答解説までに確実な理解を得たうえで参加してください。 「参考文献等リスト」から、興味関心をもった書籍・映画・ドラマを選び、⑭回講義修了時までに、レポート（1200字程度、書式は「参考文献等リスト」配布時に提示）として提出していただきます。 【必要な時間】 「理解度確認チェック」の復習は、目安として2時間を要します。 参考文献等レポートの作成の目安は各2時間です。 常日ごろからニュース、新聞、インターネットなどで、社会的な事件についての情報を入手するように心掛けてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下の3点で評価します。 ふり返りテスト：30% 「理解度確認チェック」評価：60% 5%×12回 毎時間講義最後に実施します。欠席の場合も、1週間以内の提出で加点します レポート 参考文献等レポート：10%
テキスト	【テキスト】 適宜プリントを配布します。
参考文献	「社会・集団・家族心理学」竹村和久 遠見書房 以上のほかに、「① 社会・集団・家族心理学の概要」時に「参考文献等リスト」を配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	司法領域で実務経験のある教員が、家庭裁判所の司法現場の心理臨床を、動画等も交えて具体的に解説します。
備考	本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 履修にあたっては、心理学科においては学科基礎科目「心理学概論」を、他学科においては教養教育科目「心理学」が履修済みであることを推奨します。 なお、新型コロナウイルスやインフルエンザ等、感染症の拡大状況によっては、ゲストスピーカーの招聘を中止したり希望者による施設見学を中止し、教員の講義のみに代えることがあります。

年度	2025
講義名称	社会・集団・家族心理学
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04702L 心理学科子ども心理専攻：PCD04309L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、家族、集団及び社会が個人に及ぼす影響を学ぶ。また、家族という視点から、対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程や人の態度及び行動について学ぶ。
到達目標	(1)社会・集団心理学に関する基礎的な知識について説明することができる。（知識・理解） (2)社会・集団心理学の知識を生かして社会の諸問題の解決策を見出すことができる。（思考・判断）
授業の進め方	講義方法】 本講義では、福祉領域で実務経験のある教員が、人間に対する深い理解、深い人間理解に根ざした支援を実践できるようにするため以下の方法をとる ・パワーポイントを用いた講義形式による基本的な知識の提供 ・映像資料や仮想のケースを用いたグループワーク、ディスカッション

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	全体で共有すべき内容については次回の授業の冒頭でフィードバックを行う

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	社会・集団・家族心理学とは何か 対人認知 態度と行動
第3回	ステレオタイプと偏見 向社会的行動と反社会的行動 社会的促進と社会的抑制
第4回	社会的影響 集団過程 社会的相互作用
第5回	対人関係の形成と発展 ソーシャルサポート 文化と社会心理
第6回	映像教材を用いたグループワーク① グループワークの説明と映像教材の鑑賞
第7回	映像教材を用いたグループワーク② 映像教材の鑑賞、発表資料の作成
第8回	映像教材を用いたグループワーク③ 発表資料の作成、発表の役割分担

第9回	映像教材を用いたグループワーク④ 各グループの発表
第10回	仮想ケースを用いたグループワーク① グループワーク及び在宅支援アセスメントシートの説明
第11回	仮想ケースを用いたグループワーク② 在宅支援アセスメントシートの作成
第12回	仮想ケースを用いたグループワーク③ 各グループの発表
第13回	確認テスト グループワークの振り返り

事前・事後学修	【必要な時間】 事前・事後学修の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	到達目標(1)：授業内小テスト（10％）、確認テスト（40％） 到達目標(2)：グループワーク発表＋資料提出（50％）
テキスト	適宜プリントを配布する
参考文献	「社会・集団・家族心理学」竹村和久　遠見書房

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	学校教員、子どもの権利相談員、家庭児童相談員として実務経験のある教員が社会や集団の諸問題に関連した学校や家庭の問題に焦点を当て、具体的な題材やケースをもとに社会・集団心理学の基礎知識について解説する。
備考	・本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ・履修にあたっては、心理学科においては学科基礎科目「心理学概論」を、他学科においては教養教育科目「心理学」が履修済みであることを推奨します。

年度	2025
講義名称	社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04702L 心理学科子ども心理専攻：PCD04309L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、家族、集団及び社会が個人に及ぼす影響を学ぶ。また、家族という視点から、対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程や人の態度及び行動について学ぶ。
到達目標	(1)社会・集団心理学に関する基礎的な知識について説明することができる。（知識・理解） (2)社会・集団心理学の知識を生かして社会の諸問題の解決策を見出すことができる。（思考・判断）
授業の進め方	【講義方法】 本講義では、福祉領域で実務経験のある教員が、人間に対する深い理解、深い人間理解に根ざした支援を実践できるようにするため以下の方法をとる ・パワーポイントを用いた講義形式による基本的な知識の提供 ・映像資料や仮想のケースを用いたグループワーク、ディスカッション

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	全体で共有すべき内容については次回の授業の冒頭でフィードバックを行う

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	社会・集団・家族心理学とは何か 対人認知 態度と行動
第3回	ステレオタイプと偏見 向社会的行動と反社会的行動 社会的促進と社会的抑制
第4回	社会的影響 集団過程 社会的相互作用
第5回	対人関係の形成と発展 ソーシャルサポート 文化と社会心理
第6回	映像教材を用いたグループワーク① グループワークの説明と映像教材の鑑賞
第7回	映像教材を用いたグループワーク② 映像教材の鑑賞、発表資料の作成
第8回	映像教材を用いたグループワーク③ 発表資料の作成、発表の役割分担

第9回	映像教材を用いたグループワーク④ 各グループの発表
第10回	仮想ケースを用いたグループワーク① グループワーク及び在宅支援アセスメントシートの説明
第11回	仮想ケースを用いたグループワーク② 在宅支援アセスメントシートの作成
第12回	仮想ケースを用いたグループワーク③ 各グループの発表
第13回	確認テスト グループワークの振り返り

事前・事後学修	・配布するプリントの復習 ・ニュース等で社会的な事件について情報を収集し、講義で学んだ知識と関連付けて考え、まとめる ・授業時間外でのグループワークや発表資料の作成 上記の内容を事前・事後学修として5時間以上行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	到達目標(1)：授業内小テスト（10％）、確認テスト（40％） 到達目標(2)：グループワーク発表＋資料提出（50％）
テキスト	適宜プリントを配布する
参考文献	「社会・集団・家族心理学」竹村和久　遠見書房

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	学校教員、子どもの権利相談員、家庭児童相談員として実務経験のある教員が社会や集団の諸問題に関連した学校や家庭の問題に焦点を当て、具体的な題材やケースをもとに社会・集団心理学の基礎知識について解説する。
備考	・本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ・履修にあたっては、心理学科においては学科基礎科目「心理学概論」を、他学科においては教養教育科目「心理学」が履修済みであることを推奨します。

年度	2025
講義名称	対人関係論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学臨床心理専攻：CLP04701L 心理学子ども心理専攻：PCD04306L

担当教員

氏名	所属
◎ 水鳥 翔伍	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	対人関係にまつわる社会科学研究、とくに社会心理学研究の知見を学ぶ。 本トピックの研究は広範に及ぶが、本講義ではその一部について、適応論とマイクロ-マクロプロセスという2つの観点を軸として説明する。 この講義で得た知識や物の見方を参考に、自ら現実の対人関係や社会問題について考えることができるようになることを目的とする。
到達目標	人間行動に関して適応論的な観点から説明を試みる立場について理解する。 社会構造に関してマイクロ-マクロ的な観点から説明を試みる立場について理解する。
授業の進め方	主にスライド資料を使用する。重要な部分についてはノートを取りながら聞くこと。毎回の授業時間中に、設定した問について考える時間を設ける。基本的に毎回の講義の終わりに小課題を提示し、次の講義までの提出を求める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小課題は次の回の最初に解説する。必要に応じて課題の回答内容を匿名にてクラス全体にフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：対人関係を扱う科学としての社会心理学
第2回	再現性危機：社会心理学との向き合い方について
第3回	「人間の社会性」をどう捉えるか (1)：適応論の視点
第4回	「人間の社会性」をどう捉えるか (2)：マイクロ-マクロの視点
第5回	社会的影響過程
第6回	社会的交換 (1)：交換の適応的意義
第7回	社会的交換 (2)：相互依存性
第8回	社会的交換 (3)：交換とマイクロ-マクロプロセス
第9回	集団としての協調行為
第10回	適応行動と均衡
第11回	集団間認知とステレオタイプ：外集団差別と内集団ひいき
第12回	集団間認知とステレオタイプ：外集団差別とステレオタイプ
第13回	期末試験とフィードバック

事前・事後学習	事前学習は求めない。 事後学習として、以下の3点を各自の状況に応じて行うこと。(1)講義内容をノートなどに自身で整理する、(2)興味をもった内容に関して自身でさらに調べて理解を深める、(3)日頃からニュースや日常の出来事をよく観察し、講義内容と関連付ける訓練をする。

成績評価基準と方法	期末試験：５０％ 講義内課題(小テスト・レポート)：５０％

テキスト	なし
参考文献	※購入は必須ではない 「複雑さに挑む社会心理学〔改訂版〕」 亀田達也・村田光二 有斐閣アルマ

年度	2025
講義名称	発達心理学[臨心・子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04502L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	発達心理学とは、年齢によって人の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の一分野である。20世紀の中ごろまでは、子どもと青年の研究が中心であったが、その後、急速な高齢化社会の出現に伴って、それが緊急の社会的な問題となった先進国で老年期研究が盛んに行われ、ついで青年期と老年期の中間にあって社会をささえている成人の研究へと拡大していった。 本講義では、人間の一生を発達段階に沿って説明できるようになるとともに、自己概念を理解し、自らの今後の目標を具体的に立てられるようになることを目的とする。
到達目標	①人間の一生を発達段階に沿って説明できる。 ②心理社会的危機について、具体例を用いて説明できる。 ③発達障害について正しい知識および認識を持つ。 ④自己概念を理解し、今後の目標を具体的に立てられる。
授業の進め方	本講義は講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討・分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。 講義内で出題したレポート3本については締め切り後の講義内でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／発達の過程と変化のメカニズム
第2回	知覚・認知の発達
第3回	言語・コミュニケーションの発達
第4回	知能の発達
第5回	運動の発達
第6回	感情の発達／気質と性格の発達
第7回	遊びの発達
第8回	親子関係の発達／仲間関係・きょうだい関係の発達
第9回	自己の発達
第10回	障害と支援(1)～AD/HD、SLDへの支援
第11回	障害と支援(2)～自閉スペクトラム症への支援、アセスメントについて
第12回	エリクソンのライフサイクル論①（乳児期・幼児初期・幼児期・学童期）

第13回	エリクソンのライフサイクル論②（思春期・青年期・成人初期・壮年期・老年期）／本講義のまとめ

事前・事後学修	<事前学習> シラバスに提示されている次回講義の内容について教科書や配布資料を読み、大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートにまとめておいてください。また、日ごろから人間の発達に関するニュースに興味を持つようにしてください。 <事後学修> 講義内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。 <必要な時間> 事前・事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回の受講時に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（5点×13回＝65点）と、講義内で出題するレポート課題（（10点×2本）＋（15点×1本）＝35点）の合計点で評価する。
テキスト	公認心理師の基礎と実践12 発達心理学 野島一彦・繁桝算男監修 遠見書房
参考文献	ベーシック発達心理学 関一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会 ※その他の文献については随時紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、保育園・幼稚園・認定こども園における巡回相談、公立小学校や公立教育相談室における教育相談や特別支援教育（障がい児教育）、大学の学生相談室における学生相談や児童相談所や厚生相談所における療育手帳の判定の実務経験のある教員が、その経験を生かして、人間の発達について概説し、各発達段階の発達課題や心理的危機、各発達段階における支援について具体的に講義します。
備考	本講義は座席を指定します。 講義中の私語、許可された場合以外のスマートフォン・携帯電話・パソコン等の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

年度	2025
講義名称	教育・学校心理学
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04501L 心理学科子ども心理専攻：PCD04307L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は、学校生活における子どもの学びや育ちを支える教育相談、心理教育的援助に関する理論と実践について学ぶことを目的としている。具体的には、学校教育における教育相談の位置づけと実際の活動、児童生徒の発達、昨今学校現場で取り上げられる諸課題についての対応の視点を学ぶ。
到達目標	知識・理解：学校教育における教育相談の概要と支援の観点を理解することができる。 関心・意欲：学校教育における昨今の社会問題について興味をもつことができる。 思考・判断：各種理論と視点について理解し、教育現場における関わりのあり方について自分なりに考えることができるようになる 技能・表現：様々な心理的問題とその支援について、今日的な問題も含めて議論しながら学びを深めていくことができる。
授業の進め方	基本的には講義形式で行われる。毎回のテーマに沿って、受講生と議論しながらその内容を深める形で授業を進める。他者の視点を学ぶために、必要に応じてグループディスカッションやロールプレイを行なう。毎回の講義の終了時に講義内で取り上げたテーマについて自分なりに考えたことを表現する小レポートを提出し、それに対するフィードバックを当日の終わり、もしくは次回の授業の冒頭で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義で実施する小レポートで書かれた内容について当日の授業の終盤、もしくは次回の授業の冒頭で紹介し、自分以外の受講生の視点を示すとともに、教員の視点を解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション：教育相談とは
第2回	教育相談①
第3回	教育相談②
第4回	教育相談③
第5回	児童生徒の発達①
第6回	児童生徒の発達②
第7回	コミュニケーションとしての教育相談①
第8回	コミュニケーションとしての教育相談②
第9回	不登校とその支援①
第10回	不登校とその支援②
第11回	いじめとその対応①
第12回	いじめとその対応②

第13回	授業内試験とまとめ

事前・事後学修	本講義は、テキストを使用します。毎回、授業のプリントと併せてテキストで内容を振り返り、ポイントや重要事項を確認してください。また日ごろから新聞やテレビで心に関するニュースに関心を持ち、自分の考えを思いめぐらせてください。復習を行うことが次回の講義の予習となります。予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業中に課する小レポート・中間筆記テスト(60%)、最終講義での筆記テスト(40%)
テキスト	ガイドブック あつまれ！ みんなで取り組む教育相談——ケース理解×チームづくり×スキルアップ（2022）益子洋人編 赤石書店
参考文献	ガイドブック あつまれ！ みんなで取り組む教育相談——ケース理解×チームづくり×スキルアップ（2022）益子洋人編 赤石書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラーとして実務経験のある教員が心理支援の発想と技術、各種心理療法の理論をもとにした人間理解の視点をクライアントに活かす視点を養う講義を実施する。
備考	※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ・遅刻は認めません。ただし、公共交通機関の遅れなど、やむを得ない事情については考慮しますので、証明書などを持参して前の扉から入室してください。 ・講義中の携帯電話の使用（メールのやり取りやゲーム）については、発見し次第、注意、状況によっては退室してもらいます。

年度	2025
講義名称	感情・人格心理学
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04303L 心理学科子ども心理専攻：PCD04310L

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学に関する知識を身につけるための基礎科目です。この講義では心理学における2つの異なる分野を扱います。一つは、人間の心の働きのうち、感情の働きに関する知識を身につけ、感情が行動に及ぼす影響や感情生起に関わる諸要因などについて理解することを目的としています。もう一つは、人間の心の働きの個人差に関するものである。性格やパーソナリティと呼ばれる概念や、その捉え方に関する知識を身につけることを目的としています。
到達目標	1. 「感情に関する理論及び感情喚起の機序」に関する知識を身につけ、「感情が行動に及ぼす影響」について心理学的に理解すること。 2. 「人格の概念及び形成過程」や「人格の類型、特性等」のパーソナリティに関する心理学的な知識を身につけること。
授業の進め方	配付資料を中心に、資料映像や小実験を交えながら、教室での講義を中心に展開する予定です。小テスト・課題がほぼ毎行われるので、講義時間以外の復習が必要になります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で実施する小テストでは、受講者が分からなかった箇所についての説明を授業内に行います。課題については、採点をした上で返却する予定です。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	感情とは何か	対面
第2回	感情生起のメカニズム	対面
第3回	感情の生物学的基礎	対面
第4回	感情の認知的評価理論	対面
第5回	感情と行動	対面
第6回	感情心理学のまとめ	対面
第7回	パーソナリティの概念	対面
第8回	パーソナリティの測定（性格）	対面
第9回	パーソナリティの測定（知的側面の測定）	対面
第10回	パーソナリティの生物的基础	対面
第11回	パーソナリティの形成と変容	対面
第12回	パーソナリティのまとめ	対面
第13回	まとめと期末試験	対面

事前・事後学修	授業中に指示した宿題・レポートを行うこと、配布した資料を使って復習を行うことが必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の課題（リアクションフォーム）の得点（39%）、宿題・レポートの得点（16%）、および期末試験の得点（45%）で評価します。
テキスト	教科書の指定はありません。
参考文献	授業中に指示します。

備考	本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

年度	2025
講義名称	学習・言語心理学
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04301L 心理学科子ども心理専攻：PCD04303L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 柳内 景太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「学習心理学」および「言語心理学」に関する基礎的な理論を概説します。また、学習・言語心理学の理論に基づく支援について、臨床現場での事例を交えながら解説します。 本講義では、学習・言語心理学の基礎を学ぶことにより、人の行動が変化する過程と言語の習得における機序（メカニズム）について概説できるようになることを目的とします。
到達目標	①学習や記憶に関する様々な理論や仕組みを理解している ②言語獲得に関する様々な理論を理解している ③学習・言語心理学が心理支援の実践現場でどのように応用されているかを理解している
授業の進め方	講義の他、動画視聴、グループによるディスカッション（ディスカッションに基づく発表を含む）を行います。毎回講義の最初に、前回のリアクションシートの問題や質問に対する解答・解説を実施します。 毎回講義の最後に、講義内容に関する問題・質問・感想を記載するリアクションシートの提出を求めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各講義の最後に、リアクションシート（講義内容に関する問題、質問・感想）を提出してもらいます。 質問や問題に対する解答・解説は、次回の講義の最初に行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・学習・言語心理学とは ・受講の仕方や課題の提出方法について確認する。また、学習・言語心理学ではどのようなことを学習するのかを理解する。	対面授業
第2回	古典的条件づけ ・古典的条件づけとその特徴について知る。	対面授業
第3回	道具的条件づけ ・道具的条件づけとその特徴について知る。	対面授業
第4回	条件づけと臨床適応 ・条件づけの理論に基づく支援について理解する。	対面授業
第5回	様々な学習 ・運動学習や観察学習など、様々な学習について理解する。	対面授業
第6回	学習と記憶 ・人間の記憶システムについて理解する。	対面授業
第7回	学習への動機づけ ・やる気のメカニズムについて理解する。	対面授業
第8回	言語に関する諸理論 ・言語の構造を理解する。	対面授業

第9回	話し言葉の発達 ・人の言語獲得のプロセスを理解する。	対面授業
第10回	書き言葉の発達 ・人がどのように文字を書けるようになるかを理解する。	対面授業
第11回	第二言語の習得 ・第二言語の獲得過程について理解する。	対面授業
第12回	学習と言語の障害 ・学習障害や言語障害について理解する。	対面授業
第13回	まとめと試験 ・これまでの振り返りを行う。また、試験を実施する。	対面授業

事前・事後学修	講義前は、予習として各回のテーマに関する基礎的な知識について、参考書を読み確認しておくとい良いでしょう。 講義後は、講義内容を踏まえて配布資料やノートを確認し、復習してください。特に各回のリアクションシートで出題された問題はしっかりと復習するよう to してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	平常点（毎回のリアクションシート・講義への取り組み） 50％ 試験点 50％
テキスト	なし。講義内で適宜、資料を配布します。
参考文献	『学習・言語心理学 ー支援のために知る「行動の変化」と「言葉の習得」』 郷式徹・西垣順子 ミネルヴァ書房 『学習と言語の心理学』 中島定彦 昭和堂

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、公認心理師の資格を持ち、小・中学校や児童相談所などの現場に携わり、子どもの心理検査や支援実務経験のある教員が、学習心理学と言語心理学の基礎を解説し、それらの知見に基づく心理支援について学生が理解できることを目指して実施します。
備考	本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

年度	2025
講義名称	心理学実験Ⅰ(基礎)
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04203E 心理学科子ども心理専攻：PCD04203E

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科
永井 敦	大学・人文学部・心理学科
高橋 文代	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学研究における古典的な実験の追試等を実施し、データの収集・集計・分析、考察を行ってレポートを作成する。それらの作業を通して、心理学実験研究の基本概念・方法、統計処理の基礎を学ぶとともに、実際の実験実施に伴う注意点等について理解を深めることを目的としている。
到達目標	(1)実験の意義を理解し、実験用語及びレポートの書式に馴れること。（技能・表現） (2)実験の手続きを正しく理解し、適切に追試できるようになること。（知識・理解） (3)簡単な統計を処理できるようになること。（思考・判断）
授業の進め方	実験の実施、データの集計・分析、結果のまとめと考察、レポートの提出という実習を中心に展開する。適宜、心理学実験の基本概念・方法論に関する講義を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題は、改善ポイントをコメントした上で返却する。十分な理解が得られていないレポートについては、再提出を求める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	心理学実験の基礎 心理学における実験の意義・役割
第2回	実験レポートの書き方
第3回	実験1「錯視」 実験の説明と実験実施
第4回	実験1「錯視」 実験の解説とレポートの作成
第5回	実験2「ストループ効果」 実験の説明と実験実施
第6回	実験2「ストループ効果」 実験の実施とレポート作成
第7回	実験3「視覚・運動学習の効果とその転移」 実験の説明と実験実施
第8回	実験3「視覚・運動学習の効果とその転移」 実験の解説とレポート作成
第9回	実験4「記憶」実験の説明と実験実施
第10回	実験4「記憶」実験の解説とレポートの作成
第11回	実験5「色彩と認知」実験の説明と実験実施
第12回	実験5「色彩と認知」実験の解説とレポートの作成

第13回	筆記試験 実験の振り返り

事前・事後学修	実験の事前学習として、授業で配布されたインストラクションペーパーや解説資料などを見直して、実験用語や実験の要点を理解しておく、より実験が理解しやすくなる。 実験レポートは基本的には授業内で作成するが、完成しなかった場合は、次週までの課題になることがある。 事前・事後学修の時間は合わせて5時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標(1)、(2)、(3):レポート提出（50％）、期末筆記試験（50％） 全ての実験レポートを提出すること、期末試験の成績が100点中60点以上であることの2つを満たすことで単位認定とする。
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	講義時に紹介する。

年度	2025
講義名称	心理学研究法
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04202L 心理学科子ども心理専攻：PCD04202L

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、心理学に用いられる研究方法について理解し、実証的研究について理解することである。さらに、研究レビューのレポートをグループで作成することで、研究法についての理解を深める。また、心理学的研究、特に臨床心理学的研究を実施するために必要となる研究倫理に関する理解を獲得する。
到達目 標	(1)心理学の様々な研究方法についての基本的な知識を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)具体的な論文から研究者がどのような研究法を用いて、どのような結果・考察及び主張をしているのかを読み取ることができる。（思考・判断）
授業の 進め方	講義を中心に進めるが、グループでのディスカッション等と組み合わせて進める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	全体で共有すべき内容については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	心理学研究法とは何か
第3回	研究のリサーチデザイン 研究倫理
第4回	実験法の基礎と種類
第5回	調査法の基礎と発展
第6回	観察法の基礎と実践
第7回	面接法 介入研究法
第8回	バイオマーカーを用いた研究 研究成果の公表
第9回	グループワーク① グループワークの説明と論文選び
第10回	グループワーク② 論文の読み込みと発表資料の作成
第11回	グループワーク③ 発表資料の作成と発表の役割分担
第12回	グループワーク④ ・各グループの発表

第13回	確認テスト グループワークの振り返り

事前・事後学修	・配布するプリントの復習 ・適宜提示するレポート課題の作成 ・グループワークの発表資料の作成 上述の3点を事前・事後学修として、5時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標(1)：小テスト（10％）、確認テスト（40％） 到達目標(2)：授業で配布するレポート課題（20％）、グループワーク発表＋資料提出（30％）
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	『公認心理師の基礎と実践 第4巻 心理学研究法』村井潤一郎・藤川麗編 遠見書房

備考	※本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。 ※本科目は、認定心理士基礎科目（必須）とされています。認定心理士資格を得るためには、この科目を修得しておく必要があります。

年度	2025
講義名称	心理学概論
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04201L 心理学科子ども心理専攻：PCD04201L

担当教員

氏名	所属
◎ 岡田 顕宏	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	心理学の基礎的な知識を身につけるための基礎科目です。心理学とはどのような学問であるのか、心理学の歴史や方法論から、心理学の諸分野（感覚・知覚、記憶、学習、発達、感情、人格、対人関係、心理的障害）について概説を行います。心理学に関する基本的な知識を身につけることが、この講義の目的になります。
到達目標	心理学を勉強していく上で必要となる、心理学的なものの考え方や方法論を理解するのに必要な基本的な知識を身につけることが目標となります。授業時間外に必要な学習を行い、小テストおよび期末テストで十分な得点ができるくらいの知識を身につけることが到達目標になります。
授業の進め方	基本的に教科書に沿って講義を展開しています。教科書に書かれている内容を通して、心理学の基本的な考え方や知識を身につけてもらいます。必要に応じて、デモンストレーション的な実験や実習などを実施します。事前準備（宿題）と確認のための小テストが行われます。事前準備と復習が必要です。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本学LMS上で提出された課題に対するフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	心理学とは（心理学の概要と歴史）	対面
第2回	「心理学とは」（心理学の研究法） 「知覚」①	対面
第3回	「知覚」②	対面
第4回	小テスト① 「行動の生物的基础」	対面
第5回	「学習（１）」	対面
第6回	「学習（２）」	対面
第7回	「記憶と忘却」	対面
第8回	小テスト② 「動機づけ」	対面
第9回	「欲求不満・ストレス・情動」	対面
第10回	「パーソナリティ」	対面
第11回	「臨床心理学の基礎」	対面
第12回	小テスト③ 「行動の生理的基礎」	対面
第13回	まとめと復習 期末試験対策	対面
第14回	期末試験	対面

事前・事後学修	毎回の授業に先だって、教科書の該当する箇所を読んでおくことが「必要」です。予習と復習に相当する宿題の作業を欠かさずに行い、毎回遅れずに提出することや、小テストの前に該当箇所を復習しておくことが、単位をとるために必要になります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	宿題・毎回の提出物（リアクションフォーム）・小テスト・期末試験の点数で評価します。それぞれの点数配分は以下の通りです。
	宿題（12％） 毎回の提出物（26％） 小テスト（18％） 期末試験（44％）
	期末試験は第14回に実施します。
テキスト	今田寛・宮田洋・賀集寛（著）（2016）, 心理学の基礎（四訂版）, 培風館,
参考文献	授業中に指示します。

備考	必修科目です。卒業するためには単位を取得する必要があります。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[臨心][永井]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（4）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)“超高齢化社会”が進む中で、南区に次ぐ高齢者世帯の多い清田区で、地域の要請に応える形で「高齢者の心理」に関する演習 (3)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (4)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅱでは(2)を基軸とした協同体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現） (4)インタビュー調査やフィールドワークをもとに適切な資料を作成することができる。（思考・判断）
授業の進め方	高齢者の心理に関する講義、グループワーク、車いすや機能低下に関する体験学習、ハザードマップ作成のためのフィールドワーク及びディスカッション、高齢者版ハザードマップ・認知症高齢者の見守りマップ作成のためのフィールドワーク、ディスカッション及びPBLを実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション ・ 授業計画及び評価に関する全体説明 ・ 各アドバイザーによる個別面談
第2回	高齢者の理解① ・ 高齢者の心理を理解する意義と最低限の知識 ・ 加齢に伴う身体機能の低下とこころの問題、家族の問題について ・ 認知機能の低下、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症について
第3回	高齢者の心身の特性および日常生活の問題について ・ 社会福祉協議会職員による講演
第4回	車いす、機能低下体験 ・ 社会福祉協議会職員による説明・体験
第5回	高齢者の理解② ・ 高齢者の日常生活の"困り"ごと インタビュー準備
第6回	高齢者の理解③ ・ 高齢者の日常生活の"困り"ごとインタビュー ・ 社会人教養楽部と共同実施

第7回	高齢者マップ作り① ・ 社会福祉協議会と共同企画会議
第8回	高齢者マップづくり② ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回前半）
第9回	高齢者マップづくり③ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回後半）
第10回	介護食体験 ・ 介護食の調理・試食
第11回	高齢者マップづくり④ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ 資料のまとめ、マップの立案
第12回	高齢者マップづくり⑤ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ マップの作成
第13回	高齢者の見守りマップ及び基礎演習Ⅱの振り返り ・ 社会人教養楽部にマップ内容に関するインタビュー調査 ・ 振り返りシートの作成

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 個人、グループでの調べ学習や文献調査 ・ 高齢者マップの準備・作成 【事後学修】 ・ レポート作成や講義内容の復習 ・ 活動の振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（20％） 到達目標（2）：体験学習やPBLへの参加・活動態度にて評価する。（30％） 到達目標（3）：体験学習の振り返り・レポートにて評価する。（20％） 到達目標（4）：高齢者マップ（ハザードマップ・見守りマップ）の内容にて評価する。（30％）
テキスト	毎回の授業にて資料を配布する。
参考文献	講義中に提示する。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[臨心][松浦(秀)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（4）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)“超高齢化社会”が進む中で、南区に次ぐ高齢者世帯の多い清田区で、地域の要請に応える形で「高齢者の心理」に関する演習 (3)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (4)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅱでは(2)を基軸とした協働体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現） (4)インタビュー調査やフィールドワークをもとに適切な資料を作成することができる。（思考・判断）
授業の進め方	高齢者の心理に関する講義、グループワーク、車いすや機能低下に関する体験学習、ハザードマップ作成のためのフィールドワーク及びディスカッション、高齢者版ハザードマップ・認知症高齢者の見守りマップ作成のためのフィールドワーク、ディスカッション及びPBLを実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション ・授業計画及び評価に関する全体説明 ・各アドバイザーによる個別面談
第2回	高齢者の理解① ・高齢者の心理を理解する意義と最低限の知識 ・加齢に伴う身体機能の低下とこころの問題、家族の問題について ・認知機能の低下、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症について
第3回	高齢者の心身の特性および日常生活の問題について ・社会福祉協議会職員による講演
第4回	車いす、機能低下体験 ・社会福祉協議会職員による説明・体験
第5回	高齢者の理解② ・高齢者の日常生活の"困り"ごと インタビュー準備
第6回	高齢者の理解③ ・高齢者の日常生活の"困り"ごとインタビュー ・社会人教養楽部と共同実施

第7回	高齢者マップ作り① ・ 社会福祉協議会と共同企画会議
第8回	高齢者マップづくり② ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回前半）
第9回	高齢者マップづくり③ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回後半）
第10回	介護食体験 ・ 介護食の調理・試食
第11回	高齢者マップづくり④ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ 資料のまとめ、マップの立案
第12回	高齢者マップづくり⑤ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ マップの作成
第13回	高齢者の見守りマップ及び基礎演習Ⅱの振り返り ・ 社会人教養楽部にマップ内容に関するインタビュー調査 ・ 振り返りシートの作成

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 個人、グループでの調べ学習や文献調査 ・ 高齢者マップの準備・作成 【事後学修】 ・ レポート作成や講義内容の復習 ・ 活動の振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（20％） 到達目標（2）：体験学習やPBLへの参加・活動態度にて評価する。（30％） 到達目標（3）：体験学習の振り返り・レポートにて評価する。（20％） 到達目標（4）：高齢者マップ（ハザードマップ・見守りマップ）の内容にて評価する。（30％）
テキスト	毎回の授業にて資料を配布する。
参考文献	講義中に提示する。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[臨心][鈴木]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 鈴木 憲治	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（4）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)“超高齢化社会”が進む中で、南区に次ぐ高齢者世帯の多い清田区で、地域の要請に応える形で「高齢者の心理」に関する演習 (3)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (4)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅱでは(2)を基軸とした協同体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現） (4)インタビュー調査やフィールドワークをもとに適切な資料を作成することができる。（思考・判断）
授業の進め方	高齢者の心理に関する講義、グループワーク、車いすや機能低下に関する体験学習、ハザードマップ作成のためのフィールドワーク及びディスカッション、高齢者版ハザードマップ・認知症高齢者の見守りマップ作成のためのフィールドワーク、ディスカッション及びPBLを実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション ・授業計画及び評価に関する全体説明 ・各アドバイザーによる個別面談
第2回	高齢者の理解① ・高齢者の心理を理解する意義と最低限の知識 ・加齢に伴う身体機能の低下とところの問題、家族の問題について ・認知機能の低下、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症について
第3回	高齢者の心身の特性および日常生活の問題について ・社会福祉協議会職員による講演
第4回	車いす、機能低下体験 ・社会福祉協議会職員による説明・体験
第5回	高齢者の理解② ・高齢者の日常生活の"困り"ごと インタビュー準備
第6回	高齢者の理解③ ・高齢者の日常生活の"困り"ごとインタビュー ・社会人教養楽部と共同実施

第7回	高齢者マップ作り① ・ 社会福祉協議会と共同企画会議
第8回	高齢者マップづくり② ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回前半）
第9回	高齢者マップづくり③ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回後半）
第10回	介護食体験 ・ 介護食の調理・試食
第11回	高齢者マップづくり④ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ 資料のまとめ、マップの立案
第12回	高齢者マップづくり⑤ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ マップの作成
第13回	高齢者の見守りマップ及び基礎演習Ⅱの振り返り ・ 社会人教養楽部にマップ内容に関するインタビュー調査 ・ 振り返りシートの作成

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 個人、グループでの調べ学習や文献調査 ・ 高齢者マップの準備・作成 【事後学修】 ・ レポート作成や講義内容の復習 ・ 活動の振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（20％） 到達目標（2）：体験学習やPBLへの参加・活動態度にて評価する。（30％） 到達目標（3）：体験学習の振り返り・レポートにて評価する。（20％） 到達目標（4）：高齢者マップ（ハザードマップ・見守りマップ）の内容にて評価する。（30％）
テキスト	毎回の授業にて資料を配布する。
参考文献	講義中に提示する。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[臨心][高野]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（4）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)“超高齢化社会”が進む中で、南区に次ぐ高齢者世帯の多い清田区で、地域の要請に応える形で「高齢者の心理」に関する演習 (3)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (4)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅱでは(2)を基軸とした協同体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現） (4)インタビュー調査やフィールドワークをもとに適切な資料を作成することができる。（思考・判断）
授業の進め方	高齢者の心理に関する講義、グループワーク、車いすや機能低下に関する体験学習、ハザードマップ作成のためのフィールドワーク及びディスカッション、高齢者版ハザードマップ・認知症高齢者の見守りマップ作成のためのフィールドワーク、ディスカッション及びPBLを実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション - 授業計画及び評価に関する全体説明 - 各アドバイザーによる個別面談
第2回	高齢者の理解① - 高齢者の心理を理解する意義と最低限の知識 - 加齢に伴う身体機能の低下とこころの問題、家族の問題について - 認知機能の低下、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症について
第3回	高齢者の心身の特性および日常生活の問題について 社会福祉協議会職員による講演
第4回	車いす、機能低下体験 社会福祉協議会職員による説明・体験
第5回	高齢者の理解② 高齢者の日常生活の"困り"ごと インタビュー準備
第6回	高齢者の理解③ - 高齢者の日常生活の"困り"ごとインタビュー - 社会人教養楽部と共同実施

第7回	高齢者マップ作り① ・ 社会福祉協議会と共同企画会議
第8回	高齢者マップづくり② ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回前半）
第9回	高齢者マップづくり③ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回後半）
第10回	介護食体験 ・ 介護食の調理・試食
第11回	高齢者マップづくり④ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ 資料のまとめ、マップの立案
第12回	高齢者マップづくり⑤ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ マップの作成
第13回	高齢者の見守りマップ及び基礎演習Ⅱの振り返り ・ 社会人教養楽部にマップ内容に関するインタビュー調査 ・ 振り返りシートの作成

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 個人、グループでの調べ学習や文献調査 ・ 高齢者マップの準備・作成 【事後学修】 ・ レポート作成や講義内容の復習 ・ 活動の振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（20％） 到達目標（2）：体験学習やPBLへの参加・活動態度にて評価する。（30％） 到達目標（3）：体験学習の振り返り・レポートにて評価する。（20％） 到達目標（4）：高齢者マップ（ハザードマップ・見守りマップ）の内容にて評価する。（30％）
テキスト	毎回の授業にて資料を配布する。
参考文献	講義中に提示する。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[臨心][青木]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（4）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)“超高齢化社会”が進む中で、南区に次ぐ高齢者世帯の多い清田区で、地域の要請に応える形で「高齢者の心理」に関する演習 (3)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (4)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅱでは(2)を基軸とした協働体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現） (4)インタビュー調査やフィールドワークをもとに適切な資料を作成することができる。（思考・判断）
授業の進め方	高齢者の心理に関する講義、グループワーク、車いすや機能低下に関する体験学習、ハザードマップ作成のためのフィールドワーク及びディスカッション、高齢者版ハザードマップ・認知症高齢者の見守りマップ作成のためのフィールドワーク、ディスカッション及びPBLを実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション ・授業計画及び評価に関する全体説明 ・各アドバイザーによる個別面談
第2回	高齢者の理解① ・高齢者の心理を理解する意義と最低限の知識 ・加齢に伴う身体機能の低下とこころの問題、家族の問題について ・認知機能の低下、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症について
第3回	高齢者の心身の特性および日常生活の問題について ・社会福祉協議会職員による講演
第4回	車いす、機能低下体験 ・社会福祉協議会職員による説明・体験
第5回	高齢者の理解② ・高齢者の日常生活の"困り"ごと インタビュー準備
第6回	高齢者の理解③ ・高齢者の日常生活の"困り"ごとインタビュー ・社会人教養楽部と共同実施

第7回	高齢者マップ作り① ・ 社会福祉協議会と共同企画会議
第8回	高齢者マップづくり② ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回前半）
第9回	高齢者マップづくり③ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」作成のためのフィールドワーク（担当地区巡回後半）
第10回	介護食体験 ・ 介護食の調理・試食
第11回	高齢者マップづくり④ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ 資料のまとめ、マップの立案
第12回	高齢者マップづくり⑤ ・ 「高齢者ハザードマップ」、「認知症高齢者の見守りマップ」の作成 ・ マップの作成
第13回	高齢者の見守りマップ及び基礎演習Ⅱの振り返り ・ 社会人教養楽部にマップ内容に関するインタビュー調査 ・ 振り返りシートの作成

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 個人、グループでの調べ学習や文献調査 ・ 高齢者マップの準備・作成 【事後学修】 ・ レポート作成や講義内容の復習 ・ 活動の振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（20％） 到達目標（2）：体験学習やPBLへの参加・活動態度にて評価する。（30％） 到達目標（3）：体験学習の振り返り・レポートにて評価する。（20％） 到達目標（4）：高齢者マップ（ハザードマップ・見守りマップ）の内容にて評価する。（30％）
テキスト	毎回の授業にて資料を配布する。
参考文献	講義中に提示する。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[臨心][永井]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04101S

担当教員

氏名	所属
◎ 永井 敦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（3）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (3)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅰでは(1)を基軸とした協働体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現）
授業の進め方	防災や災害の心理に関する講義、グループワークおよび自衛隊と連携した体験学習、PBL(避難所運営体験)などを実施する。授業で学んだ知識・技能は清麗祭にて展示・発表し、実践的な知識として理解を深める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション① ・授業計画及び評価に関する全体説明 ・各アドバイザーによる個別面談
第2回	オリエンテーション② ・動画視聴：「心の傷を癒すということ 1 」（50分） ・課題取組：「アイデンティティ」について～「対人援助職」とは？「マイナリティ」とは？
第3回	オリエンテーション③ ・動画視聴：「心の傷を癒すということ 2 」（50分） ・課題取組：「心の傷」について～「寄添う」とは？
第4回	災害の理解について ・「防災」を実施する意義と知識（スフィア、IASCガイドライン、MHPSSの基本原則、フェーズフリーなど）
第5回	非常食の調理、試食体験①～加熱調理 ・加熱調理の体験 ・社会人教養楽部と共同実施
第6回	非常食の調理、試食体験② ・非加熱調理の体験 ・社会人教養楽部と共同実施

第7回	自衛隊職員による災害支援講義
第8回	自衛隊職員によるAED使用訓練、救急搬送、ロープワーク実技
第9回	清麗祭準備① ・役割分担決定、企画会議 ・来訪者用防災アンケート、防災クイズ、展示パネル作成
第10回	清麗祭準備② ・段ボールベッド製作（サカイ引越センター）練習 ・簡易トイレ展示準備、展示品（新聞紙スリッパ）製作
第11回	清麗祭参加 ・展示物の準備・片付け ・来場者に対する展示物の説明、体験の実施
第12回	机上避難所運営ゲームの解説と実施 ・社会人教養楽部と共同実施
第13回	机上避難所運営ゲームの振り返りと基礎演習の振り返り ・社会人教養楽部と共同実施

事前・事後学修	【事前学修】 ・個人、グループでの調べ学習や文献調査 ・清麗祭の展示・説明準備 【事後学修】 ・レポート作成や講義内容の復習 ・清麗祭の片づけ、振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（60％） 到達目標（2）：体験学習やPBL、清麗祭への参加・活動態度にて評価する。（20％） 到達目標（3）：清麗祭、P B Lの振り返り・レポートにて評価する。（20％）
テキスト	毎回の授業で資料配布。
参考文献	「新增補版 心の傷を癒すということ 大災害と心のケア」 安 克昌 作品社

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[臨心][松浦(秀)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04101S

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 秀太	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（3）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (3)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅰでは(1)を基軸とした協働体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現）
授業の進め方	防災や災害の心理に関する講義、グループワークおよび自衛隊と連携した体験学習、PBL(避難所運営体験)などを実施する。授業で学んだ知識・技能は清麗祭にて展示・発表し、実践的な知識として理解を深める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション① ・授業計画及び評価に関する全体説明 ・各アドバイザーによる個別面談
第2回	オリエンテーション② ・動画視聴：「心の傷を癒すということ 1 」（50分） ・課題取組：「アイデンティティ」について～「対人援助職」とは？「マイナリティ」とは？
第3回	オリエンテーション③ ・動画視聴：「心の傷を癒すということ 2 」（50分） ・課題取組：「心の傷」について～「寄添う」とは？
第4回	災害の理解について ・「防災」を実施する意義と知識（スフィア、IASCガイドライン、MHPSSの基本原則、フェーズフリーなど）
第5回	非常食の調理、試食体験①～加熱調理 ・加熱調理の体験 ・社会人教養楽部と共同実施
第6回	非常食の調理、試食体験② ・非加熱調理の体験 ・社会人教養楽部と共同実施

第7回	自衛隊職員による災害支援講義
第8回	自衛隊職員によるAED使用訓練、救急搬送、ロープワーク実技
第9回	清麗祭準備① ・役割分担決定、企画会議 ・来訪者用防災アンケート、防災クイズ、展示パネル作成
第10回	清麗祭準備② ・段ボールベッド製作（サカイ引越センター）練習 ・簡易トイレ展示準備、展示品（新聞紙スリッパ）製作
第11回	清麗祭参加 ・展示物の準備・片付け ・来場者に対する展示物の説明、体験の実施
第12回	机上避難所運営ゲームの解説と実施 ・社会人教養楽部と共同実施
第13回	机上避難所運営ゲームの振り返りと基礎演習の振り返り ・社会人教養楽部と共同実施

事前・事後学修	【事前学修】 - 個人、グループでの調べ学習や文献調査 - 清麗祭の展示・説明準備 【事後学修】 - レポート作成や講義内容の復習 - 清麗祭の片づけ、振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（60％） 到達目標（2）：体験学習やPBL、清麗祭への参加・活動態度にて評価する。（20％） 到達目標（3）：清麗祭、P B Lの振り返り・レポートにて評価する。（20％）
テキスト	毎回の授業で資料配布。
参考文献	「新增補版 心の傷を癒すということ 大災害と心のケア」 安 克昌 作品社

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[臨心][鈴木]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04101S

担当教員

氏名	所属
◎ 鈴木 恵治	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（3）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (3)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅰでは(1)を基軸とした協働体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現）
授業の進め方	防災や災害の心理に関する講義、グループワークおよび自衛隊と連携した体験学習、PBL(避難所運営体験)などを実施する。授業で学んだ知識・技能は清麗祭にて展示・発表し、実践的な知識として理解を深める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション① ・授業計画及び評価に関する全体説明 ・各アドバイザーによる個別面談
第2回	オリエンテーション② ・動画視聴：「心の傷を癒すということ 1 」（50分） ・課題取組：「アイデンティティ」について～「対人援助職」とは？「マイナリティ」とは？
第3回	オリエンテーション③ ・動画視聴：「心の傷を癒すということ 2 」（50分） ・課題取組：「心の傷」について～「寄添う」とは？
第4回	災害の理解について ・「防災」を実施する意義と知識（スフィア、IASCガイドライン、MHPSSの基本原則、フェーズフリーなど）
第5回	非常食の調理、試食体験①～加熱調理 ・加熱調理の体験 ・社会人教養楽部と共同実施
第6回	非常食の調理、試食体験② ・非加熱調理の体験 ・社会人教養楽部と共同実施

第7回	自衛隊職員による災害支援講義
第8回	自衛隊職員によるAED使用訓練、救急搬送、ロープワーク実技
第9回	清麗祭準備① ・役割分担決定、企画会議 ・来訪者用防災アンケート、防災クイズ、展示パネル作成
第10回	清麗祭準備② ・段ボールベッド製作（サカイ引越センター）練習 ・簡易トイレ展示準備、展示品（新聞紙スリッパ）製作
第11回	清麗祭参加 ・展示物の準備・片付け ・来場者に対する展示物の説明、体験の実施
第12回	机上避難所運営ゲームの解説と実施 ・社会人教養楽部と共同実施
第13回	机上避難所運営ゲームの振り返りと基礎演習の振り返り ・社会人教養楽部と共同実施

事前・事後学修	【事前学修】 - 個人、グループでの調べ学習や文献調査 - 清麗祭の展示・説明準備 【事後学修】 - レポート作成や講義内容の復習 - 清麗祭の片づけ、振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（60％） 到達目標（2）：体験学習やPBL、清麗祭への参加・活動態度にて評価する。（20％） 到達目標（3）：清麗祭、P B Lの振り返り・レポートにて評価する。（20％）
テキスト	毎回の授業で資料配布。
参考文献	「新增補版 心の傷を癒すということ 大災害と心のケア」 安 克昌 作品社

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[臨心][高野]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04101S

担当教員

氏名	所属
◎ 高野 創子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（3）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (3)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅰでは(1)を基軸とした協働体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現）
授業の進め方	防災や災害の心理に関する講義、グループワークおよび自衛隊と連携した体験学習、PBL(避難所運営体験) などを実施する。授業で学んだ知識・技能は清麗祭にて展示・発表し、実践的な知識として理解を深める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション① ・ 授業計画及び評価に関する全体説明 ・ 各アドバイザーによる個別面談
第2回	オリエンテーション② ・ 動画視聴：「心の傷を癒すということ 1 」（50分） ・ 課題取組：「アイデンティティ」について～「対人援助職」とは？「マイナリティ」とは？
第3回	オリエンテーション③ ・ 動画視聴：「心の傷を癒すということ 2 」（50分） ・ 課題取組：「心の傷」について～「寄添う」とは？
第4回	災害の理解について ・ 「防災」を実施する意義と知識（スフィア、IASCガイドライン、MHPSSの基本原則、フェーズフリーなど）
第5回	非常食の調理、試食体験①～加熱調理 ・ 加熱調理の体験 ・ 社会人教養楽部と共同実施
第6回	非常食の調理、試食体験② ・ 非加熱調理の体験 ・ 社会人教養楽部と共同実施

第7回	自衛隊職員による災害支援講義
第8回	自衛隊職員によるAED使用訓練、救急搬送、ロープワーク実技
第9回	清麗祭準備① ・役割分担決定、企画会議 ・来訪者用防災アンケート、防災クイズ、展示パネル作成
第10回	清麗祭準備② ・段ボールベッド製作（サカイ引越センター）練習 ・簡易トイレ展示準備、展示品（新聞紙スリッパ）製作
第11回	清麗祭参加 ・展示物の準備・片付け ・来場者に対する展示物の説明、体験の実施
第12回	机上避難所運営ゲームの解説と実施 ・社会人教養楽部と共同実施
第13回	机上避難所運営ゲームの振り返りと基礎演習の振り返り ・社会人教養楽部と共同実施

事前・事後学修	【事前学修】 - 個人、グループでの調べ学習や文献調査 - 清麗祭の展示・説明準備 【事後学修】 - レポート作成や講義内容の復習 - 清麗祭の片づけ、振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（60％） 到達目標（2）：体験学習やPBL、清麗祭への参加・活動態度にて評価する。（20％） 到達目標（3）：清麗祭、P B Lの振り返り・レポートにて評価する。（20％）
テキスト	毎回の授業で資料配布。
参考文献	「新增補版 心の傷を癒すということ 大災害と心のケア」 安 克昌 作品社

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[臨心][青木]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04101S

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 美和子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとし、（1）～（3）の内容を設定する。 (1)災害が多発している中で、阪神淡路大震災から30年の節目で、防災への関心が高まる社会情勢に応える形で「災害時の心理」に関する演習 (2)社会人教養楽部、清田区役所、清田区社会福祉協議会と連携した地域の課題解決型ワークショップ (3)「講義」「講演」については地域開放講座とし、地域の方々と共に学ぶ 基礎演習Ⅰでは(1)を基軸とした協働体験、地域支援を実施する。
到達目標	(1)臨床心理学が対象とする領域を理解し、説明することができる。（知識・理解） (2)グループワークやPBLに積極的に参加し、活動することができる。（関心・意欲） (3)臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけ、実践することができる。（技能・表現）
授業の進め方	防災や災害の心理に関する講義、グループワークおよび自衛隊と連携した体験学習、PBL(避難所運営体験)などを実施する。授業で学んだ知識・技能は清麗祭にて展示・発表し、実践的な知識として理解を深める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション① ・ 授業計画及び評価に関する全体説明 ・ 各アドバイザーによる個別面談
第2回	オリエンテーション② ・ 動画視聴：「心の傷を癒すということ 1 」（50分） ・ 課題取組：「アイデンティティ」について～「対人援助職」とは？「マイナリティ」とは？
第3回	オリエンテーション③ ・ 動画視聴：「心の傷を癒すということ 2 」（50分） ・ 課題取組：「心の傷」について～「寄添う」とは？
第4回	災害の理解について ・ 「防災」を実施する意義と知識（スフィア、IASCガイドライン、MHPSSの基本原則、フェーズフリーなど）
第5回	非常食の調理、試食体験①～加熱調理 ・ 加熱調理の体験 ・ 社会人教養楽部と共同実施
第6回	非常食の調理、試食体験② ・ 非加熱調理の体験 ・ 社会人教養楽部と共同実施

第7回	自衛隊職員による災害支援講義
第8回	自衛隊職員によるAED使用訓練、救急搬送、ロープワーク実技
第9回	清麗祭準備① ・役割分担決定、企画会議 ・来訪者用防災アンケート、防災クイズ、展示パネル作成
第10回	清麗祭準備② ・段ボールベッド製作（サカイ引越センター）練習 ・簡易トイレ展示準備、展示品（新聞紙スリッパ）製作
第11回	清麗祭参加 ・展示物の準備・片付け ・来場者に対する展示物の説明、体験の実施
第12回	机上避難所運営ゲームの解説と実施 ・社会人教養楽部と共同実施
第13回	机上避難所運営ゲームの振り返りと基礎演習の振り返り ・社会人教養楽部と共同実施

事前・事後学修	【事前学修】 - 個人、グループでの調べ学習や文献調査 - 清麗祭の展示・説明準備 【事後学修】 - レポート作成や講義内容の復習 - 清麗祭の片づけ、振り返り 事前・事後学修合わせて1回の授業あたり5時間以上必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	到達目標（1）：講義やグループワーク後のレポート課題にて評価する。（60％） 到達目標（2）：体験学習やPBL、清麗祭への参加・活動態度にて評価する。（20％） 到達目標（3）：清麗祭、P B Lの振り返り・レポートにて評価する。（20％）
テキスト	毎回の授業で資料配布。
参考文献	「新增補版 心の傷を癒すということ 大災害と心のケア」 安 克昌 作品社

年度	2025
講義名称	人文学概論[心理]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科臨床心理専攻：CLP04001L 心理学科子ども心理専攻：PCD04001L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科
武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科
小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「人文学」とはどんな学問なのでしょうか。 必修科目「人文学概論」では、文学、社会学、心理学を専門とする3名の教員が、それぞれの専門をもとに人文学的知の世界からこれからの学びの関心と視野を広げます。
到達目標	人文学および人文学部の歴史と概要を知り、学ぶことの楽しさと考え方から、学科専門領域の学びに向かうことができる。
授業の進め方	第1回目のオリエンテーションは榎本が担当する。第2回目以降は3名の教員が4回ずつ担当し、講義＋ディスカッションにより展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については3名の教員がそれぞれ授業内で解説するとともに、WebClass上で資料を公開する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（榎本） 講義の展開，評価方法について説明をする。また、人文学と人文学部の視点について概括する。
第2回	I－心理学入門（榎本） I-1 心理学とは
第3回	I－心理学入門（榎本） I-2 血液型と性格は関係があるのか？
第4回	I－心理学入門（榎本） I-3 「やる気」を考える
第5回	I－心理学入門（榎本） I-4 対人関係と集団
第6回	II－人生と文学と（武井） II-1 神話・聖書と文学
第7回	II－人生と文学と（武井） II-2 言霊、謳うこと－十干十二支・陰陽道・小倉百人一首
第8回	II－人生と文学と（武井） II-3 貴種流離譚「南総里見八犬伝」から文学を考える

第9回	Ⅱ－人生と文学と（武井） Ⅱ-4 団塊の世代と村上春樹・村上龍
第10回	Ⅲ－学歴社会の構造（小内） Ⅲ-1 学歴社会の定義と学歴の効用
第11回	Ⅲ－学歴社会の構造（小内） Ⅲ-2 学歴形成における属性の制約
第12回	Ⅲ－学歴社会の構造（小内） Ⅲ-3 学歴格差の要因をめぐる議論
第13回	Ⅲ－学歴社会の構造（小内） Ⅲ-4 学歴社会の克服の道

事前・事後学修	【具体的な内容】 図書館で関連文献を読むなどレポートのための準備（復習）をおこなってください。授業の最後で翌週のテーマに触れるので、インターネットや図書館で関連事項を予習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	榎本 レポート（35点） 武井 レポート（35点） 小内 レポート（35点） の合計で評価をする。合計点数が100点を超えた場合は100点とする。
テキスト	使用しない。
参考文献	参考文献を使用する場合はその都度紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	榎本：臨床心理士・公認心理師の資格を有し，教育・福祉・医療の現場で24年の臨床経験を有する。講義において、これらの臨床経験の一部を紹介し、その内容についてグループディスカッションを行いたい。
備考	・座席を指定します。 ・講義中の私語、許可された場合以外のスマートフォン・携帯電話・パソコン等の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。 ・授業の最後に感想の記入やディスカッションを実施します。遠慮なく意見・質問をしましょう。

年度	2025
講義名称	保育・教職実践演習（幼稚園）[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD08712S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
木村 彰子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、第一に、これまで身に付けてきた保育者としての資質、能力について自己評価し、自らの課題を捉えることです。また第二に、課題について実践的に取り組むことをとおし、資質、能力の向上を図るとともに、保育者としての使命と責任を自覚し、目指す保育者像を明確にすることです。従って、この科目の受講対象者は幼稚園教諭一種免許、保育士資格の両方、もしくはそのどちらか一方の取得を目指す者に限ります。
到達目標	・ 保育・教職に向けた自らの課題を明確に持つことができる。 ・ グループ全体の動きの中で自己の役割を自覚し、他者と協力しながら責任を持って課題に取り組むことができる。 ・ 保育に関する様々な知識を得て、幅広く視野を広げることができる
授業の進め方	自己課題を明確にし、それを解決できるようなグループワークを中心に行いますが、実践力向上のために、講義形式も組み合わせます。 具体的には、模擬保育の内容を検討し実施するほか、2年生が行う模擬保育に子ども役として参加し、先輩としてのアドバイスをを行います。さらに、保育や子どもに関わる社会的課題について任意のテーマを選出し、グループ内で研究をまとめ、プレゼンテーションを行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	模擬保育及び、社会的課題のプレゼンテーション発表会終了後、学生が相互にディスカッションするとともに、担当教員からのコメントをとおして、次の課題に向かうきっかけづくりを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション（木村） 自己課題の明確化（木村） グループ役割分担検討（須藤） 幼稚園実習事後調査（須藤・木村）	対面
第2回	幼稚園実習情報交換（木村） 保育士資格申請説明（須藤）	対面
第3回	教職に向けた現場からの提言(外部講師：担当木村) 保育士資格申請提出（須藤） 保育・教職実践演習冊子の作成について（須藤）	対面
第4回	模擬保育検討・準備（木村・須藤） 他国の幼児教育事情の理解(外部講師：担当木村)	対面
第5回	模擬保育実践1（木村・須藤）	対面
第6回	模擬保育実践2（木村・須藤） 教職履修カルテ整理-完成（須藤） 模擬保育実施後のグループ内ふり返り（木村）	対面
第7回	模擬保育の評価、反省（木村） 幼稚園教諭免許状申請（須藤）	対面

第8回	実習報告会（木村・須藤）	対面
第9回	2年生の模擬保育への参加と2年生へのアドバイス（木村・須藤）	対面
第10回	子どもを取り巻く社会的課題の現状(外部講師:担当木村) こどもを取り巻く社会的課題テーマの選択に向けたグループ検討（須藤） 幼稚園教諭免許状申請（須藤）	対面
第11回	こどもを取り巻く社会的課題のグループ調査・発表準備（須藤・木村）	対面
第12回	こどもを取り巻く社会的課題発表会1（須藤・木村）	対面
第13回	こどもを取り巻く社会的課題発表会2（須藤・木村） グループ課題への取り組み評価（木村） 4年間の学びのふり返し（須藤） まとめ（須藤）	対面

事前・事後学修	・日頃から新聞等により教育・保育に関する様々な社会状況に関心を持つこと。 ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んで理解し、保育者として自己形成に努める気持ちで最後の大学生活を過ごすこと。 本授業は2単位で、1回2コマの授業を展開するため、事前事後学修として週2時間を目安として行うことを求める。設定された課題に向けて、授業外の時間も利用しながら誠実に協力して取り組むこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 自己課題に向けた取り組み：10% ② グループでの課題に向けた取り組み：25% ③ 提出課題(学んだこと・エピソード記述他)：10% ④ 模擬保育へのコメント提出 20% ⑤ 保育者の視点でのコメント提出：20% ⑥ 意見・質疑等発言内容 10% ⑧ 冊子用課題提出状況 5%
テキスト	必要に応じて資料配付。特定のテキストはありません。
参考文献	「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 今までの教職に関わる授業で使用したテキストや資料

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭やスクールカウンセラーの実務経験のある教員が、模擬保育、社会的課題への取り組みにおいて、適宜アドバイスを行う。
備考	欠席は原則として認めません。ただしやむを得ない理由により欠席する場合は、欠席を補充するための課題を課しますので、欠席理由とともに自ら課題を受け取り、提出してください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[子心][大村]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。
到達目標	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの他に、4年間の学習成果を集大成して論文あるいは作品にまとめることができる。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定するが、原則として春学期13回・秋学期13回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の実施内容の確認は、毎回授業の中で行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	●春学期 エントリーから審査、研究方法の習得までの流れ エントリー（4月中旬）研究計画書（所定のA4書式1枚に、テーマ、研究のねらい、研究計画、関連分野、参考資料などを2,000字程度で記入）を教務課へ提出。 ① 研究計画に関する指導1
第2回	② 研究計画に関する指導2
第3回	③ 研究計画に基づいた研究の進め方
第4回	④ 研究の進め方
第5回	第1回経過報告（7月下旬） ⑤ 経過報告
第6回	⑥ 経過報告・検討
第7回	⑦ 編目構成・参考文献一覧の書き方について
第8回	⑧ 編目構成・参考文献一覧の提出（主査へ）
第9回	⑨ データの収集
第10回	第2回経過報告 ⑩ 経過報告
第11回	⑪ 経過報告・検討
第12回	⑫ データの収集
第13回	⑬ データの収集
第14回	●秋学期 取得したデータ分析と考察、及び新たな課題を発見し、論文形式にまとめる ① 取得したデータを分析1
第15回	② 取得したデータを分析2
第16回	③ 取得したデータを分析3
第17回	④ データの分析結果を解析1

第18回	⑤ データの分析結果を解析2
第19回	⑥ データの分析結果を解析3
第20回	⑦ データ解析の結果を論文として文章化1
第21回	⑧ データ解析の結果を論文として文章化2
第22回	⑨ データ解析の結果を論文として文章化3
第23回	⑩ 作成論文の検討
第24回	⑪ 作成論文の検討
第25回	⑫ 卒業課題の完成
第26回	⑬ 審査のフィードバックと修正 ＊ 卒業課題の返却・修正を行い、2月上旬に製本用原稿を提出する。

事前・事後学修	今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておくこと。 個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるよう準備して望むこと。 授業時の指導を生かして主体的な研究を推進し、そのための十分な時間を確保すること。 事前事後学修はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価する。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて、個別に指示する。
参考文献	研究内容に応じて、個別に指示する。

備考	課題は論文形式で作成された言語表現物を基本とし、本文20,000字以上を目安とする。 映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[子心][橋場]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 橋場 俊輔	大学・センター等

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。
到達目標	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの他に、4年間の学習成果を集大成して論文あるいは作品にまとめることができる。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定するが、原則として春学期13回・秋学期13回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の実施内容の確認は、毎回授業の中で行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	●春学期 エントリーから審査、研究方法の習得までの流れ エントリー（4月中旬）研究計画書（所定のA4書式1枚に、テーマ、研究のねらい、研究計画、関連分野、参考資料などを2,000字程度で記入）を教務課へ提出。 ① 研究計画に関する指導1
第2回	② 研究計画に関する指導2
第3回	③ 研究計画に基づいた研究の進め方
第4回	④ 研究の進め方
第5回	第1回経過報告（7月下旬） ⑤ 経過報告
第6回	⑥ 経過報告・検討
第7回	⑦ 編目構成・参考文献一覧の書き方について
第8回	⑧ 編目構成・参考文献一覧の提出（主査へ）
第9回	⑨ データの収集
第10回	第2回経過報告 ⑩ 経過報告
第11回	⑪ 経過報告・検討
第12回	⑫ データの収集
第13回	⑬ データの収集
第14回	●秋学期 取得したデータ分析と考察、及び新たな課題を発見し、論文形式にまとめる ① 取得したデータを分析1
第15回	② 取得したデータを分析2
第16回	③ 取得したデータを分析3
第17回	④ データの分析結果を解析1

第18回	⑤ データの分析結果を解析2
第19回	⑥ データの分析結果を解析3
第20回	⑦ データ解析の結果を論文として文章化1
第21回	⑧ データ解析の結果を論文として文章化2
第22回	⑨ データ解析の結果を論文として文章化3
第23回	⑩ 作成論文の検討
第24回	⑪ 作成論文の検討
第25回	⑫ 卒業課題の完成
第26回	⑬ 審査のフィードバックと修正 ＊ 卒業課題の返却・修正を行い、2月上旬に製本用原稿を提出する。

事前・事後学修	今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておくこと。 個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるよう準備して望むこと。 授業時の指導を生かして主体的な研究を推進し、そのための十分な時間を確保すること。 事前事後学修はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価する。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて、個別に指示する。
参考文献	研究内容に応じて、個別に指示する。

備考	課題は論文形式で作成された言語表現物を基本とし、本文20,000字以上を目安とする。 映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[子心][増山]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。
到達目標	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの他に、4年間の学習成果を集大成して論文あるいは作品にまとめることができる。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定するが、原則として春学期13回・秋学期13回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の実施内容の確認は、毎回授業の中で行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	●春学期 エントリーから審査、研究方法の習得までの流れ エントリー（4月中旬）研究計画書（所定のA4書式1枚に、テーマ、研究のねらい、研究計画、関連分野、参考資料などを2,000字程度で記入）を教務課へ提出。 ① 研究計画に関する指導1
第2回	② 研究計画に関する指導2
第3回	③ 研究計画に基づいた研究の進め方
第4回	④ 研究の進め方
第5回	第1回経過報告（7月下旬） ⑤ 経過報告
第6回	⑥ 経過報告・検討
第7回	⑦ 編目構成・参考文献一覧の書き方について
第8回	⑧ 編目構成・参考文献一覧の提出（主査へ）
第9回	⑨ データの収集
第10回	第2回経過報告 ⑩ 経過報告
第11回	⑪ 経過報告・検討
第12回	⑫ データの収集
第13回	⑬ データの収集
第14回	●秋学期 取得したデータ分析と考察、及び新たな課題を発見し、論文形式にまとめる ① 取得したデータを分析1
第15回	② 取得したデータを分析2
第16回	③ 取得したデータを分析3
第17回	④ データの分析結果を解析1

第18回	⑤ データの分析結果を解析2
第19回	⑥ データの分析結果を解析3
第20回	⑦ データ解析の結果を論文として文章化1
第21回	⑧ データ解析の結果を論文として文章化2
第22回	⑨ データ解析の結果を論文として文章化3
第23回	⑩ 作成論文の検討
第24回	⑪ 作成論文の検討
第25回	⑫ 卒業課題の完成
第26回	⑬ 審査のフィードバックと修正 ＊ 卒業課題の返却・修正を行い、2月上旬に製本用原稿を提出する。

事前・事後学修	今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておくこと。 個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるよう準備して望むこと。 授業時の指導を生かして主体的な研究を推進し、そのための十分な時間を確保すること。 事前事後学修はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価する。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて、個別に指示する。
参考文献	研究内容に応じて、個別に指示する。

備考	課題は論文形式で作成された言語表現物を基本とし、本文20,000字以上を目安とする。 映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[子心][須藤]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。
到達目標	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの他に、4年間の学習成果を集大成して論文あるいは作品にまとめることができる。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定するが、原則として春学期13回・秋学期13回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の実施内容の確認は、毎回授業の中で行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	●春学期 エントリーから審査、研究方法の習得までの流れ エントリー（4月中旬）研究計画書（所定のA4書式1枚に、テーマ、研究のねらい、研究計画、関連分野、参考資料などを2,000字程度で記入）を教務課へ提出。 ① 研究計画に関する指導1
第2回	② 研究計画に関する指導2
第3回	③ 研究計画に基づいた研究の進め方
第4回	④ 研究の進め方
第5回	第1回経過報告（7月下旬） ⑤ 経過報告
第6回	⑥ 経過報告・検討
第7回	⑦ 編目構成・参考文献一覧の書き方について
第8回	⑧ 編目構成・参考文献一覧の提出（主査へ）
第9回	⑨ データの収集
第10回	第2回経過報告 ⑩ 経過報告
第11回	⑪ 経過報告・検討
第12回	⑫ データの収集
第13回	⑬ データの収集
第14回	●秋学期 取得したデータ分析と考察、及び新たな課題を発見し、論文形式にまとめる ① 取得したデータを分析1
第15回	② 取得したデータを分析2
第16回	③ 取得したデータを分析3
第17回	④ データの分析結果を解析1

第18回	⑤ データの分析結果を解析2
第19回	⑥ データの分析結果を解析3
第20回	⑦ データ解析の結果を論文として文章化1
第21回	⑧ データ解析の結果を論文として文章化2
第22回	⑨ データ解析の結果を論文として文章化3
第23回	⑩ 作成論文の検討
第24回	⑪ 作成論文の検討
第25回	⑫ 卒業課題の完成
第26回	⑬ 審査のフィードバックと修正 ＊ 卒業課題の返却・修正を行い、2月上旬に製本用原稿を提出する。

事前・事後学修	今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておくこと。 個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるよう準備して望むこと。 授業時の指導を生かして主体的な研究を推進し、そのための十分な時間を確保すること。 事前事後学修はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価する。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて、個別に指示する。
参考文献	研究内容に応じて、個別に指示する。

備考	課題は論文形式で作成された言語表現物を基本とし、本文20,000字以上を目安とする。 映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[子心][榎本]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD08107T

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。
到達目標	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの他に、4年間の学習成果を集大成して論文あるいは作品にまとめることができる。
授業の進め方	テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定するが、原則として春学期13回・秋学期13回の指導時間を確保する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の実施内容の確認は、毎回授業の中で行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	●春学期 エントリーから審査、研究方法の習得までの流れ エントリー（4月中旬）研究計画書（所定のA4書式1枚に、テーマ、研究のねらい、研究計画、関連分野、参考資料などを2,000字程度で記入）を教務課へ提出。 ① 研究計画に関する指導1
第2回	② 研究計画に関する指導2
第3回	③ 研究計画に基づいた研究の進め方
第4回	④ 研究の進め方
第5回	第1回経過報告（7月下旬） ⑤ 経過報告
第6回	⑥ 経過報告・検討
第7回	⑦ 編目構成・参考文献一覧の書き方について
第8回	⑧ 編目構成・参考文献一覧の提出（主査へ）
第9回	⑨ データの収集
第10回	第2回経過報告 ⑩ 経過報告
第11回	⑪ 経過報告・検討
第12回	⑫ データの収集
第13回	⑬ データの収集
第14回	●秋学期 取得したデータ分析と考察、及び新たな課題を発見し、論文形式にまとめる ① 取得したデータを分析1
第15回	② 取得したデータを分析2
第16回	③ 取得したデータを分析3
第17回	④ データの分析結果を解析1

第18回	⑤ データの分析結果を解析2
第19回	⑥ データの分析結果を解析3
第20回	⑦ データ解析の結果を論文として文章化1
第21回	⑧ データ解析の結果を論文として文章化2
第22回	⑨ データ解析の結果を論文として文章化3
第23回	⑩ 作成論文の検討
第24回	⑪ 作成論文の検討
第25回	⑫ 卒業課題の完成
第26回	⑬ 審査のフィードバックと修正 ＊ 卒業課題の返却・修正を行い、2月上旬に製本用原稿を提出する。

事前・事後学修	今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておくこと。 個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるよう準備して望むこと。 授業時の指導を生かして主体的な研究を推進し、そのための十分な時間を確保すること。 事前事後学修はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価する。 卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでなければならない。 卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力
テキスト	研究内容に応じて、個別に指示する。
参考文献	研究内容に応じて、個別に指示する。

備考	課題は論文形式で作成された言語表現物を基本とし、本文20,000字以上を目安とする。 映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。

年度	2025
講義名称	保育フィールドワーク(海外研修)[子心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07904S

担当教員

氏名	所属
◎ 富田 敏明	短大・幼児教育保育学科
深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	国際的視野を持つ保育者を育成するために、海外研修をオーストラリアのサザンクロス大学(Southern Cross University)において行う。（予定）。この研修の目的は、グローバルな視点で保育に係る様々な事象を捉えて思考すること、サザンクロス大学の英語教師等との交流を通して英語でのコミュニケーションの幅を広げること、ホームステイで異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことなどである。
到達目標	サザンクロス大学の英語教師等、ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通して、自分自身を見つめ直すとともに、他者理解を深めながら、英語のコミュニケーションを図ることができる。
授業の進め方	海外の大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習を通して、自分自身の研究課題を設定し、研修後には研究課題の発表をする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、研究課題については研究発表の際にフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション	対面
第2回	②研修先について学ぶ(1)	対面
第3回	③研修先について学ぶ(2)	対面
第4回	④研修先について学ぶ(3)	対面
第5回	⑤旅行の手続き、諸注意等について(1)	対面
第6回	⑥Goshu. infoの方との質疑応答（予定）・しおりの確認	対面及び同時双方向
第7回	⑦旅行の手続き、諸注意等について(2)	対面
第8回	⑧オーストラリア研修(1) 研修の日々の振り返り	
第9回	⑨オーストラリア研修(2) 研修の日々の振り返り	
第10回	⑩オーストラリア研修(3) 研修の日々の振り返り	
第11回	⑪オーストラリア研修(4) 研修の日々の振り返り	
第12回	⑫オーストラリア研修(5) 研修の日々の振り返り	
第13回	⑬オーストラリア研修(6) 研修の日々の振り返り	

事前・事後学習	・海外の大学での講義、ホームステイ先での場面や状況を設定し、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しましょう。 ・日本、北海道、札幌、自分自身について、英語で紹介できるようまとめておきましょう。	2025/04/01

→予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

成績評価基準と方法	・海外の大学における取組 60％ ・帰国前後の研究課題への取組 40％
テキスト	適宜、配布する。
参考文献	・『改訂版 英語で日本紹介ハンドブック』 松本美枝（著） （アルク） ・『日本のことを1分間英語で話してみる』 広瀬直子（著） （中経出版）

備考	・海外研修の実施の判断は8月末になります。研修参加人数によっては実施時期の変更もあります。変更がある場合は授業内及びWebClassにおいてお知らせしますので、連絡には十分注意してください。

年度	2025
講義名称	保育英語(応用)[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07903S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語(基礎)Ⅰを踏まえ、子どもと英語を通してコミュニケーションを取るための基本的な英語表現を身に付ける。英語の歌、絵本、ゲーム、クラフト等を通して自分が使いたい英語表現を発見し、活躍させる。英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができるように、基本的な英語表現を身に付ける。
到達目標	・保育現場における基本表現を用いて、子どもとコミュニケーションを取ることができる。 ・英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。 ・誰でも分かるように複雑な指示を簡単に説明することができる。
授業の進め方	・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワーク、グループワーク、ロールプレイを中心に学習する。 ・小学校と英語学童で得た実務経験をもとに、英語のゲーム、工作等の演習を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・パフォーマンス課題に対する個人的なフィードバックに加え、次のレッスンの冒頭でクラス全体へのアドバイスが行われる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	親と日常英会話 Conversation with Parents ① - 趣味・仕事
第2回	親と日常英会話 Conversation with Parents ② - 子供の特徴
第3回	親と日常英会話 Conversation with Parents ③ - 相談
第4回	子供と会話 Conversation with Children
第5回	ルール、叱り方、誉め方 Rules, Praise and Discipline
第6回	確認テスト ①、復習、フィードバック
第7回	歌、ダンス Songs and Dance ① - 教え方
第8回	歌、ダンス Songs and Dance ② - 運営
第9回	絵本 Picture Books ① - 読み方
第10回	絵本 Picture Books ② - 子供とコミュニケーション
第11回	理科の実験 Science Experiments ① - 準備
第12回	理科の実験 Science Experiments ② - 運営
第13回	確認テスト ②、復習、フィードバック

事前・事後学修	・学んだ英語表現と言葉を何回も復習して覚えましょう。 ・ロールプレイ等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。 ・英語の聞き取りを練習するために、YouTube等の楽しい方法で英語を聞くことを習慣にして毎日少しでも聞きましょう。 ・自分で使いたい英語が分からない時日本語でメモにして、後で英語を調べてフレーズブックに加えましょう。 ・予習・復習の時間は2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 授業内の活動 30% ② 宿題、フレーズブックの提出 20% ② 確認テスト（各2回 25%、合計50%）
テキスト	必要な書類を授業内で配布する。
参考文献	新・保育の英語 著者：森田和子 出版社：三修社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、保育園での英語活動、児童館でのコミュニケーション指導、小学校での英語教育に計4年間携わり、子どもの発達に合わせた指導方法を実践してきました。この経験を基に、教育現場の視点を活かした具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	絵本の世界Ⅱ [2・3年]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07807L

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科
青木 美和子	大学・人文学部・心理学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
小丹枝 江里子	大学・人文学部・心理学科
笹山 愉香	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	認定絵本士養成の科目です。 絵本の魅力に気づき、絵本を通して子どもたちとの応答性を高め、子どもの理解が進むことを目的としています。専任教員とその領域を専門とする外部講師による連続講義・演習により展開します。
到達目標	①絵本に関する知識を深める ②絵本のある保育と家庭生活、社会生活の豊かさを認識する ③絵本創作の楽しさを味わう
授業の進め方	教室での講義と演習により展開します。専任教員と各領域の専門講師が連携し、理解を深め実践力を養成します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポートと演習発表を繰り返し、授業内でのフィードバックと毎回の振り返りを次時での確認によりフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	絵本を紹介する技術2（書評） 武井
第2回	絵本を紹介する技術3（支援が必要な人々や高齢者） 青木
第3回	おはなし会の手法1 奥村・増山
第4回	おはなし会の手法2 奥村・増山
第5回	絵本と出会う3（図書館での出会い） 笹山
第6回	絵本の世界を広げる技術3（絵本コンシェルジュ） 笹山
第7回	絵本の世界を広げる技術2（ワークショップ） 笹山
第8回	絵本のある空間 笹山
第9回	心に寄り添う絵本 青木
第10回	絵本を紹介する技術1（ブックトーク） 小丹枝
第11回	絵本の世界を広げる技術1（絵本を探す） 小丹枝
第12回	絵本が生まれる現場1 あべ・増山

第13回	絵本が生まれる現場2 古川・増山
第14回	絵本の持つ力 増山
第15回	まとめ・ディスカッション 武井・増山

事前・事後学修	講義演習内容のポイント整理 【必要な時間】30時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業や課題への取り組み 55% 振り返りシート 45%
テキスト	絵本専門士委員会『認定絵本士養成講座テキスト』独立行政法人国立青少年教育振興機構 庭しんぶん編『絵本ーこどもと語り合う道具ー』庭プレス
参考文献	ジム・トレリス『魔法の読みきかせ』筑摩書房 絵本その他は授業内で紹介します。

備考	絵本の世界Ⅰの単位修得が履修の条件です。 認定絵本士資格の取得には8割以上の出席が必要です。

年度	2025
講義名称	絵本の世界Ⅱ [4年]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07807L

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科
青木 美和子	大学・人文学部・心理学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
小丹枝 江里子	大学・人文学部・心理学科
笹山 愉香	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	認定絵本士養成の科目です。 絵本の魅力に気づき、絵本を通して子どもたちとの応答性を高め、子どもの理解が進むことを目的としています。専任教員とその領域を専門とする外部講師による連続講義・演習により展開します。
到達目標	①絵本に関する知識を深める ②絵本のある保育と家庭生活、社会生活の豊かさを認識する ③絵本創作の楽しさを味わう
授業の進め方	教室での講義と演習により展開します。専任教員と各領域の専門講師が連携し、理解を深め実践力を養成します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポートと演習発表を繰り返し、授業内でのフィードバックと毎回の振り返りを次時での確認によりフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	絵本を紹介する技術2（書評） 武井
第2回	絵本を紹介する技術3（支援が必要な人々や高齢者） 青木
第3回	おはなし会の手法1 奥村・増山
第4回	おはなし会の手法2 奥村・増山
第5回	絵本と出会う3（図書館での出会い） 笹山
第6回	絵本の世界を広げる技術3（絵本コンシェルジュ） 笹山
第7回	絵本の世界を広げる技術2（ワークショップ） 笹山
第8回	絵本のある空間 笹山
第9回	絵本が生まれる現場1 あべ・増山
第10回	絵本を紹介する技術1（ブックトーク）小丹枝
第11回	絵本の世界を広げる技術1（絵本を探す） 小丹枝
第12回	心に寄り添う絵本 青木

第13回	絵本が生まれる現場2 古川・増山
第14回	絵本の持つ力 増山
第15回	ディスカッション 武井・増山

事前・事後学修	講義演習内容のポイント整理 【必要な時間】30時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業や課題への取り組み 55% 振り返りシート 45%
テキスト	絵本専門士委員会『認定絵本士養成講座テキスト』独立行政法人国立青少年教育振興機構 庭しんぶん編『絵本ーこどもと語り合う道具ー』庭プレス
参考文献	ジム・トレリス『魔法の読みきかせ』筑摩書房 絵本その他は授業内で紹介します。

備考	絵本の世界Ⅰの単位修得が履修の条件です。 認定絵本士資格の取得には8割以上の出席が必要です。

年度	2025
講義名称	絵本の世界Ⅰ
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07806L

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	認定絵本士養成の科目です。 絵本の魅力に気づき、絵本を通して子どもたちとの応答性を高め、子どもの理解が進むことを目的としています。専任教員とその領域を専門とする外部講師による連続講義・演習により展開します。
到達目標	①絵本に関する知識を深める ②絵本のある保育と家庭生活、社会生活の豊かさを認識する ③絵本の魅力と意義についての認識を深める
授業の進め方	教室での講義と演習により展開します。専任教員と各領域の専門講師が連携し、理解を深め実践力を養成します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポートと演習発表を繰り返し、授業内でのフィードバックと毎回の振り返り・質問を次時の確認によりフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 武井
第2回	絵本総論 武井
第3回	絵本各論 1（絵本の歴史、絵本賞） 武井
第4回	絵本各論 2（視覚表現、言語表現から見た絵本） 増山
第5回	さまざまなジャンルの絵本 1（物語） 藤田・増山
第6回	絵本各論 4（メディアとしての位置づけ） 武井
第7回	さまざまなジャンルの絵本 2（昔話、童話） 藤田・増山
第8回	さまざまなジャンルの絵本 3（科学） 藤田・増山
第9回	絵本と出会う 4（書店での出会い） 藤田・増山
第10回	絵本各論 3（子どもの知的・社会的発達） 増山
第11回	絵本と出会う 1（はじめての出会い） 増山
第12回	子どもの心をとらえるもの絵本の持つ力 森・武井
第13回	大人の心を豊かにする絵本 森・武井
第14回	絵本と出会う 2（保育・教育の場での出会い） 増山
第15回	ホスピタリティに学ぶ 森・武井

事前・事後学修	講義演習内容のポイント整理 【必要な時間】30時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業や課題への取り組み 55% 振り返りシート 45% 認定絵本士資格取得には出席8割以上が必要です。
テキスト	絵本専門士委員会『認定絵本士養成講座テキスト』独立行政法人国立青少年教育振興機構 庭しんぶん編『絵本ーこどもと語り合う道具ー』庭プレス
参考文献	ジム・トレリース『魔法の読みきかせ』筑摩書房 絵本その他は授業内で紹介します。

備考	認定絵本士資格の取得には「絵本の世界I」「絵本の世界II」それぞれ8割以上の出席が必要です。

年度	2025
講義名称	子ども音楽療育演習[子心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07805S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科
下出 理恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	対象児を理解し、その対象と目的に相応しい音楽活動を立案し、指導する力を養う。
到達目標	対象や目的に応じた音楽療育活動を立案し、実践することが出来る。また、対象児、者の姿を発達的に理解することが出来る。
授業の進め方	グループでセッションを立案し練習を行なう。また数回、音楽療育ワークショップの場で子どもに対する実践を行なう。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学習者が自身の音楽技術やアイデアを活かし、音楽療育活動を立案して模擬セッションを行う。セッションを振り返りながら、対象者理解を深め、音楽療育の意義と役割を問う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション/ミニシアター計画
第2回	ミニシアター計画
第3回	ミニシアター練習
第4回	ミニシアター練習
第5回	ミニシアター発表
第6回	ミニシアター発表
第7回	セッションの計画と練習（てあそび・からだあそび）
第8回	セッションの計画と練習（歌と表現）
第9回	セッションの計画と練習（楽器を使う活動）
第10回	ワークショップに向けてセッションの構成と練習
第11回	セッションの実施
第12回	セッションの実施
第13回	特別講義

事前・事後学修	・音楽の基礎的な理論や「保育音楽療育概論」を復習しておくこと。 ・予習・復習併せて2時間の学習を必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回の振り返り50％、発表、提出物（事前指導案、事後レポート）など50％
テキスト	適宜資料配布

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	教員の一人は音楽療法士であり豊富な実践経験を持つ。様々な発達や障がいに応じた効果的な音楽療育の方法について学修する。
備考	・動きやすい服装と靴（実習に準ずる）。 ・演習授業であることから、参加し活動することを必要とする。 ・この科目は子ども音楽療育実習、または子ども音楽療育概論の単位を取得している人のみ履修可能。

年度	2025
講義名称	子ども音楽療育実習[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07804P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	・「音楽療育ワークショップ」での実習を通して、音楽活動の多様性を知り、実践力をつける。 ・障害についての理解を深め、音楽療育に関連する他の領域の理論と音楽活動を繋ぎ、子どもの心身の発達過程と音楽的発達の関係を体験的に理解する。 ・特別講座では関連領域を学び、知識と実践力を広げる。
到達目標	・よりよい実践のために共同的な働きができる。 ・子どもを発達の視点で理解し、子どもの活動をサポートすることができる。 ・活動の立案、実践ができる。
授業の進め方	・事前事後指導は講義形式で行う。 ・ワークショップ実習は、実習の記録を使用して指導する。 ・特別講座は、テーマや内容に従い講義、または演習形式で行なう。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回ワークショップ終了後に実習日誌を回収し、コメントによるフィードバックを行なう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	事前指導 1：子ども音楽療育士の役割について、実習の心構え
第2回	事前指導 2：ワークショップの構成とねらい、日誌の書き方
第3回	ワークショップ実習
第4回	ワークショップ実習
第5回	ワークショップ実習
第6回	ワークショップ実習
第7回	ワークショップ実習
第8回	ワークショップ実習
第9回	ワークショップ実習
第10回	ワークショップ実習
第11回	特別講座受講
第12回	音楽療育におけるシアターの意義と構成
第13回	事後指導：実習のまとめと日誌ファイルの整理・提出

	・自己の課題を持って次回実習へ参加するために、毎回のワークショップ記録を省察する。	2025/04/01

事前・事後学修	・ 事前に配布される活動案の内容を把握して実習に臨む。 ・ 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 記録 70% ・ レポート等の提出 30%
テキスト	・ ワークショップの活動案 ・ 配布資料
参考文献	「ユニバーサルデザインの音楽表現」 星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、2017年度より札幌国際大学の音楽療育ワークショップにおいて企画・運営を行い、ファシリテーターとして子どもたちの発達を支援するプログラムを提供してきました。この実践活動を通じ、その時々の子どもの状況に寄り添い、適切な支援を行う重要性を探究してきました。これらの経験を基に、実践的な知見を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	この科目は「子ども音楽療育概論」と同時期に履修すること。 実習費 2,000円、資格申請費 5,700円が必要となる。(2024年度参考)

年度	2025
講義名称	[夏集]幼稚園実習[子心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07711P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
木村 彰子	大学・人文学部・心理学科
大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科
榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科
村中 幸子	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	幼稚園教諭1種の免許状を取得するための必修科目である。 幼稚園の保育を実践的かつ継続的に体験する。その中で、幼稚園教育の意義や幼稚園教諭の職務内容を知る。 幼児に肯定的なまなざしで関わり興味・関心や実態を知り、それをもとに指導計画を立案・実践を通して学ぶ。 幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得することを目的とする。
到達目標	・自身の課題を明確にもち、探究心・研究心をもちながら意欲的に課題を追求することができる。 ・幼稚園教諭・認定こども園保育教諭を目指す学生として、意欲的・継続的に実習をやり遂げる。 ・自己の幼児教育に対する課題を明確にもった上で保育実践力を養う。 ・幼児の実態を考慮した指導計画立案や教材研究をし、それをもとに実践し、新たな自己課題を見出すことができる。 ・日誌記載や反省では、幼児の姿や保育者の援助、自分と幼児との関わりなどを通して考察することができる。
授業の進め方	学外の幼稚園・幼保連携認定こども園にて連続して20日間、3歳以上の幼児や教職員等と直接かかわり、幼児の思いを理解したり、環境構成を学んだりする。 毎日日誌を書き指導担当教諭からの指導を受けながら振り返りを行うとともに、指導案を作成し責任実習を行う。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎日実習日誌を書き、幼稚園の実習担当教諭に提出をする。それに対して担当教諭から指導助言のコメントをいただく。また、指導担当教諭を中心に、日誌へのコメント記載だけではなく直接指導も受ける。 巡回教員からも、必要に応じてアドバイスをする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【事前準備】 ・実習の目的・課題を明確にもつ。 ・オリエンテーションに参加し、実習園の建学の精神や教育課程、指導計画を含めた教育方針などを理解する。 職員構成、学級、幼児数なども理解し、必要な準備の確認をする。	対面

第2回	【実習の実際（20日間）】 ・ 実習園の1日の流れを理解する。 ・ 幼児との関わりの中で、幼児を肯定的に捉えたり、幼児の興味・関心を知る。 ・ 教諭と子どもの関わりを観察し、教諭の役割について学ぶ。 ・ 環境を通した教育であることを体験的に学ぶ。 ・ 実習日誌を記載し反省を活かしながら次の日の実習に臨む。 ・ 園のねらいを参考にしながら、幼児の興味・関心や幼児の実態をもとに、指導計画を立案する。（指導計画立案の際は、教材研究を行ったり環境の構成について考えたりする） ・ 指導計画に基づき、部分実習や完全実習などを実施し、振り返りをする。 ・ 幼児との関わり以外にも、幼稚園教諭の仕事を体験する。 ・ 職員間の役割分担とチームワークの必要性について学ぶ。 ・ 実習のまとめや反省をする。	対面
第3回	【実習終了後】 振り返りを行いお礼状を書く。 巡回担当者からの指導を受ける。 実習先からの評価を確認し、振り返る。	対面

事前・事後学修	実習開始前には、「幼稚園実習指導」を中心に、実習に必要な知識や技術を習得する。また、事務的な作業も決められた期日内で行う。 幼稚園の実習時間内に行うことができなかった日誌記載や指導計画作成、教材準備等は、実習時間外にも行う。 終了後は自己評価するとともに、お礼状の添削の際、巡回担当教員からの助言を受ける。 また、学外からの評価を閲覧し再度実習の振り返りを行い、次の自己課題を導き出す。また、巡回担当者への報告や諸提出を決められた期日や方法に沿って行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	実習園からの評価 60% 事前、事後の諸手続き・実習日誌記載内容・提出書類内容や提出状況 40%
テキスト	使用しない。
参考文献	「実習ガイドブック」 「幼稚園教育要領解説」文部科学省編 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 「保育指導案大百科事典」 開 仁 志 一 藝 社 資格に必要な、これまでの科目で使用したテキストやプリント、自ら行った課題など。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭の実務経験がある教員を中心に、事前指導を行う。
備考	実習ガイドラインに沿って、資格取得に必要な単位を概ね修得済であり、4年春学期の「幼稚園実習指導」の事前準備が完了していることが、幼稚園実習を行う条件となる。 実習費として6月頃、25,000円を徴収する。 幼稚園教諭免許取得必修

年度	2025
講義名称	幼稚園実習指導[子心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07710S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 木村 彰子	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	8月からの学外幼稚園実習の事前指導の科目である。幼稚園実習に必要な知識や技能、実践力における各自の課題を明確にし、幼稚園教諭1種免許状を取得するための幼稚園実習で求められる力をつけることが目的である。 授業では、日誌の記載・エピソード記述、教材研究や指導案作成の練習を行うと共に、実習生としてのマナーも身に付ける。 また、絵本、シアター、ピアノ引き歌いの練習なども自己学修の中で行う。
到達目標	幼稚園実習に向けて、幼児理解や保育環境に関する理解、日誌や指導案作成、教材研究・弾き歌いや読み聞かせ等の技術等について、実習生として期待される水準に到達し、準備確認を通過すること。
授業の進め方	・認定こども園にて、2回体験実習を行い、日誌作成やエピソード記述を行う。 ・実習に向けた心構えや確認事項、個人票などの事務手続きを行う。 ・保育実習までの積み重ねをもとに、絵本やシアター発表準備、弾き歌い、指導案作成、教材研究などを行う。 ・授業の中間と後半、学びの成果をもとに、学外実習に向けた準備が整っていることを確認するための事前確認を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出・実践したものは、全体にコメントするとともに、指導案や日誌等については個別にコメントを記入して返却する。また、必要に応じて修正や再度の取り組みを促すこともある。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス・認定こども園実習について（木村） 個人票作成について（愛下）	対面
第2回	保育実習振り返り（愛下） 日誌・エピソード記述について（木村）	対面
第3回	教材研究交流①（木村） 手遊び①（愛下）	対面
第4回	指導案について（愛下） 付属認定こども園実習について（木村）	対面
第5回	付属認定こども園体験実習（木村・愛下）	対面
第6回	指導案について（愛下）	対面
第7回	学外幼稚園のオリエンテーションに向けた心構えや準備について（木村） 様々な日誌の様式について（木村）	対面
第8回	実習に向けた準備確認：弾き歌い中間発表（木村）	対面
第9回	認定こども園体験実習（木村・愛下）	対面

第10回	教材研究交流②（木村） 手遊び②（愛下）	対面
第11回	自己課題に向けた取り組み（木村・愛下）	対面
第12回	教材研究交流③（木村） シアター・名札の準備確認（愛下）	対面
第13回	実習に向けた最終準備確認（木村・愛下）	対面

事前・事後学修	・認定こども園実習後には日誌の記述やエピソード記述を行う。 ・指導案を作成したり、教材研究、弾き歌いの練習や、絵本・紙芝居の読み聞かせ、手遊び、わらべうた等の練習をしたりする。 ・そのほか、実習に向かうための自己課題に向けた取り組みを行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事務作業 10% 課題への取り組み(指導案作成、シアター準備、名札作成) 45% 課題への取り組み（教材研究、日誌・エピソード記述、弾き歌い） 45%
テキスト	これまでの授業で使用したテキストを各自、必要に応じて使用する。
参考文献	・「保育指導案大百科事典」 開仁志 一藝社 ・「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館 ・子どもの歌の楽譜（これまで配布されたものなど） ・これまで保育実習や幼稚園免許取得科目で使用したテキストや資料

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭の実務経験等がある教員2名が専門性を活かしながら適宜指導にあたる。
備考	・提出物等がある場合は、授業開始前に必ず準備しておくこと。 ・本授業は実習に対する構えの形成も目的とするため、技術的な準備だけではなく、大人としての自覚をもった生活を心がけることを求める。 ・原則として欠席は認めない。やむを得ない理由で遅刻および欠席する場合は必ず担当者2名にメールで連絡をし、その回の内容把握を行い、自ら補習課題を求めること。 ・認定こども園の都合などにより計画の変更もあり得る。その場合には授業内やキャンパスプランポータルで伝えるので、把握、対応すること。

年度	2025
講義名称	[冬集]保育実習Ⅲ[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07709P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
木村 彰子	大学・人文学部・心理学科
大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科
榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科
村中 幸子	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	・保育士資格を取得するための必修科目である。 「保育実習Ⅰ」を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することと、利用者の特性に合わせた保育のあり方について、体験を重ねながら現場からの助言を受け、より専門的な学びを深めることを目的とする。
到達目 標	・施設における子ども（利用者）の支援の実施について具体的に理解する。 ・個別支援計画の作成と実践について理解する。 ・保育士の多様な業務と職業倫理について理解できる。 ・保育士としての自己の保育に対する課題や認識の明確化を図る。
授業の 進め方	児童福祉施設、あるいは社会福祉施設における実習を連続して12日間（90時間以上）行う。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎日実習日誌を書き、実習施設の実習担当職員に提出をする。それに対して担当職員から指導助言のコメントをいただく。また、指導担当職員を中心に、日誌へのコメント記載だけではなく直接指導も受ける。 巡回担当教員から、必要に応じて助言をする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	【事前準備】 ・実習の目的・課題を明確にもつ。 ・オリエンテーションに参加し、施設の特徴や方針、環境などを理解する。 ・職員構成、支援体制、園児や通所・入所者数なども理解し、必要な準備の確認をする

第2回	【実習の実際（12日間）】 ・養護全般に参加し、養護技術を習得する ・利用者の個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の課題や生活環境にともなう要求を理解し、その対応について学ぶ ・援助計画を立案し、実践する ・利用者の家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ ・利用者の最善の利益を具体化する方法について学ぶ ・保育士としての倫理を具体的に学ぶ ・児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らして、自己の課題を明確にする ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する ・安全及び疾病予防への配慮について理解する ・部分実習・完全実習において、指導案作成、実践、観察、記録、評価に取り組む ・実習のまとめ、および反省
第3回	【実習終了後】 ・振り返りを行いお礼状を書く。 ・巡回担当者からの指導を受ける。 ・実習先からの評価を確認し、振り返る。

事前・事後学修	「保育実習指導Ⅲ」の内容を十分に理解し、実習準備を整えて実習に臨むが、実習では日々新たな課題が生じ、その対応を適切に行っていく必要がある。そのためには、これまで学んできた保育士資格取得に関わる専門科目の内容を、実習での実践と関連づけながら学ぶことが大切である。 部分保育や設定保育などを行う場合には、実習時間外に指導案を考え、実習担当職員に提出し、また教材研究も行う必要がある。また実践後は各自準備から当日までを振り返り、実習担当職員に助言をいただきながら、今後の課題を明確化していく。 事務的な作業は、期日内に行う。 実習科目のため必要な時間は人によって異なる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	実習園での評価：60％ 実習日誌・レポート、事前事後の手続：40％
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社 資格に必要な、これまでの科目で使用したテキストやプリント、自ら行った課題など

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士資格を保有しており、幼児・児童の発達支援や保育所での実務経験がある教員を中心に、事前指導を行う。
備考	資格取得に必要な単位を概ね修得済であり、3年秋学期の「保育実習指導Ⅲ」の事前準備が完了し、必要な実習準備が整っていることが、保育実習Ⅲを行う条件となる。 保育士資格取得必修

年度	2025
講義名称	[冬集]保育実習Ⅱ[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07708P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
木村 彰子	大学・人文学部・心理学科
大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科
榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科
村中 幸子	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	・保育士資格を取得するための必修科目である。 ・「保育実習Ⅰ」を踏まえ、保育所において保育の全体に参加し、保育計画（指導計画）に基づく設定保育にも取り組むことによって、現場からの助言を受ける。そしてその助言に基づく実習時の課題をまとめ、以後の学習課題とすることを目的とする。
到達目標	・保育所の役割や機能の具体的展開を理解する。 ・子どもの心身の状態や活動の観察から保育について理解を深める。 ・子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の大切さを理解する。 ・責任実習において、指導計画の作成、実践、観察、記録、評価に取り組むことができる。 ・保育士の業務と職業倫理について具体的に理解する。 ・実践を振り返り、自己課題を明確化することができる。
授業の進め方	保育所において連続して12日間（90時間以上）の実習を行う。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎日実習日誌を書き、実習施設の実習担当教諭に提出をする。それに対して担当教諭から指導助言のコメントをいただく。また、指導担当教諭を中心に、日誌へのコメント記載だけではなく直接指導も受ける。 巡回担当教員から、必要に応じて助言をする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	【事前準備】 ・実習の目的・課題を明確にもつ。 ・オリエンテーションに参加し、実習園の特色や方針、環境などを理解する。 ・職員構成、学級や体制、園児なども理解し、必要な準備の確認をする。

第2回	【実習の実際（12日間）】 ・ 保育施設の役割と機能について理解する ・ 保育・養護の一日の流れを理解し、参加する ・ 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する ・ 保育計画、指導計画、援助計画を理解する ・ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する ・ 生活や遊び、援助などの一部分を担当し、保育技術を習得する ・ 記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭・地域社会との連携を理解する ・ 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ ・ 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ ・ 安全及び疾病予防への配慮について理解する ・ 部分実習・完全実習において、指導案作成、実践、観察、記録、評価に取り組む ・ 実習のまとめ、および反省
第3回	【実習終了後】 ・ 振り返りを行いお礼状を書く。 ・ 巡回担当者からの指導を受ける。 ・ 実習先からの評価を確認し、振り返る。

事前・事後学修	保育実習指導Ⅱ」の内容を十分に理解し、実習準備を整えて実習に臨むが、実習では日々新たな課題が生じ、その対応を適切に行っていく必要がある。そのためには、これまで学んできた保育士資格取得に関わる専門科目の内容を、実習での実践と関連づけながら学ぶことが大切である。 部分保育や設定保育などを行う場合には、実習時間外に指導案を考え、実習担当職員に提出し、また教材研究も行う必要がある。実践後は各自準備から当日までを振り返り、実習担当職員に助言をいただきながら、今後の課題を明確化していく。 事務的な作業は、期日内に行う。 実習科目のため必要な時間は人によって異なる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	実習園での評価：60％ 実習日誌・レポート、事前事後の手続：40％
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社 資格に必要な、これまでの科目で使用したテキストやプリント、自ら行った課題など

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士資格を保有しており、幼児・児童の発達支援や保育所での実務経験がある教員を中心に、事前指導を行う。
備考	資格取得に必要な単位を概ね修得済であり、3 年秋学期の「保育実習指導Ⅱ」の事前準備が完了し、必要な実習準備が整っていることが、保育実習Ⅱを行う条件となる。 保育士資格取得必修

年度	2025
講義名称	保育実習指導Ⅲ[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07707S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 「保育実習Ⅰ」の学びや実習評価などを踏まえ、保育に対する課題や認識を明確にして「保育実習Ⅲ」の準備を行う。
到達目標	施設保育士として求められる専門知識の基本を確かめることができる。 保育士の専門性と職業倫理について理解できる。 保育実習Ⅰや既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を養うことができる。 自己の保育に対する課題や認識を明確化して保育実習の準備を行うことができる。 利用者や職員の前で行う設定保育を想定し、人前での活動ができる。
授業の進め方	演習、講義とグループワークを組み合わせで行う。必要に応じて各実習巡回担当者と、重要事項や手続きの方法の確認などを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の振り返りシートをもとに、個別面談を行い課題の明確化を行う。 指導案は必要に応じて添削を行い、より綿密に案を立てられるよう準備を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 保育所実習の振り返りー各自およびグループワーク（増山）
第2回	施設実習の振り返りー各自およびグループワーク（愛下）
第3回	自己課題の明確化／模擬保育の構想（愛下・増山）
第4回	課題研究ー模擬保育の実施と検討①（愛下・増山）
第5回	課題研究ー模擬保育の実施と検討②（愛下・増山）
第6回	課題研究ー模擬保育の実施と検討③／自己課題への取り組みー発表（愛下・増山）
第7回	まとめー実習前の諸注意と最終確認（愛下・増山）

事前・事後学修	保育実習Ⅰを振り返り、その成果と今後の課題について自分なりに整理しておくこと。 授業内で作成した自己課題シートをもとに、保育実習Ⅲまで各自必要な準備を進めること。 授業内で使用する模擬保育等の指導案の作成を行うこと、また実践後は内容案の検討や修正を行い実習までの準備を行うこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	● 2025/04/01

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	保育育習Ⅰの振り返りと自己課題への取り組み（30％） 模擬保育の実施と検討（50％） 実習に向けた準備（20％）※他学生の前で模擬保育や手遊び、絵本の読み聞かせなどを行うこと
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	「保育所保育指針解説」（2018）厚生労働省　フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 「保育指導案大百科事典」開　仁志　一藝社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	幼児・児童の発達支援や幼稚園・保育所での実務経験のある教員が、指導案や模擬保育など具体的な内容について適宜指導を行う。
備考	国家資格取得に関わる授業であるため、原則として欠席は認めない。やむを得ない理由で欠席する場合は、それを補う課題提出や必要に応じた補講を求める。また、欠席した場合は、その回の内容把握に自ら努めること。

年度	2025
講義名称	保育実習指導Ⅱ〔子心〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07706S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 「保育実習Ⅰ」の学びや実習評価などを踏まえ、保育に対する課題や認識を明確にして「保育実習Ⅱ」の準備を行う。
到達目標	保育者として求められる専門知識の基本を確かめることができる。 保育士の専門性と職業倫理について理解できる。 保育実習Ⅰや既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を養うことができる。 自己の保育に対する課題や認識を明確化して保育実習の準備を行うことができる。 園児や職員の前で行う設定保育を想定し、人前での活動ができる。
授業の進め方	演習、講義とグループワークを組み合わせで行う。必要に応じて各実習巡回担当者と、重要事項や手続きの方法の確認などを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の振り返りシートをもとに、個別面談を行い課題の明確化を行う。 指導案は必要に応じて添削を行い、より綿密に案を立てられるよう準備を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 保育所実習の振り返りー各自およびグループワーク（増山）
第2回	施設実習の振り返りー各自およびグループワーク（愛下）
第3回	自己課題の明確化／模擬保育の構想（愛下・増山）
第4回	課題研究ー模擬保育の実施と検討①（愛下・増山）
第5回	課題研究ー模擬保育の実施と検討②（愛下・増山）
第6回	課題研究ー模擬保育の実施と検討③／自己課題への取り組みー発表（愛下・増山）
第7回	まとめー実習前の諸注意と最終確認（愛下・増山）

事前・事後学修	保育実習Ⅰを振り返り、その成果と今後の課題について自分なりに整理しておくこと。 授業内で作成した自己課題シートをもとに、保育実習Ⅱまで各自必要な準備を進めること。 授業内で使用する模擬保育等の指導案の作成を行うこと、また実践後は内容案の検討や修正を行い実習までの準備を行うこと。

DP（学位授与の方針）との関連

（DP1）専門知識・技能を活用する力	●
（DP2）コミュニケーション能力	●
	2025/04/01

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	保育育習Ⅰの振り返りと自己課題への取り組み（30％） 模擬保育の実施と検討（50％） 実習に向けた準備（20％）※他学生の前で模擬保育や手遊び、絵本の読み聞かせなどを行うこと
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	「保育所保育指針解説」（2018）厚生労働省　フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館 「保育指導案大百科事典」開　仁志　一藝社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	幼児・児童の発達支援、幼稚園・保育所での実務経験のある教員が、指導案や模擬保育など具体的な内容について適宜指導を行う。
備考	国家資格取得に関わる授業であるため、原則として欠席は認めない。やむを得ない理由で欠席する場合は、それを補う課題提出や必要に応じた補講を求める。また、欠席した場合は、その回の内容把握に自ら努めること。

年度	2025
講義名称	[夏集]保育実習Ⅰ[子心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07705P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科
増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
木村 彰子	大学・人文学部・心理学科
大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科
榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科
村中 幸子	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育士資格を取得するための必修科目である。 保育所の園児や施設の利用者と触れ合い、保育者や施設職員の職務の実際を目の当たりにしながら、その役割や環境構成を理解し、実習保育所・施設の全体像の理解を図ることを目的とする。
到達目標	・ 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・ 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 ・ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について理解する。 ・ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
授業の進め方	保育所と児童福祉施設、あるいは社会福祉施設において連続して12日間（90時間以上）の実習を行う。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎日実習日誌を書き、実習施設の実習担当教諭に提出をする。それに対して担当教諭から指導助言のコメントをいただく。また、指導担当教諭を中心に、日誌へのコメント記載だけではなく直接指導も受ける。 巡回担当教員から、必要に応じて助言をする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	【事前準備】 ・実習の目的・課題を明確にもつ。 ・オリエンテーションに参加し、実習園・施設の特徴や方針、環境などを理解する。 ・職員構成、学級や支援体制、園児や通所・入所者数なども理解し、必要な準備の確認をする。

第2回	【実習の実際（12日間）】 ・保育・養護の一日の流れを理解し、参加する ・子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する ・保育計画、指導計画、援助計画を理解する ・生活や遊び、援助などの一部分を担当し、保育技術を習得する ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する ・記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭・地域社会を理解する ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ ・保育士としての倫理を具体的に学ぶ ・安全及び疾病予防への配慮について理解する ・部分実習(指導・援助・介助) ・実習のまとめ、および反省
第3回	【実習終了後】 振り返りを行いお礼状を書く。 巡回担当者からの指導を受ける。 実習先からの評価を確認し、振り返る。

事前・事後 学修	3年春学期「保育実習指導Ⅰ」の内容を十分に理解し、実習準備を整えて実習に臨む。また、事務的な作業も決められた期日で行う。 実習中は日々新たな課題が生じ、その対応を適切に行っていく必要があるため、保育士資格取得に関わる専門科目の内容などこれまでの学びと実習での実践とを関連づけながら学ぶ。 部分保育や設定保育などを行う場合には、実習時間外に指導案を考え、実習担当職員に提出し、また教材研究も行う必要がある。 実習終了後は自己評価するとともに、お礼状の添削の際、巡回担当教員からの助言を受ける。 また、学外からの評価を閲覧し再度実習の振り返りを行い、次の自己課題を導き出す。また、巡回担当者への報告や諸提出を決められた期日や方法に沿って行う。 実習科目のため必要な時間は人によって異なる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習園での評価：60％ 実習日誌・レポート、事前事後の手続き：40％
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社 資格に必要な、これまでの科目で使用したテキストやプリント、自ら行った課題など。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と 授業内容	保育士資格を保有しており、幼児・児童の発達支援や保育所での実務経験がある教員を中心に、事前指導を行う。
備考	資格取得に必要な単位を概ね修得済であり、3年春学期の「保育実習指導Ⅰ」の事前準備が完了し、必要な実習準備が整っていることが、保育実習Ⅰを行う条件となる。 実習費として6月頃、40000円を徴収する。 保育士資格取得必修

年度	2025
講義名称	保育実習指導Ⅰ〔子心〕
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07704S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育所・各種福祉施設での実習を意義あるものとするために、事前に必須の事項について学習する。主たる内容は、保育所理解、各種施設理解、実習の目的や意義の理解、実習の心構え、実習日誌の書き方、先輩からのアドバイス、保育所・施設職員からのアドバイス等によって展開する。
到達目標	実習を円滑に行うための準備を行う。 実習先の特徴やそれに応じた知識を学び、学外の実習に対応できるようになる。 園児や利用者、職員の前で行う設定保育を想定し、人前での活動ができる。 社会人としてのマナーを身に付け、ふさわしい言動を行えるようになる。
授業の進め方	実習に向けてのガイダンスや保育所・施設職員からのアドバイスなどは講義形式で行う。 学外実習や部分実習のための遊びや表現については、グループ演習の形態で指導を行う。 学外実習において観察やかかわりの実際や日誌の作成、活動の構想や指導案の作成などについて体験しながら学ぶ。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	日誌や指導案などの課題については授業内で解説するとともに、必要に応じて教員が赤入れをして返却し、訂正したものを改めて提出する。 弾き歌いやシアターなどの実技を伴う課題は、課題通過が難しいと見込まれる場合、個人の技量に合わせたアドバイスをを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	実習の目的と意義・心構えについて／先輩学生からのアドバイス（増山）
第2回	実習に向けて①保育所／保育所実習の日誌の書き方（増山）
第3回	グループ授業 学外実習－観察と記録（増山） 実習課題の立て方、個人票の作成と実習までの手続き（愛下）
第4回	グループ授業 学外実習－観察と記録（増山） 実習課題の立て方、個人票の作成と実習までの手続き（愛下）
第5回	実習に向けて②児童養護施設／保育所実習の日誌の振り返り／施設実習の日誌の書き方（増山）
第6回	指導案作成のポイント－設定保育に向けて（愛下）
第7回	実習に向けて③児童発達支援／電話のマナーとオリエンテーション／お礼状の確認（愛下）
第8回	指導案の作成と設定保育に向けた準備（愛下）
第9回	設定保育に向けた教材研究（増山）

第10回	グループ授業 学外実習－設定保育の実践（増山） 自己紹介・手遊び・わらべうたの実践（愛下）
第11回	グループ授業 学外実習－設定保育の実践（増山） 自己紹介・手遊び・わらべうたの実践（愛下）
第12回	実習前課題の確認－演じるもの・弾き歌い（愛下・増山）
第13回	実習ファイル等の準備／まとめ－実習と事後について（愛下）

事前・事後学修	実習に向けた調べ学習や資料収集、教材研究等の準備や、子どもの歌の弾き歌い、シアター系の演技の練習を行う。 実習ガイドブックに目を通し、保育実習の内容を深く理解しておくこと。 学外での実習後、記録を作成すること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	観察実習の日誌（20%） 実習準備のための提出物（20%） 実習に向けた課題（40%） 他学生の前でシアターや手遊び、絵本の読み聞かせなどを行うこと 授業への取り組みコメントシート（20%）
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	「保育所保育指針解説」（2018）厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 「保育指導案大百科事典」開 仁志 一藝社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	幼児・児童の発達支援、幼稚園・保育所での実務経験のある教員が、指導案や日誌の作成など、具体的な内容について適宜指導を行う。
備考	国家資格取得にかかわる授業であるため、原則として欠席は認めない。やむを得ない理由で欠席する場合は事前に申し出て、それを補う課題提出や必要に応じた補講を求める。また欠席した場合は、その回の内容把握に自ら努めること。

年度	2025
講義名称	子ども心理フィールドワークⅡ[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07702S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
木村 彰子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	幼稚園や認定こども園、児童福祉施設などの見学や体験実習から、子どもの理解や保育・幼児教育の実際を知ることを目的とします。「子ども心理フィールドワークⅠ」の学修成果を踏まえて、付属認定こども園や市内の認定こども園で各自の課題を意識しながら体験実習を行い、子どもとの関わりや保育者の姿の観察を通して子ども理解や保育の実際を体験的に学びます。また体験実習の記録や子どもの遊び体験、自己紹介の実演を通して、実習の初歩的な準備を行います。
到達目標	①体験実習を通して、子どもの理解や保育・幼児教育の実際について知る。 ②体験実習の記録の書き方を理解し、観察したことや考えたことを書きあらわすことができる。 ③子どもの遊びや自己紹介の制作・実演を通して、実習の初歩的な準備ができる。 ④児童福祉施設の見学を通して、保育実習の準備を意識することができる。
授業の進め方	・付属認定こども園や市内の認定こども園で体験実習を行います。実習後はグループで振り返りを行い、体験の共有や各自の課題を見つけ共有します。 ・実習における自己紹介について、制作活動や実演から学びます。 ・子どもの遊びについて体験しながら学びます。 ・児童福祉施設を知るために、児童養護施設や障害児入所施設を見学します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習記録は担当教員がチェックし、書き方や誤字脱字、記録文としての語句の用法など、必要に応じてコメントを記入し返却します。 質問については全体で共有すべきものは授業内で解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 実習に向けての心構えやマナーについて（再確認）
第2回	実習記録の書き方 実習における自己紹介について
第3回	付属認定こども園体験実習
第4回	付属認定こども園体験実習の振り返り
第5回	実習記録の振り返り
第6回	①グループ：認定こども園体験実習 ②グループ：子どもの遊び体験
第7回	①グループ：子どもの遊び体験 ②グループ：認定こども園学外実習
第8回	認定こども園体験実習の振り返り

第9回	自己紹介の実演
第10回	児童福祉施設について
第11回	児童養護施設の見学
第12回	障害児入所施設の見学
第13回	1年間のまとめと今後の課題

事前・事後学修	実習後の記録を期日までに書き、提出しましょう。 子どもと関わる機会がある場合は、積極的に参加する姿勢を持ちましょう。 本授業は2単位のため、事前事後学修併せて5時間程度の学修が求められます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習記録 40％ 実習の振り返り 20％ 自己紹介の制作物と実演 10％ 福祉施設見学の感想 20％ 最終レポート 10％
テキスト	「実習ガイドブック」 「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」わかば社
参考文献	適宜紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭・保育士等の実務経験がある教員が専門性を活かしながら適宜指導にあたります。
備考	学外での活動時は、受け入れ先の指示がない限り指定ポロシャツを着用しましょう。また実習やフィールドワーク、ボランティアなどは身支度を含め、マナーや心構えを主体的に守るよう意識しましょう。

年度	2025
講義名称	音楽Ⅰ（歌唱・理論応用）[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07610S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業では、音楽Ⅰ（歌唱・理論基礎）で習得した音楽理論をベースに、 ①保育現場の実践で役立つ伴奏付けのための知識や技術を養うこと ②子どもの歌に多く触れ、季節や行事等に合わせた適切な歌を選んで歌えるようになること 以上の二点を目的としています。 理論の解説、子どもの歌の歌唱、コードネームによる和音伴奏などの実技により展開していきます。
到達目標	基本的な和音の構造や種類を理解できる。 コード記号を理解し、子どもの歌への使用頻度の高いコードを使って伴奏することができる。 保育現場で歌われる子どもの歌や、保育者として次世代に歌い継いでもらいたい曲を覚え、歌うことができる。
授業の進め方	毎回の授業は理論、歌唱、コード実技、以上の三部構成で進めていきます。 理論はテーマごとに2～3回にまとめ、その都度復習テストを行います。 子どもの歌の歌唱は、生活、季節、行事などのテーマから選曲し鑑賞、歌唱します。 実技では、子どもの歌によく用いられるコード記号を理解して弾きます。復習テストと同じ回にコード奏の実技テストを行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	挨拶のうたは毎回歌唱します。その際に交代で1人ずつ伴奏を担当するので、課外時間に各自練習をして下さい。練習の成果や次の課題となる点については、演奏後にフィードバックし、また空き時間等を使って個別にアドバイスをを行うことが可能です。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	理論：和音 1 1）和音の作り方と和音記号 2）主要 3 和音と副 3 和音 3）和音の種類 4）基本形と転回形 歌唱：生活の歌 実技：コードの押さえ方（3和音）	対面
第2回	理論：和音 2 1）ハ長調以外の和音 2）4 和音＝ 7 の和音 3） 7 の和音の転回 4） 7 の和音の省略形 模擬テスト 歌唱：季節の歌	対面

第3回	復習テスト１・コード実技テスト 理論：和音伴奏付け１ １）終止形 ２）和音進行の禁則 ３）和声付け～適切な和音の選択 歌唱：季節の歌 実技：コードの押さえ方（３和音）	対面
第4回	理論：和音伴奏付け２ １）演奏に適した音型へのアレンジ ２）一般的な拍子の伴奏リズム・パターン 歌唱：季節の歌 実技：コードの押さえ方（３和音）	対面
第5回	理論：和音伴奏付け３ １）実際の楽曲の伴奏付け実践 模擬テスト 歌唱：季節の歌	対面
第6回	復習テスト２・コード実技テスト 理論：コードネーム１ コードネームの基礎 １）コードネームに使うアルファベット ２）コードネームの解説 歌唱：季節の歌 実技：コードの押さえ方（４和音）	対面
第7回	理論：コードネーム２ ３和音のコードの種類(1) ①メジャー ②マイナー ③サス・フォー 歌唱：季節の歌 実技：コードの押さえ方（４和音）	対面
第8回	理論：コードネーム３ ３和音のコードの種類(2) ①ディミニッシュ ②オーギュメント 模擬テスト 歌唱：季節の歌 実技：コードの押さえ方（４和音）	対面
第9回	復習テスト３・コード実技テスト 理論：コードネーム４ ４和音のコードの種類(1) １）メジャー ６th ２）マイナー ６th 歌唱：季節の歌 実技：コードの押さえ方（４和音）	対面
第10回	理論：コードネーム５ ４和音のコードの種類(2) １）ドミナント ７th ２）マイナー ７th ３）メジャー ７th 模擬テスト 歌唱：季節の歌	対面
第11回	復習テスト４・コード実技テスト 理論：コードネーム６ コードの応用 １）９thコード ２）onコード ３）omitコード 歌唱：季節の歌	対面
第12回	理論：コードネーム７ コードの応用 １）コードによる伴奏付け 模擬テスト 歌唱：季節の歌	対面
第13回	復習テスト５・コード実技テスト コードによる伴奏付け 歌唱：卒園ソングなど	対面

事前・事後学修	音楽Ⅰ（歌唱・理論基礎）で習得したカデンツ奏は、コードネームを使用した伴奏付けの基礎となるため、各自時間外で引き続き練習を続けてください。子どもの歌については、授業で取り上げる子どもの歌を中心に、課外時間等を利用して歌や伴奏の練習を繰り返し、多くの楽曲を覚えることが重要です。

成績評価基準と方法	1.授業内で行う復習テスト 80％ 2.コードネームによる和音奏の実技 20％
テキスト	プリントを配付します。 こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて紹介します。

年度	2025
講義名称	子どもの図画工作(応用)[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07605S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 梅田 真紀	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	作品制作を通してつくってあそぶ楽しさを感じると共に、保育者として必要な図画工作の基礎的技術と実践法を学ぶ。また幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された図画工作の学習内容の理解を深め、実践的な保育、造形表現の指導力を身に付ける。
到達目標	①作品制作を通して自分なりに感じたことや考えたことを表現することができる。 ②制作した作品や発表を互いに鑑賞することで様々な感性や表現を知り、理解することができる。 ③造形の基本を学び、作品制作に必要な技術を身に付けることができる。 ④作品制作を振り返り、自らの表現や制作方法の課題を見つけ把握することができる。
授業の進め方	子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、主に作品制作と作品を使った実践を行う。また作品や配布物を綴じてポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りと学生個人の資料とする。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	制作した作品を鑑賞し、学生同士の相互評価や教員からのアドバイスをを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／子どもの表現・自分の表現
第2回	「表現」の指導の実際（変身あそび）
第3回	「表現」の指導の実際（元永定正の絵本を題材に）
第4回	「表現」の実践的理解（紙飛行機）
第5回	保育での作品活用（パネルシアター／制作①）
第6回	保育での作品活用（パネルシアター／制作②）
第7回	保育での作品活用（パネルシアター／制作③・作品発表）

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。 ・配布される材料以外で必要なものは各自で用意する。 ・制作方法、手順などのレパトリーを調べる。 ・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70点 ②毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30点
テキスト	なし
参考文献	・幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で美術教諭として実務経験のある教員が実践的教育を行う。
備考	・制作に関わる費用は、教員と相談の上可能な限り専攻で用意する。 ・制作時は「子どもの図画工作（基礎）」で購入した教材等を使用する。 ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。

年度	2025
講義名称	保育内容(環境)[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07521S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	幼児と環境で学んだ知識を活かし、より実践的な理解を深めることを目的とする。実際の保育環境を検討したり、自ら観察した環境とそこで活動する子どもの姿を検討したりしながら、子どもの成長発達にとって良質な環境とはどのようなものか具体的に考えていく。その上で子どもにとって必要な環境を準備できる力をつける。
到達目標	・子どもの発達は周囲の環境によって変化することを理解し、子どもの発達を捉えながら、各年齢に適切な生活環境、室内の遊び環境、戸外遊びの環境を準備することができる。 ・身の回りの環境に注目し、子どもの育ちや保育とのつながりを考えることができる。
授業の進め方	知識の確認やまとめは講義形式で行う。環境の検討や環境づくり、活動の計画はグループワークやディスカッションを基本に演習形式で実施する。実際の保育環境や子どもの姿を事例として挙げながら、各自またはグループで環境を作成し検討する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個別課題は必要に応じてコメントする。全体で共有すべきことは次回の授業で解説を行う。グループ課題は授業内で他学生からの意見を求め、適宜解説を行う。また必要に応じて資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	0、1、2歳児の発達を意識した保育環境一個人差に配慮した保育環境の意義と配慮
第2回	0、1、2歳児の発達を意識した保育環境の作成と検討（グループワーク）
第3回	発達及び学びを踏まえた園庭・自然・地域環境
第4回	戸外遊びの実際と配慮（フィールドワーク）
第5回	園庭環境の作成と検討（グループワーク）
第6回	3、4、5歳児の学びを支える保育環境—文字、数量、身体、思考力
第7回	3、4、5歳児の発達及び小学校以降の学びを意識した保育環境案の作成と検討（最終課題の提出）

事前・事後学修	幼児と環境で学んだことを復習しておくこと。また実習やボランティア等で観察した保育環境について環境図を作成しまとめておくこと。 自ら作成した環境図と他者の環境図を参考にしながら、子どもにとって良質な環境とは何かを授業後に再デザインすること。 子どもが使用する生活道具やおもちゃ等について、知識を広げること。 事前事後学修の時間はそれぞれ90分を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	2025/04/01

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回の振り返り（30％） 自分の経験や考えを踏まえ、感想や考察を述べる事ができる フィールドワーク課題（10％） 子どもの発達を捉えながら、活動を考察することができる グループワーク（20％） 活動に応じた適切な保育環境を考えることができる 最終課題（40％） 各年齢に応じた適切な生活環境や遊び環境を考えることができる
テキスト	「環境構成の理論と実践」 高山 静子 郁洋舎
参考文献	「学びを支える保育環境づくり」 高山 静子 小学館 「保育とおもちゃ」 瀧 薫 エイデル研究所 「保育所保育指針解説」 厚生労働省 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育・要領」 内閣府 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実際の環境や子どもの姿を事例として挙げながら講義や解説を行う。
備考	グループワークの時間が多いため、主体的・協同的に参加すること。 自然探索など外部講師によるフィールドワークを行うため、適切な服装で参加すること。

年度	2025
講義名称	保育内容(健康)[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07520S

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	子どもが生涯に渡る心身の健康の基礎を獲得するうえで、必要となる環境や活動について理解を深めます。その中で保育者の果たす役割の重要性を理解し、保育者がとるべき基本的姿勢と具体的援助のありかたについて学びます。領域「健康」における指導上の留意点など、その理解を深めます。
到達目標	乳幼児の発育発達と健康に影響を及ぼす要因について理解を深め、健全な成長と健康の維持増進に関する意識を高めることができる。ヘルスプロモーションを理解し実践できる。心身の健康だけでなく自然環境や社会環境にも関心を持つことができる。
授業の進め方	演習形式で実施。 グループワーク主体でテーマ研究を行います。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、授業以外にも指導の時間を設けます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、保育実習においての「健康」という側面から考えた振り返り	グループワーク
第2回	子どもと疾病 子どもと環境 あそび環境とメディア 子どもと環境 自然	グループワーク等
第3回	領域「健康」における指導上の課題と対応 子どもの体力 領域「健康」における指導上の課題と対応 子どもの生活習慣 領域「健康」における指導上の課題と対応 子どもの食	ディスカッション等
第4回	テーマ研究 テーマ設定、資料検索	調査学習
第5回	テーマ研究 資料収集 検討 発表資料作成 発表準備	調査学習
第6回	研究発表	ディスカッション
第7回	発表の振り返りまとめのレポート	グループワーク等

事前・事後学修	課題への取り組みやテーマ研究への検討等

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	2025/04/01

成績評価基準と方法	・提出物 20% ・まとめのレポート 20% ・テーマ研究と発表 60%
参考文献	保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

年度	2025
講義名称	子どもの食と栄養(応用)[子心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07519S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山本　　たか子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	春季で学んだ基礎的な栄養に関わる項目や乳幼児期においてそれぞれの年代での食生活の違いを確認した上で、施設の食事と栄養、疾病や食物アレルギー、障害を持つ子供への対応を理解します。 さらに、効果的な食育教材の作成を通して保育士として今後に活用できる「食育」への応用力を修得していきます。
到達目標	①食育の重要性を理解し、国の施策に基づいた食育を保育所などで実践する力、家庭や地域との連携を考慮する力を形成する。 ②施設内で安全な食事を提供する知識（誤嚥防止の対策など）や、特別な配慮を必要とする児への対応を理解する。
授業の進め方	基本的に講義形式で進めます。毎回講義終了時にレポート作成、提出をして頂きます。 また講義内容により、課題の発表やグループディスカッション、調理実習など能動的な学修を目指します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、講義内で解説や講評し、それに対する質問も随時受け付けます。期末試験で出題する項目も多いので、説明できるように自分自身の学修に繋げてください。

授業計画表

回	授業内容
第1回	応用オリエンテーション　　学童期・思春期・成人期・高齢期の食生活と乳幼児期からの関り、健康への対応について
第2回	家庭、児童福祉施設、児童養護施設、保育所における給食や食事、栄養について 摂食・嚥下機能障害児の食生活の実際について
第3回	食物アレルギーの対応や治療、エビペンの使用について 疾病・体調不良時の症状と食生活について
第4回	食育教材作成①～食育紙芝居など～グループワーク
第5回	食育教材作成②とグループごとの発表
第6回	調理実習「食物アレルギー対応食幼児おやつ作り」レポート提出
第7回	これまでのまとめ（45分）と期末試験（60分）

事前・事後学修	子どもの生活と食事の関わりを理解し、自身の食生活を振り返り良好な状態の維持のためにどのような事柄が大切なのか、健康と食に関する情報を見聞してください。 予習・復習にかかる時間は1～2時間程度を目安としています。 秋季も引き続き、お弁当や行事食をイメージした料理作成など、実際の調理の幅も広げていきましょう。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末試験60％　レポート20％　レポート以外の課題10％　調理実習10％
テキスト	子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養　堤ちはる・土井正子　編著　萌文書林　2400円＋税
参考文献	子どもの食と栄養　改訂第3版　編集・執筆　児玉浩子　中山書店 厚生労働省「保育所におけるアレルギーガイドライン」 新食品成分表foods2025　　とうほう

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義は、小中学校給食や病院給食施設において給食管理や栄養指導、食育活動業務や、保育・看護・調理師専門学校などの講義経験のある管理栄養士が、乳幼児の栄養や食育活動に関して理論と実践に基づき理解を深める講義を実施します。
備考	調理実習を実施しますので、実習材料費として300円程度を徴収する予定です。 作成した食育教材は、ぜひ保育園や幼稚園、学童保育所などでも活用してください。 また、皆さん自身の食べ物への関心を高め、保育園児や幼稚園児に食育教材を通して「食」で健康維持できることを理解してもらうためにどのようなアプローチがあるのか、楽しんで受講してください。

年度	2025
講義名称	保育内容(表現)[子心①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07517S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	1年次の「保育表現」2年次の「幼児と表現」で習得した内容を応用し、幼児期に相応しい音楽表現の指導法を、幼児の発達や生活と関連付けて理論的・実践的に学ぶ。
到達目標	・年齢に相応しい教材の選択と指導ができる。 ・歌やピアノ、視覚教材の製作など、学習者の得意な分野を表現の指導に活かすことができる。
授業の進め方	・保育の場で実践される歌や楽器演奏などの音楽表現を体験し、幼稚園における音楽指導の実務経験のある教員から、その構成と指導法について学ぶ。 ・絵本の読み聞かせやパネルシアターなど指導現場に必要なツールを用い、音楽以外の表現方法について学ぶ。 ・各回の最後に授業の内容を振り返り、文章化したものを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・各回の振り返りに書かれた内容に対する解説、実践内容についての講評を授業内で行なう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	5領域の一つである「表現」の狙いと内容及びは領域との関わりや、小学校で学ぶ教科とのつながりについて
第2回	表現指導に必要な音楽技法
第3回	音楽を用いた子どもの遊び：わらべ歌
第4回	サウンドスケープ：環境の中の音探しと創作
第5回	保育とシアター／パネルシアター①
第6回	保育とシアター／パネルシアター②
第7回	表現遊びの指導案作りと模擬授業

事前・事後学修	・授業外で準備する課題についてはその都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。 ・予習・復習は週2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●

成績評価基準と方法	発表や制作・提出物 50%、各回の振り返りシート 30%、レポート 20%
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200 小林美実 編 チャイルド本社
参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	講師は約30年間幼稚園等において子どもにダルクローズリトミックのレッスンを展開した経験を持つ。子どもはどのようなことに興味を持ち、何が難しいのか等、発達段階に合わせた表現活動について考える。
備考	・ 演習授業であることから参加し活動することを必要とする。 ・ 動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類は不可）。 ・ テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

年度	2025
講義名称	保育内容(表現)[子心②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07517S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	1年次の「保育表現」2年次の「幼児と表現」で習得した内容を応用し、幼児期に相応しい音楽表現の指導法を、幼児の発達や生活と関連付けて理論的・実践的に学ぶ。
到達目標	・年齢に相応しい教材の選択と指導ができる。 ・歌やピアノ、視覚教材の製作など、学習者の得意な分野を表現の指導に活かすことができる。
授業の進め方	・保育の場で実践される歌や楽器演奏などの音楽表現を体験し、幼稚園における音楽指導の実務経験のある教員から、その構成と指導法について学ぶ。 ・絵本の読み聞かせやパネルシアターなど指導現場に必要なツールを用い、音楽以外の表現方法について学ぶ。 ・各回の最後に授業の内容を振り返り、文章化したものを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・各回の振り返りに書かれた内容に対する解説、実践内容についての講評を授業内で行なう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	5領域の一つである「表現」の狙いと内容及びは領域との関わりや、小学校で学ぶ教科とのつながりについて
第2回	表現指導に必要な音楽技法
第3回	音楽を用いた子どもの遊び：わらべ歌
第4回	サウンドスケープ：環境の中の音探しと創作
第5回	保育とシアター／パネルシアター①
第6回	保育とシアター／パネルシアター②
第7回	表現遊びの指導案作りと模擬授業

事前・事後学修	・授業外で準備する課題についてはその都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。 ・予習・復習は週2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●

成績評価基準と方法	発表や制作・提出物 50％、各回の振り返りシート 30％、レポート 20％
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200 小林美実 編 チャイルド本社
参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	講師は約30年間幼稚園等において子どもにダルクローズリトミックのレッスンを展開した経験を持つ。子どもはどのようなことに興味を持ち、何が難しいのか等、発達段階に合わせた表現活動について考える。
備考	・ 演習授業であることから参加し活動することを必要とする。 ・ 動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類は不可）。 ・ テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

年度	2025
講義名称	保育内容(言葉)[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07516S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	「言葉」の領域に関して、乳幼児の言葉の獲得の過程、読み聞かせに関する知識・技術、自分が把握し理解した事柄や、自分が感じたことをそのまま相手に伝えられる文章力や語彙力、幼児向け、保護者向け、職場の上司・同僚向けとさまざまな対象に向けた文章を作成するための文章作成法、語彙力を養うことを目的とする。 【当科目に含む事項：保育内容（言葉）の指導法】
到達目標	【到達目標】 ①言葉の重要性をふまえて、その指導と援助について具体的に方法を考えることができる。 ②年齢や興味関心に合わせて読み聞かせできる。 ③日誌や実習記録記載のポイントを理解し、実習に向け準備を進めることができる。
授業の進め方	「幼児と言葉」で学んだ知識をもとに、応用的な話題に加え個人又はグループでの発表とディスカッションによりすすめる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個人・グループによる発表・プレゼンテーションとディスカッション

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーションー展開・発表分担
第2回	絵本の読み聞かせ実践 その 1
第3回	絵本の読み聞かせ実践 その 2
第4回	群読の実践 その 1
第5回	群読の実践 その 2
第6回	群読の発表 その 1
第7回	群読の発表 その 2 全体のまとめ

事前・事後学修	①「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」学習内容を確認すること ②絵本の読み聞かせ、紙芝居披露の練習を繰り返すこと これらのために、 1 回につき 5 時間程度、全回併せて30時間以上は必要となる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	発表等 50％ 読み聞かせ等 50％
テキスト	テキストは使用しない。授業時に資料等を配付する。
参考文献	「幼児と言葉」で使用したテキスト、 岡田明『新訂 子どもと言葉』萌文書林 を持参することがのぞましい。

年度	2025
講義名称	保育内容(人間関係)[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07515S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子どもは日々多様な人間関係を経験している。それらの経験が子どもの育ちにどのような影響を与えるのか事例等で検討し、人との関わりの意義について再認識する。その際、保育者は何をどのように援助しているのかにも注目し、子どもを観る視点や援助の方法について学ぶ。 また、他者とつながる活動の案を作成し、自らも協働的に他者と取り組む体験を行う。
到達目標	・他者との多様な関わりの重要性和その実践を知り、実習等に生かす。 ・人間関係の育ちを意識し、活動を考えることができる。 ・人間関係の育ちを意識して、子どもへのかかわりや援助を実践することができる。
授業の進め方	知識の確認やまとめは講義形式で行う。実習等での子どもとのかかわりの検討や活動案の作成・発表は、グループワークやディスカッションを取り入れ検討を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループ課題については授業内で解説し、他学生の意見を求める。 個別課題についてはコメントを記載し返却する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	人との関わりを育てる保育実践―保育者との関係性
第2回	人との関わりを育てる保育実践―遊びを通して育つ協同性
第3回	人との関わりを育てる保育実践―個人差や多様性に配慮した教師の見守りや援助
第4回	幼児同士の関わりを意識した保育活動の重要性和その構想
第5回	幼児期と就学以降の学びの連続性
第6回	乳幼児の発達を意識した保育活動案の作成
第7回	乳幼児の発達を意識した保育活動案の検討と考察

事前・事後学修	幼児と人間関係で学んだことを復習しておくこと。 実習及びボランティアで観察した“保育者と子どものかかわり”、“子ども同士のかかわり”、“実習生と子どものかかわり”の事例について詳しく記録しておくこと。 授業内で検討した事例について、授業後自ら振り返り、検討内容を整理すること。 事前事後学修の時間はそれぞれ90分を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回の振り返り（30％）自分の経験や考えを踏まえ、感想や考察を述べることができる 授業内課題（10％） 保育活動とその計画を聞き、構想を練ることができる 活動案の作成（20％）人間関係を意識した活動を考えることができる 活動案の検討（20％）ディスカッションを通して、子どもの遊びやかかわりを検討することができる
テキスト	「社会情動的スキルを育む 保育内容 人間関係」 無藤隆 古賀松香 北大路書房
参考文献	「保育所保育指針解説」 厚生労働省 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実際の活動や子どもの姿を事例として挙げながら講義や解説を行う。
備考	グループワークの時間が多いため、主体的・協同的に参加すること。 異年齢混合の活動案と活動の実際について、外部講師による講義を予定している。

年度	2025
講義名称	障がい児保育Ⅱ〔子心〕
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07514S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、障がい児保育Ⅰで習得した知識や技術をもとに特別な支援を必要とする子どもの理解を深め、実践的な支援方法を学ぶこと、保護者支援や関係機関の連携についての理解を深めることをめざします。当事者の語りや事例なども含めた学びの中で、保育者として実践に必要な子ども理解、専門知識・支援のあり方を主体的に考える力を身につけて欲しいと思います。
到達目標	・特別な支援を必要とする子どもへの知識や理解が深まり、保育・発達支援・療育における計画の作成や援助方法を考えることができる ・特別な支援が必要な子どもの保護者支援のあり方について説明することができる ・職員間や関係機関との協働・連携に関心を持ち必要な事柄であることを理解したうえで、協働や連携のあり方について説明することができる
授業の進め方	・実務経験のある教員の講義に加えて、専門機関のPT及び保育者、特別な支援を必要とする子どもの保護者の語りを聴講し、職員間や関係機関との協働・連携のあり方や実践的な支援方法、保護者支援の理解を深めます ・初回に構成したグループでグループワーク・ディスカッションを行い、発表をします

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは後日に授業内で解答・解説を行います。また授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 地域の専門機関、小学校との連携
第2回	特別な支援を必要とする子どもの生活や遊びの環境、かかわり方①（理論）
第3回	特別な支援を必要とする子どもの生活や遊びの環境、かかわり方②（遊びを通した実践的な理解）
第4回	保育・発達支援（療育）プログラム
第5回	保育・発達支援（療育）における計画の作成や援助方法①（グループワーク）
第6回	保育・発達支援（療育）における計画の作成や援助方法②（グループワーク発表）
第7回	特別な支援を必要とする子どもの保護者支援 授業のまとめ

事前・事後学習	・事前、事後学習として、授業に対応しているテキストの該当箇所を熟読しましょう。また、障がい児保育に関係する書籍は数多く出版されています。参考文献に限らず、自身が読みやすい、わかりやすいと感じるものに積極的に触れて欲しいと思います ・事前学習（予習）として、障がい児保育Ⅰで学んだことを整理しておきましょう ・事後学習（復習）は、授業内容を整理する、テキストのワークを行う、関連する書籍を読むなどし、理解や知識を深めるように心がけてください ・グループ発表の準備は授業外の時間を調整してまとめ、期日までに完成してください ・事前、事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	特別な支援を必要とする子どもへの知識や理解をもとに、保育・発達支援（療育）における計画の作成や援助方法を考えられることを、グループワーク（発表）の評価基準とする（50％） 保護者への支援方法や職員間、関係機関との協働・連携のあり方ついて、自身の考えを論述できることをレポートの評価基準とする（20％） 保育者として実践に必要な子ども理解、専門知識・支援のあり方の習得を、小テストやリアクションペーパーの評価基準とする（30％）
テキスト	障害児保育演習ブック、増南太志編著、ミネルヴァ書房
参考文献	障害児保育ワークブック、星山麻木他、明文書林 演習・保育と障害のある子ども【第2版】野田敦史・林恵編集、（株）みらい ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育、小林徹・栗山宣夫編、（株）みらい

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	障がい児保育や発達支援・療育、乳幼児発達相談の実務経験のある教員が実践内の事例を含めながら、講義を実施します。
備考	・授業中に発表や発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください ・講義内容を向上させる意味で、受講回数の順序や内容を変更する場合があります ・本講義は、障がい児保育Ⅰで習得した知識や技術を応用し、展開される内容もあります。

年度	2025
講義名称	乳児保育Ⅱ〔子心〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07513S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤戸 純子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	・ 3 歳未満児の発育・発達過程や特徴を踏まえ援助や関りの基本的な考え方について理解する。 ・ 養護と教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法、環境について具体的に理解する。 ・ 乳児保育における配慮について具体的に理解する。
到達目標	保育者が子どもの育ちにどのように寄り添うべきか、成長・発達の姿を具体的に理解する。 子ども自身の主体的な育ちを援助するための具体的な保育内容を理解する。
授業の進め方	配布資料を基に子どもの育ちと援助の仕方を学ぶ。 子どもの生活や遊びの様子（写真や動画）から具体的な援助の方法を考える。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実際の保育活動から具体的な保育環境や援助方法が理解できるようにする。 具体的な援助の方法を学ぶ中で子どもの育ちを考える。 その回ごとのまとめ（アンケートなど）についての授業の中で補う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	対面授業
第2回	乳児期の食事の援助と環境	対面授業
第3回	乳児期の排泄の援助と環境	対面授業
第4回	乳児期の睡眠・休息の援助と環境	対面授業
第5回	乳児保育の着脱に関する援助と環境	対面授業
第6回	乳児保育の清潔に関する援助と環境	対面授業
第7回	乳児期の遊びの援助と環境	対面授業

事前・事後学修	乳児保育 1 から乳児期の子どもたちの育ちの学び（発達の特徴や道筋など）を深めておくこと。 3 年次に行われる保育実習で 3 歳未満児の保育の方法や援助の仕方への理解をさらに深めること。

成績評価基準と方法	講義後の課題（60％）と期末レポート（40％）による評価
テキスト	「演習で学ぶ乳児保育」 小山朝子編著 亀崎美紗子・善本真弓 わかば社
参考文献	「講義で学ぶ乳児保育」 小山朝子編著 亀崎美紗子・善本真弓 わかば社 「発達がわかれば子どもがみえる」 乳幼児保育研究所編著 株式会社ぎょうせい

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員	担当教員は、東月寒認定こども園にて保育士、主任保育士としての経験を積み、現在は園長として園全体の運営に携わっています。2025/04/01

年度	2025
講義名称	子どもの健康と安全[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07512S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 照井 レナ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、保育における保健的視点を踏まえた保育環境や援助について理解し、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策について具体的な能力を身につけることとする。また、子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画および評価について具体的に学修する。
到達目標	1) 保育における保健的視点を踏まえた保育環境や援助について説明できる。 2) 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に説明できる。 3) 子どもの体調不良等の適切な対応について具体的に説明できる。 4) 保育における感染症対策について、具体的に説明できる。 5) 保育における保健的対応や基本的考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。 6) 子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画および評価について具体的に説明できる。
授業の進め方	☐ 1回105分、7回の講義。事前・事後学修を課す。 ☐ 適宜パワーポイントなど視聴覚教材を活用して講義を行う。 ☐ 子どもの健康と安全にかかる適切な対応は：問題解決思考を基盤とする ☐ プログラム学修の活用： ①良い聴き手を育てること ②発表能力がつくことを目的として活用する。 内容は、グループワークで話し合った内容を全体で発表し、問答、討議を行う。 また、各グループ間の内容を共有することで視点が広がり、考え方の多様性を学ぶことができる（第7回）。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	☐ 定期試験出題内容である小テスト（MT）は、毎回実施。 各回、模範解答・解説を行う。定期試験前には、内容の再確認の時間を設ける。 ☐ 課題レポートは3課題。レポートのスペックは詳細を指示する（遵守されない場合は減点あり）。 各回、コメント・採点。

授業計画表

回	授業内容
第1回	☐ 子どもの健康と安全を守るために（テキスト第1章）
第2回	☐ 保健的視点をふまえた保育環境および援助（テキスト第2章）
第3回	☐ 保育における健康および安全の管理（テキスト第3章） ・衛生管理小テスト ・事故防止・安全管理 ・危機管理・災害対策
第4回	☐ 子どもの体調不良に対する適切な対応（テキスト第4章） ・体調不良 ・緊急時の対応 ・救命蘇生法

第5回	☐ 感染症対策（テキスト第5章）
第6回	☐ 障害のある子どもへの対応、医療行為（テキスト第6章） ☐ 健康および安全の管理の実施体制（テキスト第7章） ・保健活動における連携・協働及びその評価
第7回	☐ 健康および安全の管理の実施体制（テキスト第7章） ・保健活動の計画・評価に関するグループワーク・全体発表 ・保健だよりの作成のポイント

事前・事後学修	第1回 事前学修：保育所保育指針「健康および安全」をまとめる（テキスト第1章） 事後学修：課題レポート：「保育士として大切にしたいこと」 第2回 事前学修：集団健診の時期と健診内容をまとめる（テキスト第2章） 事後学修：寝る、食べる、排泄の支援内容をまとめる（テキスト第2章） 第3回 事前学修：「食中毒例（種類や発生時期）」「小児の事故、年齢別の死亡事故原因」を調べてまとめる（テキスト第3章） 事後学修：「嘔吐物の処理方法・手順」「誤飲、誤嚥、窒息事故の安全対策」をまとめる（テキスト第3章） 第4回 事前学修：「発熱、咳の症状時の対応」「アナフィラキシーショックの対応」「心肺蘇生法の一次救命処置の手順」をまとめる（テキスト第4章） 事後学修：「嘔吐、下痢の症状時の対応」「けいれんや意識消失時の対応」「AEDの装着方法」をまとめる（テキスト第4章） 第5回 事前学修：予防接種の種類と実施時期をまとめる（テキスト第5章） 事後学修：感染症の症状と対応をまとめる（テキスト第5章） 第6回 事前学修：障害者手帳についてまとめる（テキスト第6章） 事後学修：障がいをもつ子どもと保護者へのサポートをまとめる（テキスト第6章） 保健計画の作成の法的根拠、意義をまとめる（テキスト第7章） 第7回 事前学修：課題レポート：「3歳児の身体発育・生理学的機能に基づく年間の保健計画を作成する」 事後学修：課題レポート：「保健だよりの作成」

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題提出：30点（内訳：3課題いずれも配点10点） 定期試験：70点（講義の終盤で実施する小テストから出題する）
テキスト	遠藤郁夫ほか（2021）：子どもの健康と安全，学建書院.東京.
参考文献	小林美由紀（2024）：子どもの健康と安全演習ノート，診断と治療社.東京. 高内正子ほか（2020）：保育の場で生きる　子どもの健康と安全，建帛社.東京

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、16年間にわたり自治体の保健師、精神科ディケア・急性期病棟や訪問看護ステーションの看護職、経営陣として経験を積んできました。これらの看護実践により養われたコミュニケーションスキル、観察力や判断力、チームワーキング、リスクマネジメントなどを活かし、保育や子どもの健康と安全のために応用できる看護の智恵や学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	教育相談[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07417L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	教育相談は、幼児・児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。幼児・児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けていきます。
到達目標	幼児・児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を説明できる。
授業の進め方	講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討・分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。 講義内で出題したレポート3本については締め切り後の講義内でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／学校教育と教育相談
第2回	教育現場の実態／教育相談の理論
第3回	C.R.ロジャースの生涯と仕事(1) ～ロジャースの理論について
第4回	C.R.ロジャースの生涯と仕事(2) ～カウンセリング演習
第5回	教育相談の技法／学級経営に活かす教育相談
第6回	学校や園で使えるアセスメント
第7回	保護者の理解と支援
第8回	校内・園内および関係機関との連携
第9回	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用
第10回	発達障害の理解と支援(1) ～AD/HD, SLDについて
第11回	発達障害の理解と支援(2) ～自閉スペクトラム症について
第12回	精神障害の理解と支援
第13回	学級で使える心理ワーク演習

事前・事後学修	シラバスに提示されている次回講義の内容について教科書や配布資料を読み、大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートにまとめておいてください。また、日ごろから学校教育に関するニュースに興味を持つようにしてください。 <事後学修> 講義内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。 <必要な時間> 事前・事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の受講時に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（5点×13回＝65点）と、講義内で出題するレポート課題（（10点×2本）＋（15点×1本）＝35点）の合計点で評価する。
テキスト	【改訂版】教師のたまごのための教育相談 会沢信彦・安齊順子 北樹出版
参考文献	生徒指導提要 文部科学省 保育所保育指針解説 厚生労働省編 幼稚園教育要領解説 文部科学省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、保育園・幼稚園・認定こども園における巡回相談、公立小学校や公立教育相談室における教育相談や特別支援教育（障がい児教育）や大学の学生相談室における学生相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、多様な子どもや保護者、教職員への教育相談の進め方について心理学の理念と方法を取り入れ、具体的に講義します。
備考	本講義は座席を指定します。 講義中の私語，許可された場合以外のスマートフォン・携帯電話・パソコン等の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。

年度	2025
講義名称	教育行財政[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07416L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 東 重満	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、現代の学校教育（とりわけ幼児教育関連分野）に関する社会的、制度的または経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身につけ、関係する課題を理解する。また、学校（幼稚園ならびにこども園）と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識も身につけることである。
到達目標	① 教育（とりわけ幼児教育について）に関する社会的、制度的、経営的事項について理解する。 ② 学校（幼児教育・保育施設）と地域との連携のあり方について理解する。 ③ 学校安全への対応について、具体的な取組を理解する。
授業の進め方	授業は講義を基本としながらも、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型授業展開で進める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は講義の振り返り、調べ学習やレポートの作成等、より実践的な学びを通して理解を深める過程の中でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス、幼稚園等をめぐる近年の様々な状況の変化について
第2回	東日本大震災記録映画「いつもの幼稚園にもどること」視聴して教育行財政の本質的意味を考える
第3回	近年の教育行政の動向について（幼児教育を中心に）
第4回	公教育の原理・理念および公教育制度と関連法令について
第5回	教育行政の理念と仕組、諸課題について
第6回	幼児教育（就学前教育）と小学校教育の相違と接続について
第7回	不適切な保育問題や問題や児童虐待等について（子どもの権利条約の視点から）
第8回	幼稚園等の経営の推進・評価・充実について
第9回	幼稚園等（学校）以外の関係者・関係機関との連携、協働のあり方について
第10回	開かれた幼稚園（学校）づくりの推進について（家庭・地域の連携、協働のあり方について）
第11回	幼稚園（学校）管理下での事件・事故・災害等への対応について
第12回	インクルーシブ教育システムの推進について
第13回	まとめと期末試験（レポート）

	【具体的な内容】 事前に提示した関係事項について調べ、内容を整理し課題を明確にする。	2025/04/01

事前・事後学修	ふり返りとして、講義内容の復習や関係課題の報道や著作、エッセイなどにアクセスし実践における知見を広め、理解を深める。 【必要な時間】 事前学習 6 0 分 事後学習 1 2 0 分

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題（20％）、中間レポート提出（30％）、期末レポート（50％）
テキスト	適宜、プリントやスライドにて提示する。
参考文献	「教育小六法」学陽社　「解説教育六法」三省堂　（いずれも最新版）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、学校法人や公的機関での豊富な職務経験を有し、幼児教育や政策立案、研修運営など、教育分野における多岐にわたる業務に携わってきました。また、非常勤講師や研究員として指導・研究活動も展開しています。これらの経験を基に、実践的で幅広い視点からの学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	教育課程論Ⅱ〔子心〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07415L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の 目的と 概要	幼稚園要領を基準として各幼稚園等において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園等の実情に応じたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。教育課程論Ⅰの学習成果を踏まえ、理論理解の深化と実践事例の研究・評価更に、編成力を培う。
到達目 標	学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 幼児教育の意義と役割を踏まえたカリキュラム論を身につける。
授業の 進め方	配布資料に基づいて講義すると共に、個人の振りかえりやグループワークを通して、自ら課題を明らかにすると共に実践的アプローチも試み、具体の成果としてプレゼンテーションする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中提示された質問等については、講義内で回答し、問題意識の共有を図る。 授業内課題についても、返却の際に解説を加える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：教育課程について
第2回	教育課程の役割と機能
第3回	カリキュラムの思想
第4回	系統主義と児童中心主義
第5回	倉橋惣三と日本の保育カリキュラム
第6回	カリキュラムの編成原理と子ども理解
第7回	日本の子ども、育ちの実態と課題
第8回	評価と指導要録
第9回	カリキュラム・マネジメント
第10回	教育課程の編成①
第11回	教育課程の編成②
第12回	教育課程の編成③
第13回	まとめ

	【具体的な内容】 ・事前学習については、各授業内で指示する。	2025/04/01

事前・事後学修	・教育課程論Ⅰをしっかりと復習すること。 ・講義内容は各自で振り返り、要点をまとめておくこと。 【必要な時間】 事後学習を重視する。事前1時間程度、事後3時間程度を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	各回の小レポート 30% 発表 30% 期末レポート 40% 到達目標に明記している『学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する』、『教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する』、『幼児教育の意義と役割を踏まえたカリキュラム論を身につける』について、講義内容を踏まえた論述及び発表ができることを授業各回の実践レポート・まとめのレポートの評価基準とする。
テキスト	「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
参考文献	適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場における幼稚園教諭の実務経験から、教育課程の役割、機能、意義及び教育課程編成の方法に関する具体的実践例について説明する。
備考	必要に応じてスマートフォン・タブレット・パソコンを使用するため、持参すること。

年度	2025
講義名称	子育て支援[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07414S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 木村 彰子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保護者が置かれている現状を理解するとともに、保育者の子育て支援の意味や重要性について理解すること。 子どもの最善の利益を保障するための子育て支援についての理論や方法を理解するとともに、具体的な事例をもとに望ましい子育て支援のあり方を検討する。
到達目標	・子育て支援は子どもの最善の利益に基づいて行うことが基本であることを理解し、なぜそれが必要なのか説明できる。 ・様々な事情を抱えた保護者の心情を理解しようとする。その上でどのような支援が必要か、事例を使い説明することができる。
授業の進め方	授業はパワーポイントや配布資料を使用し、講義と演習を織り交ぜて行う。 具体的な事例を提示したり、直接保護者から話を聞いたりする中で、できるだけ実際にイメージしながら保護者支援で必要なことについて考えていけるようにする。 さらに、最新の脳科学の動画を通して保護者の心情を考える内容も盛り込む。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題については、次の回の最初にコメントする。 また、個別のフィードバックが必要な内容に関しては個別にコミュニケーションをはかりながら伝える。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 保育における「子育て支援」とは	対面
第2回	親のおかれている状況や気持ち	対面
第3回	「相談機関の支援」と「保育現場における子育て支援」の違い	対面
第4回	育てにくい子どもの保護者の心情	対面
第5回	特別な支援が必要な子どもの保護者の心情の実例	対面
第6回	子育て相談の技法とロールプレイ	対面
第7回	脳科学から考える子育て支援	対面

事前・事後学修	事前学修として、前回の授業内容を振り返っておくこと。 事後学修では、授業の振り返りや次回の授業につながる課題の提出を求める場合もある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	2025/04/01

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	提出課題 70% 最終レポート 30%
テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて資料を配布するが、2年春学期の「保育原理」や1年秋学期「子どもの理解と援助」で使用したテキストを使用することがあるため、準備しておくこと。
参考文献	「新しい保育講座1 保育原理」渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 編著 ミネルヴァ書房 「新しい保育講座3 子ども理解と援助」高嶋景子・砂上史編著 ミネルヴァ書房 「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭・臨床心理士として実務経験のある教員が、実践の中で出会った具体的な事例も提示し、考えるきっかけづくりを行う。
備考	授業の後半の時間に、提出課題を行う時間を設けることもあるため、できるだけ欠席をせず、授業に参加すること。 また、提出課題は期日を厳守すること。 欠席した場合には必ずその回の内容を各自で補い、必要に応じて教員にも確認をし、提出課題がある場合は早めに提出すること。 保育士資格必修

年度	2025
講義名称	子ども理解の理論と方法[子心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07413L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の心身の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法を考えることができる。幼児理解についての知識を身に付け、理論に基づく保育方法を具体的に理解する。
到達目標	・ 幼児理解の意義を理解できる。 ・ 発達や教育の理論を保育に応用できる。 ・ 観察、記録に基づき、具体的な子どもの特徴を考察できる。 ・ 子どもの困った行動に対して、適切に対応できる力を育む。
授業の進め方	理論や知識については、視聴覚教材などを使用しながら講義形式で進める。実際の子どもの姿や保育場面の観察から、子どもについて分析し、必要に応じてグループでディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説を行う。質問については全体で共有すべきものは授業内で解説し、それ以外のものについては必要に応じてWebClassを通して個々に対応する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	幼児の発達及び子育て支援にかかわる現代的課題
第2回	子どもを理解することの意義―子ども観と保育観
第3回	生活場面における子どもの理解と保育の方法
第4回	遊びに見られる子ども理解と保育形態
第5回	幼児の遊びにおける子どもの理解と援助
第6回	子ども相互のかかわりと関係づくり
第7回	いざこざやつまずきにおける子どもの理解と対応
第8回	環境の変化や移行が子どもに与える影響
第9回	子どもの気になる行動に対する理解と対応
第10回	受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的姿勢や技法
第11回	保護者の心情と基礎的な対応方法
第12回	幼児の生活や遊びに関わる地域の専門機関等との連携の意義
第13回	園内の協力体制について

	これまでに学んだ発達理論を復習しておくこと。

事前・事後学修	実習及びボランティアで出会った印象深い子どもの姿について詳しく記録しておくこと。 授業内で検討した事例について、授業後自ら振り返り、検討内容を整理すること。 事前事後学修の時間はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	各回の振り返り（40％） 授業内課題（20％） 期末レポート（40％）
テキスト	使用しない
参考文献	「保育者の関わりの理論と実践」高山静子　郁洋舎 「発達と育ちの心理学」　佐藤公治編著　萌文書林 「社会情動的スキルを育む　保育内容人間関係」無藤隆、古賀松香　北大路書房

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実際の活動や子どもの姿を事例として挙げながら講義や解説を行う。

年度	2025
講義名称	社会的養護Ⅱ〔子心〕
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD07412S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 西村 忍	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	児童虐待をはじめとし、子どもの貧困 ヤングケアラー問題 教育虐待など子どもを取り巻く社会的問題は複雑多様化し、社会的養護を担う者に求められる役割も大きく幅広くなってきている。本講義では社会的養護を必要としている子どもたちの生活環境 心理状態を把握し、虐待を受けた子ども 発達障害等障害を抱える子どもたちの心理や行動に関しての理解を深めるとともに、支援に必要な視点 知識 技術 制度などさまざまな角度から考え学ぶ。
到達目標	社会的養護を必要としている子どもたちの施設入所前の生活状況 施設入所後の生活状況の違いを理解する。特に、施設内での生活全般について理解する。 虐待を受けた子どもの心理状態 行動の理解と支援方法を理解する。 発達障害といわれる子どもたちの特性を理解するとともにそれぞれに対しての具体的な支援の方法や知識を取得する。 社会的養護に関連する法制度 社会資源 技術の知識を身に着ける。
授業の進め方	授業計画に沿って、配布する資料を中心に講義を進めていく。授業内でレポートの作成（2回）また、児童養護施設の児童指導員実務経験からの事例を紹介し、実践的な授業を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中や次の授業の冒頭で解説 講評する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	社会的養護Ⅱの授業の進め方 レポート テストの回数 評価の割合などの説明。 アドミッションケアの説明 要保護児童発生の経緯 児童相談所の対応 一時保護 権利ノートの説明 施設入所 子どもの受け入れ 一時保護のアセスメント機能
第2回	インケアの説明 児童養護施設での日常生活支援 自立支援計画書 治療的支援 ① 被虐待児の心理 行動 支援の在り方 治療的支援 ② 発達障害 特徴 理解と支援方法 自立支援計画書 苦情解決についての説明
第3回	リービングケアの説明 自立支援 家庭復帰の場合の具体的支援 自立支援 社会自立の場合の具体的支援
第4回	アフターケアの説明 家庭訪問 会社訪問 自立支援事業について 内容 施設退所後の支援 事例の紹介
第5回	ソーシャルワーク ソーシャルワークの体系 ケースワーカーに必要な姿勢と視点 コミュニケーションスキル バイスティックの7原則 ケースワークの展開過程の説明
第6回	記録と評価 記録の必要性 種類 第3者評価について 里親支援 里親の定義と種類 里親の認定 登録 研修 里親委託の意義 課題 家庭支援 社会的養護に関わる家庭が抱える問題

第7回	社会的養護の今後 課題 テストと解説

事前・事後学修	日ごろから社会的養護に関する出来事や報道に関心を持つ

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	試験 50％ 授業内レポート 50％（2回）
テキスト	資料を配布しますのでその資料に沿って授業を行います。
参考文献	図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」 萌文書林 杉山 宗尚・原田 旬哉 編著

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、長年にわたり児童養護施設での勤務を通じ、日常生活支援や家族の再構築を視野に入れた支援を行い、さらに危機管理マニュアルの作成や実習生の指導など、施設運営にも従事してきました。この豊富な経験を基に、現場での具体例を交えた学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	保育英語(基礎)[子心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06902S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語(基礎)Ⅰを踏まえ、子どもと英語を通してコミュニケーションを取るための基本的な英語表現を身に付ける。英語の歌、絵本、ゲーム、クラフト等を通して自分が使いたい英語表現を発見し、活躍させる。英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができるように、基本的な英語表現を身に付ける。
到達目標	・保育現場における基本表現を用いて、子どもとコミュニケーションを取ることができる。 ・英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。 ・誰でも分かるように複雑な指示を簡単に説明することができる。
授業の進め方	・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワーク、グループワーク、ロールプレイを中心に学習する。 ・小学校と英語学童で得た実務経験をもとに、英語のゲーム、工作等の演習を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・パフォーマンス課題に対する個人的なフィードバックに加え、次のレッスンの冒頭でクラス全体へのアドバイスが行われる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	親への自己紹介、挨拶 Self-introduction and Greeting Parents
第2回	親への報告 Reporting to Parents
第3回	日常英会話 Conversational English
第4回	子供と話す Talking with Children
第5回	教室のものの名前 Classroom Objects
第6回	確認テスト ①、復習、フィードバック
第7回	ゲーム Games ① - 説明の仕方
第8回	ゲーム Games ② - 準備
第9回	ゲーム Games ③ - 運営
第10回	工作 Craft ① - 説明の仕方
第11回	工作 Craft ② - 準備
第12回	工作 Craft ③ - 運営
第13回	確認テスト ②、復習、フィードバック

事前・事後学修	・学んだ英語表現と言葉を何回も復習して覚えましょう。 ・ロールプレイ等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。 ・英語の聞き取りを練習するために、YouTube等の楽しい方法で英語を聞くことを習慣にして毎日少しでも聞きましょう。 ・自分で使いたい英語が分からない時日本語でメモにして、後で英語を調べてフレーズブックに加えましょう。 ・予習・復習の時間は2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 授業内の活動 30% ② 宿題、フレーズブックの提出 20% ② 確認テスト（各2回 25%、合計50%）
テキスト	必要な書類を授業内で配布する。
参考文献	新・保育の英語 著者：森田和子 出版社：三修社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、保育園での英語活動、児童館でのコミュニケーション指導、小学校での英語教育に計4年間携わり、子どもの発達に合わせた指導方法を実践してきました。この経験を基に、教育現場の視点を活かした具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	多文化保育論[子心]【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06901S

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	日本において今後の保育を考えると、外国人児童と日本人児童とともに保育することは不可欠である。 日本と外国の児童への保育は単に言葉が通じればよいわけではない。 日本人児童にも外国人児童にも望ましい保育のためには、保育者が多文化保育の理論を基礎に、保育で扱う内容や保育の環境に留意しなければならない。 この講義では多文化保育について日本や諸外国の事例を用いながら学修をすすめる。
到達目標	多文化保育とは何か説明することができる。 保育の中で多様性を大切にするにはどのようなことが必要か考えることができる。 日本や諸外国における多文化保育の現状をわかり説明することができる。
授業の進め方	本授業は基礎的な知識を学修する場合にはオンデマンドで行い、 それについて深め考える授業は対面で行う。 オンデマンドは内容の修得とその確認の小テストで構成する。 対面授業では講義とグループワーク、あるいは発言という構成で行う。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　ディスカッション　反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回のリフレクションシートの提出に対し、個別の質問ではLMSを通して返信をする。 全体で共有すべき内容については、次の授業の冒頭でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業の進め方 多文化保育とは何か	対面
第2回	外国につながる子どもの状況	オンデマンド
第3回	外国につながる子どもの具体的課題	対面
第4回	多文化保育の現状と施策	オンデマンド
第5回	多文化保育の現状に対する議論 グループでの取り組みと発表	対面
第6回	諸外国の保育（ブラジル）	オンデマンド
第7回	ブラジルと日本の保育の違いについて	対面
第8回	諸外国の保育（北欧：スウェーデン、ノルウェー）	オンデマンド
第9回	北欧と日本の保育との違いについて	対面
第10回	多様性を大切にするためには　グループ発表準備	オンデマンド
第11回	多文化保育の対応　グループ発表準備	対面

第12回	グループ発表	オンデマンド
第13回	ディスカッションと最終試験 授業の前半では本授業で学修した内容について議論します。 後半では試験を行います。	対面

事前・事後学修	事前学習、事後学習共に授業内に提示する。また同時にLMSにも掲示する。 必要な時間数は事前事後ともに2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価の基準は以下の通りである。 毎回のリフレクションシート（30％） グループ発表（20％） 授業内試験（50％）
テキスト	必要な参考文献については、LMSを通じて提示する。

年度	2025
講義名称	子ども音楽療育概論[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06803L

担当教員

氏名	所属
◎ 下出 理恵子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	音楽教育、保育、発達臨床、音楽療法などの様々な関連分野から保育音楽療育の専門性を論理的に学習する。また音楽を構成している要素と療育における音楽活動の関係性を学び、音楽療育における音楽の役割を理解する。
到達目標	・対象者理解のために知識を備える・保育音楽療育における音・音楽の役割を理解する・保育音楽療育の意義と目的を理解する。
授業の進め方	関連領域の文献、臨床のDVDを使用し、必要に応じて演習を交えながら講義を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については理解度を確認し返却し講義の中で評価等を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・保育音楽療育とは
第2回	対象者理解(成人、高齢者)
第3回	対象者の会(乳幼児，児童、WSの子どもたち)
第4回	音楽の特性
第5回	歌唱(声)の活動の目的とデザイン
第6回	器楽(既成曲を使用して) 活動の目的とデザイン
第7回	動きを伴う活動の目的とデザイン
第8回	器楽(即興的な) 活動の目的とデザイン
第9回	音楽のコミュニケーション性
第10回	音楽活動のサポートとは
第11回	アセスメント・プログラム・評価について大切なこと
第12回	保育者として大切なこと、音楽療育の有効性
第13回	講義のまとめ・テスト

事前・事後学修	関係する領域は多岐にわたるため、参考文献や講義内で紹介された著書は手に取り読み、自ら学ぶ姿勢を身につけ、興味を拡げていくことが大切である。

成績評価基準と方法	講義での提示された課題、レポート、出席等を総合して50％ テスト 50％
テキスト	適宜資料配布
参考文献	音楽療法の手引き 松井紀和 音楽療法 特別支援教育の発達の視点を踏まえて 加藤博之

年度	2025
講義名称	保育内容指導法[子心①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06703L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 木村 彰子	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育記録の必要性や書き方を理解し、実際の保育に基づいて書くことができるようになることである。付属認定こども園での観察実習を行い、その後、記録を行う。 また、保育における指導案の意味や書き方の基本を理解し、実際に書いてみることである。自分たちが書いた指導案を使い、グループや個人で計画をたてて模擬保育を実施する。
到達目標	① 子どもの気持ちを肯定的に受け止めながら関わることができる。 ② 日誌の書き方の基礎を理解し保育現場の体験をもとに概ね書けるようになる。 ③ 指導案の書き方の基礎を理解し、自分なりに考えて書くことができる。 ④ 保育計画をグループで検討し、考えを出し合ったり協力し合ったりして準備する。 ⑤ 模擬保育を実施し、その後、振り返ることができる。
授業の進め方	講義形式、グループワーク、付属認定こども園での実習体験や模擬保育など、内容に応じて様々な方法で行う。 また、実際に保育の計画をたて、グループで検討、準備をし、模擬保育を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	指導案や日誌は、全体に対して授業内でフィードバックを行い、個別にはコメント等を記載し返却する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・実習時のマナー（木村） 付属認定こども園実習について①（木村） 個人票作成（愛下）	対面
第2回	日誌について①（木村） 付属認定こども園実習について② （木村）	対面
第3回	付属認定こども園実習 1講目（木村・愛下）	対面
第4回	付属認定こども園実習 2講目（木村・愛下）	対面
第5回	指導案について①（愛下）	対面
第6回	指導案について②（愛下）	対面
第7回	前回の実習と日誌の振り返り（木村） 次回の付属認定こども園実習について③（木村）	対面
第8回	付属認定こども園実習:1時間目（木村・愛下）	対面
第9回	模擬保育準備（愛下・木村）	対面

2025/04/01

第10回	模擬保育（愛下・木村）	対面
第11回	模擬保育振り返り（愛下・木村）	対面
第12回	5分間の模擬保育①（愛下・木村）	対面
第13回	まとめ（木村） 5分間の模擬保育②（愛下・木村）	対面

事前・事後学修	・付属認定こども園体験実習では終了後に振り返り、日誌を書く。 ・指導案を作成し、グループで教材研究や教材作成、準備、後片付けなどを行う。 ・5分間で行うことができる保育内容を計画し（指導案を書き）、個別に模擬保育の準備をする。（本授業は2単位の授業であるため、授業外に5時間程度の準備や振り返りを行う必要がある）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・個人票 10% ・子どもとの関わり10% ・保育記録（日誌）30% ・模擬保育に向けた指導案 10% ・模擬保育への取り組みと振り返り 20% ・5分間の指導案と発表 20%
テキスト	保育指導案大百科事典 開仁志編著 一藝社
参考文献	・「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省編 フレーベル館 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園での実務経験のある教員が、指導案、日誌の書き方等、具体的な内容について講義をしたり、指導案作成、日誌の記載などは適宜指導をする。
備考	・3年次から始まる保育実習、幼稚園実習につながる準備の要素が強い授業のため、すべての提出物の提出と期日厳守、全回出席が単位認定の前提となる。 ・やむを得ず欠席する場合は事前に申し出て補習課題を自ら求めること。また、髪の色や服装、態度なども含め、実習生としての自覚をもった取り組みを求める。 ・1、2グループ合同で実施する場合は1時間目から実施したり、2時間連続で実施したりすることもあるため、1・2時間目両方とも空けておくこと。 ・なお、認定こども園の日程の都合などにより、授業の回が変更になる場合もある。変更が決まり次第、授業や新システム等で伝えるため、毎回、確認して授業に臨むこと。

年度	2025
講義名称	保育内容指導法[子心②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06703L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 木村 彰子	大学・人文学部・心理学科
愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育記録の必要性や書き方を理解し、実際の保育に基づいて書くことができるようになることである。付属認定こども園での観察実習を行い、その後、記録を行う。 また、保育における指導案の意味や書き方の基本を理解し、実際に書いてみることである。自分たちが書いた指導案を使い、グループや個人で計画をたてて模擬保育を実施する。
到達目標	① 子どもの気持ちを肯定的に受け止めながら関わることができる。 ② 日誌の書き方の基礎を理解し保育現場の体験をもとに概ね書けるようになる。 ③ 指導案の書き方の基礎を理解し、自分なりに考えて書くことができる。 ④ 保育計画をグループで検討し、考えを出し合ったり協力し合ったりして準備する。 ⑤ 模擬保育を実施し、その後、振り返ることができる。
授業の進め方	講義形式、グループワーク、付属認定こども園での実習体験や模擬保育など、内容に応じて様々な方法で行う。 また、実際に保育の計画をたて、グループで検討、準備をし、模擬保育を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	指導案や日誌は、全体に対して授業内でフィードバックを行い、個別にはコメント等を記載し返却する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・実習時のマナー（木村） 付属認定こども園実習について①（木村） 個人票作成（愛下）	対面
第2回	日誌について①（木村） 付属認定こども園実習について②（木村）	対面
第3回	付属認定こども園実習 1講目（木村・愛下）	対面
第4回	付属認定こども園実習 2講目（木村・愛下）	対面
第5回	指導案について①（愛下）	対面
第6回	指導案について②（愛下）	対面
第7回	前回の実習と日誌の振り返り（木村） 次回の付属認定こども園実習について③（木村）	対面
第8回	付属認定こども園実習:1時間目（木村・愛下）	対面
第9回	模擬保育準備（愛下・木村）	対面
第10回	模擬保育（愛下・木村）	対面

第11回	模擬保育振り返り（愛下・木村）	対面
第12回	5分間の模擬保育①（愛下・木村）	対面
第13回	まとめ（木村） 5分間の模擬保育②（愛下・木村）	対面

事前・事後学修	・付属認定こども園体験実習では終了後に振り返り、日誌を書く。 ・指導案を作成し、グループで教材研究や教材作成、準備、後片付けなどを行う。 ・5分間で行うことができる保育内容を計画し（指導案を書き）、個別に模擬保育の準備をする。（本授業は2単位の授業であるため、授業外に5時間程度の準備や振り返りを行う必要がある）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・個人票 10% ・子どもとの関わり10% ・保育記録（日誌）30% ・模擬保育に向けた指導案 10% ・模擬保育への取り組みと振り返り 20% ・5分間の指導案と発表 20%
テキスト	保育指導案大百科事典 開仁志編著 一藝社
参考文献	・「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省編 フレーベル館 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園での実務経験のある教員が、指導案、日誌の書き方等、具体的な内容について講義をしたり、指導案作成、日誌の記載などは適宜指導をする。
備考	・3年次から始まる保育実習、幼稚園実習につながる準備の要素が強い授業のため、すべての提出物の提出と期日厳守、全回出席が単位認定の前提となる。 ・やむを得ず欠席する場合は事前に申し出て補習課題を自ら求めること。また、髪の色や服装、態度なども含め、実習生としての自覚をもった取り組みを求める。 ・1．2グループ合同で実施する場合は1時間目から実施したり、2時間連続で実施したりすることもあるため、1・2時間目両方とも空けておくこと。 ・なお、認定こども園の日程の都合などにより、授業の回が変更になる場合もある。変更が決まり次第、授業や新システム等で伝えるため、毎回、確認して授業に臨むこと。

年度	2025
講義名称	子ども心理フィールドワークⅠ[子心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06701S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科
木村 彰子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育や療育等の対人援助職就職を目指すための、実践を中心とした科目です。子どもが利用している施設で、ボランティアや実習を行う際のマナーと心構えを学び、付属認定こども園における保育参加などを通して、子どもと触れあう経験を積んでいきます。参加後は活動を振り返りながら、感じたこと、考えたことを話し合う中で、様々な視点に気づいていきます。 また実習等で使用する名札を制作し、制作物のスキルを身につけます。
到達目標	①子どもとの関わりを通して子どものおもしろさ、保育の楽しさを知ることができる。 ②観察したことをもとに、感じたことや考えたことを、記述の基本に沿って書きあらわすことができる。 ③他者の言葉に耳を傾け、様々な視点に気づくことができる。 ④保育現場で使用する名札の制作方法を習得できる。
授業の進め方	・付属認定こども園で数回の保育参加を行います。参加後はグループで振り返りを行い、体験の共有をします。 ・実務経験のある教員が、フィールドワークや実習、ボランティアにかかわる心構えやマナー、記録の書き方や名札の作り方を講義します。加えて付属認定こども園の保育教諭による講義を通し、保育参加へのイメージや期待を高めます。 ・制作活動では、実習などで使用できる名札を制作します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で配布される記録用紙を、期日までに提出してください。担当教員が毎回チェックし、書き方や誤字脱字、記録文としての語句の用法など、必要に応じてコメントを記入し返却します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション （愛下） 個人票と写真の説明 （愛下） フィールドワークの心構え（愛下） ボランティア、プレゼンについて （木村）
第2回	個人票と写真の個別指導 （木村・愛下） 付属認定こども園の教育保育活動について （付属認定こども園 保育教諭）
第3回	付属認定こども園観察・参加・記録の視点（木村） 制作活動について（名札の作り方）（愛下）
第4回	付属認定こども園保育参加 （木村・愛下）
第5回	付属認定こども園保育参加振り返り （木村・愛下）
第6回	記録の振り返り （木村・愛下）
第7回	実習用名札制作活動② （愛下）
第8回	観察の視点や記録の書き方 （木村）

第9回	付属認定こども園保育参加（木村・愛下）
第10回	付属認定こども園保育参加振り返り（木村・愛下）
第11回	記録の振り返り（木村・愛下）
第12回	子どもとかかわった体験発表（プレゼン）（木村・愛下）
第13回	学生時代に子どもとかかわることの意味（外部講師） レバートリーシート記入（木村） 授業のまとめ（木村）

事前・事後学修	子どもとかかわる機会がある場合には、積極的に参加する姿勢を持ちましょう 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて5時間程度の学修が求められます

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	提出物 10％ 他者のコメントからの学び 20％ 記録 30％ 課題レポート 20％ 名札制作 10％ 最終プレゼンテーション 10％
テキスト	「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」わかば社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	幼稚園教諭の実務経験等がある教員2名が専門性を活かしながら適宜指導にあたります。
備考	学外での活動時は、受け入れ先の指示がない限り必ず指定ポロシャツを着用しましょう。また実習やフィールドワーク、ボランティアなどは身支度を含め、マナーや心構えを主体的に守れるように意識しましょう。 制作時に裁縫セットを使用します。

年度	2025
講義名称	運動Ⅰ〔子心〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06606S

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	自らの健康の維持・向上にとって適切な運動を実践実行できるようにする。体力低下や運動不足による健康問題について理解をし、有酸素性運動や筋力アップ、ストレッチなどを学び日常生活場面及び保育の現場で応用できるようにする。また運動を通して幼児教育・保育領域に関する知識・技能を修得し、活用することができる。幼児教育や保育、福祉等の現場において、利用者や関係者の理解に努め、運動を絡めた健康について自らの考えを適切に伝え、実行することができる。幼児教育・保育の運動及び健康についての現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的に運動についての課題解決に取り組むことができる。
到達目標	専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。
授業の進め方	講義やグループワークを交えながら実技を行う。自ら運動・健康に対しての課題を探索し解決していくグループワークを基本とした講義を行う。場所は教室、体育館、グラウンドなどで行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で随時、課題等に対してフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス・運動の定義①	オンデマンド
第2回	運動の定義②（児童期から中高年までの運動と健康について）	オンデマンド
第3回	運動プログラムを計画する際の考え方について	ディスカッションなど
第4回	運動プログラムの実践①	グループワーク
第5回	運動プログラムの実践②	グループワーク
第6回	実践したグループワークに対しての反省と再立案	グループワーク
第7回	反省と再立案したものを元実践する・まとめ	グループワーク

事前・事後学修	運動や健康に興味を持ち、維持・向上の実践をすること。 他授業においての幼児教育・保育領域に関する知識・技能を活用し授業を行うので、関連して習得した知識を活用できるようにすること。 積極的に授業に参加できるように、体調管理に留意すること

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業への理解度、提出物（40％） ②授業内試験（30％） ③課題レポート（30％）
テキスト	必要に応じて適宜配布する。

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心①/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 幹子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲１の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲１の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲１のテスト 課題曲２の譜読み	対面
第8回	課課題曲２の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲２の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲２のテスト 弾課題曲３の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心②/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 幹子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲 1 の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲 1 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲 1 のテスト 課題曲 2 の譜読み	対面
第8回	課題曲 2 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲 2 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲 2 のテスト 弾課題曲 3 の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心③/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 幹子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲 1 の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲 1 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲 1 のテスト 課題曲 2 の譜読み	対面
第8回	課題曲 2 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲 2 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲 2 のテスト 弾課題曲 3 の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心④/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 新堀 聡子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲1の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲1の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲1のテスト 課題曲2の譜読み	対面
第8回	課題曲2の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲2の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲2のテスト 弾課題曲3の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心⑤/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 新堀 聡子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲1の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲1の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲1のテスト 課題曲2の譜読み	対面
第8回	課題曲2の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲2の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲2のテスト 弾課題曲3の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心⑥/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 新堀 聡子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲 1 の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲 1 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲 1 のテスト 課題曲 2 の譜読み	対面
第8回	課題曲 2 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲 2 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲 2 のテスト 弾課題曲 3 の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心⑦/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 澤田 昌子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲1の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲1の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲1のテスト 課題曲2の譜読み	対面
第8回	課題曲2の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲2の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲2のテスト 弾課題曲3の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使うて毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心⑧/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 澤田 昌子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲1の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲1の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲1のテスト 課題曲2の譜読み	対面
第8回	課題曲2の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲2の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲2のテスト 弾課題曲3の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心⑨/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 澤田 昌子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲１の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲１の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲１のテスト 課題曲２の譜読み	対面
第8回	課課題曲２の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲２の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲２のテスト 弾課題曲３の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心⑩/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲 1 の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲 1 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲 1 のテスト 課題曲 2 の譜読み	対面
第8回	課題曲 2 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲 2 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲 2 のテスト 弾課題曲 3 の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	音楽Ⅱ（ピアノ基礎）[子心⑩/11]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06604S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。
到達目標	大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌を、弾き歌いレパートリーとして持つことができる。
授業の進め方	各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者への導入時はグループで行う場合もあります。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	全体オリエンテーション 個人レッスン（ピアノ技量の確認）	対面
第2回	ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り	対面
第3回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いの導入	対面
第4回	ピアノテキストによる基礎作り 弾き歌いへの取り組み	対面
第5回	課題曲 1 の譜読み 自由曲への取り組み	対面
第6回	課題曲 1 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第7回	課題曲 1 のテスト 課題曲 2 の譜読み	対面
第8回	課題曲 2 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第9回	課題曲 2 の弾き歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第10回	課題曲 2 のテスト 弾課題曲 3 の譜読み	対面

第11回	課題曲 3 の伴奏 自由曲への取り組み	対面
第12回	課題曲 3 弾き謡歌いへの取り組み 自由曲への取り組み	対面
第13回	⑬課題曲 3 のテスト 自由曲への取り組み、まとめ	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。 【必要な時間】 2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①子どものうた課題曲 3 曲の弾き歌いテスト：50％ ②子どものうた自由曲の弾き歌いテスト：35％（1曲あたり5点満点） ③授業前に毎回提出する練習報告：15％ ①は他の教員の担当グループと合同 ②は毎時授業内に担当教員グループごとに実施
テキスト	こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

年度	2025
講義名称	子どもの図画工作(基礎)[子心]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06603S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 朝地 信介	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	作品制作を通してつくってあそぶ楽しさを感じると共に、保育者として必要な図画工作の基礎的技術と実践法を学ぶ。また幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された図画工作の学習内容の理解を深める。
到達目標	①作品制作を通して自分なりに感じたことや考えたことを表現することができる。 ②制作した作品や発表を互いに鑑賞することで様々な感性や表現を知り、理解することができる。 ③造形の基本を学び、作品制作に必要な技術を身に付けることができる。 ④作品制作を振り返り、自らの表現や制作方法の課題を見つけ把握することができる。
授業の進め方	資料・参考作品を基に課題の説明を行い、主に制作実習室と学内、大学敷地内をフィールドとして作品を制作・鑑賞する。また作品や配布物を綴じてポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りと学生個人の資料とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	制作した作品を鑑賞し、学生同士の相互評価や教員からのアドバイスをを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション／子どもの表現、自分の表現	対面
第2回	素材を見る、感じる（いろいろな紙とあそび）	対面
第3回	子どもとつながる作品（実習に向けて・名札制作）①	対面
第4回	子どもとつながる作品（実習に向けて・名札制作）②	対面
第5回	基礎技法の造形あそび（絵具）	対面
第6回	基礎技法の造形あそび（クレヨン）	対面
第7回	基礎技法の造形あそび（鉛筆・色鉛筆）	対面
第8回	基礎技法の造形あそび（色紙）	対面
第9回	造形のための素材活用（自然素材）	対面
第10回	造形のための素材活用（折り紙・装飾）	対面
第11回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）① 下絵・材料準備・制作	対面
第12回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）② 制作	対面
第13回	保育での作品活用（実習に向けて・自己紹介グッズ）③ 制作・作品発表	対面

	・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。 ・配布される材料以外に必要なものは各自で用意する。	2025/04/01

事前・事後学修	・制作方法、手順などのレパトリーを調べる。 ・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。 ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70点 ②毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30点
参考文献	・幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	日本画家、高等学校教諭（美術）としての実務経験を元にした内容を行う。
備考	・図画工作、造形表現、その他演習や実習で使用するための教材を受講年度初めに全員購入する。（絵具、筆、はさみ、カッター、クレヨン、テープ、のり、折り紙等 5,000円） ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。

年度	2025
講義名称	音楽Ⅰ（歌唱・理論基礎）[子心]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06602S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、 ①子どもの歌に多く接し、生活や季節、行事などの歌を覚え、歌えるようになること ②保育者として必要とされる基礎的な音楽理論や和声感を身につけること ③簡単な伴奏を弾くための実技のベースを身に付けること 以上の三点です。理論の解説、子どものうたの歌唱、スケール、カデンツ奏などの実技により展開して行きます。
到達目標	音符や休符の長さ、拍子、変化記号などを理解し、楽譜を読むことができる。 生活、季節、行事などに関わる子どもの歌を多く覚え、歌うことができる。 ピアノを用いてスケール(音階)・カデンツ(和音)を弾くことができる。
授業の進め方	毎回の授業は理論、歌唱、ピアノ実技の三部構成で進めます。 また単元の区切りごとに理論復習テスト、実技テストを行います。 子どもの歌の歌唱は保育施設等で多く使われる曲や、使用頻度が少ない中でも歌い継いでいきたい曲を、生活、季節、行事などのテーマから選曲し鑑賞、歌唱します。 ピアノ実技ではスケール(音階)・カデンツ(和音)奏を行い、復習テストと同じ回の実技テストを行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	単元ごとに行う復習テストに備え、前週に模擬テストを行います。これによって各自の理解が不十分な箇所が明確になるので、課外時間を使って、復習テストまでに理解しておきましょう。 挨拶のうたは毎回歌唱します。その際に交代で1人ずつ伴奏を担当してもらいますので、課外時間に各自練習をして下さい。練習の成果や次の課題となる点については、演奏後にフィードバックし、また空き時間等を使って個別アドバイスをを行うことが可能です。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 理論：音楽の基礎 1 歌唱：生活の歌 スケール・カデンツ実技	対面
第2回	理論：音楽の基礎 2 歌唱：季節の歌（春） 模擬テスト スケール・カデンツ実技	対面
第3回	理論テスト1・実技テスト 理論：季節の歌（春） 歌唱：秋の歌 スケール・カデンツ実技	対面
第4回	理論：音楽の基礎 4 歌唱：季節の歌（春） スケール・カデンツ実技	対面

第5回	理論：音楽の基礎 5 模擬テスト 歌唱：季節の歌（春） スケール・カデンツ実技	対面
第6回	理論テスト 2・実技テスト 理論：音程 1 歌唱：季節の歌（春） 子どもの歌の伴奏実技	対面
第7回	理論：音程 2 歌唱：季節の歌（春） 模擬テスト 子どもの歌の伴奏実技	対面
第8回	理論テスト 3・実技テスト 理論：音階 1 歌唱：季節の歌（夏） 子どもの歌の伴奏実技	対面
第9回	理論：音階 2 歌唱：季節の歌（夏） 模擬テスト 子どもの歌の伴奏実技	対面
第10回	理論テスト 4・実技テスト 理論：調号 1 歌唱：季節の歌（夏） 子どもの歌の伴奏実技	対面
第11回	理論：調号 2 歌唱：季節の歌（夏） 子どもの歌の伴奏実技	対面
第12回	理論：調号 3 歌唱：季節の歌（夏） 子どもの歌の伴奏実技	対面
第13回	理論テスト 5・実技テスト 歌唱：季節以外の歌	対面

事前・事後 学修	授業外学習 スケール・カデンツ奏はメロディーに伴奏を付けたり、難しい伴奏を簡略化する場合などに役立ち、また音楽Ⅱ（ピアノ基礎）への導入としても有意義です。毎日練習し習得することが大切です。 また授業で取り上げる子どものうたを中心に、課外時間等を利用して歌や伴奏の練習を繰り返し、多くの楽曲を覚えることが重要です。 理論はプリントを参考に復習しましょう。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	1.授業内で行う復習テスト 80％ 2.スケール、カデンツ奏 20％
テキスト	プリントを配付 こどものうた200（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて紹介します。

年度	2025
講義名称	保育表現(身体・言葉)[子心①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」の手法を学び、保育者として子どもの豊かな表現活動、音楽活動を援助するための知識や技術を習得する。また、子どもの授業展開に必要な「あそぶうた・わらべ歌・童謡」を学習する中で、発声や伴奏法などの弾き歌いの技術を学ぶほか、絵本の読み聞かせや言葉のリズムを使った音楽遊び、そのストーリーを題材として活動を展開するなど、広い視野で素材を集め豊かな表現活動が実践できる力を身に付ける。
到達目標	・音楽表現の基礎的な内容を理解し、指導に必要な技能を身に付ける。 ・基礎的な知識技能を生かし、幼児を対象とした表現活動を展開することができる。 ・絵本についての理解を深め、子どもの成長に応じた本の選択と読み聞かせの方法を学ぶ。 ・ストーリーに合う効果音作りや、物語そのものを題材として子どもがイメージを膨らませて動きや声で表現する活動プランを作る。
授業の進め方	・「ダルクローズ・リトミック」による多彩な音楽表現活動を専門家である教員から学ぶことにより、音楽の基礎的な内容を理解し、子どもの指導に必要な技能を身に付ける。 ・絵本の読み聞かせや年齢に応じた言葉遊び、わらべ歌など、現場で必要な様々な表現方法について学び、指導に生かせるようになる。 ・各回の最後に授業の内容を振り返り、文章化したものを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された指導案や各回の振り返りシート、発表や実技試験について授業内でコメントや講評を行なう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	5領域の中の「表現」、他領域とのかかわり
第2回	身体を使った音楽表現の基礎①動きの要素
第3回	身体を使った音楽表現の基礎② 拍とテンポ、ニュアンス
第4回	表現のための器楽活用法①
第5回	表現のための器楽活用法②
第6回	子どもの歌：手遊び、わらべ歌など①
第7回	子どもの歌：手遊び、わらべ歌など②
第8回	子どもと絵本：五感のイメージと言葉遊び、空想する力
第9回	子どもと絵本：声に出して読むということ
第10回	表現のためのピアノ技法
第11回	創作による音楽付き絵本の読み聞かせ① 内容のデザイン
第12回	創作による音楽付き絵本の読み聞かせ② 練習と発表
第13回	試験

事前・事後学修	・授業外で準備する課題についてはその都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。 ・予習・復習あわせて2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内の発表・提出物 50%、実技試験 30%、レポート 20%
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200 小林美実 編 チャイルド本社
参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	講師は約30年間幼稚園等において子どもにダルクローズリトミックのレッスンを展開した経験を持つ。子どもはどのようなことに興味を持ち、何が難しいのか等、発達段階に合わせた表現活動について考える。
備考	・ 演習授業であることから参加し活動することを必要とする。 ・ 動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類不可）。 ・ テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

年度	2025
講義名称	保育表現(身体・言葉)[子心②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06601S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」の手法を学び、保育者として子どもの豊かな表現活動、音楽活動を援助するための知識や技術を習得する。また、子どもの授業展開に必要な「あそぶうた・わらべ歌・童謡」を学習する中で、発声や伴奏法などの弾き歌いの技術を学ぶほか、絵本の読み聞かせや言葉のリズムを使った音楽遊び、そのストーリーを題材として活動を展開するなど、広い視野で素材を集め豊かな表現活動が実践できる力を身に付ける。
到達目標	・音楽表現の基礎的な内容を理解し、指導に必要な技能を身に付ける。 ・基礎的な知識技能を生かし、幼児を対象とした表現活動を展開することができる。 ・絵本についての理解を深め、子どもの成長に応じた本の選択と読み聞かせの方法を学ぶ。 ・ストーリーに合う効果音作りや、物語そのものを題材として子どもがイメージを膨らませて動きや声で表現する活動プランを作る。
授業の進め方	・「ダルクローズ・リトミック」による多彩な音楽表現活動を専門家である教員から学ぶことにより、音楽の基礎的な内容を理解し、子どもの指導に必要な技能を身に付ける。 ・絵本の読み聞かせや年齢に応じた言葉遊び、わらべ歌など、現場に必要な様々な表現方法について学び、指導に生かせるようになる。 ・各回の最後に授業の内容を振り返り、文章化したものを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された指導案や各回の振り返りシート、発表や実技試験について授業内でコメントや講評を行なう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	5領域の中の「表現」、他領域とのかかわり
第2回	身体を使った音楽表現の基礎①動きの要素
第3回	身体を使った音楽表現の基礎② 拍とテンポ、ニュアンス
第4回	表現のための器楽活用法①
第5回	表現のための器楽活用法②
第6回	子どもの歌：手遊び、わらべ歌など①
第7回	子どもの歌：手遊び、わらべ歌など②
第8回	子どもと絵本：五感のイメージと言葉遊び、空想する力
第9回	子どもと絵本：声に出して読むということ
第10回	表現のためのピアノ技法
第11回	創作による音楽付き絵本の読み聞かせ① 内容のデザイン
第12回	創作による音楽付き絵本の読み聞かせ② 練習と発表
第13回	試験

事前・事後学修	・授業外で準備する課題についてはその都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。 ・予習・復習あわせて2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内の発表・提出物 50%、実技試験 30%、レポート 20%
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200 小林美実 編 チャイルド本社
参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	講師は約30年間幼稚園等において子どもにダルクローズリトミックのレッスンを展開した経験を持つ。子どもはどのようなことに興味を持ち、何が難しいのか等、発達段階に合わせた表現活動について考える。
備考	・ 演習授業であることから参加し活動することを必要とする。 ・ 動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリー類不可）。 ・ テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

年度	2025
講義名称	子どもの食と栄養(基礎)[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06518S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山本　たか子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子育て・子育てを支援していく中で「食べる」行為から形成される人間関係など「食」が乳幼児期の心身の好ましい発達に影響を及ぼすことを理解し、味覚や食嗜好の基礎形成等が生涯を通じた健康維持に繋がることを理解します。 また保育に係る上で多角的な視野を持ち、自分自身が食生活を通じて生涯にわたり良好な健康状態を維持する手法を学修します。 保育士が人を助ける立場であることを理解し、機敏に対応し動ける健康な心と体を作って維持するために、自分で正しい判断をして食材を選び調理して、しっかり食べることができる基礎を学んで下さい。
到達目標	①食品に含まれる栄養素や、食品の特徴を理解して選び、簡単な自分自身の日常食の調理ができるようになること。 ②離乳食や幼児食の理論や実習を通して、自分たちの食事との違いを理解すること。 ③「食」が人間の「命に係わる」項目であり、特に乳幼児については大人以上の注意を要した対応が必要となることを肝に銘じること。 ④食中毒を起こさない為の衛生管理の重要性について理解すること。
授業の進め方	基本的に講義形式で進めます。毎回、講義終了時にレポートを作成、提出して頂きます。 また、講義内容により、課題の発表やそれに関する意見発表などのグループディスカッション、調理実習など能動的な学修を目指します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、講義内で解説や講評し、それに対する質問も随時受け付けます。期末試験でも再度、項目に関して説明できるような自分自身の学修に繋げて欲しいと思います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、自己紹介、「子どもの食と栄養」を学ぶ目的について　栄養に関する基礎知識（１）糖質・脂質・タンパク質の3大栄養素
第2回	栄養に関する基礎知識（２）ビタミン・ミネラルなどの微量栄養素　エネルギー代謝　日本人の食事摂取基準　調理の基本 子どもの心身の健康と食生活について～現状と、朝食欠食の問題などの課題～ 次回までの課題；自分自身の3日間（平日2日・休日1日）の食事記録
第3回	グループディスカッション；グループメンバーの食事記録について話し合い、グループごとに「望ましい健康的な食生活」についての発表 妊娠期（胎生期）・乳児期・離乳期における食生活の意義（＊ここが春季の大きなヤマです、しっかり理解を！）
第4回	幼児期の心身の発達の特徴と食生活の関係、間食の意義、食生活上の問題（偏食など）と健康への対応　実践について
第5回	調理実習「離乳食」レポート提出
第6回	調理実習「幼児食」レポート提出
第7回	これまでのまとめ（45分）と期末試験（60分）

事前・事後学修	日頃から「食」に関する事柄に目を向けてください。自身の食生活、保育園児の食に関わる情報、新聞掲載やSNSなどの記事、乳幼児の健康に関する内容にアンテナを張り、関心を向けて見ておいてください。 予習・復習の時間は合わせて2時間を目安とします。 講義内容のレポート課題を通して、理解不足になりがちな各栄養素の働きや含まれる食品、活用する料理や調理法などを普段の食生活に照らし合わせて見直したり、実際に「〇〇の栄養素がたくさん摂取できる」等の料理作成を実践してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末試験60％ レポート20％ レポート以外の課題10％ 調理実習10％
テキスト	子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養 堤ちはる・土井正子 編著 萌文書林
参考文献	子どもの食と栄養 改訂第3版 編集・執筆 児玉浩子 中山書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義は、小中学校給食や病院給食施設において給食管理や栄養指導、食育活動業務や、保育・看護・調理師専門学校などの講義経験のある管理栄養士が、乳幼児期の栄養に関わる項目に関して理論と実践に基づき理解を深める講義を実施します。
備考	調理実習を実施しますので、実習材料費として300円程度を徴収する予定です。 また、この講義をきっかけに食べ物への関心を高めて、これまで嫌いだった食品をどう調理したら食べられるようになるかを考えるなど、幼児の心境に寄り添い楽しんで受講してください。

年度	2025
講義名称	幼児と表現[子心①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06511L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子どもが発する多様な表現の形やそれを促す要因、感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など、専門事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。
到達目標	・「ダルクローズ・リトミック」による多彩な音楽表現活動を体験することにより、基礎的な理論を理解し、指導に必要な音楽技能を身に付ける。 ・子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けや関連性について説明できる。 ・「みる・聴く・感じる・体験する」ことで様々な表現方法に触れ、イメージを豊かにし、体験を通して学ぶことにより、指導に必要な技能を身に付ける。
授業の進め方	・音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」を主軸として、身体・造形・音楽など表現に関する基礎的な知識や技能、子どもの表現の姿や発達について学び、 他の4領域と繋がる授業展開を行う。 ・各回の最後に授業の内容を振り返り、文章化したものを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された指導案や各回の振り返り、発表や試験について授業内でコメントや講評を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	1年次の復習・オリエンテーション
第2回	音楽表現の基礎① ビートと分割、テンポ（理論と実践）
第3回	音楽表現の基礎② 拍子（理論と実践）
第4回	音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」概論（講義）
第5回	音楽表現の基礎③ フレーズとニュアンス（理論と実践）
第6回	音楽表現の基礎④ リズムパターン（理論と実践）
第7回	こどものうた① 歌唱法と歌を使った遊び
第8回	こどものうた② 歌を使った遊びの構成
第9回	楽器演奏① ミュージックベルとトーンチャイム
第10回	楽器演奏② 様々な打楽器の奏法と活用法
第11回	幼稚園・保育園における音楽表現活動
第12回	保育とシアター「ペープサート」
第13回	試験

事前・事後学修	・授業外で準備する課題について、その都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。 ・予習・復習は週2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内の演習・発表 40％、各回の振り返り 30％、試験 30％
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200 小林美実 編 チャイルド本社
参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	教員は約30年間幼稚園等において子どもにダルクローズ・リトミックのレッスンを展開した経験を持つ。子どもはどのようなことに興味を持ち、何が難しいのか等、発達段階に合わせた表現活動について考える。
備考	・動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類不可）。 ・テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

年度	2025
講義名称	幼児と表現[子心②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06511L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子どもが発する多様な表現の形やそれを促す要因、感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など、専門事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。
到達目標	・「ダルクローズ・リトミック」による多彩な音楽表現活動を体験することにより、基礎的な理論を理解し、指導に必要な音楽技能を身に付ける。 ・子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けや関連性について説明できる。 ・「みる・聴く・感じる・体験する」ことで様々な表現方法に触れ、イメージを豊かにし、体験を通して学ぶことにより、指導に必要な技能を身に付ける。
授業の進め方	・音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」を主軸として、身体・造形・音楽など表現に関する基礎的な知識や技能、子どもの表現の姿や発達について学び、 他の4領域と繋がる授業展開を行う。 ・各回の最後に授業の内容を振り返り、文章化したものを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された指導案や各回の振り返り、発表や試験について授業内でコメントや講評を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	1年次の復習・オリエンテーション
第2回	音楽表現の基礎① ビートと分割、テンポ（理論と実践）
第3回	音楽表現の基礎② 拍子（理論と実践）
第4回	音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」概論（講義）
第5回	音楽表現の基礎③ フレーズとニュアンス（理論と実践）
第6回	音楽表現の基礎④ リズムパターン（理論と実践）
第7回	こどものうた① 歌唱法と歌を使った遊び
第8回	こどものうた② 歌を使った遊びの構成
第9回	楽器演奏① ミュージックベルとトーンチャイム
第10回	楽器演奏② 様々な打楽器の奏法と活用法
第11回	幼稚園・保育園における音楽表現活動
第12回	保育とシアター「ペープサート」
第13回	試験

事前・事後学修	・授業外で準備する課題について、その都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。 ・予習・復習は週2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内の演習・発表 40％、各回の振り返り 30％、試験 30％
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200 小林美実 編 チャイルド本社
参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	教員は約30年間幼稚園等において子どもにダルクローズ・リトミックのレッスンを展開した経験を持つ。子どもはどのようなことに興味を持ち、何が難しいのか等、発達段階に合わせた表現活動について考える。
備考	・動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類不可）。 ・テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

年度	2025
講義名称	障がい児保育Ⅰ〔子心1年〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06510S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、特別な支援を必要とする子どもの幼児教育、保育、発達支援・療育の場において、何を目的に保育や発達支援・療育を実践し、そこで何が大切となるのかを思考するための力を養うことをめざし、以下について取り組んでいきます。 1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学ぶ。 2. 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成などについて学ぶ。
到達目標	・特別な支援を必要とする子どもの幼児教育、保育に関する歴史や現状、課題について理解し、障がい児保育がどのように発展してきたのか、現状や新たな方向性について説明することができる。 ・障がいや特別な支援を必要とする子どもの特性や心身の発達などに応じた援助や配慮について理解し、適切に説明できる。
授業の進め方	・実務経験のある教員の講義に加えて、重度心身障がい児・医療的ケア児の保育や発達支援・療育について保育経験者の語りを聴講し、障がい児保育の理念や歴史の変遷、幼児教育、保育、発達支援・療育の場における子ども理解や実践的な支援方法を深めます。 ・初回に構成したグループでグループワーク・ディスカッションを行い、発表をします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは後日に授業内で解答・解説を行います。また授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 特別な支援を必要とする子ども理解、障がいの特性や援助・配慮の方法①（グループワーク）
第2回	発達と障がい（発達のみちすじ・障がいとは）
第3回	特別な支援を必要とする子ども理解、障がいの特性と援助・配慮の方法②（グループワーク発表）
第4回	重度心身障がい児・医療的ケア児の理解と支援
第5回	特別な支援を必要とする子ども理解、障がいの特性や援助・配慮の方法③（まとめ） 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助①
第6回	生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助② 小テスト
第7回	障がい児保育の変遷

事前・事後学習	・事前（予習）、事後学習として、授業に対応しているテキストの該当箇所を熟読しましょう。また、障がい児保育に関係する書籍は数多く出版されています。参考文献に限らず、自身が読みやすい、わかりやすいと感じるものに積極的に触れて欲しいと思います。 ・事後学習（復習）は、授業内容を整理する、テキストのワークを行う、関連する書籍を読むなどし、理解や知識を深めるように心がけてください。 ・グループ発表の準備は授業外の時間を調整してまとめ、期日までに完成してください。 ・事前、事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・障がいや特別な支援を必要とする子どもの特性や心身の発達などに応じた援助や配慮について理解度を、小テスト（30％）とグループワーク（30％）、レポート（10％）の評価基準とする ・特別な支援を必要とする子どもの幼児教育・保育に関する歴史や現状、課題について理解し、障がい児保育がどのように発展してきたのか、現状や新たな方向性について説明できることを学期末レポートの評価基準とする（30％）
テキスト	障害児保育演習ブック、増南太志編著、ミネルヴァ書房
参考文献	障害児保育ワークブック、星山麻木他、明文書林 演習・保育と障害のある子ども【第2版】野田敦史・林恵編集、（株）みらい ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育、小林徹・栗山宣夫編、（株）みらい

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	障がい児保育や発達支援・療育、乳幼児発達相談の実務経験のある教員が実践内の事例を含めながら、講義を実施します。
備考	・授業中に発表や発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください ・講義内容を向上させる意味で、受講回数の順序や内容を変更する場合があります

年度	2025
講義名称	障がい児保育Ⅰ〔子心2年〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06510S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、特別な支援を必要とする子どもの幼児教育、保育、発達支援・療育の場において、何を目的に保育や発達支援・療育を実践し、そこで何が大切となるのかを思考するための力を養うことをめざし、以下について取り組んでいきます。 1．障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学ぶ。 2．様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成などについて学ぶ。
到達目標	・特別な支援を必要とする子どもの幼児教育、保育に関する歴史や現状、課題について理解し、障がい児保育がどのように発展してきたのか、現状や新たな方向性について説明することができる。 ・障がいや特別な支援を必要とする子どもの特性や心身の発達などに応じた援助や配慮について理解し、適切に説明できる。
授業の進め方	・実務経験のある教員の講義に加えて、重度心身障がい児・医療的ケア児の保育や発達支援・療育について保育経験者の語りを聴講し、障がい児保育の理念や歴史の変遷、幼児教育、保育、発達支援・療育の場における子ども理解や実践的な支援方法を深めます。 ・初回に構成したグループでグループワーク・ディスカッションを行い、発表をします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは後日に授業内で解答・解説を行います。また授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 特別な支援を必要とする子ども理解、障がいの特性や援助・配慮の方法①（グループワーク）
第2回	発達と障がい（発達のみちすじ・障がいとは）
第3回	特別な支援を必要とする子ども理解、障がいの特性と援助・配慮の方法②（グループワーク発表）
第4回	重度心身障がい児・医療的ケア児の理解と支援
第5回	特別な支援を必要とする子ども理解、障がいの特性や援助・配慮の方法③（まとめ） 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助①
第6回	生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助② 小テスト
第7回	障がい児保育の変遷

事前・事後学習	・事前（予習）、事後学習として、授業に対応しているテキストの該当箇所を熟読しましょう。また、障がい児保育に関係する書籍は数多く出版されています。参考文献に限らず、自身が読みやすい、わかりやすいと感じるものに積極的に触れて欲しいと思います。 ・事後学習（復習）は、授業内容を整理する、テキストのワークを行う、関連する書籍を読むなどし、理解や知識を深めるように心がけてください。 ・グループ発表の準備は授業外の時間を調整してまとめ、期日までに完成してください。 ・事前、事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・障がいや特別な支援を必要とする子どもの特性や心身の発達などに応じた援助や配慮について理解度を、小テスト（30％）とグループワーク（30％）、レポート（10％）の評価基準とする ・特別な支援を必要とする子どもの幼児教育・保育に関する歴史や現状、課題について理解し、障がい児保育がどのように発展してきたのか、現状や新たな方向性について説明できることを学期末レポートの評価基準とする（30％）
テキスト	障害児保育演習ブック、増南太志編著、ミネルヴァ書房
参考文献	障害児保育ワークブック、星山麻木他、明文書林 演習・保育と障害のある子ども【第2版】野田敦史・林恵編集、（株）みらい ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育、小林徹・栗山宣夫編、（株）みらい

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	障がい児保育や発達支援・療育、乳幼児発達相談の実務経験のある教員が実践内の事例を含めながら、講義を実施します。
備考	・授業中に発表や発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください ・講義内容を向上させる意味で、受講回数の順序や内容を変更する場合があります

年度	2025
講義名称	乳児保育Ⅰ〔子心〕
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06509L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤戸 純子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	0歳から3歳までの乳児期の 子どもの発達と生活の「育ち」を学ぶ。 乳児期の発達の特性に合わせた生活・遊びへの援助について学びを深める。 子どもの育ちを見通した保育計画、子育て支援を考え、子どもの健やかな育ちを支える保育活動を学ぶ。 発達から見た乳児期の特性を学ぶことで乳児保育の基本について考えます。 乳児保育の学びを通して子どもの成長発達の豊かさと楽しさを感じることに。 保育者になるための学びと共に保育者になってからの学びにつながるよう解説します。
到達目標	発達から見た乳児期の特性を学ぶことで乳児保育の基本について考えます。 乳児保育の学びを通して子どもの成長発達の豊かさと楽しさを感じることに
授業の進め方	テキスト「講義で学ぶ乳児保育」に添い、保育の目的・役割、保育内容について学ぶ。また、0・1・2歳児の発達を学び、実際の乳児の生活や遊びの様子から保育者の援助と配慮の実践を学ぶ。 また、乳児保育の環境については実際に子ども園で使用しているおもちゃ、絵本や生活に使っている道具を紹介し、保育環境を写真や動画を参考に学びを深める。授業後の振り返り（レポート）によりさらに学びを深める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	翌回での補足やWebでのメッセージなどによるフィードバックを行う

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	乳児保育の目的と役割 1.「保育所保育指針」における乳児保育の目的・乳児保育の重要性 2.「保育所保育指針」における乳児保育の役割・保護者を支えていく重要性	対面授業
第2回	乳児保育の基本 1.乳児保育のニーズの高まり 2.多様な場における乳児保育の展開について学ぶ	対面授業
第3回	0・1・2歳児の発達 1.人とのかかわっていくことが発達の基本 2.アタッチメントを形成することの重要性 3.言葉の発達に伴うコミュニケーションに広がり 4.社会性に伴う人・もののつながり	対面授業
第4回	乳児（0歳児）の保育内容 1.基本的事項ー乳児（0歳児）の発達の特徴や道筋 2.乳児（0歳児）の保育内容	
第5回	1歳以上3歳未満児の保育内容 1.基本的事項ー1歳以上3歳未満児の発達の特徴や道筋 2.1歳以上3歳未満児の保育内容	対面授業
第6回	乳児の生活と遊びの基本事項 1.乳児の生活と遊びの考え方 2.乳児保育における保育の仕事	対面授業

第7回	乳児の生活と遊びの基本事項 1.乳児保育における健康 2.乳児保育における安全対策	対面授業
第8回	乳児の生活の基本 1.食事 2.睡眠と休息	対面授業
第9回	乳児の生活の基本 1.排泄 2.着脱 3.清潔	対面授業
第10回	乳児の遊び 0歳児の遊び	対面授業
第11回	乳児の遊び 1歳児の遊び 2歳児の遊び	対面授業
第12回	乳児保育の環境構成 0歳児の保育に必要な環境構成	対面授業
第13回	乳児保育の環境構成 1・2歳児の保育に必要な環境構成	対面授業
第14回	期末試験	

事前・事後学修	事前に予習としてテキストを一読する。また、事後学習として学んだことのまとめをすること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	試験60％ 授業内レポート40％
テキスト	「講義で学ぶ乳児保育」わかば社 小山朝子編著 亀崎美紗子・善本真弓
参考文献	「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい 乳幼児保育研究所編著

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、東月寒認定こども園にて保育士、主任保育士としての経験を積み、現在は園長として園全体の運営に携わっています。この豊富な実務経験を基に、子どもの成長を支える保育の視点を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	幼児と言葉[子心]【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06508L

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育に関する領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける
到達目標	①人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。②言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。③乳幼児にとっての言葉に関わる児童文化財の意義を理解する。
授業の進め方	オンデマンドでの講義、学生分担による発表と補足を繰り返し、領域「言葉」の理解を深め、言葉に関わる保育や遊びの環境を確認する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当部分の発表に補足し学生同士の意見交換で理解を深める。また繰り返し発表することで試行錯誤から理解の深化を図る

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	
第2回	子どもについての「言葉」の講義と考察 その1	オンデマンド
第3回	紙芝居を実践的に演習する その1	
第4回	子どもについての「言葉」の講義と考察 その2	オンデマンド
第5回	紙芝居を実践的に演習する その2	
第6回	子どもについての「言葉」の講義と考察 その3	オンデマンド
第7回	紙芝居を実践的に演習する その3	
第8回	子どもについての「言葉」の講義と考察 その4	オンデマンド
第9回	紙芝居を実践的に演習する その4	
第10回	子どもについての「言葉」の講義と考察 その5	オンデマンド
第11回	紙芝居を発表する その1	
第12回	子どもについての「言葉」の講義と考察 その6	オンデマンド
第13回	紙芝居を実践的に演習する その2	

事前・事後学修	発表練習、資料作成 小テストに向けた学修 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	● 2025/04/01

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	発表 20％ 資料作成 20％ 授業内試験 60％
テキスト	『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉』 萌文書林（無藤隆監修）
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

年度	2025
講義名称	幼児と人間関係[子心]【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06507L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	人は他者やモノとの関わりによって発達していく。この関係論的発達の観点から、乳幼児期における人との関わりやその重要性について理解を深める。また領域「人間関係」の理解を深め、幼児が家庭や園での生活における人との関係性の中で学び合うことや育ち合うことを知り、人間関係の基礎を培う乳幼児期の体験の重要性と身近な大人の援助について考える。
到達目標	・乳幼児と身近な大人との関わりから生まれる人間関係の基礎について説明できる。 ・人間関係の発達過程について理解し、遊び（活動）を通した他者とのやり取りの重要性について説明できる。 ・この時期に培われる人と関わる力の基礎が、幼児の人生を支える重要な力であることを理解する。
授業の進め方	関係論的発達の観点から乳幼児期における人との関わりと領域「人間関係」について講義形式で授業を行う。幼児が家庭や園での生活における人との関係性の中で学び合うことや育ち合うことを、保育実践等の具体的な事例から実感する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループ課題については授業内で解説を行い、他学生からの意見を求める。個別課題については課題シート等を利用し、個別に返却する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	他者との関わりが発達に与える影響－関係論的発達の理解	
第2回	子どもを取り巻く人間関係の問題と課題	オンデマンド
第3回	人間関係における現代的課題－家族や仲間など自らの他者との関わりを振り返る	
第4回	乳児保育における人間関係の理解－身近な人との通じ合い	オンデマンド
第5回	他者との関わり的重要性－保育者の心構えと保護者との関係作り	
第6回	1歳以上3歳未満児の保育における人間関係の理解－自立と葛藤	オンデマンド
第7回	乳幼児の生活と遊びにおける共感と葛藤－人間関係の発達の側面から	
第8回	3歳以上児の保育における人間関係の理解－遊びにおける幼児同士の協同やいざこざ	オンデマンド
第9回	遊びにおけるクラスの共感的活動－人間関係の発達の側面から	
第10回	遊びの発達論と乳幼児の人間関係の発達－遊びの重要性	オンデマンド
第11回	幼児同士がつながるクラス活動－対話や協同の重要性	
第12回	現代社会と人間関係－社会生活における望ましい習慣や態度	オンデマンド
第13回	まとめ－乳幼児の発達と人間関係の育ちにおける保育の展開	

事前・事後学修	保育所保育指針等の領域「人間関係」について熟読しておくこと。また次回の授業範囲となる箇所をテキストで確認し、専門用語の意味等についてノートにまとめておくこと。授業後は内容を振り返り、重要事項について整理しておくこと。 ボランティア等で観察した“保育者と子どものかかわり”、及び“子ども同士のかかわり”についてまとめること。 事前事後学修の時間はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回の振り返り（36％） 授業内課題（6％） オンデマンド授業内の課題（18％） 期末試験（40％）
テキスト	主体としての子どもが育つ 保育内容「人間関係」無藤隆、古賀松香 北大路書房
参考文献	保育所保育指針解説（2018）厚生労働省 フレーベル館 幼稚園教育要領解説（2018）文部科学省 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（2018）内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、乳幼児が家庭や園での生活における人との関係性の中で学び合うことや育ち合うことを保育実践等の具体的な事例を用いて示す。
備考	この授業はクォーター制で、偶数回をオンデマンドで実施する。オンデマンドの回は期日までの課題提出で出席となるため、未提出や提出遅れに気をつけること。 自分自身が他者にとって影響を与える一人であることを自覚し講義に臨むこと。

年度	2025
講義名称	子どもの保健[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06506L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 照井 レナ	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することである。また、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について、子どもの疾病とその予防法および多職種間の連携・協働にもとでの適切な対応方法について学修する。
到達目 標	1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。 2) 子どもの身体的発育・発達と保健について説明できる。 3) 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 4) 子どもの疾病とその予防法および多職種間の連携・協働にもとでの適切な対応方法について説明できる。
授業の 進め方	☐ 1回105分、7回の講義。事前・事後学修を課す。 ☐ 適宜パワーポイントなど視聴覚教材を活用して講義を行う。 ☐ 疾病の予防および適切な対応は：問題解決思考を基盤とする ☐ プログラム学修の活用： ①良い聴き手を育てること ②発表能力がつくことを目的として活用する。 内容は、グループワークで話し合った看護アセスメント内容を全体で発表し、問答、討議を行う。 また、各グループ間の内容を共有することで視点が広がり、考え方の多様性を学ぶことができる（第6回、第7回）。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	☐ 定期試験出題内容である小テスト（MT）は、毎回実施。 各回、模範解答・解説を行う。定期試験前には、内容の再確認の時間を設ける。 ☐ 課題レポートは3課題。レポートのスペックは詳細を指示する（遵守されない場合は減点あり）。 各回、コメント・採点。

授業計画表

回	授業内容
第1回	☐ 子どもの心身の健康と保健の意義（テキスト第1章）
第2回	☐ 子どもの身体的発育・発達と保健（テキスト第2章）
第3回	☐ 子どもの心身の健康状態とその把握（テキスト第3章）
第4回	☐ 子どもの疾病の予防および適切な対応（テキスト第4章） ・免疫と感染症 ・アレルギー疾患 ・口と歯の健康
第5回	☐ 子どもの疾病の予防および適切な対応（テキスト第4章） ・先天性疾病、未熟児（配布資料） ・そのほかの疾患 ・事故・けが（配布資料）
第6回	☐ 子どものこころとからだのこと「虐待」（テキスト第5章） ・「虐待」についてのGW、全体発表

第7回	☐健康診断と多職種との連携・協働（配布資料） ☐「子育て支援」についてのGW、全体発表　まとめ

事前・事後学修	事前学修・事後学修内容は以下の通り。いずれも2時間相当を要する。 1回目 事前学修：「子どもとの関わり方の体験と保育に対する考え」をテーマとしたレポート作成。 事後学修：現代の子どもの健康に関する現状と課題をまとめる。 2回目 事前学修：子どもの身体発育と運動機能をまとめる。 事後学修：子どもの生理機能の発達をまとめる。 3回目 事前学修：子どもの心身発育をまとめる。 事後学修：子どもの健康状態の把握する方法をまとめる。 4回目 事前学修：免疫のしくみ、食物アレルギー、食べる機能の発達と食形態をまとめる。 事後学修：「感染症の経路と感染症の種類」「アナフィラキシー反応とその対応」「虫歯の原因と予防法」についてまとめる。 5回目 事前学修：「未熟児の定義と統計的動向（配布資料）」「脳炎、熱性けいれん、髄膜炎の病態」「食物アレルギー」「小児慢性特定疾患」「おこりやすい事故やけが（配布資料）」についてまとめる。 事後学修：「小児の先天性疾患とその病状」「脳に異常がある場合の対応」「アレルギー疾患の種類と対応」「支援制度とプレパレーション」「急性疾患における救命対応（配布資料）」をまとめる。 6回目 事前学修：「虐待を受けた子ども、家族に対する支援」をテーマとしたレポート作成。 事後学修：GWや全体会を通して、「虐待現状と分類」「虐待の要因や予防と支援方法」についてまとめる。 7回目 事前学修：「子どもの家族支援制度（配布資料）」についてまとめ、「どのような子育て支援が新たに必要だと考えるか」をテーマとしたレポート作成。 事後学修：「GWや全体会を通して子育て支援の在り方」をまとめる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題提出：30点（内訳：3課題とも配点10点） 定期試験：70点（講義の終盤で実施する小テストから出題する）
テキスト	遠藤郁夫ほか（2019）：子どもの保健，学建書院.東京.
参考文献	小林美由紀（2018）：子どもの保健テキスト，診断と治療社.東京.

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、16年間にわたり自治体の保健師、精神科ディケア・急性期病棟や訪問看護ステーションの看護職、経営陣として経験を積んできました。これらの看護実践により養われたコミュニケーションスキル、観察力や判断力、チームワーキング、リスクマネジメントなどを活かし、保育や子どもの健康と安全のために応用できる看護の智恵や学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	教育方法論[子心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06505L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）は、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
到達目標	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、教育の目的に適した指導技術を深く理解し、身に付ける。また情報機器を活用した効果的な保育や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。
授業の進め方	講義形式で進める。内容によってはグループワークなどを取り入れながら学修を進める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業においてリアクションシートに授業感想や質問等を記入し提出。次回講義の冒頭で質問に対する回答を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	保育方法の基本
第2回	幼児理解と保育の方法
第3回	環境を通して行う教育／子どもの育ちと物的環境
第4回	子どもの育ちと人的環境／社会的環境
第5回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程
第6回	「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係
第7回	幼児理解に基づいた保育方法と評価
第8回	幼児教育・保育における遊び
第9回	幼児教育・保育における計画と評価
第10回	幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用
第11回	情報活用能力と幼児教育・保育
第12回	連携という方法を探る
第13回	幼児教育・保育のこれから 試験（最終まとめレポート）

【具体的な内容】 事前に次の回の課題を示し、資料を配布するなどして、予習を促す。

事前・事後学修	各自、自身の実践を振り返るなどして、毎回の講義の内容と照らし合わせ、予習・復習を行う。
	【必要な時間】 事前・事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・各回の授業レポート 30% 「社会を担う子どもたちに認められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する」「教育の目的に適した指導技術を理解する」「情報機器を活用した効果的な保育や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける」ことを評価基準とする。 ・授業コメント 30% 「教育の方法を理解する」「保育や適切な教材作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける」ことを評価基準とする。 ・最終まとめレポート40% 「教育の方法を理解し、教育の目的に適した指導技術を深く理解し、説明できる」ことを評価基準とする。
テキスト	適宜紹介する
参考文献	垂見直樹・池田竜介「幼児教育・保育のための教育方法論」ミネルヴァ書房 小田豊・中坪史典「幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法（第2版）」建帛社 久富陽子・梅田優子「保育方法の実践的理解」萌文書林 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義では、幼稚園、認定こども園での実務経験をもつ教員が担当し、実践的な講義を行う。
備考	講義内ではPCを使用する場合があります。

年度	2025
講義名称	特別支援教育[子心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06504L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、障がい児教育の歴史を踏まえたうえで、特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、特別の支援を必要とする幼児・児童生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法を具体的に理解していきます。加えて、障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒がいることを理解し、全ての子どもが生活しやすい環境を考えることを目的とします。
到達目標	・特別支援教育の理念・歴史と現状を理解し、説明できる。 ・特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法を理解し、説明できる。 ・障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性に関心を持ち、自分の考えも含め説明できる。
授業の進め方	講義形式で進めますが、グループでグループワークやディスカッションも行い、発表をします。加えて、特別支援学校に勤務する教員による「特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応」の講義を聴講し、障がいの医学的診断はないが、特別な教育的ニーズを必要とする幼児・児童及び生徒の理解、支援方法・対応について学びます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは後日に授業内で解答・解説を行います。また授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（グループ分け含む） グループワークの説明 グループワーク（障がい児の発達特性と指導）①
第2回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）②
第3回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）発表①
第4回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）発表②
第5回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）発表③ まとめ①
第6回	障がい児の発達特性と指導 まとめ②
第7回	インクルーシブ教育システムの構築 ・特別支援教育の理念・歴史と現状
第8回	特別支援教育の推進と仕組み ・早期からの相談と就学先決定、保護者支援 ・個別的教育支援計画と個別の指導計画 ・合理的配慮

第9回	学校における取組① ・校内委員会と特別支援教育コーディネーター ・ユニバーサルデザイン ・交流及び共同学習・センター的機能
第10回	学校における取組② ・通級による指導・特別支援学級 特別支援学校の教育課程
第11回	グループワーク（自立活動の指導計画）
第12回	特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応
第13回	グループワーク発表（自立活動の指導計画） 授業のまとめ

事前・事後 学修	・事前、事後学習として、授業に対応しているテキストの該当箇所を熟読しましょう。また、特別支援教育に関係する書籍は数多く出版されています。自身 が読みやすい、わかりやすいと 感じるものに積極的に触れて欲しいと思います。その際わからない用語は調べ、理解しておいてください。日頃から特別支援教育や学校教育に関するニュー ースに興味・関心を持つように しましょう。 ・事前学習（予習）として、関連する科目で学んだことを整理しておきましょう。 ・事後学習（復習）は、授業内容を整理する、関連する書籍を読むなどし、理解や知識を深めるように心がけてください。 ・グループ発表の準備は授業内の時間でとまらない場合、授業外の時間を調整してまとめ発表の日までに完成してください。 本授業は2単位であるため、予習・復習の時間は、あわせて5時間程度とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と 方法	・特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法の理解・専門知識の習得をグループワーク、小テストやリアクションペーパーの 評価基準とする 70％ ・特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法の理解をもとに、授業計画の作成や発表をグループ ワークの評価基準とする 20％ ・障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性について、自分の考えも含め論述 できることをレポートの評価基準と する 10％
テキスト	特別支援教育のテキスト、小林倫代 編・著 藤井茂樹・廣瀬由美子・星祐子 著、Gakken
参考文献	適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と 授業内容	幼児の特別支援教育、幼児・児童の発達支援・療育、乳幼児発達相談の実務経験がある教員が、実践内の事例を含めながら講義を実施します。
備考	・講義中の私語、許可された場合以外のスマートフォン・携帯電話・PCなどの使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習など）はせず、授業に集中することを期待します。 ・授業中に発表や発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください。 ・講義内容を向上させる意味で、受講回数 の順序や内容を変更する場合があります。

年度	2025
講義名称	幼児と環境[子心]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06503L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	乳幼児を取り巻く環境と乳幼児の発達に関連について理解を深め、幼児が環境に主体的に関わることの意義を理解する。また、環境により子どもの発達は変化する可能性があることを意識し、自らも環境の一部であることの自覚を得るとともに、子どもにとって必要な環境について知識及び技能を身につける。
到達目標	・ 幼児を取り巻く環境について、乳幼児の発達との関連性からその意義を理解する。 ・ 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・情動の発達について理解する。 ・ 幼児の身近な環境との関わりにおける科学的概念、また日常生活にある標識・文字への興味関心について理解する。
授業の進め方	具体的な保育実践場面を通して、乳幼児の周囲の環境と子どもの発達について理解を深める。また子どもにとって必要な環境とは何か考察していく。必要に応じてグループワークやディスカッションを行い、保育者の視点で環境を考察することを試みる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個別課題は必要に応じてWebClassからコメントする。全体で共有すべきことは次回の授業の際に紹介する。グループ課題は授業内で解説を行い、必要に応じて資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	乳幼児の発達と保育環境の構成ー乳幼児の発達と人的環境・物的環境の重要性
第2回	領域「環境」と他領域との相互連関の発達
第3回	環境構成の基礎理論ー定義と要素
第4回	乳児保育における環境の理解ー身近なものとの関わり
第5回	1歳以上3歳未満児の保育における環境の理解
第6回	3歳以上児の保育における環境の理解乳幼児の主体的活動を生む保育環境
第7回	乳幼児の主体的な活動（遊び）と環境構成
第8回	環境構成のポイント
第9回	自然環境との関わりと戸外遊びー園庭環境の考え方
第10回	戸外遊びの実践と配慮（フィールドワーク）
第11回	保育における生活環境ー食事環境
第12回	保育における生活環境ー排泄、睡眠環境
第13回	まとめー発達を意識した保育環境の考察

事前・事後学修	テキストの指定ページを熟読し、専門用語の意味を調べノートにまとめる。また授業後は授業内容をノートにまとめ、重要事項を整理する。 日頃から周囲の環境に関心を持ち、保育の場に活かしたい環境や遊びをノートにまとめる。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内課題（4％） 毎回の振り返り（33％） フィールドワーク課題（5％） 小テスト（8％） 期末試験（50％）
テキスト	「環境構成の理論と実践」高山静子 郁洋舎
参考文献	「学びを支える保育環境づくり」高山静子 小学館 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育保育・要領」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実際の保育環境や子どもの姿を通して乳幼児にとっての環境の重要性について講義や解説を行う。
備考	この授業はクォーター（週2回）で実施する。 乳幼児に関わる者としての自覚を持ち、授業に参加すること。 自然探索など外部講師によるフィールドワークを行うため、適切な服装で参加すること。

年度	2025
講義名称	幼児と健康[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06502L

担当教員

氏名	所属
◎ 林 二士	短大・幼児教育保育学科
蔵満 保幸	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子どもの個性的で活発な主体的活動を通じて、心身の健全な発達を実現するために、心身の発達の概観、保育者が留意すべきことやその役割について学びます。 子どものころや身体の発達、遊び、食、睡眠を中心とした生活習慣について理解を深めます。
到達目標	幼児の発育発達と健康に影響する諸要因について理解を深める。 幼児の成長や健康に関する理解を深め、意識を高くすることができる。 保育者として幼児の健やかな発育発達を支えるために、自らも健康を維持増進する態度を養うことができる。
授業の進め方	演習形式で実施します。小グループでの話し合いや発表を通じ、積極的な発言、発表を求め、自分の意見をしっかりと述べる態度を養います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題についてな授業内で解説するとともに、グループワーク時にも自由に意見交換します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、自分の幼児期の振り返り	グループワーク
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「健康」のねらいと内容	SBL GW
第3回	健康と体力について 北海道の子どもの体力・運動能力の現状と課題	グループワーク等
第4回	身体活動（あそび）の必要性、重要性 健康、体力、運動能力についての確認試験	グループワーク等
第5回	子どもを取り巻く健康や発達の諸問題	ディスカッション等
第6回	子どもと運動あそび 子どもと生活習慣 子どもと食	ディスカッションなど
第7回	子どもトピックス（メディア、ゲーム） 〃（生活習慣） 〃（運動、食）	ディスカッションなど

事前・事後学修	配布資料の事前閲覧、課題作成など

成績評価基準と方法	・確認試験 4 0 % ・まとめのレポート 4 0 %	2025/04/01

	・提出物20%
テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領
参考文献	幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領

年度	2025
講義名称	保育内容総論[子心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06501S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	子どもの発達に必要な保育のねらい及び内容、計画、実践について、保育所保育指針の学習から理解を深める。その上で、子どもとはどのような存在であるか、また保育者は子どもを養育する立場としてどうあるべきかを考察する。
到達目 標	・保育所保育指針の内容を理解し、保育の全体構造のイメージが持てる。 ・保育は養護と教育が一体となって行われることについて、保育所保育指針及び具体的な実践から理解する。
授業の 進め方	保育所保育指針の内容と実際の子どもや保育の様子を関連づけながら講義を行う。保育の全体構造と子どもの姿、また保育者の子どもへの関わりについて、講義をもとにグループワーク等を通して理解を深める。また、保育参観や実習の準備として、保育の記録についてワーク形式で学ぶ。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個別課題についてはLMSを通して必要に応じてコメントする。 グループ課題については授業内で解説し、必要に応じて資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	子どもを取り巻く社会の変化と保育内容の変遷
第2回	保育所保育指針の全体構造－役割、目標、方法
第3回	保育所保育の基本－子どもの発達を踏まえた保育
第4回	環境を通して行う保育－人的環境と物的環境の重要性
第5回	保育所保育の特徴－養護及び教育が一体的に展開する保育
第6回	保育の計画及び評価－観察と記録の重要性
第7回	生活や遊びによる総合的な保育－幼児教育を行う施設として共有すべき事項

事前・事後学修	今回の授業範囲を確認し、テキストを熟読しておくこと。その際、専門用語や不明な単語の意味を調べ、ノートにまとめておくこと。 授業後は授業内容の振り返りを行い、重要事項をノートに整理すること。 事前事後学修の時間はそれぞれ90分を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回の振り返り（35％）自分の経験や考えを踏まえ、感想や考察を述べることができる 授業内課題（30％） 保育所保育指針の内容を理解した上で課題に取り組むことができる 期末レポート（35％）到達目標にある保育所保育指針の内容と具体的な保育実践の理解を判断基準とする
テキスト	「保育所保育指針解説」（2018）厚生労働省 フレーベル館
参考文献	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」（2018）文部科学省 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、保育所保育指針の内容と実際の子どもや保育の様子を関連づけながら講義を行う。
備考	乳幼児に関わる者としての自覚と保育のおもしろさを感じるために、積極的に授業に参加すること。

年度	2025
講義名称	教育課程論Ⅰ〔子心〕
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06411L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 木村 彰子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基準として編成される「教育課程」及び「全体的な計画」の意義や編成について理解する。また、日常の子どもの姿を大切にしたカリキュラムマネジメントについて理解する。 さらに、「教育課程」及び「全体的な計画」や「長期の指導計画」をもとにした「短期の指導計画」の作成を行い、自身が編成主体であることを自覚する。
到達目標	・保育における「教育課程」「全体的な計画」の意味や位置づけを説明することができる。 ・幼児教育におけるカリキュラムマネジメントについて説明することができる。 ・「幼児期にふさわしい生活」における「教育課程」や「指導計画」はどうあればよいか説明することができる。 ・短期の指導計画のねらいに応じた援助や留意点を考えることができる。
授業の進め方	配布プリントの内容に沿ったパワーポイントで、ポイントになる部分を解説をする。 実際の保育現場や幼児の姿を思い起こしながら検討できるよう、ビデオ映像や写真を視聴し、自身の考えを整理したり深めたりするため、授業途中で課題に取り組む。その後、グループでディスカッションをすることもある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業最後の課題については、次の回の最初にフィードバックを行う。また、個別に対応が必要な場合は、個別にコミュニケーションをはかる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 幼児教育の基本の確認	対面
第2回	幼児教育で重要な非認知能力	対面
第3回	子ども主体の遊びを通した保育における指導計画Ⅰ	対面
第4回	子ども主体の遊びを通した保育における指導計画Ⅱ	対面
第5回	カリキュラムマネジメント 教育課程・全体的な計画の編成主体	対面
第6回	小テスト 教育課程・全体的な計画から指導計画へ	対面
第7回	カリキュラムマネジメントの実際	対面
第8回	短期の指導計画（指導案）Ⅰ	対面
第9回	短期の指導計画（指導案）Ⅱ	対面
第10回	子ども主体の保育における環境構成Ⅰ	対面
第11回	子ども主体の保育における環境構成Ⅱ	対面

第12回	子ども主体の保育の実際	対面
第13回	「子どもから始まる遊び」と「保育者が提案する遊び」	対面
第14回	期末試験	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前には、前回実施した内容を振り返っておくこと。また、次回までに復習や予習となる課題を課すこともあるため、必ず実施し提出すること。参考文献を読み深めることを推奨する。 【必要な時間】 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて5時間の学修が求められる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	提出課題 50% 小テスト・期末試験 50%
テキスト	「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」文部科学省 チャイルド本社
参考文献	「教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画」岩崎淳子、及川留美、粕谷亘正 萌文書林 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育指導案大百科事典」開仁志 一藝社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭の実務経験がある教員が、保育現場の映像や幼児の事例を使って具体的に伝え、学生が実感を伴って理解することのできる授業を行う。
備考	・配布プリントなどは一冊にまとめ、毎回持参すること。 ・授業の際、テキストは毎回持参すること。また、参考文献である「要領」「指針」を持参する必要がある場合は、授業の中で連絡する。 ・欠席した場合には、必ずその回の内容を各自で補うとともに、次回までに必要なこと、必要なものなども確認すること。 ・なお、授業の最後の時間に課題として行う時間を設けることもあるため、可能な限り欠席することなく授業に参加すること。 ・幼稚園教諭1種免許状、保育士資格の必修科目

年度	2025
講義名称	子ども家庭支援論[子心]【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06410L

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	この科目は、「子育て支援」の背景や目的を、さまざまな視点から学習し、現代の子育て環境の実態と問題の視点を明確にします。 また子育て支援の担い手として、保護者の子育て不安、子育て困難の実態を知り、援助の方法について学びます。
到達目標	家庭支援は子育て支援であることを理解し、支援に必要な心構えや、家庭支援に欠かすことのできない各種の福祉施策を理解し、 家族に対応するための基本的なスキルを身につけることを目標とします。
授業の進め方	本授業は知識を獲得する授業回はオンデマンド、知識をもとにより深く学習する回は対面で行う。 対面授業の前には必ずオンデマンド授業を受講して臨む必要があるので注意すること。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　ディスカッション　反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	オンデマンド授業ではLMSを利用した小テストを行う。また解答は自動回答とするが、詳細な説明は次回の授業で行う。 毎回の授業ではリフレクションシートの記載をする。質問がある場合には次回の授業の冒頭で解説する。 個人的な質問に対してはLMSを使用し個別に回答する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	子ども家庭支援とは何か	対面
第2回	家庭生活の現在	オンデマンド
第3回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援のあり方とその意義	対面
第4回	子育て支援策と次世代育成支援施策の推進	オンデマンド
第5回	子ども家庭支援の内容と、保育者に求められる基本的役割と姿勢	対面
第6回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	オンデマンド
第7回	子育て支援の2つの対象について（保育所の保護者と地域の保護者）	対面
第8回	配慮を必要とする子どもや家庭の現状	オンデマンド
第9回	配慮を必要とする子どもや家庭の子育て支援	対面
第10回	児童虐待と要保護児童における現状について	オンデマンド
第11回	児童虐待と要保護児童における支援について	対面
第12回	子ども家庭支援の今後の展望	オンデマンド
第13回	授業のまとめと最終試験	対面

事前・事後学修	学習前にテキストをよく読んでおくこと。単元ごとの課題は授業内で指示する。 授業後は学修した内容をノートなどにまとめ理解の定着をはかること。 事前学習として2時間を目安とする。事後学習についてもおよそ2時間程度が適当である。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	リフレクションシート30%、小テスト20%、授業内最終試験50% ※授業内試験を無断で欠席した場合、追試は受けられないので注意してください。 体調不良等の場合には必ず事前に連絡すること。
テキスト	太田光洋編著「保育ニュー・スタンダード 子ども家庭支援論」同文書院
参考文献	子ども家庭省、札幌市HP

年度	2025
講義名称	子ども家庭福祉[子心]【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06409L

担当教員

氏名	所属
◎ 品川　ひろみ	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子ども家庭福祉は教育・保育・福祉の現場で必要とされる基礎的な知識や技能の習得を目指します。 子ども家庭福祉の歴史的変遷を理解しながら、現代の子どもや家族を取りまく課題の理解を深め、子どもと家族への支援の在り方を理解し実践できることを目的とします。
到達目標	・子ども家庭福祉の意義、子どもの権利について理解し説明することができる。 ・子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解し説明することができる。 ・子ども家庭福祉を取り巻く諸問題について理解し説明することができる。
授業の進め方	本授業は知識を獲得する授業回はオンデマンド、知識をもとにより深く学習する回は対面で行う。 対面授業の前には必ずオンデマンド授業を受講して臨む必要があるので注意すること。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　ディスカッション　反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	オンデマンド授業ではLMSを利用した小テストを行う。また解答は自動回答とするが、詳細な説明は次回の授業で行う。 毎回の授業ではリフレクションシートの記載をする。質問がある場合には次回の授業の冒頭で解説する。 個人的な質問に対してはLMSを使用し個別に回答する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	子ども家庭福祉とは何か	対面
第2回	子どもの権利と子ども観	オンデマンド
第3回	子ども家庭福祉の歴史的変遷	対面
第4回	子ども家庭福祉の制度	オンデマンド
第5回	子ども家庭福祉の実施機関	対面
第6回	子ども家庭福祉の施設や機関	オンデマンド
第7回	子ども家の庭福祉の援助の実際（外部講師）	対面
第8回	さまざまな状況にある子どもへの支援とは	オンデマンド
第9回	子ども家庭福祉の支援について（グループ発表の準備）	対面
第10回	グループワークの発表	オンデマンド
第11回	グループワークの振り返り	対面
第12回	子ども家庭福祉の今度の展望：教育における子ども家庭福祉	オンデマンド
第13回	授業のまとめと最終試験	対面

事前・事後学修	毎回の授業終了時に次回の課題を提示する。テキストをよく読み必要に応じて図書館なども利用して課題に取り組むこと。 事前の学修は1時間、事後の学修は1時間程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価の基準は毎回のリアクションシート20%、小テスト20% グループ発表20%、最終試験40%とする。
テキスト	吉田幸恵/山縣文治『よくわかる 子ども家庭福祉』 ミネルヴァ書房
参考文献	参考文献についてはLMSを通じて提示する。

年度	2025
講義名称	社会的養護Ⅰ〔子心〕
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06408L

担当教員

氏名	所属
◎ 山内 太郎	短大・幼児教育保育学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は大きく二つある。一つは社会的養護が必要な子どもの存在について理解することである。もう一つは保育所以外の児童福祉施設職員として保育士がどのような役割を果たしているのか理解することである。また、こうした取り組みが必要となる社会的背景や家族が置かれた状況についても解説する
到達目 標	児童福祉施設の機能について知識として理解できるとともに施設保育士として子どもとどのように向き合うべきか考えることができる。
授業の 進め方	テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料や視聴覚資料を使って内容を補っていく。 また、必要に応じて発言を求めたり、グループ討議を行う場合がある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の終盤に小レポートを課し、内容に応じて適宜次回の授業の冒頭で回答する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	子どもの人権擁護と社会的養護
第3回	家庭の機能と社会的養護
第4回	社会的養護の基本原則①【養育】 子どもの日常生活を保障する施設保育士の役割について学びます。
第5回	社会的養護の基本原則②【保護】 子どもの安全基地としての児童福祉施設の機能と保育士の役割について学びます。
第6回	社会的養護の基本原則③【子どもであることの回復】 子どもが子どもらしく過ごせるための環境整備のあり方について学びます。
第7回	社会的養護の基本原則④【生活文化と生活力の習得】 子どもが社会で自分らしく生きていけるようになるために保育士が子どもに伝えるべきことについて学びます。
第8回	社会的養護の基本原則⑤【生命倫理観の醸成】 子どもたちにいのちの大切さを伝えるために保育士としてどのような「構え」が必要なのかを考えます。
第9回	社会的養護の制度と実施体系
第10回	施設養護の対象・形態・専門職①【乳児院】
第11回	施設養護の対象・形態・専門職②【障害児の入所施設】
第12回	施設養護の対象・形態・専門職③【児童自立支援施設】
第13回	期末試験と解説

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事前学習として該当する箇所についてはテキストを読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料等を読み返して、ポイントや重要事項等を復習すること。
	【必要な時間】 それぞれ2～3時間程度が目安である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	定期試験による評価50％ レポート課題20％ 毎時間後の小レポート提出30％
テキスト	『児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ』吉田眞理編著 萌文書林
参考文献	講義中に適宜提示する。

年度	2025
講義名称	保育原理[子心]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06407L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 木村 彰子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育の基盤となる子ども観や発達観についてこれまでの歴史を通して概観し、子ども理解を基本とした保育の原理を理解する。 また、保育の意義や方法、計画・保育者の役割について理解し、保育者としての自己形成を目指す。
到達目標	・子ども理解が保育の基本であることを自分の言葉で説明できる。 ・保育の意義や原理を理解し、保育は「環境を通した教育」であることや小学校以上の教育との違いを、具体例を使って説明できる。 ・保育の計画の必要性と概要について理解し説明できる。 ・保育記録の意義や記録する際の留意点を理解する。 ・保育者の専門性が何かを考え、保育における現段階での自己課題を明確にし、それに対する今後の取り組みについて具体的に説明することができる。
授業の進め方	保育者の子ども観や保育観が保育の在り方に大きな影響を及ぼすことや、保育の意義や保育が意図的計画的であることを、講義形式で進める。 それらをもとにして、保育現場の実践の動画や写真、エピソードなどを通したグループでのディスカッションを行い、保育者の専門性について体験を通して学べるようにする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題提出後、講義の中で解説をする。また、個別に対応が必要な場合は、課題にコメントを記入したり、授業前後で直接対話をして伝える。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 「子どもがケアする世界をケアする」ことの意味	対面
第2回	子ども観はどのようにつくられるのか こども観と援助の関係	対面
第3回	保育の歴史	対面
第4回	子どもから出発する保育	対面
第5回	こどもの行為の意味を探るカウンセリングマインド	対面
第6回	子どもの「発達」を捉えるまなざし	対面
第7回	環境を通して行う保育・教育	対面
第8回	保育内容・方法の原理	対面
第9回	乳幼児期にふさわしい生活に基づいた保育の内容	対面
第10回	保育における計画の意味	対面
第11回	子どもの理解と記録	対面
第12回	保育における様々な配慮	対面

第13回	保育者の専門性	対面
第14回	期末試験	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前には、前回実施した内容を振り返っておくこと。また、次回までに復習や予習となる課題を課すこともあるため、必ず実施し提出すること。参考文献を読み深めることを推奨する。 【必要な時間】 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて5時間の学修が求められる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	提出課題 50% 最終試験 50%
テキスト	春学期第1クォーターのため、テキストの入手が授業展開よりも遅れる可能性を考え、今年度は使用しない。 （授業では、参考文献の「新しい保育講座①」の一部のみ、プリントアウトしたものを配布する）
参考文献	・「新しい保育講座① 保育原理 渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 ミネルヴァ書房 （本授業のプリントアウトはこのテキストを用いるため、より深く学びたいと考える方は入手することをお勧めする） ・「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 ・「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭（25年間）の実務経験のある教員が、自身の実践や他の現場の実践の事例を、事例や動画などで紹介し、それをもとに考える内容を盛り込む。 「カウンセリングマインド」の授業内容では、幼稚園教諭（25年間）とスクールカウンセラー（約10年間）の実務経験をもとに、保育者として必要な資質の理解を促す。
備考	・配布プリントなどは一冊にまとめ、毎回持参すること。 ・授業の際、参考文献である「要領」「指針」を持参する必要がある場合は、授業の中で連絡する。 ・欠席した場合には、必ずその回の内容を各自で補うとともに、次回までに必要なこと、必要なものなども確認すること。 - なお、授業の最後の時間に提出課題を行うことが多いため、可能な限り欠席することなく授業に参加すること。 ・保育士資格の必修科目

年度	2025
講義名称	子ども家庭支援の心理学[子心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06406L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	子どもとその家庭を、発達の視点でとらえ、現代の子育て家庭の社会状況と課題について理解することを目的とする。 家族・家庭の機能、子育て家庭の現状、課題について学ぶ。また、子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。
到達目標	生涯発達を踏まえ、親子関係、家族を発達的な視点で理解する。また、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題の理解、子どもの精神保健とその課題を理解する。
授業の進め方	講義形式で行うが、グループワークなどを取り入れ、ワークシートの作成など能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	乳児期の発達と幼児期の発達 乳児期の発達と幼児期の発達について講義する。
第2回	学童期の発達と青年期の発達 学童期の発達と青年期の発達を講義する。
第3回	青年期の発達 青年期の発達について講義する。
第4回	成人期・中年期の発達と高齢期の発達 生涯発達という視点から成人期・中年期、高齢期の発達について講義する。
第5回	家族・家庭の意義と機能 戦後から現代までの家族・家庭の意義と機能の変化について講義する。
第6回	家族関係・親子関係の理解 家族関係と親子関係が戦後から現代までどのような変化をしてきたか、その中で何が問題なのかということを講義する。
第7回	子育てで経験と親としての育ち 子育てで経験は、親の育ちとしてどのように寄与しているのかを講義する。
第8回	子育てを取り巻く社会状況 子育てを取り巻く社会状況の変化とその影響が子どもにどのように影響するのかを講義する。
第9回	ライフコースと仕事・子育て 女性と男性のライフコースの変化や子育ての変化を講義する。
第10回	多様な家庭とその理解、授業内レポート 現代社会における多様な家庭があることや多様な家庭に影響される子どもについて講義する。授業内でレポート作成する。

第11回	特別な配慮を要する家庭 特別配慮が必要な家庭はどのような家庭でどのような配慮が必要なのかということについて講義する。
第12回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの生活・生育環境が子どもの心身の発達にどのような影響を及ぼすのかについて講義する。
第13回	子どものこころの健康にかかわる問題 授業内テスト 子どもの心の健康に家庭がどのように影響するのかについて講義する。

事前・事後学修	事前・事後学修については、各5時間程度が必要である。具体的な内容としては、事前は教科書の予習、事後は講義の復習が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	コミュニケーションシート20％ 中間レポート30％ 授業内試験50％
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」新基本シリーズ9 編 白川佳子、福丸由佳 中央法
参考文献	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	教育原理[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06405L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼児教育についての基礎的な知識について学ぶ。幼児教育の理念や意義を制度や歴史を踏まえて理解する。また現代社会における教員の役割についても広く学んでいく。
到達目標	教育の基本概念、歴史、思想、の基礎を理解すると共に、近代から現代の社会の変容の中で、幼児教育・保育の基本を理解する。現代社会における教員の役割について広く学ぶ。
授業の進め方	講義形式でおこなう。必要に応じて視聴覚教材で理解を深め、グループワーク等で能動的な学習を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは授業内でを行い、場合に応じて次回授業にて補足や情報共有を行う。学生からの質問には適宜講義内で回答するので、積極的な質問を期待する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 幼稚園教育要領の概要 教育の意義と理念 教育とは何か
第2回	幼児教育制度と法令 幼児教育制度の概略、幼児教育にまつわる法令、子どもの権利
第3回	教育とは何か① プラトンと手細工モデルの教育
第4回	教育とは何か② ルソーと農耕モデルの教育
第5回	教育とは何か③ コメニウスと生産モデルの教育
第6回	幼児教育の思想と歴史的変遷① コメニウス、ペスタロッチ、フレーベル
第7回	幼児教育の思想と歴史的変遷② エレン・ケイ、モンテッソーリ、オーエン
第8回	幼児教育の思想と歴史的変遷③ 倉橋惣三 東京女子師範学校付属幼稚園と守孤扶独幼稚児保護会
第9回	諸外国の幼児教育システム
第10回	教育に関する経営的事項：地域連携、学校の安全
第11回	幼児教育の現状と課題①幼児教育無償化等
第12回	幼児教育の現状と課題②人材不足概観 まとめ
第13回	期末試験及び解説、履修カルテの記入

	【具体的な内容】 授業をおこなう前に、必ずテキストの指定箇所を読んでおくこと。	2025/04/01

事前・事後学修	不明な点、理解が難しい点は必ず質問し、疑問を解消すること。 質問は授業中、授業外のほか、メール等でも随時受け付ける。 【必要な時間】 事前、事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	日々の確認テスト30％ コメントシート20％ 期末試験50％ 「到達目標」に明示している、『幼児教育についての基礎的な知識及び幼児教育の理念や意義について制度や歴史を踏まえて理解しているか』、『現代社会における教員の役割について具体例を挙げて論述できるのか』を各回の確認テスト・コメントシート・期末試験の評価基準とする。
テキスト	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』
参考文献	講義内で適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場において幼稚園教諭の実務経験を有する教員により、教育原理に関する基本的概念と保育現場における実践例を関連づけて説明する。
備考	必要に応じてスマートフォン・タブレット・パソコンを使用するため、持参すること。

年度	2025
講義名称	子どもの理解と援助[子心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06403S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 木村 彰子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育実践の中で、子ども一人一人の発達や思い・学びを理解する意義を理解し、そのための基本的な考え方、保育者の援助や態度の基本について知ることが目的である。 保育場面の映像や事例を通して、子どもの思いや発達を理解した上での具体的な援助について学ぶ。
到達目標	・子どもの実態や特性および一人一人の気持ちに沿った保育者の援助の大切さを知り、事例を通して説明することができる。 ・他者の視点を交えて子どもを理解する大切さを知り、自分と異なる考えを受け止めようとすることができる。
授業の進め方	授業の最初は講義形式で行った後、様々な子どもの思いを含んだ静止画や動画の視聴などを行い、子ども理解や保育者の援助について考える。 さらに、子ども理解や保育者の援助について考えた後、グループワークなどで意見交流し、さまざまな視点で子どもを理解する大切さに気付く。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題返却時の講義の中で解説をする。また、個別に対応が必要な場合は、課題にコメントを記入したり、授業前後で直接対話をして伝える。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 子どもの行為を通して子どもごろを感じる	対面
第2回	保育における子どもへのまなざし	対面
第3回	保育における子ども理解とは	対面
第4回	子どもを取り巻く環境の理解	対面
第5回	子ども理解における発達の視点	対面
第6回	関係論的発達観	対面
第7回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド	対面
第8回	保育における観察	対面
第9回	保育における記録の意味	対面
第10回	保育カンファレンス	対面
第11回	保育における個と集団の関係への理解と援助	対面
第12回	特別なニーズのある子どもの理解と援助	対面
第13回	子ども主体の保育と保育者の援助への理解 授業内試験	対面

事前・事後学修	事前学修ではテキストの次回使用する部分を必ず読み、概要を把握すること。 事後学修では、授業の内容を振り返っておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題提出と内容 70% ・授業内試験 30%
テキスト	「新しい保育講座3 子ども理解と援助」高嶋景子・砂上史編著 ミネルヴァ書房
参考文献	・保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 ・「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼稚園教諭及び臨床心理士として実務経験のある教員が実例や保育場面の動画を提示し、子ども理解の視点を伝える。
備考	・基本的にテキストは毎回持参すること。 ・参考文献が必要な場合には、前回の授業にて伝えるため、聞き逃さず準備すること。 ・授業最後に提出課題を行う場合が多いため、できるだけ欠席せず、授業に参加すること。なお、課題は期限厳守で必ず提出すること。未提出及び提出遅れは減点対象となる。 やむを得ず欠席した場合には必要に応じて自ら教員に質問をし、その回の内容を自ら補うこと。 ・保育士資格必修

年度	2025
講義名称	教職入門[子心]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学子ども心理専攻：PCD06402L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 東 重満	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	現代社会における教職（保育職）の重要性の高まりを背景に、教職（保育職）の意義、教職（保育職）の役割、資質能力及び職務内容等について理解し、教職（保育職）への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職（保育職）の在り方を理解する。
到達目標	①教職（保育職）の意義。我が国における今日の学校教育及び教職（保育職）の社会的意義や倫理を理解する。 ②教職（保育職）の役割や動向を踏まえ、今日の教職（保育職）制度的な位置付けと共に求められる役割及び資質能力を理解する。 ③教職（保育職）の専門性に基づいた職務内容の全体像及び教育公務員に課せられる服務上及び身分上の義務を理解する。 ④教職（保育職）における職員間の協働と、キャリアステージを通した専門職的成長の重要性を理解する。
授業の進め方	テキストやスライド提示に基づき講義すると共に、本時のテーマを各自ないしグループで理解を深めると共に、短時間の演習やグループワークを通して保育者（教職）について実践的理解を図る。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	往還的に授業ノートを活用する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス、保育職とは何か。
第2回	東日本大震災記録映画「いつもの幼稚園に戻ること」を視聴し保育職の本質的意味を考える。
第3回	保育とは－養護と教育、保育の場－幼稚園・保育所・認定こども園・地域型保育
第4回	保育者とは－幼稚園教諭・保育士・保育教諭、保育の場－生命の保持と情緒の安定（教員の地位に関する勧告と保育観）
第5回	保育者にかかわる法規・身分保証（資格・要件）・服務・責務（倫理観・道徳観を踏まえて）
第6回	保育者の専門性と「遊び」－なぜ遊びについて学ぶのか、遊びの多様性
第7回	保育者の専門性と「環境」－「環境」の相互作用、計画的な「環境」構成（確かな知識と技術と判断に基づいて）
第8回	保育の専門性と「生活」－「生活」の意味、家庭・学校・社会での生活と教育・保育
第9回	保育者の専門性と「子育て支援」－子育て（家族・家庭）支援の必要性、法制度と子育て支援
第10回	教育（保育）課程による保育の展開、保育実践を記録する力（保育改善に向けた評価を踏まえて） 自己評価（確かな省察と改善の重要性）
第11回	専門性を高めるために－養成校での学び、実習を通した学び 学び続ける保育者（ライフステージとキャリアステージに即した専門性の発達）
第12回	保育者の重要な業務（時間と安全の管理）について インクルーシブな保育の実現
第13回	まとめと定期試験（レポート）

事前・事後学修	・事前（前の時間）に指定したテキストや参考資料を熟読し、講義ノートに要点を書き出す。 ・授業後は講義ノートとテキスト、参考資料等を自分が重要だと考える個所にマーキングしながら読み返し、理解を深める。 ・日々、教職（保育）に関係する報道や論評に関心を寄せ、自分なりの考えや思いを講義ノートに記事等と共に簡単なメモとして残す

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	小レポート・・・20%、授業ノート・・・3 0 %、期末レポート・・・5 0 %
テキスト	「これからの保育者論」萌文書林、
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、学校法人や公的機関での豊富な職務経験を有し、幼児教育や政策立案、研修運営など、教育分野における多岐にわたる業務に携わってきました。また、非常勤講師や研究員として指導・研究活動も展開しています。これらの経験を基に、実践的で幅広い視点からの学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	保育の心理学[子心]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD06401L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、乳幼児の発達を捉える視点について理解する。保育における子どもの学びや育ちについて心理学的視点から捉え、保育者や仲間、及び環境との関わりを意識を理解し、子どもの発達に即した援助について考察する。
到達目標	・乳幼児期の発達や学びの過程についての心理学的知識を習得する。 ・具体的な保育場面から子どもの発達の姿を捉え、保育者の関わりや援助について考察することができる。
授業の進め方	講義を通して心理学的知識を習得し、保育の中の子どもの発達について理解を深める。具体的な子どもの姿や保育者の関わりをの姿を手がかりとして示しながら、グループワークやディスカッションを通して、発達を捉え理解することの意義と重要性について考えていく。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説を行う。質問については全体で共有すべきものは授業内で解説し、それ以外のものについては必要に応じてWebClassを通して個々に対応する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	子どもの発達を理解することの意義―発達の理論と子どもを捉える視点
第2回	発達を過程としてみる視点
第3回	発達と環境の重要性―文化的発達
第4回	0、1歳児の子どもとその世界―認知、情動
第5回	0、1歳児の子どもとその世界―言葉、社会性の発達
第6回	0、1歳児の子どもとその世界―基本的信頼の獲得と他者との関わり
第7回	0、1歳児の子どもとその世界―知覚、身体、運動機能の発達
第8回	2歳の子どもの世界―表象と言葉 自我
第9回	2歳の子どもの世界―感情と自己
第10回	3歳から就学前までの子どもとその世界―身体、想像、知的世界
第11回	乳幼児における遊びと発達の関係性
第12回	乳幼児期の学び（発達）を支える保育
第13回	まとめ―子どもの育ちにとって必要なもの

事前・事後学修	テキストの指定ページを熟読し、専門用語の意味を調べノートにまとめておくこと。 授業後は授業内容をノートにまとめ、重要事項を整理しておくこと。 日頃から子どもの姿に関心を持ち、その言動の意味を考えてみること。 事前事後学修の時間はそれぞれ2時間半を目安とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内課題（6％）　子どもの姿から発達を捉えることができる 毎回の振り返り（36％）授業内容を理解し、自身の考えや考察を述べることができる 小テスト2回（18％）乳幼児の発達や学びの過程についての心理学的知識を習得している 期末試験（40％）　心理学的知識の習得、及び保育者の関わりや援助についての考察ができる
テキスト	「発達と育ちの心理学」　佐藤公治編著　萌文書林
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、発達を捉え理解する手がかりとして具体的な子どもの姿や保育者の関わりの姿を示しながら講義や解説を行う。
備考	クォーター（週2回）で授業を実施する。 乳幼児に関わる者としての自覚と子どもについて知る楽しさを得るために、積極的に授業に参加すること。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔子心〕〔大村〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	調査や参考文献などからとらえた子どもの姿と実際の子どもの姿の異同等を、実際に子どもと関わりながら、獲得していくことを活動を計画しながら実施していく。特に、文献講読を始めとした事前準備に重きを置きつつ進めていく
到達目標	子どもの多様な姿の実際をとらえる 仮説－実践－検証といった研究方法を学ぶ
授業の進め方	調査実施や文献購読などをしながら、さまざまな先行を検証していく活動とその反省を重点的に実施する

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	仮説→実践→検証の流れを重視しつつ、その都度、問答法などで確認していく

授業計画表

回	授業内容
第1回	本ゼミオリエンテーション
第2回	テーマ研究発表会への準備や心構え
第3回	各自の研究の相互検討 その1
第4回	各自の研究の相互検討 その2
第5回	各自の研究の相互検討 その3
第6回	各自の研究の相互検討 その4
第7回	発表会に向けた資料等の作成 その1
第8回	発表会に向けた資料等の作成 その2
第9回	発表会に向けた資料等の作成 その3
第10回	発表会に向けたリハーサル その1
第11回	発表会に向けたリハーサル その2
第12回	発表会参加と発表
第13回	発表会参加と発表

事前・事後学修	事前準備や事前準備のための計画など、事前に個々ですべきことが多くある。 予習（事前準備・そのための計画）に4時間以上を費やすこととなる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	仮説の構築10% 仮説の実践60% 検証30%

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔子心〕〔橋場〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 橋場 俊輔	大学・センター等

授業の目的と概要	子ども心理テーマ研究Ⅰで取り組んできた各自の研究をより深め、必要に応じてフィールド調査を行い、テーマ研究としてまとめ、レポート作成・発表することができるようにすることである。
到達目標	研究計画に沿って、先行研究の整理や調査研究を進める。資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。テーマ研究を完成させ、発表する。
授業の進め方	各自のテーマ研究に向けて、調査・データ分析を行い研究経過報告を行う。教員の補助のもとに、ゼミ内発表会を行い、テーマ研究の準備を進め研究を完成させる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発表報告に対しては他学生や教員からの助言を得る。作成資料は添削し、個別に返却する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	中間発表を行なったのテーマの再検討	ディスカッションなど
第2回	テーマ研究内容の執筆開始・個別指導①	調査学習
第3回	テーマ研究内容の執筆開始・個別指導②	調査学習
第4回	自らの研究内容に応じたフィールド調査①	フィールドワーク
第5回	自らの研究内容に応じたフィールド調査②	フィールドワーク
第6回	フィールド調査のまとめ・テーマへの反映を考える。	グループワーク等
第7回	研究経過報告、ディスカッション①	ディスカッション
第8回	研究経過報告、ディスカッション②	ディスカッション
第9回	テーマ研究レポートの完成に向けて①	調査学習
第10回	テーマ研究レポートの完成に向けて②	調査学習
第11回	テーマ研究発表会準備	グループワークなど
第12回	テーマ研究発表会準備	グループワークなど
第13回	テーマ研究発表会	ディスカッション

事前・事後学修	自らの課題や授業中指示した課題等の資料を収集し、まとめていただきます。 授業中に自分の意見を述べる事が出来るように常日頃から子どもの運動問題、健康問題に関心を持って下さい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表、報告資料（20％） テーマ研究の内容（50％） テーマ研究発表の準備と内容（30％）
テキスト	使用する場合は授業内で伝える
参考文献	必要な資料を継続して収集すること

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔子心〕〔増山〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	テーマ研究Ⅰの各自の取り組みをより深め、テーマ研究としてまとめ発表する。 引き続きフィールドワークを実施し、“子ども”や“かかわり”、“つながり”について各自の思いをまとめる。
到達目標	・研究計画に沿って、先行研究の整理や調査研究を進める。 ・資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。 ・他者の報告に対して、意見を述べることができる。 ・テーマ研究を完成させ、発表する。
授業の進め方	各自の準備とともに他者とのディスカッションを通して、テーマ研究の準備を進め研究を完成させる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発表報告に対しては他学生や教員からの助言を得る。作成資料は添削し、個別に返却する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究経過報告とディスカッション①
第2回	フィールドワーク①
第3回	研究経過報告とディスカッション②
第4回	研究経過報告とディスカッション③
第5回	フィールドワーク②
第6回	テーマ研究 個別指導①
第7回	テーマ研究 個別指導②
第8回	フィールドワーク③
第9回	テーマ研究報告・検討①
第10回	テーマ研究報告・検討②
第11回	フィールドワーク④
第12回	テーマ研究発表準備
第13回	テーマ研究発表

事前・事後学修	発表報告資料を作成し、事前にwebclassに提出する。 必要な文献の収集と整理を怠らない。 各自作成する研究レポートを読み返し、随時修正する。 他者の報告資料に事前に目を通しておく。 事前事後学修の時間はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表、報告資料（20％） 意見交換（10％） テーマ研究の内容（50％） テーマ研究発表の準備と内容（10％） フィールドワークの準備と実施（10％）
テキスト	使用する場合は授業内で伝える。
参考文献	各自必要な資料を継続して収集すること。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ [子心][須藤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05106S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	創作音楽劇を子どもたちの前で上演し、聴衆の子どもたちの反応などを観て改善点を検討し、子どもに対して適切、かつ効果的な表現力を養うことを目的とします。 またテーマ研究Ⅰで行ってきた制作作業や、練習、上演などをまとめ、実践報告レポートとしてまとめます。
到達目標	1.劇を鑑賞する子どもの反応を予測し、効果的な演出や表現ができる。 2.活動の経過やグループワークの自己評価などをまとめて記録することができる。 3.応用演習から準備してきた作業内容や練習、上演をとおし、そこから得られる課題や成果を実践報告として研究レポートにまとめることができる。 (実践報告レポートを選択せず、各自の興味・関心のある分野の研究をレポートにまとめても良い)
授業の進め方	テーマ研究Ⅰで制作、準備を行ってきた子ども向けの創作音楽劇を、子どもたちの前で上演します。また上演時には、聴衆の子どもたちの反応から得られた改善点や効果のあった点について検討し、演目の完成度を上げていきます。自分たちの制作した音楽劇を、子どもたちの前で実際に演じる経験を通して、各自の研究レポートにまとめます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	舞台練習の際には、客観的視点から効果的な演技や歌唱などをアドバイスします。 研究レポートは区切りごとに複数回提出し、教員は都度コメントを付けて返却します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション ゼミ面談
第2回	創作音楽劇の練習①
第3回	創作音楽劇の練習②
第4回	創作音楽劇の練習③ 動画収録し客観的に改善点を検討
第5回	創作音楽劇の練習④
第6回	創作音楽劇の上演
第7回	創作音楽劇上演後の課題検討と修正作業
第8回	テーマ研究レポートの作成とアドバイス①
第9回	創作音楽劇改善点を考慮した練習・確認
第10回	テーマ研究レポートの作成とアドバイス②
第11回	創作音楽劇の練習
第12回	テーマ研究発表会に向けた準備

第13回	テーマ研究発表会 (上演発表の場合は安心子育て応援倶楽部など、口頭発表日とは別日になる可能性がある。口頭発表会の日程は、授業期間終了後に設定される可能性あり)

事前・事後学修	劇の練習は課外時間の活動も必要となるため、ゼミ生間で時間調整し活動します。 上演の場としては安心子育て応援倶楽部などが想定されます。安心子育て応援倶楽部は土曜日の開催となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1) 毎回活動後に提出する活動報告 20% 2) 上演までの練習参加状況（時間外活動も含む）20% 3) 研究レポートの途中提出状況 10% 4) テーマ研究レポート 30% 5) テーマ研究発表会内容 20%
テキスト	必要に応じて紹介する。
参考文献	先輩の作成したテーマ研究レポート

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ[子心][榎本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05106S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は、テーマ研究Ⅰで立案した研究計画に基づき、各自のテーマ研究を完成・発表することを目的とします。
到達目標	①研究計画書に基づき、調査・実験・面接などを行い、データを収集する。 ②収集したデータの分析と、分析結果についての考察を行う。 ③研究論文に相当する研究レポートを完成させる。
授業の進め方	テーマ研究論文の作成作業の経過報告を中心として、データの分析や解釈に関する問題点の解決等について議論します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回のゼミ発表の中で課題や進捗状況などに関するフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／調査・実験・面接の実施について
第2回	調査・実験・面接の実施と報告（１）
第3回	調査・実験・面接の実施と報告（２）
第4回	調査・実験・面接データの分析と結果報告（１）
第5回	調査・実験・面接データの分析と結果報告（２）
第6回	調査・実験・面接データの分析と結果報告（３）
第7回	テーマ研究レポートの執筆と提出（１）
第8回	テーマ研究レポートの執筆と提出（２）
第9回	テーマ研究レポートの執筆と提出（３）
第10回	テーマ研究レポートの修正指導（１）
第11回	テーマ研究レポートの修正指導（２）
第12回	テーマ研究発表会予行演習（１）
第13回	テーマ研究発表会予行演習（２）／テーマ研究の振り返り

事前・事後学修	<事前学修> 自身の研究に必要な文献の講読やレポートの作成を行う。 <事後学修> 自身の発表についてグループディスカッションにおいて述べられた意見や、指導教員からフィードバックされたことを反映させ、レポート等の修正を行う。 <必要な時間>	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①進捗状況報告レポート：30% ②プレゼンテーション：20% ③テーマ研究レポート：50%
テキスト	使用しません。
参考文献	〔増補改訂版〕Excelによるデータ処理入門 遠藤健治 北樹出版 超初心者向け SPSS統計解析マニュアル 統計の基礎から多変量解析まで 米川和雄・山崎貞政 北大路書房 ※その他の文献については随時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、教育・福祉・医療現場で臨床心理士・公認心理師として27年の実務経験のある教員がその経験を生かして、人間について心理学の立場から研究する方法を指導します。
備考	・Excelが使えるノートパソコンをご用意ください。 ・プレゼンテーション資料作成の遅れや欠席は他の受講者に迷惑をかけます。提出物の締切を守り、毎回の講義に出席するように（そのために体調管理をしっかりと行うように）しましょう。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔子心〕〔大村〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	調査や参考文献などからとらえた子どもの姿と実際の子どもの姿の異同等を、実際に子どもと関わりながら、獲得していくことを活動を計画しながら実施していく。特に、文献講読を始めとした事前準備に重きを置きつつ進めていく
到達目標	子どもの多様な姿の実際をとらえる 仮説－実践－検証といった研究方法を学ぶ
授業の進め方	調査実施や文献購読などをしながら、さまざまな先行を検証していく活動とその反省を重点的に実施する

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	仮説→実践→検証の流れを重視しつつ、その都度、問答法などで確認していく

授業計画表

回	授業内容
第1回	ゼミ選択オリエンテーション
第2回	本ゼミオリエンテーション
第3回	各自の研究案の発表 その1
第4回	各自の研究案の発表 その2
第5回	各自の研究案の発表 その3
第6回	各自の研究案の改善 その1
第7回	各自の研究案の改善 その2
第8回	相互でのブラッシュアップ その1
第9回	相互でのブラッシュアップ その2
第10回	調査方法の検討と実施 その1
第11回	調査方法の検討と実施 その2
第12回	本授業のまとめ その1
第13回	本授業のまとめ その2

事前・事後学修	事前準備や事前準備のための計画など、事前に個々ですべきことが多くある。 予習（事前準備・そのための計画）に4時間以上を費やすこととなる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	仮説の構築10% 仮説の実践60% 検証30%
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔子心〕〔橋場〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 橋場 俊輔	大学・センター等

授業の目的と概要	本講義の目的は、「テーマ研究」（レポート）の研究テーマを設定して、研究計画書を作成すること。各々の研究テーマに関する文献検討を行うと同時に実際にフィールドを調査・研究をすすめ、中間発表ができるようにすることである。3年次に引き続き、フィールドワークを通して、学生が自らの具体的な研究テーマを設定し、それについてメンバー間でディスカッションを行い研究を深めていく。
到達目標	研究計画を立て、それをもとに先行研究の整理や調査研究を進める。 資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。
授業の進め方	各自の準備とともに他者とのディスカッションを通して、テーマ研究の準備を進める。教員の助言と指導をもとにグループ討議を重ねながら研究成果をまとめていきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ディスカッションによる学生からの助言や教員からの助言を得る。作成した資料に関しては個別に添削し返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション（1年間の見通し） 3年時の研究計画の見直し	グループワークなど
第2回	テーマ研究発表の見直しと設定・研究年間計画の作成	調査学習など
第3回	先行文献・先行研究の整理とまとめ①	調査学習
第4回	先行文献・先行研究の整理とまとめ②	調査学習
第5回	先行研究の要約・発表・ディスカッション①	ディスカッション
第6回	先行研究の要約・発表・ディスカッション②	ディスカッション
第7回	研究内容の再検討	調査学習等
第8回	研究内容についてのフィールド調査①	フィールドワーク
第9回	研究内容についてのフィールド調査②	フィールドワーク
第10回	フィールドワーク調査のまとめ	ディスカッション
第11回	再設定した研究テーマの個別指導・中間発表準備①	調査学習など
第12回	再設定した研究テーマの個別指導・中間発表準備②	調査学習など
第13回	中間発表	ディスカッション

事前・事後学修	自らの課題や授業中指示した課題等の資料を収集し、まとめていただきます。 授業中に自分の意見を述べる事が出来るように常日頃から子どもの運動問題、健康問題に関心を持って下さい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究計画書（30％） 発表、報告資料（30％） 中間発表の内容（40％）
テキスト	適宜、必要に応じて配布致します。
参考文献	文部科学省 幼児期運動指針 等 各自のテーマ研究に沿った文献の収集を行う。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ[子心][増山]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	3年次に引き続き、“子ども”や“かかわり”、“つながり”を大きなテーマとしてフィールドワークを進めていく。またこれまでの学びから個々の学生が自らの具体的な研究テーマを設定し、それについてメンバー間で語り合う。さらにはそのテーマを意識してフィールドに出かけ調査および研究を行い、テーマ研究の中間発表の準備を行う。
到達目標	・研究計画を立て、それをもとに先行研究の整理や調査研究を進める。 ・資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。
授業の進め方	各自の準備とともに他者とのディスカッションを通して、テーマ研究の準備を進める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発表報告に対しては他学生や教員から助言を得る。作成資料は添削し、個別に返却する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の作成
第2回	フィールドワーク①
第3回	先行研究の要約・発表①
第4回	先行研究の要約・発表②
第5回	先行研究の要約・発表③
第6回	フィールドワーク②
第7回	調査データのまとめと報告①
第8回	調査データのまとめと報告②
第9回	フィールドワーク③
第10回	研究経過報告とディスカッション①
第11回	研究経過報告とディスカッション②
第12回	フィールドワーク④
第13回	まとめ－振り返りと課題設定

事前・事後学修	発表報告資料を作成する。 必要な文献の収集と整理を行う。 各自作成する研究レポートを読み返し、随時修正する。 事前事後学修時間は、それぞれ2時間半程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究計画書（20％） 発表、報告資料（30％） 意見交換（10％） 中間発表の内容（30％） フィールドワークの準備と実施（10％）
テキスト	使用する場合は必要に応じて伝える。
参考文献	各自、必要な文献の収集を行うこと。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔子心〕〔須藤〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05105S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	3年次の応用演習Ⅱで検討を重ねてきた子ども向けの創作音楽劇について、子どもたちに理解され、親しまれ、子どもたちの共感を得られる内容を目指し、台本、作詞・作曲、大道具・小道具、衣装など、分担して作業を進めます。 また子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」から制作の依頼を受けているペープサートを作成し、動画収録を行います。 これらの活動をとおして、聴衆や視聴者となる子どもに対し、演技や歌による適切で効果的な表現力を養うことを目的とします。
到達目標	1.劇やペープサートなどを鑑賞する子どもの反応を予測し効果的な演出や表現ができる。 2.活動の経過やグループワークの自己評価などをまとめて記録することができる。 3.各自の研究テーマを選定することができる。
授業の進め方	前半では、子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」から制作依頼を受けているペープサートを作成し、動画収録を行って、「子どもアシストセンター」へ提供します。 後半はオリジナルの音楽劇上演に向けた大道具・小道具、衣装、挿入歌などの作成作業、練習を行っていきます。 さらに、こうした活動を通し、個々の研究レポートのテーマを決め、制作活動と並行して執筆を進めます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	制作作業においては、その内容によって適宜アドバイスをを行います。 研究レポートは区切りごとに複数回提出し、教員は都度コメントを付けて返却します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション ゼミ面談（各自のテーマ研究レポートのテーマ選定など） 上演に向けた準備作業	対面
第2回	子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」の依頼によるペープサート制作① 制作物のデザイン 制作に必要な素材や道具の検討	対面
第3回	子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」の依頼によるペープサート制作② 制作作業	対面
第4回	子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」の依頼によるペープサート制作③ 制作作業③	対面
第5回	子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」の依頼によるペープサート動画収録① 練習と撮影	対面
第6回	子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」の依頼によるペープサート動画収録② 練習と撮影	対面
第7回	創作音楽劇の大道具・小道具、衣装、音楽制作①	対面
第8回	創作音楽劇の大道具・小道具、衣装、音楽制作②	対面
第9回	創作音楽劇の大道具・小道具、衣装、音楽制作③	対面
第10回	創作音楽劇の大道具・小道具、衣装、音楽制作④	対面
第11回	創作音楽劇の大道具・小道具、衣装、音楽制作⑤	対面

第12回	創作音楽劇の練習	対面
第13回	創作音楽劇の練習 まとめ	対面

事前・事後学修	劇やペープサートの制作、練習は課外時間の活動も必要となる。 場合によって、時間割上に設定された授業時間外での活動もあり得る。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1) 毎回活動後に提出する活動報告 20％ 2) 上演までの作業、練習参加状況（時間外活動も含む）40％ 3) 研究レポートの途中提出状況 10％ 4) 実践報告 30％
テキスト	必要に応じて紹介する。
参考文献	先輩の作成したテーマ研究レポート

備考	各自の研究テーマは、音楽劇やペープサートの制作、上演についての実践報告レポート、もしくは各自の興味・関心のある分野から自由に選定します。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ [子心][榎本]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05105S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本科目では、それぞれが関心を持つことについて、先行研究をレビューし、何がわかっていて、何がわかっていないかを明らかにし、研究のテーマを決めます。そして、自身の研究について、どのようなことを、どのような方法で明らかにするのか、研究計画書を作成します。最終的には、秋学期に提出するテーマ研究のレポートの冒頭部分（「はじめに」あるいは「問題と目的」）を執筆します（8,000字程度を予定しています）。
到達目標	①自身が関心を持つテーマについて、どのようなことを明らかにしたいか、学術的な問いを立てることができる。 ②自身の研究について、研究計画書を作成する。 ③秋学期に提出するテーマ研究のレポートの冒頭部分（「はじめに」あるいは「問題と目的」）を完成させる。
授業の進め方	それぞれの興味と関心に沿った先行研究について調べ、仮説や研究計画を立案し、講義の際に報告をする。報告された内容について、適宜グループディスカッションを行い、仮説や研究計画を精錬していく。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回のゼミ発表の中で課題や進捗状況などに関するフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	先行研究の講読と報告（1）
第3回	先行研究の講読と報告（2）
第4回	先行研究の講読と報告（3）
第5回	研究計画の立案とディスカッション（1）
第6回	研究計画の立案とディスカッション（2）
第7回	研究計画の立案とディスカッション（3）
第8回	仮説の立案について
第9回	仮説の検証や研究の方法について
第10回	テーマ研究の「問題と目的」の発表（1）
第11回	テーマ研究の「問題と目的」の発表（2）
第12回	テーマ研究の「問題と目的」の発表（3）
第13回	テーマ研究の「問題と目的」の発表（4）／テーマ研究Ⅱに向けて

事前・事後学修	自身の研究に必要な文献の講読やレポートの作成を行う。 <事後学修> 自身の発表についてグループディスカッションにおいて述べられた意見や、指導教員からフィードバックされたことを反映させ、レポート等の修正を行う。 <必要な時間> 事前・事後学修の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①プレゼンテーション：20% ②研究計画書：30% ③レポート：50%
テキスト	使用しません。
参考文献	〔増補改訂版〕Excelによるデータ処理入門 遠藤健治 北樹出版 超初心者向け SPSS統計解析マニュアル 統計の基礎から多変量解析まで 米川和雄・山崎貞政 北大路書房 ※その他の文献については随時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、教育・福祉・医療現場で臨床心理士・公認心理師として27年の実務経験のある教員がその経験を生かして、人間について心理学の立場から研究する方法を指導します。
備考	・Excelが使えるノートパソコンをご用意ください。 ・プレゼンテーション資料作成の遅れや欠席は他の受講者に迷惑をかけます。提出物の締切を守り、毎回の講義に出席するように（そのために体調管理をしっかりと行うように）しましょう。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[子心][須藤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	1）オリジナルの保育教材（パペット/ペープサート/エプロンシアターなど）を作成し、実習や保育現場で役立つレパートリーを持つ。 2）保育教材などの制作を通して制作スキルを身に付ける。 3）保育教材を用いて実際に演じる経験をとおり、子どもたちの反応や保育者のアドバイスなどから、子どもたちに伝わる表現力を身に付ける。 秋学期は上記保育教材の制作と上演に取り組む。
到達目標	1）様々なシアター系の保育教材の制作スキル、もしくは子どもの歌に適した作詞・作曲技法を身に付けることができる。 2）上演の経験から、子どもたちの反応を適切に受け止め、次の作品作りや上演に生かすことができる。
授業の進め方	シアター系の保育教材から各自が題材を選び、複数のレパートリーを作ります。 音楽が得意な者は、子どもの歌の制作を行うことも可能です。 安心子育て応援倶楽部など、子どもの集まる場所で作品を上演し、観ている子どもたちの反応などから改善点を洗い出し、次の作品作りに進めます。 作品の内容によって歌を付ける場合は、作詞、作曲のレクチャーを行います。 最後は、制作や上演から得られたことをまとめ、実践報告レポートにまとめます。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	制作や上演によって浮上する課題について、適宜改善に向けたアドバイスをを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション ゼミ面談（各自研究テーマの検討） 各自の保育教材、もしくは子どもの歌の創作計画立案①	対面
第2回	保育教材制①の制作、もしくは子どもの歌①の制作活動 制作の助言	対面
第3回	保育教材制①の制作、もしくは子どもの歌①の制作活動 制作の助言	対面
第4回	保育教材制①、もしくは子どもの歌①のゼミ内発表 オーディエンスから意見をもらう 改善点の検討 各自の保育教材、もしくは子どもの歌の創作計画立案②	対面
第5回	保育教材制②の制作、もしくは子どもの歌②の制作活動 制作の助言	対面
第6回	保育教材制②の制作、もしくは子どもの歌②の制作活動 制作の助言	対面
第7回	保育教材制②、もしくは子どもの歌②のゼミ内発表 オーディエンスから意見をもらう 改善点の検討 各自の保育教材、もしくは子どもの歌の創作計画立案③	対面

2025/04/01

第8回	子どもの前で上演発表（動画収録）	対面
第9回	フィードバック分析 上演時の収録動画を視聴し、客観的視点から改善点を検討する 各自の保育教材、もしくは子どもの歌の創作計画立案③	対面
第10回	保育教材制③の制作、もしくは子どもの歌③の制作活動 制作の助言	対面
第11回	保育教材制③の制作、もしくは子どもの歌③の制作活動 制作の助言	対面
第12回	保育教材制②、もしくは子どもの歌③のゼミ内発表 オーディエンスから意見をもらう 改善点の検討	対面
第13回	4年生のテーマ研究発表会聴講 実践報告レポートの作成	対面

事前・事後学修	シアター系の保育教材や歌などの制作作業や練習は、授業時間内だけで完成できるものではありません。課外時間にも活動が必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1.毎回活動後に提出の活動報告 20％ 2.実践報告レポート内容 30％ 3.上演までの作業、練習参加状況（時間外活動も含む）30％ 4.上演の内容 20％
テキスト	必要に応じて紹介します。

備考	制作した保育教材は、可能であれば保育実習Ⅱ、Ⅲなどの機会を利用し、実際に演じてみましょう。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔子心〕〔愛下〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05104S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の 目的と 概要	応用演習Ⅰに引き続き、「子育て支援」をテーマとして活動を進めていきます。また4年生のテーマ研究・卒業研究に向けて研究の方法を学び、個々の学生が具体的なテーマを考え、グループディスカッションを通してながら研究の道筋を見出すことを目的とします。
到達目 標	・子育て支援に関する様々な場、人、モノに触れ、体験をまとめる。体験のまとめをもとに積極的にディスカッションをする。 ・研究の方法を知り、興味・関心をもったテーマの先行研究を調べ、発表することができる。 ・自分たちが制作したものを子育て支援の場で実践し、対象児（者）の立場で振り返る。
授業の 進め方	応用演習Ⅰに続き、子育て支援の場、人、モノに触れ、体験を重ね、まとめる。まとめたものをもとに、ディスカッションをする。後半は、テーマ研究に向け研究方法を学び、自身の興味・関心ごとに関するテーマを設定し、関連する先行研究を調べ、要約・発表し、テーマ研究に向けての意見交流をする。 応用演習Ⅰで制作したものを子育て広場の場で実践し、振り返り、必要に応じて修正をする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ディスカッションや制作発表においては、子育て支援業務の経験がある教員も一員という立場でかわかり、必要に応じて意見や助言をする。 フィールドワークや体験のまとめは次回の授業の冒頭で講評し、返却する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フィールドワーク①
第3回	フィールドワーク②
第4回	フィールドワーク・体験のまとめの発表、ディスカッション フィールドワークの振り返り
第5回	制作物の実践・発表準備
第6回	子育て支援の場における、制作物の実践・発表
第7回	子育て支援の場における、制作物の実践・発表の振り返り、制作物の修正
第8回	研究の方法について
第9回	先行研究の探索・講読・要約
第10回	先行研究の要約発表①と意見交流会
第11回	先行研究の要約発表②と意見交流会
第12回	テーマ研究の検討①

第13回	テーマ研究の検討② まとめ

事前・事後学修	テーマに関する文献や先行研究を検索、講読し、発表資料を作成する。 フィールドワーク・体験のまとめを丁寧に作成する。 制作物の実践・発表前には、参加者を想像しながら方法や流れを確認し、練習をする。終えたあとには振り返り、必要に応じて制作物の修正をする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	先行研究の要約と発表 20％ ディスカッション参加と発言 30％ フィールドワーク・体験のまとめ 30％ 制作物の実践・発表と振り返り・修正 20％ 本授業は2単位であるため、予習・復習の時間は、あわせて5時間程度とします
参考文献	適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、幼児教育、発達支援・療育、発達相談の場で子育て支援に携わり、保護者や子どもに寄り添う実務経験を豊富に有しています。これらの経験を基に、現場での具体的な支援方法や子どもの発達を促す実践的な知識を共有する講義を展開します。
備考	フィールドワークの場において相応しい挨拶や礼儀、身なりなどを自身で判断して実行しましょう。なおフィールドワークの実施日は、特性上、授業外の時間を用いたり、現地集合・解散もあり得ます。 講義内容を向上させる意味で、受講回数や順序や内容を変更する場合があります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [子心][増山]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	応用演習Ⅰに引き続き、“子ども”や“関わり”、“つながり”を大きなテーマとして活動を進めていく。個々の学生が自らの具体的なテーマを設定し、それについてメンバー間で語り合う。さらにはその具体的なテーマを意識してフィールドに出かけ実践を行い、4年次のテーマ研究の準備を行う。
到達目標	・見る、聞く、感じる、考えることを意識し、自らの言動に生かす。また自分の言動について、意味付けができる。 ・“子ども”や“かかわり”を観る視点を養い、論理的に考えることができる。
授業の進め方	各自の具体的なテーマに沿った文献を読み、ディスカッションを行う。 フィールドワークを行い、実践を通して思考すること、また記録を通して考察することを積み重ねる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発表資料の作成、フィールドワークの記録等を添削し、個別に返却する。必要に応じて修正し再提出を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	各自の関心テーマについて語り合う
第2回	フィールドワーク①
第3回	先行研究の発表、意見交換①
第4回	先行研究の発表、意見交換②
第5回	フィールドワーク②
第6回	先行研究の発表、意見交換③
第7回	先行研究の発表、意見交換④
第8回	フィールドワーク③
第9回	先行研究の発表、意見交換⑤
第10回	先行研究の発表、意見交換⑥
第11回	フィールドワーク④
第12回	フィールドワークの振り返り
第13回	テーマ研究の検討－課題の明確化

事前・事後学修	各自のテーマに関する文献や先行研究を整理し、発表資料を作成する。 授業での質問や意見を参考に、各自の関心テーマについて再度文献等を調べる。 フィールドワークの記録を丁寧に行う。提出後返却された記録は読み返し、必要に応じて修正し再提出を行う。 事前事後学習の時間はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表資料の作成（20％） 先行研究の発表（10％） 意見交換（30％） フィールドワークの記録、振り返り（40％）
テキスト	学生との話し合いにより決定する。
参考文献	適宜紹介する。

備考	主体的に、また他者と協力しながら活動をしていくことを期待する。 子ども食堂に加えて、保育所・幼稚園・認定こども園でのフィールドワークを実施する予定がある。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [子心][榎本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05104S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義は、4年次に取り組む「テーマ研究」「卒業研究」のための予備研究を行うことを目的とします。 応用演習Ⅰに引き続き、興味のある分野に関する論文を講読し、自身が取り組みたい研究テーマを設定し、研究計画を立てます。そして、研究計画に沿った調査・実験・観察等を行い、レポートを作成し、「テーマ研究」「卒業研究」で取り組むべき課題を発見します。
到達目標	①興味や関心をもった領域において研究テーマを設定し、研究計画を立てる。 ②研究計画に沿って研究を実施し、その結果をまとめ、プレゼンテーションを行う。
授業の進め方	毎回の講義の際に、各自の進捗状況について発表する。 講義の終盤では、自身が取り組んだ研究について資料を作成し、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個別に文書および口頭でフィードバックを行います。全体で共有した方が良い内容については講義時に全体に対して文書および口頭でフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／面談
第2回	調査法
第3回	研究計画①
第4回	研究計画②
第5回	論文の展開について①
第6回	研究テーマ設定①
第7回	研究テーマ設定②
第8回	調査・実験・観察等の実施
第9回	論文の展開について②
第10回	データ入力・解析について①
第11回	データ入力・解析について②
第12回	研究報告とテーマ研究の構想の発表①
第13回	研究報告とテーマ研究の構想の発表②／応用演習の振り返り

	<事前学習> ・論文を講読し、興味を持ったこと、疑問に思ったことや今後の課題であると思われることを述べられるようにしておいてください。 ・事前に講義資料や参考文献が配布された際は、それらをよく読み、その内容をノート等にまとめてください。	2025/04/01

事前・事後学修	・興味・関心のあるテーマについて，日ごろから注意深くアンテナを張り，テレビやインターネット等から情報を収集しておいてください。 <事後学習> 講義内容の復習や，提示されたり自ら見つけた発展課題をノート等にまとめてください。 <必要な時間> 事前・事後学習にはそれぞれ2時間必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究計画30点＋レポート課題40点＋プレゼンテーション30点＝100点で評価します。
テキスト	使用しない。
参考文献	（増補改訂版）Excelによるデータ処理入門　遠藤健治　北樹出版 超初心者向け SPSS統計解析マニュアル　統計の基礎から多変量解析まで　米川和雄・山崎貞政　北大路書房 ※その他の文献については随時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、教育・福祉・医療現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員がその経験を生かして，人間について心理学の立場から研究する方法を指導します。
備考	Excelが使えるノートパソコンをご用意ください。 プレゼンテーション資料作成の遅れや欠席は他の受講者に迷惑をかけます。提出物の締切を守り，毎回の講義に出席するように（そのために体調管理をしっかりと行うように）しましょう。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [子心][大村]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05104S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	1～2年次および3年次前半にフィールドワークなどで獲得・学習した様々を、その反省を活かしつつ、リファインしていくことを目的・ねらいとする。具体的には、子どもと関わる場や機会を構築し、企画・運営しながら、保育者としての実践的な学びを反省的考察を加え、進めていく
到達目標	子どもの多様な姿の実際をとらえる 仮説－実践－検証といった実践的研究方法を学ぶ
授業の進め方	子どもに関わる場での実践も学生が主体的に進めていく。また、形成的に自他評価しつつ、反省的・検証的に前進していく

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	仮説→実践→検証の流れを重視しつつ、その都度、問答法などで確認していく

授業計画表

回	授業内容
第1回	本ゼミオリエンテーション
第2回	4年ゼミへの準備や心構え
第3回	フィールドワーク準備 その1
第4回	フィールドワーク準備 その2
第5回	フィールドワーク準備 その3
第6回	フィールドワーク実践 その1
第7回	フィールドワーク実践 その2
第8回	フィールドワーク実践 その3
第9回	フィールドワーク実践 その4
第10回	フィールドワーク反省・検証 その1
第11回	フィールドワーク反省・検証 その2
第12回	テーマ研究に向けて
第13回	テーマ研究発表会参加

事前・事後学修	事前準備や事前準備のための計画など、事前に個々ですべきことが多くある。 予習（事前準備・そのための計画）に2時間以上を費やすこととなる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	仮説の構築10% 仮説の実践50% 検証40%
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[子心][須藤]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	目的 １）オリジナルの保育教材（主に紙芝居）を作成し、実習や保育現場で役立つレパートリーを持つ。 ２）保育教材などの制作を通して制作スキルを身に付ける。 ３）保育教材を用いて実際に演じる経験をとoshi、子どもたちの反応や保育者のアドバイスなどから、子どもたちに伝わる表現力を身に付ける。 春学期は主に紙芝居の制作と上演に取り組む。紙芝居には場面に合わせた音楽も作り、演技と音楽の融合を目指す。
到達目標	１）子どもの年齢に合わせたストーリーを創作することができる。 ２）ストーリー展開に合わせたイラストを描くことができる。 ３）他のゼミ生と協力し、音楽紙芝居を作ることができる。 ４）上演の経験から、子どもたちの反応を適切に受け止め、次の作品作りや上演に生かすことができる。
授業の進め方	紙芝居の演じ方や作り方のレクチャーを受けたあと、2~3名が一つのグループとなって、脚本、制作作業、音楽、演技など、それぞれ得意な分野を生かし、協力し合いながら作品を作ります。 安心子育て応援倶楽部など、子どもの集まる場所で作品を上演し、観ている子どもたちの反応などから改善点を洗い出し、次の作品作りに進めます。 音楽の作曲は、必要に応じて音楽が得意な者、関心のある者に簡単な作曲法を教授します。 最後は、制作や上演から得られたことをまとめ、実践報告レポートにまとめます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	制作や上演によって浮上する課題について、適宜改善に向けたアドバイスをを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	合同ゼミ 所属ゼミ決定に向け、教員によるゼミ内容プレゼン	対面
第2回	オリエンテーション／活動の目的、活動の流れ ゼミ面談	対面
第3回	紙芝居の基礎／紙芝居の成り立ち、構成、作り方、演じ方について学ぶ 紙芝居舞台制作	対面
第4回	紙芝居舞台制作	対面
第5回	既存の紙芝居上演 ゼミ生が各自選んだ紙芝居を上演 選んだ紙芝居の演出について、他のゼミ生と内容を共有する	対面
第6回	グループ分け ストーリー・音楽・演出プランの話し合い	対面

第7回	紙芝居制作 効果音・挿入曲制作	対面
第8回	紙芝居制作 効果音・挿入曲制作	対面
第9回	紙芝居制作 効果音・挿入曲制作 練習	対面
第10回	各グループのゼミ内上演 オーディエンスから意見をもらう 改善点の話し合い	対面
第11回	紙芝居上演に向けた練習	対面
第12回	子ども達たちの前で紙芝居の上演 (安心子育て応援倶楽部などの場で行う)	対面
第13回	上演のふり返り 実践報告レポートの作成 まとめ	対面

事前・事後学修	紙芝居や音楽、効果音などの制作作業や練習は、授業時間内だけで完成できるものではありません。課外時間にも活動が必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1.毎回活動後に提出の活動報告 15％ 2.実践報告レポート内容 30％ 3.上演までの作業、練習参加状況（時間外活動も含む）35％ 4.上演の内容 20％
テキスト	必要に応じて紹介する。

備考	子どもの前での上演は、時間割上の授業時間以外で機会を設ける可能性があります。 課外時間の作業や練習は、予めゼミ生間で日程調整を行い、計画的に実施できるようにしましょう。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔子心〕〔愛下〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05103S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子育てを取り巻く社会全体が変化している中、子育て支援の質も柔軟に変化しなければなりません。保育者が子ども・子育ての伴走・支援することは職務として求められています。 子育て支援は支援する側の専門性や質が問われることから、本講義は「子育て支援」をテーマとし、文献研究、子育て支援に関する様々な場や人、モノに触れ、子育て支援について探り、学びを深めることを目的とします。
到達目標	・子育て支援についての文献、フィールドワーク、教材研究などから学びを深め、各々の興味のあるテーマを見つけることができる。 ・子育て支援に関する様々な場、人、モノに触れ、体験をまとめる。体験のまとめをもとにディスカッションができるようになる。
授業の進め方	文献の探索、講読を行い発表資料を作成する。 子育て支援の場、人、モノに触れ、体験を重ね、まとめる。まとめたものをもとに、ディスカッションをする。 子育て支援に使用する教材を研究し、制作する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ディスカッションや制作では、子育て支援業務の経験がある教員も一員という立場でかわかり、必要に応じて助言をする。 フィールドワークや体験のまとめは次回の授業の冒頭で講評し、返却する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 文献講読の準備
第2回	各自の関心テーマについての語り合い 文献探索・文献講読
第3回	文献講読・発表①
第4回	文献講読・発表②
第5回	フィールドワーク①
第6回	フィールドワーク②
第7回	子育て支援に使用する教材研究・制作①
第8回	子育て支援に使用する教材研究・制作②
第9回	子育て支援に使用する教材研究・制作③
第10回	フィールドワーク③
第11回	フィールドワーク・体験のまとめの発表、ディスカッション①

第12回	フィールドワーク・体験のまとめの発表、ディスカッション②
第13回	まとめと振り返り

事前・事後学修	文献の検索、講読、発表資料を作成する。 フィールドワーク・体験のまとめを丁寧に作成する。 教材研究、制作は、仲間と時間を調整して期日までに完成させる。 本授業は2単位であるため、予習・復習の時間は、あわせて5時間程度とします

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	文献発表 20％ ディスカッションの参加と発言 30％ フィールドワーク・体験のまとめ 30％ 教材研究と制作 20％
参考文献	適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、幼児教育、発達支援・療育、発達相談の場で子育て支援に携わり、保護者や子どもに寄り添う実務経験を豊富に有しています。これらの経験を基に、現場での具体的な支援方法や子どもの発達を促す実践的な知識を共有する講義を展開します。
備考	フィールドワークの場において相応しい挨拶や礼儀、身なりなどを自身で判断して実行しましょう。なおフィールドワークの実施日は、特性上、授業外の時間を用いたり、現地集合・解散もあり得ます。 講義内容を向上させる意味で、受講回数の順序や内容を変更する場合があります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔子心〕〔増山〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	“子ども”や“かかわり”、“つながり”をテーマに文献を読み進めながら、様々な場で様々な人とかかわる活動を計画し実践していく。その際、相手の心の動きのみならず、自分の心の動きにも敏感になり、対話や触れ合い、かかわりやつながりがもたらす影響について考察する。
到達目標	・相手の心の動きに気づき、寄り添った関わりをしようとする。 ・本や玩具、言葉や行動など、関わりの中にある見えるモノだけでなく見えないモノにも意識を寄せ、その影響力を感じる。
授業の進め方	文献購読を行い発表、ディスカッションを行う。 フィールドワークを行い、記録と考察を積み重ねる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個人記録は添削を行い、個々に返却する。必要に応じて修正し再提出を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	合同ゼミー各ゼミの授業内容について
第2回	各自の関心テーマについて語り合う
第3回	文献購読①
第4回	文献購読②
第5回	フィールドワーク①
第6回	フィールドワークの報告、討議
第7回	文献購読③
第8回	文献購読④
第9回	フィールドワーク②
第10回	フィールドワークの報告と討議
第11回	文献購読⑤
第12回	フィールドワーク③
第13回	フィールドワークの報告と討議 全体の振り返りと今後のテーマについて

事前・事後学修	学外で人と関わることもあるため、挨拶や礼儀などマナーを身にしておくこと。 事前に文献を読み、質問や意見等を準備する。文献内の専門用語等わからない単語は意味を調べノートにまとめる。 フィールドワークの記録を丁寧に行う。提出後返却された記録を読み返し、必要に応じて修正し再提出を行う。 事前事後学修の時間はそれぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	文献発表・意見交換（30％） フィールドワークの報告資料（30％） 最終課題（40％）課題内容は授業内で伝える。
テキスト	学生との話し合いにより決定する。
参考文献	「はじまりは愛着から」佐々木正美 福音館書店 「発達がわかれば子どもが見える」乳幼児保育研究会 ぎょうせい 「読む力は生きる力」脇明子 岩波書店

備考	主張することと人の話を聞くことの両方を意識して臨むこと。 子ども食堂に加えて、保育所・幼稚園・認定こども園でのフィールドワークを実施する予定がある。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔子心〕〔榎本〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05103S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、心理学研究の方法論、調査・実験計画、分析方法等について学び、4年次の「テーマ研究」「卒業研究」に必要な力を身につけます。 受講者それぞれが関心のある分野（心理学、保育・教育、発達、障害、児童福祉、貧困、高齢者、社会学等）について文献収集・講読を行い、自身が研究をしてみたいテーマ（仮のものでかまいません）を見つけることを目的とします。
到達目標	①心理学の研究方法の基礎について理解する。 ②心理統計法の基礎について理解する。 ③心理学的調査法の基礎について理解する。 ④自分の興味のあるテーマの論文を講読し、そのテーマについての今後の課題（まだ研究されていないこと）について述べることができる。
授業の進め方	心理学研究法や心理統計法については講義形式の授業を行います。 文献の検索やデータの解析については演習形式の授業を行います。 講義の終盤では、各自が関心のある分野について論文を講読し、その内容についてまとめ、プレゼンテーションを行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個別に文書および口頭でフィードバックを行います。全体で共有した方が良い内容については講義時に全体に対して文書および口頭でフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	教員によるゼミ紹介プレゼン（合同）
第2回	オリエンテーション／面談
第3回	関心のある領域についての意見交換
第4回	文献検索の方法
第5回	文献講読の方法
第6回	心理統計法①
第7回	心理学研究法①
第8回	調査法①（質問紙調査）
第9回	調査法②（面接調査・観察調査）
第10回	研究計画①
第11回	研究計画②
第12回	関心のあるテーマについてのプレゼンテーション①
第13回	関心のあるテーマについてのプレゼンテーション②

事前・事後学修	<事前学習>
	・論文を講読し，興味を持ったこと，疑問に思ったことや今後の課題であると思われることを述べられるようにしておいてください。
	・事前に講義資料や参考文献が配布された際は，それらをよく読み，その内容をノート等にまとめてください。
	・興味・関心のあるテーマについて，日ごろから注意深くアンテナを張り，テレビやインターネット等から情報を収集しておいてください。
	<事後学習>
	講義内容の復習や，提示されたり自ら見つけた発展課題をノート等にまとめてください。
	<必要な時間>
	事前・事後学習にはそれぞれ2時間必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポート課題70点＋プレゼンテーション30点＝100点で評価します。
テキスト	使用しない。
参考文献	〔増補改訂版〕Excelによるデータ処理入門 遠藤健治 北樹出版 ※その他の文献については随時紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、教育・福祉・医療現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員がその経験を生かして，人間について心理学の立場から研究する方法を指導します。
備考	Excelが使えるノートパソコンをご用意ください。 プレゼンテーション資料作成の遅れや欠席は他の受講者に迷惑をかけます。提出物の締切を守り，毎回の講義に出席するように（そのために体調管理をしっかりと行うように）しましょう。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔子心〕〔大村〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD05103S

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	1～2年次にフィールドワークなどで獲得・学習した様々を、その反省を活かしつつ、リファインしていくことを目的・ねらいとする。具体的には、子どもと関わる場や機会を構築し、企画・運営しながら、保育者としての実践的な学びを反省的考察を加え、進めていく
到達目標	子どもの多様な姿の実際をとらえる 仮説－実践－検証といった実践的研究方法を学ぶ
授業の進め方	子どもに関わる場の構築から始め、企画・運営も学生が主体的に進めていく。また、形成的に自他評価しつつ、反省的・検証的に前進していく

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	仮説→実践→検証の流れを重視しつつ、その都度、問答法などで確認していく

授業計画表

回	授業内容
第1回	ゼミ選択オリエンテーション
第2回	本ゼミオリエンテーション
第3回	場や機会の構築に向けて その1
第4回	場や機会の構築に向けて その2
第5回	場や機会の構築に向けて その3
第6回	場や機会の構築に向けて その4
第7回	場や機会の構築に向けて その5
第8回	場や機会の実践 その1
第9回	場や機会の実践 その2
第10回	場や機会の実践 その3
第11回	場や機会の実践 その4
第12回	場や機会の反省・検証 その1
第13回	場や機会の反省・検証 その2

事前・事後学修	予習（事前準備・そのための計画）および事後反省に、授業のたびに合わせて4時間以上を費やすこととなる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	仮説の構築10% 仮説の実践50% 検証40%
テキスト	なし
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[子心][須藤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	・「子ども」や「子どものあそび」、「保育・施設」、「保育職」、「子どもの発達」、「多様性」への理解を深める。 ・グループで放課後等デイサービスにおけるフィールドワークや講義で学んだことからテーマを決め、テーマに沿って他者と協働して、調べる・思考する・プレゼンテーションをするなど、3年次「応用演習」での専門的学習の準備に繋げる。
到達目標	・子どもが過ごす環境や保育職の理解を深める。 ・子どもの発達やあそびに着眼しながら、子どもたちと積極的にかかわることができる。 ・フィールドワークや事前・事後学習、講義を通して福祉施設の理解や子どもの発達、多様性への理解を深める。 ・他者と協働して課題を遂行したり、グループにおいて各々の役割を責任を持って果たす。
授業の進め方	・放課後等デイサービスにおけるフィールドワークを行い、子どもの姿や環境、発達支援・療育に触れる。事業所で働く方からの指導や助言から、放課後等デイサービスでの保育・発達支援・療育について学ぶ。 ・放課後等デイサービスにおけるフィールドワークや講義、実習報告会、保育キャラバンなどを通し、保育・施設の間や保育職、子どもの発達や多様性への理解を深める。 ・グループごとにディスカッションを行い、その成果をまとめ、グループ全員でプレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	共通の課題については、授業中に解説をする 課題は授業中、授業時間以外にも指導や助言の時間を設ける

授業計画表

回	授業内容
第1回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 1日目 （須藤・村中・愛下）
第2回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 1日目 （須藤・村中・愛下）
第3回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 2日目 （須藤・村中・愛下）
第4回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 2日目 （須藤・村中・愛下）
第5回	オリエンテーション（愛下） フィールドワーク振り返り（愛下） 教職履修カルテ（須藤） 学修ポートフォリオ（須藤）
第6回	保育・関係領域の専門家による講義（愛下）
第7回	プレゼンテーションの趣旨説明・準備：グループワーク（須藤）
第8回	保育キャラバン（愛下）
第9回	実習報告会参加① （須藤・村中・愛下）
第10回	実習報告会参加② （須藤・村中・愛下）

第11回	プレゼンテーション①（須藤）
第12回	プレゼンテーション②（須藤） まとめ（愛下・須藤） 面談（各ゼミ）
第13回	テーマ研究発表会参加（須藤・村中・愛下）

事前・事後学修	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク前には、各々の訪問先をホームページなどで調べ、場所や特徴などを理解しておく。 プレゼンテーションに向け、当日までに必要な資料を作成する。当日に使用する機器の事前確認や発表のリハーサルなどの準備も各グループで行っておく。 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて 5 時間程度の学修が求められる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・提出課題 50％（お礼状・フィールドワーク体験・講話・実習報告会・テーマ研究発表会 各10％） ・プレゼンテーション 50％（準備20％ 発表30％）
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	必要に応じて提示する

備考	放課後等デイサービスにおけるフィールドワークは、夏季休暇最終週に実施する

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[子心][愛下]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	・「子ども」や「子どものあそび」、「保育・施設」、「保育職」、「子どもの発達」、「多様性」への理解を深める。 ・グループで放課後等デイサービスにおけるフィールドワークや講義で学んだことからテーマを決め、テーマに沿って他者と協働して、調べる・思考する・プレゼンテーションをするなど、3年次「応用演習」での専門的学習の準備に繋げる。
到達目標	・子どもが過ごす環境や保育職の理解を深める。 ・子どもの発達やあそびに着眼しながら、子どもたちと積極的にかかわることができる。 ・フィールドワークや事前・事後学習、講義を通して福祉施設の理解や子どもの発達、多様性への理解を深める。 ・他者と協働して課題を遂行したり、グループにおいて各々の役割を責任を持って果たす。
授業の進め方	・放課後等デイサービスにおけるフィールドワークを行い、子どもの姿や環境、発達支援・療育に触れる。事業所で働く方からの指導や助言から、放課後等デイサービスでの保育・発達支援・療育について学ぶ。 ・放課後等デイサービスにおけるフィールドワークや講義、実習報告会、保育キャラバンなどを通し、保育・施設の間や保育職、子どもの発達や多様性への理解を深める。 ・グループごとにディスカッションを行い、その成果をまとめ、グループ全員でプレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	共通の課題については、授業中に解説をする 課題は授業中、授業時間以外にも指導や助言の時間を設ける

授業計画表

回	授業内容
第1回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 1日目 （須藤・村中・愛下）
第2回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 1日目 （須藤・村中・愛下）
第3回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 2日目 （須藤・村中・愛下）
第4回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 2日目 （須藤・村中・愛下）
第5回	オリエンテーション（愛下） フィールドワーク振り返り（愛下） 教職履修カルテ（須藤） 学修ポートフォリオ（須藤）
第6回	保育・関係領域の専門家による講義（愛下）
第7回	プレゼンテーションの趣旨説明・準備：グループワーク（須藤）
第8回	保育キャラバン（愛下）
第9回	実習報告会参加① （須藤・村中・愛下）
第10回	実習報告会参加② （須藤・村中・愛下）

第11回	プレゼンテーション① （須藤）
第12回	プレゼンテーション② （須藤） まとめ（愛下・須藤） 面談（各ゼミ）
第13回	テーマ研究発表会参加（須藤・村中・愛下）

事前・事後学修	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク前には、各々の訪問先をホームページなどで調べ、場所や特徴などを理解しておく。 プレゼンテーションに向け、当日までに必要な資料を作成する。当日に使用する機器の事前確認や発表のリハーサルなどの準備も各グループで行っておく。 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて 5 時間程度の学修が求められる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・提出課題 50％（お礼状・フィールドワーク体験・講話・実習報告会・テーマ研究発表会 各10％） ・プレゼンテーション 50％ （準備20％ 発表30％）
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	必要に応じて提示する

備考	放課後等デイサービスにおけるフィールドワークは、夏季休暇最終週に実施する

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ [子心][村中]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD04102S

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	・「子ども」や「子どものあそび」、「保育・施設」、「保育職」、「子どもの発達」、「多様性」への理解を深める。 ・グループで放課後等デイサービスにおけるフィールドワークや講義で学んだことからテーマを決め、テーマに沿って他者と協働して、調べる・思考する・プレゼンテーションをするなど、3年次「応用演習」での専門的学習の準備に繋げる。
到達目標	・子どもが過ごす環境や保育職の理解を深める。 ・子どもの発達やあそびに着眼しながら、子どもたちと積極的にかかわることができる。 ・フィールドワークや事前・事後学習、講義を通して福祉施設の理解や子どもの発達、多様性への理解を深める。 ・他者と協働して課題を遂行したり、グループにおいて各々の役割を責任を持って果たす。
授業の進め方	・放課後等デイサービスにおけるフィールドワークを行い、子どもの姿や環境、発達支援・療育に触れる。事業所で働く方からの指導や助言から、放課後等デイサービスでの保育・発達支援・療育について学ぶ。 ・放課後等デイサービスにおけるフィールドワークや講義、実習報告会、保育キャラバンなどを通し、保育・施設の間や保育職、子どもの発達や多様性への理解を深める。 ・グループごとにディスカッションを行い、その成果をまとめ、グループ全員でプレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	共通の課題については、授業中に解説をする 課題は授業中、授業時間以外にも指導や助言の時間を設ける

授業計画表

回	授業内容
第1回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 1日目 （須藤・村中・愛下）
第2回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 1日目 （須藤・村中・愛下）
第3回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 2日目 （須藤・村中・愛下）
第4回	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク 2日目 （須藤・村中・愛下）
第5回	オリエンテーション（愛下） フィールドワーク振り返り（愛下） 教職履修カルテ（須藤） 学修ポートフォリオ（須藤）
第6回	保育・関係領域の専門家による講義（愛下）
第7回	プレゼンテーションの趣旨説明・準備：グループワーク（須藤）
第8回	保育キャラバン（愛下）
第9回	実習報告会参加① （須藤・村中・愛下）
第10回	実習報告会参加② （須藤・村中・愛下）

第11回	プレゼンテーション①（須藤）
第12回	プレゼンテーション②（須藤） まとめ（愛下・須藤） 面談（各ゼミ）
第13回	テーマ研究発表会参加（須藤・村中・愛下）

事前・事後学修	放課後等デイサービスにおけるフィールドワーク前には、各々の訪問先をホームページなどで調べ、場所や特徴などを理解しておく。 プレゼンテーションに向け、当日までに必要な資料を作成する。当日に使用する機器の事前確認や発表のリハーサルなどの準備も各グループで行っておく。 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて5時間程度の学修が求められる

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・提出課題 50％（お礼状・フィールドワーク体験・講話・実習報告会・テーマ研究発表会 各10％） ・プレゼンテーション 50％（準備20％ 発表30％）
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	必要に応じて提示する

備考	放課後等デイサービスにおけるフィールドワークは、夏季休暇最終週に実施する

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔子心〕〔須藤〕
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD04101S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 須藤 宏志	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	仲間と協力し合う大切さを理解し、仲間とともに作業をすすめながら、子どものあそびや子どもを取り巻く環境にも気付いていくことを目的とする。 保育や子育て支援の場で使うことのできる遊具づくりを仲間とともに行うことを中心とし、後半は、秋学期の放課後等デイサービスにおけるフィールドワークに向けた心構えやお礼状の書き方を学び、準備をすすめる。
到達目標	・幼児期に「遊び」が重要であることを理解できるようになる。 ・仲間と協力しながら、幼児が実際に使って楽しむことのできる遊具を考え、作成する。 ・合同での企画、準備などを通し、他のゼミとのかかわりを深める。 ・フィールドワークに向けた心構えを持つことができる。
授業の進め方	子どもの広場の準備に向け、グループでの活動を中心とする。各ゼミ毎に、子どもが使える遊具を検討し、遊具（教材）の制作をしたり、子どものあそびを検討し、準備をすすめる。また授業の後半では、フィールドワークに向けてのオリエンテーションやお礼状の書き方などを講義形式ですすめる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	共通の課題については、授業中に解説をする 課題は授業中の他、授業時間以外にも指導や助言の時間を設ける

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（愛下） 授業内容の確認（愛下） 学修ポートフォリオの確認と作成（須藤）
第2回	教職履修カルテの確認と作成（須藤） 面談（各ゼミ）
第3回	子どもの広場にむけて：内容検討・配置（愛下）
第4回	子どもが使える遊具づくり：計画（各ゼミ）
第5回	子どもが使える遊具づくり：計画（各ゼミ）
第6回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第7回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第8回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第9回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第10回	子どもの広場 前日準備 （須藤・村中・愛下）
第11回	子どもの広場 運営 （須藤・村中・愛下）
第12回	子どもの広場 運営 （須藤・村中・愛下）

第13回	フィールドワークに向けてのオリエンテーション（愛下） まとめ（愛下・須藤） 面談（各ゼミ）

事前・事後学修	授業時間以外にも、仲間と連絡を取り合い、必要な物などの準備を行う。 使用後の後始末も協力しながら、最後まで責任をもって行う。 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて5時間程度の学修が求められる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・制作物の成果 50% ・最終レポート 20% ・グループワークや子どもの広場の参加、振り返り 30%
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	必要に応じて提示する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼児・児童の発達支援、幼稚園での実務経験がある教員が、子どもの発達やあそび、遊具、親子の子育て支援環境に対し、学生が考える企画から当日実践まで必要に応じて助言をする。 秋学期の放課後等デイサービスにおけるフィールドワークに向けて、社会人としてのマナーやお礼状の書き方を講義形式で確認する。
備考	第11・12回目の授業は、静麗祭において「子どもの広場」の実践とする。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔子心〕〔愛下〕
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD04101S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	仲間と協力し合う大切さを理解し、仲間とともに作業をすすめながら、子どものあそびや子どもを取り巻く環境にも気付いていくことを目的とする。 保育や子育て支援の場で使うことのできる遊具づくりを仲間とともに行うことを中心とし、後半は、秋学期の放課後等デイサービスにおけるフィールドワークに向けた心構えやお礼状の書き方を学び、準備をすすめる。
到達目標	・幼児期に「遊び」が重要であることを理解できるようになる。 ・仲間と協力しながら、幼児が実際に使って楽しむことのできる遊具を考え、作成する。 ・合同での企画、準備などを通し、他のゼミとのかかわりを深める。 ・フィールドワークに向けた心構えを持つことができる。
授業の進め方	子どもの広場の準備に向け、グループでの活動を中心とする。各ゼミ毎に、子どもが使える遊具を検討し、遊具（教材）の制作をしたり、子どものあそびを検討し、準備をすすめる。また授業の後半では、フィールドワークに向けてのオリエンテーションやお礼状の書き方などを講義形式ですすめる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	共通の課題については、授業中に解説をする 課題は授業中の他、授業時間以外にも指導や助言の時間を設ける

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（愛下） 授業内容の確認（愛下） 学修ポートフォリオの確認と作成（須藤）
第2回	教職履修カルテの確認と作成（須藤） 面談（各ゼミ）
第3回	子どもの広場にむけて：内容検討・配置（愛下）
第4回	子どもが使える遊具づくり：計画（各ゼミ）
第5回	子どもが使える遊具づくり：計画（各ゼミ）
第6回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第7回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第8回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第9回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第10回	子どもの広場 前日準備 （須藤・村中・愛下）
第11回	子どもの広場 運営 （須藤・村中・愛下）
第12回	子どもの広場 運営 （須藤・村中・愛下）

第13回	フィールドワークに向けてのオリエンテーション（愛下） まとめ（愛下・須藤） 面談（各ゼミ）

事前・事後学修	授業時間以外にも、仲間と連絡を取り合い、必要な物などの準備を行う。 使用後の後始末も協力しながら、最後まで責任をもって行う。 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて5時間程度の学修が求められる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・制作物の成果 50% ・最終レポート 20% ・グループワークや子どもの広場の参加、振り返り 30%
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	必要に応じて提示する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼児・児童の発達支援、幼稚園での実務経験がある教員が、子どもの発達やあそび、遊具、親子の子育て支援環境に対し、学生が考える企画から当日実践まで必要に応じて助言をする。 秋学期の放課後等デイサービスにおけるフィールドワークに向けて、社会人としてのマナーやお礼状の書き方を講義形式で確認する。
備考	第11・12回目の授業は、静麗祭において「子どもの広場」の実践とする。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ [子心][村中]
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	心理学科子ども心理専攻：PCD04101S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村中 幸子	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	仲間と協力し合う大切さを理解し、仲間とともに作業をすすめながら、子どものあそびや子どもを取り巻く環境にも気付いていくことを目的とする。 保育や子育て支援の場で使うことのできる遊具づくりを仲間とともに行うことを中心とし、後半は、秋学期の放課後等デイサービスにおけるフィールドワークに向けた心構えやお礼状の書き方を学び、準備をすすめる。
到達目標	・幼児期に「遊び」が重要であることを理解できるようになる。 ・仲間と協力しながら、幼児が実際に使って楽しむことのできる遊具を考え、作成する。 ・合同での企画、準備などを通し、他のゼミとのかかわりを深める。 ・フィールドワークに向けた心構えを持つことができる。
授業の進め方	子どもの広場の準備に向け、グループでの活動を中心とする。各ゼミ毎に、子どもが使える遊具を検討し、遊具（教材）の制作をしたり、子どものあそびを検討し、準備をすすめる。また授業の後半では、フィールドワークに向けてのオリエンテーションやお礼状の書き方などを講義形式ですすめる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	共通の課題については、授業中に解説をする 課題は授業中の他、授業時間以外にも指導や助言の時間を設ける

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（愛下） 授業内容の確認（愛下） 学修ポートフォリオの確認と作成（須藤）
第2回	教職履修カルテの確認と作成（須藤） 面談（各ゼミ）
第3回	子どもの広場にむけて：内容検討・配置（愛下）
第4回	子どもが使える遊具づくり：計画（各ゼミ）
第5回	子どもが使える遊具づくり：計画（各ゼミ）
第6回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第7回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第8回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第9回	子どもが使える遊具づくり：制作（各ゼミ）
第10回	子どもの広場 前日準備 （須藤・村中・愛下）
第11回	子どもの広場 運営 （須藤・村中・愛下）
第12回	子どもの広場 運営 （須藤・村中・愛下）

第13回	フィールドワークに向けてのオリエンテーション（愛下） まとめ（愛下・須藤） 面談（各ゼミ）

事前・事後学修	授業時間以外にも、仲間と連絡を取り合い、必要な物などの準備を行う。 使用後の後始末も協力しながら、最後まで責任をもって行う。 本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて5時間程度の学修が求められる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・制作物の成果 50% ・最終レポート 20% ・グループワークや子どもの広場の参加、振り返り 30%
テキスト	実習ガイドブック
参考文献	必要に応じて提示する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	幼児・児童の発達支援、幼稚園での実務経験がある教員が、子どもの発達やあそび、遊具、親子の子育て支援環境に対し、学生が考える企画から当日実践まで必要に応じて助言をする。 秋学期の放課後等デイサービスにおけるフィールドワークに向けて、社会人としてのマナーやお礼状の書き方を講義形式で確認する。
備考	第11・12回目の授業は、静麗祭において「子どもの広場」の実践とする。

年度	2025
講義名称	実用英会話[入門・春]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	0単位
ナンバリング	社会人教養楽部

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	初めて英会話に触れる方でも楽しく学べる授業です。日常で使える便利な英語表現を使って、教員と一緒に声に出して練習しましょう。新しい表現を身につけながら、間違いを恐れず、積極的に英語を聞き、話すスキルを伸ばしていくことを目的とします。
到達目標	授業で学んだ英語を使って、自分から積極的にコミュニケーションを取れるようになること。完璧さにこだわらず、自分の知っている英語を使って相手に意志を伝えようとする姿勢を身につけること。
授業の進め方	様々な日常的な場面で使える便利な英語を紹介します。デモンストレーションの後、ペアやグループで実際に声に出して練習します。ゲームやロールプレイを通じて、基本的な英会話のスキルを身につけていきます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation and Classroom Language ・ オリエンテーションと教室での言葉	対面
第2回	Meeting New People ・ 出会い	対面
第3回	Family ・ 家族	対面
第4回	Daily Activities ・ 日常の活	対面
第5回	Unit Review ① ・ 復習①	対面
第6回	Homes ・ 住まい	対面
第7回	Local Neighborhood ・ 近所	対面
第8回	Travel ・ 旅行	対面
第9回	Unit Review ② ・ 復習②	対面
第10回	Food and Drinks ・ 食べ物と飲み物	対面
第11回	Describing People ・ 人の特徴を説明する	対面
第12回	Describing Things ・ 物の特徴を説明する。	対面
第13回	Unit Review ③ ・ 復習③	対面

事前・事後学修	流暢な英語を話したい方は毎日復習や独り言やシャドーイングをしましょう。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	社会人の方には点数を付けませんが、積極的に学習に取り組んでほしいと考えています。
テキスト	授業で配布するプリントや資料を配ります。
参考文献	Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English, with answers), by Raymond Murphy, Cambridge University Press

備考	教員が紹介する学習方法に加えて、自分に合った勉強法も見つけましょう。毎日英語に触れることを目標にしましょう。

年度	2025
講義名称	実用英会話[初級・春]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	0単位
ナンバリング	社会人教養楽部

担当教員

氏名	所属
◎ 藤垣 エミリア	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	このコースは：Communicative language classと名付けることができます。実際に日常英会話によく使う表現や語彙を学び、一般的な言葉（colloquial language）を使うことが目的です。テキストのBuilding FluencyのセクションやCDのリスニングなどはコンパクトで、使いやすい。このクラスでは、クラスメイトと英語でお話すると同時に、自分のヴォキャブラリーを増やすことができます。テキスト以外新聞やオンラインに紹介されているニュース記事やトピックに触れることができますので、自分の「今現在」の英語力を高めるチャンスになります。
到達目標	基本的な英会話を身につけ、様々な場面に対応できるようにする。単独の単語ではなく、chunk of language（言語のかたまり）を使うことによって、より流暢に英語を使うことができる。
授業の進め方	・一部はペアーワーク・グループ形式で行う。 ・スピーキング中心に行う授業であるが、ライティングとリスニングアクティビティーもあります。 ・テキストがメインですが多読の紹介もあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	＊テキストで紹介される表現や文法的なストラクチャーをより深く理解・身に着けるため、課題を出し、添削をした後に戻します。 ＊学習者とクラスの中で直接にやり取りするため、文法や発音などについて説明し、サンプル文書の練習を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation・多読の紹介・テキストについて・Introduction of the Newcomers
第2回	Unit 1 Something Cool (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第3回	Unit 1 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (interviewing classmates)
第4回	Unit 2 My Humble Abode (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第5回	Unit 2 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (Could you live here? working with a partner)
第6回	Unit 3 Food Cravings (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第7回	Unit 3 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (What are you crazy about? working with a partner)
第8回	Unit 4 Who We Are (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第9回	Unit 4 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (What's important to you? working with a partner)
第10回	Unit 5 Corporate Ladder, (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第11回	Unit 5 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (Can you handle it? working with a partner)
第12回	Unit 6 Another World (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第13回	Unit 6 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (How many stars? working with a partner)

事前・事後学習	毎回繰り返し復習を行うことが不可欠です。言語学習には繰り返し練習する大切さに気付いて、自らたくさん復習すること。英会話を楽しみながら新しい表現を身に着け、実践的に取り組むこと。テキストの内容は実際の英会話にすぐ使える表現を紹介しているので、覚えて使うこと。

成績評価基準と方法	ありません
テキスト	Impact Conversation 2 , by Sullivan, K. & Beuckens, T. ISBN 978-962-01-9934-9 出版社：Pearson Longman
参考文献	Essential Grammar in Use (elementary or intermediate level), by Raymond Murphy, 出版社: Cambridge University Press

年度	2025
講義名称	実用英会話[中級・春]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	0単位
ナンバリング	社会人教養楽部

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	実用英会話（中級）「春」 is for intermediate and above learners to enjoy speaking English on a wide variety of topics. Speaking skills are different to language skills. This course will mostly improve speaking skills, through useful techniques, freer practice, and a wide range of familiar topics. Students also have chances to present on their personal interest.
到達目標	Learners will mainly improve at: - Keeping conversations going entirely in English - Participating in lengthy conversation on familiar topics - Explaining personal experiences or interest
授業の進め方	The general pattern of classes is warm-up discussion in pairs, brief interactive lecture, vocabulary exercises or Listening tasks, then a speaking task related to the day’s topic.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Before class, learners can brainstorm ideas and vocabulary for the upcoming topic. There may also be preparation homework.After class, learners should review the online whiteboard and repeat any Listening they found difficult in class

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation: How to improve as a speaker of English	対面
第2回	Family	対面
第3回	Shopping	対面
第4回	Food	対面
第5回	Music	対面
第6回	Free Time	対面
第7回	Presentations / Rev	対面
第8回	Travel	対面
第9回	Sports	対面
第10回	Friends	対面
第11回	Films	対面
第12回	Technology	対面
第13回	Presentations / Review	対面

事前・事後学修	Before class, learners can brainstorm ideas and vocabulary for the upcoming topic. There may also be preparation homework. After class, learners should review the online whiteboard and repeat any Listening they found difficult in class.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	The lecturer will discuss feedback with the group and individually. Learners can also submit extra work in person or via email.
参考文献	『Nice Talking With You 1 & 2』 著者 : Tom Kenny & Linda Woo 出版社 : Cambridge University Press 『Touchstone Level 2, Level 3』 著者 : Michael McCarthy, Jeanne McCarten & Helen Sandford 出版社 : Cambridge University Pres

備考	**This course is done in English, and you will speak a lot.** In real life, nobody interrupts you in the middle of a conversation to correct your errors. So do not do it to yourself, either.

年度	2025
講義名称	実用英会話[入門・秋]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	0単位
ナンバリング	社会人教養楽部

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	初めて英会話に触れる方でも楽しく学べる授業です。日常で使える便利な英語表現を使って、教員と一緒に声に出して練習しましょう。新しい表現を身につけながら、間違いを恐れず、積極的に英語を聞き、話すスキルを伸ばしていくことを目的とします。
到達目標	授業で学んだ英語を使って、自分から積極的にコミュニケーションを取れるようになること。完璧さにこだわらず、自分の知っている英語を使って相手に意志を伝えようとする姿勢を身につけること。
授業の進め方	様々な日常的な場面で使える便利な英語を紹介します。デモンストレーションの後、ペアやグループで実際に声に出して練習します。ゲームやロールプレイを通じて、基本的な英会話のスキルを身につけていきます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	教員が良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation and Classroom Language・オリエンテーションと教室での言葉	対面
第2回	Meeting New People・出会い	対面
第3回	Family・家族	対面
第4回	Daily Activities・日常の活動	対面
第5回	Unit Review ①・復習①	対面
第6回	Homes・住まい	対面
第7回	Local Neighborhood・近所	対面
第8回	Travel・旅行	対面
第9回	Unit Review ②・復習②	対面
第10回	Food and Drinks・食べ物と飲み物	対面
第11回	Describing People・人の特徴を説明する	対面
第12回	Describing Things・物の特徴を説明する	対面
第13回	Unit Review ③・復習③	対面

事前・事後学修	流暢な英語を話したい方は毎日復習や独り言やシャドーイングをしましょう。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	社会人の方には点数を付けませんが、積極的に学習に取り組んでほしいと考えています。
テキスト	授業で配布するプリントや資料を配ります。
参考文献	Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English, with answers), by Raymond Murphy, Cambridge University Press

備考	教員が紹介する学習方法に加えて、自分に合った勉強法も見つけましょう。毎日英語に触れることを目標にしましょう。

年度	2025
講義名称	実用英会話[初級・秋]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	0単位
ナンバリング	社会人教養楽部

担当教員

氏名	所属
◎ 藤垣 エミリア	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	このコースは：Communicative language classと名付けることができます。実際に日常英会話によく使う表現や語彙を学び、一般的な言葉（colloquial language）を使うことが目的です。テキストのBuilding FluencyのセクションやCDのリスニングなどはコンパクトで、使いやすい。このクラスでは、クラスメイトと英語でお話すると同時に、自分のヴォキャブラリーを増やすことができます。テキスト以外、新聞やオンラインに紹介されているニュース記事やトピックに触れることができますので、自分の「今現在」の英語力を高めるチャンスになります。
到達目標	基本的な英会話を身につけ、様々な場面に対応できるようにする。単独の単語ではなく、chunk of language（言語のかたまり）を使うことによって、より流暢に英語を使うことができる。
授業の進め方	・一部はペアーワーク・グループ形式で行う。 ・スピーキング中心に行う授業であるが、ライティングとリスニングアクティビティーもあります。 ・テキストがメインですが多読の紹介もあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	＊テキストで紹介される表現や文法的なストラクチャーをより深く理解・身に着けるため、課題を出し、添削をした後に戻します。 ＊学習者とクラスの中で直接にやり取りするため、文法や発音などについて説明し、サンプル文書の練習を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation・多読の紹介・テキストについて・Greetings・class CD
第2回	Unit 7 Big Worry (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第3回	Unit 7 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (What's on your mind?)
第4回	Unit 8 Unplugged (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第5回	Unit 8 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (How do you feel about your life?)
第6回	Unit 9 The Remote (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第7回	Unit 9 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (What gets on your nerves?)
第8回	Unit 10 Clean Freak (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第9回	Unit 10 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (What are your obsessions?)
第10回	Unit 11 No Such Thing (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第11回	Unit 11 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (Do you believe in the supernatural?)
第12回	Unit 12 Like Chalk and Cheese (first part: building fluency and listening, repeating and speaking out)
第13回	Unit 12 Conversation Model, practicing with the classmates, Let's Talk About It (What's your advice?)

事前・事後学習	毎回繰り返し復習を行うことが不可欠です。言語学習には繰り返し練習する大切さに気付いて、自らたくさん復習すること。英会話を楽しみながら新しい表現を身に着け、実践的に取り組むこと。テキストの内容は実際の英会話にすぐ使える表現を紹介しているので、覚えて使うこと。

成績評価基準と方法	ありません
テキスト	Impact Conversation 2 , by Sullivan, K. & Beuckens, T. ISBN 978-962-01-9934-9 出版社：Pearson Longman
参考文献	Essential Grammar in Use (elementary or intermediate level), by Raymond Murphy, 出版社: Cambridge University Press

年度	2025
講義名称	実用英会話[中級・秋]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	0単位
ナンバリング	社会人教養楽部

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	実用英会話（中級）「秋」 is for intermediate and above learners to enjoy speaking English on a wide variety of topics. Speaking skills are different to language skills. This course will introduce more advanced speaking skills and include some more complicated or academic material. Students have lots of chances to discuss together, and present on their personal interest.
到達目標	Learners will mainly improve at: - Keeping conversations going entirely in English - Participating in lengthy conversation on less familiar topics - Explaining new concepts or social issues - Arguing their viewpoint
授業の進め方	The general pattern of classes is warm-up discussion in pairs, brief interactive lecture, vocabulary exercises or Listening tasks, then a speaking task related to the day's topic.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Before class, learners can brainstorm ideas and vocabulary for the upcoming topic. There may also be preparation homework. After class, learners should review the online whiteboard and repeat any Listening they found difficult in class.

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation: Introductions	対面
第2回	A sense of Place	対面
第3回	Money	対面
第4回	Going Out	対面
第5回	Fashion	対面
第6回	Learning	対面
第7回	Presentations / Review	対面
第8回	Travel Abroad	対面
第9回	Health	対面
第10回	Personality	対面
第11回	Personal Entertainment	対面
第12回	Something Special	対面
第13回	Presentations / Review	対面

事前・事後学修	Before class, learners can brainstorm ideas and vocabulary for the upcoming topic. There may also be preparation homework. After class, learners should review the online whiteboard and repeat any Listening they found difficult in class.	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	The lecturer will discuss feedback with the group and individually. Learners can also submit extra work in person or via email.
参考文献	【参考文献】 『Nice Talking With You 1 & 2』 著者：Tom Kenny & Linda Woo 出版社：Cambridge University Press 『Touchstone Level 2, Level 3』 著者：Michael McCarthy, Jeanne McCarten & Helen Sandford 出版社：Cambridge University Press

備考	**This is not a grammar course. It is real Speaking in English and will adapt to learner interests.** The more English you encounter, the more English you can use!

年度	2025
講義名称	[冬集]社会教育経営論Ⅱ[社教]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15308L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 賢一	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的とします。この授業では、社会教育を推進する地域ネットワークについて具体例を通して理解するとともに、社会教育施設の民間委託や資金調達など、社会教育施設の経営に関する今日的取組等についても学修します。
到達目標	N P O等の多様な主体との連携・協働や社会教育施設の経営戦略についての基礎的事項について説明できる。
授業の進め方	グループワークやディスカッションなどの能動的な学修形式での授業展開を基本とし、毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行います。必要に応じて資料及びワークシート等を配付します。 生涯学習・社会教育行政での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、WebClassを通じて資料を配付します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 地域社会と社会教育の現状と課題
第2回	学校・家庭・地域の連携・協働 「コミュニティ・スクール」 「地域学校協働活動」
第3回	社会教育を推進するネットワークの形成
第4回	N P O・企業・高等教育機関等との連携・協働
第5回	社会教育を推進する施設間ネットワーク
第6回	社会教育施設の現状と課題 これからの社会教育施設の経営
第7回	社会教育施設の経営戦略（１） 「民間活力の導入・指定管理者制度」
第8回	社会教育施設の経営戦略（２） 「社会教育施設のネットワーク」
第9回	社会教育施設の経営戦略（３） 「社会教育施設の自己点検・評価」
第10回	社会教育と地域防災ネットワーク（１） 「協働ネットワーク」

第11回	社会教育と地域防災ネットワーク（2） 「地域防災リーダー」
第12回	社会教育と地域防災ネットワーク（3） 「ネットワークを活用した防災教育」
第13回	全体まとめ振り返り

事前・事後学修	【具体的な内容】 自分の住む地域の公民館、図書館、博物館等の社会教育施設を事前に見学あるいは体験利用しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配付プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ5時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート：40％ 課題：30％ 毎回の提出物（振り返りシート）：30％
テキスト	適宜プリントを配付します。
参考文献	『社会教育経営論－新たな系の創造を目指して－』 浅井経子・合田隆史・原義彦・山本恒夫編著　理想社 『社会教育経営論』 浅井経子執筆・編集代表　ぎょうせい

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	北海道教育委員会の社会教育主事として、生涯学習・社会教育行政での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。
備考	本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。 この講義を十分に理解するためには、社会教育経営論Ⅰを履修していることが望ましい。 この授業では、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

年度	2025
講義名称	[夏集]社会教育経営論Ⅰ[社教]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15307L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 松浦 賢一	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的とします。この授業では、地域において課題となっていることを取り上げ、今日的な課題に応える社会教育行政の経営の在り方について具体的な事例を通して理解するとともに、学習課題の把握と広報戦略、学習成果の評価・活用と学習支援者の育成についても学修します。
到達目標	社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際等の基礎的事項について説明できる。
授業の進め方	グループワークやディスカッションなどの能動的な学修形式での授業展開を基本とし、毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行います。必要に応じて資料及びワークシート等を配付します。 生涯学習・社会教育行政での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、WebClassを通じて資料を配付します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 社会教育行政とは（１） 「社会教育行政の組織・体制」
第2回	社会教育行政とは（２） 「社会教育主事の職務と役割」
第3回	地域人材の育成と活用
第4回	社会教育行政における地域広報戦略
第5回	地域課題の分析と把握 学習課題の把握のためのデータの活用
第6回	今日的課題と社会教育行政の経営（１） 「少子高齢化と社会教育行政」 「地域学校協働と社会教育行政」
第7回	今日的課題と社会教育行政の経営（２） 「多文化共生と社会教育行政」 「地方分権・民間活用と社会教育行政」
第8回	今日的課題と社会教育行政の経営（３） 「SDGsと社会教育行政」
第9回	社会教育行政の経営戦略（１） 「社会教育計画と評価」

2025/04/01

第10回	社会教育行政の経営戦略（2） 「E B P Mと社会教育行政」
第11回	社会教育行政の経営戦略（3） 「エビデンスに基づく政策展開の推進」
第12回	社会教育行政の経営戦略（4） 「地域課題解決プラン」
第13回	全体まとめ振り返り

事前・事後学修	【具体的な内容】 身近な地域の課題やその課題の解決を図る各種事業について、インターネット等を活用し具体的事例等を収集しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配付プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ5時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポート：40％ 課題：30％ 毎回の提出物（振り返りシート）：30％
テキスト	適宜プリントを配付します。
参考文献	『社会教育経営論－新たな系の創造を目指して－』 浅井経子・合田隆史・原義彦・山本恒夫編著 理想社 『社会教育経営論』 浅井経子執筆・編集代表 ぎょうせい

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	北海道教育委員会の社会教育主事として、生涯学習・社会教育行政での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。
備考	本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。 この授業では、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

年度	2025
講義名称	社会教育演習Ⅱ[社教]
講義開講時期	通年
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15306S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の 目的と 概要	社会教育事業の企画・実施を通して、社会教育主事に求められる基礎的な知識・技術について実践的に獲得することを目標とします。
到達目 標	社会教育事業の企画・運営・評価の一連の業務について理解し、社会教育事業計画（学習プログラム）を作成することができる。
授業の 進め方	個別事業計画（学習プログラム）の作成および評価の方法について、講義形式で行います。また、グループワークによって実際に個別事業計画の作成を行い、プレゼンテーションにより評価を行います。こうした一連の授業により、社会教育主事に求められる実践的な技術の習得を目指します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義形式での授業時には、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	対面
第2回	社会教育事業の企画	対面
第3回	プログラムの立案①（目的・対象・目標の設定、スコープとシーケンス）	対面
第4回	プログラムの立案②（学習方法・学習場所・楽手支援者の設定）	対面
第5回	プログラムの立案③（実施期日・学習時間・定員・事業名・評価方法の設定）	対面
第6回	募集要項・チラシ（ポスター）の作成	対面
第7回	広報の計画作成と実施	対面
第8回	社会教育事業の準備①	対面
第9回	社会教育寺領の準備①	対面
第10回	社会教育事業の実施①	対面
第11回	社会教育事業の実施②	対面
第12回	事業の評価とふりかえり	対面
第13回	成果報告会 授業のまとめ	対面

事前・事後学習	社会教育事業等の概要について、インターネット等を活用し概観しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポート 50％ 課題 30％ 提出物 20％
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。
参考文献	必要に応じて紹介します。

実務経験のある教員の経歴と授業内容	生涯学習・社会教育行政の実務経験のある教員が、社会教育事業のポイントを具体的事例を示しながら講義を実施します。
備考	本科目は、社会教育主事の必修科目であるため、資格取得を希望する者とします。4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。 授業では、グループでの意見交換・協議を重ねプログラムを作成するので、話し合いに積極的に参加することが必要です。また、社会教育施設でのF Wを実施するので、交通費等の費用が必要となります。

年度	2025
講義名称	社会教育実習[社教]
講義開講時期	通年
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15305P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	社会教育主事の職務を遂行するために必要は資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図るため、青少年教育施設職員の実務を体験し、施設経営の現状を学ぶとともに、施設職員として求められる基礎的な知識・技術について獲得することを目標とします。
到達目標	青少年教育施設職員の実務を理解するとともに、施設職員として求められる基礎的な知識・技術を身につける。
授業の進め方	青少年教育施設の管理・運営及び受入事業・主催事業の企画・実施に求められる基本的な知識・技術について、実習を通して実践的に学修します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	必要に応じて資料及びワークシート等を配布し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業オリエンテーション 青少年教育施設実習についての留意点	講義
第2回	青少年教育施設実習（第2～12回） 青少年教育施設の現状、経営（管理・運営）、ボランティアの養成、事業運営（受入事業、主催事業の企画・運営）	実習
第3回	青少年教育施設実習② 同上	実習
第4回	青少年教育施設実習③ 同上	実習
第5回	青少年教育施設実習④ 同上	実習
第6回	青少年教育施設実習⑤ 同上	実習
第7回	青少年教育施設実習⑥ 同上	実習
第8回	青少年教育施設実習⑦ 同上	実習
第9回	青少年教育施設実習⑧ 同上	実習
第10回	青少年教育施設実習⑨ 同上	実習

第11回	青少年教育施設実習⑩ 同上	実習
第12回	青少年教育施設実習⑪ 同上	実習
第13回	実習報告会 授業のまとめ	講義および演習

事前・事後学修	青少年教育施設の概要について、インターネットを活用し概観しておくことが望ましい。また、参考図書やインターネット等を活用して事前学習が必要です。 実習内容を振り返り、実習日誌等を整理しておくため事後学習が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポート ５０％ 実習報告会プレゼンテーション ３０％ 提出物 ２０％
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。
参考文献	必要に応じて紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会教育施設で実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

年度	2025
講義名称	社会教育演習Ⅰ[社教]
講義開講時期	通年
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図るために、社会教育施設の職員の実務を体験し、施設経営の現状を学ぶと共に、施設職員として求められる基礎的な知識・技術について獲得することを目標とします。
到達目標	社会教育施設の職員の実務を理解するとともに、施設職員として求められる基礎的な知識・技術を身につける。
授業の進め方	社会教育施設の管理・運営及び受入事業・主催事業の企画・実施に求められる基本的な知識・技術について、施設における実務体験等を通して実践的に学修します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	対面
第2回	社会教育施設について	対面
第3回	公民館における事業	対面
第4回	図書館における事業	対面
第5回	博物館における事業	対面
第6回	青少年教育施設における事業	対面
第7回	社会教育施設におけるボランティア	対面
第8回	社会教育施設の運営	対面
第9回	社会教育施設の事業の企画・運営	対面
第10回	社会教育施設の主催事業の実際	対面
第11回	社会教育施設の指導者	対面
第12回	社会教育施設の課題	対面
第13回	授業のまとめ	対面

事前・事後学修	社会教育施設の概要について、インターネット等を活用し概観しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポート 50% 課題 30% 提出物 20%
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。
参考文献	必要に応じて紹介します

実務経験のある教員の経歴と授業内容	生涯学習・社会教育行政での経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

年度	2025
講義名称	[冬集]生涯学習支援論Ⅱ[社教]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15303L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐久間 章	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることを目的とします。特に、学習プログラムを実際に立案する際の留意点を理解し、さらに指導者として求められるファシリテーションの知識と技術を身に付けることを到達目標とします。
到達目標	社会教育計画における対象・領域について理解し、対象・領域別に個別事業計画（学習プログラム）を作成することができるようになることを到達目標とします。
授業の進め方	この授業では、効果的な学習支援を進めるために、学習プログラムを実際に立案する際の留意点や多様な参加型学習の方法やファシリテーション技法、および社会教育の評価について学修します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義形式での授業時には、必要に応じて資料及びワークシート等をデータで配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料をデータ配布します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 社会教育の基本的理解
第2回	社会教育事業と学習プログラム
第3回	学習プログラムの編成
第4回	地域課題の抽出と事業化（現代的課題への対応）
第5回	学習プログラムの立案①（目的・対象・目標の設定）
第6回	学習プログラムの立案②（スコープとシーケンス）
第7回	学習プログラムの立案③（学習方法・学習場所・学習支援者の設定）
第8回	学習プログラムの立案④（実施期日・学習時間・定員の設定）
第9回	学習プログラムの立案⑤（事業名・評価方法の設定）
第10回	参加型学習の意義と実際
第11回	ファシリテーション技法と実際
第12回	社会教育における評価の意義と実際
第13回	社会教育における評価の内容と方法 まとめとふりかえり

事前・事後学習	毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。予習・復習に必要な時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している学習プログラムを実際に立案する際の留意点や指導者として求められるファシリテーションの知識と技術についての理解を課題レポートの評価基準とします。 課題レポート 50%、 毎時の小テスト 30%、 提出物 20%
テキスト	テキストは使用せず、関係資料はデータで配布します。
参考文献	「社会教育計画」山本恒夫・蛭田道春・浅井経子・山本和人編、文憲堂 「社会教育計画策定ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（ https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/h23_handbook_all.pdf ）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	生涯学習・社会教育行政での経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。
備考	本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。なお、この講義を十分に理解するためには、生涯学習支援論Ⅰを履修していることが望ましい。グループでの意見交換・協議を重ね学習プログラムを作成するので、話し合いに積極的に参加することが必要です。

年度	2025
講義名称	[夏集]生涯学習支援論Ⅰ[社教]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15302L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐久間 章	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	この授業では、効果的な学習支援を進めるために必要となる知識を身に着けることを目的とします。特に、学習プログラムの編成視点、学習者の特性や集団形成のプロセス及び広報・広聴、学習情報提供・学習相談等について、具体的な事例を示しながら解説します。
到達目標	学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることを目的とします。特に、効果的に社会教育事業を展開していくために、必要となる学習プログラム編成や広報・広聴等の基礎的知識を身に付けることを到達目標とします。
授業の進め方	講義形式での授業展開を基本としますが、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評する

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 社会教育とは
第2回	地域総合計画と生涯学習推進計画、社会教育計画の体系
第3回	社会教育事業計画の意義と内容
第4回	学習プログラム編成の視点と手順
第5回	学習者の特性（ベタゴジーとアンドラゴジー）
第6回	集団と学習（集合学習と個人学習）
第7回	学習集団形成のプロセスと支援
第8回	社会教育の内容・方法・形態
第9回	社会教育の広報・広聴
第10回	社会教育行政における広報戦略
第11回	学習情報提供の意義と実際
第12回	学習相談の意義と実際
第13回	社会教育行政と地域づくり レポート・ふりかえりとまとめ

事前・事後学修	毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。予習・復習に必要な時間はそれぞれ2時間を目安とします。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している学習プログラム編成や広報・広聴等の基礎的知識について理解し、説明できる」ことを課題レポートの評価基準とします。 課題レポート 50%、 毎時の小テスト 30%、 提出物 20%
テキスト	テキストは使用せず、関係資料はデータで配布します。
参考文献	「社会教育計画」山本恒夫・蛭田道春・浅井経子・山本和人編、文憲堂 「社会教育計画策定ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター (https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/h23_handbook_all.pdf)

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	生涯学習・社会教育行政の実務経験のある教員が、社会教育における学習支援について理解できるように具体的事例を示しながら講義を実施します。
備考	本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。この授業では、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

年度	2025
講義名称	[夏集]社会教育論[社教]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	社会教育主事に関する科目：LIC15301L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐久間 章	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、生涯学習社会構築において中心的役割を果たす社会教育主事に求められる基本的な知識等について身に着けることを目的とします。特に、これまでの学歴（学校歴）の重視よりも、学習歴が適切に評価される生涯学習社会について、基本的な理解を図るとともに、生涯学習社会構築の必要性と行政の役割について、具体的な事例を踏まえ、学修していきます。
到達目標	生涯学習の理念や生涯学習社会構築の必要性、および行政の役割について理解し、説明できるようになることを目的とします。
授業の進め方	講義形式での授業展開を基本としますが、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評する

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス、社会教育士と社会教育主事 社会教育士資格のカリキュラムについて
第2回	学習と教育の違いについて 意図的な学習(学習活動)と偶発的学習
第3回	生涯学習とは 「理念」としての生涯学習、「学習活動」としての生涯学習、 「学習」としての生涯学習
第4回	「生涯学習」と「社会教育」 「生涯学習＝社会教育」の誤解
第5回	日本の生涯学習の特徴、生涯学習の範囲、生涯学習の「イメージ」、生涯学習の「振興理由」、リカレント教育、生涯学習振興の3つのモデル
第6回	生涯学習社会の構築① 学歴社会の弊害の是正
第7回	生涯学習社会の構築② 社会の成熟化に伴う学習需要の増大
第8回	生涯学習社会の構築③ 社会・経済の変化に対応するための学習の必要
第9回	生涯学習社会の構築と行政の役割① 普及啓発の実施、学習活動の振興

第10回	生涯学習社会の構築と行政の役割② 学習成果評価システムの開発・普及
第11回	生涯学習社会の構築と学校の役割
第12回	情報と生涯学習、学習情報の分類 学習プロセスと地域学習支援情報の提供 生涯学習と学習相談、学習相談の目的・機能
第13回	課題レポート まとめとふりかえり

事前・事後学習	毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。インターネットや新聞等のメディアで、社会教育事業等のニュースや記事をチェックしてください。予習・復習に必要な時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している生涯学習の理念や生涯学習社会構築の必要性、および行政の役割について理解し、説明できる」ことを課題レポートの評価基準とします。 課題レポート 50%、 毎時の小テスト 30%、 提出物 20%
テキスト	テキストは使用せず、関係資料はデータで配布します。
参考文献	「生涯学習概論」山本恒夫・浅井経子・渋谷英章編、文憲堂 「入門・生涯学習政策」岡本薫著、（財）全日本社会教育連合会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	生涯学習・社会教育行政での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。
備考	本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。 授業中に、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

年度	2025
講義名称	博物館実習
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	3単位
ナンバリング	国際教養学科：LAS02204L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科
高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は学芸員資格取得のための実習である。 学内博物館、学外博物館での実習を行い、学芸員として必要な技術、知識の修得を目指す。博物館での実務を想定した作業実習となる。
到達目標	博物館の展示や諸活動について理解し、評価できるようになる。また大学博物館での展示解説では来館者に応じた解説が出来るレベルを目標とする。
授業の進め方	通常の時間割での実習授業。博物館施設の見学。 授業空き時間を使つての学内博物館の運営、管理業務にあたる。 大学祭などで、展示企画、展示解説、体験学習などを実施する。 グループワーク、ディスカッションなど学生が主体的に取り組む授業である。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	通常開館時の博物館運営に関する報告を授業等で全員で確認する。 企画などでおこなうディスカッションやグループワークの報告などを毎時間行う。 博物館実習(公欠・1週間) における業務報告、全体反省会などを実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	博物館解説について
第3回	清麗祭に向けての活動①担当決め
第4回	清麗祭に向けての活動②企画
第5回	清麗祭に向けての活動③準備
第6回	清麗祭に向けての活動③準備
第7回	清麗祭に向けての活動③準備
第8回	清麗祭に向けての活動③準備
第9回	清麗祭実施
第10回	清麗祭実施
第11回	清麗祭の反省会
第12回	館園実習準備①実習手順
第13回	館園実習準備②展示解説企画及び実施 まとめ
第14回	収蔵資料の取扱い概論

第15回	軸物の取り扱い①
第16回	軸物の取り扱い②
第17回	巻物の取り扱い①
第18回	巻物の取り扱い②
第19回	卒業制作立案①
第20回	卒業制作立案②
第21回	企画展示立案①
第22回	企画展示立案②
第23回	卒業制作作成・企画展示実施①
第24回	卒業制作作成・企画展示実施②
第25回	卒業制作作成・企画展示実施③
第26回	博物館実習反省会・まとめ

事前・事後学修	各自博物館等を見学し、館園見学レポート提出のこと。 予習・復習の時間は、それぞれ3時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	大学博物館実習業務（40％） 大学祭業務（20％） グループ活動（20％） 博物館見学レポート2回（20％）
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	『博物館実習マニュアル』2002 全国大学博物館学講座協議会西日本

備考	博物館学芸員資格の必修科目を取得済みもしくは取得中の学生しか原則履修を認めない。 実習費6,000円を徴収する。※徴収期間は別途周知する。 通年授業である。 ※秋学期は大学博物館実習を実施する 博物館当番および実習は鍵の管理、館開閉業務、温湿度管理、来館者への展示解説、日誌記入を行なう。 ・清麗祭実習：6月の大学祭では博物館の展示企画、広報、案内、展示解説業務、体験学習指導などを担当する。 ・企画展示実習：大学内ミニギャラリーでの企画展を企画・広報・展示を行う。 ・卒業制作：博物館展示の改良、ジオラマ作成など

年度	2025
講義名称	[夏集]アントレプレナー論
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08315L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	アントレプレナー（entrepreneur）とは新しい事業を立ち上げ価値を生み出す起業家や事業家を意味し、イノベーションの担い手です。 本講義は①④⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autnomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、自ら独立して起業する場合はもちろんのこと、企業内において新規事業の企画立案を行う場合にもビジネスプランの策定能力が必要である。本講義では、起業やビジネスプランの策定に関する基礎知識を理解したうえでビジネスプランの策定演習を行い、その応用力を身に付けることを目的とします。
到達目標	事業計画の立案において競争相手を明確にし、そこに対してどのような差別化を図るか、またバックキャスティング思考によりその実現性を明確に説明できるようになる。併せて企業の事例研究と演習により、ビジネス感覚に基づく課題認識、課題解決力とプレゼンテーション力の重要性を学修し、それを応用する力を身に付けることを目標とします。
授業の進め方	基本的に授業時間の20％を講義形式でケーススタディによる基礎知識を学修します。 80％はテーマごとのビジネスプラン策定の「ディスカッション」「グループワーク」の実施により「プレゼンテーション」に結び付け、講義全体を通して能動的な学修を目指します。 また毎回授業では書き込み資料等を配布し、記入・整理することにより講義内容の反復振り返りと演習による確認を行っていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディバート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～アントレプレナー「起業家精神」とは ベンチャービジネスとは、	対面授業
第2回	ビジネスモデルとビジネスプラン	対面授業
第3回	事業主体と資金計画 運転資金と設備資金 資金調達	対面授業
第4回	収益計画・人員計画 資金繰り	対面授業
第5回	中間プレゼンテーション作成演習	対面授業
第6回	中間プレゼンテーション作成演習	対面授業

第7回	中間発表～中間振り返り	対面授業
第8回	市場分析 市場競争力	対面授業
第9回	プロモーション	対面授業
第10回	プレゼンテーション資料作成演習	対面授業
第11回	プレゼンテーション資料作成演習	対面授業
第12回	期末発表～評価ディスカッション	対面授業
第13回	期末発表～期末振り返り	対面授業

事前・事後学修	次回の演習内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に演習の準備をしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項と演習内容をノートに整理してください。併せて発表資料などは役割分担の中で責任をもって作成する必要があります。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 予習復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。 その他 授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内提出物 30％ 中間発表 30％ 期末発表 40％
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	「イノベーションと起業家精神」（エッセンシャル版）ダイヤモンド社 P.F.ドラッカー 著 上田惇生 編訳

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、中小企業・大企業の融資業務ならびに起業支援に関わった実務経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義・演習を実施します。
備考	授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[国教][中津川]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらでも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[国教][小内]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することかができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらでも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	卒業研究[国教][高倉]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することかができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらでも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[国教][宇留野]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にままとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することかができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第2回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第3回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第4回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第5回	論文の作成指導
第6回	論文の作成指導
第7回	論文の作成指導
第8回	論文の作成指導
第9回	論文の作成指導と発表の準備
第10回	論文の作成指導と発表の準備
第11回	論文の作成指導と発表の準備
第12回	論文の作成指導と発表の準備
第13回	卒業論文発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的大部分は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもないだろう。 上述のことから、史資料の探索、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業は、週に5時間を下回れない。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。巷に溢れる「論文の書き方」についての文献は読んでおいて損はないだろうが、参考以上にはならない。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[国教][新谷]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[国教][武井]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することかができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらでも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

2025/04/01

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	卒業研究[国教][趙]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することかができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらでも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[国教][椿]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にままとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することかができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第2回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第3回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第4回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
第5回	論文の作成指導
第6回	論文の作成指導
第7回	論文の作成指導
第8回	論文の作成指導
第9回	論文の作成指導
第10回	論文の作成指導
第11回	論文の作成指導
第12回	論文の作成指導
第13回	卒業論文発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的大部分は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもないだろう。 上述のことから、史資料の探索、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業は、週に5時間を下回りえない。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% *成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。巷に溢れる「論文の書き方」についての文献は読んでおいて損はないだろうが、参考以上にはならない。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[国教][濱田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08236S

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	長期学外学修
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG08130S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科
中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業は、本学の長期留学プログラムに参加することが前提条件となる。 事前授業・海外研修・事後授業から構成される6カ月間の学外学修に参加することになる。 事前授業では、学外学修に対する学習のほか、現地で実際に学ぶ内容を事前に学修することにより、学びの深化をはかる。 海外研修では、現地での語学学習に加えて、専門領域にかかわる内容の学習活動を専門家の指導のもとで学修する。 事後授業では、学習の振り返りを行い、成果を報告・共有することにより、専門領域の学びを深めることを目指す。
到達目標	・派遣先の国や地域の生活について理解し、円滑な海外研修となるよう基本的な知識を得る。 ・現地での生活を通し、円滑なコミュニケーションが可能な外国語能力を習得する。 ・海外研修を通し、少なくとも大学での履修科目（外国語や文化等）以外に、自分の専門領域にかかわる課外活動等を4単位相当以上実施すること。
授業の進め方	事前・事後学習は、対面形式の講義、オンライン講義、グループワークなどの形式をとる。 また、研修中は原則、対面授業に参加するが、社会的な状況に応じてオンライン講義なども取り入れる可能性がある。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	事前・事後学習では、本大学の学習管理システム「Web Class」を通して課題の提出やフィードバックを行う。 研修中は、現地の教員のやり方に応じてコメントのフィードバックや成績表の配布が行われる予定である。

事前・事後学修	・事前学習 派遣先の国や地域への渡航に関する知識を学習する。 ・事後授業 海外研修の振り返りと成果発表を行うための準備をする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	派遣先の大学の基準に即して調整する。 ・事前学習、課題 20％ ・事後学習、レポート 20％ ・海外研修中の活動への取り組みと達成度 60％
テキスト	必要に応じて教材や資料を配布する。 2025/04/01

参考文献	必要に応じて指定する。

年度	2025
講義名称	組織とコミュニケーション【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07505L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 保浦 聡	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	この講義はビジネス系科目の応用コースです。組織内のコミュニケーションは企業の今日的な課題である「企業統治（コーポレート・ガバナンス）」および「企業の社会的責任（CSR）」、さらには「コンプライアンス」における実質的な企業成果を大きく左右します。受講者には、こうした前提を理解してもらい、「組織とコミュニケーション」の重要性を基礎的な理論とケーススタディによって学修し、組織で活躍できる社会人としての基礎力を身につけます。 はじめに基礎理論では、組織とは何か、組織倫理とは何か、コンプライアンス、コーポレート・ガバナンス、CSR等について学習していきます。次に実践的なケーススタディでは、組織倫理の欠如に起因したと思しき事例を共有し、活性化されたコミュニケーションと良好な組織風土が組織不祥事の回避に有効であるのか、受講者とともに考え知見を深めていきます。
到達目標	組織における今日的な課題である「企業統治（コーポレート・ガバナンス）」および「企業の社会的責任（CSR）」、および「コンプライアンス」についての理解を深め、その重要性について説明することができるようにすること。風通しのよいコミュニケーションの確立とリーダーシップの関係が組織発展の重要な要件であることを理解し、社会人としての基礎力とコミュニケーション能力を向上させることを目標とします。
授業の進め方	【講義方法】 ・基本的に、はじめに、講師が用意する（オンデマンド）教材に沿って講師が説明を進めます（約45分） ・次に、その教材内容を踏まえて、基本的な知識の理解度を確認するための小テストを実施し提出してもらいます（約15分） ・次に、（オンデマンド）教材で当日の講義内課題の説明をします（約15分） ・最後に、講義内課題（レポート）に対応し、課題の提出をしてもらいます（約30分）

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内で実施した課題は、次回講義の冒頭で講評する ・その他疑問点等がある場合には、コミュニケーションツールによって質疑応答します

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：講義概要、進め方、評価方法等	オンデマンド
第2回	基礎的な組織論(1)：組織とは何か	オンデマンド
第3回	基礎的な組織論(2)：日米比較	オンデマンド
第4回	基礎的な組織論(3)：誠実な組織とは	オンデマンド
第5回	組織倫理の視点(1)：コンプライアンス	オンデマンド
第6回	組織倫理の視点(2)：コーポレート・ガバナンス	オンデマンド
第7回	組織倫理の視点(3)：企業の社会的責任および前半総括・中間課題	オンデマンド
第8回	考察のフレームワーク(1)：不正のトライアングル	オンデマンド
第9回	考察のフレームワーク(2)：ステイクホルダー間の構造	オンデマンド
第10回	考察のフレームワーク(3)：組織不条理メカニズム	オンデマンド
第11回	考察のフレームワーク(4)：不祥事抑止の対応	オンデマンド

第12回	ケーススタディ(1)	オンデマンド
第13回	ケーススタディ(2)および全体総括・期末課題	オンデマンド

事前・事後学修	【事前学習】2.5時間相当 ・事前配布された教材中のキーワードのなかの不明点を特定し、web検索、生成AI等を活用しその意味を調べる 【事後学習】2.5時間相当 ・事前学習で調べた不明点が解明されたかどうかを再確認し、不足があればさらに深掘りする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・講義内の確認テストおよび課題提出：50%相当 ・中間課題の提出：20%相当 ・期末課題の提出：30%相当 以上の合計点60%相当以上の者を単位認定する
テキスト	講師が作成
参考文献	必要に応じて提示します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	・講師は、IT企業において20年以上にわたり管理部門に従事し、健全なビジネス運営を図るためのビジネスコントロールの実務をリードしてきました。いわゆるコンプライアンス遵守、情報セキュリティの維持、個人情報、機密情報の保護の実務に精通しています。組織の偽装、隠ぺいといった不祥事が決してなくなることはない実態を踏まえ、その発生メカニズムと実践的な抑止策についてビジネス現場における視点を前提として、受講者と共有できることを盛り込みます

年度	2025
講義名称	コミュニケーション演習
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07504S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	変化の激しい時代を生きるために、課題解決力とコミュニケーション力は最も重要な能力となっています。この授業では、発表、ディスカッション等を実際に体験し、コミュニケーション力を身に付けて行きます。最終課題はコミュニケーション力を総合的に活用し、チームで企画立案、実行、プレゼンテーションをします。自分の考えを伝える力だけではなく、課題解決力+プレゼンテーション力を磨いて行きます。
到達目標	1．自分の考えを的確に伝えることができる。 2．チームでの自分の役割を理解し、協力してコミュニケーションをとることができる。 3．聞き手を共感させるプレゼンテーションができる。
授業の進め方	ディスカッション、チーム活動、プレゼンテーションの形式をとります。 チーム活動は題解決型学習（PBL）を導入し、チームで課題を設定し、企画（企画書作成）、実行、発表をします。 チームでリーダー、サブリーダー、タイムキーパー、書記を決めて、限られた時間の中で、議論を進めて行くため、先を見通した活動が求められます。 事前課題として各自が情報を持ち寄り、それをもとに議論を重ねます。授業内でできない分量は事後学修として課題対応をします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。 学生からの質問については、授業内での全体への解説や個別対応をします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	大学生のコミュニケーション、自己紹介からコミュニケーションを分析	対面授業
第2回	コミュニケーションとは、身の回りのコミュニケーション分析（ノンバーバル、バーバルコミュニケーション）	対面授業
第3回	コミュニケーション・スキル（１）ディスカッションの目的とルール、事例研究	対面授業
第4回	コミュニケーション・スキル（２）企業のテーマでディスカッション、結果発表（中間課題）	対面授業
第5回	コミュニケーション・スキル（３）ディベート①	対面授業
第6回	コミュニケーション・スキル（４）ディベート②	対面授業
第7回	プレゼンテーションの基本：プレゼンテーション事例研究・ミニプレゼン・（中間課題）	対面授業
第8回	企画課題（１）ショート動画で地域を発信しよう：ディスカッション、情報収集、テーマ決定	対面授業
第9回	企画課題（２）ショート動画で地域を発信しよう：動画構成、企画書を作成	対面授業
第10回	企画課題（３）動画の作品制作	対面授業
第11回	企画課題（４）プレゼンテーション構成資料作成	対面授業
第12回	企画課題（５）リハーサル、発表、ピア評価	対面授業
第13回	まとめ、レポート、振り返り	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・授業の前に必要な情報を集めてくる。 ・プレゼンテーションの準備は発表日前に終了しておく。 ・リハーサルは必ず行い、時間配分、聞き手への伝わり方を確認しておく。 【必要な時間】 事前・事後学修の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・提出物等（毎回の提出物・企画書、ピア評価）・・・40％ ・中間課題・・・20％ ・プレゼンテーション・・・20％ ・レポート・・・20％
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	「アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門」:学生のためのプレゼン上達術」、慶応義塾大学教養研究センター監修、慶応義塾大学出版会（2020） 「大学1年生からのコミュニケーション入門」、中野美香著、ナカニシヤ出版（2010）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、役員秘書としての経験を通じ、組織運営の実務や対人対応の技術を身に付け、その後、職業教育やキャリア教育に携わる中で教育の現場での指導力を磨いてきました。これらの経験を基に、実践的なスキルと理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	※日本語教員資格の科目である。受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力等を身に付けて行く。 ※上級ビジネス実務士（国際ビジネス）の履修科目である。

年度	2025
講義名称	国際ビジネス演習
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07314S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は①④⑤をメインテーマとして、グローバル人材として必要な以下の能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autnomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、本演習では海外にビジネスフィールドを有する企業の調査・研究を通して国際ビジネス展開の課題発見と課題解決策を立案する。また当該企業への訪問等により国際ビジネスを実体験する演習です。演習を通して専門知識を活用し課題発見・解決力、そして発信力を高めることを目指します。
到達目標	海外にビジネスフィールドを有する企業の経営戦略を理解し、国際情勢についての理解力を身に付けて、その展望を説明できるようにする。国際ビジネスフィールドで活躍することが可能な人材を育成することを目標にします。
授業の進め方	本演習はPBL方式（Project Based Learning;課題解決型学習）で行います。具体的には海外にビジネスフィールドを有する企業の調査・研究を実施し、その企業が有する国際的なビジネスの拡大の展望と課題を整理し、その課題解決策を立案します。また当該企業への訪問等によりヒアリング、ディスカッション等を実施し解決策の評価、ブラッシュアップを行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 調査・研究企業の選定	対面授業
第2回	選定企業の調査・研究①	対面授業
第3回	選定企業の調査・研究②	対面授業
第4回	選定企業の国際ビジネスフィールド①	対面授業
第5回	選定企業の国際ビジネスフィールド②	対面授業
第6回	中間発表準備～課題発見	対面授業
第7回	中間発表「課題」ディスカッション	対面授業
第8回	解決策の立案①	対面授業
第9回	解決策の立案②	対面授業
第10回	企業提案PowerPointの作成	対面授業

第11回	企業訪問（フィールドワーク）	フィールドワーク
第12回	⑭企業訪問（フィールドワーク）	フィールドワーク
第13回	最終PowerPointの提出・口頭試問	対面授業

事前・事後学修	選定企業の調査研究結果について毎回発表できるようにすると共にグループディスカッションの準備をしてください。毎回の演習においては問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の演習内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。発表資料などは役割分担も含めて責任をもって作成する必要があります。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や国際情勢さらには企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 予習、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内提出物・発表 40％ 中間発表 30％ 期末発表 30％
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	必要に応じて指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な演習を実施します。
備考	授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

年度	2025
講義名称	グローバルマーケティング
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07313L

担当教員

氏名	所属
◎ 猪口 純路	大学・人文学部・国際教養学科

年度	2025
講義名称	国際ビジネス事情 II
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07312L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は②⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には国際ビジネスを展開する企業が直面するリスクの面から企業の経営戦略を理解する力をを身につけます。さらに国際情勢について分析・理解し、企業の国際ビジネス展開の提案の策定を経験します。
到達目標	企業の国際戦略についてリスクを前提に検討し、課題を発見し説明することが出来るようにする。さらに新たなビジネスフィールドでの国際戦略を検討するための応用力とコミュニケーション能力を向上させることを目標にします。
授業の進め方	基本的に授業時間の30%を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」「ディベート」や「グループワーク」を行い「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	ロシアと中国 AI	対面授業
第3回	インフレ イラン、エネルギー危機	対面授業
第4回	「企業選定」中間プレゼンテーション準備	対面授業
第5回	中間プレゼンテーション準備	対面授業
第6回	中間プレゼンテーション準備	対面授業
第7回	「企業選定」中間プレゼンテーション ディスカッション	対面授業
第8回	イノベーション アメリカ	対面授業
第9回	Z世代 水問題	対面授業

2025/04/01

第10回	「企業選定」 期末プレゼンテーション準備	対面授業
第11回	期末プレゼンテーション準備	対面授業
第12回	期末プレゼンテーション準備	対面授業
第13回	期末プレゼンテーション ディスカッション	対面授業

事前・事後学修	選定企業の調査研究結果について毎回発表できるようにすると共にグループディスカッションの準備をしてください。毎回の演習においては問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の演習内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。発表資料などは役割分担も含めて責任をもって作成する必要があります。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や国際情勢さらには企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 予習、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内提出物・発表 40％ 中間振り返り 30％ 期末振り返り 30％
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	必要に応じて指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義を実施します。
備考	授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

年度	2025
講義名称	国際ビジネス事情Ⅰ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07311L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は②⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、海外進出に取組む日本企業の事例を通して、国際社会の実情を理解する力を身につけ、さらに日本の社会・文化を外からの視点で認識する事の重要性を学修します。併せて多国籍企業などの海外企業の国際戦略を理解し、国際ビジネスのフィールドで活躍する基礎力を身につけます。 なお本科目は登録日本語教員養成コアカリキュラムに該当し、「世界と日本の社会と文化」「日本の在留外国人施策」「多文化共生」を全ての授業を通して学修します。
到達目標	企業の国際戦略について様々な分野から検討し、課題を発見し説明することが出来るようにする。さらに新たなビジネスフィールドでの国際戦略を検討するための基礎力とコミュニケーション能力を向上させることを目標にします。 なお国際的に活動を行う人材としてグローバルな視点を身につけるために「国際情勢と人の移動と日本の関係、日本社会と文化」について理解し説明できるようにする。さらに「日本の在留外国人施策」「日本およびの地域社会における多文化共生施策」について理解し説明できるようにする。
授業の進め方	基本的に授業時間の30%を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」「ディベート」や「グループワーク」を行い「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス ケーススタディ「日本企業」	対面授業
第2回	ケーススタディ「日本企業」	対面授業
第3回	中間プレゼンテーション企業の選定	対面授業
第4回	中間プレゼンテーション準備	対面授業
第5回	中間プレゼンテーション準備	対面授業
第6回	中間プレゼンテーション・ディスカッション	対面授業
第7回	中間プレゼンテーション・ディスカッション	対面授業

第8回	ケーススタディ「海外企業」	対面授業
第9回	ケーススタディ「海外企業」	対面授業
第10回	期末プレゼンテーション企業の選定	対面授業
第11回	期末プレゼンテーション準備	対面授業
第12回	期末プレゼンテーション準備	対面授業
第13回	期末プレゼンテーション・ディスカッション	対面授業

事前・事後学修	選定企業の調査研究結果等について毎回発表できるようにすると共にグループディスカッションの準備をしてください。毎回の演習においては問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の演習内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。発表資料などは役割分担も含めて責任をもって作成する必要があります。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や国際情勢さらには企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 予習、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内提出物・発表 40％ 中間振り返り 30％ 期末振り返り 30％
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	必要に応じて指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義を実施します。
備考	授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

年度	2025
講義名称	SDGs特講【遠隔A】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(A)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07310L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 菅井 貴子	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	SDGsは、科学、政治、経済、社会、産業など様々な分野に関わる非常に複雑な問題です。ただ、本質はとてもシンプルかもしれません。 本講義は、SDGsや環境問題を身近に感じることができる北海道の気候変化や異常気象の知識取得を中心に、人と地球システムの関わりや温暖化の基本的な仕組み、大気汚染・河川汚染・森林破壊・ゴミ問題・自然エネルギー・GXなどを学びながらディスカッションやプレゼンテーションを行うことで、環境意識を高め、持続可能な社会形成に向けて自身の考えをもち、議論ができるようになることを目的とします。
到達目標	SDGsに対するの基本的なアカデミックスキルを身につけ、環境意識の向上と問題の現状や課題について理解を深める。 持続可能な社会形成に向けて自身の考えを持ち、自身の言葉で表現ができるようになる。
授業の進め方	講義はパワーポイントスライドを中心に行います。 課題にあわせて、自身で調査し資料を作成し、5分前後のプレゼンテーション発表をしてください。 聴講後、ディスカッションや感想・提言レポートなどの提出もあります。 なお、授業計画は時事社会ニュースなどにより変わる可能性があります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で解説するとともに、参考資料等があれば適宜提示いたします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	講義オリエンテーション プレゼンテーションのポイント	同時双方向
第2回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第3回	北海道の気候多様性	同時双方向
第4回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第5回	地球温暖化と温室効果ガス	同時双方向
第6回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第7回	大気汚染物質・オゾン層破壊などの基礎知識	同時双方向
第8回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第9回	異常気象と自然災害 その課題と「適応策」	同時双方向
第10回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向
第11回	生物多様性とレッドリスト・ブルーリスト	同時双方向
第12回	ニュースプレゼンテーション	同時双方向

第13回	授業まとめ ニュースプレゼンテーション 確認小テスト	同時双方向

事前・事後学修	信頼性の高いネットニュースや、新聞、雑誌、テレビ、SNSが提供するSDGsに関する話題を積極的に読み、自らがどう考えるかをまとめておいてください。 なお、新聞各紙は大学図書館で閲覧できますので、積極的に活用の心掛けを習慣づけましょう。 (事前) 前講義で課題の提示がありますので、調べておいてください (事後) 講義内容をしっかりと整理し、自らの意見なども次の講義で述べられるように、考えをまとめておいてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①課題提出 40% ②授業でのプレゼンテーション 30% ③レポート・確認テスト 30%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、テレビ、ラジオ、新聞、SNSなど幅広いメディアでの気象や災害報道を担当するとともに、SDGsや温暖化、環境、エネルギー、自然災害に関する執筆や講演活動を通じて知識を広めてきました。これらの経験を基に、現実的な課題と理論を結び付けた実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	国際関係論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07309L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂口 可奈	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	現代の国際社会では、どのような個人でも国際社会の動きと無縁ではいられない。 このような時代では、国際関係に関する知識を主体的に学び、それを活用する姿勢が必須である。 そこで、本講義ではまず教員が国際関係に関する基礎を講義する。その後、学生諸君に自身が設定した研究テーマのプレゼンテーションを行ってもらおう。 これによって、さまざまな事例を通して国際関係論の基礎を学び、それをもとに現代の国際関係を分析する力を身に着けることを目的とする。 同時に、この講義を通して、人類の過去の教訓を未来に生かす方法を考える力を養ってもらいたい。
到達目標	・より広い視野と知識のもとで国際社会の動きを分析することができるようになること。 ・自分の研究成果を他人にわかりやすく伝えられるようになること。
授業の進め方	・本講義は教員による講義形式と受講生諸君によるグループワーク&プレゼンテーションを併用してすすめる。 ・履修者確定後、シラバスの授業計画に示したテーマの中から担当テーマを決定する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・次週授業の冒頭に課題への講評と解説を行う。 ・グループワークやプレゼンテーションの場合は授業中に講評する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス＋国際関係論の基礎	対面
第2回	国際関係論の諸理論	対面
第3回	過去の戦争から何を学ぶか	対面
第4回	国際社会の役割と保護する責任	対面
第5回	核兵器	対面
第6回	時事問題から世界を見る	対面
第7回	テロリズム	対面
第8回	サイバー安全保障	対面
第9回	ヒトの移動	対面
第10回	学生プレゼン（テーマ：戦争・紛争・内戦）	対面
第11回	学生プレゼン（テーマ：テロ・サイバー攻撃）	対面
第12回	学生プレゼン（テーマ：移民・難民）	対面
第13回	アジアをめぐる国際関係＋まとめと振り返り	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習：授業中に指示した課題に取り組むこと 次週のテーマに関連した国際ニュースに触れて、自分なりの見解をまとめておくこと 自分の設定したテーマの発表準備を進めること 事後学習：授業内容をノートにまとめること プレゼンで指摘された点を改善すること
	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ミニ課題：20％ 研究発表プレゼンテーション40％ 試験 40％ ミニ課題と試験については国際関係論についての基礎知識を身に着けていること、自分の意見を論理的に説明できていることを評価基準とする。研究発表プレゼンテーションについては、自分のチームが設定したテーマについての調査研究結果をわかりやすく伝えられているかを評価基準とする。
テキスト	授業内でレジュメを配布する
参考文献	テーマに合わせて適宜授業内で紹介する。ただし、プレゼンテーションのテーマに関連する文献については各自で探すこと。

備考	・プレゼンテーションに関する説明は初回授業と二回目授業にのみ行う。履修変更可能期間中であっても、履修を希望する学生は必ずどちらかに参加するようにしてほしい。 ・受講生は必ずプレゼンテーションを行うこと。

年度	2025
講義名称	博物館情報・メディア論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07235L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 水崎 禎	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	現代社会においては様々なメディアの形態が存在します。そして、それらは日々進化し、変化しています。情報はこれらメディアによって伝達、およびアクセスされます。博物館でも、その活動においてどのようなメディアをどのように利用するのかを考えなければなりません。また、情報の種類とその扱い、および管理についての理解も重要です。博物館情報・メディア論の目的は、博物館活動において必要な情報について理解し、情報化社会における博物館のあり方を学修することです。
到達目標	博物館における情報の保存・管理、および活用とメディアとの関連、これらについての課題等を理解し、説明できる。
授業の進め方	講義形式での授業が基本です。 授業では適宜学生を指名して意見や考えを答えてもらいます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	■ガイダンス：授業の目的/概要/留意事項、博物館の定義の確認 ◆シラバス記載内容、および各回の授業スケジュールについて ◆受講に関する決まり事 ◆博物館学、および学芸員課程についての理解の確認
第2回	■『博物館情報・メディア論』について ◆学芸員課程省令科目の変遷と、学芸員課程の中に『博物館情報・メディア論』が組み込まれた経緯 ◆『博物館情報・メディア論』で学ぶべき事 ◆『博物館情報・メディア論』の元となった『視聴覚教育メディア論』の重要な要素である「視聴覚教育」について
第3回	■情報の種類について ◆科目名である『博物館情報・メディア論』より、「情報」とは何かについて ◆「博物館での情報」の捉え方
第4回	■メディアについて ◆科目名である『博物館情報・メディア論』より、「メディア」とは何かについて ◆「博物館でのメディア」についての考え方
第5回	■ドキュメンテーション / データベース ◆博物館に於いてのドキュメンテーションとは？ ◆博物館でのデータベースの在り方
第6回	■博物館情報と博物館の役割 ◆博物館が管理している情報を意識したうえで、博物館の役割を遂行するにあたっての考え方

第7回	■情報の保護と権利：知的財産権、著作権 ◆知的財産権、および著作権について ◆知的財産権、および著作権についてのトピック、事例
第8回	■情報の保護と権利：肖像権、個人情報 ◆肖像権、および個人情報について ◆肖像権、および個人情報についてのトピック、事例
第9回	■ホームページ、ミュージアム・アイデンティティ ◆博物館のホームページについて：博物館と外部のコミュニケーション手段 ◆ミュージアム・アイデンティティ：博物館のミッションとシンボルマーク
第10回	■展示と情報メディアの活用 ◆展示での情報メディアの活用と事例
第11回	■博物館と情報メディアに関する課題 ◆博物館情報と博物館メディアの課題に関する事例とトピック
第12回	■認識、感覚、イメージの体感について ◆“Interactive Experience Model”と“Physical Context” ◆博物館での情報メディアの効果の認識 ◆視覚による文字・画像の効果 ◆聴覚による効果
第13回	■今後へ向けて + 試験 ◆今後、どのように学芸員課程に取り組んでいくか ◆期末試験

事前・事後学修	◆各回の授業内容が以降の授業にかかわってきます。また、この科目は他の学芸員課程の科目と関連しております。よって、授業で学んだことはしっかりと復習し、他の回の授業、および他の学芸員課程の科目でも応用して反映できるよう心がけて下さい。疑問点がある場合は授業で講師に確認して下さい。 ◆予習としては、シラバスに示された次回の講義タイトルに関連した出来事を意識し、自分なりの考えをもって、次回の授業に臨んで下さい。 ◆復習は、授業で学んだことや自身でメモしたことを忘れる前に、今後へ活かせるようにまとめる等して下さい。 ◆日頃から、博物館における情報に関するニュースがないか、授業で学んだ事柄と関連する出来事がないかを意識し、自分なりの思考を巡らせて下さい。 ◆予習・復習の時間は、予習2時間・復習3時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	試験：74% 課題：13% 毎回の設問シート：13% ※提出課題の遅延は減点の対象となります。 ※受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする可能性もあります。
テキスト	適宜印刷物を配布します。 ※テキスト配布の決まり事については、第1回のガイダンスにて「受講に関する決まり事」として説明した内容に基づきます。
参考文献	参考文献等に関しては、必要に応じて授業でその都度紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の人数	担当教員は、アメリカのMidwest Archeological CenterおよびBertrand MuseumでMuseum TechnicianやCollection Managerとして資料管理や保存の業務に従事している。2025/04/01現在、実務経験のある教員は1名である。

る教員の経歴 と授業内容	実務経験を積みました。また、学芸員課程で多彩な科目を担当し、博物館運営の知識と技術を広めています。これらの経験を基に、理論と実践を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	◆学芸員資格取得の必修科目であるため、「博物館とは何か？」についての理解があることを前提としております。よって、『博物館概論』を受講済みであることが望ましい。 ◆出欠等については、基本的に大学の規定に則ります。 ◆出席確認の方法については、第1回のガイダンスにて「受講に関する決まり事」として説明した内容に基づきます。 ◆講義資料の配布期間の決まりについては、第1回のガイダンスにて「受講に関する決まり事」として説明した内容に基づきます。

年度	2025
講義名称	博物館教育論
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07234L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	博物館が担う重要な社会的な役割の一つとして教育がある。本講義では、博物館が果たすべき機能の一つとしての教育の目的・歴史・課題について学び、学芸員にとって必要な理論と現状を理解することを目的とする。博物館教育活動の実践例を国内外の事例を取り上げ比較し、そこでの方法や実践的課題をみていくとともに、学芸員の果たすべき役割についても考えていく。
到達目標	博物館教育が実際にどのように進められてきたのか、実践的課題を説明できるようになるとともに、今後、学芸員が果たしていくべき役割についても説明できるようになる。
授業の進め方	講義形式で進める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の講義内容については、感想・意見・質問を記すコメントペーパーを提出してもらい、その内容についてフィードバックする。また講義中に実施する小テストの結果についても解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション：博物館教育とは？
第2回	博物館教育の歴史的展開
第3回	博物館教育の環境整備
第4回	博物館教育活動の実践（１）：海外での事例
第5回	博物館教育活動の実践（２）：日本での事例
第6回	博物館と学校教育
第7回	博物館と大学教育
第8回	博物館の種類別にみた教育活動
第9回	博物館と地域社会
第10回	博物館における人材育成
第11回	博物館の役割の変化と博物館教育
第12回	博物館教育と情報通信技術
第13回	期末試験とまとめ・解説

事前・事後学修	配布した資料や紹介した参考文献を閲覧・読解、コメントペーパーの記述に要する予習・復習には、それぞれ2時間程度を必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している博物館教育の実践的課題についての理解を期末に行う試験の評価基準とする。博物館教育において学芸員が果たすべき役割についての理解を小テストの評価基準とする。 評価方法の割合は、期末試験（60％）、講義中の小テスト（25％）、外部施設見学レポート（15％）とする。 提出課題の遅延は減点の対象とする。受講態度に著しい問題がある場合は、成績を不合格とする可能性もある。
テキスト	適時、講義資料はPortalサイトより配布する。各自が必要に応じてダウンロード・印刷してほしい。
参考文献	随時指摘する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、埋蔵文化財調査センターで展示と普及教育業務に従事した経験があり、その実務経験に基づき博物館教育にかかわる講義を行う。
備考	学芸員資格取得の必修科目である。

年度	2025
講義名称	博物館展示論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07233L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目的とする。
到達目標	博物館における展示の基礎知識と応用力を身につけることができる
授業の進め方	基本的に講義形式であるが、発表や本学博物館等を利用して実践的に展示について学ぶことを目指す。 博物館展示の意義を歴史的観点から整理し、コミュニケーションの媒体として、展示が持つ様々なメッセージをどのように展示をしてきたかを明らかにし、また実際の展示の諸形態を、展示解説や展示制作等の実例やグループ活動をおこないながら実践的に展開する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	展示作業などのグループ活動において、グループ同士の評価を実施する(他評価) また講義内の課題としてさまざまな展示に関わる発表を行い、その講評を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	博物館とは（博物館法、博物館の役割の再確認）
第2回	展示とは（展示とは何か、展示の歴史）
第3回	展示の持つメッセージ（展示の政治性と社会性）
第4回	展示の諸形態
第5回	展示の製作（企画から施工まで）
第6回	展示の管理（関係者との協力）
第7回	展示の評価
第8回	展示のデザイン
第9回	展示のストーリーライン
第10回	展示計画と展示方法
第11回	展示の解説活動とは
第12回	解説文・解説パネルについて
第13回	解説の方法 まとめ

事前・事後学修	毎回の授業内容をきちんと整理し、まとめておくこと。 多くの博物館を見学すること。 予習・復習の時間は、それぞれ3時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	提出物 40％ 定期試験レポート 60％
テキスト	特になし。適宜資料を配布する。
参考文献	『博物館展示論』2016 稲村哲也 放送大学教育振興会

備考	博物館学芸員資格必修科目 博物館見学を積極的に行い、展示方法について学ぶことが望ましい。

年度	2025
講義名称	[冬集]博物館経営論【遠隔B】
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07232L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	博物館の今日的課題、使命、社会的役割について考察し、なぜ博物館に経営が必要であるのかを理解する。博物館の管理・運営に関わる経営基礎および経営手法、利用者とのかかわり、地域社会との連携、博物館ネットワークについて取り上げ、博物館の将来像について考える。
到達目標	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解する。博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する知識と方法を習得し、学芸員としての基礎的能力を身につけることを目標とする。
授業の進め方	博物館経営に関わる基礎知識について、パワーポイント・映像を活用して講義する。また講義内容をもとにした課題提出をしてもらう。講義内容をもとに、学生による意見交換や発表をおこなう時間を確保する。また、実際の博物館見学を行い経営の在り方について学ぶ。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で授業内容をもとにした課題を提出してもらい、授業中にフィードバックを行う。 また博物館見学をするにあたって事前事後学習を実施する。見学博物館において自己課題を抽出させ、それに基づいて見学し、事後レポートとして提出する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：本講義のねらい・概要	同時双方向
第2回	博物館の今日的課題	同時双方向
第3回	ミュージアムマネジメント	同時双方向
第4回	博物館の行財政制度・財務	同時双方向
第5回	博物館の施設・設備	同時双方向
第6回	博物館の組織と職員	同時双方向
第7回	博物館の使命・計画・評価	同時双方向
第8回	博物館の行動規範	同時双方向
第9回	博物館の危機管理	同時双方向
第10回	博物館の広報・マーケティング	同時双方向
第11回	博物館の市民参画・地域社会と博物館	同時双方向
第12回	博物館ネットワーク・博物館と他機関との連携	同時双方向
第13回	市内博物館見学・フィードバック	

事前・事後学修	毎回の授業内容をきちんと整理し、まとめておくこと。 多くの博物館を見学すること。 予習・復習の時間は、それぞれ3時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	提出物 20％ 小レポート 20％ 定期試験レポート 60％
テキスト	なし 適宜プリントを配布する。
参考文献	フィリップ・コトラー 井関利明訳『ミュージアム・マーケティング』2006

備考	博物館学芸員資格必修科目。 博物館学芸員資格に関する科目を受講していることが望ましい 市内博物館見学を実施予定。入館料、交通費等で2～3000円程度の費用が必要となる。

年度	2025
講義名称	史料演習
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07231S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は、20世紀前半のヨーロッパで活躍し、現在の考古学の基礎を築いたと評価されるヴィア・ゴードン・チャイルドが著した古典的文献の読解を通して、ヨーロッパにおける考古学の基礎的な枠組みの形成過程について理解するとともに、文献の読解から情報の理解・整理・発表の仕方を学んでいくことを目的とする。本演習によって、過去のモノから人類の歴史を解き明かすための手続きがどのようにして確立されてきたのかを把握していく。文献の担当部分を決め、各自がそれぞれの担当部分について発表を行い、全員でそれについて討論を行う。
到達目標	文献の読解から内容の整理と口頭発表の方法を習得するとともに、効果的・生産的な討論の仕方を把握する。また自立的な情報収集と判断ができるようになる。
授業の進め方	各自の担当部分について、内容を整理したレジュメを作成し、発表を行う。全員でその内容について討論する。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭発表とレジュメの作成方法について指導を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	チャイルドの考古学（１）：何が特徴か
第3回	チャイルドの考古学（２）：文化・伝播・進化
第4回	レジュメ発表（１）：考古学とは何か
第5回	レジュメ発表（２）：考古学の起源と発達
第6回	レジュメ発表（３）：考古資料の本体
第7回	レジュメ発表（４）：機能の判定
第8回	レジュメ発表（５）：編年
第9回	レジュメ発表（６）：時代と時期と年代
第10回	レジュメ発表（７）：分布区分の設定
第11回	レジュメ発表（８）：文化の変化
第12回	レジュメ発表（９）：考古学の本領
第13回	まとめと総括

事前・事後学習	担当回にあたっては事前にレジュメを作成・印刷し、演習当日に参加者全員に配布する。自らの担当回でなくとも、文献の内容については各自が読了し、内容の理解に努めておく。事後には発表内容に基づいてあらためて該当部分の読解を行っておく。事前・事後学習にはそれぞれ2時間程度を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	演習における口頭発表とレジュメについて50%、討論への貢献について50%を総合して評価する。
テキスト	ヴィア・ゴードン・チャイルド著『考古学の方法』河出書房新社（近藤義郎訳）
参考文献	内容の理解にあたって必要となる文献については、随時指摘する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、埋蔵文化財調査センターに勤務の実績があり、その実務経験に基づいて考古学の基礎的な方法の理解について指導を行う。
備考	取り上げる文献の内容を理解するのにあたって必要となる背景については、担当教員が適時指導するが、自らも積極的に関連する考古学の知識の理解に努めてもらいたい。

年度	2025
講義名称	考古学実習
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07230P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科
高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	歴史を理解するための学問領域の1つである考古学の基本は、発掘調査によって掘り出した遺構や遺物について研究することにある。本講義では、その基礎的操 作としての遺跡の発掘について、目的、方法をどのように決めるのか、また、見つかった遺構や出土遺物をどのように取り扱うのかについて学ぶ。その技術や知識 をもって、実際の発掘調査に向けての準備と、発掘実習を行う。
到達目標	考古学のフィールドワークに必要な発掘調査に関連する最低限度の機器に関する知識、現場調査、およびその記録作業ができる。
授業の進め方	考古学・博物館実習室、構内において講義および機器操作の実習を行なうほか、8月～9月の夏季休業中に倶知安町で発掘実習を行う予定である。履修者はこの調 査に数日間参加しなければならない。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発掘調査の意義について、認識度を確認するアンケートを実施する。 機器操作を全員が理解するまで何度もフィードバックを行う。 実習で学んだ技術・知識を使い、夏季休業中に発掘調査を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス～授業の内容と発掘調査に関する説明
第2回	発掘調査について ①調査の意義 ②発掘調査から報告書まで
第3回	General Survey(分布調査) 大学周辺の遺跡と地形
第4回	発掘調査でみつかるもの 遺物と遺物
第5回	測量実習1 レベル1
第6回	測量実習2 レベル2
第7回	測量実習3 断面図1
第8回	測量実習4 平板1
第9回	測量実習5 平板2
第10回	測量実習6 トータルステーション1（外部講師を予定）
第11回	測量実習7 トータルステーション2（外部講師を予定）
第12回	調査までのまとめ

第13回	発掘調査準備（機材整備など）・フィードバック

事前・事後学修	発掘調査の意義について、遺跡の調査についての文献を読み、認識を深めること。また、授業外でも機器操作の練習をおこない、習熟に努めること。 日常から考古学に関する新聞、テレビなどの報道に関心を持つこと。 予習・復習の時間はそれぞれ3時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	機器操作の習熟度（30％） 発掘調査の意義の理解（40％） 講義ごとの成果提出（30％）
テキスト	特になし。授業中にプリントを配付する。
参考文献	文化庁文化財部記念物課監『定本 発掘調査のてびき』2016

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	埋蔵文化財調査センターにおいて調査員としての実務経験を有する教員が発掘調査にかかわる技術や知識についての指導を担当する。
備考	フィールドワークとして、8月、9月中に倶知安町の遺跡を発掘調査する（予定）。遺跡の調査方法について理解し、調査手法を修得するための実習となる。 考古学、先史文化論などを履修しておくこと。 ・実習費5,000円を徴収する。 ・発掘調査の宿泊費用（2～4万円程度）が必要となる。 ※2級考古調査士資格の必修科目

年度	2025
講義名称	韓国語学概論【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07129L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国語の構造を言語学的な観点から概論的に理解することを目的としています。 韓国語の歴史をはじめ、文字、音韻、意味、語用、敬語、方言など、多様な分野に触れながら、韓国語に関する基礎知識を蓄えます。 さらに、韓国語と日本語を比較することで、両言語の特徴や共通点・相違点を明確にし、対照言語学的な観点から深く理解を深めます。 授業の概要 本授業では、韓国語の言語的特徴を体系的に学びながら、日本語との比較を通じてその特性を明らかにしていきます。 授業では、講韓国語の歴史的背景や文法体系、音韻や語用などの言語的特徴について幅広く扱い、韓国語と日本語の比較にも焦点を当てます。 授業動画や資料を活用し、自主的に学習を進められるよう構成されています。 理解を深めるための課題や確認テストを通じて学んだ内容を整理し、韓国語の言語学的な特徴について体系的に習得することを目指します。
到達目標	・韓国語の構造や特徴、使用方法、歴史、文化的背景を理解し、言語としての韓国語に対する基礎的な知識を身につける。 ・韓国語の発音、表記法、品詞、文法、語彙などについて学び、体系的な理解を深める。 ・韓国語の特徴や文化的背景を把握し、より正確かつ効果的に韓国語を使用できるようになる。 ・日本語との比較を通じて、日本語への理解を深め、両言語の相違点や類似点を把握することで、言語学的な視点を養う。
授業の進め方	本授業はオンデマンド形式で行われ、各自が映像講義や教材を通じて学習を進めます。 講義では、韓国語の基本的な構造や特徴について概説し、言語学的な観点から体系的に学びます。 学習内容をもとに、自分の考えを整理し、課題やレポートを通じて学んだことを表現し、知識を定着させます。 日本語との比較を意識しながら学習を進めることで、韓国語の特性をより深く理解できるようにします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、WebClassと通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・韓国語についての基礎知識	オンデマンド
第2回	文字について①	オンデマンド
第3回	文字について②	オンデマンド
第4回	音韻について①	オンデマンド
第5回	音韻について②	オンデマンド
第6回	意味について①	オンデマンド
第7回	意味について②	オンデマンド
第8回	単語と品詞について①	オンデマンド
第9回	単語と品詞について②	オンデマンド
第10回	文構造について①	オンデマンド
第11回	文構造について②	オンデマンド
第12回	敬語・方言について①	オンデマンド

第13回	敬語・方言について② 期末テスト	オンデマンド

事前・事後学修	予習の内容は「基本知識の学び」、復習の内容は「内容の振り替え」にします。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート 20％ 小テスト 30％ 課題 10％ 期末試験 40％
テキスト	担当教員による配布
参考文献	『韓国語概説』大修館書店

備考	・ハングルの知識が必須です。 ・各回の内容は変更する場合があります。

年度	2025
講義名称	韓国文化概論
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07128L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国の伝統文化・現代文化・大衆文化を通じて、韓国の風俗、思想、歴史、芸術などを総合的に理解することを目的とします。 講義では、さまざまなコンテンツを活用しながら韓国文化に関する基礎知識を身につけ、日本文化との比較を通じて、両国の文化的特徴や相違点について考察します。 さらに、日韓交流の歴史にも触れながら、両国の文化交流の意義を理解し、将来的に日韓に架け橋となる人材の育成を目指します。
	授業の概要 本授業では、韓国の伝統文化から現代の大衆文化まで幅広く学びます。 韓国の歴史的背景や社会的要素を踏まえつつ、日本文化との比較を行い、異文化理解を深めます。 授業では、映像教材やテキストを活用し、受講生は各自で学習を進めながら、課題やレポートを通じて学んだ内容を整理・考察します。 日韓の文化交流の事例を分析することで、両国の関係性をより深く理解し、異文化間コミュニケーションの重要性を学びます。
到達目標	・韓国の文化を多角的に理解し、分析する力を養う。 ・韓国の歴史、哲学、宗教、芸術、文学などのさまざまな側面から、韓国文化の本質や特徴を把握し、他の文化との比較を通じて理解を深める。 ・韓国文化を理解するために必要な知識やツールを習得し、異文化への理解を深める。 ・韓国と他国の文化交流の意義を理解し、異文化間の相互理解を促進する視点を身につける。
授業の進め方	各テーマごとに、韓国文化の基本的な概念や重要な出来事、代表的な作品などを紹介し、その背景にある歴史や社会的要因について学びます。 また、韓国文化と受講生の母国の文化を比較するテーマを取り上げ、異文化理解を深める視点を養います。 授業は講義を中心に進めますが、適宜ディスカッションや発表の機会を設け、学んだ内容を整理しながら理解を深めていきます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、Web Classと通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・本授業についての説明 文化と異文化理解	対面
第2回	韓国についての基礎知識①	対面
第3回	韓国についての基礎知識②	対面
第4回	衣食住①	対面
第5回	衣食住②	対面
第6回	生活①	対面
第7回	生活②	対面
第8回	K-コンテンツ①	対面
第9回	K-コンテンツ②	対面

第10回	韓国と日本	対面
第11回	発表①	対面
第12回	発表②	対面
第13回	まとめ・期末試験	対面

事前・事後学修	予習の内容は「基本知識の学び」、復習の内容は「内容の振り返り」にします。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート15％ 発表15％ 課題20％ 期末試験50％
テキスト	担当教員による配布
参考文献	『韓国学ハンマダン』岩波書店 『コツコツ知ろう 韓国の社会と文化』博英社 『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』大月書店

年度	2025
講義名称	韓国語特講【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07127L

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、韓国語能力試験（TOPIK）やハングル能力検定試験などの語学試験に向けて、必要な言語スキルを習得し、試験合格を目指すことを目的とします。 試験対策だけでなく、韓国語の理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を向上させることも重視します。 授業の概要 本授業では、韓国語の語彙・文法・読解・聞き取りなど、語学試験に必要なスキルを体系的に学習します。 試験形式に沿った問題練習を行いながら、実践的な対策を進めます。 さらに、韓国語の運用能力を高めるために、実際のコミュニケーション場面を想定した練習を取り入れ、試験合格だけでなく、実用的な韓国語力の向上を目指します。
到達目標	・語学試験（TOPIKやハングル能力検定試験）の合格に必要な語彙・文法・読解・聞き取りのスキルを習得する。 ・試験形式に慣れ、時間配分や解答のコツを身につけることで、自信を持って試験に臨めるようになる。 ・韓国語の理解を深め、試験対策だけでなく、実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。
授業の進め方	本授業はオンデマンド形式で行われ、受講生は講義動画や教材を活用して自律的に学習を進めます。 講義では、基本的な概念や文法ルール、言語の使用法について解説し、語学試験に必要な知識を体系的に学びます。 教材やサンプル問題を用いて理解を深め、実践的なスキルの習得を目指します。 また、学習した言語スキルを定着させるため、聞き取りや読解の練習問題、文法・語彙の演習など多様な形式の演習を取り入れます。 各自のペースで学習を進められるよう構成させており、試験対策と実践的な韓国語運用能力の向上の両面をサポートします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	メールまたは、Web Classを通してフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 試験の概要と試験対策の紹介	オンデマンド
第2回	TOPIK① 文法・語彙の学習 聞き取り	オンデマンド
第3回	TOPIK② 文法・語彙の学習 読解	オンデマンド
第4回	TOPIK③ 文法・語彙の学習 聞き取り	オンデマンド
第5回	TOPIK④ 文法・語彙の学習 読解	オンデマンド
第6回	ハングル検定① 文法・語彙の学習 聞き取り	オンデマンド

第7回	ハングル検定② 文法・語彙の学習 読解	オンデマンド
第8回	ハングル検定③ 文法・語彙の学習 聞き取り	オンデマンド
第9回	ハングル検定④ 文法・語彙の学習 読解	オンデマンド
第10回	総合演習と模擬試験① 文法・語彙の学習	オンデマンド
第11回	総合演習と模擬試験② 文法・語彙の学習	オンデマンド
第12回	総合演習と模擬試験③ 文法・語彙の学習	オンデマンド
第13回	まとめ 期末試験	オンデマンド

事前・事後学修	次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	メールまたは、Web Classを通してフィードバックします。
テキスト	担当教員による配布。
参考文献	なし

年度	2025
講義名称	中国語学概論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07126L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中村 真衣佳	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	・現代中国語について言語学的観点（音韻、形態、統語、意味、語用）から学び、「中国語とはどのような言語か」について理解を深める。 ・日中対照言語学の観点から中国語と日本語の共通点と相違点について理解する。 ・基礎的な言語学的知識を学んだうえで、グループワークを取り入れて学んだ知識を言語分析に使用することにも挑戦する。
到達目標	・「中国語」とはどのような言語かを理解し、言語学的な視点で中国語を考察できるようになる。 ・中国語を母語や他の言語と比較し各言語の特徴を分析する力を身につける。
授業の進め方	基本的に対面で行う。講義形式で進めるが、授業の後半で活動を取り入れる。初回の授業で授業の進め方についてガイダンスを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題（授業で扱った内容についてまとめたもの）にコメントする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンスと自己紹介 基礎知識（「中国語」とは何か・「中国語学」とは何か）
第2回	中国語の文字（漢字の字体・発音表記・注音符号を覚えよう）
第3回	中国語の音の仕組み（中国語の音と構造・中国語の弁別的な音・中国語と日本語の音の比較・中国語の早口言葉に挑戦）
第4回	世界の言語の中の「中国語」
第5回	中国語の語彙（カテゴリー化・語の構造・外来語・オノマトベ）
第6回	中国語の語の分析（新語・流行語・語形成）
第7回	中国語文法 1（述語による文のタイプ）
第8回	中国語文法 2（伝達機能による文のタイプ）
第9回	中国語文法 3（語順のタイプ）
第10回	中国語文法 4（語順と情報構造）
第11回	中国語の語用論 1（状況と言語表現）
第12回	中国語の語用論 2（状況と言語表現）
第13回	まとめと復習

事前・事後学修	特になし

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業参加（出席・発表・貢献度）50%と学期末のレポート50%を合算して評価する。
テキスト	授業時に資料を配布する。
参考文献	木村英樹（2017）『中国語はじめての一步（新版）』（ちくま学芸文庫）筑摩書房 新井一二三（2014）『中国語は楽しい：華語から世界を眺める』筑摩書房 池田巧（2014）『中国語のしくみ（新版）』白水社 橋本陽介（2022）『中国語とはどのような言語か』東方書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日中対照言語学や中国語教育、言語学概論、日本語教授法など幅広い分野で豊富な指導経験を持ち、それぞれのテーマに深く精通しています。これらの実務経験を基に、理論と実践を結び付けた具体的で充実した学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	中国文化概論
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07125L

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業では、中華文化に関する多様なテーマに基づき、中国の伝統的な風俗習慣や現代の社会文化を理解することを目指します。 日本人と中華圏の留学生の対話や交流による比較の視点を通じて、異文化間の共通点や相違点を発見し、対日・対中感情の分析や関係の構築に必要な要素を検討し、身近なテーマを通じた文化外交による相互理解を深めましょう。
到達目標	【到達目標】 ・中華圏に特徴的な伝統文化や現代の社会文化について説明できる。 ・中国と日本の文化、政策、言語の共通点や相違点について説明できる。 ・中華圏の人々と言語・非言語コミュニケーション方略を用いて積極的に対話できる。
授業の進め方	【講義方法】 対面講義形式を中心に、必要に応じて演習形式と組み合わせて行います。学習管理システム「manaba」を用いて講義を進めていく。 中国語の産業通訳、観光ガイド、企業インバウンド研修の実務経験を有する教員が、中華圏の社会、言語、文化の多様性や日本とのコミュニケーション様式の相違などに配慮した実践的なコミュニケーション方略を取り入れながら指導を行います。教員が講義、指導を行うだけでなく、ディスカッションやグループワークを通して学生に主体的かつ協調的な学びの態度を身に付けさせます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 ・授業の冒頭で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。 ・授業中に出された質問やコメントに授業内で回答します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス（自己紹介、中華圏への渡航経験、研究関心の共有）	対面授業
第2回	②「地図で知る中国」のついで概説	対面授業
第3回	③「現代中国の暮らし」のついで概説その①	対面授業
第4回	④「現代中国の暮らし」のついで概説その②	対面授業
第5回	⑤中国社会の基礎：共産党についての概説	対面授業
第6回	⑥中国社会の基礎：社会主義国家と経済成長についての概説	対面授業
第7回	⑦中華帝国の歴史についての概説その①	対面授業
第8回	⑧中華帝国の歴史についての概説その②	対面授業
第9回	⑨日中関係の歴史についての概説その①	対面授業
第10回	⑩日中関係の歴史についての概説その②	対面授業
第11回	総ざらいと研究テーマの設定	対面授業
第12回	⑫成果発表の準備とプレゼンテーション資料の作成	対面授業

第13回	⑬PPTによる成果発表と相互評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・テキストや文献を事前に読み、要点や問題意識について理解しておく。 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み 30% ②課題の提出と積極性 30% ③発表やプレゼンテーションと完成度 40%
テキスト	【テキスト】 『図解でわかる14歳から知っておきたい中国』（インフォビジュアル研究所, 2018, 太田出版）
参考文献	【参考文献】 『ようこそ中華世界へ』（川島真編, 2022, 昭和堂）

備考	①中国語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。 ②教員の公務などのやむを得ない事情により、授業計画を変更する場合もある。 ③授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	中国語特講
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07124L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中村 真衣佳	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、映画・ドラマ・ドキュメンタリーをはじめとする映像コンテンツを題材として、中国・台湾の世相、文化的特徴、言語行動を理解することを目的としている。 作品が「どのような意図で作られたか」「何を伝えようとしているか」という観点から鑑賞し、授業中に内容の解釈についてアウトプットとディスカッションを行う。
到達目標	学習者の出身国・地域のコンテンツの特徴との比較を通じて、共通点や相違点を発見し、メディアを通じて形成されるイメージや表象の多面性について研究することを目指す。
授業の進め方	・初回の授業で授業の進め方についてガイダンスを行う。 ・題材、考察の枠組み、13回目の発表方法については必要に応じて説明する。 ・授業時に映像作品（映画、ドラマ、ドキュメンタリーなど）を鑑賞し、作品の基本情報と内容を理解した上で、映像を考察する。 ・参加者の人数や希望に応じて進め方を調整するが、基本的に対面式で進めていき、演習のため発表・ディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題（13回目の授業で発表した内容についてレポートにまとめる）

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・ガイダンス（題材・枠組み紹介） ・自己紹介 ・映像視聴（日台映画『青春18×2 君へと続く道』）	
第2回	考察とディスカッション（台湾映画『青春18×2 君へと続く道』）	
第3回	映像視聴（中国映画『さらばわが愛霸王別姫』）	
第4回	考察とディスカッション（映画『さらばわが愛霸王別姫』）	
第5回	映像視聴（中国映画『活きる』）	
第6回	考察とディスカッション（映画『活きる』）	
第7回	映像視聴（中国ドラマ『家族の名において』）	
第8回	考察とディスカッション（中国ドラマ『家族の名において』）	
第9回	映像視聴（台湾映画『1秒先の彼女』）	
第10回	考察とディスカッション（台湾映画『1秒先の彼女』）	
第11回	映像視聴（台湾映画『夏のレモングラス』）	

第12回	考察とディスカッション（台湾映画『夏のレモングラス』）	
第13回	・受講者による発表とディスカッション ・映像視聴（作品は未定、受講者の希望を聞いて決定する）	

事前・事後学修	特になし

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業参加（出席・発表・貢献度）50%と学期末のレポート50%を合算して評価する。
テキスト	授業時に資料を配布する。
参考文献	西澤治彦(1999)『中国映画の文化人類学』風響社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、アカデミックスキルや日本語ライティング、日本語表現、日中対照言語学、中国語教育など、多岐にわたる分野で指導経験を積んできました。これらの経験を基に、言語教育の理論と実践を組み合わせた充実した学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	Language and Culture
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07123L

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	This course aims to introduce the social and cultural contexts of languages. It focuses on a human language reflecting the ways of life and beliefs of its speakers, contrasted with extent of language's influence on culture. A wide variety of cultures and languages are introduced. The course will focus on topics such as identity, social factors of language use, language vitality, language structures and issues of globalization.
到達目標	By the end of this course you will be able to: 1. Demonstrate familiarity with the theory of linguistic relativity and be able to articulate the potential flaws and strengths of the theory Language & Culture 2. Be able to express how various aspects of culture can affect language and that language can affect. 3. Be able to give examples from other cultures of how language and culture have affected one another.
授業の進め方	This course will be a combination of interactive lectures, case studies, and in-class activities. The lectures will present information on basic linguistic concepts and how culture affects language. You will be expected to contribute ideas and participate in active learning.

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback will be provided through a learning management system.

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Introduction to sociolinguistics	Face-to-fa
第2回	Language and Culture	Face-to-fa
第3回	Language and Linguistics relativity	Face-to-fa
第4回	Meaning as sign	Face-to-fa
第5回	Short presentation	Face-to-fa
第6回	Meaning as action	Face-to-fa
第7回	Spoken language and oral culture	Face-to-fa
第8回	Language and cultural identity 1	Face-to-fa
第9回	Language and cultural identity 2	Face-to-fa
第10回	Print language and literature culture	Face-to-fa
第11回	Presentation prep.	Face-to-fa
第12回	Presentation 1	Face-to-fa
第13回	Presentation 2	Face-to-fa

事前・事後学修	Aim for 2 hours each for preparation and review.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	In-class activities 30 % Short Presentation 10 % HWs 20% Final Presentation 30 % Reflection 10 %
テキスト	Handout will be provided in each class.

年度	2025
講義名称	Gender Studies
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07122L

担当教員

氏名	所属
◎ 斉藤 巧弥	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	This course introduces key issues and concepts in gender and sexuality studies, providing an overview of the field. In our society, everyone is expected to be either a "man" or a "woman." We are also expected to behave accordingly and to be treated as such. But why is that? Why are men and women treated differently? Why must we identify as either a man or a woman in the first place? Gender is a critical lens through which we can examine how society is structured around gender norms and how it excludes those who do not fit into the binary. Throughout this course, we will explore a variety of topics, including gender stereotypes and LGBTQ+ issues.
到達目標	By the end of this course, students will be able to: (1)Understand the fundamental concepts of gender and sexuality (2)Examine society through the lens of gender and sexuality (3)Recognize and engage with issues related to gender and sexuality (4)Critically analyze society using concepts from gender and sexuality studies
授業の進め方	This course combines lectures, discussions, and short speeches. In each class, the teacher gives a lecture on a topic and presents some topics for which students will make a short speech. Students individually write a script and present their short speech either in groups or pairs. Finally, students deliver a short speech to the whole class and submit their scripts along with comments on other students' speeches. At the end of the semester, students will give a 10-minute presentation on a topic of their choice. A final exam will also be conducted.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on short speeches and presentations will be given in class. Feedback on short speech scripts and comments will be given on WebClass.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Course Overview and Introduction
第2回	What is Gender?
第3回	Gendered Language and Communication
第4回	Gender Hierarchy and Sexism
第5回	Love, Marriage, and Family
第6回	Media Representation
第7回	LGBTQ: Basics of Sexuality
第8回	Discrimination Against LGBTQ People
第9回	Same-Sex Marriage
第10回	Preparation for the Final Presentation
第11回	Final Presentation
第12回	Film Discussion

第13回	Final Exam
事前・事後学修	Prior to each class, students are expected to complete the assigned readings. Students must be prepared to discuss the readings and actively participate in class. Approximately two hours of reading before and after class is recommended.
DP（学位授与の方針）との関連	
(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	
成績評価基準と方法	Short Speech: 50% (Evaluation of the goal(1)(2)(3)) Final Presentation: 30% (Evaluation of the goal(4)) Final Exam: 20% (Evaluation of the goal(1)(2)(3))
テキスト	No textbook. Readings will be provided by the instructor as handouts and will also be uploaded to WebClass.
参考文献	・ Introduction to Women's and Gender Studies: An Interdisciplinary approach [2nd edition] (Melissa J. Gillis, Andrew T. Jacobs, Oxford University Press, 2019) ・ Queer Theory Now: From Foundations to Futures (Hannah McCann and Whitney Monaghan, Red Globe Press, 2019) ・ Genders, Transgenders and Sexualities in Japan (Mark McLelland and Romit Dasgupta(eds.), Routledge, 2005)
備考	This class is taught entirely in English. Students will learn the subject matter and develop their English speaking, writing, reading, and listening skills. There are no prerequisites for this class.

年度	2025
講義名称	Academic Writing
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07121L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	Academic Writing aims to develop students critical thinking, vocabulary, and topic knowledge, so they are able to write full essays in English. Students will be able to apply the techniques in any writing they do, but this course will be most useful for people interested in official language examinations or future study abroad. Through lots of writing, proofreading, and discussion with peers, students can build a good writing habit.
到達目標	By the end of this course, students will have improved at: - expressing written opinions - writing full texts on familiar and unfamiliar topics - understanding what different essay questions want - sustaining logical arguments - proofreading their own work
授業の進め方	This is a Writing class, and students will be required to write. There is also a lot of reading, and speaking. The general pattern is a brief interactive lecture and vocabulary warm-up, followed by detailed examination of the model writing text. Once the techniques have been reviewed, students will practice it with immediate teacher feedback.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback for all written work will be provided both in the students' writing journals, and in individual discussions. Feedback will likewise be provided by their peers during class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Paragraph Structure
第2回	Coherent Order of Information
第3回	Defining Key Terms
第4回	Paraphrasing and Summarising
第5回	Analysing Essay Questions and Brainstorming Ideas
第6回	Generalising or Stating a Stance
第7回	Introductions and Conclusions
第8回	Developing body paragraphs with Details
第9回	Cause and Effect Essays
第10回	Compare and Contrast Essays
第11回	Problem and Solution Essays
第12回	Opinion Essays
第13回	Final Timed Essay / Review

2025/04/01

事前・事後学修	Before class, students will need to brainstorm ideas for the next topic, and examine the model writing text. After class, students will have a writing task to hand write in their journal. They are also encouraged to complete optional news writing tasks. According to previous students, completing it properly needs over 1 hour.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Partner Feedback 10% Writing Journal 30% Final Timed Essay 40%
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	『Longman Academic Writing Series 3: Paragraphs to Essays』 著者：Alice Oshima & Ann Hogue 出版社：Pearson 『Academic Writing for International Students』 著者：Stephen Bailey 出版社：Routledge

備考	Writing is a tool that helps you think.

年度	2025
講義名称	Academic Skills
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07120L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	Academic Skills aims to improve students learning habits first, and then introduce them to fundamental aspects of researching in English. This course is for intermediate and above learners who are interested in testing their ideas in English. Academic papers will be examined, and students will produce short research projects of their own. The exact lesson content is subject to change based on class size and ability.
到達目標	By the end of the course, students will have improved at: - understanding of time management, mental health, study skill approaches - knowledge of research methods - ability to analyse and discuss research in English - planning their own research
授業の進め方	The general pattern is to discuss the pre-reading in groups, have Q&A with the lecturer, then work through tasks individually, in pairs, or in groups. Discussion in English is a major part of each lesson, and students are responsible for their own note-taking.

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on quizzes will be provided via 'WebClass'. Feedback on Literature Reviews and Project Plans will be printed or discussed individually. Feedback on all other tasks will be given during class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Reflect on yourself as a student
第2回	Study Skill: Goal-setting & Time management
第3回	Study Skill: Dealing with Procrastination & Stress
第4回	Study Skill: Taking better notes & Paraphrasing
第5回	Study Skill: Editing & Evaluating others work
第6回	Research Skill: Developing a question
第7回	Research Skill: Finding suitable sources
第8回	Research Skill: Reviewing the Literature
第9回	Research Analysis
第10回	Research Skills: Interviews, Surveys & Questionnaires
第11回	Research Skills: Pilot Study and Feedback
第12回	Research Skills: Analysing Data
第13回	Presenting Research Plans

事前・事後学修	Before class, students will have pre-reading to help them understand the upcoming topic. After class, students will have review quizzes, and may have to conduct their own reading or research.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Review Quizzes 20% Research Analysis 30% Project Plan 30%
テキスト	The lecturer will provide materials.

備考	The amount of information in the world never stops growing, but only some of it can help you. Everyone can live better if they have basic study skills.
	Improving these skills does not happen magically. If students wish to register, they must attend Orientation to understand the course, and complete pre-reading seriously.

年度	2025
講義名称	Introduction to Literature【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07118L

担当教員

氏名	所属
◎ 石田 麻英子	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	The course will focus on exposing students to as many famous literary works written in English as possible, primarily using summaries of well-known works. Through these texts, students will explore the emotions, anxieties, and forms of happiness shaped by different historical periods and reflect on challenges that remain relevant in modern times. The course will emphasize reading and writing in English, helping students develop their language skills while engaging with literature.
到達目標	To learn the fundamental concepts of literature and the history of English literature. To explore how human emotions—fear, love, sorrow—remain universal across different cultures and eras through literary works. To deepen understanding of humanity by reflecting on timeless themes expressed in literature.
授業の進め方	Students are expected to read the provided materials before class. A 20-30 minute video lecture will then explain the key concepts. After watching the lecture, students will write a short essay in response to questions posed in the video. Occasionally, there will also be oral reading assignments, where students will record themselves reading aloud.

アクティブ・ラーニング

反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on submitted assignments will be provided individually through the LMS or collectively within the video lectures, depending on the nature of the assignment.

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Introduction to Literature 1 What is Literature? – Understanding its fundamental concepts and genres (Fiction, Poetry, Drama) Storytelling and Myth – Universal themes in legend and mythology	オンデマンド
第2回	Introduction to Literature 2 What is Literature? – Understanding its fundamental concepts and genres (Fiction, Poetry, Drama) Storytelling and Myth – Universal themes in legend and mythology	オンデマンド

第3回	The Influence of Christianity in English Literature 1 Exploring the impact of Christian themes and beliefs on English literature, with a particular focus on John Milton's Paradise Lost.	オンデマ ンド
第4回	The Influence of Christianity in English Literature 2 Exploring the impact of Christian themes and beliefs on English literature, with a particular focus on John Milton's Paradise Lost.	オンデマ ンド
第5回	Classic Drama 1 Shakespeare's Drama – Internal conflict and existential questions / The tragic hero and destiny / Timeless themes in romance	オンデマ ンド
第6回	Classic Drama 2 Shakespeare's Drama – Internal conflict and existential questions / The tragic hero and destiny / Timeless themes in romance	オンデマ ンド
第7回	Gothic & Victorian Literature 1 Power of Fear / Love and Society / Mystery	オンデマ ンド
第8回	Gothic & Victorian Literature 2 Power of Fear / Love and Society / Mystery	オンデマ ンド
第9回	Fantasy and English Literature – From Myths to Modern Tales 1 Exploring how fantasy literature has evolved in English literature, from ancient myths to modern fantasy stories, and understanding why fantasy remains a powerful tool for storytelling.	オンデマ ンド
第10 回	Fantasy and English Literature – From Myths to Modern Tales 2 Exploring how fantasy literature has evolved in English literature, from ancient myths to modern fantasy stories, and understanding why fantasy remains a powerful tool for storytelling.	オンデマ ンド
第11 回	Science Fiction and English Literature – Imagining the Future 1 Exploring how science fiction (SF) literature reflects human curiosity, fears, and hopes about the future, technology, and society.	オンデマ ンド
第12 回	Science Fiction and English Literature – Imagining the Future 2 Exploring how science fiction (SF) literature reflects human curiosity, fears, and hopes about the future, technology, and society.	オンデマ ンド
第13 回	Contemporary English & American Literature Exploring how modern English and American literature reflects current social, political, and cultural issues Preparation for the final report.	オンデマ ンド

事前・事後 学修	Students are expected to read the pre-class materials provided through the LMS before watching the lecture. After the lesson, they should organize their notes to prepare for the final report. In total, each lesson requires approximately 2 hours of study time, including reading, watching the lecture, and reviewing key points.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Short essay for each theme(once a week) 30% Reading aloud, or quiz-style assignment 40% Final report 30%
テキスト	PDF materials will be prepared and distributed via the LMS for students to read before each lesson.

年度	2025
講義名称	Reading Skills III
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG07117L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	Reading Skills III aims to help more confident English users become independent readers. Students will improve separate but connected skills including their ability to read quickly, accurately, and to identify nuance. By reading a variety of sources, from factual essays to famous literature, students can build lifelong confidence in reading.
到達目標	By the end of the course, students will have improved their ability at: Reading - understanding arguments of longer texts on familiar and unfamiliar topics - quickly identifying main points and details - inferring meaning from context or related vocabulary - finding the authors perspective - analysing the ideas and choice of language
授業の進め方	The more you read, the better reader you will be. Thus, every time there will be multiple types of reading. The general pattern is to begin with a speed reading test, then work through skill exercises from a textbook, review language points, then do silent reading while the lecturer marks students' reading journals. Discussion of reading material, or student presentations on their reading, are included a number of times. However the most important thing is to read, so each class will include approximately 30 minutes of sustained independent reading.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on Reading journals will be provided during class. Feedback on discussion or presentation will be printed or discussed individually.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Reading Test / Literature Discussion / Library Visit
第2回	Topic 1 - Travel Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading
第3回	Topic 1 - Travel Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading
第4回	Speed Reading / Literature Circles / Independent Reading
第5回	Topic 2 - Culture Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading
第6回	Topic 2 - Culture Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading
第7回	Speed Reading / Literature Circles / Independent Reading
第8回	Topic 3 - City Life Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading

第9回	Topic 3 - City Life Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading
第10回	Speed Reading / Literature Circles / Independent Reading
第11回	Topic 4 - Food Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading
第12回	Topic 4 - Food Speed Reading / Critical Reading / Independent Reading
第13回	Speed Reading / Presentations / Review

事前・事後学修	Outside of class, students will need to read as much as they can. Before class, there may be preparation for discussion or presentations, which will take 30 minutes to 1 hour. After class, there may be quizzes to review critical reading skills covered.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 25% Reading Journal 40% Literature Circles 25% Presentation 10%
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	【参考文献】 『Asian Issues 3』 著者 :Alastair Graham-Marr, Lewis Malamed, Martha Robertson, Nicholas DiNunzio 出版社 : ABAX

備考	Reading is one of the joys of life. Don't ever stop. **Students who have not completed Reading Skills 1 and 2 can still join. However, they must be confident in their English ability.**

年度	2025
講義名称	異文化コミュニケーションⅡ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06503S

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立てるための知識とスキルを身に着けることを目指す。「異文化コミュニケーションⅠ」を基礎として、地域社会における、より実際的な課題やテーマを扱う。
到達目標	・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。 ・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に着ける。 ・地域の魅力や課題を発見し、言語・非言語コミュニケーションの手法を用いて表現できる。
授業の進め方	講義と演習を組み合わせでおこなう。 毎回の講義で受講者同士の交流をおこなう。 また、海外の大学とZoomを用いた交流を行う予定である。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に出された質問へは適宜回答する。 また、毎回の授業後に出された意見、質問へは、次の回の冒頭で原則すべて回答する。 質問は、大学生がもつ最大の権利である。存分にその権利を活用し、積極的に質問することを望む。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	それぞれの異文化経験
第3回	愛国心と郷土愛、ナショナリズム
第4回	暴走する愛国心
第5回	広がる日本文化と日本のアジア文化
第6回	非言語コミュニケーション
第7回	伝統遊び
第8回	交流授業準備①
第9回	交流授業準備②
第10回	交流授業準備③
第11回	交流授業
第12回	交流授業を振り返る
第13回	まとめと最終課題

事前・事後学修	授業の内容は整理し、不明な点、曖昧な点が出てきた場合は次の回で質問する。メールやWebclass等での質問も随時受け付ける。 予習・復習それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題：40% 発表：30% 最終レポート：30%
テキスト	指定しない
参考文献	原沢伊都夫、2013、『異文化理解入門』研究社（978-4-327-37734-2） 山本志都他、2022、『異文化コミュニケーション・トレーニング』三修社（978-4-384-06052-2） そのほか、授業内で適宜紹介する。

年度	2025
講義名称	異文化コミュニケーションⅠ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06502S

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の 目的と 概要	この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立てるための知識とスキルを身に着けることを目指す。
到達目 標	・世界と日本の違いについて説明できる。 ・国際社会における文化、政策、言語との関係や社会文化の背景にある慣習を理解できる。 ・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。 ・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に着ける。
授業の 進め方	講義と演習を組み合わせでおこなう。 毎回の授業で受講生同士の交流をおこなう。 また、海外の大学とZoomを用いた交流を行う予定である。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に出された質問へは適宜回答する。 また、毎回の授業後に出された意見、質問へは、次の回の冒頭で原則すべて回答する。 質問は、大学生がもつ最大の権利である。存分にその権利を活用し、積極的に質問することを望む。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：多文化・異文化交流とは
第2回	言語概略
第3回	少数言語
第4回	やさしい日本語
第5回	国民性とはなにか
第6回	国民性とステレオタイプ
第7回	アジアの諸文化
第8回	交流会に向けて①
第9回	交流会に向けて②
第10回	交流会に向けて③
第11回	交流会
第12回	交流会を振り返る
第13回	まとめと最終課題

事前・事後学修	提示された次回の内容について各自調べておく。 授業の内容は整理し、不明な点、曖昧な点が出てきた場合は次の回で質問する。メールやmanaba等での質問も随時受け付ける。 予習・復習それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題：40% 発表：30% 最終レポート：30%
テキスト	指定しない
参考文献	原沢伊都夫、2013、『異文化理解入門』研究社（978-4-327-37734-2） 山本志都他、2022、『異文化コミュニケーション・トレーニング』三修社（978-4-384-06052-2） そのほか、授業内で適宜紹介する。

年度	2025
講義名称	コミュニケーション論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06501L

担当教員

氏名	所属
◎ 高橋 伸	大学・人文学部・現代文化学科

授業の目的と概要	コミュニケーションについて、基礎的な理論を学ぶ。また、日常の事例を通してコミュニケーションの影響について理解する。
到達目標	コミュニケーションについて、基礎的な理論を学ぶ。また、日常の事例を通してコミュニケーションの影響について理解する。
授業の進め方	講義形式を基本とするが、学生相互の対話を行いながらコミュニケーションについて理解を深めていく。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間振り返りを行い、疑問などを次時の授業で取り上げる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 自分の体験を基にコミュニケーションについて思い浮かぶエピソードを書く
第2回	コミュニケーションとは何か 情報伝達としてのコミュニケーション 意図の理解としてのコミュニケーション 交話的機能
第3回	ことばとコミュニケーション 言語行為論
第4回	身体とコミュニケーション
第5回	言葉と身体の間わり
第6回	文字のコミュニケーション 具体と抽象
第7回	社会関係とコミュニケーション
第8回	コミュニケーションの影響力
第9回	受容と理解の能力 言語運用能力
第10回	コミュニケーション・ストラテジー
第11回	社会とコミュニケーション（社会文化能力 対人関係能力 異文化調整能力）
第12回	発表とフィードバック
第13回	振り返りとまとめ

事前・事後学修	【事前学修】 ・コミュニケーションに関する用語について調べ理解を深める。 ・配付されるテキストの読解 2～3時間の事前学修が必要である。 【事後学修】 ・授業のノート整理 ・発表のための情報収集 2～3時間の事後学修が必要である。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	最終発表：60％ 授業後の振り返り40％（10回程度）
テキスト	統一的なものは用いない
参考文献	入門編として 平田オリザ（2012）『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』講談社現代新書

年度	2025
講義名称	スキルアップ総合演習
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06308S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、企業をはじめ様々な経済主体の経営活動を貨幣価値によって記録・計算・報告するための手段である。本講義では主に初学者の履修を想定して、営利企業における複式簿記による記帳・計算方法の基礎を習得することを目的とする。なお本講義では、網羅的ではないものの全径簿記検定試験3級の基本部分に相当する内容を取り扱う。
到達目標	企業の財務諸表を読む際に必要となる、簿記会計の基本的な用語を理解する。また、全径簿記検定 3 級の取得を目指します。
授業の進め方	テキストでの解説ですが、発問し、問題解決しながら意見交換と補足しながら進める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、LMSを通じて資料を添付する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 仕訳と転記	対面授業
第2回	現金と預金	対面授業
第3回	商品売買	対面授業
第4回	その他の収益と費用	対面授業
第5回	決算の手続き（1）	対面授業
第6回	その他の債権債務	対面授業
第7回	一時的な処理	対面授業
第8回	有価証券と有形固定資産	対面授業
第9回	株式の発行	対面授業
第10回	決算の手続き（2）	対面授業
第11回	精算表・財務諸表	対面授業
第12回	答案練習	対面授業
第13回	検定	対面授業

事前・事後学修	次の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめること。また、毎回の授業の始めに用語などの小テストをします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題・小テスト 20％ 検定講義 40％ 授業内試験 60％
テキスト	『全径簿記能力検定試験公式テキスト』 ネットスクール出版
参考文献	『全径簿記能力検定試験公式テキスト』 ネットスクール出版

年度	2025
講義名称	事例で学ぶマーケティング
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06307L

担当教員

氏名	所属
◎ 猪口 純路	大学・人文学部・国際教養学科

年度	2025
講義名称	事例で学ぶマネジメント
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06306L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は下記②⑤をメインテーマとして、グローバル人材として必要な以下の能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ マネージメントとはヒト・モノ・カネ・情報の経営資源を用いた最適な経営成果を得るための経営戦略を背景にした組織の運営管理です。具体的には、この授業ではリーダーシップ論を中心に、組織論、戦略論、マーケティング論、会計・ファイナンスなど異なるアカデミックなアプローチをケーススタディに基づき統合的に学修し、経営課題について広い視野で考察し解決策を考える能力を身につけます。
到達目標	企業の経営課題について様々な分野から検討し、解決策を導きだし説明することが出来るようにする。また広く社会活動で有用な課題発見能力とコミュニケーション能力を向上させることを目標にします。
授業の進め方	基本的に授業時間の30％を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」「ディベート」や「グループワーク」を行い「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。 また毎回授業では書き込み資料等を配布し、記入・整理するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	ケーススタディ①	対面授業
第3回	カンファレンス①	対面授業
第4回	ケーススタディ②	対面授業
第5回	カンファレンス②	対面授業
第6回	ケーススタディ③ カンファレンス③	対面授業
第7回	中間振り返り、まとめ	対面授業
第8回	ケーススタディ④	対面授業
第9回	カンファレンス④	対面授業
第10回	ケーススタディ⑤	対面授業

第11回	カンファレンス⑤	対面授業
第12回	ケーススタディ⑥ カンファレンス⑥	対面授業
第13回	期末振り返り、まとめ	対面授業

事前・事後学修	選定企業の調査研究結果について毎回発表できるようにすると共にグループディスカッションの準備をしてください。毎回の演習においては問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の演習内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。発表資料などは役割分担も含めて責任をもって作成する必要があります。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や国際情勢さらには企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 予習、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内提出物・発表 40％ 中間振り返り 30％ 期末振り返り 30％
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	必要に応じて指示します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義を実施します。
備考	授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

年度	2025
講義名称	地域産業論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06305L

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業では、東アジアに関する多様なテーマに基づき、地域産業、中でも観光産業や現代の社会文化を理解することを目指します。 日本と東アジアとの比較の視点を通じて、異文化間の共通点や相違点を発見し、対日・対東アジア諸国・地域の分析や関係の構築に必要な要素を検討し、身近なテーマを通じた産業現状や文化外交による相互理解を深めましょう。
到達目標	東アジアの諸国に特徴的な地域産業と観光産業について説明できる。
授業の進め方	【講義方法】 ・授業形態 対面講義形式を採用し、必要に応じて演習形式と組み合わせて行います。この授業では、特に学習管理システム「manaba」にある様々な機能を活用し、講義を進めていきます。長年、産業通訳に携わり、企業インバウンド研修などの実務経験も有する教員が、外国、特に中華圏の社会、言語、文化の多様性や日本との諸様式の相違などに配慮した実践的な教育方略を取り入れながら講義します。 教員が講義、指導を行うだけでなく、場合に応じて学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れながら進めます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。 ・授業内容 テキストやwebsiteを用いて異文化における地域産業の特徴を学びます。知識や概念を学んだうえで、日本や東アジアの各国・地域などを対象としたテーマを設定し、ディスカッションなどを組み合わせたアクティブラーニングを通じて、学びを深めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 ・授業の冒頭で前回の復習を兼ね課題の解説を行います。 ・授業中に出された質問やコメントへの回答を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス（自己紹介、海外への渡航経験、研究関心の共有）	対面授業
第2回	②「第1章 戦後ソウルと日本人旅行者」	対面授業
第3回	③「第2章 「軍艦島」における真正性の構築等」	対面授業
第4回	④「第3章 韓国に対する旅行体験」	対面授業
第5回	⑤「第4章 写真が変える寺社観光」	対面授業
第6回	⑥「第5章 沖縄の観光的再発見」	対面授業
第7回	⑦「第6章 台湾（金門）における冷戦後の戦場観光」	対面授業
第8回	⑧「第7章 中国の中産階級の海外旅行」	対面授業
第9回	⑨「第8章 中国人観光客へのまなざし」	対面授業
第10回	⑩「第8章 中国人観光客へのまなざし（続き）」	対面授業

第11回	⑪「第9章 国際旅行空間の生産」	対面授業
第12回	⑫「第9章 国際旅行空間の生産（続き）」	対面授業
第13回	⑬総ざらい	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・テキストや文献を事前に読み、要点や問題意識について理解しておく。 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」に提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み 30% 課題の提出と積極性 30% 発表やプレゼンテーションの完成度 40%
テキスト	『東アジア観光学—まなざし・場所・集団』（金成玟（編集）, 岡本亮輔（編集）, 周倩（編集）, 2017, 亜紀書房）
参考文献	様々な地域産業に関するネット情報

備考	・教員の公務などのやむを得ない事情により、授業計画を変更する場合もある。 ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	グローバリズムと地域経済
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06304L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は①④⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、私たちが所属している地域経済の現状と課題を理解し、課題解決につなげる基礎力を身につけるためのコースです。具体的にはグローバル化が地域経済にいかなる影響を与えているか理解し、将来地域経済はどのような変貌を遂げようとしているかを考察する能力を身に付けることを目的とします。さらにディスカッションなどによる地域経済の現状と課題を認識するに止まらず、その課題についての解決策を議論、考察する能力を身に付けます。
到達目標	グローバル化の進展によって、国境を越えたヒト、モノ、カネそして情報の移動は急速に活発化し、人々の生活や経済活動は、より広い空間スケールで展開されるようになった現状を説明できるようになる。社会調査の概要を知り、調査結果を活用した課題解決力を身に付けることを目標とします。
授業の進め方	基本的に授業時間の30％を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」「ディベート」や「グループワーク」を行い「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料等を配布し、記入・整理するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～グローバル化に対処する地域経済 グローバル化を活用する地域経済	対面授業
第2回	伝統的なコマース 決済とは～コマースのインフラ	対面授業
第3回	インターネットと地域経済 Eコマース～現状と課題	対面授業
第4回	クラウドファンディング～資金調達とマーケットの評価	対面授業
第5回	課題発見と解決策の検討①	対面授業
第6回	課題発見と解決策の検討②	対面授業
第7回	中間振り返り	対面授業

第8回	社会調査の手法 事例研究①～地域の制度的課題 地域の固有の課題	対面授業
第9回	事例研究②～地域課題に対する国と自治体の取り組み	対面授業
第10回	⑬事例研究④～地域課題に対する企業の取り組み	対面授業
第11回	事例研究⑤～産学官連携とクラスター	対面授業
第12回	地域課題解決提案策定演習	対面授業
第13回	期末振り返り 解決策提案の評価ディスカッション	対面授業

事前・事後学習	今回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に意見をノートしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 予習復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内提出物・発表 40% 中間まとめ・振り返り 30% 期末纏め・振り返り 30%
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	「コミュニティと共生」総合人間学会（編）学分社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義はシンクタンク調査会社および経済団体において地域政策・経済政策の立案に携わった実務経験のある教員が実践的な講義を実施します。
備考	授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります

年度	2025
講義名称	地域研究Ⅲ(欧州の文化)
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06303L

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は、「ヨーロッパとは何か」について入門的に理解することを目的とする。ヨーロッパは一方で、自由、法の下での平等、人権、民主主義、科学、などの近代以降の普遍的とされる諸価値の生まれた土地であるが、他方で、人種差別、世界的な搾取構造、格差を肯定する競争主義をも生み出した土地でもある。
到達目標	1) ヨーロッパ由来の普遍的諸価値が何であり、どのような由来であるかを理解し、自分の言葉で表現できる 2) 現在のヨーロッパがどのようなになっているかを理解し、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	伝統的な講義型授業と学生の調査学修を組み合わせた授業

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業内課題に対しては、全体的な傾向として、匿名化された内容にもとづいてフィードバックを次回の授業で口頭で行い、個別にはWebClass上で行う ・最終課題については、WebClass上で行う

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ヨーロッパの概略
第2回	・古典古代という経験
第3回	・キリスト教文化
第4回	・中世～二つのヨーロッパの誕生～
第5回	・理性のヨーロッパ
第6回	・世界の中心としてのヨーロッパ
第7回	・一つのヨーロッパへ
第8回	・ヨーロッパの中の多様性と差別
第9回	・ヨーロッパの食文化
第10回	・ヨーロッパのスポーツ文化
第11回	・ヨーロッパの芸術文化
第12回	・自分のテーマ決定と参考文献探し
第13回	まとめ

事前・事後学修	・授業内容を振り返り、ニュース・情報コンテンツと関連付けて理解するのに、およそ一回あたりの授業につき約2時間 ・関心を持ったテーマについて、参考文献を探し、それを読解してまとめ、自分の言葉で表現するのに、およそ一回あたりの授業につき約2時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 授業内課題44％ ・ 調査探求課題56％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	明石和康『ヨーロッパがわかる一起源から統合への道のリー』岩波書店、2013年 ほか、立命館大学国際関係学部ホームページにある参考文献などがある (https://www.ritsumeai.ac.jp/ir/ir-navi/region/region04.html/)

年度	2025
講義名称	地域研究Ⅱ(米州の文化)
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06302L

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	iPhone, ディズニーランド、Office、マクドナルド、私たちの周りにはアメリカの文化・経済に囲まれています。しかし、アメリカについて詳しく知っている人は少ないでしょう。本講義の目的は、（1）アメリカの文化・社会について学ぶこと、（2）自分の国・地域のアイデンティティを再認識すること、（3）特に多様性について、社会文化的な視点から理解を深めることです。
到達目標	(1) アメリカの文化・社会について理解し、発信できる。 (2) 自分の国・地域と比較することができる。
授業の進め方	講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。 対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	アメリカの成り立ち	対面授業
第3回	アメリカの植民地	対面授業
第4回	黒人文化と奴隷制度	対面授業
第5回	資本主義とアメリカ	対面授業
第6回	アメリカとポップカルチャー	対面授業
第7回	ゲストレクチャー	対面授業
第8回	リフレクション	対面授業
第9回	アメリカとアジア人	対面授業
第10回	発表テーマ決定	対面授業
第11回	情報収集とまとめ	対面授業
第12回	最終発表 1	対面授業
第13回	最終発表 2	対面授業

事前・事後学修	必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システムから提出する。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価基準と方法 授業への取り組み、確認テスト 30% 課題・レポートの提出、完成度 30% プレゼンテーションの発表、完成度 40%
テキスト	授業の中で適宜資料を配布する。

備考	授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	地域研究Ⅰ（アジアの文化）
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06301L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂口 可奈	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	東南アジアは歴史的に日本と深いかかわりを持つ地域である。このような歴史的かかわりにとどまらず、近年では政治的・経済的・人的つながりも強化されている。 学生諸君らも、東南アジアから多くの人がとが北海道を訪れていることに気付いているだろう。 今後成長が期待される東南アジア諸国との共存共栄を目指すためには、東南アジアの文化・社会・歴史・政治・経済についての基礎知識と相互理解のための姿勢が必要となる。 そこで、本講義は東南アジア諸国についての基礎知識を身に着け、東南アジア諸国との共存共栄のための基本的姿勢を学ぶことを目的とする。 本講義は、まず教員が東南アジア地域研究に関する基礎を講義する。その後、学生諸君には、自身が関心を持つテーマについての研究発表をしてもらう。 これによって、より主体的な学びを目指す。
到達目標	・ 他文化を理解する姿勢を身に着ける ・ 自分の意見を論理的に説明できるようになる ・ 東南アジア地域の文化・政治・社会のうち自分の関心のあるテーマについて説明できるようになる ・ 東南アジア地域と日本とのつながりを理解できる
授業の進め方	本講義は教員からの対面形式の講義と受講生によるプレゼンテーションの二本立てで行う。受講生は興味関心に合わせて国とテーマを選び、綿密な準備の上でプレゼンテーションを行うことになる。 プレゼンテーションの担当は履修確定後に決定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題についてのフィードバックは次回授業開始時に口頭で行う プレゼンテーションに対するフィードバックは発表当日に口頭で行う

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	イントロダクション＋食べ物を通して東南アジアを学ぶ	対面
第2回	観光地を通して東南アジアの文化・歴史・社会を学ぶ	対面
第3回	大航海時代から植民地時代の東南アジア	対面
第4回	第二次世界大戦と独立運動	対面
第5回	戦後日本と東南アジア諸国の関係	対面
第6回	東南アジアの戦争	対面
第7回	東南アジアにおける多民族共生（シンガポールの事例）	対面
第8回	東南アジアの経済発展戦略（シンガポールの事例）	対面
第9回	映画で東南アジアを学ぶ	対面
第10回	東南アジアの観光資源開発	対面
第11回	学生プレゼン（テーマ：東南アジア地域の政治・社会・戦争）	対面

第12回	学生プレゼン（テーマ：東南アジア地域の文化・宗教）	対面
第13回	北海道と東南アジア＋まとめと振り返り	対面

事前・事後学修	<事前学習（合わせて3時間）> 1. 東南アジアに関するニュースを毎週1つ選び、自分なりの見解をメモしておくこと 2. 担当のプレゼンテーションのための準備を行うこと <事後学習合わせて2時間程度> 1. プレゼンテーション時に指摘された点を修正すること 2. プレゼンテーション時にこたえられなかった質問の回答を用意すること 3. 与えられた課題に取り組むこと

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ミニ課題：20％ 研究発表プレゼンテーション40％ 試験 40％ ミニ課題と試験については東南アジアについての基礎知識を身に着けていること、自分の意見を論理的に説明できていることを評価基準とする。研究発表プレゼンテーションについては、自分のチームが設定したテーマについての調査研究結果をわかりやすく伝えられているかを評価基準とする。
テキスト	授業内でレジュメを配布する
参考文献	テーマに合わせて適宜授業内で紹介する。 ただし、プレゼンテーションのテーマに関連する文献については各自で探すこと。

備考	・プレゼンテーションに関する説明は初回授業と二回目授業にのみ行う。履修変更可能期間中であっても、履修を希望する学生は必ずどちらかに参加するようにしてほしい。 ・受講生は必ずプレゼンテーションを行うこと

年度	2025
講義名称	博物館資料保存論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06229L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 志賀 健司	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	博物館は、実物資料を取り扱う現場です。机上の理論だけではなく、“実物”に対する物理・化学的な視点や、経験が極めて重要になります。講義では、担当者の博物館学芸員としての実務経験に基づき、多数の実例を紹介し、可能な限り実物資料・標本も使用します。
到達目標	・博物館における資料・標本の保存の原則を理解する。 ・博物館資料に限らず、モノを取り扱う際に必要な、物理・化学的視点を身に付ける。
授業の進め方	教室内で、スライド（パワーポイント）を使い、必要に応じて配布資料を用いて講義します。回によっては、実物資料・標本等を用いた解説等も行ないます。毎回の最後には、講義内容に関する簡易なレポートを作成・提出していただきます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	次の回で、前回レポートに対する解説や補足、質問への回答をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／博物館資料の意義と保存の重要性
第2回	博物館資料の種類
第3回	博物館資料と自然科学
第4回	採集物が標本になるまで
第5回	資料の保存と環境 1：温度
第6回	資料の保存と環境 2：湿度・空気
第7回	資料の保存と環境 3：光
第8回	資料の保存と環境 4：生物
第9回	資料の保存と環境 5：災害
第10回	博物館の収蔵庫
第11回	資料の研究と破壊
第12回	資料の展示と劣化
第13回	まとめ／博物館資料を未来に残すために

事前・事後学修	・毎回授業の最後に講義内容に関する簡易なレポートを作成・提出してもらいますので、日頃から予習・復習を心がけてください。 ・1回の講義につき、予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。 ・資料保存という観点で、近隣の複数の博物館等を見学してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	2025/04/01

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポート 2 回：48％（冬休み 1 回=18％、期末 1 回=30％） 毎回の簡易レポート：52％（4 ％×13回） 単位の認定には、授業実施回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。
テキスト	テキストは設定しません。
参考文献	「博物館資料保存論」石崎 武志、2012年、講談社 「文化財保存環境学」三浦定俊・佐野千絵・木川りか、2016年、朝倉書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	1997年から現在まで、いしかり砂丘の風資料館で学芸員としての実務経験を有しています。その現場経験をもとに、博物館業務の実際を実物資料も用いながら講義します。
備考	原則として「博物館概論」および「博物館資料論」を履修していることを前提として講義します。事情により履修もしくは修得していない場合は、関連した図書等で十分に事前学習をしておいてください。

年度	2025
講義名称	博物館資料論
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06228L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 工藤 義衛	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	講義の目的と概要 目的 博物館資料は、博物館の根幹となるものであるが、最初から自明のものとして存在するわけではなく、学芸員が多くの資料の中から見出すものである。そのため本講では、博物館資料が学芸員の存在・役割と表裏一体であることの理解を深め、博物館において博物館資料を選択する基礎を習得することを目的とする。学芸員が「博物館資料」を生み出す過程を知るとは、博物館学芸員だけでなく、そのほかの様々な職業にも役立つはずである。 概要 学芸員は、博物館資料そのものについての知識はもちろんであるが、何が博物館資料になりうるのか、博物館資料と博物館と関係についての理解も必要である。本講では、学生が学芸員にとって必須の知識である博物館資料の種類、収集、整理、保管、調査、研究の理念と方法を習得する。また、実際に博物館資料に触れることにより博物館資料の特徴と取り扱いを体験する。さらに博物館が博物館資料を収集し、展示し、研究することの社会的な意味について理解する。
到達目標	到達目標 ① 知識・理解 博物館及び博物館資料の種類と特徴。博物館で行われる資料の収集、整理、保管、展示、研究について理解する。 判断 博物館資料の学術的、社会的価値について判断について説明できる。
授業の進め方	授業の進め方 担当教員は、公立博物館における20年以上の実務経験を踏まえ、博物館における博物館資料の意味、意義や取り扱いについて実物資料を用いた体験を通して具体的な講義を行う。 授業中に適宜小テストを実施するほか、中間考査。期末考査を実施する。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① 博物館資料の概要と種類 本講の構成と講義の主題である「博物館資料」とは何かについて、法律的側面と博物館資料の実物主義について解説する。
第2回	② 博物館資料とは 博物館と博物館資料の関係について解説する。
第3回	③ 考古資料と博物館資料の観察 博物館資料の一つである考古資料の種類と特徴について解説する。また、博物館資料の取り扱いで必須である「資料の観察」を実物資料の観察実習を行う。
第4回	④ 文書資料 文書資料の種類と特徴及び取り扱いについて実物資料を用いて解説する。
第5回	⑤ 民俗資料 民俗資料の種類と特徴について解説する。
第6回	⑥ 博物館資料の収集 博物館における資料収集の意義地実務について、実例を上げながら解説する。

第7回	⑦ 博物館資料の整理 博物館資料のクリーニング、ナンバリング、梱包などの保存に向けた作業の実務について解説する。
第8回	⑧ 博物館資料の保存・修復 博物館資料の保存（保管）、修復について実例を用いて解説する。
第9回	⑨ 博物館資料と研究・中間考査 博物館資料と研究活動の意義と実例について解説する。また、1回から8回までの講義内容について中間考査を実施する。
第10回	⑩ 博物館資料と展示 博物館資料の展示手法について解説する。
第11回	。⑪ 博物館資料の公開 博物館における常設展示、企画展示などの資料公開の手法について実例を交えて解説する。
第12回	⑫ 博物館資料と社会 博物館資料とこれを収集、と転移、保管することの社会的意義について解説する。
第13回	⑬ 博物館資料論のまとめ・期末考査 1回から12回までの博物館資料論のまとめを行う。期末考査は9回から12回を中心に全体を範囲として実施する。

事前・事後学修	事前事後学習 授業では、レジメを配布しますが、講義で使用した専門用語などは,ノートにまとめておくこと。参考文献を使って、事前事後学習を行うこと。 事前学習 2時間 事後学習 3時間 そのほかできるだけ博物館や展示施設に足を運ぶこと、そして授業で学んだ知識を踏まえて博物館及び展示を批評的に見ること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	中間考査、期末考査 小テストの総合点で評価します。
テキスト	レジメを配布します、
参考文献	『全国大学博物館協議会西日本部会編 2002 『概説博物館学』 大堀哲編著 1997 『博物館教程』 倉田公裕 1979 『博物館学』 全国大学博物館協議会西日本部会編 2002 『博物館学実習マニュアル』

実務経験のある教員の経歴と授業内容	地方自治体の博物館での20年以上にわたる勤務経験を踏まえて、博物館資料と博物館について実務、実例にに即した授業を行います。

年度	2025
講義名称	地域学習Ⅰ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06227L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、地域の自然や文化の歴史の意義をあらためて見直し、その価値の再創造が持続可能な地域社会の構築にどのような貢献を果たすのかを考えていくことを目的とする。とくに日本とフランスでの遺跡保護・活用をめぐる法・行政・市民運動の事例の比較に基づきながら、文化遺産としての遺跡の保護と活用が現代社会の中でどのように進められ、地域社会の中でどのような役割を果たしているのかを考察していく。遺跡の保護と活用をめぐる基礎的な知識の把握とともに、グループでのディスカッションを通して課題の発見と解決する能力を養っていく。
到達目標	文化遺産としての遺跡の保護と活用の事例について理解し、現状の説明ができるようになる。また、地域の中での文化資源の意義について考察を深め、課題の把握と問題解決の提案ができるようになる。
授業の進め方	各回、授業テーマに基づいた資料を配布し、基礎的知識について講義形式で授業を実施する。また、取り上げた課題について、演習形式でグループディスカッションを行う。 また遺跡と博物館展示を対象とした外部施設見学をフィールドワークとして実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中に実施する小テストの結果について解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：趣旨と外部施設見学について	
第2回	文化遺産としての遺跡	
第3回	日本における遺跡の保護体制	
第4回	遺跡の保存に至る経緯	
第5回	遺跡を活用する活動	
第6回	遺跡と地域社会	
第7回	外部施設見学（１）	フィールドワーク
第8回	外部施設見学（２）	フィールドワーク
第9回	遺跡と博物館	
第10回	遺跡の保護をめぐる海外の事例（１）：フランスでの遺跡調査体制	
第11回	遺跡の保護をめぐる海外の事例（２）：フランスでの遺跡保護	
第12回	遺跡の保護をめぐる海外の事例（３）：フランスにおける文化遺産の役割	
第13回	期末試験とまとめ・解説	

事前・事後学修	予習・復習にそれぞれ2時間程度を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	成績評価は、文化遺産としての遺跡の保護と活用の実例に関する講義中の小テスト（20％）、討論への貢献（20％）、外部施設見学レポート（20％）、文化遺産の意義について問う期末試験（40％）の結果にもとづいて実施する。 提出課題の遅延は減点の対象とする。受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする場合もある。
テキスト	稲田孝司『日本とフランスの遺跡保護』岩波書店 適時、講義資料はPortalサイトより配布する。各自が必要に応じてダウンロード・印刷してほしい。
参考文献	必要となる文献については、随時指摘する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、埋蔵文化財調査センターに調査員として勤務経験があり、その実務経験に基づいて文化遺産の保護と活用に関する講義を行う。
備考	この授業は「地域探求Ⅰ」と組み合わせて行う。原則として「地域探求Ⅰ」も履修することを求める。すでに「地域探求Ⅰ」を修得している学生で今年度の「地域学習Ⅰ」の履修を希望する学生は、初回授業の際に担当教員まで申し出てください。 講義の2回分を外部施設見学とし、レポートの提出を求める。見学は週末に行い、現地集合・現地解散とする。交通費が必要となる。

年度	2025
講義名称	まちづくりと北海道
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06226L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中根 宏樹	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	まちづくりとは、地域に暮らす人々が直面する課題を解決し、地域資源の価値を見出し、保全・修復・改善を図る取り組みである。 本講義では、まちや都市の捉え方、まちづくりに関する基本的な知識をもとに、その視点や手法を学ぶ。特に、北海道におけるまちづくりの変遷や各市町村の具体的な取り組みを取り上げ、その現状と課題を明らかにする。 さらに、持続可能なまちづくりの観点から、社会・経済・文化・環境といった視点を踏まえ、これからの北海道のまちづくりのあり方を考察する。
到達目標	・まちづくりの基本的な枠組みを理解する。 ・北海道のまちづくりの動向や、諸地域での実例についての知識を得る。 ・北海道のまちづくりの実例を応用できる能力を身につける。
授業の進め方	本講義は、講義形式を中心に進めるが、適宜PBLやディスカッションを取り入れ、能動的な学びを深める。 担当教員は、観光分野の民間企業において自治体と協働したプロジェクトなどの実務経験を有する。まちづくりに関連する多様な学問領域の理論的枠組みを援用しながら、民間での知見を活かした講義を展開する。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	適宜課題を課し、学生の興味・関心に基づいて講義内容を振り返る。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・「まち」とは何か	対面授業
第2回	まちの要素と構成	対面授業
第3回	「まちづくり」とは何か・意義と目的	対面授業
第4回	まちづくりの変遷	対面授業
第5回	まちづくりの実践と仕組み①	対面授業
第6回	まちづくりの実践と仕組み②	対面授業
第7回	まちづくりのマネジメント	対面授業
第8回	北海道のまちづくりと課題	対面授業
第9回	まちの持続可能性	対面授業
第10回	持続可能な北海道のまちづくり	対面授業
第11回	事例研究①	対面授業
第12回	事例研究②	対面授業
第13回	総括と課題レポート	対面授業

事前・事後学修	日常的に自分が暮らすまちやまちづくりに関心を持ち、新聞やインターネットなどを通じて具体的な動向を把握する。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義中に実施する課題 30％ 授業への積極的な参加度 20％ 課題レポート 50％
テキスト	講義内容に合わせて適宜資料を配布する。
参考文献	講義内容に合わせて適宜参考文献を紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、株式会社エゾシカ旅行社の代表取締役として観光業界における事業運営の実績を持ち、また特定非営利活動法人北海道オートキャンプ協会の常務理事として地域観光やアウトドア活動の促進に貢献しています。これらの経験を基に、観光と地域振興を結び付けた実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	北海道の文化Ⅳ(環境と産業)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06225L

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	私たちが帰属する地域社会は様々な課題を抱えている。本講義では地域創生の学びの領域に置いて、北海道を舞台に環境と産業について取り組んでいる企業・団体等の活動について、現場研修での学びを通じて、北海道の環境と企業・団体が将来どうあるべきかについて、思考・判断し、表現できる資質・能力を育成する。具体的には①北海道の生産業と環境②北海道の教育と環境団体にゲストスピーカー２回（座学）、地域課題解決の基礎知識を身につけます。
到達目標	・ゲストスピーカーやフィールドワークを通じて、実践的な視点から地域課題の解決策を検討し、問題解決能力を向上させる。 ・グループディスカッションや発表を通じて、自らの考えを適切に表現し、他者との意見交換や協働を行うコミュニケーション能力を発展させる。
授業の進め方	毎回、授業テーマに沿った課題を提示します。課題に沿った「ディスカッション」「ディベート」「グループワーク」を実施し、能動的な学修を目指します。毎回授業では書き込み式の資料を配布し、記入すると共に講義内容の反復振り返りを行っていきます。本講義は社会活動について経験豊富な教員が様々な事例をもとに指導に当たります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で開設すると共にLMSを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	グループディスカッション	対面授業
第3回	ゲストスピーカー 1	対面授業
第4回	リフレクション	対面授業
第5回	グループディスカッション（課題解決①）	対面授業
第6回	グループディスカッション（課題解決②）	対面授業
第7回	グループ発表	対面授業
第8回	グループ発表	対面授業
第9回	ゲストスピーカー 2	対面授業
第10回	リフレクション	対面授業
第11回	グループディスカッション（課題解決①）	対面授業
第12回	グループディスカッション（課題解決②）	対面授業
第13回	グループ発表	対面授業

事前・事後学修	地域の関係者や専門家を招き、現場での取り組みや成功事例を紹介し、学生が自らのアイデアや提案を考える機会を提供する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	使用しません。
参考文献	使用しません。

年度	2025
講義名称	北海道の文化Ⅲ(芸術と文学)
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06224L

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	北海道の芸術作品と文学作品に触れることから北海道の魅力を探ります。 蝦夷地が戊辰戦争を経て明治に北海道となり、アイヌの人々を＜同化＞させるところから北海道を位置付けるならば、北海道に生まれ育った人々・作品を取り上げるのか、また、そのような北海道の歴史を背景とした作品を取り上げるのか、立ち位置・視点によって対象は広がることになります。そのことを意識しながら、絵画・彫刻・モニュメント・作家の活動や生涯と作品も同様に、北海道に関わる作家作品をとりあげます。各自が分担して発表し、成果をパネル形式でまとめ、展示発信します。
到達目標	文学や芸術作品に関して北海道の歴史の理解を深める。 アイヌの人々の歴史と生活についての理解を深める。 北海道ゆかりの作家や美術作品の理解を深める。 北海道の芸術と文学の魅力を体感し、言葉で伝えることができる。
授業の進め方	北海道の歴史と文化の概要を確認したのち、みなさんには各自の興味関心のある作家や作品、モニュメントについて調べたことを発表してもらいます。また、中島公園にある北海道文学館を訪問して展示方法や展示内容、特別展について報告してもらいます。 これらの内容を確認することで北海道の芸術や文学の魅力をより深く味わうと同時に、北海道の現在とこれからを考えます。が分担して発表し、成果をパネル形式でまとめ、展示発信します。

アクティブ・ラーニング

PBL

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の分担を調査し、アレンジして発表・確認した内容をさらに補足します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 発表分担 分担調査
第2回	北海道の歴史 北方交流 アイヌの人々の生活 ＜樺太文学＞
第3回	ユーカラ、知里幸恵『アイヌ神謡集』・蠣崎波響「夷酋列像」・船戸与一『蝦夷地別件』
第4回	津島佑子『ジャッカ・ドフニ』アントン・チェーホフ『サハリン島』・神沢利子『流れのほとり』
第5回	内村鑑三『デンマルク国の話』・新渡戸稲造『武士道』・佐々木譲『武揚伝』
第6回	木田金次郎美術館・新井記念美術館・小川原脩記念美術館・西村計雄記念美術館 アルテピアッツァ美唄・新冠ディマシオ美術館・木田金次郎美術館
第7回	原田康子『挽歌』・川崎秋子『ともぐい』・高村薫『晴子情歌』
第8回	伊藤整『若い詩人の肖像』・小林多喜二『蟹工船』・有島武郎『カインの末裔』
第9回	吉村昭『熊嵐』・村上春樹『羊をめぐる冒険』・小椋山博『光る女』
第10回	三浦綾子『塩狩峠』・井上靖『敦煌』
第11回	倉本聰「北の国から」の世界
第12回	福永武彦『心の中を流れる河』・池澤夏樹『マシアスグリの失脚』
第13回	まとめ・レポート指示

2025/04/01

事前・事後学修	各自の発表分担について事前調査、発表するためにリハーサルして準備をすること。 他の発表について自身で確認して知識を深めること。 意見交換修正結果をパネルにまとめ発信すること。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	分担調査報告 40% 発表 30% パネル作成 30%
テキスト	各担当関連資料にあたること
参考文献	各担当関連資料にあたること

備考	インターネットや書籍の写真等でも情報を得ることは可能ですが、実際に自分の眼で確認し体感することが大事です。 北海道文学館訪問します。

年度	2025
講義名称	北海道の文化Ⅱ（食と生活）
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06223L

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業では、日本文化に関する多様なテーマに基づき、北海道の伝統的・現代的風俗習慣、中でも食物や食事の文化や社会生活を理解することを目指します。また、在来の北海道文化と外来文化との比較的視点を通して、異文化間の共通点や相違点を発見し、身近なテーマを通じた自他文化による相互理解を深めましょう。
到達目標	【到達目標】 ・北海道に特徴的な食生活と食文化について説明できる。 ・北海道の食文化や社会生活について説明できる。
授業の進め方	【講義方法】 ①授業形態 対面講義形式を採用し、必要に応じて演習形式と組み合わせて行います。この授業では、特に学習管理システム「manaba」にある様々な機能を活用し、講義を進めていきます。長年、産業通訳に携わり、企業インバウンド研修などの実務経験も有する教員が、外国、特に中華圏の社会、言語、文化の多様性や日本、特に北海道との諸様式の相違などに配慮した実践的な教育方略を取り入れながら講義します。 教員が講義、指導を行うだけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れながら進めます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。 ②授業内容 テキストやwebsiteを用いて北海道における食文化の特徴を学びます。知識や概念を学んだうえで、留学生や地域学生などを対象としたテーマを設定し、調査とディスカッションなどを組み合わせたアクティブラーニングを通じて、学びを深めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 ①授業の冒頭で前回の復習を兼ね課題の解説を行います。 ②授業中に出された質問やコメントへの回答を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス（授業全体の説明）、自己紹介（海外への渡航経験、研究内容など）	対面授業
第2回	②北海道文化（食と生活）についての穀類・豆類の文化や変遷などの概要	対面授業
第3回	③北海道文化（食と生活）についての動物性食品文化（肉・魚・卵、乳など）の概要その①	対面授業
第4回	④北海道文化（食と生活）についての動物性食品文化（肉・魚・卵、乳など）の概要その②	対面授業
第5回	⑤北海道文化（食と生活）についての植物性食品文化（野菜・果実・種実・芋など）の概要その①	対面授業
第6回	⑥北海道文化（食と生活）についての植物性食品文化（野菜・果実・種実・芋など）の概要その②	対面授業
第7回	⑦北海道における嗜好食品の文化（嗜好食品の変遷や嗜好食品のミニ百科など）の概要	対面授業
第8回	⑧北海道における調味料・香辛料の文化の概要その①	対面授業
第9回	⑨北海道における調味料・香辛料の文化の概要その②	対面授業

第10回	⑩北海道における食事の文化（家庭内の食事文化）の概要	対面授業
第11回	⑪北海道における食事の文化（家庭外の食事文化）の概要	対面授業
第12回	⑫成果発表の準備とPPTなどプレゼンテーション資料の作成	対面授業
第13回	⑬成果発表	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・テキストや文献を事前に読み、要点や問題意識について理解しておく。 ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。 ・課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」に提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み 30% ②課題の提出と完成度 30% ③発表やプレゼンテーションの完成度 40%
テキスト	【テキスト】 『食生活と文化』（石川寛子 編著, 1999, 弘学出版株式会社）
参考文献	【参考サイト】 様々な北海道の食文化に関するネット情報

備考	①教員の公務などのやむを得ない事情により、授業計画を変更する場合もある。 ②授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	北海道の文化Ⅰ(歴史と文化遺産)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06222L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、人類が残してきた考古学的記録に着目しながら、北海道における歴史と文化遺産の特性を理解していくことを目的とする。考古学的に北海道の歴史がどのように明らかにされているのかをふまえ、代表的な文化遺産としての考古遺跡に対する調査成果や保存・活用の現状を把握していく。文化遺産としての考古遺跡に社会的な注目が集まっているなかで、その歴史的意義や社会的役割を考えていく。
到達目標	考古学からみた北海道の歴史に関する基本的特性を理解し、道内各地に残されている文化遺産の意義について説明することができるようになる。
授業の進め方	講義形式で実施する。また遺跡や博物館展示を対象とした外部施設見学をフィールドワークとして実施する。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の講義内容については、感想・意見・質問を記すコメントペーパーを提出してもらい、その内容についてフィードバックする。また講義中に実施する小テストの結果についても解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	イントロダクション：北海道における歴史と文化遺産	
第2回	北海道への人類の拡散と定着：旧石器時代人類の拡散と適応	
第3回	黒曜石原産地遺跡群：白滝遺跡群	
第4回	完新世適応：縄文のムラと生業	
第5回	環状周堤墓：キウス周堤墓群	
第6回	変容する続縄文の生業と交易：常呂川河口遺跡とK135遺跡	
第7回	外部施設見学（1）	フィールドワーク
第8回	外部施設見学（2）	フィールドワーク
第9回	雑穀農耕と商業的狩猟採集民：擦文社会の成立と変容	
第10回	擦文農耕：サクシュコトニ川遺跡	
第11回	オホーツク文化の生業と社会組織：香深井1遺跡とモヨロ貝塚	
第12回	チャンの出現と中近世社会の変容	
第13回	期末試験とまとめ・解説	

事前・事後学修	配布した資料や紹介した参考文献を閲覧・読解、コメントペーパーの記述に要する予習・復習には、それぞれ2時間程度を必要とする。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している北海道の歴史と文化遺産の特性についての理解を期末に行う試験の評価基準とする。道内各地に残されている文化遺産の意義についての理解を小テストの評価基準とする。 評価方法の割合は、筆記試験（60％）、講義中の小テスト（25％）、外部施設見学レポート（15％）とする。 提出課題の遅延は減点の対象とする。受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする場合もある。
テキスト	適時、講義資料はPortalサイトより配布する。各自が必要に応じてダウンロード・印刷してほしい。
参考文献	随時指摘する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、埋蔵文化財調査センターに調査員として勤務し、埋蔵文化財保護行政の業務に従事した経験がある。その実務経験に基づき北海道の歴史と文化遺産について講義する。
備考	講義の2回分を外部施設見学とし、レポートの提出を求める。見学は週末に行い、現地集合・現地解散とするため、交通費が必要となる。

年度	2025
講義名称	北海道の民俗学
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06221L

担当教員

氏名	所属
◎ 林 美枝子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	学生が日本の民俗とは何かを理解することで、常に経世(世を治めているもの)の学として唯一の現代科学に触れる。 学生が日常における生活文化や民間伝承を具体的な事例を通して学修することで、日本文化の独自性を理解する。 学生が日本民俗の健康観、死生観、神観念、他界観を学ぶことで、日本人の心性の特徴を理解する。 学生はこれまでの本学で実施された全国各地の民俗学の多様なフィールドワークの記録を縦覧することで、調査の意義や自ら資料を収集することの大切さを認識する。 学生は高校までで一切学修したことのない分野の学びを通して、日本人としてのアイデンティティの再確認とともに、より広い視野での日本文化の特徴を理解する。
到達目標	①日本民俗における生活文化の独自性を説明できるようになる ②日本人の心性を支える神観念や死生観を理解できるようになる ③フィールドワークや資料を自ら収集することの意義を理解できるようになる ④民俗学における各種専門用語を説明できるようになる ⑤現代の都市部における新たな民俗学の潮流を理解できるようになる ⑥昭和期まで民俗学の対象ではなかった北海道の民俗学の可能性とその成果について理解できるようになる
授業の進め方	基本は13回の内10回は講義形式で進める。 2回目以降は毎回授業の最初の5分間を、前回授業の振り返りに宛てる。 授業の最期の5分間は自己学修シートへの記入を実施するとともに、授業後の事後学修の内容を検討させる。 2回目の授業からは10回にわたって小テストを実施する。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は授業の中で繰り返し説明するが、実施は各自で冬季休暇期間に行う。提出は11から13回目の対面授業の時であるが、そのフィードバックは当該年度では実施しない。昨年までの先輩学生野フィールドワークの資料や報告を今年度学生の授業に生かしていく。 自己学修シートに毎回記入した内容に関しては、次の授業の最初の振り返りでさらに学生たちは自己学修を深める契機とする。小テストの結果と講評も翌週に毎回実施する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業の流れと評価方法、自己学修シートの気に佑のしかた、冬季休暇のフィールドワークの課題についての説明 民俗学とはどんな学問か 学問の父、柳田国男について 自己学修シートへの記入	対面授業
第2回	宮崎県椎葉村の調査から 本学の調査報告を縦覧する 関連動画の視聴 自己学修シートへの記入 小テスト1	対面授業

第3回	人生儀礼について 誕生と白不浄 親子なり、生育儀礼、成人儀礼 婚姻、青森県の死後婚の調査から 自己学修シートへの記入 小テスト2	同時双方向
第4回	民俗としてのジェンダーについて 赤不浄と女人禁制 聖俗二元論 「妹の力」 自己学修シートへの記入 小テスト3	対面授業
第5回	健康観について ハレ・ケ・ケガレの循環論 年中行事の解説 自己学修シートへの記入 小テスト4	対面授業
第6回	アニミズム 八百万の神観念 者と物 依りましと依り代 自己学修シートへの記入 小テスト5	対面授業
第7回	伝統的医療とその施術者 憑き物筋 本学の沖縄調査から ユタ、ノロの神迎え、神送り 自己学修シートへの記入 小テスト6	対面授業
第8回	死の民俗学 黒不浄と遺体の処理の仕方 逆向き 左縄の境界性 自己学修シートへの記入 小テスト6	対面授業
第9回	葬送儀礼 札幌市の墓地の調査から 現代の葬送 死生学の再生 自己学修シートへの記入 小テスト7	対面授業
第10回	北海道民俗学について その可能性と成果の経緯 『北海道民俗地図』と母村研究について 自己学修シートへの記入 小テスト8	対面授業
第11回	北海道の民俗の特徴 「姉の力」考 文化の継承は女性たちの手で 自己学修シートへの記入 小テスト9	対面授業
第12回	にしん漁の民俗 現代日本のオフィス文化の発祥 自己学修シートへの記入 小テスト10	対面授業
第13回	北海道の現代民俗学 会費制の結婚式 家族葬や直送がほとんど 墓仕舞いについて 授業内容のまとめ 自学自修シートの記入と提出	対面授業

事前・事後学修	事後学修 毎回の民俗事例を自らの地域社会に照らし、同様の地元での事例を調べて考察する。 あるいは祖父母や地域の身近なお年寄りへの聞き取り調査を個別で行ってみる。約2時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	自学自修シートへの書き込み内容 30点 30% フィールドワークの報告書 20点 20% 授業内で実施する小テスト 2回目から11回目までの10回 各5点合計50点 50%
テキスト	なし
参考文献	速水保孝著 柳田国男序文 『憑さものの持ち迷信』明石書店 1999 多田道太郎著 『身辺の日本文化 日本人のものの見方と美意識』1981 富田登『都市民俗論の課題』未来社 1982 福田アジオ『柳田国男の民俗学』吉川弘文館 1992 北の生活文庫企画編集会議『北海道の生活文化』北海道 2000

備考	留学生にとっては、一種の日本を深く学ぶ授業となるが、同様の事項が自民族の出身地域ではどのような民俗として生きられているのかを、常に自分事として考察するようにしよう。 この授業は第1回目と第2回目の週、第11回目と第12回目の週、第13回目の週の全5回の授業は対面となります。 冬季休暇が差しはさまれるため、その間に課題のフィールドワークを実施し、その評価が20%と高いため、必ず取り組んでください。また、また毎回手元で記入していただく自己学修シートは最初の対面授業で配布しますが、毎回授業の時も必ず指示に従い記入するようにし、13回目の最期の対面授業終了時には必ず提出してください。

年度	2025
講義名称	文化資源学
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06220L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	文化資源とは、ある時代の社会と文化を知るための手がかりとなる貴重な資料の総体であり、その中には博物館や資料庫に収めきれない建物あるいは伝統的な芸能や祭礼など、さまざまな種類のものが含まれている。人類は長い歴史を経て、現在（いま）を築き上げてきた基盤となる文化を生み出しているが、人間の文化によって残されたもののうち、貴重な国民的財産である「文化財」として保存されるものがある一方、知らずに失われていくものがある。そうした私たちの身の回りのものである「文化資源」に目を向け、「文化資源とは何か」について理解し、その活用について考える。
到達目標	人類の文化とは何かまた文化資源の意味を理解し、身の回りの文化資源に目を向け、まとめることができる。 また文化資源を生かすにはどのような方法があるのか、観光や町おこしの視点で考え伝えることができる。
授業の進め方	基本的に講義方式で授業を進めるが、授業内で確認ミニテストを実施する。 授業内での個人発表を2回予定している。 ゲストスピーカーを招いて具体例を講義してもら回を予定している。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題やミニテストについては、その解説を授業の中で行う。 発表に対して講評を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	文化資源とは～文化資源とその歴史
第3回	発表①自分の育った町についての紹介
第4回	発表②自分の育った町についての紹介
第5回	文化財について
第6回	日本遺産について
第7回	北海道遺産について
第8回	世界遺産について ①縄文世界遺産の取り組み（ゲストスピーカー 縄文世界遺産研究室） ②地域住民とボランティア活動（ゲストスピーカー 縄文世界遺産研究室）
第9回	北海道における身近な文化資源の例 ①小樽 ②今金 ③黒松内
第10回	私の身近な文化資源 発表①
第11回	私の身近な文化資源 発表②
第12回	私の身近な文化資源 発表③
第13回	私の身近な文化資源 発表④ まとめとフィードバック

	身の回りの文化財をあらかじめ見て回ること。またそれに関する情報を集めておくこと。さらに、ほかの地域の文化資源と比較するために、別の地域を歩
	2025/04/01

事前・事後学修	くことも必要。 地域活動のコアとなるのが博物館である場合が多いため休日等を利用しての博物館見学などが必要となる。予習・復習の時間はそれぞれ3時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表（50%） 発表における着想内容（10%） 確認ミニテスト（20%） レポート（20%）
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	佐藤健二『文化資源学講義』2018 東京大学出版会

年度	2025
講義名称	先史文化論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06219L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	我々の祖先である人々はどのような暮らしをしてきたのだろうか。 本講義は長い人類の歴史の中で文字がない時代―先史時代について知ることで、人類が歩んできた歴史について学習することを目的とした授業である。
到達目標	考古学の枠組みについて理解し、人類がどのように進化し、社会を形成してきたかを説明することができる。
授業の進め方	基本的に講義形式でおこなう。適宜ビデオ映像や実際の資料などの視覚的な具体的例を見ながら講義を行う。 また授業内でミニテストを行い、授業内容の理解を促す。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業前に前回の復習のための確認ミニテストを行う。 確認ミニテストを用いながら、授業の前半で前回の振り返りをおこなう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、先史時代とはなにか
第2回	人類の進化における諸説 生物学分類から見たヒトとサル
第3回	ボノボ①野生下と飼育下
第4回	ボノボ②野生下と飼育下の比較
第5回	サルとヒトの違い
第6回	人類の進化について①猿人から原人（アウストラロピテクス、ホモ・エレクトスなど）
第7回	人類の進化について②旧人（ネアンデルタールなど）
第8回	人類の進化について③新人（ホモ・サビエンス）
第9回	人類の拡散について
第10回	石器とは何か
第11回	石器と人類
第12回	北海道の旧石器時代
第13回	北海道の縄文時代と講義のまとめ
第14回	期末試験

事前・事後学修	考古学、人類進化についての本を読むこと。 博物館見学も積極的に行うこと。 授業で前回の授業の確認ミニテストを行うので、ノートを整理し予習復習をしておくこと。 予習・復習の時間は、それぞれ3時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	確認ミニテスト 20% レポート 20% 定期試験 60%
テキスト	特になし 授業中に適宜プリントを配布する
参考文献	三井誠『人類進化の700万年』2005 講談社現代新書 斎藤成也編『図解人類の進化』2021 講談社

年度	2025
講義名称	短期学外学修
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	3単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06116L

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科
黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	事前授業・海外研修・事後授業と学外学修がメインとなる科目である。学外学習では、現地での語学学習に加えて、現地の文化、コミュニケーションなど多文化共生社会を実体験するプログラムである。 事前授業では、学外学修に対する心得のほか、現地で実際に学ぶ内容を事前に学修することにより、学びの深化を図る。 事後授業では、学習者自身が振り返りを行うことにより、2年目以降の専門教育の学びにつなげ、各自が学びの深化を目指す。
到達目標	①フィリピンの生活について理解し、円滑な留学となるよう基本的な知識を得る。 ②現地での生活を通し、多文化共生社会を確認する。 ③海外で生活できる英語力を身につける。 ④現地、エンデラン大学での学習を通し、最低でも英検２級程度の英語力を身につける。
授業の進め方	本授業は、事前・事後授業として、対面による講義形式と、グループワークの形式をとる。また、研修中は対面で行う。 原則、全てのプログラムに参加すること。参加率80％以上と課題提出が前提である。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・事前授業 フィリピン渡航に関する知識を学習する。 ・事後授業 フィリピンの研修の振り返りをする。 研修の報告会を実施し、それを広く公表する。また、研修中の事前・事後学習が必要となる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	渡航準備	対面授業
第3回	フィリピンでの学びの具体化	対面授業
第4回	現地学修	対面授業
第5回	現地学修	対面授業
第6回	現地学修	対面授業
第7回	現地学修	対面授業
第8回	現地学修	対面授業
第9回	現地学修	対面授業
第10回	現地学修	対面授業
第11回	現地学修	対面授業
第12回	現地学修	対面授業
第13回	報告会	対面授業

事前・事後学修	事前・事後授業では、学修管理システムを通して書面にて行う。 研修中は、現地での学習評価が提示される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前学習・課題20% 海外研修中の活動への取り組みと達成度60% 成果報告書・報告会20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて指示する。

備考	春学期の学修成果が乏しい場合や取り組みが不十分な場合、大学助成の支給を取りやめる場合もある。

年度	2025
講義名称	English Communication III
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06115L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	English Communication III aims to help intermediate and above learners develop the ability to make persuasive presentations. By discussing more social topics, and practicing spontaneous presentations on random news topics, students will build familiarity speaking in front of an audience, no matter what the topic is or how carefully they prepared. The ability to speak confidently with good technique is very helpful in academic, personal, and professional life. Students hoping to work in English environments, become teachers, or study abroad will benefit the most from this course.
到達目標	By the end of the course, students will have improved at: - speaking fluently - speaking without any notes - editing clear, detailed slides on complex subjects - producing a smooth, flowing argument with a logical structure
授業の進め方	The general pattern is that students speak on a random topic, the lecturer responds with their own example, and a technique for impromptu speech. Then vocabulary exercises, watching model presentations, and preparing their own ideas for the topics.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on presentations will be printed or discussed individually. Feedback on review tasks will be provided via 'WebClass'. Feedback on everything else will be delivered in class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Descriptive vs. Persuasive Presentations
第2回	Task 1: The Most Important Person in History Model / Planning
第3回	Task 1: Planning / Rehearsal
第4回	Presentation 1 (Individual)
第5回	Task 2: The Ideal Place for a Holiday Model / Planning
第6回	Task 2: Planning / Rehearsal
第7回	Presentation 2 (Group)
第8回	Task 3: The Problem with Young People These Days Is... Model / Research / Planning
第9回	Task 3: Planning / Rehearsal
第10回	Presentation 3 (Individual)

第11回	Task 4: Free Topic Model / Research / Planning
第12回	Task 4: Planning / Rehearsal
第13回	Presentation 4 (Group) Review

事前・事後学修	Before class, students will have to review their notes and brainstorm ideas for the topic. After class, students will have to do short review tasks via 'WebClass', prepare their presentation, or complete research tasks. Based on previous classes, this may take 1 hour.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 15% Vocabulary / Listening Review 15% Partner Feedback 10% Presentations 60% (15% x 4)
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	『Present Yourself 2』 著者：Steven Gershon 出版社：Cambridge University Press 『Speaking of Speech』 著者：Charles LeBeau 出版社：National Geographic Learning 『Presentation Zen』 著者：Garr Reynolds 出版社：New Riders Press

備考	One of the most satisfying things in life is speaking with confidence on a topic you researched carefully. Another satisfying thing is being able to "wing it" when you get a random question. On this course, you can do both. **Students who have not previously completed Communication II will need to discuss with the lecturer before being able to register.**

年度	2025
講義名称	[夏集]English Communication II [多文化]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06114L

担当教員

氏名	所属
◎ デントン ルーカス	大学・センター等

授業の目的と概要	English Communication II aims to help students who have mastered the basics improve their presentation skills. Students will work to structure their ideas more logically, and communicate them in more interesting ways. The topics are still familiar, but gradually move from descriptive tasks, to persuasive presentations allowing students to convince an audience that they are right. Students who hope to work in English environments, study abroad, or teach in the future, will benefit most from this course.
到達目標	By the end of the course, students will have improved at: - speaking confidently in front of an audience - using body language and tone of voice to shape meaning - editing clear, detailed presentation slides - giving a well-made presentation addressing different aspects of a topic with effective language
授業の進め方	This is a Communication course so speaking and preparing to speak is the main part. However, Reading and Writing are also included. The general pattern is vocabulary warm-up and discussion, then pair or group work examining a Listening of a model presentation. After that, students work to design PowerPoint / Canva / Prezi / Miro documents and scripts.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on presentations is printed and discussed individually. Both teacher and peer feedback is included. Feedback on homework will be given via 'WebClass'. Feedback on other activities will be given in class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation
第2回	Task 1: A memorable experience Model / Planning
第3回	Task 1: Planning / Rehearsal
第4回	Presentation 1 (Individual)
第5回	Task 2: An Important Skill Model / Planning
第6回	Task 2: Planning / Rehearsal
第7回	Presentation 2 (Group)
第8回	Task 3: The Best Film Model / Planning
第9回	Task 3: Planning / Rehearsal
第10回	Presentation 3 (Individual)

第11回	Task 4: Free Topic Model / Planning
第12回	Task 4: Planning / Rehearsal
第13回	Presentation 4 (Group) Review

事前・事後学修	Before class, students will need to prepare scripts or practice presentations. After class, students will need to do homework tasks via 'WebClass', and evaluate their own presentations. Preview and review time is estimated to be around 2 hours.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Homework 20% Presentations 60% (15% x 4)
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	Present Yourself 1 著者：Steven Gershon 出版社：Cambridge University Press Speaking of Speech 著者：Charles LeBeau 出版社：National Geographic Learning

年度	2025
講義名称	English Communication II
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06114L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	English Communication II aims to help students who have mastered the basics improve their presentation skills. Students will work to structure their ideas more logically, and communicate them in more interesting ways. The topics are still familiar, but gradually move from descriptive tasks, to persuasive presentations allowing students to convince an audience that they are right. Students who hope to work in English environments, study abroad, or teach in the future, will benefit most from this course.
到達目標	By the end of the course, students will have improved at: - speaking confidently in front of an audience - using body language and tone of voice to shape meaning - editing clear, detailed presentation slides - giving a well-made presentation addressing different aspects of a topic with effective language
授業の進め方	This is a Communication course so speaking and preparing to speak is the main part. However, Reading and Writing are also included. The general pattern is vocabulary warm-up and discussion, then pair or groupwork examining a Listening of a model presentation. After that, students work to design PowerPoint / Canva / Prezi / Miro documents and scripts.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on presentations is printed and discussed individually. Both teacher and peer feedback is included. Feedback on review quizzes will be given via 'WebClass'. Feedback on other activities will be given in class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: How can we communicate without worrying?
第2回	Task 1: A memorable experience Model / Planning
第3回	Task 1: Planning / Rehearsal
第4回	Presentation 1 (Individual)
第5回	Task 2: An Important Skill Model / Planning
第6回	Task 2: Planning / Rehearsal
第7回	Presentation 2 (Group)
第8回	Task 3: The Best Film Model / Planning
第9回	Task 3: Planning / Rehearsal
第10回	Presentation 3 (Individual)

第11回	Task 4: Free Topic Model / Planning
第12回	Task 4: Planning / Rehearsal
第13回	Presentation 4 (Group) Review

事前・事後学修	Before class, students will need to prepare scripts or practice presentations. After class, students will need to do short review quizzes via 'WebClass', and evaluate their own presentations. According to previous students, this takes between 30 and 45 minutes.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Skill / Vocabulary Listening Review Quizzes 20% Presentations 60% (15% x 4)
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	『Present Yourself 1』 著者：Steven Gershon 出版社：Cambridge University Press 『Speaking of Speech』 著者：Charles LeBeau 出版社：National Geographic Learning

備考	Presentation is something to be enjoyed, not feared. **Students who have not previously completed Communication I will need to discuss with the lecturer before being able to register.**

年度	2025
講義名称	English Communication I
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06113L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の 目的と 概要	English Communication I aims to help improve the presenting skills of students who are not used to speaking in public. Students will work towards completing four timed presentations on familiar and interesting topics. By watching "model" (good) examples, discussing the vocabulary and topic in groups, and preparing with teacher supervision, everyone will have their chance to speak from the stage.
到達目 標	By the end of the course, students will have improved at: - speaking fluently in front of an audience - creating clear, structured presentation slides - editing and rehearsing notes - giving a simple presentation on a familiar topic with effective language
授業の 進め方	This is a Communication course so speaking and preparing to speak is the main part. However, Reading and Writing are also included. The general pattern is vocabulary warm-up and discussion, then pair or groupwork examining a Listening of a model presentation. After that, students work to design PowerPoint / Canva / Prezi / Miro documents and scripts.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on presentations is printed and discussed individually. Both teacher and peer feedback is included. Feedback on review quizzes will be given via 'WebClass'. Feedback on other activities will be given in class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: What is effective communication?
第2回	Task 1: A good friend. Model / Planning
第3回	Task 1: Planning / Rehearsal
第4回	Presentation 1 (Individual)
第5回	Task 2: A Great Place Model / Planning
第6回	Task 2: Planning / Rehearsal
第7回	Presentation 2 (Group)
第8回	Task 3: An Important Object. Model / Planning
第9回	Task 3: Planning / Rehearsal
第10回	Presentation 3 (Individual)

第11回	Task 4: Free Topic Model / Planning
第12回	Task 4: Planning / Rehearsal
第13回	Presentation 4 (Group) Course Review

事前・事後学修	Before class, students will need to prepare scripts or practice presentations. After class, students will need to do short review quizzes via 'WebClass', and evaluate their own presentations. According to previous students, this takes between 30 and 45 minutes.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Skill / Vocabulary Listening Review Quizzes 20% Presentations 60% (15% x 4)
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	『Present Yourself 1』 著者：Steven Gershon 出版社：Cambridge University Press 『Speaking of Speech』 著者：Charles LeBeau 出版社：National Geographic Learning

備考	There is no single "perfect" way to communicate. Just try to relax, connect with your audience, and give your opinion.

年度	2025
講義名称	Reading Skills II
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06112L

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業 の 目 的 と 概 要	Reading Skills II aims to continue the development of students familiar with reading in English. Lessons are conducted in English, and there is a lot of reading. Students will be able to practice the different aspects of reading, through sustained practice of critical reading, and time to do independent reading for pleasure. Students who want to increase their reading speed, improve their reading comprehension, or simply upgrade their overall language skills will benefit from this course.
到達 目 標	Students will improve different but related Reading skills, including: - reading at faster speeds - reading to find ideas or details in a variety of longer texts - reading to work out the meaning through context clues - reading stamina
授業 の 進 め 方	Reading is the most important thing, so every class includes time to read. The general pattern is to complete reading speed tests, practice reading techniques using textbook topics and exercises, check with either a short test or a book report, then spend approximately 30 minutes reading independently.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on the reading record will be provided during class. Feedback on short tests or book reports will be printed or discussed in the next class. Feedback on any other activities will be provided to the group.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Reading Survey / Speed Reading / Library Visit
第2回	Topic 1: Travel Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第3回	Topic 1: Travel Speed Reading / Textbook Reading / Book Report / Independent Reading
第4回	Topic 2: Values Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第5回	Topic 2: Values Speed Reading / Textbook Reading / Test on Topics 1 and 2 / Independent Reading
第6回	Topic 3: Environment Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第7回	Topic 3: Environment Speed Reading / Textbook Reading / Book Report / Independent Reading
第8回	Topic 4: City Life Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading

第9回	Topic 4: City Life Speed Reading / Textbook Reading / Test on Topics 3 and 4 / Independent Reading
第10回	Topic 5: Food Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第11回	Topic 5: Food Speed Reading / Textbook Reading / Book Report / Independent Reading
第12回	Topic 6: Entertainment Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第13回	Topic 6: Entertainment Speed Reading / Textbook Reading / Test on Topics 5 and 6 / Review

事前・事後学修	Before class, students will need to check their reading record is complete. They may also have to prepare for a book report, or short test on textbook skills. After every class, students need to read independently. In total, students will need to work for approximately 2 hours outside class each week.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	The more you read, the higher your score will be. Class Activities 20% Reading Record 40% Book Reports 20% Short Tests 20%
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	【参考文献】 『Asian Issues 2』 著者：Alastair Graham-Marr, Hugh Graham-Marr, Lewis Malamed, Martha Robertson, Joan Bailey 出版社：ABAX

備考	Reading improves your critical thinking, your language skills, and your mental health. Life is better if you take time to read. **Students who have not completed Reading Skills I are welcome to join. However they must discuss with the lecturer before they register.**

年度	2025
講義名称	Reading Skills I
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG06111S

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の目的と概要	Reading Skills I aims to build students confidence when reading in English. Lessons are mostly in English, and involve a lot of reading. By practicing different types of texts on familiar and interesting topics, then independently reading easy texts of their own choice, students can learn to read for fun, and not just translate.
到達目標	Students will improve different but related Reading skills, including: - reading speed - reading to find ideas or details - reading when you do not know the vocabulary - reading stamina
授業の進め方	Reading is the most important thing, so every class includes time to read. The general pattern is to check reading speed, complete textbook reading exercises to practice skills, do a short test on vocabulary and skills / a report on what students have read, and then read independently.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on the reading record will be provided during class. Feedback on short tests or book reports will be printed or discussed in the next class. Feedback on any other activities will be provided to the group.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Reading Survey / Speed Reading / Library Visit
第2回	Topic 1: Places Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第3回	Topic 1: Places Speed Reading / Textbook Reading / Book Report / Independent Reading
第4回	Topic 2: Culture Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第5回	Topic 2: Culture Speed Reading / Textbook Reading / Test on Topics 1 and 2 / Independent Reading
第6回	Topic 3: Seasons Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第7回	Topic 3: Seasons Speed Reading / Textbook Reading / Book Report / Independent Reading
第8回	Topic 4: Cities Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第9回	Topic 4: Cities Speed Reading / Textbook Reading / Test on Topics 3 and 4 / Independent Reading

第10回	Topic 5: Travel Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第11回	Topic 5:Travel Speed Reading / Textbook Reading / Book Report / Independent Reading
第12回	Topic 6: Food Speed Reading / Textbook Reading / Independent Reading
第13回	Topic 6: Food Speed Reading / Textbook Reading / Test on Topics 5 and 6 / Review

事前・事後学修	Before class, students will need to check their reading record is complete. They may also have to prepare for a book report, or short test on textbook skills. After every class, students need to read independently. In total, students will need to work for approximately 2 hours outside class each week.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	The more you read, the higher your score will be. Class Activities 20% Reading Record 40% Book Reports 20% Short Tests 20%
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	【参考文献】 『Asian Issues 1』 著者：Alastair Graham-Marr, Hugh Graham-Marr, Lewis Malamed, Martha Robertson 出版社：ABAX

備考	Reading is an important skill, but textbooks or teachers only help show you how. If you want to really improve, *you* need to keep reading.

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ [国教][中津川]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学４年間の各個人の学びを総合する科目である。個々人の興味関心に即して、実践力や課題発見、課題解決力を完成させるため、言語学、英語学、多文化共生論、日本語学、文学、歴史学、文化資源学、開発経済学、ビジネスなどの具体的な専門分野において学生個々人が掲げた具体的なテーマについて、問いを立てその解決のために研究計画に沿って自律的に調査研究、発表を行う。文献購読やレポート作成のための文献表記等技法確認をしながら自身のテーマを明確にして、卒業レポートを作成し、発表する。
到達目標	人文学、とりわけ言語と文化に関する学問を理解し、それを取り巻く英語の問題について包括的に学ぶ。
授業の進め方	基本的に講義形式ディスカッション、プレゼンテーションなど、主体的な学びが求められます。フィードワークを通して、北海道における観光と英語について学んでいきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行なう。レポートについては添削やコメントをつける。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	文献調査 1	対面授業
第2回	文献調査 2	対面授業
第3回	文献調査 3	対面授業
第4回	フィールドワーク	対面授業
第5回	文献調査 4	対面授業
第6回	研究計画書 1	対面授業
第7回	研究計画書 2	対面授業
第8回	研究計画書 3	対面授業
第9回	研究発表準備 1	対面授業
第10回	研究発表準備 2	対面授業
第11回	研究発表（ゼミ内）	対面授業
第12回	卒業研究発表会	対面授業
第13回	卒業研究発表会・フィードバック	対面授業

事前・事後学修	予習・復習でおおよそ2時間程度必要とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ゼミ発表の参加度・積極性 30% ・宿題 20% ・ファイナルプロジェクト 30% ・調査 20%
テキスト	授業でハンドアウトを配布する。

備考	英語の教材を多く扱うため、英語が得意、頑張りたい学生の履修を推奨する。 現地フィールドワークについては、土日祝日に実施することもある。 フィールドワークは、実際に街に出て、観光地などで語学がどう使われているかを確かめ学ぶことを目的としている（浦河町などを想定、交通費は各自負担） プロジェクトでは、企業と協力して社会の問題について解決するような取り組みを行う 学科テーマ研究発表会(テスト対応に準ずる。)を14回目として実施する。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔小内〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業では、春学期で設定したテーマにもとづく調査結果をもとに、資料・データを整理・分析し、研究レポートを完成させるために、作業プロセスの報告と検討を行います。最終的には研究レポートを完成させることになります。
到達目標	自らの問題意識を明確にし、それにそって調べた結果をふまえ、論理的な思考にもとづいて、研究レポートを完成させ、そのレポートをもとにプレゼンテーションすることを目標にします。
授業の進め方	少人数の演習形式の授業とします。毎回の授業では各自のレポートの進捗状況や成果を報告します。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	当日の議論に参加し、各自の報告やそれにもとづく討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①研究計画の確認	対面による演習形式
第2回	②資料・データの整理（1）	対面による演習形式
第3回	③資料・データの整理（2）	対面による演習形式
第4回	④資料・データの分析（1）	対面による演習形式
第5回	⑤資料・データの分析（2）	対面による演習形式
第6回	⑥補足調査	対面による演習形式
第7回	⑦中間報告	対面による演習形式
第8回	⑧研究レポートの執筆計画（1）	対面による演習形式
第9回	⑨研究レポートの執筆計画（2）	対面による演習形式
第10回	⑩研究レポートの執筆と点検（1）	対面による演習形式
第11回	⑪研究レポートの執筆と点検（2）	対面による演習形式
第12回	⑫報告の準備・練習	対面による演習形式
第13回	⑬ゼミ発表会	対面による演習形式

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前には各回の課題に沿った作業を行っておいてください。 授業後には議論を踏まえて研究作業の再検討を行ってください。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回の報告 20%	
	研究レポート 40%	
	最終プレゼン 40%	
テキスト	テキストは使用しません。	
参考文献	授業の中で適宜、紹介します。	

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔坂梨・高倉〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科
高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業は研究レポートを作成するための論文作成指導を目的としている。考古学、先史学、民族学、文化人類学、博物館学領域での論文指導および研究指導を行なう。 自分でテーマを設定して資料を収集し、情報整理を行い、論文執筆を行う。
到達目標	文献収集、資料整理を通じて、研究論文またはレポートの基本的な執筆方法を理解し、論文執筆ができるようになる。
授業の進め方	各自のテーマに沿って、課題を与え、その課題について発表し、全員で討議する形で授業を行なう。 レジューメ、パワーポイントなどを使った発表等。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レジューメ、レポート等に対して担当者が内容・文章等を指導する

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	進捗状況の確認①
第3回	進捗状況の確認②
第4回	論文の書き方の再確認（文献の読み方とまとめ方、執筆の要領、引用、要約の仕方、グラフ、表、図版作成についてなど）
第5回	レポート発表①
第6回	レポート発表②
第7回	レポート発表③
第8回	レポート発表④
第9回	レポート発表⑤
第10回	レポート発表⑥
第11回	最終報告会準備①パワポ発表
第12回	最終発表会準備②パワポ発表
第13回	最終発表会準備③パワポ発表
第14回	最終発表会・フィードバック（実施日は調整後連絡）

事前・事後学修	授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること。 予習・復習の時間は、それぞれ3時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表 30％ レポート 30％ 最終発表 40％
テキスト	特になし。適宜配布する。
参考文献	石黒圭 2024 『新版 論文・レポートの基本』

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔宇留野〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、主に「外国語としての日本語」に関することがらについて研究することを目的とする。「外国語としての日本語」とは、日本語非母語話者の視点から見た日本語という意味である。この授業では、卒業論文またはそれに相当する調査研究成果物の作成・発表を行う。
到達目標	・他の受講生の発表をよく聞き、その人の考え方を理解する。 ・調査・研究した内容を他の受講生が理解できるように、様々な方法を用いて伝えることができる。 ・自分の考えや意見を自らのことばで相手に伝えることができる。 ・外国語としての日本語に関する調査・研究内容を論理的な文章で表現することができる。
授業の進め方	受講生がテーマに関する卒業論文または調査研究をレジュメ等にまとめ、授業内で発表する。その発表について受講生全員で質疑応答およびディスカッションを行う。卒業論文・調査研究の作成・発表を踏まえ、最終的に一定以上の成果物を作成する。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内において質疑応答というかたちでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／卒業論文・調査研究の作成について
第2回	卒業論文・調査研究の作成
第3回	卒業論文・調査研究の作成
第4回	卒業論文・調査研究の作成
第5回	卒業論文・調査研究の発表
第6回	卒業論文・調査研究の発表
第7回	卒業論文・調査研究の発表
第8回	卒業論文・調査研究の発表
第9回	卒業論文・調査研究の発表
第10回	卒業論文・調査研究の発表
第11回	卒業論文・調査研究の発表
第12回	最終発表会準備①
第13回	最終発表会準備②
第14回	最終発表会・フィードバック（実施日は調整後連絡）

事前・事後学習	・事前学習は、テーマに関する調査、発表資料の作成が中心となる。 ・事後学習は、質疑応答で指摘された内容について、新たに調査・研究を行い、まとめ直すことが中心となる。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業論文または調査研究の発表…50％ 卒業論文または調査研究に関するレポート…50％
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。

備考	・ 授業への積極的な参加が求められる。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔新谷〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学4年間の各個人の学びを総合する科目である。個々人の興味関心に即して、実践力や課題発見、課題解決力を完成させるため、言語学、英語学、多文化共生論、日本語学、文学、歴史学、文化資源学、開発経済学、ビジネスなどの具体的な専門分野において学生個々人が掲げた具体的なテーマについて、問いを立てその解決のために研究計画に沿って自律的に調査研究、発表を行う。文献購読やレポート作成のための文献表記等技法確認をしながら自身のテーマを明確にして、卒業レポートを作成し、発表する。
到達目標	人文学、とりわけ言語と文化に関する学問を理解し、それを踏まえてビジネスの課題を包括的に学ぶ。
授業の進め方	基本的に講義形式ディスカッション、プレゼンテーションなど、主体的な学びが求められます。フィードワークを通して、北海道における観光と英語について学んでいきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行なう。レポートについては添削やコメントをつける。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	文献調査 1	対面授業
第2回	文献調査 2	対面授業
第3回	文献調査 3	対面授業
第4回	フィールドワーク	対面授業
第5回	文献調査 4	対面授業
第6回	研究計画書 1	対面授業
第7回	研究計画書 2	対面授業
第8回	研究計画書 3	対面授業
第9回	研究発表準備 1	対面授業
第10回	研究発表準備 2	対面授業
第11回	研究発表（ゼミ内）	対面授業
第12回	最終発表会 1	対面授業
第13回	最終発表会2	対面授業
第14回	最終発表会・フィードバック（実施日は調整後連絡）	対面授業

事前・事後学修	予習・復習でおおよそ2時間程度必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔武井〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	多文化共生社会の諸要素から各自の研究テーマを焦点化して深めることを目的とします。文学研究は人文科学のうち、詩・小説・戯曲・エッセイなど、鑑賞者の感情に働きかけ、楽しませてくれる言語芸術作品を対象に、実証主義による態度で臨むことを学び、フィールドワークによりさらに視野を広げ、現代社会の実相を考えます。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。 ⑤調査研究を進め発表としてまとめることができる。 ⑥フィールドワーク事前学習により各自の視野を広げることができる。
授業の進め方	各自の研究経過報告および文献講読、フィールドワークにより進める。グループ討議とプレゼンテーションを重ねながら研究成果をまとめていく。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の研究テーマについての文献収集と論及の状況を確認し助言する。 文献要約発表により論文作成の実際を学び深める。その助言をする。 フィールドワークにより視野を広げる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 展開計画と各自の準備内容確認、個人面談	対面
第2回	文献講読と要約発表 1	対面
第3回	フィールドワーク事前学習 1	対面
第4回	文献講読と要約発表 2	対面
第5回	フィールドワーク事前学習 2	対面
第6回	文献購読と要約発表 3	対面
第7回	文献購読と要約発表 4	対面
第8回	文献講読と要約発表 5	対面
第9回	国際協力フェスタ準備	対面
第10回	国際協力フェスタブース参加	対面
第11回	研究経過報告と意見交換	対面
第12回	最終発表会準備① PowerPoint発表	対面
第13回	最終発表会準備②	対面

第14回	最終発表会・フィードバック（実施日は調整して後日連絡）	対面

事前・事後学修	①文献要約準備 ③テーマ関連文献の収集と確認、記録を継続 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①文献要約報告 30％ ②フィールドワーク成果報告 20％ ③個別研究の取り組み報告 20％ ④まとめレポート 30％
テキスト	青井汎『宮崎アニメの暗号』新潮新書 切通理作『宮崎駿の＜世界＞』ちくま新書 岡田斗司夫『誰も知らないジブリアニメの世界』SB新書 よしもとばなな『アルゼンチンババア』幻冬舎文庫 吉本ばなな『ミトンとふびん』新潮社 吉本ばなな『幸せへのセンサー』幻冬舎 鄭秋迪『吉本ばななの文学と中国』論創社
参考文献	授業で紹介する。

備考	・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。 ・文化共生社会を現地訪問し、文学との関わりをさらに意識するためのフィールドワークを行う。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔趙〕
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業は、学生が自ら研究テーマを設定し、主体的な調査・分析を行うことを目的とします。 自分の関心のある分野について深く掘り下げることで、問題発見力や論理的思考力、情報収集・分析能力を養います。 また、研究の過程で得た知見を整理し、適切に表現・発表する力を身につけることを目指します。 最終的には、自らの研究成果をまとめ、発表・議論を通じて学びを深めることで、独自の視点を持ったことで、社会に出て求められる論理的思考力や問題解決能力を養い、自らの考えを的確に表現できる力を培います。 授業の概要 本授業では、各学生が自身の研究テーマを決定し、計画的に調査・考察を進めます。 授業では、研究の進め方や資料収集の方法、最終報告書の構成などについて指導を行いながら、学生の研究活動をサポートします。 また、定期的に進捗報告や発表を行い、教員やクラスメイトからフィードバックを受けながら研究を深化させます。 ディスカッションや意見交換を通じて、多角的な視点を養い、最終的に成果を報告書やプレゼンテーションの形でまとめることを目標とします。
到達目標	・自ら研究テーマを設定し、計画的に調査・分析を進める力を身につける。 ・資料の収集・整理・分析を通じて、論理的思考力と批判的思考力を養う。 ・自分の研究成果を適切に文章化し、論理的に表現するスキルを習得する。 ・発表やディスカッションを通じて、他者と意見を交わし、多角的な視点を持つ力を高める。 ・社会に出て求められる課題解決能力や情報活用能力を身につけ、自らの考えを的確に伝えられる力を培う。
授業の進め方	各学生が自身の研究テーマを設定し、資料収集・調査・分析を進めながら研究を深めます。 定期的な進捗報告やディスカッションを通じて多角的な視点を養い、教員やクラスメイトからのフィードバックを受けながら研究を発展させます。 最終的に、研究成果を最終報告書やプレゼンテーションの形でまとめ、発表を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で課題や発表を行い、担当教員がフィードバックを提供します。 さらに、次週に向けての取り組み内容を確認し、学習の進捗を把握しながら理解を深めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	ゼミプロジェクト①	対面
第3回	ゼミプロジェクト②	対面
第4回	ゼミプロジェクト③ 食文化比較：料理実習	対面
第5回	テーマ発表①・フィードバック	対面
第6回	ゼミプロジェクト④	対面
第7回	ゼミプロジェクト⑤	対面
第8回	ゼミプロジェクト⑥ 食文化比較：料理実習	対面

第9回	テーマ発表②・フィードバック	対面
第10回	テーマ研究指導①	対面
第11回	テーマ研究指導②	対面
第12回	最終発表会準備①	対面
第13回	最終発表会準備②	対面
第14回	最終発表会・フィードバック（実施日は調整後連絡）	対面

事前・事後学修	個人テーマの内容に対する探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週5時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表 40% 報告書 40% 参加度 20%
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	・授業の内容や進め方は、状況に応じて変更される可能性があります。最新の情報は適宜お知らせします。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔椿〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	テーマ：「ビジネスと働き方」 テーマ研究Ⅰに引き続き、以下を実施します。 グローバル化する社会、人口減少による労働力不足の中、働き方と生産性が問われています。働き方改革により働き方は変化していますが、働く人の視点から見るとまだ課題は多くあります。 本ゼミは、3年次から引き続きSDGs17目標の第8番目「働きがいも、経済成長も」を基盤にゼミ活動を進めます。特に諸外国の制度や働き方の違いに目を向け、日本の働き方、それが経済にどのように影響するのかを踏まえながら、それぞれのテーマを設定し、これからの日本社会でどのように働くことが幸福生活に繋がるのかを追究します。最終的に10,000字のレポートを作成します。 キーワード：グローバル社会、働き方、ライフスタイル、Z世代の意識、サステナビリティ（持続可能性）
到達目標	① テーマを設定し、専門的に調べることができる。 ② 各自のテーマからフィールドに出て調査することができる。 ③ 多様な視点から考え、協働することができる。 ④ 各自のテーマが社会にどう貢献するかを考え、それを発表することができる。
授業の進め方	授業は毎回、講義、事例提示等の後、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	評価基準となる課題については、Webclassを利用し、その評価を個別に示します。 また、学生からの質問については、個別あるいは全体へ向けて適宜答えます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：今後の方向性	対面授業
第2回	レクチャー&ディスカッション（1）	対面授業
第3回	レクチャー&ディスカッション（2）	対面授業
第4回	レクチャー&ディスカッション（3）	対面授業
第5回	テーマ研究レポート準備（1）調査①（フィールドワーク含む）	対面授業
第6回	テーマ研究レポート準備（2）調査②（フィールドワーク含む）	対面授業
第7回	テーマ研究レポート作成（1）	対面授業
第8回	テーマ研究レポート作成（2）	対面授業
第9回	テーマ研究レポート中間報告会	対面授業
第10回	テーマ研究レポート完成	対面授業

第11回	最終発表会準備①PPT作成	対面授業
第12回	最終発表会準備②PPT作成	対面授業
第13回	ゼミ内発表会 第14回を予定 最終発表会・フィードバック	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・ディスカッションやフィールドワークのための下調べをします。 ・調べたことは報告としてPPT,写真等で残します。 【必要な時間】 ・事前事後、それぞれ2時間程度を予定しています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内課題 20％ フィールドワーク課題（PPT含む） 30％ プレゼンテーション 10％ レポート課題、振り返り 40％
テキスト	適宜資料を配布します。
参考文献	「世界基準の働き方」高岡浩三、PHP研究所 「日本人が知らない世界標準の働き方」谷本 真由美、PHP研究所 「働き方ー「なぜ働くのか」「いかに働くのか」稲盛和夫、三笠書房 「ドイツ人のすごい働き方」西村栄基、すばる舎 リクルートワークス研究書調査結果、労働政策研究・研修機構調査結果、労働白書（厚労省）、働く女性の実情（厚労省）等

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、役員秘書としての経験を通じ、組織運営の実務や対人対応の技術を身に付け、その後、職業教育やキャリア教育に携わる中で教育の現場での指導力を磨いてきました。これらの経験を基に、実践的なスキルと理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	レポート作成には時間がかかります。早め早めの準備が必要です、先を見据えて取り組みましょう。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔国教〕〔横川〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	ある地域を取り上げ、その地域の魅力を掘り下げていき、その地域を活性化させる取組みについて自ら発信できることを目的とする
到達目標	・テーマ研究Iを踏まえ、自身の調査をもとにして、一定程度の量で説得力をともなった文章を書く力を身につける。 ・地域資源が有する価値や魅力を理解し、自らの言葉でまとめ、発信できるようになる。 ・ある目的を達成するため、様々な人々と協働できる
授業の進め方	テーマごとに文献リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーション、文章作成を個人で取組み、その成果を授業で報告する。受講生ならびに教員は、それを受けて、議論し、さらなる調査探求へと進む。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。 ・それをもとにゼミ論IIを完成させるが、そのフィードバックは必要に応じて行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・オリエンテーション（予定と発表順決め、など） ・夏休みの成果報告	対面
第2回	調査報告	対面
第3回	調査報告	対面
第4回	調査報告	対面
第5回	調査報告	対面
第6回	調査報告	対面
第7回	調査報告	対面
第8回	調査報告	対面
第9回	調査報告	対面
第10回	調査報告	対面
第11回	調査報告	対面
第12回	成果物のまとめ	対面
第13回	・今学期、今年度、4年間の振り返り	対面
第14回	(学修成果発表会)	対面

事前・事後学修	空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、それらの整理、文章作成に費やすことになる。 総合的に見て、それらの作業時間が週4時間を下回ることはない。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 授業内課題 20％ ② レジュメ 20％ ③ プレゼンテーション 20％ ④ 成果発表 40％
テキスト	統一的なテキストは用いない
参考文献	それぞれの受講生のテーマにあった参考文献を、その都度紹介する

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ [国教][濱田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05218S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は下記③⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、自ら選定した研究テーマについて「社会的な意義」「調査・探求」「考察（課題発見）」「提案（課題解決）」の一連のプロセスを実践し報告書にまとめる。大学生としての集大成として取り組むことにより「戦略的な考え方」と「マネジメント」の在り方が社会の様々な場面で、極めて重要な要素であることを学修します。併せてテーマの探求により国際性と多様性の観点の重要性を理解します。またゼミナール形式の演習を通じて、「調べる力」「伝える力」を高めることを目指します。
到達目標	各自の研究テーマについての系統だった調査・研究を実施し、その発表を通して、社会に出て自分の提案を自信を持って説明し、共感を得る能力を身につける。 また（経営）戦略とマネジメント（経営管理）の重要性を理解し、適切なリーダーシップの根源を説明できるようになる。また国際性と多様性を重視する考察力を涵養します。
授業の進め方	ゼミナール形式で行ないます。具体的には少人数によるテーマに関するフィールドワークを含めた各種調査を行い、発表・抄読・報告・議論などを通して双方向性の高い研究を行い、あわせて能動的学修と相互啓発を目指します。 また本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス テーマ研究Ⅰの反省とテーマ設定調査	対面授業
第2回	研究計画修正	対面授業
第3回	研究指導	対面授業
第4回	研究指導	対面授業
第5回	研究指導	対面授業
第6回	研究指導	対面授業
第7回	研究指導	対面授業
第8回	研究指導	対面授業
第9回	研究指導	対面授業

2025/04/01

第10回	研究指導	対面授業
第11回	研究指導	対面授業
第12回	学科合同ゼミ発表準備	対面授業
第13回	学科合同ゼミ発表準備・期末振り返り	対面授業
第14回	学科テーマ研究発表会(テスト対応に準ずる。)	対面授業

事前・事後学修	ゼミ内個人発表	40%
	資料作成	30%
	学科合同ゼミ発表	30%

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	ゼミ内個人発表 40% 資料作成 30% 学科合同ゼミ発表 30%
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	「経営管理」塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（著）有斐閣アルマ

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的なゼミナールを主催します。
備考	フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。 研究計画に基づいて発言・発表を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 14回目授業は3年生も参加し、学科テーマ研究会を開催します。 なお14回目の「テーマ研究」学科合同ゼミ発表会の出欠はテスト日対応に準じた扱いとなります。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔中津川〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は、大学４年間の各個人の学びを総合する土台を築く科目である。個々人の興味関心に即して、これまで身に着けた実践力や課題発見、課題解決力に磨きをかけるため、言語学などの専門分野において学生個々人が具体的なテーマを掲げ、少人数の演習形式で、自律的に調査研究の計画を立て経過を他者に分かりやすく発表できるようにする。文献購読やレポート作成のための文献表記等技法確認をしながら自身のテーマを明確にして、卒業レポートを作成する。 その上で、特に以下のテーマで研究を行う。 ①社会言語学の知識を活かして、言語が実社会でいかに使用されているかを研究・分析することを目的とする。 ②データの収集、共有、そして発信手法を学ぶ。 ③英語によるディスカッションやライティングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。
到達目標	学術的な英語を読み・まとめることができるようになる。 北海道における文化・社会とそれを取り巻く英語の問題について包括的に学ぶ。
授業の進め方	グループワークを中心とし、ゼミ生同士のディスカッションを通して理解を深める。また、フィールドワークを実施し、現地での学びを通して、理解を深化させる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行なう。レポートについては添削やコメントをつける。

授業計画表

回	授業内容
第1回	① オリエンテーション
第2回	② 研究方法論 1
第3回	③ 研究方法論 2
第4回	④ 研究方法論 3
第5回	⑤ 研究計画 1
第6回	⑥ 研究計画 2
第7回	⑦ 研究調査(フィールド・ワーク)
第8回	⑧ フィールドワークのフィードバック
第9回	⑨ 関連図書輪読 1
第10回	⑩ 関連図書輪読 2
第11回	⑪ 研究計画書 作成
第12回	⑫ 中間発表
第13回	⑬ まとめ

2025/04/01

事前・事後学修	現地フィールドワークについては、土日祝日に実施することもある。 予習・復習でおおよそ2時間程度必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	ゼミ発表の参加度・積極性 30% ・宿題 30% ・ファイナルプロジェクト 30% ・フィールドワークでのリフレクション 10%

備考	英語の教材を多く扱うため、英語が得意、頑張りたい学生の履修を推奨する。（英検2級程度） フィールドワークは、実際に街に出て、観光地などで語学がどう使われているかを確かめ学ぶことを目的としている（浦河町などを想定、交通費は各自負担） プロジェクトでは、企業と協力して社会の問題について解決するような取り組みを行う。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔小内〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業では、受講生がそれぞれの関心にもとづいてテーマを設定し、各自のテーマに沿って調査・研究を行い、そのプロセスや成果を報告します。各授業では、その報告をもとに質疑応答や討論を行い各自の研究をよりよいものにします。
到達目標	自らの問題意識を明確にし、それにそって調べ論理的な思考に基づき、レポートを執筆できるようになることを目標とします。また、研究のプロセスや成果をプレゼンテーションできるようになることを目標とします。
授業の進め方	少人数の演習形式の授業とします。毎回の授業では各自の研究の進捗状況や成果を報告します。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	当日の議論に参加し、各自の報告やそれにもとづく討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①オリエンテーション テーマ設定について	対面による演習形式
第2回	②テーマの決定（1）	対面による演習形式
第3回	③テーマの決定（2）	対面による演習形式
第4回	④研究計画の報告（1）	対面による演習形式
第5回	⑤研究計画の報告（2）	対面による演習形式
第6回	⑥資料・文献収集（1）	対面による演習形式
第7回	⑦資料・文献収集（2）	対面による演習形式
第8回	⑧補足資料の収集	対面による演習形式
第9回	⑨調査の設計と設営	対面による演習形式
第10回	⑩実査（1）	対面による演習形式
第11回	⑪実査（2）	対面による演習形式
第12回	⑫ゼミ発表会	対面による演習形式
第13回	⑬まとめと振り返り	対面による演習形式

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の前には各回の課題に沿った作業を行っておいてください。 授業後には議論を踏まえて研究計画の再検討を行ってください。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回の報告	20%
	最終レポート	40%
	最終プレゼン	40%
テキスト	テキストは使用しません。	
参考文献	授業の中で適宜、紹介します。	

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔坂梨・高倉〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科
高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業は研究レポートを作成するための論文作成指導を目的としている。考古学、先史学、民族学、文化人類学、博物館学領域での論文指導および研究指導を行なう。 自分でテーマを設定して資料を収集し、情報整理を行い、論文執筆の準備を行う。
到達目標	文献収集、資料整理を通じて、研究論文またはレポートの基本的な執筆方法を理解し、論文執筆ができるようになる。
授業の進め方	各自のテーマに沿って、課題を与え、その課題について発表し、全員で討議する形で授業を行なう。 レジューメ、パワーポイントなどを使った発表等。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レジューメ、レポート、発表等に対して担当者が内容・文章等を指導する

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	論文について
第3回	研究テーマの設定法と調査方法
第4回	資料調査法（文献調査、実物資料調査、写真調査など）
第5回	文献の読み方とまとめ方
第6回	執筆の要領、引用、要約の仕方
第7回	レジューメ発表（１）
第8回	レジューメ発表（２）
第9回	グラフ、表、図版作成について
第10回	レジューメ発表（１）
第11回	レジューメ発表（２）
第12回	中間発表会
第13回	中間発表会・フィードバック

事前・事後学修	授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること。 予習・復習の時間は、それぞれ３時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表 30％ レジュメ 30％ 中間発表 40％
テキスト	特になし。適宜配布する。
参考文献	石黒圭 2024 『新版 論文・レポートの基本』

備考	希望者は3年ゼミで実施するFWへの参加が可能。 その場合宿泊費など10000～15000円程度の費用がかかる。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔宇留野〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、主に「外国語としての日本語」に関することがらについて研究することを目的とする。「外国語としての日本語」とは、日本語非母語話者の視点から見た日本語という意味である。この授業では、卒業論文またはそれに相当する調査研究成果物の作成・発表を行う。
到達目標	・ 他の受講生の発表をよく聞き、その人の考え方を理解する。 ・ 調査・研究した内容を他の受講生が理解できるように、様々な方法を用いて伝えることができる。 ・ 自分の考えや意見を自らのことばで相手に伝えることができる。 ・ 外国語としての日本語に関する調査・研究内容を論理的な文章で表現することができる。
授業の進め方	受講生がテーマに関する卒業論文または調査研究をレジュメ等にまとめ、授業内で発表する。その発表について受講生全員で質疑応答およびディスカッションを行う。卒業論文・調査研究の作成・発表を踏まえ、最終的に一定以上の成果物を作成する。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内において質疑応答というかたちでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／卒業論文・調査研究の作成について
第2回	卒業論文・調査研究の作成
第3回	卒業論文・調査研究の作成
第4回	卒業論文・調査研究の作成
第5回	卒業論文・調査研究の発表
第6回	卒業論文・調査研究の発表
第7回	卒業論文・調査研究の発表
第8回	卒業論文・調査研究の発表
第9回	卒業論文・調査研究の発表
第10回	卒業論文・調査研究の発表
第11回	中間発表会の準備
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②・フィードバック

事前・事後学修	・ 事前学習は、テーマに関する調査、発表資料の作成が中心となる。 ・ 事後学習は、質疑応答で指摘された内容について、新たに調査・研究を行い、まとめ直すことが中心となる。 ・ 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業論文または調査研究の発表…50％ 卒業論文または調査研究に関するレポート…50％
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。

備考	・授業への積極的な参加が求められる。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔新谷〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は、大学4年間の各個人の学びを総合する土台を築く科目である。個々人の興味関心に即して、これまで身に着けた実践力や課題発見、課題解決力に磨きをかけるため、言語学などの専門分野において学生個々人が具体的なテーマを掲げ、少人数の演習形式で、自律的に調査研究の計画を立て経過を他者に分かりやすく発表できるようにする。文献購読やレポート作成のための文献表記等技法確認をしながら自身のテーマを明確にして、卒業レポートを作成する。 その上で、特に以下のテーマで研究を行う。 ①社会言語学の知識を活かして、言語が実社会でいかに使用されているかを研究・分析することを目的とする。 ②データの収集、共有、そして発信手法を学ぶ。 ③英語によるディスカッションやライティングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。
到達目標	学術的な英語を読み・まとめることができるようになる。 北海道における文化・社会とそれを取り巻くビジネスの問題について包括的に学ぶ。
授業の進め方	グループワークを中心とし、ゼミ生同士のディスカッションを通して理解を深める。また、フィールドワークを実施し、現地での学びを通して、理解を深化させる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行なう。レポートについては添削やコメントをつける。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	研究方法論 1	対面授業
第3回	研究方法論 2	対面授業
第4回	研究計画 1	対面授業
第5回	研究計画 2	対面授業
第6回	調査研究 1（フィールドワーク）	対面授業
第7回	調査研究 2（フィールドワーク）	対面授業
第8回	調査研究 3	対面授業
第9回	プレゼン準備 1	対面授業
第10回	プレゼン準備 2	対面授業
第11回	ゼミ内発表 1	対面授業
第12回	中間発表 1	対面授業
第13回	中間発表 2・フィードバック	対面授業

事前・事後学修	現地フィールドワークについては、土日祝日に実施することもある。 予習・復習でおおよそ2時間程度必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔武井〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	多文化共生社会の諸要素から各自の研究テーマを焦点化して深めることを目的とします。文学研究が人文科学のうち、詩・小説・戯曲・エッセイなど、鑑賞者の感情に働きかけ、楽しませてくれる言語芸術作品を対象に、実証主義による態度で臨むことを学び、フィールドワークによりさらに視野を広げ、現代社会の実相を考えます。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。 ⑤調査研究を進め発表としてまとめることができる。 ⑥フィールドワーク事前学習により各自の視野を広げることができる。
授業の進め方	各自の研究経過報告および文献講読、フィールドワークにより進める。グループ討議とプレゼンテーションを重ねながら研究成果をまとめていく。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の研究テーマについての文献収集と論究の状況を確認し助言する。 文献要約発表により論文作成の実際の学びを深める。その助言する。 海外フィールドワークにより視野を広げる。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 展開計画と各自の準備内容確認、個別面談	
第2回	文献講読と要約発表 1	
第3回	フィールドワーク計画立案協議	
第4回	文献講読と要約発表 2	
第5回	フィールドワーク事前学習 1	
第6回	文献講読と要約発表 3	
第7回	フィールドワーク事前学習 2	
第8回	文献講読と要約発表 4	
第9回	文献講読と要約発表 5	
第10回	文献講読と要約発表 6	
第11回	フィールドワーク計画協議	
第12回	中間発表会①	対面
第13回	中間発表会②、フィードバック、授業評価、ポートフォリオ	対面

事前・事後学修	①文献要約準備 ③テーマ関連文献の収集と確認、記録を継続 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①文献要約 20％ ②フィールドワーク準備報告 20％ ③個別テーマ発表 20％ ④中間発表 40％
テキスト	青井汎『宮崎アニメの暗号』新潮新書 切通理作『宮崎駿の＜世界＞』ちくま新書 岡田斗司夫『誰も知らないジブリアニメの世界』SB新書 よしもとばなな『アルゼンチンパパア』幻冬舎文庫 吉本ばなな『ミトンとふびん』新潮社 吉本ばなな『幸せへのセンサー』幻冬舎 鄭秋迪『吉本ばななの文学と中国』論創社
参考文献	授業で紹介する

備考	・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。 ・文化共生社会を現地訪問し、文学との関わりをさらに意識するためのフィールドワークを行う。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔趙〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本授業は、学生が自ら研究テーマを設定し、主体的な調査・分析を行うことを目的とします。 自分の関心のある分野について深く掘り下げること、問題発見力や論理的思考力、情報収集・分析能力を養います。 また、研究の過程で得た知見を整理し、適切に表現・発表する力を身につけることを目指します。 最終的には、自らの研究成果をまとめ、発表・議論を通じて学びを深めることで、独自の視点を持ったことで、社会に出て求められる論理的思考力や問題解決能力を養い、自らの考えを的確に表現できる力を培います。 授業の概要 本授業では、各学生が自身の研究テーマを決定し、計画的に調査・考察を進めます。 授業では、研究の進め方や資料収集の方法、最終報告書の構成などについて指導を行いながら、学生の研究活動をサポートします。 また、定期的に進捗報告や発表を行い、教員やクラスメイトからフィードバックを受けながら研究を深化させます。 ディスカッションや意見交換を通じて、多角的な視点を養い、最終的に成果を報告書やプレゼンテーションの形でまとめることを目標とします。
到達目標	・自ら研究テーマを設定し、計画的に調査・分析を進める力を身につける。 ・資料の収集・整理・分析を通じて、論理的思考力と批判的思考力を養う。 ・自分の研究成果を適切に文章化し、論理的に表現するスキルを習得する。 ・発表やディスカッションを通じて、他者と意見を交わし、多角的な視点を持つ力を高める。 ・社会に出て求められる課題解決能力や情報活用能力を身につけ、自らの考えを的確に伝えられる力を培う。
授業の進め方	各学生が自身の研究テーマを設定し、資料収集・調査・分析を進めながら研究を深めます。 定期的な進捗報告やディスカッションを通じて多角的な視点を養い、教員やクラスメイトからのフィードバックを受けながら研究を発展させます。 最終的に、研究成果を最終報告書やプレゼンテーションの形でまとめ、発表を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で課題や発表を行い、担当教員がフィードバックを提供します。 さらに、次週に向けての取り組み内容を確認し、学習の進捗を把握しながら理解を深めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	テーマ設定	対面
第3回	テーマ発表①・フィードバック	対面
第4回	ゼミプロジェクト① 食文化比較：料理実習	対面
第5回	ゼミプロジェクト②	対面
第6回	ゼミプロジェクト③	対面
第7回	ゼミプロジェクト④ 食文化比較：料理実習	対面

第8回	テーマ発表②・フィードバック	対面
第9回	発表会準備①	対面
第10回	発表会準備②	対面
第11回	ゼミ内発表	対面
第12回	中間発表会①	対面
第13回	中間発表会②・フィードバック	対面

事前・事後学修	個人テーマの内容に対する探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週5時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表 40% 報告書 40% 参加度 20%
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	・授業の内容や進め方は、状況に応じて変更される可能性があります。最新の情報は適宜お知らせします。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔椿〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 椿 明美	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	テーマ：「ビジネスと働き方」 グローバル化する社会、人口減少による労働力不足の中、働き方と生産性が問われています。働き方改革により働き方は変化していますが、働く人の視点から見るとまだまだ課題は多くあります。 本ゼミは、3年次から引き続きSDGs17目標の第8番目「働きがいも、経済成長も」を基盤にゼミ活動を進めます。特に諸外国の制度や働き方の違いに目を向け、日本の働き方、それが経済にどのように影響するのかを踏まえながら、それぞれのテーマを設定し、これからの日本社会でどのように働くことが幸福な生活に繋がるのかを追及します。最終レポートは10,000字です。
到達目標	① テーマを設定し、専門的に調べることができる。 ② 各自のテーマからフィールドに出て調査することができる。 ③ 多様な視点から考え、協働することができる。 ④ 各自のテーマが社会にどう貢献するかを考え、それを発表することができる。
授業の進め方	講義、ディスカッション、 授業は毎回、講義、事例提示等の後、ディスカッションをします。またフィールドワーク、プレゼンテーションを行います。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	評価基準となる課題については、Webclassを利用し、その評価を個別に示します。 また、学生からの質問については、個別あるいは全体へ向けて適宜答えます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：ゼミの目的、ルール	対面授業
第2回	レクチャー&ディスカッション(1)	対面授業
第3回	レクチャー&ディスカッション(2)	対面授業
第4回	レクチャー&ディスカッション(3)	対面授業
第5回	研究計画案作成	対面授業
第6回	研究計画案調整	対面授業
第7回	フィールドワーク計画	対面授業
第8回	フィールドワーク実施	対面授業
第9回	調査ディスカッション	対面授業
第10回	グループワーク & 発表準備	対面授業
第11回	ゼミ内発表 フィードバック	対面授業

第12回	中間発表会①	対面授業
第13回	中間発表会②	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・ディスカッションのための下調べをします。 ・調べたことは報告としてPPT,写真等で残します。 【必要な時間】 ・事前事後、それぞれ2時間程度を予定しています。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内課題 20％ フィールドワーク課題（PPT含む） 30％ プレゼンテーション 10％ レポート課題、振り返り 40％
テキスト	資料を配布します。
参考文献	「世界基準の働き方」高岡浩三、PHP研究所 「日本人が知らない世界標準の働き方」谷本 真由美、PHP研究所 「働き方ー「なぜ働くのか、いかに働くのか」稲盛和夫、三笠書房 「ドイツ人のすごい働き方」西村栄基、すばる舎 リクルートワークス研究書調査結果、労働政策研究・研修機構調査結果、労働白書（厚労省）、働く女性の実情（厚労省）等

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、役員秘書としての経験を通じ、組織運営の実務や対人対応の技術を身に付け、その後、職業教育やキャリア教育に携わる中で教育の現場での指導力を磨いてきました。これらの経験を基に、実践的なスキルと理論を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	ディスカッションで活気ある議論を求めます。 最終レポートは10,000字です。前半は骨組みを決めるための議論をします。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔国教〕〔横川〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	ある地域を取り上げ、その地域の魅力を掘り下げていき、その地域を活性化させる取組みについて自ら発信できることを目的とする
到達目標	・ 応用演習I/IIを踏まえ、文献調査、レジュメ作成に関する応用的な力を身につける。 ・ 地域資源が有する価値や魅力を理解し、自らの言葉でまとめ、発信できるようになる。 ・ ある目的を達成するため、様々な人々と協働できる
授業の進め方	テーマごとに文献リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーションを個人で取組み、その成果を授業で報告する。受講生ならびに教員は、それを受けて、議論し、さらなる調査探求へと進む

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・ 授業における調査探求の成果報告は、都度、口頭でフィードバックする ・ 成果物に対しては、口頭、WebClass、メールにてフィードバックする

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・ オリエンテーション（予定の説明、発表順決め、など） ・ 春休みの成果報告	対面
第2回	・ 自らのテーマについての調査報告計画の策定	対面
第3回	・ 調査報告	対面
第4回	・ 調査報告	対面
第5回	・ フィールドワークにむけた調査報告	対面
第6回	・ フィールドワークにむけた追加の調査報告	対面
第7回	・ フィールドワーク	対面
第8回	・ フィールドワーク成果報告	対面
第9回	・ 調査報告	対面
第10回	・ 調査報告	対面
第11回	・ 調査報告	対面
第12回	学修成果発表会	対面
第13回	今期のまとめと振り返り	対面

事前・事後学修	空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、それらの整理に費やすことになる。 総合的に見て、それらの作業時間が週4時間を下回ることはない。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 授業内課題 20％ ② レジューメ 20％ ③ プレゼンテーション 20％ ④ 成果発表 40％
テキスト	統一的なテキストは用いない
参考文献	それぞれの受講生のテーマにあった参考文献を、その都度紹介する

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ [国教][濱田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05217S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は下記③⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、自ら選定した研究テーマについて「社会的な意義」「調査・探求」「考察（課題発見）」「提案（課題解決）」の一連のプロセスを実践し報告書にまとめる。大学生としての集大成として取り組むことにより「戦略的な考え方」と「マネジメント」の在り方が社会の様々な場面で、極めて重要な要素であることを学修します。併せてテーマの探求により国際性と多様性の観点の重要性を理解します。またゼミナール形式の演習を通じて、「調べる力」「伝える力」を高めることを目指します。
到達目標	各自の研究テーマについての系統だった調査・研究を実施し、その発表を通して、社会に出て自分の提案を自信を持って説明し、共感を得る能力を身につける。 また（経営）戦略とマネジメント（経営管理）の重要性を理解し、適切なリーダーシップの根源を説明できるようになる。また国際性と多様性を重視する考察力を涵養します。
授業の進め方	ゼミナール形式で行ないます。具体的には少人数によるテーマに関するフィールドワークを含めた各種調査を行い、発表・抄読・報告・議論などを通して双方向性の高い研究を行い、あわせて能動的学修と相互啓発を目指します。 また本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 応用演習Ⅱの反省とテーマ設定調査	対面授業
第2回	テーマ設定・研究計画策定	対面授業
第3回	研究指導	対面授業
第4回	研究指導	対面授業
第5回	研究指導	対面授業
第6回	研究指導	対面授業
第7回	研究指導	対面授業
第8回	研究指導	対面授業
第9回	研究指導	対面授業

第10回	研究指導	対面授業
第11回	学科合同ゼミ発表準備	対面授業
第12回	学科合同ゼミ発表（テスト対応に準ずる。）	対面授業
第13回	学科合同ゼミ発表・期末振返り（テスト対応に準ずる。）	対面授業

事前・事後学修	研究計画に従って調査の事前準備、調査事項の整理、発表準備、ゼミ内個人発表資料作成、学科合同ゼミ発表準備などの予習復習を必要とします。系統だった調査研究の実施のために、調査研究の詳細を記録した調査ノートを作成してください。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 また科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。 予習復習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	ゼミ内個人発表 40％ 資料作成 30％ 学科合同ゼミ発表 30％
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	「経営管理」塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（著）有斐閣アルマ

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的なゼミナールを主催します。
備考	フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。 研究計画に基づいて発言・発表を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 第12・13回目授業の「テーマ研究」学科中間発表会の出席はテスト時の出席に準じた取り扱いになります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [国教][中津川]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、前期で学んだフィールドワークに対して、問題意識を持ち、その解決策を考えることを目的とする。英語で書かれた先行研究を精読し、英語力を伸ばすとともに、異文化コミュニケーションについて理解を深める。
到達目標	①英語の講読を通し、自分の意見を英語で議論・レポートを書けることができる。 ②多文化社会を理解し、その問題について自ら考え、アウトプットできる力を身につける。 ③授業で取り上げた多文化について日本のケースについて考え、発表できる。
授業の進め方	講義は、大きく分けて二つある。 ・英語の講読とその分野についてのプレゼンテーション ・その分野に対するディスカッションとその実地調査

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行う。レポートについては添削やコメントをつける。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	夏季課題発表	対面授業
第2回	ディスコース分析	対面授業
第3回	相互行為的社会言語学	対面授業
第4回	社会言語学と異文化コミュニケーション	対面授業
第5回	会話分析	対面授業
第6回	語用論	対面授業
第7回	ポライトネス	対面授業
第8回	言語とイデオロギー	対面授業
第9回	社会言語学からの貢献	対面授業
第10回	発表計画必要に応じて、ハンドアウトを適宜配布予定	対面授業
第11回	ゼミ内発表	対面授業
第12回	最終発表会①	対面授業
第13回	最終発表会②・フィードバック	対面授業
第14回	4年生研究発表会参加 （テスト対応に準ずる。実施日は調整後連絡）	対面授業

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	調べ物 20%、 ゼミ内発表 20%、 レジュメ 20%、 レポート 20% 最終発表会 20%
テキスト	必要に応じて、ハンドアウトを適宜配布予定

備考	フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費だが、一部補助の場合もある。 英語の教材を多く扱うため、英語が得意、頑張りたい学生の履修を推奨する。(英検2級程度推奨) 14週目はテスト扱いとします。欠席のないようにください。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[国教][趙]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本演習は、韓国の歴史、文化、経済、政治、社会など幅広い分野について学び、韓国が抱える様々な課題やその国際的な影響に焦点を当てながら、深い理解を目指します。 また、対照言語学的な視点から日本語と韓国語を比較し、両言語の構造や特徴を分析することで、韓国語習得の基礎を固めるとともに、言語を通じた異文化理解を促進します。 さらに、韓国語教育にも焦点を当て、韓国語教育の現状や教育法について学びます。これにより、韓国語学習の意義や効果的な学習方法について考察し、実践的な言語教育の理解を深めます。 授業の概要 本授業では、韓国の社会・文化・歴史・経済・政治に加え、韓国語教育についても扱い、韓国語がどのように学ばれ、教えられているのかを学びます。特に、日本と韓国における韓国語教育の違いや、グローバルな韓国語学習の動向にも注目します。 講義に加え、ディスカッションやグループ活動を取り入れ、学生同士の意見交換を通じて多角的な視点を養います。
到達目標	・韓国の歴史、文化、経済、政治、社会など幅広い分野について総合的な理解を深める。 ・韓国が直面しているさまざまな課題や問題について考察し、理解を深める。 ・批判的思考力を養い、韓国に関する社会問題や国際的な課題に対して論理的に分析・考察できる力を身につける。 ・問題解決能力を向上させ、多角的な視点から物事を捉える力を培う。
授業の進め方	担当教員による講義を通じて基本的な知識を提供し、その後ディスカッションを行います。 学生は、講義内容に関する質問をしたり、自身の見解や考察を共有したりすることで、理解を深めます。 また、独自の研究やプロジェクトに取り組み、その成果を発表する機会を設けます。 これにより、主体的に学ぶ姿勢を養い、批判的思考力や問題解決能力の向上を目指します。 さらに、4年次のテーマ研究に向けた個人研究テーマを探すことも重視し、講義やディスカッションを通じて自身の関心分野を明確にします。 授業内での考察や発表を通じて、研究の方向性を深め、より具体的なテーマ設定につなげていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業で課題や発表を行い、担当教員がフィードバックを提供します。 さらに、次週に向けての取り組み内容を確認し、学習の進捗を把握しながら理解を深めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	書評準備	対面
第3回	書評作成	対面
第4回	ゼミプロジェクト① 食文化比較：料理実習	対面
第5回	ゼミプロジェクト②	対面
第6回	ゼミプロジェクト③	対面

第7回	ゼミプロジェクト④ まとめ・ミニプレゼンテーション	対面
第8回	個人テーマ設定①	対面
第9回	個人テーマ設定②	対面
第10回	発表準備	対面
第11回	ゼミ内発表	対面
第12回	最終発表会①	対面
第13回	最終発表会②・フィードバック	対面
第14回	4年生研究発表会参加(テスト対応に準ずる。実施日は調整後連絡)	対面

事前・事後学修	自らのグループのテーマに沿って、データ収集、発表準備などを行います。 講義で得た知識をもとに、主体的に調査・考察を進め、グループ内で意見を共有しながら学びを深めます。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表 40% 報告書 40% 参加度 20%
テキスト	なし
参考文献	授業内で紹介する。

備考	・韓国語のレベルは、本学の「韓国語I」以上のレベルが求められます。 ・授業の内容や進め方は、状況に応じて変更される可能性があります。最新の情報は適宜お知らせします。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[国教][黄]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この演習は、北海道における「異文化」に関する事柄について調査・考察することを目的とする。「異文化」とは生活様式、社会習慣ないし物の考え方などの異なる文化という意味である。文化の相違は、国籍・地域や人種、民族、宗教、歴史的背景、居住地などから発生します。また、同じ国でも、同様な民族でも性別や年齢、学歴、職業などによって違いが生じます。演習の前半部分では、「異文化」に関する基礎的な知識などを中心に講義を行う。講義を通し、「異文化」に対する理解を深め、「異文化」に関する基礎的な知識を身に付ける。演習の後半部分では、日本、中でも北海道における「異文化」に関し、いくつかのグループを分けた上で、各々がテーマを設定し、調査・考察を進める。最終的に予定以上の成果物を作成する。
到達目標	・「異文化」の基礎知識について理解を深める ・テーマに関する調査の仕方、資料のまとめ方、論理的な文章を書く能力を身に付ける。 ・調査・考察した内容を他の聴講者が理解できるように、PPTなどの様々な方法を用いて伝えることができる。
授業の進め方	講義及びゼミ形式で演習を進める。前半では、「異文化」に関する基礎的な知識などを中心に講義を行い、その内容について各グループが話し合いながら理解を深めていく。後半では、各グループ自らが設定したテーマについて調査・考察を行う。調査した内容を記録し、自分の意見について語り、他のメンバーと意見交換や質疑応答、ディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	演習内において意見交換や質疑応答といった形でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（自己紹介、海外への渡航経験、研究関心の共有）	対面授業
第2回	「異文化」に関する基礎知識その①	対面授業
第3回	「異文化」に関する基礎知識その②	対面授業
第4回	「異文化」に関する基礎知識その③	対面授業
第5回	「異文化」に関する基礎知識その④	対面授業
第6回	テーマについての調査・考察発表その①	対面授業
第7回	テーマについての調査・考察発表その②	対面授業
第8回	テーマについての調査・考察発表その③	対面授業
第9回	テーマについての調査・考察発表その④	対面授業
第10回	テーマについての調査・考察発表その⑤	対面授業
第11回	学修成果発表会の準備	対面授業
第12回	最終発表会①	対面授業
第13回	最終発表会②・フィードバック	対面授業
第14回	4年生研究発表会参加(テスト対応に準ずる。実施日は調整後連絡)	対面授業

事前・事後学修	・事前学習は、「異文化」をめぐる基礎知識の予習及びテーマに関する調査・考察、発表資料の作成が中心となる。 ・事前学習は、「異文化」をめぐる基礎知識の復習及び意見交換、質疑応答で問題となった内容について、新たに調査・考察を行い、まとめ直すことが中心となる。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 演習への取り組み（積極性） 30% ・ 調査・考察のプレゼンテーションの完成度 30% ・ 研究成果物 40%
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	「異文化」に関する様々な情報をネットで収集し、演習内で適宜紹介する。

備考	・ 13回目の演習はテストに準ずるものとして3年生テーマ研究発表会に参加する。 ・ 教員の公務などのやむを得ない事情により、授業計画を変更する場合もある。 ・ 授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。 ・ 3年生は午後開催の合同会社説明会に必ず出席すること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [国教][坂梨・高倉]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科
高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は、考古学、先史学、博物館学、文化資源学、文化人類学の領域、北海道、ロシア極東を中心とした先史文化、また地域の歴史的文化的資源の活用をテーマとする。資料調査、フィールドワーク等を通じて、学生が主体的に学ぶ力を身につけることを目的とした授業である。 また4年のテーマ研究Ⅰ・Ⅱに続く基礎的な資料調査、分析、論文作成の方法などを学ぶ。
到達目標	論文、調査（調べもの）、フィールドワーク等を通じて、研究テーマや地域資源の活用について自分なりの考えを持ち、主体的な活動ができる
授業の進め方	基本的に演習方式であるため、テーマごとに調査、発表をおこなってもらう。 また地域資源の活用を演習全体のテーマとして、フィールドワークなどの活動を実施する予定である。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	調査に関するシートやレジュメ確認、発表、フィールドワークにおけるディスカッション、報告などでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	発表①
第3回	発表②
第4回	発表③
第5回	発表④
第6回	フィールドワーク準備①
第7回	フィールドワーク準備②
第8回	フィールドワーク実施（予定）
第9回	フィールドワークのフィードバック
第10回	最終発表会準備①
第11回	最終発表会準備②
第12回	最終発表会①
第13回	最終発表会②・フィードバック
第14回	4年生研究発表会参加(テスト対応に準ずる。実施日は調整後連絡)

事前・事後学修	授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること 予習・復習の時間は、それぞれ3時間を目安とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	調べもの 20％ 発表 20％ レジュメ 20％、 成果報告 20％ レポート 20％
テキスト	特になし。適宜指示・配布する。
参考文献	『季刊まちづくり』八甫谷 邦明編 学芸社 など

備考	フィールドワークに別途費用が掛かる場合がある（10000円程度を予定。詳細は授業内で説明）。 授業外でも積極的に活動すること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[国教][宇留野]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、「外国語としての日本語」に関することからについて調査・研究することを目的とする。「外国語としての日本語」とは、日本語非母語話者の視点から見た日本語という意味である。「日本語非母語話者の視点」というのは、日本語が母語ではない人の視点に立って日本語を考えるという意味であり、これは日本語母語話者にとっても重要な考え方である。 授業の前半部分では、日本語に関する基礎的な知識についての講義を行う。講義を通して、日本語に対する理解を深め、日本語に関する基礎的な知識を身に付ける。授業の後半部分では、外国語としての日本語に関して、各々がテーマを設定し、調査・研究を進める。最終的に一定以上の成果物を作成する。
到達目標	・日本語の基礎知識について理解を深める。 ・資料の調査方法やまとめ方、論理的な文章を書く力を身に付ける。 ・他の受講生の発表をよく聞き、その人の考え方を理解する。 ・調査・研究した内容を他の受講生が理解できるように、様々な方法を用いて伝えることができる。 ・自分の考えや意見を自らのことばで相手に伝えることができる。 ・テーマに関する調査・研究内容を論理的な文章で表現することができる。
授業の進め方	講義および演習形式で授業を進める。授業の前半部分では、日本語に関する基礎的な知識について講義を行い、その内容について全員で話し合いながら理解を深めていく。授業の後半部分では、自らが設定したテーマについて調査・研究を行う。調査した内容をレジュメ等にまとめ、自分の意見について発表し、他の受講生全員と質疑応答やディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内において質疑応答というかたちでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	日本語に関する基礎知識について
第3回	日本語に関する基礎知識について
第4回	日本語に関する基礎知識について
第5回	日本語に関する基礎知識について
第6回	テーマについての調査・研究発表
第7回	テーマについての調査・研究発表
第8回	テーマについての調査・研究発表
第9回	テーマについての調査・研究発表
第10回	テーマについての調査・研究発表
第11回	最終発表会の準備
第12回	最終発表会①
第13回	最終発表会②・フィードバック

2025/04/01

第14回	4年生研究発表会参加(テスト対応に準ずる。実施日は調整後連絡)

事前・事後学修	・事前学習は、日本語の基礎知識の予習およびテーマに関する調査、発表資料の作成が中心となる。 ・事後学習は、日本語の基礎知識の復習および質疑応答で指摘された内容について、新たに調査・研究を行い、まとめ直すことが中心となる。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	調査・研究の発表…50％ 研究成果物…50％
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。

備考	・授業への積極的な参加が求められる。 ・14回目授業はテストに準ずるものとして4年生テーマ研究発表会に参加する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [国教][濱田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は下記③⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、自ら選定したテーマの調査研究により「戦略的な考え方」と「マネージメント」の在り方が社会の様々な場面で、極めて重要な要素であることを学修します。併せて国際性と多様性に裏付けられた意思決定の重要性を理解します。またゼミナール形式の演習を通じて、「調べる力」「伝える力」を高めることを目指します。
到達目標	テーマについての調査・研究・発表を通して、（経営）戦略とマネージメント（経営管理）の重要性を理解し、説明できるようになる。また国際性と多様性を重視する考察力を涵養します。併せて次年度の「テーマ研究」に必要な学習スキルを身に付けることを目標とします。
授業の進め方	ゼミナール形式で行ないます。具体的には少人数によるテーマに関するフィールドワークを含めた各種調査を行い、発表・抄読・報告・議論などを通して双方向性の高い研究を行い、あわせて能動的学修と相互啓発を目指します。 また本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 応用演習Ⅰの反省とテーマ設定調査	対面授業
第2回	テーマ設定・研究計画策定	対面授業
第3回	調査事前準備	対面授業
第4回	調査・発表①～フィールドワークなど	対面授業
第5回	調査・発表(2)～フィールドワークなど	対面授業
第6回	文献抄読準備	対面授業
第7回	文献抄読①～発表・意見交換	対面授業
第8回	文献抄読②～発表・意見交換	対面授業
第9回	学科合同ゼミ発表準備①	対面授業
第10回	学科合同ゼミ発表準備②	対面授業

第11回	学科合同ゼミ発表準備③	対面授業
第12回	学科合同ゼミ発表（テスト対応に準ずる）	対面授業
第13回	学科合同ゼミ発表・まとめと振り返り（テスト対応に準ずる）	対面授業
第14回	4年生テーマ研究発表会参加（テスト対応に準ずる）	対面授業

事前・事後学修	研究計画に従って調査の事前準備、調査事項の整理、発表準備、ゼミ内個人発表資料作成、学科合同ゼミ発表準備などの予習復習を必要とします。次年度の調査研究の準備・蓄積として、調査研究の詳細を記録した調査ノートを作成してください。 また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 また科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。 予習復習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	ゼミ内個人発表 40% 資料作成 30% 学科合同ゼミ発表 30%
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	「経営管理」塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（著）有斐閣アルマ

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的なゼミナールを主催します。
備考	フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。 研究計画に基づいて発言・発表を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 第12・13回目「応用演習」学科合同発表および第14回目の4年生テーマ研究発表会の参加の出欠はテスト対応に準ずる扱いとなります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [国教][新谷]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では、地域の特色やリソースを活かしたビジネスを立ち上げ、SDGsの目標に貢献することで、地域の活性化を図る。
到達目標	①大学で学ぶことを自ら考えることができることを身につける。 ②情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。
授業の進め方	ゼミ担当教員のもとで、SDGsについてテーマ研究や調査を行う。テーマに関する知識と調査や活動に必要な手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	地域課題設定	対面授業
第3回	課題確認	対面授業
第4回	調査研究1（フィールドワーク）	対面授業
第5回	調査研究2（フィールドワーク）	対面授業
第6回	調査研究3（フィールドワーク）	対面授業
第7回	プレゼン準備1	対面授業
第8回	プレゼン準備2	対面授業
第9回	プレゼン準備3	対面授業
第10回	ゼミ内発表1	対面授業
第11回	ゼミ内発表2	対面授業
第12回	最終発表1	対面授業
第13回	最終発表2・フィードバック	対面授業
第14回	4年生研究発表会参加(テスト対応に準ずる。実施日は調整後連絡)	対面授業

事前・事後学修	・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システムから提出する。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ [国教][小内]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05216S

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では現代の社会問題の構造や背景について理解を深めることを目的に、「現代的な社会問題」に関わるテーマで、選定された文献や資料に基づきながら履修者による文献・資料の読解と議論を行います。
到達目標	多様な現代的社会問題の現状や課題について理解ができ、自らの意見をもてるようになることを目標とします。
授業の進め方	各自の問題意識に合わせて「現代的な社会問題」に関わる文献や資料を選定し、それをもとに議論を行います。毎回、レポーターと司会を決め、レポーターは文献の要約と論点の提示、司会はゼミの進行・論点の整理を行ってもらい、議論の活性化を図るようにします。履修者には各自レポーターと司会をそれぞれ1回以上、担当してもらいます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	当日の議論に参加し、レポーターが作成してきた資料や討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①演習の進め方と文献の選定（1）	対面による演習形式
第2回	②演習の進め方と文献の選定（2）	対面による演習形式
第3回	③文献・資料の読解と議論（1）	対面による演習形式
第4回	④文献・資料の読解と議論（2）	対面による演習形式
第5回	⑤文献・資料の読解と議論（3）	対面による演習形式
第6回	⑥文献・資料の読解と議論（4）	対面による演習形式
第7回	⑦文献・資料の読解と議論（5）	対面による演習形式
第8回	⑧文献・資料の読解と議論（6）	対面による演習形式
第9回	⑨文献・資料の読解と議論（7）	対面による演習形式
第10回	⑩文献・資料の読解と議論（8）	対面による演習形式
第11回	⑪文献・資料の読解と議論（9）	対面による演習形式
第12回	⑫ゼミ発表会	対面による演習形式
第13回	⑬まとめと振り返り	対面による演習形式

【具体的な内容】

事前・事後学修	授業時の最後に次週の学習について予告するので、文献・資料の該当箇所の予習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、配付された資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。また、日常から新聞を読み、ニュースの報道、解説に関心を持つようにしてください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポーターや司会を担当した際の達成度と毎回の授業における議論への参加の度合いによって評価する。評価の配分は、担当の報告資料の充実度40％、報告資料の発表の出来40％、司会と各授業における議論の参加の度合い20％とします。
テキスト	1回目と2回目の授業で決めます。
参考文献	授業の中で適宜、紹介します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ [国教][中津川]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S

担当教員

氏名	所属
◎ 中津川 雅宣	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	①社会言語学の基礎を学ぶとともに、言語が実社会でいかに使用されているかを分析することを目的とする。 ②データの収集、共有、そして発信手法を学ぶ。 ③英語によるディスカッションやライティングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。
到達目標	学術的な英語を読み・まとめることができるようになる。 北海道における文化・社会とそれを取り巻く英語の問題について包括的に学ぶ。
授業の進め方	基本的に講義形式ディスカッション、プレゼンテーションなど、主体的な学びが求められます。フィードワークを通して、北海道における文化・社会と英語について学んでいきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行なう。レポートについては添削やコメントをつける。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション	対面授業
第2回	社会言語学とは	対面授業
第3回	言語の変異	対面授業
第4回	バイリンガリズム・マルチリンガリズム	対面授業
第5回	リングフランカ・ビジン・クレオール	対面授業
第6回	調査方法1	対面授業
第7回	フィールドワーク	対面授業
第8回	ジェンダーと言語	対面授業
第9回	調査方法2	対面授業
第10回	フィールドワーク2	対面授業
第11回	発表準備	対面授業
第12回	中間発表会①	対面授業
第13回	中間発表会②・フィードバック	対面授業

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	調べ物 20%、 ゼミ内発表 20% レジュメ 20% 中間発表 40%
テキスト	白井 恭弘 著「ことばの力学」応用言語学への招待 岩波書店 (ISBN 9784004314196)

備考	現地フィールドワークについては、土日祝日に実施することもある。 英語の教材を多く扱うため、英語が得意、頑張りたい学生の履修を推奨する。(英検2級程度) フィールドワークは、実際に街に出て、観光地などで語学がどう使われているかを確かめ学ぶことを目的としている（主に浦河町などを想定、交通費は各自負担） プロジェクトでは、企業と協力して社会の問題について解決するような取り組みを行う。 ゼミの出席は当たり前のことです。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔国教〕〔趙〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	授業の目的 本演習は、韓国の歴史、文化、経済、政治、社会など幅広い分野について学び、韓国が抱える様々な課題やその国際的な影響に焦点を当てながら、深い理解を目指します。 また、対照言語学的な視点から日本語と韓国語を比較し、両言語の構造や特徴を分析することで、韓国語習得の基礎を固めるとともに、言語を通じた異文化理解を促進します。 さらに、韓国語教育にも焦点を当て、韓国語教育の現状や教育法について学びます。これにより、韓国語学習の意義や効果的な学習方法について考察し、実践的な言語教育の理解を深めます。 授業の概要 本授業では、韓国の社会・文化・歴史・経済・政治に加え、韓国語教育についても扱い、韓国語がどのように学ばれ、教えられているのかを学びます。特に、日本と韓国における韓国語教育の違いや、グローバルな韓国語学習の動向にも注目します。 講義に加え、ディスカッションやグループ活動を取り入れ、学生同士の意見交換を通じて多角的な視点を養います。 資料や映像を活用し、韓国語教育の実践例を学ぶとともに、韓国と日本の関係性や国際社会における韓国の役割について深く考察する機会を設けます。
到達目標	・韓国の歴史、文化、経済、政治、社会など幅広い分野について総合的な理解を深める。 ・韓国が直面しているさまざまな課題や問題について考察し、理解を深める。 ・批判的思考力を養い、韓国に関する社会問題や国際的な課題に対して論理的に分析・考察できる力を身につける。 ・問題解決能力を向上させ、多角的な視点から物事を捉える力を培う。
授業の進め方	担当教員による講義を通じて基本的な知識を提供し、その後ディスカッションを行います。 学生は、講義内容に関する質問をしたり、自身の見解や考察を共有したりすることで、理解を深めます。 また、独自の研究やプロジェクトに取り組み、その成果を発表する機会を設けます。 これにより、主体的に学ぶ姿勢を養い、批判的思考力や問題解決能力の向上を目指します。 さらに、4年次のテーマ研究に向けた個人研究テーマを探すことも重視し、講義やディスカッションを通じて自身の関心分野を明確にします。 授業内での考察や発表を通じて、研究の方向性を深め、より具体的なテーマ設定につなげていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業で課題や発表を行い、担当教員がフィードバックを提供します。 さらに、次週に向けての取り組み内容を確認し、学習の進捗を把握しながら理解を深めていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（学科合同）	対面
第2回	ガイダンス（ゼミ対応）	対面
第3回	ゼミプロジェクト① 食文化比較：料理実習	対面
第4回	ゼミプロジェクト②	対面
第5回	ゼミプロジェクト③	対面

第6回	ゼミプロジェクト④ まとめ・ミニプレゼンテーション	対面
第7回	ゼミプロジェクト⑤ 食文化比較：料理実習	対面
第8回	ゼミプロジェクト⑥	対面
第9回	ゼミプロジェクト⑦	対面
第10回	ゼミプロジェクト⑧ まとめ・ミニプレゼンテーション	対面
第11回	ゼミ内発表	対面
第12回	中間発表会①	対面
第13回	中間発表会②・フィードバック	対面

事前・事後学修	自らのグループのテーマに沿って、データ収集、発表準備などを行います。 講義で得た知識をもとに、主体的に調査・考察を進め、グループ内で意見を共有しながら学びを深めます。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	発表 40% 報告書 40% 参加度 20%
テキスト	なし
参考文献	授業内で紹介する。

備考	・韓国語のレベルは、本学の「韓国語I」以上のレベルが求められます。 ・授業の内容や進め方は、状況に応じて変更される可能性があります。最新の情報は適宜お知らせします。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[国教][黄]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この演習は、北海道における「異文化」に関する事柄について調査・考察することを目的とする。「異文化」とは生活様式、社会習慣ないし物の考え方などの異なる文化という意味である。文化の相違は、国籍・地域や人種、民族、宗教、歴史的背景、居住地などから発生します。また、同じ国でも、同様な民族でも性別や年齢、学歴、職業などによって違いが生じます。演習の前半部分では、「異文化」に関する基礎的な知識などを中心に講義を行う。講義を通し、「異文化」に対する理解を深め、「異文化」に関する基礎的な知識を身に付ける。演習の後半部分では、日本、中でも北海道における「異文化」に関し、いくつかのグループを分けた上で、各々がテーマを設定し、調査・考察を進める。最終的に予定以上の成果物を作成する。
到達目標	・「異文化」の基礎知識について理解を深める ・テーマに関する調査・考察の仕方、資料のまとめ方、論理的な文章を書く能力を身に付ける。 ・調査・考察した内容を他の聴講者が理解できるように、PPTなどの様々な方法を用いて伝えることができる。
授業の進め方	講義及びゼミ形式で演習を進める。前半では、「異文化」に関する基礎的な知識などを中心に講義を行い、その内容について各グループが話し合いながら理解を深めていく。後半では、各グループ自らが設定したテーマについて調査・考察を行う。調査した内容を記録し、自分の意見について語り、他のメンバーと意見交換や質疑応答、ディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	演習内において意見交換や質疑応答といった形でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（自己紹介、海外への渡航経験、研究関心の共有）	対面授業
第2回	「異文化」に関する基礎知識その①	対面授業
第3回	「異文化」に関する基礎知識その②	対面授業
第4回	「異文化」に関する基礎知識その③	対面授業
第5回	「異文化」に関する基礎知識その④	対面授業
第6回	テーマについての調査・考察発表その①	対面授業
第7回	テーマについての調査・考察発表その②	対面授業
第8回	テーマについての調査・考察発表その③	対面授業
第9回	テーマについての調査・考察発表その④	対面授業
第10回	テーマについての調査・考察発表その⑤	対面授業
第11回	学修成果発表会の準備	対面授業
第12回	中間発表会①	対面授業
第13回	中間発表会②・フィードバック	対面授業

	・事前学習は、「異文化」をめぐる基礎知識の予習及びテーマに関する調査・考察、発表資料の作成が中心となる。	2025/04/01

事前・事後学習	・事前学習は、「異文化」をめぐる基礎知識の復習及び意見交換、質疑応答で問題となった内容について、新たに調査・考察を行い、まとめ直すことが中心となる。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 演習への取り組み（積極性） 30% ・ 調査・考察のプレゼンテーションの完成度 30% ・ 研究成果物 40%
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	「異文化」に関する様々な情報をネットで収集し、演習内で適宜紹介する。

備考	・ 14回目の演習はテストに準ずるものとして3年生テーマ研究発表会に参加する。 ・ 教員の公務などのやむを得ない事情により、授業計画を変更する場合もある。 ・ 授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。 ・ 3年生は午後開催の合同会社説明会に必ず出席すること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ [国教][坂梨・高倉]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科
高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は、考古学、先史学、博物館学、文化資源学、文化人類学の領域、北海道、ロシア極東を中心とした先史文化、また地域の歴史的文化資源の活用をテーマとする。資料調査、フィールドワーク等を通じて、学生が主体的に学ぶ力を身につけることを目的とした授業である。 また4年のテーマ研究Ⅰ・Ⅱに続く基礎的な資料調査、分析、論文作成の方法などを学ぶ。
到達目標	論文、調査（調べもの）、フィールドワーク等を通じて、研究テーマや地域資源の活用などについて自分なりの考えを持ち、主体的な活動ができる。
授業の進め方	基本的に演習方式であるため、テーマごとに調査、発表をおこなってもらう。 また地域資源の活用を演習全体のテーマとして、フィールドワークなどの活動を実施する予定である。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	調査に関するシートやレジュメ確認、発表、フィールドワークにおけるディスカッション、報告などでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	自己紹介 自分の街の紹介
第3回	2024年度ゼミ活動について
第4回	地域の文化資源について調査と発表①（黒松内町）
第5回	地域の文化資源について調査と発表②（黒松内町）
第6回	フィールドワーク準備・調査①
第7回	フィールドワーク準備・調査②
第8回	フィールドワーク準備・調査③
第9回	フィールドワーク実施（予定）
第10回	フィールドワークのフィードバックとまとめ 中間発表準備①
第11回	中間発表準備②
第12回	中間発表①
第13回	中間発表②・フィードバック

事前・事後学修	授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること 各自必要な調べもの（予習復習）にそれぞれ3時間以上を必要とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	調べもの 20％ ゼミ内発表 20％ レジュメ 20％ 中間発表 40％で評価する。
テキスト	特になし。適宜指示・配布する。
参考文献	『季刊まちづくり』八甫谷 邦明編 学芸社 など

備考	フィールドワークに別途費用が掛かる場合がある（10000円程度を予定。詳細は授業内で説明）。 授業外でも積極的に活動すること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[国教][宇留野]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、「外国語としての日本語」に関することがらについて調査・研究することを目的とする。「外国語としての日本語」とは、日本語非母語話者の視点から見た日本語という意味である。「日本語非母語話者の視点」というのは、日本語が母語ではない人の視点に立って日本語を考えるという意味であり、これは日本語母語話者にとっても重要な考え方である。 授業の前半部分では、日本語に関する基礎的な知識についての講義を行う。講義を通して、日本語に対する理解を深め、日本語に関する基礎的な知識を身に付ける。授業の後半部分では、外国語としての日本語に関して、各々がテーマを設定し、調査・研究を進める。最終的に一定以上の成果物を作成する。
到達目標	・日本語の基礎知識について理解を深める。 ・資料の調査方法やまとめ方、論理的な文章を書く力を身に付ける。 ・他の受講生の発表をよく聞き、その人の考え方を理解する。 ・調査・研究した内容を他の受講生が理解できるように、様々な方法を用いて伝えることができる。 ・自分の考えや意見を自らのことばで相手に伝えることができる。 ・テーマに関する調査・研究内容を論理的な文章で表現することができる。
授業の進め方	講義および演習形式で授業を進める。授業の前半部分では、日本語に関する基礎的な知識について講義を行い、その内容について全員で話し合いながら理解を深めていく。授業の後半部分では、自らが設定したテーマについて調査・研究を行う。調査した内容をレジュメ等にまとめ、自分の意見について発表し、他の受講生全員と質疑応答やディスカッションを行う。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内において質疑応答というかたちでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	日本語に関する基礎知識について
第3回	日本語に関する基礎知識について
第4回	日本語に関する基礎知識について
第5回	日本語に関する基礎知識について
第6回	テーマについての調査・研究発表
第7回	テーマについての調査・研究発表
第8回	テーマについての調査・研究発表
第9回	テーマについての調査・研究発表
第10回	テーマについての調査・研究発表
第11回	中間発表会の準備
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②・フィードバック

2025/04/01

事前・事後学修	・事前学習は、日本語の基礎知識の予習およびテーマに関する調査、発表資料の作成が中心となる。 ・事後学習は、日本語の基礎知識の復習および質疑応答で指摘された内容について、新たに調査・研究を行い、まとめ直すことが中心となる。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	調査・研究の発表…50％ 研究成果物…50％
テキスト	テキストは用いない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。

備考	・授業への積極的な参加が求められる。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔国教〕〔濱田〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 濱田 剛一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習は下記③⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。 ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことが出来る人材！ ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！ ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！ ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！ ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！ 具体的には、自ら選定したテーマの調査研究により「戦略的な考え方」と「マネージメント」の在り方が社会の様々な場面で、極めて重要な要素であることを学修します。併せて国際性と多様性に裏付けられた意思決定の重要性を理解します。またゼミナール形式の演習を通じて、「調べる力」「伝える力」を高めることを目指します。
到達目標	テーマについての調査・研究・発表を通して、（経営）戦略とマネージメント（経営管理）の重要性を理解し、説明できるようになる。また国際性と多様性を重視する考察力を涵養します。併せて次年度の「テーマ研究」に必要な学習スキルを身に付けることを目標とします。
授業の進め方	ゼミナール形式で行ないます。具体的には少人数によるテーマに関するフィールドワークを含めた各種調査を行い、抄読・報告・議論などを通して双方向性の高い研究を行い、あわせて能動的学修と相互啓発を目指します。 また本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス テーマ設定のための調査	対面授業
第2回	テーマ設定・研究計画策定	対面授業
第3回	調査事前準備	対面授業
第4回	調査・発表①～フィールドワークなど	対面授業
第5回	調査・発表②～フィールドワークなど	対面授業
第6回	抄読準備～文献の検索・調査 文献抄読準備	対面授業
第7回	文献抄読①～発表・意見交換	対面授業
第8回	文献抄読②～発表・意見交換	対面授業
第9回	学科合同ゼミ中間発表準備①	対面授業

第10回	学科合同ゼミ中間発表準備②	対面授業
第11回	学科合同ゼミ中間発表準備③	対面授業
第12回	学科合同ゼミ中間発表（テスト対応に準じます）	対面授業
第13回	学科合同ゼミ中間発表・期末振り返り（テスト対応に準じます。）	対面授業

事前・事後学修	ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。 また科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。 予習復習はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	ゼミ内個人発表 40% 資料作成 30% 学科合同ゼミ中間発表 30%
テキスト	使用しません。資料を適宜配布します。
参考文献	「経営管理」塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（著）有斐閣アルマ

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的なゼミナールを主催します。
備考	研究計画に従って調査の事前準備、調査事項の整理、発表準備、ゼミ内個人発表資料作成、学科合同ゼミ中間発表準備などの予習復習を必要とします。次年度の調査研究の準備・蓄積として、調査研究の詳細を記録した調査ノートを作成してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。 研究計画に基づいて発言・発表を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。 フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。 第12・13回目授業の「応用演習」学科ゼミ中間発表の出席はテスト対応に準じた取り扱いになります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔国教〕〔新谷〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では、SDGsにもとづいた地方創生について学びます。地域の特色やリソースを活かしたビジネスやまちづくりの取り組みを通じて、地域の持続可能な発展を目指します。具体的には、地元産の農産物を使った地域ブランドの商品開発など、SDGs の目標に照らし合わせた実践的な取り組みを行います。また、地域住民や企業、自治体などの協力によって、SDGs に基づいた地域コミュニティを形成し、持続可能な地域社会を作り上げることを目指します。
到達目標	①大学で学ぶことを自ら考えることができることを身につける。 ②情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。
授業の進め方	少人数のゼミナール形式で実施するが、グループワークによるディスカッションやフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・レポートに対しては、コメントをつけてフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	地域課題設定	対面授業
第3回	課題確認	対面授業
第4回	調査研究1（フィールドワーク）	対面授業
第5回	調査研究2（フィールドワーク）	対面授業
第6回	調査研究3	対面授業
第7回	プレゼン準備1	対面授業
第8回	プレゼン準備2	対面授業
第9回	プレゼン準備3	対面授業
第10回	ゼミ内発表1	対面授業
第11回	ゼミ内発表2	対面授業
第12回	中間発表1	対面授業
第13回	中間発表2・フィードバック	対面授業

事前・事後学修	授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システムから提出する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ [国教][小内]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG05215S

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では現代の社会問題の構造や背景について理解を深めることを目的に、「現代的な社会問題」に関わるテーマで、選定された文献や資料に基づきながら履修者による文献・資料の読解と議論を行います。
到達目標	多様な現代的社会問題の現状や課題について理解ができ、自らの意見をもてるようになることを目標とします。
授業の進め方	各自の問題意識に合わせて「現代的な社会問題」に関わる文献や資料を選定し、それをもとに議論を行います。毎回、レポーターと司会を決め、レポーターは文献の要約と論点の提示、司会はゼミの進行・論点の整理を行ってもらい、議論の活性化を図るようにします。履修者には各自レポーターと司会をそれぞれ1回以上、担当してもらいます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	当日の議論に参加し、レポーターが作成してきた資料や討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①演習の進め方と文献の選定（1）	対面による演習形式
第2回	②演習の進め方と文献の選定（2）	対面による演習形式
第3回	③文献・資料の読解と議論（1）	対面による演習形式
第4回	④文献・資料の読解と議論（2）	対面による演習形式
第5回	⑤文献・資料の読解と議論（3）	対面による演習形式
第6回	⑥文献・資料の読解と議論（4）	対面による演習形式
第7回	⑦文献・資料の読解と議論（5）	対面による演習形式
第8回	⑧文献・資料の読解と議論（6）	対面による演習形式
第9回	⑨文献・資料の読解と議論（7）	対面による演習形式
第10回	⑩文献・資料の読解と議論（8）	対面による演習形式
第11回	⑪文献・資料の読解と議論（9）	対面による演習形式
第12回	⑫ゼミ発表会	対面による演習形式
第13回	⑬まとめと振り返り	対面による演習形式

【具体的な内容】

事前・事後学修	授業時の最後に次週の学習について予告するので、文献・資料の該当箇所の予習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、配付された資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。また、日常から新聞を読み、ニュースの報道、解説に関心を持つようにしてください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	レポーターや司会を担当した際の達成度と毎回の授業における議論への参加の度合いによって評価する。評価の配分は、担当の報告資料の充実度40％、報告資料の発表の出来40％、司会と各授業における議論の参加の度合い20％とします。
テキスト	1回目と2回目の授業で決めます。
参考文献	授業の中で適宜、紹介します。

年度	2025
講義名称	地域探究Ⅱ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04902S

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本演習では、地域学習Ⅱで学んだことをもとに北海道内でフィールドワークをおこない、その地域に根ざしたよりよい共生のあり方を探ることを目的とする。
到達目標	①地域が抱える諸課題を抽出し、その改善策を検討することができる。 ②地域資源の価値を理解し、さらに付加価値を高める提案など也可以る。 ③地域力を高めるための思考法を身に付け、第三者へ発信することができる。
授業の進め方	前半を通して具体的な調査計画を作り、実際の見学・調査をおこなう。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に出された質問へは適宜回答する。 また、毎回の授業後に出された意見、質問へは、次の回の冒頭で原則すべて回答する。 質問は、大学生がもつ最大の権利である。存分にその権利を活用し、積極的に質問することを望む。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	社会調査法
第3回	調査目的の明確化
第4回	調査票の作成
第5回	事前確認
第6回	フィールドワーク①
第7回	フィールドワーク②
第8回	フィールドワーク③
第9回	フィールドワーク④
第10回	調査報告作成①
第11回	調査報告作成②
第12回	成果報告発表
第13回	まとめ

事前・事後学修	提示された次回の内容について各自調べておく。 授業の内容は整理し、不明な点、曖昧な点が出てきた場合は次の回で質問する。メールやWebclass等での質問も随時受け付ける。 毎回2時間程度の予復習を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	事前課題の提出 25％ 現地演習での取組み 25％ 成果報告 20％ 事後レポート 30％
テキスト	指定しない
参考文献	授業内で適宜紹介する

備考	この授業は今年度の「地域学習Ⅱ」を修得していることを前提とする。原則として「地域学習Ⅱ」も履修すること。 24年度以前に「地域学習Ⅱ」を修得し、今年度の「地域探究Ⅱ」の履修を希望する学生は、履修登録期間中に担当教員まで申し出ること。 フィールドワークにあたり交通費が必要となる。 他の授業科目も含め、無断欠席が多い、授業態度が著しく悪いなど、フィールドワークに不適切な行動、態度が見られる場合、参加を認めないことがある。

年度	2025
講義名称	地域探究Ⅰ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04901S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習の目的は、北海道の十勝地域を対象として、地域の自然や文化の歴史を知り、自然や文化の遺産が現代社会の中で資源としてどのような役割を果たしているのかをフィールドワークを通して理解することにある。十勝地域の博物館施設を訪問し、展示を実際に観察し、現地では博物館学芸員との対話を通して、自然・歴史的知識の普及や遺産の保護・活用がどのように進められているのかを理解していく。訪問にあたっては、十勝地域の自然や文化の歴史についてグループワークとディスカッションに基づいた事前学習を行い、基礎的な知識と問題の把握に努める。
到達目標	地域の自然や文化の歴史について自らが調査できる能力を獲得する。また、地域社会の中でのさまざまな文化資源の意義について説明できるようになる。
授業の進め方	地域学習Ⅰで学んだ知識をもとに、訪問前の事前学習と現地体験を通して、観察力・考察力を養う。事前学習は講義に加え、分担した調査内容についてレジュメを作成し、口頭発表してもらう。ディスカッションを通して理解を深めていく。現地見学後は、成果のとりまとめと課題の抽出を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	分担した調査内容に関する口頭発表やレジュメについては、その都度指導を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：趣旨・日程
第2回	調査項目と分担
第3回	フィールドワークの事前学習：十勝の地形と植生史
第4回	フィールドワークの事前学習：十勝の動物史
第5回	フィールドワークの事前学習：十勝の旧石器遺跡
第6回	フィールドワークの事前学習：十勝の縄文遺跡
第7回	フィールドワークの事前調査：十勝の続縄文・擦文遺跡
第8回	現地活動計画の作成
第9回	フィールドワーク：1日目
第10回	フィールドワーク：2日目
第11回	フィールドワーク：3日目
第12回	フィールドワークのとりまとめ
第13回	フィールドワークの成果報告

事前・事後学修	十勝地域の自然や文化の歴史に関して理解を深めるように、関連する文献や記事については日ごろから関心をもって収集し、読んでおくこと。 分担する項目については協力して調査を実施し、成果をとりまとめて、発表してもらう。	2025/04/01

	フィールドワークの事前学習については、情報の収集や確認作業を行うなど、各回、予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	十勝地域の自然や文化の歴史にかかわる事前学習の口頭発表やレジュメ（20％）、討論への貢献（20％）、現地での取り組み（20％）、事後レポート（40％）を総合して評価する。
テキスト	資料はPortalサイトより適時配布する。必要に応じてダウンロード・印刷してほしい。
参考文献	随時指摘する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、埋蔵文化財調査センターでの調査員としての勤務経験があり、その実務経験にもとづいて十勝地域の自然や文化の歴史に関する指導を行う。
備考	この授業は今年度の「地域学習Ⅰ」を修得していることを前提とする。原則として「地域学習Ⅰ」も履修してもらいたい。昨年度以前に「地域学習Ⅰ」を修得した学生で今年度の「地域探究Ⅰ」の履修を希望する学生は、履修登録期間中に担当教員まで申し出てください。 現地訪問は2026年2月に実施する予定である（2泊3日で実施予定）。実習費等は概ね3万5千円（交通費・宿泊費・大学費用補助等含む）である。ガイダンスで事前学習の分担や現地訪問の詳細について説明する。 ※無断欠席が多いなど、フィールドワーク参加に不適切な行動や態度が見られる学生は、参加を認めないことがある。

年度	2025
講義名称	北海道ミュージアム
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04214L

担当教員

氏名	所属
◎ 坂梨 夏代	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は北海道にある博物館、史跡、文化財などの文化資源を活用し、北海道の自然、歴史、文化、文学、芸術、産業など各地域が持っている地域資源についてより深く理解することを目的とする講義である。そのために学生が自ら地域について調査・発表し、さらに見学研修を企画することで自発的な態度、企画・調査・実行力を身につけることを目的とする。
到達目標	北海道に存在する博物館、史跡、文化財などの文化資源の概要と価値を認識し、その活用について考え、地域とともに行動する能力を養うこと。また履修者自らが見学する博物館・史跡等を選定し、旅行日程を組み、比較調査できるレベルになることを目標とする。さらにフィールドワークを実施できる自発的な態度、企画・調査・実行力を身につける。
授業の進め方	北海道内にある市町村には様々な種類の博物館がある。これらの博物館は地域の歴史文化を伝える学びの場として、また地域コミュニティの場として中心的な役割をもっている。こうした博物館について学生自身が調べ、フィールドワーク見学を行う。フィールドワークのルート、交通機関、博物館などの予約などを学生自らが企画する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループで行われた話し合いを毎回全員で振り返り、次回までに行うことを確認する。 調べたものを発表し、全員でディスカッションを行う。フィールドワーク終了後は振り返り(反省会)を行い、見学した内容をもとに発表を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：講義の目的、見学研修などについての説明
第2回	研修地の決定と調査
第3回	調査結果の発表
第4回	博物館について
第5回	博物館調査①博物館の概要等の調査
第6回	博物館調査②発表
第7回	博物館見学①
第8回	見学フィードバック①
第9回	博物館調査②博物館の概要等の調査
第10回	博物館調査②発表
第11回	博物館見学②
第12回	見学フィードバック②
第13回	発表会とフィードバック

事前・事後学修	北海道の主要な博物館や注目すべき文化資源について知っておくことが望ましい。授業外でもグループワークや博物館に関する調査を行うこと。博物館などの調べで3時間。報告会に2～3時間程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	見学研修（30％） 調べもの・発表（20％） グループ活動（20％） 報告会・レポート（30％）
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	『挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ??』2018 小川義和他編 ジダイ社

備考	見学研修は通常は土、日で実施する。 今年度は札幌市内及び近郊を予定。 交通費、入館料、食事代等で5千円～1万円程度の費用がかかる。

年度	2025
講義名称	地域学習Ⅱ
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04213L

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、地域社会を知り、その地域特有の状況、資源への理解を深めることである。 北海道の地域社会を巡る様々な状況や問題のうち、特に多文化的な状況に着目し、地域での多文化共生をすすめていくための現状や工夫を学習する。
到達目標	①地域が有する独自の資源の魅力を抽出し、その価値を発信できるようになる。 ②地域課題を解決するための方法を考え、説明することができるようになる。 ③地域資源の価値を再認識し、付加価値向上させる提案ができるようになる。
授業の進め方	毎回、授業テーマに沿ったレジュメや資料を配付し、パワーポイント等を使用して講義形式による授業を実施する。実施テーマによりグループワーク、ディスカッションおよびプレゼンテーションもおこなう。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に出された質問へは適宜回答する。 また、毎回の授業後に出された意見、質問へは、次の回の冒頭で原則すべて回答する。 質問は、大学生がもつ最大の権利である。存分にその権利を活用し、積極的に質問することを望む。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	地域社会を知る①
第3回	地域社会を知る②
第4回	北海道の歴史と特色
第5回	グループワーク1-1
第6回	グループワーク1-2
第7回	プレゼンテーション1
第8回	プレゼンテーションの総括
第9回	北海道の多文化状況
第10回	グループワーク2-1
第11回	グループワーク2-2
第12回	プレゼンテーション2
第13回	まとめと最終課題

事前・事後学修	必要に応じて資料の指示や、課題を与える。 課題の提出は、主に学修管理システムWebclassをとおして提出すること。 事前・事後にそれぞれ2時間程度の学習時間を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内課題 20% グループディスカッション 20% プレゼンテーション 30% 期末レポート 30%
テキスト	指定しない
参考文献	講義内で適宜紹介する

備考	この授業は「地域探求Ⅱ」と組み合わせでおこなう。原則として「地域探求Ⅱ」も履修すること。 24年度以前に「地域探求Ⅱ」を修得している学生で今年度の「地域学習Ⅱ」の履修を希望する学生は、初回授業の際に担当教員まで申し出ること。

年度	2025
講義名称	ポップカルチャー
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04212L

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	ポップ・カルチャーは日本に特有である。本来ポップ・カルチャーは大衆文化（マス・カルチャー）に含まれた蔑視を払しょくするために導入されたポピュラー・カルチャーという捉え方の略称であったが、「サブカル」と略されるサブ・カルチャーの特定の領域との差異化の結果、それはわが国において、特定の年代層に向けられた文化コンテンツの総称となっている。これらのコンテンツをどのように語ることができるか、教員が事例を挙げて解説し、学生が実践することでそれを自らのものとすることを本授業は目的とする。
到達目標	ポップカルチャーの領域において、特定の視点から批評するとはどのようなことであるかを理解し、実際に自分の言葉で作品を批評できる
授業の進め方	教員が批評の視点やその分析方法を解説し、学生は実際にそれを特定の作品で実践する

アクティブ・ラーニング

体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・学生が実際に行った批評は、WebClass上で回収し、全体に対しては次の授業で、個別にはWebClass上で、フィードバックをする ・最終課題は、WebClass上で回収し、WebClass上で個別にフィードバックをする

授業計画表

回	授業内容
第1回	・カルチュラル・スタディーズとは何か ・カルチャーとは何か ・イデオロギーとは何か ・ポップ・カルチャーとは何か
第2回	・批評とは何か
第3回	・物語論とは何か
第4回	・物語論批評の実践
第5回	・ジェンダー批評とは何か
第6回	・ジェンダー批評の実践
第7回	・オリエンタリズムとは何か
第8回	・オリエンタリズム批評の実践
第9回	・文化産業論とは何か
第10回	・文化産業論批評の実践
第11回	・歴史コンテンツと歴史／史実の関係とは何か
第12回	・歴史コンテンツの歴史／史実との関係の批評の実践
第13回	・まとめ

2025/04/01

事前・事後学修	・授業を記したメモ・ノートなどを見直すことで内容を咀嚼し、自分のものとするのに3時間程度 ・授業で実践してみた批評を、日常生活の中で実践してさらに深めるのに1時間程度

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・教員による解説などのまとめ・・・28％　４％×７回（１・２・３・５・７・９・１１回） ・批評理論の実践・・・・・・・・・・50％　１０％×５回（４・６・８・１０・１２回） ・最後のまとめ・・・・・・・・・・22％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	遠藤英樹『現代文化論—社会理論で読み解くポップ・カルチャー』ミネルヴァ書房、2011年 小倉孝誠編『批評理論を学ぶ人のために』世界思想社、2023年 北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か—不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』書肆侃侃房、2019年 同　『批評の教室』筑摩書房、2021年 倉橋耕平『歴史修正主義とサブカルチャー』青弓社、2018年 ストーリー、J.（鈴木健、越智博美訳）『ポップ・カルチャー批評の理論』小島遊書房、2023年 内藤理恵子『新しい教養としてのポップカルチャー』日本実業出版社、2022年

年度	2025
講義名称	アニメ文化論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04211L

担当教員

氏名	所属
◎ かじ さやか	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	日本で独自の発達を遂げた「アニメーション」。アニメーションを通じて「日本文化の特徴」を理解できるよう講義を行ないます。 講義では現代のアニメーション文化の特徴、発達の歴史、他のメディア（漫画、映画、フィギュア・プラモデルなど）との相互作用、海外での日本のアニメーションの位置付けの確認、などを行います。 本講義は「日本文化とは何か」「日本人とはどのようなものなのか」を学べるよう構成しています。
到達目標	1,アニメーションから日本人特有のコンテンツの消費のし方があることを知る。 2,アニメーションを産み出した日本の文化の特徴を掴む
授業の進め方	講義形式で行います。毎回課題を出しますのでWebClassを通じ提出して下さい。この課題により講義内容の振り返りを促します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説するとともに、WebClassを通じて資料の配布と課題の受けつけをします。提出された課題には必ず返信の予定です。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス 本講義の説明、講師の紹介
第2回	テレビアニメ「鉄腕アトム」誕生 世界で初めて週一回形式でテレビ放送されたアニメーションは「鉄腕アトム」です。 鉄腕アトムが放送されるまでと放送によって週一アニメーションが視聴者にどのように迎えられたか、送り手にどう影響を及ぼしたのか、を振り返ります。
第3回	少女むけアニメーション 女の子の非日常 「鉄腕アトム」から程なくして「魔法使いサリー」の放送が始まりました。児童向けアニメではなく「少女向けアニメ」の誕生です。「少女向けアニメ」は現在も続いています。日本で受け入れられた背景と歴史、その影響を探ります。
第4回	妖怪・神様のテレビアニメ おりからの妖怪ブームを受け「ゲゲゲの鬼太郎」が1967年から放送されます。水木しげるの漫画作品はアニメ化、ドラマ化され現在も続いています。 妖怪、神様、まれびと、異世界転生（主人公がまれびととなる）が人気作品である日本の文化背景を理解しましょう。
第5回	スーパーロボットの時代 「マジンガーZ」は子供達の間で大ブームとなり関連商品が大ヒットしました。そして「マジンガーZ」のヒットを受け沢山の巨大ロボットアニメが放送されました。 玩具の30分CMとなったロボットアニメ。視聴者の子供達が入っては卒業する一方で製作者にある変化をもたらします。当時の状況とその後の影響を検証します。
第6回	「宇宙戦艦ヤマト」という現象 「宇宙戦艦ヤマト」は児童向けではなく、「中学高校生男子」をターゲットに企画放送されました。再放送により人気が高まり、青年層の「アニメファン」を生み出しました。「宇宙戦艦ヤマト」がもたらしたモノ、現象を振り返ります。
第7回	巨大ロボからリアルロボへ「機動戦士ガンダム」 「巨大ロボットアニメ」の大量放送（市場の育成、製作者の意識変化）と「宇宙戦艦ヤマト」のブームによってテレビアニメーションに変化が起こります。そんな時、巨大ロボットを使って戦渦を描くアニメーションが放送されます。ガンダムがもたらした変化と現在まで続く影響を探ります。
第8回	テレビアニメへの叛旗 宮崎駿と大友克洋 テレビアニメは一定の地位を確立しました。しかし「テレビアニメはアニメーションではない、紛い物である」と考える人達がアニメブームの中、力をつけてきます。 「アニメーションの力」で作品を作る宮崎駿と大友克洋について見てみましょう。

第9回	「新世紀エヴァンゲリオン」ヒットの理由を考える 1995年「新世紀エヴァンゲリオン」は従来のアニメファン以外のファンを獲得し、社会現象となりました。 1995年当時の社会情勢と共にエヴァンゲリオンとエヴァブームが現代に何を残しているか考えると共に庵野秀明作品について考えます。
第10回	「攻殻機動隊」の憂鬱 1989年の漫画「攻殻機動隊」の作者士郎政宗は熱狂的なファンを持つ作家です。彼の作品は情報量過多かつ難解でありながら、基本的は思想・主張は一貫しています。 そして劇場アニメ「攻殻機動隊」は世界中で大ヒットし、世界中の文化や風俗、映像作品に影響を与え、今も続編が作られています。アニメと漫画の攻殻機動隊の魅力を分析します。
第11回	アニメーションと漫画 関係あるの？関係ないの？ マンガを元にしたアニメやアニメの漫画化はよく見られる流れです。アニメーションと漫画、メディアとしての表れ方や作り手には何か関係があるように見えます。また世間から見た場合のアニメや漫画も同一視されています。この現象について観察すると共にテレビ、というメディア覇者に関しても触れます。
第12回	アニメと特撮の関係 アニメと特撮ドラマは子供向けのジャンルとしてまとめられることが多々あります。 しかしながら「特撮ドラマや特撮映画」は日本人の嗜好を刺激する要素から成り立っていることが多いのです。「特撮」の知見を深める事はアニメと日本人を理解する際に大きく役立ちます。
第13回	日本人とアニメと世界 本講義のまとめです。アニメーションが文化として成り立つ経緯とアニメと日本人の考え方や感性を理解しましょう。そしてその文化が海外でどのように捉えられているか知知しましょう。

事前・事後学修	事前学習については毎回、WebClassにて次回の講義の予習プリントを配布します。 事後学習については毎回配布する「講義メモ」をもとに振り返って下さい。 (必要時間：事前、事後ともに30分程度)

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義毎に課題を出します。 1~12回の課題の合計90% 13回授業期間内試験10%として合計点が成績点です。
テキスト	毎回を通じ講義資料を配布します。
参考文献	講義内で適宜紹介します。

備 考	講師への連絡先は mangagakukaji@gmail.com 必ず、氏名と学籍番号を明記して下さい。

年度	2025
講義名称	世界近現代史【遠隔B】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04210L

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	世界の一体化がいまよりもますます進んでいく将来を生きるために、「世界の成り立ち」を理解することが必要です。この講義では、「いま」から出発し、およよその時代枠にそってどのように世界が形作られてきたのか、概観します。
到達目標	・「いま」自分が生きている世界がどのような成り立ちであるかを理解し、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	フルオンデマンドではあるが、伝統的な講義形式。受講生には、各回の授業内容をミニレポートの形式にまとめてもらいます。しかし、みなさんにも講義に参加してもらうように、講義中に質問したりして、双方向的な授業を目指します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題に対するフィードバックは、全体に対して次回授業で行い、個別にはWebClass上で行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・いま：グローバリゼーションか、文明の衝突か ・この状況を生み出した「冷戦」とは	オンデマンド
第2回	・冷戦のさなかに解放された植民地とは ・冷戦を生み出した第二次世界大戦とは	オンデマンド
第3回	・第二次世界大戦を生み出した世界恐慌への対応とは ・戦争の違法化	オンデマンド
第4回	・世界恐慌・戦争の違法化・社会主義国家を生み出した第一次世界大戦とは	オンデマンド
第5回	・第一次世界大戦を生み出した帝国主義とは ・「鬼は外、福は内」：外への帝国主義、内への国民化	オンデマンド
第6回	・植民地支配：「文明国の使命」という欺瞞 ・欺瞞の中に見出す希望	オンデマンド
第7回	・帝国主義を生み出す自由主義とは ・帝国主義を生み出す社会進化論とは	オンデマンド
第8回	・自由主義的社会を定着させた「諸国民の春」とは	オンデマンド
第9回	・「諸国民の春へと至る道」：工業化社会と抑圧的なウィーン体制、その亀裂としての大西洋の向こう側	オンデマンド
第10回	・ウィーン体制を生み出したナポレオンは何をしたか ・ナポレオンを呼び起こしたフランス革命、アメリカ独立革命とは	オンデマンド
第11回	・市民社会を生み出した啓蒙主義とは ・工業化社会を生み出した産業革命とは	オンデマンド
第12回	・二重革命にいたる大西洋三角貿易とは	オンデマンド
第13回	まとめ	オンデマンド

	【具体的な内容】 ・事前に提供される授業スライドから内容にあたりをつけておく。 ・映像を視聴し、事前に考えていた授業内容との異同をメモし、自分なりのノートにまとめておく

事前・事後学修	・ それをもとに授業内容をまとめるミニレポートを書く 【必要な時間】 ・ 事前の授業内容を理解するのに1時間程度 ・ メモを再構成してノート作成し、それから400字以上のミニレポートにまとめるのに2時間程度 ・ 最終課題に取り組むためこれまでのノート・ミニレポートを振り返り、まとめるのに13時間程度（一週あたりになおすと1時間程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回のミニレポート・・・52％ 最終課題・・・・・・・・・・48％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	大江一道（編）『世界近現代全史』全6巻（山川出版社、2025年） 小澤卓也 他（編著）『教養のための現代史入門』（ミネルヴァ書房、2015年） 金澤周作（監修）『論点西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年） 喜多千草（編著）『20世紀の社会と文化』（ミネルヴァ書房、2024年） 北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』（ミネルヴァ書房、2018年） 同『20世紀のグローバル・ヒストリー』（ミネルヴァ書房、2021年） 吉澤誠一郎（監修）『論点東洋史学』（ミネルヴァ書房、2022年）

年度	2025
講義名称	日本近現代史
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04209L

担当教員

氏名	所属
◎ 野口 飛香留	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	私たち日本人を取り巻く国内・国際情勢は、現在もお流動と混迷が続けている。いま私たちが置かれている立場や状況、そしてそれらが形作られてきた経緯・過程を正確に理解し、未来に向けてよりよい生き方を選び取ってゆくために、先人たちが歩んできた過去の歴史を知ることの意義はきわめて大きい。 この授業では、江戸時代の末期（幕末）から明治・大正・昭和のいわゆる「近代」までにかけての日本の歴史を概観し、いかにして現代の日本の政治体制や日本を取り巻く国際関係が形成されるに至ったのかを解説する。日本とアジア・欧米諸国との双方向的関係、すなわち日本とアジア・欧米諸国が相互にどのような影響を与え合ってきたのかという観点を重視し、日本一国の閉じた歴史としてではなく、世界史の中における日本の歴史として「日本近現代史」を描き出す。
到達目標	(1) 幕末から近現代にかけての日本の歴史の流れを理解する。 (2) アジア・欧米諸国との関係が日本の歴史の展開に及ぼした影響について理解する。 (3) 「なぜ、そうなったのか？」という観点から、日本の歴史における諸事象を考えてゆく姿勢を身につける。
授業の進め方	初回到ガイダンスを行なった後、第2回～第12回にかけて講義形式で近現代日本の歴史の流れを順次解説してゆく。最終の第13回到期末試験を実施する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講者からのコメントに即して、授業の中で適宜フィードバックを行なう。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンスーなぜ、歴史を学ぶのか？ー	対面授業
第2回	講義「開国・倒幕と明治維新」	対面授業
第3回	講義「不平等条約の改正と立憲国家の成立」	対面授業
第4回	講義「日清戦争と国際秩序の変動」	対面授業
第5回	講義「日露戦争と日本外交の展開」	対面授業
第6回	講義「 「帝国」日本の外交ー植民地政策と対中政策ー 」	対面授業
第7回	講義「第一次世界大戦とワシントン体制の成立」	対面授業
第8回	講義「大正デモクラシーと軍部の台頭」	対面授業
第9回	講義「満州事変と日中戦争」	対面授業
第10回	講義「第二次世界大戦とアジア・太平洋戦争」	対面授業
第11回	講義「戦後改革と日本の独立」	対面授業
第12回	講義「東西冷戦と日本の政治・経済」	対面授業
第13回	期末試験	対面授業

事前・事後学修	【事前学習】 高校までの日本史教科書、あるいは下記に挙げる参考文献を事前に読んでおいていただけると、授業内容の理解がより深まる。 【事後学習】 授業中に配布した資料、または下記の参考文献を読み返して復習すること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・平常点（授業の出欠、各授業の最後に提出してもらうリアクションペーパーのコメント内容、授業態度などから算定する）…30％ ・期末試験の成績…70％
テキスト	講師作成の配布資料やPowerPointスライドなどを基に授業を進める。テキストは特に指定しない。
参考文献	・小風秀雅編『大学の日本史 教養から考える歴史へ 4近代』（山川出版社、2016年） ・鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在5 近現代①』（山川出版社、2024年） ・鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在6 近現代②』（山川出版社、2024年）

年度	2025
講義名称	世界遺産
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04208L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 村本 周三	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	本講義では、ユネスコ世界遺産、特に北海道に所在する「北海道・北東北の縄文遺跡群」や「知床」を素材として、文化財の保護や文化や自然の多様性を知る大切さ、国際社会と地域社会における課題と解決方法に向き合うための基礎を学習します。概ね以下の流れで授業を進行しますが、関連するニュース等があった際には、適宜変更します。 ①様々な文化遺産、文化財 ②世界遺産とは何か ③日本における文化財保護の体制 ④北海道の世界遺産 ⑤「北海道・北東北の縄文遺跡群」の概要 ⑥「北海道・北東北の縄文遺跡群」の顕著な普遍的価値 ⑦「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産 ⑧「北海道・北東北の縄文遺跡群」を知る、守る様々な技術 ⑨振り返り ⑩世界遺産と世界遺産教育 ⑪世界遺産と、持続可能な観光 ⑫テスト ⑬全体の振り返りとまとめ
到達目 標	世界遺産の意義とその保護についての基礎的な知識を身につけるとともに、その知識を活かして地域社会における課題解決に活かす方法を考えることができる。
授業の 進め方	基本的にパワーポイント等を使った講義方式で行いますが、必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れるなど、能動的な学習を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中及び授業後に回答する小テストを行い、次の授業中に解説します。

事前・事後学修	WebClassを経由して授業の理解に有用な文献等を紹介するので、各自参照して学びを深めてほしい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	出席30%、授業後の小テスト30%、期末レポート40%で評価します。
テキスト	毎回、講師が作成したパワーポイント資料を印刷して配付し、テキストとします。また、授業前にWebClass経由でもデータを配付しますので、事前にダウンロードし、授業中にPC等で閲覧することを推奨します。
参考文献	根岸洋(2022)『縄文と世界遺産』筑摩書房 文化庁公開の世界遺産関連情報（ https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ ）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、2013年より北海道教育庁にて文化財保護に従事し、2020年より北海道環境生活部にてユネスコ世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の保全に従事してきました。これらの経験を基に、世界遺産の価値や保全の重要性だけでなく、文化財・文化遺産の保全についての実践的な知識を共有する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	考古学
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04207L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、人類史を解明するための学問である考古学の目標、そして考古学を進めていくうえで必要となる研究の方法や資料の特性について理解することを目的とする。欧米や日本での考古学的研究の歴史をみていきながら、どのような多様な課題が考古学でこれまで議論されてきたのか、またそれらが現代社会の諸課題とどのように切り結んでいるのかをふまえ、人類史を紐解く鍵としての考古学の役割を学んでいく。あわせて、考古学的な調査研究が実際にどのように進められているのかについて、博物館展示の見学を通して学ぶ。
到達目標	これまでの考古学がどのようなアプローチにもとづいて人類史を明らかにしてきたのかを説明できるようになる。あわせて、考古学が現代社会の諸課題とどのような関係を結んできたのかについても説明できるようになる。
授業の進め方	講義形式で実施する。また札幌圏の博物館展示を対象とした外部施設見学をフィールドワークとして実施する。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の講義内容については、感想・意見・質問を記すコメントペーパーを提出してもらい、その内容についてフィードバックする。また講義中に実施する小テストの結果についても解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション：考古学とは何か
第2回	ヒトと環境：環境考古学
第3回	ヒトの進化：進化考古学
第4回	ヒトの認知：認知考古学
第5回	ヒトの社会：社会考古学
第6回	贈与・交易・商業：経済考古学
第7回	外部施設見学（1）
第8回	外部施設見学（2）
第9回	食料採集民から食料生産民への変容
第10回	都市と国家の考古学
第11回	病気の自然災害の考古学
第12回	民族・ジェンダーの考古学
第13回	期末試験とまとめ・解説

事前・事後学修	配布した資料や紹介した参考文献の閲覧・読解、コメントペーパーの記述に要する予習・復習には、それぞれ2時間程度を必要とする。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している考古学的アプローチの多様性の理解を期末に行う試験の評価基準とする。考古学の課題設定と現代社会との結びつきについての理解を小テストの評価基準とする。 評価方法の割合は、筆記試験（60％）、講義中の小テスト（25％）、外部施設見学レポート（15％）とする。 提出課題の遅延は減点の対象とする。受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする場合もある。
テキスト	適時、講義資料はPortalサイトより配布する。各自が必要に応じてダウンロード・印刷してほしい。
参考文献	随時指摘する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、埋蔵文化財調査センターに調査員として勤務し、埋蔵文化財保護行政の業務に従事した経験がある。その実務経験に基づき考古学の基礎について講義する。
備考	講義の2回分を外部施設見学とし、レポートの提出を求める。見学は週末に行い、現地集合・現地解散とするため、交通費が必要となる。

年度	2025
講義名称	博物館概論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04206L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中島 宏一	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本授業は、「博物館とは何か？」という基礎的な知識の習得をはじめ、現代社会における博物館の役割（使命）について学んだうえで、「地域課題と博物館」「観光と博物館」「まちづくりと博物館」など、博物館が私たちの生活に果たす役割について具体例を確認し、博物館を核とした地域社会のあり方を考えていきます。また、社会教育機関としての博物館に従事する学芸員に求められる資質（能力）について、理解を促します。
到達目標	①博物館に関する基礎知識（歴史、定義、役割）を身につける。 ②博物館の機能を駆使した活用のあり方を理解する。 ③地域社会における博物館の可能性を考える。
授業の進め方	担当教員が作成したテキストを用いた講義形式で行います。また、博物館の役割や地域課題への対応策については、必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れるなど、学生の主体的な学びにつながる授業を目指します。

アクティブ・ラーニング

PBL	グループワーク	フィールドワーク	ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業で課すアンケート（小レポート）を学生で振り返り（共有し）、学びの習得、集積を図るほか、授業内ディスカッション（グループワーク）の成果を速やかに共有する時間を設け、博物館学習得のスキルを向上します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①博物館概論とは何か、本授業で学ぶこと。 ②博物館活動の具体例紹介。 ③本授業の概要、評価基準の説明。 ④アンケート＝博物館に対するイメージ	対面
第2回	①博物館の定義…博物館は「機関」である。 ②教育基本法、社会教育法、博物館法における博物館の定義 ③博物館法改正について ④ICOM（国際博物館会議）、ユネスコの役割 ⑤グループワーク＝博物館が有する機能とその機能を駆使した活動（アンケート含む）	対面
第3回	①博物館の始まり…世界と日本の博物館のあゆみ、現代までの成り立ち ②アンケート＝あなたが印象に残った博物館とその特徴	対面
第4回	①利用者の視点に立った博物館の理念と実践 ②グループワーク＝利用者にとって“良い”博物館とその機能を探求する（アンケート含む）。	対面
第5回	①博物館の種類、施設の類型 ②アンケート＝博物館の種類と各施設の特徴	対面
第6回	①博物館の教育サービス ②グループワーク＝災害時（一例：コロナ禍）の博物館活動を考える（アンケート含む）。	対面

第7回	①地域社会（まちづくり）と博物館 ②グループワーク＝地域社会に果たすべき博物館の役割（アンケート含む）。	対面
第8回	①博物館資料と調査研究活動part1＝博物館における調査研究の意義 ②アンケート＝あなたが挑みたい調査研究	対面
第9回	①博物館資料と調査研究活動part2＝館種別調査研究 ②アンケート＝あなたの家にある“お宝モノ”とは？	対面
第10回	①展示における学び（博物館展示の目的とあり方） ②アンケート＝“これは面白い、楽しい”展示をしている博物館？	対面
第11回	①観光と博物館part1＝文化財保護法改正、文化芸術基本法と博物館活動 ②グループワーク＝“稼ぐ文化”“文化財の利活用”に対する是非と展望（アンケート含む）。	対面
第12回	①観光と博物館part2＝文化観光推進法と博物館 ②アンケート＝観光で博物館を利用する意義	対面
第13回	①観光と博物館part3＝世界遺産、日本遺産と博物館 ②グループワーク＝博物館が観光の中心になるための方策を考える	対面

事前・事後学修	授業期間内外問わず、博物館（美術館、水族館、動物園等を含む）を見学することを勧めます。 必ず予習と復習してください。それぞれ1～2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回、授業内容に対するアンケート（小レポート）を課します。（５０％） このほか、授業に関連した課題に対するレポートの提出を求めます。（５０％） 計１００％
テキスト	全授業にわたり、担当教員が作成したテキストやパンフレットなどを使用します。
参考文献	『観光資源としての博物館』芙蓉書房　２０１６年　２，５００円＋税、他

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、1992年から博物館学芸員として長年勤務し、資料の収集・保管・展示に至るまで、博物館運営の幅広い実務経験を積んできました。 この豊富な知識と経験を基に、博物館の実例を交えた具体的で応用的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
修得単位数	文化人類学
修得単位修得時期	秋学期第12
必修割合	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教育学科 LA054205L

担当教員

氏名	所属
◎ 小堀 みゆみ	文学・人文学部・国際教育学科

授業の目的と概要	文化人類学を学ぶための材料は私たちの目の目の生活の中にあります。 文化人類学は、世界各地の様々な場所や暮らしのあり方を記録・分析することで、私たちが「当たり前」と思っていることを再検討し、新しい視角を生み出す学問です。 授業では、必ず文化人類学の基礎知識と理論の理解を行います。 そのうえで、食、衣、住、医療、芸術、言語、通商関係などいくつかのトピックについて事例をたどりながら文化の多様性を理解することをこの授業のねらいとします
到達目標	①文化とは何かを理解する。 ②文化人類学の基礎知識、理論を理解する。 ③世界中の人間がもつ多様な価値観や関心に基づき、ともに文化の多様性を理解する。 ④具体的なトピックと事例をあることで、文化人類学的な視点、アプローチの仕方を理解する。 ⑤文化の変化の本質はその文化の側面であり、私たちが同じであることを理解する。
授業の進め方	①対面授業を基本とし、2004年式を参照とりたい。 ②映像など視覚的な資料から理解する方法をとる。 ③理解を深めるためにリアクションペーパーでのコメントを作成を求める。 ④3つの授業を全体的に評価して行う。 ⑤授業前半が終わるころ、小テストに附けて、授業前半の振り返りを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク	
課題（課題やレポート等）に対するフィードバックの方法	①リアクションペーパーにコメントをして、授業で確認する。 ②授業内小テストについては、採点後に答案を返却し解答例を公表する。 ③期末試験についてはWebClassを通して解説を行う。

授業計画表

周	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス！この授業の進め方の解説をし、授業全体の流れを理解する。 2つの文化概念と文化とは何かを理解する	
第2回	文化人類学の歴史：文化人類学の学問的成り立ちを理解する。	
第3回	文化人類学の理論：進化主義の功罪 人類学の誕生とエスノセントリズム・文化批判主義・機能主義・構造主義を理解する。	両向き方向
第4回	文化はなぜ変わるのか-伝播主義・文化変容論を理解する。	
第5回	文化人類学とフィールドワーク：①マリノフスキーのトロブリアン諸島調査からフィールドワークを学ぶ。	
第6回	文化人類学とフィールドワーク：②人類学の調査研究方法を理解し実際にフィールドワークを計画する。	
第7回	前半のまとめ・小テスト 計画したフィールドワークの紹介。	
第8回	小テストの講師 生身と暮らし-エスニットのクジラ鯨の事例から理解する	
第9回	食の文化人類学：なぜ食べるのから食文化の事例から理解する。	
第10回	名産の文化人類学：食習慣や食文化の事例から理解する。	両向き方向
第11回	宗教と世界観-北西インディアンの事例から世界観の多様性を理解する。	
第12回	人生儀礼・通過儀礼-通過儀礼の構造を理解する。	
第13回	全体のまとめ-期末試験 文化人類学を基盤とした事例研究を通してこの授業を振り返る。	

準備・事後学習	予習（20時間） WebClassで配布した授業資料を読む。 授業内容を振り返り復習をすることを、わからなところは調べ理解する。

DP（学位授与の方針）との関連

DP1専門知識・技能を習得する力	●
DP2コミュニケーション能力	●
DP3価値を探究し、判断する力	●
DP4多様な価値観と協働する力	●
DP5国際的に学び続ける力	●
DP6社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①リアクションペーパー・授業で採る課題・授業への主体的参加状況（30%） ②筆記試験から7割の内容を振り返り小テスト（20%）ノート持ち込み評価。 ③出席評価④3回実施する期末テスト（50%）ノート持ち込み評価。
テキスト	テキストは特になし、必要に応じて紹介します
参考文献	『よ！わかる文化人類学』ミネルヴァ書房 2006年、『これからの時代を生き抜くための 文化人類学入門』東野英二（著） 廣田出版 2022年
備考	文化人類学についての予備知識は不要。 新聞、テレビなどのメディアを通じて今日の社会、人々の暮らしを参照する。

年度	2025
講義名称	比較文化論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04204L

担当教員

氏名	所属
◎ 小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	多様な文化のあり方を理解するため、文化の多面的な捉え方を確認した上で、イギリス、ブラジル、北欧諸国および日本を取り上げ、それぞれの社会に存在する文化とその多様性について、移民や先住民族にも注目しながら、明らかにします。
到達目標	多様な文化やその変容のあり方を把握するために、時代と社会による比較の観点から、日本と諸外国の社会と文化およびその歴史について深く理解できるようになることを目標とします。
授業の進め方	パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	第Ⅰ部 理論的概観 1. 文化とは――理論的検討 ①最大公約数的な定義と定義の困難さ ②学問的な二重の二つの用法（1）――ドイツ的概念と非ドイツ的概念 ③学問的な二重の二つの用法（2）――「文化の社会」と「社会の文化」 ④文化の起源＝言語の発生と複雑な道具の製作 ⑤文化の変化 ⑥文化の構成要素と構造 ⑦文化の存在レベルと複数性 ⑧本講義の立場	対面による講義
第2回	第Ⅰ部 理論的概観 2. 移民と先住民族の歴史・文化をめぐる議論 ※移民をめぐる現実と議論 ①同化と多元主義 ②統合と共生 ③クレオールとハイブリディティ ④新同化論とトランスナショナルリズム論 ※先住民族をめぐる現実と議論 ⑤先住民族の同化と抑圧 ⑥第二次大戦後における先住民族の復権の動き ⑦背景としての国際機関の活動 ⑧各国における先住民族の復権の動き ⑨先住民族の復権をめぐる問題	対面による講義

第3回	第Ⅱ部 諸外国の社会と文化 3. イギリス（1）——地域と階級の多様性 ①複合国家としてのイギリス ②多民族の侵入による複合国家の形成過程 ③教育制度の地域性 ④階級社会としてのイギリス ⑤社会階級・階層と対応した学校体系（イングランド・ウェールズ）	対面による講義
第4回	第Ⅱ部 諸外国の社会と文化 4. イギリス（2）——移民の増大と課題 ①移民による多民族社会としてのイギリス ②多人種教育とマルチエスニックスクール	対面による講義
第5回	第Ⅱ部 諸外国の社会と文化 5. ブラジル（1）——歴史と先住民族 ①ブラジルの概要 ②ブラジルの歴史（1）——ポルトガル植民地時代（1500～1815年） ③ブラジルの歴史（2）——連合王国時代（1815～1822年）と帝政時代（1822～1889年） ④ブラジルの歴史（3）——共和制時代（1889年～） ⑤ブラジルの先住民族	対面による講義
第6回	第Ⅱ部 諸外国の社会と文化 6. ブラジル（2）——移民による社会形成 ①植民地時代・連合王国時代の移民受け入れの解禁 ②ブラジル独立と移民受け入れの促進 ③移民の国別推移 ④移民抑制への転換 ⑤第二次世界大戦後の移民 ⑥移民が形成したブラジル社会の全体像 ⑦日本移民の歩み	対面による講義
第7回	第Ⅱ部 諸外国の社会と文化 7. 北欧諸国（1）——北欧3国の歴史 ①北欧3国の概要 ②ノルウェーの歴史（サーミ関連を除く） ③スウェーデンの歴史（サーミ関連を除く） ④フィンランドの歴史（サーミ関連を除く）	対面による講義
第8回	第Ⅱ部 諸外国の社会と文化 8. 北欧諸国（2）——北欧サーミの歴史と現状 ⑩視点 ①先住民族としてのサーミ ②ノルウェー・サーミの歴史 ③ノルウェー・サーミの現状と基盤 ④ノルウェー・サーミの課題 ⑤ノルウェー・サーミの未来	対面による講義
第9回	第Ⅱ部 諸外国の社会と文化 9. 北欧諸国（3）——移民・難民の現状と課題 ①移民政策に関するスウェーデンの位置づけ ②スウェーデンの移民・難民の受け入れの歩み ③移民系人口の現状 ④移民・難民の増大と地域社会の現実——ストックホルム保育園調査（2010年）を通じて ⑤2022年9月11日国政選挙結果のインパクト	対面による講義
第10回	第Ⅲ部 日本の社会と文化 10. 日本文化の形成と変容 ⑩日本の基層文化 ①大陸からの人と文化の流入——旧石器時代～奈良時代 ②国風文化の形成（貴族の文化中心）——平安時代 ③中国・欧州の文化の流入（武士の文化中心）——鎌倉時代～安土桃山時代 ④独自の文化の形成・成熟（町人・庶民の文化中心）——江戸時代	対面による講義
第11回	第Ⅲ部 日本の社会と文化 11. 日本文化の再編 ①欧米文化の摂取（文明開化）——明治・大正・昭和前期 ②アメリカ文化の影響と独自の文化——第二次大戦後	対面による講義

第12回	第Ⅲ部 日本の社会と文化 1 2. 外国人の受け入れの歴史とニューカマーの増大 ①戦前における日本国籍 ②戦前におけるエスニシティの多様性 ③同化としての戦前の教育 ④「内地」朝鮮人・台湾人の実態 ⑤戦後の旧植民地出身者の動向と民族教育 ⑥ニューカマーの増大 ⑦公立学校に通う外国籍の児童生徒の状況 ⑧外国人学校における教育と教育問題 ⑨不就学の子どもの問題 ⑩問題解決の視点	対面による講義
第13回	第Ⅲ部 日本の社会と文化 1 3. 先住民族としてのアイヌ ①アイヌ社会の成立 ②アイヌ文化の特徴 ③様々な文化の影響による変化 ④同化政策によるアイヌ文化の衰退 ⑤第二次世界大戦後におけるアイヌ文化の復興と振興	対面による講義

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。 【必要な時間】 事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、レポート60%、授業参加態度40%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。
テキスト	教科書は使いません。講義のレジュメ・資料を Webclass を通じて配付します。
参考文献	小内透編著『講座 先住民族の社会学1 北欧サーミの復権と現状』東信堂、2018年 小内透編著『講座 先住民族の社会学2 現代アイヌの生活と地域住民』東信堂、2018年 小内透編著『講座 トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）御茶の水書房、2009年 小坂田裕子ほか編『考えてみよう 先住民族と法』信山社、2022年

年度	2025
講義名称	現代文化論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04203L

担当教員

氏名	所属
◎ 横川　大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義は、現代における文化的事象を学生自身が考察できるよう、現代の文化を考える上で必須となる考え方を教授し、使えるようになることを目的とする。文化や社会現象は、自然現象とは異なり、人間により生み出された主観的なものであるが、これらを考える際に、構築主義、パフォーマンスティヴィティ、および消費社会について理解しなくてはならない。
到達目標	・現代の文化を考えるうえで必須の考え方を理解し、それを自分の言葉で表現できる ・授業を通じて学んだことを、自身の日常生活に応用できる
授業の進め方	【講義方法】 ・いわゆる講義。しかし、実践をともなわない知識の教授だけでは形骸化してしまうため、受講生には教授された知識をもとに実践することが求められる。 【課題に対するフィードバックの方法】 全体および授業内で取り上げた事例には、授業内で口頭によるフィードバックを行う。個別には、必要に応じてWebClass上でフィードバックする。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①オリエンテーション ② ③「文化」/「社会」は変わるのか・変わらないのか　本質主義と構築主義 ④ことばと「現実」 ⑤サピア＝ウォーフの仮説 ⑥まとめ1 ⑦カルチュラル・スタディーズ ⑧逸脱と強化 ⑨実践① ⑩実践の発表／まとめ2 ⑪技術の進歩と「モノの見方」の変化 ⑫技術の進歩と「モノの見方」の変化2 ⑬技術の進歩と「モノの見方」の変化3 ⑭技術の進歩と「モノの見方」の変化4 ⑮まとめ3

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・学問の中の人文学 ・「文化」とはなにかの暫定的な定義	対面講義
第2回	・言語と「現実」 ・二重の恣意性	
第3回	・人類学的見地からのサピア＝ウォーフの仮説 ・認知心理学から見たサピア＝ウォーフの仮説	
第4回	・差異化の体系としての文化 ・文化は変わらないのか・変わるのかー本質主義と構築主義ー	2025/04/01

第5回	・実践され、構築され、逸脱されうるディスクール ・文化のパフォーマティヴィティ	
第6回	・パフォーマティブな文化を分析する ・カルチュラル・スタディーズ	
第7回	・中間のまとめと実践	
第8回	・技術と文化	
第9回	・大衆社会の誕生	
第10回	・消費社会	
第11回	消費社会の中で差異化すること	
第12回	消費社会の中で差異化することの分析を実践してみる	
第13回	全体のまとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 1）毎時授業内容を振り返り、学んだことを自分の言葉でまとめる 2）学んだことを、実践に向けた課題のみならず、日常生活でも応用する 【必要な時間】 週あたり、1）に対して1時間、2）にたいして3時間ほど見込まれる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・毎時の授業のまとめ課題・・・48％ ・実践課題・・・20％ ・最終課題・・・32％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	・今井むつみ『ことばと思考』（岩波新書、2010年） ・吉見俊哉『カルチュラル・スタディーズ』（岩波書店、2000） ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル 新装版』（青土社、2018年）

備考	個々人でフィールドワークをしてもらいますが、交通費がかかる場合は、自己負担です。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[国教][武井]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04202S

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的 と概要	多文化共生に関するフィールドワークやセミナー等に参加し、異なる文化や価値観を理解するための情報や技術を学びます。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。
授業の進め 方	ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループ発表、個人テーマ発表にアドバイスし、担当取り組みの内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、個人面談	対面
第2回	テーマ設定・調査分析方法の確認	対面
第3回	フィールドワーク事前調査報告 1	対面
第4回	フィールドワーク事前調査報告 2	対面
第5回	フィールドワーク 1	対面
第6回	フィールドワーク 2	対面
第7回	発表準備 1	対面
第8回	国際協力フェスタ準備	対面
第9回	国際協力フェスタ参加	対面
第10回	ゼミ内発表 1	対面
第11回	ゼミ内発表 2	対面
第12回	成果発表（代表発表）、相互評価	対面
第13回	まとめとフィードバック、授業評価、ポートフォリオ	対面

事前・事後学修	受講者は自らのグループのテーマに即し、文章読解、データ取得、発表準備等を行う。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	"グループワークの成果発表 50％ グループワークの振り返り 20％ 授業内提出物 30％
テキスト	なし
参考文献	絶版書籍は私物を紹介します。 『年表昭和・平成史』岩波ブックレット 『倉本聰の姿勢』エフジー武蔵 フジテレビ「北の国から」制作スタッフ編『「北の国から」への手紙』アスコム 富良野クリエイティブシンジケート編『「北の国から」ガイドブック』フジテレビ出版 藤浪匠『「北の国から」で読む日本社会』日経プレミアシリーズ 北海道ふるさと新書編集委員会『富良野市ーもうひとつの「北の国から」』北海道新聞社 『七光星に輝きをーニセコのキセキ・札幌集中のリアル』北海道新聞社 国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学コープさっぽろ寄付講座運営委員会『北海道未来学』ダイヤモンド社

備考	・ 社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・ 授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[国教][新谷]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04202S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	多文化共生に関するフィールドワークやセミナー等に参加し、異なる文化や価値観を理解するための情報や技術を学びます。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。
授業の進め方	ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	テーマ設定	対面授業
第3回	調査分析	対面授業
第4回	共生社会の理解	対面授業
第5回	フィールドワーク（準備）	対面授業
第6回	フィールドワーク 1	対面授業
第7回	フィールドワーク 2	対面授業
第8回	発表準備 1	対面授業
第9回	発表準備 2	対面授業
第10回	ゼミ内発表 1	対面授業
第11回	ゼミ内発表 2	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業
第13回	まとめとフィードバック	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 受講者は自らのグループのテーマに即し、文章読解、データ取得、発表準備等を行う。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	グループワークの成果発表 グループワークの振り返り 授業内提出物	50％ 20％ 30％
テキスト	使用しない	
参考文献	使用しない	

備考	・ 社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[国教][趙]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04202S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	多文化共生に関するフィールドワークやセミナー等に参加し、異なる文化や価値観を理解するための情報や技術を学びます。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。
授業の進め方	ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	書評作成	対面授業
第3回	書評発表	対面授業
第4回	多文化共生社会の理解① 食文化比較：料理実習	対面授業
第5回	ゼミプロジェクト①	対面授業
第6回	ゼミプロジェクト②	対面授業
第7回	ゼミプロジェクト③ まとめ・ミニプレゼンテーション	対面授業
第8回	多文化共生社会の理解② 食文化比較：料理実習	対面授業
第9回	個人テーマ設定および発表準備	対面授業
第10回	ゼミ内発表①	対面授業
第11回	ゼミ内発表②	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業
第13回	まとめとフィードバック	対面授業

	【具体的な内容】

事前・事後学修	受講者は自らのグループのテーマに即し、文章読解、データ取得、発表準備等を行う。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成果発表　50％ 振り返り（レポート）　20％ 授業内提出物　30％
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の内容や進め方は、状況に応じて変更される可能性があります。最新の情報は適宜お知らせします。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[国教][野崎]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04202S

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	多文化共生に関するフィールドワークやセミナー等に参加し、異なる文化や価値観を理解するための情報や技術を学びます。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。
授業の進め方	ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	テーマ設定	対面授業
第3回	調査分析	対面授業
第4回	共生社会の理解	対面授業
第5回	フィールドワーク（準備）	対面授業
第6回	フィールドワーク 1	対面授業
第7回	フィールドワーク 2	対面授業
第8回	発表準備 1	対面授業
第9回	発表準備 2	対面授業
第10回	ゼミ内発表 1	対面授業
第11回	ゼミ内発表 2	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業
第13回	まとめとフィードバック	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 受講者は自らのグループのテーマに即し、文章読解、データ取得、発表準備等を行う。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ 2 時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	グループワークの成果発表 50％ グループワークの振り返り 20％ 授業内提出物 30％
テキスト	使用しない
参考文献	使用しない

備考	・ 社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[国教][黄]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04202S

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的 と概要	多文化共生に関するフィールドワークやセミナー等に参加し、異なる文化や価値観を理解するための情報や技術を学びます。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。
授業の進め 方	ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	テーマ設定	対面授業
第3回	調査分析	対面授業
第4回	共生社会の理解	対面授業
第5回	フィールドワーク（準備）	対面授業
第6回	フィールドワーク 1	対面授業
第7回	フィールドワーク 2	対面授業
第8回	発表準備 1	対面授業
第9回	発表準備 2	対面授業
第10回	ゼミ内発表 1	対面授業
第11回	ゼミ内発表 2	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業
第13回	まとめとフィードバック	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 受講者は自らのグループのテーマに即し、文章読解、データ取得、発表準備等を行う。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ 2 時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	グループワークの成果発表 50％ グループワークの振り返り 20％ 授業内提出物 30％"
テキスト	使用しない。
参考文献	使用しない。

備考	社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔国教〕〔武井〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04201S

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では、国際化に関する言語、文化、ビジネス等の体験型学習を通じて、多文化共生社会の理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることを目指します。また、書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につけ、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。
授業の進め方	少人数のゼミナール形式で実施するが内容によっては学年合同で実施する場合もある。多文化共生社会に関連するテーマや項目にしたがい、グループワークによる制作やフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（学科共同）、ポートフォリオ	対面
第2回	ガイダンス（ゼミ）、面談	対面
第3回	テーマ設定	対面
第4回	フィールドワーク分担事前報告調査	対面
第5回	ゼミプロジェクト1（フィールドワーク分担事前報告）	対面
第6回	ゼミプロジェクト2（フィールドワーク）	対面
第7回	ゼミプロジェクト2（フィールドワーク2）	対面
第8回	発表準備1	対面
第9回	発表準備2	対面
第10回	ゼミ内発表1	対面
第11回	ゼミ内発表2	対面
第12回	成果発表（代表発表）、相互評価	対面
第13回	まとめ、フィードバック、授業評価、書評コンテスト書籍選び	対面

事前・事後学修	自らのグループのテーマに即し、文章読解、データ取得、発表準備等を行う。 フィールドワークのためのテーマ分担について事前調査と発表を行う。 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%"
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。
参考文献	絶版書籍は私物を紹介します。 『年表昭和・平成史』岩波ブックレット 『倉本聰の姿勢』エフジー武蔵 フジテレビ「北の国から」制作スタッフ編『「北の国から」への手紙』アスコム 富良野クリエイティブシンジケート編『「北の国から」ガイドブック』フジテレビ出版 藤浪匠『「北の国から」で読む日本社会』日経プレミアシリーズ 北海道ふるさと新書編集委員会『富良野市ーもうひとつの「北の国から」』北海道新聞社 『七光星に輝きをーニセコのキセキ・札幌集中のリアル』北海道新聞社 国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学コープさっぽろ寄付講座運営委員会『北海道未来学』ダイヤモンド社

備考	・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔国教〕〔新谷〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04201S

担当教員

氏名	所属
◎ 新谷 弥	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では、国際化に関する言語、文化、ビジネス等の体験型学習を通じて、多文化共生社会の理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることを目指します。また、書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につけ、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。
授業の進め方	・授業形態 少人数のゼミナール形式で実施するが内容によっては学年合同で実施する場合もある。多文化共生社会に関連するテーマや項目にしたがい、グループワークによる制作やフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。 ・授業内容 ゼミ担当教員のもとで、広く多文化共生社会に関連するテーマ研究や調査を行う。テーマに関する知識と調査や活動に必要な手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（学科合同）	対面授業
第2回	ガイダンス（ゼミ対応）	対面授業
第3回	テーマ設定	対面授業
第4回	調査分析	対面授業
第5回	ゼミプロジェクト1（フィールドワーク）	対面授業
第6回	ゼミプロジェクト2	対面授業
第7回	ゼミプロジェクト3	対面授業
第8回	発表準備1	対面授業
第9回	発表準備2	対面授業
第10回	ゼミ内発表1	対面授業
第11回	ゼミ内発表2	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業

第13回	まとめとフィードバック 書評コンテスト書籍選び	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システムから提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔国教〕〔趙〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04201S

担当教員

氏名	所属
◎ 趙 恵真	大学・人文学部・国際教養学科

授業の 目的と 概要	本演習では、国際化に関する言語、文化、ビジネス等の体験型学習を通じて、多文化共生社会の理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることを目指します。 また、書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につけ、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目 標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。
授業の 進め方	・授業形態 少人数のゼミナール形式で実施するが内容によっては学年合同で実施する場合もある。多文化共生社会に関連するテーマや項目にしたがい、グループワークによる制作やフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。 ・授業内容 ゼミ担当教員のもとで、広く多文化共生社会に関連するテーマ研究や調査を行う。テーマに関する知識と調査や活動に必要な手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（学科合同）	対面授業
第2回	ガイダンス（ゼミ対応）	対面授業
第3回	多文化共生社会の理解① 食文化比較：料理実習	対面授業
第4回	ゼミプロジェクト①	対面授業
第5回	ゼミプロジェクト②	対面授業
第6回	ゼミプロジェクト③ まとめ・ミニプレゼンテーション	対面授業
第7回	多文化共生社会の理解② 食文化比較：料理実習	対面授業
第8回	ゼミプロジェクト⑤	対面授業
第9回	ゼミプロジェクト⑥	対面授業
第10回	ゼミプロジェクト⑦ まとめ・ミニプレゼンテーション	対面授業

2025/04/01

第11回	ゼミ内発表	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業
第13回	まとめとフィードバック 書評コンテスト書籍選び	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。 ・授業の内容や進め方は、状況に応じて変更される可能性があります。最新の情報は適宜お知らせします。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔国教〕〔野崎〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04201S

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	本演習では、国際化に関する言語、文化、ビジネス等の体験型学習を通じて、多文化共生社会の理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることを目指します。また、書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につけ、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。
授業の進め方	・授業形態 少人数のゼミナール形式で実施するが内容によっては学年合同で実施する場合もある。多文化共生社会に関連するテーマや項目にしたがい、グループワークによる制作やフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。 ・授業内容 ゼミ担当教員のもとで、広く多文化共生社会に関連するテーマ研究や調査を行う。テーマに関する知識と調査や活動に必要な手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（学科合同）	対面授業
第2回	ガイダンス（ゼミ対応）	対面授業
第3回	テーマ設定	対面授業
第4回	調査分析	対面授業
第5回	ゼミプロジェクト①	対面授業
第6回	ゼミプロジェクト②	対面授業
第7回	ゼミプロジェクト③	対面授業
第8回	発表準備①	対面授業
第9回	発表準備②	対面授業
第10回	ゼミ内発表①	対面授業
第11回	ゼミ内発表②	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業

第13回	まとめとフィードバック 書評コンテスト書籍選び	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「Webclass」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔国教〕〔黄〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04201S

担当教員

氏名	所属
◎ 黄 旭暉	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本演習では、国際化に関する言語、文化、ビジネス等の体験型学習を通じて、多文化共生社会の理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることを目指します。また、書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につけ、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。
到達目標	①多文化共生社会の理解を深める。 ②コミュニケーション能力を向上させる。 ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。 ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。"
授業の進め方	・授業形態 少人数のゼミナール形式で実施するが内容によっては学年合同で実施する場合もある。多文化共生社会に関連するテーマや項目にしたがい、グループワークによる制作やフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。 ・授業内容 ゼミ担当教員のもとで、広く多文化共生社会に関連するテーマ研究や調査を行う。テーマに関する知識と調査や活動に必要な手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。 ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。 ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（学科合同）	対面授業
第2回	ガイダンス（ゼミ対応）	対面授業
第3回	テーマ設定	対面授業
第4回	調査分析	対面授業
第5回	ゼミプロジェクト1	対面授業
第6回	ゼミプロジェクト2	対面授業
第7回	ゼミプロジェクト3	対面授業
第8回	発表準備1	対面授業
第9回	発表準備2	対面授業
第10回	ゼミ内発表1	対面授業
第11回	ゼミ内発表2	対面授業
第12回	成果発表と相互評価	対面授業

第13回	まとめとフィードバック 書評コンテスト書籍選び	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。 ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40% 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20% プレゼンテーションの発表と完成度 40%
テキスト	必要に応じて、授業内で適宜指示する。
参考文献	必要に応じて、授業内で適宜指示する。

備考	社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。

年度	2025
講義名称	日本文学【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04110L

担当教員

氏名	所属
◎ 大村 勅夫	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、文学の中でも日本文学の諸作品についての詳解初歩ができるようになることを目指すものである。特に、様々な方法によってどのようにどんなことが表現されているのか、どんな文化が表されているのかななどを考察・検討・議論する講義である。本講義で扱う作品の多くは、小中高教科書等に掲載されたものを中心とし、それらを再読し、読み深めていくことを行う。
到達目標	文学作品の詳細な読みを通して、そこに表された文化的要素を読みとらえる初級の姿勢を手に入れる。
授業の進め方	基本として、ディスカッション・グループワーク等を用いながら、作品について教師と学生の対話や学生相互の検討を行う

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、毎時出していくが、それについての検討や講評を次時に行いながら進めていく

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス（文学作品を読むために）	オンデマンド
第2回	芥川を再読する その1	オンデマンド
第3回	芥川を再読する その2	オンデマンド
第4回	芥川を再読する その3	オンデマンド
第5回	芥川を再読する その4	オンデマンド
第6回	漱石を再読する その1	オンデマンド
第7回	漱石を再読する その2	オンデマンド
第8回	漱石を再読する その3	オンデマンド
第9回	太宰を再読する その1	オンデマンド
第10回	太宰を再読する その2	オンデマンド
第11回	現代短歌を読む・詠む その1	オンデマンド
第12回	現代短歌を読む・詠む その2	オンデマンド
第13回	現代短歌を読む・詠む その3	オンデマンド

事前・事後学習	該当回に扱う作品を前時に示すので、それを精読してくることを事前学習として求める。また、その際に、作品の特徴等について気づいたことを必ず記載してくる。事後学習として、再読を求める。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半を目安とする。

2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の提出物：80％ まとめレポート：20％
テキスト	授業中に適宜、指示する （予定：芥川龍之介「羅生門」、夏目漱石「夢十夜」、太宰治「走れメロス」など）
参考文献	小中高時に使用していた国語教科書等

年度	2025
講義名称	人文学概論[国教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG04001L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科
武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科
小内 透	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「人文学」とはどんな学問なのでしょうか。 必修科目「人文学概論」では、文学、社会学、心理学を専門とする3名の教員が、それぞれの専門をもとに人文学的知の世界からこれからの学びの関心と視野を広げます。
到達目標	人文学および人文学部の歴史と概要を知り、学ぶことの楽しさと考え方から、学科専門領域の学びに向かうことができる。
授業の進め方	第1回目のオリエンテーションは武井が担当する。第2回目以降は3名の教員が4回ずつ担当し、講義＋ディスカッションにより展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については3名の教員がそれぞれ授業内で解説するとともに、WebClass上で資料を公開する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（武井） 講義の展開，評価方法について説明をする。また、人文学と人文学部の視点について概括する。
第2回	I－人生と文学と（武井） I-1 神話・聖書と文学
第3回	I－人生と文学と（武井） I-2 言霊、謳うこと－十干十二支・陰陽道・小倉百人一首
第4回	I－人生と文学と（武井） I-3 貴種流離譚「南総里見八犬伝」から文学を考え
第5回	I－人生と文学と（武井） I-4 団塊の世代と村上春樹・村上龍
第6回	II－学歴社会の構造（小内） II-1 学歴社会の定義と学歴の効用
第7回	II－学歴社会の構造（小内） II-2 学歴形成における属性の制約
第8回	II－学歴社会の構造（小内） II-3 学歴格差の要因をめぐる議論
第9回	II－学歴社会の構造（小内） II-4 学歴社会の克服の道

第10回	Ⅲー心理学入門（榎本） Ⅲ-1 心理学とは
第11回	Ⅲー心理学入門（榎本） Ⅲ-2 血液型と性格は関係があるのか？
第12回	Ⅲー心理学入門（榎本） Ⅲ-3 「やる気」を考える
第13回	Ⅲー心理学入門（榎本） Ⅲ-4 対人関係と集団

事前・事後学修	【具体的な内容】 図書館で関連文献を読むなどレポートのための準備（復習）をおこなってください。授業の最後で翌週のテーマに触れるので、インターネットや図書館で関連事項を予習してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	武井 レポート（35点） 小内 レポート（35点） 榎本 レポート（35点） の合計で評価をする。合計点数が100点を超えた場合は100点とする。
テキスト	使用しない。
参考文献	参考文献を使用する場合はその都度紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	榎本：臨床心理士・公認心理師の資格を有し、教育・福祉・医療の現場で24年の臨床経験を有する。講義において、これらの臨床経験の一部を紹介し、その内容についてグループディスカッションを行いたい。
備考	・座席を指定します。 ・講義中の私語、許可された場合以外のスマートフォン・携帯電話・パソコン等の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。 ・授業の最後に感想の記入やディスカッションを実施します。遠慮なく意見・質問をしましょう。

年度	2025
講義名称	[冬集]日本語教育実習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02109P

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科
宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科
細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	日本語教師課程の「日本語教師の資質・能力、コースデザイン、授業計画、教育実習、授業分析・自己点検能力」に対応した内容であり、以下の内容を習得することを目的とする。 ・初級学習者に対する日本語指導法を理解する。 ・初級クラスにおける新出表現の導入・練習方法を理解し、教案および教材を作成する。 ・初級クラスの模擬授業を行う。 ・初級クラスの教壇実習の準備を行う。 ・初級クラスの教壇実習を行う。 ※日本語教育課程の指定科目です。
到達目標	・初級クラスの日本語指導法を理解することができる。 ・初級クラスの新出表現の導入・練習方法を理解し、教案および教材を作成することができる。 ・教壇実習および模擬授業をととして、日本語指導の実践力を身につける。 ・教壇実習および模擬授業をととして、日本語教育現場で必要なことを体験的に知る。
授業の進め方	この授業は主に演習形式で行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での解説、振り返り、個別対応による。必要な場合には資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	概ね以下の内容で授業を展開する予定である。 オリエンテーション 初級クラスの教え方①
第2回	初級クラスの教え方②
第3回	初級クラスの教え方③
第4回	初級クラスの教え方④
第5回	教案の書き方/教材の作り方①
第6回	教案の書き方/教材の作り方②
第7回	教案の書き方/教材の作り方③
第8回	授業見学
第9回	模擬授業1/振り返り①

第10回	模擬授業 2 / 振り返り②
第11回	模擬授業 3 / 振り返り③
第12回	模擬授業 4 / 振り返り④
第13回	模擬授業 5 / 振り返り⑤
第14回	教壇実習準備①
第15回	教壇実習準備②
第16回	教壇実習準備③
第17回	教壇実習準備④
第18回	教壇実習準備⑤
第19回	教壇実習準備⑥
第20回	教壇実習準備⑦
第21回	教壇実習準備⑧
第22回	教壇実習準備⑨
第23回	教壇実習準備⑩
第24回	教壇実習/教壇実習全体の振り返り①
第25回	教壇実習/教壇実習全体の振り返り②
第26回	教壇実習/教壇実習全体の振り返り③

事前・事後学修	・初級クラスの教え方、教案の書き方、教材の作り方について、十分に復習すること。 ・教壇実習および模擬授業の準備を十分にすること。 ・教壇実習および模擬授業の振り返りを行い、分析をすること。 ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

成績評価基準と方法	・毎回の課題…55% ・模擬授業 …15% ・教壇実習 …30%
テキスト	『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊』スリーエーネットワーク編、発行
参考文献	授業内で適宜紹介する。

備考	当該科目を履修するためには、「日本語教育概論」「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「心理言語学」「日本語教育文法Ⅰ（音声）」「日本語教育文法Ⅱ（語彙と文法）」の単位を修得済み、もしくは授業を履修済みであることを要件とする。

年度	2025
講義名称	日本語教授法Ⅱ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02108S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、日本語教員養成課程の必修科目である。日本語教授法の知識・スキルについて学ぶ。主に日本語中級・上級の教え方、評価とテストについて取り上げ、日本語中級・上級の授業に必要な知識を養う。 ※日本語教育課程の指定科目です。
到達目標	・日本語中級・上級の教え方に関する知識を理解することができる。 ・授業で学んだことから、日本語中級・上級クラスの授業の流れを把握することができる。 ・評価法の種類・特徴を理解し、テストを作成することができる。 ・教案の作り方を知る。 ・日本語教育とICTについて理解する。
授業の進め方	・講義形式、演習形式の両方で行う。 ・主に日本語中級・上級の教え方、評価とテストについて指導する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については次の授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	日本語教員養成課程の「日本語教育プログラムの理解と実践、教室・言語環境の設定、コースデザイン、教授法、評価法、授業計画、目的・対象別日本語教育法、コミュニケーション教育、日本語教育とICT」に対応した内容である。概ね以下の内容で授業を展開する予定であるが、進度等により授業計画を変更する場合がある。 ガイダンス ・コースデザイン
第2回	授業計画（1）授業設計
第3回	授業計画（2）到達目標と学習項目の分析
第4回	授業計画（3）構造シラバスの構成と流れ
第5回	授業計画（4）can-doシラバスの構成と流れ
第6回	授業計画（5）技能中心の授業の流れ
第7回	教案作成
第8回	学習者の誤用
第9回	フィードバックの種類と分類
第10回	評価のしかた（1）
第11回	評価のしかた（2）

第12回	日本語教育とICT
第13回	期末テスト・まとめと振り返り

事前・事後学修	基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。 事前、事後学習ともに2時間を目安とする。 日本語教育に関する実技を伴う回があるため、準備に相応の時間がかかる場合もある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 毎回の課題 …20％ ・ 授業に対する取り組み …20％ ・ 授業内に実施する小テスト …30％ ・ 授業内に実施する期末テスト…30％
テキスト	『日本語教師をめざす人のためのスモールステップで学ぶ 教授法』（スリーエーネットワーク）
参考文献	授業内で適宜紹介する。

備考	当該科目を履修するためには、「日本語教授法Ⅰ」の単位を修得済みであることを要件とする。

年度	2025
講義名称	日本語教授法Ⅰ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02107L

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、日本語教員養成課程の必修科目である。日本語教育における教授法について学ぶ。主に日本語初級の教え方、外国語教授法について取り上げ、日本語教師の役割を理解し、日本語初級の授業に必要な知識を養う。 ※日本語教育課程の指定科目です。
到達目標	・日本語教育に必要な基本的な知識を理解することができる。 ・日本語初級の教え方、外国語教授法に関する知識を理解することができる。 ・フラッシュカード等の教材を作成することができる。 ・日本語初級クラスの授業の流れを把握することができる。
授業の進め方	・講義形式、演習形式の両方で行う。 ・主に日本語初級の教え方、外国語教授法について指導する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については次の授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	日本語教員養成課程の「日本語教育プログラムの理解と実践、教室・言語環境の設定、教授法、教材分析・作成・開発、授業計画、目的・対象別日本語教育法、コミュニケーション教育」に対応した内容である。概ね以下の内容で授業を展開する予定であるが、進捗等により授業計画を変更する場合がある。 ガイダンス ・日本語教育とは
第2回	日本語教師とは ・教授観・学習観の変遷
第3回	外国語教授法（１）
第4回	外国語教授法（２）
第5回	日本語教育法（１）学習者とレベル
第6回	日本語教育法（２）レベルと技能
第7回	日本語教育法（３）技能別指導法
第8回	教材分析
第9回	教材・教具開発
第10回	コースデザイン
第11回	シラバスデザイン

第12回	シラバスと教授法
第13回	期末テスト まとめと振り返り

事前・事後学修	基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。 事前、事後学習ともに2時間を目安とする。 日本語教育に関する実技を伴う回があるため、準備に相応の時間がかかる場合もある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の課題 …20% 授業に対する取り組み …20% 授業内に実施する小テスト …30% 授業内に実施する期末テスト …30%
テキスト	『日本語教師をめざす人のためのスモールステップで学ぶ 教授法』（スリーエーネットワーク）
参考文献	授業内で適宜紹介する。

備考	当該科目を履修するためには、「日本語教育概論」の単位を修得済みであることを要件とする。

年度	2025
講義名称	日本語教育文法Ⅱ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02106L

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は日本語の構造や規則について学びます。日本語に関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語教育に必要な日本語の知識を養い、それらを日本語教育の現場で実践できる能力にまで高めることを目的とします。講義前半では「日本語教育のための文字と表記」「日本語教育のための形態・語彙・意味体系」を学びます。講義後半では「日本語教育のための文法体系」について学びます。
到達目標	・日本語の書記体系を理解し、日本語の文字指導に必要となる知識を修得する。 ・日本語の形態論と語構成を理解し、語彙指導に必要となる知識を修得する。 ・日本語教育のための文法を体系的に学び、文法指導に必要となる分析方法を修得する。
授業の進め方	・毎回の授業でワークシートに取り組みます。 ・課題に応じてペアワークやグループワークをおこないます。 ・授業中に発言を求めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布します。また、Web classを利用して全体および個別のフィードバックをおこないます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：日本語について考えてみよう 第1章：世界のなかの日本語	対面授業
第2回	日本語教育のための文字と表記 第4章：文字表記（1）文字の種類、第5章：文字表記（2）漢字	対面授業
第3回	日本語教育のための形態・語彙・意味体系 第6章：語彙・意味（1）語の定義・語彙量・語構成・語種	対面授業
第4回	日本語教育のための形態・語彙・意味体系 第7章：語彙・意味（2）類義語・対義語・言語間の意味のずれ	対面授業
第5回	日本語教育のための文法体系 第8章：文法（1）学校文法（国語文法）と日本語教育文法の違い	対面授業
第6回	日本語教育のための文法体系 第8章：文法（1）：品詞の特徴・活用	対面授業
第7回	日本語教育のための文法体系 第9章：文法（2）日本語の文の種類・格助詞	対面授業
第8回	日本語教育のための文法体系 第9章：文法（2）「は」と「が」	対面授業
第9回	日本語教育のための文法体系 第10章：文法（3）テンスとアスペクト	対面授業

第10回	日本語教育のための文法体系 第11章：文法（４）ヴォイス、自他動詞	対面授業
第11回	日本語教育のための文法体系 第11章：文法（４）授受表現	対面授業
第12回	日本語教育のための文法体系 第12章：文法（５）モダリティと複文	対面授業
第13回	期末試験、授業アンケート、解説	対面授業

事前・事後学修	・事前学修として教科書を読んで次回の内容を確認しておいてください。 ・事後学修として教科書や資料の内容をまとめ、授業内で実施される小テストや期末試験に備えてください。 ・講義に関する質問等は教員に直接きくか、WebClassを利用するか、メールで送信してください。 ・事前・事後学修は各2時間程度を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・授業参加度と課題に対する取組 40％ ・学習内容に関する小テストの得点 20％ ・期末試験の得点 40％
テキスト	・太田陽子〔編著〕（2021）『超基礎・日本語教育のための日本語学』（くろしお出版） ・教員が配付する資料
参考文献	・荒川洋平（2009）『日本語という外国語』講談社（講談社現代新書2013） ・原沢伊都夫（2012）『日本人のための日本語文法入門』講談社（講談社現代新書2173） ・凡人社[編]（2011）『徹底！活用ドリル 書いて覚える、書いて身につく』凡人社 ・家田章子、中村かおり（2022）『イメージでわかる！日本語の助詞』アスク ・三省堂編修所（2021）『新しい国語表記ハンドブック』【第9版】（三省堂）

備考	・授業の進め方や内容は、受講生および授業の進行状況によって変更することがあります。 ・授業に関することはWebClassでお知らせします。 ・授業の冒頭で小テストを行います。 ・やむを得ず講義を欠席する場合はメールで連絡してください。

年度	2025
講義名称	日本語教育文法Ⅰ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02105L

担当教員

氏名	所属
◎ 細野 弥恵	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は日本語の発音指導に必要となる「音声」および「音韻」に関する基本的知識を学びます。学習者の発音を分析し、日本語の発音に関する知識を学習者に正確に伝え、学習者の発音習得に貢献できるようになることを目的とします。講義前半は、日本語の音声を発する仕組みを学びます。講義後半は、日本語にはどのような音の区別やパターンや振る舞いがあるかを学びます。
到達目標	日本語に関する知識を学習者に正確に伝えるために、日本語の発音指導に必要となる音声・音韻に関する基本的知識を修得する。
授業の進め方	・課題に応じてペアワークやグループワークをおこないます。 ・授業中に発言を求めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・課題の結果については授業内で説明するとともに、補助資料を配布します。また、Web classを利用して全体および個別のフィードバックをおこないます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、日本語教育のための音声体系１：日本語の音声（IPA国際音声記号）	対面授業
第2回	日本語教育のための音声体系２：発声のしくみ（音声器官・口腔断面図など）	対面授業
第3回	日本語教育のための音声体系３：発声のしくみ（調音点・調音法など）	対面授業
第4回	実践練習（１）学習者の発音の分析	対面授業
第5回	実践練習（２）学習者の発音の分析	対面授業
第6回	実践練習（３）学習者の発音の分析	対面授業
第7回	日本語教育のための音韻体系１：音素と異音	対面授業
第8回	日本語教育のための音韻体系２：日本語の変音現象、日本語のプロソディー	対面授業
第9回	実践練習（４）学習者の発音の分析	対面授業
第10回	実践練習（５）学習者の発音の分析	対面授業
第11回	実践練習（６）学習者の発音の分析	対面授業
第12回	実践練習（７）学習者の発音の分析	対面授業
第13回	期末試験、授業アンケート、解説	対面授業

事前・事後学修	・事後学修として資料の内容をまとめ、授業内で実施される小テストや期末試験に備えてください。 ・講義に関する質問等は教員に直接きくか、WebClassを利用するか、メールで送信してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・授業参加度と課題に対する取組 30％ ・学習内容に関する小テストの得点 30％ ・期末試験の得点 40％
テキスト	教科書は使用せず、教員が配布する資料を使います。配布資料は継続して使います。毎回必ず「全部」持ってきてください。配布資料はファイルなどにまとめ、なくさないでください。
参考文献	・松崎寛、河野俊之（2018）『日本語教育 よくわかる音声』（アルク）

備考	・授業に関することはWebClassでお知らせします。 ・授業の冒頭で小テストを行います。 ・やむを得ず講義を欠席する場合はメールで連絡してください。

年度	2025
講義名称	日本語教育概論【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02104L

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、これから日本語教育について学ぶ学生を対象とした授業である。社会・文化・地域、言語と社会等の視点から、世界と日本、異文化接触、日本語教育の歴史と現状、言語と社会の関係、異文化コミュニケーションと社会等について理解することを目的とする。この授業は「日本語教員養成課程」の必修科目である。日本語教育の全体を把握するための授業であるため、この課程の一番初めに履修することが望ましい。
到達目標	・日本語教育全般の基礎的なことがらについて理解することができる。 ・現在の日本語教育情勢を理解することができる。 ・日本語教育における日本語教師のあり方について理解することができる。
授業の進め方	奇数回の授業を対面形式、偶数回の授業をオンデマンド形式で授業を進める。基本的に各項目の基礎的知識を身に付けた後で、課題等で自分の考えや意見を述べる形式にする予定である。また。必要に応じてグループワーク等を行うので、授業への積極的な参加が求められる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題結果については授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス／世界と日本の社会と文化	
第2回	日本の在留外国人施策／多文化共生について	オンデマンド
第3回	日本の在留外国人施策／多文化共生についての考察	
第4回	日本語教育史／言語政策について	オンデマンド
第5回	日本語教育史／言語政策についての考察	
第6回	日本語の試験／世界と日本の日本語教育事情について	オンデマンド
第7回	日本語の試験／世界と日本の日本語教育事情についての考察	
第8回	言語政策とことば／多言語・多文化主義について	オンデマンド
第9回	言語政策とことば／多言語・多文化主義についての考察	
第10回	日本語教師の資質・能力／日本語教育プログラムの理解と実践について	オンデマンド
第11回	日本語教師の資質・能力／日本語教育プログラムの理解と実践についての考察	
第12回	日本語教育全般まとめ	オンデマンド
第13回	期末テスト／解説	

事前・事後学修	・基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。 ・毎回の対面授業時に前回の授業内容に関する小テストを行う（授業内容を必ず復習ノートにまとめておくこと）。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題（授業内容の理解／自分の意見・考え）…40％ 小テスト（授業内容の理解／自分の意見・考え）…20％ 期末テスト（授業内容の理解／自分の意見・考え）…40％
テキスト	特に使用しない。資料を適宜配布する。
参考文献	森篤嗣他（2019）『超基礎・日本語教育』くろしお出版

備考	日本語教員養成課程を修了希望の学生は、必ず履修すること

年度	2025
講義名称	言語学特論【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02103L

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	言語学の目標の一つは言語における普遍的なものを見つけることである。この講義では、言語類型論の視点から「日本語という言語の特質」を理解した上で、異なる言語と比較して各々の特性を明らかにする（対照言語学）。通言語的に各言語間の相違・共通性を考えることにより、日本語教育や日本語指導に結びつけるための基礎知識を習得する。なお当該科目は、日本語教師養成における必須の教育内容（38）対照言語学、（36）著作権を含む。 ※日本語教育課程の指定科目です。
到達目標	・日本語を典型的にとらえ、学習者の言語と日本語学習の関係を理解する。 ・自身の興味のある言語における各文法現象の調査・分析ができるようになる。 ・日本語に関する知識を対象言語学の観点から深める。 ・授業における著作権について理解する。
授業の進め方	課題に応じて講義形式および演習形式（ペアワークやグループワーク）を組み合わせで行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内及びオンデマンド教材にて解説し、必要に応じて資料を配付します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 対照言語学とは何か * 第1～13回予定で進めますが、状況によって変更します。	
第2回	言語類型論	オンデマンド
第3回	日本語教育と対照研究（英語）	
第4回	対照研究 語彙	オンデマンド
第5回	対照研究 語順	
第6回	対照研究 文の構造	オンデマンド
第7回	対照研究 音韻	
第8回	対照研究 文字	オンデマンド
第9回	対照研究 テンスとアスペクト	
第10回	教育活動と著作権	オンデマンド
第11回	個別発表と討論 1	
第12回	対照研究 表現構造	オンデマンド

第13回	個別発表と討論 2 総括・振り返り	

事前・事後学修	事前、事後学習ともに2時間が目安です。自分自身でノートを作成することを勧めます。 【授業外学習】 ・言語の文法書を確認し、文法用語などをおさえておくこと。 ・日常的な言語使用において、比較・対照の視点を持つこと。 ・配布資料を整理し、発表やレポート作成に活かすこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・毎授業への課題・参加度 40％ ・調査発表 30％ ・期末課題：レポート 30％
テキスト	テキストなし。資料を配布します。
参考文献	『日本語教師のための入門言語学：演習と解説』（スリーエーネットワーク） 『28言語で読む「星の王子さま」世界の言語を学ぶための言語学入門』（東京外国語大学出版会） 『あなたの知らない、世界の希少言語 世界6大陸、100言語を全力調査！』（日経ナショナル ジオグラフィック）

備考	各言語における文法調査・研究が中心となるため、履修者は自身の興味のある言語を文法書などで確認しておいてください。

年度	2025
講義名称	社会言語学【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02102L

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	社会言語学は、普段の社会生活の中で、どのように言語が使用されているのかを研究する学問である。この授業は、コミュニケーションツールとしての言語の役割を深く理解し、社会と言語との関係について考えることを目的とする。
到達目標	・社会的・文化的な観点を通して、言語のありかた、社会と言語との関係性について理解し、考えることができる。 ・社会生活における円滑なコミュニケーションの実現について理解し、考えることができる。 ・異文化コミュニケーション、コミュニケーションストラテジーについて理解し、考えることができる。
授業の進め方	オンデマンド形式で授業を進める。基本的に各項目の基礎的知識を身に付けた後で、課題、調査学習等で自分の考えや意見を述べる形式にする予定である。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題結果については授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。また、Web classを利用し、フィードバックを行う予定である。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス／言語とは	オンデマンド
第2回	社会言語学とは	オンデマンド
第3回	地域方言・社会方言・その他の方言について	オンデマンド
第4回	地域方言・社会方言・その他の方言についての考察	オンデマンド
第5回	待遇・敬意表現／ポライトネスについて	オンデマンド
第6回	待遇・敬意表現／ポライトネスについての考察	オンデマンド
第7回	「やさしい日本語」とは何か	オンデマンド
第8回	「やさしい日本語」について	オンデマンド
第9回	「やさしい日本語」についての考察	オンデマンド
第10回	日本語の文体・表現	オンデマンド
第11回	言語の多様性／言語と文化	オンデマンド
第12回	コミュニケーションストラテジー／異文化コミュニケーションと社会	オンデマンド
第13回	期末テスト／解説	オンデマンド

事前・事後学修	・基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。 ・課題等で自分の考えや意見を述べるために、特に復習に力を入れることが必要となる。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・課題（授業内容の理解／自分の意見・考え）に対する取り組み…50％ ・期末テスト（授業内容の理解／自分の意見・考え）…50％
テキスト	・特に使用しない。資料を適宜配布する。
参考文献	庵功雄（2016）『やさしい日本語－多文化共生社会へ』岩波書店 石黒圭（2013）『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社 加藤重広（2007）『学びのエクササイズ ことばの科学』ひつじ書房

備考	この科目は日本語教員養成課程の選択科目に位置づけられているが、当課程修了に必要な科目であるので、日本語教員養成課程修了希望者は、必ず履修すること。

年度	2025
講義名称	心理言語学【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	国際教養学科：LAG02101L

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、主に言語と心理の視点から、言語理解の過程、言語習得・発達、異文化理解と心理について理解することを目的とする。また、言語と教育における中間言語、言語におけるコミュニケーション能力についても考える。心理という観点から言語というものを考えながら、日本語教育の基礎的な事項を学ぶ。この授業は「日本語教員養成課程」の必修科目である。
到達目標	・日本語学習者の言語情報の処理過程、学習の仕組み、学習の方法について理解することができる。 ・言語の習得過程、日本語学習者の要因、学習効果を高める方略について理解することができる。 ・異文化接触によって生じる問題とその解決、動機や不安などの心的側面について理解することができる。
授業の進め方	奇数回の授業を対面形式、偶数回の授業をオンデマンド形式で授業を進める。基本的に各項目の基礎的知識を身に付けた後で、課題等で自分の考えや意見を述べる形式にする予定である。また。必要に応じてグループワーク等を行うので、授業への積極的な参加が求められる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題結果については授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス／心理言語学とは	
第2回	言語理解の過程（談話理解、言語学習）について	オンデマンド
第3回	言語理解の過程（談話理解、言語学習）についての考察	
第4回	言語習得・発達（習得過程〔第一言語・第二言語〕、学習ストラテジー）について	オンデマンド
第5回	言語習得・発達（習得過程〔第一言語・第二言語〕、学習ストラテジー）についての考察	
第6回	異文化理解と心理（異文化受容・適応、日本語の学習・教育の情意的側面）について	オンデマンド
第7回	異文化理解と心理（異文化受容・適応、日本語の学習・教育の情意的側面）についての考察	
第8回	言語教育法・実習（中間言語分析）について	オンデマンド
第9回	言語教育法・実習（中間言語分析）についての考察	
第10回	コミュニケーション能力（受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力、異文化調整能力）について	オンデマンド
第11回	コミュニケーション能力（受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力、異文化調整能力）についての考察	
第12回	これまでの学修内容のまとめ	オンデマンド
第13回	期末テスト／解説	

事前・事後学修	・基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。 ・毎回の対面授業時に前回の授業内容に関する小テストを行う（授業内容を必ず復習ノートにまとめておくこと）。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題（授業内容の理解／自分の意見・考え）…40％ 小テスト（授業内容の理解／自分の意見・考え）…20％ 期末テスト（授業内容の理解／自分の意見・考え）…40％
テキスト	特に使用しない。資料を適宜配布する。
参考文献	村杉恵子（2014）『ことばとところ－入門　心理言語学』みみずく舎 大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

備考	日本語教員養成課程を修了希望の学生は、必ず履修すること

年度	2025
講義名称	[夏集]インストラクター実習Ⅰ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	国際観光学科
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科
安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	観光地において必要不可欠なインストラクターとしての知識と技能を身につける。特にこの講義ではカヌーやラフティングを始め、海水浴場の安全管理など水辺での救急救命法を習得し日本ライフセービング協会公認の「Water Safety」の資格取得を目指す。観光資源維持のために様々な主体が関わり、同時に多くの課題を抱えていることを実体験を通し学ぶことにより、将来さまざまな形で観光を支える意識を持つことを目的とする。
到達目標	日本ライフセービング協会公認のライフセーバーの資格を受けるための「Water Safety」の資格取得を目指す。この資格を活用して、アウトドアアクティビティのインストラクターとなるための基礎的なスキルを身につける。
授業の進め方	夏季集中講義。数回の座学とプールや湖、海水浴場でのアクティブラーニングが中心となる。夏休み中などに実際に業務にも携わる予定。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実際にインストラクターを目指す講義となるため、さまざまな実習への真摯な取り組みを求める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	観光地とインストラクター 1
第3回	観光地とインストラクター 2
第4回	海水浴場概要
第5回	プール実習 1
第6回	プール実習 2
第7回	海水浴場の現状と安全管理
第8回	ライフセービング座学 1
第9回	BLS（CPR+AED） 1
第10回	BLS（CPR+AED） 2
第11回	BLS（CPR+AED） 3
第12回	BLS（CPR+AED） 4
第13回	BLS（CPR+AED）資格テスト

事前・事後学修	【具体的な内容】
	プールや海での実習を行うため、25m以上泳げる泳力を有していること。不安なものはプール実習までに各自練習をすること。講義終了時には日本ライフセービング協会公認「Water Safety」と「BLS(CPR+AED)」の資格が認定され、さらに上級の「Basic Surf Lifesaver」の資格を受ける権利を得ることができる。
	【必要な時間】 予習・復習含めて2時間程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義ごとの確認シート 10% 実習への取り組み 50% 資格の取得 40%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2〜3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	卒業研究[現文・秋入生][横川]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にまとめることを目的とする通年授業。
到達目標	・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。 ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。 ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することかができる。
授業の進め方	課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。 春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。 また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。 秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらでも対応は可能。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究計画の指導①
第2回	研究計画の指導②
第3回	研究計画の指導③
第4回	研究計画の指導④
第5回	研究計画の指導⑤
第6回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー①
第7回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー②
第8回	研究の背景としての先行研究、そのレビュー③
第9回	調査法やアンケート法の指導①
第10回	調査法やアンケート法の指導②
第11回	調査法やアンケート法の指導③
第12回	中間発表会①
第13回	中間発表会②、フィードバック
第14回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り①
第15回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り②
第16回	研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り③

2025/04/01

第17回	論文の作成指導①
第18回	論文の作成指導②
第19回	論文の作成指導③
第20回	論文の作成指導④
第21回	論文の作成指導⑤
第22回	論文の作成指導と発表の準備①
第23回	論文の作成指導と発表の準備②
第24回	論文の作成指導と発表の準備③
第25回	論文の作成指導と発表の準備④
第26回	論文の作成指導と発表の準備⑤
第27回	最終発表会

事前・事後学修	授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的 대부분は授業外となる。 自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもない。 上述のことから、史資料の探索、データ収集、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業を授業外に週 5 時間以上必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100% * 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で学科教員などに提案し、その了承を経て決定する。
テキスト	統一的なテキストは用いない。
参考文献	受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。

備考	札幌国際大学人文学部国際教養学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔現文(未修得)〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「我々はどうような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、各受講者がそれぞれのテーマをもって調査研究を行い、その結果を各自が報告する授業。教員はそれをもとに指導をする。
到達目標	・自分の問題関心に即しつつ、適切な問いを設定することができる。 ・その問いに答えるために、適切な調査研究ができる。 ・その結果を明瞭で論理的な文章で表現できる。
授業の進め方	・受講生が主体的に自分のテーマについて調査・探求し、その成果を授業で報告する ・教員はその成果報告に対し、フィードバックする

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・成果報告については、都度、口頭でフィードバックする ・中間レポート、最終成果物については、WebClassあるいはメールにてフィードバックする

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス 研究テーマ決め
第2回	②これまでの調査の発表と今後の方向
第3回	調査報告と議論
第4回	調査報告と議論
第5回	調査報告と議論
第6回	調査報告と議論
第7回	中間のまとめ
第8回	調査報告と議論
第9回	調査報告と議論
第10回	調査報告と議論
第11回	調査報告と議論
第12回	調査報告と議論
第13回	学期のまとめ

事前・事後学修	空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理に費やすことになる。 総合的に見て、それらの作業時間が週4時間を下回ることはない。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 調査研究発表……50％（中間レポートを含む） ・ 学期末成果物……50％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	・ 受講者全員に当てはまる参考文献はないので、それぞれに合わせて紹介する

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔現文(未修得)〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	「我々はどうような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、各受講者がそれぞれのテーマをもって調査研究を行う授業。教員はそれをもとに論文指導をする。
到達目標	・自分の問題関心に即しつつ、適切な問いを設定することができる。 ・その問いに答えるために、適切な調査研究ができる。 ・その結果を明瞭で論理的な文章で表現できる。
授業の進め方	演習授業。各受講者がテーマに沿って授業外学習で調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かい、最終的に「ゼミ論Ⅱ」と呼ばれる一定以上の論理的著作物にまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。 ・それをもとにゼミ論Ⅱを完成させるが、そのフィードバックは必要に応じて行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション（予定と発表順決め、など） ・夏休みの成果報告
第2回	調査報告
第3回	調査報告
第4回	調査報告
第5回	調査報告
第6回	調査報告
第7回	調査報告
第8回	調査報告
第9回	調査報告
第10回	調査報告
第11回	調査報告
第12回	最終成果物作成に向けて
第13回	まとめ

事前・事後学修	空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理及び執筆に費やすことになる。 そのための時間が、週当たり4時間を下回ることはない。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 授業内発表……50％ ・ 学期末に提出する成果物……50％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	その都度紹介する

年度	2025
講義名称	和の精神史
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 野口 飛香留	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	わが国の文化は、中国を由来とする〈漢〉、欧米を由来とする〈洋〉、そして日本を由来とする〈和〉といった異なる文化同士の衝突や交錯を経ながら、長い歴史をかけて形作られてきた。そうした日本文化のありようや、その中における〈和〉の特質を考え理解してゆくことは、私たち日本人の根源的なアイデンティティを知ると同時に、それを踏まえながら未来に向けたよりよい生き方を模索してゆく上で、大切な意味を持つ。 上記のような日本文化のありようと〈和〉の特質を考えてゆくための素材として、この授業では、日本のアニメーション作品に着目する。日本におけるアニメーション作品は、かつてはサブカルチャーのひとつとして、時には蔑視・軽視される向きもあったが、今日では年齢・性別・国籍などを越えて多様な人々の心をつかみ、「ANIME」という日本を代表する文化として確立しつつある。こうした日本のアニメーション作品は、しばしば上記の〈漢〉〈洋〉そして〈和〉の要素を内包しており、またわが国の歴史や宗教観・自然観などがその基底を成していることも少なくない。このような言わば日本文化の縮図であるアニメーション作品を素材に、日本文化のありようと〈和〉の特質を考えることがこの授業の目的である。 なおこの授業では、膨大な数と種類を誇る日本のアニメーション作品の中から、特に宮崎駿監督のスタジオジブリ映画を中心に据えたい。
到達目標	(1) 日本文化としてのアニメーションの歴史の概略と、その中におけるスタジオジブリ作品の位置づけについて理解する。 (2) ジブリ作品を構成している歴史的背景・文化的背景について理解する。 (3) 日本アニメを素材として、日本文化における〈和〉の特質を考え理解する。
授業の進め方	授業初回ではガイダンスを行ない、第2回で日本アニメの歴史におけるスタジオジブリ作品の位置づけについて整理する。第3回以降、ジブリ作品の「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」「風立ちぬ」を授業内で順次視聴してゆき、それぞれの作品が持つ歴史的背景・文化的背景を読み解いてゆく。第12回で授業内容を総括し、第13回（最終回）で期末試験を実施する。 授業の展開に応じて、適宜ディスカッションを取り入れる。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中の学生の発言やディスカッションの内容に応じて、授業時間中に適宜フィードバックを行なう。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	初回ガイダンス 【授業内容】 授業の趣旨と進め方を確認する。また授業の導入として、簡単な質疑応答を行なう。	対面授業
第2回	日本アニメの歴史とスタジオジブリ作品 【授業内容】 上記の題目で講義を行なう。	対面授業
第3回	「もののけ姫」を観る 【授業内容】 受講者に「もののけ姫」を視聴してもらい、感想や気づいた点をまとめてもらう。	対面授業
第4回	「もののけ姫」を読み解く① 【授業内容】 講義の形式で、「もののけ姫」の内容を歴史的・文化的な観点から分析する。	対面授業

第5回	「もののけ姫」を読み解く② 【授業内容】 講義の形式で、「もののけ姫」の内容を歴史的・文化的な観点から分析する。	対面授業
第6回	「千と千尋の神隠し」を観る 【授業内容】 受講者に「千と千尋の神隠し」を視聴してもらい、感想や気づいた点をまとめてもらう。	対面授業
第7回	「千と千尋の神隠し」を読み解く① 【授業内容】 講義の形式で、「千と千尋の神隠し」の内容を文化的な観点から分析する。	対面授業
第8回	「千と千尋の神隠し」を読み解く② 【授業内容】 講義の形式で、「千と千尋の神隠し」の内容を文化的な観点から分析する。	対面授業
第9回	「風立ちぬ」を観る 【授業内容】 受講者に「風立ちぬ」を視聴してもらい、感想や気づいた点をまとめてもらう。	対面授業
第10回	「風立ちぬ」を読み解く① 【授業内容】 講義の形式で、「風立ちぬ」の内容を歴史的・文化的な観点から分析する。	対面授業
第11回	「風立ちぬ」を読み解く② 【授業内容】 講義の形式で、「風立ちぬ」の内容を歴史的・文化的な観点から分析する。	対面授業
第12回	日本アニメから考える〈和〉の精神 【授業内容】 講義の形式で、授業全体の総括を行なう。	対面授業
第13回	期末試験	対面授業

事前・事後学修	【事前学習】 授業で扱う3つのジブリ作品「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」「風立ちぬ」については、授業中に視聴する時間を設ける。ただし授業の理解度をより深めたい場合は、事前に学生各自で上記作品を視聴しておいいただくことをお勧めしたい。また、事前に下記の参考文献に目を通しておいいただけるとなおよい。 【事後学習】 授業で用いた資料や授業中に示した参考文献を読み返して、授業内容を復習すること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・平常点（授業の出欠、授業中の発言内容や授業態度に基づいて算出する）… 40％ ・期末試験 … 60％
テキスト	テキストは特に指定しない。担当教員作成のPowerPointスライドあるいは配布プリントに基づいて授業を進める。
参考文献	・宮崎駿『風の帰る場所 ナウシカから千尋までの軌跡』（文藝春秋、2013年。初刊2002年） ・津堅信之『日本アニメ史 手塚治虫、宮崎駿、庵野秀明、新海誠らの100年』（中央公論新社、2022年） ・一ノ瀬俊也『昭和戦争史講義 ジブリ作品から歴史を学ぶ』（人文書院、2018年） その他の参考文献については、授業中に適宜示す。

年度	2025
講義名称	文化財の保護と活用
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 高倉 純	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	本講義では、人類が残してきた考古学的記録に着目しながら、北海道における歴史と文化遺産の特性を理解していくことを目的とする。考古学的に北海道の歴史がどのように明らかにされているのかをふまえ、代表的な文化遺産としての考古遺跡に対する調査成果や保存・活用の現状を把握していく。文化遺産としての考古遺跡に社会的な注目が集まっているなかで、その歴史的意義や社会的役割を考えていく。
到達目標	考古学からみた北海道の歴史に関する基本的特性を理解し、道内各地に残されている文化遺産の意義について説明することができるようになる。
授業の進め方	講義形式で実施する。また遺跡や博物館展示を対象とした外部施設見学をフィールドワークとして実施する。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の講義内容については、感想・意見・質問を記すコメントペーパーを提出してもらい、その内容についてフィードバックする。また講義中に実施する小テストの結果についても解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	イントロダクション：北海道における歴史と文化遺産	
第2回	北海道への人類の拡散と定着：旧石器時代人類の拡散と適応	
第3回	黒曜石原産地遺跡群：白滝遺跡群	
第4回	完新世適応：縄文のムラと生業	
第5回	環状周堤墓：キウス周堤墓群	
第6回	変容する続縄文の生業と交易：常呂川河口遺跡とK135遺跡	
第7回	外部施設見学（1）	フィールドワーク
第8回	外部施設見学（2）	フィールドワーク
第9回	雑穀農耕と商業的狩猟採集民：擦文文化の成立と変容	
第10回	擦文農耕：サクシュコトニ川遺跡	
第11回	オホーツク文化の生業と社会組織：香深井1遺跡とモヨロ貝塚	
第12回	チャンの出現と中近世社会の変容	
第13回	北海道の近代遺跡	

事前・事後学修	配布した資料や紹介した参考文献を閲覧・読解、コメントペーパーの記述に要する予習・復習には、それぞれ2時間程度を必要とする。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している北海道の歴史と文化遺産の特性についての理解を期末に行う試験の評価基準とする。道内各地に残されている文化遺産の意義についての理解を小テストの評価基準とする。 評価方法の割合は、筆記試験（60％）、講義中の小テスト（25％）、外部施設見学レポート（15％）とする。 提出課題の遅延は減点の対象とする。受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする場合もある。
テキスト	適時、講義資料はPortalサイトより配布する。各自が必要に応じてダウンロード・印刷してほしい。
参考文献	随時指摘する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、埋蔵文化財調査センターに調査員として勤務し、埋蔵文化財保護行政の業務に従事した経験がある。その実務経験に基づいて北海道の歴史と遺産に関する講義を行う。
備考	講義の2回分を外部施設見学とし、レポートの提出を求める。見学は週末に行い、現地集合・現地解散とするため、交通費が必要となる。

年度	2025
講義名称	ポップ・カルチャー論
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	ポップ・カルチャーは日本に特有である。本来ポップ・カルチャーは大衆文化（マス・カルチャー）に含まれた蔑視を払しょくするために導入されたポピュラー・カルチャーという捉え方の略称であったが、「サブカル」と略されるサブ・カルチャーの特定の領域との差異化の結果、それはわが国において、特定の年代層に向けられた文化コンテンツの総称となっている。これらのコンテンツをどのように語ることができるか、教員が事例を挙げて解説し、学生が実践することでそれを自らのものとすることを本授業は目的とする。
到達目標	ポップカルチャーの領域において、特定の視点から批評するとはどのようなことであるかを理解し、実際に自分の言葉で作品を批評できる
授業の進め方	教員が批評の視点やその分析方法を解説し、学生は実際にそれを特定の作品で実践する

アクティブ・ラーニング

体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・学生が実際に行った批評は、WebClass上で回収し、全体に対しては次の授業で、個別にはWebClass上で、フィードバックをする ・最終課題は、WebClass上で回収し、WebClass上で個別にフィードバックをする

授業計画表

回	授業内容
第1回	・カルチュラル・スタディーズとは何か ・カルチャーとは何か ・イデオロギーとは何か ・ポップ・カルチャーとは何か
第2回	・批評とは何か
第3回	・物語論とは何か
第4回	・物語論批評の実践
第5回	・ジェンダー批評とは何か
第6回	・ジェンダー批評の実践
第7回	・オリエンタリズムとは何か
第8回	・オリエンタリズム批評の実践
第9回	・文化産業論とは何か
第10回	・文化産業論批評の実践
第11回	・歴史コンテンツと歴史／史実の関係とは何か
第12回	・歴史コンテンツの歴史／史実との関係の批評の実践
第13回	・まとめ

2025/04/01

事前・事後学修	・授業を記したメモ・ノートなどを見直すことで内容を咀嚼し、自分のものとするのに3時間程度 ・授業で実践してみた批評を、日常生活の中で実践してさらに深めるのに1時間程度

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・教員による解説などのまとめ・・・28% 4%×7回（1・2・3・5・7・9・11回） ・批評理論の実践・・・・・・・・・・50% 10%×5回（4・6・8・10・12回） ・最後のまとめ・・・・・・・・・・22%
テキスト	テキストは用いない
参考文献	遠藤英樹『現代文化論—社会理論で読み解くポップ・カルチャー』ミネルヴァ書房、2011年 小倉孝誠編『批評理論を学ぶ人のために』世界思想社、2023年 北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か—不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』書肆侃侃房、2019年 同『批評の教室』筑摩書房、2021年 倉橋耕平『歴史修正主義とサブカルチャー』青弓社、2018年 ストーリー、J.（鈴木健、越智博美訳）『ポップ・カルチャー批評の理論』小島遊書房、2023年 内藤理恵子『新しい教養としてのポップカルチャー』日本実業出版社、2022年

年度	2025
講義名称	現代民俗学
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 林 美枝子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	学生が日本の民俗とは何かを理解することで、常に経世(世を治めているもの)の学として唯一の現代科学に触れる。 学生が日常における生活文化や民間伝承を具体的な事例を通して学修することで、日本文化の独自性を理解する。 学生が日本民俗の健康観、死生観、神観念、他界観を学ぶことで、日本人の心性の特徴を理解する。 学生はこれまでの本学で実施された全国各地の民俗学の多様なフィールドワークの記録を縦覧することで、調査の意義や自ら資料を収集することの大切さを認識する。 学生は高校までで一切学修したことのない分野の学びを通して、日本人としてのアイデンティティの再確認とともに、より広い視野での日本文化の特徴を理解する。
到達目標	①日本民俗における生活文化の独自性を説明できるようになる ②日本人の心性を支える神観念や死生観を理解できるようになる ③フィールドワークや資料を自ら収集することの意義を理解できるようになる ④民俗学における各種専門用語を説明できるようになる ⑤現代の都市部における新たな民俗学の潮流を理解できるようになる ⑥昭和期まで民俗学の対象ではなかった北海道の民俗学の可能性とその成果について理解できるようになる
授業の進め方	基本は13回の内10回は講義形式で進める。 2回目以降は毎回授業の最初の5分間を、前回授業の振り返りに宛てる。 授業の最期の5分間は自己学修シートへの記入を実施するとともに、授業後の事後学修の内容を検討させる。 2回目の授業からは10回にわたって小テストを実施する。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は授業の中で繰り返し説明するが、実施は各自で冬季休暇期間に行う。提出は11から13回目の対面授業の時であるが、そのフィードバックは当該年度では実施しない。昨年までの先輩学生野フィールドワークの資料や報告を今年度学生の授業に生かしていく。 自己学修シートに毎回記入した内容に関しては、次の授業の最初の振り返りでさらに学生たちは自己学修を深める契機とする。小テストの結果と講評も翌週に毎回実施する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業の流れと評価方法、自己学修シートの気に佑のしかた、冬季休暇のフィールドワークの課題についての説明 民俗学とはどんな学問か 学問の父、柳田国男について 自己学修シートへの記入	対面授業
第2回	宮崎県椎葉村の調査から 本学の調査報告を縦覧する 関連動画の視聴 自己学修シートへの記入 小テスト1	対面授業

第3回	人生儀礼について 誕生と白不浄 親子なり、生育儀礼、成人儀礼 婚姻、青森県の死後婚の調査から 自己学修シートへの記入 小テスト2	対面授業
第4回	民俗としてのジェンダーについて 赤不浄と女人禁制 聖俗二元論 「妹の力」 自己学修シートへの記入 小テスト3	対面授業
第5回	健康観について ハレ・ケ・ケガレの循環論 年中行事の解説 自己学修シートへの記入 小テスト4	対面授業
第6回	アニミズム 八百万の神観念 者と物 依りましと依り代 自己学修シートへの記入 小テスト5	対面授業
第7回	伝統的医療とその施術者 憑き物筋 本学の沖縄調査から ユタ、ノロの神迎え、神送り 自己学修シートへの記入 小テスト6	対面授業
第8回	死の民俗学 黒不浄と遺体の処理の仕方 逆向き 左縄の境界性 自己学修シートへの記入 小テスト6	対面授業
第9回	葬送儀礼 札幌市の墓地の調査から 現代の葬送 死生学の再生 自己学修シートへの記入 小テスト7	対面授業
第10回	北海道民俗学について その可能性と成果の経緯 『北海道民俗地図』と母村研究について 自己学修シートへの記入 小テスト8	対面授業
第11回	北海道の民俗の特徴 「姉の力」考 文化の継承は女性たちの手で 自己学修シートへの記入 小テスト9	対面授業
第12回	にしん漁の民俗 現代日本のオフィス文化の発祥 自己学修シートへの記入 小テスト10	対面授業
第13回	北海道の現代民俗学 会費制の結婚式 家族葬や直送がほとんど 墓仕舞いについて 授業内容のまとめ 自学自修シートの記入と提出	対面授業

事前・事後学修	事後学修 毎回の民俗事例を自らの地域社会に照らし、同様の地元での事例を調べて考察する。 あるいは祖父母や地域の身近なお年寄りへの聞き取り調査を個別で行ってみる。約2時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	自学自修シートへの書き込み内容 30点 30% フィールドワークの報告書 20点 20% 授業内で実施する小テスト 2回目から11回目までの10回 各5点合計50点 50%
テキスト	なし
参考文献	速水保孝著 柳田国男序文 『憑さものの持ち迷信』明石書店 1999 多田道太郎著 『身辺の日本文化 日本人のものの見方と美意識』1981 富田登『都市民俗論の課題』未来社 1982 福田アジオ『柳田国男の民俗学』吉川弘文館 1992 北の生活文庫企画編集会議『北海道の生活文化』北海道 2000

備考	留学生にとっては、一種の日本を深く学ぶ授業となるが、同様の事項が自民族の出身地域ではどのような民俗として生きられているのかを、常に自分事として考察するようにしよう。 この授業は第1回目と第2回目の週、第11回目と第12回目の週、第13回目の週の全5回の授業は対面となります。 冬季休暇が差しはさまれるため、その間に課題のフィールドワークを実施し、その評価が20%と高いため、必ず取り組んでください。また、また毎回手元で記入していただく自己学修シートは最初の対面授業で配布しますが、毎回授業の時も必ず指示に従い記入するようにし、13回目の最期の対面授業終了時には必ず提出してください。

年度	2025
講義名称	近現代日本史
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 野口 飛香留	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	私たち日本人を取り巻く国内・国際情勢は、現在もお流動と混迷が続けている。いま私たちが置かれている立場や状況、そしてそれらが形作られてきた経緯・過程を正確に理解し、未来に向けてよりよい生き方を選び取ってゆくために、先人たちが歩んできた過去の歴史を知ることの意義はきわめて大きい。 この授業では、江戸時代の末期（幕末）から明治・大正・昭和のいわゆる「近代」までにかけての日本の歴史を概観し、いかにして現代の日本の政治体制や日本を取り巻く国際関係が形成されるに至ったのかを解説する。日本とアジア・欧米諸国との双方向的関係、すなわち日本とアジア・欧米諸国が相互にどのような影響を与え合ってきたのかという観点を重視し、日本一国の閉じた歴史としてではなく、世界史の中における日本の歴史として「近現代日本史」を描き出す。
到達目標	(1) 幕末から近現代にかけての日本の歴史の流れを理解する。 (2) アジア・欧米諸国との関係が日本の歴史の展開に及ぼした影響について理解する。 (3) 「なぜ、そうなったのか？」という観点から、日本の歴史における諸事象を考えてゆく姿勢を身につける。
授業の進め方	初回到ガイダンスを行なった後、第2回～第12回にかけて講義形式で近現代日本の歴史の流れを順次解説してゆく。最終の第13回到期末試験を実施する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講者からのコメントに即して、授業の中で適宜フィードバックを行なう。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンスーなぜ、歴史を学ぶのか？ー	対面授業
第2回	講義「開国・倒幕と明治維新」	対面授業
第3回	講義「不平等条約の改正と立憲国家の成立」	対面授業
第4回	講義「日清戦争と国際秩序の変動」	対面授業
第5回	講義「日露戦争と日本外交の展開」	対面授業
第6回	講義「 「帝国」日本の外交ー植民地政策と対中政策ー 」	対面授業
第7回	講義「第一次世界大戦とワシントン体制の成立」	対面授業
第8回	講義「大正デモクラシーと軍部の台頭」	対面授業
第9回	講義「満州事変と日中戦争」	対面授業
第10回	講義「第二次世界大戦とアジア・太平洋戦争」	対面授業
第11回	講義「戦後改革と日本の独立」	対面授業
第12回	講義「東西冷戦と日本の政治・経済」	対面授業
第13回	期末試験	対面授業

事前・事後学修	【事前学習】 高校までの日本史教科書、あるいは下記に挙げる参考文献を事前に読んでおいていただけると、授業内容の理解がより深まる。 【事後学習】 授業中に配布した資料、または下記の参考文献を読み返して復習すること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・平常点（授業の出欠、各授業の最後に提出してもらうリアクションペーパーのコメント内容、授業態度などから算定する）…30％ ・期末試験の成績…70％
テキスト	講師作成の配布資料やPowerPointスライドなどを基に授業を進める。テキストは特に指定しない。
参考文献	・小風秀雅編『大学の日本史 教養から考える歴史へ 4近代』（山川出版社、2016年） ・鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在5 近現代①』（山川出版社、2024年） ・鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編『日本史の現在6 近現代②』（山川出版社、2024年）

年度	2025
講義名称	アカデミックライティングⅡ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ コクスフォード リチャード	大学・センター等

授業の 目的と 概要	アカデミックライティングⅡ aims to develop students critical thinking, vocabulary, and topic knowledge, so they are able to write full essays in English. Students will be able to apply the techniques in any writing they do. Through lots of writing, proofreading, and discussion with peers, students can build a good writing habit. Final year students who are hoping to do English examinations such as IELTS, work in an English environment, or study abroad, will benefit.
到達目 標	By the end of this course, students will have improved at: - expressing written opinions - writing full texts on familiar and unfamiliar topics - understanding what different essay questions want - sustaining logical arguments - proofreading their own work
授業の 進め方	This is a Writing class, and students will be required to write. There is also a lot of reading, and speaking. The general pattern is a brief interactive lecture and vocabulary warm-up, followed by detailed examination of the model writing text. Once the techniques have been reviewed, students will practice it with immediate teacher feedback.

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフ ィードバックの方法	Feedback for all written work will be provided both in the students' writing journals, and in individual discussions. Feedback will likewise be provided by their peers during class.

授業計画表

回	授業内容
第1回	Orientation: Paragraph Structure
第2回	Coherent Order of Information
第3回	Defining Key Terms
第4回	Paraphrasing and Summarising
第5回	Analysing Essay Questions and Brainstorming Ideas
第6回	Generalising or Stating a Stance
第7回	Introductions and Conclusions
第8回	Developing body paragraphs with details
第9回	Cause and Effect Essays
第10回	Compare and Contrast Essays
第11回	Problem and Solution Essays

第12回	Opinion Essays
第13回	Final Timed Essay / Review

事前・事後学修	Before class, students will need to brainstorm ideas for the next topic, and examine the model writing text. After class, students will have a writing task to hand write in their journal. They are also encouraged to complete optional news writing tasks. According to previous students, completing it properly needs over 1 hour.

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Class Activities 20% Partner Feedback 10% Writing Journal 30% Final Timed Essay 40%
テキスト	The lecturer will provide materials.
参考文献	『Longman Academic Writing Series 3: Paragraphs to Essays』 著者 : Alice Oshima & Ann Hogue 出版社 : Pearson 『Academic Writing for International Students』 著者 : Stephen Bailey 出版社 : Routledge

備考	Writing is *not* about memorising grammar or copying from a textbook. Writing is a way to express your opinions. **Students who have not taken アカデミックライティングⅠ are welcome to register for this course.**

年度	2025
講義名称	認知言語学【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 宇留野 健太	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	この授業は、主に言語と心理の視点から、言語理解の過程、言語習得・発達、異文化理解と心理について理解することを目的とする。また、言語と教育における中間言語、言語におけるコミュニケーション能力についても考える。心理という観点から言語というものを考えながら、日本語教育の基礎的な事項を学ぶ。
到達目標	・日本語学習者の言語情報の処理過程、学習の仕組み、学習の方法について理解することができる。 ・言語の習得過程、日本語学習者の要因、学習効果を高める方略について理解することができる。 ・異文化接触によって生じる問題とその解決、動機や不安などの心的側面について理解することができる。
授業の進め方	奇数回の授業を対面形式、偶数回の授業をオンデマンド形式で授業を進める。基本的に各項目の基礎的知識を身に付けた後で、課題等で自分の考えや意見を述べる形式にする予定である。また。必要に応じてグループワーク等を行うので、授業への積極的な参加が求められる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題結果については授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス／認知言語学とは	
第2回	言語理解の過程（談話理解、言語学習）について	オンデマンド
第3回	言語理解の過程（談話理解、言語学習）についての考察	
第4回	言語習得・発達（習得過程〔第一言語・第二言語〕、学習ストラテジー）について	オンデマンド
第5回	言語習得・発達（習得過程〔第一言語・第二言語〕、学習ストラテジー）についての考察	
第6回	異文化理解と心理（異文化受容・適応、日本語の学習・教育の情意的側面）について	オンデマンド
第7回	異文化理解と心理（異文化受容・適応、日本語の学習・教育の情意的側面）についての考察	
第8回	言語教育法・実習（中間言語分析）について	オンデマンド
第9回	言語教育法・実習（中間言語分析）についての考察	
第10回	コミュニケーション能力（受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力、異文化調整能力）について	オンデマンド
第11回	コミュニケーション能力（受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力、異文化調整能力）についての考察	
第12回	これまでの学修内容のまとめ	オンデマンド
第13回	期末テスト／解説	

事前・事後学修	・基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。 ・毎回の対面授業時に前回の授業内容に関する小テストを行う（授業内容を必ず復習ノートにまとめておくこと）。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題（授業内容の理解／自分の意見・考え）…40％ 小テスト（授業内容の理解／自分の意見・考え）…20％ 期末テスト（授業内容の理解／自分の意見・考え）…40％
テキスト	特に使用しない。資料を適宜配布する。
参考文献	村杉恵子（2014）『ことばとところ－入門　心理言語学』みみずく舎 大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

備考	言語全般または日本語に興味がある方の受講を歓迎します。

年度	2025
講義名称	学科フィールドワークⅠ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	現代文化学科で学んだことを、自らのものとして活用できるようにすることを目的とする。
到達目標	・現代文化学科で学んださまざまな概念、視角、分析方法を、自らのものとして活用し、その成果を自分の言葉で他者に伝えることができる ・他者が用いた概念、視角、分析方法、ならびにその成果を理解し、よりよい成果を得るためにどうしたらよいか自ら考え、それを自分の言葉で他者に伝えることができる
授業の進め方	受講生は全員が、①まず日常生活の中でこれまでに学んだ概念、視角、分析方法を実践する。②授業では、その成果を報告し、議論し、さらに深める。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎週の成果報告に対しては、授業内で口頭でフィードバックする ・最終成果物に対しては、WebClassなどでフィードバックする

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション ・週の活動について
第2回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第3回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第4回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第5回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第6回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第7回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第8回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について

第9回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第10回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第11回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第12回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第13回	・今学期のまとめ

事前・事後学修	・日常生活の中でこれまでに学んだ概念、視角、分析方法を実践するのに、週当たり2時間程度 ・その成果を他者にわかるようにまとめるのに、週当たり1時間程度 ・それまでの実践の成果および考察したものを最終成果物にまとめ上げるのに、13時間程度（一週当たり1時間程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・毎週の成果報告52％ ・最終成果物48％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	受講生の関心に即し非常に多岐にわたるため、必要に応じて、適宜紹介する

年度	2025
講義名称	学科フィールドワークⅡ
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 横川 大輔	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	現代文化学科で学んだことを、自らのものとして活用できるようにすることを目的とする。
到達目標	・現代文化学科で学んださまざまな概念、視角、分析方法を、自らのものとして活用し、その成果を自分の言葉で他者に伝えることができる ・他者が用いた概念、視角、分析方法、ならびにその成果を理解し、よりよい成果を得るためにどうしたらよいか自ら考え、それを自分の言葉で他者に伝えることができる
授業の進め方	受講生は全員が、①まず日常生活の中でこれまでに学んだ概念、視角、分析方法を実践する。②授業では、その成果を報告し、議論し、さらに深める。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎週の成果報告に対しては、授業内で口頭でフィードバックする ・最終成果物に対しては、WebClassなどでフィードバックする

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション ・今週の活動について
第2回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第3回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第4回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第5回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第6回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第7回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第8回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について

第9回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第10回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第11回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第12回	・今週の活動報告 ・質疑応答 ・翌週の活動について
第13回	・今学期のまとめ

事前・事後学修	・日常生活の中でこれまでに学んだ概念、視角、分析方法を実践するのに、週当たり2時間程度 ・その成果を他者にわかるようにまとめるのに、週当たり1時間程度 ・それまでの実践の成果および考察したものを最終成果物にまとめ上げるのに、13時間程度（一週当たり1時間程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・毎週の成果報告52％ ・最終成果物48％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	受講生の関心に即し非常に多岐にわたるため、必要に応じて、適宜紹介する

年度	2025
講義名称	多文化交流Ⅰ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の 目的と 概要	この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立てるための知識とスキルを身に着けることを目指す。
到達目 標	・世界と日本の違いについて説明できる。 ・国際社会における文化、政策、言語との関係や社会文化の背景にある慣習を理解できる。 ・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。 ・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に着ける。
授業の 進め方	講義と演習を組み合わせでおこなう。 毎回の授業で受講生同士の交流をおこなう。 また、海外の大学とZoomを用いた交流を行う予定である。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に出された質問へは適宜回答する。 また、毎回の授業後に出された意見、質問へは、次の回の冒頭で原則すべて回答する。 質問は、大学生がもつ最大の権利である。存分にその権利を活用し、積極的に質問することを望む。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：多文化・異文化交流とは
第2回	言語概略
第3回	少数言語
第4回	やさしい日本語
第5回	国民性とはなにか
第6回	国民性とステレオタイプ
第7回	アジアの諸文化
第8回	交流会に向けて①
第9回	交流会に向けて②
第10回	交流会に向けて③
第11回	交流会
第12回	交流会を振り返る
第13回	まとめと最終課題

事前・事後学修	提示された次回の内容について各自調べておく。 授業の内容は整理し、不明な点、曖昧な点が出てきた場合は次の回で質問する。メールやmanaba等での質問も随時受け付ける。 予習・復習それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題：40% 発表：30% 最終レポート：30%
テキスト	指定しない
参考文献	原沢伊都夫、2013、『異文化理解入門』研究社（978-4-327-37734-2） 山本志都他、2022、『異文化コミュニケーション・トレーニング』三修社（978-4-384-06052-2） そのほか、授業内で適宜紹介する。

年度	2025
講義名称	多文化交流Ⅱ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の 目的と 概要	この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立てるための知識とスキルを身に着けることを目指す。「多文化交流Ⅰ」を基礎として、地域社会における、より実際的な課題やテーマを扱う。
到達目 標	・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。 ・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に着ける。 ・地域の魅力や課題を発見し、言語・非言語コミュニケーションの手法を用いて表現できる。
授業の 進め方	講義と演習を組み合わせでおこなう。 毎回の講義で受講者同士の交流をおこなう。 また、海外の大学とZoomを用いた交流を行う予定である。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に出された質問へは適宜回答する。 また、毎回の授業後に出された意見、質問へは、次の回の冒頭で原則すべて回答する。 質問は、大学生がもつ最大の権利である。存分にその権利を活用し、積極的に質問することを望む。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	それぞれの異文化経験
第3回	愛国心と郷土愛、ナショナリズム
第4回	暴走する愛国心
第5回	広がる日本文化と日本のアジア文化
第6回	非言語コミュニケーション
第7回	伝統遊び
第8回	交流授業準備①
第9回	交流授業準備②
第10回	交流授業準備③
第11回	交流授業
第12回	交流授業を振り返る
第13回	まとめと最終課題

	提示された次回の内容について各自調べておく。	2025/04/01

事前・事後学修	授業の内容は整理し、不明な点、曖昧な点が出てきた場合は次の回で質問する。メールやWebclass等での質問も随時受け付ける。 予習・復習それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題：40% 発表：30% 最終レポート：30%
テキスト	指定しない
参考文献	原沢伊都夫、2013、『異文化理解入門』研究社（978-4-327-37734-2） 山本志都他、2022、『異文化コミュニケーション・トレーニング』三修社（978-4-384-06052-2） そのほか、授業内で適宜紹介する。

年度	2025
講義名称	[冬集]観光ガイド
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	現代文化学科
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光地域において観光資源を見つけ出し、その魅力を引き出し、分かりやすく解説する活動が盛んとなっている。特に自然資源においてはインタープリテーションと呼ばれ、ガイド技術は世界的にも日々発展している。それらを概観すると同時に、ガイド事業を創業し経営してきた実務家教員が事業化のノウハウを教授し、将来観光関係の様々な活動に活かすことを目的とする。
到達目標	・地域や施設などの魅力を効果的に来訪者に伝えることができるよう、観光ガイドとしての基本的なスキルを身につける。 ・観光ガイドプログラム導入の際の準備や関係機関との交渉の概要を知る。
授業の進め方	様々な観光産業の成り立ちを理解している前提で、さらに観光ガイド事業を地域等に定着させるにはどうすれば良いのかを探究し、実際に観光イベントなどにおいてツアーを実施する。小グループで数回を担当し、改善点などをフィードバックしながらPDCAサイクルを回し観光ガイド事業運営を体験する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小グループによるワークショップにて観光資源の発掘から活用、そして管理に至るまでのプランニングを行う。実際に客を案内するツアーを行いアンケートなどを通して、新たな課題等を抽出・解決の検討を進める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	観光とガイド事業
第3回	観光まちづくりとガイド事業
第4回	観光資源の保護保全とガイド事業
第5回	観光ガイドプログラムの開発（1）資源の掘り起こし
第6回	観光ガイドプログラムの開発（2）ストーリー・シナリオの作成
第7回	観光ガイドプログラムの開発（3）実装に向けての準備
第8回	観光ガイドプログラムの提供実習（1）ガイドツアーの実施
第9回	観光ガイドプログラムの提供実習（2）ガイドツアーの実施
第10回	観光ガイドプログラムの点検・効果の測定（1）アンケートの回収・集計・分析
第11回	観光ガイドプログラムの点検・効果の測定（2）アンケートの回収・集計・分析
第12回	プログラムの記録・継続に向けての資料作成
第13回	観光イベントでのガイド実施

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	札幌市内の街歩きツアーの開発を行い実施をする。5月、8月に行われる観光イベントにガイドとして参加すること。講義の時間内だけでは完結しないので、リハーサルやアンケート回収を受けてのプログラム修正などは随時対応すること。 【必要な時間】 事前・事後、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題 20% 実習 60% レポート 20%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2～3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	介護等体験[教職]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13501P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
池森 康裕	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、介護等体験への必要な考え方や知識を身に付け、高齢者や障がい者福祉施設及び、特別支援学校での介護や介助、交流などの体験実習を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、人の痛みのわかる教員の育成に資することである。
到達目標	教師を目指すものとして、高齢者や障がいのある人々への理解を深め、差別や偏見のない社会づくりに貢献することができる。
授業の進め方	DVD等の映像教材から、福祉施設での生活を理解するとともに、生活支援技術演習を通して、高齢者や障がいのある人との関わりを理解する。更に体験学習等で学んだことについて「グループワーク」「プレゼンテーション」等を通して理解を深めるなど演習中心の授業を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、レポート返却時にコメントを付けて行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・体験先希望調査
第2回	介護体験の意義（映像）を理解する
第3回	デイサービスの理解（映像）とレクリエーションの意義と方法
第4回	高齢者の心身機能の特徴（高齢者疑似体験）を理解する
第5回	安全な車いすの操作方法を理解し実施できる
第6回	視覚障がい者のガイドヘルプを理解し実施できる
第7回	身体障がい者の衣服の着脱介護を理解し実施できる
第8回	体験実習のための事前指導
第9回	高齢者・障がい者福祉施設での体験実習（5日間）
第10回	特別支援学校の概要を理解する
第11回	特別支援学校での体験実習（2日間）
第12回	体験実習の学びを報告し課題を共有する。（体験報告会）
第13回	全体のまとめ、体験実習レポートの提出

事前・事後学修	事前学修:事前に配布した資料を読んで参加すること。毎回の授業の冒頭で前時の振り返りを行うので、重要事項等を調べておくこと。 事後学修:報告書や実習日誌のまとめ、礼状の作成などを通して、実習を振り返るとともに、常日頃から、自分たちが暮らす地域には、どのような福祉施設等があるのか調べておくよう心掛けること。 事前学修の時間は、2時間半を目安とします。事後学修の時間は、2時間半を目安とします。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 終了レポート ： 4 0 % ② 記録ノート ： 3 0 % ③ 報告会の振り返りシート： 3 0 % 以上を総合して評価する。 ※報告会ができない場合、介護等体験先への礼状等を評価対象とする。
テキスト	関連資料を適宜配布する。
参考文献	『介護等体験マニュアルノートー社会福祉施設』（東京都社会福祉協議会：改訂版）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、介護等体験の現場において実務経験を積んだ教員が、介護・福祉の基本的な仕組みや支援の実践的な知識を活かし、介護現場での役割や対応を深く理解できるように構成されています。実際の介護や教育現場で求められる実務スキルや倫理観を、体験を通して学ぶことで、教育職者としての視点を養う講義を実施します。
備考	①受講者は教職課程を履修している学生に限る。 ②中学校の免許状を取得する場合は必修である。 ③実習時期により、講義内容の入れ替えがある。

年度	2025
講義名称	保健体育科指導法Ⅳ[教職]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13405L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、 学習指導要領に示された各領域の目標及び内容ならびに学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目では、模擬授業の実践と教育評価を中心とした内容を取り扱う。
到達目標	①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。 ②保健体育科の基本的な学習指導理論を理解し、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
授業の進め方	本科目は、講義形式を中心に展開する。 但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、模擬授業の実践準備①：学習指導計画の立案	対面授業（講義形式）
第2回	模擬授業の実践準備②：マイクロティーチングの実践	対面授業（演習形式）
第3回	「A 体づくり運動」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第4回	「B 器械運動」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第5回	「B 器械運動」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第6回	「D 水泳」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第7回	「E 球技」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第8回	「F 武道」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第9回	「G ダンス」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第10回	「H 体育理論」の模擬授業ならびに教育評価の実践	対面授業（演習形式）
第11回	保健体育科の教育評価①：学習評価の具体的方法	対面授業（講義形式）
第12回	保健体育科の教育評価②：授業評価の具体的方法	対面授業（講義形式）
第13回	「保健体育科指導法Ⅳ」のまとめ	対面授業（講義形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事前学習では，学習指導要領を熟読し，学習指導計画を作成できるよう理解を深めること． 事後学習では，教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること．
	【必要な時間】 各回の予習・復習には，およそ150分程度を要することが想定される．

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	40%：リフレクション 毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。 30%：模擬授業の学習指導計画 模擬授業担当領域における学習指導計画（単元計画・時間計画）の立案を課し，その完成度を評価する。 30%：模擬授業の実践 模擬授業の達成度について，目標・内容・評価の一貫性や教材研究の観点から総合的に評価する。
テキスト	文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房。 岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店
参考文献	岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践，みらい。 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド，明治図書出版。 その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目は，高等学校の保健体育科教員として実務経験を有する教員が担当し，実際の保健体育科の授業場面を想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。
備考	本科目は，「中学校教諭第1種免許状（保健体育）」の取得に関する必修科目である。 本科目は，教職課程を履修している学生のみ受講を認める。 本科目の履修は，原則として「保健体育科指導法Ⅰ」「保健体育科指導法Ⅱ」および「保健体育科指導法Ⅲ」が履修済であることを条件付ける。 但し，クォーター制導入による開講期の変更に対応するため，2023年度入学生に限り「保健体育科指導法Ⅰ」および「保健体育科指導法Ⅱ」の履修経験が無くとも本科目の履修を認める。

年度	2025
講義名称	保健体育科指導法Ⅲ[教職]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13404L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された各領域の目標及び内容ならびに学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目では、各領域の学習指導実践とマイクロティーチングを中心とした内容を取り扱う。
到達目標	①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。 ②保健体育科の基本的な学習指導理論を理解し、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
授業の進め方	本科目は、講義形式を中心に展開する。但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ	対面授業（講義形式）
第2回	「A 体づくり運動」「B 器械運動」における学習指導計画の立案・授業実践および教育評価	対面授業（演習形式）
第3回	「C 陸上競技」「D 水泳」における学習指導計画の立案・授業実践および教育評価	対面授業（演習形式）
第4回	「E 球技」「F 武道」における学習指導計画の立案・授業実践および教育評価	対面授業（演習形式）
第5回	「G ダンス」「H 体育理論」における学習指導計画の立案・授業実践および教育評価	対面授業（演習形式）
第6回	マイクロティーチングの実践に向けた学習指導計画の立案①	対面授業（演習形式）
第7回	マイクロティーチングの実践に向けた学習指導計画の立案②	対面授業（演習形式）
第8回	マイクロティーチングの実践に向けた学習指導計画の立案③	対面授業（演習形式）
第9回	「A 体づくり運動」「B 器械運動」のマイクロティーチング	対面授業（演習形式）
第10回	「C 陸上競技」「D 水泳」のマイクロティーチング	対面授業（演習形式）
第11回	「E 球技」「F 武道」のマイクロティーチング	対面授業（演習形式）
第12回	「G ダンス」「H 体育理論」のマイクロティーチング	対面授業（演習形式）
第13回	「保健体育科指導法Ⅲ」のまとめ	対面授業（講義形式）

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	事前学習では，学習指導要領を熟読し，学習指導計画を作成できるよう理解を深めること。 事後学習では，教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること。 【必要な時間】 各回の予習・復習には，それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	40%：リフレクション 毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。 30%：マイクロティーチングの学習指導計画 マイクロティーチング担当領域における学習指導計画（単元計画・時間計画）の立案を課し，その完成度を評価する。 30%：マイクロティーチングの実践 マイクロティーチングの達成度について，目標・内容・評価の一貫性や教材研究の観点から総合的に評価する。
テキスト	文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房。 岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店。
参考文献	岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践，みらい。 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド，明治図書出版。 その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目は，高等学校の保健体育科教員として実務経験を有する教員が担当し，実際の保健体育科の授業場面を想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。
備考	本科目は，「中学校教諭第1種免許状（保健体育）」の取得に関する必修科目である。 本科目は，教職課程を履修している学生のみ受講を認める。 本科目の履修は，原則として「保健体育科指導法Ⅰ」および「保健体育科指導法Ⅱ」が履修済であることを条件付ける。 但し，クォーター制導入による開講期の変更に対応するため，2023年度入学生に限り「保健体育科指導法Ⅰ」および「保健体育科指導法Ⅱ」の履修経験が無くとも本科目の履修を認める。

年度	2025
講義名称	教育実習Ⅱ〔教職〕
講義開講時期	通年
必選区分	自由
学年	4年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13403P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	教育実習は、高い専門性と責任感を要請されている教員になるための最も重要な教育実践であり、実習生が大学で学んだ知識や理論、技術を実践の場で具体的に展開させる、非常に大切な場である。 実際の授業や生徒指導の中に理論や知識を結びつけて生き生きとした教育を展開できる力を養うとともに、教師としての適格性や人間性について洞察を深める。
到達目標	① 児童・生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ② 実習校の経営方針や特色ある活動や実施するための組織体制について理解する。 ③ 学習指導要領及び児童生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 ④ 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。
授業の進め方	実習校での実習です。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習校の指示に従うこと。

事前・事後学修	教育実習日誌や教育実習の手引、その他配布資料を事前にしっかりと読んでおくこと。 事前・事後学修としては、教師を目指す学生として、教育にかかわる新聞報道やニュースなどに注視し、深く考える姿勢を身に付けること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 実習校の評価： 4 0 % ② 実習報告書・実習日誌： 3 0 % ③ 実習報告会等の成果： 3 0 %
テキスト	① 教育実習日誌 （学術図書出版社） ② 教育実習の手引（学術図書出版社） 2025/04/01

参考文献	各実習校における教科書などについては、事前に実習校と連絡を取り、教育実習開始前までに用意しておくこと。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	高校教諭としての学校現場の経験を通じて、学級経営、教科指導、生徒指導等の理論と実践を統一させた実践的指導力を積み重ねてきました。 高校の教育実習指導教員の視点から実習生が心がけるべきことを伝えていきます。
備考	教職課程履修者全員が履修すること。

年度	2025
講義名称	保健体育科指導法Ⅱ[教職]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13403L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された各領域の目標及び内容ならびに学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目では、保健体育科の学習指導理論ならびに保健（分野）に関する内容を扱う。
到達目標	①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。 ②保健体育科の基礎的な学習指導理論を理解し、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
授業の進め方	本科目は、講義形式を中心に展開する。 但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ	対面授業（講義形式）
第2回	保健（分野）の目標と内容の取り扱い	対面授業（講義形式）
第3回	保健体育科の教育課程論：カリキュラムの構成と育てる力への接近法	対面授業（講義形式）
第4回	保健（分野）におけるマイクロティーチングⅠ：冒頭解説①	対面授業（演習形式）
第5回	保健（分野）におけるマイクロティーチングⅠ：冒頭解説②	対面授業（演習形式）
第6回	保健（分野）におけるマイクロティーチングⅠ：冒頭解説③	対面授業（演習形式）
第7回	保健体育科の教材・教具論	対面授業（講義形式）
第8回	保健体育科の学習形態論	対面授業（講義形式）
第9回	保健科の教育評価論：学習評価と授業評価	対面授業（講義形式）
第10回	保健（分野）におけるマイクロティーチングⅡ：要点解説①	対面授業（演習形式）
第11回	保健（分野）におけるマイクロティーチングⅡ：要点解説②	対面授業（演習形式）
第12回	保健（分野）におけるマイクロティーチングⅡ：要点解説③	対面授業（演習形式）
第13回	教場試験と「保健体育科指導法Ⅱ」のまとめ	対面授業（講義形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習では，学習指導要領を熟読し，学習指導計画を作成できるよう理解を深めること。 事後学習では，教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること。 【必要な時間】 各回の予習・復習には，それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	30％：リフレクション 毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。 30％：学習指導計画の立案とマイクロティーチングの実践 各領域に対応した学習指導計画の立案ならびにマイクロティーチングを実践する。 計画・実践した内容について，目的・方法（教材）に一貫性が伴っているかを評価する。 40％：教場試験 履修生の到達度を確認するために教場試験を実施する。
テキスト	衛藤隆ほか編（2022）現代高等保健体育，大修館書店。 文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房。
参考文献	日本保健科教育学会編（2017）保健科教育法入門，大修館書店。 その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目は，高等学校の保健体育科教員として実務経験を有する教員が担当し，実際の保健体育科の授業場面を想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。
備考	本科目は，「中学校教諭第1種免許状（保健体育）」ならびに「高等学校教諭第1種免許状（保健体育）」の取得に関する必修科目である。 本科目は，教職課程を履修している学生のみ受講を認める。 本科目の履修は，原則として「保健体育科指導法Ⅰ」が履修済であることを条件付ける。

年度	2025
講義名称	保健体育科指導法Ⅰ[教職2年]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13402L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、 学習指導要領に示された各領域の目標及び内容ならびに学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目では、保健体育科の学習指導計画の立案ならびに体育（分野）に関する内容を扱う。
到達目標	①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。 ②保健体育科の基礎的な学習指導理論を理解し、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
授業の進め方	本科目は、講義形式を中心に展開する。 但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ	対面授業（講義形式）
第2回	保健体育科の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第3回	保健体育科の指導計画と評価	対面授業（講義形式）
第4回	学習指導計画（年間指導計画・単元計画・時間計画）の立案	対面授業（講義形式）
第5回	「A 体づくり運動」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第6回	「B 器械運動」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第7回	「C 陸上競技」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第8回	「D 水泳」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第9回	「E 球技」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第10回	「F 武道」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第11回	「G ダンス」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第12回	「H 体育理論」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第13回	教場試験と「保健体育科指導法Ⅰ」のまとめ	対面授業（講義形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事前学習では，学習指導要領を熟読し，学習指導計画を作成できるよう理解を深めること。
	事後学習では，教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること。
	【必要な時間】
	各回の予習・復習には，それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	30%：リフレクション 毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。 30%：学習指導計画の立案 最終課題として，学習指導計画（年間計画・単元計画・時間計画）の立案を課し，その完成度を評価する。 40%：教場試験 履修生の到達度を確認するために教場試験を実施する。
テキスト	文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房。 岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店。
参考文献	岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践，みらい。 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド，明治図書出版。 その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目は，高等学校の保健体育科教員として実務経験を有する教員が担当し，実際の保健体育科の授業場面を想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。
備考	本科目は，「中学校教諭第1種免許状（保健体育）」ならびに「高等学校教諭第1種免許状（保健体育）」の取得に関する必修科目である。 本科目は，教職課程を履修している学生のみ受講を認める。

年度	2025
講義名称	保健体育科指導法Ⅰ[教職3年]
講義開講時期	春学期
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13402L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、 学習指導要領に示された各領域の目標及び内容ならびに学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目では、保健体育科の学習指導計画の立案ならびに体育（分野）に関する内容を扱う。
到達目標	①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。 ②保健体育科の基礎的な学習指導理論を理解し、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
授業の進め方	本科目は、講義形式を中心に展開する。 但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ	対面授業（講義形式）
第2回	保健体育科の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第3回	保健体育科の指導計画と評価	対面授業（講義形式）
第4回	学習指導計画（年間指導計画・単元計画・時間計画）の立案	対面授業（講義形式）
第5回	「A 体づくり運動」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第6回	「B 器械運動」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第7回	「C 陸上競技」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第8回	「D 水泳」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第9回	「E 球技」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第10回	「F 武道」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第11回	「G ダンス」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第12回	「H 体育理論」の目標及び内容	対面授業（講義形式）
第13回	教場試験と「保健体育科指導法Ⅰ」のまとめ	対面授業（講義形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事前学習では，学習指導要領を熟読し，学習指導計画を作成できるよう理解を深めること。
	事後学習では，教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること。
	【必要な時間】
	各回の予習・復習には，それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	30%：リフレクション 毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。 30%：学習指導計画の立案 最終課題として，学習指導計画（年間計画・単元計画・時間計画）の立案を課し，その完成度を評価する。 40%：教場試験 履修生の到達度を確認するために教場試験を実施する。
テキスト	文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房。 岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版），大修館書店。
参考文献	岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践，みらい。 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド，明治図書出版。 その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目は，高等学校の保健体育科教員として実務経験を有する教員が担当し，実際の保健体育科の授業場面を想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。
備考	本科目は，「中学校教諭第1種免許状（保健体育）」ならびに「高等学校教諭第1種免許状（保健体育）」の取得に関する必修科目である。 本科目は，教職課程を履修している学生のみ受講を認める。

年度	2025
講義名称	教職実践演習（中・高）[教職]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目の目的は、教職課程科目やそれ以外の科目など様々な活動を通して、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものである。いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる本科目の意義を理解し、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚するとともに、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことによって、教員として最小限必要な資質能力の定着を図る。
到達目標	① 教育に対する使命感や情熱を持ち、子どもたちから学び、共に成長しようとする姿勢をもって指導に当たることができる。 ② 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本を身に付けることができる。 ③ 気軽に子どもたちと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができる。 ④ 自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを生かした学習指導案を作成することができる。
授業の進め方	授業は、グループワークや、定時制高等学校での体験活動やフィールドワーク等を通して、教科に関する科目及び教職に関する科目で学んだ知見を総合的に結集する形で展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内での解説やグループワークなどの時間に適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス、教職実践演習の意義
第2回	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項（グループ討議）
第3回	社会性や対人関係能力に関する事項（役割演技、グループ討議）
第4回	生徒理解や学級経営等に関する事項（外部講師による講義・演習、校務分掌）
第5回	教科内容等の指導力に関する事項（ICTを用いた模擬授業・グループ討議）
第6回	生徒指導について（外部講師による講義・演習、課外活動指導）
第7回	学校体験活動（社会人としての基本）
第8回	学校体験活動（児童・生徒指導の実践）
第9回	学校体験活動（教科指導に関する実践）
第10回	学校体験活動（現職教員との意見交換等）

第11回	学校体験活動報告会（発表、グループ討議）
第12回	学校体験活動報告会（発表、グループ討議）
第13回	「教職履修カルテ」に基づく学習履歴の確認

事前・事後学修	事前学修 2 時間半程度 事後学修 2 時間半程度

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 振り返りシート・レポート課題 ：20% ② 学校体験活動報告会（発表＋原稿） ：30% ③ 学校体験活動日誌・提出物（礼状等） ：30% ④ 教職履修カルテ・アンケート評価 ：20%
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：総則編，東山書房。 文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：総則編，東洋館出版社。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校教諭としての学校現場の経験を通じて、学級経営、教科指導、生徒指導等の理論と実践を統一させた実践的指導力を積み重ねてきました。自己課題に応じた改善策をアドバイスしていきます。
備考	教職課程履修者全員が履修すること。 大学4年間の教職課程の集大成であるため、最後に教職履修カルテを提出する。

年度	2025
講義名称	教育実習Ⅰ〔教職〕
講義開講時期	通年
必選区分	自由
学年	4年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13302P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	教育実習は、高い専門性と責任感を要請されている教員になるための最も重要な教育実践であり、実習生が大学で学んだ知識や理論、技術を実践の場で具体的に展開させる、非常に大切な場である。 実際の授業や生徒指導の中に理論や知識を結びつけて生き生きとした教育を展開できる力を養うとともに、教師としての適格性や人間性について洞察を深める。
到達目標	①児童・生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ②実習校の経営方針や特色ある活動を実施するための組織体制について理解する。 ③学習指導要領及び児童生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 ④学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。
授業の進め方	実習校での実習です。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習校の指導に従うこと。

事前・事後学修	教育実習日誌や教育実習の手引、その他配布資料を事前にしっかりと読んでおくこと。 事前・事後学修としては、教師を目指す学生として、教育にかかわる新聞報道やニュースなどに注視し、深く考える姿勢を身に付けること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 実習校の評価： 4 0 % ② 実習報告書・実習日誌： 3 0 % ③ 実習報告会等の成果： 3 0 %
テキスト	① 教育実習日誌 （学術図書出版社） ② 教育実習の手引（学術図書出版社） 2025/04/01

参考文献	各実習校における教科書などについては、事前に実習校と連絡を取り、教育実習開始前までに用意しておくこと。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	高校教諭としての学校現場の経験を通じて、学級経営、教科指導、生徒指導等の理論と実践を統一させた実践的指導力を積み重ねてきました。 高校の教育実習指導教員の視点から実習生が心がけるべきことを伝えていきます。
備考	中学校教諭一種免許状の「保健体育」の取得希望者は、必ず履修すること。

年度	2025
講義名称	教育実習(事前事後指導)[教職]
講義開講時期	通年
必選区分	自由
学年	4年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13301P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践にかかわることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会である。 本講義の目的は、実践的指導力を有する指導教員のもとで、体験を積み、学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践のための基礎的基本的な能力と態度を身に付けることである。
到達目標	① 教育実習生として遵守する義務等について理解する。 ② 責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 ③ 教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までに更に習得することが必要な知識や技能等を理解する。
授業の進め方	講義はグループワークやプレゼンテーション、ディベートなど能動的な学習活動を取り入れた授業を展開する。 教育実習の事前準備として、社会人としての基礎力や学習指導案の作成など基本的な事項等について理解する。 教育実習後は 実習報告書をまとめ発表し合い、教師という職業について、お互いに理解を深めつつ、教員としての適性等について理解する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、報告会では学生の相互評価を基に話し合うことを通してフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	教育実習の意義及び内容
第2回	教育実習の準備と心得
第3回	教育実習日誌の書き方、学習指導案の作成
第4回	教育実習における研究授業（教科指導の技術と方法）
第5回	教育実習報告会 1
第6回	教育実習報告会 2
第7回	教育実習報告会 3 教育実習のまとめ 教職カルテの作成

事前・事後学修	事前学修として、関係教科の「学習指導要領」はもちろん、「教育実習の手引」を通読しておくこと。教育実習校について十分に調べるとともに、事前打ち合わせを行うこと。 事後学修として、報告書の作成を通して、生徒指導や教育相談等、部活動指導の在り方等についても理解を深めること。終了後は、礼状を提出する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 実習校の評価： 30％ ② 実習報告書・実習日誌：30％ ③ 実習報告会の成果： 40％
テキスト	① 教育実習日誌（学術図書出版社） ② 教育実習の手引（学術図書出版社）
参考文献	学習指導要領、生徒指導提要など（文部科学省）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	高校教諭としての学校現場の経験を通じて、学級経営、教科指導、生徒指導等の理論と実践を統一させた実践的指導力を積み重ねてきました。 高校の教育実習指導教員の視点から実習生が心がけるべきことを伝えていきます。
備考	教職課程履修者全員が履修すること。 教育実習校との事前事後の連携をしっかりと取ること。

年度	2025
講義名称	ICTを活用した教育[教職①/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13207L

担当教員

氏名	所属
◎ 朝倉 一民	大学・センター等
安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	情報通信技術の活用の意義を理解するとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導及び校務について理解し、その基礎的な指導法に関する技術を身に付ける。
到達目標	【到達目標】 ①情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ③児童生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、実践で効果的に活用できる (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 授業計画を立て、仲間も生徒に見立て、模擬授業を実践することができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 教育現場におけるICT活用の課題や、解決方法を考える。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） 指導案検討などのディスカッションで互いの意見を肯定的に受け入れたり、協働して教材を作成したりすることができる。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 学習指導要領、教科書理解、教材研究、授業づくり等のプロセスで一つの授業を構築することができる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） 教職員になったときに自分自身がどのように生徒に教えることができるかを想像し、責任感をもつ。
授業の進め方	【講義方法】 教室で講義を展開するとともに、個人のノートPCや電子黒板等によって演習を行う。毎回、PCは持参してください。 適宜グループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、授業で解説や紹介をすることでフィードバックを行います。 模擬授業については仲間同士の相互評価、指導者からフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①情報通信技術の活用の意義と理論 本講義についての学び方のガイダンスと情報通信技術にはどのようなものがあり、教育にどのような影響を与えているかを学びます。 提出1) ふりかえりレポートの提出1	対面授業・講義 2025/04/01

第2回	②情報活用能力の育成/情報モラル教育 教育現場ではどのような方法で情報活用能力を育成しているかを具体的事例をもとに学びます。 提出1) ふりかえりレポートの提出2	対面授業・講義・演習
第3回	③教育データを活用した評価/校務の情報化とICT環境の整備 教育現場では教育データを活用し、どのように評価しているか、また効率的な校務・授業を推進するためにどのようなICT環境が整備されているかを学びます。 提出1) ふりかえりレポートの提出3	対面授業・講義・演習
第4回	④ICTを活用した特別支援教育/遠隔・オンライン教育 特別支援教育でのICT活用の意義や遠隔・オンライン授業の具体的な事例を学びます。 提出1) 授業内課題1 (Googleサイトでのコンテンツ作成) 提出2) ふりかえりレポートの提出4	対面授業・講義・演習
第5回	⑤ICTを活用した教材開発と指導法 教育現場ではどのようにICTを活用した授業を行ってるかを分析し、生徒のどのような力を育成しているかを分析します。その上で中学校「保健」の授業計画を構築します。 提出1) 授業内課題2 (学習指導案) 提出2) ふりかえりレポートの提出5	対面授業・講義・演習
第6回	⑥ICTを活用した教材開発と指導法 計画した中学校「保健」学習指導案をもとに、プレゼンテーションスライドやwebコンテンツを作成し、効果的に授業を運営する方法を学びます。 提出1) 授業内課題3 (プレゼンテーションコンテンツ) 提出2) ふりかえりレポートの提出6	対面授業・講義・演習
第7回	⑦模擬授業と授業評価 構築した中学校「保健」授業の模擬授業を行います。互いに相互評価を行います。 提出1) 授業内課題4(模擬授業自己評価・相互評価シート) 提出2) ふりかえりレポートの提出7	対面授業・模擬授業

事前・事後学習	【事前学習】 2 時間程度 事前に次回の授業内容の部分について、LMSに資料を提示するので、事前学習をしてもらいます。（用語調べ、自身の学生時代の想起、アイディア創出、教材研究等） 【事後学習】 2 時間程度 講義時間で取り組んだ課題の点検、講義の内容の復習、授業内課題の修正をします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	下記のABCをもとに総合的に評価を行う A（35％）レポート課題（5点×7回＝35点）※出席が条件 B（40％）授業内課題（10点×4回＝40点） C（25％）ICTを活用した模擬授業（25点）※模擬授業は単位取得必須条件
テキスト	授業中に適宜資料を配付します。
参考文献	『教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)』2020(文部科学省) www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html 教職課程 情報通信技術を活用した教育の理論および方法 著者：西野和典、鹿野利春、佐藤万寿美、高橋参吉、高橋朋子、西端律子 （実教出版）2023.3.10 苦手でもできる！ICT&AI超入門～個別最適な授業づくりから仕事術まで～ 著者：朝倉一民 （明治図書）2024.6.21

備考	※1 単位（6.5 回）の授業のため、2回の欠席で落単となります。十分に留意してください。 ※毎時間 PC を持参すること ※Google系のアプリを使用するので、自身の大学メールのアカウントでGoogleアカウントが登録されているか確認してください。 ※最後の回の模擬授業は単位認定のため必修です。

年度	2025
講義名称	ICTを活用した教育[教職②/2]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13207L

担当教員

氏名	所属
◎ 朝倉 一民	大学・センター等
安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	情報通信技術の活用の意義を理解するとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導及び校務について理解し、その基礎的な指導法に関する技術を身に付ける。
到達目標	【到達目標】 ①情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ③児童生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、実践で効果的に活用できる (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 授業計画を立て、仲間も生徒に見立て、模擬授業を実践することができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 教育現場におけるICT活用の課題や、解決方法を考える。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） 指導案検討などのディスカッションで互いの意見を肯定的に受け入れたり、協働して教材を作成したりすることができる。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） 学習指導要領、教科書理解、教材研究、授業づくり等のプロセスで一つの授業を構築することができる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） 教職員になったときに自分自身がどのように生徒に教えることができるかを想像し、責任感をもつ。
授業の進め方	【講義方法】 教室で講義を展開するとともに、個人のノートPCや電子黒板等によって演習を行う。毎回、PCは持参してください。 適宜グループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、授業で解説や紹介をすることでフィードバックを行います。 模擬授業については仲間同士の相互評価、指導者からフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①情報通信技術の活用の意義と理論 本講義についての学び方のガイダンスと情報通信技術にはどのようなものがあり、教育にどのような影響を与えているかを学びます。 提出1) ふりかえりレポートの提出1	対面授業・講義 2025/04/01

第2回	②情報活用能力の育成/情報モラル教育 教育現場ではどのような方法で情報活用能力を育成しているかを具体的事例をもとに学びます。 提出1) ふりかえりレポートの提出2	対面授業・講義・演習
第3回	③教育データを活用した評価/校務の情報化とICT環境の整備 教育現場では教育データを活用し、どのように評価しているか、また効率的な校務・授業を推進するためにどのようなICT環境が整備されているかを学びます。 提出1) ふりかえりレポートの提出3	対面授業・講義・演習
第4回	④ICTを活用した特別支援教育/遠隔・オンライン教育 特別支援教育でのICT活用の意義や遠隔・オンライン授業の具体的な事例を学びます。 提出1) 授業内課題1（Googleサイトでのコンテンツ作成） 提出2) ふりかえりレポートの提出4	対面授業・講義・演習
第5回	⑤ICTを活用した教材開発と指導法 教育現場ではどのようにICTを活用した授業を行ってるかを分析し、生徒のどのような力を育成しているかを分析します。その上で中学校「保健」の授業計画を構築します。 提出1) 授業内課題2（学習指導案） 提出2) ふりかえりレポートの提出5	対面授業・講義・演習
第6回	⑥ICTを活用した教材開発と指導法 計画した中学校「保健」学習指導案をもとに、プレゼンテーションスライドやwebコンテンツを作成し、効果的に授業を運営する方法を学びます。 提出1) 授業内課題3（プレゼンテーションコンテンツ） 提出2) ふりかえりレポートの提出6	対面授業・講義・演習
第7回	⑦模擬授業と授業評価 構築した中学校「保健」授業の模擬授業を行います。互いに相互評価を行います。 提出1) 授業内課題4(模擬授業自己評価・相互評価シート) 提出2) ふりかえりレポートの提出7	対面授業・模擬授業

事前・事後学修	"下記のABCをもとに総合的に評価を行う A（35％）レポート課題（5点×7回＝35点）※出席が条件 B（40％）授業内課題（10点×4回＝40点） C（25％）ICTを活用した模擬授業（25点）※模擬授業は単位取得必須条件"

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	下記のABCをもとに総合的に評価を行う A（35％）レポート課題（5点×7回＝35点）※出席が条件 B（40％）授業内課題（10点×4回＝40点） C（25％）ICTを活用した模擬授業（25点）※模擬授業は単位取得必須条件
テキスト	授業中に適宜資料を配付します。
参考文献	『教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)』2020(文部科学省) www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html 教職課程 情報通信技術を活用した教育の理論および方法 著者：西野和典、鹿野利春、佐藤万寿美、高橋参吉、高橋朋子、西端律子 （実教出版）2023.3.10 苦手でもできる！ICT&AI超入門～個別最適な授業づくりから仕事術まで～ 著者：朝倉一民 （明治図書）2024.6.21

備考	※1単位（6.5回）の授業のため、2回の欠席で落単となります。十分に留意してください。 ※毎時間PCを持参すること ※Google系のアプリを使用するので、自身の大学メールのアカウントでGoogleアカウントが登録されているか確認してください。 ※最後の回の模擬授業は単位認定のため必修です。	2025/04/01

年度	2025
講義名称	教育相談(カウンセリングを含む)[教職]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13206L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 榎本 光邦	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	教育相談は、幼児・児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。幼児・児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けていきます。
到達目標	幼児・児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を説明できる。
授業の進め方	講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討・分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。 講義内で出題したレポート3本については締め切り後の講義内でフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／学校教育と教育相談
第2回	教育現場の実態／教育相談の理論
第3回	C.R.ロジャースの生涯と仕事(1) ～ロジャースの理論について
第4回	C.R.ロジャースの生涯と仕事(2) ～カウンセリング演習
第5回	教育相談の技法／学級経営に活かす教育相談
第6回	学校や園で使えるアセスメント
第7回	保護者の理解と支援
第8回	校内・園内および関係機関との連携
第9回	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用
第10回	発達障害の理解と支援(1) ～AD/HD, SLDについて
第11回	発達障害の理解と支援(2) ～自閉スペクトラム症について
第12回	精神障害の理解と支援
第13回	学級で使える心理ワーク演習

事前・事後学修	シラバスに提示されている次回講義の内容について教科書や配布資料を読み、大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートにまとめておいてください。また、日ごろから学校教育に関するニュースに興味を持つようにしてください。 <事後学修> 講義内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。 <必要な時間> 事前・事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の受講時に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（5点×13回＝65点）と、講義内で出題するレポート課題（（10点×2本）＋（15点×1本）＝35点）の合計点で評価する。
テキスト	【改訂版】教師のたまごのための教育相談 会沢信彦・安齊順子 北樹出版
参考文献	生徒指導提要 文部科学省

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、保育園・幼稚園・認定こども園における巡回相談、公立小学校や公立教育相談室における教育相談や特別支援教育（障がい児教育）や大学の学生相談室における学生相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、多様な子どもや保護者、教職員への教育相談の進め方について心理学の理念と方法を取り入れ、具体的に講義します。
備考	本講義は座席を指定します。 講義中の私語，許可された場合以外のスマートフォン・携帯電話・パソコン等の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。

年度	2025
講義名称	[+ 冬集中]生徒指導・進路指導[教職]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	3単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13205L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 武井 昭也	大学・人文学部・国際教養学科

授業の目的と概要	生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 進路指導は、児童生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。 それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。
到達目標	教育課程における生徒指導・キャリア教育の位置づけを理解できる。 生徒指導・キャリア教育・進路指導の基礎的な考え方を理解できる。 生徒指導上の課題について定義と課題、対応についての理解できる。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。
授業の進め方	各自の分担による資料作成と発表、意見交換、課題等の発表を繰り返し、理解を深める展開を繰り返す。映像資料や図書館文献・資料・インターネットからの情報を加味する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自のレポート、課題提出、発表内容を確認し補足する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業展開の確認・発表分担・いじめや不登校、体罰などの話題提示・教育課程上の位置づけ
第2回	事例発表と対応についての意見交換
第3回	生徒指導体制と教育指導体制の基礎的な考え方（学級担任、教科担任と校務分掌上の担当役割） 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義
第4回	基礎的な生活習慣の確立、規範意識の醸成・児童生徒の自己理解と共感性を育むこと
第5回	生徒指導上の課題とその現状・対応、基本視座、子ども理解と生徒指導
第6回	いじめとは何かー歴史と現状・対応・関係機関との連携
第7回	キャリア教育など話題提示・教育課程上の進路指導・キャリア教育の位置づけ
第8回	キャリア教育の歴史と基礎理論ーパーソンズ・ホランド・マズロー・スーパー、日本の推移
第9回	⑩進路指導・キャリア教育の諸活動ー生徒理解と自己理解、インターンシップ

2025/04/01

第10回	キャリア・カウンセリングの理論・技法とその活用－目的・特徴・留意点
第11回	発表分担、発表準備
第12回	発表 1.いじめてなに 2.虐待とサポート 3.貧困と社会支援
第13回	発表 4.児童相談所の機能 5.発達障がいと向き合い方 6.愛着って何
第14回	発表 7.自己肯定感ってなに 8.非認知的能力ってなに 9.校則との向き合い方
第15回	発表 10.部活動の意義と未来 11.業種と職種 12.就業形態
第16回	発表 13.仕事ってなんだ 14.人生でかかるお金はどれくらい 15.多様性ってなに
第17回	発表 16.コミュニケーションの方法 17.ストレスへの対処法 18.日本の年金制度－君はいつからいくら貰えるか
第18回	発表 19.日本の税金 20.日本の医療福祉 21.一次産業の魅力
第19回	発表 22.教育という仕事の魅力 23.日本の伝統工芸の職場
第20回	まとめ

事前・事後学修	図書館文献・資料・インターネットを活用しての課題整理とレジュメ作成・発表準備。 生徒指導とキャリア教育に関する新聞記事チェック・収集。レポート作成。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題提出①②③④⑤⑥ 40% 授業内容まとめレポート 30% 発表と意見交換 30%
テキスト	高等学校学習指導要領、同解説・中学校学習指導要領、同解説 資料は授業で提示する。
参考文献	重松清『青い鳥』新潮文庫) 森田洋司『いじめとは何か』（中公新書） 林竹二『問い続けて』（径書房） 清水将之『思春期のこころ』（NHKブックス）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、高校教員として担任業務や教育相談、生徒指導をはじめ、教務や部活動の顧問として生徒たちを幅広く支援してきました。また、指導主事として教育行政に携わり、初任者研修や研修講座の企画・運営を行い、教職員の育成にも貢献しました。これらの経験を基に、教育現場での実践的な知識と技術を学べる講義を展開します。
	中学生・高校生に説明する想定でわかりやすい資料を作成し発表 引用出典を明示 テーマは以下から一つ選択（5分程度） 1.いじめてなに 2.虐待とサポート

備考	3.貧困と社会支援
	4.児童相談所の機能
	5.発達障がいと向き合い方
	6.愛着って何
	7.自己肯定感ってなに
	8.非認知的能力ってなに
	9.校則との向き合い方
	10.部活動の意義と未来
	11.業種と職種
	12.就業形態
	13.仕事ってなんだ
	14.人生でかかるお金はどれくらい
	15.多様性ってなに
	16.コミュニケーションの方法
	17.ストレスへの対処法
	18.日本の年金制度ー君はいつからいくら貰えるか
	19.日本の税金
	20.日本の医療福祉
	21.一次産業の魅力
	22.教育という仕事の魅力
	23.日本の伝統工芸の職場

年度	2025
講義名称	教育方法論[教職]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13204L

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術等に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
到達目標	1) 教育方法の基礎的な理論と実践とを理解している 2) 「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するのかを理解している 3) 授業を構成する基礎的な要件を理解している 4) 学習評価の基礎的な考えを理解している 5) 発問、板書等の基礎的な指導技術を身につけている 6) 学習目標、内容、教材、教具、授業展開、学習形態、評価規準などの視点を含めた学習指導案を作成することができる。
授業の進め方	講義方式を原則とする。毎授業後にふり返り課題・小テストを課す。各授業の中に、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で説明し、小テスト等については次回授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	これからの子どもたちに育みたい資質・能力	対面授業
第3回	教師に求められる授業力とは	対面授業
第4回	授業をつくるということ・評価をデザインする	対面授業
第5回	学習環境をデザインする・授業企画書の発表	対面授業
第6回	授業を支える指導技術	対面授業
第7回	学びを引き出す指導技術	対面授業
第8回	学習指導案をつくる①（学習目標の設定・深い学びを導く教材研究）	対面授業
第9回	学習指導案をつくる②（主体的・対話的な学習過程）	対面授業
第10回	学習指導案をつくる③（学びが見える評価方法）	対面授業
第11回	これからの学習環境とテクノロジーの役割	対面授業
第12回	学習指導案の目標・単元計画の討議	対面授業
第13回	授業のまとめ・試験	対面授業

	【具体的な内容】 日頃から文献・ニュース・新聞などを読み、教育を中心とした社会の動向に関する情報を入手するよう心がけること。	2025/04/01

事前・事後学修	授業プリントを熟読すること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 毎授業後のふり返し課題・小テストなど20％ ② 中間レポート30％ ③ 試験50％ ①～③を目安として、総合的に判断して評価する。
テキスト	なし（授業で配布する）
参考文献	稲垣忠編著『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房、2019年 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年告示）

年度	2025
講義名称	特別活動[教職]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13203L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	これからの時代に必要とされる資質・能力の育成や学校教育の課題への対応に向けて、望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養おうとする特別活動が果たすべき役割を理解するとともに、その具体的な指導についても実践的に学びます。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)専門知識・技能を活用する力 特別活動に関する知識や、学校現場で実際に活用できる力を身に付ける (DP2)コミュニケーション能力 模擬授業の良さや課題について対話を通して学ぶことで、建設的で創造的なコミュニケーションができるようになる。 (DP3)課題を発見し、解決する力 模擬授業をしあいながら、改善に向けた問題発見・解決能力を養う。 (DP4)多様性の理解と協働する力 学級内で尊重されるべきで「多様性」について理解し、共生社会の実現に向けて協働できる力を育成する。 (DP5)能動的に学び続ける力 児童生徒のために授業改善をすること、そのために学び続けることの大切さを実感する。 (DP6)社会に貢献する姿勢 よりよい社会の担い手を育てる特別の実践について考えることを通して、自らの在り方みつめる。
到達目標	（１）特別活動の意味、目標及び内容を理解する。 - 学習指導要領における特別活動の目標予備主な内容を理解している。 - 教育課程における特別活動の位置づけと各教科等との関連を理解している。 - 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。 - 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。 （２）特別活動の指導の在り方を理解する。 - 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。 - 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。 - 合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 - 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した、講義演習型の授業です。 また、オンデマンド授業も取り入れ、主体的に情報を収集したり考えを整理しながら学ぶことも取り入れていきます。 基本的な理論の理解だけではなく、グループワークやディスカッションなどを大切にしながら、担当者の実務経験を生かして、実際の学校現場で役立つ実践的な力がつくように授業を展開します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内にその都度、フィードバックをしていきます。 課題については、manabaを活用して課題の得点や改善点をフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容

第1回	①オリエンテーション (学習指導要領における特別活動の目標及び内容)
第2回	②我が国の学校教育を特徴付ける教育活動としての「特別活動」 (教育課程における特別活動と他教科との関連)
第3回	③特別活動の3つの区分 (児童会生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質)
第4回	④学級活動・ホームルーム活動の意義と実際 (合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導・集団活動の意義や指導の在り方)
第5回	⑤生徒会活動の意義と実際
第6回	⑥学校行事の意義の意義と実際・教育活動全体で取り組むカリキュラムマネジメント
第7回	⑦特別活動における取組の評価・改善活動の重要性
第8回	⑧特別活動における家庭地域住民や関係機関との連携の在り方
第9回	⑨学級活動の指導の実際(模擬授業体験)
第10回	⑩学級活動の指導の実際(模擬授業体験)
第11回	⑪学級活動の指導の実際(指導案作成)
第12回	⑫模擬授業発表会
第13回	⑬模擬授業発表会・まとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・テキストだけではなく、参考文献やインターネット上の資料などを見ながら、特別活動への理解を深めることを求めたい。 【必要な時間】 毎回の授業についての予習復習を各2時間程度を目安に主体的に取り組むことを求めたい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	受講生が授業に臨む態度を重視し、毎時間の授業内容に関する理解度確認レポートと課題作成を基に以下の割合で総合的に評価を行う。 A（59％）授業内レポート3点×13回＝39点・課題レポート10点×2回＝20点 B（20％）指導案作り20点×1回＝20点 C（21％）模擬授業21点×1回＝21点
テキスト	【参考文献】 ・学習指導要領解説 特別活動編
参考文献	・学級・学校文化を創る特別活動 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	小学校教諭として20年間の指導経験を生かして、模擬授業等の実践的な学びを中心に本科目を展開する。
備考	・テキストは全員購入すること。第2回目に間に合うようにすぐに注文をすること。 ・教職に関する科目であり、基本的にすべての回を出席することを前提として授業を進めます。 できるだけ休むことがないように留意してください。

年度	2025
講義名称	総合的な学習の時間[教職]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13202L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	総合的な学習（探求）の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指します。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けます。
到達目標	【一般目標】（１）総合的な学習の時間の意義と原理 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 【到達目標】 １）総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。 ２）学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。 【一般目標】（２）総合的な学習（探求）の時間の指導計画の作成 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 【到達目標】 １）各教科等との関連性を図りながら総合的な学習（探求）の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。 ２）主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。 【一般目標】（３）総合的な学習（探求）の時間の指導と評価 総合的な学習の時間（探求）の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。 【到達目標】 １）探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 ２）総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業の進め方	チーム学校のもと、グループ討議（担任業務の共通理解）を中心に行います。 基本は中学校、高等学校の教壇に立つ対面授業です。 また、この時間だけは「学生」ではなく「先生」との自覚の下、授業を進めます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	年間計画、指導案を作成し、授業を実践することができる資質を身につけるため、単に授業ができる（講義を受けるではない）だけでなく、チーム学校としての学年団としての組織力・協調性が求められます。 先生としての自覚を持つことが求められます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	科目の趣旨と履修ガイダンス 意義と原理…創設の経緯と要点（学習指導要領解説第1章）	対面授業
第2回	■中学校■ 意義と原理（学習指導要領解説第2.3章）…目標の構成・趣旨、各学校において定める目標・内容	対面授業

第3回	■中学校■ 指導計画の作成（学習指導要領解説第4章）…指導計画作成、内容の取扱い及び配慮事項	対面授業
第4回	年間行事計画の作成と基本的な考え方（学習指導要領解説第6章）	対面授業
第5回	年間指導計画の作成及び単元指導案の作成と基本的な考え方（学習指導要領解説第6章）	対面授業
第6回	評価、学習指導の考え方（学習指導要領解説第6章）	対面授業
第7回	■高等学校■ 意義と原理（学習指導要領解説第2.3章）…目標の構成・趣旨、各学校において定める目標・内容	対面授業
第8回	主体的で対話的な深い学び 授業実践の在り方 アクティブラーニングの指導事例	対面授業
第9回	総合的な学習・探求の時間 模擬授業準備 チーム学校としての組織づくりと授業計画・指導案作成	対面授業
第10回	総合的な学習・探求の時間 模擬授業①	対面授業
第11回	総合的な学習・探求の時間 模擬授業②	対面授業
第12回	総合的な学習・探求の時間 模擬授業 合評会 定期試験・履修総括	対面授業・試験

事前・事後学習	事前学習 学習指導要領解説を理解し、中学校、高等学校の教師として総合的な学習の時間の指導をどうすればよいか、読んでわかるよになる。 事後学習 授業終了後、小テストにより学習指導要領を身につける。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①試験、および小テスト…60％ ②年間計画提出、年間行事計画…20％ ③模擬授業指導案提出、口頭試問…20％
テキスト	中学校学習指導要領解説「中学校 総合的な学習の時間」 高等学校学習指導要領解説「高等学校 総合的な探求の時間の時間」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、20年以上にわたる高等学校での教員経験を通じて、生徒指導や教育プログラムの構築に深く携わってきました。この豊富な経験を基に、教育の現場で得た知識や実践を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	教育実習に行くとき皆さんは1日目から「〇〇先生」と呼ばれます。 ですから、この授業中は皆さんは「学生」ではなく、「先生」として考え、行動するよう自覚してください。

年度	2025
講義名称	道徳教育の理論と指導[教職]
講義開講時期	秋学期
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13201L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安井 政樹	大学・センター等

授業の目的と概要	道徳教育の意義や原理、歴史等をふまえて、学校における道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法について学修するとともに、道徳科の学習指導案の作成や道徳科の1時間の模擬授業を通して実践的な力を身に付ける科目です。
到達目標	【到達目標】 (1) 道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 2) 道徳教育の歴史や現代借家委における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 (2) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。 1) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 4) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 5) 道徳科の特質を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)専門知識・技能を活用する力 道徳教育に関する知識や、学校現場で実際に活用できる力を身に付ける。 (DP2)コミュニケーション能力 互いの良さや課題について対話を通して学ぶことで、建設的で創造的なコミュニケーションができるようになる。 (DP3)課題を発見し、解決する力 模擬授業をしあいながら、改善に向けた問題発見・解決能力を養う。 (DP4)多様性の理解と協働する力 道徳教育で大切な「多様性」について理解し、共生社会の実現に向けた協働する力を育成する。 (DP5)能動的に学び続ける力 児童生徒のために授業改善をすること、そのために学び続けることの大切さを実感する。 (DP6)社会に貢献する姿勢 よりよい社会の担い手を育てる道徳教育について考えることを通して、自らの在り方をみつめる。
授業の進め方	グループワークなどアクティブラーニングを取り入れた演習形式での授業です。 また、オンデマンド授業も取り入れ、主体的に情報を収集したり考えを整理しながら学ぶことも取り入れていきます。 道徳教育の意義などについてのディスカッションや指導者役と学習者に分かれて実施します。 担当者の小学校における実務経験をもとに、模擬授業などを通して、体験的な学びを重視した授業形態で展開していきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間の振り返りポートや指導案については、授業内で適宜コメントやmanabaを活用してフィードバックを行う。 ディスカッションや模擬授業については、授業内で適宜コメントでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・道徳教育への問い-道徳は教えられるか-（道徳の本質）	
第2回	社会と道徳的価値	
第3回	現代的課題と道徳教育	
第4回	日本における道徳教育の歴史	
第5回	諸外国の道徳教育・道徳教育と宗教	
第6回	子供の心の成長と道徳性の発達	
第7回	我が国における道徳教育の今	オンデマンド
第8回	道徳教育・道徳科の目標と内容（道徳教育全体計画と指導計画）	
第9回	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計（指導案作成）	
第10回	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計・道徳科の特質を生かした多様な指導法（指導案作成）	
第11回	道徳科授業の実際・指導と評価の一体化（模擬授業）	
第12回	道徳科授業の実際・指導と評価の一体化（模擬授業）	
第13回	道徳科授業の実例・指導と評価の一体化（模擬授業）、まとめ	

事前・事後学修	【具体的な内容】 テキストや資料を活用した予習復習、指導案作りや模擬授業準備などを行うこと。 【必要な時間】 毎回の授業について、主体的な予習復習を各2時間程度することを求める。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	下記のABCを合わせて総合的に評価をする。 A(59%)授業内レポート（毎時間）3点×13回＝39点・レポート課題20点 B(30%)学習指導案 15点×2＝30点 C(21%)模擬授業 21点×1＝21点
テキスト	・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 ・「道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び」（明治図書）
参考文献	・「道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び」（明治図書） ・放送大学テキスト「道徳教育論」 ・「特別の教科道徳 指導と評価支援システム」（東洋館出版社）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	小学校において、20年間の指導経験がある。道徳の教科書編集やNHKforschoolの道徳番組の監修などを務めている経験をいかし、実際の教育現場で役立つ力が身に付くような授業を展開する。
備考	・学習指導要領解説は全員購入すること、その他のテキストの購入については、オリエンテーションで説明をします。 ・教職に関する科目であり、どの回の内容も教師にとってとても大切な内容である。 ・基本的に毎回出席することを前提として授業を展開するため、できるだけ欠席を避けることが望ましい。 ・資料等をしっかりと理解するため、オンデマンド授業を適宜活用する。

年度	2025
講義名称	教育課程論[教職]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13106L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、各学校が編成する教育課程を、その意義や編成の方法などとあわせて理解するとともに、各学校の実情に沿って実施・評価・改善するカリキュラム・マネジメントの意義を理解することである。
到達目標	① 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解し、説明できる。 ② 教育課程編成の基本原理並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、説明できる。 ③ 教科・領域・学年横断するカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、説明できる。
授業の進め方	講義形式に加え、必要に応じて調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題を提出後、次の回の授業でそれらについて解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	学習指導要領の位置付けと教育課程
第3回	学習指導要領の変遷
第4回	育成すべき資質・能力、社会に開かれた教育課程
第5回	学習指導要領の趣旨・内容 1（総則等）
第6回	学習指導要領の趣旨・内容 2（各教科・科目等）
第7回	教育課程の編成
第8回	中学校における教育課程の編成の実際
第9回	高等学校における教育課程の編成の実際
第10回	カリキュラム・マネジメントと教育課程の実施・評価・改善のサイクル
第11回	年間指導計画やシラバスの作成と学習評価及びICTの活用
第12回	学校運営と教育課程
第13回	全体のまとめ
第14回	期末試験

事前・事後	事前学修：講義に必要な資料等がある場合は事前に配付する。テキストの関係部分と併せて事前に読んで授業に参加すること。常日頃からニュースや新聞などで、教育に関する情報を意識して把握すること。

学修	事後学修：講義の内容を振り返るだけでなく、1回目から前回までの講義と今回の講義の内容がどのように関連しあっているかを確認すること。 事前・事後学修にはそれぞれ2時間半を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 定期試験 50％ ② 振返りシート・小テスト 30％ ③ 課題等の提出物 20％
テキスト	① 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説【総則編】 平成29年7月 文部科学省 ② 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説【総則編】 平成30年7月 文部科学省
参考文献	適宜授業において紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で管理職や実務担当者として教育課程を編成・実施し、教育行政機関で教育課程編成・実施のための手引を作成した教員が、その実務経験を活かして、教育課程や関連する学校教育に関する事柄について、様々な視点から理解を深める講義を実施する。
備考	学習指導要領の改訂作業を含む国の教育行政の動向等によっては、教員免許状の取得に向けて必要となる最新情報を適宜授業の中で取り上げるので、授業計画には変更がありうる。

年度	2025
講義名称	特別支援教育[教職]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13105L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 愛下 啓恵	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	本講義では、障がい児教育の歴史を踏まえうえて、特別支援教育に関する制度の理念や仕組み、特別の支援を必要とする幼児・児童生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法を具体的に理解していきます。加えて、障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒がいることを理解し、全ての子どもが生活しやすい環境を考えることを目的とします。
到達目標	・特別支援教育の理念・歴史と現状を理解し、説明できる。 ・特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法を理解し、説明できる。 ・障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性に関心を持ち、自分の考えも含め説明できる。
授業の進め方	講義形式で進めますが、グループでグループワークやディスカッションも行い、発表をします。加えて、特別支援学校に勤務する教員による「特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応」の講義を聴講し、障がいの医学的診断はないが、特別な教育的ニーズを必要とする幼児・児童及び生徒の理解、支援方法・対応について学びます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは後日に授業内で解答・解説を行います。また授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（グループ分け含む） グループワークの説明 グループワーク（障がい児の発達特性と指導）①
第2回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）②
第3回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）発表①
第4回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）発表②
第5回	グループワーク（障がい児の発達特性と指導）発表③ まとめ①
第6回	障がい児の発達特性と指導 まとめ②
第7回	インクルーシブ教育システムの構築 ・特別支援教育の理念・歴史と現状
第8回	特別支援教育の推進と仕組み ・早期からの相談と就学先決定、保護者支援 ・個別的教育支援計画と個別の指導計画 ・合理的配慮

第9回	学校における取組① ・校内委員会と特別支援教育コーディネーター ・ユニバーサルデザイン ・交流及び共同学習・センター的機能
第10回	学校における取組② ・通級による指導・特別支援学級 特別支援学校の教育課程
第11回	グループワーク（自立活動の指導計画）
第12回	特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応
第13回	グループワーク発表（自立活動の指導計画） 授業のまとめ

事前・事後 学修	・事前、事後学習として、授業に対応しているテキストの該当箇所を熟読しましょう。また、特別支援教育に関係する書籍は数多く出版されています。自身 が読みやすい、わかりやすいと 感じるものに積極的に触れて欲しいと思います。その際わからない用語は調べ、理解しておいてください。日頃から特別支援教育や学校教育に関するニュー ースに興味・関心を持つように しましょう。 ・事前学習（予習）として、関連する科目で学んだことを整理しておきましょう。 ・事後学習（復習）は、授業内容を整理する、関連する書籍を読むなどし、理解や知識を深めるように心がけてください。 ・グループ発表の準備は授業内の時間でとまらない場合、授業外の時間を調整してまとめ発表の日までに完成してください。 本授業は2単位であるため、予習・復習の時間は、あわせて5時間程度とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と 方法	・特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法の理解・専門知識の習得をグループワーク、小テストやリアクションペーパーの 評価基準とする 70％ ・特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法の理解をもとに、授業計画の作成や発表をグループ ワークの評価基準とする 20％ ・障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性について、自分の考えも含め論述 できることをレポートの評価基準と する 10％
テキスト	特別支援教育のテキスト、小林倫代 編・著 藤井茂樹・廣瀬由美子・星祐子 著、Gakken
参考文献	適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と 授業内容	幼児の特別支援教育、幼児・児童の発達支援・療育、乳幼児発達相談の実務経験がある教員が、実践内の事例を含めながら講義を実施します。
備考	・講義中の私語、許可された場合以外のスマートフォン・携帯電話・PCなどの使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習など）はせず、授業に集中することを期待します。 ・授業中に発表や発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください。 ・講義内容を向上させる意味で、受講回数 の順序や内容を変更する場合があります。

年度	2025
講義名称	発達心理学[教職]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	自由
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13104L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	教職科目である発達心理学では、人が生涯を通して心と身体を成長・発達させ、変化していく過程を学びます。それは、胎児期・乳児期から高齢期にまで及びます。具体的には、胎児期から老年期までの各ライフステージにおける心の変化、言語、知能、感情、人格などの精神機能の発達、社会性や対人関係の発達、身体能力や感覚の発達などを学び、人が生涯にわたってどのように成長・発達していくのかを理解することが目的となります。教師は、生徒がどのように発達してきたのか、この先はどのように発達していくのかということを、生徒理解のために必要です。つまり、発達心理学を学ぶことで、生徒の成長・発達を理解し援助するために必要な心理学的視点を背景とした指導力が養成されます。
到達目標	①人間の一生を発達段階に沿って説明できる。 ②心理社会的危機について、具体例を用いて説明できる。 ③発達障害について正しい知識および認識を持つ。 ④自己概念を理解し、今後の目標を具体的に立てられる。
授業の進め方	講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	発達とは 発達の意味や発達心理学の意義について学びます。
第2回	発達の理論と発達心理学と仕事 発達の理論のピアジェについて学び、発達心理学の知識を仕事にどう生かすかを学びます。
第3回	胎児期・乳児期 胎児の発達や乳児期の発達について学びます。
第4回	愛着理論について 愛着の発達について学びます。
第5回	幼児期の発達 1歳から2歳くらいまでについて学びます。
第6回	感情の発達について 1歳半くらいからのイヤイヤ期や自我の発達、他者理解について学びます。
第7回	感情と社会性の発達 情動調整を身に付けると社会性が発達することを学びます。
第8回	児童期の発達 児童期の認知発達や記憶力について学びます。

第9回	動機づけと自尊心 中間レポート 動機づけの理論について学びます。また、心の柔軟性や友だち関係の中でどのようなことを学ぶのかなどについて学びます。
第10回	道徳性の発達といじめ、不登校について 道徳性はどのように発達するのか、また、いじめや不登校はなぜおこるのかを学びます。
第11回	青年期の発達 青年期の特徴について学びます。
第12回	成人期の発達 成人期の発達の特徴について学びます。
第13回	中年期・高齢期の発達とまとめのテスト 中年期の危機や高齢期の特徴について学びます。

事前・事後学修	事前・事後学修が必要です、内容としては、事前学修は、テキストの予習、事後については、講義の復習が必要となります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	中間レポート50%、まとめのテスト50%とします。
テキスト	よくわかる 完全カラー図解 発達心理学 ナツメ社

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	教育行財政[教職]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	自由
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13103L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	現代の公教育制度を管理・運営・改革する教育行政作用の具体例をとおして学ぶとともに、その実践主体としての学校について組織と経営の観点から学ぶことによって、教育行政的視点を修得する。
到達目標	①教育の営みについて、教育行政的視点が持てること。 ②教育行政と学校との関係を理解し、論点を見いだすことができること。 ③学校の今日的課題を理解し、論点を見だし、改善策を提案できること。
授業の進め方	講義形式に加え、必要に応じて調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて行う。また、復習及び事例調査のレポートを課し、教育行政的視点の運用方法を学ぶ。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート等の提出後、次の回の授業で必要に応じて解説したり、レポートの内容について学生に質問して理解度を確認したりする。

事前・事後学修	事前学修：講義に必要な資料等がある場合は事前に配付する。テキストの関係部分と併せて事前に読んで授業に参加すること。常日頃からニュースや新聞などで、教育に関する情報を意識して把握すること。 事後学修：講義の内容を振り返るだけでなく、これまで学んだ教職科目の内容と講義の内容がどのように関連しあっているかを確認し、理解を深めること。 事前・事後学修にはそれぞれ2時間半を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	レポート課題（3回） 1,2回目：30点 3回目：40点
テキスト	横井敏郎『教育行政学（第5版）』八千代出版、2024年 このほか、適宜プリントを配付する。
参考文献	青木栄一『教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房、2019年 坂野慎二・湯藤定宗『学校教育制度概論』【第三版】玉川大学出版部、2022年

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育行政機関で高等学校教育や高等学校の魅力化、地域における指導行政全般の実務経験のある教員が、それらの実務経験を活かして、教育行財政について理念に加えて具体的な例を取り上げ、学生にとってもより理解しやすいよう工夫した講義を実施する。

年度	2025
講義名称	教師論[教職]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13102L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では「教師とは何か、教職とは何か」について主体的に考え、知識を深め、教職に向けて進路意識を高めることを目的とする。 当科目に含む事項： ○教職の意義及び教員の役割 ○教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ○進路選択に資する各種の機会の提供等
到達目標	自らが受けてきた教育を下敷きに、教職に就くことへのモチベーションを高める知識を得ることができる。 教職の意義や教員の役割、職務内容を知り、教職への意識を高めることができる。
授業の進め方	グループごとにテキストを分担し、各グループの全員が分担箇所のテキストのレジュメを提出する。代表者の発表後、意見交換、補足説明をする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	テキストの発表に対して補足する。 レジュメ等に対してコメントする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	講義の概要、事前課題の提出、グループ編成、発表テキストのグループごとの分担決め
第2回	教員になるために
第3回	教員養成の歴史
第4回	教員的一天
第5回	児童生徒への対応
第6回	児童生徒への対応（生徒指導面）
第7回	児童虐待、貧困
第8回	いじめと不登校
第9回	校務分掌と教員組織、教員に求められる事務能力
第10回	学び続ける教師
第11回	教員の服務と法規上の留意点
第12回	チーム学校
第13回	「理想の教師を目指して」＜発表会＞

	①事前提出課題のタイトルは「私の目指す教師像」。教師の使命と、今後教職科目において学ぶべき課題、目指す教師像の3点について、800字以上2025/04/01作

事前・事後学修	成する。これを1回目の授業にて紙で提出するとともに、WebClassのレポートに提出する。なお、これらのタイトル、内容、字数、提出先、提出期日といった条件を満たさない場合は減点となる。 ②グループ内でテキストのレジュメ作成の分担について相談し、協力してレジュメを完成させ、提出し、発表に備えること。打合せはOutlookメールで連絡を取り合うこと。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①事前課題「私の目指す教師像」 20％ ②テキストのレジュメ及び発表 30％ ③途中で課す、教師・教職に関するレポート 20％ ④「理想の教師を目指して」のレポート 30％
テキスト	津田徹、広岡義之編著『教職論』ミネルヴァ書房（2021） その他プリントを適宜配付する。
参考文献	久保富三夫、砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房（2018） 佐久間亜紀、佐伯胖編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房（2019） 中田正浩編著『新しい視点から見た教職入門 第3版』大学教育出版（2023）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で教員として、また、教育研究所などの教育行政機関で教員研修担当者として実務経験のある教員が、それらの実務経験を生かして、多角的に教職についての理解を学生が深められるように授業を行う。
備考	教職に就くことを前提とした科目であることから、高い学生の自意識を尊重して授業を展開し、評価する。

年度	2025
講義名称	教育原理[教職]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	自由
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	教職課程に関する科目：LIC13101L

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	教育という営みについて、私たちが直面している子どもの発達課題や教育問題などを例に、現代の教育学はそれらにどのように対処しようとしているのかを概観する。現代に至るまでの西洋並びに日本の教育の歴史と思想・理念を振り返り、それらがどのように推移・蓄積されて今日に至っているのかを考察する。以上を踏まえて、現代的な教育の営みに対する歴史的・思想的アプローチの意義を理解する。
到達目標	本授業では、教育の基本的な考え方とは、また、教育の理念とはいかなるものか、それらは教育の歴史や思想においてどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのか、これらを理解することが全体目標である。具体的には、以下の事項の理解を学習の到達目標とする。 １）教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標、２）子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係、３）家族と社会による教育の歴史、４）近代教育制度の成立と展開、５）現代社会における教育課題への歴史的な視点、６）家庭や子どもに関わる教育の思想、７）学校や学習に関わる教育の思想、８）代表的な教育家の思想。
授業の進め方	講義方式を原則とする。毎授業後にふり返り課題・小テストを課す。各授業の中に、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で説明し、小テスト等については次回授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	教育の概念	対面授業
第2回	教育の本質と目的	対面授業
第3回	子ども理解と家庭・地域	対面授業
第4回	西洋の教育の歴史と思想Ⅰ	対面授業
第5回	西洋の教育の歴史と思想Ⅱ	対面授業
第6回	日本の教育の歴史Ⅰ	対面授業
第7回	日本の教育の歴史Ⅱ	対面授業
第8回	学校制度の多様化と学力観	対面授業
第9回	教育課程と学習指導要領	対面授業
第10回	教員養成の歴史と現在	対面授業
第11回	現代教育が抱える問題	対面授業
第12回	生涯教育から生涯学習へ	対面授業
第13回	授業のまとめ・試験	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 日頃から文献・ニュース・新聞などを読み、教育を中心とした社会の動向に関する情報を入手するよう心がけること。 授業プリントを熟読すること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 毎授業後のふり返し課題・小テストなど：15% ② 中間レポート25% ③ 最終試験60% ①～③を目安として、総合的に判断して評価する。
テキスト	なし（授業で配布する）
参考文献	佐藤環・菱田隆明『教育原理』建帛社、2019年 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年告示）

年度	2025
講義名称	卒業研究[観光][田中]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[観光][齋藤]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[観光][荒木]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[観光][池見]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 池見 真由	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[観光][河本]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	卒業研究[観光][呉]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[観光][藤崎]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[観光][横田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基つき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基つき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[観光][山田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	卒業研究[観光・秋入生][田中]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM08401T

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で研究・調査に取り組む。これらの成果を卒業論文としてまとめ、完成させることを目的とする。
到達目標	前半学期：論文の基本的作成手法を理解し、適切な方法論に則った研究・調査を行うことができる。 後半学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。
授業の進め方	担当指導教員のゼミナール方式で授業を進める。受講生各自が設定した研究テーマについて、論文作成作業の経過報告とディスカッションを中心に個別指導を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生が取り組む課題（研究計画書、先行研究レビュー、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、指導教員は適宜添削やコメント・アドバイスをすることでフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス： 1年間の論文執筆計画を立てる。
第2回	論文作成の基本的作法(1)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第3回	論文作成の基本的作法(2)： 執筆の心構え、論文の書き方、体裁、文章表現、内容構成について、その基本的作法を学ぶ。
第4回	研究テーマの検討(1)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第5回	研究テーマの検討(2)： 受講生自身の問題関心に基づき、学問的・社会的意義や調査実施の可能性などを考慮しながら、研究テーマを選定する。
第6回	研究計画の文章化(1)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第7回	研究計画の文章化(2)： 選定した研究テーマの背景と問題の所在、またその問題を明らかにする目的と方法について、研究計画書としてまとめる。
第8回	先行研究のレビューと情報収集(1)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第9回	先行研究のレビューと情報収集(2)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第10回	先行研究のレビューと情報収集(3)： 研究テーマに関連する文献・資料・データを基に既往研究のレビューと情報収集を行う。
第11回	調査の準備(1)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。
第12回	調査の準備(2)： 研究の目的に適った調査の方法（アンケート、インタビュー等）と対象、質問内容、実施スケジュール等について検討し、計画・立案する。

第13回	調査の実施： 準備した調査を遂行する。
第14回	論文アウトラインの作成(1)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第15回	論文アウトラインの作成(2)： 論文全体の内容構成とフレームワークを構想し、目次を作成する。
第16回	論文執筆作業(1)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第17回	論文執筆作業(2)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第18回	論文執筆作業(3)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第19回	論文執筆作業(4)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第20回	論文執筆作業(5)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第21回	論文執筆作業(6)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第22回	論文執筆作業(7)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第23回	論文執筆作業(8)： 目次の章立てに基づき執筆作業を進める。適正な文章表現や前後の文脈、論旨の一貫性に配慮しながら論文作成に取り組む。
第24回	論文執筆作業（草稿の完成）： 論文草稿を完成させ、指導教員に提出する。論文の内容に関するコメントや修正箇所についてのアドバイスを指導教員から受ける。
第25回	草稿の修正作業： 指導教員からのコメント・アドバイスを基に論文の修正作業を行う。
第26回	論文の完成・提出： 草稿の最終チェックを行い完成させ、卒業論文として提出する。

事前・事後学修	卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、事前・事後学修に多くの時間を割いて論文作成に努めること。事前・事後学修の時間はそれぞれ5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	卒業研究としての成果物（卒業論文）：100％
テキスト	各指導教員より指示します。
参考文献	各指導教員より指示します。

備考	授業計画は予定されている大まかな流れであり、実際の進め方は各指導教員の方針に従ってください。

年度	2025
講義名称	観光ガイドⅡ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07914S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	全国通訳案内士（通訳ガイド）は、語学関連資格における唯一の国家資格であり、「民間外交官」として草の根レベルでの国際親善・国際交流に寄与する仕事である。観光立国宣言以降、インバウンドの訪日外国人観光客が増加の一途をたどる中、日本の文化や伝統の伝え手である全国通訳案内士の需要は日ごとに増している。本授業では、全国通訳案内士の国家試験問題（主に２次試験問題）の過去問題・予想問題を利用しながら、ガイドスキルの基礎を磨くことを目的とする。流暢な英語の習得に重点を置くのではなく、簡潔な英語表現で正確に伝えるコミュニケーション能力を磨くこと、及び訪日外国人観光客相手のおもてなしスキルを磨くことに重点を置きたい。
到達目標	○簡潔な英語表現を用いて日本の事象（文化、歴史、景観など）の説明をすることができるようになる。 ○訪日外国人観光客に喜ばれるおもてなしスキルを身に付ける。 ○通訳ガイドに求められる危機管理能力の基礎を学ぶ。
授業の進め方	授業の前半では、日本の文化や伝統の説明をしながら、フラッシュカードや簡単なゲームを通じて各テーマの語彙や典型表現、文法事項を習得する。授業の後半では、２人で１組のペアとなって、片方が通訳ガイド役、もう片方が外国人観光客役として、具体的場面のロールプレイを演じてもらう。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本演習は、毎回の授業でペア毎に実施して貰うロールプレイを重視する。それぞれのロールプレイの良い点・改善点について、通訳ガイドとしての実務経験のある教員が、実践的な観点から具体的に評価する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：通訳ガイドって？伝わる英語って？
第2回	観光地プレゼン①（北海道）／道案内の方法、公共交通機関の乗り方の説明
第3回	観光地プレゼン②（全国）／悪天候の場合の対処法
第4回	食プレゼン①（伝統料理）／食事マナーの説明
第5回	食プレゼン②（B級グルメ）／食事場面での宗教的・文化的配慮
第6回	文化プレゼン①（伝統文化）／神社・寺のマナーの説明
第7回	文化プレゼン②（ポップカルチャー）／オタク文化・若者文化の説明
第8回	歴史プレゼン／お土産の相談
第9回	行事プレゼン／日本人の宗教観・国民性の説明
第10回	生活プレゼン／災害時の対処法
第11回	日本人の国民性プレゼン／温泉のマナーの説明
第12回	自己プレゼン／不測の事態（落とし物、病気等）の対処法
第13回	まとめ／最終試験

事前・事後学修	○事前学習：各テーマに関する基礎知識（日本語の知識で構わない）を調べてくる。 ○事後学習：授業内で配布するプリントの語彙や典型表現を定着させるために、1時間程度の復習を行うこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	○授業への姿勢（出席率、積極性、授業態度など）：70％ ※発言内容の正否は問わず、発言量が多い者ほど評価する。 ○最終試験：30％ ※最終試験は口頭試験と筆記試験（全て選択肢式を予定）から構成される。
テキスト	特になし。 適宜プリントを配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	通訳ガイドとしての実務経験のある教員が、実務目線での実践的な英語スキル、おもてなしスキルを教授する。

年度	2025
講義名称	[冬集]観光ガイドⅠ
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07913S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光地域において観光資源を見つけ出し、その魅力を引き出し、分かりやすく解説する活動が盛んとなっている。特に自然資源においてはインタープリテーションと呼ばれ、ガイド技術は世界的にも日々発展している。それらを概観すると同時に、ガイド事業を創業し経営してきた実務家教員が事業化のノウハウを教授し、将来観光関係の様々な活動に活かすことを目的とする。
到達目標	・地域や施設などの魅力を効果的に来訪者に伝えることができるよう、観光ガイドとしての基本的なスキルを身につける。 ・観光ガイドプログラム導入の際の準備や関係機関との交渉の概要を知る。
授業の進め方	様々な観光産業の成り立ちを理解している前提で、さらに観光ガイド事業を地域等に定着させるにはどうすれば良いのかを探究し、実際に観光イベントなどにおいてツアーを実施する。小グループで数回を担当し、改善点などをフィードバックしながらPDCAサイクルを回し観光ガイド事業運営を体験する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小グループによるワークショップにて観光資源の発掘から活用、そして管理に至るまでのプランニングを行う。実際に客を案内するツアーを行いアンケートなどを通して、新たな課題等を抽出・解決の検討を進める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	観光とガイド事業
第3回	観光まちづくりとガイド事業
第4回	観光資源の保護保全とガイド事業
第5回	観光ガイドプログラムの開発（１）資源の掘り起こし
第6回	観光ガイドプログラムの開発（２）ストーリー・シナリオの作成
第7回	観光ガイドプログラムの開発（３）実装に向けての準備
第8回	観光ガイドプログラムの提供実習（１）ガイドツアーの実施
第9回	観光ガイドプログラムの提供実習（２）ガイドツアーの実施
第10回	観光ガイドプログラムの点検・効果の測定（１）アンケートの回収・集計・分析
第11回	観光ガイドプログラムの点検・効果の測定（２）アンケートの回収・集計・分析
第12回	プログラムの記録・継続に向けての資料作成
第13回	観光イベントでのガイド実施

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	札幌市内の街歩きツアーの開発を行い実施をする。5月、8月に行われる観光イベントにガイドとして参加すること。講義の時間内だけでは完結しないので、リハーサルやアンケート回収を受けてのプログラム修正などは随時対応すること。 【必要な時間】 事前・事後、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題 20% 実習 60% レポート 20%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2～3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	北海道観光政策
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07912L

担当教員

氏名	所属
◎ 田村　こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	本講義では、北海道の観光振興に向け、どのような観点から政策を展開しているのか、関係者の連携のあり方や国や自治体の観光政策の動向などを理解した上で、北海道観光に関する政策の基礎的な知識を学修していきます。北海道観光の現状と課題から北海道観光の可能性と地域への効果について観光政策の観点から捉えることを目指します。
到達目 標	北海道の観光政策を国や自治体の観光政策と関連付けて理解し、北海道観光の現状と課題や北海道観光の可能性と地域への効果等、観光に関する政策の基礎的な知識を、自分の言葉で説明することができる。
授業の 進め方	【講義方法】 基本的には講義形式で行いますが、国や自治体の観光政策の資料を用いて、実践的な講義を行います。 新聞やインターネットなどを活用し、観光に関する最近の動向も勘案しながら、学生との討論を重視して講義を進めていきます。講義の中で、グループワークや観光政策を実践しているゲストスピーカーの招聘も予定しています。 ※以上の内容にて進める予定ですが、受講生の人数や進捗状況などにより適宜変更になる場合があります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対して、講義の中でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	北海道の現状と課題（1）
第3回	北海道の現状と課題(2)
第4回	北海道における観光政策の位置付け(1)
第5回	北海道における観光政策の位置付け(2)
第6回	北海道における観光政策の位置付け(3)
第7回	観光政策における国と地方の関係
第8回	北海道の観光政策の事例(1)
第9回	北海道の観光政策の事例(2)
第10回	北海道の観光政策の事例(3)
第11回	北海道の観光政策の見方(1)
第12回	北海道の観光政策の見方(2)
第13回	まとめ　総括

	【具体的な内容】 ・常日頃から国や自治体の観光の資料をはじめ、ニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。 2025/04/01

事前・事後学修	・講義ではしっかり傾聴してメモをとり、事後学習として講義の内容の理解に努める。 ・講義の課題や発表資料の作成及び準備等を行う。 【必要な時間】 毎回講義に出席した上で、講義内容に基づいて、事前学修と事後学修を行うことが必要となります。それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題レポート：40％ 講義への積極的な態度、ディスカッション・発表：30％ 最終課題：30％
テキスト	必要に応じて資料を配布します
参考文献	必要に応じて参考文献を紹介します

年度	2025
講義名称	インバウンド演習
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07911S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	インバウンドに関わるサプライヤーをフィールドワークで訪問し、それぞれの課題をグループワークで分析し課題解決を模索する授業となります。 旺盛なインバウンド需要のニーズを捉え、地域観光の魅力を向上し経済効果に資する着地型コンテンツの開発に触れることで、探求心を刺激し専門分野の絞り込みに寄与します。
到達目標	・インバウンドの用語や受入れまでの業務フローを理解する ・ビジネスパートナーと積極的にコミュニケーションが出来る ・旺盛なインバウンド需要のニーズを把握し、着地型コンテンツの新しいアイディアを出せる
授業の進め方	訪問先を事前学習により課題の洗い出し、現地フィールドワークでの調査、グループワークによる課題解決案の検討、仮説をプレゼンテーションによるアウトプットというサイクルで能動的な学修を目指します。 本演習は、インバウンド業務の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対して、授業内で講評しフィードバックします。

事前・事後学修	事前事後それぞれ2時間程度を目安とします Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・フィールドワーク参加姿勢：40%、 ・課題解決提案プレゼンテーション：30% ・事後レポート内容：30%、
テキスト	特に指定しません、適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社ITBで33年間勤務し、観光コンテンツの企画・開発において多くの実績を重ねてきました。国内外の観光地を対象にした魅力的な商品を創り出し、地域活性化にも貢献してきた経験を基に、観光業界の実務知識を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。 ※フィールドワークの実施は、授業日または（土）（日）、冬休みに実施します。 ※フィールドワークの交通費、入場料、など実費負担の場合があります。

年度	2025
講義名称	[夏集]観光まちづくり演習
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07910S

担当教員

氏名	所属
◎ 田村　こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、人口減少・高齢社会における地域社会の持続可能な地域づくりに向けて、観光まちづくりの観点から地域社会の歴史や文化などの活用や交流人口や関係人口の拡大などの実践的な取り組みから、地域の魅力向上についての展開を目指す。
到達目標	地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。 地域社会に関して関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。
授業の進め方	【講義方法】 文献調査だけではなく、フィールドワーク等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、各自が問題意識を持ちながら、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　ディスカッション　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対して、講義の中でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	地域社会の現状（1）
第2回	地域社会の現状（2）
第3回	持続可能な地域づくり（1）
第4回	持続可能な地域づくり（2）
第5回	地域の歴史や文化（1）
第6回	地域の歴史や文化（2）
第7回	交流人口と関係人口（1）
第8回	交流人口と関係人口（2）
第9回	観光まちづくり（1）
第10回	観光まちづくり（2）
第11回	実践的な観光まちづくり（1）
第12回	実践的な観光まちづくり（2）
第13回	発表・まとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・地域社会に関心を持ち、平日頃からニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。 ・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に努めること。 ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行う。

2025/04/01

	【必要な時間】 毎回講義に出席した上で、講義内容に基づいて、事前学修と事後学修を行うことが必要となります。それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業の参加度・積極性 40% グループワーク 20% 課題提出 40%
テキスト	【テキスト】 適宜資料を配布します 必要に応じてテキストや文献を紹介します
参考文献	【参考文献】 必要に応じて参考文献を紹介します

備考	状況に応じて、地域に出向いてフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとなる（交通費等は各自が実費負担）。 また、フィールドワークは土日等の可能性もあり、各自柔軟にスケジュールを調整のこと。

年度	2025
講義名称	オンライントラベル演習
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07806S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科
藤岡 誠	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	旅行・観光業界にとって、インターネットでのサービス販売やプロモーションは今や欠かせないものになっており、さらにその範囲は拡大しつつあります。 特に、OTA（オンライントラベルエージェント）の活用は欠かせないものになっております。 本講義では、実際にOTAを運用する旅行会社に現役で従事する講師が担当。宿泊や現地体験などのOTAでの販売方法や最新の現状を実体験を交えて紹介するとともに、実際にプランを作成するなど体験をしていただき、実際に旅行・観光業界で働く際に活かせる知識の習得を目指します。
到達目 標	本講義での演習や知識習得を通して、実際に現場でOTAを活用できるようになること、 OTAを例としたWEBマーケティングの知識を得る。
授業の 進め方	本講義では、OTA運営会社での勤務経験をもち、実際にOTAを運用する旅行会社に現役で従事する講師が担当。 OTAを運営する立場、OTAを活用する立場それぞれの視点を紹介しつつ、OTAをどのように使いこなせば良いか、そのポイントやコツなどを紹介。 講義形式での紹介とともに、プランの検討やディスカッションなどグループワークを実施いたします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対する フィードバックの方法	適時実施する授業内レポートを拝見させていただき、次回講義で振り返りを行うとともに、グループワークでの発表については参加する学生が意見を出し合うことで、正解を見つけたいと思います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業ガイダンス 藤岡
第2回	ユーザー目線でOTAを理解する（1） 藤岡
第3回	ユーザー目線でOTAを理解する（2） 藤岡
第4回	販売会社（サプライヤー）目線でOTAを理解する（1） 藤岡
第5回	販売会社（サプライヤー）目線でOTAを理解する（2） 藤崎
第6回	運営会社（プラットフォーマー）目線でOTAを理解する（1） 藤岡
第7回	運営会社（プラットフォーマー）目線でOTAを理解する（2） 藤岡
第8回	プラン入稿体験（1） 藤岡
第9回	プラン入稿体験（2） 藤岡
第10回	売れるプランを考える（1）グループワーク 藤岡
第11回	売れるプランを考える（2）グループワーク 藤岡
第12回	売れるプランを考える（3）発表・振り返り 藤岡・藤崎
第13回	売れるプランを考える（4）発表・振り返り 藤崎・藤崎

事前・事後学修	事前学習：各講義終了後に、次回の授業内容を紹介。授業内容について、事前に学習ください。目安：2時間 事後学習：各授業の課題となる授業レポートに取り組み、また授業内容について復習をしてください。目安：3時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	適時実施する授業内レポートを拝見させていただき、次回講義で振り返りを行うとともに、グループワークでの課題検討と発表の機会を設け、発表に対してフィードバックを実施いたします。 ・授業レポート 40% 授業態度・積極性 30% 期末レポート 30%
テキスト	適時レジュメ・資料を配布いたします。
参考文献	必要に応じて適時参考文献を紹介いたします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	* 講師（藤岡） 担当教員は、旅行会社で20年のキャリアを積み、団体営業やWEBマーケティング、旅行関連事業部門のマネージャーとして活躍してきました。その後、独立し、旅行・観光業のコンサルティングやDMO業務の支援に従事。これらの実務経験を基に、具体的な知識と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
備考	PCルームでの講義実施を予定いたします。

年度	2025
講義名称	[冬集]観光実践演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07805S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村　こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科
山田　芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	鶴雅グループと本学との共同事業として開講される授業である。本授業の目的は、実際の観光地で事業を展開している事業所に身を置きながら、観光に関わる実践的な知識と経験、態度を習得することにある。
到達目標	・観光に関する実践的な知識と経験、態度を習得する。 ・グループワーク集団生活を通じて、他者との協働(チームワーク)の必要性を理解し、以降も積極的に実践する意欲を養う。 ・自らの言葉でこれらを表現し、他者に伝えることができる。
授業の進め方	本授業は、実務経験のある教員による一部に講義と実習を織り交ぜた演習形式で行なわれる。また実際の観光地において現場を体感するアクティブラーニングである。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①本学での事前・事後学習 ②阿寒湖温泉および近隣地域での「観光人材養成講座」への参加 上記二部構成で行われ、それぞれ、鶴雅グループ担当者、教員からフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容

第1回	【事前学習：本学観光学部教員】 ・道東の地理と観光地、国立公園と阿寒湖温泉 ・鶴雅グループについて ・ビジネスマナー ・宿泊業における衛生管理の現状 ・調査研究に向けてのグループワーク 【「観光人材養成講座」：鶴雅グループ役員および特別招聘講師】 ・場所 阿寒湖畔および近隣地区 ・予定期間 2月中旬から3月上旬 ・履修者全員による合宿形式(他大学も参加予定)
	★予定されている内容 ①行政的視点からの北海道の観光の現状と課題 ②旅館マネジメント総論とその実践、営業戦略、おもてなし論 (旅館のおもてなし、航空会社の接遇、お客様対応実習) ④近隣観光地の連携の必要性 (まちづくりと旅館、阿寒の自然、近隣観光実習) ⑤アイヌ文化とその体験 ⑥上記の総決算としてのグループワークによる調査研究など。
	【事後学習：本学観光学部教員】 帰学後以降に、これまでの授業を振り返り、成果と反省を全体で報告する「まとめ」の授業を行う。 ※履修者は原則としてすべての日程に参加できなければならない。

事前・事後学修	【具体的な内容】 ○ビジネスマナーを身に付けるための授業を受講しておくことが望ましい。 ○これまで学んだ観光についての知識と態度を振り返っておくこと。 ○選考に向けて、以下のことを調べておくこと。 ・鶴雅グループについて(歴史・大西社長について) ・展開している事業の種類と規模など ・阿寒湖温泉と近隣諸地域について(釧路やオホーツク海沿岸の地理と観光地など)
	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	○大学側：50% ・事前・事後学習における授業内提出物・・・20% ・人材養成講座参加日誌・報告書など・・・30% ○観光人材養成養成講座における鶴雅グループ側の評価・・・50%
テキスト	オリジナル教材を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、多岐にわたる業界で豊富な実務経験を積み重ねており、それぞれの分野で専門的知識や技能を深めてきました。この経験を基に、実践的な知識と理論を融合させた学びを提供する講義を展開します。
	【履修条件について】 ①本学を代表するという自覚を持ち、その振る舞いが品行方正な者 ②二段階の選考(学内と鶴雅グループ役員面接)に合格した者

備考

注)4年生のみ：本授業を含まずに卒業要件を満たす見込みである者

- ・ 詳細については事前説明会にて案内するので、履修希望者は必ず参加すること。
(説明会不参加者は次のステージには進めません)
- ・ なお、本来は履修者負担となる「観光人材養成講座」費用については大半が、鶴雅グループの寄付により賄われる。

年度	2025
講義名称	添乗員実務論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07705L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
菊池 志保	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	『旅行サービス手配業務取扱管理者』資格取得に向けての講義となります。 海外の旅行会社からの依頼を受け、日本国内の旅行手配を行う為には、「旅行サービス手配業」の登録が必要となっています。これはホテルやバスなどの運送宿泊手配のみではなく、免税店やガイド手配も含まれます。旅行会社を創りたいけど資金が足りない、国家資格は難しくて取得できない、だけど日本でインバウンドビジネスを展開したいという留学生にもお勧めです。 『旅程管理主任者』資格もこの講義で取得が可能になりますので、「添乗演習＝旅程管理資格」のセカンドチャンスになります。
到達目標	・最終日程表に準じた旅程管理など、ツアーの添乗業務の基礎を学習するとともに、添乗中のアクシデントを想定し、実践的な課題解決力を養う。 ・『旅行サービス手配業務管理者』資格の取得 ・『旅程管理主任者』資格の取得（セカンドチャンス）
授業の進め方	『旅行サービス手配業務取扱管理者』資格取得用の教科書を用いての講義となります。 本講義は添乗の実務経験のある教員が、添乗業務の魅力や・やりがいを紹介し、皆さんの好奇心を刺激すると共に、資格取得に必要な旅行業法・約款など難しい法律用語もありますが、やさしい日本語で解説します。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	章末テスト等で皆さんの理解度を確認し、皆さんが『旅行サービス手配業務取扱管理者』資格に合格出来るようフィードバックしながら進めます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、添乗業務の魅力	対面授業
第2回	② 形態別の添乗業務、旅行サービス手配業とは	対面授業
第3回	③ 旅行業法	対面授業
第4回	④ 旅行業法	対面授業
第5回	⑤ 旅行業法	対面授業
第6回	⑥ 旅行業約款	対面授業
第7回	⑦ 旅行業約款	対面授業
第8回	⑧ 旅行業約款	対面授業
第9回	⑨ 国内旅行実務	対面授業
第10回	⑩ 国内旅行実務	対面授業
第11回	⑪ 国内旅行実務	対面授業
第12回	⑫ 添乗業務実務	対面授業

第13回	⑬ 修了テスト	対面授業

事前・事後学修	・事前事後、それぞれ2時間程度を目安とし、章末テストなど過去問題の反復学習 ・Webで観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	章末テスト：30%、修了テスト：40%、参加姿勢：30%
テキスト	履修には指定教科書の購入が必須です、購入方法は他の教科書と異なりますので追って案内します。 「旅行サービス手配業務取扱管理者研修教本」 2,000円（税込み）
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBでの勤務と添乗経験を通じて、観光業界における実務知識やツアー運営のスキルを磨いてきました。幅広い現場での経験を基に、観光業の理論と実践を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	・希望者は授業内の修了テスト合格で『旅行サービス手配業務取扱管理者』資格の取得が可能です。 ・資格認定料の学生負担は5,000円です。（大学からの補助後の金額です）

年度	2025
講義名称	旅行ビジネス実務
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07704L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 哲朗	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光の重要性が強く認識されている中で、観光サービス業の中での旅行業のビジネスの概要を把握し、海外旅行業務、国内旅行業務の基礎知識を習得することを目的とする。
到達目標	旅行業の基本業務についての理解を深め、旅行業に必要な基本的な知識の習得を目指す。
授業の進め方	旅行業界でに実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員による講義形式の授業。具体的事例を紹介し、併せて授業内課題で理解を深める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題、授業内試験について、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 旅行業とは	対面授業
第2回	旅行業の歴史(1)	対面授業
第3回	旅行業の歴史(2)	対面授業
第4回	旅行業の歴史(3)	対面授業
第5回	商品と旅行業務	対面授業
第6回	国内旅行業務の基礎知識(1)	対面授業
第7回	国内旅行業務の基礎知識(2)	対面授業
第8回	国内旅行業務の基礎知識(3)	対面授業
第9回	海外旅行業務の基礎知識(1)	対面授業
第10回	海外旅行業務の基礎知識(2)	対面授業
第11回	海外旅行業務の基礎知識(3)	対面授業
第12回	海外旅行業務の基礎知識(4)	対面授業
第13回	まとめおよび授業内最終試験	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・配布プリント等で予習・復習を行うこと。 ・旅行会社店舗訪問、パンフレット収集、OTAサイト比較などを日常的に行うこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	● 2025/04/01

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内試験50％、授業内課題50％
テキスト	授業回毎にプリントを配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、総合旅行業務取扱管理者の資格を取得し、旅行業界での長年の実務経験を通じて、企画、営業、運営など幅広い業務に携わってきました。これらの豊富な経験を基に、旅行業界の現場に根差した具体的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	ホテル商品企画
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07605L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	宿泊産業のうち、ホテルに関する基本的知識を学び、ホテルの現状を正しく理解する。 そして現在、実際に売れているホテルの人気商品を調査研究し、更に売れる商品の企画・立案が出来る事を目指す。
到達目標	1.ホテルに関する基本的知識とホテル業界の現状を説明できる。 2.売れる可能性の高いホテル商品を判断し、更に売れる商品として企画・立案できる。
授業の進め方	1.プリントや関連資料を利用し、ホテルの仕組みや現状について正しく理解する。 2.ホテル商品企画に精通したゲストスピーカーを招き、商品企画を行う際の基礎や着眼点等を学習する。 3.フィールドワークにより、実際に市内シティホテルを見学し、ホテルの理解を深める。 4.グループワークにより、売れているホテル商品を研究材料として取り上げ、更に売れる商品にするための企画・立案を行い、発表する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、授業内で解説、説明する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・ホテルのABC 1
第2回	・ホテルのABC 2 ・ホテル業界の現状と経営特性
第3回	・ホテルの実務に必要な基礎知識1
第4回	・ホテルの実務に必要な基礎知識2
第5回	・第 1 回小テスト ・宿泊部門について1
第6回	・宿泊部門について2 ・レストラン部門について1
第7回	・レストラン部門について2 ・宴会部門について1
第8回	・宴会部門について2 ・第 2 回小テスト
第9回	・ホテル商品企画担当者によるゲストスピーチ
第10回	・札幌市内ホテルでのフィールドワーク
第11回	・ホテル商品企画 立案1（グループワーク）

第12回	・ ホテル商品企画 立案2（グループワーク）
第13回	・ ホテル商品企画 発表 ・ まとめ

事前・事後学修	授業前は、書籍やインターネットなどを活用し、関連内容の情報収集を行う。 授業後は、配布されたプリント等で復習を行う。 また、日頃からホテルに対して興味を・関心を持ち、人気商品に関する情報収集を心掛ける。出来ればそのホテルに直接訪問し、「人気商品」を実際に見てくる事。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①小テスト40％ ②レポート30％ ③受講態度（グループワーク等の取り組み意欲、発表内容）30％
テキスト	適宜、資料等を提示・配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ホテル業界やブライダル業界において、営業や人材育成などの実務経験のある教員が担当します。 ホテルの仕組みや各部門ごとの機能について、わかりやすく解説します。 また、ホテルのヒット商品を企画・立案した経験もお話します。
備考	ホテル業界をはじめ宿泊産業に関心が高く、これらの業界に就職を検討している学生をお待ちしています。 フィールドワーク費用（ホテルでの昼食代金）として3,000円～4,000円前後が必要です。

年度	2025
講義名称	[夏集]ホテル演習
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07604S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	2年次春学期/夏季集中演習「ホテル演習（夏季休暇）」はホテルと観光、地域社会に果たす役割を学ぶ目的で各施設へ訪問、宿泊研究・視察研究・現地研修などを取り入れ、ホテルを「見て・利用して・五感で感じる」ホテルビジネスの魅力と昨今の旅行体系、インバウンド動向、交通など各業界への理解を深めていきます。これは観光産業の中で、ホテルが果たす役割、地域への貢献、雇用の受け皿を考える研究の一環となります、演習候補地は道内か道外で今年インパクトがある地域を基本にどちらかを選択します。事前学習では、地元北海道札幌と演習先の違いを様々な視点から研究しホテル業界が関連産業とどのように関わり、地域資源をいかに経営資源としてホテルビジネスに活用しているか、その地域におけるホテルの役割は何かを小グループでテーマを決め協力して調べ学修をします。大きな観光産業という傘のなかの宿泊産業を中心に組み立てをします、また将来ホテルへの就職意識の向上を図ることも目的としています。 演習は2泊3日もしくは3泊4日を予定しています。
到達目標	【到達目標】 ①ホテルビジネスへの理解を深める。 ②ホテル業、観光関連業界の理解を深める。 ③ホテル業をはじめ観光業界への就業意識を高める。 ④ホスピタリティマインドを醸成する ⑤地域再生手法の知識を深める
授業の進め方	①演習説明会 ②演習先の事前学習、③現地ホテルや観光施設などでの実地研修、④事後学習で構成します。 ②の事前学習ではグループで分担を決め訪問先に関するリサーチ→レジュメ作成→発表などを繰り返し、予備知識をつけるとともに、参加者全体での情報共有を図ります。③の実地研修での滞在中は、施設の利用、視察、研修を通してお客様が求めるニーズやホスピタリティのあり方、ホテルの社会貢献活動なども学修します。お客様を「おもてなし」する産業で求められる気配り心配りをホテルの日常を通して、ハードとソフトの両側面から研究をします。この演習は、ホテルの経営・運営・開発に豊富な実務経験を持つ教員が担当し、演習を通して広い視野に立って観察・研究できる貴重な機会となります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 事前研究課題については事前授業内で解説を行い、実地研修では現場で五感を生かした体験から学ぶことの大切さを解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①（2春/夏季集中） 演習説明会（ガイダンス）
第2回	②（2春/夏季集中） 北海道観光との違いを考察（グループディスカッション）
第3回	③（2春/夏季集中） 北海道のホテルとの違いを考察（グループディスカッション）
第4回	④（2春/夏季集中） 研修1日目の訪問先に関する事前学習

第5回	⑤（2春/夏季集中） 研修2日目の訪問先に関する事前学習
第6回	⑥（2春/夏季集中） 研修3日目の訪問先に関する事前学習
第7回	⑦（2春/夏季集中） 実地研修向けの資料作成
第8回	⑧（2春/夏季集中） 実地研修1日目（1）（施設見学、利用者としての体験） 実地研修1日目（2）（1日目：学修の振り返り）
第9回	⑨（2春/夏季集中） 実地研修2日目（1）（施設見学、利用者としての体験） 実地研修2日目（2）（2日目：学修の振り返り）
第10回	⑩（2春/夏季集中） 実地研修3日目（1）（施設見学、利用者としての体験） 実地研修3日目（2）（3日目：学修の振り返り）
第11回	⑪（2春/夏季集中） 事後学習（研修全体の振り返り） 演習レポートの作成
第12回	⑫（2春/夏季集中） 事後学習（研修全体の振り返り） 演習レポートの作成
第13回	⑬（2春/夏季集中） 事後学習 / 演習発表

事前・事後学修	【具体的な内容】 サービス業とはお客様に「心」を直にお届する仕事であり、気配り、目配り及び、気働きと思いやりが求められます。本演習参加に備え、ホテルで実践されるサービスやホスピタリティに関する書籍等を事前に読み込み、何が大切で、何が求められるかを心得えた上で、事前研究や視察に臨んでください。
	【必要な時間】 事前・事後でそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	2つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定をおこなう ・学びの姿勢・フィールドワーク・グループワークへの積極性：配分50%（50点） ・成果物完成度、プレゼン力：配分50%（50点）
テキスト	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・必要に応じ適宜お知らせします。
参考文献	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・必要に応じ適宜お知らせします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして長年豊富な実務経験を有しています。 北海道から沖縄まで都市ホテルやリゾートホテル、外資系ホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して現地研修を実施します。
備考	①実地研修費用は、自己負担（演習地域により費用は変わります）、一部大学からの補助があります。 ②演習期間は2泊3日もしくは3泊4日を予定しております。

③詳細スケジュールなどは別途お知らせします。

年度	2025
講義名称	キャビンアテンダント実務
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07504L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 栗林 由美子	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、キャビンアテンダントの実務や役割、求められるスキルについて体系的に学びます。エアライン業界で活躍するために必要な知識や技術を、さまざまな観点から習得するとともに、エアラインに限らず多くの業界や職種で求められる高い人間力を養います。
到達目標	到達目標 キャビンアテンダントに求められる重要な要素である対話力、ホスピタリティマインド、美しい所作、そして心身の健康に関する知識を理解し、それを実践できる能力を身につけます。さらに、自己効力感を高め、自分に自信を持って社会に臨むための力を養います。
授業の進め方	実務経験豊富な教員による講義を通じて、実際のキャビンアテンダントの仕事を身近に感じられるようが講義を行います。グループワークやプレゼンテーション、フィールドワークなどを取り入れ、能動的に学べる環境の中で、実際の仕事をイメージしながら自信を持って取り組むことができるように進めていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題レポート、グループワーク、プレゼンテーションに対して、授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①オリエンテーション・航空業界の役目と様々なフィールド 航空業界とは？キャビンアテンダントだけでなく、航空業界における多岐にわたる職種を知り、あらたな興味関心、自分の適性について考えてみましょう。
第2回	②キャビンアテンダントの仕事とは？ 飲み物や食事サービス、CAの仕事はそれだけ？実際の勤務スケジュールなどCAが行っている業務を深堀していきましょう。
第3回	③自分のことを知ろう！自分の強みとは？ マインドマップ、エゴグラム、など自己分析を行うことで自分自身を知る。さらなる強みを伸ばすためには？エアラインで活躍している人の特徴とは？
第4回	④顧客満足とは？CAに求められる4つの要素を知る。 航空会社が提供すべき顧客満足、CAならではの顧客満足について学ぶ。そのためにCAに求められている要素とは？
第5回	⑤CAに求められる要素（1）対話力・コミュ力が高める。 年齢、性別、国籍、旅行、ビジネスなど様々なバックグラウンドの旅客と接する中でより高い顧客満足度を出すための対話力とは？
第6回	⑥CAに求められる要素(2)社会人としてのマナーを身につける。 「ホスピタリティ」「おもてなし」など言葉の持つ意味を理解し、さらにレベルアップした社会人マナーを身につけましょう。
第7回	⑦CAに求められる要素(3)CAに必須である美しい所作を身につける。 「感じが良い」「なんとなく素敵」、だと感じられる美しい所作とは？
第8回	⑧求められる要素（4-1）健やかな身体 不規則な勤務形態や、異なる環境下においても常に自分らしく最高のパフォーマンスを発揮するための身体の整え方、真の健康とは？
第9回	⑨求められる要素（4－2）しなやかな心を持つためのセルフメンテナンスを学ぶ。 どのような時でも平常心でいるための心の持ち方とは？

第10回	⑩ ④～⑨までの振り返り、発表 学んだ内容についてグループで発表、共有することで、互いに意識の変化や気づきなどを共有し、新たな価値観を創造する！
第11回	⑪各航空会社の特徴を知る。 LCC、FSCの違い、外資系など、各航空会社の特徴、それぞれの役割とは？
第12回	⑫航空業界を企業分析する。 企業分析を丁寧に行い、自分の強みや価値観と照らし合わせてみましょう。
第13回	⑬講義を通して学んだことから自分なりの戦略を立てる。 学んだことを振り返り、気づきや意識の変化、新たな発見をもとに、CA或いは、それぞれが目指す将来に向けての戦略を立てていきましょう。

事前・事後学修	【具体的な内容】 航空業界に関する知識だけでなく、自然、食、身近にある様々な問題について関心を持ち、自分なりの意見を持つようにすること。事後学習では、各回の講義内容を踏まえ、自発的に学びを深めること。 【必要な時間】 それぞれ、2時間程度を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題レポート提出内容：30％ フィールドワーク・グループワークへの参加姿勢：30％ 平常点評価：授業内での理解度、取り組みへの姿勢 40％
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員が講義等を行う科目です。実務経験豊富な教員の講義を通じて、エアライン業界や実際のキャビンアテンダントの仕事を身近に感じられる講義を行います。 経歴：株式会社日本航空に入社後、国内線、国際線客室乗務員として乗務。首相フライトなど要人が渡航する際の特別便に数多く乗務する。またカンタス航空、ヴァリグブラジル航空共同運航便にJAL乗務員として乗務した経験を有す。さらに社内ではソムリエ資格を早期に取得し、後輩のソムリエ育成、指導にあたる他、社外セミナーの講師を務め、「ソムリエCAと行くJALヨーロッパワインの旅」の企画を担当する。
備考	＊フィールドワーク実施を予定しています。詳細決まり次第お知らせします。 ＊フィールドワークの交通費など、実費負担場合があります。 クラス全員で充実した時間を作り上げていきましょう。

年度	2025
講義名称	グランドスタッフ実務
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07503L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科
伊橋 真由	大学・観光学部・観光ビジネス学科
一林 吏咲	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	この授業は株式会社日本航空北海道支社との産学連携により実施される「北海道唯一の現役社員（グランドスタッフ）による講義」です。 目的 空港で働くグランドスタッフ・オペレーションスタッフにスポットを当て、航空会社にとって大切な「安全」を基盤とし、お仕事の魅力に触れていただきながら接客スキルや専門用語などの基礎知識を学びます。また、社会人として必要な資質や考え方を学び、人間力の向上を目指します。
到達目 標	旅客ハンドリング業務・オペレーション業務について理解し、航空業界の基礎知識、マナーを身につけます。
授業の 進め方	パワーポイント資料をもとに、空港業務・旅客ハンドリング業務・オペレーション業務を理解します。 また接客に必要なサービスマインドを身に着けるべく、ロールプレイを用いて、より航空現場に近い形式で実践的な対応を学びます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義後、確認小テストを実施します。 また、次の講義前に振り返り・フィードバックを実施します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～航空業界とは～	対面授業
第2回	新千歳空港・JALの歴史	対面授業
第3回	JALフィロソフィ	対面授業
第4回	グランドスタッフの業務と役割	対面授業
第5回	カウンター・ロビー業務	対面授業
第6回	ゲート&到着業務・アナウンス業務	対面授業
第7回	お手伝いを希望されるお客さま①	対面授業
第8回	お手伝いを希望されるお客さま②	対面授業
第9回	ご意見対応	対面授業
第10回	オペレーション業務紹介、航空業界基礎知識	対面授業
第11回	時間管理、航空力学基礎、重量管理	対面授業
第12回	航空管制用語,管制の流れ・気象	対面授業

第13回	まとめ 講義全体のふりかえりと学生からの質問への回答 航空業界就活に向けたアドバイス	対面授業

事前・事後学修	事前学習 前回の講義の内容を復習。 予習は基本的に不要。必要な場合は講義の中で指示をする。 1時間程度を目安とする。 事後学習 講義の内容の振り返り、質問などへの講師への問いかけ（最終回に回答します。）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①毎回の小テスト 70% ②出席・レポート 30%
テキスト	使用なし。必要に応じてハンドアウトを配布します。
参考文献	『エアライン・マネジメント -戦略と実践-』日本航空株式会社著　株式会社インプレス出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	非常勤講師 日本航空 千歳空港支店　JALスカイ札幌 伊橋 真由 氏　一林 吏咲 氏　※講師については、変更の可能性あり。 担当教員は、日本航空千歳空港支店の業務やJALスカイ札幌での実務を通じ、接客やサービス提供のスキルを磨き、地域活性化事業にも貢献してきました。この経験を基に、実践的な知識と技術を活用した学びを提供する講義を展開します。
備考	航空業界関連の情報はアンテナを高く張るよう心掛けてください。 Aviation wireというサイトは航空業界のニュースがまとまっているため推奨します。

年度	2025
講義名称	航空ビジネス実務
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07502L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	本科目は、主には将来航空業界への就職を目指している学生、もしくは航空業界と密接な繋がりのある業界に就職を目指している学生を対象に、航空ビジネスに関する幅広い基礎知識と実務感覚の習得を目指します。航空業界の過去から現在までの流れを理解することで将来の業界の絵姿についても考察していきます。
到達目 標	航空業界を取り巻く環境変化や動向を正確に理解することで、「航空業界人」としてのビジネス感覚が身につく。今後の自身のキャリア形成に活かすことができる。
授業の 進め方	航空会社で長年の実務経験を有する教員が、航空業界全体のこれまでの歴史および現状について分かり易く解説しながら講義を行います。また「ホットな航空関連ニュース」も適宜取り上げます。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として毎回の講義終了時に知識確認の為の小テストを実施するとともに、課題・レポートについても提出（学期内最低1回）を求めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	航空業界の歴史
第3回	日本の空港の歴史と展開
第4回	航空会社の業務（空港業務）
第5回	航空会社の業務（運航業務）
第6回	航空会社の業務（オペレーションマネジメント）
第7回	航空会社の経営（ネットワーク戦略）
第8回	航空会社の経営（アライアンス戦略）
第9回	航空会社の経営（レベニューマネジメント航空運賃の仕組み）
第10回	航空会社の経営（収支と経営戦略）
第11回	航空会社の経営（LCCビジネス）
第12回	航空会社の安全とリスクマネジメント
第13回	まとめ・期末テスト

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・小テスト・レポート 60％ ・学習姿勢（授業態度・都度の予習復習の実施状況）20％ ・期末テスト 20％
テキスト	特に指定しません。都度資料をサイト等を通じ共有します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、航空会社で33年間勤務し、営業、客室乗務、運航乗務、機体整備のサポート、空港旅客業務、空港運営管理など、全国で幅広いエアライン業務に携わってきました。これらの多岐にわたる実務経験を基に、航空業界の現場知識を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	[冬集]航空演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07501S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科
近藤 英夫	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この演習は、日本航空北海道支社が産学連携事業として実施する北海道唯一の航空実地研修です。 対象は、「航空ビジネス論」または「グランドスタッフ実務」を履修した学生の皆さんの中から、将来航空業界で働きたいと考えている方や、観光業界においても航空業界とのつながりの為に知識を持ちたいと考えている方に興味と関心を持ってもらい、新千歳空港や羽田空港、日本航空本社などの実際の現場に赴き、航空業界を理解し、業界で働く人たちとコミュニケーションを通じてより航空業界への興味関心を高め、企業の研究を深化してもらうことを目的に行います。 見学地は主に日本航空本社および羽田空港で実施し、航空会社の戦略や実務、空港の縁の下を支える企業、お客様に快適な空間を提供する企業などを体験的に学んでいただく構成となっています。また、就職の力強いアドバイスが聞ける若手社員との交流も開催します。 航空業界への就職を希望している学生にとって特別な機会を提供します。
到達目標	「航空ビジネス論」または「グランドスタッフ実務」を履修した学生を対象に、実際の現場に赴いて、現場スタッフと意見交換をしながら、業界研究を深化せるとともに、最新の業界を取り巻く現状環境や動向を正しく理解する。 また今後のキャリア形成に向けての糧になると同時に、就活上求められる社会人基礎力を涵養し、企業研究を自主的に行える資質と態度を育成する。
授業の進め方	羽田空港、日本航空本社、新千歳空港周辺でのフィールドワークをメインとする集中講義です。 日本航空株式会社協力の下、企業の皆さんとコミュニケーションがとれる準備をはじめ就活、社会人としてのマナーについても習得していただきます。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	事前課題に対するフィードバックは実際に働く人たちからフィードバックされます。 また研修後にレポート提出があり、フィードバックが担当教員からなされます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	事前学習1 「エアライン・マネジメント～戦略と実践～」講義 ※2コマ連続で行う事前学習です。	対面授業
第2回	事前学習2 「エアライン・マネジメント～戦略と実践～」講義 ※2コマ連続で行う事前学習です。	対面授業
第3回	研修1日目1 羽田空港 航空会社視察 空港業務見学	対面授業
第4回	研修1日目2 羽田空港 航空会社視察 機体整備場見学	対面授業
第5回	研修1日目3 羽田空港 航空会社視察 客室乗務員訓練センター見学	対面授業
第6回	研修2日目1 日本航空本社ビル 航空業務視察	対面授業
第7回	研修2日目2 日本航空本社ビル 航空業務視察	対面授業
第8回	研修2日目3 日本航空本社ビル 航空業務視察	対面授業

第9回	研修2日目4 日本航空本社ビル 現役社員、OB/OGとのコミュニケーション	対面授業
第10回	研修3日目1 新千歳空港 空港業務見学	対面授業
第11回	研修3日目2 新千歳空港 空港業務見学	対面授業
第12回	研修3日目3 新千歳空港 空港業務見学	対面授業
第13回	事後研修 レポート提出と報告会 日時を別途指定し、日本航空社員と学生とのzoomによる双方向の報告会を予定しています。	同時双方向

事前・事後学修	事前学習 11月(初旬):募集開始・事前説明会 →選考→受講者(履修者)発表 1月(下旬):オリエンテーション&事前研究 (1日) 事後学習 2月(下旬):研修報告会 レポート提出

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前学習課題 30% 事後学習報告及びレポート 30% 研修中の取り組み姿勢 40%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	非常勤講師 近藤英夫 氏（日本航空北海道支社企画総務部 担当部長） 担当教員は、日本航空との産学連携事業で、北海道支社や本社、羽田空港、新千歳空港などで実施されたプロジェクトに携わり、OB/OGとの積極的な連携を通じた実務経験を有しています。この経験を基に、実践的な知識を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	※この演習の受講条件 ①「航空ビジネス実務」または「グランドスタッフ」を履修している者、または履修済みの学生 ②事前説明会、事前報告会、東京への研修3日間すべてに出席できる方 ③機体整備場内見学のため保安上の観点から履修上限は15名となります。 ④研修費用は各自60,000円程度の負担を予定しています。

年度	2025
講義名称	インバウンド政策
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07207L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	本講義では観光の中でも注目度が高いインバウンドを題材にした行政が実施する政策ついて、外国人向けプロモーションなどの業務フローの理解（入札から事業の実施、報告書の作成という業務フロー）と、実際の事例研究から、入札に向けての企画書や調査報告書の作成など実践を通じて学修します。 実際の公募事例を素材としますので難易度は高いですが、実務水準を肌で感じることが出来ます。 また留学生は誘客対象である外国人ならではの目線で参加することが出来、強みを持って受講が可能になります。
到達目 標	・インバウンド政策のケーススタディを通して、課題の深堀、本質の分析、根拠のある提案などロジカルな思考が出来る。 ・実社会でも使える伝わる提案書の作成力、プレゼンの実践力を身に付ける。 ・共同作業する能力やコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。
授業の 進め方	講義ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワーク素材を配布し課題分析など授業のポイントを解説します。またグループワークやプレゼンテーションなどを取り入れ能動的かつ実践的な学修を目指します。 本講義は旅行業においてインバウンドの実務経験のある教員が、企業の営業活動のしくみや、企業での業務マネジメントの知識を活かして、学生の視点からも理解し易い講義を実施します。 ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイディアが生かされる授業になります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション発表やレポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	インバウンド政策の用語と事業の流れ	対面授業
第3回	事例研究（公募案件の事例研究）	対面授業
第4回	事例研究（公募案件の事例研究）その2	対面授業
第5回	模擬コンペへ入札（公募案件を事例に）	対面授業
第6回	模擬コンペ企画作成	対面授業
第7回	模擬コンペ企画作成その2	対面授業
第8回	模擬コンペ入札プレゼン	対面授業
第9回	模擬コンペ入札プレゼンその2	対面授業
第10回	模擬コンペへ入札（公募案件その2を事例に）	対面授業
第11回	模擬コンペ入札プレゼン	対面授業
第12回	模擬コンペ入札プレゼンその2	対面授業
第13回	まとめ・レポート提出	対面授業

事前・事後学修	事前事後、それぞれ2時間程度を目安とします。 Webでの情報収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 平常点（グループワーク参加姿勢、授業レポート）：40% ・ 成果報告プレゼンテーション（中間・最終）：60%
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBで33年間勤務し、インバウンド業務を通じて訪日旅行者へのサービス提供や観光地の魅力発信に携わり、多くの実績を積み上げてきました。この経験を基に、観光業界の実務知識と異文化コミュニケーションの重要性を学べる講義を展開します。
備考	クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

年度	2025
講義名称	[夏集]インストラクター演習Ⅱ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07206S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光地において必要不可欠なインストラクターとして活躍するための知識と技能を身につける。 この講義では日本ライフセービング協会公認Basic Surf Lifesaver（ライフセーバー）の資格取得を目指す。インストラクターⅠで「Water Safety」と「BLS(CPR+AED)」の資格を取得済みであることを推奨する。 観光資源維持のために様々な主体が関わり、同時に多くの課題を抱えていることを実体験を通し学ぶことにより、将来さまざまな形で観光を支える意識を持つことを目的とする。
到達目標	日本ライフセービング協会公認の「Basic Surf Lifesaver」の資格取得を目指す。この資格を活用して、アウトドアアクティビティのインストラクターとなるための実践的なスキルを身につける。
授業の進め方	数回の座学とプールや湖、海水浴場でのアクティブラーニングが中心となる。夏休み中や休日に実際に業務にも携わる予定。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実際にインストラクターを目指す講義となるため、さまざまな実習への真摯な取り組みを求める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	海水浴場・湖沼における実習（１）
第3回	海水浴場・湖沼における実習（２）
第4回	海水浴場・湖沼における実習（３）
第5回	海水浴場・湖沼における実習（４）
第6回	海水浴場・湖沼における実習（５）
第7回	海水浴場・湖沼における実習（６）
第8回	海水浴場・湖沼における実習（７）
第9回	海水浴場・湖沼における実習（８）
第10回	海水浴場・湖沼における実習（９）
第11回	海水浴場・湖沼における実習（１０）
第12回	Basic Life Saver資格課題
第13回	Basic Life Saver資格課題

	【具体的な内容】 ○受講の条件	2025/04/01

事前・事後学修	「Basic Surf Lifesaver」の資格取得に向けては、泳力 400m→9分以内、50m→40秒以内、潜行20m以上、立ち泳ぎ5分以上を要するため各自トレーニングをすること。 【必要な時間】 予習・復習で2時間程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義ごとの確認シート 10% 実習への取り組み 40% 資格の取得 50%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流水ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2～3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	[夏集]インストラクター演習Ⅰ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07205S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科
安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	観光地において必要不可欠なインストラクターとしての知識と技能を身につける。特にこの講義ではカヌーやラフティングを始め、海水浴場の安全管理など水辺での救急救命法を習得し日本ライフセービング協会公認の「Water Safety」の資格取得を目指す。観光資源維持のために様々な主体が関わり、同時に多くの課題を抱えていることを実体験を通して学ぶことにより、将来さまざまな形で観光を支える意識を持つことを目的とする。
到達目標	日本ライフセービング協会公認のライフセーバーの資格を受けるための「Water Safety」の資格取得を目指す。この資格を活用して、アウトドアアクティビティのインストラクターとなるための基礎的なスキルを身につける。
授業の進め方	夏季集中講義。数回の座学とプールや湖、海水浴場でのアクティブラーニングが中心となる。夏休み中などに実際に業務にも携わる予定。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実際にインストラクターを目指す講義となるため、さまざまな実習への真摯な取り組みを求める。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	観光地とインストラクター 1
第3回	観光地とインストラクター 2
第4回	海水浴場概要
第5回	プール実習 1
第6回	プール実習 2
第7回	海水浴場の現状と安全管理
第8回	ライフセービング座学 1
第9回	BLS（CPR+AED） 1
第10回	BLS（CPR+AED） 2
第11回	BLS（CPR+AED） 3
第12回	BLS（CPR+AED） 4
第13回	BLS（CPR+AED） 資格テスト

事前・事後学修	【具体的な内容】
	プールや海での実習を行うため、25m以上泳げる泳力を有していること。不安なものはプール実習までに各自練習をすること。講義終了時には日本ライフセービング協会公認「Water Safety」と「BLS(CPR+AED)」の資格が認定され、さらに上級の「Basic Surf Lifesaver」の資格を受ける権利を得ることができる。
	【必要な時間】 予習・復習含めて2時間程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義ごとの確認シート 10% 実習への取り組み 50% 資格の取得 40%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2〜3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	温泉学概論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07124L

担当教員

氏名	所属
◎ 小野寺 淳子	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	狭い国土に世界一の数の温泉地があり、日常の楽しみに、特別な日のご褒美にと、世代を超えて多くの人々が温泉に親しむ日本。ところが湯宿や日帰り湯についての情報は氾濫していても、「温泉はなぜ湧く?」「温泉効果なんて本当にあるの?」といった温泉の本質に関わる知識はほぼ知られていないのが現状です。 温泉に関する学びは、地学(温泉の成因等)や医科学(人体への化学的・物理的作用等)などの自然科学のフィールドに始まり、民族学(日本含む諸国における温泉利用の起源とその発展等)や歴史学、経済学などにも及ぶ広範なものです。 本講義ではこれらを総合的に理解し、時には掘り下げ、学ぶ人それぞれが温泉についての特別な知識を得、生活の質を高めたり、観光の分野などで羽ばたくための一つの実践的な力を得ることを目的としています。
到達目標	身近でありながら、正しく認識されることの少ない「温泉」―その本質を把握し、観光分野での実践的なスキルとして、また日々の健康増進をはかるためのツールとして、温泉の深い知識を習得し、今後に役立ててください。
授業の進め方	講義方法は対面が基本です。 その回のテーマに応じた具体的事例として、北海道内の温泉をはじめ日本各地、海外の主要温泉を豊富な写真・動画資料等を用いながら視覚的に解説し、記憶に残る講義を展開します。 また温泉に関する疑問・質問は講義期間中、いつでも受け付けており、本人に回答するほか、内容によっては授業でもとりあげて、双方向的な授業を実践します。 (2024年度の授業では「サウナについて知りたい」という複数名からのメッセージを受け、サウナ効果の作用機序、フィンランドやドイツと日本のサウナの違い、具体的な施設などについて解説しました) 授業内容は、社会情勢の変容や温泉業界の動向、トレンドの出現等により、一部の変更や、順序が入れ替わることがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義では毎回、一問一答式の「ノート」を1枚プリントで配布し、個々人が授業を聞きながら空白部分に自由に記入し、授業終盤に提出するかたちで、自分だけの「オリジナルテキスト」を完成させます。 また偶数回の「ノート」には、温泉についての疑問・質問、個別の体験談や業界への提案など自由な記述欄を設け、個別に解答、または翌週以降の授業内にワンテーマとして展開するなどフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 温泉とはかなにか ―あなたの知らない温泉の世界	対面
第2回	温泉はなぜ生まれるか ―地球の恵みのメカニズム	対面
第3回	北海道の温泉 ―地理的条件に基づく北海道各地の温泉の傾向	対面
第4回	「温泉効果」を探る・その1 ―そもそも温泉は体に「効く」の? 温泉のプロフィール「温泉分析書」の見方を学ぶ	対面
第5回	「温泉効果」を探る・その2 ―「薬理作用」～個性さまざま、泉質別の作用を探る	対面
第6回	「温泉効果」を探る・その3 ―「物理作用」・「環境作用」～健康への「直球」のはたらき (2024年度は、学生からのリクエストにより「サウナ」について、効果の作用機序(特殊な温熱作用)、日本とフィンランド等との違い、具体的な施設についても解説しました)	対面
第7回	「資源としての温泉」を考える ―電力、農業、雪害対策、家庭利用、料理や洗濯まで・・・? 観光にとどまらない温泉の持つ力	対面
第8回	日本の温泉・その1 ―火山からみる全国の温泉の特徴	対面
第9回	日本の温泉その2 ―伝統的な温泉療養の実例を探る	対面
第10回	世界の温泉・ヨーロッパ編 ―「療養温泉」からスタートした温泉史	対面

第11回	世界の温泉・アジア・オセアニア編 一国・地域で違う入浴文化	対面
第12回	これまでの「ノート」整理・授業内試験	対面
第13回	授業内試験の解説と総まとめー21世紀の「温泉地」に求められるもの	対面

事前・事後学修	環境省のWebサイト「温泉の保護と利用」を活用して、日頃から温泉に関するデータ等に目を通しておきましょう。 サイト内の、基本的な知識をやさしくまとめた「あんしん・あんぜんな温泉利用のいろは」は日・英・中・韓の4カ国語で解説されているので、特に留学生の皆さんにはわかりやすいと思います。 授業で取り上げた国内外や北海道内の温泉地、温泉施設等については、さらに個々で調べるなどして、オリジナルテキストをより充実させ、知識を深めてください。また、次回のテーマに関する情報を積極的に調べておきましょう。 また日常において温泉に関するニュースをWebや放送番組、新聞・雑誌などからチェックしておきましょう。時には各回のテーマにとらわれず、学習に組み込む場合があります。 さらに温泉の情報番組などに関しては、「この表現は適切か」なども疑い、自分ならどうするかを考え、温泉について考察する目を養いましょう。 自身で作上げたオリジナルテキストを見返し、新たに調べた情報をさらに加えてみましょう。 予習・復習の中で抱いた疑問・質問については、いつでも担当教員にご連絡ください。個別に解答、フィードバックし、内容によっては授業でも取り上げたいと思います。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績の評価方法は「期末テスト」30%、「オリジナルテキストの内容」40%、「授業参加」30%です。 テスト内容もほぼ、毎回の授業内で作成する「ノート」から出題されますので、基本的に「授業に出て」「授業内で集中してノートを作成」することが最も大切です。
テキスト	購入等は不要です。毎回の「ノート」で、個々のオリジナルのテキストに仕上げていきます。
参考文献	『世界温泉文化史』（ウラディミール・クリチェク著/国文社）、『温泉の百科事典』（編集代表委員阿岸祐幸/丸善出版）、『温泉のはなし』（白水晴雄著/技報堂出版）等。担当教師著『北海道の温泉 まるごとガイド 2024-2025』（北海道新聞社）等も参考に。

年度	2025
講義名称	観光韓国語
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07123L

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	最近では、さまざまな場面で日本人と韓国人観光客との接触機会が増えてきており、韓国ビジネスに対する関心や韓国語の学習の需要が高まりました。アフターコロナ時代と言われる今、日本のインバウンド需要の回復の動きが強まってきており、とりわけ韓国からの観光客が著しく増加しました。そこで、訪日韓国人観光客のさらなる増加を見据え、本授業では以下の3点に重点を置いて観光韓国語力を身につけていきます。 1. 訪日韓国人観光客に北海道の人気スポットを韓国語で案内するためのフレーズや関連文法を習得しながら韓国語の会話力を高める。 2. 旅先（韓国）で使えるフレーズや関連文法を習得しながら韓国語の会話力を高める。 3. 韓国観光の基本情報をはじめ、グルメ、ショッピング、若者文化など、韓国旅行に関する最新情報を取得するとともに、韓国の社会・文化に関する知見を深める。
到達目標	①旅行や接客などで使える韓国語を習得することができます。 ②韓国の社会・文化に関する知見を得ることで異文化への理解を深めることができます。 ③種々の専門知識（国際観光・異文化理解・韓国語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ④異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	・基本的に教科書に基づく座学ですが、必要に応じて適宜グループディスカッションを行うことがあります。 ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。履修者の数やニーズに応じて、進め方の調整を行う可能性があります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）、ハングル文字の復習： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、ハングル文字の仕組みや発音について総復習を行う。
第2回	かなのハングル表記、한글체： 日本の地名・人名のハングル表記、動詞・形容詞の活用形について学習する。
第3回	空港での会話： 現在連体形、推測表現について学習する。
第4回	宿泊（ホテル・チェックイン）： 状況説明の表現について学習する。
第5回	道を尋ねる： 行動の前提条件の表現、義務・当為表現について学習する。
第6回	温泉を楽しむ： 受身・状態変化の表現、時間の前後表現について学習する。
第7回	中間発表・ディスカッション： 前半の振り返り、グループワークを行う。

第8回	おいしい店に行く： 引用表現、程度表現について学習する。
第9回	お土産を買う： 推測表現、理由表現について学習する。
第10回	韓国の観光地： 韓国のホットスポット、観光業の現場で使える表現について学習する。
第11回	韓国のグルメ旅： 韓国の食文化、観光業の現場で使える表現について学習する。
第12回	韓国と日本のお土産： 韓国と日本の定番お土産の比較、観光業の現場で使える表現について学習する。
第13回	全体のまとめ、プレゼンテーション、理解度テスト： これまで学習したフレーズを使ったペアワークおよび理解度テストを行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、指定された問題を考えること、テキストの新しい語句や文法内容を確認すること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する語彙及び文法内容や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「学期末試験50%」＋「グループプレゼンテーション30%」によりますが、出席・授業への参加度および参加態度など（20%）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。毎回講義資料（電子版）を配布します。
参考文献	①『韓国語PERAPERA北海道』趙恵真・小川紗世著、北海道新聞社 ②『한국어（ハングゴ）de日本案内』金姝伶・文吉英・丁恩淑・曹美庚著、白帝社

備考	①初中級以上の韓国語能力を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。 ②受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。 ③毎回、配布資料を必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましいです。 ④授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は禁止です。

年度	2025
講義名称	観光中国語【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07122L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	近年、インバウンドの中華圏観光客が増加しており、中国語を話せる人材の需要が高まっている。その現状を踏まえ、観光の現場で実用的な中国語を用いて円滑に会話できることを目指す。
到達目標	観光の現場で、状況に応じた表現を学習し、実際の会話の中で活用できるようにする。
授業の進め方	適した単語やフレーズを紹介し、会話練習やロールプレイを通じて実践的に使えるよう繰り返し練習する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で学生がロールプレイを行い、教員と観覧している学生同士が、良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 学生のレベル確認 基礎発音の復習 ロールプレイ体験	
第2回	第一課 『欢迎来北海道』 第二課 『你有预约号吗?』	オンデマンド
第3回	第一課と第二課の学習確認クイズ1とロールプレイ	
第4回	第三課 『那个要多少钱』？ 第四課 『我能用信用卡吗』？	オンデマンド
第5回	第三課と第四課の学習確認クイズ2とロールプレイ	
第6回	第一課、第二課、第三課、第四課の復習、読み上げ練習と追加教材（リーディング）	オンデマンド
第7回	第一課、第二課、第三課、第四課のロールプレイテスト1	
第8回	第五課 还有位子吗？ 第六課 你喜欢火锅吗？	オンデマンド
第9回	第五課と第六課の学習確認クイズ3とロールプレイ	
第10回	第七課 我想去超市 第八課 我们去动物园	オンデマンド
第11回	第七課と第八課の学習確認クイズ4とロールプレイ	
第12回	第五課、第六課、第七課、第八課の復習、読み上げ練習と追加教材（リーディング）	オンデマンド
第13回	第五課、第六課、第七課、第八課のロールプレイテスト2	

事前・事後学修	授業で使用する教材の予習・復習を行う。 Webclassにあるリスニングの課題とロールプレイの練習を含め、予習と復習をそれぞれ2時間程度行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	学習確認クイズ1 10％ 学習確認クイズ2 10％ 学習確認クイズ3 10％ 学習確認クイズ4 10％ ロールプレイテスト1 10％ ロールプレイテスト2 10％ 宿題8回40％（1回につき5％×8回分）
テキスト	教科書は使用しません。先生が配布する教材を使用します。

年度	2025
講義名称	観光英語[①/2]【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07121L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	近年、インバウンド観光客が増加しており、観光英語に精通した人材の需要が高まっています。この現状を踏まえ、実践的な観光英語の習得を目指します。
到達目標	観光の場面で使う英語を学習し、実際に旅行中や仕事で使えるようになる。また観光英語検定試験3級合格を目指す。
授業の進め方	コミュニケーションに役立つ単語やフレーズを紹介し、リーディングやリスニングを通して実践的に活用できるよう、練習します。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内では、学生がディスカッションの結果を発表し、教員や他の学生が良かった点や改善点についてフィードバックを行います。また、毎週小テストを実施し、学習の定着度を確認します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation Reading & Discussion Practice	
第2回	Unit 1--Travel Unti 2--Jobs and People	オンデマンド
第3回	Unit 1 & Unit 2 Reading & Discussion Unit 1 & Unit 2 Quiz 1	
第4回	Unit 3--Getting on the Plane Unit 4--At the Immigration and Customs	オンデマンド
第5回	Unit 3 & Unit 4 Reading & Discussion Unit 3 & Unit 4 Quiz 2	
第6回	Unit 5--At the Airport	オンデマンド
第7回	Unit 5 Reading & Discussion Unit 5 Quiz 3	
第8回	Unit 6--Hotel (Accommodations) Unit 7--Restaurant (Breakfast and Fast Food)	オンデマンド
第9回	Unit 6 & 7 Discussion Unit 6 & 7 Quiz 4	
第10回	Unit 8--Sightseeing	オンデマンド
第11回	Unit 8 Discussion Unit 8 Quiz 5	

第12回	Unit 9--Shopping Unit 10--ransportation Additional Unit--Traveling in Japan	オンデマンド
第13回	Unit 9, Unit 10, Additional Unit Discussion Unit 9, Unit 10, Additional Unit Quiz 6	

事前・事後学修	授業で使用する教材の予習・復習を行います。Webclassにあるリスニングやリーディングの課題も含め、それぞれ約2時間程度取り組むことを行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Quiz 1（10％） Quiz 2（10％） Quiz 3（10％） Quiz 4（10％） Quiz 5（10％） Quiz 6（10％） Homework Assignment（40％）
テキスト	English for Tourism (Basic) ベーシック観光英語 観光英検センター編 先生のリーディングのプリント

年度	2025
講義名称	観光英語[②/2]【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07121L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	近年、インバウンド観光客が増加しており、観光英語に精通した人材の需要が高まっています。この現状を踏まえ、実践的な観光英語の習得を目指します。
到達目標	観光の場面で使う英語を学習し、実際に旅行中や仕事で使えるようになる。また観光英語検定試験3級合格を目指す。
授業の進め方	コミュニケーションに役立つ単語やフレーズを紹介し、リーディングやリスニングを通して実践的に活用できるよう、練習します。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内では、学生がディスカッションの結果を発表し、教員や他の学生が良かった点や改善点についてフィードバックを行います。また、毎週小テストを実施し、学習の定着度を確認します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation Reading & Discussion Practice	
第2回	Unit 1--Travel Unti 2--Jobs and People	オンデマンド
第3回	Unit 1 & Unit 2 Reading & Discussion Unit 1 & Unit 2 Quiz 1	
第4回	Unit 3--Getting on the Plane Unit 4--At the Immigration and Customs	オンデマンド
第5回	Unit 3 & Unit 4 Reading & Discussion Unit 3 & Unit 4 Quiz 2	
第6回	Unit 5--At the Airport	オンデマンド
第7回	Unit 5 Reading & Discussion Unit 5 Quiz 3	
第8回	Unit 6--Hotel (Accommodations) Unit 7--Restaurant (Breakfast and Fast Food)	オンデマンド
第9回	Unit 6 & 7 Discussion Unit 6 & 7 Quiz 4	
第10回	Unit 8--Sightseeing	オンデマンド
第11回	Unit 8 Discussion Unit 8 Quiz 5	

第12回	Unit 9--Shopping Unit 10--ransportation Additional Unit--Traveling in Japan	オンデマンド
第13回	Unit 9, Unit 10, Additional Unit Discussion Unit 9, Unit 10, Additional Unit Quiz 6	

事前・事後学修	授業で使用する教材の予習・復習を行います。Webclassにあるリスニングやリーディングの課題も含め、それぞれ約2時間程度取り組むことを行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Quiz 1（10％） Quiz 2（10％） Quiz 3（10％） Quiz 4（10％） Quiz 5（10％） Quiz 6（10％） Homework Assignment（40％）
テキスト	English for Tourism (Basic) ベーシック観光英語 観光英検センター編 先生のリーディングのプリント

年度	2025
講義名称	観光英会話【ブレB】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM07120L

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	近年、インバウンド観光客の増加に伴い、さまざまな観光場面で英語対応ができる人材の需要が高まっています。この現状を踏まえ、観光客に対してより詳しく説明し、ニーズに適切に対応できる実用的な観光英語の習得を目指します。
到達目標	現場で使う観光英語を学び、様々な状況に対応できる会話を身に付けます。
授業の進め方	適した単語やフレーズを紹介し、会話練習やロールプレイを通じて実践的に使えるよう繰り返し練習する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で学生がロールプレイを行い、教員と観覧している学生同士が、良かった点や改善すべき点についてフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Orientation / Reading & Disucssion / Role Play Practice	
第2回	Unit 1 & Unit 2	オンデマンド
第3回	Unit 1 & Unit 2 Discussion and Role Play	
第4回	Unit 3 & Unit 4	オンデマンド
第5回	Unit 3 & Unit 4 Discussion and Role Play	
第6回	Unit 5 & Unit 6	オンデマンド
第7回	Unit 5 & Unit 6 Discussion and Role Play Unit 1 ~ Unit 4 Role Play Test 1	
第8回	Unit 7 & Unit 8	オンデマンド
第9回	Unit 7 & Unit 8 Discussion and Role Play	
第10回	Unit 9 & Unit 10	オンデマンド
第11回	Unit 9 & Unit 10 Discussion and Role Play Unit 5 ~ Unit 8 Role Play Test 2	
第12回	Unit 11 & Unit 12	オンデマンド
第13回	Unit 11 & Unit 12 Discussion and Role Play Unit 9 ~ Unit 10 Role Play Test 3	

事前・事後学修	授業で使用する教材の予習・復習を行う。 録音課題やリーディングも含め、各回の予習・復習にそれぞれ約2時間をかけて取り組む。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Role Play Test 1 20% Role Play Test 2 20% Role Play Test 3 20% Homework Assignments 40% (10% per assignment. Total 4 assignments)
テキスト	『HOSPITALITY ON THE SCENE』（上杉恵美ほか〔著〕、金星堂）

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][池見]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S

担当教員

氏名	所属
◎ 池見 真由	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では「観光と文化のつながり」というテーマの応用編として、北海道を舞台に自然や文化、人々の暮らしや交流に対する観光行動についてさらに知見を深めます。国際的な観光文化領域の研究を通して、特に北海道の観光資源や魅力を国内・海外に発信することの可能性を探究し、国際協力やボランティア活動に参加しながら実践することを目的とします。
到達目標	・北海道から発信する国際観光に必要な多国間の相互理解と異文化交流に関する知識を習得する。 ・「観光と文化のつながり」という観点から、観光を取り巻く人間の行動や生活環境との関連性について説明することができる。 ・グループワークやフィールドワークに主体的に取り組み、リーダーシップと協調性を備えたコミュニケーション能力を身に付ける。
授業の進め方	文献調査、ディスカッション、レポート作成に取り組みます。またグループワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生に毎回提出してもらった授業レポートを添削し、返却します。また、授業内で受講生全員にも内容を共有し、ディスカッションを行った上で適宜コメントと解説を行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション： 本演習の概要説明と授業計画を行います。
第2回	ケーススタディ１： 人々の暮らしと交流に与える観光行動の影響について事例研究を行い、発表とディスカッションを通して理解を深めます。
第3回	ケーススタディ２： 国際観光の文化的・社会的効果について事例研究を行い、発表とディスカッションを通して理解を深めます。
第4回	ケーススタディ３： 自然と文化の保全・共存を目指す観光の役割について事例研究を行い、発表とディスカッションを通して理解を深めます。
第5回	ケーススタディ４： 北海道観光における異文化交流と国際理解が地域社会にもたらす効果について事例研究を行い、発表とディスカッションを通して理解を深めます。
第6回	第１回フィールドワーク： 北海道から世界へ発信する国際協力・異文化理解についての学外研修に参加します。
第7回	ケーススタディ５： 北海道の文化と観光の持続可能性について事例研究を行い、発表とディスカッションを通して理解を深めます。
第8回	ケーススタディ６： 北海道の自然と文化の魅力を外国人観光客に伝える効果的な方法について事例研究を行い、発表とディスカッションを通して理解を深めます。
第9回	ケーススタディ７： 北海道の世界文化遺産を活用したインバウンド観光の充実化を図る取り組みについて事例研究を行い、発表とディスカッションを通して理解を深めます。
第10回	第２回フィールドワーク： 北海道内で開催される国際協力・異文化理解に関するイベントのボランティア活動に参加します。

第11回	最終成果発表会準備 1： 1 年間の演習活動の成果を振り返り、学生同士で役割分担を決めて、発表資料を作成します。
第12回	最終成果発表会準備 2： 各学生が作成した発表資料を取りまとめ、プレゼンテーションの準備作業を行います。
第13回	最終成果発表会： 4 学年全ゼミが集まる成果発表会で、プレゼンテーションを実施します。

事前・事後学修	事前学修としては、文献資料の精読、発表資料の作成、プレゼンテーションの準備作業が必要になります。事後学修としては、授業内容の振り返り・まとめについてのレポート作成に取り組みます。さらに演習テーマに関連するボランティア活動にも授業外学習として参加します。事前・事後学修に必要な時間はともに2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業レポート：30% プレゼンテーション（個別研究発表・最終成果発表）：40% フィールドワーク：30%
テキスト	特になし。
参考文献	授業中に指示します。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][荒木]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本演習ではわが国の航空に関わる全てのテーマの中から各自が一つ選定し、そのテーマに沿った調査・分析を各自で行っていく。
到達目標	わが国のエアラインが持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に発展していく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に提言できるレベルになる。
授業の進め方	上記目的に合致するテーマを各自が選定し、自主的に課題を進めて行く。都度のゼミで報告を行い、意見交換を通じ更に課題研究の内容を深めていく。また最新の航空ニュースを取り上げ、全体でその内容を共有するとともに必要に応じ意見交換を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・発表会の内容(中間および最終) 80% ・参画意識（課題への取り組む姿勢、ゼミ出席率等）20%

授業計画表

回	授業内容
第1回	春学期の振り返りと今後の進め方
第2回	各自の研究テーマ／最終成果イメージ確認
第3回	各自研究テーマの遂行1
第4回	各自研究テーマの遂行2
第5回	中間発表1
第6回	各自研究テーマの遂行3
第7回	各自研究テーマの遂行4
第8回	中間発表2
第9回	各自研究テーマの遂行5
第10回	3・4年合同ゼミ
第11回	3・4年合同ゼミ
第12回	最終発表会
第13回	部内最終発表会

事前・事後学修	研究テーマの調査・とりまとめ等で最低でも週5時間が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・発表会の内容(中間および最終) 80% ・参画意識(課題への取り組む姿勢、ゼミ出席率等) 20%
テキスト	特に指定しません。適宜資料を配布します。
参考文献	① エアライン・ビジネス入門 第2版 稲本恵子2,000円(税別) ② エアライン・マネジメント ～戦略と実践～ 日本航空株式会社2,400円 ③ こんなに違うJAしとANA杉浦一機 800円(税別)

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、航空会社で33年間勤務し、営業、客室乗務、運航乗務、機体整備のサポート、空港旅客業務、空港運営管理など、全国で幅広いエアライン業務に携わってきました。これらの多岐にわたる実務経験を基に、航空業界の現場知識を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][田中]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	◇着地型コンテンツ開発（JTB）、◇バス旅コンテスト（阪急交通社）、◇社会貢献は旅の付加価値になるか？ぶどう収穫★ボランティアツアー（コープトラベル）、これらを素材にビジネスコンテストアイデアに出場＝もちろん最優秀賞を狙って行きます！ 産学連携による課題解決を実践するので、旅行業のみならず課題解決力を求められる業種へのガクチカ満載です＝ESネタには困りません。 連携先：(株)JTB、(株)阪急交通社、(株)コープトラベルなど
到達目標	・エントリーシートのガクチカに書けるキャリアとスキルを習得します ・フィールドワークやグループワークから、PDCAの回しかた、実社会で使えるコミュニケーション能力の習得 ・プレゼンテーションの作成・発表により、課題の分析力、ロジカルな思考力、ストーリーがあり伝わるアウトプット力の習得
授業の進め方	ツアーの企画に向け、フィールドワークで現地の困りごとなどコンディションを調査し、グループワークによるディスカッション、そして仮説の設計からプレゼンテーションという一連のPDCAを回す作業に取り組みます。 本演習は旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループワークやプレゼンテーションの作成・発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ぶどう収穫★ボランティアツアー出発準備	対面授業
第2回	【FW】 ぶどう収穫★ボランティアツアー本番	対面授業
第3回	バス旅コンテスト☆ツアー出発準備	対面授業
第4回	【FW】 ぶどう収穫★ボランティアツアー本番	対面授業
第5回	【FW】 バス旅コンテスト☆ツアー本番	対面授業
第6回	ビジネスアイデアコンテスト準備	対面授業
第7回	カジャコリア・ロゲイニング準備	対面授業
第8回	ビジネスアイデアコンテスト本番	対面授業
第9回	カジャコリア・ロゲイニング準備	対面授業
第10回	【FW】 カジャコリア・ロゲイニング本番	対面授業
第11回	スノーフェスティバル準備	対面授業
第12回	スノーフェスティバル準備	対面授業
第13回	ゼミ成果発表会	対面授業

事前・事後学修	事前事後それぞれ2時間程度を目安とします Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・授業レポート提出内容：30% ・フィールドワーク・グループワーク参加姿勢：30% ・プレゼンテーション（最終成果発表）：40%
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBに33年間勤務し、観光コンテンツの企画・開発において数多くの実績を積み重ねてきました。国内外の観光業界のニーズを理解し、創造性を活かして地域活性化に貢献してきた実務経験を基に、観光学の理論と実践を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][藤崎]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。それは日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。
到達目 標	北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。
授業の 進め方	観光系ベンチャー事業者のケーススタディを中心に卒業研究に取り組む。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディベート 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィード バックの方法	起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型のアクティブラーニングとする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	卒業研究（１）
第3回	卒業研究（２）
第4回	卒業研究（３）
第5回	卒業研究（４）
第6回	卒業研究（５）
第7回	卒業研究（６）
第8回	卒業研究（７）
第9回	卒業研究ゼミ内発表
第10回	卒業研究・修正（１）
第11回	卒業研究・修正（２）
第12回	卒業研究・修正（３）
第13回	卒業研究ゼミ内発表
第14回	最終発表会準備
第15回	最終発表会

事前・事後学修	【具体的な内容】 事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。
	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究発表 50% フィールドワークへの関与 50% ゼミ外での自発的な社会活動を評価するので申し出てください

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2〜3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][齋藤(修)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地に関する地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行うことを目的としている。 各自の興味関心に基づいてテーマを設定し、観光空間の詳細を調べ、卒業論文またはゼミ論文にする。その概要については、研究発表会で披露する。
到達目標	①自ら定めたテーマに基づき論理的な論文にまとめることができる。 ②発表を通じて、自らの研究を深めることができる。 ③他者の発表に対して批判的な見方をし、指摘することができる。 ④成果発表、口頭試問で自分の研究を論理的に表現できる。
授業の進め方	自分なりのテーマに基づいた内容をレジュメやパワーポイントで発表し、批判を受けながら内容を深化させる。そして、それを文章化し、論文にまとめあげる。 夏休みまでにまとめた内容を秋学期に完成させる。 最終日の成果発表会にむけて、５～１０分程度のパワーポイントにまとめる。そして、その際の質疑に耐えられるような対応を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ゼミ生全員からの意見をもとに次の発表に活かす。 データ等が足りないと感じた場合は各自で文献調査、現地調査を実施し、よりよい論文を目指す。

授業計画表

回	授業内容
第1回	論文の進捗状況の確認とパワーポイントでの発表 ＊現状の文章化
第2回	各自に必要な部分を発表１ ＊批判等を受け、課題のある部分を再度発表⇒文章化
第3回	各自に必要な部分を発表２ ＊批判等を受け、課題のある部分を再度発表⇒文章化
第4回	各自に必要な部分を発表３ ＊批判等を受け、課題のある部分を再度発表⇒文章化
第5回	研究のまとめと文章化１ ＊文章化したものの批評を受け、さらにブラッシュアップするための指導を受ける。
第6回	研究のまとめと文章化２ ＊文章化したものの批評を受け、さらにブラッシュアップするための指導を受ける。
第7回	研究のまとめと文章化３ ＊文章化したものの批評を受け、さらにブラッシュアップするための指導を受ける。 注釈、参考文献の指導
第8回	成果発表会にむけたプレゼンテーション資料作成 卒業論文・ゼミ論文提出について ＊実際に紙面化する。

第9回	ゼミ内研究発表会と口頭試問 * パワーポイントにまとめたものをゼミ内で発表し、それに基づいた討議をする。 担当教員からは口頭試問がある。
第10回	成果発表会にむけて 1 * 成果発表会にむけた資料作りの準備をする。 ゼミの人数によっては成果発表会向けの選抜がある。
第11回	成果発表会にむけて 2 * 成果発表会にむけた資料作りの準備をする。
第12回	成果発表会 1 * 成果発表会の内容を聞き、発表者への評価をする。 発表者として、わかりやすい内容を心がける。
第13回	成果発表会 2 * 成果発表会の内容を聞き、発表者への評価をする。 発表者として、わかりやすい内容を心がける。

事前・事後学修	・授業時までには必ずパワーポイントを用意してくること。 ・発表後に文章化し、提出すること。 ・必要な現地調査は各自で判断し、事前に実施すること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①卒業研究の完成度 25％ ②卒業研究の深化 25％ ③他者の発表に対する様子 25％ ④成果発表の様子、口頭試問での対応 25％
テキスト	・ 各自の研究テーマによるものを各自で用意する。
参考文献	・ 各自の研究テーマによるものを各自で用意する。

備考	大学院（札幌国際大学観光学研究科）に進学希望の学生は、必ず「卒業研究」を履修し、卒業論文にすること。 「卒業研究」と連動して実施する。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][河本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本　洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	春学期の学びを踏まえ、音・音楽による「まちおこし」の企画を検証します。また、それらの分析結果から、音・音楽によるまちづくり・ひとづくりのノウハウをまとめ、可能な限り卒業論文の作成へと繋げます。
到達目標	グループ・ワークで学生同士の意見交流を図りながら、音・音楽によるまちづくりの商品開発（仮想）し、その成果を評価することができる。
授業の進め方	卒業研究との連携を図りながらフィールドワークを中心としたゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、卒業論文作成の技法を補足をしながら学生と教員がコラボレーションして議論や実践に取り組みます。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。学生が主体となって進めていくゼミナールに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した助言を行います。また、可能な限り卒業論文の作成へ繋がるような支援を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Season4】 春学期に収集した事例の分析 ①基調対談：音・音楽による「まちおこし」の現場から（一部YouTube） ②グループ・ワーク第1回：音・音楽を商品化するために必要なこと	対面
第2回	グループ・ワーク第2回：観光商品化のキャッシュフロー	対面
第3回	グループ・ワーク第3回：ローンチ（launch）・カスタマーの獲得と回帰	対面
第4回	発表：グループワープのまとめを発表する。	対面
第5回	【Season5】 グループ・ワークによる検証・ゼミ発表へ向けた準備 グループ・ワーク第1回：収益化できる観光商品を検証する。 音・音楽による「まちおこし」で収益化を見込み企画したイベントを主に経費面から検証する。	対面
第6回	グループ・ワーク第2回：収益化できる観光商品を検証する。 音・音楽による「まちおこし」で収益化を見込み企画したイベントを主にコンテンツの面から検証する。	対面
第7回	グループ・ワーク第3回：収益化できる観光商品を検証する。 音・音楽による「まちおこし」で収益化を見込み企画したイベントを主に継続性の面から検証する。	対面
第8回	ゼミ発表準備作業①	対面
第9回	ゼミ発表準備作業②	対面
第10回	ゼミ発表準備作業③	対面
第11回	ゼミ発表準備作業④	対面
第12回	ゼミ内ゼミ発表（予行練習）と加除修正がないかどうかの確認	対面
第13回	ゼミ発表、授業評価	対面 2025/04/01

事前・事後学修	◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。 ◇事後学修：卒業研究（卒論）作成を視野に入れながら、授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。 ◇必要な時間：各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	A:各回の最後のコメントシート 13回×5点＝65点 評価の観点：理解度について評価する。 B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート Season1：10点、Season2：10点、Season3：5点 合計30点 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。 C:ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C＝100点
テキスト	テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。
参考文献	木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても開業しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	◇授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。 ◇グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][呉]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「4年演習(基礎)」で習得した知識を踏まえて「東アジアにおける言語・文化」および「東アジアにおける観光事情」に関する知見を深めていきます。また、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育んでいきます。
到達目標	①種々の専門知識（観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ②積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけることができます。 ③異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせで実施します。 ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、秋学期のゼミ活動内容を共有し、意見交換を行う。
第2回	研究テーマ設定に際するミーティング： 個人テーマ研究に向けて発表順を確定するなど、事前打ち合わせを行う。
第3回	研究テーマの確定： 研究テーマについてプレゼンテーションおよび意見交換を行う。
第4回	個人テーマ研究1： 個人テーマ研究にあたって、必要な文献や情報を収集する。
第5回	個人テーマ研究2： 適切な文献や情報を活用し、プレゼンテーション資料を作成する。
第6回	個人テーマ研究3： 第5回の授業で作成したプレゼンテーション資料の加筆修正を行う。
第7回	個人テーマ研究4： プレゼンテーション内容の最終確認を行う。
第8回	個人テーマ研究プレゼンテーション1： 作成した資料を用いてプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。

第9回	個人テーマ研究プレゼンテーション2： 作成した資料を用いてプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。
第10回	個人テーマ研究プレゼンテーション3： 作成した資料を用いてプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。
第11回	個人テーマ研究プレゼンテーション4： 作成した資料を用いてプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。
第12回	4年演習成果発表会準備： 4年演習テーマ研究発表会に向けて、プレゼンテーション資料の作成および意見交換を行う。
第13回	4年演習成果発表会： 4年演習テーマ研究発表会にて研究発表を行う。また、これまでの学習内容を振り返り、意見交換を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、今回の授業内容の予習は2時間をを要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「プレゼンテーション（40％）＋学期末課題（40％）」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など（20％）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。必要に応じて講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][横田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	「日本 ナゼ・ソコ 外国人」と題して北海道を訪れる外国人観光客がどうしてこんなところを訪問しているのか謎めいた目的についてその秘密を探る。 石破政権 「地方創生2.0」に掲げられた基本的な考え方の一部を目的として掲載する。 「都市と地方の新たな結びつき・人の往来を円滑化する政策の強化」 「観光などの地域に密着した産業やサービスを支える教育・人づくりを進める」 「地方の大学と企業等が連携した地域の特徴ある産業の高付加価値化」 「REASASを活用した分析等により、地域の動向を分析し、その可能性を見出す」
到達目標	RESASを用いた外国人観光客の動向分析ができたか。 その中から特異な外国人観光客の動向を抽出できたか。 抽出した動向を現地で確認できたか。 特異的な動向を普遍的な（他の地域でも応用できる）コンテンツとして定義できたか。
授業の進め方	REASASを使用して、外国人観光客の動向を調査するとともに、その得られたデータから北海道観光の可能性を導き出します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	REASAS分析 … 20% データ抽出 … 20% 現地訪問 … 40% 要因分析・普遍的価値の摘出 … 20% これらはWebclassなどでフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	REASAS調査・分析1 第2地域の抽出	対面
第3回	REASAS調査・分析2 第2地域の抽出	対面
第4回	REASAS調査・分析3 発表 第2地域の抽出	対面
第5回	訪問地点決定・現地概要調査1	対面
第6回	訪問地点決定・現地概要調査2	対面
第7回	訪問地点決定・現地概要調査3	対面
第8回	現地調査1	対面
第9回	現地調査2	対面

第10回	現地調査3	対面
第11回	現地調査のまとめ、結果報告	対面
第12回	年間の調査結果のまとめ、最終発表準備	対面
第13回	ゼミ最終発表	対面

事前・事後学修	REASASの分析・解析・思考・判断に相当数の時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	REASAS分析・発表 … 20% データ抽出・発表 … 20% 現地訪問・発表 … 40% 要因分析・普遍的価値の抽出・発表 … 20%
テキスト	適宜指示します。
参考文献	地方創生2.0

備考	卒業研究発表に向け頑張りましょう。

年度	2025
講義名称	4年演習(応用)[観光][山田(芳)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06306S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	① 前半はマネジメント（管理職）の観点からホテルの構造を見れる人材になることを目的として国家検定に挑戦します。 ホテル・マネジメントとは、①収益管理力 ②企画力 ③課題解決力 ④管理運営力 ⑤専門知識 の5つの専門能力に対し、本ゼミではホテル組織の「係長、主任、リーダー等」にあたる「ホテル・マネジメント技能士（3級）」の国家資格取得に挑戦します。現在の宿泊業界はサービス技能だけではなく、経営数値の理解や分析など管理能力を有し将来マネージャー（管理職）になる人材が大学生に求められています。 ホテル・マネジメント技能国家検定試験は、毎年9月学科試験、11月実技ケーススタディ試験が実施されます、就職活動に向けて有益な国家資格取得を目指します。 ②春学期の基礎に引き続き応用演習は、観光サービス産業の中でも基幹産業に位置づけされる宿泊施設に焦点をあて研究を続けます。北海道内の宿泊施設は都市型ホテル・山岳リゾート・温泉地ホテル旅館・ライフスタイル系、スポーツ系、民泊・農泊・ゲストハウスなど多くのカテゴリーが存在する中から、特徴あるコンセプトを持つ宿泊施設をチョイスして研究を進めます。視察可能であれば建設中の宿泊施設や観光施設も対象にします。施設訪問・調査・課題・問題点抽出などフィールドワークの学びを通して実際に見て体験し知識を蓄え業界の将来展望を考察します。最後には今後の宿泊産業の継続的な発展に向けた課題・問題点を抽出・研究し、解決策をまとめ提案することを目的とします。研究をまとめゼミ内発表会、優秀グループは4年ゼミ全体の研究発表会へ出場します。
到達目標	【到達目標】 ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する ② 施設の所有・経営・運営に必要とされる専門知識を習得する ③ 施設開発に必要とされる専門知識を習得する ④ 地元札幌では国際級ホテルの開業が毎年続く環境の中で国際的視野を持つ人材に成長すること
授業の進め方	【講義方法】 宿泊産業界で長く経営・運営・開発業務で研鑽を積む教員が、宿泊産業の実状や展望について分かり易く解説します。また、社会人として巣立つ学生が身につけておくべき「基本的な姿勢」「礼儀・身だしなみ・心構え」を指導します。 教員が持つネットワークを活用し北海道内の特徴がある宿泊施設を訪問するフィールドワークを積極的に取り入れ思考や知識の幅を広げるサポートをおこないます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、ニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①（4秋1） 演習ガイダンス 演習の概要説明、目的・目標の解説、評価方法等 国家検定試験対策授業
第2回	②（4秋1） 国家検定試験対策授業
第3回	③（4秋1） 研究テーマの討議・決定（グループワーク）

第4回	④（４秋１） 訪問先の事前調査（グループワーク）
第5回	⑤（４秋１） 訪問先の事前調査（グループワーク）
第6回	⑥（４秋１） 訪問先実地調査（フィールドワーク）
第7回	⑦（４秋１） 活動取りまとめ１（グループワーク）
第8回	⑧（４秋２） 活動取りまとめ２（グループワーク）
第9回	⑨（４秋２） 調査・研究 成果発表
第10回	⑩（４秋２） 個人研究：研究テーマ考察
第11回	⑪（４秋２） 個人研究：取りまとめ
第12回	⑫（４秋２） 個人研究：成果発表
第13回	⑬（４秋２） ４年ゼミ総括

事前・事後学修	【具体的な内容】 観光に関する情報、ニュースを常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	2つの評価項目総合点（１００点満点）により単位認定をおこなう ・学びの姿勢・フィールドワーク・グループワークへの積極性：配分５０％（５０点） ・成果物完成度、プレゼン力：配分５０％（５０点）
テキスト	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・必要に応じ適宜お知らせします。
参考文献	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・必要に応じ適宜お知らせします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして豊富な実務経験を有しています。北海道から沖縄まで都市ホテルやリゾートホテル、外資系ホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して最新の情報提供を行う。 また、就職活動においても同様に人脈を駆使して学生の希望を実現できるよう最後までバックアップをします。
備考	・宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。 ・交通費、食事代等の費用が一人5,000円/毎程度必要になります。 ・訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程調整は必須。 ・FW実施日の遅刻や欠席は春学期の評価対象外となるのでご注意ください。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][池見]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S

担当教員

氏名	所属
◎ 池見 真由	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	北海道、日本、そして世界各国における人びとの暮らしや生活、社会、経済について「観光と文化のつながり」という観点から探究することは、多国籍・多文化の国際観光を学ぶ上で必要な視座であると考えます。本演習では、こうした観点から国際観光による国境を越えた相互理解と異文化交流に対する知見を深め、実践的に学ぶことを目的とします。
到達目標	・観光と文化のつながりに関するグローバルな知識を習得する。 ・観光と人間の生活、社会、経済との関係性を理解し、自分の言葉で説明することができる。 ・グループワークやフィールドワークに積極的に取り組み、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身に付ける。
授業の進め方	ゼミナール方式で、文献調査、プレゼンテーション、ディスカッションを行います。グループワークやペアワークを通して学生自身によるテーマ設定、情報収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、そして報告という一連の作業に取り組みます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講生に毎回提出してもらった授業レポートを添削し、返却します。また、授業内で受講生全員にも内容を共有し、ディスカッションを行った上で適宜コメントと解説を行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション： ゼミの概要説明、自己紹介、授業計画を行います。
第2回	北海道の伝統文化と国際交流： 北海道のアイヌ文化や諸外国の先住民文化の国際交流の現状について、講義とディスカッションを行います。
第3回	北海道の観光資源の海外発信： 外国人観光客による北海道の豊かな観光資源のSNS発信効果について、講義とディスカッションを行います。
第4回	北海道の観光分野における国際協力事業の経済効果： 外国の企業や政府、民間団体との協力の下で取り組まれる観光ビジネスの経済効果について、講義とディスカッションを行います。
第5回	文化観光の国際動向： 世界各国の地域文化観光や先住民観光に関する現状と課題について、講義とディスカッションを行います。
第6回	文化観光の国内動向： 日本国内の地域文化観光や先住民観光に関する現状と課題について、講義とディスカッションを行います。
第7回	北海道アドベンチャーツーリズムの動向： 北海道における異文化交流、アウトドア、体験型の3要素を備えたアドベンチャーツーリズムの特徴について、講義とディスカッションを行います。
第8回	グループワーク①（テーマ設定、研究計画）： 学生自身が北海道・国際観光・異文化理解の分野で興味のあるテーマを設定し、研究計画を立てます。
第9回	グループワーク②（情報収集、文献資料調査）： 学生自身が設定したテーマについて、情報収集および文献資料の調査を行います。
第10回	グループワーク③（フィールドワーク準備）： 学生自身が設定したテーマに関する現地調査（インタビュー、アンケートなど）の準備を行います。

第11回	フィールドワーク： 学内外で学生自身が準備した現地調査を実施します。
第12回	グループワーク④（データ整理・分析）： 現地調査の結果を集計・整理・分析し、報告準備を行います。
第13回	まとめ： 調査結果を報告するプレゼンテーションを行います。

事前・事後学修	事前学修としては、文献資料の精読、発表資料の作成、プレゼンテーションの準備作業が必要になります。事後学修としては、授業時間外に集まってグループワークを行い、学習内容の振り返り・まとめの作業に取り組みます。さらに授業内容に関連するニュースも意識的に毎日チェックするようにしましょう。事前・事後学修に必要な時間はともに2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業レポート：30% 発表資料・プレゼンテーション：40% フィールドワーク：30%
テキスト	特になし。
参考文献	授業中に指示します。

備考	フィールドワークにかかる費用は原則自己負担ですが、一部補助があります。 北海道の観光を通じた国際理解と異文化交流に強い関心をもって実践すること。皆で協力し合いながら、チームワークを大切に、難しいことも大変な作業も積極的に取り組む姿勢で本演習に臨んでください。一緒に楽しく頑張りましょう。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][荒木]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本演習ではわが国のエアラインを各自が選定するポイントで比較し、それぞれの歴史、特色およびビジネスモデルについて調査・分析を行うことで、当該エアラインの役割や立ち位置等についての考察を深めていく。
到達目標	わが国のエアラインが持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に発展していく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に提言できるレベルになる。
授業の進め方	上記目的に合致するテーマを各自が選定し、自主的に課題を進めて行く。都度のゼミで報告を行い、意見交換を通じ更に課題研究の内容を深めていく。また最新の航空ニュースを取り上げ、全体でその内容を共有するとともに必要に応じ意見交換を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	都度各自が進めているテーマ研究の進捗状況等を報告し、担当教員や他のゼミ生からのフィードバックを受ける。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ゼミの進め方について
第2回	各自の研究テーマ／最終成果イメージ確認
第3回	各自研究テーマの遂行1
第4回	各自研究テーマの遂行2
第5回	中間発表1
第6回	各自研究テーマの遂行3
第7回	各自研究テーマの遂行4
第8回	中間発表2
第9回	各自研究テーマの遂行5
第10回	各自研究テーマの遂行6
第11回	中間発表3
第12回	各自研究テーマの遂行7
第13回	最終発表会

事前・事後学修	研究テーマの調査・とりまとめ等で最低でも週5時間が必要です。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・発表会の内容(中間および最終) 80% ・参画意識(課題への取り組む姿勢、ゼミ出席率等) 20%
テキスト	特に指定しません。適宜資料を配布します。
参考文献	① エアライン・ビジネス入門 第2版 稲本恵子2,000円(税別) ② エアライン・マネジメント ～戦略と実践～ 日本航空株式会社2,400円 ③ こんなに違うJAしとANA杉浦一機 800円(税別)

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、航空会社で33年間勤務し、営業、客室乗務、運航乗務、機体整備のサポート、空港旅客業務、空港運営管理など、全国で幅広いエアライン業務に携わってきました。これらの多岐にわたる実務経験を基に、航空業界の現場知識を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][田中]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	◇着地型コンテンツ開発（JTB）、◇バス旅コンテスト（阪急交通社）、◇社会貢献は旅の付加価値になるか？ぶどう収穫★ボランティアツアー（コープトラベル）、これらを素材にビジネスコンテストアイデアに出場＝もちろん最優秀賞を狙って行きます！ 産学連携による課題解決を实践するので、旅行業のみならず課題解決力を求められる業種へのガクチカ満載です＝ESネタには困りません。 連携先：(株)JTB、(株)阪急交通社、(株)コープトラベルなど
到達目標	・エントリーシートのガクチカに書けるキャリアとスキルを習得します ・フィールドワークやグループワークから、PDCAの回しかた、実社会で使えるコミュニケーション能力の習得 ・プレゼンテーションの作成・発表により、課題の分析力、ロジカルな思考力、ストーリーがあり伝わるアウトプット力の習得
授業の進め方	ツアーの企画に向け、フィールドワークで現地の困りごとなどコンディションを調査し、グループワークによるディスカッション、そして仮説の設計からプレゼンテーションという一連のPDCA作業に取り組みます。 本演習は旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループワークやプレゼンテーションの作成・発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	昨年実施のぶどう収穫★ボランティアツアー成果と反省	対面授業
第3回	バス旅コンテスト出場準備	対面授業
第4回	【FW】仁木ドメヌブレス	対面授業
第5回	ぶどう収穫★ボランティアツアー企画造成	対面授業
第6回	ぶどう収穫★ボランティアツアー企画造成その2	対面授業
第7回	ぶどう収穫★ボランティアツアー販売促進	対面授業
第8回	バス旅コンテスト出場準備	対面授業
第9回	バス旅コンテスト開催準備	対面授業
第10回	バス旅コンテスト本番	対面授業
第11回	さくらんぼ収穫ボランティア準備	対面授業
第12回	【FW】さくらんぼ収穫ボランティア本番	対面授業
第13回	ぶどう収穫★ボランティアツアー販売促進その2	対面授業

事前・事後学修	それぞれ2時間程度を目安とします。 Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・授業レポート提出内容：30% ・フィールドワーク・グループワーク参加姿勢：30% ・プレゼンテーション（中間成果報告）：40%
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBに33年間勤務し、観光コンテンツの企画・開発において数多くの実績を積み重ねてきました。国内外の観光業界のニーズを理解し、創造性を活かして地域活性化に貢献してきた実務経験を基に、観光学の理論と実践を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][藤崎]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。それは日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。
到達目 標	北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。
授業の 進め方	観光系ベンチャー事業者のケーススタディを中心に起業の基本を習得する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィード バックの方法	起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型のアクティブラーニングとする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	ゼミ論文・研究計画（１）
第3回	ゼミ論文・研究計画（２）
第4回	ゼミ論文・研究計画（３）
第5回	ゼミ論文・研究計画（４）
第6回	ゼミ論文・研究計画（５）
第7回	研究計画発表
第8回	ゼミ論文・研究計画・修正（１）
第9回	ゼミ論文・研究計画・修正（２）
第10回	ゼミ論文・研究計画・修正（３）
第11回	ゼミ論文・研究計画・修正（４）
第12回	ゼミ論文・研究計画・修正（５）
第13回	フィールドワーク計画（１）
第14回	フィールドワーク計画（２）
第15回	フィールドワーク計画（３）※夏季休業中の実施

事前・事後学修	【具体的な内容】 事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。
	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究計画発表 50% フィールドワークへの関与 50% ゼミ外での自発的な社会活動を評価するので申し出てください

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2～3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	【閉講】4年演習(基礎)[観光][齋藤(修)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地に関する地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行うことを目的としている。 各自の興味関心に基づいてテーマを設定し、観光空間の詳細を調べ、卒業論文またはゼミ論文にする。その概要については、秋学期に行う「4年演習（応用）」で発表する。
到達目標	①自ら定めたテーマに基づき論理的にまとめることができる。 ②他者の発表に対して批判的な見方をし、指摘することができる。 ③発表を通じて、自らの研究を深めることができる。 ④成果発表で自分の研究を論理的に表現できる。
授業の進め方	自分なりのテーマに基づて計画を立て、各自でフィールドワークをしつつそれを地図化する。そして、それを全員で討論をしながら問題点を指摘しあい、次の発表につなげる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ゼミ生全員からの意見をもとに次の発表に活かす。 データ等が足りないと判断した場合は各自で文献調査、現地調査を実施し、よりよい発表を目指す。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンスと論文の書き方指導
第2回	研究論文の格子（もくじ）の発表と卒論・ゼミ論指導
第3回	研究内容のパワーポイントによる発表 1 * 全体像をそれぞれ発表してもらう 序論に関する内容の発表と推測される結論部分
第4回	研究内容のパワーポイントによる発表 2 * 第 1 章の部分に関する考察（予定） 先行研究などの報告
第5回	研究内容のパワーポイントによる発表 3 * 第 1 章の部分に関する考察⇒文章化へ（予定） 前回の改善・補足などの報告
第6回	研究内容のパワーポイントによる発表 4 * 第 2 章の部分に関する考察（予定） フィールドワークなどの計画やデータを取得方法に関する報告
第7回	研究内容のパワーポイントによる発表 5 * 第 2 章の部分に関する考察（予定） フィールドワークなどの状況報告

第8回	研究内容のパワーポイントによる発表 6 * 第 2 章の部分に関する考察（予定） まとめたことの詳細を報告
第9回	研究内容のパワーポイントによる発表 7 * 第 2 章の部分に関する考察⇒文章化へ（予定） 前回の改善・補足などの報告
第10回	研究内容のパワーポイントによる発表 8 * 第 3 章の部分に関する考察（予定） まとめたことの詳細を報告
第11回	研究内容のパワーポイントによる発表 9 * 第 3 章の部分に関する考察⇒文章化へ（予定） 前回の改善・補足などの報告
第12回	研究内容のパワーポイントによる発表10 * 結論の部分に関する考察（予定） まとめたことの詳細を報告
第13回	中間発表会と口頭試問 * 研究内容の現状をパワーポイントで発表

事前・事後学修	・ 授業時までに必ずパワーポイントを用意してくる。 ・ 卒論予定者は発表後に文章化し、提出する。 ・ 必要な現地調査は自分で判断し実施する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①卒業論文、ゼミ論文の概要表現 25％ ②他者の発表に対する様子 25％ ③自らの研究の深化 25％ ④口頭試問での対応 25％
テキスト	・ 各自の研究テーマに必要なものを各自で用意する。
参考文献	・ 各自の研究テーマに必要なものを各自で用意する。

備考	大学院（札幌国際大学観光学研究科）に進学希望の学生は、必ず「卒業研究」を履修し、卒業論文にすること。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][河本]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	卒業研究を念頭に置き、音・音楽による「まちおこし」や、それを支える「ひとづくり」について具体的に立案し、音・音楽と観光産業との結びつきについて、具体的な提案をできる基礎を作ります。そのために、音・音楽が人々に与える効用を最終的にはお金に換えて世の中を回していく仕組みを中心にフィールドワークを中心に分析し、アントレプレナー（起業家精神）を育成するためのに繋げていくことを目的とします。
到達目標	音・音楽による「まちおこし」や「ひとづくり」について、自分なりの考えをもち、それを人に伝えることができる。
授業の進め方	卒業研究との連携を図りながらゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、卒業論文作成の技法を補足をしながら学生と教員がコラボレーションして議論や実践に取り組みます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。学生が主体となって進めていくゼミナールに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した助言を行います。また、可能な限り卒業論文の作成へ繋がるような支援を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【Season1】事例検討：音・音楽によるまちおこし（公共的事業） 地元アーティストによる“きよフェス”（札幌市清田区）の検証	対面
第2回	アルテ・ピアッツァ美唄の検証：木造校舎がリノベーションでアート空間に	対面
第3回	いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置の検証	対面
第4回	Season1のまとめ 学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面
第5回	【Season2】事例研究の目線：音・音楽によるまちおこしの見方（民間事業） 防災×音楽が観光にもなる？ 防災音楽ユニットBloom Works（神戸）	対面
第6回	菓子店が音楽ホールに！六花亭の不思議店舗（帯広・中札内・札幌）	対面
第7回	音・音楽を売るのか、音・音楽で売るのか	対面
第8回	収益が必要とされる場合とされない場合	対面
第9回	音・音楽＋ [] =○○○、音・音楽× [] =□□□	対面
第10回	Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面
第11回	【Season3】音・音楽によるまちおこしの事例を集める 学生が集めた事例発表と検討会その1	対面
第12回	学生が集めた事例発表と検討会その2	対面 2025/04/01

第13回	Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価	対面

事前・事後学修	◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。 ◇事後学修：卒業研究（卒論）作成を視野に入れながら、授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。 ◇必要な時間：各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	A:各回の最後のコメントシート 13回×5点＝65点 評価の観点：理解度について評価する。 B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート Season1：10点、Season2：10点、Season3：5点 合計30点 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。 C:ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C＝100点
テキスト	テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。
参考文献	木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても開業しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	◇授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。 ◇グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][呉]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「東アジア」というテーマを大きな軸として「異文化コミュニケーション」及び「国際観光」についてみなさんと一緒に研究・発表・討論などを行います。
到達目標	①種々の専門知識（観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ②積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけることができます。 ③異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。 ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、春学期のゼミ活動内容を共有し、意見交換を行う。
第2回	国際観光探求1： 国際観光における異文化コミュニケーションについて学習する。
第3回	国際観光探求2： 第2回目の内容を踏まえて、さまざま事例を紹介する。
第4回	国際観光探求3： 第2～3回の授業で行った内容をもとにディスカッションを行う。
第5回	国際観光探求4： 第4回の授業で行った内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。
第6回	国際観光探求5： プレゼンテーション資料の修正を行う。
第7回	国際観光探求6： プレゼンテーション内容の最終確認を行う。
第8回	国際観光探求7： 作成した資料を用いてプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。

第9回	グループ研究テーマの設定および研究計画報告： 各グループに分かれ、研究テーマについて議論し、研究計画書について発表する。
第10回	グループワーク1： 研究テーマに沿って、グループワークを行う。
第11回	グループワーク2： 第10回で行った議論内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。
第12回	グループワーク3： プレゼンテーション資料の修正および最終確認を行う。
第13回	グループワーク4、まとめ： グループごとに研究発表を行う。また、これまでの学習内容を振り返り、意見交換を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、次の授業内容の予習は2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「プレゼンテーション（40％）＋学期末課題（40％）」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など（20％）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。必要に応じて講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

備考	※講義の進度によって内容の変更や調整を行います。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][横田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	「日本 ナゼ・ソコ 外国人」と題して北海道を訪れる外国人観光客がどうしてこんなところを訪問しているのか謎めいた目的についてその秘密を探る。 石破政権 「地方創生2.0」に掲げられた基本的な考え方の一部を目的として掲載する。 「都市と地方の新たな結びつき・人の往来を円滑化する政策の強化」 「観光などの地域に密着した産業やサービスを支える教育・人づくりを進める」 「地方の大学と企業等が連携した地域の特徴ある産業の高付加価値化」 「REASASを活用した分析等により、地域の動向を分析し、その可能性を見出す」
到達目標	RESASを用いた外国人観光客の動向分析ができたか。 その中から特異な外国人観光客の動向を抽出できたか。 抽出した動向を現地で確認できたか。 特異的な動向を普遍的な（他の地域でも応用できる）コンテンツとして定義できたか。
授業の進め方	REASASを使用して、外国人観光客の動向を調査するとともに、その得られたデータから北海道観光の可能性を導き出します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	REASAS分析 … 20% データ抽出 … 20% 現地訪問 … 40% 要因分析・普遍的価値の抽出 … 20%

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	REASAS調査・分析1	対面
第3回	REASAS調査・分析2	対面
第4回	REASAS調査・分析3	対面
第5回	REASAS調査・分析4 発表	対面
第6回	訪問地点決定・現地概要調査1	対面
第7回	訪問地点決定・現地概要調査2	対面
第8回	訪問地点決定・現地概要調査3	対面
第9回	現地調査1	対面
第10回	現地調査2	対面
第11回	現地調査3	対面

第12回	現地調査のまとめ、結果報告	対面
第13回	春学期振り返り	対面

事前・事後学修	REASASの分析・解析・思考・判断に相当数の時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	REASAS分析・発表 … 20% データ抽出・発表 … 20% 現地訪問・発表 … 40% 要因分析・普遍的価値の摘出・発表 … 20%
テキスト	適宜指示します。
参考文献	地方創生2.0

備考	卒業研究発表に向け頑張りましょう。

年度	2025
講義名称	4年演習(基礎)[観光][山田(芳)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06305S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	① 前半はマネジメント（管理職）の観点からホテルの構造を見れる人材になることを目的として国家検定に挑戦します。 ホテル・マネジメントとは、①収益管理力 ②企画力 ③課題解決力 ④管理運営力 ⑤専門知識 の5つの専門能力に対し、本ゼミではホテル組織の「係長、主任、リーダー等」にあたる「ホテル・マネジメント技能士 （3級）」の国家資格取得に挑戦します。現在の宿泊業界はサービス技能だけではなく、経営数値の理解や分析など管理能力を有し将来マネージャー（管理職）になる人材が大学生に求められています。 ホテル・マネジメント技能国家検定試験は、毎年9月学科試験、 1 1月実技ケーススタディ試験が実施されます、就職活動に向けて有益な国家資格取得を目指します。 ② 後半の演習では、観光サービス産業の大きな傘の中でも基幹産業に位置づけされる宿泊施設に焦点をあて研究を進めます。特徴あるコンセプトを持つ宿泊施設をチョイスして研究を進めます。施設訪問・調査・課題・問題点抽出などフィールドワークを通して実際に見て体験し知識を蓄え業界の将来展望を考察します。進路選択に有効な演習を目指します、授業は秋学期の応用演習に連動していきます。
到達目標	【到達目標】 ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する ② 施設の所有・経営・運営に必要とされる専門知識を習得する ③ 地元札幌では国際級ホテルの開業が毎年続く環境の中で国際的視野を持つ人材に成長すること
授業の進め方	【講義方法】 グループワークやフィールドワーク（宿泊視察研究）を取り入れ能動的な演習を目指します。 国家試験対策は過去問を基本に学習をします。 また、ホテル・リゾート・観光旅館のインターンシップ参加前には、必須とされる「基本的なマナー・礼儀・身だしなみ・言葉遣い」等の基礎的マナーを指導します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内またはメール返信掲示板、ニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①（４春１） 演習ガイダンス 演習の概要説明、目的・目標の解説、評価方法等
第2回	②（４春１）マネジメント総論 宿泊産業の現状動向、種類、経営形態、所有形態
第3回	③（４春１）経営戦略、経営管理 経営戦略の体系、経営K P Iについて
第4回	④（４春１）会計概論 簿記に関する知識、ホテル会計に関する知識

第5回	⑤（４春１）財務会計 貸借対照表・損益計算書の分析
第6回	⑥（４春１）管理会計・予算管理 主要業績指標（ＫＰＩ）の理解
第7回	⑦（４春１）サービス管理 サービス品質管理、顧客ロイヤリティについて
第8回	⑧（４春２）フィールドワークの準備 研究訪問先の事前調査
第9回	⑨（４春２）フィールドワーク ホテル視察調査・研修
第10回	⑩（４春２）活動とりまとめⅠ グループワーク（プレゼン資料作成・準備）
第11回	⑪（４春２）活動とりまとめⅡ グループワーク（プレゼン資料作成・準備）
第12回	⑫（４春２）研究成果発表 グループプレゼン
第13回	⑬（４春２） ４年ゼミ春学期総括および秋学期研究について

事前・事後学修	【具体的な内容】 観光に関する情報、ニュースを常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	2つの評価項目総合点（１００点満点）により単位認定をおこなう ・学びの姿勢・フィールドワーク・グループワークへの積極性：配分５０％（５０点） ・成果物完成度、プレゼン力：配分５０％（５０点）
テキスト	【テキスト・参考書・業界情報】 ・テキスト購入は必要ありません。 ・必要に応じ資料・業界情報をを適宜お知らせします。
参考文献	【テキスト・参考書・業界情報】 ・テキスト購入は必要ありません。 ・必要に応じ資料・業界情報をを適宜お知らせします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして豊富な実務経験を有しています。北海道から沖縄まで都市ホテルやリゾートホテル、外資系ホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して最新の情報提供を行う。また、就職活動においても同様に人脈を駆使して学生の希望を実現できるよう最後までバックアップをします。
備考	・宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。 ・交通費、食事代等の費用が一人5,000円/毎程度必要になります。 ・訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程調整は必須。 ・F W実施日の遅刻や欠席は春学期の評価対象外となるのでご注意ください。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][河本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	春学期に理解を深めた音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド&ミュージック・ツーリズムという視点から捉え直し、ミニマム・コミュニティにおける観光プランの創発を立案します。仮想的に収益を上げることを想定したプランを立て、サウンド&ミュージック・ツーリズムのPDCAサイクルの回し方、及び今日的課題を体験的に学びます。
到達目標	グループ・ワークで学生同士の意見交流を図りながら、一人一つのサウンド&ミュージック・ツーリズムの仮想的商品を開発することを目指します。
授業の進め方	ゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。「応用」（秋学期）は学生が主体となって進めていくゼミナール形式の基盤づくりに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【Season4】サウンド&ミュージック・ツーリズム企画の基本 グループ・ワーク第1回：音・音楽を商品化するために必要なこと	対面
第2回	グループ・ワーク第2回：観光商品化のキャッシュフロー	対面
第3回	グループ・ワーク第3回：ローンチ（launch）・カスタマーの獲得と回帰客の創出	対面
第4回	発表：グループワープのまとめを発表する（※1）	対面
第5回	【Season5】グループ・ワークによるプランニング グループ・ワーク第1回：収益化できる観光商品を企画する サウンド&ミュージック・ツーリズムで収益化が見込める観光商品を企画する。単にアイディアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。	対面
第6回	グループ・ワーク第2回：収益化できる観光商品を企画する	対面
第7回	グループ・ワーク第3回：収益化できる観光商品を企画する	対面
第8回	発表：企画した観光商品を発表する（※2）	対面
第9回	【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正	対面
第10回	グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）	対面

第11回	グループ・ワーク第3回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成	対面
第12回	まとめ：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介	対面
第13回	ゼミ発表、授業評価	対面

事前・事後学修	◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。 ◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。 ◇必要な時間：各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	A:各回の最後のコメントシート 13回×5点＝65点 評価の観点：理解度について評価する。 B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート Season1：10点、Season2：10点、Season3：5点 合計30点 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。 C:ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C＝100点
テキスト	テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。
参考文献	木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても開業しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	◇授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。 ◇グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。 ※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは各グループの自由とします。 ※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。 ※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取し、実現の可能性について検証するための情報を得ます。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][荒木]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	全国の空港アクセスの分析を通じ、各空港の成り立ち、特徴点、位置づけ等を理解するとともに、多角度からの航空に関わる情報に触れることで「分析力」「考察力」の醸成を図る。
到達目標	空港アクセス分析を通じ、各空港の成り立ち、特徴点、位置づけ等を理解するとともに、各空港アクセス交通機関が持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に各交通機関が役割を果たしていく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に自論として説明できる。
授業の進め方	主には国土交通省航空局の「空港旅客動態調査」の統計データーをもとに、北海道内の主な空港アクセスの現状分析を行う。また最新の航空ニュースを取り上げ、全体でその内容を共有するとともに必要に応じ意見交換を行う。加えて実践力を養う為ケーススタディ研究を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	都度各自が進めているワークの進捗状況等を報告し、担当教員や他のゼミ生からのフィードバックを受ける。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ゼミの進め方について
第2回	事例研究+空港アクセス分析1
第3回	事例研究+空港アクセス分析2
第4回	事例研究+空港アクセス分析3
第5回	事例研究+空港アクセス分析4
第6回	事例研究+空港アクセス分析5
第7回	中間報告
第8回	事例研究+空港アクセス分析6
第9回	事例研究+空港アクセス分析7
第10回	3・4年合同ゼミ
第11回	3・4年合同ゼミ
第12回	成果発表会
第13回	最終発表会（プレゼンテーション方式）

事前・事後学修	研究テーマの調査・とりまとめ等で最低でも週5時間が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・発表会の内容(中間および最終) 60% ・都度の課題やワーク等における報告および説明の内容 20% ・参画意識（課題への取り組む姿勢、ゼミ出席率等）20%
テキスト	特に指定しません。都度必要な資料を共有します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、航空会社で33年間勤務し、営業、客室乗務、運航乗務、機体整備のサポート、空港旅客業務、空港運営管理など、全国で幅広いエアライン業務に携わってきました。これらの多岐にわたる実務経験を基に、航空業界の現場知識を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	このゼミはゼミ以外の自らの時間も使い計画的かつ積極的に調査研究していく自発的姿勢が必然的に求められます。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][山田(芳)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	3年秋学期演習（応用）「ホテル・ゼミ」では、春学期の演習基礎に引き続き応用編の研究となります。 前半はホテルビジネスを体系的に理解し各々が思い描くホテルを考え事業収支計画を立案することを目的とします。 後半はグループ単位で研究テーマを持ち札幌市内にある研究対象ホテルへ訪問調査を実施、調査結果を基にゼミ内発表会、優秀グループは3年ゼミ全体の研究発表会へ出場します。 ※その他、ホテルゼミ生は「宿泊経営概論（秋1）」「ホテル開発概論（春1）」「ホテル演習（夏集中）」「ホテルビジネス実務」等の専門科目をホテル知識の幅を広げるため積極的に履修をしてください。
到達目標	【到達目標】 ① 2年間継続するゼミでホテルの運営・経営の仕組みを体系的に習得する ② ホテルの所有・経営・運営に必要とされる専門知識を学び習得する ③ 地元札幌では国際級ホテルの開業が毎年続く環境の中で国際的視野を持つ人材に成長すること
授業の進め方	【授業方法】 ディスカッションやグループワークを取り入れ、能動的な演習を目指します。 本演習はホテルビジネスに重要な事業計画をグループワークにて様々な議論をおこない作成を進めます。 シュミレートされた計画書をもとにグループでの成果発表をおこなう。 ゼミ後半は研究対象ホテルへ訪問調査、ホテル内視察・支配人への聞き取り、周辺環境調査等を行い研究結果を取り纏めグループ発表を行う

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、ニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①（3秋1）演習ガイダンス ：演習内容説明、授業の進め方、成績評価
第2回	②（3秋1） 立地調査分析 ：札幌市の地域評価(客層、交通ルート、宿泊目的、地域特性) マーケット調査 ：位置条件、競合ホテル、需要と供給の推定、潜在需要
第3回	③（3秋1） 仮定設定条件 ：ホテル形態、立地エリア、客室規模、交通利便性 施設規模の設定 ：マーケット調査を基に規模を設定 ⇒客室数、料飲業態、宴会場の有無、その他施設有無
第4回	④（3秋1） 稼働見込の設定 ：客室稼働率、飲食業態別稼働、宴会場稼働、その他施設 組織・人員設定 ：各部門の組織、各部門人員計画

第5回	⑤（3秋1） 採算性検討Ⅰ：宿泊部門収入予想（稼働率、単価、経費率、原価率・・・） 採算性検討Ⅱ：料飲部門収入予想（機能構成、客席、平均単価、席回転）
第6回	⑥（3秋1） 採算性検討Ⅲ：宴会部門収入予想（宴会、結婚披露宴、件数、単価、人数） 採算性検討Ⅳ：部門経費、人件費・固定費の検証、販管費・変動費
第7回	⑦（3秋1） 立案計画ホテルの事業収支発表：プレゼン（グループ発表）
第8回	⑧（3秋2） 札幌市内ホテル調査研究1：研究テーマ決定（グループワーク）
第9回	⑨（3秋2） 札幌市内ホテル調査研究2：研究調査対象ホテル調べ（グループワーク）
第10回	⑩（3秋2） 札幌市内ホテル調査研究3：現地ホテル調査・視察実施（グループワーク）
第11回	⑪（3秋2） 札幌市内ホテル調査研究4：研究とりまとめ、プレゼン資料作成（グループワーク）
第12回	⑫（3秋2） 札幌市内ホテル調査研究5：研究とりまとめ、プレゼン資料作成（グループワーク）
第13回	⑬（3秋2） 札幌市内ホテル調査研究6：研究成果発表（グループプレゼン）

事前・事後学修	【具体的な内容】 観光に関する情報、ニュースに常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設 観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	2つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定をおこなう ・学びの姿勢・フィールドワーク・グループワークへの積極性：配分50％（50点） ・成果物完成度、プレゼン力：配分50％（50点）
テキスト	【テキスト・参考書】 ・テキスト購入は必要ありません。 ・必要に応じ資料を適宜配布します。
参考文献	【テキスト・参考書】 ・テキスト購入は必要ありません。 ・必要に応じ資料を適宜配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして豊富な実務経験を有しています。 北海道から沖縄までシティホテルやリゾートホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して最新の情報提供を行う。 また、就職活動においても同様に人脈を駆使して学生の希望を実現できるよう最後までバックアップします。
備考	地元札幌では毎年国際級のホテルが開業していきます、本ゼミ生は専門知識を養い国際的視野を身に着け将来マネジメント人材として活躍してくれることを大いに期待しております。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][横田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本ゼミのテーマは「推し旅 特にスポーツ・ツーリズム」です。 特に3年ゼミは 推し（好き）の心をもとに旅をするツーリズムに注目します。 ゼミではスポーツツーリズムを主要テーマとして、JAL マラソン、コンサドーレ札幌、レバンガ北海道を応援するファンを取り込むツーリズム戦略について議論を重ねます。 ファン（推し）が喜ぶサービスとは何でしょう？ 応援するチームのために、ファン（推し）はどのような行動をとるのでしょうか？ このファン（推し）の消費行動をもとに、楽しみ方や試合後の周辺観光の在り方なども考察します。 このゼミの学外研修は JAL 日本航空の全面協力を得て実施します。
到達目標	スポーツツーリズムをつうじて、観光の基本的知識を身につけ、地域振興について考えることができたか。 ファン（推し）の心理を理解し、心を射止めるサービスを見つけ出すことができるか。
授業の進め方	サッカーや野球などさまざまなスポーツがありますが、ゼミメンバーでテーマを定めて取り組みます。 また、JALマラソン、JAL北海道コンサドーレ札幌主催試合、レバンガ北海道の試合について協力など現地研修を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Webclassなどをつうじて適宜フィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ファン経済圏に関する研究 … 楽天経済圏、JALマイル経済圏、ANAマイル経済圏	対面
第2回	ファン経済圏に関する研究 … 楽天経済圏、JALマイル経済圏、ANAマイル経済圏	対面
第3回	ファン経済圏に関する研究 … 楽天経済圏、JALマイル経済圏、ANAマイル経済圏	対面
第4回	北海道コンサドーレ札幌 JAL主催試合ボランティア ボランティアを通じてJALマイル経済圏の実際にふれてみる	対面
第5回	北海道コンサドーレ札幌 JAL主催試合ボランティア ボランティアを通じてJALマイル経済圏の実際にふれてみる	対面
第6回	ファン経済圏に関する研究 … 楽天経済圏、JALマイル経済圏、ANAマイル経済圏	対面
第7回	ファン経済圏に関する研究・発表会 … 楽天経済圏、JALマイル経済圏、ANAマイル経済圏	対面
第8回	レバンガ北海道 ボランティア … JALマイル経済圏実習①	対面
第9回	レバンガ北海道 ボランティア … JALマイル経済圏実習②	対面
第10回	レバンガ北海道 ボランティア … JALマイル経済圏実習③	対面
第11回	ファン経済圏に関する研究 … 楽天経済圏、JALマイル経済圏、ANAマイル経済圏	対面 2025/04/01

第12回	ゼミのまとめ① この1年間の成果のまとめと振り返り	対面
第13回	ゼミのまとめ② ゼミ成果発表	対面

事前・事後学修	スポーツが好きで、応援チームに何時間も費やすことができるというエネルギーが求められます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①経済圏ゼミ内発表 30% ②施設運営実態ゼミ内発表 30% ③研究のまとめと発表 40%
テキスト	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][呉]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では「3年演習(基礎)」で習得した知識を踏まえて「韓国における言語・文化」および「韓国における観光事情」に関する知見を深めていきます。なお、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育んでいきます。
到達目標	①観光業の現場で使える韓国語を習得することができます。 ②韓国の社会・文化に関する知見を得ることで異文化への理解を深めることができます。 ③種々の専門知識（国際観光・異文化理解・韓国語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ④異文化に触れることの楽しさを体験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。 ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、秋学期のゼミ活動内容を共有し、意見交換を行う。
第2回	国際観光探求基礎（日本）1： SNSを活用した北海道の情報発信にあたって、新観光スポットについて調べる。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第3回	国際観光探求基礎（日本）2： 第2回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第4回	国際観光探求基礎（日本）3： 第3回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第5回	国際観光探求基礎（日本）4： SNSを活用した北海道の情報発信にあたって、話題のグルメや人気コスメなどについて調べる。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第6回	国際観光探求基礎（日本）5： 第5回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第7回	国際観光探求基礎（日本）6： 第6回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第8回	研究テーマの設定および研究計画報告： 韓国・大田大学校ビジネス日本語学科とのオンライン研究交流会にあたって、研究テーマ設定および研究計画について発表を行う。
第9回	研究テーマに関する情報収集： 研究計画に基づいて関連情報収集およびディスカッションを行う。

第10回	プレゼンテーション資料作成1： 第9回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。
第11回	プレゼンテーション資料作成2、： 第10回で作成したプレゼンテーション資料の修正など、最終確認を行う。また、韓国との研究交流会に向けて事前練習会を行う。
第12回	オンライン研究交流会： 「第3回韓国・大田大学校ビジネス日本語学科と呉ゼミのオンライン研究交流会」を実施する。
第13回	まとめ、反省会： これまでの学習内容および韓国とのオンライン研究交流会を振り返り、次年度の活動に向けて意見交換を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、今回の授業内容の予習は2時間をを要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「プレゼンテーション（40％）＋学期末課題（40%）」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など（20%）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。必要に応じて講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

備考	①中級レベルの韓国語能力を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ～韓国語Ⅲ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。 ②講義の進度によって内容の変更やスケジュールの調整を行います。また、韓国大田大学校ビジネス日本語学科とのオンライン研究交流会の実施日については、先方の都合により変更になる可能性があります。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][田中]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	◇着地型コンテンツ開発（JTB）、◇バス旅コンテスト（阪急交通社）、◇社会貢献は旅の付加価値になるか？ぶどう収穫★ボランティアツアー（コープトラベル）、これらを素材にビジネスコンテストアイデアに出場＝もちろん最優秀賞を狙って行きます！ 産学連携による課題解決を実践するので、旅行業のみならず課題解決力を求められる業種へのガクチカ満載です＝ESネタには困りません。 連携先：(株)JTB、(株)阪急交通社、(株)コープトラベルなど
到達目標	◇着地型コンテンツ開発（JTB）、◇バス旅コンテスト（阪急交通社）、◇社会貢献は旅の付加価値になるか？ぶどう収穫★ボランティアツアー（コープトラベル）、これらを素材にビジネスコンテストアイデアに出場＝もちろん最優秀賞を狙って行きます！ 産学連携による課題解決を実践するので、旅行業のみならず課題解決力を求められる業種へのガクチカ満載です＝ESネタには困りません。 連携先：(株)JTB、(株)阪急交通社、(株)コープトラベルなど
授業の進め方	ツアーの企画に向け、フィールドワークで現地の困りごとなどコンディションを調査し、グループワークによるディスカッション、そして仮説の設計からプレゼンテーションという一連のPDCAを回す作業に取り組みます。 本演習は旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループワークやプレゼンテーションの作成・発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ぶどう収穫★ボランティアツアー出発準備	対面授業
第2回	ぶどう収穫★ボランティアツアー出発準備	対面授業
第3回	【FW】ぶどう収穫★ボランティアツアー本番	対面授業
第4回	バス旅コンテスト☆ツアー出発準備	対面授業
第5回	【FW】ぶどう収穫★ボランティアツアー本番	対面授業
第6回	ビジネスアイデアコンテスト準備	対面授業
第7回	カジャコリア・ロゲイニング準備	対面授業
第8回	ビジネスアイデアコンテスト本番	対面授業
第9回	カジャコリア・ロゲイニング準備	対面授業
第10回	【FW】カジャコリア・ロゲイニング本番	対面授業
第11回	スノーフェスティバル準備	対面授業
第12回	ゼミ成果発表会準備	対面授業

第13回	ゼミ成果発表会	対面授業

事前・事後学修	事前事後それぞれ2時間程度を目安とします Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・授業レポート提出内容：30% ・フィールドワーク・グループワーク参加姿勢：30% ・プレゼンテーション（中間成果報告）：40%
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBに33年間勤務し、観光コンテンツの企画・開発において数多くの実績を積み重ねてきました。国内外の観光業界のニーズを理解し、創造性を活かして地域活性化に貢献してきた実務経験を基に、観光学の理論と実践を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担場合があります。 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][藤崎]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。そこで日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。
到達目 標	北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。
授業の 進め方	観光系ベンチャー事業者のケーススタディをフィールドワークを通して起業の基本を習得する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィード バックの方法	起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型・アクティブラーニング授業とする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	フィールドワーク計画（1）
第3回	フィールドワーク計画（2）
第4回	フィールドワーク計画（3）
第5回	フィールドワーク計画（4）
第6回	フィールドワーク計画（5）
第7回	フィールドワーク（1）
第8回	フィールドワーク（2）
第9回	フィールドワーク（3）
第10回	フィールドワーク（4）
第11回	フィールドワーク（5）
第12回	発表資料作成（1）
第13回	発表資料作成（2）
第14回	発表資料作成（3）
第15回	最終発表会・学内合同企業説明会

事前・事後学修	【具体的な内容】 事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。
	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	グループワーク等への関与 50% フィールドワークへの関与 50% ゼミ外での自発的な社会活動を評価するので申し出てください

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2～3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][池見]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S

担当教員

氏名	所属
◎ 池見 真由	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では「北海道から発信する観光と国際協力」というテーマの応用編として、世界、日本、北海道における様々なケーススタディ（事例研究）を基に実例から学び、理解を深めます。環境保護、開発協力、地域活性化、国際相互理解などを通して、観光分野が世界の諸問題の解決・改善に貢献できる多彩な可能性について探究します。
到達目標	・世界各国のケーススタディを通して、グローバルな思考力と社会貢献に活かせる実践力を身に付ける。 ・観光分野と国際協力における現状と課題を理解し、問題解決に向けた自身の考えも含めて口頭や文章で分かり易く説明することができる。 ・共同作業する能力やコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。
授業の進め方	文献調査、研究発表、ディスカッションを行います。また、グループワークやペアワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回提出してもらった授業レポートを添削し、各学生に返却します。また授業内で学生全員にも内容を共有し、コメントと解説を行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション： 本演習の概要説明と授業計画を行います。
第2回	ケーススタディ①： 世界の観光開発と環境問題に関する様々な国の事例を基に、発表とディスカッションを行い、理解を深めます。
第3回	ケーススタディ②： 観光を通じた国際交流・異文化理解に関する様々な国の事例を基に、発表とディスカッションを行い、理解を深めます。
第4回	ケーススタディ③： 貧困層や社会的弱者のための観光ビジネスに関する様々な国の事例を基に、発表とディスカッションを行い、理解を深めます。
第5回	第1回フィールドワーク： 観光分野における国際協力と海外ボランティアをテーマに、学外研修を行います。
第6回	ケーススタディ④： 観光と国際協力を通じた地域活性化に関する様々な国の事例を基に、発表とディスカッションを行い、理解を深めます。
第7回	ケーススタディ⑤： 北海道での地域交流を目的としたインバウンド観光に関する様々な事例を基に、発表とディスカッションを行い、理解を深めます。
第8回	ケーススタディ⑥： 北海道での国際観光ボランティアの取り組みに関する様々な事例を基に、発表とディスカッションを行い、理解を深めます。
第9回	ケーススタディ⑦： 北海道で実践する国際協力と観光SDGsに関する様々な事例を基に、発表とディスカッションを行い、理解を深めます。
第10回	第2回フィールドワーク： 観光現場で国際交流に携わるボランティア活動に参加します。
第11回	最終成果発表会準備1： 1年間の演習活動の成果を振り返り、学生同士で役割分担を決めて、発表資料を作成します。

第12回	最終成果発表会準備 2： 各学生が作成した発表資料を取りまとめ、プレゼンテーションの準備作業を行います。
第13回	最終成果発表会： 3 学年全ゼミが集まる成果発表会で、プレゼンテーションを実施します。

事前・事後学修	事前学修としては、文献資料の収集・熟読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行います。事後学修としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容をまとめる作業を行います。授業内容に関連するニュースも意識的に毎日チェックするようにしましょう。 事前・事後学修に必要な時間はともに2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業レポート：30% プレゼンテーション（個別研究発表、最終成果発表）：40% フィールドワーク：30%
テキスト	特になし。
参考文献	授業中に指示します。

備考	本演習では、学内外でのイベントやアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むバイタリティが必要です。国際協力ボランティアにも参加します。 フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助の場合もあります。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][齋藤(修)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地に関する地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う方法を学ぶことを目的としている。そして、４年生で行う卒業論文制作に必要な基本的な技能を修得する。 具体的には、各自が調査したい空間を決め、それにむけた調査や研究をアシストすることを行う。 パワーポイントやレジュメなどで各自が調査した内容などを発表し、他の学生から意見をもとめる形式をとる。 また、各自が調査したい空間へ全員でフィールドワークし、協力することもある。 3年生の最後には成果発表会も予定している。
到達目標	①協働作業に積極的に関与することができる。 ②自ら定めたテーマに基づき論理的にまとめることができる。 ③他者の発表に対して批判的な見方をし、指摘することができる。 ④発表活動を通じて、自らの研究を深めることができる。 ⑤論理的な発表活動ができる。
授業の進め方	各自が行いたい研究テーマ（課題の設定）に基づき、研究を深化してもらう。そのため、それについて調査し、わかりやすく発表してもらう。 成果発表会や4年生での卒業論文にむけて、パワーポイントにまとめることを重視する。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ゼミ生全員からの意見をもとに次の発表に活かす。 データ等が足りないと判断した場合は各自で文献調査、現地調査を実施し、よりよい発表を目指す。

授業計画表

回	授業内容
第1回	秋学期のガイダンスと研究内容のパワーポイントによる発表1 ＊現状の研究状況をそれぞれ発表してもらう 必要部分のフィールドワーク計画
第2回	フィールドワーク1 ＊空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第3回	フィールドワーク2 ＊空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第4回	フィールドワークのまとめ ＊調査活動を受けた発表
第5回	研究テーマ活動1 ＊パワーポによるによる全体発表とディスカッション
第6回	研究テーマ活動2 ＊パワーポによるによる全体発表とディスカッション
第7回	研究テーマ活動3 ＊パワーポによるによる全体発表とディスカッション⇒卒業研究概要レポート作成へ

第8回	研究テーマ活動4 ＊パワーポによるによる全体発表とディスカッション⇒卒業研究概要レポート作成へ (成果発表会へむけて)
第9回	成果発表会用パワーポイント作成
第10回	成果発表会準備 1 ＊ゼミ内選抜
第11回	成果発表会準備 2 ＊シミュレーション
第12回	成果発表会 1
第13回	成果発表会 2

事前・事後学修	個々の発表内でディスカッションするので、そこで討議された内容を活かし、次のにむけた活動とする。 4年生にむけた研究テーマを決定し、各自によるデータ整理など、発表のためのまとめる活動が必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①協働作業状況 10％ ②研究の論理 20％ ③発表に対する態度 20％ ④研究の深化 10％ ⑤発表活動 40％
テキスト	特になし 各自の研究に必要なものを各自で用意すること
参考文献	特になし 各自の研究に必要なものを各自で用意すること

備考	・夏休み（8月22日）に南富良野高校で行われる小中高生との交流事業も評価の対象となる。 ・4年生でのゼミまで継続履修することになる。4年生のゼミでは卒業論文を書くこととなる。その意思がある場合のみ履修してください。 ・できれば以下の授業の履修をしてほしい。 ＊「観光地理」「観光と歴史文化」 ・学生個々が計画するフィールドワーク（春学期に実施できなかった場合）にも協力することがあるので、長時間歩くことも予想される。また、それに伴う交通費がかかる。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][田村(こ)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S

担当教員

氏名	所属
◎ 田村　こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、多様な主体と連携をして、誰もが安心・安全に暮らせる環境を目指し、ユニバーサルな対応や地域社会の歴史や文化・自然資源などの基礎を学修していきます。観光を地域から捉え、食文化やイベントなどの観点からの観光まちづくりについて、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行い、協働しながら主体的に取り組む姿勢を身に付けます。
到達目標	地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。 地域社会に関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。
授業の進め方	【講義方法】 文献調査だけではなく、フィールドワークや実習等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。 ※以上の構成で進める予定ですが、受講生の人数やフィールドワーク等の諸事情により変更になる場合があります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対して、講義の中でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	観光と地域の応用（1）
第3回	観光と地域の応用（2）
第4回	地域調査（1）フィールドワーク等含む
第5回	地域調査（2）フィールドワーク等含む
第6回	地域調査（3）フィールドワーク等含む
第7回	地域調査（4）フィールドワーク等含む
第8回	振り返りと報告
第9回	演習発表の資料作成（1）
第10回	演習発表の資料作成（2）
第11回	演習発表の資料作成（3）
第12回	演習発表
第13回	演習報告会

	【具体的な内容】 ・地域社会に関心を持ち、常日頃からニュース・新聞・文獻・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。 2025/04/01

事前・事後学修	・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に努めること。 ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行うこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・課題レポート：40% ・ディスカッション・発表：30% ・最終課題：30%
テキスト	適宜資料を配布します 必要に応じてテキストや文献を紹介します
参考文献	必要に応じて参考文献を紹介します

備考	・救命救急に関する受講を予定しています。 ・フィールドワークや実習等の費用は、基本的に自己負担ですが、一部助成があります。

年度	2025
講義名称	3年演習(応用)[観光][竹島]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06304S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	ブライダルビジネスを体系的に理解するために、先ず実際のブライダル商品の組み立てや収益性について学習します。 その後、各自が自由なテーマを掲げ、実現が可能な範囲で、プログラム、会場コーディネート、衣装などにこだわり、バーチャルな披露宴をプランニングし、プレゼンテーションを行います。 また、ホテルにおけるブライダルの役割や宿泊部門・レストラン部門等との関連性についての学習も行います。
到達目標	1.ブライダル商品を研究する事で、商品の組み立てと収益性を説明できる。 2.バーチャルな披露宴をプランニングする事で、発想の柔軟性を養う。 3.接客者としての基礎を学び、美しい笑顔ときちんとした挨拶、正しい言葉づかいや動作などを行う事ができる。
授業の進め方	1.プリントや関連資料により説明を行います。 2.毎回テーマを与え、ディスカッションを行い、能動的な授業を目指します。 3.バーチャルな披露宴のプランニングでは、事前に組み立ての基本やプランニングのポイントなどを学ぶため、結婚式に参列経験がない学生でも、問題なく履修が出来ます。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で事例を豊富に挙げ、わかりやすく解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・ブライダル商品の事例研究 1 ～実際に販売されているブライダル商品の研究～
第2回	・ ・ブライダル商品の事例研究 2 ～実際に販売されているブライダル商品の収益性の研究～
第3回	・ウェディングプロデュースの基礎知識 1 ～披露宴の演出とプログラム～
第4回	・ウェディングプロデュースの基礎知識 2 ～実際の披露宴動画の視聴～
第5回	・ウェディングプロデュースの基礎知識 3 ～会場のコーディネート～
第6回	・バーチャル披露宴のプランニング 1
第7回	・バーチャル披露宴のプランニング 2
第8回	・バーチャル披露宴のプランニング 3
第9回	・バーチャル披露宴のプレゼンテーション
第10回	・ウェディングプランナー 接客の基本 1
第11回	・ウェディングプランナー 接客の基本 2
第12回	・まとめ ・ゼミ全体発表の準備

第13回	・ゼミ全体発表

事前・事後学修	SNSやニュースなどでプライダルに関連する話題に興味・関心をもって下さい。 毎回の授業でプリントを配布しますので、授業後、重要なポイントは復習ノートを作りまとめてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	プランニング・プレゼンテーションの成果40％ 課題に対する取り組姿勢30％ ディスカッションの参加意欲・内容30％
テキスト	適宜、教員よりプリントを配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、プライダル業界やホテル業界において、ウェディングプランナーや人材育成、ウェディングプロデュース等の実務経験のある教員が担当します。 現場で体験した事や、業界の現状や今後についても詳しく解説します。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][河本]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	「観光」というコトバから想起されるイメージは、主に形のあるモノであったり風景であったりする場合が多いのではないのでしょうか。実は、観光資源には「音・音楽」といった”消えモノ”も含まれるのです。例えば、その場所へ行かないと聞くことができない音、ある期間しか聞くことができない音楽などがそれに該当します。このような音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド＆ミュージック・ツーリズムという概念から捉え、新しい時代の観光プランの創発を目指します。
到達目標	ミュージック・ツーリズムについて、自分なりの考えを示すことができる。
授業の進め方	毎回のテーマに沿って対話するゼミナール形式で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）から学生が主体となって進めていくゼミナール形式を中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【Season1】音・音楽という概念を広げる 音・音楽を語る切り口 マリー・シェーファアの「音風景」や、いわゆるASMR（Autonomous Sensory Meridian Response）含む思い出のあの歌あの音あの風景を語り合う	対面
第2回	スマホを持って街へ出かけよう（※1） 心地良い音やそれに付随する風景の収録またはネット検索	対面
第3回	音・音楽を演奏、記録再生する装置の今 “ハコモノ”（本学シアター）、バイノーラル・マイク収録による立体音源の試聴、音の可視化（スペクトルアナライザ）や触覚化の体験、VOCALOIDの今昔物語など	対面
第4回	Season1のまとめ 学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面
第5回	リンツ（オーストリア）で開催されたサウンド・クラウドという屋外イベント 究極の二次創作！富田勲のシンセサイザー作品（1984年）をライン川の河辺で演奏	対面
第6回	CASH BOX（神戸）というライブハウスを中心に育つ音楽コロニー	対面
第7回	菓子店か？音楽ホールか？ 六花亭の小田豊さんの考え（帯広・中札内・札幌※1）	対面
第8回	いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置（※1）	対面
第9回	アルテ・ピアッツァ美唄：木造校舎がリノベーションでアート空間に（※1）	対面

第10回	Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面
第11回	【Season3】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例検討（※2） 学生が集めた事例発表と検討会その1	対面
第12回	学生が集めた事例発表と検討会その2	対面
第13回	Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価	対面

事前・事後学修	◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。 ◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。 ◇必要な時間：各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	A:各回の最後のコメントシート 13回×5点=65点 評価の観点：理解度について評価する。 B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート Season1：10点、Season2：10点、Season3：5点 合計30点 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。 C:ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C=100点
テキスト	テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。
参考文献	木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても開業しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	◇授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。 ◇グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。 ※1：実際に現地に行ける場合は、授業時間内外でフィールドワークとして実施する場合があります。原則として大学のバスを使用します。 ※2：情報収集に便利なツール（アプリ）やサイトも合わせて紹介します。事例発表の媒体は紙、パワポ、動画何でも構いません。大切なのは相手に伝わることです。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][荒木]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	全国の空港アクセスの分析を通じ、各空港の成り立ち、特徴点、位置づけ等を理解するとともに、多角度からの航空に関わる情報に触れることで「分析力」「考察力」の醸成を図る。
到達目標	空港アクセス分析を通じ、各空港の成り立ち、特徴点、位置づけ等を理解するとともに、各空港アクセス交通機関が持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に各交通機関が役割を果たしていく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に自論として説明できる。
授業の進め方	主には国土交通省航空局の「空港旅客動態調査」の統計データーをもとに、北海道内の主な空港アクセスの現状分析を行う。また最新の航空ニュースを取り上げ、全体でその内容を共有するとともに必要に応じ意見交換を行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	都度各自が進めているワークの進捗状況等を報告し、担当教員や他のゼミ生からのフィードバックを受ける。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス&ゼミの進め方について
第2回	メンバー紹介&空港アクセス分析の進め方
第3回	空港アクセス分析1
第4回	空港アクセス分析2
第5回	空港アクセス分析3
第6回	空港アクセス分析4
第7回	中間発表会
第8回	空港アクセス分析5
第9回	空港アクセス分析6
第10回	フィールドワーク（新千歳空港予定）
第11回	フィールドワーク（新千歳空港予定）
第12回	最終発表会
第13回	秋学期に向けての課題確認

事前・事後学修	研究テーマの調査・とりまとめ等で最低でも週5時間が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・発表会の内容(中間および最終) 60% ・都度の課題やワーク等における報告および説明の内容 20% ・参画意識（課題への取り組む姿勢、ゼミ出席率等）20%
テキスト	特に指定しません。都度必要な資料を共有します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、航空会社で33年間勤務し、営業、客室乗務、運航乗務、機体整備のサポート、空港旅客業務、空港運営管理など、全国で幅広いエアライン業務に携わってきました。これらの多岐にわたる実務経験を基に、航空業界の現場知識を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	このゼミはゼミ以外の自らの時間も使い計画的かつ積極的に調査研究していく自発的姿勢が必然的に求められます。またフィールドワークの実施に伴い、交通費(新千歳空港予定)及び諸費用として一人 3,000円～5,000円程度必要となります。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][山田(芳)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	3年春学期演習（基礎）「ホテルゼミ」は、ホテル産業における基礎知識習得と秋学期後半からの就活対策を目的に研究を進めています。 ① フィールドワークで各施設へ訪問して宿泊研究・視察研究・現地研修などを取り入れ、ホテルを「見て・利用して・五感で感じる」ことを念頭に実施します。これは観光産業の中で、ホテルが果たす役割、地域への貢献、雇用の受け皿を考える研究の一環となります。 ② マネジメント（管理職）の観点からホテルの構造を見れる人材になることを目的として国家検定に挑戦します。 ホテル・マネジメントとは、①収益管理力 ②企画力 ③課題解決力 ④管理運営力 ⑤専門知識 の5つの専門能力に対し、本ゼミではホテル組織の「係長、主任、リーダー等」にあたる「ホテル・マネジメント技能士（3級）」の国家資格取得に挑戦します。 現在の宿泊業界はサービス技能だけではなく、経営数値の理解や分析など管理能力を有し将来マネージャー（管理職）になる人材が大学生に求められています。 ホテル・マネジメント技能国家検定試験は、毎年9月学科試験、11月実技ケーススタディ試験が実施されます、就職活動に向けて有益な国家資格取得を目指します。 3.ゼミ生は夏季集中講座「インターンシップⅢ（ホテル人材育成総合講座・学外ホテル演習）」の演習（座学と実践）に参加します。 集中講座は今年から新しく開講される高度なホテル人材育成総合講座として、実際にホテルや関連施設を会場に2週間開講いたします。 社会経験を目的とした通常のインターンシップとは違い、深い運営知識と実践を組み合わせたプログラムを学びホテルビジネスに必要な総合的知識と技術習得を目指します、これらはホテル志望学生にとって就活直前の準備に大変役立ちます。 【ゼミ参加の要件】 ① 本ゼミ履修希望者は、将来進路選択肢として真剣にホテル就職を考えている学生、進路に未だ迷っているがホテルに興味がありホテルを選択肢の一つとして学びたい学生を歓迎します。 ②本ゼミ参加の場合、次にあげる二つの科目を選択することが必須となります。 a. 夏季集中演習「インターンシップⅢ（ホテル人材育成総合講座・学外ホテル演習）」を履修することが必要です。 b. ホテルマネジメント技能国家検定：9月（学科試験）11月（実技試験）に挑戦することが必要です。 ゼミ授業内で過去問を利用して国家試験対策を行います。 ※その他、ホテルゼミ生は「宿泊経営概論（秋1）」「ホテル開発概論（春1）」「ホテル演習（夏集中）」「ホテルビジネス実務」等専門科目をホテル知識の幅を広げるため積極的に履修をしてください。
到達目標	【到達目標】 ① 2年間継続するゼミでホテルの運営・経営の仕組みを体系的に習得する ② ホテルの所有・経営・運営に必要とされる専門知識を学び習得する ③ 地元札幌では国際級ホテルの開業が毎年続く環境の中で国際的視野を持つ人材に成長すること
授業の進め方	【講義方法】 グループワークやフィールドワーク（宿泊視察研究）を取り入れ能動的な演習を目指します、国家試験対策は過去問を基本に学習をします。 また、ホテル・リゾート・観光旅館のインターンシップ参加前には、必須とされる「基本的なマナー・礼儀・身だしなみ・言葉遣い」等の基礎的マナーを指導します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 ・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内またはメール返信、掲示板ニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。 2025/04/01

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①（３春１） 演習ガイダンス 演習内容説明、授業の進め方、成績評価方法	
第2回	②（３春１） マネジメント総論 宿泊産業の現状動向、種類、経営形態、所有形態	
第3回	③（３春１） 経営戦略、経営管理 経営戦略の体系、経営K P Iについて	
第4回	④（３春１） 会計概論 簿記に関する知識、ホテル会計に関する知識	
第5回	⑤（３春１） 財務会計 貸借対照表・損益計算書の分析	
第6回	⑥（３春１） 管理会計・予算管理 主要業績指標（K P I）の理解	
第7回	⑦（３春１） サービス管理 サービス品質管理、顧客ロイヤリティについて	
第8回	⑧（３春２） フィールドワークの準備 研究訪問先の事前調査	
第9回	⑨（３春２） フィールドワーク ホテル視察調査・研修	
第10回	⑩（３春２） 活動とりまとめⅠ グループワーク（プレゼン資料作成・準備）	
第11回	⑪（３春２） 活動とりまとめⅡ グループワーク（プレゼン資料作成・準備）	
第12回	⑫（３春２） 研究成果発表 グループプレゼン	
第13回	⑬（３春２） ３年ゼミ春学期総括および秋学期研究について	

事前・事後学修	【具体的な内容】 観光に関する情報、ニュースを常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。 ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	2つの評価項目総合点（１００点満点）により単位認定をおこなう ・学びの姿勢・フィールドワーク・グループワークへの積極性：配分５０％（５０点） ・成果物完成度、プレゼン力：配分５０％（５０点）
テキスト	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・必要に応じ適宜お知らせします。
参考文献	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・必要に応じ適宜お知らせします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして豊富な実務経験を有しています。 北海道から沖縄まで都市ホテルやリゾートホテル、外資系ホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して最新の情報提供を行う。 また、就職活動においても同様に人脈を駆使して学生の希望を実現できるよう最後までバックアップをします。
備考	・宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。 ・交通費、食事代等の費用が一人5,000円/毎 程度必要になります。 ・訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程調整は必須。 ・F W実施日の遅刻や欠席は春学期の評価対象外となるのでご注意ください。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][横田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本ゼミのテーマは「推し旅 特にスポーツ・ツーリズム」です。 特に3年ゼミは 推し（好き）の心をもとに旅をするツーリズムに注目します。 ゼミではスポーツツーリズムを主要テーマとして、JALマラソン、コンサドーレ札幌、レバンガ北海道を応援するファンを取り込むツーリズム戦略について議論を重ねます。 ファン（推し）が喜ぶサービスとは何でしょう？ 応援するチームのために、ファン（推し）はどのような行動をとるのでしょうか？ このファン（推し）の消費行動をもとに、楽しみ方や試合後の周辺観光の在り方なども考察します。 このゼミの学外研修は JAL 日本航空の全面協力を得て実施します。
到達目標	スポーツツーリズムをつうじて、観光の基本的知識を身につけ、地域振興について考えることができたか。 ファン（推し）の心理を理解し、心を射止めるサービスを見つけ出すことができるか。
授業の進め方	サッカーや野球などさまざまなスポーツがありますが、ゼミメンバーでテーマを定めて取り組みます。 また、JALマラソン、JAL北海道コンサドーレ札幌主催試合、レバンガ北海道の試合について協力など現地研修を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Webclassなどをつうじて適宜フィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	スポーツツーリズムとは ファンを取り込む戦略（ファンクラブ）について考察	対面
第3回	スポーツツーリズム マラソン編 各種マラソンとそのファンを研究する。	対面
第4回	千歳JAL国際マラソン（2025.6.1）ボランティア協力	フィールドワーク
第5回	ファンクラブ研究① ファンクラブの魅力（グッズ販売・特典比較）に関する各チームの考察	対面
第6回	ファンクラブ研究② ファンクラブの魅力（グッズ販売・特典比較）に関する各チームの考察	対面
第7回	ファンクラブ研究③ ファンサービス（ファン感謝祭）に関する各チームの考察	対面
第8回	ファンクラブ研究④ ファンサービス（ファン感謝祭）に関する各チームの考察	対面
第9回	ファンクラブ研究⑤ ファンサービス（推しに刺さるサービスとは）に関する各チームの考察	対面

第10回	ファンクラブ研究⑥ ファンサービス（推しに刺さるサービスとは）に関する各チームの考察	対面
第11回	ファン経済圏に関する研究 … 楽天経済圏、JALマイル経済圏、ANAマイル経済圏	対面
第12回	春学期のまとめ、ふりかえり	対面

事前・事後学修	スポーツが好きで、調べようとする応援チームに何時間も費やすことができるという好奇心が求められます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①ファンクラブゼミ内発表 30% ②グッズ販売ゼミ内発表 30% ③研究のまとめと発表 40%
テキスト	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。

備考	2年春学期開講科目「観光とスポーツ」（横田久貴）の履修を推奨します。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][呉]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	韓国でも大人気の観光地である北海道。近年、韓国人観光客の増加が著しいですが、北海道の意外な場所が韓国人観光客の人気スポットになることもあります。そこで、呉ゼミでは、観光韓国語や韓国文化を学ぶと同時に、訪日韓国人観光客の観光行動を研究しながら、インバウンド向け旅行プランを提案したり、おすすめの観光スポットやグルメ・コスメ紹介など、SNSを活用して日本そして北海道の魅力を韓国語で発信する活動を行います。また、韓国の大学との学生間交流を通して異文化理解を深め、グローバル観光に欠かせない国際感覚を身につけていきます。
到達目標	①観光業の現場で使える韓国語を習得することができます。 ②韓国の社会・文化に関する知見を得ることで異文化への理解を深めることができます。 ③種々の専門知識（国際観光・異文化理解・韓国語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ④異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。 ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、春学期のゼミ活動内容を共有し、意見交換を行う。
第2回	国際観光探求基礎（韓国）1： 韓国人観光客の観光行動について調査を行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第3回	国際観光探求基礎（韓国）2： 第2回の授業で行った内容をもとにディスカッションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第4回	国際観光探求基礎（韓国）3： 第3回の授業で行った内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第5回	国際観光探求基礎（韓国）4： 第4回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第6回	国際観光探求基礎（韓国）5： 札幌市の姉妹都市である韓国・大田広域市についての知見を得る。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第7回	国際観光探求基礎（韓国）6： 第6回目の授業内容をもとに韓国・大田広域市の観光地について調査する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第8回	国際観光探求基礎（韓国）7： 第7回目の授業内容をもとに韓国・大田広域市の観光ルートを提案する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。

第9回	国際観光探求基礎（韓国）8： 第8回目の授業内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第10回	国際観光探求基礎（韓国）9： 第9回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第11回	国際観光探求基礎（日本）1： SNSを活用した北海道の情報発信にあたって、新たな観光資源の発掘を試みる。
第12回	国際観光探求基礎（日本）2： 第11回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。
第13回	国際観光探求基礎（日本）3、まとめ： 第12回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、これまでの学習内容を振り返り、意見交換を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、今回の授業内容の予習は2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「プレゼンテーション（40％）＋学期末課題（40％）」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など（20％）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。必要に応じて講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

備考	※中級レベルの韓国語能力を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」と「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][田中]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	◇着地型コンテンツ開発（JTB）、◇バス旅コンテスト（阪急交通社）、◇社会貢献は旅の付加価値になるか？ぶどう収穫★ボランティアツアー（コープトラベル）、これらを素材にビジネスコンテストアイデアに出場＝もちろん最優秀賞を狙って行きます！ 産学連携による課題解決を実践するので、旅行業のみならず課題解決力を求められる業種へのガクチカ満載です＝ESネタには困りません。 連携先：(株)JTB、(株)阪急交通社、(株)コープトラベルなど
到達目標	・エントリーシートのガクチカに書けるキャリアとスキルを習得します ・フィールドワークやグループワークから、PDCAの回しかた、実社会で使えるコミュニケーション能力の習得 ・プレゼンテーションの作成・発表により、課題の分析力、ロジカルな思考力、ストーリーがあり伝わるアウトプット力の習得
授業の進め方	ツアーの企画に向け、フィールドワークで現地の困りごとなどコンディションを調査し、グループワークによるディスカッション、そして仮説の設計からプレゼンテーションという一連のPDCAを回す作業に取り組みます。 本演習は旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループワークやプレゼンテーションの作成・発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	昨年実施のぶどう収穫★ボランティアツアー振り返り	対面授業
第3回	バス旅コンテスト出場準備	対面授業
第4回	【FW】仁木ドメヌプレス	対面授業
第5回	ぶどう収穫★ボランティアツアー企画造成	対面授業
第6回	ぶどう収穫★ボランティアツアー企画造成その2	対面授業
第7回	ぶどう収穫★ボランティアツアー販売促進	対面授業
第8回	バス旅コンテスト出場準備	対面授業
第9回	バス旅コンテスト開催準備	対面授業
第10回	バス旅コンテスト本番	対面授業
第11回	さくらんぼ収穫ボランティア準備	対面授業
第12回	【FW】さくらんぼ収穫ボランティア本番	対面授業
第13回	ぶどう収穫★ボランティアツアー販売促進その2	対面授業

事前・事後学修	事前事後それぞれ2時間程度を目安とします Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・授業レポート提出内容：30% ・フィールドワーク・グループワーク参加姿勢：30% ・プレゼンテーション（中間成果報告）：40%
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBに33年間勤務し、観光コンテンツの企画・開発において数多くの実績を積み重ねてきました。国内外の観光業界のニーズを理解し、創造性を活かして地域活性化に貢献してきた実務経験を基に、観光学の理論と実践を結び付けた学びを提供する講義を展開します。
備考	※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][藤崎]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。そこで日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。
到達目 標	北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。
授業の 進め方	観光系ベンチャー事業者のケーススタディを中心にフィールドワークなどを通して起業の基本を習得する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィード バックの方法	起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型のアクティブラーニングとする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	起業、起業家、アントレプレナーシップとは
第3回	日本の起業家・起業活動の実態
第4回	ケーススタディ（1）
第5回	ケーススタディ（2）
第6回	ケーススタディ（3）
第7回	フィールドワーク計画（1）
第8回	フィールドワーク計画（2）
第9回	フィールドワーク計画（3）
第10回	フィールドワーク計画（4）
第11回	フィールドワーク（1）
第12回	フィールドワーク（2）
第13回	フィールドワーク（3）

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。
2025/04/01	

	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	グループワーク等への関与 50% フィールドワークへの関与 50% ゼミ外での自発的な社会活動を評価するので申し出てください

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2〜3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][池見]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S

担当教員

氏名	所属
◎ 池見 真由	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	人々が日本から外国を訪れたり、外国から日本を訪れて、自国とは異なる文化や歴史、自然環境、衣食住などを知り、学ぶことができる観光は、国際交流を通じた異文化理解さらには国際平和につながる貴重なツールです。世界各地で抱えている環境問題や経済・社会・政治的な諸問題に、観光分野が活躍できる場は大いにあります。本演習では「北海道から発信する観光と国際協力」をテーマに、グローバルな思考力とローカルな地域貢献に活かせる実践力を身に付けます。北海道の観光資源や魅力を国内・海外に発信することの多様な可能性を探究し、国際協力やボランティア活動に参加しながら現場で学ぶことも目指します。
到達目標	・観光を取り巻く国際的な諸問題についての幅広い知識を習得し、自身の意見も含めて口頭や文章で説明することができる。 ・観光と国際協力に関する世界各国・地域の事例から現状と課題を理解し、自身の考えを提案することができる。 ・グループワークに積極的に取り組み、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身に付ける。
授業の進め方	ゼミナール方式で、文献調査、プレゼンテーション、ディスカッションを行います。グループワークやペアワークを通して学生自身によるテーマ設定、情報収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、そして報告という一連の作業に取り組みます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業毎に提出してもらうレポートを毎回チェックし、コメントを記入して返却します。レポート内容は適宜授業内で学生全員にも共有し、講評と意見交換を行うことでフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション： 本演習の概要説明、自己紹介、授業計画を行います。
第2回	観光と国際協力の意義： 観光が国際交流を通じた異文化理解や世界の平和につながる可能性について、講義とディスカッションを行います。
第3回	世界の観光地における諸問題①（途上国）： アフリカ諸国など発展途上国の観光事情や国家が抱える諸問題などについて、講義とディスカッションを行います。
第4回	世界の観光地における諸問題②（新興国）： アジア諸国など新興国の観光事情や国家が抱える諸問題などについて、講義とディスカッションを行います。
第5回	世界の観光地における諸問題③（先進国）： 欧米諸国など先進国の観光事情や国家が抱える諸問題などについて、講義とディスカッションを行います。
第6回	観光と国際協力に関する取り組み①（日本）： 日本で実践されている観光分野での国際協力の取り組みについて、事例を基にディスカッションを行います。
第7回	観光と国際協力に関する取り組み②（北海道）： 北海道で実践されている観光分野での国際協力の取り組みについて、事例を基にディスカッションを行います。
第8回	グループワーク①（テーマ設定、研究計画）： 学生自身が観光・国際協力・ボランティアの分野で興味のあるテーマを設定し、研究計画を立てます。
第9回	グループワーク②（情報収集、文献資料調査）： 学生自身が設定したテーマについて、情報収集および文献資料の調査を行います。
第10回	グループワーク③（フィールドワーク準備）： 学生自身が設定したテーマに関する現地調査（インタビュー、アンケートなど）の準備を行います。

第11回	フィールドワーク： 学内外で学生自身が準備した現地調査を実施します。
第12回	グループワーク④（データ整理・分析）： 現地調査の結果を集計・整理・分析し、報告準備を行います。
第13回	まとめ： 調査結果を報告するプレゼンテーションを行います。

事前・事後学修	事前学修としては、文献資料の収集・精読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行います。事後学修としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容をまとめる作業を行います。また学内外で実施するフィールドワークやボランティア活動にも参加します。 事前・事後学修に必要な時間はともに2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業レポート：30% 発表資料・プレゼンテーション：40% フィールドワーク：30%
テキスト	特になし。
参考文献	授業中に指示します。

備考	本演習では、世界の諸問題は決して他人事ではなく、日本または自分自身と無関係ではないという考え方・姿勢が基本であり、ボランティア活動に高い関心を持って参加することが求められます。さらに本演習では、個人の知識やスキルの向上だけでなく、集団（＝ゼミ）の一員として互いに学び合い・協力し合うチームワークの構築も目指します。 フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助の場合もあります。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][齋藤(修)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地に関する地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う方法を学ぶことを目的としている。そして、４年生で行う卒業論文制作に必要な基本的な技能を習得する。 具体的には、各自が調査したい空間を決め、それにむけた調査や研究をアシストすることを行う。 パワーポイントやレジュメなどで各自が調査した内容などを発表し、他の学生から意見をもとめる形式をとる。 また、各自が調査したい空間へ全員でフィールドワークし、協力することもある。
到達目標	①自らが調査したい空間、調査したいテーマを決めることができる。 ②精密な現地調査ができる。 ③協力して現地調査ができる。 ④地図製作やデータ分析ができる。 ⑤論理的な発表活動ができる。
授業の進め方	各自が行いたい研究テーマ（課題の設定）を見つけ、それについて調査し、わかりやすく発表してもらう。 先行研究などを調査したり、データを集めるために日帰りでのフィールドワーク（現地調査）を行うこともある。 ＊地図を片手に町中を歩くこともある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	地図製作活動やデータ処理活動の中で問題点をその都度指摘する。 個々の発表内でディスカッションするので、そこで討議された内容を活かし、次のにむけた活動とする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	全体ガイダンス ＊ゼミ選択説明
第2回	ゼミ内ガイダンス ＊ゼミ内で行う内容と研究に関する点
第3回	研究テーマ発表と調査活動準備 ＊5～10分のプレゼンテーション（各自が行いたい研究テーマの発表）
第4回	調査活動準備 ＊空間調査が必要な学生に協力するため、フィールドワークの内容を検討する。
第5回	フィールドワーク 1 ＊空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第6回	フィールドワーク 2 ＊空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第7回	フィールドワークのまとめと次回の協力 ＊調査活動を受けた発表 ＊次の空間調査が必要な学生に協力するため、フィールドワークの内容を検討する。

第8回	フィールドワーク 3 * 空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第9回	フィールドワーク 4 * 空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第10回	フィールドワークのまとめと次回の協力 * 調査活動を受けた発表 * 次の空間調査が必要な学生に協力するため、フィールドワークの内容を検討する。
第11回	フィールドワーク 5 * 空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第12回	フィールドワーク 6 * 空間調査活動協力（個々のテーマに沿った地域へ全員で行く）
第13回	フィールドワークのまとめと次回の協力 * 調査活動を受けた発表 * 次の空間調査が必要な学生に協力するため、フィールドワークの内容を検討する。 * 8月に行われる南富良野高校での交流事業への準備

事前・事後学修	各自の研究テーマを模索する際に、事前に先行研究を調べる必要がある。 必要となるデータを求める際には、現地調査のための地図などを事前に準備する必要がある。 現地調査後には、データ整理・分析活動、発表のための活動のための準備が必要となる。 ディスカッションによって得られた批判に対する回答も事後の発表に必要となる。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①調査空間、調査テーマの設定 20% ②現地調査の精度 20% ③現地調査の協働状況 20% ④地図製作やデータ分析 20% ⑤発表活動 20%
テキスト	特になし 各自の研究に必要なものを各自で用意すること
参考文献	久保健治『ヒストリカル・ブランディング 脱コモディティ化の地域ブランド論』角川新書

備考	・夏休み（8月22日）に南富良野高校で行われる小中高生との交流事業も予定しているが、秋学期の「応用」の評価に入れる予定である。 ・4年生でのゼミまで継続履修することになる。4年生のゼミでは卒業論文を書くこととなる。その意思がある場合のみ履修してください。 ・できれば以下の授業の履修をしてほしい。 * 「観光地理」「観光と歴史文化」 ・学生個々が計画するフィールドワークにも協力することがあるので、長時間歩くことも予想される。また、それに伴う交通費がかかる。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][田村(こ)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S

担当教員

氏名	所属
◎ 田村　こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、多様な主体と連携をして、誰もが安心・安全に暮らせる環境を目指し、ユニバーサルな対応や地域社会の歴史や文化・自然資源などの基礎を学修していきます。観光を地域から捉え、食文化やイベントなどの観点からの観光まちづくりについて、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行い、協働しながら主体的に取り組む姿勢を身に付けます。
到達目標	地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。 地域社会に関して関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。
授業の進め方	【講義方法】 文献調査だけではなく、フィールドワークや実習等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。 ※以上の構成で進める予定ですが、受講生の人数やフィールドワーク等の諸事情により変更になる場合があります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対して、講義の中でフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	地域社会と観光（１）
第3回	地域社会と観光（２）
第4回	地域社会：持続可能な観光（１）
第5回	地域社会：持続可能な観光（２）
第6回	観光と福祉：ユニバーサル対応（１）
第7回	観光と福祉：ユニバーサル対応（２）
第8回	観光と福祉の実践（１）
第9回	観光と福祉の実践（２）
第10回	観光と地域の事例（１）（フィールドワーク等含む）
第11回	観光と地域の事例（２）（フィールドワーク等含む）
第12回	観光と地域の事例（３）（フィールドワーク等含む）
第13回	まとめ　総括

	【具体的な内容】 ・地域社会に関心を持ち、常日頃からニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。 2025/04/01

事前・事後学修	・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に努めること。 ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行うこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業態度・課題レポート：40% ディスカッション・発表：30% 最終課題：30%
テキスト	適宜資料を配布します 必要に応じてテキストや文献を紹介します
参考文献	必要に応じて参考文献を紹介します

備考	・フィールドワークや実習等の費用は、基本的に自己負担ですが、一部助成があります。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光][竹島]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	ブライダル業界の研究およびウェディングプランナーとしての基本的知識として、挙式・披露宴・衣装・マナー・慣習などについて、幅広く学習します。 ウェディングプランナーやホテルエに興味のある学生には基礎学習になります。 また、自分が結婚式を行う時や、ゲストとして結婚式に参列する際の知識やマナーの習得にもなります。 授業の中で、教員からの説明や動画を視聴し基本を学ぶため、結婚式に参列経験がない学生でも、問題なく履修が出来ます。
到達目標	ウェディングプランナーやホテルエとして、ブライダルに関する基礎的な知識を習得し、説明できる。
授業の進め方	1.プリントや関連資料により説明を行います。 2.毎回、テーマを与えディスカッションを行い、能動的な授業を目指します。 3.フィールドワークによりホテルまたは結婚式場のチャペルや披露宴会場を視察し、学習の理解度を深めます。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で基本の考え方と実例を挙げ、わかりやすく解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・ブライダル業界の概要 ・ブライダル業界の業務内容
第2回	・ウェディングプランナーとしての心構えと自己の成長に必要なスキル
第3回	・挙式
第4回	・六輝（ろっき）、熨斗（のし）、水引（みずひき） ・配席
第5回	・衣装
第6回	・会費制（祝賀会）と招待制（披露宴）
第7回	・結納（ゆいのう）
第8回	・婚礼の料理と飲物
第9回	・披露宴 1
第10回	・披露宴 2
第11回	・フィールドワーク（ホテルまたは結婚式場の視察）
第12回	・ゲストとしてのマナー

第13回	・ 期末テスト ・ まとめ

事前・事後学修	SNSやニュースなどでブライダル話題に興味・関心を持ってください。 毎回の授業でプリントを配布するので、授業後、重要なポイントは復習ノートを作り、まとめてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末テスト50％ レポート25％ ディスカッションの参加意欲・内容25％
テキスト	適宜、教員よりプリントを配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ブライダル業界やホテル業界において、ウェディングプランナーや人材育成、ウェディングプロデュース等の実務経験のある教員が担当します。 現場で体験した事や、業界の現状や今後についても詳しく解説します。
備考	フィールドワーク時の昼食代金として、3,000円～5,000円程度の費用がかかります。

年度	2025
講義名称	3年演習(基礎)[観光・秋入生][齋藤(修)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06303S

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、観光学を研究する上で必要な内容を編入生用を実施することである。 特に大学院進学が多い留学生を対象とした基本的な研究方法を講義と現地調査で実施する。
到達目標	①研究する上で必要な知識を理解できる。 ②文献を適切に活用できる。 ③調査で得たデータをまとめて研究に活用できる。 ④協働して調査活動を行うことができる。 ⑤成果を論理的に発表し、まとめることができる。
授業の進め方	文献やフィールドワーク（現地調査）をもとにして、個々を中心に発表活動（パワーポイントとレジュメ発表）を行う。 また、その発表したものを文章化してレポートとして提出する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	発表活動の中で問題点を指摘する。 発表活動を通じて、事後の活動の改善につなげる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス ＊大学での研究について ＊観光に関する概念 ＊小樽フィールドワークにむけて
第2回	小樽運河エリアフィールドワークにむけて ＊小樽についての発表活動（パワーポイントによる発表） ＊小樽（小樽運河エリアの概要、調査の目的、調査エリアの設定など）
第3回	小樽運河エリアフィールドワーク 1
第4回	小樽運河エリアフィールドワーク 2
第5回	小樽運河エリアフィールドワーク 3
第6回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析 1 ＊地図化とデータ化
第7回	地図化とデータ化から分析した内容の発表 ＊各自で分析した内容をパワーポイントで発表

第8回	図書文献を利用したレジュメ発表 1（概要説明と準備） ＊「小樽」「観光」というキーワードで、各自が疑問を持つ点に関するテーマでレジュメ発表する。 - ただし、Web資料以外を参考文献として、準備をする。 ＊図書館の使用の仕方の説明も受ける。 ＊参考文献の大切さ、剽窃に関する説明も行う。
第9回	図書文献を利用したレジュメ発表 2（発表活動） ＊「小樽」「観光」というキーワードで、各自が疑問を持つ点に関するテーマでレジュメ発表する。 - 準備をしたものを発表し、質疑を受け、内容を深める。 ＊次回はパワーポイントによる発表となるので、そのための準備もする。
第10回	図書文献を利用したパワーポイント発表（発表活動） ＊「小樽」「観光」というキーワードで、各自が疑問を持つ点に関するテーマでパワーポイントで発表する。 - 前回実施したレジュメ発表のものをパワーポイントに作成しなおし、発表し、質疑を受け。内容を深める。
第11回	該当図書を利用したレジュメ作成と発表活動 ＊「観光学」に関する指定文献を割り当て、それを要約したレジュメを作成し、発表する。 （前時に割り当てなどを発表し、宿題とする） ＊その内容をレポートとする。（とりあえずワードで作成し、次時に持参する）
第12回	該当図書を利用した発表活動のレポートとしての提出 ＊レポートに関する講義 ＊レポート作成上の形式 ＊持参したワード形式のレポートを時間内で形式を整え、時間内に正式なものを提出する。
第13回	講義のまとめと最終レポート作成について ＊課題レポート（仮テーマ「観光空間を創造するための視点」）を作成するために図書館で資料をみつける。 ＊提出期限など

事前・事後学修	・現地調査（フィールドワーク）前の調べ学習がある。（デスクワークと発表活動） ・現地調査（フィールドワーク）後のデータ整理など、まとめる活動が事後にある。 ・レジュメ発表、パワーポイント発表など事前に行わなければならない活動がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①研究する上で必要な知識20% ②文献の適切な活用20% ③データ活用方法20% ④協働した調査活動20% ⑤発表活動20%
テキスト	・必要なものを各自で用意すること
参考文献	・田中共子編『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房, 2019 ・前田勇『新現代観光総論 第2版』学文社,2018

備考	・必ず「3年演習（応用）」も秋学期に履修すること。アドバイザーは「3年演習（応用）」の担当者である。 ・フィールドワークは土曜日の予定である。時間を空けておくこと。フィールドワークでは2時間以上歩くことがある。また、それに伴う交通費がかかることもある。 ・留学生は、日本人と交流し、日本語能力を高めるように日頃から努力すること。

年度	2025
講義名称	2年演習(応用)[観光][河本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06302S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	春学期に知ってもらったヒューマンビートボックス・ボイパ（アカベラ）系音楽やオペラ・キャラクターショーの可能性と意義及び、観光との接点について仮想実践を行います。特に、ミニマム・コミュニティ（生活圏）の中で、どのように企画運営されると観光との接点生まれ収益化されていくかについて、多岐多様な因子（ファクター）を考えることを目的とします。
到達目標	ミニマム・コミュニティでの音楽イベントを仮想的に立ち上げ、その意義や実施の仕組み観光との接点など、音楽イベントを多岐多様な因子から捉えられるようになることを目指します。
授業の進め方	ゼミナール形式でPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）を進めます。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくこと方法を確実な能力として定着させていきます。そのためにバーチャルゲームのような方法を取り入れます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「応用」（秋学期）は学生が主体となって勤めていくゼミナール形式の基盤づくりを、PDCAサイクルや、ループリックを使った評価法によってフィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【Season4】ミニマム・コミュニティにおける音楽と観光の接点と課題 基調対談：ミニマム・コミュニティとは何だろうか（一部YouTube使用）	対面
第2回	グループ・ワーク第1回：ミニマム・コミュニティでの音楽イベントの利点	対面
第3回	グループ・ワーク第2回：ミニマム・コミュニティで起こりそうなトラブル	対面
第4回	グループ・ワーク第3回：ミニマム・コミュニティにおける音楽と観光の接点	対面
第5回	発表：第1回から第3回のグループワープのまとめを発表する（※1）	対面
第6回	【Season5】グループ・ワークによるプランニング グループ・ワーク第1回：収益化できるイベントを企画する。 ヒューマンビートボックスやボイパあるいは、それ以外の音楽やキャラクターショーなどを絡めた収益化が見込めるイベントを企画する。単にアイデアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。	対面
第7回	グループ・ワーク第2回：収益化できるイベントを企画する。	対面
第8回	グループ・ワーク第3回：収益化できるイベントを企画する。	対面
第9回	グループ・ワーク第4回：収益化できるイベントを企画する。	対面
第10回	発表：企画したイベントを発表する（※2）	対面

第11回	【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正	対面
第12回	グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）	対面
第13回	ゼミ発表：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介、授業評価	対面

事前・事後学修	◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。 ◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。 ◇必要な時間：各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	A:各回の最後のコメントシート 13回×5点=65点 評価の観点：理解度について評価する。 B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート Season1：10点、Season2：10点、Season3：5点 合計30点 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。 C:ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C=100点
テキスト	テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体は何でもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。（Evernoteを推奨）
参考文献	和野内崇弘『北海道の宿題』ISBN4-901336-10 ※本学図書館に所蔵

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても開業しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは自由とします。 ※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。 ※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取します。

年度	2025
講義名称	2年演習(応用)[観光][新海]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06302S

担当教員

氏名	所属
◎ 新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	従来型の日本の観光コンテンツは、寿司や茶道、神社、着物といったいわゆる「典型的な日本らしいもの」に偏っている。インバウンド観光客をより呼び込むためには、埋もれた観光コンテンツの発掘が必須である。本ゼミでは、訪日外国人に対するインタビューを通じて、日本人にとってはありふれているけれども、外国人から見ると目新しいモノ・景色・文化を調査することで、潜在的な可能性を秘めた新たな観光コンテンツの発掘を目指す。ゼミ活動を通じて、訪日外国人観光客の実態やインタビューによる質的研究法の基礎、埋もれた観光コンテンツの発掘に成功した先進地域の事例を学ぶ。 秋学期では、春学期で学んだ内容を基礎に、より北海道観光に特化した内容を扱う。
到達目標	○インタビューによる質的研究法の基礎を学ぶ。 ○訪日外国人観光客の潜在的なニーズを把握する。 ○インバウンド観光振興の先進的な成功事例を学ぶ。 ○新たな観光コンテンツを創造する。
授業の進め方	本ゼミは、講義、個人プレゼンテーション、フィールドワーク、グループ発表から構成される。詳細は以下の通りである。 ○講義：訪日外国人観光客の実態や質的研究法など、本ゼミの関連知識を教員が講義する。 ○個人プレゼンテーション：割り当てられたテーマに基づき、インバウンド観光振興の海外成功事例（1人1事例）を調査し、発表する。 ○フィールドワーク：訪日外国人観光客に各グループがインタビュー調査する。 ○グループ発表：インタビュー調査に基づき、新たな観光コンテンツをグループ毎に提案する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各プレゼンテーションやグループ発表に対して、発表者以外の学生の意見や感想を適宜聴取した上で、教員がその場で良い点や改善点をコメントする。 最終グループ発表の際には、外部専門人材を招聘し、グループ毎の講評を行ってもらうことを予定している。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／春学期の復習
第2回	北海道観光の歴史 1
第3回	北海道観光の歴史 2
第4回	現代の北海道観光 1／個人プレゼン 1
第5回	現代の北海道観光 2／個人プレゼン 2
第6回	北海道とインバウンド観光 1／個人プレゼン 3
第7回	北海道とインバウンド観光 2／個人プレゼン 4
第8回	フィールドワーク
第9回	オーバーツーリズム 1／個人プレゼン 5
第10回	オーバーツーリズム 2／個人プレゼン 6
第11回	未来の観光 1／個人プレゼン 7

2025/04/01

第12回	未来の観光2／個人プレゼン8
第13回	最終プレゼン・最終講評

事前・事後学修	自身の発表当日までに、割り当てられたテーマに基づいて観光振興の成功事例を調査し、発表の準備を整えておくこと。 フィールドワーク調査後は、グループ単位で最終プレゼン発表の準備を行うこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	○授業への姿勢（出席率、積極性、授業態度など）：30％ ※発言内容の正否は問わず、発言量が多い者ほど評価する。 ○個人プレゼンテーション：30％ ○グループワークでの取り組み：40％ 筆記試験は実施しない。
テキスト	教科書の指定はなし。 必要に応じて授業内でプリントを適宜配布する。

備考	フィールドワークは札幌市内もしくは近郊で行う予定である。 上記授業計画は順次入れ替わる可能性がある。 [求める学生像] インタビュー調査に当たっては適宜翻訳・通訳アプリの使用を認めるため、具体的な英語能力要件は問わない。 ただし、初対面でも外国人と楽しくコミュニケーションを取ることができる学生を求める。

年度	2025
講義名称	2年演習(応用)[観光][斉藤(巧)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06302S

担当教員

氏名	所属
◎ 斉藤 巧弥	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	「悲しみの記憶をたどる観光」のことをダークツーリズムと言う。本授業では春学期の内容をもとにして発展的に調査をおこないつつ、ダークツーリズムについて紹介をする冊子の作成を目指す。冊子の内容は、ダークツーリズムの紹介から調査分析結果の報告まで、授業を通してグループごとに検討する予定である。
到達目標	この授業を修了することによって受講者は、 ①ダークツーリズムの基礎について理解することができるようになり、 ②ダークツーリズムという視点から多様な観光資源を捉えることができるようになり、 ③ダークツーリズムの多様なあり方に関心を持つことができるようになり、 ④ダークツーリズムという現象を批判的に分析・考察できるようになる。
授業の進め方	学期の前半では、グループに分かれてテーマを設定する。そのテーマのもとで冊子内容を検討し、そのために必要な調査計画を立て、調査を実施する。調査結果などは中間報告において発表をする。学期の後半では、調査した内容を冊子として形にしていく。冊子の作成方法について確認をしたのち、原稿執筆の担当を決めて執筆を進める。原稿を完成させたのちに冊子のデザインやレイアウトなども検討しつつ、記事の作成を進める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内の調査、発表、冊子作成の取り組み、最終成果物について、口頭でのフィードバックをおこなう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：ダークツーリズムのコンテンツ化：春学期での学修内容を振り返りつつ、本学期の授業内容について説明をする。ダークツーリズムを紹介する冊子作成というコンテンツ化の取り組みについて、説明をする。
第2回	調査（１）：テーマと冊子内容の検討：グループに分かれ、冊子としてまとめるテーマを設定し、内容（目次）について検討をする。これまでに発行されている書籍などとは異なる、オリジナルでユニークなテーマを検討する。調査のために必要な作業や担当者を検討する。
第3回	調査（２）：資料収集（二次資料）：調査にあたり必要な文献（二次資料／学術論文や調査報告書など）を収集する。
第4回	調査（３）：資料収集（一次資料）：直接の分析対象となる資料（一次資料／雑誌記事、新聞記事、写真、地図、インタビューデータ、アンケートデータ）を収集する。
第5回	調査（４）：フィールドワーク：必要に応じてテーマに関するフィールドワークを実施し、データの収集をする。（具体的な日時は要調整）
第6回	調査（５）：データのまとめ：収集したデータをまとめ、分析し、発表の準備をする。
第7回	中間報告：収集したデータをまとめ、調査内容と結果について報告をする。また冊子の内容について調整ののち、再度紹介をする。
第8回	執筆（１）：冊子作成方法の基礎：冊子作成にあたって必要な基礎的スキルについて学修をする。場合によっては、Adobe Illustratorなどの専門ソフトの演習もおこなう。

第9回	執筆（２）：原稿作成（第一校）： 担当ごとに原稿を作成し、受講生間でフィードバックをおこなう。
第10回	執筆（３）：原稿作成（第二校）： フィードバックをもとに担当ごとに原稿を校正していく。
第11回	執筆（４）：デザイン作成： 作成した原稿を冊子記事としてレイアウト化していく。
第12回	執筆（５）：校正作業： 作成した記事を全員で校正する。
第13回	執筆（６）：校正作業と発表： 完成した冊子について、これまでの調査内容にも触れつつ紹介・発表をする。

事前・事後学修	本授業では多様な資料や本を積極的に読むことが求められる。参考文献に挙げた図書などを使った勉強に、それぞれ2.5時間を目安に取り組む。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内における調査と発表、冊子作成の取り組みと最終成果物の完成度によって評価をする。いずれにのタスクにおいても、到達目標のすべてが評価対象となる。 ・調査・発表：40% ・冊子作成への取り組み：40% ・最終成果物の完成度：20%
テキスト	なし。必要に応じて適宜配布をする。
参考文献	春学期の参考文献と同様。

備考	学期の後半では冊子の作成を目指すのが、事前に関連するスキルを持ちあわせている必要はない。授業内でともに修得していく。ただ、個人PCを所持していることが望ましい。

年度	2025
講義名称	2年演習(応用)[観光][金庭]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06302S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	演習（基礎）で学修した内容の応用編として、公空間における「やさしい日本語」や多文化共生社会における言語接触について、理解を深めます。 また、地域貢献の視点から、観光地の魅力を向上させるための実例（ケーススタディ）を行います。地域やビジネスパートナーと連携したりしながら、実務社会におけるプロセスを実際に体験し、課題解決や魅力向上につなげます。
到達目標	・観光における言語の役割と課題を射Y理解し、課題意識を身につける。 ・学内において「やさしい日本語」の認知度を高める。 ・地域・観光地における課題を自分自身で見出し、実践的に活動することができる。 ・グループワークに積極的に取り組み、共同で作業する能力やコミュニケーション能力を身につける。
授業の進め方	文献・資料の輪読などにより、事前学習を行います。 グループワークやペアワークを通じて、学生自身による研究課題を見つけます。 課題設定後は、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションなど、一連の作業に取り組みます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおり計画していますが、状況に応じて変更することがあります。 オリエンテーション
第2回	事例研究① 観光事情と諸問題 状況把握 フィールドワーク準備
第3回	事例研究② 観光事情と諸問題 フィールドワーク
第4回	事例研究③ 観光事情と諸問題 フィールドワークまとめ
第5回	事例研究④ 観光事情と諸問題 フィールドワーク 成果発展
第6回	中間まとめ
第7回	地域貢献① 「やさしい日本語」の活用と普及について考える①
第8回	地域貢献② 「やさしい日本語」の活用と普及について考える②
第9回	観光素材による地域貢献① 地域貢献型モデル
第10回	観光素材による地域貢献②
第11回	観光素材による地域貢献③ フィールドワーク
第12回	最終発表会準備
第13回	最終成果発表会

事前・事後学修	事前学習としては、文献資料の収集・熟読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行うこと 事後学習としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容の整理とまとめの作業を行うこと 事前・事後学習ともに2時間を目安とします。 学内外で実施するフィールドワークや活動にも参加します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	- 資料の作成と発表 40% - 毎回の取り組み 40% - フィールドワーク 30%
テキスト	授業内で適宜配布します。
参考文献	『言語景観から考える日本の言語環境——方言・多言語・日本語教育』（春風社） 『<やさしい日本語>と多文化共生』（ココ出版） 『初学者のための質的研究26の教え』（医学書院）

備考	日頃から、ニュースや新聞、インターネットで関心領域について情報収集するよう心がけてください。 ゼミ活動は、社会と自分の関わり、他者と自分の関わりを意識し、互いに学び合い・協力し合う必要があります。 フィールドワークやその他活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助する場合があります。

年度	2025
講義名称	2年演習(応用)[観光][呉]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06302S

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では「2年演習(基礎)」で習得した知識を踏まえて「韓国における言語・文化」および「韓国における観光事情」に関する知見を深めていきます。なお、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育てていきます。
到達目標	①観光業の現場で使える韓国語を習得することができます。 ②韓国の社会・文化に関する知見を得ることで異文化への理解を深めることができます。 ③種々の専門知識（国際観光・異文化理解・韓国語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ④異文化に触れることの楽しさを体験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。 ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、秋学期のゼミ活動内容を共有し、意見交換を行う。
第2回	国際観光探求基礎（日本）1： SNSを活用した北海道の情報発信にあたって、新観光スポットについて調べる。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第3回	国際観光探求基礎（日本）2： 第2回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第4回	国際観光探求基礎（日本）3： 第3回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第5回	国際観光探求基礎（日本）4： SNSを活用した北海道の情報発信にあたって、話題のグルメや人気コスメなどについて調べる。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第6回	国際観光探求基礎（日本）5： 第5回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第7回	国際観光探求基礎（日本）6： 第6回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第8回	研究テーマの設定および研究計画報告： 韓国・大田大学校ビジネス日本語学科とのオンライン研究交流会にあたって、研究テーマ設定および研究計画について発表を行う。
第9回	研究テーマに関する情報収集： 研究計画に基づいて関連情報収集およびディスカッションを行う。

第10回	プレゼンテーション資料作成1： 第9回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。
第11回	プレゼンテーション資料作成2、： 第10回で作成したプレゼンテーション資料の修正など、最終確認を行う。また、韓国との研究交流会に向けて事前練習会を行う。
第12回	オンライン研究交流会： 「第3回韓国・大田大学校ビジネス日本語学科と呉ゼミのオンライン研究交流会」を実施する。
第13回	まとめ、反省会： これまでの学習内容および韓国とのオンライン研究交流会を振り返り、次年度の活動に向けて意見交換を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、今回の授業内容の予習は2時間をを要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「プレゼンテーション（40％）＋学期末課題（40%）」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など（20%）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。必要に応じて講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

備考	※初級レベルの韓国語能力を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

年度	2025
講義名称	2年演習(応用)[観光][齋藤(修)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06302S

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本ゼミでは、「観光空間とは何か」ということを模索してもらうことを目的としている。そのため、春学期の「2年演習（基礎）」の続きとして、以下の2つのことを行う。 1つ目は、観光空間といわれているところとまだそのような状況でないところの比較を行う。 そのため、すでに観光空間化されている小樽運河エリアと観光空間化されていない南富良野町幾寅エリアを対象にフィールドワークを実施する。（学生の要望によっては、変更の可能性もある）そして、観光空間に必要なものを模索してもらう。 また、南富良野町を対象エリアにする場合は、旧根室線廃線（幾寅駅中心）を利用したフットバス作りを模索した活動も行う。そのため、旧鉄路を歩く可能性もある。 夏休みに行われる南富良野高校との交流事業にも参加してもらう。 2つ目は、夏休み頃から開始される札幌マチヅクリ大学という他学との協働事業へ参加してもらう。 ここでは札幌の創成東地区を観光空間として発展させるための方策を模索してもらう。 これらの内容を2月に実施する成果発表会で表現してもらう。
到達目標	①協働して現地調査・現地での作業等ができる。 ②観光空間づくりのための的確な分析ができる。 ③観光空間づくりのための問題解決にむけた提案ができる。 ④わかりやすい発表活動ができる。 ⑤成果発表会に関する積極的な協働作業ができる。
授業の進め方	フィールドワークや協働作業が中心となる。 南富良野町での活動については、現地調査活動とフットバス作りの活動を行う。 夏休みに行われる南富良野高校との交流事業で、小中高生のリーダーとして活動してもらう。 札幌マチヅクリ大学への参加については、仮想大学の学生として、札幌の決められた空間（昨年までは創成イースト地区）の現地調査活動をする。そして、他大学の学生や地域の方とふれあいながらの協働活動（昨年度は映像づくり、プレミストドームでの発表活動）を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	作業や発表活動時に、その都度問題点を指摘する。社会人の方からの指摘もある。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス ＊夏休みに実施した南富良野高校との交流事業に関するまとめと反省 ＊札幌マチヅクリ大学の状況確認 ＊小樽フィールドワークについて（小樽運河エリアの概要、調査の目的、調査エリアの設定など）
第2回	小樽フィールドワーク 1
第3回	小樽フィールドワーク 2
第4回	小樽フィールドワーク 3
第5回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析 1 ＊地図化とデータ化

第6回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析 2 * SWOT分析 1
第7回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析 3 * SWOT分析 2
第8回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析 4 * 発表活動
第9回	小樽と南富良野の比較 * 観光空間にとって大切なもの
第10回	成果発表会にむけた作業 1 * 割り当ての決定とプレゼン資料の作成
第11回	成果発表会にむけた作業 2 * 割り当ての決定とプレゼン資料の作成
第12回	成果発表会のリハーサル
第13回	成果発表会

事前・事後学修	・現地調査（フィールドワーク）前の調べ学習がある。（デスクワークと発表活動） ・現地調査（フィールドワーク）後のデータ整理など、まとめる活動が事後にある。 ・札幌マチヅクリ大学では役割に応じた依頼がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①協働作業状況 20％ ②空間分析状況 20％ ③問題意識と考察状況 20％ ④各発表活動の状況 20％ ⑤成果発表会での状況 20％
テキスト	特になし。必要な資料を配布予定。
参考文献	久保健治『ヒストリカル・ブランディング 脱コモディティ化の地域ブランド論』角川新書

備考	・夏休み（8月22日）に南富良野高校で行われる小中高生との交流事業も予定している。 ・できれば以下の授業の履修をしてほしい。 * 「観光地理」「観光と歴史文化」 ・フィールドワークは土曜日を中心に実施するので、日程調査ができることが前提となる。 ・フィールドワークでは2時間以上歩くことがあるため、自信がない場合は履修に不向きである。また、それに伴う交通費がかかることもある。 ・札幌マチヅクリ大学は他大学との協働活動もあるので協調性が要求される。

年度	2025
講義名称	2年演習(応用)[観光][陳]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06302S

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光情報の発信方法を学び、英語で紹介できるスキルを身につける。
到達目標	授業内の発表やグループディスカッションなどを通じて、実践的な英語運用能力を高める。
授業の進め方	各学習目標とその背景を説明し、学生の理解度を確認しながら授業を進める。 フィールドワークの事前準備および事後報告を行う。 プレゼンテーション（事後報告）は基本的に英語で行い、ディスカッションは日本語と英語の両方を使用して実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内で発表に対するフィードバックを行い、パンフレットなどの課題にはコメントを付けて返却します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	動画作成について
第3回	動画作成練習成果発表（動画１）
第4回	フィールドワーク１準備
第5回	フィールドワーク１実施
第6回	フィールドワーク１成果発表（動画２）
第7回	FACEBOOKについて フィールドワーク２準備
第8回	フィールドワーク２実施
第9回	フィールドワーク２成果発表（FACEBOOK課題）
第10回	ウェブサイト作成について
第11回	ウェブサイト作成練習
第12回	ウェブサイト成果発表（ウェブサイト課題）
第13回	２年演習成果発表

事前・事後学修	毎回の授業に対してはインターネット等を使用して、北海道の観光地の情報を収集し、課題の準備と発表の練習も含め４時間程度行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	動画1 25% 動画2 25% FACEBOOK課題 25% ウェブサイト課題 25%
テキスト	必要に応じ、授業内でプリント適宜配布予定。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光][河本]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光資源は多岐にわたりますが、それが人に知られなくては観光として成立しません。では、どうするか。XやInstagram、YouTubeで情報発信する？ もちろんそれも1つの手段ではありますが、漫然とSNSで情報発信しても、人は集まりません。その情報に共感してくれる人たちへ情報を届ける必要があるのです。マーケティングとは人が何を求めているかを調査すること、プロモーションとは購買を促進する活動です。「音・色・形・手触り・動き・味・香り」といった人間の感覚器官に働きかけ、観光資源を商品化していくための基礎を、学生が主体となって研究していきます。
到達目標	①学生が主体的に問いを立て、学んでいくことができる力を身に付けることを第一目標とします。 ②ヒューマンビートボックス、ボイパ（アカペラ）系音楽やオペラ、ミュージカル、キャラクターショーの可能性と、それらの音楽と観光が結びついた事例を知ってもらいます。そして、その裏方仕事、必要経費、アーティストの生活事情など、様々な立場の人々がどのようなコロニーを形成しているかを春学期から秋学期にわたって学生の皆さんに知ってもらいます。特にミニマム・コミュニティ（生活圏）での音楽イベントが、どのような仕組みで運営され収益化されていくかについて、知ることを目標とします。
授業の進め方	ゼミナール形式のPBL型（プロジェクト型・課題解決型）の授業を目指します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていく基盤を醸成します。 なお、シラバスの内容は学生の協議によって変更を加えることができます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）は学生が主体となって進めていくゼミナール形式の基盤づくりに対するフィードバックを中心に、特に個に応じた支援を大切に行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【Season1】音楽で生きる人たちを知る 『音楽で生きる人たち』その1：ヒューマンビートボックスやボイパの可能性	対面
第2回	『音楽で生きる人たち』その2：オペラやキャラクターショーの可能性	対面
第3回	『音楽で生きる人たち』その3：音楽と社会の繋がり の構造	対面
第4回	Season1のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面
第5回	【Season2】音楽イベントの実情を知る：『音楽イベント“あいうえお”』 その1「あ」：赤字が出てても困らない！ 北海道は自立できない補助金王国!?	対面
第6回	その2「い」：色々あるぞ裏方仕事、価格＝経費じゃない	対面
第7回	その3「う」：「売れていない」のは「売っていない」と同じこと	対面
第8回	その4「え」：絵は形を切り取り、音楽は時間を切り取る	対面
第9回	その5「お」：音楽と食は“ベストカップル”	対面
第10回	Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面

第11回	【Season3】音楽と観光の接点を知る その1：音楽と観光の共通点を探せ！、キーワードは「時間」	対面
第12回	その2：事例から学ぶ音楽の観光化と観光の音楽化	対面
第13回	Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価	対面

事前・事後学修	◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。 ◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。 ◇必要な時間：各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	A:各回の最後のコメントシート 13回×5点=65点 評価の観点：理解度について評価する。 B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート Season1：10点、Season2：10点、Season3：5点 合計30点 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。 C:ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C=100点
テキスト	テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体は何でもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。（Evernoteを推奨）
参考文献	和野内崇弘『北海道の宿題』ISBN4-901336-10 ※本学図書館に所蔵

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても開業しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	◇授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。 ◇グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光][新海]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S

担当教員

氏名	所属
◎ 新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	従来型の日本の観光コンテンツは、寿司や茶道、神社、着物といったいわゆる「典型的な日本らしいもの」に偏っている。インバウンド観光客をより呼び込むためには、埋もれた観光コンテンツの発掘が必須である。本ゼミでは、訪日外国人に対するインタビューを通じて、日本人にとってはありふれているけれども、外国人から見ると目新しいモノ・景色・文化を調査することで、潜在的な可能性を秘めた新たな観光コンテンツの発掘を目指す。ゼミ活動を通じて、訪日外国人観光客の実態やインタビューによる質的研究法の基礎、埋もれた観光コンテンツの発掘に成功した先進地域の事例を学ぶ。
到達目標	○インタビューによる質的研究法の基礎を学ぶ。 ○訪日外国人観光客の潜在的なニーズを把握する。 ○インバウンド観光振興の先進的な成功事例を学ぶ。 ○新たな観光コンテンツを創造する。
授業の進め方	本ゼミは、講義、個人プレゼンテーション、フィールドワーク、グループ発表から構成される。詳細は以下の通りである。 ○講義：訪日外国人観光客の実態や質的研究法など、本ゼミの関連知識を教員が講義する。 ○個人プレゼンテーション：割り当てられたテーマに基づき、インバウンド観光振興の国内成功事例（1人1事例）を調査し、発表する。 ○フィールドワーク：訪日外国人観光客に各グループがインタビュー調査する。 ○グループ発表：インタビュー調査に基づき、新たな観光コンテンツをグループ毎に提案する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各プレゼンテーションやグループ発表に対して、発表者以外の学生の意見や感想を適宜聴取した上で、教員がその場で良い点や改善点をコメントする。 最終グループ発表の際には、外部専門人材を招聘し、グループ毎の講評を行ってもらうことを予定している。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	訪日外国人の実態 1
第3回	訪日外国人の実態 2
第4回	観光マーケティングの基礎 1／個人プレゼン 1
第5回	観光マーケティングの基礎 2／個人プレゼン 2
第6回	観光資源論／個人プレゼン 3
第7回	質的研究法／個人プレゼン 4
第8回	フィールドワーク
第9回	現代の観光 1／個人プレゼン 5
第10回	現代の観光 2／個人プレゼン 6
第11回	観光コンテンツ論 1／個人プレゼン 7
第12回	観光コンテンツ論 2／個人プレゼン 8

第13回	最終プレゼン・最終講評

事前・事後学修	自身の発表当日までに、割り当てられたテーマに基づいて観光振興の成功事例を調査し、発表の準備を整えておくこと。 フィールドワーク調査後は、グループ単位で最終プレゼン発表の準備を行うこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	○授業への姿勢（出席率、積極性、授業態度など）：30％ ※発言内容の正否は問わず、発言量が多い者ほど評価する。 ○個人プレゼンテーション：30％ ○グループワークでの取り組み：40％ 筆記試験は実施しない。
テキスト	教科書の指定はなし。 必要に応じて授業内でプリントを適宜配布する。

備考	フィールドワークは札幌市内もしくは近郊で行う予定である。 上記授業計画は順次入れ替わる可能性がある。 [求める学生像] インタビュー調査に当たっては適宜翻訳・通訳アプリの使用を認めるため、具体的な英語能力要件は問わない。 ただし、初対面でも外国人と楽しくコミュニケーションを取ることができる学生を求める。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光][斉藤(巧)]
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S

担当教員

氏名	所属
◎ 斉藤 巧弥	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	「悲しみの記憶をたどる観光」のことをダークツーリズムと言う。観光は楽しい娯楽と捉えられがちだが、原爆ドームのような負の遺産に代表されるように、そうしたイメージとは相反する多くのものが観光対象となっている。その中には戦争（例：第二次世界大戦の歴史）、自然災害（例：東日本大震災）、社会的差別や迫害（例：アイヌ民族の歴史）、さらに対象を拡大すると、恐怖を積極的に楽しもうとするコンテンツ（例：廃墟巡りやお化け屋敷）が含まれると言える。このゼミではダークツーリズムについて考えることを通して、このような観光資源の特徴、地域の歴史、そして観光のあり方など幅広い点について考える。
到達目標	この授業を修了することによって受講者は、 ①ダークツーリズムの基礎について理解することができるようになり、 ②ダークツーリズムという視点から多様な観光資源を捉えることができるようになり、 ③ダークツーリズムの多様なあり方に関心を持つことができるようになり、 ④ダークツーリズムという現象を批判的に分析・考察できるようになる。
授業の進め方	本授業は演習であるため、受講生による調査と発表によって構成される。学期の前半では、地元清田から世界という広い領域を対象として、ダークツーリズムとして捉えることのできる観光対象がどれほどあるのか、どのようなものがあるのかを調査し、発表する。学期の後半では自ら興味関心のある対象を選択し、その対象についてさらなる調査を進める。必要に応じてフィールドワークも積極的に計画をする。調査の内容は、新しいダークツーリズムのコンテンツ開発から、何かしらのダークツーリズムの現状についての調査まで、受講生の関心にあわせ進める。受講生数によって調査はグループ、ペア、個人のいずれかとなる。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内の調査と発表に対して、直接口頭でフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：ダークツーリズムとは？： 本ゼミの概要（授業内容、スケジュール、成績評価など）について説明をした後、ダークツーリズムについての基礎的な講義をおこなう。
第2回	多様なダークツーリズム：テーマ別・地域別コンテンツ： ダークツーリズムは、戦争・自然災害・差別の歴史などテーマ別に考えることと、北海道・札幌・清田のように地域別に考えることができる。ダークツーリズムにはどのような種類があるのか、それぞれの違いは何なのかなどの点について学修する。
第3回	世界のダークツーリズム（１）：調査： 本授業回からは、受講生による調査と発表を実施する。基本的には地域別に調査をおこなう。まず、世界におけるダークツーリズムの状況についてグループで調査をする。
第4回	世界のダークツーリズム（２）：発表： グループごとに調査した世界のダークツーリズムについて発表をする。
第5回	北海道のダークツーリズム（１）：調査： 北海道におけるダークツーリズムの状況についてグループで調査をする。
第6回	北海道のダークツーリズム（２）：発表： グループごとに調査した北海道のダークツーリズムについて発表をする。
第7回	札幌・清田のダークツーリズム（１）：調査： 清田におけるダークツーリズムの状況についてグループで調査をする。

第8回	札幌・清田のダークツーリズム（2）：発表： グループごとに調査した清田のダークツーリズムについて発表をする。
第9回	自由調査（1）：テーマ設定、調査内容検討： これまでの調査内容をもとにして、グループごとに興味関心のあるテーマを設定し、調査を実施するための準備をする。
第10回	自由調査（2）：資料収集： 書籍、雑誌、新聞など、設定したテーマを調査するための資料を収集する。
第11回	自由調査（3）：フィールドワーク： 必要に応じて調査や資料・データ収集のためにフィールドワークに出向く。（具体的な日程は要調整）
第12回	自由調査（4）：分析： 収集したデータをまとめ、発表の準備をする。
第13回	最終発表： 最終成果として、グループごとに20分の発表を実施する。

事前・事後学修	本授業では多様な資料や本を積極的に読むことが求められる。参考文献に挙げた図書などを使った勉強に、事前と事後学修としてそれぞれ2.5時間を目安に取り組む。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内における調査と発表によって評価をする。いずれにの発表においても、到達目標のすべてが評価対象となる。 ・学期前半の取り組みにおける調査・発表：50% ・学期後半の取り組みにおける調査・発表：50%
テキスト	なし。必要に応じて適宜配布をする。
参考文献	『人類の悲しみと対峙する：ダークツーリズム入門ガイド』（いろは出版, 2016） 『ダークツーリズム入門：日本と世界の「負の遺産」を巡礼する旅』（風来堂, 2017, イースト・プレス） 『ダークツーリズム：悲しみの記憶を巡る旅』（井出明, 2018, 幻冬舎） 『ダークツーリズム拡張：近代の再構築』（井出明, 2018, 美術出版社） 『悲劇の世界遺産：ダークツーリズムから見た世界』（井出明, 2021, 文藝春秋） 『不謹慎な旅：負の記憶を巡る「ダークツーリズム」』（木村聡, 2022, 弦書房） 『ダークツーリズムを超えて：北海道と九州を結ぶ』（山田良介, 2024, 国境地域研究センター）

備考	・ゼミは、受講生のやりたいことをやる場である。「これがやりたい!」という積極性とアイディアのある学生を募集する。受講生の希望に沿うよう、授業計画は柔軟に変えていく。 ・フィールドワークは受講生との協議のうえ、実施する。週末や長期休暇中の実施になることを事前に理解しておくこと。 ・ネットの情報だけではなく、本や資料を読み情報収集することが授業活動において必須となる。そうした取り組みを楽しめる人を求める。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光][金庭]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S

担当教員

氏名	所属
◎ 金庭 香理	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光は地域振興のリソースのひとつとして位置づけられています。このゼミでは「観光」と「言語」の関わりに着目します。近年、必要性が増している「やさしい日本語」について理解してから、観光地や公共空間にある言語対応（標識、多言語、言語接触など＝「ツーリズムにおけるやさしい日本語」）について各自で考えます。ゼミ活動を通じて、多文化共生社会に欠かせない視野を養います。また、地域が抱える状況を把握し、課題解決にむけたフィールドワークの実施により社会貢献を実践します。2022年度のゼミ生が地域企業と協働で開発した地域貢献型「清田区オリジナルモクテル」を継承すべく、学内イベントなどで提供し、周知と継承を行います。
到達目標	・観光における言語の役割と課題を理解し、課題意識を身につける。 ・テーマに関する資料やデータを収集できるようにする。 ・地域の事例から現状と課題を理解しつつ、実践的に活動することができる。 ・グループワークに積極的に取り組み、共同で作業する能力やコミュニケーション能力を身に付ける。
授業の進め方	文献・資料の輪読などにより、事前学習を行います。 グループワークやペアワークを通じて、学生自身による研究課題を見つけます。 課題設定後は、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションなど、一連の作業に取り組みます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	以下のとおり計画していますが、状況に応じて変更することがあります。 オリエンテーション
第2回	観光と言語①
第3回	観光と言語②
第4回	地域と観光①：地域貢献型モクテル
第5回	地域と観光②：観光地の課題
第6回	地域と観光③：課題解決に向けた準備
第7回	フィールドワーク準備
第8回	フィールドワーク
第9回	フィールドワークまとめ・発表 観光地魅力発信検討①
第10回	グループワーク 観光地魅力発信検討②
第11回	グループワーク 観光地魅力発信・提案

第12回	グループワーク 観光地魅力発信・発表
第13回	まとめ・振り返り

事前・事後学修	事前学習としては、文献資料の収集・熟読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行うこと 事後学習としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容の整理とまとめの作業を行うこと 事前・事後学習ともに2時間を目安とします。 学内外で実施するフィールドワークや活動にも参加します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 資料の作成と発表 40% ・ 毎回の取り組み 40% ・ フィールドワーク 30%
テキスト	授業内で適宜配布します。
参考文献	『観光言語を考える』 山川和彦（くろしお出版） 『歩いて読みとく地域デザイン』（学芸出版社） 『インバウンドの新しい風 「やさしい日本語」で観光客を迎えよう』（大修館書店）

備考	日頃から、ニュースや新聞、インターネットで関心領域について情報収集するよう心がけてください。 ゼミ活動は、社会と自分の関わり、他者と自分の関わりを意識し、互いに学び合い・協力し合うことが必要です。 フィールドワークやその他活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助する場合があります。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光][呉]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	韓国でも大人気の観光地である北海道。近年、韓国人観光客の増加が著しいですが、北海道の意外な場所が韓国人観光客の人気スポットになることもあります。そこで、呉ゼミでは、観光韓国語や韓国文化を学ぶと同時に、訪日韓国人観光客の観光行動を研究しながら、インバウンド向け旅行プランを提案したり、おすすめの観光スポットやグルメ・コスメ紹介など、SNSを活用して日本そして北海道の魅力を韓国語で発信する活動を行います。また、韓国の大学との学生間交流を通して異文化理解を深め、グローバル観光に欠かせない国際感覚を身につけていきます。
到達目標	①観光業の現場で使える韓国語を習得することができます。 ②韓国の社会・文化に関する知見を得ることで異文化への理解を深めることができます。 ③種々の専門知識（国際観光・異文化理解・韓国語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ④異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。 ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、春学期のゼミ活動内容を共有し、意見交換を行う。
第2回	国際観光探求基礎（韓国）1： 韓国人観光客の観光行動について調査を行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第3回	国際観光探求基礎（韓国）2： 第2回の授業で行った内容をもとにディスカッションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第4回	国際観光探求基礎（韓国）3： 第3回の授業で行った内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第5回	国際観光探求基礎（韓国）4： 第4回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第6回	国際観光探求基礎（韓国）5： 札幌市の姉妹都市である韓国・大田広域市についての知見を得る。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第7回	国際観光探求基礎（韓国）6： 第6回目の授業内容をもとに韓国・大田広域市の観光地について調査する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第8回	国際観光探求基礎（韓国）7： 第7回目の授業内容をもとに韓国・大田広域市の観光ルートを提案する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。

第9回	国際観光探求基礎（韓国）8： 第8回目の授業内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第10回	国際観光探求基礎（韓国）9： 第9回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、観光業の現場で使える観光韓国語を身につける。
第11回	国際観光探求基礎（日本）1： SNSを活用した北海道の情報発信にあたって、新たな観光資源の発掘を試みる。
第12回	国際観光探求基礎（日本）2： 第11回の授業で議論した内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。
第13回	国際観光探求基礎（日本）3、まとめ： 第12回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、これまでの学習内容を振り返り、意見交換を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。 【必要な時間】 前回の授業内容の復習は2時間、今回の授業内容の予習は2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「プレゼンテーション（40％）＋学期末課題（40％）」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など（20％）も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。必要に応じて講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

備考	※初級レベルの韓国語能力を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光][齋藤(修)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本ゼミでは、「観光空間とは何か」ということを模索してもらうことを目的としている。そのため、以下の2つのことを行う。 1つ目は、観光空間といわれているところとまだそのような状況でないところの比較を行う。 そのため、すでに観光空間化されている小樽運河エリアと観光空間化されていない南富良野町幾寅エリアを対象にフィールドワークを実施する。（学生の要望によっては、変更の可能性もある）そして、観光空間に必要なものを模索してもらう。 また、南富良野町を対象エリアにする場合は、旧根室線廃線（幾寅駅中心）を利用したフットバス作りを模索した活動も行う。そのため、旧鉄路を歩く可能性もある。 夏休みには、包括連携協定を結んでいる南富良野高校との交流事業も予定しており、そこではゼミで学んだ内容を活かす活動を予定している。（2年演習「応用」での評価とする。） 2つ目は、夏休み頃から開始される札幌マチヅクリ大学という他学との協働事業へ参加してもらう。 ここでは札幌の創成東地区を観光空間として発展させるための方策を模索してもらう。
到達目標	①協働して現地調査・現地での作業等ができる。 ②空間に関する分析ができる。 ③問題意識をもって、考察することができる。 ④わかりやすい発表活動ができる。
授業の進め方	フィールドワークや協働作業が中心となる。 南富良野町での活動については、現地調査活動とフットバス作りの活動を行う。 札幌マチヅクリ大学への参加については、仮想大学の学生として、札幌の決められた空間（昨年までは創成イースト地区）の現地調査活動をする。そして、他大学の学生や地域の方とふれあいながらの協働活動（昨年度は映像づくり、プレミストドームでの発表活動）を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	作業や発表活動時に、その都度問題点を指摘する。社会人の方からの指摘もある。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	南富良野へのフィールドワーク準備1 * 南富良野についての概略説明
第3回	南富良野へのフィールドワーク準備2 * 南富良野についてのデスクワークと発表活動
第4回	南富良野へのフィールドワーク1
第5回	南富良野へのフィールドワーク2
第6回	南富良野へのフィールドワーク3
第7回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析1 * 地図化とデータ化
第8回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析2 * SWOT分析1

第9回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析 3 *SWOT分析 2
第10回	フィールドワーク後の課題の整理と地図製作・データ分析 4 *発表活動
第11回	小樽運河エリアへのフィールドワーク準備 1 *小樽についての概略説明
第12回	小樽運河エリアへのフィールドワーク準備 2 *小樽についてのデスクワークと発表活動
第13回	秋学期の小樽へのフィールドワークにむけて 南富良野高校での交流事業（8月22日）について 札幌マチヅクリ大学への参加について

事前・事後学修	・現地調査（フィールドワーク）前の調べ学習がある。（デスクワークと発表活動） ・現地調査（フィールドワーク）後のデータ整理など、まとめる活動が事後にある。 ・札幌マチヅクリ大学では役割に応じた依頼がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①協働作業状況25％ ②空間分析状況25％ ③問題意識と考察状況25％ ④発表活動の状況25％
テキスト	特になし。必要な資料を配布予定。
参考文献	久保健治『ヒストリカル・ブランディング 脱コモディティ化の地域ブランド論』角川新書

備考	・夏休み（8月22日）に南富良野高校で行われる小中高生との交流事業も予定しているが、秋学期の「応用」の評価に入れる予定である。 ・できれば以下の授業の履修をしてほしい。 *「観光地理」「観光と歴史文化」 ・フィールドワークは土曜日を中心に実施するので、日程調査ができることが前提となる。 ・フィールドワークでは2時間以上歩くことがあるため、自信がない場合は履修に不向きである。また、それに伴う交通費がかかることもある。 ・札幌マチヅクリ大学は他大学との協働活動もあるので協調性が要求される。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光][陳]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S

担当教員

氏名	所属
◎ 陳 堯柏	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光情報の発信方法を学び、英語で紹介できるスキルを身につける。
到達目標	授業内の発表やグループディスカッションなどを通じて、実践的な英語運用能力を高める。
授業の進め方	各学習目標とその背景を説明し、学生の理解度を確認しながら授業を進める。 フィールドワークの事前準備および事後報告を行う。 プレゼンテーション（事後報告）は基本的に英語で行い、ディスカッションは日本語と英語の両方を使用して実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内で発表に対するフィードバックを行い、パンフレットなどの課題にはコメントを付けて返却します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	リーフレット作成について
第3回	リーフレット1作成
第4回	リーフレット1成果発表 フィールドワーク1準備
第5回	フィールドワーク1実施
第6回	フィールドワーク1成果発表（リフレット2）
第7回	プレゼンテーションについて プレゼンテーション練習とディスカッション
第8回	スライド作成について スライド作成練習とディスカッション
第9回	プレゼンテーション1成果発表
第10回	フィールドワーク2準備
第11回	フィールドワーク2実施
第12回	フィールドワーク2成果発表（プレゼンテーション2）
第13回	前期授業のまとめとディスカッション

事前・事後学修	毎回の授業に対してはインターネット等を使用して、北海道の観光地の情報を収集し、課題の準備と発表の練習も含め4時間程度行う。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	リフレット1 25％ リフレット2 25％ プレゼンテーション1 25％ プレゼンテーション2 25％
テキスト	必要に応じ、授業内でプリント適宜配布予定。

年度	2025
講義名称	2年演習(基礎)[観光・秋入生][河本]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM06301S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光資源は多岐にわたりますが、それが人に知られなくては観光として成立しません。では、どうするか。XやInstagram、YouTubeで情報発信する？ もちろんそれも1つの手段ではありますが、漫然とSNSで情報発信しても、人は集まりません。その情報に共感してくれる人たちへ情報を届ける必要があるのです。マーケティングとは人が何を求めているかを調査すること、プロモーションとは購買を促進する活動です。「音・色・形・手触り・動き・味・香り」といった人間の感覚器官に働きかけ、観光資源を商品化していくための基礎を、学生が主体となって研究していきます。
到達目標	①学生が主体的に問いを立て、学んでいくことができる力を身に付けることを第一目標とします。 ②ヒューマンビートボックス、ボイパ（アカペラ）系音楽やオペラ、ミュージカル、キャラクターショーの可能性と、それらの音楽と観光が結びついた事例を知ってもらいます。そして、その裏方仕事、必要経費、アーティストの生活事情など、様々な立場の人々がどのようなコロニーを形成しているかを春学期から秋学期にわたって学生の皆さんに知ってもらいます。特にミニマム・コミュニティ（生活圏）での音楽イベントが、どのような仕組みで運営され収益化されていくかについて、知ることを目標とします。
授業の進め方	ゼミナール形式のPBL型（プロジェクト型・課題解決型）の授業を目指します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていく基盤を醸成します。 なお、シラバスの内容は学生の協議によって変更を加えることができます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）は学生が主体となって進めていくゼミナール形式の基盤づくりに対するフィードバックを中心に、特に個に応じた支援を大切に行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【Season1】音楽で生きる人たちを知る 『音楽で生きる人たち』その1：ヒューマンビートボックスやボイパの可能性	対面
第2回	『音楽で生きる人たち』その2：オペラやキャラクターショーの可能性	対面
第3回	『音楽で生きる人たち』その3：音楽と社会の繋がり の構造	対面
第4回	Season1のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面
第5回	【Season2】音楽イベントの実情を知る：『音楽イベント“あいうえお”』 その1「あ」：赤字が出てても困らない！ 北海道は自立できない補助金王国!?	対面
第6回	その2「い」：色々あるぞ裏方仕事、価格＝経費じゃない	対面
第7回	その3「う」：「売れていない」のは「売っていない」と同じこと	対面
第8回	その4「え」：絵は形を切り取り、音楽は時間を切り取る	対面
第9回	その5「お」：音楽と食は“ベストカップル”	対面
第10回	Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション	対面

第11回	【Season3】音楽と観光の接点を知る その1：音楽と観光の共通点を探せ！、キーワードは「時間」	対面
第12回	その2：事例から学ぶ音楽の観光化と観光の音楽化	対面
第13回	Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価	対面

事前・事後学修	◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。 ◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。 ◇必要な時間：各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	A:各回の最後のコメントシート 13回×5点=65点 評価の観点：理解度について評価する。 B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート Season1：10点、Season2：10点、Season3：5点 合計30点 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。 C:ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C=100点
テキスト	テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体は何でもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。（Evernoteを推奨）
参考文献	和野内崇弘『北海道の宿題』ISBN4-901336-10 ※本学図書館に所蔵

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても開業しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	◇授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。 ◇グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

年度	2025
講義名称	食と観光
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05909L

担当教員

氏名	所属
◎ 小野寺 淳子	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	かつて旅先での「食」は、主たる目的の「ついで」にお腹を満たしたり、単に土産のひとつとして買い求めるものでした。それが旅行スタイルの変化に伴い、いまでは「食」そのものが旅の一番のお目当てとなり、その「ついで」に近隣の名所に足を運ぶような旅の仕方も増えてきました。 「フードツーリズム」あるいは「ガストロノミーツーリズム」は、近年では地域振興の戦略としても重要視され、観光客誘致や地域ブランドの強化のために不可欠なものとなっています。 2013年には「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録。いまや日本の観光産業にとって食は最大のテーマのひとつです。 この講義では、食の一大生産地であるここ北海道を主な舞台として、食材の生産と付加価値の追求、地域の食文化、食に携わる企業や組織、人材など、食と観光に関わる幅広い情報をテーマごとに整理し、知識を構築していきます。ひとつの食材、ひとつの料理の背景にある、自然風土や歴史、食習慣や地域性に思いをめぐらせ、多くの人々を魅了する「食と旅のストーリー」への理解を深めていきましょう。
到達目標	世界からも注目される北海道の「食」ーその生産から提供までの現場を知り、歴史と今を学ぶことで食の深い知識を習得し、観光分野での実践的なスキルとして役立ててください。
授業の進め方	講義方法は対面が基本です。 その回のテーマに応じた具体的事例を、北海道をメインに時には日本各地や海外での豊富な写真・動画資料等を用いながら視覚的に解説し、記憶に残る講義を展開します。 また食に関する疑問・質問は講義期間中、いつでも受け付けており、本人に回答するほか、内容によっては授業でもとりあげて、双方向的な授業を実践します。 (2024年度の授業では「スーパカレーについて知りたい」というメッセージを受け、発祥から現在に至るまでのストーリー、変化と進化の分岐点、具体的な店舗や料理、ヒットを支えた地域特性などについて写真・動画とともに解説しました) 授業内容は、社会情勢の変容や温泉業界の動向、トレンドの出現等により、一部変更や入れ替わることがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義では毎回、一問一答式の「ノート」を1枚プリントで配布し、個々人が授業を聞きながら空白部分に自由に記入し、授業終盤に提出するかたちで、自分だけの「オリジナルテキスト」を完成させます。 また偶数回の「ノート」には、食についての疑問・質問、個別の体験談や業界への提案など自由な記述欄を設け、翌週以降の授業内にワンテーマとして展開、または個別に解答し、フィードバックしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 食と観光 ー国内外の旅行者を魅了する日本の食、北海道の食。フードツーリズムの発祥から現在まで	対面
第2回	生産の現場から1「農業」 ー北海道農業の最新データ。特集は「北海道ならではの！日本唯一の有機農業協同組合とは」	対面
第3回	生産の現場から2「畜産業」 ー北海道畜産業の最新データ。特集は「北海道は先進地？！アニマルウェルフェアを知る」	対面
第4回	生産の現場から3「漁業」 ー北海道漁業の最新データ。特集は「変貌する北の海ー気候変動を逆手に味の開発」	対面
第5回	生産の現場から4「六次化」 ー生産から加工、提供まで。農畜産、漁業の現場で進む北海道ブランドの創出	対面
第6回	フードツーリズムの現場から1 ー牛を飼うリゾート？！旅×循環型農業を実践する人気ホテルの目指すもの	対面
第7回	フードツーリズムの現場から2 ー食ツアー、農泊、ファームイン・・・「土地」と「生産」を観る・知る・体験する楽しみ	対面
第8回	人気グルメを深掘る1「スーパカレー」と「ラーメン」ー北海道だからこそ？！意外な発祥と変遷	対面
第9回	人気グルメを深掘る2「スイーツ」 ー北海道のお菓子各種データ。特集は「地域色こそ鍵。魅力あふれるスイーツの街」	対面
第10回	アイヌ民族の食文化を知る ー自然共生の民族の知恵と食	対面

第11回	温泉地と食 一老舗温泉街に「食」のマチが出現！「食」をエンタメにする湯宿も人気	対面
第12回	「ノート」整理によるこれまでの振り返り・授業内試験	対面
第13回	試験の解説と「覚えておくべき北海道の食プラスワン」（テーマは「街のプライド・北見と焼肉」、もしくは学生からのリクエストで構成する予定です）	対面

事前・事後学修	授業で取り上げた食材や料理については、さらに個々で調べるなどして、オリジナルテキストをより充実させ、知識を深めてください。また、次回のテーマに関する情報を積極的に調べておきましょう。 また日常において食に関するニュースをWebや放送番組、新聞・雑誌などからチェックしておきましょう。大きな食に関するニュースが入った時には、各回のテーマにとらわれず、学習に組み込む場合があります。 ユニークな商品、美味しい味覚を発見したら、ぜひ各回の「ノート」等でお知らせください。 予習に30分、復習に1時間ほどかけるように心がけましょう。 特に復習は大事です。自身で作り上げたオリジナルテキストを見返し、新たに調べた情報を加えてみましょう。 予習・復習の中で抱いた疑問については、いつでも担当教員にご連絡ください。個別に解答、または後日の授業でワンテーマとして取り上げ、フィードバックします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績の評価方法は「期末テスト」30%、「オリジナルテキストの完成」40%、「授業参加」30%です。 テスト内容もほぼ、毎回の授業内で作成する「ノート」から出題されますので、基本的に「授業に出て」「授業内で集中してノートを作成」することが最も大切です。
テキスト	購入等は不要です。毎回の「ノート」で個々のオリジナルテキストに仕上げていきます。
参考文献	特にありませんが、食に関する書籍、新聞、雑誌、Web記事などは日頃読んだりチェックしておきましょう。

年度	2025
講義名称	観光まちづくり論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05908L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 中根 宏樹	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	近年、各地で市民が主体となり、観光資源を単に消費するのではなく、地域を豊かにすることを目的とした「観光まちづくり」の取り組みが進められている。本講義では、「観光」を起点に、市民が協働して地域に変革をもたらすまちづくりについて学ぶ。具体的には、観光による利益を地域に還元する仕組みや、観光資源を地域の価値へと転換する手法・視点を学ぶことを目的とする。 また、まちや都市の捉え方、まちづくりに関する基本的な知識を踏まえ、持続可能な観光の実践について考察する。市民と旅行者双方の視点から、環境や社会への影響を抑えつつ、社会的・文化的・経済的な利益をもたらす方法を具体的な事例を通じて探求する。
到達目標	・まちづくりの基本的な枠組みを理解する。 ・観光まちづくりの動向や、諸地域での事例についての知識を得る。 ・観光まちづくりの実例を応用できる能力を身につける。
授業の進め方	本講義は、講義形式を中心に進めるが、適宜PBLやディスカッションを取り入れ、能動的な学びを深める。 担当教員は、観光分野の民間企業において自治体と協働したプロジェクトなどの実務経験を有する。まちづくりに関連する多様な学問領域の理論的枠組みを援用しながら、民間での知見を活かした講義を展開する。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	適宜課題を課し、学生の興味・関心に基づいて講義内容を振り返る。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・「まち」とは何か	対面授業
第2回	まちの要素と構成	対面授業
第3回	「まちづくり」とは何か	対面授業
第4回	まちづくりの意義と目的	対面授業
第5回	まちづくりの実践と仕組み①	対面授業
第6回	まちづくりの実践と仕組み②	対面授業
第7回	まちと観光・観光まちづくりの定義	対面授業
第8回	観光まちづくりの課題	対面授業
第9回	観光まちづくりのマネジメント	対面授業
第10回	持続可能な観光とまちづくり	対面授業
第11回	事例研究①	対面授業
第12回	事例研究②	対面授業
第13回	総括と課題レポート	対面授業

事前・事後学修	日常的に自分が暮らすまちや観光まちづくりに関心を持ち、新聞やインターネットなどを通じて具体的な動向を把握する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義中に実施する課題 30％ 授業への積極的な参加度 20％ 課題レポート 50％
テキスト	講義内容に合わせて適宜資料を配布する。
参考文献	講義内容に合わせて適宜参考文献を紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、株式会社エゾシカ旅行社の代表取締役として観光業界における事業運営の実績を持ち、また特定非営利活動法人北海道オートキャンプ協会の常務理事として地域観光やアウトドア活動の促進に貢献しています。これらの経験を基に、観光と地域振興を結び付けた実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	観光とスポーツ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05907L

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光とスポーツは密接な関係にあり「スポーツツーリズム」という言葉も広く知られています。また、その歴史は比較的浅いものの、近年爆発的な成長を遂げている分野です。 この近年注目される「観光とスポーツ」をスポーツツーリズムの視点から観光庁、スポーツ庁が掲げるそれぞれの考え方等に基づき考察を重ね、スポーツを観光の視点から捉えることの意義を学びます。 さらに、スポーツコミッション、武道ツーリズム、経済効果測定、ブランディングなどさまざまな角度から「観光とスポーツ」を捉え、多様な「観光とスポーツ」の現場を知り、広い視野で学び、理解を深めることを目的としています。
到達目標	・スポーツの要素を観光の視点で考察し、その重要性を理解できたか。 ・広い視野でさまざまな角度から「観光とスポーツ」を捉え、考察することができたか。 ・「観光とスポーツ」の現場について理解できたか。
授業の進め方	講義の中で適宜グループワークを実施し、学生の主体的な活動をつうじた授業を展開します。 授業の中で現地研修をアナウンスします。この研修に参加しスポーツツーリズムの現場を理解します。（授業内で説明しますが、土曜日に実施する予定です。）

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	webclassなどをつうじて試験・課題を課し、積極的にフィードバックを講じています。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス スポーツツーリズムとは何か？	対面授業
第2回	スポーツツーリズムに求められるマネジメント	対面授業
第3回	スポーツツーリストの消費行動	対面授業
第4回	スポーツイベントによる地域活性化	対面授業
第5回	スポーツイベントのマーケティング	対面授業
第6回	PFI 実地研修（フィールドワーク）① 小規模PFIの事例 恵庭ふるさと公園 中規模PFIの事例 道の駅恵庭恵庭・マリオットホテル	対面授業
第7回	PFI 実地研修（フィールドワーク）② PFIのイベント実施に関するグループワーク	対面授業
第8回	スポーツツーリズムの経済効果を測定する スポーツツーリズムの推進組織	対面授業
第9回	ファンクラブ考察① 「ファンを獲得する戦略」 グループワークによる調査研究	対面授業
第10回	ファンクラブ考察② 「ファンを獲得する戦略」 グループワークによる調査研究の発表	対面授業

第11回	ファンクラブ考察③ 「ファンを獲得する戦略」 考察 定期試験	対面授業

事前・事後学修	事前学習 講義の前までに、自分なりに観光とスポーツの接点を考え整理しておくこと。 事後学習 「観光とスポーツ」の観点から関心のあるテーマを選び、情報収集を行い、整理、考察をしておくこと（情報の整理、現状の把握、課題の発見と解決など）。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業内の小課題の提出・小テスト 40％ ②大きな課題レポート 20％ ③発表 20％ ④現場研修及びその報告 20%
テキスト	適宜、ハンドアウト資料を提示します。
参考文献	「スポーツ・ヘルスツーリズム」（原田宗彦他）大修館書店 「スポーツツーリズム」学芸出版社 「スポーツツーリズム入門」（ジェームズ・ハイアム）晃洋書房

備考	1 現地研修はPFIの実地事例を見学し、魅力的なイベントについてグループで検討します。 2 ファンクラブ比較を行い、ファンクラブによるスポーツと観光について理解を深めます。

年度	2025
講義名称	北海道観光
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05906L

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	世界的にも特異な北海道の自然や歴史について、その概略を学び知識を得ることによって、今後の北海道観光の展開について考える基礎的な素地を養います。 また、ある地域の検定試験の担当者として実際の「ご当地検定」の問題作成と運用に関わり、特定観光地へのファン化を促す「ご当地検定の魅力」を理解します。 特に、商工会議所など地域の観光振興の現場で働きたい学生には有意義な授業です。 なお、北海道観光マスター検定（道商工会議所主催）の受験を強く推奨します。
到達目標	北海道の歴史・文化・自然など観光資源を理解し、今後の北海道観光の展開方向について考えるための基礎的な知識が身についている。
授業の進め方	基本的には前半は北海道の歴史・文化について、後半は北海道の自然について講義形式で展開します。 最後に 地域の検定試験づくりについて学び、魅力的なご当地検定試験問題の作成を行います。 本講義は、地域づくりの基盤となる観光対象とは何かについて、北海道の特化して知識を習得していくことを基本とします。

アクティブ・ラーニング

PBL

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎講義ごとに小テストを実施、その集大成として2度の試験を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス ほっかいどうの歴史・文化（原始）	オンデマンド
第2回	ほっかいどうの歴史・文化（中世）	オンデマンド
第3回	ほっかいどうの歴史・文化（近世）	オンデマンド
第4回	ほっかいどうの歴史・文化（アイヌ文化・近代）	オンデマンド
第5回	歴史・文化に関する試験 … 試験のため開始時間を指定して実施します。このため、試験前日までに1～4のオンデマンド講義を終了する必要があります。 なお、この日の授業日・時間は追って指示します。 ほっかいどうの自然（成立期）	同時双方向
第6回	ほっかいどうの自然（地質構造）	オンデマンド
第7回	ほっかいどうの自然（山）	オンデマンド
第8回	ほっかいどうの自然（気候）	オンデマンド

第9回	ほっかいどうの自然（遺産・アイヌ語由来の地名）	オンデマンド
第10回	自然に関する試験 … 試験のため開始時間を指定して実施します。このため、試験前日までに5～9のオンデマンド講義を終了する必要があります。 なお、この日の授業日・時間は追って指示します。 観光地の魅力を高める検定試験問題の作成（4択問題）	同時双方向
第11回	観光地の魅力を高める検定試験問題の作成（4択問題）	オンデマンド
第12回	観光地の魅力を高める検定試験問題の作成（文中応答問題）	オンデマンド
第13回	観光地の魅力を高める検定試験問題の作成（記述式問題） ※特に希望する学生には実際に開催される観光検定試験の試験会場の運営を行います。	オンデマンド

事前・事後学修	◇事前学修：後半の授業において、テキストを読み地域検定試験問題を自ら作成し授業内で発表するという反転授業を基本を行います。このことから、少なくとも数時間の事前事後学習を必要とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	2度の定期試験 60％ 授業内での小テスト 10％ 検定試験問題の作成 30％
テキスト	適宜指示します。 基本的にはwebclassにあるハンドアウトを参照してください。
参考文献	『北海道観光ハンドブック』一般社団法人 北海道商工会議所連合会発行

年度	2025
講義名称	[夏集]リゾート概論
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05905L

担当教員

氏名	所属
◎ 田村　こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科
斉藤　巧弥	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光の魅力の一つがリゾートである。世界各国にはリゾートと呼ばれる施設、地域が点在しており、地域や企業の特徴を活用した事業が展開されている。本講義では2名の教員により、特徴のあるリゾートの事例を中心に学習し、観光とリゾートについて理解を深める。
到達目標	観光とリゾートの基礎知識を習得し、観光ビジネスや地域社会におけるリゾートの影響や課題を理解する。また、グループワークを通じて課題解決能力や分析能力を身につける。
授業の進め方	リゾートを理解するため、事例を活用した講義を行なう。また、教員の有するリゾートに関する実践的な知見も活用し、事例を分析する。 授業では、アクティブラーニングを取り入れ、受講生による発表、レジュメの作成、グループワーク等も適宜行なう。なお、学習効果向上の観点からフィールドワークも実施する場合がある。 ＊状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更する場合がある。 ＊ゲスト講師を招聘し、事例紹介を予定している。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業を通じて適宜フィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	リゾートの基礎知識1（主に夏季または通年リゾート）
第3回	リゾートの基礎知識2（主に夏季または通年リゾート）
第4回	リゾートの事例分析1（主に夏季または通年リゾート）
第5回	リゾートの事例分析2（主に夏季または通年リゾート）
第6回	リゾートの基礎知識1（主に冬季または通年リゾート）
第7回	リゾートの基礎知識2（主に冬季または通年リゾート）
第8回	リゾートの事例分析1（主に冬季または通年リゾート）
第9回	リゾートの事例分析2（主に冬季または通年リゾート）
第10回	国内のリゾート1（テーマパーク他）
第11回	国内のリゾート2（テーマパーク他）
第12回	グループワーク（リゾートの事例調査報告）
第13回	グループワークの発表

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	日頃から観光現場を意識し、観光客の目線でどのようなリゾートがあるのに関心を持つこと。また、自ら機会を見つけリゾート地への訪問も推奨する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業の参加度・積極性・発表 40% グループワーク 20% 課題提出 40%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	必要に応じて指示する。

備考	状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとなる（交通費等は各自が実費負担）。 また、フィールドワークは土日等の可能性もあり、各自柔軟にスケジュールを調整のこと。

年度	2025
講義名称	世界の観光地
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05904L

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、ヨーロッパの主要な観光地・観光地域を紹介するものである。そして、それぞれ特有な問題点を探ることである。 取り扱う事例としては、歴史文化観光地が多くなるが、それ以外の観光地・観光地域も取り扱う。
到達目標	①各観光地・観光地域の観光資源、観光対象を知り、自分なりに観光地・観光地域を説明できる。 ②観光地・観光地域の特徴と関連させながら、各地の観光地・観光地域に潜む問題点を観光者の視点で説明できる。 ③各観光ガイドブックではどのように観光地・観光地域をとらえているのかを調査・分析できる。
授業の進め方	写真、地図、統計資料、映像などを用いた講義形式となる。それぞれの観光地・観光地域における観光資源、観光対象を紹介し、そこにおける問題点を観光者視点で考えてもらう。 そして、授業内容の確認として、毎時における課題を実施する。授業のまとめである最終レポートでは、授業時に紹介した観光地・観光地域に関する観光ガイドブックの分析をしてもらう。 複数の観光ガイドブックにおける相違点、共通点から観光地・観光地域の特徴を明らかにしてもらう。

アクティブ・ラーニング

調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、次時で毎時解説し、フィードバックとする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	1, ガイダンス 2, 授業で用いる概念 3, 授業で取り上げるヨーロッパとは
第2回	1, ベルギーの「ブリュージュ」という観光地
第3回	1, イギリスの「バース」という観光地
第4回	1, イギリスの「湖水地方」という観光地域
第5回	1, フランスの「パリ」という観光地
第6回	1, フランスの「プロヴァンス地方」という観光地域
第7回	1, イタリアの「ローマ」という観光地
第8回	1, イタリアの「フィレンツェ」という観光地
第9回	1, イタリアの「ヴェネツィア」という観光地
第10回	1, ドイツの「ロマンチック街道」という観光地域
第11回	1, スイスの「ヴァリス地方」という観光地域
第12回	1, チェコの「カルロヴィ・ヴァリ」という観光地
第13回	1, ギリシアの「アテネ」という観光地 2, まとめと最終レポートについて

事前・事後学修	前時の授業を確認し、その中から観光資源として開発しきれていない部分、観光地・観光地域の問題点等を日頃から考えるようにすること。 事後に授業に関連する観光ガイドブックに目を通しておくこと。 授業で紹介した観光地・観光地域の中で最も興味のあったところの観光ガイドブックを用意しておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1，毎時の課題：50％（毎時の平均点） ①観光地・観光地域の説明 ②観光地・観光地域の問題点の説明 2，最終レポート: 50％ ③観光地・観光地域に関する調査・分析
テキスト	特になし（毎時のレジュメを配布）
参考文献	・ JTB総合研究所『旅行業務シリーズ7海外旅行実務 海外観光資源2024』 ・ JTB総合研究所『海外旅行地理プラクティカル』 ・ 勝岡只『海外観光資源ハンドブック』中央書院 ・ 各出版社によるガイドブック

備考	・ 観光概論などで学んだ「観光地」「観光資源」「観光対象」「観光施設」という用語の違いを理解しておくこと。 ・ ヨーロッパの地図が頭に入っていない場合は、地図帳を持ってくることを勧める。 （グーグルマップを使いこなせるのであれば、それでも構わない）

年度	2025
講義名称	旅行業法・約款
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05703L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 菊池 志保	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している国家資格「国内旅行業務取扱管理者」の取得を目指し、試験科目3つのうちの2科目である「旅行業法及びこれに基づく命令」と「旅行業約款、運送約款及び宿泊約款」の基礎知識を習得することです。
到達目 標	「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの「旅行業法及びこれに基づく命令」と「旅行業約款、運送約款及び宿泊約款」に関する知識を身に付けること。
授業の 進め方	【講義方法】 旅行業界での実務経験があり総合旅行業務取扱管理者資格を持つ教員による講義形式。「旅行業法」と「標準旅行業約款」の基本を解説する。併せて、練習問題を解き理解を深めます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題・試験の後には、特に重要な点について授業内でフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	① 旅行業法とは 標準旅行業約款とは 旅行業法	対面授業
第2回	② 旅行業法	対面授業
第3回	③ 旅行業法	対面授業
第4回	④ 旅行業法、標準旅行業約款 I 募集型企画旅行契約	対面授業
第5回	⑤ 第1回章末試験、標準旅行業約款 I 募集型企画旅行契約	対面授業
第6回	⑥ 標準旅行業約款 I 募集型企画旅行契約	対面授業
第7回	⑦ 標準旅行業約款 I 募集型企画旅行契約	対面授業
第8回	⑧ 特別補償規程	対面授業
第9回	⑨ 第2回章末試験、標準旅行業約款 II 受注型企画旅行契約	対面授業
第10回	⑩ 標準旅行業約款 II 受注型企画旅行契約	対面授業
第11回	⑪ 標準旅行業約款 III 手配旅行契約・その他の契約	対面授業
第12回	⑫ (航空)国内旅客運送約款	対面授業
第13回	⑬ 期末試験	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 テキスト条文の内容を確認し、課題で出題傾向を知り、予習復習で知識を定着させることが大切です。 【必要な時間】 予習・復習の時間は2時間を目安とします。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	期末試験による評価 40% 章末試験による評価 30% 授業内課題と参加姿勢による評価 30%
テキスト	履修には指定教科書2冊の購入が必須です。(株)JTB総合研究所発行／2025年度版 旅行業実務シリーズの①と② ①旅行業法およびこれに基づく命令 ②旅行業約款、運送・宿泊約款

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社(株)JTBでの勤務を通じ、商品企画仕入、営業活動、海外業務出張手配、国内および海外での添乗業務などに豊富な経験を持っています。これらの実務経験を基に、旅行業界の現場感覚を活かした実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	「国内旅行業務取扱管理者試験」出題科目に対応している他の講義「国内観光資源」も履修し、「国家試験対策講座」を受講すること。

年度	2025
講義名称	ホテル開発概論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05603L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	【本授業の目的と概要】 ① 観光立国を目指す日本では世界遺産登録やオリンピック計画、大阪万博、ＩＲの推進、リニア建設など国家的イベントの計画推進により訪日外国人観光客の増加が背景となりホテル建設市場が全国的に活発化新規開発や大規模再開発の施設数が増加傾向となるなかホテル事業開発の発意・建設計画から開業までの開発プロセスを体系的に学びホテル開発全体の専門知識と経営知識を習得すること。 地元札幌では毎年国際級のホテルが開業していく環境の中、学びが役に立つ人材に成長することを目的とします。 ② ホテルマネジメント（管理職）の観点からホテルの構造を見れる人材になることを目的として国家検定に挑戦を推奨します。 ホテル・マネジメントとは、①収益管理力 ②企画力 ③課題解決力 ④管理運営力 ⑤専門知識 の5つの専門能力に対し、ホテル組織の「係長、主任、リーダー等」にあたる「ホテル・マネジメント技能士（３級）」の国家資格です。 現在の宿泊業界はサービス技能だけではなく、経営数値の理解や分析など管理能力を有し将来マネージャー（管理職）になる人材が大学生に求められています。 ホテル・マネジメント技能国家検定試験は、毎年９月学科試験、１１月実技ケーススタディ試験が実施されます就職活動に向けて有益な国家資格取得に挑戦ください。（希望者は過去問を利用して国家検定試験対策を行います） ※その他、履修生は「宿泊経営概論（秋１）」「ホテル開発概論（春１）」「ホテル演習（夏集中）」「ホテルビジネス実務」等専門科目をホテル知識の幅を広げるため積極的に履修をしてください。
到達目標	【到達目標】 ① 本講座で運営・経営の仕組みを体系的に習得する ② ホテルの所有・経営・運営に必要とされる専門知識を学び習得する ③ 地元札幌では国際級ホテルの開業が毎年続く環境の中で国際的視野を持つ人材に成長すること
授業の進め方	【授業方法】 - 基本講義形式（パワポテキスト投影）と実際の事例を中心に授業を進めます。 - 毎授業冒頭には前回のキーポイントの復習振り返りを行う。 - 講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピングを公開（保存）、予習復習、情報収集に役立て下さい。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、ニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①（３春１） ホテル開発概論ガイダンス 授業内容説明、授業の進め方、目標と目的の解説
第2回	②（３春１） ホテル開発の歴史的経緯 ホテル事業モデルの変遷を学ぶ

第3回	③（３春１） ホテルビジネスの仕組み 参入動機の分類とホテル投資（金融）の視点
第4回	④（３春１） ホテル開発の基礎用語習得 経営・運営・企画・設計で用いる専門的用語の解説
第5回	⑤（３春１） ホテル経営の特性と重要性 会計の特性、財務諸表と経営指標の読み方、統一会計システム
第6回	⑥（３春１） 前半評価対象テスト 評価対象テスト（授業内テスト）と回答の解説・ＱＡ
第7回	⑦（３春１） ホテル開発のプロセス（Ⅰ） ホテル開発のスケジュール化
第8回	⑧（３春１） ホテル開発のプロセス（Ⅱ） 事業化検討・ホテル運営者の選定
第9回	⑨（３春１） ホテル開発のプロセス（Ⅲ） ホテル設計・デザイン１
第10回	⑩（３春１） ホテル開発のプロセス（Ⅳ） ホテル設計・デザイン２
第11回	⑪（３春１） ホテル開発のプロセス（Ⅴ） 建築・竣工 → 開業準備 → ホテル開業
第12回	⑫（３春１） 秋学期最終評価テスト 評価対象テスト（授業内テスト）と回答解説・ＱＡ
第13回	⑬（３春１） ホテル開発概論のまとめ 授業の振り返りとＱＡ

事前・事後学修	【具体的な内容】 観光に関する情報、ニュースを常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。 ※予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	3つの評価項目総合点（１００点満点）により単位認定評価を行う。 ⑥ 春学期前半評価対象 テスト ： 配分４０％（４０点） ⑫ 春学期全体評価対象 テスト ： 配分４０％（４０点） ○ 学ぶ姿勢 ： 配分２０％（２０点）
テキスト	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・購入の必要はありません。 ・必要に応じ適宜お知らせします。
参考文献	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・購入の必要はありません。 ・必要に応じ適宜お知らせします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして豊富な実務経験を有しています。 北海道から沖縄まで都市ホテルやリゾートホテル、外資系ホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して最新の情報提供を行う。

	また、就職活動においても同様に人脈を駆使して学生の希望を実現できるようアドバイスをします。
備考	地元札幌では毎年国際級のホテルが開業していきます、履修生は専門知識を養い国際的視野を身に着け将来マネジメント（管理者）人材として活躍してくれることを大いに期待しております。

年度	2025
講義名称	宿泊経営概論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05602L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	① 秋学期講義では観光サービス産業の基幹産業である宿泊産業について、日本で永い歴史のある「日本旅館」の変遷、明治維新後近代社会に寄与したホテルの役割、経済環境が移り変わり経営の変化、「観光立国」により加速した観光政策 国際的ホテルの参入増加、新業態ホテルの登場による多様化など宿泊産業の成り立ちから昨今の業界動向、施設分類 所有形態、経営形態、収益構造、関係する法律を体系的に考察し宿泊産業の基礎知識を習得することを目的とします。 ② 現在の宿泊業界はサービス技能だけではなく、経営数値の理解や分析など管理能力を有し将来マネージャー（管理職）になる人材が大学生に求められています。 ホテルマネジメント（管理職）の観点からホテルの構造を見れる人材になることを目的として国家検定に挑戦を推奨します。 ホテル・マネジメントとは、①収益管理力 ②企画力 ③課題解決力 ④管理運営力 ⑤専門知識 の5つの専門能力に対し、ホテル組織の「係長、主任、リーダー等」にあたる「ホテル・マネジメント技能士（3級）」の国家資格です。 ホテル・マネジメント技能国家検定試験は、毎年9月学科試験、11月実技ケーススタディ試験が実施されます 就職活動に向けて有益な国家資格取得に挑戦ください。（希望者は過去問を利用して国家検定試験対策を行います） ※その他、履修生は「宿泊経営概論（秋1）」「ホテル開発概論（春1）」「ホテル演習（夏集中）」「ホテルビジネス実務」等 専門科目をホテル知識の幅を広げるため積極的に履修をしてください。
到達目標	【到達目標】 ① 本講座で運営・経営の仕組みを体系的に習得する ② ホテルの所有・経営・運営に必要とされる専門知識を学び習得する ③ 地元札幌では国際級ホテルの開業が毎年続く環境の中で国際的視野を持つ人材に成長すること
授業の進め方	【授業方法】 ・基本講義形式（パワポ テキスト投影）と実際の事例を中心に能動的に授業を進めます。 毎授業冒頭には前回のキーポイントの復習振り返りを行う。 ・講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピングを公開、予習復習、情報収集に役立て下さい。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、ニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①（2秋1） 第1部：授業ガイダンス 授業内容説明、成績評価、目的と目標 第2部：おもてなしの基本 宿泊施設 おもてなしの本質、おもてなし、サービス、ホスピタリティの違い
第2回	②（2秋1）宿泊施設の歩み 歴史考察、成り立ちと語源、欧米と日本のホテル

第3回	③（２秋１）宿泊施設の相違 施設定義、産業構造上の定義、法律上の定義、経営特性、商品機能
第4回	④（２秋１）宿泊施設（ホテル）の分類 ホテルの分類とは何か？分類の前提を知る
第5回	⑤（２秋１）ホテルと旅館の違い 法令・機能・サービス様式・デザインの違い
第6回	⑥（２秋１）観光と宿泊産業 観光立国と時代背景、現状と将来、施設推移
第7回	⑦（２秋１）経営形態 施設の所有・経営・運営の関係
第8回	⑧（２秋１） a. 特別講義：外部講師による特別講話 b. 春学期前半評価課題：聴講レポート
第9回	⑨（２秋１）宿泊施設の収益構造 利益構造と利益率、収益特性、階層別収益管理
第10回	⑩（２秋１）経営分析の重要性 ホテル会計の特性、会計基準、財務会計、管理会計
第11回	⑪（２秋１）経営運営の用語と計算方式 専門用語と意味、業績評価指標の計算方法
第12回	⑫（２秋１）情報システム ホテルの基幹システム、各部門のネットワーク構成
第13回	⑬（２秋１）春学期全体評価テスト ① 秋学期評価テスト（授業内テスト） ② 宿泊経営概論まとめ：宿泊経営概論 全体の振り返り、Q A

事前・事後学修	【具体的な内容】 観光に関する情報、ニュースを常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。 ※予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	3つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定評価を行う。 ⑧ 春学期前半評価対象 聴講レポート：配分40％（40点） ⑬ 春学期全体評価対象 テスト：配分40％（40点） ○ 学ぶ姿勢：配分20％（20点）
テキスト	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・購入の必要はありません。 ・必要に応じ適宜お知らせします。
参考文献	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・購入の必要はありません。 ・必要に応じ適宜お知らせします。

実務経験のある教員の有無

有り

	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして豊富な実務経験を有しています。	2025/04/01

実務経験のある教員の経歴と授業内容	北海道から沖縄まで都市ホテルやリゾートホテル、外資系ホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して最新の情報提供を行う。 また、就職活動においても同様に人脈を駆使して履修生へ情報提供や希望を実現できるようアドバイスをします。 将来ホテル進路を選択している履修生は、３年次のゼミ選択で「ホテルゼミ」を履修することを推奨します。
備考	地元札幌では毎年国際級のホテルが開業していきます、履修生は専門知識を養い国際的視野を身に付け将来マネジメント（管理者）人材として活躍してくれることを大いに期待しております。

年度	2025
講義名称	ホテルビジネス実務
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05601L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹島 鉄也	短大・総合生活キャリア学科

授業の目的と概要	ホテル業界では近年、人材の多職能化が求められています。 幅広い知識、接客技能とともにお客様を心から「おもてなし」をするための人財育成が不可欠です。 本授業では、ホテルビジネスにおける基本的な業務内容を体系的に理解する事と併せ、ホテリエとしての接客の基礎について学習します。
到達目標	ホテルの各部門ごとの役割や業務概要を理解し、その知識を基に体系的に説明できる。
授業の進め方	下記の3段階で講義を実施します。 1.プリントや関連資料の利用による説明と、必要に応じてディスカッションを行う。 2.小テスト 3.解説 授業ではホテリエとして求められる姿勢や、実際にあったお客様とのエピソードなどを織り交ぜながら授業を展開します。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説を行い、参考資料などを適宜配布します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	・ガイダンス ・ホテリエの心構え ・観光産業の概要とホテルの歴史
第2回	・ホテルの役割と特性 ・ホテルの分類
第3回	・ホテルの経営形態 ・ホテルの組織
第4回	・宿泊部門の基本と実務1
第5回	・宿泊部門の基本と実務2 ・レストラン部門の基本と実務1
第6回	・第1回小テスト ・レストラン部門の基本と実務2
第7回	・宴会部門の基本と実務1
第8回	・宴会部門の基本と実務2 ・ブライダル部門の基本と実務1
第9回	・本学OBによるゲストスピーチ：学生生活の学び通したホテリエへの道

第10回	・第2回小テスト ・ブライダル部門の基本と実務2
第11回	・管理部門の基本と実務 ・調理部門の基本と実務
第12回	・ホテル業界の現状と今後
第13回	・期末テスト ・まとめ

事前・事後学修	授業前は書籍やインターネットを利用し、関連内容の情報収集を行う事。 授業後は配布したプリントを再度読み返し、一層、理解度を深める事。 「ホテルマネジメント技能検定」や「ホテルビジネス実務検定」を目指す学生は、関連テキストの購入を行う事。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①期末テスト50％ ②授業内小テスト30％ ③レポート20％
テキスト	適宜、必要資料を提示、配布する。
参考文献	「ホテルビジネス基礎編」～財団法人日本ホテル教育センター 価格5,000円（税別） 「ホテルビジネス基礎編・管理編 練習問題集700選」～財団法人日本ホテル教育センター 価格1,000円（税別）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ホテル業界やブライダル業界において、営業や人材教育などの実務経験のある教員が担当します。ホテルのしくみやホテルエとして必要な基礎やマナー等をわかりやすく解説します。

年度	2025
講義名称	国内観光研修
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05204S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目はこれでのカリキュラムを大幅にリニューアルし、航空系科目として新たに位置づけます。昨今航空系の就活でも注目されている空港グランドハンドリングを主なターゲットとし、その理論と実務をメインに取り上げます。加えて空港オペレーションの概要についても触れていきます。将来エアライン系の空港ハンドリング会社への就職も視野に入れた実践的な授業を展開します。
到達目標	実際のグランドハンドリング業務をはじめとした空港業務を学びまた実体験することで、今後の自身のキャリア形成に活かすことができる。
授業の進め方	基本的に航空会社で長く実務経験を有する教員が、これまでの実体験をベースに、わかりやすく具体事例も紹介しながら講義を行います。また実際新千歳空港において現役のグランドハンドリング担当者による演習も予定しています（11月1日予定）。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として毎回の講義終了時に知識確認の為の小テストの実施もしくはレポート課題を提出してもらいます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	グランドハンドリング業務概要①
第3回	グランドハンドリング業務概要②
第4回	グランドハンドリング業務概要③
第5回	学外研修（@新千歳空港）
第6回	学外研修（@新千歳空港）
第7回	学外研修（@新千歳空港）
第8回	学外研修（@新千歳空港）
第9回	学外研修振り返り
第10回	グランドハンドリング業務まとめ④
第11回	空港オペレーション業務①
第12回	空港オペレーション業務②
第13回	総まとめ・期末テスト

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	小テスト・レポート 60％ 学習姿勢（授業態度・都度の予習復習の実施状況）20% 期末テスト 20%
テキスト	特に指定しません。都度資料をサイト等を通じ共有します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、航空会社で33年間勤務し、営業、客室乗務、運航乗務、機体整備のサポート、空港旅客業務、空港運営管理など、全国で幅広いエアライン業務に携わってきました。これらの多岐にわたる実務経験を基に、航空業界の現場知識を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	原則としてこの科目の単位認定には本年11月1日（土）終日に予定している新千歳空港での研修参加が必須です。（新千歳空港までの交通費は自己負担） また履修希望者数が学外研修のキャパシティを超える場合は、あらかじめ履修者を調整させていただきます。その場合は観光ビジネス学科の学生を優先いたします。

年度	2025
講義名称	[冬集]海外観光研修
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05203S

担当教員

氏名	所属
◎ 呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	国土交通省観光庁（2025）によると、観光立国実現のためには、インバウンドとアウトバウンドの双方向の人的交流を拡大させることが非常に重要であり、また、観光政策の観点のみならず、我が国が進めるグローバル化の観点からも、今後を担う世代の国際感覚の涵養および相互理解の増進が求められます。本講義は、こうしたアウトバウンドの促進や若者のアウトバウンド活性化に寄与するため、お隣の国「韓国」への観光研修を通して韓国の観光文化を現地で実践的に学び、より国際的な観光人材の育成を目的とします。
到達目標	①韓国の社会・文化に関する知見を得ることで異文化への理解を深めることができます。 ②種々の専門知識（国際観光・異文化理解・言語など）を理解し、多面的なモノの見方や多角的に考える力を身につけることができます。 ③現地での大学生間交流を通して、異文化に触れることの楽しさを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけることができます。
授業の進め方	基本的にフィールドワーク中心の授業ですが、韓国観光研修に向けての事前・事後学習（座学）および現場学習（韓国観光研修）を組み合わせで実施します。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行います。 ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（WebClass）などを活用してフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（説明会）： 本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。また、韓国観光研修にあたっての注意事項について説明する。
第2回	事前学習1： 韓国の基本情報および研修先（ソウル特別市・大田広域市）について学習する。
第3回	事前学習2： 旅程管理資格を活用し、旅程表を作成する。
第4回	事前学習3： 第3回の授業で作成した旅程表をもとにプレゼンテーションおよび意見交換を行う。
第5回	韓国観光研修1（仁川国際空港、大田広域市）： 研修先へ移動し、旅程表通り活動を行う（大韓航空見学、大田へ移動）。
第6回	韓国観光研修2（大田広域市）： 研修先へ移動し、旅程表通り活動を行う（大田市役所訪問）。
第7回	韓国観光研修3（大田広域市）： 研修先へ移動し、旅程表通り活動を行う（韓国の大学生との交流）。
第8回	韓国観光研修4（大田広域市・ソウル特別市）： 研修先へ移動し、旅程表通り活動を行う（ソウルへ移動）。

第9回	韓国観光研修5（ソウル特別市）： 研修先へ移動し、旅程表通り活動を行う（ソウル歴史旅）。
第10回	韓国観光研修6（ソウル特別市・仁川国際空港）： 研修先へ移動し、旅程表通り活動を行う（仁川国際空港の多言語対応調査）。
第11回	事後学習1： 韓国観光研修の際に課した課題をもとにグループワークを実施する。
第12回	事後学習2： 第11回の授業で行った内容をもとにプレゼンテーション資料を作成する。
第13回	事後学習3： 第12回の授業で作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。また、これまでの活動内容を振り返り、意見交換を行う。

事前・事後学習	【具体的な内容】 予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。 【必要な時間】 予習・復習ともに2時間を要します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	成績評価は、主として「研修中の活動への取り組みと達成度（60％）」によりますが、「事前準備への取り組み状況（20％）」「事後学習への取り組み状況（20％）」も加えて総合的に評価します。
テキスト	特定の教科書は用いません。必要に応じて講義資料を配布します。
参考文献	必要に応じて、授業の中で紹介します。

備考	※履修要件 ①第1回目の説明会に必ず参加すること ②旅程管理資格の所持（1年次春学期・観光ビジネス学科専門科目「添乗演習」にて取得可能） ③全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」の単位取得済み（1年次春学期に履修可能） ④他学科履修不可

年度	2025
講義名称	観光産業と起業
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05202L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	現代観光産業は大きく分けて宿泊・運輸・旅行代理業を中心として発展してきた。その歴史はまだ浅いことから、参入障壁は比較的に低いと言われているが、特に我が国では新たな参入が少ない。観光産業における起業が増え、周辺ビジネスが充実すればそれだけ観光体験も充実し、観光地域にとってメリットも多いことが予想される。
到達目標	この講義では、起業に向けた課題と可能性を中心に概観し、特に北海道のような地方での起業について考える機会とし、自身で立ち上げのプランに落とし込めることを目的とする。
授業の進め方	基本的に講義形式での授業ですが、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れます。テキストだけでなく、教員からの補足資料、視聴覚教材などを使用し、理解力を高めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	確認テストやレポートに対するフィードバックは、授業内で実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	観光業界と起業家精神の導入
第2回	観光業界の概要と成長のトレンド
第3回	観光産業におけるマーケティングの重要性と戦略
第4回	観光産業における消費者の行動とニーズの理解
第5回	起業家に求められるビジネスアイデアの創出方法
第6回	市場調査と競合分析の手法
第7回	ビジネスモデルの作成方法と収益性の確保
第8回	起業家に必要なリーダーシップと組織の構築
第9回	観光産業におけるサービス品質の向上と顧客満足度の獲得
第10回	起業家に必要な資金調達とビジネスプランの作成
第11回	起業家に必要な法務知識と契約書の作成
第12回	デジタルマーケティングの戦略と活用方法

事前・事後学修	【具体的な内容】 各回のテーマについて新聞をはじめとする報道に関心を持ち、自ら調べて講義に参加することを期待する。予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とするが、常に疑問を持ち探究しようとする学習態度を心がけること。 【必要な時間】	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義ごとの確認シート30% ビジネスプラン等の作成40% テスト30%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2〜3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	海外旅行実務
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM05201L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 哲朗	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している「総合旅行業務取扱管理者」資格取得を目指し、試験科目である「海外旅行実務」の基礎知識を習得することである。観光資源については最も重要なヨーロッパを重点的に取り上げる。
到達目標	「総合旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの海外旅行実務の知識を身に付ける。
授業の進め方	旅行業界でに実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員によるパワーポイントを利用した講義形式。併せて授業内課題を解いて理解を深める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題、授業内試験を採点后、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	総合旅行業務取扱管理者試験の概要と合格の意義 時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(1)	対面授業
第2回	時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(2)	対面授業
第3回	時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(3)、	対面授業
第4回	時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(4)、 OAG、航空会社・都市・空港コード（1）	対面授業
第5回	OAG、航空会社・都市・空港コード（2） ホテル・クルーズ・鉄道・海外旅行保険（1）	対面授業
第6回	ホテル・クルーズ・鉄道・海外旅行保険（2）	対面授業
第7回	ホテル・クルーズ・鉄道・海外旅行保険（3）、海外観光資源（ヨーロッパ）	対面授業
第8回	授業内試験第1回目、 海外観光資源（ヨーロッパ）	対面授業
第9回	海外観光資源（ヨーロッパ）	対面授業
第10回	海外観光資源（ヨーロッパ）	対面授業
第11回	海外観光資源（ヨーロッパ）	対面授業
第12回	海外観光資源（ヨーロッパ）	対面授業
第13回	まとめ 授業内試験2回目	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】テキスト（参考文献）、プリントで予習復習を欠かさない。 【必要な時間】予習・復習の時間は2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

2025/04/01

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内試験評価 60% 授業内課題による評価 40%
テキスト	※授業ごとにプリントを配布する。
参考文献	「海外旅行実務 出入国法令と実務 旅行実務」「海外観光資源」JTB総合研究所

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、総合旅行業務取扱管理者の資格を取得し、旅行業界での長年の実務経験を通じて、企画、営業、運営など幅広い業務に携わってきました。これらの豊富な経験を基に、旅行業界の現場に根差した具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	総合旅行業務取扱管理者試験範囲は広範囲に及ぶため、具体的に講義で取り上げるのは「時差、OAGなど海外旅行実務」「海外観光資源」とする。他の試験科目「出入国法令」「国際航空運賃・料金」「旅行業英語」は対策講座（授業外）にて実施する。国家試験合格を目指す場合は他の受験科目も合わせて学習すること。

年度	2025
講義名称	ニューツーリズム概論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04903L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光学ではしばしば、「観光」と「ツーリズム」を分けて議論される。従来からある観光に対して、交流や地域創生などの新しい要素が加わったものを取り分け「ツーリズム」と呼ぶ場合が多いが、果たしてそのような分類で良いのだろうか。実際には観光とツーリズムはクロスオーバーしており、この授業ではさまざまな新しい観光の切り口としてニューツーリズムを捉え、観光全体との関わりを考えることを目的とする。
到達目標	・「〇〇ツーリズム」という表現が公共事業によるもの、運動論によるもの、事業者や地域の商品流通条のマーケティングによるもの、学術によるもの等々の判別ができるようになる。 ・将来観光関連の現場でツーリズムの力を発揮することができるようになる。
授業の進め方	昨今、話題となっているさまざまな「〇〇ツーリズム」を取り上げる。シラバスに沿って各自が事前に調べたレポートを提出した上で解説をする反転講義を予定しているので、積極的な事前学習を要する。

アクティブ・ラーニング

反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	反転授業とするため、事前に調べた課題の解説を講義中に行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	ツーリズムと観光
第3回	さまざまな公共施策とツーリズム
第4回	エコツーリズム
第5回	グリーンツーリズム・マリーンツーリズム
第6回	スポーツツーリズム
第7回	ダークツーリズム
第8回	インダストリアルツーリズム
第9回	ヘルスツーリズム・メディカルツーリズム
第10回	サステイナブルツーリズム
第11回	アドベンチャーツーリズム
第12回	ツーリズムの実践（ゲスト講師予定）
第13回	まとめ

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修

日頃からさまざまなツーリズムに関心を持つこと。
事前にmanaba等に課題を提出して反転講義に臨むこと。

【必要な時間】
予習・復習は2時間程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前課題の提出 70％ 授業内試験 30％

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2～3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	観光ビジネス論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04902L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	この科目はこれでのカリキュラムを大幅にリニューアルします。「観光ビジネス」の中でも特に急速に拡大し「インバウンド需要」の基礎を支えている「航空系ビジネス」に特化した授業を展開します。将来の観光業界人として求められるベーシックな航空知識の体得とその知識をベースにした思考力の醸成を図ります。
到達目標	航空業界の歴史的経緯、現状や今後の動向などについて正確に理解し、「観光業界人」としてのベーシックな航空知識とビジネス感覚が身を身につける。今後の自身のキャリア形成に活かすことができる。
授業の進め方	航空会社で長年の実務経験を有する教員が、航空業界全体の成り立ちや仕組みなどについて分かり易く解説しながら講義を行います。また都度「ホットな航空関連ニュース」も取り上げます。

アクティブ・ラーニング

PBL 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として毎回の講義終了時に知識確認の為の小テストの実施もしくはレポート課題を提出してもらいます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	航空ビジネスとは
第3回	航空ビジネスの概要（1）航空の歴史
第4回	航空ビジネスの概要（2）航空関連業務
第5回	航空ビジネスの概要（3）日本と世界の航空会社
第6回	航空ビジネスの概要（4）日本の空港
第7回	航空ビジネスの概要（5）世界の主な空港
第8回	航空ビジネスの概要（6）空港アクセス
第9回	航空ビジネスの概要（7）航空運賃の仕組み
第10回	航空ビジネスの概要（8）航空の路線ネットワーク
第11回	航空ビジネスの現状と課題（1）
第12回	航空ビジネスの現状と課題（2）
第13回	まとめ・期末テスト

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・小テスト・レポート 60％ ・学習姿勢（授業態度・都度の予習復習の実施状況）20％ ・期末テスト 20％
テキスト	特に指定しません。都度資料をサイト等を通じ共有します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、航空会社で33年間勤務し、営業、客室乗務、運航乗務、機体整備のサポート、空港旅客業務、空港運営管理など、全国で幅広いエアライン業務に携わってきました。これらの多岐にわたる実務経験を基に、航空業界の現場知識を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	旅人学【ブレB】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04901S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科
呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	人は古来より旅を続けている。かつては一部の聖職者や為政者による国交などの重要な役割を担っていた旅が、時とともにその行動の意義は捉えなおされ続けている。今日では旅は観光を支える観光行動の一つと位置付けられており、旅を理解することは観光学を学ぶ上で重要となっている。さらに、地方創生や観光まちづくりが各地で進められ、観光による地域振興が見直されている。そこでは、旅で得られた経験が地域振興に寄与することが重視され、国の施策でも地域おこし協力隊など旅人の要素を積極に取り入れる傾向にある。 この講義では、全国各地で様々な分野で活躍する旅人にも登壇いただき、上記のような実例を紹介いただきながら、学生自身が旅をすることを通して地域振興に寄与するための知識と意欲を涵養する。
到達目標	◇観光学を学ぶベースとして〈個人旅行〉という経験をする。 ◇個人旅行や観光と社会との関係について、実体験を通じて知る。
授業の進め方	自身も様々な体験をしてきている3人の教員によるオムニバス講義。さらにそれぞれの講師がゲストをお迎えし特徴ある旅人の人生がどのように地域や観光産業と関わっているか概観する。さらに各講師の話をもとに学生自らが自身の旅をデザインし夏季休暇等を利用して実際に旅に出ることを条件とする。 平常の授業では、学生間で互いの知識の確からしさを確認し合ったり、旅の計画の実現性を議論したりするピアレビューを中心とした授業を方法を多く取り入れる。 なお、「旅」は本科目の成果報告であり、「個人旅行」を原則とする。また、旅行に係る経費については全て自己負担なので、実現性のある旅を計画することが望ましい。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実際に各自が旅をし、その様子をSNSでの発信等何らかの発表を行うという課題により、教員や地域の関係者及び学生同士がコメントをするなど、インタラクティブなフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【ガイダンス】担当：河本・藤崎・呉 ①この科目は他の科目と異なる点が多く正しい理解をした上で受講するために、昨年度までの事例を取り上げながら授業の実施方法を説明する。 ②仮想旅行計画を使った課題の提出方法の授業内実践。	対面授業
第2回	【仮想旅行の旅に出よう】担当：河本 ①いきなり「個人旅行の計画をたてよう」と言われても、ひとりで考えるのは困るはず。そこで、第2回の授業はバーチャル旅行の各種サイトを使い、バーチャルな観光やオンラインツアーを楽しんでもらいます。 ②バーチャル旅行を楽しんだサイトのURLを記録しておき、そのサイト名と感想を第3回の授業で発表してもらいます。	オンデマンド授業
第3回	【仮想個人旅行体験の発表】担当：河本 ①第2回のオンデマンド授業で体験した仮想個人旅行について、感想を発表する。 ②実際にその旅行をする際の問題となる点について発表する。	対面授業

第4回	【旅とは何か】担当：藤崎	オンデマンド授業
第5回	【旅と移住】担当：藤崎	対面授業
第6回	【ゲスト講師①】担当：藤崎	オンデマンド授業
第7回	【旅と異文化体験】担当：呉 ①韓国における最新の人気観光スポットやカフェ文化、若者の観光行動について紹介する。 ②異文化への理解をより深めるため、質疑応答およびグループワークを行う。	対面授業
第8回	【旅と記録】担当：呉 ①個人旅行の最終報告に向けて動画編集の練習を行う。 ②上記の講義内容を踏まえて実際に動画を作成し提出する。	オンデマンド授業
第9回	【ゲスト講師②】担当：呉 韓国留学経験を持つ在学生によるプレゼンテーションのあと、受講者の理解を深めるために質疑応答を行う。	対面授業
第10回	【個人旅行の計画①】担当：河本 ①個人旅行の計画にあたっての留意点や発表する際の様式について説明する。 ②個人旅行の計画書をダウンロードし、各自で旅行の企画立案を行う。	オンデマンド授業
第11回	【個人旅行の計画②】担当：河本・藤崎・呉 ①個人旅行の計画書の途中経過を教員や学生同士で点検し合う。 ②個人旅行の計画の問題点を共有し合う。	対面授業
第12回	【個人旅行の計画書の最終点検】担当：河本 ①チェックリストに沿って自分が計画した計画書を点検する。 ②点検の終わった計画書をオンデマンド授業の中で指定された方法で提出する。	オンデマンド授業
第13回	【各自の個人旅行計画の発表（コンテスト）】担当：河本・藤崎・呉 ①各自の個人旅行計画を事前に示した様式にしたがい発表する。 ②発表した個人旅行について、実現可能性や旅としての面白さなどの観点からお互いを評価する。（点数評価） ③評価した点数の合計により、〈旅人学大賞〉を選出し表彰する。	対面授業

事前・事後学修	【事前学修】 各回のテーマについて新聞をはじめとする報道に関心を持ち、自ら調べて講義に参加することを期待する。予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とするが、常に疑問を持ち探究しようとする学習態度を心がけること。 【必要な時間】 予習・復習はそれぞれ概ね2時間とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①各担当教員の課題など 河本20％ 藤崎20％ 呉20％ ②個人旅行の計画書の提出 20％ ③個人旅行の実施とSNS等での報告 20％
テキスト	【テキスト】 必要に応じてハンドアウトを配布する。
参考文献	【参考文献】 必要に応じて授業の中で紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の	◇藤崎：これまでに、特定非営利活動法人知床ナチュラリスト協会代表理事、企業組合法人企業組合アドベンチャーバケーションネットワーク監事を歴任。アドベンチャー・ツーリズムの観点からの講義も考えています。 ◇河本：音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショーの制作、指揮など）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は『札幌シ

経歴と授業内容	アタープロモーション』という個人事業主としても開業しています。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルな企画の手法もご紹介します。 ◇呉：特になし。
備考	◇授業の一環として（大学管理下で）実施する個人旅行なので、指定された様式に従い計画書を作成し、交通機関の遅延や天候による中止などを除き行程どおりに実施してください。 ◇計画書は課題としてだけでなく、学研災や学研賠の裏付け書類となり、万が一の事故や損害に対する補償を受けられます。（保険料は入学時に納入済みなので授業としての徴収はありません。） ◇個人旅行の経費は自己負担です。金銭的に無理のない範囲で実施してください。 ◇指定された期日までに個人旅行の実施報告をしてください。（成績評価基準の③）

年度	2025
講義名称	インターネット旅行情報
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04804L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤岡 誠	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	日本の旅行業および観光業は、インバウンド旅行者の増加やコロナ禍後の旅行需要の変化、IT化等により、ここ数年で大きく変化してきました。 本講義では、旅行実務に必要な旅行情報の取得方法はもちろん、旅行者に伝えるための発信方法、またWEBサービスを用いた分析方法など旅行・観光分野のWEBマーケティングや、WEB・IT化によって変化する旅行業・観光業の現状などについて紹介。将来、旅行業や観光業のお仕事に就いた際に実際に「使える」実践的な知識やノウハウの習得を目指します。
到達目標	・旅行業や観光業に関心を持った上で、業務を円滑に進める上で役立つ情報・ツールの知識を得て、業務に活用することができる。主に旅行業務の仕組みを理解する。 ・旅行者のニーズに立ったWEBマーケティングの知識や活用方法を習得し、旅行情報の発信力を業務に活用することができる。
授業の進め方	旅行業界および観光組織（DMO）にて現役で実務に従事、総合旅行業務取扱管理者資格を有する講師による講義形式の授業。講義では視覚的学習効果を高めるため、パワーポイントを使用。またPC端末や手持ちのスマートフォンなどで実際の画面を確認しつつ実施し、理解を深めます。またグループワークも都度実施します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	適時課題（レポート提出）を実施。次回講義で解答に関するフィードバックを行い、講義で学んだ内容の理解を高めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス～旅行者にとって役に立つ「旅行情報」を考える
第2回	これからの旅行業務解説と旅行情報 アウトバウンド編①
第3回	これからの旅行業務解説と旅行情報 アウトバウンド編②
第4回	これからの旅行業務解説と旅行情報 インバウンド編①
第5回	これからの旅行業務解説と旅行情報 インバウンド編②
第6回	これからの旅行業務解説と旅行情報 旅行関連ビジネス編
第7回	旅行業務に役に立つ「旅行情報」とは
第8回	旅行・観光WEBマーケティング実務 WEBサイト編①
第9回	旅行・観光WEBマーケティング実務 WEBサイト編②
第10回	旅行・観光WEBマーケティング実務 分析編①
第11回	旅行・観光WEBマーケティング実務 分析編②
第12回	旅行・観光WEBマーケティング実務 情報発信編①
第13回	旅行・観光WEBマーケティング実務 情報発信編②、および講義全体の振り返り

事前・事後学習	・事前学習としては、前回授業で配布する講義概要に基づき、紹介するWEBサイトの事前確認を行ってください。また日頃から、旅行業・観光業や北海道観光などに関わるニュース・記事などにより最新の社会情勢を知るように心がけることが望ましく、より理解が深まります。学習時間の目安：2時間 ・事後学習としては、課題（授業レポート）への取り組みと合わせて、講義で学んだ各事項の復習・確認などを行なってください。学習時間の目安：3時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各講義後に課すレポートならびに学期末レポートによる評価のほか、積極的な講義への参加（発言、グループワーク等）状況に対して評価いたします。 ・授業内レポート：40％ ・受講態度（グループワーク等の発表や講義中の発言・質疑等）：30％ ・学期末レポート：30％
テキスト	適時レジュメ・資料を配布いたします。
参考文献	必要に応じて適時参考文献を紹介いたします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社で約20年にわたり団体営業や企画業務、WEBマーケティング部門、旅行関連事業部門のマネージャーを経験しました。また、北海道内DMOへの出向では着地型旅行商品の開発やWEBマーケティングに従事し、現在はコンサルタントとして旅行・観光業の業務支援を行っています。これらの実務経験を基に、観光業界の実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	講義はPCルームにて実施する予定です。

年度	2025
講義名称	[冬集]旅行演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04803S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	自身の「目で見て」「肌で感じて」「旅の楽しさ」を実感して、旅行への興味を深める事、そしていつか『楽しむ側』から『楽しませる側』への就業意識への動機づけが目的の一つです。プライベートで行く旅行では決して体験できない研修旅行に是非参加してみてください！ 事前学習では研修旅行を題材に、出発までの進行管理、現地施設への手配確認、最終日程表（旅のしおり）作成に必要な素材の収集など、現地では発生するイレギュラーな状況に対処する課題解決力を養い、ツアーアンケートから改善方法を模索するなどリアルに実務を学習します。
到達目標	・企画旅行の用語や出発までの業務フロー、手配の確認作業など習得し実践力を身に付ける。 ・一つ一つの業務の必要性や、形の無い商品である旅行の顧客の満足とは何か？を模索し、課題解決力を養う。 ・ビジネスパートナーと積極的にコミュニケーションする事ができる。
授業の進め方	講義ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワークの素材を配布し授業のポイントを分かり易く解説します。 また『搭乗者名簿』『ルーミングリスト』『最終日程表』作成など、パソコンでの作業も取入れ能動的な学修を目指します。 本演習は旅行業において企画添乗の実務経験のある教員が、企業の営業活動のしくみや、業務マネジメントの知識を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	現地で遭遇する事象に対しては都度講評し、事後レポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	② 【事前学習】研修旅行日程の概要、進行管理データの作成	対面授業
第3回	③ 【事前学習】役割分担、役割毎の業務について解説	対面授業
第4回	④ 【事前学習】役割毎の業務、担当毎の作業	対面授業
第5回	⑤ 【事前学習】「旅のしおり」作成	対面授業
第6回	⑥ 結団式、出発前注意事項	対面授業
第7回	⑦ 研修旅行 1 日目（団体航空幹旋）	対面授業
第8回	⑧ 研修旅行 1 日目（バス運行管理）	対面授業
第9回	⑨ 研修旅行 2 日目（ホテル視察）	対面授業
第10回	⑩ 研修旅行 2 日目（観光施設視察）	対面授業
第11回	⑪ 研修旅行 3 日目（ホテル視察）その 2	対面授業
第12回	⑫ 研修旅行 3 日目（観光施設視察）その 2	対面授業
第13回	⑬ 【事後学習】アンケート結果分析、まとめ、	対面授業

事前・事後学修	事前事後、それぞれ2時間程度を目安とします Webでの現地訪問先情報の収集や、観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	事前課題作成内容：30％　研修参加姿勢：40%、事後レポート：30％
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBで33年間勤務し、全国や世界各地の主要観光地の旅行企画を手掛け、訪問を通じて幅広い知識と経験を積み重ねてきました。この豊富な実務経験を基に、観光業界の実践的なノウハウと地域ごとの観光文化についての学びを提供する講義を展開します。
備考	まずは皆で旅行を楽しみましょう！

年度	2025
講義名称	観光企業研究
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04802L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科
山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科
荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	現在、観光に関わる多くの企業（観光企業）はＩＴ化、グローバル化、ライフスタイルの変化、少子高齢化などの影響により大きな変革期を迎えています。本講義では変化の激しい業界動向を踏まえ、「航空、宿泊、旅行」の3ジャンル毎に企業研究を行い、それぞれの企業の特徴や課題等について分析できる能力の習得を目的とします。
到達目標	各観光産業を取り巻く環境変化や動向を正確に理解することで、「観光業界人」としてのビジネス感覚を身につけ今後の自身のキャリア形成に活かすことができる。
授業の進め方	講義形式が基本です。いずれも観光業界で長く実務経験を積んだ教員が観光産業の実状を分かり易く解説しながら進めます。「観光関連ニュース」も随時、取り上げます。また、社会人として知っておくべき実践的な「知識」や「心構え」も触れていきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は授業内で解説、説明します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・企業分析の手法（田中）
第2回	航空産業①（荒木）
第3回	航空産業②（荒木）
第4回	航空関連産業①（荒木）
第5回	航空関連産業②（荒木）
第6回	宿泊産業①（山田）
第7回	宿泊産業②（山田）
第8回	宿泊産業③（山田）
第9回	宿泊産業④（山田）
第10回	旅行業①（田中）
第11回	旅行業②（田中）
第12回	旅行業③（田中）
第13回	旅行業④（田中）

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	以下の配分で評価します。 ・田中 40% ・荒木 30% ・山田 30%
テキスト	特に指定しません。授業の中で都度資料を共有します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、それぞれの専門分野で豊富な実務経験を重ね、業界のニーズに応じた知識や技能を培ってきました。これらの経験を基に、理論と実務を融合させた学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	観光サービス論
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04801L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 山田 芳之	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	【授業の目的と概要】 ① 観光産業というのはどのような産業なのか？ どのような役割をもっているのか？ 観光とサービス業界のつながりについて全体像を俯瞰し、観光サービス産業の現状や業界の関係性を描くことができるようになることを目的とする。 ② 観光サービス産業の中で基幹産業である宿泊産業について、日本の伝統的な宿泊施設を例に永い歴史変遷をたどり日本のおもてなし文化、地域との連携、社会的責任、環境の移り変わりと伴にどのように変化してきたかを体系的に考察していきます。 ※その他、履修生は「宿泊経営概論（秋１）」「ホテル開発概論（春１）」「ホテル演習（夏集中）」「ホテルビジネス実務」等専門科目をホテル知識の幅を広げるため積極的に履修をしてください。
到達目標	【到達目標】 様々な観光サービスを理解し、その可能性や課題に対する見識を持つ。
授業の進め方	【授業の進め方】 観光サービス産業の基幹産業である宿泊産業から見た、観光に携わる各々の業界について事例を紹介し併せて授業内課題で理解を深める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 授業内課題・レポートについて、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①（２春２） ガイダンス 観光を概観する
第2回	②（２春２） 宿泊業の種類と観光(1)
第3回	③（２春２） 宿泊業の種類と観光(2)
第4回	④（２春２） 宿泊業の種類と観光(3)
第5回	⑤（２春２） 宿泊業の種類と観光(４)
第6回	⑥（２春２） 宿泊業の種類と観光(５) 評価対象授業内試験

第7回	⑦（２春２） 交通機関と観光（１）
第8回	⑧（２春２） 交通機関と観光（２）
第9回	⑨（２春２） 旅行業と観光（１）
第10回	⑩（２春２） 旅行業と観光（２）
第11回	⑪（２春２） インバウンドの概況（訪日外国人旅行者）（１）
第12回	⑫（２春２） インバウンドの概況（訪日外国人旅行者）（２）
第13回	⑬（２春２） 評価対象授業内試験 観光サービス論まとめ：全体の振り返り、Q A

事前・事後学修	【具体的な内容】 観光に関する情報、ニュースを常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。 ※予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	３つの評価項目総合点（１００点満点）により単位認定評価を行う。 ⑥ 前半評価対象 授業内テスト ： 配分４０％（４０点） ⑬ 春学期全体評価対象 テスト ： 配分４０％（４０点） ○ 学ぶ姿勢 ： 配分２０％（２０点）
テキスト	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・購入の必要はありません。 ・必要に応じ適宜お知らせします。
参考文献	【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】 ・購入の必要はありません。 ・必要に応じ適宜お知らせします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は国内・海外のホテルにて総支配人・社長など運営経営トップとして豊富な実務経験を有しています。 北海道から沖縄まで都市ホテルやリゾートホテル、外資系ホテルに幅広い人脈を有しており、授業に関係する専門家を適宜招聘して最新の情報提供を行う。 また、就職活動においても同様に人脈を駆使して履修生へ情報提供や希望を実現できるようアドバイスをします。 将来ホテル進路を選択している履修生は、３年次のゼミ選択で「ホテルゼミ」を履修することを推奨します。
備考	地元札幌では毎年国際級のホテルが開業していきます、履修生は専門知識を養い国際的視野を身に付け将来マネジメント（管理者）人材として活躍してくれることを大いに期待しております。

年度	2025
講義名称	国内旅行実務
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04702L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤岡 誠	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	旅行業とは一体どのような業務なのか、旅行会社では一体どんな業務を行なっているのか。イメージできそうで難しい、旅行会社で行なわれている（実は多岐にわたる）業務について、総合旅行業務取扱管理者資格を有し、旅行会社で20年以上勤務し幅広い業務を経験した講師が、主に国内旅行業務に関わる分野を紹介。各業務の内容や将来的な課題について講義いたします。また国家資格「旅行業務管理管理者」の取得を想定し、各法令等と各業務とのつながりについても解説いたします。 また講義では座学での学習の他、グループワークによるツアー案の企画検討、旅行パンフレット制作体験など経験いただく予定です。知識の習得はもちろんですが、旅行業の面白さや楽しさ、将来的な旅行業の方向性にも触れたいと思います。
到達目標	・旅行業・旅行会社の業務の内容を知る ・旅行業に関係する法令や約款を理解する ・旅行業を行うにあたって必要な知識を習得する
授業の進め方	本講義では、現在、旅行会社にてコンサルティングの立場で業務に携わる講師が担当。主にパワーポイントを用いつつ、指定のテキストを用いながら解説いたします。授業スタイルは講義形式が中心ですが、一部グループワークや映像活用などのアクティブラーニングを実施いたします。また講義毎課題レポートと解答に対する振り返りを次回講義で行い、理解を深めます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	適時実施する授業内レポートを拝見させていただき、次回講義で振り返りを行うとともに、グループワークでの課題検討と発表の機会を設け、発表に対してフィードバックを実施いたします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業ガイダンス
第2回	旅行業務の基礎知識
第3回	予約受付業務と関連する法令・約款①
第4回	予約受付業務と関連する法令・約款②
第5回	手配業務と関連する約款（宿泊・運輸）①
第6回	手配業務と関連する約款（宿泊・運輸）②
第7回	商品企画業務と関連する法令・約款①
第8回	商品企画業務と関連する法令・約款②
第9回	営業業務
第10回	旅行企画業務①
第11回	マーケティング業務
第12回	旅行企画業務②

第13回	旅行企画業務③・講義全体の振り返り

事前・事後学習	事前学習：各講義終了後に、次回の授業内容を紹介。授業内容とテキスト範囲の内容について、事前に学習ください。目安：2時間 事後学習：各授業の課題となる授業内レポートに取り組み、また授業内容について復習をしてください。目安：3時間

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	適時実施する授業内レポートを拝見させていただき、次回講義で振り返りを行うとともに、グループワークでの課題検討と発表の機会を設け、発表に対してフィードバックを実施いたします。 ・授業レポート 40％ 授業態度・積極性（一部小テストによる評価） 30％ 期末レポート 30％
テキスト	旅行業実務シリーズ② 2024 旅行業約款、運送・宿泊約款 出版：株式会社JTB総合研究所
参考文献	必要に応じて適時参考文献を紹介いたします。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社で約20年にわたり団体営業や企画業務、WEBマーケティング部門、旅行関連事業部門のマネージャーを経験しました。また、北海道内DMOへの出向では着地型旅行商品の開発やWEBマーケティングに従事し、現在はコンサルタントとして旅行・観光業の業務支援を行っています。これらの実務経験を基に、観光業界の実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	添乗演習
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04701S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 横田 久貴	大学・観光学部・観光ビジネス学科
進藤 靖雄	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	旅行業における添乗業務の全般を学び、実際の添乗訓練を通じて添乗実務に関する実践的な技術・資格を身につけます。 なお、この講義は旅程管理者資格の所定研修に準じて行われ、所定の基準に達した者は旅程管理者(ツアーコンダクター)に認定されます。(資格取得)
到達目標	添乗業務の実践的な知識・技能を身につける。 単位修得者(試験修了者)は企画旅行の主任添乗員になるための旅程管理の資格を取得し、現場で活躍することができるレベルにまで知識技能を備える。
授業の進め方	①入学前課題による事前学習(10時間相当) ②座学講義(2日間) 1日目 9:00～17:30 2日目 9:00～17:30 *講義の中で2度試験を実施 ③実車訓練 1日 8:00～18:00

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク 体験学習

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	入学前課題による事前学習(10時間相当)は、座学講義の前までに受講し、座学講義中に行われる試験を受けなければならない。また、講義の中で2度試験が課されます。 実車訓練では、車内アナウンスや人員確認など実践的なビジネス態度・行動が求められる。 (以上は、旅程管理研修の必須事項であり、大学もこれに準拠しています。)

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	講義1日目 旅行業法(1)	対面授業
第2回	講義1日目 旅行業法(2)	対面授業
第3回	講義1日目 約款(1)	対面授業
第4回	講義1日目 約款(2)	対面授業
第5回	講義2日目 添乗実務(1)	対面授業
第6回	講義2日目 添乗実務(2)	対面授業
第7回	講義2日目 ケーススタディ(1)	対面授業
第8回	講義2日目 ケーススタディ(2)	対面授業
第9回	講義3日目 実車訓練(フィールドワーク)1 集合場所でのブリーフィングとお客様点呼、乗車案内	フィールドワーク
第10回	講義3日目 実車訓練(フィールドワーク)2 車内アナウンス訓練、乗車確認点呼	フィールドワーク
第11回	講義3日目 実車訓練(フィールドワーク)3 ホテル等宿泊施設・観光施設へのご案内、人員把握、諸業務	フィールドワーク

第12回	講義3日目 実車訓練（フィールドワーク）4 高速道路休憩地点での集合解散、お客様点呼、日程終了のアナウンス	フィールドワーク

事前・事後学修	事前学習 ①入学前課題による事前学習(10時間相当)は、座学講義の前までに受講してください。 事後学習 ①講義の中で2度試験が課されます。試験準備をお願いします。 ②実車訓練では、車内アナウンスを行います。前日までにお客様に連絡しなければならない事項を暗記し、バス車内で説明できるようにしてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	修了試験（2回） 80% 入学前課題 10% 実射訓練中における技能試験 10%
テキスト	関連書籍1冊(講義時に配布)
参考文献	講義中に紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	進藤 靖雄氏 担当教員は、株式会社JTBで、旅行業界に特化した事業を通じ、ツアー運営や人材育成に深く携わり、豊富な実務経験を積みました。この経験を活かし、実践的な知識と業界の視点を統合した学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	[夏集]観光と歴史文化
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04119L

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、歴史文化観光とは何かを理解してもらうことにある。 概念的なことを理解しつつ、実際の歴史観光地での観光資源との関係性について理解してもらう。 そのために小樽運河エリアの一部をフィールドワークする予定である。
到達目標	①歴史文化観光の特徴を理解し、各地のまちづくりにも影響していることを理解できる。 ②歴史観光地と言われる事例を、その特徴とともに紹介することができる。 ③フィールドワークの中で積極的に情報を入手しようとしている。 ④小樽という歴史観光地における観光資源との関係性を理解できる。
授業の進め方	1日目は講義を中心に概念的な内容を取り扱う。2日目は簡単な歴史観光地、歴史観光対象の事例をパワーポイントで発表してもらう。3日目は実際に小樽運河エリアへ行き、フィールドワークによる現地調査を行う。4日目は調査に基づいたパワーポイントでの発表を行う。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	パワーポイントによる発表に対して、コメントしたことをもって、フィードバックとする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	集中講義1日目 1, ガイダンス 2, ツーリズムと歴史文化
第2回	集中講義1日目 1, 歴史文化観光とは（文化観光と遺産観光、世界遺産との関係） 2, 歴史にまなざしをむける人たち
第3回	集中講義1日目 1, 海外における歴史観光 2, 日本における歴史観光とまちづくり ＊ヒストリカルブランディング
第4回	集中講義1日目 ○歴史観光地の事例発表準備
第5回	集中講義2日目 ○歴史観光地の事例（学生によるプレゼン紹介） 1
第6回	集中講義2日目 ○歴史観光地の事例（学生によるプレゼン紹介） 2
第7回	集中講義2日目 1, 北海道における歴史観光 2, フィールドワークの事前学習 ＊「歴史観光地と観光資源の関係性」を調べるために必要な場所

第8回	集中講義3日目 ○小樽フィールドワーク 1 ＊立地調査及び博物館への入場
第9回	集中講義3日目 ○小樽フィールドワーク 2 ＊立地調査及び博物館への入場
第10回	集中講義3日目 ○小樽フィールドワーク 3 ＊立地調査及び博物館への入場
第11回	集中講義3日目 ○小樽フィールドワーク 4 ＊立地調査及び博物館への入場
第12回	集中講義4日目 ○「歴史観光地と観光資源の関係性」について（学生によるプレゼン紹介） 1
第13回	集中講義4日目 ○「歴史観光地と観光資源の関係性」について（学生によるプレゼン紹介） 2

事前・事後学修	以下の事後学習がある。 1日目後に「歴史観光地の事例紹介」のパワーポイント作成 3日目後の「小樽運河エリアフィールドワーク」後のパワーポイント作成

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①1日目の講義内課題：歴史文化観光の特徴の理解 20% ②2日目のパ発表：歴史観光地の事例紹介 20% ③3日目のフィールドワーク状況：情報入手状況 20% ④4日目の発表：歴史観光地と観光資源の関係性の理解 20%
テキスト	特になし（必要時にレジュメを配布）
参考文献	久保健治『ヒストリカル・ブランディング 脱コモディティ化の地域ブランド論』角川新書

備考	初日はパソコンを持参すること。（その後については、必要な場合のみとする） 3日目のフィールドワークでは次のことが必要。 ①各種入場料など（2日目に確認する） ②小樽までの旅費（JR往復：1500円） ②野外での服装（靴、帽子など） ※野外で長時間いることを想定している。

年度	2025
講義名称	観光とMICE
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04117L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田中 洋一郎	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では地域に大きな経済効果をもたらす可能性のあるMICEの基本を理解し、さらにMICEの模擬コンペを授業内で実施し、『勝てる企画提案！』のポイント、グループワークやプレゼンテーションなど実践を通じて学修していきます。
到達目標	・MICEのケーススタディを通して、課題の深堀、本質の分析、根拠のある提案などロジカルな思考が出来る。 ・実社会でも使える伝わる提案書の作能力、プレゼンの実践力を身に付ける。 ・共同作業する能力やコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。
授業の進め方	講義ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワーク素材を配布し課題分析など授業のポイントを解説します。またグループワークやプレゼンテーションなどを取り入れ能動的かつ実践的な学修を目指します。 本講義は旅行業においてMICEの実務経験のある教員が、企業の営業活動のしくみや、企業での業務マネジメントの知識を活かして、学生の視点からも理解し易い講義を実施します。 ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる授業になります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション発表やレポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	② MICEの基礎	対面授業
第3回	③ Mの模擬コンペ（企業の表彰パーティーを企画提案）	対面授業
第4回	④ Mの模擬コンペその2	対面授業
第5回	⑤ Mのプレゼン発表	対面授業
第6回	⑥ Iの模擬コンペ（企業のインセンティブツアーを企画提案）	対面授業
第7回	⑦ Iの模擬コンペその2	対面授業
第8回	⑧ Iのプレゼン発表	対面授業
第9回	⑨ CとEの事例研究（継続カンファレンス・イベントの課題分析と企画提案）	対面授業
第10回	⑩ CとEの事例研究その2	対面授業
第11回	⑪ CとEの事例研究その3	対面授業
第12回	⑫ CとEのプレゼン発表	対面授業
第13回	⑬ プレゼンの講評、まとめとメッセージ	対面授業 2025/04/01

事前・事後学修	事前事後、それぞれ2時間程度を目安とします Webでの情報収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・平常点（グループワーク参加姿勢、授業レポート）：40％ ・成果報告プレゼンテーション（中間・最終）：60％
テキスト	特に指定しません。適宜プリントを配布します。
参考文献	なし

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行会社JTBに33年間勤務し、MICE（会議、インセンティブ旅行、コンベンション、展示会）の企画や運営に携わり、多岐にわたる経験を積んできました。国内外のイベントの管理や調整を通じて培ったノウハウを基に、観光業界の実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

年度	2025
講義名称	観光政策行政
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04116L

担当教員

氏名	所属
◎ 新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光政策は、地域や企業単位のマクロなレベルでも、個人単位のミクロなレベルでも多方面に影響を及ぼす。日本では明治維新による開国以降、様々な観光政策が紆余曲折に実施されてきた。観光政策の転換には、時代特有の外交問題や経済問題が背景にある。これらの社会的背景を把握することは、日本の観光政策の特徴や課題、さらには今後の動向を理解するために極めて重要である。本授業では、日本の観光政策の歴史的展開を体系的に理解することで、現代の観光政策が抱える課題とその克服方法を考察する。具体的事例として北海道ニセコエリアの事例を取り上げることで、なぜニセコエリアがインバウンド観光振興に成功できたのか、日本全体の観光政策の動向と関連づけながら理解する。
到達目標	○日本の観光政策の歴史的展開について、社会的背景を踏まえながら理解する。 ○日本の観光政策の強み・弱みを具体的事例とともに検証する。 ○現代の日本の観光政策が抱える課題と克服方法を考察する。
授業の進め方	本授業は、講義、ディスカッション、プレゼン発表、期末筆記試験によって構成される。 講義：観光政策に関する学術的知識について、教員が講義を行う。 ディスカッション：各回のテーマに沿った問いに対する答えを、受講生全員で討議する。 プレゼン発表：2～3人で1つのグループを作り、特定の地域における観光政策の具体的事例を調査し、発表する。 期末筆記試験：講義で学んだ内容が正確に把握できているかを問う筆記試験を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ディスカッションやプレゼン発表に対して、教員がその場で良い点・改善点をコメントする。また、ディスカッションの中で浮かび上がった有意義な意見については、教員がその場で指摘し評価することによって、議論を多角的に深化させる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：観光政策って？
第2回	日本の観光政策史①
第3回	日本の観光政策史②
第4回	北海道の観光政策史
第5回	ニセコエリアの観光政策史①
第6回	ニセコエリアの観光政策史②
第7回	プレゼン発表①
第8回	プレゼン発表②
第9回	オーバーツーリズムと観光政策①
第10回	オーバーツーリズムと観光政策②
第11回	ポストコロナ時代の観光政策
第12回	これからの観光政策：ICT、モビリティ、特化型観光など

第13回	まとめ／期末筆記試験

事前・事後学修	プレゼン発表当日までに、グループで特定の地域における観光政策の具体的事例を調査し、発表の準備をしてくること。 また、適宜授業で学んだ事項を復習されたい（1時間）。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	○授業への姿勢（出席率、積極性、授業態度など）：30％ ※発言内容の正否は問わず、発言量が多い者ほど評価する。 ○ディベート：20％ ○プレゼン発表：30％ ○期末筆記試験：20％
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。

年度	2025
講義名称	観光情報
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04115L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 五十嵐 誠	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	観光分野における情報の重要性と役割を理解し、観光客や事業者にとって有用な情報とは何かを考える力を身につけるために、本授業では観光情報の基礎的な知識と活用方法を修得する。 観光情報とは何かを理解した上で、観光に関する情報の種類や、情報の伝え方について学ぶ。さらに、観光地で実際に使われている情報発信の事例を通じて、観光情報の効果的な活用方法を考察する。授業では、講義に加えてグループワーク等を通じて、実践的な理解を深めていく。
到達目 標	・観光情報の基本的な種類や特徴について説明できる。 ・異なる情報提供手段（紙媒体、Web、SNSなど）の利点と課題を比較し、状況に応じた活用方法を考察できる。
授業の 進め方	本講義は、春学期・第1クォーター木曜日の2講目、3講目で実施する。 各授業の前半は、レクチャー中心の内容とし、後半は、レクチャー内容について理解を深めるためのケーススタディ、グループワーク等の演習中心の授業とする。 能動的な学習に向けて、全授業にて、クイズ、アンケート等の講義中ワーク実施等を通じたディスカッションを活用した講義とする。講義後は、毎回レポートを作成し、講義内容の振り返りを行う。最終講義後に、最終レポートを提出する。 全ての授業にてワーク（アンケート、クイズ、ディスカッション等）を実施するので、PC、スマートフォン、タブレット端末等のインターネット接続可能なデバイスを用意すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で実施した講義中ワーク（クイズ、アンケート等）は、結果の共有、解説を行う。事後課題は、次回授業冒頭で講評すると共に優良レポートを共有する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	■オリエンテーション ・授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明 ・観光情報学、観光DXについて	対面授業
第2回	■観光DX ・日本および世界における観光DX事業の紹介 ・北海道における観光DXの現状と課題	対面授業
第3回	■観光ビッグデータの概要と分析方法 ・旅行者の移動・消費・SNS投稿等のデータ種類と特徴 ・可視化ツール（例：ヒートマップ、パーソンマップ）の紹介	対面授業
第4回	■旅行予約サイトの活用と最新動向 ・OTAの仕組み：楽天・じゃらん・Booking.com・Expediaなど	対面授業
第5回	■宿泊施設におけるICTの利活用 ・チェックインの無人化、自動翻訳機、スマートルーム ・IoT連動による滞在中の快適性向上	対面授業

第6回	■コンテンツツーリズム ・「聖地巡礼」の定義と影響 ・位置情報アプリ連動での観光促進 ■観光産業におけるマッチングサービス ・事例紹介	対面授業
第7回	■仮想現実（VR、MR、XR）の観光分野での利活用 ・それぞれの技術の違い ・利活用事例の紹介	対面授業
第8回	■情報を利活用した集客 ・マーケティング用語（CRM、LTV、ペルソナ）の理解 ・消費者の購買プロセスについて	対面授業
第9回	■消費者の購買プロセス① ・消費者行動プロセス毎のプロモーション媒体について	対面授業
第10回	■消費者の購買プロセス② ・消費者行動プロセスの「注意・認知」の事例について	対面授業
第11回	■消費者の購買プロセス③ ・消費者行動プロセスの「共有」について	対面授業
第12回	■企業における観光情報を活用した取組 ・リードジェネレーション、リードナーチャリングについて ・企業でのCRM、LTVの考え方	対面授業
第13回	■振り返り、最終レポート演習 ・講義全般の振り返りと共に最終レポート演習を実施	対面授業

事前・事後 学修	予習として、講師が指示する内容についてニュース、インターネット等で調べて、自身の考えを整理しておくこと。復習として、授業にて学んだ内容に関する事後課題を提出すること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・講義時におけるワーク（ディスカッション、アンケート、クイズ等）：20％ ・講義毎の事後課題：40％ ・最終レポート：40％
テキスト	適宜必要な資料を配布する。
参考文献	『観光情報学入門』観光情報学会（近代科学社）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある 教員の経歴と授 業内容	担当教員は、NTT東日本で幅広い業務に従事しながらMBAを取得。ITベンチャー企業への転職後、経営企画役員として2度の上場に貢献。その後独立し、コンサルティングやベンチャー企業での内部監査業務、大学講師などの活動を展開しています。これらの実務経験を基に、経営と組織運営の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	受講生のニーズを踏まえて 内容を変更することがある。

年度	2025
講義名称	観光調査法入門
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04114L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 齊藤 巧弥	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光の現状を理解したり、あるいは課題の解決を目指す際、知りたいことが存在していないことが往々にしてある。そのとき私たちは、何かしらの方法を用いて自ら調査を実施する必要がある。本講義では、観光をめぐる様々な現象を分析するための社会調査法について、基礎的な知識を獲得することを目的とする。調査に関する前提としての知識を学習したのち、多様な調査法の中でも代表的なもの（質問票、フィールドワーク／参与観察、インタビュー、資料分析）を取り上げ、それぞれの特徴や手法を学び、今後の研究調査を実施するスキルを身につける。
到達目標	本講義を修了することにより、受講者は、 ①観光調査法の基礎知識が理解でき、 ②多様な観光調査を用いた報告などを適切に読み解くことができ、 ③観光調査法について発展的に自ら学習する姿勢を身につけることができ、 ④実際に観光調査を実施する際の基礎的スキルを身につけることができるようになる。
授業の進め方	講義形式（対面）を基本とする。各講義内では課題が課され、受講生は授業中にその課題を完了させる。学期中には小テストも三度実施し、授業最終回には期末テストを実施する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内の課題には、その都度授業内で解説を実施する。小テストは採点ののち返却し、その解答を授業内で解説する。また課題や質疑応答には振り返りシートも用いてフィードバックをする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：調査とは何か 本講義の概要（講義スケジュール、成績評価方法など）について解説をする。導入として、調査とは何かという基礎的な考えかたについて解説をする。「調査」は「勉強」とは異なる高度な取り組みであることを理解するのが第一回の目的である。
第2回	社会調査の基礎知識①：問いの立て方 調査においては、「問い」が重要となる。すべて調査は、何かしらの疑問を出発点としており、問いのない調査はないと言っても過言ではない。問いの重要性や作り方、適切な問いの形などを学習する。
第3回	社会調査の基礎知識②：調査デザイン・様々な概念 実際の調査においては、問い以外の多様な要素が必要となる。調査計画の立案、調査方法の選択、先行研究の検討、分析概念の検討などがそれにあたる。調査から分析、成果発表に至るプロセスや構造について学習する。
第4回	社会調査の基礎知識③：データ&サンプリング 全ての社会調査は、何かしらのデータを対象に分析をする。そのデータにはいくつかの種類があり、その収集方法にも一定の手続きがある。データの種類について概観し、主に量的な調査において重要となるサンプリングについて学習する。★小テスト実施予定回
第5回	質問票調査①：基礎知識 アンケートとも呼ばれる質問票調査は、社会調査の代表的なものである。シンプルと捉えられる調査法だが、その他の調査よりも厳密な手続きを要する。データ収集法から分析方法までのプロセスの概要を紹介する。
第6回	質問票調査②：観光調査の実例 基礎知識をもとに、実際に質問票を用いた観光調査の実例を紹介する。具体例と共に質問票調査の長所や短所に触れつつ、その実施方法や実際の調査報告書・学術論文の読み解き方を学習する。

第7回	フィールドワーク／参与観察①：基礎知識 フィールドワークはその他の調査法と比べ、幅広い実践を含んでいる。その中でも特に、参与観察と呼ばれる調査法について特に取り上げる。言葉ではないデータを扱うという点で特徴的な参与観察の、データ収集法から分析方法までのプロセスの概要を紹介する。★小テスト実施予定回
第8回	フィールドワーク／参与観察②：観光調査の実例 基礎知識をもとに、実際にフィールドワーク／参与観察を用いた観光調査の実例を紹介する。具体例と共にその長所や短所に触れつつ、フィールドワーク／参与観察の実施方法や実際の調査報告書・学術論文の読み解き方を学習する。
第9回	インタビュー①：基礎知識 インタビューは「話を聞くだけ」と捉えられがちであるが、インタビューにもいくつかの種類があり、かつ質問の仕方などにじゅうぶんなテクニックを要する調査法である。適切なデータを収集するためのインタビューの技法から、得られた発話データの分析手法までの概要を紹介する。
第10回	インタビュー②：観光調査の実例 基礎知識をもとに、実際にインタビューを用いた観光調査の実例を紹介する。具体例と共にその長所や短所に触れつつ、インタビューの実施方法や実際の調査報告書・学術論文の読み解き方を学習する。★小テスト実施予定回
第11回	資料分析①：基礎知識 すでに書き・描き残されてきた資料（雑誌、新聞、映像など）を分析対象とする資料分析は、その他の調査法と比べデータの種類の幅広い。いずれのデータを扱う際にも共通して用いられる「言説分析」に特に焦点を当て、データの考え方から分析方法までの概要を紹介する。
第12回	資料分析②：観光調査の実例 基礎知識をもとに、実際に資料分析を用いた観光調査の実例を紹介する。具体例と共にその長所や短所に触れつつ、資料分析の実施方法や実際の調査報告書・学術論文の読み解き方を学習する。
第13回	まとめ・期末テスト 本講義で学習した内容を振り返りまとめつつ、扱うことのできなかった調査法について概略的に紹介する。その後、期末テストを実施する。

事前・事後学修	本講義は入門であるため、調査法の理解をより深めるためには各自が参考文献を読む必要がある。参考文献の理解や授業資料の確認のため、事前・事後学習それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内課題は、内容確認のために実施する。小テストは論述とし、授業数回分を範囲として実施する。期末テストは授業全回を範囲とした論述であり、授業内容の理解とその発展的利用の能力をはかるため実施する。 ・授業内課題：30％（達成目標①②の評価） ・小テスト：30％（達成目標③④の評価） ・期末テスト：40％（達成目標の総合的評価）
テキスト	無し。資料を適宜配布する。
参考文献	『社会調査の考え方 上・下』（佐藤郁哉、東京大学出版会） 『はじめての社会調査』（三井さよ他編著、世界思想社） 『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』（大谷信介[他]編著、ミネルヴァ書房） 『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』（野村康、名古屋大学出版会） 『質問紙デザインの技法』（鈴木淳子、ナカニシヤ出版） 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』（佐藤郁哉、新曜社）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本授業は、これまで主に質的調査を用いた調査研究をおこない論文を発表してきた実務経験のある教員によって実施される。特に質的調査の箇所は、教員個人の経験にも触れつつ授業を実施する。

年度	2025
講義名称	観光クリエイティブ【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04113L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	企業には企業理念があり、その企業理念の下で様々な社会貢献を通じて利益を追求していくことが企業の社会的存在価値の一つです。とかく「稼ぐ」ということのみに行きがちな学生の関心を、まずは社会貢献という方向へ向けることを目指します。具体的には、この科目の受講生全体を一つの観光プロモーション会社に見立て、擬似的に企業理念を立案したり、観光コンテンツの開発や収益性のシミュレーション、コンテンツのプロモーション（フライヤーや動画の制作等）などを演習を通して学びます。
到達目標	学生が主体的に活動し、課題解決ではなく観光に関する多くの「問い」を発見することができることを到達目標とします。
授業の進め方	受講生全員で擬似的な観光プロモーション会社を立ち上げ、擬似的企業の社員として担当部署に所属してもらいます。擬似的企業活動が軌道に乗り出したら、毎回の授業では冒頭で全社員（学生）によるブリーフィングを実施し、授業時間内を擬似的観光プロモーション会社の活動に充ててもらいます。授業の終盤ではこのような擬似的活動から見いだされた課題について整理しレポートとしてまとめていきます。 また、受講前に5分程度の動画を視聴しておき、次回の授業準備をしてから受講するという反転授業方式を採用します。第1回と第15回を除き、毎回の授業の冒頭では定番メニューとして、「謎かけ」「今日のキャッチコピー」「シメの一言」などがあり、プロモーションを楽しみながら実践的に学べるように工夫しています。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業で実施するコメントシートへの返答や、最終レポートへの寸評などをおして、学修成果の評価を学生にフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【オリエンテーション】 ①新設科目として設定された「観光クリエイティブ」という科目の設定趣旨について説明すると共に、反転授業とは何かを理解する。 ②前年度までの学生の実績について紹介し、本科目への理解を深める。	対面
第2回	【プロモーションとは何か】 ①プロモーションについて理解するための基礎用語を学ぶ。 ②授業の定番メニューを理解し、実践する。	オンデマンド
第3回	【プロモーションを体験する①】 ①AIを援用しながら仮想商品のキャッチコピーを考え、互いに評価し合う。 ②セルフブランディングのための「捨てられない名刺」づくりを実践する。	対面
第4回	【プロモーションを体験する②】 ①AIを援用しながら仮想商品のフライヤーを制作し、互いに評価し合う。 ②「捨てられない名刺」について、互いに評価し合う。	オンデマンド
第5回	【プロモーションを体験する③】 ①商品（物）をプロモーションするための動画作成の基礎を学ぶ。 ②商品（旅行など）をプロモーションするための動画作成の基礎を学ぶ。	対面
第6回	【プロモーションを実践する】 ①これまでに実践した方法（キャッチコピー、フライヤー、動画など）をフル活用し、街で見かけた物・コトをプロモーションする。 ②上記①で作成したプロモーションの成果物を互いに評価し合う。	オンデマンド 2025/04/01

第7回	【プロモーションの経費について考える】 ①プロモーションに必要とする経費の相場や費用対効果について、分かりやすい例を基に学ぶ。 ②プロモーションの類型（共通する形式）について、整理する。	対面
第8回	【実際の観光資源をプロモーションする①】 ①指定された観光資源をリサーチする。（インターネット検索） ②インターネットで検索できなかった場合は、AIを援用して具体化したものを提出する。	オンデマンド
第9回	【実際の観光資源をプロモーションする②】 ①指定された観光資源で観光客を集めるイベントを企画する。 ②各自が企画したイベントを評価し合う。	対面
第10回	【実際の観光資源をプロモーションする③】 ①類似のイベントがないかリサーチし、どのようなプロモーションが行われているかを調査し提出する。 ②前回の授業で絞り込んだイベントについてのプロモーションを各自が考え、提出する。	オンデマンド
第11回	【実際の観光資源をプロモーションする④】 ①前回の授業で各自が考えたプロモーションについて、互いに評価し合う。 ②プロモーションの方法についてお互いに評価し合った結果から、3つ程度を絞り込む。	対面
第12回	【プロモーション実践】 ①前回の授業で絞り込んだプロモーションをオンラインで仮発表する。 ②次回の本発表へ向けて、改善点を協議する。	オンデマンド
第13回	【まとめ】 ①最終プロモーションのコンテストを実施する。 ②ゲストスピーカーによる講評と表彰（常広商工会議所からの派遣を予定） ③授業評価アンケートの実施	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 一部に反転授業を取り入れた授業形態のため、事前の準備学修が必要です。また、受講後は次回へ向けた準備の学修が必要です。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	下記の評価項目で成績を算出します。 （A）各回の授業のコメントシートの提出 （B）グループワークでのピアレビュー （C）各種課題の提出 上記の内容を（A：3点×13回＝39点）（B：16点）（C：45点）＝100点で算出します。
テキスト	特に使用するテキストはありません。その都度情報収集で学生が適宜使用してください。
参考文献	授業内でその都度紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	音楽（主にオペラや子ども向けキャラクターショー）のプロモーションを大学卒業以来続けており、現在は個人事業主としても活動しています。適切なマーケティングをしなければ、いくら商品価値が高くても売れません。同じことは観光産業でも言えます。 本授業ではプロモーションだけでなく、マーケティングの基礎についても加味していきます。 また、高等学校の音楽教員を十勝で9年、札幌で4年、計12年してきた実務経験を活かし、エモーショナルなプロモーションの実例をご紹介しますので、学生の皆さんは参考にしてください。
備考	◇他学科の学生も履修可能な科目です。ただし、2022年度入学生からの新設科目のため、それ以前に入学した学生は履修できません。 ◇この授業では積極的にAIを活用しますので、毎回ノートPCを持参してください。スマートフォンではできない活動があるので、必ず用意してください。

◇プロモーションする具体的な物やコトは教員から指定します。

年度	2025
講義名称	リスクマネジメント
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04112L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 五十嵐 誠	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	学生が観光産業におけるさまざまなリスクに対応できるようになるために、リスクマネジメントの基本的な考え方とその実践方法を修得する。観光の現場では、天候・災害・感染症・顧客対応・計画の遅れなど、さまざまなリスクが存在するため、それらを事前に把握し、適切に対応する力が求められる。 この授業では、ISO31000に基づくリスクマネジメントの基本プロセス（リスクの特定・分析・評価・対策）を、観光に関わる具体的な事例を用いて学ぶ。講義に加え、グループワークやケーススタディを取り入れ、学生が自ら考え、話し合いながら理解を深める形式で進める。 リスクマネジメントに関する基礎的な内容、事例について、大手通信企業、ITベンチャー上場企業役員、内部監査・内部統制実務者としての経験のある教員の実体験を交えた講義を行う。
到達目標	・リスクマネジメントの基本用語やプロセスについて説明できる。 ・観光の現場で起こりうるリスクを具体的に挙げ、それらを分類し、優先順位を考慮して評価できる。 ・身近な事例や観光に関わるニュースに対して、リスクの視点から関心を持って考察できる。 ・与えられた観光関連の事例に対して、グループで話し合いながらリスクを洗い出し、適切な対策を提案することができる。
授業の進め方	本講義は、秋学期・第1クォーターの木曜日2講目、3講目で実施する。2講目は、レクチャー中心の内容とし、3講目は、2講目の内容について理解を深めるためのグループワーク等の演習中心の授業とする。 能動的な学習に向けて、全授業にて、クイズ、アンケート等の講義中ワーク実施等を通じたディスカッションを活用した講義とする。講義後は、毎回レポートを作成し、講義内容の振り返りを行う。最終講義後に、リスクマネジメントに関する最終レポートを提出する。 全ての授業にてワーク（アンケート、クイズ、ディスカッション等）を実施するので、PC、スマートフォン、タブレット端末等のインターネット接続可能なデバイスを用意すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で実施した講義中ワーク（クイズ、アンケート等）は、結果の共有、解説を行う。事後課題は、次回授業冒頭で講評すると共に優良レポートを共有する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	■オリエンテーション ・授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明 ■リスクとは、リスクマネジメントの基本的考え方 ・リスクマネジメントの基本を学ぶ ・リスクの優先順位設定演習（グループワーク）	対面授業
第2回	■「リスクアセスメント」演習（グループワーク） ・簡単なケーススタディでのリスクアセスメント演習により、リスクマネジメントを体験する	対面授業
第3回	■「リスクの特定（洗い出し）」レクチャー ・リスクアセスメントの最初の一步である「リスクの特定（洗い出し）」について学ぶ	対面授業
第4回	■「リスクの特定（洗い出し）」演習（グループワーク） ・第3回講義の内容を踏まえたケーススタディによる「リスクの特定（洗い出し）」演習を実施し、多面的なリスク洗い出しの重要性について学ぶ	対面授業
第5回	■「リスクの分析、評価」レクチャー ・様々なリスクを優先順位付けするための様々な手法について学ぶ	対面授業

第6回	■「リスクの分析、評価」演習（グループワーク） ・第5回講義の内容を踏まえたケーススタディによる「リスクの分析、評価」演習を実施し、リスクの優先順位付けの重要性について学ぶ	対面授業
第7回	■「リスクの対応」レクチャー ・リスク対応の4区分と具体的なリスク対応方法について学ぶ	対面授業
第8回	■「リスクの対応」演習（グループワーク） ・第7回講義の内容を踏まえたケーススタディによる「リスクの対応」演習を実施し、リスクへの対応策検討にあたっては多様な視点の重要性について学ぶ	対面授業
第9回	■「対応のモニタリング、対応の改善」レクチャー ・リスクマネジメントにおけるPDCAサイクルの重要性について学ぶ	対面授業
第10回	■「リスクアセスメント」演習（グループワーク） ・最終レポート作成に向けて、ケーススタディによるリスクの特定から、分析、評価、対応の一連の「リスクアセスメント」演習を実施し、今まで学んだことを復習する	対面授業
第11回	■最終レポート演習①（グループワーク） ・最終レポートのケーススタディでの「リスクの特定（洗い出し）」演習を実施	対面授業
第12回	■最終レポート演習②（グループワーク） ・最終レポートのケーススタディでの「リスクの分析、評価、対応」演習を実施	対面授業
第13回	■振り返り、事例共有 ・講義全般の振り返りと共に実社会でのリスクマネジメントの活用事例を共有	対面授業

事前・事後学修	予習として、講師が指示する内容についてニュース、インターネット等で調べて、自身の考えを整理しておくこと。復習として、授業にて学んだ内容に関する事後課題を提出すること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・講義時におけるワーク（ディスカッション、アンケート、クイズ等）：20％ ・講義毎の事後課題：40％ ・最終レポート：40％
テキスト	適宜必要な資料を配布する。
参考文献	『リスクの認識力を高めるリスクマネジメント基礎講座』一般財団法人リスクマネジメント協会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、NTT東日本で幅広い業務に従事しながらMBAを取得。ITベンチャー企業への転職後、経営企画役員として2度の上場に貢献。その後独立し、コンサルティングやベンチャー企業での内部監査業務、大学講師などの活動を展開しています。これらの実務経験を基に、経営と組織運営の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	受講生のニーズを踏まえて 内容を変更することがある。

年度	2025
講義名称	ビジネスコミュニケーション
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04111L

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本授業では将来の企業への就職に際し自身の能力を最大限発揮し社会で活躍できる基本的なビジネスコミュニケーションを習得します。企業人として周りから認められ、評価されるために必要な意識や知識に関わる理論を学ぶとともに実際に実践できるレベルまで到達することを目的とします。
到達目標	社会で即戦力として活躍し、周りの人から好印象を持たれ「一緒に仕事をしたい」と思われるようなコミュニケーションスキル（人間力）が身につく。
授業の進め方	民間企業で長く実務経験を有し、かつ現役の社会保険労務士でもある教員が、これまでの実体験や企業コンサルティングの経験をベースに、講義を行います。前半は社会人として知っておくべきコミュニケーションマナーについて説明します。後半はケーススタディも交えて理論と実践でコミュニケーションスキルを体得します。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として毎回の講義終了時に知識確認の為の小テストを実施するとともに、課題・レポートについても提出を求めます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	ビジネスコミュニケーション理論①（ビジネスコミュニケーションとは）
第3回	ビジネスコミュニケーション理論②（ビジネスコミュニケーションの基本）
第4回	ビジネスコミュニケーション理論③（コミュニケーションを実践する際に知っておくべきこと）
第5回	ビジネスコミュニケーション理論④（組織内でのコミュニケーションについて）
第6回	ビジネスコミュニケーション理論⑤（一対一のコミュニケーションを考える）
第7回	ビジネスコミュニケーション理論⑥（効果的なプレゼンテーションとは）
第8回	ビジネスコミュニケーション理論⑦（ビジネス会話の基本とは）
第9回	ビジネスコミュニケーション理論⑧（ハウレンソウとは）
第10回	ビジネスコミュニケーション実践①
第11回	ビジネスコミュニケーション実践②
第12回	ビジネスコミュニケーション実践③
第13回	まとめ・期末テスト

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 小テスト・レポート 60％ ・ 学習姿勢（授業態度・都度の予習復習の実施状況）20％ ・ 期末テスト 20％
テキスト	特に指定しません。都度資料をサイト等を通じ共有します。

年度	2025
講義名称	観光統計
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04110L

担当教員

氏名	所属
◎ 斉藤 巧弥	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	観光にまつわる現象を捉えて客観的な議論をしたり何かしらの提案をするとき、データを示し統計的に考えることの重要性が高まっている。本授業では、観光現象を捉えるために必要な統計の知識を学修する。主に焦点を当てるのは、統計の中で記述統計と言われる分野である。教員による講義とコンピュータの統計ソフトを使った演習を通して、受講生は統計の基礎知識と、それを実践的に活用するためのスキルを身につける。
到達目標	本授業を修了することによって受講生は、 ①観光統計の基礎を理解できるようになり、 ②観光現象をデータから客観的に捉えることができるようになり、 ③多様な観光統計に触れる姿勢を身につけることができるようになり、 ④データの統計的分析の基礎的スキルを身につけることができるようになる。
授業の進め方	授業の前半「統計の基礎」では、統計学の基礎について講義形式で学修する。毎授業において受講生は、授業テーマについての講義をうけ、授業内課題に取り組み提出をする。後半の授業「統計ソフト「R」を使う」は統計ソフトを用いて、前半の授業で学修した内容を実践的に学修する。自身のPCを用いて、多様なデータを扱う方法を身につける。後半の授業においても受講生は毎授業において授業内課題に取り組み提出をする。また、中間確認試験と期末試験を実施し、学習内容の評価をする。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題と中間確認試験のいずれに関しても、授業内において解説とフィードバックをおこなう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：授業概要、統計の基礎、観光統計の種類： 授業の概要について紹介する（授業の進行スケジュールや成績評価方法など）。観光現象を捉える時の統計の役割や、日本における観光に関する統計の種類などについて学修する。
第2回	統計の基礎：多様な変数、度数分布表、ヒストグラム： データの基礎として質的変数と量的変数の違いを学修し、それをもとにデータのもっとも基礎的なまとめ方であり表現方法である度数分布表とヒストグラムについて学修をする。
第3回	統計の基礎：平均、中央値、最頻値、偏差： データの特徴を一つの数値で表現する代表値について学修する。データの重心としての平均、データの真ん中の値としての中央値、もっとも出現数の多い値としての最頻値、データの散らばり具合を示す値としての偏差について、基礎的な計算を学修する。
第4回	統計の基礎：サンプリング、データ収集法： 統計のデータは、適切な収取方法を採用しなければデータとして信頼を得ることができない。データとなる対象をどのように選ぶのかについて考えるための「サンプリング」と、サンプリングによって選択された対象からデータを入手する方法である「データ収集法」について学修する。
第5回	統計の基礎：質的変数間の関連・クロス表： 質的変数のあいだの関連について示す図表であるクロス表について学習をする。その関連を統計的計算によって数値によって示す際のカイ2乗検定やクラメールの連関係数について学修する。
第6回	統計の基礎：量的変数間の関連・散布図： 量的変数のあいだの関連について示す図表である散布図について学修する。その関連を統計的計算によって数値によって示す際の共分散や相関係数について学修する。
第7回	統計の基礎：関連と因果関係： 多様な変数のあいだには、何かしらの関係性（影響力・相互作用）があると統計では考える。そうした関係性である「関連」と、何が原因で何が結果なのかという「因果関係」について学習をする。★中間確認試験 予定回

第8回	統計ソフト「R」を使う：使い方の基礎： 本授業回以降は、統計ソフト「R」を使い、それまでの授業で学修した内容を実践的に処理するための基礎的なスキルを学修する。準備として各自のPCにソフトをダウンロードし、基礎的な使い方について学修する。
第9回	統計ソフト「R」を使う：度数分布表、ヒストグラム： 具体的な統計データを用いながら、「R」においてヒストグラムを作成する方法を学修する。
第10回	統計ソフト「R」を使う：平均、中央値、最頻値、偏差： 具体的な統計データを用いながら、「R」において平均、中央値、最頻値、偏差を計算する方法を学修する。
第11回	統計ソフト「R」を使う：質的変数間の関連： 具体的な統計データを用いながら、「R」において質的変数間の関連について計算する方法を学修する。
第12回	統計ソフト「R」を使う：量的変数間の関連： 具体的な統計データを用いながら、「R」において量的変数間の関連について計算する方法を学修する。
第13回	まとめ・期末試験： 「R」の発展的使用方法について紹介し、今後の学修における活用方法について紹介をする。授業全回の内容をもととした期末テストを実施する。

事前・事後学修	事前学修として、事前に示す授業資料の予習と参考文献を自ら学習をする。事後学修として、授業内容の復習をする。それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎授業における授業内課題と中間確認試験、期末試験の三つによって評価をする。 ・授業内課題：50%（到達目標①②③④の評価） ・中間確認試験：25%（到達目標①②の評価） ・期末試験：25%（到達目標①②の評価）
テキスト	なし。
参考文献	『完全独習 統計学入門』（小島寛之、ダイヤモンド社） 『社会調査のための統計学：生きた実例で理解する』（神林博史・三輪哲、技術評論社） 『社会科学のための統計学入門：実例からいねいに学ぶ』（毛塚和宏、講談社） 『ニュースの数字をどう読むか：統計にだまされないための22章』（トム・チヴァース／デイヴィッド・チヴァース、筑摩書房） 『Rによるやさしい統計学』（山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎、オーム社） 『はじめてのR：ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』（村井潤一郎、北大路書房） 『入門・社会統計学：2ステップで基礎から"Rで"学ぶ』（杉野勇、法律文化社）

備考	授業の後半「統計ソフト「R」を使う」においてはPCを使用するため、個人でPCを所持しており、それを授業に持参できることが受講条件となる（MacやWindows）。また試験においては電卓を使用するため、各自で電卓を準備すること（スマホなど不可。最低限の計算機能を備えた安価なもので構わない）。

年度	2025
講義名称	観光マーケティング
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04109L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	企業活動の中核を担うマーケティングについて学ぶ。一般企業にとどまらず、昨今は自治体経営や社会的な課題を解決する小さなコミュニティビジネスにおいてもマーケティング的な思考が重要となっている。特に昨今取りざたされるDMOを通して観光地経営を研究する際にマーケティングは必須の知識である。
到達目標	マーケティング研究は大企業を対象としたものが多いが、中小零細企業が中心の観光地においてマーケティング的手法を活かしていくにはどうすれば良いかを理解する。
授業の進め方	本講義では学問としてのマーケティングの基本を抑えながら、経営者・実務経験のある教員の実体験を交えマーケティングの基本を習得する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	特に社会的企業・起業のケーススタディを元に、社会的な課題解決に向けマーケティングを活用する可能性を探る。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション マーケティングの概略
第2回	ビジネスにおける「戦略的な思考」とは
第3回	マーケティングの4 P
第4回	商品 4つのPのひとつ「商品」（1）
第5回	商品 4つのPのひとつ「商品」（2）
第6回	流通 4つのPのひとつ「流通」（1）
第7回	流通 4つのPのひとつ「流通」（2）
第8回	広告・広報 4つのPのひとつ「広告・広報」（2）
第9回	価格 4つのPのひとつ「価格」（1）
第10回	価格 4つのPのひとつ「価格」（2）
第11回	商品ライフスタイル
第12回	セグメンテーション
第13回	ふりかえり

事前・事後学修	【具体的な内容】 日頃から世の中のマーケティングに関心を持つこと。	2025/04/01

	【必要な時間】 予習・復習にそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義ごとの確認シート 30% 課題 40% 授業内試験 30%

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、知床で初の事業型ネイチャーガイドサービスを開始し、特に「流氷ウォーク」を通じて五感で楽しむ体験型観光を定着させました。また、ガイド会社「知床ナチュラリスト協会」を設立し、年間2～3万人を受け入れる実績を持ちます。この経験を活かし、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	観光ビジネスマナー
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04108L

担当教員

氏名	所属
◎ 荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本科目は本年6月14日（土）に本学で実施するサービス接遇検定2級の合格を目標としたカリキュラムを展開します。サービス接遇検定の合格は将来観光・サービス業界で活躍を目指している学生にとって自らの有効なセールスポイントとなります。加えてサービス接遇検定学習を通じ、社会人としての幅広いビジネスマナーの体得を図ります。
到達目標	周囲から好印象をもたれ、観光に携わる者としての必要なコミュニケーションスキルと接遇力を取得する。
授業の進め方	航空会社の接客部門での実務経験を有し、かつ現役の社会保険労務士でもある教員が、これまでの実体験や企業コンサルティングの経験をベースに、わかりやすく具体事例も紹介しながら講義を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として毎回の講義終了時に知識確認の為の小テストの実施もしくはレポート課題を課します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	検定対策講座（敬語&言葉づかい）
第3回	検定対策講座（サービススタッフの資質）
第4回	検定対策講座（専門知識）
第5回	検定対策講座（一般知識）
第6回	検定対策講座（対人知識）
第7回	検定対策講座（実務技能）
第8回	検定対策講座（演習課題①）
第9回	検定対策講座（演習課題②）
第10回	検定対策講座（演習課題③）
第11回	検定対策講座（模擬試験①）
第12回	検定対策講座（模擬試験②）
第13回	まとめ

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。また検定の直前は更に学習時間の積み増しが必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・小テスト／レポート 60％ ・学習姿勢（検定受験・都度の予習復習の実施状況）40%
テキスト	サービス接遇検定 2級公式テキスト（公益財団法人 実務技能検定協会 編）税込価格 1,430円
参考文献	サービス接遇検定1-2級 実問題集 第52回～第58回 （公益財団法人 実務技能検定協会 編）税込価格 1,870円 ※テキスト指定ではありませんが、入手されることを推奨します。

備考	本科目の履修者には本年6月14日（土）に本学で実施するサービス接遇検定2級を受験していただきます。尚、受験にあたり検定料として5,200円（予定）が必要となります。

年度	2025
講義名称	観光論特別講義
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04107L

担当教員

氏名	所属
◎ 河本 洋一	大学・観光学部・観光ビジネス学科
荒木 智	大学・観光学部・観光ビジネス学科
藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、観光を取り巻く多様なテーマを取り上げ、観光産業やその関連産業、さらに地域社会との関わりについて、経済・地域振興・文化などの視点から課題を掘り下げる。担当教員の講義とゲストスピーカーの講話をとおして、観光の視点から地域の多様な関係者とともに地域課題に取り組む、専門性を持つ観光人材の育成を目的とする。
到達目標	観光産業とその関連産業についての理解を、個別のテーマをもとに多角的に理解し、将来、多様な立場の人々とともに、観光の視点を持って産業の振興と地域の活性化に柔軟に対応できるようになる。
授業の進め方	本授業は講義形式で行う。各教員が担当する授業のなかで観光関連分野等で活躍されているゲストスピーカーを招聘し、観光関連産業就業者、地域中核人材、あるいは関連産業の経営層から、実績を踏まえた講話を聴く機会を設ける。なお、授業と講話を聴いて学生が得た知識をもとに、理解を深め自らの考え方を論理的の表現する能力を獲得することを目指す。

アクティブ・ラーニング

PBL 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題についての解説は、授業のなかで行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ミニマム・コミュニティとツーリズム（河本）
第2回	清田区の観光資源事例Vol.1（河本）
第3回	清田区の観光資源事例Vol.2（河本）
第4回	ゲストスピーカー（河本）
第5回	ミニマム・コミュニティの観光でお金を回すことの意義（河本）
第6回	観光とイノベーション（藤崎）
第7回	北海道観光とシェアリングエコノミー（藤崎）
第8回	ゲストスピーカー（藤崎）
第9回	北海道観光とイノベーションにおける課題（藤崎）
第10回	アドベンチャートラベルとは①（荒木）
第11回	アドベンチャートラベルとは②（荒木）
第12回	ゲストスピーカー（荒木）
第13回	アドベンチャートラベル今後の展望（荒木）

事前・事後学修	予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	各担当教員のレポート課題 河本 3 4 % 藤崎 3 3 % 荒木 3 3 %
テキスト	特に指定しません。都度資料をサイト等を通じ共有します。

年度	2025
講義名称	国内観光資源
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04106L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 哲朗	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本講義の目的は以下の4点。①観光を学ぶ者にとって基本的で、必須の観光資源の知識を身につける。②個々の観光資源を客観的に評価できるようにする。③観光資源から日本の歴史、文化、風習、芸術等の関連知識に興味を持ち、さらに深く知るための学びの契機とする。④「旅行業務取扱管理者」の試験科目である「国内観光資源」の基礎知識を習得する。
到達目標	観光業界で働くための基本的な国内観光資源の知識を身に付ける。
授業の進め方	旅行業界でに実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員による基本的にパワーポイントを利用した講義形式。また、動画を視聴し、内容を確認する。授業内課題を授業終了後にその都度提出のこと。一部の県はWebClassの自習課題とする。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題、授業内試験実施後、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①旅行業務管理者試験の概要と合格の意義 地域別観光資源 北海道(1)	対面授業
第2回	②地域別観光資源 北海道(2) 東北 (1)	対面授業
第3回	③地域別観光資源 東北 (2)	対面授業
第4回	④地域別観光資源 関東 (1)	対面授業
第5回	⑤地域別観光資源 関東 (2)	対面授業
第6回	⑥授業内試験第1回、地域別観光資源 関東(3) 中部 (1)	対面授業
第7回	⑦地域別観光資源 中部 (2)	対面授業
第8回	⑧地域別観光資源 関西 (1)	対面授業
第9回	⑨地域別観光資源 関西 (2)	対面授業
第10回	⑩地域別観光資源 中国・四国 (1)	対面授業
第11回	⑪地域別観光資源 中国・四国 (2) 九州・沖縄(1)	対面授業
第12回	⑫地域別観光資源 九州・沖縄 (2)	対面授業
第13回	⑬授業内試験第2回 地域別観光資源 九州・沖縄 (3)	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。 【必要な時間】予習・復習の時間は2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内課題（提出物）による評価　40％ 授業内試験による評価　　　　　60％
テキスト	「国内観光資源」　　J T B 総合研究所
参考文献	旅行ガイドブック、旅行会社の旅行商品パンフレット等。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、総合旅行業務取扱管理者の資格を取得し、旅行業界での長年の実務経験を通じて、企画、営業、運営など幅広い業務に携わってきました。これらの豊富な経験を基に、旅行業界の現場に根差した具体的な学びを提供する講義を展開します。
備考	※授業の課題が多いので、覚悟を持って受講すること。国内旅行業務取扱管理者試験の他の試験対応科目「国内旅行実務」「旅行業法・約款」も受講のこと。※テスト、提出課題の多い授業です。

年度	2025
講義名称	ホスピタリティ論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04105L

担当教員

氏名	所属
◎ 新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	ホスピタリティは、あらゆる観光業従事者にとって根幹をなす重要なスキルである。日本流の「おもてなし」は一般的に世界から高く評価されている一方で、従業員に過度な奉仕精神を求めるなど、様々な問題もはらんでいる。本授業では、観光業界におけるホスピタリティの位置づけやその歴史的展開、海外との文化的相違点といった学術的な側面からホスピタリティを学ぶ。また、具体的な実践事例を調査することで、現代日本の「おもてなし」が抱える課題とその克服方法を考察した上で、今後の時代に適応したホスピタリティのあり方を提言する。
到達目標	○観光業界におけるホスピタリティの意義を学ぶ。 ○日本／海外における様々なホスピタリティ実践事例を調査し、検討する。 ○現代日本の「おもてなし」が抱える課題と克服方法を考察する。 ○これからの時代に即したホスピタリティのあり方を提案できるようになる。
授業の進め方	本授業は、講義、ディスカッション、プレゼン発表によって構成される。 講義：ホスピタリティの学術的な知識について、教員が講義する。 ディスカッション：各回のテーマに沿った問いに対する答えを、受講生全員で討議する。 プレゼン発表①：2～3人で1つのグループを作り、具体的なホスピタリティの実践事例を調査し、発表する。 プレゼン発表②：①と同じグループで、日本の「おもてなし」が抱える課題と克服方法を示した上で、今後の時代に適応したホスピタリティのあり方を提言する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各プレゼン発表に対して、教員がその場で良い点・改善点をコメントする。また、ディスカッションの中で浮かび上がった有意義な意見については、教員がその場で指摘し評価することによって、議論を多角的に深化させる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：ホスピタリティって？
第2回	ホスピタリティ史
第3回	ホスピタリティとコミュニケーション
第4回	ホスピタリティと異文化交流
第5回	ホスピタリティと産業①
第6回	ホスピタリティと産業②
第7回	プレゼン発表①
第8回	ホスピタリティと地域戦略①
第9回	ホスピタリティと地域戦略②
第10回	ホスピタリティと人材育成
第11回	さまざまなホスピタリティ
第12回	プレゼン発表②
第13回	まとめ

2025/04/01

事前・事後学修	プレゼン発表（2回）当日までに、グループで発表の準備をしてくること。 また、適宜授業で学んだ事項を復習されたい（1時間）。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	○授業への姿勢（出席率、積極性、授業態度など）：30％ ※発言内容の正否は問わず、発言量が多い者ほど評価する。 ○ディスカッション：30％ ○プレゼン発表：40％（①20％＋②20％） 筆記試験は実施しない。
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。

備考	上記授業計画は変更の可能性がある。

年度	2025
講義名称	観光経済論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04104L

担当教員

氏名	所属
◎ 新海 茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	本授業は、観光と経済活動の関連性を体系的に理解することを目的とする。観光経済学の基礎理論や観光政策が地域経済に及ぼす影響について、個別具体的な事例とともに学習する。
到達目標	○観光経済学の基礎理論を学ぶ。 ○観光政策が地域経済に及ぼす影響について、個別具体的な事例とともに学ぶ。
授業の進め方	本授業は、講義、ディスカッション、プレゼン発表、コメントシートから構成される。 講義：観光経済学の学術的知識について、教員が講義を行う。 ディスカッション：教員が呈示するテーマについて、受講生全員で討議する。 プレゼン発表：2～3人で1つのグループを作り、教員が呈示したテーマの具体的な事例を調査し、発表する。 コメントシート：毎授業の終了時には、受講生の感想や意見、質問を書いたコメントシート（100～300字程度）の提出を求める。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了時に提出してもらったコメントシートの中で有意義なコメントについては、次回の授業で教員が発表し、解説を加える。 ディスカッションやプレゼン発表に対しては、教員がその場で良い点・改善点をコメントする。 ディスカッションの中で浮かび上がった有意義な意見については、教員がその場で指摘し評価することによって議論を多角的に深化させる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	観光経済学 基礎理論編①
第3回	観光経済学 基礎理論編②
第4回	観光経済学 基礎理論編③
第5回	観光経済学 応用分析編①
第6回	観光経済学 応用分析編②
第7回	観光経済学 応用分析編③
第8回	観光経済学と観光政策①
第9回	観光経済学と観光政策②
第10回	観光経済学と観光政策③
第11回	グループ発表①
第12回	グループ発表②
第13回	まとめ

事前・事後学修	プレゼン発表当日までに、グループで発表の準備をしてくること。 また、新聞やインターネットのニュースなどを活用して観光経済に関する情報を適宜収集し、コメントシートに反映させるよう努めること。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	○授業への姿勢（出席率、積極性、授業態度など）：20％ ※発言内容の正否は問わず、発言量が多い者ほど評価する。 ○ディスカッション：20％ ○プレゼン発表：30％ ○コメントシート：30％
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。

備考	上記授業計画は変更の可能性はある。

年度	2025
講義名称	観光交通
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04103L

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	観光行動は必ず空間的移動を伴う。交通手段の発達と観光の進展は密接かつ不可欠な関係である。それゆえに、観光における交通業界の担う役割・現状についての基礎的な内容を修得する必要がある。そして、知り得た内容から、交通業界の現在における課題についてまで、考察してもらうことを本授業の目的とした。
到達目標	①観光と交通とに関連する基礎的な内容を理解できる。 ②現状の課題と将来の可能性を調べ発表することができる。 ③観光交通における課題を考察することができる。
授業の進め方	基本的には講義形式で展開する。特別講師による講演、フィールドワークなども行う。 フィールドワークなどで得た知識をパワーポイントで発表し、それに基づいてディスカッションも予定している。 最終日に、観光交通における現在における課題を、最終テストにて主張してもらう。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での課題については、次時に解説しフィードバックする。 パワーポイントによる発表された内容については、学生からの質疑応答、討論（ディスカッション）によって、各自で確認してもらう。

授業計画表

回	授業内容
第1回	1, ガイダンス 2, 観光と交通との相関関係
第2回	1, 観光の発展と交通機関 2, 観光交通サービスの特性と観光交通ビジネスの展開
第3回	1, 航空ビジネスと観光 2, 空港ビジネスと観光
第4回	1, 鉄道ビジネスと観光 2, 駅と観光
第5回	1, 講演「（仮）観光と鉄道交通」
第6回	1, 観光交通フィールドワーク 1 * 鉄道技術館へのフィールドワーク 1
第7回	2, 観光交通フィールドワーク 2 * 鉄道技術館へのフィールドワーク 2
第8回	3, 観光交通フィールドワーク 3 * 交通記念館へのフィールドワーク 1
第9回	4, 観光交通フィールドワーク 4 * 交通記念館へのフィールドワーク 2

第10回	1, フィールドワークからわかったこと * 2つのフィールドワーク活動で調べたことを中心にパワーポイントで発表活動（5分程度の予定）を行う。 * 質疑応答があり、討論（ディスカッション）を予定している。
第11回	1, バス会社による交通ビジネスと観光 2, その他の交通ビジネスと観光
第12回	1 まちづくりと観光交通 2 環境問題と観光交通、エコツーリズム、サステナブルツーリズム
第13回	1, まとめ 2, 最終テスト

事前・事後学修	観光交通における基礎内容を理解し、それを活かしてフィールドワークを行うため、事後で、そのまとめとしての学習が重要となる。 講演やフィールドワーク後の事後学習もある。 パワーポイントでの発表学習となっており、授業前に準備しなければならない。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①観光と交通とに関連する授業内課題 30% ②パワーポイントによる発表活動 30% ③考察をとまなう最終テスト 40%
テキスト	特になし
参考文献	塩見英治,堀雅通,島川崇,小島克己 『観光交通ビジネス』成山堂書店 戸崎肇『観光立国論: 交通政策から見た観光大国への論点』現代書館

備考	毎時の課題がある。必ず提出すること。 フィールドワークは土曜日を中心に実施する予定である。 交通費や入場料も必要となるので用意すること。

年度	2025
講義名称	観光文化論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04102L

担当教員

氏名	所属
◎ 池見 真由	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	グローバル化の進展によって異文化理解の必要性が高まっている中、観光とは国内・海外問わず常に異文化の接触を伴う現象であると言えます。本講義では、観光を考えていく上での基礎となる「観光文化」領域の基本的枠組みについて学び、観光と文化の結びつきに対する理解を深めます。
到達目標	・観光における異文化理解に関する基礎知識を習得する。 ・観光文化および文化観光の概念と特徴について、北海道や日本、外国の様々な事例を基に理解することができる。 ・文化を観光に用いることのメリット・デメリットについて考え、自分の言葉で説明することができる。
授業の進め方	講義形式で板書を中心に授業を進めます。本講義専用の授業ノートを作成してもらいます。必要に応じてスライドや配布資料、動画等の視聴覚教材を活用します。授業の最後に復習テストを実施します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業ノートおよびレポートをチェックし、返却の際にコメントを付けてフィードバックします。内容の一部を授業で公表し、他の受講生にも共有しながら適宜解説を行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション： 本講義のねらいと授業概要について説明します。
第2回	観光文化論とは： 観光文化、文化観光、観光と文化という3つの定義と特徴について解説します。
第3回	文化財の観光活用： 芸術文化の振興や文化財の保存だけでなく観光やまちづくりへの活用を推進する日本政府の施策について解説します。
第4回	日本の観光文化の歴史的変遷： 第2次世界大戦後1950年代から現在に至るまでの日本の観光文化における歴史的変遷について解説します。
第5回	地域文化を伝える観光： 観光を通して地域固有の文化を伝えるプロモーション効果の仕組みについて解説します。
第6回	自然と文化を守り続けるサステナブルツーリズム： 自然、文化、人々の生活を支える環境を守り持続可能性を追求する観光について解説します。
第7回	観光文化とエコツーリズム： 資源の保全、地域の振興、観光の推進という3つの共生をめざすエコツーリズムについて解説します。
第8回	旅先の社会と文化を学ぶスタディツーリズム： 研修旅行など学習の目的とテーマを設定して企画・引率・観光するスタディツーリズムの特性について解説します。
第9回	健康文化を観光に取り込むヘルスツーリズム： 健康の増進・維持・回復や医療施設での診察・治療などを目的とした海外旅行を主とするヘルスツーリズムについて解説します。
第10回	人文観光資源と自然観光資源： 人間の力で創造されたものと自然の力で創造されたものの観光資源化・商品化について解説します。
第11回	札幌の生活文化と観光の魅力発信： 札幌での暮らしの中から観光資源となり得るモノ、コト、文化とこれらの魅力の情報発信についてディスカッションを行います。

第12回	外国人観光客からみる日本の文化： 日本を訪れる外国人観光客目線からの日本文化に対する印象や評価について動画教材をもとに理解を深めます。
第13回	まとめ、復習テスト： 本講義全体で学んだことを授業ノートを基に振り返り、理解度を測るための復習テストを実施します。

事前・事後学修	事前学修では、各講義テーマに関連する最近の動向について情報収集を行います。事後学修では、授業ノートを見直し各講義で学んだことを復習します。事前・事後学修の時間はそれぞれ2時間程度を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	平常点（授業ノート・レポート）：40% 復習テスト：60%
テキスト	特になし。
参考文献	授業中に指示します。

備考	板書が中心の講義となっており、第13回の復習テストも第12回までの全講義の板書（授業ノート）の内容の中から出題します。したがって意欲的な受講姿勢（無遅刻無欠席、積極的な質疑応答、授業ノートの丁寧な作成、充実したレポート内容）が求められます。

年度	2025
講義名称	観光地理
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04101L

担当教員

氏名	所属
◎ 齋藤 修	大学・観光学部・国際観光学科

授業の目的と概要	本授業は、観光地理学をベースにし、観光資源によって分類した空間（「地域」）の形成と現状、特徴を紹介し、地理学的な視点で観光空間（「地域」）を認識してもらうことを目的としている。 各授業において、各観光地域を地理学的な「空間」（「地域」）として把握し、観光対象や観光施設がどのようにつくられ、形成されたのかを認識してもらう。そして、観光学を学ぶ上での基礎的知識を理解してもらう。さらに、それを使った技能の1つを実体験してもらう。
到達目標	①各観光地域を1つの「空間」として認識しながら、その中における現状と課題を総合的にとらえることができる。 ②観光地域の多様性と個々に内在する課題を理解し、「地域振興」を意識した課題の解決法を自分なりに表現することができる。 ③観光施設の立地調査から札幌市中心部の空間としての特徴を認識できる。
授業の進め方	さまざまな地図、画像、統計資料などを用いた講義形式を中心に行われる。そして、それぞれのテーマに応じた、地図読解や資料解析などによる毎時の課題もある。具体的には各観光地域の特徴や問題点の把握を「立地」という観点から行なう。 また、簡単な札幌市内での観光施設の立地調査（フィールドワーク）も実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、次時で毎時解説し、フィードバックする。 フィールドワーク後に実施するまとめについては、作図の際に解説の形でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容
第1回	1, ガイダンス 2, 地理学的視点 3, ツーリズムと地理学 4, 読図の方法
第2回	温泉観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外）
第3回	自然観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外） 1・山岳
第4回	自然観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外） 2・海浜
第5回	農山村観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外）
第6回	歴史観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外）
第7回	文化観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外）
第8回	都市観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外） 1
第9回	都市観光地域（形成・現状・課題、事例：国内と海外） 2
第10回	札幌市内観光施設の立地調査（フィールドワーク1） ＊札幌駅前から中島公園までのエリアにおける特徴を調査
第11回	札幌市内観光施設の立地調査（フィールドワーク2） ＊札幌駅前から中島公園までのエリアにおける特徴を調査

第12回	1, フィールドワークのまとめ 2, 観光資源と立地
第13回	1, 授業のまとめ 2, 最終テスト

事前・事後学修	予習として、前時の授業内容の意味を確認し、毎時の課題に活かす。 (欠席した場合は、進んで研究室まで来て、確認すること) 日頃から地図帳をみて、世界の諸地域、諸国家の位置を確認しておく。位置確認は、事後学習として当然行うこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①毎時の課題：空間認識と現状課題の把握 30%（毎時の平均点） ②最終テスト：課題の解決法の表現 50%（レジュメ等紙媒体の持ち込み可） ③フィールドワークの状況とまとめ：空間特徴の認識 20%
テキスト	特になし（毎時のレジュメを配布）
参考文献	・山村順次『観光地理学 観光地域の形成と課題』同文館出版 ・寺阪昭信『大学テキスト 観光地理学 世界と日本の都市と観光』古今書店

備考	欠席時の資料等は、各自で確認すること。テストがあるので必要となる。（持ち込み型のテストなので暗記を求めているわけではない。） 地理的な概念をきちんと理解すること。 中学や高校で利用した地図帳があれば便利なので持参しながら受けた方がよい。（慣れているのであればグーグルマップでも良い） フィールドワークは7月の土曜日に予定するので、予定しておくこと。出られなければ成績は不利となる。

年度	2025
講義名称	観光事業論【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04003L

担当教員

氏名	所属
◎ 藤崎 達也	大学・観光学部・観光ビジネス学科
呉 泰均	大学・観光学部・観光ビジネス学科
斉藤 巧弥	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	裾野の広い現象と言われる観光には、経済的活動を中心とするものから社会文化的な役割を果たすためのものまで、多様な事業が存在している。本授業では、観光に関わる事業の基礎について学習することを通して、観光学の視点からそれぞれの事業の現状、課題、将来の可能性について理解することを目的とする。具体的には、観光事業についての概要を基礎（観光産業のしくみや構造）、発展（多様な観光事業の実例）、応用（観光事業の情報、制度、マーケティングの側面）という段階に分けて学習する。
到達目標	本授業を受講することにより、学生は： ①観光事業の概要を理解できるようになり、 ②観光事業の課題の発見、考察、そして提案をできるようになり、 ③観光事業について関心を持ち、自ら発展的な調査ができるようになり、 ④観光事業について自らの言葉で説明ができるようになる。
授業の進め方	本授業はフルオンデマンドで実施する。受講者は予習として教科書を読んだ上で講義動画を視聴し、確認テストを実施する。講義動画では追加の発展的内容を加えつつ、教科書の解説をおこなう。講義の内容とテーマは教科書に準拠している。また毎回の講義においては当該講義のテーマに関するショートレポートも課される。いずれの課題もWebClass上で実施する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各課題についてのフィードバック（点数やコメント）は、課題ごとにWebClass上で実施する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：観光を学ぶ意味と観光の様々な効果（呉）： 観光は単なる娯楽として個人の楽しみの範疇にあるわけではなく、国や地域社会に大きな影響を与える出来事である。第1回目は、その効果や影響を理解することで、観光事業について学習することの必要性を論じる。まだガイダンスとして、本授業の概要と成績評価など、受講にあたっての必要事項について紹介する。	オンデマンド
第2回	観光に関わる言葉（呉）： 観光全般、あるいは観光事業を理解するためには、それらにまつわる基本的な用語を理解する必要がある。旅、旅行、観光、余暇、レジャーなど、類似する言葉の違いを理解し、多様な観光事業が扱っている具体的な現象について学習をする。	オンデマンド
第3回	観光のしくみ（呉）： 現代の観光において観光者が観光地に行くことができるのは、そのあいだに存在する多様なモノ（運輸など）やコト（政策など）があるおかげである。そこに存在する多様な要素とそれらの関係性について学ぶことで、観光事業の構造について理解する。	オンデマンド
第4回	観光資源と観光対象（呉）： 観光の商品となるものはその他の一般的な商品と比べ、多様なものを含んでいる。形のあるものから形のないもの、自然のものから文化的なものがあり、さらには観光「資源」であることは、必ずしも観光「対象」であることとは同じではない。どのようなものが対象となり、それらにどのような特徴があるのかを学習する。	オンデマンド
第5回	観光産業の構成と特徴（呉）： 経済的な活動に焦点を当てる観光産業には、さまざまなビジネスの形がある。例えば、飲食店など観光に「関連」している産業から、ホテルや宿泊業など観光というものに特徴的な産業もある。こうした多様な産業の形とそれぞれの特徴について学習する。	オンデマンド
第6回	様々な観光ビジネス：旅行業（藤崎）： 旅行というのはサービスの性質上、旅行前にすべてを準備したり事前にそのサービスを試したりして内容を確認することが難しい。旅行者とサービス提供者のあいだに立って円滑なサービスの提供をおこなう旅行業の役割やサービスの特徴を学習する。	オンデマンド

第7回	様々な観光ビジネス：宿泊産業（藤崎）： 宿泊業は時代によって多様な形に進化や分離をしていった。それは、ホテルと旅館のような形態、経営形態や対象者、グレードや役割など多岐に及ぶ。ここでは主にホテルを取り上げつつ、多様な形の宿泊業の特徴について学習する。	オンデマンド
第8回	様々な観光ビジネス：交通運輸業（藤崎）： 観光には必ず移動するという行動が伴う。そうした移動にはさまざまな交通機関が旅行の目的や旅行先によって選択され、利用されている。こうした交通機関について、「ビジネス」としてみた場合の特徴を取り上げるとともに、近年とみに要請が強まっている事柄について学習する。	オンデマンド
第9回	様々な観光ビジネス：観光コンテンツ（藤崎）： 観光は観光事業の中心である旅行業・宿泊業・交通運輸業によって成り立つが、多くは移動先で様々な体験を行うことによって印象が左右される。飲食やアウトドア体験、観光地の散策などがそれにあたるがそれらを「観光コンテンツ」と呼ぶ。ここでは、特徴あるコンテンツ産業としてテーマパークの歴史と特徴、ビジネスの特性について理解する。	オンデマンド
第10回	観光と情報（斉藤）： 観光情報は人々の観光意欲を高め、満足度を高めるなど、観光活動の活性化・質の向上をもたらす重要な要素である。人々の観光行動と情報の関わりを踏まえながら、どのような観光情報が求められるのか、また、観光地や観光関係事業者から見てどのような情報発信・提供が有効かを学習する。	オンデマンド
第11回	観光政策と観光行政（斉藤）： 人々が観光を楽しみ、また観光事業の振興を通して国や地域の産業経済が発展したりする上で、観光政策は重要な役割をもっている。日本における国および地方の観光政策の目的とその内容について学ぶとともに、観光政策の推進を担う観光行政の仕組みについて理解する。	オンデマンド
第12回	観光のマーケティング（斉藤）： 「モノ」の販売を促進する活動を対象として発達してきた考え方がマーケティングであり、これを観光にも応用して観光のマーケティングのあり方を考えることは大切なことである。マーケティングの基本と、それを観光への応用する際の考え方について学習する。	オンデマンド
第13回	観光と国際経済・社会・文化：インバウンドと異文化理解（斉藤）： 外国人観光客を誘致すること、すなわちインバウンドの振興は、国の経済や文化の発展に意義が大きい。こうした日本におけるインバウンドの動向、そして観光と国際経済・社会・文化の関わりについて触れつつ、インバウンドを対象とした事業について学習する。	オンデマンド

事前・事後学修	受講生は事前学習として教科書の予習に約2.5時間ほど、事後学習として課される課題への取り組み（確認テストとショートレポート）として約2.5時間ほど取り組まなければならない。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業ごとに課される確認テストとショートレポートの総合点によって成績を評価する。 ・確認テスト：40%（目標①の評価） ・ショートレポート：60%（目標②③④の評価）
テキスト	『観光学基礎』（JTB総合研究所）
参考文献	『観光ビジネスの新展開：未来を切り拓く旅行会社』（福本賢太・田中祥司編著、晃洋書房） 『観光経営学入門』（千葉千枝子、建帛社） 『1からの観光事業論』（高橋一夫・柏木千春編著、碩学舎）

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	インバウンド概論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04002L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 哲朗	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の目的と概要	日本政府が2003年に観光立国を宣言して以来、訪日外国人数は順調に伸び、2019年には3,188万人に達した。その後、新型コロナウイルス感染症により、2020年以降、訪日外国人数は大きく落ち込んだが、コロナ感染症が収束に向かうとともに、2023年は2,500万人まで回復し、2024年はコロナ禍前を上回る3,687万人となった。コロナ感染症により、日本経済におけるインバウンド（訪日外国人旅行）の重要性が再認識された。この講義ではインバウンドの意義、歴史、現状、特徴、課題などを多面的に取り上げて、観光人材としてインバウンドに対する必須の知識を習得し、見識を高めることを目的とする。
到達目標	インバウンドの概要を理解し、その可能性や課題に対する見識を持つ。
授業の進め方	旅行業界でに実務経験のある教員による講義形式の授業。具体的事例を紹介し、併せて授業内課題で理解を深める。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内課題・レポートについて、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション（インバウンド観光の意義と世界のインバウンド市場）	対面授業
第2回	訪日外国人旅行者誘致の歴史(1)	対面授業
第3回	訪日外国人旅行者誘致の歴史(2)	対面授業
第4回	訪日外国人旅行者の動向とその特徴(1)	対面授業
第5回	訪日外国人旅行者の動向とその特徴(2)、旅行消費額とは	対面授業
第6回	MICEとは、送客市場の動向	対面授業
第7回	インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(1)	対面授業
第8回	インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(2)	対面授業
第9回	インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(3)	対面授業
第10回	インバウンド観光の実際(1)	対面授業
第11回	インバウンド観光の実際(2) 、インバウンド観光・地域の取組(1)	対面授業
第12回	インバウンド観光・地域の取組(2)、インバウンド観光の課題	対面授業
第13回	まとめ および授業内試験	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・配布プリントにて予習・復習を行うこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は2時間を目安とする。 ・予習・復習の時間は2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内試験50％、授業内課題(小テスト、レポート) 50%
テキスト	必要に応じてプリント配布およびWebClassアップ
参考文献	矢ヶ崎紀子著『インバウンド観光入門』＜晃洋書房＞

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、旅行業界で長年の実務経験を持ち、団体旅行の企画や運営、カウンター営業、そしてWEBマーケティングなど幅広い業務に携わってきました。これらの経験を基に、旅行業界の現場で培った具体的な知識を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	観光概論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	観光ビジネス学科：TRM04001L

担当教員

氏名	所属
◎ 田村　こずえ	大学・観光学部・観光ビジネス学科
新海　茜	大学・観光学部・観光ビジネス学科

授業の 目的と 概要	本講義は、観光学部で観光学を学ぶためのベースとなる科目であり、観光という事象を多面的・体系的に理解し、基礎知識を得ると同時に今後の観光学への関心を喚起することを目的とします。
到達目 標	・「観光」という事象への多面的広がりと概念について説明ができる。 ・身近な観光(社会)とこの科目の学修を結びつけて考えることができる。
授業の 進め方	基本的に講義形式での授業ですが、必要に応じてグループワークやディスカッション などを取り入れます。教員からの資料、視聴覚教材などを使用し、理解度を高めます。なお、本講義は、教員の2名の研究分野や実務経験を活かし、オムニバス方式で授業を進めます。1～6は新海、7～13は田村が担当します。 ※必要に応じて、観光学部には実務経験や専門的な知見などが豊富な先生が在籍しておりますので、本学の教員やゲストスピーカーを招聘することがあります。 ※授業計画の順番・内容は一部変更する場合があります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	確認テストやレポートに対するフィードバックは、授業内で実施します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	観光と観光学の基礎
第3回	さまざまな観光　その1
第4回	さまざまな観光　その2
第5回	オーバーツーリズム
第6回	観光まちづくり
第7回	観光と地域社会　その1
第8回	観光と地域社会　その2
第9回	観光と多文化理解（1）台湾
第10回	観光と多文化理解（2）韓国
第11回	観光と地域社会：縄文文化
第12回	観光政策の基礎（ゲストスピーカー予定）
第13回	まとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業の予習復習を欠かさないこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は2時間を目安とします。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み 30% 授業内確認テスト・レポート評価 40% 最終課題・レポートによる評価 30%
テキスト	※必要に応じてプリント配布。

備考	※座席を指定する場合があります。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][樋口]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][阿南]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][新井]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][国田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][平田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][小林(秀)]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][後藤]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][本多]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][佐藤(文)]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][阿井]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][安田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][駒井]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][竹田]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポ指][苫米地]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学、健康科学、栄養学、教科教育等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。
到達目標	適切な調査・研究を行うことができる。 論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。
授業の進め方	教室での講義や実験、測定、調査などから成果をまとめる。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学内外で成果を発表する機会を与える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第3回	第1回経過報告 題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
第8回	第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出
第9回	草稿に関する指導
第10回	卒業課題について討論
第11回	研究に関わる分析・資料作成
第12回	卒業課題の返却・修正 必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
第13回	製本用原稿提出 審査 主査が審査し、成績評価

事前・事後学修	学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。 研究の進捗状況応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究調査・論文作成への取り組み（60％）と卒業課題の審査結果（40％）をもとに評価する。 卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	適宜提示する。
参考文献	適宜提示する。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔樋口〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔阿南〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔新井〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔国田〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔平田〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔小林(秀)〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔後藤〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤　　ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディベート　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔本多〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔佐藤(文)〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔阿井〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ[ス指][安田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔竹田〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔苫米地〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔ス指〕〔駒井〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 1. 第1回経過報告 編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 2. 第2回経過報告 草稿を指導教員へ提出 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第8回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第9回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第10回	研究に関わる分析・課題作成 3. 課題提出 課題を教務課へ提出 課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。	対面授業
第11回	研究に関わる分析・課題作成	対面授業
第12回	研究に関わる分析・課題作成 4. 課題の返却・修正（1月中旬） 必要に応じて卒業課題の修正	対面授業
第13回	研究に関わる分析・課題作成 5. 製本用原稿提出（2月上旬） 6. 審査（2月中旬） 主査が審査し、成績評価	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する。

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔樋口〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔阿南〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔新井〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕[国田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔平田〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔小林(秀)〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔後藤〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔本多〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔佐藤(文)〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔阿井〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕[安田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 安田　純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディベート　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔竹田〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	【閉講】テーマ研究Ⅰ[ス指][苫米地]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	【閉講】テーマ研究Ⅰ〔ス指〕〔駒井〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。
到達目標	専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第2回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第3回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第4回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第5回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第6回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第7回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

第8回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第9回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第10回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第11回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第12回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業
第13回	研究に関わる文献・資料収集と分析・討論 ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。 その際の行動計画については適宜申請を行う。	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	研究への取り組み（60％）と課題の審査結果（40％）をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。
テキスト	なし
参考文献	適宜提示する

備考	提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

年度	2025
講義名称	[冬集]冬季スポーツ
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07714P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	北海道における冬季スポーツの位置づけ及び競技特性を理解し、基本的な技能を習得するとともに、指導法としてふさわしい能力を高める。また、安全に楽しく親しめるような指導法を身につける。この授業ではスケートを中心に展開し、スノーボードの体験も行う
到達目標	北海道における冬季スポーツの位置付けを理解し、積極的に関わることができる。 安全に楽しく行えるような指導法を身に付け、実践できる。
授業の進め方	教室における講義において、北海道における冬季スポーツの現状と課題を理解したうえで、スケートとスノーボードの実習に参加する。実習では安全に滑ることが出来る技能を身に付けるとともに、楽しく積極的に参加できるような指導法も実践的に学ぶ。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	質問等については、その都度解説するとともに、必要に応じて次の時間までにフィードバックを行う。 実技については、全体への解説と共に個々にフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	講義
第2回	冬季スポーツにおける現状と課題	講義
第3回	スケート実習の事前指導	講義および演習
第4回	スケート実習①（①、②連続）	実技（月寒体育館）
第5回	スケート実技体験②（②、③連続）	実技（月寒体育館）
第6回	スケート実技体験③（③、④連続）	実技（月寒体育館）
第7回	スケート実技体験④（③、④連続）	実技（月寒体育館）
第8回	スケート実習振り返り スノーボード実習事前指導	講義および演習
第9回	スノーボード実習①（①～④連続）	実習（スキー場）
第10回	スノーボード実習②（①～④連続）	実習（スキー場）
第11回	スノーボード実習③（①～④連続）	実習（スキー場）
第12回	スノーボード実習④（①～④連続）	実習（スキー場）

第13回	スノーボード実習振り返り 授業のまとめ、レポート	講義およびレポート

事前・事後学修	事前学習として、スケートやスノーボードに関する情報の取得や動画の視聴を通し、実技前に実際の動きについてイメージをしておく。 事後学習として、授業で身に付けた知識を他の方々に伝えたり、積極的に再度実践する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業を通しての理解度、及び学びに向かう姿勢、態度 3 0 % 実技（スケート、スノーボード）及び指導法の理解 5 0 % 課題レポート 2 0 %
テキスト	特にありません。講義に関しては資料を配布します。
参考文献	必要に応じて紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	スピードスケートとアイスホッケーを専門とする2名の教員が、それぞれの実践に基づき指導します。また、スノーボードは専門のインストラクター7名が指導します。

年度	2025
講義名称	ダンス[①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07713P

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	学習指導要領に示されたフォークダンス・創作ダンス・現代的なリズムのダンスを体験しながら指導法を学ぶ。ダンス作品の創作過程および発表・鑑賞を通じて、「踊る」「創る」「観る」の三要素を実践し、ダンスの特性や指導上の課題について考察する。さらに、模擬授業の体験を通じて、中学・高等学校における表現活動の指導力を高め、実践的な授業計画・運営能力の向上を目指す。
到達目標	① ダンスの基礎的な知識・技能を身につける。 ② 多様な表現方法を通して課題に応じた動きを工夫し、小作品を構成して踊ることができるようになる。 ③ 他者と関わることでコミュニケーション能力を高め互いに協力し健康や安全を保持することができるようになる。 ④ ダンス領域の特性と指導上の課題を認識し、指導案を作成することができるようになる
授業の進め方	原則、毎授業後にふり返り課題を提出する。ダンス作品の創作（グループワーク）・発表・鑑賞会を実施する。作品創作経験を踏まえて指導案を作成し、模擬授業を実施する。最後にまとめのポートを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎授業において、質疑応答により、理解度を確認して助言する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・ダンス基礎Ⅰ・フォークダンス	対面授業
第2回	ダンス基礎Ⅱ・現代的なリズムのダンス（エアロビックダンス）	対面授業
第3回	ダンス基礎Ⅲ・創作ダンスへのアプローチⅠ・Ⅱ（言葉・動き）	対面授業
第4回	創作ダンスへのアプローチⅢ（空間構成）・作品創作Ⅰ（テーマ・音楽の検討）	対面授業
第5回	作品創作Ⅱ（グループワーク・動きの創出）	対面授業
第6回	作品創作Ⅲ（グループワーク・構成の検討）	対面授業
第7回	作品創作Ⅳ（グループワーク・展開の工夫）	対面授業
第8回	作品創作Ⅴ（グループワーク・完成度の向上）	対面授業
第9回	指導案の作成	対面授業
第10回	指導案の検討	対面授業
第11回	発表・鑑賞、ふり返り	対面授業
第12回	模擬授業Ⅰ	対面授業
第13回	模擬授業Ⅱ・まとめ	対面授業

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	授業で習得したストレッチやステップなどのエクササイズ、カウントの取り方などは各自で必ず復習すること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 毎授業後のふり返し課題 20％ ② 実技・発表 30％ ③ 指導案・模擬授業 30％ ④ 最終レポート 20％ 上記①～④を目安として総合的に判断して評価する。
テキスト	なし（授業で配布する）
参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年告示）

備考	指導者になる心構えをもって受講すること。 ジャージなどの運動にふさわしい服装で参加すること。 筆記用具、タオル、水分補給の用意、裸足かソックスで行うので毎回準備して臨むこと。 髪の毛が長い場合は結び、運動にふさわしくない服装では受講できない場合がある。

年度	2025
講義名称	ダンス[②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07713P

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	学習指導要領に示されたフォークダンス・創作ダンス・現代的なリズムのダンスを体験しながら指導法を学ぶ。ダンス作品の創作過程および発表・鑑賞を通じて、「踊る」「創る」「観る」の三要素を実践し、ダンスの特性や指導上の課題について考察する。さらに、模擬授業の体験を通じて、中学・高等学校における表現活動の指導力を高め、実践的な授業計画・運営能力の向上を目指す。
到達目標	① ダンスの基礎的な知識・技能を身につける。 ② 多様な表現方法を通して課題に応じた動きを工夫し、小作品を構成して踊ることができるようになる。 ③ 他者と関わることでコミュニケーション能力を高め互いに協力し健康や安全を保持することができるようになる。 ④ ダンス領域の特性と指導上の課題を認識し、指導案を作成することができるようになる
授業の進め方	原則、毎授業後にふり返り課題を提出する。ダンス作品の創作（グループワーク）・発表・鑑賞会を実施する。作品創作経験を踏まえて指導案を作成し、模擬授業を実施する。最後にまとめのポートを提出する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎授業において、質疑応答により、理解度を確認して助言する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・ダンス基礎Ⅰ・フォークダンス	対面授業
第2回	ダンス基礎Ⅱ・現代的なリズムのダンス（エアロビックダンス）	対面授業
第3回	ダンス基礎Ⅲ・創作ダンスへのアプローチⅠ・Ⅱ（言葉・動き）	対面授業
第4回	創作ダンスへのアプローチⅢ（空間構成）・作品創作Ⅰ（テーマ・音楽の検討）	対面授業
第5回	作品創作Ⅱ（グループワーク・動きの創出）	対面授業
第6回	作品創作Ⅲ（グループワーク・構成の検討）	対面授業
第7回	作品創作Ⅳ（グループワーク・展開の工夫）	対面授業
第8回	作品創作Ⅴ（グループワーク・完成度の向上）	対面授業
第9回	指導案の作成	対面授業
第10回	指導案の検討	対面授業
第11回	発表・鑑賞、ふり返り	対面授業
第12回	模擬授業Ⅰ	対面授業
第13回	模擬授業Ⅱ・まとめ	対面授業

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	授業で習得したストレッチやステップなどのエクササイズ、カウントの取り方などは各自で必ず復習すること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は2.5時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 毎授業後のふり返し課題 20％ ② 実技・発表 30％ ③ 指導案・模擬授業 30％ ④ 最終レポート 20％ 上記①～④を目安として総合的に判断して評価する。
テキスト	なし（授業で配布する）
参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成30年告示）

備考	指導者になる心構えをもって受講すること。 ジャージなどの運動にふさわしい服装で参加すること。 筆記用具、タオル、水分補給の用意、裸足かソックスで行うので毎回準備して臨むこと。 髪の毛が長い場合は結び、運動にふさわしくない服装では受講できない場合がある。

年度	2025
講義名称	剣道
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07712P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 林 満章	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	1 武道Ⅰの領域である「剣道」を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。 2 剣道の理念（剣の理法による人間形成の道である）及び特性を理解する。 3 公正、相手を尊重する態度、健康安全に留意する態度を養う。
到達目標	1 礼法と技能の習得 2 剣道授業を行うための知識と実践的な指導力を身につける。 3 「剣道の理念」を学び理解する。 4 スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識できるようになる。
授業の進め方	1 実技の習得のため実技指導を中心に展開する。 2 グループ別・男女別により実践的な指導力を身につけるための活動・展開とする。 3 基本技能習得段階においては、教員が主導。発展段階ではグループワークとし、学生が主体的に取り組む授業展開とする。 4 課題については、授業内で解説すると共に資料を配布する。 5 まとめの段階で事故表シートを作成する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	1 課題解決に向けて資料を配布し、授業内で解説を行う。 2 実践的な手本や動画を見て学ぶ。 3 実技試験における内容・対策を十分に指導する。（剣道具の整理、剣道着・袴のたたみ方、基本技能）

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	1 オリエンテーション 「スライド」（剣道の特性、歴史の理解、授業の進め方、約束事等の説明） 2 剣道具・剣道着・袴・竹刀・木刀等の配布 3 次時の説明	対面による集団授業
第2回	1 「礼法」（道場への礼・正座（静座）・左座右起（立ち方・座り方）・呼吸法）（着装・礼法・姿勢・目付け・足さばき・蹲踞・構え） 2 「着装」（剣道着・袴の着装・姿勢・目付け・足さばき） 3 「刀法」（構え・蹲踞・構え） 4 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 5 次時の説明	対面による集団授業
第3回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「構え」（中段の構え）・蹲踞・足さばき（前後左右） 4 「素振り」（前進面・前進後退正面打ち・跳躍） 5 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 6 次時の説明	対面による集団授業

第4回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「構え」（中段の構え）、蹲踞、足さばき（前後左右） 4 「素振り」（①前進面②前進後退面③前進後退左右面④跳躍素振り） 5 「空間打突」（すり足からの面打ち） 6 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 7 次時の説明	対面による集団授業
第5回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 4 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」） 5 動機づけプログラム（①新聞切り②新聞玉打ち） 6 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 7 次時の説明	対面による集団授業
第6回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 4 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 5 リズム剣道 1（竹刀なし～手刀で） ①前前面面②前前小手小手③前前小手面④前前胴胴⑤前前小手胴 6 リズム剣道 2（木刀を持って） ①前前面面②前前小手小手③前前小手面④前前胴胴⑤前前小手胴 7 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 8 次時の説明	対面による集団授業
第7回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 4 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 5 リズム剣道 1（木刀で） ①前前面面②前前小手小手③前前小手面④前前胴胴⑤前前小手胴 6 リズム剣道 2（竹刀で） ①前前面面②前前小手小手③前前小手面④前前胴胴⑤前前小手胴 7 二人組による九歩の間合い（礼法・遠間・打間） 8 二人組によるすり足からの面、小手、胴 9 二人組による踏み込み足手の面、小手、胴 10 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 11 次時の説明	対面による集団授業
第8回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「素振り」（前進後退面・跳躍） 4 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 5 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 6 「面をつける」（面の付け方） 7 「面をつけて二人組」すり足による基本打ち（面・小手・胴）踏み込み足による（面・小手・胴） 8 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 9 次時の説明	対面による集団授業
第9回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「素振り」（前進後退面・跳躍） 4 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 5 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 6 「切り返し（面付けなし）」（正面からの左右面（前4後5）） 7 「面をつける」（面の付け方） 8 「面をつけて二人組」すり足による基本打ち（面・小手・胴）踏み込み足による（面・小手・胴・二段打ちの技） 9 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 10 次時の説明	対面による集団授業

第10回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「素振り」（前進後退面・跳躍） 4 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 5 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 6 「切り返し（面付けなし）」（正面からの左右面（前4後5）） 7 「面をつける」（面の付け方） 8 「面をつけて二人組」すり足による基本打ち（面・小手・胴）踏み込み足による（面・小手・胴・二段打ちの技） 9 「応じ技」（面に対して・小手に対して） 10 「互角稽古」 11 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 12 次時の説明	対面による集団授業
第11回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「素振り」（前進後退面・跳躍） 4 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 5 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 6 「切り返し（面付けなし）」（正面からの左右面（前4後5）） 7 「面をつける」（面の付け方） 8 「面をつけて二人組」すり足による基本打ち（面・小手・胴）踏み込み足による（面・小手・胴・二段打ちの技） 9 「応じ技」（面に対して・小手に対して） 10 「互角稽古」 11 試験要領について 12 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 13 次時の説明	対面による集団授業
第12回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「素振り」（前進後退面・跳躍） 4 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 5 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 6 試験要領について 7 実技試験① 「素振り」「切り返し」（面付けなし）」 8 「面をつけて二人組」すり足による基本打ち（面・小手・胴）踏み込み足による（面・小手・胴・二段打ちの技） 9 「応じ技」（面に対して・小手に対して） 10 「互角稽古」 11 試験要領について②（面をつけての基本打ち） 12 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方） 13 次時の説明	対面による集団授業
第13回	1 「礼法」の確認 2 「着装」（剣道着・袴、剣道具の付け方） 3 「素振り」（前進後退面・跳躍） 4 「九歩の間合い」～蹲踞～中段の構え 5 「足さばき」（前後左右、前前から空間打突「面・小手・胴」、送り足、踏み込み足） 6 試験要領②について 7 実技試験② 「面をつけての基本打ち」（面・小手柄・小手柄） 8 自己評価表について 9 講義のまとめ 10 後片付け（剣道具の片付け方・剣道着・袴のたたみ方）	対面による集団授業

事前・事後学修	1 科目の関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを提出する場合がある。 2 授業終了後の剣道具・剣道着・袴・面ずきん・小手下等の管理、授業における重点事項、専門用語についてノートにまとめる。 3 予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

	1 授業への参加・意欲・態度 30％	2025/04/01

成績評価基準と方法	2 自己評価シート・課題レポートの提出 20％ 3 実技試験 50％
テキスト	特になし（適宜資料を配布する）
参考文献	1 剣道指導要領（全日本剣道連盟） 2 剣道授業の展開 中学校保健体育「武道」指導資料 （全日本剣道連盟）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、剣道教士八段の資格を持ち、27年間の高等学校保健体育教員としての指導経験や、11年間の管理職としての実績を積み重ねてきました。また、大学教授として5年間活動し、北海道剣道連盟や学校剣道連盟での要職を歴任するなど、剣道教育と組織運営に深く携わっています。これらの豊富な経験を基に、剣道の技術と指導方法を融合させた学びを提供する講義を展開します。
備考	1 本科目は教員免許（教科に関する科目）の対象科目であり、受講は教職課程履修者のみとする。 2 5,000円の受講料が必要。（剣道着・袴の洗濯代、剣道用面頭巾・小手下・竹刀の修繕費・面シールド代） ※但し、剣道授業に必要な剣道具等全て用意できる（自前）学生は受講料はかからない。

年度	2025
講義名称	[夏集]柔道
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07711P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 堀川 政彦	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	1 柔道の基本動作や基本となる技などを学び、技能を高め指導の仕方を身につける。 2 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方を理解する 3 体力の高め方や試合の仕方などを理解し、健康・安全を確保する態度を養う。
到達目標	柔道の特性や伝統的な考え方を理解し、基本動作や技の練習方法から指導の仕方を工夫できるようにする。
授業の進め方	授業は実技を中心に行う。基本動作や受け身などは教員の主導にて学習する。投げ技や固め技から連絡技などへ発展する段階で、身について知識を基にグループワークや発表で理解を深めるような授業展開とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに資料を配付する。まとめの段階で振り返りシートを作成する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	1 オリエンテーション・柔道の特性、歴史の理解・柔道衣の着衣
第2回	2 基本動作① 礼法・投げ技の基本動作[姿勢と組み方・進退動作・崩し・体さばき]
第3回	3 基本動作② 受け身[後ろ受け身・横受け身・前回り受け身・(前受け身)]
第4回	4 基本動作③ 固め技の基本動作[姿勢・体のさばき・抑え込みの条件]
第5回	5 固め技① けさ固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固め
第6回	6 固め技② 固め技の連絡、変化・仰向けや四つんばいなどの相手の入り方、返し方
第7回	7 固め技③ 固め技の自由練習・（絞め技・関節技）
第8回	8 投げ技① 膝車・支え釣り込み足・大腰・体落とし・つり込み腰・背負い投げ
第9回	9 投げ技② 払い腰・跳ね腰・内股・大外刈り・小内刈り・大内刈り
第10回	10 投げ技③ 送り足払い・巴投げ・浮き技、投げ技の連絡・変化
第11回	11 自由練習① 投げ技から固め技への連絡・審判法
第12回	12 自由練習② 投げ技、固め技の攻防、技能テストの説明と練習
第13回	13 技能テスト(得意技発表会) 投げ技・固め技の連絡技・受け身・振り返り

事前・事後学修	到達目標に関するレポートを提出する場合がある。 授業における重要事項や専門用語についてノートにまとめる。 時間は1時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1 授業への参加・意欲・態度 30% 2 振り返りシート・課題レポートの提出 20% 3 技能テスト 50%
テキスト	なし
参考文献	適宜資料を配付する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、高校保健体育教諭として35年にわたり、北海道広尾高等学校、岩見沢緑陵高等学校、北広島高等学校、札幌北高等学校で指導経験を重ねてきました。これらの実務経験を基に、保健体育教育に関する実践的かつ多角的な学びを提供する講義を展開します。
備考	1 本科目は教員免許（教科に関する科目）の対象科目であり、受講は、教職課程履修者のみとする。 2 柔道衣を各自で用意すること。（上衣・下穿き・帯）

年度	2025
講義名称	[冬集]水泳
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07703P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどから構成される。 具体的には、浮く、呼吸をする、進むなどのそれぞれの技能の組み合わせによって成立している運動で、それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 本科目は、中学校ならびに高等学校の保健体育科の領域として位置づけられる水泳の学習を通して、平衡性や巧緻性、全身持久力をはじめとする基礎的な運動能力ならびに指導技能を養成していくことを目的とする。 同時に、水泳を通した心身の調和的な発達を図り、生涯にわたるスポーツ習慣の形成や定着を志向した視点に立ちながら、課題達成・克服型スポーツに関する楽しさや喜びについて体感していく。
到達目標	本科目は、以下3点の達成と指導技能の養成を到達目標として位置づける。 ①記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、 自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができる。 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ③水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとする事ができる。
授業の進め方	本科目は、学内にプールが設置されていないため、公的施設を使用した集中講義形式での展開とする。 本科目の実技指導に関する内容は演習形式とするが、水泳における安全管理と注意事項、運動の特性や各領域の概要などの解説にあたっては、講義形式による展開とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、水泳の概要	対面授業（講義形式）
第2回	体育科水泳運動系・保健体育科水泳系領域の位置づけ	対面授業（講義形式）
第3回	呼吸の調整を伴ったもぐる運動の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第4回	呼吸の調整を伴った浮く運動の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第5回	け伸びの実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第6回	初歩的な泳ぎの実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第7回	クロールの実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）

第8回	背泳ぎの実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第9回	平泳ぎの実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第10回	バタフライの実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第11回	スタート・ターン及び複数泳法・リレーの実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第12回	実技指導の振り返りとアクアティクスの概要	対面授業（講義形式）
第13回	水泳の学習指導計画の作成ならびに発表	対面授業（講義形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習では，次回の授業内容に関する専門用語やその意味についてまとめておくこと。 事後学習では，必要に応じて振り返りができるようにするために授業内容を要約すること。 【必要な時間】 各回の予習・復習には，それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	30%：平常点評価 発問に対する応答やディスカッションならびに実習への参加状況など，授業への取り組みに対する積極性を評価する。 40%：リフレクション 毎時間リフレクションを実施する。 実際に展開された内容と関連付けながら深く考察がなされているかを評価する。 30%：学習指導計画の立案とプレゼンテーション まとめとして，水泳の学習指導計画を立案し，その内容について発表する。 学習指導計画に示された対象・目的・方法（教材）に一貫性が伴っているかを評価する。
参考文献	文部科学省（2014）学校体育実技指導資料 第4集 水泳指導の手引（三訂版），アイフィス， 文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房， 文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編，東洋館出版社， 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房， 岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践，みらい， 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド，明治図書出版， その他，必要に応じて適宜配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目は，高等学校の保健体育科教員として実務経験を有する教員が担当し，実際の保健体育科の授業場面を想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。
備考	本科目は，「中学校教諭第1種免許状（保健体育）」および「高等学校教諭第1種免許状（保健体育）」の取得に関する必修科目である。 履修希望が40名を超える場合には，教職課程を履修している学生を優先的に登録する。 実技指導の展開に際して，水着（競泳用もしくはフィットネス用）・スイミングキャップ・ゴーグル・バスタオル その他必要な用具は，各自で用意すること。

年度	2025
講義名称	陸上競技
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07702P

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、陸上競技を实践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、バイオメカニクスおよびコーチングの観点から修得する。また、ヒトの運動の基本であり、あらゆるスポーツに共通した走・跳・投の力を伸ばす上で、合理的な身体の動かし方を学修する。
到達目標	【到達目標】 ①陸上競技について専門的な知識や、競技のルールについての理解をする。 ②走・跳・投それぞれに対して、合理的な身体の使用方を理解し、それを実技により体现できる力を身に付ける。
授業の進め方	【講義方法】 実施場所は、陸上競技場、グラウンド、教室とする。必要に応じて、授業冒頭に陸上競技の基本動作である走・跳・投、それぞれに対して、指導する上で必要な知識や、重要な観点を説明する。その後、それぞれの種目について実践を通した体験学習も行う。基本的には、個々人に対する技術指導とするが、必要に応じてグループワークも行うことで能動的学習の機会を促す。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等、実践的学習の場に参加することがある。本演習は、陸上競技を専門とし、指導に関する実務経験のある教員が担当する。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②陸上競技の種目やルールについて
第3回	③陸上競技(走・跳・投)に関する理論
第4回	④短距離走1(短距離走の基本的技術)
第5回	⑤短距離走2(短距離走の専門的技術)
第6回	⑥障害物走1(障害物走の基本的技術)
第7回	⑦障害物走2(障害物走の専門的技術)
第8回	⑧障害物走3(障害物走実技試験)
第9回	⑨投擲1(投擲の基本的技術)
第10回	⑩投擲2(投擲の専門的技術)
第11回	⑪投擲3(投擲実技試験)
第12回	⑫跳躍1(跳躍の基本技術)

第13回	⑬ リレー競技

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②陸上競技のルール・種目等に関連した知識」に関する情報収集を推奨する。 科目に関する学部学科行事を実施した際には、到達目標に関するレポートを行う場合がある。 【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実技課題(40%) 課題提出状況および提出物(40%) 最終レポート(20%)

年度	2025
講義名称	体づくり・器械運動
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07701P

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動（実生活に生かす運動の計画）で構成される領域である。 また、器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成される領域である。 本科目は、中学校および高等学校の保健体育科の領域として位置づけられる体づくり運動及び器械運動の学習を通して、 平衡性や巧緻性をはじめとする基礎的な運動能力ならびに指導技能を養成していくことを目的とする。 同時に、体づくり運動ならびに器械運動を通した心身の調和的な発達を図り、 生涯にわたるスポーツ習慣の形成や定着を志向した視点に立ちながら、これら領域の楽しさや喜びについて体感していく。
到達目標	本科目は、以下3点の達成と指導技能の養成を到達目標として位置づける。 ①体づくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、 実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。 器械運動では、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、 技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ③体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、健康・安全を確保することができる。 器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとし、互いに助け合い高め合おうとし、 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができる。
授業の進め方	本科目は、演習形式による展開とする。 但し、運動の特性や各領域の概要などの解説にあたっては、講義形式による展開とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、体づくり運動・器械運動の概要	対面授業（演習形式）
第2回	体ほぐしの運動の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第3回	体力を高める運動と実生活に活かす運動の計画の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第4回	マット運動：巧技系の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第5回	マット運動：回転系（接転）の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第6回	マット運動：回転系（ほん転）の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第7回	マット運動：演技の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第8回	跳び箱運動：回転系の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）

第9回	跳び箱運動：切り返し系の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第10回	平均台運動の実践ならびに指導法	対面授業（演習形式）
第11回	マイクロティーチング①	対面授業（演習形式）
第12回	マイクロティーチング②	対面授業（演習形式）
第13回	マイクロティーチング③、まとめ	対面授業（演習形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習では，次回の授業内容に関する専門用語やその意味についてまとめておくこと。 事後学習では，必要に応じて振り返りができるようにするために授業内容を要約すること。 【必要な時間】 各回の予習・復習には，それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	30％：平常点評価 発問に対する応答やディスカッションならびに実習への参加状況など，授業への取り組みに対する積極性を評価する。 40％：リフレクション 毎時間リフレクションを実施する。 実際に展開された内容と関連付けながら深く考察がなされているかを評価する。 30％：学習指導計画の立案とマイクロティーチングの実践 体づくり運動および器械運動に関する学習指導計画の立案ならびにマイクロティーチングを実践する。 実践した内容について，目的・方法（教材）に一貫性が伴っているかを評価する。
参考文献	文部科学省（2013）学校体育実技指導資料 第7集 体づくり運動：授業の考え方と進め方（改訂版），東洋館出版社。 文部科学省（2015）学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引，東洋館出版社。 文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編，東山書房。 文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編，東洋館出版社。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編，東山書房。 岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践，みらい。 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド，明図図書出版。 その他，必要に応じて適宜配布する。

備考	本科目は，「中学校教諭第1種免許状（保健体育）」および「高等学校教諭第1種免許状（保健体育）」の取得に関する必修科目である。 履修希望が40名を超える場合には，教職課程を履修している学生を優先的に登録する。 各自，運動に適した服装で授業に参加すること。

年度	2025
講義名称	健康運動指導演習
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07511S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義は、健康運動指導士の資格取得を目的とする演習および実習型講義である。具体的には、生活習慣病（心臓病、脳卒中、糖尿病等）の予防を目的に、生活習慣病のハイリスク者等に対し、安全で効果的な運動指導を円滑に実践できるための基礎理論と実践能力を修得することを目的とした演習および実習である。
到達目標	健康運動士の資格取得に向け、健康産業施設の現場従事者から実践理論を学び、健康づくりに必要な運動プログラムの企画・計画、指導、評価の一連のマネジメントが出来るようになる。
授業の進め方	本講義は、実技実習および現場実習形式を採用する。資格に関連する講義に加えて、能動的に学修を行う「水泳実習」および「健康産業施設等現場実習」を通じて、健康運動指導士の資格取得に必要な知識および実践力の獲得を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で適宜解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	介護予防と運動（1）（2）わが国の高齢化の実態と疾患状況及び介護予防と運動の役割について
第2回	健康産業施設等現場実習（1）対象者への接し方とコミュニケーション
第3回	健康産業施設等現場実習（2）施設管理業務の実践と安全管理
第4回	健康産業施設等現場実習（3）個人情報管理と守秘義務について
第5回	健康産業施設等現場実習（4）運動施設の機器の特徴について理解する
第6回	健康産業施設等現場実習（5）介護予防運動指導の実践について理解する
第7回	健康産業施設等現場実習（6）運動実施前の健康チェック
第8回	健康産業施設等現場実習（7）個人の特性に対応した体力測定
第9回	健康産業施設等現場実習（8）個別ケースに対応した運動プログラムの作成
第10回	健康産業施設等現場実習（9）個別ケースに対応した運動プログラムの提供
第11回	健康産業施設等現場実習（10）運動の記録と運動継続効果の把握
第12回	水泳・水中運動（1）水中運動の基本と基本泳法
第13回	水泳・水中運動（2）中高年者や有疾患者など個々人に合わせた指導法

	事前学習：健康運動指導士養成講習会テキストを講読し、実習先での活動に備えること。	2025/04/01

事前・事後学修	事後学習：実習後の振り返り記録シートに記入し、実習先での活動をまとめ、次回の実習に備えること。また、水泳実習、介護予防と運動についての活動および授業内容の振り返りを併せて行うこと。これらをふまえ事前および事後学習では、それぞれ、150分程度の時間を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	指導実技（30%） レポート課題（40%） 実習レポート（30%）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	健康運動指導士養成講習会テキスト（著者：健康・体力づくり事業財団 出版社：株式会社社会保険研究所）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	健康運動指導士としての実務経験のある教員が担当する。担当者それぞれの専門に関する基礎理論の教示および、実習先の健康運動指導士による指導を通じて、健康運動指導士としての必要な資質を養う。
備考	・健康運動指導士の資格取得希望者のみ受講可能とする。 ・水泳実習（水中運動に関わる実技）の際、プール使用料500円を徴収する。

年度	2025
講義名称	[冬集]スポーツ医学と運動処方
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07510L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 野呂 昇平	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	運動やスポーツを行う際に起こりうるケガや障害について発生要因・発生のメカニズム・予防方法について解説する。また、救急処置に関する知識と技術を習得し、運動時の事故に対応できるように学習する。さらに、運動負荷試験の実施に必要な基礎的な知識・装置・プロトコールについて理解し、運動負荷試験実習を行うことにより、運動強度や心電図の変化、負荷中止基準、心拍数反応、血圧反応、自覚的運動強度等について理解する。
到達目標	運動障害とその予防、救急処置について学習する。また、運動負荷試験の理論と実習をととして運動強度の測定についてを学習する。
授業の進め方	理論については教室で講義を展開し解説する。救急蘇生法、運動負荷試験については、実習形式の講義を行い、実践的な知識・技術を習得できるような講義を展開する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題やレポートについては、学生の意見を講義の中で紹介し意見交換を行うなどして学生にフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	内科的障害と予防①	同時双方向
第2回	内科的障害と予防②	同時双方向
第3回	外科的損傷①	同時双方向
第4回	外科的損傷②	同時双方向
第5回	外科的応急処置①②	
第6回	健診結果・安静時心電図の読み方①	同時双方向
第7回	健診結果・安静時心電図の読み方②	同時双方向
第8回	メディカルチェックの重要性	
第9回	服薬者の運動プログラム作成上の注意	
第10回	救急蘇生法①	
第11回	救急蘇生法②	
第12回	運動負荷試験実習①	
第13回	運動負荷試験実習② トレッドミル/自転車エルゴメータ編	

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	事前学習：健康運動指導士養成講習会テキストを講読し講義や実習に備えること。 事後学習：健康運動指導士資格試験の問題を解き解答について確認する。 【必要な時間】 事前および事後学習では、それぞれ、120分程度の時間を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	まとめのレポート 40% 講義後の感想レポート 30% 講義内での課題 30%
テキスト	健康運動指導士養成講習会テキスト
参考文献	健康運動指導士養成講習会テキスト

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	野呂昇平 医師 担当教員は、救急科専門医としての救急医療現場での実務経験や、脳卒中専門医としての疾患治療の知識を基に、さらにスポーツドクターや健康運動指導士として運動指導や健康管理に関わる幅広い活動を積んできました。これらの経験を基に、実践的かつ専門的な学びを提供する講義を展開します。
備考	- 健康運動指導士の資格取得希望者のみ受講可能とする - 講義形式について 2 0 2 5 年度は対面または同時双方向を予定している。直前になり講義形式が変更になる可能性もあり

年度	2025
講義名称	地域社会と健康
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07509L

担当教員

氏名	所属
◎ 林 美枝子	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	学生が健康とは何かを理解するために、医療人類学や社会医学の分野から定義の歴史を学習する。 学生がWHOの健康観の変遷と医療資源の捉え方等の理解を通して、健康への多様な視野を学修する。 学生が日本の健康政策についての取り組みや、制度、その変遷について理解するために、日本における健康政策や健康阻害要因の具体的項目について学び、医療制度を理解する。 学生は健康をめぐる国の政策転換を理解する地域包括ケアシステムの構築に向けた、地域の医療と介護の一括的な制度変更を学修する。。 学生は多死社会における看取り力のある共生社会創りとは何かを学修する。
到達目標	①国際的な新たな健康の定義や取り組みを理解できること ②日本が推進する共生社会創りについて説明できること ③超高齢社会における種々の地域課題を指摘できること ④到来必至の多死社会における共生社会創りについて説明できること
授業の進め方	基本は13回の内10回は講義形式で進める。1回は認知症サポーター養成講座を実施する。また多死社会での死生観の養成を意図した2回のワークを行う。 2回目以降は毎回授業の最初の5分間を、前回授業の振り返りに宛てる。 授業の最期の5分間は自己学修シートへの記入を実施するとともに、授業後の事後学修の内容を検討させる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	自己学修シートに記入した内容に関しては、次の授業の最初の振り返りの時間に講評する。 小テストの結果も併せて講評する。 グループワークの課題は、その日の授業の中で解説、講評する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業の流れと課題、評価についての説明 少子超高齢社会の現状と、その課題 支え手への大移動、世界で最も働く高齢者率の高い国 自己学修シートへの記入の仕方の説明と記入	対面授業
第2回	前回授業の振り返り 認知症との共生社会創り 認知症サポーター養成講座 （実施回が変更される場合あり） 自己学修シートへの記入 テスト1	対面授業
第3回	前回授業の振り返り WHOの健康観、文化相対的視点からの健康に関する考察 自己学修シートへの記入 小テスト2	対面授業

第4回	前回授業の振り返り SDGsとは何か　そのゴールから地域社会と健康を探索 自己学修シートへの記入 小テスト3	対面授業
第5回	前回授業の振り返り 現代社会における健康阻害要因の考察1 　貧困と格差社会の現状とその対策 自己学修シートへの記入 小テスト4	対面授業
第6回	前回授業の振り返り 現代社会における健康阻害要因の考察1 　DV、性暴力、各種ハラスメントの被害と対策 自己学修シートへの記入 小テスト5	対面授業
第7回	前回授業の振り返り 日本の医療保険制度の課題と今後の制度のゆくえ 医療と介護の一括法と介護保険制度について 自己学修シートへの記入 小テスト6	対面授業
第8回	前回授業の振り返り 共生社会創りの推進 家族を補完するソーシャル・セキュリティについて 自己学修シートへの記入 小テスト7	対面授業
第9回	前回授業の振り返り 医療DXとは何か、現在行われている工程を理解する 医療DXが地域社会の健康をどう変えていくのか 自己学修シートへの記入 小テスト8	対面授業
第10回	前回授業の振り返り 民間療法、伝統的医療、そして補完代替療法について WHOの取り組みと疾病分類の改訂 自己学修シートへの記入 小テスト9	対面授業
第11回	前回授業の振り返り 多死社会の到来に備えて1　病院完結型社会から地域完結型社会へ 地域包括ケアシステムについて ビジルの迎え方のワーク グループワークの報告書の提出 自己学修シートへの記入	対面授業
第12回	前回授業の振り返り 多死社会に備えて2　看取り力のあるコミュニティの創造 死の人権とは何か 死の準備教育としてのデスカフェのワーク グループワークの報告書の提出 自己学修シートへの記入と提出	対面授業
第13回	前回授業の振り返り 地域社会と健康についての総括 　共生社会を支える人間の杖について 自己学修シートへの記入と提出 小テスト10	対面授業

事前・事後学修	【事前学修】 13回の授業が終了するまでの期間で、新聞や雑誌から健康、医療や介護、地域創造、共生社会をキーワードに、関連する時事問題の情報を常に確認すること。自学自習シートの記入時間にその内容を簡潔に記入する。2時間程度 【事後学修】 授業内容の復習を必ずおこなうこと。次回の授業で小テストを実施するため。また自己学修シートにその日の徐儀容の感想を書き込むと同時に、事後学修のキーワードを3つほど決めておき、それについて自分で情報を収集する、調べるなどして授業内容の理解を深める。2時間程度。 を自ら2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	自学自修シートへの書き込み内容 30点 30% グループワークの報告書 各10点合計20点 20% 授業内で実施する小テスト 2回目から11回目までの10回 各5点合計50点 50%
テキスト	なし
参考文献	林美枝子『介護人類学事始め 生老病死をめぐる考現学』明石書店 ヘンリー・フェルスコ=ワイズ 監訳 林美枝子『看取りのドゥーラ』明石書店

備考	この授業は第1回目と第2回目の週、第11回目と第12回目の週、第13回目の週の前5回の授業は対面となります。また11回目、12回目の授業ではグループワークを2回実施しますが、その評価が合わせて20%と高いため、必ず参加できる学生の履修を希望します。また、札幌市の制度を利用してテキストを無料配布し、2回目に認知症サポーターの養成講座を対面授業で実施します。これまでに既にサポーターの養成講座を受けていても、養成講座の中身は毎年アップデートしているのでこれも受けるようにしてください。また毎回手元で記入していただく自己学修シートは最後の授業で提出するので、毎回授業の時も必ず指示に従い記入するようにして、13回目の対面授業終了時に提出してください。

年度	2025
講義名称	学校保健
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07508L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	学校における体育・健康に関する指導は、健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質・能力を育て、心身の調和的発達を図り、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指すものである。そのため、本講座を通して、教員として身につけておくべき事項である学校における保健指導、保健教育、保健管理、安全管理などについて理解するとともに、学校保健活動の在り方や、学校保健、学校安全に係る諸課題等について、具体的な事例を通し学ぶことによって、学校保健に関する教員としての実践力を身につける。
到達目標	1 成長期にある児童生徒の健康課題を理解し、学校保健全般についての知識を身につけている。 2 児童生徒の健康の保持増進に関心を持ち、学校保健の推進に取り組もうとしている。 3 学校保健を推進するための資料の収集やそれを活用する技能を身につけている。
授業の進め方	教室での講義形式を主とする。より深い理解を得るためにグループワークを実施することもある。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で配布し、適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、学校保健の意義
第2回	組織活動と職員の実際
第3回	保健計画・安全計画・保健学習について
第4回	保健指導について
第5回	学校における性に関する指導
第6回	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
第7回	児童生徒の健康把握と評価
第8回	児童生徒の発育発達・健康障害とその指導
第9回	精神の健康
第10回	学校環境衛生
第11回	学校安全
第12回	危機管理と緊急対応
第13回	学校保健のまとめ

事前・事後学修	ワークシート及び配布資料等から講義内容を整理するほか、授業内容に関する文献や書籍を通じて調べ学習を行うこと。 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	本講座を通して、「児童生徒の健康課題について、理解したことや得た知識を活用し、具体的に論述できること」をレポート（50%）において、知識の定着等を講義で実施するワークシート（30％）において、グループワーク等に対する取組（20％）の積極性等により学校保健や健康教育の改題解決に対する意欲として評価する。
テキスト	適宜配布する。
参考文献	「学校保健ハンドブック」 教員養成系大学保険協会（編） りょうせい

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	北海道の高等学校保健体育担当教員としての実務経験18年、北海道教育委員会の学校体育・学校保健担当課指導主事としての実務経験10年、高等学校管理職としての実務経験9年。その中で学校保健について現場での推進や指導・助言を行ってきた。それらの経験をもとに、学校現場での課題や具体的事例を積極的に活用しながら講義を行う。

年度	2025
講義名称	衛生学及び公衆衛生学
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07506L

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、病気の予防、健康の保持・増進のため、環境と生体の反応について、科学的根拠の解説や事例検討などをおして理解を深める。また、地域集団の健康に関わる課題が、経済・政治・文化・社会などと密接に関わっていることを確認する。疾病予防と身体活動・運動の関連についても学習する。
到達目標	衛生学・公衆衛生学の成り立ちや役割を説明できる。また、地域集団の健康課題について、関連要因を具体的に示しながら論述することができる。
授業の進め方	主として教室で講義を展開する。パワーポイントによるプレゼンテーション、ビデオなども活用する。また、公衆衛生分野の課題に対してディスカッション、実習を行いより深い理解を得る。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題やレポートについては、学生の意見を講義の中で紹介したり、ディスカッションのテーマとしたりして、学生にフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	衛生学・公衆衛生学とは
第2回	健康づくり施策
第3回	運動基準・運動指針
第4回	疫学Ⅰ（疫学の歴史と手法）
第5回	生活習慣病と運動疫学
第6回	疫学Ⅱ（事例検討）
第7回	感染症Ⅰ（感染症とは）
第8回	感染症Ⅱ（事例検討）
第9回	食品衛生
第10回	環境保健
第11回	産業保健
第12回	高齢者保健・障害者保健
第13回	国際保健・母子保健

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・毎回の講義で扱う範囲に基づき事例などについて予習する。 ・毎回の講義内容について関連する課題を用意し、次回講義でのディスカッションなどに活用する。 ・健康や疾病予防に関する身近な出来事に興味関心を持ち、関連する情報を収集し理解すること。	2025/04/01

	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	期末レポート 40% 講義後の感想レポート 30% 講義内課題 30%
参考文献	【参考文献】 ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上） ・その他適宜資料を配布する。

備考	本科目は下記の免許および資格の対象科目である。 ・保健体育科教員免許（教科に関する科目） ・健康運動指導士

年度	2025
講義名称	ストレンクス・コンディショニング実習
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07405P

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	ストレンクス・コンディショニング実習は、観察、参加、実習という方法でトレーニング現場にかかわることを通して、トレーニング指導者になる上での能力や適性を涵養するとともに、実践的問題解決能力を達成する機会である。 本講義の目的は、NSCA-CSCS、NSCA-CPT、JATI-ATIのいずれかの資格を有する指導者の指導現場において体験を積み、トレーニングの実際を体験的、総合的に理解し、トレーニング実践のための基礎的基本的な能力と態度を身に付けることである。
到達目標	①インターンシップ生として遵守する義務等について理解する。 ②責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加する。 ③専門的トレーニング指導者として必要な知識や技能等を理解する。
授業の進め方	講義および実習

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	トレーニング指導の知識と実践
第2回	インターンシップの意義及び内容
第3回	実習における指導（指導の技術と方法）
第4回	日報の書き方
第5回	実習1
第6回	実習2
第7回	実習3
第8回	実習4
第9回	実習5
第10回	実習6
第11回	実習7
第12回	実習のまとめ、実習報告書の作成
第13回	実習報告会

事前・事後学習	事前学習として、NSCAおよびJATIが指定する科目を履修していること、特に「ストレンクス・コンディショニング」の単位を得ていること 事後学習として、報告書の作成を通して、ストレンクス・コンディショニングおよびパーソナルトレーニングの知識および実践に関する理解を深めること
2025/04/01	

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 実習先の評価： 30％ ② 実習報告書・実習日誌：30％ ③ 実習報告会の成果： 40％
テキスト	ストレンGSTレーニング&コンディショニング（ブックハウスHD） パーソナルトレーナーのための基礎知識（NSCAジャパン）
参考文献	トレーニング指導者テキスト理論編/実践編 日本トレーニング指導者協会 健康運動指導士養成講習会テキスト上・下 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団

年度	2025
講義名称	ストレングス・コンディショニング[①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07404P

担当教員

氏名	所属
◎ 工藤 大輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義は，スポーツ現場において安全でかつ効果的なウエイトトレーニングの理論から指導実践までを学修します．
到達目標	指導現場において理論に基づいたトレーニング指導が実践できることを目標とします．
授業の進め方	講義と実技を交えて行います． グループワークも取り入れます．

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本講義は，健康運動指導士，NSCA (CSCS,CPT)・JATI-ATIの資格対象科目です．毎講義で提示する課題レポートの提出が必要となります．

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	ウエイトトレーニングの基礎/ウォーミングアップの理論と実践
第3回	下肢エクササイズの理論と実践Ⅰ
第4回	下肢エクササイズの理論と実践Ⅱ
第5回	上肢エクササイズの理論と実践Ⅰ
第6回	上肢エクササイズの理論と実践Ⅱ
第7回	パワーエクササイズの理論と実践Ⅰ
第8回	ピリオダイゼーションとプログラムデザイン
第9回	パワーエクササイズの理論と実践
第10回	エクササイズのまとめⅠ
第11回	エクササイズのまとめⅡ
第12回	筆記/実技テスト
第13回	筆記/実技テスト

事前・事後学修	具体的な内容】 課題レポートの作成 週2回程度の実技の復習 【必要な時間】 事前事後学習で2時間程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題レポート：40％ 実技テスト：40％ 筆記テスト：20％
テキスト	適宜配布します。
参考文献	『ストレンクス＆コンディショニング』Book House HD 2018 『トレーニング指導者テキスト』理論編/実践編 日本トレーニング指導者協会 『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』公益財団法人 健康・体力づくり事業財団

備考	本講義は、ウエイトトレーニングルームで行いますので、室内シューズと運動できる服装を用意してください。 外部講師の授業を1時間予定しています。

年度	2025
講義名称	ストレングス・コンディショニング[②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07404P

担当教員

氏名	所属
◎ 工藤 大輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義は，スポーツ現場において安全でかつ効果的なウエイトトレーニングの理論から指導実践までを学修します．
到達目標	指導現場において理論に基づいたトレーニング指導が実践できることを目標とします．
授業の進め方	講義と実技を交えて行います． グループワークも取り入れます．

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本講義は，健康運動指導士，NSCA (CSCS,CPT)・JATI-ATIの資格対象科目です．毎講義で提示する課題レポートの提出が必要となります．

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	ウエイトトレーニングの基礎/ウォーミングアップの理論と実践
第3回	下肢エクササイズの理論と実践Ⅰ
第4回	下肢エクササイズの理論と実践Ⅱ
第5回	上肢エクササイズの理論と実践Ⅰ
第6回	上肢エクササイズの理論と実践Ⅱ
第7回	パワーエクササイズの理論と実践Ⅰ
第8回	ピリオダイゼーションとプログラムデザイン
第9回	パワーエクササイズの理論と実践
第10回	エクササイズのまとめⅠ
第11回	エクササイズのまとめⅡ
第12回	筆記/実技テスト
第13回	筆記/実技テスト

事前・事後学修	具体的な内容】 課題レポートの作成 週2回程度の実技の復習 【必要な時間】 事前事後学習で2時間程度。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題レポート：40％ 実技テスト：40％ 筆記テスト：20％
テキスト	適宜配布します。
参考文献	『ストレンクス＆コンディショニング』Book House HD 2018 『トレーニング指導者テキスト』理論編/実践編 日本トレーニング指導者協会 『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』公益財団法人 健康・体力づくり事業財団

備考	本講義は、ウエイトトレーニングルームで行いますので、室内シューズと運動できる服装を用意してください。 外部講師の授業を1時間予定しています。

年度	2025
講義名称	体力トレーニング演習【ブレB】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07403S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、体力トレーニング理論を中心に学び、修得した技法を実践現場で活用できるようにすることを目的とする。授業の2／3を演習形式とし、トレーニングに関連した基礎知識、トレーニング現場での最新のトピックスを紹介し、学生間で討議する。代表的なトレーニング法を演習形式で学修しながら、最終的には自分自身でトレーニング・プログラムを作成できるようにする。
到達目標	【到達目標】 種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。
授業の進め方	演習および講義形式で行う。毎回、振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークやプレゼンテーションを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスを専門とする研究の実績を有する教員が実施する。競技経験および運動学習法の研究をふまえ、アスリートのパフォーマンスを向上させるトレーニング方法について理解できる演習および講義を実施する。実技を実施する場所は、教室、トレーニングルームおよび体育館とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（体力トレーニング概論）
第2回	ストレッチングと柔軟体操の実際
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウン
第4回	ウォーキングとジョギング、スプリント(1) 歩行と走行の違い
第5回	ウォーキングとジョギング、スプリント(2) トレーニング
第6回	フリーウェイトトレーニング：最大反復法と最大筋力法
第7回	マシントレーニング・ファンクショナルトレーニング
第8回	スピードトレーニング・持久的トレーニング
第9回	種目別トレーニングの実践例 (1)個人種目・記録競技
第10回	種目別トレーニングの実践例 (2)球技
第11回	トレーニングプログラム(1) 計画の作成
第12回	トレーニングプログラム(2) 計画の分析・修正
第13回	まとめとテスト

事前・事後学修	【事前学習】体力トレーニング論で学修した内容を復習する。
	【事後学習】 健康運動指導士、トレーニング指導者(JATI)、CSCS(NSCA)の資格関連テキストを熟読する。上記の内容をふまえ、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業内レポート 20% ②演習課題 20% ③トレーニング計画表レポート 60%
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	藤原勝夫・外山寛：身体活動と体力トレーニング,日本出版サービス 藤原勝夫：運動機能解剖学,北國新聞社 村木征人：スポーツ・トレーニング理論,ブックハウスHD 中村隆一 斎藤宏 長崎宏：基礎運動学,医歯薬出版株式会社 健康運動指導士養成講習会テキスト（健康・体力づくり事業財団）、その他随時資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、運動生理学およびバイオメカニクスに基づき、スポーツにおける運動学習法の研究を行い、実践的な知識を深めてきました。その経験を活かし、理論と実践を結びつけた学びを提供し、具体的な応用力を身につける講義を展開する。

年度	2025
講義名称	スポーツ統計学
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07303L

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ科学研究やトレーニングの現場で必要となる統計処理の基礎知識およびデータの集計や統計解析技術の基礎を身につけることを目的とする。
到達目標	①測定内容および目的に応じたデータの処理ができるようになる。記述統計の各統計量を計算できる。 1. 尺度の水準を理解できる。 2. 代表値（平均、中央値、最頻値）および分散（平均偏差、標準偏差）を計算できる。 3. 条件をソートし、グループごとの集計をし、頻度、分割表を作成できる。 ②統計の基本的な概念を理解し、記述統計および推測統計の関係を理解する。 1. 偏差値を算出し、その意味を理解できる。 2. 散布図の作成、相関係数の算出、回帰分析を行うことができる。
授業の進め方	統計についての講義およびMicrosoft Excelを用いた演習を実施します。主に情報教育センターでコンピューターを利用し、e-ラーニングシステムを使用して授業を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	eラーニングシステムでフィードバックします。

授業計画表

回	授業内容
第1回	統計の基本的考え方、尺度について
第2回	データの入力と評価方法
第3回	割合・比率
第4回	代表値
第5回	散布度
第6回	表計算
第7回	関数
第8回	標準化、正規化
第9回	統計表の作成
第10回	図の作成
第11回	相対評価
第12回	相関と予測
第13回	統計解析法のまとめ

事前・事後学修	授業外学習 e-ラーニングで学習してください。Microsoft Excelを使用します。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題の提出（30％）、授業時テスト（70％）
テキスト	なし

年度	2025
講義名称	測定と評価
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07302S

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	体格，体力および運動能力について適切な測定と評価ができるようになる。 体力・運動能力の構成要素について理解し，それぞれの適切な測定法と評価法を習得する。 新体力テストの適切な測定方法を理解し，評価の仕方を学ぶ。 対象特性に応じた適切な測定項目を選択，評価し，効果的なフィードバックの仕方を理解する。
到達目標	①新体力テストを適切に測定および評価することができる。 ②年齢段階に応じた注意点を理解する。 ③競技スポーツにおける特異性を考慮したパフォーマンスの測定評価が適切に実施できる。
授業の進め方	講義と演習形式および現場での実習（小学校や外部スポーツ団体）を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ELSで行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	体力と運動能力（構成要素）・体力構成要素の測定法
第2回	新体力テストの測定法
第3回	身体組成の測定理論および測定法
第4回	フィールドテスト（屋外）の実習
第5回	フィールドテスト（屋内）の実習
第6回	フィールドテスト（評価）の実習
第7回	筋力，筋パワー等の測定法
第8回	全身持久力，筋持久力の測定法（運動負荷試験）
第9回	幼児およびジュニアの体力測定法
第10回	高齢者の体力測定法
第11回	介護予防に関する体力測定法とその評価
第12回	データの処理法，フィードバックの仕方
第13回	まとめ（授業内試験）

事前・事後学修	本科目の内容についてスポーツ統計学で関連学修を行います。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	指定した実習への参加を前提に評価します。 取組（20％），授業内試験（80％）
テキスト	なし
参考文献	健康運動指導士養成講習会テキスト，NSCAストレngths&コンディショニング，JATIテキスト

備考	NSCAのCSCS，CPTおよびJATIのトレーニング指導者，健康運動指導士各資格の対象科目です。 外部実習があるので科目の時間割前後に移動の時間を要します。

年度	2025
講義名称	運動生理学演習[①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07204S

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本演習の目的は、身体機能の神経－筋系および呼吸循環系の測定法と分析法を演習形式で理解させることである。フィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。
到達目標	身体機能の神経－筋系および呼吸循環系の測定法と分析法を習得する。これをふまえ、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	演習形式で授業を行う。毎回、振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学習を目指す。本演習は、運動生理学関連の研究を遂行してきた実績を有する教員が、身体機能の神経－筋系および呼吸循環系の測定法と分析法について理解できる演習を実施する。実習を行う場所は、教室および測定室とする

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	筋電図の測定	対面授業
第2回	筋電図の分析	対面授業
第3回	眼球運動反応時間の測定・分析	対面授業
第4回	脳波（感覚誘発電位と事象関連電位）の測定・分析	対面授業
第5回	運動機能に影響を与える形態の計測	対面授業
第6回	脊髄反射（H波）の測定・分析	対面授業
第7回	磁気刺激時の運動誘発電位の測定・分析	対面授業
第8回	安静立位姿勢保持機能の測定・分析	対面授業
第9回	随意運動時の予測的姿勢調節の測定	対面授業
第10回	随意運動時の予測的姿勢調節の評価	対面授業
第11回	運動時の心拍数の測定・分析	対面授業
第12回	運動時の酸素摂取量の測定・分析	対面授業
第13回	運動時の心拍出量の測定・分析	対面授業

	【具体的な内容】 毎時間の授業前までには少なくとも、該当する身体機能の測定法ならびに分析法について、関連図書などを読んで事前学習しておくこと。また2025/04/01は、授業後

事前・事後学修	自身の作成したノートおよび配布資料の振り返りを行うこと。
	【必要な時間】
	事前および事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する場合があります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業レポート（40％）と最終レポート課題（60％）
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	・ 藤原勝夫・ 外山寛著：身体活動と体力トレーニング,日本出版サービス ・ 宮下充正・ 石井喜八編著：新訂　運動生理学概論,大修館書店

備考	授業で行った内容について、毎回レポートを課す。

年度	2025
講義名称	運動生理学演習[②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07204S

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本演習の目的は、身体機能の神経－筋系および呼吸循環系の測定法と分析法を演習形式で理解させることである。フィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。
到達目標	身体機能の神経－筋系および呼吸循環系の測定法と分析法を習得する。これをふまえ、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	演習形式で授業を行う。毎回、振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学習を目指す。本演習は、運動生理学関連の研究を遂行してきた実績を有する教員が、身体機能の神経－筋系および呼吸循環系の測定法と分析法について理解できる演習を実施する。実習を行う場所は、教室および測定室とする。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	筋電図の測定	対面授業
第2回	筋電図の分析	対面授業
第3回	眼球運動反応時間の測定・分析	対面授業
第4回	脳波（感覚誘発電位と事象関連電位）の測定・分析	対面授業
第5回	運動機能に影響を与える形態の計測	対面授業
第6回	脊髄反射（H波）の測定・分析	対面授業
第7回	磁気刺激時の運動誘発電位の測定・分析	対面授業
第8回	安静立位姿勢保持機能の測定・分析	対面授業
第9回	随意運動時の予測的姿勢調節の測定	対面授業
第10回	随意運動時の予測的姿勢調節の評価	対面授業
第11回	運動時の心拍数の測定・分析	対面授業
第12回	運動時の酸素摂取量の測定・分析	対面授業
第13回	運動時の心拍出量の測定・分析	対面授業

	【具体的な内容】 毎時間の授業前までには少なくとも、該当する身体機能の測定法ならびに分析法について、関連図書などを読んで事前学習しておくこと。また2025/04/01は、授業後

事前・事後学修	自身の作成したノートおよび配布資料の振り返りを行うこと。
	【必要な時間】 事前および事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する場合があります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業レポート（40％）と最終レポート課題（60％）
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	・ 藤原勝夫・外山寛著：身体活動と体力トレーニング,日本出版サービス ・ 宮下充正・石井喜八編著：新訂　運動生理学概論,大修館書店

備考	授業で行った内容について、毎回レポートを課す。

年度	2025
講義名称	運動生理学
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI07203L

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	運動生理学は、生体またはその一部である器官・細胞などにおける、身体運動と関連する機能を対象とした学問である。本授業では、運動生理学の知識を身につけさせるとともに、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を習得させることを目的とする。
到達目標	運動生理学の知識および、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を習得する。
授業の進め方	授業形態は、主として教室での講義形式とする。パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に呈示する。定期的に振り返りシートを課し、学生自ら講義内容の振り返りやディスカッションを行うことを通じて、能動的学習を目指す。本講義は、運動生理学的研究の実績を有する教員が、運動生理学の知識を身につけさせるとともに、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	運動と神経機能 Ⅰ 反射運動
第2回	運動と神経機能 Ⅱ 随意運動
第3回	運動と筋
第4回	運動とエネルギー代謝
第5回	運動と呼吸機能
第6回	運動と循環機能
第7回	運動と体温調節
第8回	運動発達と運動学習理論
第9回	身体機能の老化と運動実践
第10回	神経機能測定法・分析法Ⅰ 先行研究の紹介
第11回	神経機能測定法・分析法Ⅱ 最新知見の紹介
第12回	呼吸・循環機能測定法・分析法
第13回	ふりかえりと試験

事前・事	【具体的な内容】 運動生理学の知識および、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・收拾を行い、学習の準備をすること。毎時間ごとに、自身の作成したノートを振り返り、調べ学習を行うこと。

後学修	【必要な時間】 事前および事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	振り返りシート（20%） レポート課題（20%） 試験（60%）
テキスト	藤原勝夫、清田直恵 編著：図解 運動の神経生理学. 北國新聞社

年度	2025
講義名称	スポーツ理論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI06602L

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツに関する基本的な考え方や基礎知識を理解し、指導者に必要な資質を身につけるとともに、目的に応じた適切な運動プログラムを作成し、効果的な指導を実践するための技術や能力を身につける。 また、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学習する。
到達目標	①スポーツに関する基本的な考え方や基礎知識を有する。 ②体力・運動能力の構成要素を示すことができる。 ③運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識やトレーニング方法を提示できる。
授業の進め方	講義形式で行う

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ELSで提示する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	スポーツ理論の概要（スポーツの魅力、スポーツ史）
第2回	現代スポーツの問題点、スポーツと社会
第3回	競技力向上の基礎知識
第4回	競技力向上の方法および計画
第5回	運動生理学の基礎
第6回	バイオメカニクスの基礎
第7回	体力向上の科学的基礎
第8回	トレーニングプログラム
第9回	体力トレーニング（筋力、持久力）
第10回	体力トレーニング（調整力、柔軟性）
第11回	スポーツライフマネジメント
第12回	スポーツ栄養
第13回	スポーツ指導者概論

事前・事後学修	【具体的な内容】 高校時に使用した保健体育の教科書を準備し、内容を確認する 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①課題・レポート（40%） ②試験（60%）
テキスト	基礎から学ぶスポーツ概論（大修館書店）
参考文献	NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識、ストレングストレーニング&コンディショニング

年度	2025
講義名称	運動機能と救急処置
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI06503L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	スポーツ活動中の怪我や病気をいかにして防ぐかということは大変重要であり、そのためには、まず身体機能や怪我の仕組みを理解することが重要である。どの様な兆候や状態にある時に、どんな救急処置を行うべきかの知識や処置について学修していく。
到達目標	① 一次救命処置における心肺蘇生法およびAED使用法の手順を理解して、実践できるようになる。 ② 応急処置の基本となる「RICE」と傷の手当の方法を理解し、実践できるようになる。 ③ スポーツ中の怪我と予防について説明できるようになる。
授業の進め方	スライドを用いて講義する。 基礎救命講習会を行い、心肺蘇生法やAEDの使用法など一次救命処置（BLS）の実習を行う。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、感想シートの配布やeラーニングシステムを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	身体活動と健康	対面授業
第2回	スポーツ指導者に必要な医学的知識（1）スポーツと健康	対面授業
第3回	スポーツ指導者に必要な医学的知識（2）外科・内科	対面授業
第4回	運動機能と解剖（1）骨格	対面授業
第5回	運動機能と解剖（2）筋肉	対面授業
第6回	健康・スポーツと安全	対面授業
第7回	生活習慣病と運動	対面授業
第8回	救急処置（1）外科的異常とRICE処置	対面授業
第9回	救急処置（2）部位別異常	対面授業
第10回	救急処置（3）内科的異常	対面授業
第11回	基礎救命講習会1	対面授業
第12回	基礎救命講習会2	対面授業
第13回	期末試験・まとめ	対面授業

	【具体的な内容】

事前・事後学修	事前に人体の構造と機能について学習する。事後には、人のからだのしくみと怪我の予防について学習する。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	60% 期末試験 40% 授業内容確認レポートなど提出
参考文献	講義中に適時紹介する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者（スポーツ指導者）としての必要な医学的知識と技術をスライドを用いて講義する。
備考	①他学科からの履修希望者は、本科目に関連する資格取得を目指す者のみ履修を認める。その場合、春学期に開講される「人体構造基礎」の単位を取得済であること。 ②基礎救命講習会は、2コマ連続での実施である。希望者多数の場合は、必修科目履修者を優先とし、選択科目での履修者は、出席状況、授業態度等により受講者を決定する。 ②本科目は下記の免許および資格の対象科目である。 ・教員免許（教科に関する科目） ・スポーツ指導者（日本スポーツ協会） ・トレーニング指導者（JATI） - CSCS（NSCA）

年度	2025
講義名称	[夏集]人のからだと健康
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI06501L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
大塚 吉則	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
尾崎 威文	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の 目的と 概要	本科目では、健康の概念、生活習慣病などについて理解する。また、生活習慣病や介護予防について、身体活動が人のからだにどのような変化をおよぼすのかを学習し、その変化と人の健康との関連について理解する。また、ライフステージごとの運動やスポーツへの関わりを考え、その効果に関する理解を深める。
到達目 標	スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。 健康作りに対する運動の位置づけと理解することができる。 現代に多い疾病と傷害を理解し公的機関による政策や内容を知っている。
授業の 進め方	パソコンによるスライドの映写と説明を主とする。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、感想シートの配布やeラーニングシステムを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、本科目に関する質問は、個別対応とする。 課題については、授業内で解説するとともに内容について発言を求める。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	健康の概念と制度	対面授業
第2回	介護予防概論	対面授業
第3回	生活習慣病（NCD）概論と特定健診・保健指導	対面授業
第4回	肥満症とメタボリックシンドローム	対面授業
第5回	高血圧	対面授業
第6回	脂質異常症と糖尿病	対面授業
第7回	虚血性心疾患とリハビリテーション	対面授業
第8回	サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム	対面授業
第9回	運動に関連した内科的疾患：急性	対面授業
第10回	運動に関連した内科的疾患：慢性	対面授業
第11回	生体リズムと睡眠・健康	対面授業
第12回	気候療法・温泉療法と健康増進	対面授業

第13回	期末試験・まとめ	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 医学の基礎的知識を必要とするので事前に医学用語等を学習する。 事後は各系統別の構造と機能について復習する。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	60% 期末試験 40% 授業内容確認レポートなど提出
参考文献	講義中に適宜紹介する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	内科医として診療している教員が、医療現場での臨床ケースを踏まえた実践的な授業を展開する。
備考	課題提出期限を厳守すること。

年度	2025
講義名称	バイオメカニクス【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI06301L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	バイオメカニクスは、身体構造や力学などの知見をもとに、生理学などの関連知見もふまえて身体運動の仕組みを説明することを目指す学問である。本講義では、身体構造、運動力学および身体動作について理解することを目的とする。
到達目標	身体構造および運動力学を理解し、さらにその知識にもとづく身体動作を理解する。
授業の進め方	【講義方法】 授業形態は、ハイブリッド型の授業形式とする。具体的には、教える内容や状況に合わせて、対面授業と遠隔授業を行き来する。パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に提示する。講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの研究の実績を有する教員が実施する。関連する学問領域の先行研究および最新知見をふまえた内容を提示し、学生が、①身体構造および運動力学、②さらにその知識にもとづく身体動作について、理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・スポーツバイオメカニクスとは・ヒトにいたるまでの進化の変遷	対面授業
第2回	身体構造と運動の力学的要因	オンデマンド
第3回	姿勢保持と日常生活動作	対面授業
第4回	姿勢および動作に関わる身体各部位の筋と骨格筋の収縮特性	オンデマンド
第5回	頭頸部・体幹・骨盤の運動	対面授業
第6回	上肢・下肢の運動	オンデマンド
第7回	歩行	対面授業
第8回	走行	オンデマンド
第9回	跳動作	対面授業
第10回	投動作	オンデマンド
第11回	打動作	対面授業
第12回	蹴動作	オンデマンド
第13回	授業内試験・まとめ・振り返りレポート	対面授業

事前・事後学修	【事前学習】授業までに、該当する参考書内ページを熟読しておくこと。
	【事後学習】授業後に、配布資料を読み返し、必要に応じて調べ学習を行うこと。また、関連する資格のテキストについて、該当する分野のページを学習すること。上記をふまえ、事前および事後学習には、それぞれ120分程度を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内小テスト・レポート（30％） 授業内試験（70％）
テキスト	参考資料を適宜配布する。
参考文献	中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩：基礎運動学，医歯薬出版，東京． 監訳代表 嘉数侑昇、横井浩史：バイオメカニクス 生体力学の原理と応用.NTS ギャレット/カーケンダル：スポーツ運動科学ーバイオメカニクスと生理学ー.西村書店（総監訳 宮永豊）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、運動生理学およびバイオメカニクスに基づき、スポーツにおける運動学習法の研究を行い、実践的な知識を深めてきました。その経験を活かし、理論と実践を結びつけた学びを提供し、具体的な応用力を身につける講義を展開する。

年度	2025
講義名称	人体構造基礎
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI06202L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	人体構造の基礎を体系的に理解することを目的とする。特に、身体運動に関わる神経筋骨格系、呼吸循環器系、消化泌尿生殖系の（解剖学的）構造と（生理学的）機能について基本的な知識を学修する。
到達目標	①人体の基礎的な構造と機能について説明できるようになる。 ②特に形態に基づく動作の成り立ちにつながる知識を理解する。
授業の進め方	スライドを用いて講義する。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、感想シートの配布やeラーニングシステムを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、本科目に関する質問は、個別対応とする。 身近にある身体の不思議や疑問などを題材に、人体の構造と機能について理解できるよう工夫する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	人体構造学概論（活動機能構造連関とは）	対面授業
第2回	機能解剖学Ⅰ（肩甲帯の機能解剖学）	対面授業
第3回	機能解剖学Ⅱ（上肢帯の機能解剖学）	対面授業
第4回	機能解剖学Ⅲ（骨盤帯の機能解剖学）	対面授業
第5回	機能解剖学Ⅳ（下肢帯の機能解剖学）	対面授業
第6回	機能解剖学Ⅴ（脳脊髄の機能解剖学）	対面授業
第7回	解剖生理学Ⅰ（細胞と組織の解剖生理学）	対面授業
第8回	解剖生理学Ⅱ（呼吸器系の解剖生理学）	対面授業
第9回	解剖生理学Ⅲ（循環器系の解剖生理学）	対面授業
第10回	解剖生理学Ⅳ（消化吸収系の解剖生理学）	対面授業
第11回	解剖生理学Ⅴ（泌尿生殖系の解剖生理学）	対面授業
第12回	人体構造学総論（まとめ）	対面授業
第13回	期末試験	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 医学の基礎的知識を必要とするので事前に医学用語等を学習する。 事後は各系統別の構造と機能について復習する。	2025/04/01

	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間半程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	60% 期末試験 40% 授業内容確認レポートなど提出
テキスト	からだのしくみ事典 浅野伍朗 監修 成美堂出版
参考文献	その他、講義中に適時紹介する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義する。
備考	本科目は、下記の免許および資格の対象科目である。 ・教員免許（教科に関する科目） ・トレーニング指導者（JATI） ・CSCS（NSCA）

年度	2025
講義名称	テニス[ス指①/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05708P

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしてのテニスを実践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、健康科学およびコーチング等の観点から修得する。
到達目標	テニスの実施・指導を行う上で必要な知識と技術を修得する。さらに、修得した技術を洗練させ、個々に適した返球技術を身につけることを目標とする。
授業の進め方	実施場所は、テニスコートと教室である。授業冒頭の10分程度を用いて、テニスを実施・指導する上で必要な知識や技術についての講義を行い、その後、テニスの実践を多く行う。個々それぞれに技術指導を行うが、必要に応じてグループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、テニス指導の実績を有する教員が担当する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回、テニスに関する知識や技術を基にした課題レポートを課す。課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	テニスの基本的ルールと動作について	対面授業
第2回	ラケットの握り方と、場面に応じた握り方の違い	対面授業
第3回	グランドストローク	対面授業
第4回	ボレー（基本編）	対面授業
第5回	ボレー（実践編）	対面授業
第6回	スマッシュ	対面授業
第7回	サーブ&レシーブ（基本編）	対面授業
第8回	サーブ&レシーブ（実践編）	対面授業
第9回	シングルスゲームのルール	対面授業
第10回	ダブルスゲームのルール	対面授業
第11回	指導計画の立案	対面授業
第12回	指導計画の実践	対面授業
第13回	技能テストとふりかえり	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 テニスに関する文献研究、および文献購読を事前・事後学習とする。

	【必要な時間】 事前・事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業への参加レポート 40％ ②技能の向上 20％ ③課題レポート 40％
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	・テニス教本:公益社団法人日本プロテニス協会、日本スポーツ企画出版社

備考	授業時は、トレーニングウェアまたはユニフォーム、スポーツシューズを着用すること。テニスラケットやシューズを所有している学生は、持参してもよい。

年度	2025
講義名称	テニス[ス指②/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05708P

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしてのテニスを実践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、健康科学およびコーチング等の観点から修得する。
到達目標	テニスの実施・指導を行う上で必要な知識と技術を修得する。さらに、修得した技術を洗練させ、個々に適した返球技術を身につけることを目標とする。
授業の進め方	実施場所は、テニスコートと教室である。授業冒頭の10分程度を用いて、テニスを実施・指導する上で必要な知識や技術についての講義を行い、その後、テニスの実践を多く行う。個々それぞれに技術指導を行うが、必要に応じてグループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、テニス指導の実績を有する教員が担当する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回、テニスに関する知識や技術を基にした課題レポートを課す。課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	テニスの基本的ルールと動作について	対面授業
第2回	ラケットの握り方と、場面に応じた握り方の違い	対面授業
第3回	グランドストローク	対面授業
第4回	ボレー（基本編）	対面授業
第5回	ボレー（実践編）	対面授業
第6回	スマッシュ	対面授業
第7回	サーブ&レシーブ（基本編）	対面授業
第8回	サーブ&レシーブ（実践編）	対面授業
第9回	シングルスゲームのルール	対面授業
第10回	ダブルスゲームのルール	対面授業
第11回	指導計画の立案	対面授業
第12回	指導計画の実践	対面授業
第13回	技能テストとふりかえり	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 テニスに関する文献研究、および文献購読を事前・事後学習とする。

	【必要な時間】 事前・事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業への参加レポート 40％ ②技能の向上 20％ ③課題レポート 40％
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	・テニス教本:公益社団法人日本プロテニス協会、日本スポーツ企画出版社

備考	授業時は、トレーニングウェアまたはユニフォーム、スポーツシューズを着用すること。テニスラケットやシューズを所有している学生は、持参してもよい。

年度	2025
講義名称	テニス[ス指③/3]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05708P

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の 目的と 概要	本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしてのテニスを実践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、健康科学およびコーチング等の観点から修得する。
到達目 標	テニスの実施・指導を行う上で必要な知識と技術を修得する。さらに、修得した技術を洗練させ、個々に適した返球技術を身につけることを目標とする。
授業の 進め方	実施場所は、テニスコートと教室である。授業冒頭の10分程度を用いて、テニスを実施・指導する上で必要な知識や技術についての講義を行い、その後、テニスの実践を多く行う。個々それぞれに技術指導を行うが、必要に応じてグループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、テニス指導の実績を有する教員が担当する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回、テニスに関する知識や技術を基にした課題レポートを課す。課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	テニスの基本的ルールと動作について	対面授業
第2回	ラケットの握り方と、場面に応じた握り方の違い	対面授業
第3回	グランドストローク	対面授業
第4回	ボレー（基本編）	対面授業
第5回	ボレー（実践編）	対面授業
第6回	スマッシュ	対面授業
第7回	サーブ&レシーブ（基本編）	対面授業
第8回	サーブ&レシーブ（実践編）	対面授業
第9回	シングルスゲームのルール	対面授業
第10回	ダブルスゲームのルール	対面授業
第11回	指導計画の立案	対面授業
第12回	指導計画の実践	対面授業
第13回	技能テストとふりかえり	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 テニスに関する文献研究、および文献購読を事前・事後学習とする。

	【必要な時間】 事前・事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業への参加レポート 40％ ②技能の向上 20％ ③課題レポート 40％
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	・テニス教本:公益社団法人日本プロテニス協会、日本スポーツ企画出版社

備考	授業時は、トレーニングウェアまたはユニフォーム、スポーツシューズを着用すること。テニスラケットやシューズを所有している学生は、持参してもよい。

年度	2025
講義名称	バレーボール[ス指①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05707P

担当教員

氏名	所属
◎ 石川　みゆき	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的 と概要	本講義では基本技術習得のほか、ルールや戦術、技術練習のポイント等を理解し指導に活かせるようになること、またバレーボールを通じて自主性、協調性など指導者としても必要となる資質の向上を目指します。
到達目標	①バレーボールのルールや戦術、技術のポイントを理解し、基本的な技能を身につける。 ②自ら課題の発見や解決を図り、指導に活かせるようになる。 ③自律や協調など、チームプレーに必要な行動ができる。
授業の進め方	ルールや技術のポイント、指導方法等の解説を交えながら、技術練習やゲームなどチームごとの活動を主体に、バレーボールの実技を行います。 模擬授業に関しては、グループで指導案の作成から授業準備、実際の授業までを担当し、終了後には参加者の意見や感想も参考にできるよう振り返りの時間を設けます。 最終のレポート課題に、指導案の作成を含みます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	受講者が将来、指導する立場になることも想定し、授業内で課題を共有、意見交換や解説を交えながら解決を図ります。

授業計画表

回	授業内容
第1回	基本編①　ガイダンス、身体慣らしとパス練習
第2回	基本編②　模擬授業について(概要)、パスの基本
第3回	基本編③　パスに関するルールと技術ポイント、ボールをつなぐためのパス練習
第4回	基本編④　動きづくりのトレーニング、スパイクの基本
第5回	基本編⑤　実技テスト1、ラリーゲーム
第6回	応用編①　スパイク、ブロック、ディグに関するルールと技術ポイント
第7回	応用編②　サーブとレセプションに関するルールと技術ポイント
第8回	応用編③　バレーボールの成り立ちと特性、フォーメーションの考え方
第9回	応用編④　模擬授業1…導入の工夫と体づくりのトレーニング、実技テスト② 1/3
第10回	応用編⑤　模擬授業2…パス習得のための工夫と練習方法、実技テスト② 2/3
第11回	応用編⑥　模擬授業3…ボールをつなぐ楽しさを感じさせる練習方法、実技テスト② 3/3
第12回	応用編⑦　攻撃の幅を広げる練習、フォーメーションを意識しながらゲーム
第13回	応用編⑧　実技テスト③、ゲーム、レポート提出

事前・事後学修	ルール等の基本的な知識を得ておく取り組みやすいと思います。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①模擬授業、積極性、マナー、提出物 40％ ②実技テスト 30％ ③レポート(指導案作成を含む) 30％
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	コーチング バレーボール(日本バレーボール協会 大修館書店)

備考	教職履修者を主な対象とした授業です。基本技能と指導方法を身につけることを目指し、指導案の作成と模擬授業を行います。積極的に授業を担当する心構えで来てください。 また実技テストで習熟度を見極めたうえで応用編に進みますので、基本編は必ず出席すること。 初回から実技をします。ジャージや、シューズを忘れずに。

年度	2025
講義名称	バレーボール[ス指②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05707P

担当教員

氏名	所属
◎ 石川　みゆき	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義ではバレーボールの基本技術や戦術、ルールを身につけ、チームで協力しながらラリーの続くゲームが楽しめるようになることを目指します。
到達目標	①バレーボールのルールや技術の基本を身につけ、ゲームの運営ができる。 ②戦術を理解し、協力しあって技術の向上を目指すことができる。 ③チームプレーに必要な自律した行動やリーダーシップが取れる。
授業の進め方	ルールや技術ポイント等の説明を交えながら、技術練習やゲームなどチームごとの活動を主体にバレーボールの実技を行います。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で課題を共有、意見交換や解説を交えながら解決を図ります。

授業計画表

回	授業内容
第1回	基本編①　ガイダンス、身体慣らしとパス練習
第2回	基本編②　パスに関するルールと技術ポイント
第3回	基本編③　ボールをつなぐためのパス練習
第4回	基本編④　動きづくりのトレーニング、スパイクの基本
第5回	基本編⑤　実技テスト1、ラリーゲーム
第6回	応用編①　スパイク、ブロック、ディグに関するルールと技術ポイント
第7回	応用編②　サーブとレセプションに関するルールと技術ポイント
第8回	応用編③　バレーボールの成り立ちと特性、フォーメーションの考え方
第9回	応用編④　レセプションからの攻撃練習
第10回	応用編⑤　実技テスト②、ラリーゲーム
第11回	応用編⑥　攻撃の幅を広げる練習
第12回	応用編⑦　フォーメーションを意識しながらゲーム
第13回	応用編⑧　実技テスト③、ゲーム、レポート提出

事前・事後学修	ルール等の基本的な知識を得ておく取り組みやすいと思います。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①積極性、マナー、提出物40% ②実技テスト30% ③レポート30%
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	コーチング バレーボール(日本バレーボール協会 大修館書店)

備考	教職を履修していない者を対象とした授業です。スポーツビジネス学科のシラバスに準じ、技能の向上を目指します。 バレーボール上達のポイントは基本技術の習得です。実技テストで習熟度を見極めたうえで応用編に進みますので、基本編は必ず出席すること。 初回から実技をしますので、ジャージや、シューズを忘れずに。

年度	2025
講義名称	コーチング論[ス指]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05402L

担当教員

氏名	所属
◎ 阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、スポーツコーチングの基本理念について、以下の6つを学修し、スポーツ指導現場のみならず日常生活にも活かすことができる応用力を修得することを目指す。それらは、①優れたコーチ・指導者になるために必要とされる諸要因、②選手を強気に導くリーダーシップと適切な人間関係を結ぶ能力、③スポーツ現場において発生する諸問題を合理的に解決するための問題解決方略のスキル、④勝利へ導くマインドセット、⑤チームや組織をまとめるチーム・組織力、⑥選手を取り巻く様々な内的および外的な環境要因をマネジメントする能力である。
到達目標	スポーツコーチングの本質を理解し、トップアスリートから初心者まで様々な競技者の意欲や自主的な活動を促すことと指導者が与える心理面、言葉の効果と影響を十分に理解し、現場における指導者として問題解決能力とその指導法を説明できること、身につけることを目指す。
授業の進め方	基本的には講義形式で行う。テーマごとにレポートを課し、講義内容の振り返りを行い、能動的な学習を目指し、必要に応じてグループワークを実施する。本講義は、スポーツコーチング現場での競技指導および実務経験を有する教員が、スポーツ心理学の学問分野をふまえながら、コーチングの基礎理論について理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス(本講義の概説と講義の進め方)	対面授業
第2回	コーチングの領域	対面授業
第3回	コーチングの領域・メディテーション	対面授業
第4回	マインドフルネス	オンデマンド
第5回	モチベーション①概要・振り返り/タイプ別	対面授業
第6回	モチベーション②二次元気分尺度	対面授業
第7回	セルフリーダーシップ①概要	対面授業
第8回	セルフリーダーシップ②自己認識力	対面授業
第9回	セルフリーダーシップ③意志決定力・働きかけの力	対面授業
第10回	自律訓練法	オンデマンド
第11回	目標設定①原則原理	対面授業
第12回	目標設定②GROWモデル	対面授業
第13回	コーチング論総括	対面授業

事前・事後学修	事前及び事後学習は、授業内容に関する文献及び書籍を通じて調べ学習を行うこと。事前および事後学習には、それぞれ120分程度を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業参加レポート・提出物：30% 筆記試験：70%
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	適宜、紹介する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔阿南〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、「野球における技術および動作」「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」について理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。
到達目標	【到達目標】 ①次年度の卒業研究あるいはテーマ研究を作成するために必要な知識とスキルを獲得する。 ②「野球における技術および動作」「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」に関する研究方法やデータの分析方法などの理解を深める。 ③グループでの活動によって共に議論をし、相互に知識を深めて課題解決・自己表現の力量を高めていく。
授業の進め方	【講義方法】 実施場所は、教室、研究室、グラウンド、である。能動的な学修を目指すために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの視点から、野球における運動学習法の研究の実績を有する教員が担当する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・・・ゼミの進め方・運営方針の説明
第2回	春学期の振り返り・・・学習内容のディスカッション
第3回	実践現場での活動の振り返り・・・パフォーマンス課題の整理
第4回	文献講読・・・野球の投球動作および他のスポーツ動作
第5回	文献講読・・・コーチング、メンタルトレーニング
第6回	文献講読・・・チームビルディング
第7回	トレーニング日誌・・・記録法の学習
第8回	コーチングの手法とケーススタディ
第9回	メンタルトレーニングの手法とケーススタディ
第10回	チームビルディングの手法とケーススタディ
第11回	研究計画・テーマ選択・・・報告書の作成とディスカッション（アウトライン）
第12回	研究計画・テーマ選択・・・報告書の作成とディスカッション（構成・詳細）

2025/04/01

第13回	研究計画・テーマ選択・・・報告書の作成とディスカッション（発表練習）
第14回	テーマの発表・・・発表とディスカッション 秋学期の振り返りと春休みの課題・・・秋学期を振り返り次年度の目標を設定する

事前・事後学修	事前事後学習 【具体的な内容】 身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、「野球における技術および動作」「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」をメインテーマとして授業を実施する。「野球における技術および動作」「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」に関係する資料検索・収拾を行い、学修の準備をすること。毎時間、小レポートを課す。 【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習には、それぞれ、120分程度の時間を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み、課題提出状況 40% ②報告に向けての準備、内容 40% ③報告、発表状況 20%
テキスト	テキストは適宜紹介する
参考文献	参考文献は適宜紹介する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、運動生理学やバイオメカニクスを活用し、野球における運動学習法の研究を行うとともに、コーチング、メンタルトレーニング、チームビルディングの資格を取得し、実績を積んできました。これらの経験を基に、理論と実践を統合した学びを提供する講義を展開します。
備考	野球の実践現場やトレーニング実習へフィールドワークに行く場合がある。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔駒井〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	保健体育科の教員を目指す者として、教科「体育」及び「保健」の学習指導、学習活動におけるＩＣＴの活用、評価方法、並びに運動部活動の指導の在り方等について、関連する文献や資料を収集し、ディスカッション、レポートの作成、プレゼンテーション等を通して、学校体育における現状や諸課題について理解し、その改善・充実や課題解決の方策等について検討する。また、４年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身につける。
到達目標	1 学校体育に係る現状や課題を理解し、保健体育担当教師としての取組、改善・充実や課題解決に向けた方策等を考えることができる。 2 研究テーマを設定し、考察し、まとめて発表することができる。 3 自分の研究について、プレゼンテーションし、その内容や趣旨を伝えることができる。
授業の進め方	実施場所は、指定教室・研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは、個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	1 学校体育に係る現状や課題を理解し、保健体育担当教師として取組、改善・充実や課題解決に向けた方策等を考えることができる。 2 研究テーマを設定し、考察し、まとめて発表することができる。 3 自分の研究について、プレゼンテーションし、その内容や趣旨を伝えることができる。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	応用演習Ⅰの振り返りと応用演習Ⅱにおける取組の整理
第3回	文献や資料の検索・収集
第4回	文献や資料の内容整理及びテーマの検討
第5回	テーマの設定及び考察・調査すべき点の検討、設定テーマの修正・発表
第6回	考察・調査すべき点などについての検討
第7回	レポートの構成の検討及び作成
第8回	レポートの作成
第9回	レポートの作成
第10回	プレゼンテーションの作成
第11回	プレゼンテーションの作成
第12回	プレゼンテーションの実施
第13回	プレゼンテーションの実施とレポートの提出

事前・事後学修	今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認すること。個別指導は、研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておくこと。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合もある。事前事後合わせて目安は120分程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1 ディスカッションでの積極的な参加態度、課題提出における状況や完成度など、授業への取組状況を評価する（30％） 2 研究のテーマに基づきプレゼンテーションが作成され、発表できているかを評価する。（40％） 3 学校体育の現状や課題の理解、自身の考えや方策等が考えられているかについて、レポートやディスカッション等により評価する。（30％）
テキスト	適宜配付する。
参考文献	適宜配付する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	北海道の高等学校保健体育担当教員としての実務経験18年、北海道教育委員会の学校体育・学校保健担当課指導主事としての実務経験10年、高等学校管理職としての実務経験9年。また、高等学校の校長を務めていた際には、北海道高等学校体育連盟会長として4年、（公財）全国高等学校学校体育連盟副会長として3年の実務経験もある。その中で学校体育及び運動部活動について、現場での推進や指導・助言を行ってきた。それらの経験をもとに、学校現場での課題や具体的事例を積極的に活用しながら授業を進めていく。
備考	中学校、高等学校の保健体育科教員になることを想定した授業内容であることを理解すること。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[ス指][国田]
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構について理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告・発表することを目指す。フィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。
到達目標	抄読会、実験およびデータ解析、発表を通じて、運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構の検討法を理解できる。さらに、この過程を通じて、過去を知ること、問題や仮説の設定および、課題遂行や検証の重要性が理解できる。これをふまえ、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室、研究室、および測定室である。能動的な学習を図るためにグループワーク、状況に応じて個人ごとの指導を行う。本演習は、運動生理学を専門とする研究者が、運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構の検討を行ってきた実績をもとに、身体運動のからくりを理解できる講義を実施する。学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	演習テーマに関する討論（１）各自のテーマの検討
第2回	演習テーマに関する討論（２）各自のテーマ候補の発表
第3回	演習テーマに関する文献抄読会や実験（１）
第4回	演習テーマに関する文献抄読会や実験（２）
第5回	演習テーマに関する文献抄読会や実験（３）
第6回	演習テーマに関する文献抄読会や実験（４）
第7回	演習テーマに関する文献抄読会や実験（５）
第8回	演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析（１）
第9回	演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析（２）
第10回	演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析（３）
第11回	演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析（４）とりまとめ
第12回	演習テーマに関する報告会の準備 発表スライド作成
第13回	演習テーマに関する中間報告会

【具体的な内容】	身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構の検討法をメインテーマとして授業を実施す 2025/04/01

事前・事後学修	る。関係する資料検索・収集を行い、学習の準備をすること。
	【必要な時間】 事前および事後学習には、それぞれ2時間を目安とする。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み、課題提出状況；40 % ②報告会に向けての準備、内容；40 % ③報告、発表状況；20 %

備考	応用演習Iを受講した者

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[ス指][小林(秀)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

授業計画表

回	授業内容
第1回	中間発表の確認
第2回	研究テーマの計画に関するディスカッション
第3回	測定実習
第4回	プログラミング
第5回	研究テーマの発表，論文抄読1
第6回	測定結果の発表1
第7回	研究テーマの発表，論文抄読2
第8回	測定結果の発表2
第9回	研究テーマの発表，論文抄読3
第10回	測定結果の発表3
第11回	研究テーマの発表，論文抄読4
第12回	研究テーマの中間発表（3年時最終発表）
第13回	4年生研究発表の準備とまとめ

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔後藤〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	応用演習Ⅰで学習した内容を深め、研究を行う際に必要な基本的能力（課題の設定、データの収集方法、データの分析方法、考察の方法）を、文献購読を行うことにより身につける。
到達目標	研究論文を購読し、課題の設定、データの収集方法、データの分析方法、考察という、研究を行う際に必要な基本的な考え方ができるようになる。
授業の進め方	・健康やスポーツに関連する文献について、検索・購読・内容の要約・発表を演習形式で行う。 ・本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の課題をテーマにディスカッション・事例検討などを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	応用演習Ⅰの内容についての検討
第2回	課題の設定について
第3回	各自の興味・関心に基づく文献検索
第4回	テーマについての検討
第5回	研究目的について
第6回	研究方法について
第7回	データの収集方法について
第8回	データの分析方法について
第9回	考察について
第10回	文献の要約について
第11回	発表の準備（各自の発表内容の作成）
第12回	発表の準備（各自のパワーポイントの作成）
第13回	発表

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習：各自の興味・関心に基づき、文献などを購読し発表の準備をする。 事後学習：毎回のテーマに関して小レポートを作成する。また、各自の発表内容・授業内容の振り返りを併せて行うこと。 【必要な時間】 事前および事後学習には2時間程度の時間を要する

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義内での提出物・議論への参加 40％ 発表 30％ レポート 30％
参考文献	【参考文献】 各学生の興味・関心に基づき、資料・文献などを適宜配布する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔本多〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の 目的と 概要	幅広い年齢層の方々の健康づくりや介護予防、レクリエーション活動について理解をし、運動指導者としてのコミュニケーション能力や実践力を身に付けることが目的です。 本講義では、各町村で行われている体力測定の実施や健康教室等の参加をするフィールドワークを行うことや、学生でSIUスポーツクラブのプログラム計画や運営を行います。
到達目 標	①運動指導者としての相応な知識や技術を身に付け、活用できる。 ②スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。 ③研究論文を購読し、課題の設定、分析・考察等の研究を行う際に必要な基本的な考え方ができる。
授業の 進め方	応用演習Ⅰで修得したことを活用し、健康やスポーツに関連することについて、グループワークやディスカッションを行います。主として市町村で行われている運動教室などにフィールドワークを行い、対象者に合わせたプログラムを作成し実践します。SIUスポーツクラブや他の地域での運動教室のプログラム計画をし、実際に運営を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評します。また、必要に応じて授業以外にも時間を設けます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・フィールドワークに関わる資料の作成
第2回	SIUスポーツクラブの準備（対象者に合わせた運動プログラムの立案・資料作成）
第3回	SIUスポーツクラブの準備（立案したプログラムの実施・リハーサル）
第4回	SIUスポーツクラブの運営①・振り返り
第5回	SIUスポーツクラブの準備（対象者に合わせた運動プログラムの立案・資料作成）
第6回	SIUスポーツクラブの準備（立案したプログラムの実施・リハーサル）
第7回	SIUスポーツクラブの運営②・振り返り
第8回	SIUスポーツクラブの準備（対象者に合わせた運動プログラムの立案・資料作成）
第9回	SIUスポーツクラブの準備（立案したプログラムの実施・リハーサル）
第10回	SIUスポーツクラブの運営③・振り返り
第11回	テーマ研究論文の基礎（テーマ決定・論文検索）
第12回	テーマ研究論文の概要発表
第13回	まとめとテーマ研究に向けて

事前・事後学修	また、身に付けた指導力を活用・応用できるよう幅広い分野でのボランティアに積極的に参加してください。 科目に関連する学部学科行事を実施した場合は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。予習復習の時間は各2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み、課題提出状況 (30%) ②フィールドワーク、SIUスポーツクラブ、報告会へ向けての準備、内容 (40%) ③運営・発表状況 (30%)
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	健康運動指導士養成テキスト上・下 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 楽しさとおとした心の元気づくり 公益財団法人 日本レクリエーション協会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	健康運動指導士としての数多くの市町村で介護予防教室や運動教室を行っています。その実務経験を基に具体的な事例等を示しながら高齢者から子どもまでの幅広い年齢層へ対しての運動プログラム作成方法や指導方法を示し、実際に学生が対象者に指導できるように授業を展開します。
備考	フィールドワークは主に恵庭市や今金町、月形町を中心に行います。 場合によっては、この他に北海道内の市町村でのフィールドワークを行うことがあります。また、フィールドワークの開催日が休日の場合もありますので、スケジュールを調整してください。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔佐藤(文)〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、発育・発達における遊びやスポーツの意義ついて理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。
到達目標	抄読会、実験およびデータ解析、発表を通じて、ヒトの発育・発達における遊びやスポーツの意義について理解できる。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室、測定室、および体育館である。少人数での演習形式で授業を行い、必要に応じてグループワークやディスカッションなど、能動的な学修を目指す。本講義は、運動生理学および発育発達学的視点から、遊びやスポーツの意義について研究を行ってきた実績を有する教員が担当する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で配布し、適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	応用演習Ⅰの中間報告会のふりかえりと演習テーマの計画	対面授業
第2回	演習テーマに関する討論(1)；各自のテーマの検討	対面授業
第3回	演習テーマに関する討論(2)；各自のテーマ候補の発表	対面授業
第4回	演習テーマに関する文献抄読会や実験(1)；姿勢制御関連の文献抄読会	対面授業
第5回	演習テーマに関する文献抄読会や実験(2)；発育発達学関連の文献抄読会	対面授業
第6回	演習テーマに関する文献抄読会や実験(3)；姿勢制御関連の本実験	対面授業
第7回	演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析(1)；姿勢制御関連のデータ分析	対面授業
第8回	習テーマに関する文献抄読会やデータ解析(3)；実験結果のとりまとめ	対面授業
第9回	演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析(4)；実験結果の解釈	対面授業
第10回	演習テーマに関する報告会の準備(1)；発表スライド作成	対面授業
第11回	演習テーマに関する報告会の準備(2)；発表の予行練習	対面授業
第12回	演習テーマに関する報告会	対面授業
第13回	ふりかえり	対面授業

事前・事後学修	ヒトの発育・発達およびスポーツ技能に関する知見について、文献研究をすることを事前・事後学習とする。事前・事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 授業への取り組み、課題提出状況；40％ ② 報告会に向けての準備、内容；40％ ③ 報告、発表状況；20％
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	・藤原 勝夫編著:姿勢制御の神経生理機構.杏林書院. ・高石昌弘著:からだの発達. 大修館書店, 東京.

備考	実践してきたスポーツ種目に関わらず、身体運動のからくりに興味ある者

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔樋口〕
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	身体機能の維持向上もしくは早期回復に努めるには自分自身の身体の状態を正しく把握をする必要がある。本演習では日常生活における身近な健康づくり（疲労回復効果促進）について温泉入浴や森林浴・海気浴などの自然環境を活用しながら身体調整を行っていく知識と技術とを学び解剖生理学に基づく思考力を用い課題の解決策を論じていけるようにする。また次年度へ向けて応用できるように必要な文献検索能力・論文読解力・レポート作成・プレゼンテーション能力等を培っていく。
到達目標	日常生活の中の健康づくりについて知識を得て、自身の興味関心のある演習テーマを設定して、文献検索から、新たな知見を得ることができるようになり、それを発表することができる。
授業の進め方	スライドを用いて講義する。また、関連する論文を精読し、その内容の発表を行う。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。 本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することもある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	少人数での演習形式で授業を行う。 課題は、eラーニングシステムを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 また、本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	温熱生理と健康科学	対面授業
第3回	水治療法と温泉療法	対面授業
第4回	形態計測と体力測定	対面授業
第5回	自然環境を用いた健康づくり	対面授業
第6回	リハビリテーションと温泉	対面授業
第7回	年齢や健康状態に配慮した水中運動処方	対面授業
第8回	温泉入浴プログラム作成体験	対面授業
第9回	スポーツと温泉（ピーキングとリカバリー）	対面授業
第10回	各自の演習テーマに関する企画立案・調査検討	対面授業
第11回	各自の演習テーマに関する内容吟味・報告準備	対面授業
第12回	発表	対面授業
第13回	まとめのレポート提出	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事前学習：各自の興味関心に基づき文献検索など
	事後学習：発表に向けての準備や技術習得
	【必要な時間】
自身の課題に関する文献収集や技術習得などにそれぞれ2時間半程度を目安とする。	

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	40% 授業への取り組み、課題提出状況 40% 発表会に向けての準備と内容 20% 発表状況とレポート
参考文献	適宜配布または提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義する。
備考	機能解剖学に基づくスポーツリハビリテーションに興味関心がある者

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔阿井〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、「スポーツコーチング、スポーツ心理学の意義、基本的理念」について理解するとともに、スポーツでよく使われる「心・技・体」という言葉の「心」の重要性和「技」「体」の繋がりを理解し、心身の発達と自身のスポーツ活動およびスポーツ指導のあり方を学び、実技演習するとともに次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表するなど能動的な学修を目指す。
到達目標	スポーツコーチング、スポーツ心理学におけるコミュニケーション能力の向上やリーダーシップ発揮などの実践方法について習得し、説明できるようになる。
授業の進め方	少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室および研究室である。能動的な学習を図るために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。テーマに応じて、フィールドワークも実施する。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、コーチングやスポーツ心理学的研究、および競技指導現場での経験のある教員が担当する。スポーツ心理学の学問分野をふまえながら、「コーチング」の理論について理解できる講義を実施する。 本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	演習の中で課題に対するフィードバックを逐次行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・・・本演習の進め方の説明	対面授業
第2回	スポーツコーチング・心理学におけるコミュニケーションの重要性和能力の向上の説明	対面授業
第3回	演習テーマに関する討論：コミュニケーションの重要性和能力の向上	対面授業
第4回	ミーティング法と実施の留意点についての説明	対面授業
第5回	演習テーマに関する討論：ミーティング法と実施の留意点	対面授業
第6回	リーダーシップについての説明	対面授業
第7回	演習テーマに関する討論：リーダーシップ	対面授業
第8回	演習テーマに関する文献収集：コミュニケーション・ミーティング	対面授業
第9回	演習テーマに関する文献抄読会1：コミュニケーション	対面授業
第10回	演習テーマに関する文献抄読会2：ミーティング	対面授業
第11回	演習テーマに関する文献収集：リーダーシップ	対面授業
第12回	演習テーマに関する文献抄読会：リーダーシップ	対面授業
第13回	総括	対面授業

事前・事後学	スポーツコーチングおよびスポーツ心理学をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・收拾を行い、学習の準備をすること。毎時間、小レ 2025/04/01

修	ポート課題を課す。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み、課題提出状況：40％ 報告会に向けての準備、内容：40％ 報告、発表状況：20％
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	適宜、紹介する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[ス指][安田]
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目では、「応用演習Ⅰ」で習得した体育科教育に関連する基礎的知識を踏まえ、研究を進めていく上で必要な文献検索やデータの収集・分析方法、考察の行い方に関する基本的能力を身に付ける。 主に、体育科の目標やカリキュラム、学習内容、教材・教具づくり、学習指導、評価などについて、体育・スポーツに関連する文献を購読し、ディスカッションを重ねていく。 また、学校教育ならびに学校体育における諸課題についても焦点を当て、その解決の方向性について検討していく。
到達目標	体育科教育に関する基本的能力を学習指導要領や関連資料の購読を通して身につけるとともに、その問題の所在や課題点について指摘をすることができる。 各自、研究テーマを設定し、体育科教育に関する基本的能力を活用しながら、各自の研究テーマに関連する文献の検索・購読・要約ならびに発表をすることができる。
授業の進め方	本科目は、演習形式によって展開する。 体育科教育における内容や方法に関連する文献や資料を活用し、グループワークやディスカッションを随時取り入れながらその理解を深めていく。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。 本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、「応用演習Ⅱ」の概要と進め方	対面授業（演習形式）
第2回	「応用演習Ⅰ」の内容及び中間発表の確認	対面授業（演習形式）
第3回	参考文献の要約および研究テーマの再設定	対面授業（演習形式）
第4回	研究テーマに関するディスカッション①：問題の所在	対面授業（演習形式）
第5回	研究テーマに関するディスカッション②：先行研究の検討	対面授業（演習形式）
第6回	研究テーマに関するディスカッション③：研究の目的	対面授業（演習形式）
第7回	研究テーマに関するディスカッション④：研究の方法	対面授業（演習形式）
第8回	研究テーマに関するディスカッション⑤：データの収集ならびに分析方法	対面授業（演習形式）
第9回	研究テーマに関するディスカッション⑥：結果の整理	対面授業（演習形式）
第10回	研究テーマに関するディスカッション⑦：考察	対面授業（演習形式）
第11回	中間発表の準備：発表内容の整理と発表スライドの作成（パワーポイントの活用）	対面授業（演習形式）
第12回	中間発表	対面授業（演習形式）

第13回	まとめ：「応用演習Ⅱ」の評価と振り返り	対面授業（演習形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習では、事前に示されたテーマについて教科書・文献・資料等を熟読し、その内容や専門用語について予め調査しておくこと。 事後学習では、各自の興味・関心に基づいて関連する文献や資料を参照し、その内容や自身の考えを整理して、次回以降の学習へ活かせるようにすること。 科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポート提出を課す場合がある。 【必要な時間】 各回の予習・復習には、それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	40%：平常点評価 発問に対する応答やディスカッションへの参加状況など授業の取り組みに対する積極性を評価する。 40%：レポート 進捗状況に応じて適宜課題を提示する。 課題については、演習での討議内容と関連付けながら深く考察しているかを評価する。 20%：発表内容 研究テーマのオリジナリティや目的・方法・結果・考察に一貫性が伴っているかを評価する。
テキスト	岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版）、大修館書店。
参考文献	文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編、東山書房。 文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編、東洋館出版社。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編、東山書房。 岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践、みらい。 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド、明治図書出版。 その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔竹田〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、4年次のテーマ研究に結び付ける基礎作りを行う。研究テーマを絞り、研究計画や研究デザインに沿って実践し、調整しながら論文作成を行う。
到達目標	本科目では、応用演習Ⅰで学んだ保健体育やスポーツ指導に関わる理論と実践から各自の研究テーマを設定し、課題解決に向けた論理的思考力を身に付ける。課題解決に向けた過程では、報告・連絡・相談を心がけたコミュニケーションスキルを身に付ける。
授業の進め方	実施場所は、教室または研究室を基本とし図書館を活用することもある。また、学外フィールドワークを実施することもある。課題に対して主体的に取り組み、報告や発表を通して研究の進捗状況を確認していく。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内外で実施したレポートなどの課題に対し、コメントや添削によってフィードバックを行う。発表に対しては講評する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：演習の概要と進め方
第2回	研究の進め方：研究テーマの設定
第3回	研究の進め方：文献検索（図書館・研究室・PCを使用する）
第4回	研究の進め方：文献検索（文献調査の現状報告をする）
第5回	研究の進め方：文献検索（再調査、文献のまとめ）
第6回	研究の進め方：研究テーマの再設定、研究の目的
第7回	研究の進め方：研究の計画
第8回	研究の進め方：研究のデザイン
第9回	研究の進め方：研究の方法
第10回	研究の進め方：予備実験またはデータの収集①
第11回	研究の進め方：予備実験またはデータの収集②
第12回	発表
第13回	まとめ：振り返り、今後の課題設定

事前・事後学修	事前学修では、事前に示された課題について教科書・文献・資料などを熟読し、その内容や専門用語について予め調査しておくこと。文献検索及び研究の個別課題に対しては事前事後でそれぞれ5時間以上必要となる。また、予備実験またはデータの収集についても5時間以上の時間が必要となる。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業の取り組みに対する積極性：40％ ②課題・レポートの提出状況：40％ ③報告・発表状況：20％
テキスト	適宜資料を配布する
参考文献	体育科教育学研究ハンドブック 日本体育科教育学会編 大修館書店 教材 x 研究：素材分析・子どもの理解から授業へつなぐ超実践ガイド 「楽しい体育の授業」編集部編 明治図書出版 保健科教育法 森良一編著 東洋館出版社 保健科教育法入門 日本保健科教育学会編 大修館書店 はじめての保健授業づくり 小浜明・岡崎勝博 大学図書出版

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[ス指][平田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	今日の学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、レポートにまとめてその内容が聞き手に伝わるよう発表することで、これまで大学で修得してきたスキルを一層高め、４年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付ける。 また、電子黒板やプレゼン機器の活用方法について研究する。特に教員免許取得希望者については、ＩＣＴの活用方法についても身に付ける。
到達目標	① ４年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付けられる。 ② テーマを設定し、考察し、まとめて形にすることができる。 ③ 自分の主張が伝わるように人前で発表することができる。 ④ 発表する際、プレゼン機器をある程度工夫して活用できる。
授業の進め方	一人一人が学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野（例えばスポーツ、リーダーシップ、教えるということ、ＩＣＴの教育への活用）に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、考察、フィールドワーク等を経てレポートにまとめ、発表やプレゼンテーションを行う。 必要に応じてグループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて行う。 場合によっては簡便な無料の統計ソフトウェアを用いて分析する。 高等学校や教育研究所における調査研究などの実務経験のある教員が担当する。 電子黒板やプレゼン機器の活用方法について研究する。特に教員免許取得希望者については、ＩＣＴの活用方法についても身に付ける。 電子黒板やプレゼン機器の活用については、企業または学校での活用と分けて想定し、どのように活用するのがよいのかを研究し、その操作に習熟できるようにする。特に教員免許取得希望者については、ＩＣＴの効果的な使用方法をCANVASや生成AIも視野に入れながら研究する。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	必要に応じて課題を設け、講義の中で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	春学期の応用演習Ⅰの振り返りと応用演習Ⅱにおいて改善すべき点の明確化
第3回	文献や資料の検索・収集
第4回	文献や資料の内容理解及びテーマの検討
第5回	テーマの設定と考察・調査などすべき事柄の検討、設定テーマの発表と修正
第6回	考察・調査などすべき事柄の明確化
第7回	レポートの構成の検討と作成
第8回	レポートの作成
第9回	レポートの完成とグループ・ディスカッション、今後の修正点の確認
第10回	プレゼンテーションの準備
第11回	プレゼンテーションの準備
第12回	プレゼンテーション、修正点の確認

第13回	発表資料の提出

事前・事後学修	事前学修：授業計画を確認し、現時点で可能な範囲まで作業を進めておく。 事後学修：授業計画を確認し、現時点で可能なところまで検討・作成・準備を進めておく。 事前・事後学習にはそれぞれ2時間半を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回の授業内容確認シート提出 30％ テーマ、レポート、プレゼンの発表状況 40％ レポート、プレゼン等の成果物 30％
テキスト	必要に応じて配布する。
参考文献	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 [第3版] 』慶応義塾大学出版会（2019）

備考	簡便な無料の統計ソフトウェアとは、College Analysisのことである。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔ス指〕〔苫米地〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	応用演習Ⅰで学習した内容の深化を目指し、次年度のテーマ研究につながるように、研究の遂行に必要な基本的な能力（リサーチクエスションの設定、先行研究の検討、資料の収集・分析、考察、プレゼンテーション）を身に付ける。
到達目標	① 学校教育について多様な研究視点を持ち、自己の興味関心に引きつけて研究課題を設定できる。 ② 研究の遂行に必要な基本的な能力（先行研究の検討、資料収集・分析、考察）を身につける。 ③ 適切な発表資料を作成し、口頭で発表することができる。
授業の進め方	少人数の演習形式で実施し、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを導入し、能動的な学修を目指す。原則、教室、研究室にて実施し、必要に応じて外部機関を訪問する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	応用演習Ⅰの検討・リサーチクエスションの設定	対面授業
第3回	個別テーマの発表・検討	対面授業
第4回	先行研究の検討Ⅰ	対面授業
第5回	先行研究の検討Ⅱ	対面授業
第6回	進捗報告Ⅰ・ディスカッション	対面授業
第7回	進捗報告Ⅱ・ディスカッション	対面授業
第8回	進捗報告Ⅲ・ディスカッション	対面授業
第9回	進捗報告Ⅳ・ディスカッション	対面授業
第10回	発表準備Ⅰ	対面授業
第11回	発表準備Ⅱ	対面授業
第12回	発表	対面授業
第13回	まとめ	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 関連論文・資料を検索・収集し、研究の準備をすること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 進捗報告の内容 40％ ② 最終発表の内容 40％ ③ 授業内の議論への参加・提出物 20％ ①～③を目安として、総合的に判断して評価する
テキスト	適宜資料を配布する。

備考	学校あるいは社会教育施設等見学・訪問を実施する可能性がある。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔ス指〕〔阿南〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、「野球における技術および動作」、「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」について理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。
到達目標	【到達目標】 ①次年度の卒業研究あるいはテーマ研究を作成するために必要な知識とスキルを獲得する。 ②「野球における技術および動作」、「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」に関する研究方法やデータの分析方法などの理解を深める。 ③グループでの活動によって共に議論をし、相互に知識を深めて課題解決・自己表現の力量を高めていく。
授業の進め方	【講義方法】 実施場所は、教室、研究室、グラウンド、およびフィールドワーク先である。能動的な学修を図るために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの視点から、野球における運動学習法の研究の実績、およびコーチング、メンタルトレーニング、チームビルディングの実践経験を有する教員が担当する。 本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・・・ゼミの進め方・運営方針の説明
第2回	身体活動・コーチングの基礎的知識・・・情報収集と文献検索
第3回	動作の仕組み・メンタルトレーニング・・・文献講読とディスカッション
第4回	チームビルディング・・・文献講読とディスカッション
第5回	実践現場での活動の振り返り・・・パフォーマンス課題の抽出（各種スポーツ）
第6回	実践現場での活動の振り返り・・・パフォーマンス課題の抽出（コーチングでの実践の振り返り）
第7回	スポーツ動作の動画の記録・・・動画記録の方法
第8回	スポーツ動作の動画の記録・・・動画記録とディスカッション
第9回	コーチングのプログラムの考案と実践方法
第10回	メンタルトレーニングのプログラムの考案と実践方法

第11回	チームビルディングのプログラムの考案と実践方法
第12回	テーマの抽出１・・・ディスカッションと報告書の作成
第13回	テーマの抽出２・・・ディスカッションと報告書の作成
第14回	春学期の振り返りと夏休みの課題・・・春学期を振り返り秋学期の目標を設定する

事前・事後学修	【具体的な内容】 身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、「野球における技術および動作」「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」をメインテーマとして授業を実施する。「野球における技術および動作」「コーチング」「メンタルトレーニング」、「チームビルディング」に関係する資料検索・収拾を行い、学修の準備をすること。毎時間、小レポート課題を課す。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み、課題提出状況 40% ②報告に向けての準備、内容 40% ③報告、発表状況 20%
テキスト	テキストは適宜紹介する。
参考文献	参考文献は適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、運動生理学やバイオメカニクスを活用し、野球における運動学習法の研究を行うとともに、コーチング、メンタルトレーニング、チームビルディングの資格を取得し、実績を積んできました。これらの経験を基に、理論と実践を統合した学びを提供する講義を展開します。
備考	野球の実践現場やトレーニング実習へフィールドワークに行く場合がある。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔ス指〕〔駒井〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	保健体育科の教員を目指す者として、教科「体育」及び「保健」の学習指導、学習活動におけるＩＣＴの活用、評価方法、並びに運動部活動の指導の在り方等について、関連する文献や資料を収集し、ディスカッション、レポートの作成、プレゼンテーション等を通して、学校体育における現状や諸課題について理解し、その改善・充実や課題解決の方策等について検討する。
到達目標	1 学校体育に係る現状や課題を理解し、保健体育担当教師としての取組、改善・充実や課題解決に向けた方策等を考えることができる。 2 研究テーマを設定し、考察し、まとめて発表することができる。 3 自分の研究について、プレゼンテーションし、その内容や趣旨を伝えることができる。
授業の進め方	実施場所は、指定教室・研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは、個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	文献検索等
第3回	共通テーマ研究：自分が目指す保健体育教師像
第4回	共通テーマ研究：生徒の意欲を引き出す体育授業・保健授業の在り方
第5回	共通テーマ研究：運動部活動の指導の在り方
第6回	各自の研究テーマにおける目的・方法の検討
第7回	各自の研究テーマにおける考察の検討
第8回	発表レポートの構成の検討及び作成
第9回	発表レポートの作成
第10回	発表レポートの作成
第11回	プレゼンテーションの作成
第12回	プレゼンテーションの実施
第13回	プレゼンテーションの実施とレポートの提出

事前・事後学習	今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認すること。個別指導は、研究の進捗状況に対応して行うので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておくこと。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合もある。事前事後合わせて目安は120分程度とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	1 ディスカッションでの積極的な参加態度、課題提出の状況や完成度など、授業への取組状況を評価する（30％） 2 研究のテーマに基づきプレゼンテーションが作成され、発表できているかを評価する。（40％） 3 学校体育の現状や課題の理解、自分の考えや方策等が適切にまとめられているかについて、レポートやディスカッション等により評価する。（30％）
テキスト	適宜配付する
参考文献	適宜配付する

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	北海道の高等学校保健体育担当教員としての実務経験18年、北海道教育委員会の学校体育・学校保健担当課指導主事としての実務経験10年、高等学校管理職としての実務経験9年。また、高等学校の校長を務めていた際には、北海道高等学校体育連盟会長として4年、（公財）全国高等学校学校体育連盟副会長として3年の実務経験もある。その中で学校体育及び運動部活動について、現場での推進や指導・助言を行ってきた。それらの経験をもとに、学校現場での課題や具体的事例を積極的に活用しながら授業を進めていく。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔ス指〕〔国田〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業では、運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構の検討を行い、身体運動のからくりを理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告・発表することを目指す。フィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。
到達目標	運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構の検討法を理解できる。これをふまえ、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室、研究室、および測定室である。能動的な学習を図るためにグループワーク、状況に応じて個人ごとの指導を行う。本演習は、運動生理学を専門とする研究者が、運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構の検討を行ってきた実績をもとに、身体運動のからくりを理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	身体運動の運動生理学的検討についての説明（１）身体運動の生理学に関する基礎知識
第2回	身体運動の運動生理学的検討についての説明（２）身体運動の生理学に関する最新知見
第3回	身体運動のバイオメカニクスの検討についての説明（１）身体運動のバイオメカニクスに関する基礎知識
第4回	身体運動のバイオメカニクスの検討についての説明（２）身体運動のバイオメカニクスに関する最新知見
第5回	演習テーマに関する討論（１）各自のテーマの検討
第6回	演習テーマに関する討論（２）各自のテーマ候補の発表
第7回	演習テーマに関する文献収集（１）文献収集方法の説明
第8回	演習テーマに関する文献収集（２）文献収集の実践
第9回	演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（１）
第10回	演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（２）
第11回	演習テーマに関する中間報告会の準備（１）プレゼンテーションの方法
第12回	演習テーマに関する中間報告会の準備（２）発表の予行練習
第13回	演習テーマに関する中間報告会

事前・事	【具体的な内容】 身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、運動生理学的、バイオメカニクスの手法による運動制御機構の検討法をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・収集を行い、学習の準備をすること。

後学修	【必要な時間】 事前および事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み、課題提出状況；40 % ②報告会に向けての準備、内容；40 % ③報告、発表状況；20 %
テキスト	適宜配布する。

備考	実践してきたスポーツ種目に関わらず、身体運動のからくりに興味ある者

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[ス指][小林]
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 小林 秀紹	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	これまで学んだことを踏まえ，科学的知見を導出する手続きに則り，実際の測定，実験・調査を行い，得られたデータを適切な数値解析プログラミングを施し，結果をまとめ，研究報告を行う。 これによって，健康スポーツのみならず，様々な問題に対する解決能力を養う。
到達目標	①健康・スポーツに関する事象を数値化することができる。 ②得られたデータを適切に分析することができる。 ③分析結果を文章としてまとめ，口頭で適切に発表することができる。
授業の進め方	演習形式で論文抄読，テーマ発表，実験等を行う。 本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出されたレポートに対して口頭および文章で行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究の取り組み方	対面授業
第2回	研究テーマの計画に関するディスカッション	対面授業
第3回	測定実習	対面授業
第4回	研究テーマの発表，論文抄読 1	対面授業
第5回	測定結果の発表 1	対面授業
第6回	研究テーマの発表，論文抄読 2	対面授業
第7回	測定結果の発表 2	対面授業
第8回	研究テーマの発表，論文抄読 3	対面授業
第9回	測定結果の発表 3	対面授業
第10回	研究テーマの発表，論文抄読 4	対面授業
第11回	測定結果の発表 4	対面授業
第12回	研究テーマの草案	対面授業
第13回	研究テーマの段取り	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 自身の研究テーマに関する文献収集，測定，実験，調査，学会参加あるいは発表，FORTRAN，R，Python等のプログラミング 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	取り組み（40％），中間報告の準備（40％），発表内容（20％）

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔ス指〕〔後藤〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	研究を行う際に必要な基本的な方法（文献を検索する、文献を読む、内容をまとめる、まとめた内容を発表する）を、文献購読を行うことにより身につける。
到達目標	文献を検索する、文献を読む、内容をまとめる、まとめた内容を発表するという、研究を行う際に必要な基本的な作業ができるようになる。
授業の進め方	・健康やスポーツに関連する文献について、検索・購読・内容の要約・発表を演習形式で行う。 ・本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディベート 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の課題をテーマにディスカッション・事例検討などを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	文献検索の方法について
第2回	文献検索の実際（本学図書館）
第3回	各自の興味・関心に基づく文献検索
第4回	文献の読み方について
第5回	題名について
第6回	研究目的について
第7回	研究方法について
第8回	研究結果について
第9回	考察について
第10回	文献の要約について
第11回	発表の準備（各自の発表内容の作成）
第12回	発表の準備（各自のパワーポイントの作成）
第13回	発表

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習：各自の興味・関心に基づき、文献などを講読し発表の準備をする。 事後学習：毎回のテーマに関して小レポートを作成する。また、各自の発表内容・授業内容の振り返りを併せて行うこと。 【必要な時間】 事前および事後学習には2時間程度の時間を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義内の提出物・議論への参加 40％ 発表 30％ レポート 30％
参考文献	【参考文献】 適宜資料を配布する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔ス指〕〔本多〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	幅広い年齢層の方々の健康づくりや介護予防、レクリエーション活動について理解をし、運動指導者としてのコミュニケーション能力や実践力を身に付けることが目的です。 本講義では、各町村で行われている体力測定の実施や健康教室等の参加をするフィールドワークを行うことや、学生でSIUスポーツクラブのプログラム計画や運営を行います。
到達目標	①健康諸問題について関心を持ち、幅広い知識を習得し、自分の意見や考えを話すことができる。 ②スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。 ③テーマに関わる文献等を読解し、適切な情報を収集するとともにフィールドワークの実施計画や立案をし、実践することで運動指導者としての必要な能力を身に付けることができる。
授業の進め方	1・2年次に修得した知識を活用し、応用できるよう健康やスポーツに関連することについて、グループワークやディスカッションを行います。主として市町村で行われている運動教室などにフィールドワークを行い、体験をもとに対象者に合わせたプログラムを作成し反転学習を行います。SIUスポーツクラブや他の地域での運動教室のプログラム計画をし、実際に運営を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（授業計画を課題設定について）
第2回	健康づくりに関して（レクリエーションの実際・介護予防について）
第3回	健康づくりに関して（体力測定について・ノルディックウォーキング）
第4回	SIUスポーツクラブの準備（対象者に合わせた運動プログラムの立案）
第5回	SIUスポーツクラブの準備（立案したプログラムの実施・リハーサル）
第6回	SIUスポーツクラブの運営・振り返り
第7回	SIUスポーツクラブの準備（対象者に合わせた運動プログラムの立案）
第8回	SIUスポーツクラブの準備（立案したプログラムの実施・リハーサル）
第9回	SIUスポーツクラブの運営・振り返り
第10回	SIUスポーツクラブの準備・フィールドワークの準備（対象者に合わせた運動プログラムの立案・資料作成）
第11回	SIUスポーツクラブの準備・フィールドワークの準備（立案したプログラムの実施・リハーサル・資料作成）
第12回	SIUスポーツクラブの運営・振り返り
第13回	まとめと振り返り・フィールドワークの準備

事前・事後学修	対象者に合わせた運動指導や健康づくりに関する文献や論文を読み、文章を読む習慣を心がけてください。 また、身に付けた指導力を活用・応用できるよう幅広い分野でのボランティアに積極的に参加してください。 科目に関連する学部学科行事を実施した場合は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。予習復習の時間は各2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業への取り組み、課題提出状況　（30％） ②フィールドワークやSIUSスポーツクラブへ向けての準備、内容　（40％） ③運営・発表状況　（30％）
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	『健康運動指導士養成テキスト上・下』　公益財団法人　健康・体力づくり事業財 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人　日本レクリエーション協会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	健康運動指導士としての数多くの市町村で介護予防教室や運動教室を行っています。その実務経験を基に具体的な事例等を示しながら高齢者から子どもまでの幅広い年齢層へ対しての運動プログラム作成方法や指導方法を示し、実際に学生が対象者に指導できるように授業を展開します。
備考	フィールドワークは主に恵庭市や今金町、月形町を中心に行います。 場合によっては、この他に北海道内の市町村でのフィールドワークを行うことがあります。また、フィールドワークの開催日が休日の場合もありますので、スケジュールを調整してください。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[ス指][佐藤(文)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、運動生理学やバイオメカニクスなどの知見を基礎として、発育・発達における遊びやスポーツの意義・指導法などについて理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。
到達目標	ヒトの発育・発達における遊びやスポーツの意義について理解できる。
授業の進め方	実施場所は、教室、研究室、測定室、および体育館である。少人数での演習形式で授業を行い、必要に応じてグループワークやディスカッションなど、能動的な学修を目指す。本講義は、運動生理学および発育発達学的視点から、遊びやスポーツの意義について研究を行ってきた実績を有する教員が担当する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で配布し、適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	身体運動調節の運動生理学的検討についての説明（１）；運動調節に関する基礎知識の修得	対面授業
第3回	身体運動調節の運動生理学的検討についての説明（２） ；運動調節に関する先行研究の紹介	対面授業
第4回	身体運動調節の発育・発達学的検討についての説明（１）；ヒトの発育・発達に関する基礎知識の修得	対面授業
第5回	身体運動調節の発育・発達学的検討についての説明（２）；ヒトの発育・発達に関する先行研究の紹介	対面授業
第6回	演習テーマに関する討論（１）；各自のテーマの検討	対面授業
第7回	演習テーマに関する討論（２）；各自のテーマ候補の発表	対面授業
第8回	演習テーマに関する文献収集（１）；文献収集方法の説明	対面授業
第9回	演習テーマに関する文献収集（２）；文献収集の実践	対面授業
第10回	演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（１）；姿勢制御関連の予備実験	対面授業
第11回	演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（２）；姿勢制御関連の分析	対面授業
第12回	演習テーマに関する中間報告会の準備（１）；プレゼンテーションの方法	対面授業
第13回	演習テーマに関する中間報告会	対面授業

事前・事後学修	ヒトの発育・発達およびスポーツ技能に関する知見について、文献研究をすることを事前・事後学習とする。事前・事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 授業への取り組み、課題提出状況；40％ ② 報告会に向けての準備、内容；40％ ③ 報告、発表状況；20％
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	・藤原 勝夫編著:姿勢制御の神経生理機構.杏林書院. ・高石昌弘著:からだの発達.大修館書店, 東京.

備考	実践してきたスポーツ種目に関わらず、身体運動のからくりに興味ある者

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔ス指〕〔樋口〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本演習では、スポーツツーリズム及びヘルスツーリズムについて学ぶ。特に、スポーツと温泉をテーマにフィールドワークを行う。また、将来のスポーツトレーナーとしてのアナリスト能力の育成のためにドローンパイロット技術を体験する。身体機能の状態を簡便に把握するのに必要な知識と技術とを学び、機能解剖学に基づく思考力を用い課題の解決策を論じていけるようにする。そのために必要な文献検索能力・論文読解力・レポート作成・プレゼンテーション能力等を培っていく。
到達目標	身体機能を把握するための手立てを知り、自身の興味関心のある演習テーマを設定して、文献検索から、新たな知見を得ることができるようになり、それを発表することができる。
授業の進め方	スライドを用いて講義する。また、関連する論文を精読し、その内容の発表を行う。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。 本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することもある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	少人数での演習形式で授業を行う。 課題は、eラーニングシステムを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 また、本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	温泉学概論	対面授業
第3回	ヘルスツーリズム	対面授業
第4回	スポーツツーリズム	対面授業
第5回	ドローンパイロット技術体験	対面授業
第6回	フィールドワーク1	対面授業
第7回	フィールドワーク2	対面授業
第8回	文献検索の方法と各自の興味関心に基づく文献検索	対面授業
第9回	文献の読み方について（背景と目的、対象と方法、結果と考察）	対面授業
第10回	各自の演習テーマに基づく文献検索	対面授業
第11回	各自の演習テーマに基づく討論準備	対面授業
第12回	発表	対面授業
第13回	まとめのレポート提出	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】
	事前学習：各自の興味関心に基づき文献検索など
	事後学習：発表に向けての準備や技術習得
	【必要な時間】
自身の課題に関する文献収集や技術習得などにそれぞれ2時間半程度を目安とする。	

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	40% 授業への取り組み、課題提出状況 40% 発表会に向けての準備と内容 20% 発表状況とレポート
テキスト	適宜配布または提示する。
参考文献	適宜配布または提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義する。
備考	機能解剖学に基づくスポーツリハビリテーションに興味関心がある者

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[ス指][阿井]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、「スポーツコーチング、スポーツ心理学の意義、基本的理念」について理解するとともに、スポーツでよく使われる「心・技・体」という言葉の「心」の重要性と「技」「体」の繋がりを理解し、心身の発達と自身のスポーツ活動およびスポーツ指導のあり方を学び、実技演習するとともに次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表するなど能動的な学修を目指す。
到達目標	スポーツコーチングとスポーツ心理学の意義と基本的理念を理解させ、さらにコーチの役割および使命と、コーチに求められる資質能力を習得し、説明できるようになる。
授業の進め方	少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室および研究室である。能動的な学習を図るために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。テーマに応じて、フィールドワークも実施する。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、コーチングやスポーツ心理学的研究、および競技指導現場での経験のある教員が担当する。スポーツ心理学の学問分野をふまえながら、「コーチング」の理論について理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	演習の中で課題に対するフィードバックを逐次行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス・・・本演習の進め方の説明	対面授業
第2回	スポーツコーチングの意義についての説明	対面授業
第3回	スポーツ心理学の意義についての説明	対面授業
第4回	スポーツコーチングの基本理念についての説明	対面授業
第5回	スポーツ心理学の基本理念についての説明	対面授業
第6回	セルフリーダーシップ論(1)：自己認識力	対面授業
第7回	セルフリーダーシップ論(2)：意志決定力	対面授業
第8回	セルフリーダーシップ論(3)：コミュニケーション力	対面授業
第9回	コーチングに必要なスキル(1)：コーチの役割・コーチに求められる資質能力	対面授業
第10回	コーチングに必要なスキル(2)：チームマネジメント	対面授業
第11回	メンタル・コンディショニング(1)：二次元気分尺度/実技演習	対面授業
第12回	メンタル・コンディショニング(2)：マインドフルネス/実技演習	対面授業
第13回	総括	対面授業

事前・事後学修	スポーツコーチングおよびスポーツ心理学をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・收拾を行い、学習の準備をすること。毎時間、小レポート課題を課す。
2025/04/01	

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業への取り組み、課題提出状況：40％ 報告会に向けての準備、内容：40％ 報告、発表状況：20％
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	適宜、紹介する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[ス指][安田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、体育科教育に関連する研究を進めていく上で必要な文献検索やデータの収集・分析方法、考察の行い方に関する基礎的知識を身に付ける。 主に、体育科・保健体育科の目標やカリキュラム、学習内容、教材・教具づくり、学習指導、評価などについて、体育・スポーツに関連する文献を購読し、ディスカッションを重ねていく。 また、学校教育ならびに学校体育における諸課題についても焦点を当て、その解決の方向性について検討していく。
到達目標	体育科教育に関する基礎的知識を学習指導要領や関連資料の購読を通して身に付けるとともに、その基本的性格や目標・内容について説明をすることができる。 研究を行う際に必要な基礎的知識を身に付け、各自が興味のある研究テーマを設定し、関連する文献の検索・購読・要約ならびに発表をすることができる。
授業の進め方	本科目は、演習形式によって展開する。 体育科教育における内容や方法に関連する文献や資料を活用し、グループワークやディスカッションを随時取り入れながらその理解を深めていく。 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式あるいはオンデマンド形式とすることがある。 本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本科目の課題は、LMSを活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。 授業外における本科目に関する質問は、個別対応とする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、「応用演習Ⅰ」の概要と進め方	対面授業（演習形式）
第2回	文献検索の方法①：書籍がもつ性質の差（雑誌、専門書、学術誌の違い）	対面授業（演習形式）
第3回	文献検索の方法②：本学図書館の活用	対面授業（演習形式）
第4回	文献検索の方法③：文献検索サイトの活用	対面授業（演習形式）
第5回	リサーチ・クエスチョン（RQ）の立て方	対面授業（演習形式）
第6回	先行研究の検討と参考文献の引用方法	対面授業（演習形式）
第7回	研究の進め方①：目的の設定	対面授業（演習形式）
第8回	研究の進め方②：方法の検討（データの収集ならびに分析方法）	対面授業（演習形式）
第9回	研究の進め方③：結果の整理（データの示し方、図表の作成）	対面授業（演習形式）
第10回	研究の進め方④：考察の方法（エビデンススペースの解釈）	対面授業（演習形式）
第11回	中間発表の準備：発表内容の整理と発表スライドの作成（パワーポイントの活用）	対面授業（演習形式）
第12回	中間発表	対面授業（演習形式）

第13回	まとめ：「応用演習Ⅰ」の評価と振り返り	対面授業（演習形式）

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習では、事前に示されたテーマについて教科書・文献・資料等を熟読し、その内容や専門用語について予め調査しておくこと。 事後学習では、各自の興味・関心に基づいて関連する文献や資料を参照し、その内容や自身の考えを整理して、次回以降の学習へ活かせるようにすること。 科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポート提出を課す場合がある。 【必要な時間】 各回の予習・復習には、それぞれ150分程度を要することが想定される。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	40%：平常点評価 発問に対する応答やディスカッションへの参加状況など授業の取り組みに対する積極性を評価する。 40%：レポート 進捗状況に応じて適宜課題を提示する。 課題については、演習での討議内容と関連付けながら深く考察しているかを評価する。 20%：発表内容 研究テーマのオリジナリティや目的・方法・結果・考察に一貫性が伴っているかを評価する。
テキスト	岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版）、大修館書店。
参考文献	文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編、東山書房。 文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編、東洋館出版社。 文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編、東山書房。 岡田悠佑・根本想 編（2025）教員をめざす人の体育指導法：教えることが楽しくなるための理論と実践、みらい。 『楽しい体育の授業』編集部編（2023）教材研究×体育：素材分析・子ども理解から授業へつなぐ超実践ガイド、明治図書出版。 その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[ス指][竹田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本科目は、保健体育の授業やスポーツ指導における実践と研究から問題点や課題を発見し、自身の研究テーマの設定に結び付ける。
到達目標	本科目では、保健体育やスポーツ指導に関わる理論と実践を学び、課題発見からその解決策について多様な視点を持てるようにする。また、グループワークやディスカッションを通して発信力や傾聴力を身に付ける。
授業の進め方	実施場所は、教室または研究室であり、学外フィールドワークを実施することもある。課題に対して主体的に取り組み、発表やディスカッションを中心に行い研究への関心を高めていく。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内外で実施したレポートなどの課題に対し、コメントや添削によってフィードバックを行う。発表に対しては講評する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：演習の概要と進め方
第2回	文献検索：保健体育やスポーツ指導に関わる情報収集、実践研究の動向
第3回	文献抄読会①：抄録作成
第4回	文献抄読会②：発表、ディスカッション
第5回	文献抄読会③：発表、ディスカッション
第6回	文献抄読会④：発表、ディスカッション
第7回	文献抄読会⑤：発表、ディスカッション
第8回	文献抄読会⑥：発表、ディスカッション
第9回	授業観察について：観察・分析の視点
第10回	授業観察について：学外フィールドワーク、授業者への質疑、課題発見
第11回	授業観察について：ディスカッション、課題解決
第12回	理論と実践の往還：ディスカッション、課題発見
第13回	まとめ：振り返り、今後の課題設定

事前・事後学修	事前学修では、事前に示された課題について教科書・文献・資料などを熟読し、その内容や専門用語について予め調査しておくこと。文献検索及び抄録作成の事後学修にはそれぞれ5時間以上必要となる。また、ディスカッション後には、振り返りやまとめに毎回1時間以上の時間が必要となる。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①授業の取り組みに対する積極性：40％ ②課題・レポートの提出状況：40％ ③報告・発表状況：20％
テキスト	適宜資料を配布する
参考文献	体育科教育学研究ハンドブック 日本体育科教育学会編 大修館書店 教材 x 研究：素材分析・子どもの理解から授業へつなぐ超実践ガイド 「楽しい体育の授業」編集部編 明治図書出版 保健科教育法 森良一編著 東洋館出版社 保健科教育法入門 日本保健科教育学会編 大修館書店 はじめての保健授業づくり 小浜明・岡崎勝博 大学図書出版

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[ス指][平田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 平田 嘉宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	今日の学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、レポートにまとめてその内容が聞き手に伝わるよう発表することで、これまで大学で修得してきたスキルを一層高め、４年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付ける。 また、電子黒板やプレゼン機器の活用方法について研究する。特に教員免許取得希望者については、ＩＣＴの活用方法についても身に付ける。
到達目標	① ４年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付けられる。 ② テーマを設定し、考察し、まとめて形にすることができる。 ③ 自分の主張が伝わるように人前で発表することができる。 ④ 発表する際、プレゼン機器をある程度工夫して活用できる。
授業の進め方	一人一人が学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野（例えばスポーツ、リーダーシップ、教えるということ、ＩＣＴの教育への活用）に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、考察、フィールドワーク等を経てレポートにまとめ、発表やプレゼンテーションを行う。 必要に応じてグループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて行う。 場合によっては簡便な無料の統計ソフトウェアを用いて分析する。 高等学校や教育研究所における調査研究などの実務経験のある教員が担当する。 電子黒板やプレゼン機器の活用方法について研究する。特に教員免許取得希望者については、ＩＣＴの活用方法についても身に付ける。 電子黒板やプレゼン機器の活用については、企業または学校での活用と分けて想定し、どのように活用するのがよいのかを研究し、その操作に習熟できるようにする。特に教員免許取得希望者については、ＩＣＴの効果的な使用方法をCANVASや生成AIも視野に入れながら研究する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	必要に応じて課題を設け、講義の中で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	文献検索の実習（図書館）
第3回	文献や資料の検索・収集
第4回	文献や資料の内容理解及びテーマの検討
第5回	テーマの設定と考察・調査などすべき事柄の検討、設定テーマの発表と修正
第6回	考察・調査などすべき事柄の明確化
第7回	レポートの構成の検討と作成
第8回	レポートの作成
第9回	レポートの完成とグループ・ディスカッション、今後の修正点の確認
第10回	プレゼンテーションの準備
第11回	プレゼンテーションの準備
第12回	プレゼンテーション、修正点の確認

第13回	発表資料の提出

事前・事後学修	事前学修：授業計画を確認し、現時点で可能な範囲まで作業を進めておく。 事後学修：授業計画を確認し、現時点で可能なところまで検討・作成・準備を進めておく。 事前・事後学習にはそれぞれ2時間半を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回の授業内容確認シート提出 30％ テーマ、レポート、プレゼンの発表状況 40％ レポート、プレゼン等の成果物 30％
テキスト	必要に応じて配布する。
参考文献	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 [第3版] 』慶応義塾大学出版会（2019）

備考	簡便な無料の統計ソフトウェアとは、College Analysisのことである。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔ス指〕〔苫米地〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	学校教育に関する文献等の購読と議論を通して、多様な研究視点を持つことができるようになることを目指す。研究の遂行に必要な基礎的な知識（文献検索、要約、分析、考察等）を身につけ、個別テーマの発表・報告と議論を通じて、研究のまとめ方やプレゼンテーション能力を向上させる。
到達目標	① 学校教育について、多様な研究視点を持つことができる。 ② 研究の基礎的な知識（資料収集・分析・考察等）を身につける。 ③ 自己の研究テーマを設定し、調査結果を文章にまとめ、口頭で適切に発表することができる。
授業の進め方	少人数の演習形式で実施し、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを導入し、能動的な学修を目指す。原則、教室、研究室にて実施し、必要に応じて外部機関を訪問する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	教育に関する文献等の購読Ⅰ・リサーチクエストの設定	対面授業
第3回	教育に関する文献等の購読Ⅱ・文献の検索	対面授業
第4回	教育に関する文献等の購読Ⅲ・文献の検索	対面授業
第5回	教育に関する文献等の購読Ⅳ・文献のまとめ	対面授業
第6回	教育に関する文献等の購読Ⅴ・文献のまとめ	対面授業
第7回	個別テーマの発表・検討	対面授業
第8回	先行研究の検討・考察の方法	対面授業
第9回	進捗報告Ⅰ（レジュメ発表・ディスカッション）	対面授業
第10回	進捗報告Ⅱ（レジュメ発表・ディスカッション）	対面授業
第11回	進捗報告Ⅲ（レジュメ発表・ディスカッション）	対面授業
第12回	進捗報告Ⅳ（レジュメ発表・ディスカッション）	対面授業
第13回	まとめ	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 関連論文・資料を検索・収集し、研究の準備をすること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2.5時間を目安とする。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	① 授業への参加意欲・課題提出 40％、 ② テーマ発表・内容 20％、 ③ 報告、レジュメ・発表状況 40％ ①～③を目安として、総合的に判断して評価する。
テキスト	適宜資料を配布する。

備考	学校あるいは社会教育施設等見学・訪問を実施する可能性がある。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ〔ス指〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、北海道にあるプロスポーツを、フィールドワークを通して、スポーツの果たす役割とその影響について調査、研究するために行う。 秋学期2回プロスポーツを見学する。
到達目標	スポーツの理解を深め、フィールドワークを通して課題を発見し解決能力や調査、分析、まとめ、発表することができる。
授業の進め方	教室での講義のほか、小グループで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、パワーポイントを使用しグループ全員でプレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス（春学期の反省と秋学期の確認）、北海道のスポーツについて	対面授業
第2回	冬季スポーツの位置づけと現状	対面授業
第3回	グループ研究の進め方（グループの再編成）	対面授業
第4回	調査項目の設定Ⅰ（調査内容の検討）	対面授業
第5回	調査項目の設定Ⅱ（調査計画の立案）	対面授業
第6回	調査Ⅰ（スポーツ観戦を含む）	対面授業
第7回	調査結果の分析・考察Ⅰ	対面授業
第8回	調査項目の再確認、設定（グループワーク）	対面授業
第9回	調査Ⅱ（必要によりスポーツ観戦を含む）	対面授業
第10回	調査結果の分析・考察Ⅱ	対面授業
第11回	調査結果のまとめ、発表準備Ⅰ	対面授業
第12回	調査結果のまとめ、発表準備Ⅱ	対面授業
第13回	グループ研究発表、授業のまとめ（課題レポート）	対面授業

事前・事後学習	グループごとの予習、復習として、「スポーツ健康分野の基礎的知識」に関する情報収集・ニュースや新聞などを用いた最近の社会情勢の把握を推奨する。これらをふまえ、事前学習、事後学習は、それぞれ120分程度の時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①毎回の振り返りシート（40％） ②スポーツ観戦を通した調査、分析、発表（40％） ③課題レポート（20％）
テキスト	特になし
参考文献	必要に応じて資料を配布する

備考	スポーツ指導学科以外の学生の受講は認めない。 スポーツ観戦については入場料の一部個人負担がある。 （1回 1,000円程度）

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔ス指〕
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI05001S

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
樋口 善英	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
竹田 安宏	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
苫米地 里香	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
安田 純輝	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、北海道にあるプロスポーツを、フィールドワークを通して、スポーツの果たす役割とその影響について調査、研究するために行う。 春学期2回プロスポーツを見学する。
到達目標	スポーツの理解を深め、フィールドワークを通して、グループごとで課題を発見し、調査、分析、まとめ、発表することができる。
授業の進め方	教室での講義のほか、小グループで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、パワーポイントを使用しグループ全員でプレゼンテーションを行う。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、スポーツの位置づけ（「スポーツ基本法」等）	対面授業
第2回	日常生活とスポーツの関係	対面授業
第3回	グループ研究の進め方（調査グループ分け）	対面授業
第4回	調査項目の設定Ⅰ（調査内容の検討）	対面授業
第5回	調査項目の設定Ⅱ（調査計画の設定）	対面授業
第6回	調査Ⅰ（スポーツ観戦を含む）	対面授業
第7回	調査結果の分析・考察Ⅰ	対面授業
第8回	調査項目の再確認、設定（グループワーク）	対面授業
第9回	調査Ⅱ（必要によりスポーツ観戦を含む）	対面授業
第10回	調査結果の分析・考察Ⅱ	対面授業
第11回	調査結果のまとめ、発表準備Ⅰ	対面授業
第12回	調査結果のまとめ、発表準備Ⅱ	対面授業
第13回	グループ研究発表、授業のまとめ（課題レポート）	対面授業

事前・事後学習	グループごとの予習、復習として、「スポーツ健康分野の基礎的知識」に関する情報収集・ニュースや新聞などを用いた最近の社会情勢の把握を推奨する。これらをふまえ、事前学習、事後学習は、それぞれ120分程度の時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①毎回の振り返りシート（40％） ②スポーツ観戦を通した調査、分析、発表（40％） ③課題レポート（20％）
テキスト	特になし
参考文献	必要に応じて資料配布

備考	スポーツ指導学科以外の学生の受講は認めない。 スポーツ観戦については入場料の一部個人負担がある。 （1回 1,000円程度）

年度	2025
講義名称	栄養学[ス指]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツ指導学科：SPI04502L

担当教員

氏名	所属
◎ 小松 信隆	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法や摂取のタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特長に対応した実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。
到達目標	スポーツにおける食事の重要性を理解し、スポーツ種目それぞれにおける食事の内容や摂取のタイミングをイメージできるようになる。
授業の進め方	講義、演習およびグループワーク

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義、演習およびグループワーク 講義終了時に提出する小レポートによるフィードバック

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／五大栄養素
第2回	三大栄養素
第3回	三大栄養素の消化・吸収
第4回	炭水化物・脂質と食事
第5回	たんぱく質と食事
第6回	ビタミン・ミネラル
第7回	炭水化物と脂質のエネルギー代謝とたんぱく質の分解・再合成
第8回	各栄養素のバランスと食事
第9回	食事摂取のタイミング
第10回	ホルモン分泌と食事摂取
第11回	水分補給
第12回	アスリートの栄養評価
第13回	スポーツ栄養学のまとめ

事前・事後学修	必ず前回の授業内容を復習してから授業に臨んでください。また、日頃からニュース・新聞などで最近の社会や企業の動向に関する情報を入手するように心がけてください。 予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	定期試験（記述式）70％および授業終了時に提出する小レポート30％により評価
テキスト	教科書は使用せず
参考文献	侘美 靖・花井 篤子編，新版生涯スポーツと運動の科学，市村出版

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポビ][横山]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、それについて適切な方法にもとづいて調査・研究を実践します。そして、最終的に論文としてまとめ、その成果を発表する等のスキルを身に付けることを目的とします。
到達目標	春学期：論文の基本的作成方法を理解し、適切な研究方法にしたがって研究（調査）することができる。 秋学期：研究論文を完成させ、その成果について分かりやすく説明できる。
授業の進め方	本講義は、担当指導教員のゼミナール方式です。研究方法の基礎を学ぶとともに、各自の選択したテーマについての論文作成作業の経過報告を中心にグループ討議、個別の論文作成指導を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【春学期】 ①オリエンテーション	対面
第2回	②論文作成の基本的作法について（1）	対面
第3回	③論文作成の基本的作法について（2）	対面
第4回	④研究テーマの検討・決定（1）	対面
第5回	⑤研究テーマの検討・決定（2）	対面
第6回	⑥「問題の所在」「研究目的」の文章化（1）	対面
第7回	⑦「問題の所在」「研究目的」の文章化（2）	対面
第8回	⑧研究方法の検討（個人）（1）	対面
第9回	⑨研究方法の検討（個人）（2）	対面
第10回	⑩研究方法の検討（ゼミ）（1）	対面
第11回	⑪研究方法の検討（ゼミ）（2）	対面
第12回	⑫調査（1）（※夏季休業期間にも実施する）	対面
第13回	⑬調査（2）	対面
第14回	【秋学期】 ①中間報告会	対面
第15回	②研究論文のアウトラインの検討（1）	対面
第16回	③研究論文のアウトラインの検討（2）	対面

第17回	④研究論文のアウトラインの検討（3）	対面
第18回	⑤研究論文の作成・充実（1）	対面
第19回	⑥研究論文の作成・充実（2）	対面
第20回	⑦研究論文の作成・充実（3）	対面
第21回	⑧研究論文の作成・充実（4）	対面
第22回	⑨研究論文の作成・充実（5）	対面
第23回	⑩研究論文の作成・充実（6）	対面
第24回	⑪仮提出された研究論文の修正	対面
第25回	⑫最終報告会の準備	対面
第26回	⑬最終報告会	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 ゼミナール方式で行いますが、重要なことは、指導教員との“協働”です。指導教員のオフィスワークを積極的に活用しながら、授業時間外による調査・論究がきわめて重要となります。多くの時間を割いて論文作成に努めてください。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	最終論文（50%） 最終成果報告（10%） 定期的な提出物（40%）
テキスト	【テキスト】 適宜プリントを配布します。
参考文献	【参考文献】 『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎　ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポビ][原(一)]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、それについて適切な方法にもとづいて調査・研究を実践します。そして、最終的に論文としてまとめ、その成果を発表する等のスキルを身に付けることを目的とします。
到達目標	春学期：論文の基本的作成方法を理解し、適切な研究方法にしたがって研究（調査）することができる。 秋学期：研究論文を完成させ、その成果について分かりやすく説明できる。
授業の進め方	本講義は、担当指導教員のゼミナール方式です。研究方法の基礎を学ぶとともに、各自の選択したテーマについての論文作成作業の経過報告を中心にグループ討議、個別の論文作成指導を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【春学期】 ①オリエンテーション	対面
第2回	②論文作成の基本的作法について（1）	対面
第3回	③論文作成の基本的作法について（2）	対面
第4回	④研究テーマの検討・決定（1）	対面
第5回	⑤研究テーマの検討・決定（2）	対面
第6回	⑥「問題の所在」「研究目的」の文章化（1）	対面
第7回	⑦「問題の所在」「研究目的」の文章化（2）	対面
第8回	⑧研究方法の検討（個人）（1）	対面
第9回	⑨研究方法の検討（個人）（2）	対面
第10回	⑩研究方法の検討（ゼミ）（1）	対面
第11回	⑪研究方法の検討（ゼミ）（2）	対面
第12回	⑫調査（1）（※夏季休業期間にも実施する）	対面
第13回	⑬調査（2）	対面
第14回	【秋学期】 ①中間報告会	対面
第15回	②研究論文のアウトラインの検討（1）	対面
第16回	③研究論文のアウトラインの検討（2）	対面

第17回	④研究論文のアウトラインの検討（3）	対面
第18回	⑤研究論文の作成・充実（1）	対面
第19回	⑥研究論文の作成・充実（2）	対面
第20回	⑦研究論文の作成・充実（3）	対面
第21回	⑧研究論文の作成・充実（4）	対面
第22回	⑨研究論文の作成・充実（5）	対面
第23回	⑩研究論文の作成・充実（6）	対面
第24回	⑪仮提出された研究論文の修正	対面
第25回	⑫最終報告会の準備	対面
第26回	⑬最終報告会	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 ゼミナール方式で行いますが、重要なことは、指導教員との“協働”です。指導教員のオフィスワークを積極的に活用しながら、授業時間外による調査・論究がきわめて重要となります。多くの時間を割いて論文作成に努めてください。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	最終論文（50%） 最終成果報告（10%） 定期的な提出物（40%）
テキスト	【テキスト】 適宜プリントを配布します。
参考文献	【参考文献】 『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎　ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポビ][栗野]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、それについて適切な方法にもとづいて調査・研究を実践します。そして、最終的に論文としてまとめ、その成果を発表する等のスキルを身に付けることを目的とします。
到達目標	春学期：論文の基本的作成方法を理解し、適切な研究方法にしたがって研究（調査）することができる。 秋学期：研究論文を完成させ、その成果について分かりやすく説明できる。
授業の進め方	本講義は、担当指導教員のゼミナール方式です。研究方法の基礎を学ぶとともに、各自の選択したテーマについての論文作成作業の経過報告を中心にグループ討議、個別の論文作成指導を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【春学期】 ①オリエンテーション	対面
第2回	②論文作成の基本的作法について（1）	対面
第3回	③論文作成の基本的作法について（2）	対面
第4回	④研究テーマの検討・決定（1）	対面
第5回	⑤研究テーマの検討・決定（2）	対面
第6回	⑥「問題の所在」「研究目的」の文章化（1）	対面
第7回	⑦「問題の所在」「研究目的」の文章化（2）	対面
第8回	⑧研究方法の検討（個人）（1）	対面
第9回	⑨研究方法の検討（個人）（2）	対面
第10回	⑩研究方法の検討（ゼミ）（1）	対面
第11回	⑪研究方法の検討（ゼミ）（2）	対面
第12回	⑫調査（1）（※夏季休業期間にも実施する）	対面
第13回	⑬調査（2）	対面
第14回	【秋学期】 ①中間報告会	対面
第15回	②研究論文のアウトラインの検討（1）	対面
第16回	③研究論文のアウトラインの検討（2）	対面

第17回	④研究論文のアウトラインの検討（3）	対面
第18回	⑤研究論文の作成・充実（1）	対面
第19回	⑥研究論文の作成・充実（2）	対面
第20回	⑦研究論文の作成・充実（3）	対面
第21回	⑧研究論文の作成・充実（4）	対面
第22回	⑨研究論文の作成・充実（5）	対面
第23回	⑩研究論文の作成・充実（6）	対面
第24回	⑪仮提出された研究論文の修正	対面
第25回	⑫最終報告会の準備	対面
第26回	⑬最終報告会	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 ゼミナール方式で行いますが、重要なことは、指導教員との“協働”です。指導教員のオフィスワークを積極的に活用しながら、授業時間外による調査・論究がきわめて重要となります。多くの時間を割いて論文作成に努めてください。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	最終論文（50%） 最終成果報告（10%） 定期的な提出物（40%）
テキスト	【テキスト】 適宜プリントを配布します。
参考文献	【参考文献】 『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎　ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	【未】卒業研究[スポビ][平澤]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08008T

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、それについて適切な方法にもとづいて調査・研究を実践します。そして、最終的に論文としてまとめ、その成果を発表する等のスキルを身に付けることを目的とします。
到達目標	春学期：論文の基本的作成方法を理解し、適切な研究方法にしたがって研究（調査）することができる。 秋学期：研究論文を完成させ、その成果について分かりやすく説明できる。
授業の進め方	本講義は、担当指導教員のゼミナール方式です。研究方法の基礎を学ぶとともに、各自の選択したテーマについての論文作成作業の経過報告を中心にグループ討議、個別の論文作成指導を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【春学期】 ①オリエンテーション	対面
第2回	②論文作成の基本的作法について（1）	対面
第3回	③論文作成の基本的作法について（2）	対面
第4回	④研究テーマの検討・決定（1）	対面
第5回	⑤研究テーマの検討・決定（2）	対面
第6回	⑥「問題の所在」「研究目的」の文章化（1）	対面
第7回	⑦「問題の所在」「研究目的」の文章化（2）	対面
第8回	⑧研究方法の検討（個人）（1）	対面
第9回	⑨研究方法の検討（個人）（2）	対面
第10回	⑩研究方法の検討（ゼミ）（1）	対面
第11回	⑪研究方法の検討（ゼミ）（2）	対面
第12回	⑫調査（1）（※夏季休業期間にも実施する）	対面
第13回	⑬調査（2）	対面
第14回	【秋学期】 ①中間報告会	対面
第15回	②研究論文のアウトラインの検討（1）	対面
第16回	③研究論文のアウトラインの検討（2）	対面

第17回	④研究論文のアウトラインの検討（3）	対面
第18回	⑤研究論文の作成・充実（1）	対面
第19回	⑥研究論文の作成・充実（2）	対面
第20回	⑦研究論文の作成・充実（3）	対面
第21回	⑧研究論文の作成・充実（4）	対面
第22回	⑨研究論文の作成・充実（5）	対面
第23回	⑩研究論文の作成・充実（6）	対面
第24回	⑪仮提出された研究論文の修正	対面
第25回	⑫最終報告会の準備	対面
第26回	⑬最終報告会	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 ゼミナール方式で行いますが、重要なことは、指導教員との“協働”です。指導教員のオフィスワークを積極的に活用しながら、授業時間外による調査・論究がきわめて重要となります。多くの時間を割いて論文作成に努めてください。
	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	最終論文（50%） 最終成果報告（10%） 定期的な提出物（40%）
テキスト	【テキスト】 適宜プリントを配布します。
参考文献	【参考文献】 『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎　ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ[スピ][横山]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、応用演習Ⅰ・Ⅱ、テーマ研究Ⅰで修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とする。各自のテーマを追究し、テーマ研究の論文執筆と成果発表を行う。執筆過程において、論理的思考力と文書作成能力を身に付け、成果発表では、視覚的資料の作成能力とプレゼンテーション能力を身に付けることを目指す。
到達目標	年間計画と進捗状況を確認し、計画の修正および、予測的に行動する能力を身に付ける。また、個々のテーマに基づき、研究結果と考察、結論を論理的かつ明確に説明することができる。
授業の進め方	基本的には、演習形式とディスカッション形式で実施する。本講義では、各自で作成した年間計画書に基づき、テーマの目的、方法、結果、考察を自ら検討する能動的な学修を目指す。また、個々の研究に応じて、必要であればフィールドワークを行い、調査してきた内容や疑問点をディスカッションし、情報共有や意見交換を行う。なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ゼミ内合同ガイダンス / 交流企画①	対面授業
第2回	ゼミ内合同交流企画②	対面授業
第3回	テーマ研究（質的情報と量的情報のまとめ方）	対面授業
第4回	テーマ研究（結果発表と考察検討 / ディスカッション）	対面授業
第5回	テーマ研究（結果発表と考察検討 / ディスカッション）	対面授業
第6回	テーマ研究（結果発表と考察検討 / ディスカッション）	対面授業
第7回	テーマ研究（目的と結論の確認）	対面授業
第8回	テーマ研究（目的と結論の確認）	対面授業
第9回	ゼミ内合同 就活講座 / ライフプラン作成	対面授業
第10回	テーマ研究（発表資料作成）	対面授業
第11回	テーマ研究（発表資料作成）	対面授業
第12回	ゼミ内合同発表リハーサル	対面授業
第13回	テーマ研究報告会	対面授業

事前・事後学修	論文の執筆と発表資料の作成は、講義だけでは間に合わないため、事前事後の学習および夏季休暇、冬季休暇の時間を必ず活用して下さい。基本的には、個々が作成した年間計画書に沿って研究を進めて下さい。毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックします。 なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	論文発表（40％） 論文提出（60％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	個々のテーマに関連する分野に応じて、参考文献を紹介する。

備考	個々のテーマや研究方法によっては、アンケートやインタビュー、実地調査があるため、それに応じて活動費用や交通費が発生する可能性があります。また、テーマに関する資料収集では、参考図書を購入してもらう可能性もありますので、予めご了承ください。秋学期の授業では、夏季休暇期間中の成果を報告してもらいます。計画的に論文執筆と発表資料の作成を進めください。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔スピ〕〔原(一)〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08007S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の 目的と 概要	3年次の応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱ、春学期のテーマ研究Ⅰを踏まえ、引き続き調査研究を継続し、レポートを作成します。春学期の反省点を踏まえ、課題発見能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力などをさらに伸ばしていきますが、最終発表に向け、特に読解力と文章作成能力の向上は重視しています。
到達目 標	各自でテーマを設定し、テーマ研究を通して、調べる力、まとめる力、発表する力を身につけます。特に最終発表では、プレゼンテーション能力が問われるため、発表資料、内容を万人にわかりやすく伝えることができるようになります。
授業の 進め方	ゼミナール形式と個別指導形式の両輪で動きます。ゼミナールでは活発な討議や意見交換を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、フィードバックについても授業内で直接行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス	対面
第2回	②進捗状況の確認、秋学期活動方針の検討	対面
第3回	③秋学期活動方針の決定	対面
第4回	④最終レポート作成に向けた計画書作成	対面
第5回	⑤最終レポート作成に向けた計画書提出・意見交換	対面
第6回	⑥最終レポート作成（コンテンツ構成、序論、本論、考察、まとめ、図表、参考文献等）	対面
第7回	⑦最終レポート作成（コンテンツ構成、序論、本論、考察、まとめ、図表、参考文献等）	対面
第8回	⑧最終レポート作成（コンテンツ構成、序論、本論、考察、まとめ、図表、参考文献等）	対面
第9回	⑨最終レポート作成（コンテンツ構成、序論、本論、考察、まとめ、図表、参考文献等）	対面
第10回	⑩最終レポート作成（コンテンツ構成、序論、本論、考察、まとめ、図表、参考文献等）	対面
第11回	⑪最終レポート作成（コンテンツ構成、序論、本論、考察、まとめ、図表、参考文献等）	対面
第12回	⑫ブレ発表会	対面
第13回	⑬最終報告会	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 日頃からインターネットや新聞、テレビのニュース番組で時事問題に触れていると研究の視野も広がります。大学は自ら学ぶところです。わからないことは放置せず、まずは「自分で調べる」習慣をつけてください。	2025/04/01

	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「圧倒的な努力」と「圧倒的な結果」は比例します。成績評価は①毎回の課題（50％）②最終報告会（50％）です。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	必要に応じて資料を配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔スピ〕〔栗野〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、テーマ研究における論文執筆へ向けた集大成として、その準備を中心に行う。したがって、応用演習、テーマ研究での学修を通して獲得した基礎的なスキルや、それを応用できる力に基づいて、調査内容の取捨選択、文章の吟味、プレゼンテーションや意見交換をより高いレベルで実施する。これらを通して、高い識字能力の獲得と、それらを使用して自らの考えを表現できる力の獲得を目指す。
到達目標	【到達目標】 ①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力を身に付ける。また、自らの研究テーマについての内容を整理し、プレゼンできるようにする。 ②これまでに修得した知識を整理し、系統立てて論文にまとめる。 ③ゼミ内でディスカッションを行い、他の学生が書いた文章や、プレゼンテーションした内容を理解し、アドバイスできる力を身に付ける。
授業の進め方	【講義方法】 本講義はゼミナール形式で演習を実施する。テーマ研究Ⅰに継続する形で、文献のより詳細な検討および吟味を行い、学術的な論文や書籍の内容を理解し、整理できる力を身に付ける。また、その内容を人にわかりやすく説明し、自らの考えを伝えられる能力を身に付ける。学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 反転学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
第2回	②各自テーマの再検討1(研究分野の吟味)
第3回	③各自テーマの再検討2(論文執筆へ向けた計画の検討)
第4回	④研究分野の情報収集1(文献の追加検索)
第5回	⑤研究分野の情報収集2(文献の追加取得)
第6回	⑥各自の研究テーマ発表1(プレゼンテーション)
第7回	⑦各自の研究テーマ発表2(ディスカッション)
第8回	⑧最終発表会に向けた資料作成(1アウトライン作成)
第9回	⑨最終発表会に向けた資料作成2(追加情報の取得)
第10回	⑩最終発表会に向けた資料作成3(プレゼン内容の確認)
第11回	⑪ゼミ内でのプレ発表会1(流れの確認)

第12回	⑫ゼミ内でのプレ発表会2(前回の課題修正)
第13回	⑬最終発表会

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。授業ごとに前述に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。 【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人発表(30%) 課題提出状況(40%) 最終発表(30%)

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅱ〔スピ〕〔平澤〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08007S

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	春学期のテーマ研究Ⅰを踏まえ、引き続き調査研究、レポート作成を行っていきます。春学期に培い、見つけ出した部分をさらに掘り下げ、課題の発見やレポート作成、プレゼンテーション能力を伸ばしていきます。 最終形であるテーマ研究発表に向け、より充実した内容の構築と向上を目指していきます。
到達目標	各自のテーマ設定に基づいた研究を通し、調べる・まとめる・整え発表する力を身に付けましょう。
授業の進め方	ゼミ形式と個別指導形式で進んでいますが、ゼミ内での積極的な意見交換を行います。

アクティブ・ラーニング

体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で個別解説や解決方法を学び、適時にフィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	秋学期活動方針の検討と方針決定	対面
第3回	最終テーマ研究に向けた計画書の作成及び提出	対面
第4回	最終テーマ研究作成①（構成）	対面
第5回	最終テーマ研究作成②（序論）	対面
第6回	最終テーマ研究作成③（本論）	対面
第7回	最終テーマ研究作成④（考察）	対面
第8回	最終テーマ研究作成⑤（まとめ）	対面
第9回	最終テーマ研究作成⑥（参考文献まとめ）	対面
第10回	最終テーマ研究作成⑦（テーマ研究論文仕上げ）	対面
第11回	テーマ研究抄録、PP提出	対面
第12回	4 年次ゼミ講習会	対面
第13回	テーマ研究最終報告会	対面

事前・事後学修	各自で選んだ「テーマ」です。理解はもちろんのこと、人に調べる・まとめる。整え発表する力を身に付けます。 最終発表に向けてプレゼン能力の向上を目指します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	● 2025/04/01

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・研究および情報収集＝20％ ・テーマ研究作成＝50％ ・最終プレゼンテーション能力＝30％
参考文献	※必要に応じて配布します。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔スピ〕〔横山〕
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、応用演習Ⅰ・Ⅱで修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とする。各自でテーマを設定し、テーマ研究の論文を執筆する。執筆する過程において、論理的思考力と文書作成能力を身に付けることを目指す。また、定期的にゼミ内で、各自の調査・研究内容について報告会を開催し、プレゼンテーション能力を磨き、意見交換のなかで批判的思考力を身に付けることを目指す。
到達目標	年間計画書を作成し、計画的且つ、予測的に行動する能力を身に付ける。また、個々のテーマに基づき、研究目的と研究方法を明確に説明することができる。
授業の進め方	本講義では、各自で作成した年間計画書に基づき、テーマ研究の目的、方法、結果、考察を自ら検討する能動的な学修を目指す。また、個々の研究に応じて、必要であればフィールドワークを行い、調査してきた内容や疑問点をディスカッションし、情報共有や意見交換を実施する。 なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	研究テーマ報告 / 年間計画作成	対面授業
第2回	ゼミ内合同ガイダンス / 交流企画①	対面授業
第3回	テーマ研究（目的設定）	対面授業
第4回	テーマ研究（情報収集）	対面授業
第5回	テーマ研究（情報収集 / 研究方法検討）	対面授業
第6回	テーマ研究（情報収集 / 研究方法検討）	対面授業
第7回	ゼミ内合同交流企画②	対面授業
第8回	テーマ研究（先行研究および研究方法の発表 / ディスカッション）	対面授業
第9回	テーマ研究（先行研究および研究方法の発表 / ディスカッション）	対面授業
第10回	テーマ研究（発表資料作成）	対面授業
第11回	テーマ研究（発表資料作成）	対面授業
第12回	ゼミ内合同発表リハーサル	対面授業
第13回	テーマ研究中間報告会	対面授業

事前・事後学修	論文の執筆と発表資料の作成は、講義だけでは間に合わないため、事前事後の学習および夏季休暇、冬季休暇の時間を活用して下さい。基本的には、個々が作成した年間計画に沿って研究を進めて下さい。個々の年間計画によりますが、基本的には、1週間で4時間以上の学習時間を目安とします。 なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	論文発表（60％） 論文提出（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	個々のテーマに関連する分野に応じて、参考文献を紹介する。

備考	個々のテーマや研究方法によっては、アンケートやインタビュー、実地調査があるため、それに応じて活動費用や交通費が発生する可能性があります。また、テーマに関する資料収集では、参考図書を購入してもらう可能性もありますので、予めご了承ください。夏季休暇期間中には、計画書に沿って論文執筆の作業を進めください。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔スピ〕〔原(一)〕
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08006S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	3年次の応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱを踏まえ、各自でテーマを設定してもらいます。課題発見能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力などを伸ばしていきますが、特に重視しているのはプレゼンテーション能力です。
到達目標	各自でテーマを設定し、テーマ研究を通して、調べる力、まとめる力、発表する力を身につけます。
授業の進め方	ゼミナール形式と個別指導形式の両輪で動きます。ゼミナールでは活発な討議や意見交換を行います。

アクティブ・ラーニング

PBL フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともにフィードバックについても授業内で行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	概ね以下のとおりです。 ※予告なく内容が変わる場合もあります。 ①ガイダンス	対面
第2回	②活動方針の検討～決定	対面
第3回	③テーマ設定に関わる情報収集（文献、インターネット）	対面
第4回	④テーマ設定に基づいた計画書の作成	対面
第5回	⑤テーマ設定に基づいた計画書提出・意見交換	対面
第6回	⑥テーマ設定に基づいた研究活動（文献、インターネット、フィールドワークなど）	対面
第7回	⑦テーマ設定に基づいた研究活動（文献、インターネット、フィールドワークなど）	対面
第8回	⑧テーマ設定に基づいた研究活動（文献、インターネット、フィールドワークなど）	対面
第9回	⑨テーマ設定に基づいた研究活動（文献、インターネット、フィールドワークなど）	対面
第10回	⑩中間報告レポートの作成	対面
第11回	⑪中間報告レポートの作成	対面
第12回	⑫中間報告会	対面
第13回	⑬振り返り、秋学期スケジュール確認	対面

【具体的な内容】 日頃からインターネットや新聞、テレビのニュース番組で時事問題に触れていると研究の視野も広がります。大学は自ら学ぶところです。わか2025/04/01は

事前・事後学修	放置せず、まずは「自分で調べる」習慣をつけてください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「圧倒的な努力」と「圧倒的な結果」は比例します。成績評価は①毎回の課題（50％）②中間報告会50％です。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	必要に応じて資料を配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔スピ〕〔栗野〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	テーマ研究では、応用演習で調査した資料を参考に、各自のテーマを設定し、論文を執筆する。執筆する過程において、より発展的な知識、論理的思考、および文書作成能力の獲得を目指す。また、進捗報告会を通してプレゼンテーション能力を磨き、意見交換のなかで自己のテーマについて、より深く考えていく。したがって、本演習では、3年次までに修得した基礎的知識や学修スキルをさらに発展させ、応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」等の学修形態を通じて、文章を「読む」、「書く」、「要約し、整理する」、そして「人に伝える」といった力をさらに伸ばす。
到達目標	【到達目標】 ①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力を身に付ける。また、それに対し、自らの考えを述べることができるようになることを目指す。②これまでに修得した知識を整理し、他人にプレゼンテーションできる力を身に付ける。③文献検索方法や、関連資料の入手方法など、基本的な学習方法を身に付け、使いこなせるようにする。
授業の進め方	【講義方法】 本講義はゼミナール形式で演習を実施する。文献の調査および要約を行い、学術的な論文や書籍の内容を理解し、整理できる力を身に付ける。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付ける。学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
第2回	②テーマ研究に関連する情報収集1(研究分野について方向性の検討)
第3回	③テーマ研究に関連する情報収集2(研究分野について具体的な計画の検討)
第4回	④テーマ研究に関連する文献調査1(文献の検索)
第5回	⑤テーマ研究に関連する文献調査2(文献の取得)
第6回	⑥関連分野に関する文献調査1(文献の検索)
第7回	⑦関連分野に関する文献調査2(文献の取得)
第8回	⑧中間報告会資料の作成1(中間報告会発表資料のアウトライン作成)
第9回	⑨中間報告会資料の作成2(中間報告会発表資料の作成)
第10回	⑩中間報告会資料の作成4(発表練習)
第11回	⑪中間報告会資料の作成5(発表練習と課題の提出)
第12回	⑫中間報告会資料の作成6(資料の見直しと修正)

第13回	⑬中間報告会

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。また、PCや図書館を使用した情報収集を行うので、それぞれ活用することに慣れておくこと。授業ごとに前述の内容に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。 【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人発表(30%) 課題提出状況(40%) 中間発表報告会(30%)

年度	2025
講義名称	テーマ研究Ⅰ〔スピ〕〔平澤〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB08006S

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	3年次の応用演習Ⅰ、同Ⅱを踏まえ各自でテーマを設定し、課題の発見、レポート作成、プレゼンテーションなどの各能力を高めていきます。まずはテーマ研究中間発表をわかりやすく伝えるためのプレゼン能力を磨きつつ、執筆準備を進めていきましょう。
到達目標	各自のテーマ設定に基づき、その研究を通して調べる・まとめる・整えて発表する力を身に付けましょう。
授業の進め方	ゼミ形式と個別指導形式で進んでいきますが、ゼミ生同士の活発な意見交換も行っています。

アクティブ・ラーニング

ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で個別解説や解決方法を探り、適時フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	テーマ設定についてのプレゼンテーション	対面
第3回	テーマ設定に基づいた情報収集①（PC、文献を活用した具体的調査）	対面
第4回	テーマ設定に基づいた情報収集②（PC、文献を活用した具体的調査②）	対面
第5回	テーマ設定に基づいた情報収集③（PC、文献を活用したデータ調査）	対面
第6回	テーマ設定に基づいた計画書作成①（個人での調査開始、主要箇所へのアゴ取り）	対面
第7回	テーマ設定に基づいた計画書作成②（主要箇所への取材およびインタビュー）	対面
第8回	テーマ設定に基づいた研究活動①（PCを活用してのまとめ①）	対面
第9回	テーマ設定に基づいた研究活動②（PCを活用してのまとめ②）	対面
第10回	中間報告会に向けての準備①（PP作成）	対面
第11回	中間報告会に向けての準備②（PP作成～仕上げ）	対面
第12回	中間報告会に向けての準備③（PPゼミ内発表＝リハーサル兼ねる）	対面
第13回	テーマ研究中間報告会	対面

事前・事後学修	自ら選んだ「テーマ」です。自らの研究理解はもちろん、人に伝えるということを大切に考えながら前に進みましょう。 「テーマ研究」に必要となる情報収集に対し、意欲的にたくさんのアンテナを張り巡らせてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ テーマ設定、計画書作成 = 30% ・ 研究、情報収集 = 30% ・ 中間報告レポートなど作成～発表 = 40%
参考文献	※必要に応じて配布します。

年度	2025
講義名称	[夏集]スポーツフィールドワークⅡ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07702S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本授業は、長期休業期間を活用し、海外のスポーツビジネス関連組織においてフィールドワークを行うことで、スポーツビジネスの現場理解を深めることを目的としています。現地での視察や実践的な活動を通じて、異なる文化や経済環境のもとでどのようにスポーツビジネスが運営されているのかを学び、理論と実践を結びつける機会を提供します。さらに、現場での経験をもとに、国内外のスポーツビジネスの共通点や相違点について考察し、スポーツ産業におけるグローバルな視野を養うことを目指します。
到達目標	本授業では、海外のスポーツビジネス現場におけるフィールドワークを通じて、理論と実践を結びつけながら学びを深めることを目的としています。 スポーツビジネスの実践的理解を深めるために、現地のスポーツ関連組織の運営やマーケティング戦略、ビジネスモデルについて学び、実際の現場での業務やプロジェクトに触れながら理解を深めます。 国際的な視野の獲得を目指し、異なる文化や経済環境におけるスポーツビジネスの特徴を学ぶことで、国内外の共通点や相違点を把握し、グローバルな視点を養います。 課題発見・分析力の向上にも取り組みます。フィールドワークを通じて得た情報をもとに、スポーツビジネスにおける課題を見つけ、それらを多角的に分析・考察する力を身につけます。 実践的なコミュニケーション能力の向上にも重点を置きます。現地のスポーツビジネス関係者との交流を通じて、専門的な議論ができる基礎的なコミュニケーション能力を養い、異文化環境での対話力を高めます。
授業の進め方	本授業は、夏季休暇中に海外のスポーツビジネス関連組織での研修を中心に実施し、事前学習・現地研修・事後学習の3つのステップで進めます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で開設をするとともに、必要に応じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	事前説明会
第2回	事前授業
第3回	海外での学外学修
第4回	海外での学外学修
第5回	海外での学外学修
第6回	海外での学外学修
第7回	海外での学外学修
第8回	海外での学外学修
第9回	海外での学外学修
第10回	海外での学外学修
第11回	海外での学外学修

第12回	海外での学外学修
第13回	研修成果報告発表

事前・事後学修	事前学修では、海外のスポーツビジネスに関する基礎知識を習得し、現地での学びをより深めるための準備を行います。具体的には、スポーツビジネスの基本概念や国際的なトレンドについて理解を深めるとともに、訪問先のスポーツビジネス環境や文化的背景を調査します。また、研修の目的を明確にし、学習課題を設定した上で、現地での学びを最大限に活かせるよう準備を進めます。 事後学修では、現地研修で得た知見を整理し、学びを定着させるための振り返りを行います。具体的には、研修内容を振り返るディスカッションを実施し、個々の学びを共有することで新たな視点を得る機会を作ります。また、研修の成果をまとめたレポートを作成し、最終的にはプレゼンテーションを行うことで、学びを言語化し、アウトプットする力を高めます。

成績評価基準と方法	事前学修、課題 20％ 事後学修、レポート 20％ 海外学修中の活動への取り組み 60％
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	必要に応じて指示します。

年度	2025
講義名称	ヘルスプロモーション
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07616S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、今の時代に沿ったヘルスプロモーションの定義や概念のもと、健康の重要性について理解を深め、健康増進と向上のため、日常生活や専門のスポーツで偏りや歪んだ身体を自覚し、自らの身体の課題へ向けて 調整/改善していく身体を自覚します。自己の身体の課題を踏まえた上で健康へ向けてコントロールする方法や工夫する力を育みます。それぞれの立場やジェネレーションに沿った健康を増進のための多様な運動について理論と方法を学修します。
到達目標	① 健康であることの重要性を理解し、生活習慣の改善に努める。 ② 運動と健康との関連性を理解し、積極的に身体を動かす習慣を持ち、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	運動生理学に基づいたトレーニングを基本に実践します。また、グループワークによる発表を行い、他者と関わりコミュニケーション能力を高めながら心と体の運動を知覚し健康への理解を深めます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭による質疑応答でフィードバックを行います。

事前・事後学修	【具体的な内容】 習得したトレーニング方法を日常生活の中で振り返って実行してください。日々の生活の中で新聞やニュースなどで目にした健康づくりの情報の収集を行ってください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①取り組みと発表 50％ ②まとめのレポート 50％

年度	2025
講義名称	スポーツツーリズム
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07615L

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本授業では、スポーツを活用した観光産業の発展と地域振興について学び、スポーツツーリズムの基礎知識や実践的な事例を理解することを目的とします。スポーツツーリズムが経済、社会、文化、環境へ与える影響を多角的に考察し、持続可能なツーリズムの企画・運営を行うための知識とスキルを習得します。特に、近年注目されているeスポーツツーリズムにも着目し、eスポーツが観光産業や地域活性化にどのように貢献できるのかを検討します。最終的に、学生の皆さんがスポーツツーリズムやeスポーツツーリズムの実践的な企画を立案し、発表できることを目指します。 スポーツツーリズムの定義や分類、国内外の成功事例を学ぶとともに、スポーツイベントやマーケティング、地域振興、インバウンド政策など、多様な視点からスポーツツーリズムを分析します。さらに、持続可能性やテクノロジーの活用といった最新のトレンドも取り入れながら、スポーツツーリズムの可能性を探ります。また、eスポーツツーリズムに関する事例も紹介し、国際大会や地域eスポーツイベントがどのように観光資源となるのかを考察します。eスポーツカフェや施設の活用、オンラインとオフラインの融合による新たな観光の形についても議論します。 最終課題として、学生の皆さんにはスポーツツーリズムまたはeスポーツツーリズムの企画を立案し、プレゼンテーションを行っていただきます。理論と実践を結びつけることで、より実践的な学びを提供します。
到達目標	・スポーツツーリズムの基礎知識を理解し、事例を分析できる ・スポーツツーリズムの経済・社会的影響やマーケティング戦略を考察できる ・スポーツツーリズムの企画を立案し、発表できる
授業の進め方	本授業は、講義を通じてスポーツツーリズムやeスポーツツーリズムの基礎知識を学び、ディスカッションやケーススタディを通じて理解を深める形式で進めます。また、フィールドワークやリサーチを通じて実際のスポーツツーリズムの現場を学び、最終的に企画立案とプレゼンテーションを行うことで実践的な学びを得ることを目的とします。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバックや、課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行います。特に、企画立案やレポート課題については、講義内での講評やグループディスカッションを通じた相互フィードバックの機会を設け、理解を深めることを目指します。また、最終課題に向けては段階的なフィードバックを実施し、企画のブラッシュアップを支援します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	イントロダクション & スポーツツーリズムとは？
第2回	スポーツツーリズムの分類
第3回	スポーツイベントとツーリズム
第4回	スポーツツーリズムと地域振興
第5回	スポーツツーリズムの経済的影響
第6回	スポーツツーリズムとメディア
第7回	スポーツツーリズムのマーケティング戦略
第8回	ヘルスツーリズムとスポーツツーリズム
第9回	インバウンドとスポーツツーリズム
第10回	持続可能なスポーツツーリズム

第11回	テクノロジーとスポーツツーリズムスポーツツーリズム企画発表
第12回	スポーツツーリズム企画立案
第13回	スポーツツーリズム企画発表

事前・事後学修	講義に備え、スポーツツーリズムの基本的な概念について事前に調べ、自分なりの理解を深めておいてください。また、「スポーツと観光のつながり」について考え、どのような形で観光産業と結びついているのかを整理しておくことが望ましいです。特に、関心のあるスポーツの事例を一つ選び、それが観光とどのように関わっているのかを調査し、現状や課題について考えてみてください。

成績評価基準と方法	・授業内の小課題の提出・小テスト 30％ ・大きな課題レポート 30％ ・最終発表 40％
テキスト	適宜指示します。
参考文献	「スポーツツーリズム・ハンドブック」（高橋義雄他）学芸出版社

年度	2025
講義名称	フィットネス演習
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07614S

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、フィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級の資格取得をめざします。 本講義では、フィットネス市場の基本となる総合業態に関する基礎的な知識の獲得と実技を通じて健康づくりとトレーニングの実践方法を学修していきます。また、フィットネスクラブの設備、運営、実務業務、顧客対応など、マネジメントに関する知識の獲得を目的とします。
到達目標	フィットネス産業の概要とフィットネスクラブの運営に必要な基礎的な知識を身に付ける。また、実技を通して、トレーニング器具の正しい使い方を理解し、説明できる。
授業の進め方	本講義では、講義形式と実技形式で行います。 講義形式では、教員が専門テキストを用いて授業を展開し、フィットネス産業の概要やクラブを運営するための運営業務、フロント実務、顧客対応などの知識の獲得をめざします。 実技形式では、講義形式で獲得した知識を基に、カーディオ機器やトレーニング器具の使い方、運営業務、フロント実務など、実践的な学びをめざします。

アクティブ・ラーニング

体験学習 反転学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎講義の振り返りとして、授業内容に沿った過去問を出題し、授業の理解度を図ります。また、質問・意見・感想などコミュニケーションを取り、質問に関しては、翌時間の冒頭に回答するなどして、前時の復習を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面授業
第2回	フィットネス産業概論	対面授業
第3回	健康づくり	対面授業
第4回	運動、トレーニングの基礎	対面授業
第5回	トレーニング器具の使い方（実技）	対面授業
第6回	運営業務・フロント実務	対面授業
第7回	顧客対応、コミュニケーション	対面授業
第8回	運営業務、フロント実務、顧客対応の実践（実技）	対面授業
第9回	施設・設備の安全確保	対面授業
第10回	安全衛生	対面授業
第11回	資格試験対策Ⅰ	対面授業
第12回	資格試験対策Ⅱ	対面授業
第13回	まとめ（筆記テスト）	対面授業

事前・事後学修	事前学習では、次回の授業範囲について、テキストを一読してきて下さい。授業の内容がスムーズに理解できます。 事後学習では、資格試験に向けて、授業内容の復習をして下さい。また、資格試験前には、過去問を配布します。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	筆記テスト（60％） 授業内課題（40％）
テキスト	『フィットネスクラブマネジメント公式テキスト基礎 ベーシック』 一般社団法人日本フィットネス産業協会 定価：3,500円＋税 （履修者には、必ずテキストの購入をしていただきます。）
参考文献	適宜プリントを配布します。

備考	履修者は、フィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級の試験を受験することが必須条件となります。そのため、受験料の一部を自己負担することになりますので、ご承知おき下さい。なお、未受験の場合は、補助金の対象にはなりません。 履修希望者は、必ず初回の授業に出席してください。初回の授業参加者のみ履修登録を認めます。何らかの事情で初回の授業を欠席する場合は、必ず事前に科目担当者に連絡してください。

年度	2025
講義名称	健康産業論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07613L

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	超少子・高齢化が進む中で、健康維持・増進には大きな関心が寄せられています。 健康寿命の延伸のため、少子高齢者を対象とする健康産業の領域は多様な業種へ広がりをみせています。自分の身近にある健康に関する産業を調査し、新型コロナウイルス感染拡大で浮き彫りとなった健康産業の変遷や、今後の課題を踏まえて健康産業のあり方について考察してゆきます。
到達目標	【到達目標】 ① 健康産業の現状と課題を理解する ② 健康産業に関心を持ち、積極的に関わる姿勢を身につける ③ 今後の健康産業の行方を予想し対応できるようになる スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる
授業の進め方	【講義方法】 基本的に講義形式で行いますが、必要に応じてテーマを設定し調査のためのフィールドワークでの活動やグループワークでの発表など、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については授業内で解説するとともに、振り返りシートで理解度を確認し助言します。

事前・事後学修	【具体的な内容】 常日頃からニュースや新聞などで最近の社会や企業の動き、健康・スポーツ産業に関する情報に目を向け入手し、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。 【必要な時間】 予習予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 発表 40％ ② 提出物 30％ ③ まとめレポート 30％	2025/04/01

年度	2025
講義名称	健康運動論
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07612L

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、運動と健康に関するトピックを幅広く扱い、生涯にわたって自らの健康の維持増進を考えるための基本的な知識を身につけることを目標にする。講義の中では、健康と運動やそれに関連した分野の研究報告なども紹介し、知識のアップデートを図る。必要に応じてグループワーク等も取り入れ、理論を学ぶだけでなく、より実践的な学修を促進する機会を設ける。
到達目標	【到達目標】 ①健康運動に関する基礎的知識の獲得 ②健康運動に関する情報収集方法やアプリ・ツールの効果的活用方法の習得 ③健康運動に関する課題解決に向けたノウハウを身につける。
授業の進め方	【講義方法】 講義の前半は、健康と運動に関する科学的な知見を研究報告などを参考に学修する。講義の後半では、学修した知識を生活の場面でどのように取り入れながら実践できるか等について幅広く考える。また、必要に応じて健康運動に関する専門家を招き、より現実に沿った解決策を模索する機会を設ける。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②健康や運動に関する考え方についての近年の動向
第3回	③健康運動に関する基礎講義①(我が国の健康増進に関する取り組み)
第4回	④健康運動に関する基礎講義②(加齢と健康)
第5回	⑤健康運動に関する基礎講義③(ヒトの身体と健康)
第6回	⑥健康運動に関する基礎講義④(健康の維持増進と運動)
第7回	⑦健康運動に関する基礎講義⑤(健康の維持増進とレジスタンストレーニング)
第8回	⑧健康運動に関する基礎講義⑥(健康の維持増進と加圧トレーニング)
第9回	⑨健康運動に関する発展講義①(特別講義・講師招聘等)
第10回	⑩健康運動に関する発展講義②(特別講義・講師招聘等)
第11回	⑪健康運動に関する発展講義③(特別講義・講師招聘等)
第12回	⑫グループディスカッション(発表計画)
第13回	⑬まとめレポートの作成

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前および事後学習として、「専門領域において高度な専門知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で課題解決に関する情報収集に関する課題を課す。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題提出と取り組み状況(40%) グループ発表・課題等(30%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	スポーツビジネス演習Ⅱ
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07611S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	初年度教育からさまざまな角度で「スポーツビジネス」を学び検証してきました。本講義ではその応用として、企業が経営の中でのイベントを企画運営することで利益を生み、顧客を獲得する方法を学び、授業内で実際に自分たちでイベント内のブース出展や商品開発をグループワーク（GW）として考え起こす、より実践的、能動的な学びを目的とした授業を進めています。
到達目標	スポーツビジネスを幅広く理解し、どんなビジネスがあり、どんなイベントを仕掛けて成り立っているのかを学びます。1、2年で学んだ「スポーツビジネス論」「スポーツビジネス演習Ⅰ」で学んだ知識を実際のブース出展やグッズ企画などに活用し、テーマに対しての探求心を養うことを目標とします。
授業の進め方	本講義は教員2人が担当します。学科必修科目である「スポーツビジネス論Ⅰ、Ⅱ」から紐づけされ、つながる講義やGW、フィールドワーク（FW）、そして専門職として企画・運営を司っている特別講師を招いての授業。さらに最終的にはイベントへのブース出展を行います。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個人やグループによる研究を通して随時行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	スポーツビジネスとイベント開催の関係性	対面
第3回	外部講師特別授業（A-bank北海道・木村圭吾氏）	対面
第4回	コンサドーレ主催試合（プレミストドーム）当日のブース出展について	対面
第5回	プレミストドームブース出展企画・運営①（グッズ、広報、ブース企画）	GW
第6回	プレミストドームブース出展企画・運営②（グッズ、広報、ブース企画、グループ分け）	GW
第7回	プレミストドームブース出展企画・運営③（各グループとコンサドーレ、関係各所との打ち合わせ）	GW
第8回	プレミストドームブース出展企画・運営④（グッズ製品の企画・発注～入荷など各グループ日程確認）	GW
第9回	プレミストドームブース出展企画・運営⑤（出展に向けた全体像の確認と打ち合わせ）	対面、GW
第10回	プレミストドームブース出展ブース最終確認①（グッズ、広報、ブース各グループの最終準備）	GW
第11回	プレミストドームブース出展ブース最終確認②（各グループによるリハーサル）	GW
第12回	プレミストドームブース出展ブース最終確認③（各グループによるリハーサル）	GW
第13回	プレミストドームブース出展ブース最終確認③（全体でのリハーサルおよび本番に向けての確認準備）	GW

事前・事後学修	普段からニュースなど時事ネタを見聞し、興味を持った話題や情報などをストックしておいてください。企画や運営をする上で非常に大切になってきます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・講義や企画、イベントに対する意欲＝30％ ・FW、GW、特別授業の理解力、応用力＝30％ ・レポート、GW発表＝40％
参考文献	※必要に応じて配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、平澤がスポーツ新聞の記者として33年間勤務し、そのうち21年間ファイターズを担当するなど、豊富な取材経験を持っています。田子は、一般企業からスポーツ新聞社を経てコンサドーレで広報として11年間活動。これらの実務経験を基に、スポーツ報道と広報の視点を活かした学びを提供する講義を展開します。
備考	※特別授業の講師や日程に関しては都合により変更されることがあります。 ※FWなどで交通費など実費がかかることがあります。

年度	2025
講義名称	スポーツビジネス演習Ⅰ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07610S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	初年度教育からさまざまな角度で「スポーツビジネス」を学び検証してきました。本講義ではその応用として、企業が経営の中でのイベントを企画運営することで利益を生み、顧客を獲得する方法を学び、授業内で自分たちによる仮想イベントの構築や商品開発をグループワーク（GW）として考え起こすなど、より実践的感覚を目的とした授業を進めていきます。
到達目標	スポーツビジネスを幅広く理解し、どんなビジネスがあり、どんなイベントを仕掛けて成り立っているのかを学びます。1、2年で学んだ「スポーツビジネス論」から、より実践的な知識を学び、テーマに対しての探求心を養うことを目標とします。
授業の進め方	本講義は教員2人が担当します。学科必修科目である「スポーツビジネス論Ⅰ、Ⅱ」から紐づけされ、つながる講義やGW、フィールドワーク（FW）、そして専門職として企画・運営を司っている特別講師を招いての講義などを展開していきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個人やグループによる研究を通して随時行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	スポーツビジネスとは？ イベント企画・運営とは？	対面
第3回	外部講師特別授業（A-bank北海道・木村圭吾氏）	対面
第4回	特別講義についてのGWおよびレポート	GW
第5回	仮想イベント企画・運営①（グッズ＝企画）	GW
第6回	仮想イベント企画・運営②（グッズ＝製作準備、業者とのアポ取り）	GW
第7回	仮想イベント企画・運営③（グッズ＝業者と打ち合わせ）	GW
第8回	仮想イベント企画・運営④（グッズ＝製品の発注～入荷など日程確認）	GW
第9回	プレミストドーム仮想イベント出展準備①（出展に向けた社内打ち合わせ～コンサドールへの諸連絡）	対面、GW
第10回	プレミストドーム仮想イベント出展準備②（エリア内のデザイン、導線確認など）	GW
第11回	プレミストドーム仮想イベント出展準備③（本番に向けた具体的な役割確認）	GW
第12回	プレミストドーム仮想イベント出展準備④（リハーサル及び発表に向けたパワーポイント作成）	GW
第13回	各グループによる仮想イベント出展構想発表	GW（PP作成発表）

事前・事後学修	普段からニュースなど時事ネタを見聞し、興味を持った話題や情報などをストックしておいてください。企画や運営をする上で非常に大切になってきます。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・講義や企画、イベントに対する意欲＝30％ ・FW、GW、特別授業の理解力、応用力＝30％ ・レポート、GW発表＝40％
参考文献	※必要に応じて随時配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、平澤がスポーツ新聞の記者として33年間勤務し、そのうち21年間ファイターズを担当するなど、豊富な取材経験を持っています。田子は、一般企業からスポーツ新聞社を経てコンサドーレで広報として11年間活動。これらの実務経験を基に、スポーツ報道と広報の視点を活かした学びを提供する講義を展開します。

年度	2025
講義名称	スポーツ情報戦略Ⅱ
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07609S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、スポーツ現場から得た情報を正しく戦略的に伝えることの重要性について、演習形式で学ぶ授業である。スポーツ現場の情報に価値を持たせるため、ICT（Information and Communication Technology＝情報伝達技術）を活用し、定性的情報および定量的情報の分析、伝達、共有、プレゼンテーション方法など、スポーツ情報戦略の基礎知識と実践力を融合した応用力を身に付けることを目的とする。
到達目標	映像解析ソフトを用いた情報戦略の基礎的知識と技術を理解することができる。スポーツ場面での活用に向けて、映像解析ソフトで用いる知識と技術を活用することができる。
授業の進め方	本講義は、基本的に講義形式にて実施するが、必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れる。また、講義後半にはPBLにて、主体的かつ能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / スポーツ情報戦略Ⅰの振り返り	対面授業
第2回	映像編集の基礎（トリミング、テキスト挿入）	対面授業
第3回	映像編集の応用（速度変化、BGM挿入）	対面授業
第4回	授業内課題①（課題映像の作成）	対面授業
第5回	動作解析の基本（撮影動作の企画、準備）	対面授業
第6回	動作撮影とダートフィッシュ	対面授業
第7回	ダートフィッシュを活用した動作解析（サイマルカム / ストロモーション）	対面授業
第8回	ダートフィッシュを活用した映像解析（3Dアナライザー）	対面授業
第9回	スポーツアナリスト体験Ⅰ（抽出情報の検討）	GW / PBL
第10回	スポーツアナリスト体験Ⅱ（定性的情報と定量的情報の抽出）	GW / PBL
第11回	スポーツアナリスト体験Ⅲ（定性的情報と定量的情報の加工）	GW / PBL
第12回	スポーツアナリスト体験Ⅳ（定性的情報と定量的情報の加工、発表資料作成）	GW / PBL
第13回	スポーツアナリスト体験Ⅴ（発表）	GW / PBL

事前・事後学修	本講義では、スポーツに関わる情報を取り扱うため、平日頃からニュース、新聞などで、最近の情報を入手するよう心がけてください。また、授業後に課題を提示することがあります。授業内容を振り返り、次回の授業までにまとめてください。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内課題（20％） 課題（30％） グループワーク（50％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適時紹介する。

備考	本授業は、「スポーツ情報戦略Ⅰ」を履修済みであることを履修条件とします。また、授業内で映像解析ソフトを使用するため、履修制限を設けることがあります。

年度	2025
講義名称	スポーツ情報戦略Ⅰ
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07608L

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	スポーツを取り巻く環境にIT（Information Technology = 情報技術）は、必要不可欠なキーワードである。近年では、スポーツの「する」「みる」「ささえる」のいずれの場面においても、ITが活用されている。そのため、本講義ではスポーツ情報戦略の基本である情報の収集、分析、加工、編集など、スポーツ情報戦略の基礎知識を得ること、及び情報を様々な形で媒体化できるよう実践力を身に付けることを目的とする。
到達目標	スポーツ情報戦略の基礎的知識を理解することができ、スポーツ場面での活用に向けて、映像編集などの知識を活用することができる。
授業の進め方	本講義は、基本的に講義形式にて実施するが、必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 情報戦略の起源	対面授業
第2回	スポーツと情報戦略 / 定性的・定量的情報とは	対面授業
第3回	映像に隠された情報とは（定性的情報）	対面授業
第4回	映像から数値情報を抽出（定性的情報から定量的情報へ）	対面授業
第5回	映像から数値情報を抽出Ⅱ（IT活用：タギング）	対面授業
第6回	数値情報をデータ化（定量的分析の準備）	対面授業
第7回	数値情報の加工、可視化（定量的分析の基礎）	対面授業
第8回	数値情報の比較、相関（定量的分析の応用）	対面授業
第9回	映像（動作）から必要な情報を収集 / 動画撮影（動作）の注意点とポイント	対面授業
第10回	アプリ（Dartfish Express）を用いた撮影	対面授業
第11回	撮影映像（動作）から数値情報の抽出と分析	対面授業
第12回	情報の加工、伝達、共有	対面授業
第13回	まとめ / 授業内レポート	対面授業

事前・事後学修	本講義では、スポーツに関わる情報を取り扱うため、常日頃からニュース、新聞などで、最近の情報を入手するよう心がけてください。また、授業後に課題を提示することがあります。授業内容を振り返り、次回の授業までにまとめてください。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内課題（80％） レポート（20％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適時紹介する。

備考	本講義の履修を検討している学生は、「情報機器操作」「表計算」「ITパスポート演習」の単位を修得していることが望ましいです。

年度	2025
講義名称	プロスポーツ経営論
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07607L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は2004年に北海道に移転を果たし、その後より北海道に根ざすため新ボールパーク（BP）構想を打ち上げ、現在は北広島市のエスコンフィールドを舞台に躍動している北海道日本ハムファイターズの経営と組織づくりをはじめ、80年以上の歴史を誇るプロ野球への理解を深め、その中で息づくスポーツビジネスを学びます。また、プロ球団・クラブだけではなく、ファイターズ移転を機に球場がある住所を「Fビレッジ」と改称し、BPと共存共栄を目指している北広島市にもスポットをあて考察するなど、さまざまな角度からスポーツビジネスを検証していきます。
到達目標	プロスポーツの中でも特に「プロ野球ビジネス」を理解していきます。また地域に及ぼす影響なども掘り下げ、ファンの獲得や地域に根ざす意義を広く学修し、明確にしていく。
授業の進め方	本講義は33年間、スポーツ新聞記者として歩んできた教員が実際に現場で見聞し、感じてきた「プロスポーツ」をさら深掘りし、いかに利益につなげる「経営」に結び付けているのかを研究します。また、講義内では特別講師を招き、その内容を視聴することで好奇心や興味を見出し、学生個人やグループワーク（GW）による学びを追求します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	GWによる実践やディスカッションを取り入れます。その都度、助言などをしていきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	経営とは？ プロスポーツとは？	対面
第3回	北海道におけるプロスポーツ	対面
第4回	ファイターズの移転（球団、本拠地）における北海道の変化	対面
第5回	プロ野球の移転を考える（外部講師特別授業）	対面、グループワーク
第6回	ボールパークを探る	対面
第7回	選手育成とスカウティング①（GM制導入に見るチーム強化）	対面
第8回	選手育成とスカウティング②（ドラフト指名に到るスカウトマンの仕事）	対面
第9回	選手育成とスカウティング③（仮想ドラフト会議）	GW
第10回	ボールパークのマチ・北広島市を考える①	対面
第11回	ボールパークのマチ・北広島市を考える②（外部講師特別授業）	対面、GW
第12回	ボールパークのマチ・北広島市を考える③（レポート、GW）	対面、GW
第13回	まとめ	対面

事前・事後学修	プロ野球の歴史やファイターズの移転などの情報や歩みを各自で収集。さらにBPに関してのさまざまな視点や取り組み、考え方などをまとめておいてください。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 講義においての意欲、出席率＝20％ ・ GWや特別授業への理解や応用判断＝40％ ・ 講義内テストおよびレポート＝40％
参考文献	※必要に応じて配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、道新スポーツ報道部で33年間記者として勤務し、NPB担当記者や野球殿堂選考委員として活躍しました。ファイターズの本拠地移転を追い続けた経験を基に、スポーツ報道の実務と分析力を学べる講義を展開します。
備考	※特別授業の講師や日程に関しては都合により変更されることがあります。 ※FWなどで交通費など実費がかかることがあります。

年度	2025
講義名称	スポーツコマース
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07606L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、スポーツ商業の基本的な知識や思考について、北海道コンサドーレ札幌の事例を中心に学んでいきます。パートナー契約、マーチャンダイジング、興行、スポーツツーリズムなど、全体的な理解を深め、プロスポーツが持つ商業に関する知識を深めます。
到達目標	スポーツマーケティングの基礎知識を理解します。
授業の進め方	本講義は基本的に講義形式にて行います。必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指します。 プロスポーツビジネス実務経験のある教員が、そのキャリアの中で経験したさまざまなビジネス要素を授業の中で提供し、加えて外部講師やグループワークを実施（予定）し、知識を深めていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、講義内で解説します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	スポーツビジネスについて
第3回	北海道コンサドーレ札幌の商業①チケット
第4回	北海道コンサドーレ札幌の商業②グッズ
第5回	北海道コンサドーレ札幌の商業③パートナー契約
第6回	北海道コンサドーレ札幌の商業④その他
第7回	北海道コンサドーレ札幌の商業に関するディスカッション
第8回	北海道コンサドーレ札幌のマーケティング戦略
第9回	北海道コンサドーレ札幌の商業に関するグループワーク
第10回	外部講師講和 北海道コンサドーレ札幌MD事業部予定
第11回	Jリーグの商業①各パートナー
第12回	Jリーグの商業②放映権ビジネスなど
第13回	期末レポート

事前・事後学修	事前学習として授業内で提示される領域について調べること。事後学習として配布資料を振り返るなどで理解を深めて欲しいと思います。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義に対する意欲、出席(20%) レポート(40%) 講義内テスト(40%)
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	授業の中で、適時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	2014年から2019年までサッカーJリーグ・北海道コンサドーレ札幌の広報・PR部門を担当し、2020年から22年まで会場運営、2023年から再び広報・プロモーション領域を担当した経験を持つ教員が、北海道コンサドーレ札幌の各種商業を紹介する形で授業を進めています。
備考	外部講師として株式会社コンサドーレのMD事業部西村様の講和を予定しています。

年度	2025
講義名称	スポーツマーケティング
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07605L

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の 目的と 概要	本講座は、スポーツビジネスに重要なスポーツ・マーケティングについて、そのマーケティング理論とその実践的应用について学びます。 プロスポーツチーム、スポーツ用品メーカー、スポーツイベント運営など、多様な領域でのケーススタディを通じて、スポーツ産業特有のマーケティング戦略と消費者心理を探索します。 ソーシャルメディアを活用したファンエンゲージメント、データ分析に基づいた戦略立案など、マーケティング理論の融合を学ぶことで、変化し続けるスポーツビジネス環境において競争優位を築くための知識と視点を養います。 また、授業で学ぶマーケティングの基礎理論は、一般的な企業でも実践されているものですので、スポーツ産業でのキャリアを目指す学生はもちろん、他業界でのマーケティング知識の応用を考える学生にとっても価値ある学びの場となることを目指します。
到達目 標	マーケティングの基本概念とスポーツビジネスへの応用方法を説明できる スポーツ消費者の行動特性と心理を理解し、ターゲット設定ができる スポーツブランドの構築要素と価値創造のプロセスを理解できる デジタルメディアを活用したスポーツマーケティング戦略を考案できる 地域密着型スポーツクラブの特性を理解し、地域との関係構築について説明できる
授業の 進め方	各回の授業は以下の構成で進行します。 前半60分：講義（理論、事例紹介、ポイント解説） 後半45分：グループワーク、ディスカッション、発表 講義では視覚的な資料を多用し、具体的な事例を織り交ぜながら理解しやすい解説を行います。グループワークでは4～5名のチームに分かれ、各回のテーマに沿った課題に取り組みます。時事的なスポーツビジネスのニュースや記事を題材として、実践的な討論を行うこともあります。一部の授業では、学生による発表の時間を設けます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・振り返りレポートは採点后、優れた提案や改善点について授業内で全体共有 ・グループ発表に対して、教員および他グループからの評価とコメントを提供 ・個別の質問・相談はオフィスアワー対応または、振り返りレポート（質問欄）への回答を実施 ・最終発表については講評（ルーブリック評価）シートを作成し、各グループに配布

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンスとスポーツ・マーケティング概論 ガイダンスとして、本講座の概要と目的、授業の流れ、評価について説明します。 スポーツビジネスの市場などスポーツマーケティングの基礎について事例を含めて理解を深めます。	対面
第2回	②スポーツ消費者の理解-ファン心理とセグメンテーション スポーツマーケティングにおける消費者やファンの特性や心理、市場セグメンテーションなどについて事例を含めて理解を深めます。	対面
第3回	③マーケティングリサーチ - データ収集と分析 スポーツにおけるマーケットリサーチの方法、データ活用などの実際の事例も含めて学びます。	対面
第4回	④スポーツ・ブランディング - アイデンティティ構築 ブランドの概念、スポーツブランドの構築要素、価値創造など事例を含めて理解を深めます。	対面
第5回	⑤製品戦略 - スポーツ用品とサービス スポーツ商品開発プロセス、ユーザー体験デザイン、製品ライフサイクルなど、事例を含めて学びます。	対面

第6回	⑥スポーツマーケティング 映像鑑賞(1) - スポーツメーカーのブランド戦略 スポーツマーケティングに関する映像を鑑賞し、スポーツメーカーのブランド戦略について考察します。	対面
第7回	⑦スポーツマーケティング 映像鑑賞(2) - マーケティング分析 ⑥と同じ映像の続編を鑑賞し、企業のマーケティング戦略の変遷等を検討いたします。	対面
第8回	⑧価格戦略 - スポーツビジネスの収益（ビジネス）モデル 価格設定、チケット価格戦略、会員制モデル、収益最大化などビジネスモデルについて事例を含めて理解を深めます。	対面
第9回	⑨流通戦略 - スポーツ商品の販売チャネル スポーツのチケットやグッズなど販売における流通経路の種類、リテール戦略、オムニチャネル、販売方法について事例を含めて理解を深めます。	対面
第10回	⑩プロモーション戦略 - コミュニケーションとメディア活用 スポーツマーケティング（プロモーション）によるプロモーション手法、広告戦略、SNS活用、パブリシティなど事例を含めて理解を深めます。	対面
第11回	⑪スポンサーシップとパートナーシップ スポンサーシップの種類と効果、Win-Winの関係構築、ROI測定など事例を含めて理解を深めます。	対面
第12回	⑫デジタルマーケティングとソーシャルメディア スポーツ界におけるデジタル戦略、SNS活用事例、ファンエンゲージメントなど事例を含めて理解を深めます。	対面
第13回	⑬まとめとテスト 講座の総括とテストを実施します。	対面

事前・事後学修	事前学修： 必要な事前に獲得した方がよい知識・技能として ・スポーツや健康に関する一般的な知識・関心 ・スポーツビジネス概論、スポーツマネジメント論などの基礎科目の履修が望ましい ・最新テクノロジーに関する知識や興味関心 ・グループワークやディスカッションに積極的に参加できるコミュニケーション能力 ・基本的なPCスキル（Word, Excel, PowerPointの基本操作） ・社会問題や地域課題に対する関心 など、ただし、授業内容を十分理解できるよう、講義では基礎から丁寧に説明します。スポーツやプロスポーツクラブの事例分析等について特別な予備知識は必要ありませんが、関心のある学生は試合観戦などを通じて実際の体験を得ることも推奨します。 事後学修 授業で学んだポイントの簡単な振り返り 身近な事例への適用を考える 次回授業に向けた準備（必要に応じて）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業参加度・グループワーク貢献：30%（グループワークへの参加姿勢、発言頻度、協調性を評価） 毎時間の振り返りレポート：40%（マーケティングの基本概念の理解度を評価） テスト：30%（講座内容の知識理解、マーケティング視点での分析力、応用力を評価）
テキスト	特定のテキストは使用せず、講義ごとに必要に応じて資料を配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	『スポーツマーケティング改訂版』原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高（大修館書店） 『スポーツビジネス最強の教科書』平田竹男（東洋経済新報社） 『マーケティングの基本』フィリップ・コトラー著、恩蔵直人監訳（日経BP社） 『スポーツ・マネジメント理論と実務』山下秋二・原田宗彦編著（大修館書店）

備考	グループワークは4～5名のチームで行います。チーム編成は第1回授業で決定します。 授業で紹介する事例は最新のものを取り入れるため、適宜内容を更新することがあります。 学生の理解度や関心に応じて、授業計画を一部変更する可能性があります。 授業内で使用するニュース記事や映像は著作権法に基づき教育目的で使用します。 質問や相談は授業終了後、またはメールで受け付けます。 講座については、突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等により、日程の変更や授業方法が変更となります。その場合は、オンライン、オンデマンドでの授業もしくは補講を実施いたします。補講実施日は休日になる可能性もあり、スケジュールの調整が必要になります。

年度	2025
講義名称	スポーツビジネス論Ⅱ
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB07604L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の 目的と 概要	本講義ではスポーツビジネス論Ⅰで学んだスポーツに関するさまざまな仕事や役割、支えることをさらに追及していきます。中でも北海道コンサドーレ札幌の“アジア戦略“をテーマに授業を進めていきます。
到達目 標	スポーツビジネスを幅広く理解し、そのビジネス一つ一つに対しての成り立ちや応用を常に考えられる思考を持つことを目標とします。テーマごとの情報収集や、その情報を整理することで知識を高めていきます。
授業の 進め方	プロスポーツビジネス実務経験のある教員が、そのキャリアの中で経験したさまざまなビジネス要素を授業の中で提供し、学生とともにスポーツビジネスの可能性を追求します。外部講師やフィールドワーク、グループワークを実施（予定）し、最新のスポーツビジネスの考え方を学ぶ機会とします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個人やグループ学習を通して随時行います。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	スポーツビジネスとは
第3回	なぜスポーツビジネスが成り立つのか
第4回	北海道コンサドーレ札幌のビジネス①（チケット・グッズ）
第5回	北海道コンサドーレ札幌のビジネス②（パートナー契約）
第6回	北海道日本ハムファイターズのビジネス
第7回	高校スポーツに見るビジネス
第8回	講義前半振り返り（グループワーク）
第9回	コンサドーレのアジア戦略①(チャナティップ選手の例)
第10回	コンサドーレのアジア戦略②(スパチャョーク選手含めた最近の例)
第11回	コンサドーレのアジア戦略③(外部講師予定)
第12回	グループワーク発表
第13回	まとめ

事前・事後学修	スポーツを「する」「見る」「支える」機会は多いと思います。地元プロスポーツチームの活動や、地上波やオンラインで目にする海外プロスポーツ、ナショナルチーム同士で対戦する国際大会もあります。そこから発信されるものを自分自身の中で受け入れ、講義などの学びにぜひ活かしてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 講義に対する意欲、出席(20%) ・ 講義内テスト、レポート(40%) ・ フィールドワーク、グループワーク、特別授業（予定）(40%)
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	授業の中で、適時紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	2014年から2019年までサッカーJリーグ・北海道コンサドーレ札幌の広報・PR部門を担当し、2020年から22年まで会場運営、2023年から再び広報・プロモーション領域を担当した経験を持つ教員が、プロスポーツビジネスの中で北海道コンサドーレ札幌の“アジア戦略”に関する部分を掘り下げて授業を進めています。

年度	2025
講義名称	[夏集]スポーツフィールドワークⅠ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB06701S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	株式会社楽天野球団との共同展開授業です。本学卒業生が球団職員として働いている同球団に出向き、プロスポーツチームの運営に関わる実践的な知識と経験を修得し、仕事としてのプロスポーツを考察します。
到達目標	・プロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界への理解を深めてもらいます。 ・プロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界への就業意欲を高めてもらいます。 ・仕事の仕組み「お客様を呼ぶ（営業力、企画力）」「お客様をお迎えする（興行運営）」についての知識を修得してもらいます。 ・以上のことを踏まえプロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界が求めている人材像を明確化してもらいます。
授業の進め方	本授業は実務経験のある教員の指導による講義と株式会社楽天野球団の職員（本学卒業生）による講義および実習を織り交ぜた演習形式で行われます。また実際の現場で体感をするアクティブラーニングです。授業前半は講義、授業後半はグループワークになります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	①本学での事前・事後学習 ②楽天モバイルパーク宮城視察および試合観戦 上記二部構成で行われ、それぞれ楽天野球団職員、教員からフィードバックをします。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	本授業は集中講義です。8月1日～6日の間で開講します。正式な日程はあらためてご案内致します。 なおフィールドワークは下記のとおりです。 8月7日（木）午前：移動 午後：楽天モバイルパーク仙台視察（卒業生アテンド）および試合観戦（オリックスブルーウェーブ戦） 8月8日（金）午前：仙台市役所スポーツ振興課にて課題発表 午後：ユアテックスタジアム仙台視察 自由行動を経て帰札 ①ガイダンス（昨年度の資料や動画をもとに授業内容・展開について説明） 球団職員オンライン参加（業界・会社説明および課題提示） ※球団職員のスケジュールの都合上、今年度は課題解決ワークを先に行います。	対面
第2回	②課題解決ワークⅠ	対面
第3回	③課題解決ワークⅡ	対面
第4回	④課題発表（球団職員オンライン参加） ※優秀チーム（2グループ）は仙台市役所スポーツ振興課で発表	対面
第5回	⑤フィールドワークとは？	対面
第6回	⑥楽天グループについて	対面

第7回	⑦楽天野球団の求める人物像について	対面
第8回	⑧東北、宮城県、仙台市について	対面
第9回	⑨（訪問にあたり）コンプライアンスとビジネスマナー	対面
第10回	⑩まとめ	対面
第11回	⑪フィールドワーク ※現地	対面
第12回	⑫フィールドワーク ※現地	対面
第13回	⑬フィールドワーク ※現地	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 就職先としてのプロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界は狭き門です。それでも採用される人はいます。しかし「スポーツが好き」なだけでは採用されません。プラスアルファが必要です。日頃からメディアに目を通し、世の中で起きていることを他人事ではなく自分事として捉える習慣をつけてください。本授業は観光旅行ではありません。調査研究です。事前のリサーチはきちんとしておいてください。 【必要な時間】 事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	楽天モバイルパーク宮城視察および試合観戦が必須であり、以下の要領で評価します。 ①事前学習における課題（50％） ②事後学習におけるレポート作成（50％）
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	必要に応じて資料を配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	25名限定です。 自己負担額は55,000円（飛行機代、宿泊代）＋2,000円（試合観戦チケット代）程度です。旅行代理店（H.I.S.）を通じて申し込みますが、早割・団体割引を適用させるので、参加費は5月に回収します。折からの物価高の影響を受け、飛行機代、宿泊代も高騰しています。予めご了承ください。なお現地交通費や食事代は実費となります。 履修者は全ての日程に参加する必要があります。集団で行動しますので、単独での行動は認められません。 詳細スケジュール等は別途提示します。

年度	2025
講義名称	eスポーツ概論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB06617L

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	この授業では、eスポーツの基礎知識から業界の構造、教育的な活用方法、社会への影響まで幅広く学びます。eスポーツの歴史や主要な大会、マーケティング戦略、法的規制、健康問題といった課題についても取り上げ、ゲーム文化を多角的に理解することを目指します。さらに、教育現場や地域社会での実践事例を紹介し、PBL教育との関連性についても考察します。学生はディスカッションやレポート作成を通じて批判的思考を養い、最終的にレポートで学びを総括することで、eスポーツの未来を見据えた創造的な視点を身につけます。
到達目標	この授業では、eスポーツの基礎知識を習得し、業界の構造やマーケティング、法規制などについて理解を深めます。また、eスポーツの教育的応用と社会的影響について学び、教育現場や地域社会での活用事例を通じて、その可能性を考察します。さらに、批判的思考力と分析力を養うためにディスカッションやレポート作成を行い、PBL教育を活用した課題解決能力を高めることを目指します。最終的に、eスポーツの未来に向けた創造的な発想力を育成し、新たな可能性を見出す力を身につけます。
授業の進め方	この授業では、講義・ディスカッション・実践的な課題を組み合わせ、知識の習得だけでなく、自ら考え、表現し、社会に応用できる力を養うことを目指します。まず、講義を通じてeスポーツに関する基礎知識や業界の最新動向、教育的活用事例などを学び、教材や映像資料を活用しながら理解を深めます。その後、講義内容に関連したテーマについてディスカッションを行い、学生同士の意見交換を通じて批判的思考力や分析力を養います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：講義の目的と概要
第2回	eスポーツの歴史
第3回	ゲームジャンルと競技性
第4回	eスポーツ大会と運営
第5回	eスポーツと教育的応用
第6回	ゲームと健康問題
第7回	スポンサーシップとマーケティング
第8回	メディアとストリーミング文化
第9回	eスポーツ産業の課題と倫理
第10回	グローバル展開と地域活性化
第11回	eスポーツと法規制
第12回	将来展望：AIとメタバースの影響
第13回	まとめと発表

事前・事後学修	事前学修では、授業内で扱うテーマについて事前に調査し、自身の意見や疑問点を整理しておくことで、ディスカッションや課題への理解を深めることができます。 事後学修では、特に最終レポートでは、授業全体を通じた考察をまとめ、eスポーツの未来に向けた提案を行うことで、学びを総括します。

成績評価基準と方法	授業内課題 30% レポート 30% 最終発表 40%
テキスト	授業の中で適宜配布します。
参考文献	授業の中で適宜配布します。

年度	2025
講義名称	スポーツビジネス論Ⅰ
講義開講時期	秋学期第1Q
必修区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB06603L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義ではスポーツビジネスをさまざまな角度から検証し、根差している専門分野の基本的な理解を得ることを目的とします。
到達目標	スポーツビジネスを幅広く理解し、どんな仕事（役割）があり、どのように成り立っているのかを学びます。知識を得るために情報を収集、整理し、テーマに対して意欲を持って取り組むことを望みます。
授業の進め方	本講義はスポーツ紙記者歴33年の教員が担当します。「北海道日本ハムファイターズ」をはじめとするプロ野球や北海道に根ざすプロスポーツ球団・クラブ、さらに高校野球や一般スポーツ、北海道ならではのウインタースポーツなどの取材経験を生かした内容を学びに紐づけ、研究テーマとして掘り下げていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個人やグループによる調査、研究を通して、随時行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	北海道のプロスポーツに見るスポーツビジネス	対面
第3回	北海道日本ハムファイターズの球団組織を考える	対面
第4回	北海道日本ハムファイターズの本拠地移転に見るビジネス	対面
第5回	プロアスリートや監督（指導者）ビジネス	対面
第6回	プレミストドーム（札幌ドーム）を考える①（存在、歴史、これから）	対面、GW
第7回	プレミストドーム（札幌ドーム）を考える②	FW、GW
第8回	スポーツ報道、マスコミ考察	対面、GW
第9回	スポーツメーカーに見るビジネス	対面
第10回	地域密着スポーツビジネス（大相撲、プロ野球キャンプ、カーリング）	対面
第11回	モータースポーツが持つ魅力とビジネス①	対面
第12回	モータースポーツが持つ魅力とビジネス②	対面
第13回	講義内テストおよびまとめ	対面

事前・事後学修	プロ・アマを問わずスポーツを見る機会が多いと思います。テレビや生観戦などを通して感じたものを自らストックし、情報を得てください。講義などに活かせる話題や題材がらと思います。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ 講義に対する意欲、出席＝20％ ・ 講義内テスト＆レポート＝40％ ・ フィールドワーク、グループワーク、特別授業＝40％ ※事前・事後のレポートは評価において重要となります。
参考文献	※必要に応じて時事配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、道新スポーツ報道部で33年間記者として活躍し、特に2004年シーズンからファイターズの北海道移転を追い続け、番記者としての経験を積みました。また、北海道メディア初の野球殿堂選考委員として選考に携わりました。これらの経験を基に、報道現場の視点を活かした実践的な講義を展開します。
備考	※特別授業の講師や日程に関しては都合により変更されることがあります。 ※FWなどで交通費など実費がかかることがあります。

年度	2025
講義名称	北海道とスポーツⅡ
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB06602S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、北海道のスポーツをテーマとしたスポーツビジネス学科の専門的な初年次教育科目であり、春学期の「北海道とスポーツⅠ」の継承科目として位置づく科目である。この授業では、スポーツビジネスの現場に触れることを通して、4年間の学びへの動機づけと意欲の喚起を図るとともに学生ならではの視点からスポーツとビジネスを想像（創造）することを目指す。
到達目標	スポーツビジネスに関心を持った上で、今日の北海道におけるスポーツビジネスの社会的、経済的な現状を理解することができる。また、それらの現状を鑑み、学生の視点から新たなスポーツビジネスの可能性を考える力を身に付ける。
授業の進め方	本講義では、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開する。また、実際の現場で実務経験を有するゲストを迎えた聴講学習を行い、現場重視の実践的な授業を展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 北海道のプロスポーツとは	対面授業
第2回	北海道のスポーツを知るⅠ（外部講師：エスポラーダ北海道）	対面授業 / 聴講
第3回	北海道のスポーツを見るⅠ（観戦：エスポラーダ北海道）	フィールドワーク
第4回	北海道のスポーツを見るⅠ（観戦：エスポラーダ北海道）	フィールドワーク
第5回	北海道のスポーツを学ぶⅠ（グループワーク：エスポラーダ北海道）	対面授業 / GW
第6回	北海道のスポーツを知るⅡ（外部講師：アルテミス北海道）	対面授業 / 聴講
第7回	北海道のスポーツを見るⅡ（観戦：アルテミス北海道）	フィールドワーク
第8回	北海道のスポーツを見るⅡ（観戦：アルテミス北海道）	フィールドワーク
第9回	北海道のスポーツを学ぶⅡ（グループワーク：アルテミス北海道）	対面授業 / GW
第10回	北海道のスポーツを知るⅢ（外部講師：レッドイーグルス北海道）	対面授業 / 聴講
第11回	北海道のスポーツを見るⅢ（観戦：レッドイーグルス北海道）	フィールドワーク
第12回	北海道のスポーツを見るⅢ（観戦：レッドイーグルス北海道）	フィールドワーク
第13回	北海道のスポーツを学ぶⅢ（グループワーク：レッドイーグルス北海道）	対面授業 / GW

2025/04/01

事前・事後学修	本講義では、北海道のプロスポーツを中心に扱うため、常日頃からニュース、新聞などで、最近の情報を入手するよう心がけてください。また、授業後に課題を提示することがあります。授業内容を振り返り、次回の授業までにまとめてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題（90％） レポート（10％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適時紹介する。

備考	フィールドワークは休日を利用して実施します。先方との日程調整が必要になるため、実施日は流動的になります。

年度	2025
講義名称	北海道とスポーツⅠ
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB06601S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、北海道のスポーツをテーマとしたスポーツビジネス学科の専門的な初年次教育科目である。この授業では、スポーツビジネスの現場に触れることを通して、4年間の学びへの動機づけと意欲の喚起を図るとともに学生ならではの視点からスポーツとビジネスを想像（創造）することを目指す。
到達目標	スポーツビジネスに関心を持った上で、今日の北海道におけるスポーツビジネスの社会的、経済的な現状を理解することができる。また、それらの現状を鑑み、学生の視点から新たなスポーツビジネスの可能性を考える力を身に付ける。
授業の進め方	本講義では、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開する。また、実際の現場で実務経験を有するゲストを迎えた聴講学習を行い、現場重視の実践的な授業を展開する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	口頭によるフィードバック、Web class等を使用した課題に対するフィードバックを授業内外で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス / 北海道のプロスポーツとは	対面授業
第2回	北海道のスポーツを知るⅠ（外部講師：レバンガ北海道）	対面授業 / 聴講
第3回	北海道のスポーツを見るⅠ（観戦：レバンガ北海道）	フィールドワーク
第4回	北海道のスポーツを見るⅠ（観戦：レバンガ北海道）	フィールドワーク
第5回	北海道のスポーツを学ぶⅠ（グループワーク：レバンガ北海道）	対面授業 / GW
第6回	北海道のスポーツを知るⅡ（外部講師：北海道コンサドーレ札幌）	対面授業 / 聴講
第7回	北海道のスポーツを見るⅡ（観戦：北海道コンサドーレ札幌）	フィールドワーク
第8回	北海道のスポーツを見るⅡ（観戦：北海道コンサドーレ札幌）	フィールドワーク
第9回	北海道のスポーツを学ぶⅡ（グループワーク：北海道コンサドーレ札幌）	対面授業 / GW
第10回	北海道のスポーツを知るⅢ（外部講師：北海道日本ハムファイターズ）	対面授業 / 聴講
第11回	北海道のスポーツを見るⅢ（観戦：北海道日本ハムファイターズ）	フィールドワーク
第12回	北海道のスポーツを見るⅢ（観戦：北海道日本ハムファイターズ）	フィールドワーク
第13回	北海道のスポーツを学ぶⅢ（グループワーク：北海道日本ハムファイターズ）	対面授業 / GW

事前・事後学修	本講義では、北海道のプロスポーツを中心に扱うため、常日頃からニュース、新聞などで、最近の情報を入手するよう心がけてください。また、授業後に課題を提示することがあります。授業内容を振り返り、次回の授業までにまとめてください。 2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題（90％） レポート（10％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適時紹介する。

備考	フィールドワークは休日を利用して実施することがあります。先方との日程調整が必要になるため、実施日は流動的になります。

年度	2025
講義名称	野外活動理論・演習[スポ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05510P スポーツ指導学科：SPI05717P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	自然と親しみながら野外で楽しく活動するための知識、技術、態度を身につける。 また、子どもたちの「生きる力」を育むために有効とされる、自然体験学習を理解する。 自然に親しみ、大切にする心を養うなど環境教育に対する意識も高める。
到達目標	野外活動を安全に体験するための知識、技術、態度が身に付いている。 自然体験活動を理解するとともに、環境に対する意識も高め、積極的に実践することができる。
授業の進め方	前半7回は講義と演習を主として教室での通常授業を行う。 残り6回分は実習として、屋外で2日間の集中講義とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での課題や質疑については、その都度または翌週に解説する。 確認テストについては、翌週返却し回答および解説を行う。 実習については、必要に応じてその都度フィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	講義
第2回	学内実習①	実習
第3回	理論①	講義
第4回	理論②	講義及び演習
第5回	理論③	講義及び演習
第6回	確認テスト	講義
第7回	野外実習計画	演習
第8回	野外実習確認	講義及び演習
第9回	学内実習②（9～10連続）	実習
第10回	学内実習③（9～10連続）	実習
第11回	学内実習④（11～13連続）	
第12回	学内実習⑤（11～13連続）	実習
第13回	学内実習⑥（11～13連続）	

事前・事後学修	事前学習として、翌週の授業に向けた課題について、これまで経験してきた自身の自然体験活動を思い出し、回答できるよう準備をする。 事後学習として、授業で身につけた知識、技能、態度を日常的に実践する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 授業に対する意欲、態度、積極的な取り組み、姿勢 （40％） ② 野外活動に対する理及び実習での実践 （40％） ③ 課題レポート （20％）
テキスト	特にありません。 必要に応じて資料を配布します。
参考文献	授業内で紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会教育主事として、教育委員会および社会教育施設での職務経験がある教員が、実践に基づいた指導をします。

年度	2025
講義名称	卓球[スポ①/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05509P スポーツ指導学科：SPI05709P

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、生涯・競技スポーツとしての卓球を実践する上で必要な知識と技術を生理学、解剖学、力学およびコーチング等の観点をふまえて解説するとともに、実践を通じて習得することである。
到達目標	卓球の実施・指導を行うのに必要な知識と技術を習得する。さらに、個々に適した返球ができること、あるいは返球における洗練した技術を習得することのいずれかを目標とする。
授業の進め方	授業のはじめに、知識と技術を解説し、その後、卓球の実践を多く行う。個々それぞれに指導する。習得した技術を用いてゲームを多く体験する。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学習を目指す。本授業は、卓球の競技経験と指導の実績を有し、運動生理学を研究する教員が担当する。科学的観点から卓球の運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	伸張反射、弾性エネルギーとラケット動作
第2回	上肢（上腕・前腕・手）の構造とラケット操作
第3回	ラケット操作法および肩・肘・手首の連関運動の個人差
第4回	個々に適した速いスマッシュ法の習得
第5回	シングルスとダブルスのゲームのルール
第6回	片足立ちの安定性の左右差とフットワーク
第7回	リズム運動の自動化と他動作挿入によるリズムへの干渉
第8回	レシーブ時の身構え姿勢と反応動作
第9回	認知・判断にもとづくレシーブの遂行とフェイント
第10回	回転あるボールの軌跡・はねかえりとレシーブ
第11回	ボールの回転を変えるドライブ打法とそれを支える姿勢調節
第12回	サービスの種類と球への回転の加え方
第13回	リーグ戦・トーナメント戦の運営

【具体的な内容】 毎回、授業の最後10分程度を用いて、卓球を実施・指導する上で必要な知識と技術についてのレポート課題を述べる。このため、前回および次回の授業の範囲を 2025/04/01

事前・事後学修	囲について、卓球に関する文献および書籍を通じて調べ学習を行うこと。 【必要な時間】 事前および事後学習の目安は、それぞれ2時間とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①振り返りシート 40％ ②技能の向上 20％ ②課題レポート 40％
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	適宜資料を配布する。

年度	2025
講義名称	卓球[スポ②/2]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05509P スポーツ指導学科：SPI05709P

担当教員

氏名	所属
◎ 国田 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本授業の目的は、生涯・競技スポーツとしての卓球を実践する上で必要な知識と技術を生理学、解剖学、力学およびコーチング等の観点をふまえて解説するとともに、実践を通じて習得することである。
到達目標	卓球の実施・指導を行うのに必要な知識と技術を習得する。さらに、個々に適した返球ができること、あるいは返球における洗練した技術を習得することのいずれかを目標とする。
授業の進め方	授業のはじめに、知識と技術を解説し、その後、卓球の実践を多く行う。個々それぞれに指導する。習得した技術を用いてゲームを多く体験する。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学習を目指す。本授業は、卓球の競技経験と指導の実績を有し、運動生理学を研究する教員が担当する。科学的観点から卓球の運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	伸張反射、弾性エネルギーとラケット動作
第2回	上肢（上腕・前腕・手）の構造とラケット操作
第3回	ラケット操作法および肩・肘・手首の連関運動の個人差
第4回	個々に適した速いスマッシュ法の習得
第5回	シングルスとダブルスのゲームのルール
第6回	片足立ちの安定性の左右差とフットワーク
第7回	リズム運動の自動化と他動作挿入によるリズムへの干渉
第8回	レシーブ時の身構え姿勢と反応動作
第9回	認知・判断にもとづくレシーブの遂行とフェイント
第10回	回転あるボールの軌跡・はねかえりとレシーブ
第11回	ボールの回転を変えるドライブ打法とそれを支える姿勢調節
第12回	サービスの種類と球への回転の加え方
第13回	リーグ戦・トーナメント戦の運営

【具体的な内容】 毎回、授業の最後10分程度を用いて、卓球を実施・指導する上で必要な知識と技術についてのレポート課題を述べる。このため、前回および次回の授業の範囲を 2025/04/01

事前・事後学修	囲について、卓球に関する文献および書籍を通じて調べ学習を行うこと。 【必要な時間】 事前および事後学習の目安は、それぞれ2時間とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①振り返りシート 40％ ②技能の向上 20％ ②課題レポート 40％
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	適宜資料を配布する。

年度	2025
講義名称	野球・ソフトボール[スポ①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05508P スポーツ指導学科：SPI05710P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、以下の2点である。学生が、①コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能（投、捕、打）を向上させる。②野球・ソフトボールにおける技術の上達のコツを探る中で、その指導方法も併せて学習する。
到達目標	【到達目標】 コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技術（投、捕、打）の理解を深め、実践現場での指導方法を身につける。
授業の進め方	【講義方法】 実技、演習および講義を行う。毎回、振り返りシートを記入し、授業内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、野球における運動学習法の研究の実績を有する教員、および指導現場での実務経験のある教員が、コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。実技を実施する場所は、野球場および第二体育館とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	導入：（ガイダンスおよび野球・ソフトボールに関する導入講義） グループワーク1：（チーム決定とチームミーティング：アイスブレイク、目標設定、役割分担）
第2回	グループワーク2（練習内容・ポジションについてのディスカッション） 実技1：野球のピッチング理論・解説（投球動作の学習）と実践
第3回	実技2：チーム練習1（屋外と屋内に分かれた展開） 屋内：守備のトレーニング：スローイング実践と捕球ドリル 屋外：野球の打撃の理論と実践：トス打撃
第4回	実技3：チーム練習2（屋外と屋内に分かれた展開）*屋内と屋外を交代 屋内：守備のトレーニング：スローイング実践と捕球ドリル 屋外：野球の打撃の理論と実践：トス打撃
第5回	実技4：チーム練習3（屋外での展開） チーム主導の守備・打撃練習（経験者と未経験者とが役割分担を行い、スキル向上が見込める練習内容を考案する）

第6回	実技5：ソフトボールの道具を用いたチーム練習と簡易ゲームの展開1 ・人工芝グラウンドと野球場を用いて、チームごとにソフトボールの道具を使って練習を行う。 ・男女及び経験の有無に関係なく、容易に展開できるソフトボール教材を用いて、ミニゲームを展開し、各自がこれまでのスキルを確認する。
第7回	実技6：ソフトボールの道具を用いたチーム練習と簡易ゲームの展開2＊前回と異なるチームと試合を行う。 ・人工芝グラウンドと野球場を用いて、チームごとにソフトボールの道具を使って練習を行う。 ・男女及び経験の有無に関係なく、容易に展開できるソフトボール教材を用いて、ミニゲームを展開し、各自がこれまでのスキルを確認する。
第8回	グループワーク3（前半の振り返りと後半のゲームに向けた打ち合わせ） ・後半の授業におけるチーム練習とゲームの展開方法のディスカッション
第9回	ゲーム1：(テーマ：ソフトボール：打つ・投げるの基本技術ができる、チームで協調したプレーができる)
第10回	ゲーム2：(テーマ：野球の入門編：打つ・投げるの基本技術ができる)
第11回	ゲーム3：(テーマ：野球の応用編1：状況に応じたプレーができる)
第12回	ゲーム4：(テーマ：野球の応用編2：チームで協調したプレーができる)
第13回	ゲーム5：(テーマ：野球の応用編3：チームで協調したプレーができる。できるようになったスキルの確認)
第14回	グループワーク4：（まとめ：授業の振り返り：最終課題レポート作成とプレゼンテーション）

事前・事後学習	【具体的な内容】 次回の授業の範囲について、野球・ソフトボールに関する文献および書籍を通じて調べ学習を行ってください。また、授業後には、学修した内容を復習してください。定期的に、授業後に小レポートを実施しますので、事前学習および事後学習の内容を記入して提出してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内活動レポート 40% 最終レポート 20% 実技・発表 40%
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	適宜プリントを配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、野球におけるチーム指導や選手育成で豊富な経験を持ち、実績を重ねてきました。これらの実務経験を基に、現場で培った具体的な技術や戦術的な知見を理論と融合させ、応用力を高める学びを提供する講義を展開する。

年度	2025
講義名称	野球・ソフトボール[スポ②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05508P スポーツ指導学科：SPI05710P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
駒井 博和	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、以下の2点である。学生が、①コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能（投、捕、打）を向上させる。②野球・ソフトボールにおける技術の上達のコツを探る中で、その指導方法も併せて学習する。
到達目標	【到達目標】 コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技術（投、捕、打）の理解を深め、実践現場での指導方法を身につける。
授業の進め方	【講義方法】 実技、演習および講義を行う。毎回、振り返りシートを記入し、授業内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、野球における運動学習法の研究の実績を有する教員、および指導現場での実務経験のある教員が、コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。実技を実施する場所は、野球場および第二体育館とする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	導入：（ガイダンスおよび野球・ソフトボールに関する導入講義） グループワーク1：（チーム決定とチームミーティング：アイスブレイク、目標設定、役割分担）
第2回	グループワーク2（練習内容・ポジションについてのディスカッション） 実技1：野球のピッチング理論・解説（投球動作の学習）と実践
第3回	実技2：チーム練習1（屋外と屋内に分かれた展開） 屋内：守備のトレーニング：スローイング実践と捕球ドリル 屋外：野球の打撃の理論と実践：トス打撃
第4回	実技3：チーム練習2（屋外と屋内に分かれた展開）*屋内と屋外を交代 屋内：守備のトレーニング：スローイング実践と捕球ドリル 屋外：野球の打撃の理論と実践：トス打撃
第5回	実技4：チーム練習3（屋外での展開） チーム主導の守備・打撃練習（経験者と未経験者とが役割分担を行い、スキル向上が見込める練習内容を考案する）

第6回	実技5：ソフトボールの道具を用いたチーム練習と簡易ゲームの展開1 ・人工芝グラウンドと野球場を用いて、チームごとにソフトボールの道具を使って練習を行う。 ・男女及び経験の有無に関係なく、容易に展開できるソフトボール教材を用いて、ミニゲームを展開し、各自がこれまでのスキルを確認する。
第7回	実技6：ソフトボールの道具を用いたチーム練習と簡易ゲームの展開2＊前回と異なるチームと試合を行う。 ・人工芝グラウンドと野球場を用いて、チームごとにソフトボールの道具を使って練習を行う。 ・男女及び経験の有無に関係なく、容易に展開できるソフトボール教材を用いて、ミニゲームを展開し、各自がこれまでのスキルを確認する。
第8回	グループワーク3（前半の振り返りと後半のゲームに向けた打ち合わせ） ・後半の授業におけるチーム練習とゲームの展開方法のディスカッション
第9回	ゲーム1：(テーマ：ソフトボール：打つ・投げるの基本技術ができる、チームで協調したプレーができる)
第10回	ゲーム2：(テーマ：野球の入門編：打つ・投げるの基本技術ができる)
第11回	ゲーム3：(テーマ：野球の応用編1：状況に応じたプレーができる)
第12回	ゲーム4：(テーマ：野球の応用編2：チームで協調したプレーができる)
第13回	ゲーム5：(テーマ：野球の応用編3：チームで協調したプレーができる。できるようになったスキルの確認)
第14回	グループワーク4：（まとめ：授業の振り返り：最終課題レポート作成とプレゼンテーション）

事前・事後学習	【具体的な内容】 次回の授業の範囲について、野球・ソフトボールに関する文献および書籍を通じて調べ学習を行ってください。また、授業後には、学修した内容を復習してください。定期的に、授業後に小レポートを実施しますので、事前学習および事後学習の内容を記入して提出してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内活動レポート 40% 最終レポート 20% 実技・発表 40%
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	適宜プリントを配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、野球におけるチーム指導や選手育成で豊富な経験を持ち、実績を重ねてきました。これらの実務経験を基に、現場で培った具体的な技術や戦術的な知見を理論と融合させ、応用力を高める学びを提供する講義を展開する。

年度	2025
講義名称	[冬集]スノーボード[スポ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05507P スポーツ指導学科：SPI05716P

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本授業では冬季スポーツの競技特性を理解し、実習にてスノーボード技術のスキルアップ、安全管理、基本理論などを習得する。
到達目標	スノーボード理論を理解し、個々の目標設定を行い、目標到達に向け安全で楽しいスノーボード技能と資質を身に付ける。
授業の進め方	集中講義での開催となりますので3日間での実習となり、札幌近郊のスキー場にて講義、実習を行います。 スノーボードレベルに応じた講習を基本としますが、人数により多少変動することもあります。 各レベルに応じたインストラクターの配置もあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習中に指導員（インストラクター）からのアドバイス

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～ウインタースポーツ基礎知識	座学
第2回	班編成～環境とスノーボードに慣れる	実習
第3回	ゲレンデの移動と待機の基本	実習
第4回	安全の確保	実習
第5回	フロントサイドターン	実習
第6回	バックサイドターン	実習
第7回	サイドスリップ	実習
第8回	安全な転び方	実習
第9回	ベンジュラム	実習
第10回	ロングターンとショートターン	実習
第11回	カービングターン	実習
第12回	仮検定（レベルに応じて）	実習
第13回	振り返り（レポート作成）	実習

事前・事後学修	実習前後は各自でストレッチなどのケアを行ってください。 冬季間運動不足になりますので、実習前は各自でトレーニングを行ってください。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 目標設定と到達、集中講義中の取り組み＝70％ ・ レポート＝30％

備考	・ 講習場所、日程などに関しては秋学期に発表します。 ・ この集中講義は参加費が発生します。（秋学期発表） ・ 集中講義になりますので、履修届と一緒に参加費を徴収します。 ・ 履修取り消しがあった場合は参加費のキャンセル料がする場合があります。 ・ スノーボード技術習得が目的ですので、各自で用具は用意してください。（スキー場でのレンタルあり）

年度	2025
講義名称	[冬集]スキー[スポ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05506P スポーツ指導学科：SPI05715P

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科
田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本授業では、冬季スポーツの競技特性を理解し、主に実習にてスキー技術のスキルアップ、安全管理、基本理論などを習得する。
到達目標	スキー理論を理解し、個々の目標設定を行い、目標到達に向け安全で楽しいスキー技術と資質を身に付ける。
授業の進め方	集中講義での開催となりますので3日間の実習となり、スキー場にて講義、実習を行います。 スキーレベルに応じた講習を基本としますが、人数により多少変動することもあります。各レベルに応じたインストラクターの配置もあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習中に指導員（インストラクター）からのアドバイス。また、実習直後にレポート提出を求めます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイドンス～ウインタースポーツ基礎知識	座学
第2回	班編成～環境とスキーに慣れる	実習
第3回	ポジション確認	実習
第4回	安全な転び方	実習
第5回	プルークボーゲン	実習
第6回	プルークターン	実習
第7回	シュテムターン	実習
第8回	パラレルターン	実習
第9回	大回りターン	実習
第10回	小回りターン	実習
第11回	斜面や自然環境の変化に応じた滑走	実習
第12回	仮検定（レベルに応じる）	実習
第13回	振り返り（レポート作成）	実習

事前・事後学修	実習前後は各自でストレッチなどのケアを行ってください。特に冬季間運動不足になりますので、実習前は各自でトレーニングを行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・目標設定と到達、集中講義中の取り組み＝70％ ・レポート＝30％
参考文献	日本スキー教程　公益財団法人全日本スキー連盟（著）

備考	・講習場所、日程などに関しては秋学期に発表します。 ・この集中講義は実習費（個人負担）が発生します。（秋学期発表） ・集中講義になりますので、履修届と一緒に参加費を徴収します。 ・履修取り消しがあった場合は参加費のキャンセル料が発生する場合があります。 ・スキー技術習得が目的ですので、各自で用具は用意してください。（スキー場でのレンタルあり）

年度	2025
講義名称	バスケットボール[スポ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05505P スポーツ指導学科：SPI05704P

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
矢代 直美	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	バスケットボールの歴史、ルール、競技特性を理解し、個人技術やチーム戦術を身につける。また、地域や学校で対象者の特性に応じた指導ができるよう、指導法、指導計画の立案・実践、審判法について学習する。
到達目標	・バスケットボールの歴史、ルール、競技特性を説明できる。 ・バスケットボールの基本的な技術や戦術を実践できる。 ・バスケットボール指導を対象者の特性を考慮してリーグ戦の運営（立案、オフィシャルおよび審判含む）ができる。
授業の進め方	体育館での学習・実技を中心に展開する。本講義は、バスケットボールの指導経験のある教員が担当し、授業の前半で知識と技術を解説し、その後、バスケットボールの諸技術について実践を行う。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で適宜解説を行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション バスケットボールについて（歴史、ルール、特性について）
第2回	バス技術・シュート技術
第3回	ドリブル技術・リバウンド技術
第4回	ディフェンス技術・実技テスト
第5回	個人および集団戦術 1 （1 対 1 を中心に）
第6回	個人および集団戦術 2 （2 対 2 を中心に）
第7回	個人および集団戦術 3 （3 対 2 を中心に）
第8回	個人および集団戦術4（3 対 3 を中心に）
第9回	チーム戦術の考案1（スクリーンプレー）
第10回	チーム戦術の考案2（トランジションプレー）
第11回	ゲームを通してのオフィシャルの練習（審判方法含む）
第12回	リーグ戦の運営（計画、立案、オフィシャルおよび審判含む）
第13回	リーグ戦の運営（オフィシャルおよび審判含む）

【具体的な内容】 事前学習：動画などから、バスケットボールの興味のあるプレーや練習方法などについて情報を得ておくこと。	2025/04/01

事前・事後学修	事後学習：講義内容についてのレポート作成など準備学習が必要である。 【必要な時間】 事前および事後学習では、2 時間程度の時間を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	技術練習の進行度、達成度 30％ 実技テスト 30％ レポート 40％
参考文献	【参考文献】 ・保健体育科学習指導要領 ・その他適宜資料を配布する

備考	実技科目であるので、身体を動かせるように体調管理や服装などの準備をしておくこと。なお、教員免許の取得を目指している学生は、保健体育科の学習指導要領を熟読のこと。 本科目は、保健体育科教員免許（教科に関する科目）の対象科目である。

年度	2025
講義名称	バレーボール[スピ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05504P

担当教員

氏名	所属
◎ 石川　みゆき	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義ではバレーボールの基本技術や戦術、ルールを身につけ、チームで協力しながらラリーの続くゲームが楽しめるようになることを目指します。
到達目標	①バレーボールのルールや技術の基本を身につけ、ゲームの運営ができる。 ②戦術を理解し、協力しあって技術の向上を目指すことができる。 ③チームプレーに必要な自律した行動やリーダーシップが取れる。
授業の進め方	ルールや技術ポイント等の説明を交えながら、技術練習やゲームなどチームごとの活動を主体にバレーボールの実技を行います。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で課題を共有、意見交換や解説を交えながら解決を図ります。

授業計画表

回	授業内容
第1回	基本編①　ガイダンス、身体慣らしとパス練習
第2回	基本編②　パスに関するルールと技術ポイント
第3回	基本編③　ボールをつなぐためのパス練習
第4回	基本編④　動きづくりのトレーニング、スパイクの基本
第5回	基本編⑤　実技テスト1、ラリーゲーム
第6回	応用編①　スパイク、ブロック、ディグに関するルールと技術ポイント
第7回	応用編②　サーブとレセプションに関するルールと技術ポイント
第8回	応用編③　バレーボールの成り立ちと特性、フォーメーションの考え方
第9回	応用編④　レセプションからの攻撃練習
第10回	応用編⑤　実技テスト②、ラリーゲーム
第11回	応用編⑥　攻撃の幅を広げる練習
第12回	応用編⑦　フォーメーションを意識しながらゲーム
第13回	応用編⑧　実技テスト③、ゲーム、レポート提出

事前・事後学修	ルール等の基本的な知識を得ておく取り組みやすいと思います。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①積極性、マナー、提出物40% ②実技テスト30% ③レポート30%
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考文献	コーチング バレーボール(日本バレーボール協会 大修館書店)

備考	バレーボール技能の向上を目指す授業です。上達のポイントは基本技術の習得です。実技テストで習熟度を見極めたうえで応用編に進みますので、基本編は必ず出席すること。 初回から実技をしますので、ジャージや、シューズを忘れずに。

年度	2025
講義名称	サッカー[スポ①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05503P スポーツ指導学科：SPI05706P

担当教員

氏名	所属
◎ 金澤 孝憲	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、サッカーの「運ぶ」、「止める」、「蹴る」の技術の基礎基本を学ぶ。 また、サッカーの歴史や競技特性を理解し、サッカーを理論と実践で学ぶことを目指す。
到達目標	1 サッカーの協議特性を理解する。 2 個人のサッカー技術の習得。（目標設定あり） 3コミュニケーションをとり、課題解決に向け取り組む。
授業の進め方	本講義は、実技形式をメインで行いサッカーの基礎技術の取得を目指し、講義ではサッカーの基本となるルールを学び、サッカーの知識を得ることを目指す。 講義は、教室で行い実技はサッカーグラウンドで行う、また雨の日は体育館で行う事もある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（教室）
第2回	サッカーの歴史やルール、コーチング（講義/教室）
第3回	ボールに慣れよう（グラウンド）
第4回	ゲームをしよう・技能テスト（グラウンド）
第5回	ドリブル①（ボールと一緒に進む）（グラウンド）
第6回	ドリブル②（方向転換）（グラウンド）
第7回	パス①（ボールを渡す）（グラウンド）
第8回	パス②（ボールを止める）（グラウンド）
第9回	シュート①（様々な状態のボールを蹴る）（グラウンド）
第10回	シュート②（シュートゲーム）（グラウンド）
第11回	ゲームをしよう（6vs6）（グラウンド）
第12回	ゲームをしよう（8vs8）（グラウンド）
第13回	技能テスト（グラウンド）

	【具体的な内容】 サッカーについての基礎知識、ルール等を理解しておく。	2025/04/01

事前・事後学修	怪我の予防において、基礎運動を継続しておく。 【必要な時間】 事前と事後それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	技能テスト40％ レポート30％ 講義内課題30％
テキスト	なし
参考文献	なし

備考	【持ち物】 ①スポーツに適した服装 ②着替え ③グラウンドの場合は、屋外シューズ（トレーニングシューズが好ましい）体育館の場合は、屋内シューズ（フットサルシューズが好ましい） ④天候に応じて水分補給できるものを準備 【注意事項】 悪天候の場合は、体育館で実施することがあります。 履修希望者が多い場合は、履修制限がかかる可能性があります。

年度	2025
講義名称	サッカー[スポ②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05503P スポーツ指導学科：SPI05706P

担当教員

氏名	所属
◎ 金澤 孝憲	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科
原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、サッカーの「運ぶ」、「止める」、「蹴る」の技術の基礎基本を学ぶ。 また、サッカーの歴史や競技特性を理解し、サッカーを理論と実践で学ぶことを目指す。
到達目標	1 サッカーの協議特性を理解する。 2 個人のサッカー技術の習得。（目標設定あり） 3コミュニケーションをとり、課題解決に向け取り組む。
授業の進め方	本講義は、実技形式をメインで行いサッカーの基礎技術の取得を目指し、講義ではサッカーの基本となるルールを学び、サッカーの知識を得ることを目指す。 講義は、教室で行い実技はサッカーグラウンドで行う、また雨の日は体育館で行う事もある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については講義内で解説する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス（教室）
第2回	サッカーの歴史やルール、コーチング（講義/教室）
第3回	ボールに慣れよう（グラウンド）
第4回	ゲームをしよう・技能テスト（グラウンド）
第5回	ドリブル①（ボールと一緒に進む）（グラウンド）
第6回	ドリブル②（方向転換）（グラウンド）
第7回	パス①（ボールを渡す）（グラウンド）
第8回	パス②（ボールを止める）（グラウンド）
第9回	シュート①（様々な状態のボールを蹴る）（グラウンド）
第10回	シュート②（シュートゲーム（グラウンド）
第11回	ゲームをしよう（6vs6）（グラウンド）
第12回	ゲームをしよう（8vs8）（グラウンド）
第13回	技能テスト（グラウンド）

	【具体的な内容】 サッカーについての基礎知識、ルール等を理解しておく。	2025/04/01

事前・事後学修	怪我の予防において、基礎運動を継続しておく。 【必要な時間】 事前と事後それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	技能テスト40％ レポート30％ 講義内課題30％
テキスト	なし
参考文献	なし

備考	【持ち物】 ①スポーツに適した服装 ②着替え ③グラウンドの場合は、屋外シューズ（トレーニングシューズが好ましい）体育館の場合は、屋内シューズ（フットサルシューズが好ましい） ④天候に応じて水分補給できるものを準備 【注意事項】 悪天候の場合は、体育館で実施することがあります。 履修希望者が多い場合は、履修制限がかかる可能性があります。

年度	2025
講義名称	ハンドボール[スポ①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05502P スポーツ指導学科：SPI05705P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、ゴール型集団球技であるハンドボール競技を専門的に学修する。ハンドボール競技の個人技術（パス、キャッチ、シュート、フェイント）、グループ戦術（状況判断、攻防）、チーム戦術（組織的な攻撃・防御）を段階的に学び、技術や戦術の修得を目指す。また、単に技術の修得だけでなく、ハンドボール競技の歴史的背景や競技規則についても理解を深める。
到達目標	ハンドボール競技における個人技術（パス、キャッチ、シュート）を身に付け、それらの動きのポイントについて説明できる。また、ゲームを通じてハンドボール競技の戦術を理解し、競技規則について説明できる。
授業の進め方	基本的には、実技形式で実施する。必要に応じて、映像やプリントを活用した講義形式での学習も行う。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間の振り返りとして、毎授業の終了前に質問・意見・感想を記入する。質問に関しては、翌時間の冒頭に回答し、併せて、前時の復習を行う。さらに、毎授業では、技術・戦術の課題を提示し、板書と実技を交えて解説をする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ハンドボールの歴史 / 競技特性 / 競技規則	対面授業
第2回	個人技術 OF（On the ball skill）	対面授業
第3回	グループ戦術 OF（On the ball skill）	対面授業
第4回	ゲーム（個人技術OFの発揮と課題抽出）	対面授業
第5回	個人技術 DF（許される行為と許されない行為）	対面授業
第6回	ゲーム（個人技術DFの発揮と課題抽出）	対面授業
第7回	チーム戦術の理解（組織的な防御）	対面授業
第8回	ゲーム（組織的な防御と課題抽出）	対面授業
第9回	チーム戦術の理解（攻撃のポジション）	対面授業
第10回	ゲーム（攻撃のポジションと課題抽出）	対面授業
第11回	チーム戦術（ゲーム様相の理解）	対面授業
第12回	ゲーム（まとめ）	対面授業
第13回	実技テスト / 筆記テスト	対面授業

事前・事後 学習	事前学習では、インターネット等でハンドボールの試合映像を見て、競技規則の理解やプレーのイメージ作りをし、ハンドボールに関する知識を深めて下さい。なお、本講義では、激しい運動が伴うため、日頃から体を動かす時間を作り、体力づくりを行うことを意識して下さい。また、傷害予防のために、授業の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎時間の振り返り（30％） レポート課題（10％） 実技テスト（20％） 筆記テスト（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	「ハンドボール指導教本」財団法人日本ハンドボール協会　大修館書店 「ハンドボールの基本と戦術」酒巻清治　実業之日本社 「確実に上達するハンドボール」酒巻清治　実業之日本社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、女子日本代表や男子U-18日本代表のアナリストとして活躍し、東海大学と札幌国際大学でコーチや監督として指導経験を積みました。この豊富な実績を活かし、競技戦略や選手育成の具体的な知識を基にした実践的な講義を展開します。
備考	本講義は、日本スポーツ協会公認ハンドボールコーチ3の資格を有する教員が行います。実技形式の授業では、ハンドボールの競技特性、競技規則を解説するとともに、具体的なプレーを模範し、課題に則した段階的な授業を展開します。

年度	2025
講義名称	ハンドボール[スポ②/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05502P スポーツ指導学科：SPI05705P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、ゴール型集団球技であるハンドボール競技を専門的に学修する。ハンドボール競技の個人技術（パス、キャッチ、シュート、フェイント）、グループ戦術（状況判断、攻防）、チーム戦術（組織的な攻撃・防御）を段階的に学び、技術や戦術の修得を目指す。また、単に技術の修得だけでなく、ハンドボール競技の歴史的背景や競技規則についても理解を深める。
到達目標	ハンドボール競技における個人技術（パス、キャッチ、シュート）を身に付け、それらの動きのポイントについて説明できる。また、ゲームを通じてハンドボール競技の戦術を理解し、競技規則について説明できる。
授業の進め方	基本的には、実技形式で実施する。必要に応じて、映像やプリントを活用した講義形式での学習も行う。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間の振り返りとして、毎授業の終了前に質問・意見・感想を記入する。質問に関しては、翌時間の冒頭に回答し、併せて、前時の復習を行う。さらに、毎授業では、技術・戦術の課題を提示し、板書と実技を交えて解説をする。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ハンドボールの歴史 / 競技特性 / 競技規則	対面授業
第2回	個人技術 OF（On the ball skill）	対面授業
第3回	グループ戦術 OF（On the ball skill）	対面授業
第4回	ゲーム（個人技術OFの発揮と課題抽出）	対面授業
第5回	個人技術 DF（許される行為と許されない行為）	対面授業
第6回	ゲーム（個人技術DFの発揮と課題抽出）	対面授業
第7回	チーム戦術の理解（組織的な防御）	対面授業
第8回	ゲーム（組織的な防御と課題抽出）	対面授業
第9回	チーム戦術の理解（攻撃のポジション）	対面授業
第10回	ゲーム（攻撃のポジションと課題抽出）	対面授業
第11回	チーム戦術（ゲーム様相の理解）	対面授業
第12回	ゲーム（まとめ）	対面授業
第13回	実技テスト / 筆記テスト	対面授業

事前・事後 学習	事前学習では、インターネット等でハンドボールの試合映像を見て、競技規則の理解やプレーのイメージ作りをし、ハンドボールに関する知識を深めて下さい。なお、本講義では、激しい運動が伴うため、日頃から体を動かす時間を作り、体力づくりを行うことを意識して下さい。また、傷害予防のために、授業の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎時間の振り返り（30％） レポート課題（10％） 実技テスト（20％） 筆記テスト（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	「ハンドボール指導教本」財団法人日本ハンドボール協会　大修館書店 「ハンドボールの基本と戦術」酒巻清治　実業之日本社 「確実に上達するハンドボール」酒巻清治　実業之日本社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、女子日本代表や男子U-18日本代表のアナリストとして活躍し、東海大学と札幌国際大学でコーチや監督として指導経験を積みました。この豊富な実績を活かし、競技戦略や選手育成の具体的な知識を基にした実践的な講義を展開します。
備考	本講義は、日本スポーツ協会公認ハンドボールコーチ3の資格を有する教員が行います。実技形式の授業では、ハンドボールの競技特性、競技規則を解説するとともに、具体的なプレーを模範し、課題に則した段階的な授業を展開します。

年度	2025
講義名称	テニス[スビ①/2]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05501P

担当教員

氏名	所属
◎ 橋場 俊輔	大学・センター等

授業の目的と概要	本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしてのテニスを実践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、健康科学およびコーチング等の観点から修得する。
到達目標	テニスの実施・指導を行う上で必要な知識と技術を修得する。さらに、修得した技術を洗練させ、個々に適した返球技術を身につけることを目標とする。
授業の進め方	実施場所は、テニスコートと教室である。授業冒頭の10分程度を用いて、テニスを実施・指導する上で必要な知識や技術についての講義を行い、その後、テニスの実践を多く行う。個々それぞれに技術指導を行うが、必要に応じてグループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、テニス指導の実績を有する教員が担当する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回、テニスに関する知識や技術を基にした課題レポートを課す。課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	テニスの基本的ルールと動作について	PBL
第2回	フォアハンドストロークとバックハンドストロークの違いについて	PBL
第3回	ボレーとスマッシュの技術の習得	PBL
第4回	サーブ&レシーブの技術の習得	PBL
第5回	ダブルスのゲームルールの把握と簡易ゲームの実践	グループワーク等
第6回	シングルのゲームルールの把握と簡易ゲームの実践	グループワーク等
第7回	授業内試合の実践方法の企画と立案	グループワーク
第8回	試合の実践	PBL
第9回	グループごとに分かれて試合の反省と個人課題の練習	グループワーク
第10回	授業内大会の企画・立案	グループワーク等
第11回	スキルテストの実施	SBL
第12回	授業内大会の実施	グループワーク等
第13回	授業内大会の実施②	グループワーク等

事前・事後学修	テニスに関する文献研究、および文献購読を事前・事後学習とする。

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業への参加レポート 40% ②技能の向上 20% ③課題レポート 40%
テキスト	必要に応じて配布する。
参考文献	テニス教本:公益社団法人日本プロテニス協会、日本スポーツ企画出版社

年度	2025
講義名称	スポーツ政策・行政論[スポ]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	4年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05404L スポーツ指導学科：SPI05604L

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の 目的と 概要	「日本のスポーツ政策はどうなっているのか？、それを受けて、行政（&地方行政）はどのようにスポーツで地域振興を考えていけばよいのか？」などなど、スポーツビジネスだけでなく、ビジネス全般でも、国や、地方行政、また企業などがどのような目的や方向性をもち、活動を行なっていくのかを理解しておく必要があります。 本講座では、スポーツ庁による令和4年3月発行の第3期スポーツ基本計画を教材として、日本のスポーツ政策の基本的な考え方や具体的施策について学びます。 講義によるスポーツ政策内容に関する基本的な知識習得と、個人ならびにグループによるワークを通じ各政策内容の実践的理解を深めるとともに、新たな施策の企画・検討や提案・発表を通じ、スポーツ・ビジネスだけでなく、ビジネス全般に必要な資質能力を習得することを目的とします。
到達目 標	① 現代社会におけるスポーツの価値と可能性について考察できる ② 日本のスポーツ政策（基本計画）について概要や意義、基本的な構造を知識理解できる ③ スポーツを通じた実践や関連ビジネス、地域社会課題などの解決方を企画・立案・提案できる
授業の 進め方	本講座は、講義と演習を組み合わせた形式で進めます。各テーマについて基本的な知識や技術を講義で学んだ後、課題テーマについて個人で検討、グループで共有、フィードバックを主に行います。また、グループで企画提案等を含むワークの場合、プレゼンテーション発表を行います。 各回の授業構成は基本:講義60分、演習・ディスカッション40分(個人、グループワーク)、まとめ5分

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・振り返りレポートは採点后、優れた提案や改善点について授業内で全体共有 ・グループ発表に対して、教員および他グループからの評価とコメントを提供 ・個別の質問・相談はオフィスアワー対応または、ミニ・レポート（質問欄）への回答を実施

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス / スポーツ基本計画の概要と意義 本講座のガイダンス、授業の概要と目的、授業の進め方、評価について解説します。 スポーツ庁/第3期スポーツ基本計画解説。日本のスポーツ政策の全体像や目的について理解を深めます。	対面
第2回	②多様な主体におけるスポーツの機会創出 年齢、性別、障害の有無に関わらないスポーツ機会の創出について学びます。地域における新しい部活動や地域スポーツと、大学(本学)/UNIVASの関わり方をグループで検討します。	対面
第3回	③スポーツ界におけるDXの推進 /eスポーツ スポーツDXにおけるデジタルトランスフォーメーションやeスポーツの現状を学び、テクノロジーを活用した新しいスポーツ体験をグループで検討します。	対面
第4回	④スポーツの国際交流・協力/国際競技力の向上 オリンピックなどの国際的なスポーツイベントや国際スポーツ界の動向と日本の立場、競技力向上施策を学びます。持続可能な競技力向上プログラムをグループで検討します。	対面
第5回	⑤スポーツによる健康増進 健康増進におけるスポーツの役割と効果を理解する。地域特性を考慮した効果的な健康増進プログラムをグループで検討します。	対面
第6回	⑥スポーツを通じた共生社会の実現 スポーツを通じた共生社会実現の意義と課題を学びます。地域社会の課題解決につながるスポーツ活動をグループで提案します。	対面

第7回	⑦スポーツの産業化1 スポーツビジネスの基本構造と収益モデルを理解します。既存のスポーツビジネスの分析・評価をグループで行います。	対面
第8回	⑧スポーツの産業化2 スポーツ産業の新たな展開と可能性を探ります。革新的なスポーツビジネスモデルをグループで企画検討、発表します。	対面
第9回	⑨スポーツによる地方創生、まちづくり1（ゲストティーチャー講演予定） スポーツによる地方創生、まちづくりなど地域活性化について事例など含めて学びます（ゲストティーチャー予定）。その成功事例の要因分析と課題をグループで検討します。	対面
第10回	⑩スポーツによる地方創生、まちづくり2 地方創生におけるスポーツの可能性を探る。地域資源を活用した新しいスポーツツーリズム"スポーツ創生、まちづくりにおけるスポーツの可能性を探る。地域資源を活用した新しいスポーツツーリズムなどグループで企画検討、発表します。	
第11回	⑪スポーツ組織のガバナンス・経営力強化/スポーツ推進のための環境、人材 スポーツ組織の健全な運営と人材育成について学ぶ。効果的な組織改革案をグループで検討します。	対面
第12回	⑫スポーツの安全・安心の確保/スポーツインテグリティ スポーツの安全管理とインテグリティの重要性を理解する。具体的な施策をグループで検討します。	対面
第13回	⑬まとめ - スポーツ・ビジネスの展望と未来 日本のスポーツ政策、行政について総括し、スポーツビジネスの将来展望を考察し、革新的なビジネスプランをグループで検討、発表します。	対面

事前・事後学修	事前学修： - 必要な事前に獲得した方がよい知識・技能として ・スポーツや健康に関する一般的な知識・関心 ・スポーツビジネス概論、スポーツマネジメント論などの基礎科目の履修が望ましい ・最新テクノロジーに関する知識や興味関心 ・グループワークやディスカッションに積極的に参加できるコミュニケーション能力 ・基本的なPCスキル（Word, Excel, PowerPointの基本操作） ・社会問題や地域課題に対する関心 など、ただし、授業内容を十分理解できるよう、講義では基礎から丁寧に説明します。スポーツやプロスポーツクラブの事例分析等について特別な予備知識は必要ありませんが、関心のある学生は試合観戦などを通じて実際の体験を得ることも推奨します。 事後学修は各回15～30分程度の軽い内容とし、主に以下を行います。 授業で学んだポイントの簡単な振り返り 身近な事例への適用を考える 次回授業に向けた準備（必要に応じて）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	各授業毎の振り返りレポート：60%（課題理解度、分析力、提案内容） 授業参加度：20%（グループワークへの貢献、発言の積極性） 最終個人レポート：30%（論理構成、文章表現力）
テキスト	スポーツ庁発行(スポーツ庁ホームページよりダウンロード可能) 第3期スポーツ基本計画（本文、プレゼン資料、用語集、データ集） https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1372413_00001.htm 参考資料:各回で適宜配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	・スポーツ産業論第6版（杏林書院） 2017年発行 定価2,510円+税 ・スポーツビジネス革命(日本経済新聞出版) 2024年発行 定価1,980円 ・スポーツ庁作成資料（白書や関連資料等）無償

備考	授業では時事的な話題も取り上げるため、日頃からニュースに触れる習慣をつけると理解が深まります。 特別な配慮が必要な学生は事前に相談してください講座については、突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等により、日程の変更や授業方法が変更となります。その場合は、オンライン、オンデマンドでの授業もしくは補講を実施いたします。補講実施日は休日になる可能性もあり、スケジュールの調整が必要になります。

年度	2025
講義名称	生涯スポーツ演習[スポ]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05403S スポーツ指導学科：SPI05605S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に「誰もが」「いつでも」「どこでも」気軽に参加できる生涯スポーツについて理解するとともに、学内外で開催されるスポーツに関わるイベントなどに参加し体験的に学ぶ。
到達目標	① 生涯スポーツの重要性を理解し、事業を企画立案することができる。 ② 自ら身に付けた知識、技能を実践的に展開することができる。
授業の進め方	前半は講義、グループワークなど教室内での授業が主となるが、後半は実習体験として学内外で開催されるスポーツイベント（指導）にボランティアとして参加する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中に出された課題や質問については、その都度説明するとともに、状況に応じて翌週解説する。 実習については、必要に応じて個別にフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	講義
第2回	スポーツボランティア	講義および演習
第3回	我が国のスポーツ施策	講義および演習
第4回	生涯スポーツの現状と課題	講義および演習
第5回	ライフサイクル	講義および演習
第6回	スポーツイベント	講義および演習
第7回	ボランティア実践①	実習
第8回	ボランティア実践②	実習
第9回	ボランティア実践③	実習
第10回	ボランティア実践④	実習
第11回	ボランティア実践⑤	実習
第12回	ボランティア実践⑥	実習
第13回	授業のまとめ、課題レポート	講義および演習

事前・事後学修	事前学習として、翌週までの課題を自らの身体活動を振り返り、説明できるようにする。 事後学習として、授業で身につけた知識、技能、態度をボランティアの場で実践する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	① 講義、グループワークの準備、提出物等（３０％） ② 実習への参加状況（主催団体からの報告を含む）（４０％） ③ 課題、レポート（３０％）
テキスト	特にありません。 必要に応じて、資料を配布します。
参考文献	必要に応じて紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会教育主事として教育委員会で「生涯スポーツ」の推進の実務を経験した教員が実践に基づいた解説をします。

年度	2025
講義名称	コーチング論[スピ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05302L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の 目的と 概要	本講義は、「競技スポーツ」における指導現場に必要なコーチングおよびトレーニングを題材にする。競技力向上のための合目的なトレーニング計画を作成し、スポーツ中に見られる動き・技術・戦術の特徴と指導法の理解を深め、指導対象や習熟段階を想定した指導方法を学修する。
到達目 標	コーチングを理解し、「教える」と「導く」の違いを説明できる。また、トレーニングを行う目的やタイミング、競技特性について理解し、トレーニング計画を作成できる。そして、指導対象者の動きの特徴、局面構造を理解し、指導対象および習熟段階に応じた指導方法を説明できる。
授業の 進め方	基本的には、講義形式で実施するが、一方的な説明ではなく、設問に対して考える時間を設けて発言を求め。また、不定期に授業内課題を出題し、授業内容の理解度を確認する。

課題（試験やレポート等）に 対するフィードバックの方法	授業の理解度を把握するため授業内課題を配布し、時間内に課題の解説および課題の回収を行う。また、毎時間の振り返りとして、毎授業の終了前に質問・意見・感想の記入がある。質問に関しては、翌時間の冒頭に回答し、併せて、前時の復習を行う。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	コーチングとは / スポーツインテグリティ	対面授業
第2回	トレーニングの計画（目標設定と競技特性の把握）	対面授業
第3回	トレーニングの計画（トレーニングピリオダイゼーション）	対面授業
第4回	動きの観察（自己観察・他者観察・自己の他者観察）	対面授業
第5回	動きの観察（習熟位相・運動修正）	対面授業
第6回	動きの理解（運動の局面構造・運動の先取り）	対面授業
第7回	動きの理解（運動リズム・運動伝導・運動流動・運動弾性・運動調和・運動の正確性）	対面授業
第8回	動きの理解（運動質のカテゴリ・学習転移）	対面授業
第9回	動きの指導（運動説明・運動表現）	対面授業
第10回	戦術の理解（戦略と戦術 / チーム戦術と個人戦術）	対面授業
第11回	戦術の理解（情報の活用と伝達方法）	対面授業
第12回	戦術的な指導（戦術的思考力 / 戦術指導のポイント）	対面授業
第13回	授業内テスト / フィードバック	対面授業

事前・ 事後学 修	本講義では、多種多様なスポーツを事例として取り扱います。そのため、日頃から新聞、ニュース、インターネット等で様々なスポーツについての情報収集を心がけて下さい。なお、事例として取り扱ったスポーツに関しては、授業後に経験してみることが望ましい。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内課題（40％） 定期試験（60％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	「コーチングへの招待」日本コーチング学会 編集 大修館書店 「球技のコーチング学」日本コーチング学会 編集 大修館書店 「運動学講義」金子明友・朝岡正雄 編著 大修館書店 「スポーツの戦術入門」ヤーン・ケルン 著 朝岡正雄・水上一・中川昭 監訳 大修館書店

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、女子日本代表や男子U-18日本代表のアナリストとして活躍し、東海大学と札幌国際大学でコーチや監督として指導経験を積みました。この豊富な実績を活かし、競技戦略や選手育成の具体的な知識を基にした実践的な講義を展開します。
備考	本講義は、日本スポーツ協会公認ハンドボールコーチ3の資格を有する教員が担当します。これまでの指導経験と実際の指導現場での具体例を活用し、指導対象や習熟段階を想定したコーチングについて講義を実施します。

年度	2025
講義名称	レクリエーション実習[スポ]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05206P スポーツ指導学科：SPI05512P
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義は、レクリエーション理論と実技で身につけた技能を活かすことが出来るよう体験的に学習し、レクリエーション関係団体等が主催する事業に参加、あるいはスタッフとして協力し、現場で実習することを通して指導者としてふさわしい知識と技能を身につけることを目的とします。
到達目標	①授業での個別指導を通して身に付けた、レクリエーション・インストラクターとしての技能や資質を、実際に現場で実習することを通して展開することができる。 ②スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	受講生自らが計画したプログラムを実際に展開します。また、レクリエーション関係団体等が主催する事業に参加した時間を授業に振り替えることやSIUSスポーツクラブのプログラム企画・運営も行い、終了後の報告レポートを果たし単位を認定します。本科目ほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。下記の事業から選択し最低3事業以上参加することで授業に振替えます。 - 札幌国際大学が主催する事業（SIUSスポーツクラブも含む） - レクリエーション課程認定校学生交流会 - レクリエーション関係団体が主催する事業 - 教育関係団体が主催する事業 - その他事前に認められた事業

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評します。また、必要に応じて授業以外にも時間を設けます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業のガイダンス・レクリエーション理論・実技の確認
第2回	目的に合わせたレクリエーション活動の計画
第3回	指導演習Ⅰ（個人による指導実習）
第4回	指導演習Ⅱ（個人による指導実習）
第5回	指導演習Ⅲ（個人による指導実習）
第6回	指導演習Ⅳ（個人による指導実習）
第7回	指導演習Ⅴ（個人による指導実習）
第8回	指導演習Ⅵ（個人による指導実習）
第9回	指導演習Ⅶ（個人による指導実習）
第10回	指導演習Ⅷ（個人による指導実習）

第11回	指導演習Ⅸ（個人による指導実習）
第12回	指導演習Ⅹ（個人による指導実習）
第13回	指導演習Ⅺ（個人による指導実習）・指導演習の振り返りとまとめ
第14回	実習の確認・SIUスポーツクラブのプログラム企画①
第15回	SIUスポーツクラブのプログラム企画②
第16回	SIUスポーツクラブのプログラム企画③
第17回	SIUスポーツクラブの運営①・振り返り
第18回	SIUスポーツクラブのプログラム企画④
第19回	SIUスポーツクラブのプログラム企画⑤
第20回	SIUスポーツクラブの運営②・振り返り
第21回	SIUスポーツクラブのプログラム企画⑥
第22回	SIUスポーツクラブのプログラム企画⑦
第23回	SIUスポーツクラブの運営③・振り返り
第24回	実習参加（札幌国際大学が主催する事業（SIUスポーツクラブも含む）・レクリエーション課程認定校学生交流会・・レクリエーション関係団体が主催する事業・教育関係団体が主催する事業・その他事前に認められた事業）
第25回	実習参加（札幌国際大学が主催する事業（SIUスポーツクラブも含む）・レクリエーション課程認定校学生交流会・・レクリエーション関係団体が主催する事業・教育関係団体が主催する事業・その他事前に認められた事業）
第26回	実習の振り返りとまとめのレポート

事前・事後学修	日常的に笑顔で挨拶が出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ実践をしてください。 指導演習に向けて各個人での事業計画等の準備が必要となります。対象者や目的にあわせたレクリエーション活動が展開できるよう、今までに学習してきた理論や実技の技法を再確認しておいてください。科目に関連する学部学科行事を実施した際、到達目標に関するレポートを行う場合があります。予習復習の時間は各2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①指導演習の企画、準備、展開（３０％） ②事業への参加状況（４０％） ③報告、課題レポート（３０％）

テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人　日本レクリエーション協会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴 と授業内容	本講義は、スポーツや福祉領域で子どもから高齢者までのレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、現場で活かされる支援者としての技術を修得できる授業を実施します。
備考	この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」「ジュニアスポーツ指導員」の資格取得のための必修科目です。 既に「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」の単位を修得していることが必要です。 実習費として500円程度徴収する場合があります。（カップ大会参加費）

年度	2025
講義名称	レクリエーション実技[スポ①/2]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05205S スポーツ指導学科：SPI05507S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	様々な課題を抱える現代社会において、レクリエーションの位置づけは個人及び集団におけるコミュニケーション能力を高めるための手段として、欠かすことの出来ないものとなっています。本講義は、レクリエーションを通じて、ホスピタリティやコミュニケーション能力の向上を目指し、目的や対象者にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援できるような技能を身につけることが目的です。
到達目標	①個人及び集団でのコミュニケーション能力を高める。 ②レクリエーションの重要性を理解し積極的に関わる姿勢を身につける。 ③目的や対象にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援することができる。 ④スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	実技体験が主となりますが、単に体験するだけではなく、目的や対象にあわせた活動や展開方法を学ぶグループワークを行います。また、フィールドワークとして事業に参加することもあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評します。また、必要に応じて授業以外にも時間を設けます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業ガイダンス・レクリエーション活動の習得Ⅰ（ゲーム）
第2回	レクリエーション活動の習得Ⅱ（野外活動）
第3回	レクリエーション支援の方法Ⅰ・Ⅱ（ホスピタリティ）
第4回	レクリエーション活動の習得Ⅲ・Ⅳ（ニュースポーツ・様々な活動）
第5回	レクリエーション支援の方法Ⅲ（アイスブレイキング①）
第6回	レクリエーション支援の方法Ⅳ（アイスブレイキング②）
第7回	レクリエーション支援の方Ⅴ（アイスブレイキング②）
第8回	レクリエーション支援の方法Ⅳ（ハードルの設定）
第9回	レクリエーション支援の方法Ⅵ（CSSプロセス）
第10回	レクリエーション支援の方法Ⅶ（アレンジの応用と基本）
第11回	安全管理の基礎Ⅰ（スポーツ行政の仕組みと実際）
第12回	安全管理の基礎Ⅱ（スポーツレクリエーション継続のための場づくり）

第13回	レクリエーション活動の習得（まとめ）
第14回	動機付の支援技術Ⅰ・Ⅱ
第15回	レクリエーション活動の習得Ⅱ（野外活動・フィールドワーク）
第16回	レクリエーション活動の習得Ⅱ（野外活動・フィールドワーク）
第17回	レクリエーション活動の習得（歌などを使用した身体活動）
第18回	レクリエーション活動の習得（ニュースポーツ）
第19回	レクリエーション活動の習得（ニュースポーツ）
第20回	レクリエーション支援の実施Ⅰ（目的に合わせたレクリエーションプログラム計画①）
第21回	レクリエーション支援の実施Ⅱ（目的に合わせたレクリエーションプログラム計画②）
第22回	レクリエーション支援の実施Ⅲ（目的に合わせたレクリエーションプログラム計画③）
第23回	レクリエーション支援の実施Ⅳ（目的に合わせたレクリエーションプログラム発表①）
第24回	レクリエーション支援の実施Ⅴ（目的に合わせたレクリエーションプログラム発表②）
第25回	レクリエーション支援の実施Ⅵ（目的に合わせたレクリエーションプログラム発表③）
第26回	レクリエーション活動のまとめとレポート

事前・事後学修	次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。毎回の授業で、その日行ったレクリエーション活動の内容と感想を実技ノートにまとめてください。 日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。 また、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。予習復習の時間は各2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業の理解度、小テスト（４０％） ②レクリエーション活動の展開、支援法（４０％） ③課題レポート・実技ノート（２０％）
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	楽しさをとおした心の元気づくり　公益財団法人　日本レクリエーション協会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	子どもから高齢者までの運動教室や介護予防等でレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、目的や対象者に合わせたレクリエーション活動を展開し、アレンジできるようになる講義を実施します。
備考	この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」「ジュニアスポーツ指導員」の資格取得をするための必修科目です。 レクリエーション・インストラクター等資格取得希望者履修とします。 積極的にコミュニケーションを図るよう心がけてください。

年度	2025
講義名称	レクリエーション実技[スポ②/2]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05205S スポーツ指導学科：SPI05507S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	様々な課題を抱える現代社会において、レクリエーションの位置づけは個人及び集団におけるコミュニケーション能力を高めるための手段として、欠かすことの出来ないものとなっています。本講義は、レクリエーションを通じて、ホスピタリティやコミュニケーション能力の向上を目指し、目的や対象者にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援できるような技能を身につけることが目的です。
到達目標	①個人及び集団でのコミュニケーション能力を高める。 ②レクリエーションの重要性を理解し積極的に関わる姿勢を身につける。 ③目的や対象にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援することができる。 ④スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	実技体験が主となりますが、単に体験するだけではなく、目的や対象にあわせた活動や展開方法を学ぶグループワークを行います。また、フィールドワークとして事業に参加することもあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評します。また、必要に応じて授業以外にも時間を設けます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業ガイダンス・レクリエーション活動の習得Ⅰ（ゲーム）
第2回	レクリエーション活動の習得Ⅱ（野外活動）
第3回	レクリエーション支援の方法Ⅰ・Ⅱ（ホスピタリティ）
第4回	レクリエーション活動の習得Ⅲ・Ⅳ（ニュースポーツ・様々な活動）
第5回	レクリエーション支援の方法Ⅲ（アイスブレイキング①）
第6回	レクリエーション支援の方法Ⅳ（アイスブレイキング②）
第7回	レクリエーション支援の方Ⅴ（アイスブレイキング②）
第8回	レクリエーション支援の方法Ⅳ（ハードルの設定）
第9回	レクリエーション支援の方法Ⅵ（CSSプロセス）
第10回	レクリエーション支援の方法Ⅶ（アレンジの応用と基本）
第11回	安全管理の基礎Ⅰ（スポーツ行政の仕組みと実際）
第12回	安全管理の基礎Ⅱ（スポーツレクリエーション継続のための場づくり）

第13回	レクリエーション活動の習得（まとめ）
第14回	動機付の支援技術Ⅰ・Ⅱ
第15回	レクリエーション活動の習得Ⅱ（野外活動・フィールドワーク）
第16回	レクリエーション活動の習得Ⅱ（野外活動・フィールドワーク）
第17回	レクリエーション活動の習得（歌などを使用した身体活動）
第18回	レクリエーション活動の習得（ニュースポーツ）
第19回	レクリエーション活動の習得（ニュースポーツ）
第20回	レクリエーション支援の実施Ⅰ（目的に合わせたレクリエーションプログラム計画①）
第21回	レクリエーション支援の実施Ⅱ（目的に合わせたレクリエーションプログラム計画②）
第22回	レクリエーション支援の実施Ⅲ（目的に合わせたレクリエーションプログラム計画③）
第23回	レクリエーション支援の実施Ⅳ（目的に合わせたレクリエーションプログラム発表①）
第24回	レクリエーション支援の実施Ⅴ（目的に合わせたレクリエーションプログラム発表②）
第25回	レクリエーション支援の実施Ⅵ（目的に合わせたレクリエーションプログラム発表③）
第26回	レクリエーション活動のまとめとレポート

事前・事後学修	次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。毎回の授業で、その日行ったレクリエーション活動の内容と感想を実技ノートにまとめてください。 日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。 また、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。予習復習の時間は各2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業の理解度、小テスト（４０％） ②レクリエーション活動の展開、支援法（４０％） ③課題レポート・実技ノート（２０％）
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	楽しさをとおした心の元気づくり　公益財団法人　日本レクリエーション協会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	子どもから高齢者までの運動教室や介護予防等でレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、目的や対象者に合わせたレクリエーション活動を展開し、アレンジできるようになる講義を実施します。
備考	この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」「ジュニアスポーツ指導員」の資格取得をするための必修科目です。 レクリエーション・インストラクター等資格取得希望者履修とします。 積極的にコミュニケーションを図るよう心がけてください。

年度	2025
講義名称	レクリエーション理論[スポ]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05204L スポーツ指導学科：SPI05505L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 本多 理紗	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、レクリエーションの意義、レクリエーションインストラクターの役割やレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解することです。さらに、楽しさを原動力としたレクリエーション事業についても学習をし、主体的に計画を立てて積極的に活動できる能力を身につけることを目指します。
到達目標	①レクリエーションの意義やインストラクターとして必要な知識を理解することができる。 ②レクリエーションの重要性を理解し、積極的に関わる能力を身につける。 ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
授業の進め方	毎回教科書を使用した講義形式とグループワークやディスカッション等を行います。また、グループでのレクリエーション活動の体験、課題解決問題や発表も行い、能動的な学習を目指します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で解説、講評します。また、必要に応じて授業以外にも時間を設けます。

授業計画表

回	授業内容
第1回	授業ガイダンス・レクリエーション活動体験
第2回	レクリエーション概論（レクリエーション支援や役割）・スポーツ・レクリエーション概論（スポレクとは）
第3回	楽しさと心の元気づくりの理論①②（楽しさを通した心の元気づくりと対象者の元気づくり・心の元気と地域のきずな）
第4回	スポーツ・レクリエーション生理学（高齢期の身体的特徴と運動効果を上げるポイント等）・スポーツ・レクリエーション心理学(高齢期の心理的特徴とスポレクの心理的効果等)
第5回	スポーツ未実施者参加促進法（スポーツ未実施者の現状など）・ニュースポーツの定義について
第6回	レクリエーション支援の理論①（コミュニケーションと信頼関係づくりの理論）
第7回	レクリエーション支援の理論②③（良好な集団づくりの理論・自主的、主体的に楽しむ力を育む理論）
第8回	レクリエーション支援の方法①（ホスピタリティ・アイスブレイキング）
第9回	レクリエーション支援の方法②（アレンジ・CSSプロセス）
第10回	レクリエーション支援のプログラム（リスクマネジメントの方法）・事業計画の作り方
第11回	レクリエーション事業計画①
第12回	レクリエーション事業計画②・発表

第13回	レクリエーション事業計画のふりかえり・まとめ

事前・事後学修	次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。毎回の授業で、前回の授業内容の復習問題や各都道府県において行われているレクリエーションの事業や気になるイベント等を調べる課題を出題しますので、ノートにまとめてください。日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。また、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。予習復習の時間は各2時間半を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①提出物、発表 30％ ②レクリエーションへの理解度、小テスト 40％ ③課題レポート 30％
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会
参考文献	『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会 『レクリエーション支援の基礎』公益財団法人 日本レクリエーション協会 『福祉レクリエーション総論』公益財団法人 日本レクリエーション協会

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、子どもから高齢者までの運動教室や介護予防等でレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、レクリエーションとは何かをレクリエーション支援者の視点から理解できる講義を実施します。
備考	この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター等資格取得希望者履修とします。 学科関係なく多くの学生とコミュニケーションをとりますので、積極的に参加するよう心がけてください。

年度	2025
講義名称	スポーツ傷害と予防[スポ]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05201L スポーツ指導学科：SPI05504L

担当教員

氏名	所属
◎ 後藤 ゆり	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、スポーツ活動に関連して起こりうる傷害について、その発生要因や症状、性・年齢・競技種目などによる特徴について理解する。また、スポーツ傷害予防の観点から、スポーツ指導者として身につけておくべき知識や対応の仕方を習得する。さらに、対象者に安全な運動プログラムを作成・提供するために必要な知識と理論を学習する。
到達目標	スポーツ傷害について、発生要因や症状、性・年齢・競技種目などによる特徴について説明できる。また、スポーツ傷害の予防について具体例を示しながら論述することができる。
授業の進め方	主として教室で講義を展開し、スポーツ傷害について、発生要因や症状、性・年齢・競技種目による特徴および予防の観点から解説する。また、スポーツ傷害についてより深い理解を得るためにディスカッションやグループワークを行う。さらに、スポーツテーピングなどの実習を行い実践的な知識・技術を修得できるような講義を展開する。

アクティブ・ラーニング

体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題やレポートについては、学生の意見を講義の中で紹介し意見交換を行うなどして学生にフィードバックを行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（運動器の障害の基本像） 内科的障害
第2回	頭部・頸部の傷害
第3回	肩関節の傷害
第4回	肘・手関節の傷害
第5回	体幹の傷害
第6回	骨盤・股関節の傷害
第7回	大腿の傷害
第8回	膝関節の傷害
第9回	足関節・足部の傷害
第10回	スポーツテーピングの実際（1）
第11回	スポーツテーピングの実際（2）
第12回	運動プログラム作成の理論（1）
第13回	運動プログラム作成の理論（2）

	【具体的な内容】	2025/04/01

事前・事後学修	・講義で扱う範囲に基づき基礎的な人体解剖の知識について予習する。 ・講義内容について各自のスポーツ活動に当てはめて事例を用意し、次回講義でのディスカッションやグループワークなどに活用する。 ・各自の興味のあるスポーツでの傷害予防について情報収集を行う。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末レポート 40% 講義後の感想レポート 30% 講義内での課題 30%
参考文献	【参考文献】 ・「基礎から学ぶ！スポーツ障害」 鳥居俊 著 ベースボール・マガジン社 ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下） ・その他適宜資料を配布する。

備考	本科目は下記の資格の対象科目である。 ・トレーニング指導者(JATI) ・健康運動指導士

年度	2025
講義名称	スポーツ社会学[スポ]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05102L スポーツ指導学科：SPI05101L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、実践するための具体的方策を理解する 社会における体育・スポーツの意義と現状を把握し、体育・スポーツに関する様々な問題を社会的に検討し解決する方策を探る
到達目標	①現代社会におけるスポーツの現状と課題を理解できる ②スポーツに関する情報に関心を示し、スポーツボランティア等に積極的な参加ができる ③実現可能なスポーツ施策（イベント）を提案できる
授業の進め方	対面での講義が主となるが、グループワークやディスカッションなど演習形式の授業も取り入れる。 毎時間、レポートの提出を課し、質問や疑問点については直接またはレポートを通して受け付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の質問には個々に回答し、次の時間に返却するとともに、前時の振り返りとして全体に解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	対面
第2回	社会におけるスポーツの意義と現状	対面
第3回	我が国のスポーツ政策	対面
第4回	スポーツの魅力を探る	対面
第5回	スポーツの現状と課題	対面
第6回	スポーツ指導者の役割	対面
第7回	理想のスポーツ指導者	対面
第8回	理想のスポーツ指導者	対面
第9回	スポーツイベントの現状	対面
第10回	スポーツボランティア	対面
第11回	スポーツにおける倫理	対面
第12回	スポーツの発展とプロモーション	対面
第13回	授業のまとめ（課題レポート）	対面

事前・事後学修	事前学習として、日常的にスポーツに関心を持ち、スポーツに関するニュース、新聞などの話題に関心を示し、その内容を把握しておくこと 事後学習として、積極的にボランティア等に参加し、身につけた知識を現場で発揮できるようにすること

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①スポーツに関する理解度（提出物、小レポート、確認テスト） 50％ ②グループワークの積極的参加と貢献度 30％ ③イベントへの参加、ボランティア、実践 20％
テキスト	特になし
参考文献	必要に応じて資料を配布する

実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会教育主事として実務経験のある教員が、スポーツが社会に及ぼす影響を具体的に解説する

年度	2025
講義名称	スポーツ心理学[スポ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	3年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05101L スポーツ指導学科：SPI05102L

担当教員

氏名	所属
◎ 阿井 英二郎	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義の目的は、スポーツでよく使われる「心・技・体」という言葉について、「心」の重要性と「技」「体」の繋がりを理解し、心身の発達と自身のスポーツ活動およびスポーツ指導のあり方を学ぶことである。さらに、以下の2点について具体的に修得することを目指す。①メンタルトレーニングやコーチング等の専門知識を学び、競技力向上や日常生活、今後の人生に役立つパフォーマンス（学業や仕事等）の向上など、実際に活かすことのできる心理学や行動変容に関わる方法を修得すること。②スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて理解し、スポーツ場面での実践に活かせるようになること。
到達目標	スポーツにおける心理学的な影響について知識を深め、基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、説明することができ、自分自身の日常生活で応用できることを目指す。
授業の進め方	スポーツ心理学の実践的なテーマについて、能動的学修を目指し、講義形式に加えて、心理検査・実技などの体験学習をグループワーク形式で実施する。さらに、レポートを課し、講義内容の振り返りを行う。本講義は、スポーツ心理学を専門とし、かつスポーツコーチング現場での競技指導および実務経験を有する教員が、スポーツの実践現場の事例を紹介することを通じて、「スポーツ心理学」の基礎理論について理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス(本講義の内容を概説と授業の進め方)	対面授業
第2回	スポーツ心理学の歴史/研究法	対面授業
第3回	心理的競技力/メンタルトレーニング法	対面授業
第4回	マインドフルネス	オンデマンド
第5回	メンタルトレーニング法/メディテーション	対面授業
第6回	コミュニケーション①	対面授業
第7回	コミュニケーション②	対面授業
第8回	バーバルコミュニケーション	対面授業
第9回	アンガーマネジメント	対面授業
第10回	自律訓練法	オンデマンド
第11回	イップス	対面授業
第12回	凝集性	対面授業
第13回	スポーツ心理学総括	対面授業

事前・事後学修	事前及び事後学習は、授業内容に関する文献及び書籍を通じて調べ学習を行うこと。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業参加レポート・提出物：30% 試験：70%
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	適宜、紹介する。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔スピ〕〔横山〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、基礎ゼミや基礎演習で修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とする。少人数で講義を展開し、「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」「フィールドワーク」形式の演習を通じて、社会人基礎力として必要とされるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、テーマ研究や卒業論文の作成に必要とされる「情報の要約や抜粋」「データの可視化」についても学修する。
到達目標	テーマに関する資料やデータからの確に情報を読み取り、要点をまとめて文章化することができるようになる。また、目的に見合った調査方法を理解し、結果から要因を検討・考察することができる。
授業の進め方	基本的な講義方法は、少人数の演習形式で実施する。本講義では、グループワークやディスカッション、フィールドワークを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開する。なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ゼミ内合同ガイダンス / 交流企画①	対面授業
第2回	ゼミ内合同交流企画②	対面授業
第3回	論文抄読会Ⅰ	対面授業
第4回	論文抄読会Ⅱ	対面授業
第5回	論文抄読会Ⅲ	対面授業
第6回	論文読解（目的と方法）	対面授業
第7回	論文読解（結果と考察）	対面授業
第8回	ディベート（客観的主張 / 批判的思考力）	対面授業
第9回	ゼミ内合同 就活講座 / ライフプラン作成	対面授業
第10回	Book Hunting	対面授業
第11回	テーマ研究を考える	対面授業
第12回	ゼミ内合同発表リハーサル	対面授業
第13回	応用演習報告会	対面授業

事前・事後学修	抄読会資料の準備は夏季休暇期間中の課題とします。また、スポーツイベントの準備、発表会資料の作成については、基本的に授業時間外の事前学習で行います。授業スケジュールを逆算し、計画的に進めて下さい。4年生のテーマ研究Ⅰに向けて授業の復習を春季休暇期間に行ってください。なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	抄読会資料（30％） 抄読会発表（30％） グループ発表（40％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。

備考	突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等に関わる場合があります。実施日は休日になる可能性が高く、スケジュールの調整が必要になります。春季休暇期間中には、テーマ研究Ⅰについての課題を提示します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔スピ〕〔竹元〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05005S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講座では、応用演習Ⅰを発展させ、スポーツ・健康分野における課題をテクノロジーによる課題解決ができるスポーツDX実現できる人材を目指した講座ならびに演習を行います。講座においては、ビジネス業界でも先進的な「デザインの思考法」による課題解決手法（「共感」、「問題定義」、「アイデア創出」、「プロトタイプ」、「テスト」）を学び、ビジネス全般でも通用する創造性をもったマーケティング、事業開発のための企画提案や課題解決に向けたレポート作成、プレゼンテーション制作方法を学びます。また、演習ならびに成果物等制作については、本学が誇るCreative Labを活用します。また、同時に4年次での「テーマ研究」に向けた準備作業をこなしていきます。
到達目標	・スポーツDXの基本概念を理解し、スポーツ・健康分野におけるデジタル技術の活用可能性の理解や課題解決のための成果物を制作できる ・テーマの探究や課題解決するための考え方や思考法を活用することができる。 ・テーマにおける企画提案や課題解決に向けたレポート作成やプレゼンテーション作成・効果的な発表ができる
授業の進め方	本講座は、講義と演習を組み合わせた形式で進めます。各テーマについて基本的な知識や技術を講義で学んだ後、Creative Labの設備を活用して実践的な演習を行います。後半では、これまでに習得した知識と技術を活用し、スポーツDXに関連する成果物の制作や企画提案、プレゼンテーションにに取り組みます。最終回には成果発表会を実施ならびにその成果発表をレポートにまとめて提出してもらいます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各演習課題については、その場でコメントやアドバイスをを行います。グループ制作の成果物については、中間進捗確認の際にフィードバックを行い、最終発表後には評価シートを用いて詳細なフィードバックを提供します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンスと講座の概要説明 本講座の概要ならびに目的、授業の進め方、評価方法の説明 グループ分けの実施	対面授業
第2回	②デザイン思考による課題解決 1(共感、問題定義) 社会、企業などで最新の社会課題、ビジネス課題解決の解決手法として注目されている デザイン思考について基礎解説（共感、問題定義パート）ならびにグループ演習によるを行います。	対面授業
第3回	②デザイン思考による課題解決Ⅰ(アイデア創出、マインドマップ講座) デザイン思考のアイデア創出パートの解説とその効果的な手法としてマインドマップについて解説、演習を行います。	対面授業
第4回	②デザイン思考による課題解決 2(プロトタイプ、テスト) デザイン思考(プロトタイプ、テストパート) の解説や演習を行います。	対面授業
第5回	⑤ビジネスで通用するレポート、プレゼンテーション作成スキルアップ講座1 デザイン思考を採り入れたビジネス戦略的提案レポート、プレゼンテーションの作成ならびにプレゼンテーション発表についての解説ならびにグループで演習を行います。	対面授業
第6回	⑤ビジネスで通用するレポート、プレゼンテーション作成スキルアップ講座2 デザイン思考を採り入れたビジネス戦略的提案レポート、プレゼンテーションの作成ならびにプレゼンテーション発表についての解説ならびにグループで演習を行います。	対面授業

第7回	⑤ビジネスで通用するレポート、プレゼンテーション作成スキルアップ講座3 デザイン思考を採り入れたビジネス戦略的提案レポート、プレゼンテーションの作成ならびにプレゼンテーション発表についての解説ならびにグループで演習を行います。	対面授業
第8回	⑧演習（スポーツの課題解決に向けた企画立案、調査・分析等） 各自にて課題解決に向けた演習活動を実施いたします。フィードバックについては授業中適宜行います。	対面(C-Lab)
第9回	⑨演習（スポーツの課題解決に向けた課題定義、課題解決等） 各自にて課題解決に向けた演習活動を実施いたします。フィードバックについては授業中適宜行います。	対面(C-Lab)
第10回	⑩演習（スポーツの課題解決に向けた試作、テスト等） 各自にて課題解決に向けた演習活動を実施いたします。フィードバックについては授業中適宜行います。	対面(C-Lab)
第11回	⑪演習（スポーツの課題解決に向けた評価、改善等） 各自にて課題解決に向けた演習活動を実施いたします。フィードバックについては授業中適宜行います。	対面(C-Lab)
第12回	⑫課題提案発表資料作成プレゼンテーション資料の作成、発表準備 各自にて課題テーマの解決に向けた提案発表にむけてプレゼンテーションの資料作成、発表準備を行ないます。フィードバックについては授業中適宜行います。	対面(C-Lab)
第13回	⑬発表成果物の発表会、相互評価、総括 各自にて課題テーマの解決に向けた提案発表を行い、相互評価を行います。 また、提案発表内容についてはレポートにまとめて提出を行います。 フィードバックについては授業中適宜行います。	対面(C-Lab)

事前・事後学習	【事前学習】 「①スポーツ・健康、スポーツDX分野の基礎的知識の習得」、「②デジタル・テクノロジー分野に関連した興味関心、基礎的知識」に関する情報収集を推奨します。 各回の講義前に、指定された参考資料や関連Webサイトを閲覧し、テーマに関する基礎知識を得ておくこと（各回60分程度） グループ制作期間中は、次回の演習に向けた準備や資料収集を行うこと（各回90分程度） 【事後学習】 講義で学んだ技術について、自主的に演習を重ね、スキルの定着を図ること（各回90分程度） 講義内で完成しなかった演習課題については、次回までに完成させること グループ制作期間中は、作業の振り返りと次回への課題整理を行うこと（各回60分程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	各授業毎のミニレポート：30%（課題理解度、分析力、提案内容） 授業参加度：20%（グループワークへの貢献、発言の積極性） 最終グループ発表：20%（独創性、実現可能性、プレゼンテーション力など） 最終個人レポート：30%（論理構成、文章表現力）
テキスト	特定のテキストは使用せず、講義ごとに必要に応じて資料を配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	「新しい文章力の教室」 唐木元著 2023, インプレス 「まったく新しいアカデミック・ライディングの教科書」阿部幸大 2024,光文社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、多様な業界や企業でビジネス・マーケティング、事業開発、プロモーションに携わり、実践的なスキルを磨いてきました。また、教員研修でのICT教育やSTEAM教育の講座企画・開発、講師としての実績も多数有しています。これらの経験を基に、実践的な知識を応用した学びを提供する講義を展開します。

備考

本講座ではIntel社の最先端STEAM教育フレームワークSkills for Innovationのフレームワークを活用し、課題解決のための考え方や思考法を学びます。また、実務レベルで通用するレポート作成やプレゼンテーション・スキルを習得することで、今後の就活や社会人人生において、効果的に活用できることを目指しています。また演習では、本学が誇る最先端テクノロジーラボである「Creative Lab」を演習等で最大限活用します。このため、Creative Labに設置されているハイスペックPCや周辺機器、CADソフトやAdobeCCやMicrosoft365などソフトウェアなどの基礎的・操作への理解が必要です（本講座では機器ソフトウェア等の操作研修は行いません。各自習得が前提です。）

講座の受講人数については、Creative Labに設置されているPCの台数制限により上限20名といたします。

講座については、突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等により、日程の変更や授業方法が変更となります。その場合は、オンライン、オンデマンドでの授業もしくは補講を実施いたします。補講実施日は休日になる可能性もあり、スケジュールの調整が必要になります。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔スピ〕〔原(一)〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05005S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業 の 目 的 と 概 要	まずは皆さんが人生の大変を過ごす「企業」について研究します。一般企業のビジネスモデルを知らずしてスポーツビジネスは語れません。「組織で活躍している人の行動分析」ではアスリートに置き換えて考察します。企業であれプロスポーツチームであれ、組織で活躍している人には何らかの共通点があります。その答えを「教えてください」ではなく全員で調べ、結論を導きます。
	もうひとつは「ConCom2025」への参加です。これはゼミとして初の試みですが、企業・自治体等の組織が抱える「解決したい経営上の課題」に対して、大学生がチームを組んで解決策を提案し、その優劣を競う大会です。企業や自治体と学生が協働で課題を解決し、その過程の中で皆さんが成長していくことを目指しています。
	現代はテクノロジーの進化により、あらゆるものを取り巻く環境が複雑性を増し、将来の予測が困難な状況にあることから、「VUCA（ブーカ）の時代」と言われています。本科目ではビジネス社会における知識の基盤を習得し、実社会で活躍するビジネスパーソンの育成を在学時から行います。
到達 目標	スポーツ業界にとどまらず、どこかの業界でも通用する普遍的能力、知識の習得、すなわち社会人としての基礎的な力を身につけます。特に自ら動く「主体性」と仲間と動く「協調性」を養い、発揮できるようになります。
授業 の 進 め 方	応用演習Ⅰの座学で基礎的なスキルを身につけたと仮定します。そのうえで応用演習Ⅱではこちらから企業へ出向くこともあれば、企業の方々が来られることもあります。ビジネス社会と同じですが臨機応変に進めていきます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、毎回、レポートを書いてもらい、振り返りの作業を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	概ね以下のとおりです。 ※予告なく内容が変わる場合もあります。 ①業界・企業研究（IT）	対面
第2回	②業界・企業研究（商社 建設機械）	対面
第3回	③業界・企業研究（メーカー 住宅）	対面
第4回	④業界・企業研究（鉄道）	対面
第5回	⑤業界・企業研究（教育）	対面
第6回	⑥業界・企業研究（商社 精密機械）	対面
第7回	⑦業界・企業研究（流通 スーパー）	対面
第8回	⑧業界・企業研究（商社 医薬品）	対面

第9回	⑨業界・企業研究（商社　日用品）	対面
第10回	⑩業界・企業研究（メーカー　食品）	対面
第11回	⑪最終報告会準備	対面
第12回	⑫最終報告会準備	対面
第13回	⑬最終報告会	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 人生は日々勉強です。常にアンテナを張り、新聞やニュース、ネットなどの情報は見逃さず、自分なりの見解を持つことが大事です。大学生として世間に疎くならないよう気を付けてください。また、最低限のパソコンスキルは身につけてください。 【必要な時間】 事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回のレポート（50％）、中間報告会（50％）です。「演習」ですから、ただ出席していればいいという受け身の姿勢では困ります。「読む」「書く」「聴く」「話す」は当然ですが常に考える習慣を持ち、自分から発信することが求められます。
テキスト	ほぼ毎回、オリジナル資料を配布します。時事問題はもちろん、スポーツ～芸能に至るまでの幅広い資料です。コミュニケーション能力のひとつに雑談力と質問力があります。この力をつけるための知識を増やすのが目的です。資料をもとにしたディスカッションも頻繁に行います。
参考文献	ほぼ毎回、オリジナル資料を配布します。時事問題はもちろん、スポーツ～芸能に至るまでの幅広い資料です。コミュニケーション能力のひとつに雑談力と質問力があります。この力をつけるための知識を増やすのが目的です。資料をもとにしたディスカッションも頻繁に行います。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	夏休みにビジネスフィールドワークin東京を開催します（参加は任意）。 少数精鋭のゼミ展開を想定しています。様々な経験を積んでももらいますが、企業の方々と会うことが多いので「態度の悪い学生」、グループワークが多いので「指示待ち・受け身の学生」はご遠慮ください。ビジネスフィールドワークin東京や懇親会（会食や釣り＆温泉など）もありますので、「協調性のない学生」もご遠慮ください。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔スピ〕〔坪山〕
講義開講時期	秋学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、応用演習Ⅰで学んだ論文読解やアンケート調査の基礎をさらに発展させ、より実践的な研究活動に取り組むことを目的とします。前期で設定した研究テーマを基に、データの収集・分析を行い、論理的な考察を深めながら、卒業研究につながる成果をまとめていきます。 授業では、研究計画のブラッシュアップ、データ分析の応用、プレゼンテーション技法の向上を重視し、ゼミ内外での発表やディスカッションを通じて、研究の精度を高めます。また、実社会で求められる論理的思考力と実践力の向上を図ります。最終的には、各自の研究成果を整理し、発表できるレベルまで仕上げることを目指します。
到達目標	本演習では、応用演習Ⅰで修得した研究の基礎をさらに発展させ、より実践的な研究活動を通じて、論理的思考力やデータ分析力、プレゼンテーション能力を高めることを目指します。具体的には、応用演習Ⅰに設定した研究テーマを深化させ、アンケートやインタビュー調査のデータを整理・分析し、客観的な根拠に基づいた考察ができるようになることを重視します。また、研究成果を効果的に伝えるためのプレゼンテーションスキルを磨き、論理的かつ説得力のある発表ができる力を養います。さらに、研究を通じて社会課題の解決に向けた具体的な提案を考察し、実践的な課題解決力を培います。
授業の進め方	本ゼミでは、学生が主体的に学び、実践的な研究活動を進められるように、演習形式を中心とした双方向型の授業を展開します。講義だけでなく、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、研究テーマや調査結果について意見交換を行いながら学びを深めていきます。また、応用演習Ⅰで設定した研究テーマをもとに、調査計画の立案、データ収集・分析、論理的な考察を段階的に進め、各ステップごとにゼミ内で共有しながらフィードバックを受け、研究の精度を高めます。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ゼミ内ガイダンス
第2回	研究計画の再検討Ⅰ
第3回	研究計画の再検討Ⅱ
第4回	データ収集の計画と調査手法の選定
第5回	データ収集・調査Ⅰ
第6回	データ収集・調査Ⅱ
第7回	データ収集・調査Ⅲ
第8回	合同ゼミプレゼンテーション準備Ⅰ
第9回	合同ゼミプレゼンテーション準備Ⅱ
第10回	合同ゼミプレゼンテーション準備Ⅲ
第11回	ゼミ内発表会
第12回	最終発表準備
第13回	学科合同ゼミによるプレゼンテーション

事前・事後学修	事前学修として関連する論文や書籍の読解を推奨し、事後学修として授業で得た知見を整理しながら研究の次のステップへとつなげていきます。

成績評価基準と方法	個人発表 30％ 課題提出状況 30％ 最終発表 40％
テキスト	適宜配布します。
参考文献	適宜紹介します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ[スピ][平澤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では1、2年で学んできた「スポーツビジネス」の基礎を基に新たな題材を設定し掘り下げ、研究能力を身に付けることを目的とします。担当教員が長く取材活動をしてきたプロ野球などのプロスポーツ。また地域に根差した企業が取り組むスポーツビジネスを中心に研究します。スポーツビジネスの観点から「人物」「役割」に焦点をあて、グループワーク（GW）やフィールドワーク（FW）を含めた講義、さらに4年生で着手する「テーマ研究論文」への準備段階へと進んでいきます。
到達目標	スポーツビジネスに関わる専門的な思考力、判断力、協働性および応用力を身に付け、毛俗的な意欲を持って学ぶ力を修得する。
授業の進め方	本講義は設定したテーマに沿って、スポーツ記者歴33年の教員が講義内で解説し、そこからGWを積極的に行ってもらいます。学生自らが研究に対して「記者」の気持ちになってゼミ内全員で一つのテーマを掘り下げしていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題などに関して講義内で解説していきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	前期のテーマ設定の確認～詳細及び日程調整	対面
第3回	最終テーマに向けての研究①	対面またはFW
第4回	最終テーマに向けての研究②	対面またはFW
第5回	最終テーマに向けての研究③	対面またはFW
第6回	最終テーマに向けての研究④	対面またはFW
第7回	最終テーマに向けての研究	対面またはFW
第8回	研究発表に向けての準備①（PP作成）	対面
第9回	研究発表に向けての準備②（PP作成～完成）	対面
第10回	研究発表に向けての準備③（発表内容の確認）	対面
第11回	研究発表に向けての準備④（最終準備）	対面
第12回	研究発表に向けてゼミ内リハーサル	対面
第13回	応用演習Ⅱゼミ発表	対面

事前・事後学修	・テーマ毎、またGWに関して貪欲な好奇心を持って臨んでほしいと思います。 ・各自でPCなどに事前事後情報や研究材料、検討材料などを常に整理してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ GW、FW＝50％ ・ レポート及び分析力、理解力＝25％ ・ 研究意欲、グループ発表＝25％
参考文献	※必要に応じて配布します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔スピ〕〔栗野〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05005S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、応用演習Ⅰで修得したスキルをさらに発展させ、より高度な研究およびプレゼンテーションができるようにすることを目的とする。また、「ディスカッション」、「グループワーク」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて、研究や卒業論文の作成や発表に必要とされる「文章を読む」、「文章を書く」、「学習内容を要約し、整理する」、「学習内容を人に伝える」といった基礎的な力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力に加え、さらに深く考えることができるようにする。 ②上記学習にて修得した知識を整理し、他人に明確なプレゼンテーションができるようにする。 ③文献検索方法や、関連資料の入手方法など基本的な学修手段を身に付ける。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式での演習を実施する。応用演習Ⅰで修得した文献の調査および要約する力に加え、学術的な論文や書籍の内容に対して批判的思考を持ち、内容について議論できるようにする。また、それらの内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身につけることで、能動的学修を目指す。学術的な領域の研究における実績のある教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
第2回	②各自テーマの再検討1(今後の展望)
第3回	③各自テーマの再検討2(研究分野の調査)
第4回	④各自テーマの再検討3(関連分野の調査)
第5回	⑤研究分野の情報収集
第6回	⑥各自の研究テーマ発表1(プレゼンテーション)
第7回	⑦各自の研究テーマ発表2(ディスカッション)
第8回	⑧合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成(1アウトライン作成)
第9回	⑨合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成2(追加情報の取得)
第10回	⑩合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成3(プレゼン内容の確認)
第11回	⑪ゼミ内でのプレ発表会1(流れの確認)
第12回	⑫ゼミ内でのプレ発表会2(前回の課題修正)

第13回	⑬最終報告会

事前・事後学習	【具体的な内容】 事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。授業ごとに前述に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。 【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人発表(30%) 課題提出状況(40%) 年度末発表(30%)

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅱ〔スビ〕〔田子〕
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05005S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、応用演習Ⅰで修得したスキルをさらに発展させ、より高度な研究およびプレゼンテーションができるようにすることを目的とする。また、「ディスカッション」、「グループワーク」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて、研究や卒業論文の作成や発表に必要とされる「文章を読む」、「文章を書く」、「学習内容を要約し、整理する」、「学習内容を人に伝える」といった基礎的な力のブラッシュアップを図る。
到達目標	自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力に加え、さらに深く考えることができるようにする。また上記学習にて修得した知識を整理し、他人に明確なプレゼンテーションができるようにする。 文献検索方法や、関連資料の入手方法など基本的な学修手段を身に付ける。
授業の進め方	ゼミナール形式での演習を実施する。応用演習Ⅰで修得した文献の調査および要約する力に加え、学術的な論文や書籍の内容に対して批判的思考を持ち、内容について議論できるようにする。また、それらの内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身につけることで、能動的学修を目指す。 プロスポーツビジネス実務経験のある教員が、自身の実績領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ゼミ活動についての全体的なガイダンス
第2回	各自テーマの再検討1(今後の展望)
第3回	各自テーマの再検討2(研究分野の調査)
第4回	研究分野の情報収集
第5回	各自の研究テーマ発表1(プレゼンテーション)
第6回	各自の研究テーマ発表2(ディスカッション)
第7回	合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成1(アウトライン作成)
第8回	合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成2(プレゼン内容の確認)
第9回	合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成3(プレゼン内容の修正)
第10回	合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成4(プレゼン内容の最終確認)
第11回	ゼミ内でのプレ発表会1(流れの確認)
第12回	ゼミ内でのプレ発表会2(前回の課題修正)
第13回	合同ゼミによるプレゼンテーション

事前・事後学習	事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。授業ごとに前述に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人発表(30%) 課題提出状況(40%) 年度末発表(30%)
テキスト	特になし。
参考文献	授業内適宜配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	2014年から2019年までサッカーJリーグ・北海道コンサドーレ札幌の広報・PR部門を担当し、2020年から22年まで会場運営、2023年から再び広報・プロモーション領域を担当した経験を持つ教員が、プロスポーツビジネスに関連した研究・調査をメインに、研究や卒業論文の作成や発表に必要とされる基礎力の向上を図る。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[スピ][横山]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、基礎ゼミや基礎演習で修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とする。少人数で講義を展開し、「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」「フィールドワーク」形式の演習を通じて、社会人基礎力として必要とされるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、テーマ研究や卒業論文の作成に必要な「論文読解」や「アンケート調査」についても学修する。
到達目標	情報を多角的に収集するとともに、資料からの確に情報を読み取ることができるようになる。また、アンケート調査については、目的を理解し、適切な質問項目を設定することができ、計画的に遂行することができるようになる。
授業の進め方	基本的な講義方法は、少人数の演習形式で実施する。本講義では、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開する。なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	学科合同ガイダンス	対面授業
第2回	ゼミ内合同ガイダンス / 交流企画①	対面授業
第3回	論文読解Ⅰ	対面授業
第4回	論文読解Ⅱ	対面授業
第5回	アンケート調査とは（Open QuestionとClosed Question）	対面授業
第6回	アンケート調査とは（Formsの使い方）	対面授業
第7回	ゼミ内合同交流企画②	対面授業
第8回	定量的分析（Excelの使い方 / 記述統計）	対面授業
第9回	定量的分析（データの可視化 / 図表）	対面授業
第10回	定量的分析（相関関係）	対面授業
第11回	定量的分析（平均値の比較）	対面授業
第12回	ゼミ内合同発表リハーサル	対面授業
第13回	応用演習 中間報告会	対面授業

事前・事後学修	論文読解の資料準備、発表会資料の作成については、基本的に授業時間外の事前・事後の学習で行います。授業スケジュールを逆算し、計画的に進めて下さい。秋学期の応用演習Ⅱに向けて、復習と予習を夏季休暇期間に行ってください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	課題（40％） グループ発表（60％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、適宜紹介する。

備考	突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等に関わる場合があります。実施日は休日になる可能性が高く、スケジュールの調整が必要になります。夏季休暇期間中には、応用演習Ⅱについての課題を提示します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔スピ〕〔竹元〕
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05004S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講座では、スポーツにおけるテクノロジーの活用（スポーツDX）がますます高まる状況に対応すべく、スポーツ・健康分野におけるデジタル・テクノロジーの知識理解・活用・応用について基礎的な演習を行います。 スポーツとテクノロジーの融合を課題テーマに、本学が誇る「Creative Lab」に設置したハイスペックPCや周辺機器、ソフトウェアを活用し、デジタルコンテンツや成果物の制作を行います。その過程を通じてスポーツビジネスのみならず全てのビジネスでも必要となる企画立案力や、課題解決力、制作進行、評価・プレゼンテーション力など資質能力について修得・向上を目指します。
到達目標	・スポーツDXの基本概念を理解し、スポーツ・健康分野におけるデジタル技術の活用可能性の理解や課題解決のための成果物を制作できる ・デジタルコンテンツ制作を通じて、スポーツビジネス等での広告宣伝に対する企画立案、制作に関する知識理解ができる ・3DCAD、3Dプリンターによる成果物制作を通じて、制作物の企画立案やデジタルものづくりに関する知識理解ができる ・ビジネスに必要な資質能力として企画立案から、問題解決や分析・評価、効果的なプレゼンテーションができる
授業の進め方	本講座は、講義と演習を組み合わせた形式で進めます。各テーマについて基本的な知識や技術を講義で学んだ後、Creative Labの設備を活用して実践的な演習を行います。後半では、これまでに習得した知識と技術を活用し、グループごとにスポーツを題材に、広告宣伝コンテンツや成果物の制作など企画立案から制作に取り組みます。最終回には成果発表会を実施します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各演習課題については、その場でコメントやアドバイスをを行います。グループ制作の成果物については、作業進捗確認の際にフィードバックを行い、最終発表後には評価シートを用いて詳細なフィードバックを提供します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	①ガイダンス 本講座の概要と目的、授業の進め方、評価方法の説明、グループ分けならびにグループ演習を行います。	対面(C-Lab)
第2回	②スポーツDX解説 / Creative Lab紹介 スポーツDXの概念やスポーツとテクノロジーの融合やビジネス可能性について解説します。 Creative Labの設備説明と基本操作について学びます。	対面(C-Lab)
第3回	③デザイン作成について講義 デザインの制作について基本的な考え方や制作手法についての解説を行います。 Adobe CC（Adobe Express, Adobe illustrator, Adobe Photoshop）などの基本操作や演習を行います。	対面(C-Lab)
第4回	④デザイン作成演習 デザイン課題としてスポーツ関連の広告デザイン（チラシ、ポスター、SNSやWEBなどのパナー等）制作の演習を行います。	対面(C-Lab)
第5回	⑤3DCAD, 3Dプリンターについて講義 デジタルでのものづくりや3D造形制作について解説を行います。 Creative Labの3DCADや3Dプリンターの原理や基本操作ならびに演習を行います。	対面(C-Lab)
第6回	⑥3DCAD, 3Dプリンタ演習 3DCADを用いたスポーツ関連製品のモデリング制作と3D出力演習を行います。	対面(C-Lab)

第7回	⑦映像制作編集について講義 映像制作・編集の基礎について解説を行います。 Creative LabのPCに搭載する映像編集ソフトの基本操作と演習を行います。	対面(C-Lab)
第8回	⑧映像編集演習 各自事前に撮影した画像、動画を用いて、スポーツ関連の短編映像制作（30秒プロモムービー）の演習を行います。	対面(C-Lab)
第9回	⑨制作演習1（企画立案、作業計画の策定） グループ毎にCreative Labを活用してスポーツに関連するデジタル制作物の制作をスタートします。 企画立案ならびに作業計画の策定など活動を行います。	対面(C-Lab)
第10回	⑨制作演習2（制作活動） グループ毎にCreative Labを活用してスポーツに関連するデジタル制作物の制作活動を行います。	対面(C-Lab)
第11回	⑨制作演習3（制作活動、進捗確認） グループ毎にCreative Labを活用してスポーツに関連するデジタル制作物の制作活動を行います。 制作における進捗確認を行います。	対面(C-Lab)
第12回	⑫制作演習4（発表向け資料作成、プレゼンテーション資料の作成、発表準備） 制作内容についてのグループ発表向けプレゼンテーションに向けて、資料作成、発表準備を行います。	対面(C-Lab)
第13回	⑬まとめ（成果発表会、相互評価、総括） 課題にたいする成果発表会を行います。 グループ発表に関して、相互評価、総括を行います。	対面(C-Lab)

事前・事後学修	【事前学習】 「①スポーツ・健康、スポーツDX分野の基礎的知識の習得」、「②デジタル・テクノロジー分野に関連した興味関心、基礎的知識」に関する情報収集を推奨します。 各回の講義前に、指定された参考資料や関連Webサイトを閲覧し、テーマに関する基礎知識を得ておいてください。（各回60分程度） グループ制作期間中は、次回の演習に向けた準備や資料収集を行なってください。（各回90分程度） 【事後学習】 講義で学んだ技術について、自主的に演習を重ね、スキルの定着を図ってください。（各回90分程度） 講義内で完成しなかった演習課題については、Creative Labを利用し期限内に完成させてください。 グループ制作期間中は、作業の振り返りと次回への課題整理を行ってください。（各回60分程度）

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	演習課題の提出と完成度：20％ グループ制作の成果物：30％ 最終発表の内容と表現力：20％ 各授業毎の振り返りレポート：30％
テキスト	特定のテキストは使用せず、講義ごとに必要に応じて資料を配布します。資料はLMS（学習管理システム）にも掲載します
参考文献	「伝わるデザインの基本 増補改定3版」高橋佑磨、片山なつ著 2023 技術評論社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、多様な業界や企業でビジネス・マーケティング、事業開発、プロモーションに携わり、幅広い経験を積んできました。また、ICT教育やSTEAM教育に関する講座の企画・開発、講師としての活動を通じ、教育現場での実績も豊富です。これらの経験を基に、実践的な知識と応用力を養う講義を展開します。
備考	本学が誇る最先端テクノロジーラボである「Creative Lab」を演習等で最大限活用します。このため、Creative Labに設置されているハイスペックPCや周辺機器、CADソフトやAdobeCCやMicrosoft365などソフトウェアなどの基礎的操作への理解が必要です（本講座では機器ソフトウェア等の操作研修は行いません。各自習得が前提です。） 機器台数制限のため、受講人数は上限20名となります。 授業内で成果物の制作が間に合わない場合、課外やLabの空き時間などでCreative Labを有効に利用して作業を行なってください。

また、突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等に関わる場合があります。その場合は、オンライン、オンデマンドでの授業もしくは、補講を実施いたします。実施日は休日になる可能性もあり、スケジュールの調整が必要になります。
夏季休暇期間中には、応用演習Ⅱについての課題を提示します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔スビ〕〔原(一)〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05004S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業 の 目 的 と 概 要	まずは皆さんが人生の大変を過ごす「企業」について研究します。一般企業のビジネスモデルを知らずしてスポーツビジネスは語れません。「組織で活躍している人の行動分析」ではアスリートに置き換えて考察します。企業であれプロスポーツチームであれ、組織で活躍している人には何らかの共通点があります。その答えを「教えてください」ではなく全員で調べ、結論を導きます。
	もうひとつは「ConCom2025」への参加です。これはゼミとして初の試みですが、企業・自治体等の組織が抱える「解決したい経営上の課題」に対して、大学生がチームを組んで解決策を提案し、その優劣を競う大会です。企業や自治体と学生が協働で課題を解決し、その過程の中で皆さんが成長していくことを目指しています。
	現代はテクノロジーの進化により、あらゆるものを取り巻く環境が複雑性を増し、将来の予測が困難な状況にあることから、「VUCA（ブーカ）の時代」と言われています。本科目ではビジネス社会における知識の基盤を習得し、実社会で活躍するビジネスパーソンの育成を在学時から行います。
到達 目標	スポーツ業界にとどまらず、どこの業界でも通用する普遍的能力、知識の習得、すなわち社会人としての基礎的な力を身につけます。特に自ら動く「主体性」と仲間と動く「協調性」を養い、発揮できるようになります。
授業 の 進 め 方	「演習」なので学外へ出向くことはありますが、基礎的な知識を身につけていなければ学外へ出ても功を奏しません。そのため応用演習Ⅰは基礎的な知識を身につける座学を後半に行います。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、毎回、レポートを書いてもらい、振り返りの作業を行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	概ね以下のとおりです。 ※予告なく内容が変わる場合もあります。 ①ガイダンス（ゼミの方針説明、役割分担決定）	対面
第2回	②ConCom2025について	対面
第3回	③ConCom2025キックオフミーティング（大会の説明）	対面
第4回	④ConCom2025プレゼンテーション大会準備	対面
第5回	⑤ConCom2025プレゼンテーション大会準備	対面
第6回	⑥ConCom2025プレゼンテーション大会	対面
第7回	⑦ConCom2025振り返り	対面
第8回	⑧VUCAとは何か？	対面

第9回	⑨VUCA時代に起こること	対面
第10回	⑩VUCA時代に必要なスキル	対面
第11回	⑪VUCA時代の意思決定方法	対面
第12回	⑫現代企業の現場で何が起こっているか？	対面
第13回	⑬ビジネスフィールドワークin東京準備	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 人生は日々勉強です。常にアンテナを張り、新聞やニュース、ネットなどの情報は見逃さず、自分なりの見解を持つことが大事です。大学生として世間に疎くならないよう気を付けてください。また、最低限のパソコンスキルは身につけてください。 【必要な時間】 事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	毎回のレポート（50％）、中間報告会（50％）です。「演習」ですから、ただ出席していればいいという受け身の姿勢では困ります。「読む」「書く」「聴く」「話す」は当然ですが常に考える習慣を持ち、自分から発信することが求められます。
テキスト	ほぼ毎回、オリジナル資料を配布します。時事問題はもちろん、スポーツ～芸能に至るまでの幅広い資料です。コミュニケーション能力のひとつに雑談力と質問力があります。この力をつけるための知識を増やすのが目的です。資料をもとにしたディスカッションも頻繁に行います。
参考文献	ほぼ毎回、オリジナル資料を配布します。時事問題はもちろん、スポーツ～芸能に至るまでの幅広い資料です。コミュニケーション能力のひとつに雑談力と質問力があります。この力をつけるための知識を増やすのが目的です。資料をもとにしたディスカッションも頻繁に行います。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、大手就職情報会社において15年間で500社以上の採用コンサルティングを担当し、企画運営や講演にも従事。その後、独立して20年間採用コンサルタント業務に携わり、就職支援やキャリア教育に尽力しました。この経験を基に、実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	夏休みにビジネスフィールドワークin東京を開催します（参加は任意）。 少数精鋭のゼミ展開を想定しています。様々な経験を積んでもらいますが、企業の方々と会うことが多いので「態度の悪い学生」、グループワークが多いので「指示待ち・受け身の学生」はご遠慮ください。ビジネスフィールドワークin東京や懇親会（会食や釣り＆温泉など）もありますので、「協調性のない学生」もご遠慮ください。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔スピ〕〔坪山〕
講義開講時期	春学期
必修区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、これまでに修得した学びの技法や基礎的な研究スキルをさらに発展させ、新しいスポーツ（eスポーツ・ニュースポーツ・バーチャルスポーツなど）に関する研究を進めるための応用力を養うことを目的とします。少人数制の講義を活かし、「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」「フィールドワーク」などの演習を通じて、社会人基礎力として求められるコミュニケーションスキルの向上を図ります。また、卒業研究に向けた準備として、論文読解やアンケート調査の方法を学び、研究計画の立案やデータ分析の基礎を習得することで、各自の研究を深めるための土台を築きます。
到達目標	本講義では、新しいスポーツ（eスポーツ・ニュースポーツ・バーチャルスポーツなど）に関する基礎知識を理解し、卒業研究に向けた研究計画を立案できる力を養います。文献調査やアンケート調査の方法を学び、得たデータを整理・分析することで、研究の基盤を構築します。また、グループワークやディスカッションを通じて多様な視点を取り入れ、自身の研究内容を論理的に整理し、適切に発表できるプレゼンテーション能力を身につけます。さらに、フィールドワークや実践的な課題解決に取り組むことで、新しいスポーツの社会的活用について考察し、批判的思考をもって課題解決策を提案できる力を培います。これらの学びを通じて、応用演習Ⅱへスムーズに移行できる基礎力を確立し、卒業研究に向けた準備を整えることを目指します。
授業の進め方	本講義は、少人数制の演習形式を基本とし、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。学生が主体的かつ能動的に学べるよう、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた講義を展開し、深い理解と実践的な学びを促します。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容
第1回	学科合同ガイダンス
第2回	ゼミ内ガイダンス
第3回	ゼミ内交流
第4回	自己分析
第5回	書籍選定
第6回	書籍プレゼン
第7回	論文抄読会Ⅰ
第8回	論文抄読会Ⅱ
第9回	論文抄読会Ⅲ
第10回	アンケート調査Ⅰ
第11回	アンケート調査Ⅱ
第12回	アンケート調査Ⅲ
第13回	ゼミ内発表会

事前・事後学修	事前学修
	各回の授業内容に関連する文献や資料を事前に読み、基本的な知識を習得した上で講義に臨むことを求めます。また、ディスカッションやグループワークに備え、自身の意見や問いを整理しておくことで、より充実した議論を行うことができます。
	事後学修 授業で得た知識や考察を深めるために、振り返りレポートや追加の文献調査を行い、理解を定着させます。また、研究活動に向けた資料整理やデータ分析を進め、次回の授業や卒業研究につながる学びを積み重ねていきます。

成績評価基準と方法	個人発表 30％ グループ発表 50％ 論文読解 20％
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	授業内で適宜紹介します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[スピ][平澤]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では1、2年で学んできた「スポーツビジネス」の基礎を基に新たな題材を設定し掘り下げ、研究能力を身に付けることを目的とします。担当教員が長く取材活動をしてきたプロ野球などのプロスポーツ。また地域に根差した企業が取り組むスポーツビジネスを中心に研究します。スポーツビジネスの観点から「人物」「役割」に焦点をあて、グループワーク（GW）やフィールドワーク（FW）を含めた講義、さらに4年生で着手する「テーマ研究論文」への基礎固めを進めていきます。
到達目標	スポーツビジネスに関わる専門的な思考力、判断力、協働性および応用力を身に付け、継続的な研究意欲を持って学び力を修得する。
授業の進め方	本講義は設定したテーマに沿って、スポーツ記者歴33年の教員が講義内で解説し、そこからGWを積極的に行ってもらいます。学生自らが研究に対して「記者」の気持ちになってゼミ内全員で一つのテーマを掘り下げていきます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題などに関して講義内、また別途解説していきます。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス	対面
第2回	スポーツ報道、スポーツマスコミを考える	対面
第3回	プロスポーツを考える	対面
第4回	北海道に根ざすスポーツビジネスを考える①（プロ）	対面
第5回	北海道に根ざすスポーツビジネスを考える②（プロ野球）	対面
第6回	今年度のゼミ研究テーマ設定①	対面
第7回	今年度のゼミ研究テーマ設定②	対面
第8回	テーマ設定に伴う日程確認	対面
第9回	テーマ設定に関する準備（取材アポ、方法など）	対面
第10回	テーマに関しての取材活動	対面、FW、GW
第11回	中間発表に向けての準備①（記事、画像・映像確認）～PP作成	対面
第12回	中間発表に向けての準備②（PP仕上げ～リハーサル）	対面
第13回	3年応用演習中間発表	対面

事前・事後学修	・テーマ毎、またGWに関して貪欲な好奇心を持って臨んでほしいと思います。 ・各自でPCなどに事前事後情報や研究材料、検討材料などを常に整理してください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・ GW、FW＝50％ ・ レポート及び分析力、理解力＝25％ ・ 研究意欲、グループ発表＝25％
参考文献	※必要に応じて配布します。

備考	分析、PP作成などにパソコンを使用します。

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ[スピ][栗野]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	講義の目的および概要 本演習では、1・2年次に修得した学習スキルをさらに発展させること、およびそれらを応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「グループワーク」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて、研究や卒業論文の作成や発表に必要とされる「文章を読む」、「文章を書く」、「学習内容を要約し、整理する」「学習内容を人に伝える」といった基礎的な力を養う。
到達目標	【到達目標】 ①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力を身に受ける。 ②上記学習にて修得した知識を整理し、他人にプレゼンできる力を身につける。 ③文献検索方法や、関連資料の入手方法など基本的な学習ソースのアクセス方法を身につける。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。文献の調査および要約を行い学術的な論文や書籍の内容を理解し、要約できる力を身につける。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身につける。学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科で指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
第2回	②卒業論文に向けた情報収集1(研究分野について調査)
第3回	③卒業論文に向けた情報収集2(関連分野について調査)
第4回	④関連分野に関する文献調査3(文献の検索方法)
第5回	⑤関連分野に関する文献調査4(文献の構成と読み方)
第6回	⑥関連分野に関する文献調査5(文献の要約と理解)
第7回	⑦関連分野に関する文献調査6(文献の批判的考察)
第8回	⑧中間報告会資料の作成1(中間報告会発表資料のアウトライン作成)
第9回	⑨中間報告会資料の作成2(中間報告会発表資料の作成)
第10回	⑩中間報告会資料の作成3(追加資料の収集)
第11回	⑪中間報告会資料の作成4(資料の見直しと修正)

第12回	⑫中間報告会資料の作成5(発表のリハーサル)
第13回	⑬学科合同ゼミ中間報告会(中間報告、質疑応答)

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。授業ごとに前述に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。 【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人発表(30%) 課題提出状況(40%) 中間発表報告会(30%)

年度	2025
講義名称	応用演習Ⅰ〔スピ〕〔田子〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	3年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05004S

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、学びの技法や基礎演習で修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とします。少人数で講義を展開し、「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」「フィールドワーク」形式の演習を通じて、社会人基礎力として必要とされるコミュニケーションスキルの修得をめざします。また、テーマ研究や卒業論文の作成に必要とされる「論文読解」や「アンケート調査」についても学修していきます。
到達目標	情報を多角的に収集するとともに、資料からの確に情報を読み取ることができるようになる。また、アンケート調査については、目的を理解し、適切な質問項目を設定することができ、計画的に遂行することができるようになる。
授業の進め方	基本的な講義方法は、少人数の演習形式で行います。本講義では、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開します。なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

アクティブ・ラーニング

グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	学科合同ガイダンス	対面授業
第2回	ゼミ内ガイダンス（3・4 合同）	対面授業
第3回	交流企画（3・4 合同）	対面授業
第4回	書籍選定	対面授業
第5回	書籍プレゼン	対面授業
第6回	論文読解Ⅰ	対面授業
第7回	論文読解Ⅱ	対面授業
第8回	ゼミOB/OGを訪ねる（3・4 合同）	対面授業
第9回	自己分析（3・4 合同）	対面授業
第10回	アンケート調査（仮説・質問項目の検討）	対面授業
第11回	アンケート調査（作成）	対面授業
第12回	ゼミ内発表会（3・4 合同）	対面授業
第13回	学科合同中間報告会	対面授業

事前・事後学修	論文読解の資料準備、発表会資料の作成については、基本的に授業時間外の事前・事後の学習で行います。授業スケジュールを逆算し、計画的に進めて下さい。秋学期の応用演習Ⅱに向けて、13回分の授業の復習を夏季休暇期間に行って下さい。 なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。	2025/04/01

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人発表（30％） グループ発表（50％） 論文読解（20％）
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	授業の中で、適時紹介します。

備考	突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等に関わる場合があります。 その場合、実施日は休日になる可能性が高く、スケジュールの調整が必要になります。 夏季休暇期間中には、応用演習Ⅱについての課題を提示します。

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[スピ][栗野]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05003S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付けさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】
	上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[スピ][平澤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05003S

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付けさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】 事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[スピ][原]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05003S

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付けさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[スピ][横山]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05003S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付けさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】 事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[スピ][竹元]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05003S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付けさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】
	上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[スピ][坪山]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05003S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付けさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】
	上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅱ[スピ][田子]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05003S

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べることができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付けさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[スピ][栗野]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 栗野 祐弥	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」として学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】
	上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[スピ][平澤]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 平澤 芳明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」として学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[スピ][原]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 原 一将	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」と通して学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べることができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[スピ][横山]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 横山 克人	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」と通して学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[スピ][竹元]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 竹元 賢治	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」と通して学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】
	上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ[スピ][坪山]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 坪山 義明	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」として学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べることができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	基礎演習Ⅰ〔スピ〕〔田子〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05002S

担当教員

氏名	所属
◎ 田子 大地	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」と通して学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。
到達目標	【到達目標】 ①学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。 ②人前で自分の意見の根拠を示して述べることができるようになる。
授業の進め方	【講義方法】 ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	【課題に対するフィードバックの方法】 課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	①ガイダンス
第2回	②スポーツビジネスと広報戦略(企画)
第3回	③スポーツビジネスと広報戦略(準備)
第4回	④スポーツビジネスと広報戦略(運営)
第5回	⑤スポーツビジネスと広報戦略(発表)
第6回	⑥スポーツビジネスとキャリア研究(企画)
第7回	⑦スポーツビジネスとキャリア研究(準備)
第8回	⑧スポーツビジネスとキャリア研究(運営)
第9回	⑨スポーツビジネスとキャリア研究(発表)
第10回	⑩スポーツビジネスとIT戦略(企画)
第11回	⑪スポーツビジネスとIT戦略(準備)
第12回	⑫スポーツビジネスとIT戦略(運営)
第13回	⑬スポーツビジネスとIT戦略(発表)

2025/04/01

事前・事後学習	【具体的な内容】
	事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。
	【必要な時間】 上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プレゼンテーション(30%) 課題などの提出(40%) 最終レポート(30%)

年度	2025
講義名称	リーダー演習[スポ]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB05001S スポーツ指導学科：SPI05003S
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義では、リーダーとして柔軟な思考力や対応力を身に付けることを目指します。個人として、地域貢献活動や学内外のイベント等に参加し、異業種交流や多様な価値観を持った集団の中で、考え方やコミュニケーション能力を学びます。また、課題解決（プロジェクト）に向けたグループワークを行い、実践的な活動を通じて、リーダーシップとフォロワーシップの関係性を実践的に学びます。
到達目標	活動目標に対して、適切な計画、準備ができ、適宜コミュニケーションを取りながら、総意のもと実行に移す力を身に付ける。また、個人あるいはチームでの活動を通じて、リーダーとして先導すること、またはフォロワーとして建設的に支えることが理解できるようになる。
授業の進め方	基本的には、演習形式としグループワークを中心に行います。本講義では、グループ毎に活動目標および計画に基づき、準備、実行、振り返り等能動的な学修を目指します。また、それぞれの活動に応じて、個人あるいはグループ単位でのフィールドワークを行い、調査してきた内容や疑問点を発表し、情報共有や意見交換を行います。 なお、本科目のほか、学内外で開催するリーダー養成講座に参加することがあります。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	対面
第2回	リーダー（リーダーシップ）とは？	対面
第3回	リーダー養成の実際	対面
第4回	社会で求められるリーダー像	対面
第5回	リーダー研修への参加①	実践参加を振替
第6回	リーダー研修への参加②	実践参加を振替
第7回	リーダーシップとフォロワーシップ	対面
第8回	リーダーとしてのコミュニケーションスキル	対面
第9回	事業計画①	対面
第10回	事業計画②	対面
第11回	事業計画③	対面
第12回	学外研修報告会	対面
第13回	授業のまとめ（課題レポート）	対面

事前・事後学習	個人あるいはグループの活動計画により、準備期間や実践時間が異なります。そのため、事前事後学習として、活動に見合った学習時間を確保することが必要になります。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	①リーダーとしての理解度（３０％） ②グループワーク（３０％） ③学内外で研修参加実績（３０％） ④まとめのレポート（１０％）
テキスト	特にありません
参考文献	必要に応じて資料を配布します

実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会教育主事として行政で実務経験のある教員が社会教育施設と連携して授業を展開します。

年度	2025
講義名称	生涯スポーツ論[スポ]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB04402L スポーツ指導学科：SPI04601L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	本講義は、生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる生涯スポーツについての基本的な理解を図り、我が国のスポーツに関する現状と課題について学修していきます。
到達目標	生涯スポーツについての基本的な考え方や我が国のスポーツに関する現状と課題について理解し、説明できる。
授業の進め方	パワーポイントやVTR等を活用しながら講義形式での授業展開を基本とします。また、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。 青少年のスポーツ指導に実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。 本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	対面
第2回	生涯スポーツとは？	対面
第3回	スポーツ基本法とスポーツ基本計画	対面
第4回	青少年のスポーツ参加	対面
第5回	高齢者のスポーツ参加	対面
第6回	障害者のスポーツ参加	対面
第7回	女性のスポーツ参加 授業内試験①	対面
第8回	生涯スポーツとボランティア	対面
第9回	生涯スポーツとビジネス	対面
第10回	総合型地域スポーツクラブ	対面
第11回	スポーツイベント	対面
第12回	スポーツ施設とスポーツ指導者 授業内試験②	対面
第13回	授業のまとめ（課題レポート）	対面

事前・事後学修	新聞やネット等によってスポーツイベントや行事についてのニュース記事をチェックし、日常的に現状理解に努めてください。また、自らもスポーツやスポーツボランティア活動に積極的に取り組むことを期待します。本講義では、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくための事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくための事後学習が必要です。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内での2回の試験(30%×2回) 60% 毎回の提出物（振り返りシート） 40%
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。
参考文献	必要に応じて紹介します

実務経験のある教員の経歴と授業内容	社会教育主事の実務経験のある教員が、実践に基づき解説します。

年度	2025
講義名称	[夏集]オリンピック論[スポ]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB04401L スポーツ指導学科：SPI04603L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 新井 貢	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	オリンピックはスポーツの祭典としてだけではなく、世界的なイベントとして注目されている。特に「東京オリンピック2020」の開催により、オリンピックはより身近に感じられるようになった。本講義では、オリンピック開催の意義について、これまでの歴史から学ぶとともに、オリンピックに携わった方々からの講話を通して、スポーツの持つ可能性を探る。また、パラリンピックについても学ぶことで、障がい者スポーツについても理解を深める。
到達目標	オリンピックの意義を理解する オリンピックが様々な影響を与えていることを理解する
授業の進め方	教室での講義形式を基本とするが、オリンピックに関わる外部講師による講話から実践的な学びを提供する。また、講話後グループワークを通して自分の考えと他の考えを客観的に判断し、今後のスポーツとの関わり方を身に着ける。さらに、ウィンタースポーツミュージアムへのフィールドワークも実施する。

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内での課題や質問に関しては、その都度解説するとともに、翌週の授業で解説する。また、グループワークの発表を通して疑問点について共有し解決を図る。 さらに、特別講師の講演後に質疑応答の時間を設けるとともに、必要に応じて講演者に回答を依頼する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス	講義
第2回	オリンピックの歴史	講義
第3回	特別講師招聘講話①（オリンピック関係者）	講義
第4回	特別講話に関するグループワーク①	演習
第5回	オリンピックの名場面	講義及び演習
第6回	オリンピックレガシーと経済効果	講義
第7回	特別講師招聘講話②（パラリンピック関係者）	講義
第8回	特別講話に関するグループワーク	演習
第9回	札幌オリンピック	講義
第10回	フィールドワーク①（オリンピックミュージアム）	実習
第11回	フィールドワーク②（オリンピックミュージアム）	実習
第12回	オリンピックの競技、種目	講義および演習
第13回	授業のまとめ、確認テスト、課題レポート	講義および演習

事前・事後学修	事前学習として、授業で出された課題に対して、これまでのオリンピックについて調べ、話題提供できるように準備をする。 事後学習として、授業で身につけた新たな知識を、授業を受講していない方々に積極的に伝えとともに、オリンピックに対する今後の可能性を探る。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業の理解度、授業課題レポート（３０％） グループワークでの積極的発言、発表（２０％） 確認テスト、まとめのレポート（３０％） 実習への参加（必修：レポート含む）（２０％）
テキスト	特にありません。必要に応じて資料を配布します。
参考文献	必要に応じて紹介します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	日本代表として選手、コーチの経験を有し、オリンピック出場選手および指導者と交友が深く、オリンピックにボランティアとして参加経験のある教員が、実践に基づき解説します。

年度	2025
講義名称	体力トレーニング論[スポ]【プレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	必修
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB04301L スポーツ指導学科：SPI04401L
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 阿南 浩司	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	本講義では、「①体力およびトレーニングに関する概念的理解、②スポーツ・トレーニングにおける体力トレーニングの位置づけ、③体力トレーニングの分類、④トレーニング計画立案およびトレーニング手段の考案」について学修し、実践現場でトレーニング指導を行う知識の修得を目指す。
到達目標	①スポーツ・トレーニングにおける体力トレーニングの位置づけ②体力トレーニングの分類について理解を深め、③スポーツ・トレーニングの計画立案およびトレーニング手段の考案を実践する。
授業の進め方	【講義方法】 講義を行う。定期的に振り返りシートを課し、講義内容の振り返りを行う。能動的な学修を目指し、必要に応じて、グループワークを実施する。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの研究を行う実績および競技指導経験を有する教員が、運動生理学およびバイオメカニクスの学問分野に加え、コーチングおよびトレーニング理論をふまえながら、「体力トレーニング」の基礎理論について理解できる講義を実施する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	トレーニング概論：（主観的努力度と客観的達成度をふまえて）	オンデマンド
第2回	基礎1：青少年期の成長発育とトレーニング（トレーニングのピリオダイゼーションをふまえて）	オンデマンド
第3回	基礎2：女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング（女性の特徴と生涯の中での競技活動帯をふまえて）	オンデマンド
第4回	基礎3：加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング	オンデマンド
第5回	基礎4：障害者の運動能力の特徴とトレーニング（健常者における運動能力の特徴と比較して）	オンデマンド
第6回	トレーニング分類1：基本的トレーニング手段の分類：一般的運動	オンデマンド
第7回	トレーニング分類2：試合運動／シーズンの特徴を眺める	オンデマンド
第8回	トレーニング分類3：種目別トレーニング手段の分類：専門的運動・試合的運動	オンデマンド
第9回	トレーニング内容1：全身運動によるエアロビクトレーニング	オンデマンド
第10回	トレーニング内容2：筋力養成法（筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果）	オンデマンド
第11回	トレーニング内容3：「スピード」能力の特質とタイプ／スピードトレーニング	オンデマンド
第12回	トレーニング内容4：「持久力」の特質とタイプ／筋パワーと持久力トレーニングの条件とその効果	オンデマンド
第13回	課題レポートの作成・授業のまとめ	オンデマンド

事前・事後 学修	【具体的な内容】
	事前および事後学習として、①体育・スポーツに関する基礎知識の習得、②「体力」および「トレーニング」に関する情報収集（メディア・文献等）を推奨する。毎時間、小レポートを課す。
	【必要な時間】 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①授業内レポート 30％ ②最終課題レポート 50％ ③トレーニングシート 20%
テキスト	参考資料を適宜配布する。
参考文献	藤原勝夫・外山寛：身体活動と体力トレーニング.日本出版サービス 村木征人：スポーツ・トレーニング理論.ブックハウスHD 中村隆一 斎藤宏 長崎宏：基礎運動学.医歯薬出版株式会社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と 授業内容	担当教員は、運動生理学およびバイオメカニクスの分野で研究を重ね、また競技指導の実務経験を有しています。この経験を基に、理論と実践を結びつけた講義を展開する。

年度	2025
講義名称	発育発達論[スポ]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB04203L スポーツ指導学科：SPI04201L

担当教員

氏名	所属
◎ 佐藤 文亮	大学・スポーツ人間学部・スポーツ指導学科

授業の目的と概要	ヒトは、生物界の種々の生体システムを継承して、直立二足歩行に適した身体を獲得した。この身体システムは、成人までの発育・発達の過程を通じて形成される。本講義の目的は、ヒトにいたるまでの進化の変遷について概観するとともに、成人までの発育・発達の過程について学修することである。
到達目標	進化、発育、成熟や発達に関する内容を明確に理解し、ヒトの発育・発達における遊びやスポーツの意義を深く理解できるようになる。
授業の進め方	授業形態は、教室での講義形式とし、パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に提示する。定期的に発育・発達に関するディスカッションを行うことを通じて、能動的学修を目指す。本講義は、運動生理学的視点から、ヒトの発育・発達の過程について研究を遂行してきた実績のある教員が担当する。

アクティブ・ラーニング

ディベート ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説する。

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ヒトにいたるまでの進化の変遷	対面授業
第2回	発育、成熟および発達の定義	対面授業
第3回	形態の発育	対面授業
第4回	身体機能の発達	対面授業
第5回	運動発達	対面授業
第6回	運動学習	対面授業
第7回	運動スキル1（乳児期－幼児期）	対面授業
第8回	運動スキル2（少年期）	対面授業
第9回	発育発達期の心理的特徴	対面授業
第10回	発育発達期に多いケガや病気	対面授業
第11回	発育発達期の運動プログラム	対面授業
第12回	遊びの意義	対面授業
第13回	身体機能の発達および運動発達に関する測定法	対面授業

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前および事後学習として、テキストや関連図書等を読んでおくこと。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業ごとの小テスト（20％） レポート評価（20％） 最終課題（60％）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	・高石昌弘著:からだの発達.大修館書店,東京. ・高橋たまき著:遊びの発達学.培風館,東京. ・藤原勝夫編著:運動機能解剖学.北國新聞社,石川.

備考	本科目は下記の資格の対象科目です。 ・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（公認コーチングアシスタント・ジュニアスポーツ指導員・アシスタントマネージャー）

年度	2025
講義名称	栄養学[スビ]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	スポーツビジネス学科：SPB04202L

担当教員

氏名	所属
◎ 小松 信隆	大学・スポーツ人間学部・スポーツビジネス学科

授業の目的と概要	栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法や摂取のタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特長に対応した実践的なスポーツ栄養学を学び、スポーツビジネスとの関りを考案する。
到達目標	スポーツにおける食事の重要性を理解し、スポーツ種目それぞれにおける食事の内容や摂取のタイミングをイメージし、ビジネスとの関連を考案できるようになる。
授業の進め方	講義、演習およびグループワーク

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義終了時に提出する小レポートによるフィードバック

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス／五大栄養素
第2回	三大栄養素
第3回	三大栄養素の消化・吸収
第4回	炭水化物・脂質と食事
第5回	たんぱく質と食事
第6回	ビタミン・ミネラル
第7回	炭水化物・脂質のエネルギー代謝とたんぱく質の分解・再合成
第8回	各栄養素のバランスと食事
第9回	食事摂取のタイミング
第10回	ホルモン分泌と食事摂取
第11回	水分補給
第12回	スポーツ栄養学とビジネス
第13回	スポーツ栄養学のまとめ

事前・事後学修	必ず前回の授業内容を復習してから授業に臨んでください。また、日頃からニュース・新聞などで最近の社会や企業の動向に関する情報を入手するように心がけてください。 予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	定期試験（記述式）70％および授業終了時に提出する小レポート30％により評価
テキスト	教科書は使用せず
参考文献	侘美　靖・花井 篤子編，新版生涯スポーツと運動の科学，市村出版

実務経験のある教員の有無

有り

年度	2025
講義名称	教育原理[社会人]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	[社会人]大学科目等履修生

担当教員

氏名	所属
◎ 野崎 剛毅	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼児教育についての基礎的な知識について学ぶ。 幼児教育の理念や意義を制度や歴史、社会的な役割を踏まえて理解する。 また現代社会における教員の役割についても広く学んでいく。
到達目標	幼稚園教員のしごとを理解し、幼児教育現場で働きたいという意識を定着させる。 また、幼児教育についての基本的な知識を理解する。
授業の進め方	講義を中心に、適宜調べ学習やグループワークをおこなう。 レジュメにそって学習を進め、必要に応じて資料や視覚的教材も使用する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	質問には適宜講義内で回答するので、積極的な質問を期待する。 提出した課題については、返却後解説を加える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス / 教育の意義と理念
第2回	教育制度と法令①幼児教育制度の概略
第3回	教育制度と法令②幼児教育に関する法令
第4回	教育制度と法令③子どもの権利
第5回	幼児教育の思想と歴史①コメニウス、ルソー、オーエン他
第6回	幼児教育の思想と歴史②フレーベル、モンテッソーリ他
第7回	幼児教育の思想と歴史③東京女子師範学校附属幼稚園と守孤扶独幼稚児保護会、二葉幼稚園
第8回	幼児教育の思想と歴史④倉橋惣三、戦争
第9回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領の概要
第10回	教育に関する経営的事項：地域連携、学校と安全
第11回	諸外国の幼児教育システム
第12回	幼児教育の現状と課題
第13回	まとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業内で、次の回までの事前学習について指示する。 質問は授業中、授業外のほか、コメントシートやメール等でも随時受け付ける。 【必要な時間】

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ディスカッション50% 提出課題50%
テキスト	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『幼保連携認定こども園教育・保育要領』
参考文献	講義内で適宜紹介する。

年度	2025
講義名称	教育方法論[社会人]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	[社会人]大学科目等履修生
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 田村 めぐみ	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）は、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
到達目標	子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を理解する。またそれを実践するために適した指導技術を深く理解し、身に付ける。
授業の進め方	講義形式で進める。またグループワークなどを積極的に取り入れながら学修を進める。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業において、リアクションシートに講義感想や質問等を記入し提出。次回講義の冒頭で質問に対する回答を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前に次回の課題を示し、資料を配布するなどして、予習を促す。 各自、自身の実践を振り返るなどして、毎回の講義の内容と照らし合わせ、予習・復習を行う。 【必要な時間】 事前・事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・各回レポート 30％ 「子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を理解する」ことを評価基準とする。 ・授業感想等 30％ 「必要な教育方法を実践するために適した指導技術を理解する」ことを評価基準とする。 ・最終まとめレポート 40％ 「学んだ専門知識・理論・技術等を深く理解し、説明できる」ことを評価基準とする。
テキスト	適宜紹介する
	垂見直樹・池田竜介「幼児教育・保育のための教育方法論」ミネルヴァ書房 小田豊・中坪史典「幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法（第2版）」建帛社

参考文献	久富陽子・梅田優子「保育方法の実践的理解」萌文書林 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義では、幼稚園、認定こども園での実務経験をもつ教員が担当し、実践的な講義を行う。
備考	現場での実践について、グループワーク等を盛り込みながら学修を進めます。自園での多様な実践事例を紹介し合いながら、学びを深め、保育方法の新たな気づきとなる機会となればと思います。

年度	2025
講義名称	保育内容(健康)[社会人]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	[社会人]大学科目等履修生

担当教員

氏名	所属
◎ 蔵満 保幸	大学・人文学部・心理学科

年度	2025
講義名称	教育課程論Ⅱ [社会人]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	[社会人]大学科目等履修生
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 小岩 季之	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	幼稚園要領を基準として各幼稚園等において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園等の実情に応じたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。教育課程論Ⅰの学習成果を踏まえ、理論理解の深化と実践事例の研究・評価更に、編成力を培う。
到達目標	学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 幼児教育の意義と役割を踏まえたカリキュラム論を身につける。
授業の進め方	配布資料に基づいて講義すると共に、個人の振りかえりやグループワークを通して、自ら課題を明らかにすると共に実践的アプローチも試み、具体の成果としてプレゼンテーションする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中提示された質問等については、講義内で回答し、問題意識の共有を図る。 授業内課題についても、返却の際に解説を加える。

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス：教育課程について
第2回	教育課程の役割と機能
第3回	カリキュラムの思想
第4回	系統主義と児童中心主義
第5回	倉橋惣三と日本の保育カリキュラム
第6回	カリキュラムの編成原理と子ども理解
第7回	日本の子ども、育ちの実態と課題
第8回	評価と指導要録
第9回	カリキュラム・マネジメント
第10回	教育課程の編成①
第11回	教育課程の編成②
第12回	教育課程の編成③
第13回	まとめ

	【具体的な内容】 ・事前学習については、各授業内で指示する。	2025/04/01

事前・事後学修	・教育課程論Ⅰをしっかりと復習すること。 ・講義内容は各自で振り返り、要点をまとめておくこと。 【必要な時間】 事後学習を重視する。事前1時間程度、事後3時間程度を要する。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	各回の小レポート 30% 発表 30% 期末レポート 40% 到達目標に明記している『学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する』、『教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する』、『幼児教育の意義と役割を踏まえたカリキュラム論を身につける』について、講義内容を踏まえた論述及び発表ができることを授業各回の実践レポート・まとめのレポートの評価基準とする。
テキスト	「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
参考文献	適宜紹介する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場における幼稚園教諭の実務経験から、教育課程の役割、機能、意義及び教育課程編成の方法に関する具体的実践例について説明する。
備考	必要に応じてスマートフォン・タブレット・パソコンを使用するため、持参すること。

年度	2025
講義名称	[夏集]保育内容指導法[社会人]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	[社会人]大学科目等履修生

担当教員

氏名	所属
◎ 増山 由香里	大学・人文学部・心理学科
平野 良明	大学・人文学部・心理学科

授業の目的と概要	子どもの発達や保育の原理に基づいて保育内容をイメージし、指導計画を立てて実践できるようになることを目的とする。幼児教育の現場で豊富な実践経験を有する受講生においては、幼稚園教育要領を踏まえた日々の実践について理解を一層深め、環境を通して行われる教育、遊びを通して総合的に行われる教育の多様な実践事例を学習する。また自園以外の多様な幼稚園の実践事例に理解を深め、学びの成果を自身の成長と自園の保育の質の向上のために活かすことを目指す。
到達目標	日頃の実践を振り返り、良かった点や課題に気づき、新たな保育実践に結びつけることができる。 周辺の自然環境や身の回りにある素材が身近で楽しい活動に結びつく教材であることを知り、自らの保育観と保育技術の向上を図る。 幼児期の遊びを通した、主体的・対話的・深い学びの基本育てと小学校への個々の児童育ちの接続について考え方を整理し、地域での提案や実践に結びつける。
授業の進め方	講義形式、グループワーク、発表形式（指導計画・指導案・関連教材に基づく事例と相互評価）

アクティブ・ラーニング

PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説を行う。質問については全体で共有すべきものは授業内で解説し、それ以外のものについては必要に応じて個々に対応する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 幼稚園教育要領のポイントを振り返る
第2回	見通す力と長期的視野（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の考え方）
第3回	指導計画と指導案
第4回	保育の見方と記録の仕方
第5回	子どもと楽しむ季節の遊び
第6回	身近な自然からひろがる遊び
第7回	図鑑や科学からひろがる遊び
第8回	絵本からひろがる遊び
第9回	遊びの素材について一環境の再考
第10回	卒園までに育てたい10の姿と幼児教育の意義・方法の再考
第11回	幼小連携の考え方
第12回	幼小連携事例の検討
第13回	まとめ

2025/04/01

事前・事後学修	自園での事例や自らの実践事例を授業での発表教材として整理する。 授業後にコメントシートを、中間と最終にレポートを作成する。 本授業は2単位のため、事前事後学修併せて5時間程度の学修が求められる。

成績評価基準と方法	各授業回のコメントシート 65％ 中間レポート 15％ 最終レポート 20％
テキスト	使用しない
参考文献	「幼稚園教育要領解説」（2018）文部科学省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館

年度	2025
講義名称	幼児と人間関係[社会人]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	[社会人]大学科目等履修生
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名	所属
◎ 深浦 尚子	短大・幼児教育保育学科

授業の目的と概要	人は他者やモノとの関わりによって発達していく。この関係論的発達の観点から、乳幼児期における人との関わりやその重要性について理解を深める。また領域「人間関係」の理解を深め、幼児が家庭や園での生活における人との関係性の中で学び合うことや育ち合うことを知り、人間関係の基礎を培う乳幼児期の体験の重要性と身近な大人の援助について考える。
到達目標	・乳幼児と身近な大人との関わりから生まれる人間関係の基礎について説明できる。 ・人間関係の発達過程について理解し、遊び活動を通した他者とのやり取りの重要性について説明できる。 ・この時期に培われる人と関わる力の基礎が、幼児の人生を支える重要な力であることを理解する。
授業の進め方	関係論的発達の観点から乳幼児期における人との関わりと領域「人間関係」について、幼稚園園長の実務経験のある教員が講義形式で授業を行う。幼児が家庭や園での生活における人との関係性の中で学び合うことや育ち合うことを、保育実践等の具体的な事例から実感する。 授業のなかで、グループディスカッションを取り入れ、学びが現場でどのように活かすことができるかなどに焦点を当て保育実践を意識して考えるようにする。

アクティブ・ラーニング

グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループ課題については授業内で解説を行い、他学生からの意見を求める。個人の課題（レポート等）は、コメントをし返却する。

授業計画表

回	授業内容
第1回	幼児教育の効果と社会情動的スキルの指導と現代社会と領域「人間関係」 幼児教育において、社会情動的スキルが教育効果にいかに関与しているかということを理解する。また、現代社会の中で、領域「人間関係」の重要性についても理解する。
第2回	身近な人とのかかわりのなかで育つ 乳幼児からの育ちを家族、保育者にどのように影響を受けて育つのかを理解する。
第3回	仲間とのかかわりのなかで育つ 幼児期における仲間関係がどのように構築されるのか、その際に影響する人的、物的なことについても理解する。
第4回	小学校との接続に向けて育むべき子どもの力 年長から小学校への滑らかな接続をめざして、どのような力が必要なのかについて理解する。
第5回	親子の戸惑いから支える一地域の実態と保育一 親子を取り巻く地域の実態とその中で営む保育における課題を明らかにし、どのように課題解決していくかを理解する。
第6回	自己調整力の育ちを「折り合う姿」という視点からとらえる 人間関係にとって重要な自己調整力を子ども同士、子どもと大人の関係の中で、どのように折り合っていくのかという視点で理解する。
第7回	折り合う心こころを育む援助：何をどう見守り、待つのか 折り合うこころを育むために、保育者として子ども同士の関係をどのように見守り、待つことが重要なのかということを理解する。
第8回	折り合えないこととていねいに向き合う 自己調整力が育つ過程では、折り合えないことも多くみられるが、その際に保育者としてどのように子どもと向き合えばいいのかを理解する。

第9回	事例検討 多様な事例を通してグループディスカッションを行う。
第10回	保護者と保育者が語り合い育ち合う 保育者が保護者と子どもについて語ることで、園での子ども姿、家庭での子どもの姿を相互理解することでお互いに育ち合うことを理解する。
第11回	保育者どうしが語り合い支え合う 保育者同士が子どもについて語り合い、お互いに支え合うことの重要性について理解する。
第12回	徹底的に子どもの側に立って考える保育者を育む 保育者として子どもにどのような姿勢でかかわることが必要なのかということを理解する。徹底的に子どもの側に立つというのはどのようなことなのかを皆でディスカッションする。
第13回	まとめとレポート作成 子どもの折り合う姿とはどのようなことなのか、そのための自己調整力を育てる保育とはなど本科目で学んだことを総括する。その後レポート作成を行う。

事前・事後学修	事前事後の学修として、各5時間程度が必要である。内容としては、テキストの予習や講義の復習が必要である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業毎のコメントシート（20％） 授業内課題（30％） 最終課題（50％）
テキスト	社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」無藤隆、古賀松香 北大路書房
参考文献	保育所保育指針解説（2018）フレーベル館 幼稚園教育要領解説（2018）フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（2018）フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本科目担当者は、札幌国際大学付属幼稚園元園長が講義形式で授業を行う。